TOSHIBA

東芝 オリジナル CMOS 32 ビット マイクロコントローラ

TLCS-900/H1 シリーズ

TMP92CF29AFG

Not Recommended for New Design

株式会社 東芝 セミコンダクター社

はじめに

　この度は弊社 32 ビットマイクロコントローラ TLCS-900/H1 シリーズ、TMP92CF29A をご利用いただき、誠にありがとうございます。
　本 LSI をご利用になる前に、「使用上の注意、制限事項」の章を参照されますことをお願い致します。

Not Recommended for New Design

低電圧/低消費電力

CMOS 32 ビット マイクロコントローラ

TMP92CF29AFG

1. 概要と特長

TMP92CF29A は、低電圧/低消費電力動作が可能な高速・高機能 32 ビットマイクロコントローラです。TMP92CF29AFG は 176 ピン QFP パッケージ製品です。内蔵のブート ROM 仕様の Version を示すため、製品には-777x(x は 0 から開始され、ブート ROM の Version を示します)のコードが追加されます。特長は次のとおりです。

(1) オリジナル 32 ビット CPU (高速 900/H1_CPU 使用)
- TLCS-900L1 と命令ニモニックで互換
- 16M バイトのリニアアドレス空間
- 汎用レジスタ&レジスタバンク方式
- マイクロ DMA: 8 チャネル (62.5 ns /4 バイト@ f_{SYS} = 80 MHz)

(2) 最小命令実行時間: 12.5 ns (@f_{SYS} = 80 MHz)

(3) 内蔵 RAM: 144K バイト (プログラム、データ、表示メモリ用として使用可能)
内蔵 ROM: なし(ただしブート専用の 8 K バイト ROM を内蔵)

(4) 外部メモリ拡張
- 2.1G バイト(プログラム,データ)まで拡張可能
- 外部データバス 8/16 ビット幅共存可能
  …ダイナミックデータバスサイジング
- セパレートバスシステム

(5) メモリコントローラ
- チップセレクト出力: 4 チャネル
- 4 チャネルの内、1 チャネルは、詳細な AC 設定が可能

(6) 8 ビットタイマ: 8 チャネル

(7) 16 ビットタイマ/イベントカウンタ: 2 チャネル

(8) 汎用シリアルインタフェース: 2 チャネル
- UART/同期両モード対応
- IrDA ver1.0 (115.2 kbps) 対応モード選択可能

(9) シリアルバスインタフェース: 1 チャネル
- I²C スタンダードモードのみ対応

(10) USB デバイスコントローラ: 1 チャネル
- フル・スピード(12Mbps)対応(低速には非対応)
- エンド・ポイント 0: コントロール　64 バイト× 1-FIFO
  エンド・ポイント 1: バルク出力　64 バイト× 2-FIFO
  エンド・ポイント 2: バルク入力　64 バイト× 2-FIFO
  エンド・ポイント 3: 割り込み　8 バイト × 1-FIFO
- ディスクリプタ RAM: 384 バイト

(11) I²S(Inter-IC Sound)インターフェース: 1 チャネル
- I²S バスモード(マスタ、送信のみに対応)
- Data Format は Left/Right Justify 両対応
- 128 バイト(64 バイト× 2)の FIFO バッファ内蔵

Not Recommended for New Design

(12) LCD コントローラ
- STN はモノクロ、4, 16, 64 階調、256/4096/65536 カラーに対応
- TFT は、モノクロ、4096/65536 カラーに対応
- PIP (Picture In Picture Display)に対応
- 各種 LCDM に対応するための、H/W Rotation 機能対応

(13) SDRAM コントローラ: 1 チャネル
- 16M、64M、128M、256M および 512M ビットの SDR (Single-data-rate) SDRAM に対応
- LCD 表示用 RAM、データ RAM としてだけでなく、SDRAM からプログラムの動作が可能

(14) RTC (リアルタイムクロック)
- TC8521A を基本とした仕様

(15) キーオンウェイクアップ(キー入力割込み)

(16) 10 ビット AD コンバータ (サンプルホールド回路内蔵): 6 チャネル

(17) タッチスクリーンインターフェースに対応
- 低抵抗のスイッチを内蔵し、縦横切り替え用の外付け部品を削除可能

(18) ウォッチドッグタイマ

(19) メロディ/アラームジェネレータ
- メロディ: 4 ~ 5461 Hz のクロックを出力
- アラーム: 8 種類のアラームパターンを出力
- 5 種類のインターバル割込みを出力

(20) MMU
- 3 ローカルエリア/8 バンク方式により 2.1G バイトまで拡張可能
- 各々のローカルエリアごとにプログラム、リードデータ、ライトデータ、DMAC のソース、デスティネーション(偶数チャネル/奇数チャネル)および LCD 表示データのバンク設定が可能

(21) 割り込み機能: 57 本
- CPU 9 本 …… ソフトウエア割り込み命令、未定義命令実行違反
- 内部 39 本 …… 7 レベルの優先順位の設定が可能
- 外部 9 本 …… 7 レベルの優先順位の設定が可能 (Key 割り込みを含む)
  (8 本はエッジの極性選択可能)

(22) DMAC 機能:6 チャネル
- マイクロ DMA 機能との切り替えによる制御で、より高速なデータ転送が可能

(23) 入出力ポート: 98 端子(データバス 16 ビット、アドレスバス 24 ビット、$\overline{RD}$ 端子を除く)

(24) NAND-Flash メモリのインターフェース:2 チャネル
- NAND-Flash メモリへの接続が容易
- SLC、MLC 両タイプに対応
- Data Bus 8/16Bit、Page Size 512/2048 Byte に対応
- 4-address 訂正、5-address 以上のエラー検出が可能な、Reed Solomon 演算回路内蔵

(25) SPI コントローラ: 1 チャネル
- SD カード、および MMC カードの SPI モード対応
- 入出力に各々32 バイトの FIFO バッファを内蔵

(26) 積和演算器 (Multiply and Accumulate Calculate unit): 1 チャネル
- 3 種類の演算をサポート $64 + 32 \times 32 = 64$, $64 - 32 \times 32 = 64$, $32 \times 32 - 64 = 64$
- I/O 方式
- 符号付き計算対応

Not Recommended for New Design

(27) スタンバイ機能

- 3 種類の HALT モード …IDLE2 (プログラマブル), IDLE1, STOP
- スタンバイモード時における各端子の状態をビット単位にて設定可能
- リーク(漏れ)電流を対策するための電源管理回路 (PMC)を内蔵

(28) クロック制御機能

- クロック逓倍回路 (PLL)を 2 ブロック内蔵し、外付け 10 MHz の発振子から USB クロック 48 MHz と CPU へのクロック 80 MHz の供給が可能
- クロックギア機能: 高周波クロック fc (fc/16 まで切り替え可能)
- 時計用クロック (fs = 32.768 kHz)

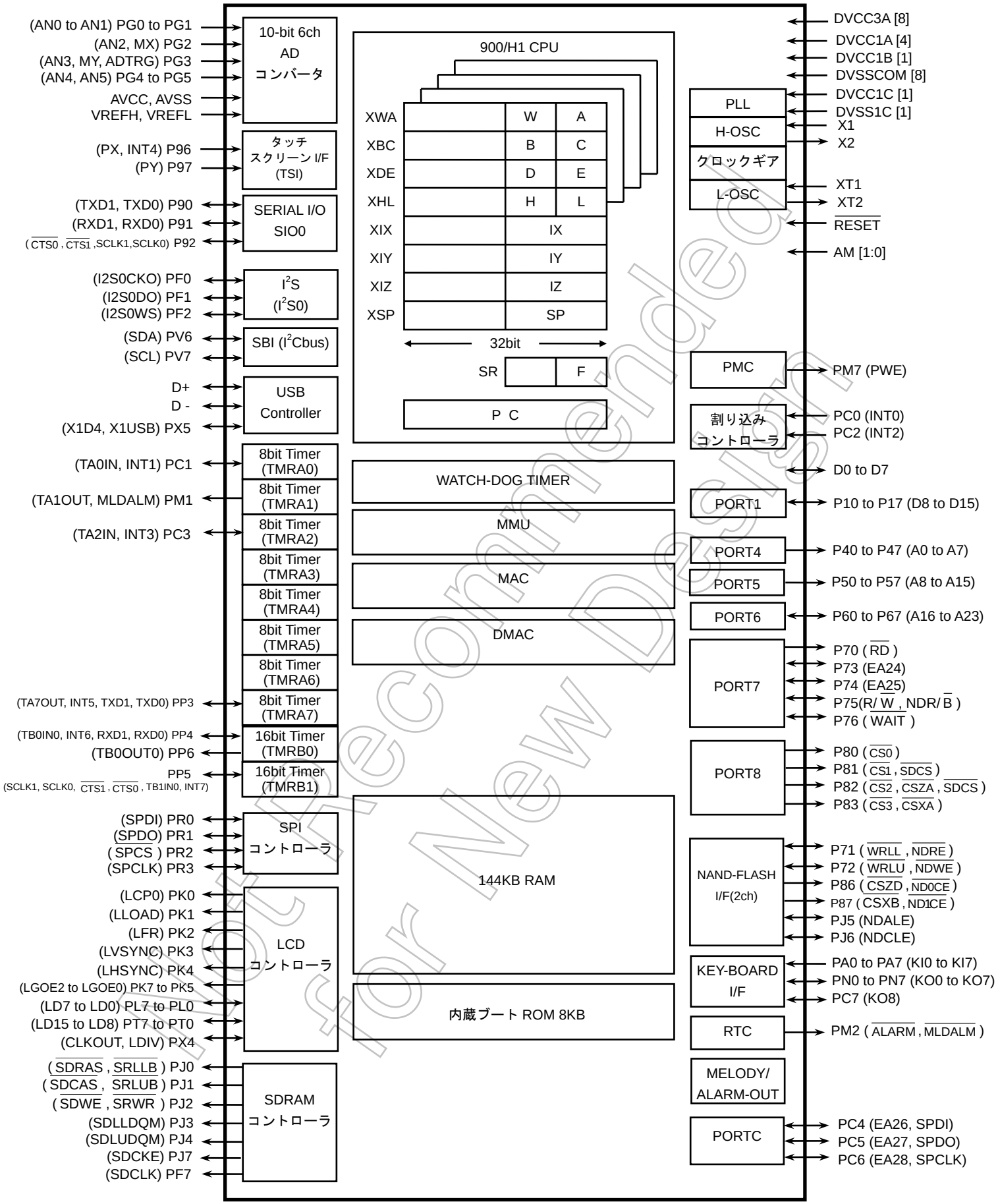
(29) 動作電圧

- 2 電源対応 (内部電源(1.4 ~ 1.6V)、外部電源(3.0 ~ 3.6V))

(30) パッケージ

- 176 ピン LQFP : LQFP176-P-2020-0.40F

Not Recommended for New Design



Not Recommended for New Design

図 1.1 TMP92CF29A ブロック図

2. ピン配置とピン機能

TMP92CF29A のピン配置図および入出力ピンの名称と概略機能を示します。

2.1 ピンの配置図 (Top View)

TMP92CF29AFGピン配置図は、図 2.1.1のとおりです。

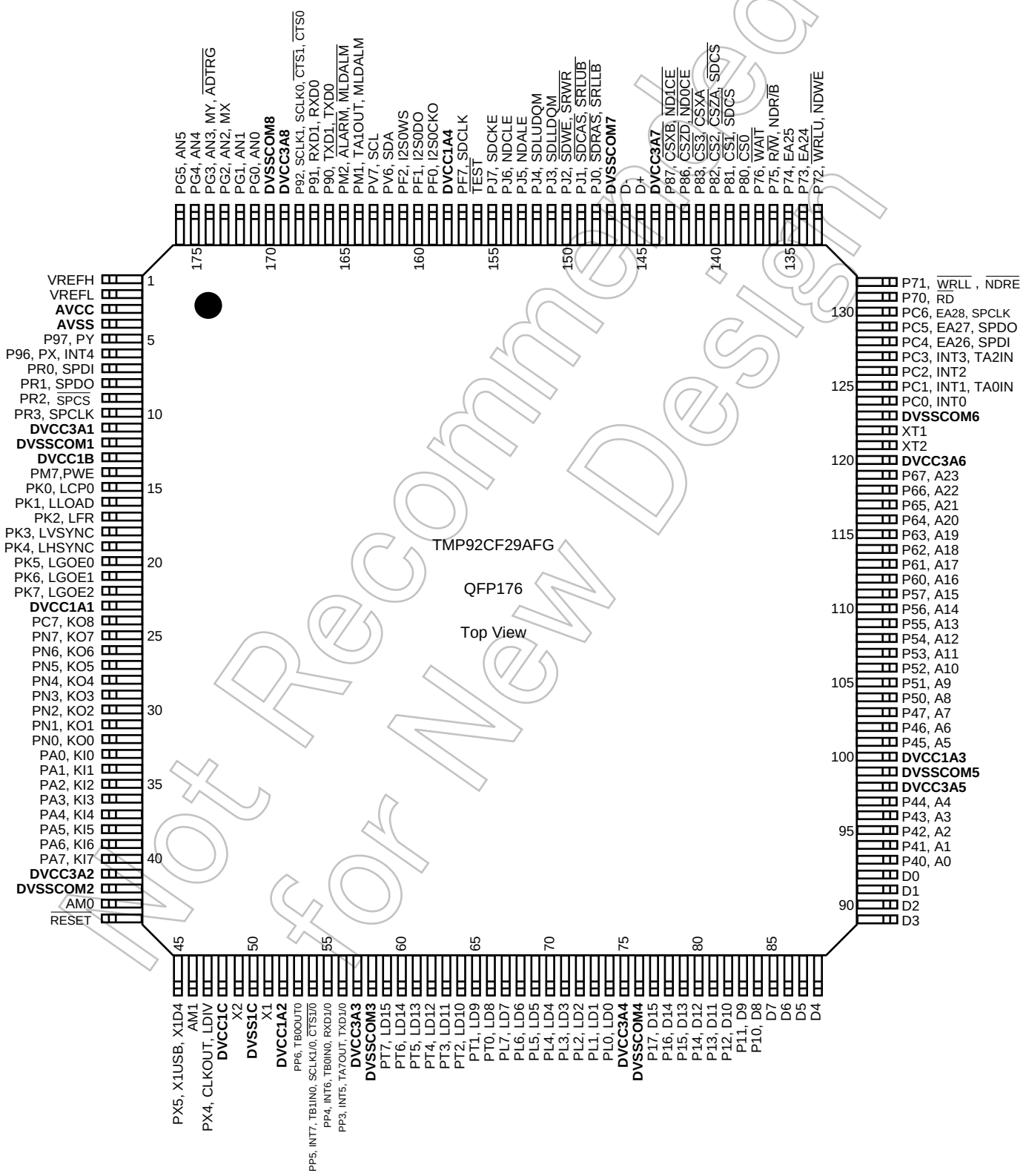


図 2.1.1 ピン配置図

Not Recommended for New Design

2.2 ピン名称と機能

入出力ピンの名称と機能は次のとおりです。

表 2.2.1ピン名称と機能(1/6)

ピン名称	ピン数	入出力	機能
D0 ~ D7	8	入出力	データ: データバス D0~D7
P10 ~ P17 D8 ~ D15	8	入出力 入出力	ポート 1: ビット単位で入出力の設定可能な入出力ポート データ: データバス D8~D15
P40 ~ P47 A0 ~ A7	8	出力 出力	ポート 4: 出力ポート アドレス: アドレスバス A0~A7
P50 ~ P57 A8 ~ A15	8	出力 出力	ポート 5: 出力ポート アドレス: アドレスバス A8~A15
P60 ~P67 A16 ~ A23	8	入出力 出力	ポート 6: ビット単位で入出力の設定可能な入出力ポート アドレス: アドレスバス A16~A23
P70 $\overline{RD}$	1	出力 出力	ポート 70:出力ポート リード: 外部メモリをリードするためのストローブ信号
P71 $\overline{WRLL}$ $\overline{NDRE}$	1	入出力 出力 出力	ポート 71:入出力ポート ライト: D0~D7 端子のデータをライトするためのストローブ信号 NAND-Flash リード: 外部 NAND-Flash をリードする為のストローブ信号
P72 $\overline{WRLU}$ $\overline{NDWE}$	1	入出力 出力 出力	ポート 72: 入出力ポート 上位ライト: D8~D15 端子のデータをライトするためのストローブ信号 NAND-Flash 用ライトイネーブル
P73 EA24	1	入出力 出力	ポート 73: 入出力ポート 拡張用アドレス EA24
P74 EA25	1	入出力 出力	ポート 74: 入出力ポート 拡張用アドレス EA25
P75 R/ $\overline{W}$ NDR/ $\overline{B}$	1	入出力 出力 入力	ポート 75: 入出力ポート リード/ライト: 1 はリード,ダミーサイクルを、0 はライトサイクルを表す NAND-Flash Ready(1)/Busy(0)入力
P76 $\overline{WAIT}$	1	入出力 入力	ポート 76: 入出力 ポート ウエイト:バスウェイトの要求入力.
P80 $\overline{CS0}$	1	出力 出力	ポート 80 : 出力ポート チップセレクト 0 : アドレスが指定したアドレス領域内なら“Low”を出力
P81 $\overline{CS1}$ $\overline{SDCS}$	1	出力 出力 出力	ポート 81: 出力ポート チップセレクト 1: アドレスが指定したアドレス領域内なら“Low”を出力 SDRAM チップセレクト: アドレスが SDRAM アドレス領域内なら“0”を出力
P82 $\overline{CS2}$ $\overline{CSZA}$ $\overline{SDCS}$	1	出力 出力 出力 出力	ポート 82: 出力ポート チップセレクト 2: アドレスが指定したアドレス領域内なら “Low” を出力 拡張チップセレクト ZA: アドレスが特定のアドレス領域内なら“0”を出力 SDRAM チップセレクト: アドレスが SDRAM アドレス領域内なら“0”を出力
P83 $\overline{CS3}$ $\overline{CSXA}$	1	出力 出力 出力	ポート 83:出力ポート チップセレクト 3: アドレスが指定したアドレス領域内なら “Low” を出力 拡張チップセレクト XA: アドレスが特定のアドレス領域内なら“0”を出力

Not Recommended for New Design

表 2.2.1 ピン名称と機能(2/6)

ピン名称	ピン数	入出力	機能
P86 $\overline{\text{CSZD}}$ $\overline{\text{ND0CE}}$	1	出力 出力 出力	ポート 86: 出力ポート 拡張チップセレクト ZD: アドレスが特定のアドレス領域内なら “0” を出力 NAND-Flash0 チップセレクト : NAND-Flash0 が許可されるとき“0”を出力
P87 $\overline{\text{CSXB}}$ $\overline{\text{ND1CE}}$	1	出力 出力 出力	ポート 87: 出力ポート 拡張チップセレクト XB: アドレスが特定のアドレス領域内なら “0” を出力 NAND-Flash1 チップセレクト : NAND-Flash1 が許可されるとき“0”を出力
P90 TXD0 TXD1	1	入出力 出力 出力	ポート 90: 入出力ポート シリアル 0 送信 データ: プログラマブルオープンドレイン 出力 シリアル 1 送信 データ: プログラマブルオープンドレイン 出力
P91 RXD0 RXD1	1	入出力 入力 入力	ポート 91: 入出力ポート (シュミット入力) シリアル 0 受信 データ シリアル 1 受信 データ
P92 SCLK0 $\overline{\text{CTS0}}$ SCLK1 $\overline{\text{CTS1}}$	1	入出力 入出力 入力 入出力 入力	ポート 92: 入出力ポート (シュミット入力) シリアル 0 クロック 入出力 シリアル 0 データ 送信可能 (送信 クリア) シリアル 1 クロック 入出力 シリアル 1 データ 送信可能 (送信 クリア)
P96 INT4 PX	1	入力 入力 出力	ポート 96: 入力ポート (シュミット入力, プルダウン抵抗付き) 割り込み要求端子 4 :立ち上がり/立ち下がりエッジをプログラム可能な割込み要求端子 X-プラス : タッチスクリーンパネル用 X+ 接続端子
P97 PY	1	入力 出力	ポート 97: 入力ポート (シュミット入力) Y-プラス : タッチスクリーンパネル用 Y+ 接続端子
PA0~PA7 KI0~KI7	8	入力 入力	ポート A0~A7 ポート: 入力 ポート専用端子 キー入力 0~7: キーオンウェイクアップ 0~7 用端子 (シュミット入力, プルアップ抵抗付き)
PC0 INT0	1	入出力 入力	ポート C0: 入出力ポート (シュミット入力) 割り込み要求端子 0:レベル/立ち上がり/立ち下がりエッジをプログラム可能な割込み要求端子
PC1 INT1 TA0IN	1	入出力 入力 入力	ポート C1: 入出力ポート (シュミット入力) 割り込み要求端子 1:立ち上がり/立ち下がりエッジをプログラム可能な割込み要求端子 タイマ入力: 8 ビットタイマ 0 の入力端子
PC2 INT2	1	入出力 入力	ポート C2 : 入出力ポート (シュミット入力) 割り込み要求端子 2:立ち上がり/立ち下がりエッジをプログラム可能な割込み要求端子
PC3 INT3 TA2IN	1	入出力 入力 入力	ポート C3: 入出力ポート (シュミット入力) 割り込み要求端子 3:立ち上がり/立ち下がりエッジをプログラム可能な割込み要求端子 タイマ入力: 8 ビットタイマ 2 の入力端子
PC4 EA26 SPDI	1	入出力 出力 入力	ポート C4: 入出力ポート 拡張用アドレス EA26 SD カード用データ入力端子
PC5 EA27 SPDO	1	入出力 出力 出力	ポート C5: 入出力ポート 拡張用アドレス EA27 SD カード用データ出力端子
PC6 EA28 SPCLK	1	入出力 出力 出力	ポート C6 : 入出力ポート 拡張用アドレス EA28 SD カード用クロック出力端子
PC7 KO8	1	入出力 出力	ポート C7 : 入出力ポート キー出力 8 : キースキャンストローブ専用端子 (オープンドレイン出力 プログラム可能)

Not Recommended for New Design

表 2.2.1 ピン名称と機能(3/6)

ピン名称	ピン数	入出力	機能
PF0 I2S0CKO	1	入出力 出力	ポート F0: 入出力ポート I^2S0 クロック 出力
PF1 I2S0DO	1	入出力 出力	ポート F1: 入出力 ポート I^2S0 データ 出力
PF2 I2S0WS	1	入出力 出力	ポート F2: 入出力 ポート I^2S0 ワードセレクト 出力
PF7 SDCLK	1	出力 出力	ポート F7: 出力 ポート SDRAM 用クロック
PG0~PG1 AN0~AN1	2	入力 入力	ポート G0~G1 :入力ポート専用端子 アナログ入力 0~1: AD コンバータ 入力端子
PG2 AN2 MX	1	入力 入力 出力	ポート G2 :入力 ポート専用端子 アナログ入力 2: AD コンバータ 入力端子 X-マイナス:タッチパネル用 X-接続端子
PG3 AN3 MY $\overline{\text{ADTRG}}$	1	入力 入力 出力 入力	ポート G3 : 入力ポート専用端子 アナログ入力 3: /D コンバータ 入力端子 Y-マイナス: タッチパネル用 Y-接続端子 AD トリガ: AD 起動リクエスト信号
PG4~PG5 AN4~AN5	2	入力 入力	ポート G4 ~G5:入力ポート専用端子 アナログ入力 4~5: AD コンバータ 入力端子
PJ0 $\overline{\text{SDRAS}}$ $\overline{\text{SRLLB}}$	1	出力 出力 出力	ポート J0: 出力ポート SDRAM 用ロウアドレスストローブ D0~D7 端子の SRAM 用データイネーブル
PJ1 $\overline{\text{SDCAS}}$ $\overline{\text{SRLUB}}$	1	出力 出力 出力	ポート J1: 出力ポート SDRAM 用カラムアドレスストローブ D8~D15 端子の SRAM 用データイネーブル
PJ2 $\overline{\text{SDWE}}$ $\overline{\text{SRWR}}$	1	出力 出力 出力	ポート J2: 出力ポート SDRAM 用ライトイネーブル SRAM 用ライトイネーブル: ライトデータ用ストローブ信号
PJ3 SDLLDQM	1	出力 出力	ポート J3: 出力ポート D0~D7 端子の SDRAM 用データイネーブル
PJ4 SDLUDQM	1	出力 出力	ポート J4: 出力ポート D8~D15 端子の SDRAM 用データイネーブル
PJ5 NDALE	1	入出力 出力	ポート J5: 入出力ポート NAND-Flash 用アドレスラッチイネーブル
PJ6 NDCLE	1	入出力 出力	ポート J6: 入出力ポート NAND-Flash 用コマンドラッチイネーブル
PJ7 SDCKE	1	出力 出力	ポート J7: 出力ポート SDRAM 用クロックイネーブル

Not Recommended for New Design

表 2.2.1 ピン名称と機能(4/6)

ピン名称	ピン数	入出力	機能
PK0 LCP0	1	出力 出力	ポート K0: 出力ポート LCD ドライバ 出力端子
PK1 LLOAD	1	出力 出力	ポート K1: 出力ポート LCD ドライバ データロード用出力端子
PK2 LFR	1	出力 出力	ポート K2: 出力ポート LCD ドライバ 出力端子
PK3 LVSYNC	1	出力 出力	ポート K3: 出力ポート LCD ドライバ 垂直同期出力端子
PK4 LHSYNC	1	出力 出力	ポート K4: 出力ポート LCD ドライバ 水平同期出力端子
PK5 LGOE0	1	出力 出力	ポート K5: 出力ポート LCD ドライバ 出力端子
PK6 LGOE1	1	出力 出力	ポート K6: 出力ポート LCD ドライバ 出力端子
PK7 LGOE2	1	出力 出力	ポート K7: 出力ポート LCD ドライバ 出力端子
PL0~PL7 LD0~LD7	8	入出力 出力	ポート L0~L7: 入出力ポート LCD ドライバ用データバス
PM1 TA1OUT MLDALM	1	出力 出力 出力	ポート M1: 出力ポート 8 ビット タイマ 1 出力: タイマ 1 出力 メロディ/アラーム出力端子
PM2 $\overline{\text{ALARM}}$ $\overline{\text{MLDALM}}$	1	出力 出力 出力	ポート M2: 出力ポート RTC アラーム出力端子 メロディ/ アラーム 出力端子 (反転)
PM7 PWE	1	出力 出力	ポート M7: 出力ポート 外部電源制御出力 : 外部電源の ON/OFF を制御するための端子です。通常動作時は”H”レベルを出力し、スタンバイモード時には “L”レベルを出力します。
PN0~PN7 KO0~KO7	8	入出力 出力	ポート N: 入出力ポート キーアウト端子(オープンドレイン設定可能)
PP3 INT5 TA7OUT TXD0 TXD1	1	入出力 入力 出力 出力 出力	ポート P3: 入出力ポート (シュミット入力) 割り込み要求端子 5 :立ち上がり/立ち下がりエッジをプログラム可能な割込み要求端子 8 ビット タイマ 7 出力: タイマ 7 出力 シリアル 0 送信 データ: プログラマブルオープンドレイン 出力 シリアル 1 送信 データ: プログラマブルオープンドレイン 出力
PP4 INT6 TB0IN0 RXD0 RXD1	1	入出力 入力 入力 入力 入力	ポート P4: 入出力ポート(シュミット入力) 割り込み要求端子 6:立ち上がり/立ち下がりエッジをプログラム可能な割込み要求端子 タイマ入力: 16 ビットタイマ 0 の入力端子 シリアル 0 受信 データ シリアル 1 受信 データ
PP5 INT7 TB1IN0 SCLK0 $\overline{\text{CTS0}}$ SCLK1 $\overline{\text{CTS1}}$	1	入出力 入力 入力 入出力 入力 入出力 入力	ポート P5: 入出力ポート(シュミット入力) 割り込み要求端子 7:立ち上がり/立ち下がりエッジをプログラム可能な割込み要求端子 タイマ入力: 16 ビットタイマ 1 の入力端子 シリアル 0 クロック 入出力 シリアル 0 データ 送信可能 (送信 クリア) シリアル 1 クロック 入出力 シリアル 1 データ 送信可能 (送信 クリア)
PP6 TB0OUT0	1	出力 出力	ポート P6: 出力ポート タイマ B0 出力

Not Recommended for New Design

表 2.2.1 ピン名称と機能 (5/6)

ピン名称	ピン数	入出力	機能
PR0 SPDI	1	入出力 入力	ポート R0: 入出力ポート SD カード用データ入力端子
PR1 SPDO	1	入出力 出力	ポート R1: 入出力ポート SD カード用データ出力端子
PR2 $\overline{\text{SPCS}}$	1	入出力 出力	ポート R2: 入出力ポート SD カード用チップセレクト出力端子
PR3 SPCLK	1	入出力 出力	ポート R3: 入出力ポート SD カード用クロック出力端子
PT0~PT7 LD8~LD15	8	入出力 出力	ポート T0~T7: 入出力ポート LCD ドライバ用データバス
PV6 SDA	1	入出力 入出力	ポート V6: 入出力ポート I^2C データ入出力
PV7 SCL	1	入出力 入出力	ポート V7: 入出力ポート I^2C クロック入出力
PX4 CLKOUT LDIV	1	出力 出力 出力	ポート X4: 出力専用ポート 内部クロック出力端子 LCD ドライバ 出力端子
PX5 X1USB X1D4	1	入出力 入力 出力	ポート X5: 入出力ポート USB 用クロック入力端子 ダイレクトクロック出力端子

Not Recommended for New Design

表 2.2.1 ピン名称と機能 (6/6)

ピン名称	ピン数	入出力	機能
D+, D-	2	入出力	USB データ接続端子 USB を使用しない場合は両端子とも貫通電流対策のため、プルアップ(DVCC3A)またはプルダウンしてください。
$\overline{TEST}$	1	入力	TEST 端子です。通常は“H”レベルに固定してください。
AM1,AM0	2	入力	起動モード入力端子: AM1= “0”, AM0= “1” 固定　外部 16 ビットバススタート AM1= “1”, AM0= “0” 固定　設定禁止 AM1= “1”, AM0= “1” 固定　内蔵 ROM(内部 32 ビット MROM) スタート AM1= “0”, AM0= “0” 固定　設定禁止
X1/X2	2	入出力	高周波発振器接続入出力端子
XT1/XT2	2	入出力	低周波発振器接続入出力端子
$\overline{RESET}$	1	入力	リセット: TMP92CF29A が初期化されます (シュミット入力,プルアップ抵抗付き)
VREFH	1	入力	AD コンバータ用基準電源入力端子 (H)
VREFL	1	入力	AD コンバータ用基準電源入力端子 (L)
AVCC	1	–	AD コンバータ用電源端子
AVSS	1	–	AD コンバータ用 GND 端子 (0 V)
DVCC3A	8	–	電源端子 周辺 I/O-A 用 (全 DVCC3A 端子を電源端子に接続してください)
DVCC1A	4	–	電源端子 内部ロジック-A 用 (全 DVCC1A 端子を電源端子に接続してください)
DVCC1B	1	–	電源端子 内部ロジック-B 用 (DVCC1A の電位にしてください)
DVSSCOM	8	–	GND 端子(0 V) (全 DVSS 端子を GND(0 V)に接続してください)
DVCC1C	1	–	電源端子 高速発振器用　(DVCC1A の電位にしてください)
DVSS1C	1	–	GND 端子(0 V) (GND(0 V)に接続してください)

電源供給端子の動作電圧範囲を、表 2.2.2に示します。

表 2.2.2　電源供給端子の動作電圧範囲

電源供給端子	動作電圧範囲
DVCC1A	1.4V~1.6V
DVCC1B	
DVCC1C	
DVCC3A	3.0V~3.6V
AVCC	

Not Recommended for New Design

3. 動作説明

ここでは、TMP92CF29A の機能、および基本動作についてブロックごとに説明します。

3.1 CPU

TMP92CF29A は高性能な高速 32 ビットの CPU(900/H1 CPU)が内蔵されています。

3.1.1 CPUの概要

「TLCS-900/H1 CPU」は「TLCS-900/L1 CPU」をベースに、より高速処理を可能にするために、内部のデータバス幅を 32 ビットに拡張した高速・高性能な CPU です。

概要を、表 3.1.1に示します。

表 3.1.1TMP92CF29A の概要

項目	TMP92CF29A	
CPU アドレスバス幅	24 ビット	
CPU データバス幅	32 ビット	
内部動作周波数	最大 80MHz	
最小バスサイクル	1-クロックアクセス(12.5ns@80MHz)	
内蔵 RAM	32-bit 2-1-1-1 クロック アクセス	
内蔵 Boot ROM	32-bit 2 クロック アクセス	
内蔵 I/O	8-bit,2 クロック アクセス	INTC,SDRAMC, MEMC,LCDC, TSI,PORT,PMC
	16-bit,2 クロック アクセス	MMU,USB, NDFC,SPIC,DMAC
	32-bit,2 クロック アクセス	I^2S
	32-bit,1 クロック アクセス	MAC
	8-bit, 5 ~ 6 クロック アクセス	TMRA,TMRB, SIO,RTC, MLD/ALM, SBI CGEAR,ADC,WDT
外部 メモリ (SRAM、MASKROM 等)	8/16-bit 2-クロック アクセス (ウェイト挿入可能)	
外部メモリ (SDRAM)	16-bit 1-クロック アクセス	
外部メモリ (NAND-Flash)	8/16-bit 2-クロック アクセス (ウェイト挿入可能)	
最小命令実行サイクル	1-クロック(12.5ns@80MHz)	
条件付分岐命令	2-クロック(25.0ns@80MHz)	
命令キューバッファ	12-バイト	
命令セット	TLCS-900/L1 命令コード 互換(但し、LDX 命令なし)	
マイクロ DMA	8-チャネル	
ハードウェア DMA	6-チャネル	

Not Recommended for New Design

3.1.2 リセット動作

TMP92CF29A にリセットをかけるには、電源電圧が動作範囲内であり、かつ、内部発振器の発振が安定した状態で、少なくとも 20 システムクロック(32μs @ X1=10MHz)、$\overline{\text{RESET}}$ 入力端子を “L”レベルにして下さい。

リセットで PLL0 は停止し PLL0 出力は非選択となり、クロックギアは 1/16 にセットされます。

よってシステムクロックは 625kHz(X1=10MHz)で動作します。

リセットが受け付けられると、CPU は下記の動作を行います。

なお、下記以外の CPU 内部のレジスタは変化しません。

- スタックポインタ XSP を 00000000H にセット
- ステータスレジスタ SR のビット<IFF2:0>を“111”にセット
  (割り込みレベルのマスクレジスタをレベル 7 にセット)
- ステータスレジスタ SR のビット<RFP1:0>を “00”にクリア
  (レジスタバンク 0 にセット)

リセットが解除されると、セットされたプログラムカウンタ “PC”に従い、命令のフェッチと実行を開始します。

- プログラムカウンタ “PC”を、メモリ FFFF00H 番地~FFFF02H 番地に格納されているリセットベクタに従い以下に示すようにセットします。

PC(7:0)	←	FFFF00H 番地のデータ
PC(15:8)	←	FFFF01H 番地のデータ
PC(23:16)	←	FFFF02H 番地のデータ

またリセットが受け付けられると、内蔵 I/O および入出力ポートおよびその他の端子は、下記に示すように初期化されます。

- 内蔵 I/O のレジスタを初期化
  (初期値は、第 5 章「特殊レジスター覧表」を参照して下さい。)

注 1) 本 LSI は RAM を内蔵していますが、リセット動作により内蔵 RAM のデータは保持されない場合があります。リセット後、内蔵 RAM のデータを初期化してください。

注 2) 本 LSI には、内部回路用の電源 (DVCC1A, DVCC1C)を遮断してスタンバイ電流を低減する機能 (PMC 機能)を持っていますが、(DVCC1A, DVCC1C)の電源を供給しない状態で、リセット動作を行うと内部に貫通電流を流すことがあります。リセットする場合は、まず(DVCC1A, DVCC1C)の電源を供給し、十分に電源が安定した後にリセットするようにしてください。

図 3.1.1にTMP92CF29Aのリセットタイミングチャート、図 3.1.2にTMP92CF29Aの電源投入順序とリセット解除の例を示します。

Not Recommended for New Design

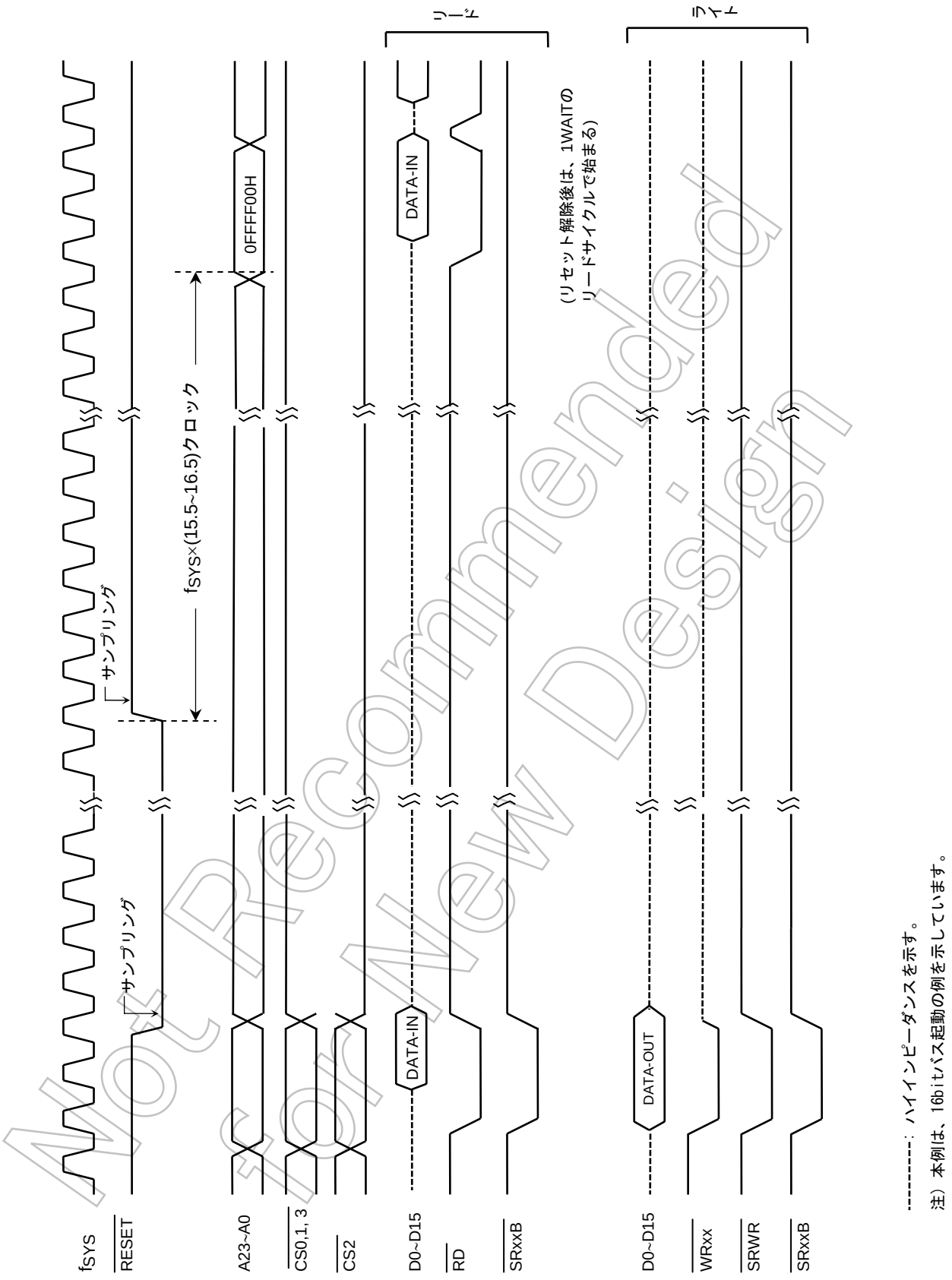
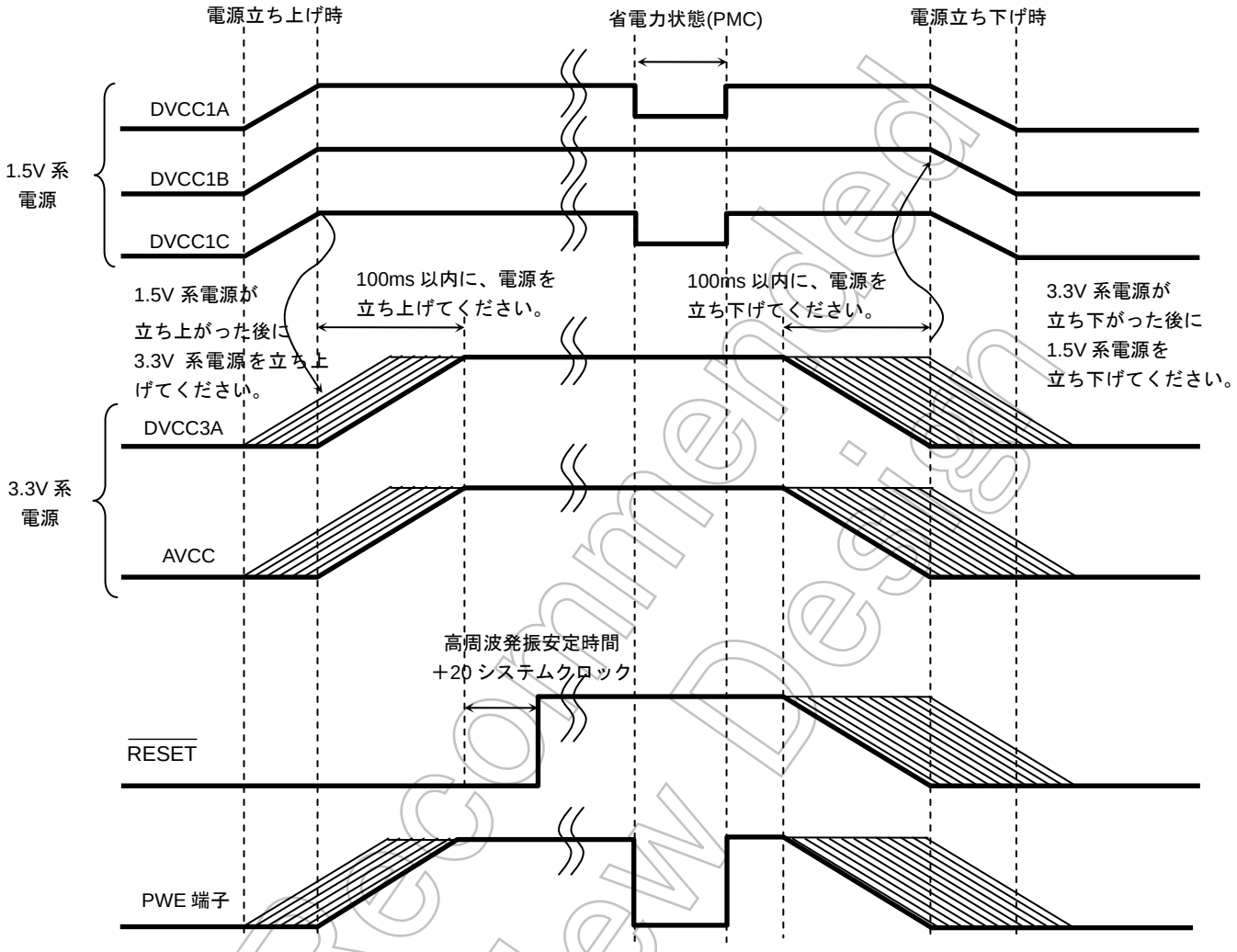


図 3.1.1 TMP92CF29A リセットタイミングチャート

Not Recommended for New Design

TMP92CF29A では、電源投入の順序に制約があります。外部の 3.3V 系電源の ON/OFF は必ず、内部 1.5V 系電源が供給された状態で行う必要があります。



注 1) 内部 1.5V 系と外部 3.3V 系電源を、同時に立ち上げ/立ち下げることも可能ですが、その場合、瞬間的に外部端子が不安定の状態になる可能性がありますので、周辺の LSI に接続の機器に影響を与える可能性がある場合には、上図の太線で示すように、内部 1.5V 系電源が確定・安定している間に、外部電源の立ち上げ/立ち下げを行ってください。

注 2) 立ち上げ時は 1.5V 系の電源より早く 3.3V 系電源を立ち上げないようにしてください。また、立ち下げ時は 1.5V 系の電源より後に 3.3V 系電源を立ち下げないようにしてください。

図 3.1.2 電源投入とリセットタイミング動作例

Not Recommended for New Design

3.1.3 AM0, AM1 の設定

AM1 および AM0 端子の設定は 表 3.1.2のようになります。

表 3.1.2 動作モード セットアップ

モード設定入力端子			動作モード
$\overline{\text{RESET}}$	AM1	AM0	
↗	0	1	外部 16 ビットバススタート
	1	0	テストモード(設定禁止)
	1	1	内蔵 ROM (内部 32 ビット MROM)スタート (ブートモード)
	0	0	テストモード(設定禁止)

Not Recommended for New Design

3.2 メモリマップ

図 3.2.1はTMP92CF29Aのメモリマップ図です。

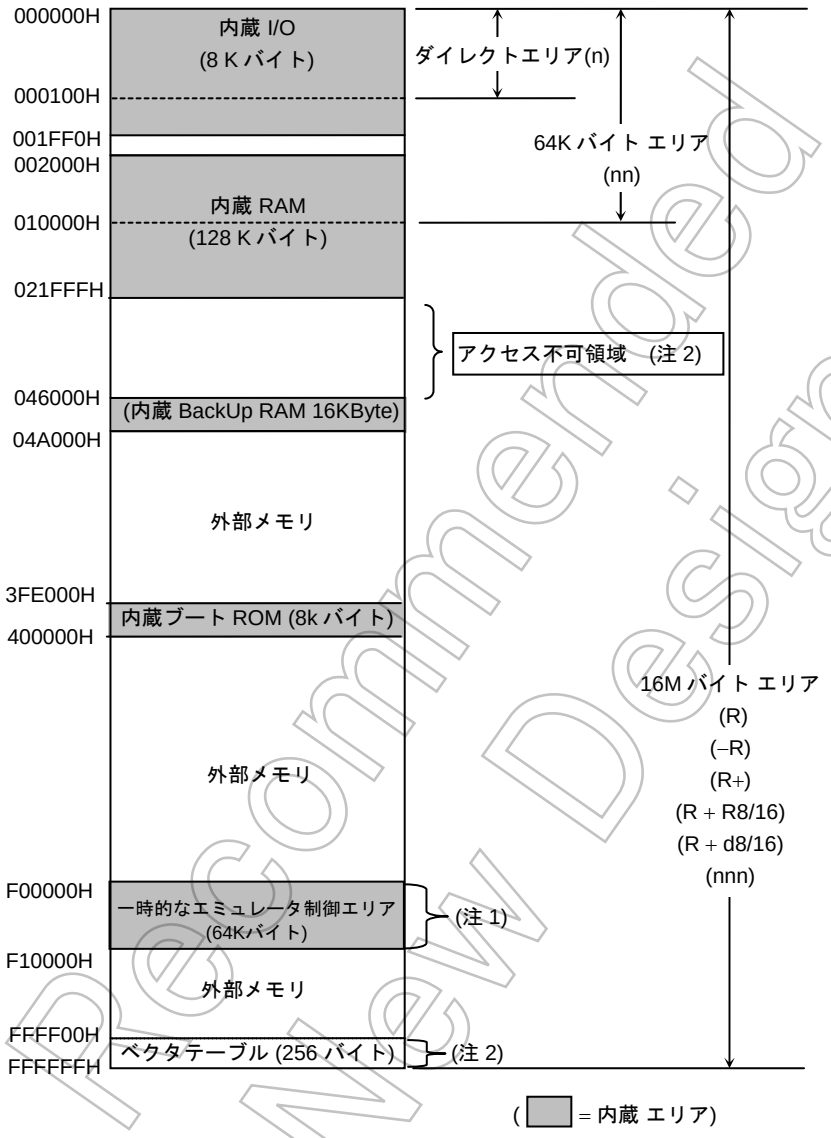


図 3.2.1 メモリマップ

注 1) エミュレータを使用する場合、16M バイト空間の任意の 64K バイトは、エミュレータ制御のために使用されるので、その空間を使用することができません。

注 2) 022000H~045FFFH の 144K バイトの空間と、最後の FFFFF0H~FFFFFFH の 16 バイトの空間は、内部エリア空間として予約されているので、使用することができません。

Not Recommended for New Design

3.3 TMP92CZ26A/CF26AとTMP92CF29Aの相違点

TMP92CF29A は、基本的に TMP92CF26A の機能削除(一部追加機能有り)、少ピン品です。

ファンクション仕様は、3.3.1~3.3.13に示す変更項目があります。AC/DC特性についての大きな違いはありませんが、詳細は「電気的特性」を参照してください。

3.3.1 DSU回路の削除

TMP92CF29A では、TMP92CZ26A/CF26A でサポートされていた、DSU 機能が削除されています。

開発環境は、TMP92CF26AXBG での提供となります。(DSU 機能を利用し、ピン変換を施す)そのため、本仕様書で説明している、追加・変更機能は、開発ツール上では、デバッグすることが出来ませんのでご注意願います。

(実デバイス、ROM エミュレータ等でのデバッグをお願いしています)

3.3.2 内蔵I/Oの削除・変更

[削除 1: I²S ch1] TMP92CF29A では、TMP92CZ26A/CF26A より I²S の Ch1 が削除されています(Ch0 のみ存在)。

TMP92CF29A における上記内蔵 I/O に対する特殊機能レジスタのアドレスにはアクセスしないでください。詳細は「特殊機能レジスター覧表」を参照してください。

[追加 1: SIO1] SIO が 1ch 追加になっていますので、SIO1 用のレジスタが追加になっています。詳細は後述の比較表を参照してください。

[追加 2: PORT] PORT の制御方法(兼用端子の設定)が変更になっていますので、対象ポートの制御方法の変更および、レジスタが追加になっています。

TMP92CF26A を利用した ICE を使用して開発・デバッグを行う場合、追加・変更になったレジスタに対するデバッグは出来ません。詳細は後述の比較表を参照してください。

3.3.3 ポート機能の削除

TMP92CF29A では、TMP92CZ26A/CF26A より以下に示すポート機能が削除されています。

- $\overline{\text{DBGE}}$: デバッグイネーブル端子(DSU 機能は動作しません)
- ポート 8: P84 ($\overline{\text{CSZB}}$), P85 ($\overline{\text{CSZC}}$)
- ポート F: PF3 (I2S1CKO), PF4 (I2S1DO), PF5 (I2SWS)
- ポート P: PP7(TB1OUT0),PP2(TA5OUT),PP1(TA3OUT)
- ポート U: PU0~PU7 (LD16~LD23)
- ポート V: PV0, PV1, PV2, PV3, PV4
- ポート W: PW0~PW7
- ポート X: PX7
- ポート Z: PZ0~PZ7

Not Recommended for New Design

3.3.4 MMU機能のアクセス最大サイズの減少

P84（$\overline{\text{CSZB}}$）、P85（$\overline{\text{CSZC}}$）端子の削除に伴い、MMU 機能で拡張出来る最大メモリ容量が減少し、利用できないバンクが存在しています。拡張メモリの総容量が、TMP92CZ26A/CF26A が 3.1G バイトなのに対して、2.1G バイトに縮小されています。あわせて Z エリアのバンク数が 512 バンクから 256 バンクに縮小されています。

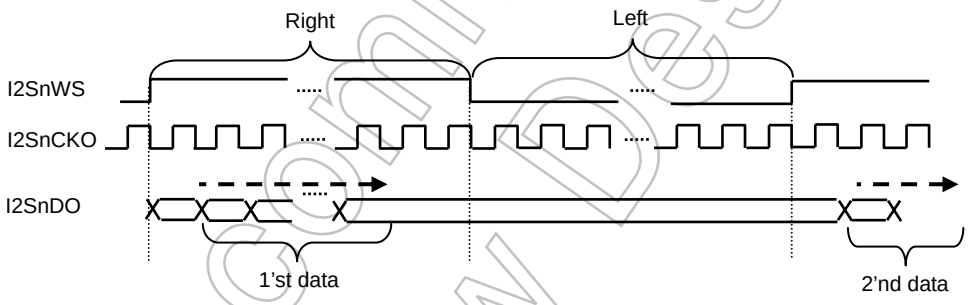
TMP92CF26A を利用した ICE を使用して開発・デバッグを行う場合、CF29A には存在しないレジスタへのアクセスや、CF29A では動作出来ないバンクへのアクセスが可能になりますので、ご注意ください。詳細は「MMU」の章を参照してください。

3.3.5 I²Sのチャネル削除と機能変更

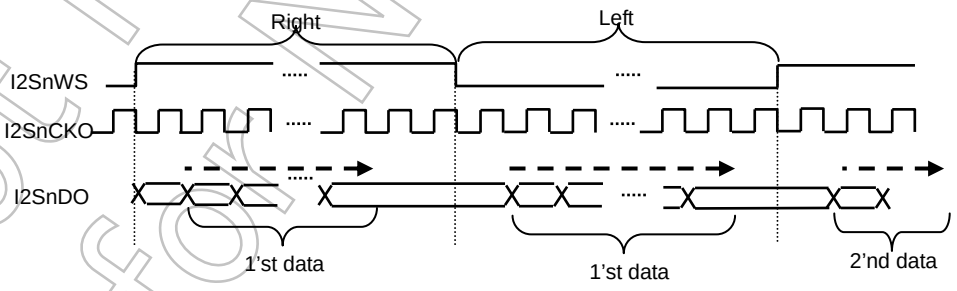
[機能削除] TMP92CF29A では、I²S が ch0 の 1 チャネルしかサポートされていません。TMP92CF26A でサポートされていた ch1 は削除されています。

[機能変更 1] I²S 機能の持つモノラル出力機能のデータ出力フォーマットが変更になっています。

TMP92CZ26A/CF26A でサポートされているモノラル機能(I²S フォーマットの場合)
片方のチャネルから出力



TMP92CF29A でサポートされているモノラル機能(I²S フォーマットの場合)
両方のチャネルから(同一データを)出力



TMP92CF26A を利用した ICE を使用して開発する場合、モノラルモードを選択すると、片方のチャネルからしかデータは出力されません。詳細は「I²S」の章を参照してください。

Not Recommended for New Design

3.3.6 $\overline{\text{TEST}}$ 端子機能の追加

TMP92CF29A では、TMP92CZ26A/F26A には存在しなかった、$\overline{\text{TEST}}$ 端子が追加されています。常時 “H”レベルに固定して使用するようにしてください。

3.3.7 ポートLの機能追加

TMP92CZ26A/F26A における、ポート L は出力専用ポートでしたが、TMP92CF29A では入力機能が追加されています。さらに、システムリセット直後のポートの状態が、入力状態から開始されます。

そのため、TMP92CF26A を利用した ICE を使用して開発・デバッグを行う場合、ポート L の入力機能は使用出来ません。

3.3.8 X1D4 端子機能の追加

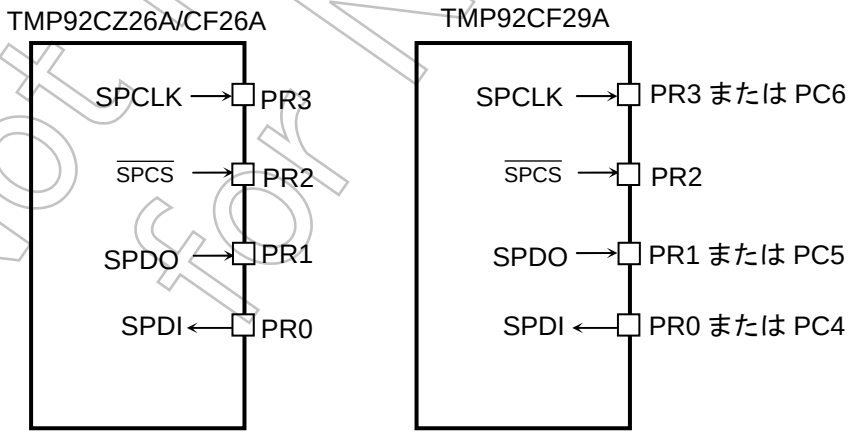
TMP92CF29A では､新規機能として PX5 ポートから X1､X2 端子の発振周波数を 1/1､1/2、1/4、1/8 にしたクロックを出力する機能を追加しています。詳細は PX ポートの章を参照ください。しかし、TMP92CF26A を利用した ICE を使用して開発・デバッグを行う場合、本機能は使用出来ません。

3.3.9 SPIコントローラの機能追加

TMP92CZ26A/CF26A では、SPI の制御信号を PR ポートと兼用機能としていましたが、TMP92CF29A では、PR ポートまたは、PC ポートの両方に兼用機能として選択が可能($\overline{\text{SPCS}}$ 信号を除く)となっています。しかし、TMP92CF26A を利用した ICE を使用して開発・デバッグを行う場合、追加・変更になったレジスタに対するデバッグは出来ません。

- SPCLK 信号の PC6 端子からの出力
- SPDO 信号の PC5 端子からの出力
- SPDI 信号の PC4 端子からの入力

詳細は、「SPI」の章を参照してください。



Not Recommended for New Design

3.3.10 LCDコントローラの追加・削除機能

[機能削除] TMP92CZ26A/CF26A では TFT 液晶を選択した場合、最大 16M カラーの対応が可能でしたが、TMP92CF29A では、LCDD への専用バス 24 本から 16 本に減っている関係で、最大 64k カラー対応となります。

[機能変更 1] TMP92CZ26A/CF26A では対応できていなかった、特殊パネルへ対応する機能が追加されいます。しかし、TMP92CF26A を利用した ICE を使用して開発・デバッグを行う場合、追加・変更になったレジスタに対するデバッグは出来ません。

・TFT モノクロ対応機能

詳細は、LCD コントローラの章を参照してください。

機能比較(レジスタ比較)

TMP92CZ26A/CF26A の LCDMODE0 レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDMODE0 (0280H)	bit Symbol	RAMTYPE1	RAMTYPE0	SCPW1	SCPW0	MODE3	MODE2	MODE1	MODE0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	1	1	0	0	0	0
	機能	表示 RAM 00: 内蔵 RAM 01: 外部 SRAM 10: SDRAM 11: Reserved		LD バス転送速度 SCPW2 = 0 00: 2-clk 01: 4-clk 10: 8-clk 11: 16-clk SCPW2 = 1 00: 6-clk 01: 12-clk 10: 24-clk 11: 48-clk		モード選択 0000: Reserved 0001: SR 型モノクロ 0010: SR 型 4Gray 0011: Reserved 0100: SR 型 16Gray 0101: SR 型 64Gray 0110: STN256 色 0111: STN4096 色		1000: STN64K 色 1001: Reserved 1010: TFT256 色 1011: TFT4096 色 1100: TFT64K 色 1101: **TFT256K、16M 色** 1110: **Reserved** 1111: Reserved	

TMP92CF29A の LCDMODE0 レジスタ

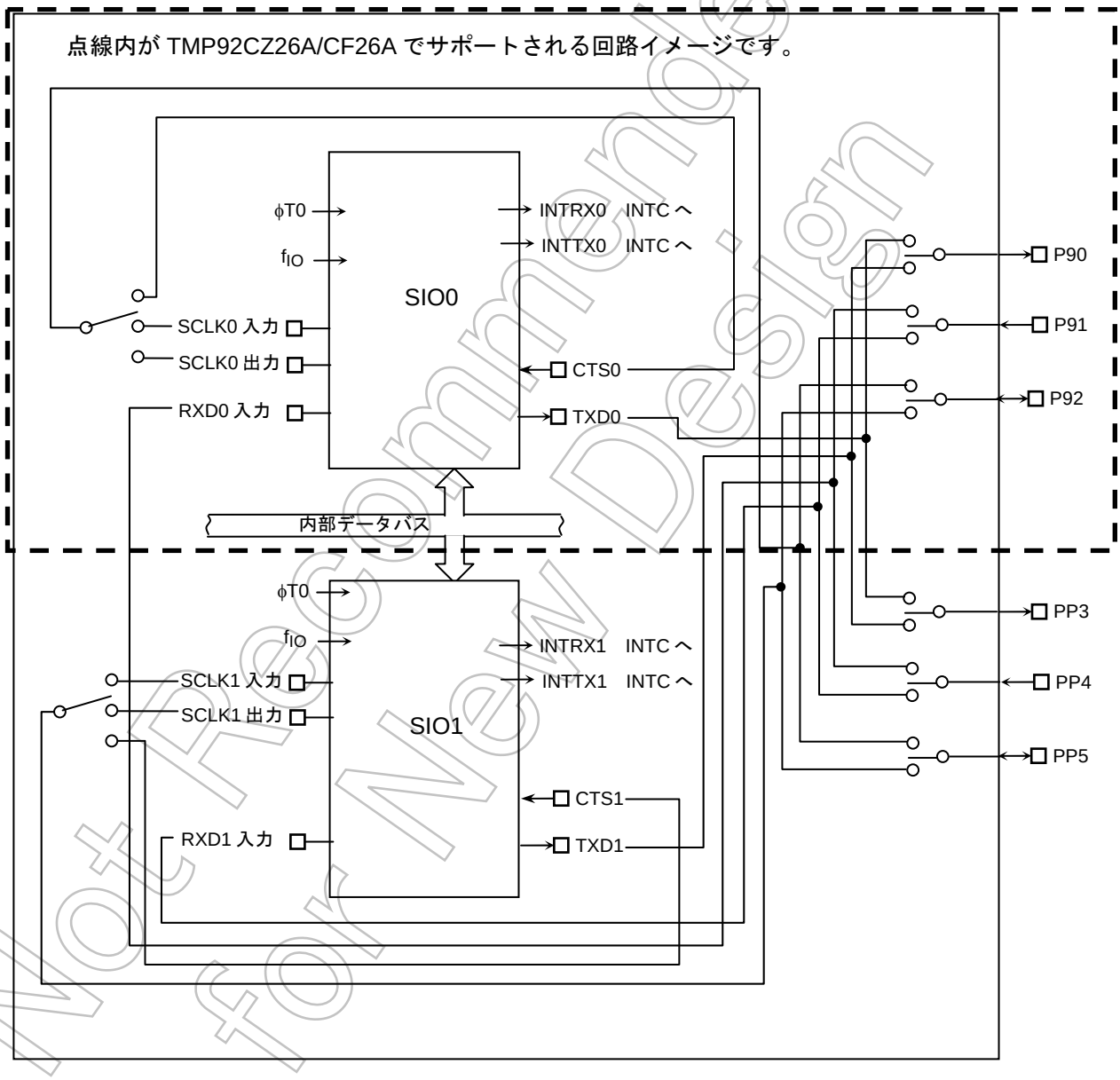
		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDMODE0 (0280H)	bit Symbol	RAMTYPE1	RAMTYPE0	SCPW1	SCPW0	MODE3	MODE2	MODE1	MODE0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	1	1	0	0	0	0
	機能	表示 RAM 00: 内蔵 RAM 01: 外部 SRAM 10: SDRAM 11: Reserved		LD バス転送速度 SCPW2 = 0 00: 2-clk 01: 4-clk 10: 8-clk 11: 16-clk SCPW2 = 1 00: 6-clk 01: 12-clk 10: 24-clk 11: 48-clk		モード選択 0000: Reserved 0001: SR 型モノクロ 0010: SR 型 4Gray 0011: Reserved 0100: SR 型 16Gray 0101: SR 型 64Gray 0110: STN256 色 0111: STN4096 色		1000: STN64K 色 1001: Reserved 1010: TFT256 色 1011: TFT4096 色 1100: TFT64K 色 1101: **Reserved** 1110: **TFT モノクロ** 1111: Reserved	

Not Recommended For New Design

3.3.11 SIOのチャネル追加および機能追加

[機能追加] TMP92CZ26A/CF26A では SIO は、1ch のみのサポートでしたが、TMP92CF29A では 2ch に追加されています。しかし、TMP92CF26A を利用した ICE を使用して開発・デバッグを行う場合、追加になった Ch1 のデバッグは出来ません。

[変更機能] 2ch の回路は、各々の信号を P90,P91,P92、または PP3,PP4,PP5 に設定することが出来ます。しかし、TMP92CF26A を利用した ICE を使用して開発・デバッグを行う場合、変更になったポート切り替えの機能はデバッグ出来ません。



Not Recommended for New Design

3.3.12 割り込み要因の削除・変更

[機能削除] I²S のチャネルが 2ch から 1ch に減った分の割り込みベクタが削除されています。

[変更機能] SIO が 1ch から 2ch に増えたため、TMP92CZ26A/CF26A ではサポートされていなかった「SIO1 のシリアル受信終了」および、「シリアル送信終了」の割り込みベクタが追加されています。しかし、TMP92CF26A を利用した ICE を使用して開発・デバッグを行う場合、変更になった割り込み機能はデバッグ出来ません。

TMP92CF29A の割り込みベクタとマイクロ DMA/HDMA スタートベクタ

デフォルトプライオリティ	タイプ	割り込み要因とマイクロ DMA 要求要因	ベクタ値	ベクタ参照アドレス	マイクロ DMA /HDMA スタートベクタ
1	ノンマスカブル	リセットまたは [SWI0] 命令	0000H	FFFF00H	
2		[SWI1] 命令	0004H	FFFF04H	
途中略		途中略			
40		INTI2S0: I²S(チャネル 0)	009CH	FFFF9CH	27H
41		**(Reserved)**	–	–	–
42		INTADM: AD 監視機能	00A4H	FFFFA4H	29H
43		INTSBI: SBI	00A8H	FFFFA8H	2AH
44		INTSPIRX: SPIC 受信	00ACH	FFFFACH	2BH
45		INTSPITX: SPIC 送信	00B0H	FFFFB0H	2CH
46		INTRSC: NAND Flash コントローラ	00B4H	FFFFB4H	2DH
47		INTRDY: NAND Flash コントローラ	00B8H	FFFFB8H	2EH
48		INTUSB: USB	00BCH	FFFFBCH	2FH
49		**INTRX1: シリアル受信終了**	**00C0H**	**FFFFC0H**	**30H**
50		**INTTX1: シリアル送信終了**	**00C4H**	**FFFFC4H**	**31H**

3.3.13 USBブート時のプルアップ制御ポートの変更

本体内蔵のブート ROM で USB からのブート機能を使用する場合、D+端子をポートでプルアップする制御信号が必要ですが、TMP92CZ26A/F26A においては、PU6 ポートを使用していますが、TMP92CF29A では PP6 端子に変更されています。

Not Recommended for New Design

TMP92CZ26AとTMP92CF29Aの差異を 表 3.3.1にまとめます。詳細は内部の各々の回路の章を参照ください。

表 3.3.1 TMP92CZ26A との比較表

Item	TMP92CZ26A	TMP92CF29A	備考	
RAM	288KB	144KB		
ROM	8KB (BOOT)	8KB (BOOT)		
PKG	FBGA228-P-1515-0.80A	LQFP176-P-2020-0.40F		
Pin Count	228	176		
DSU	対応	無	TMP92CZ26 のサブセットとする (DSU でなく、ICE) $\overline{\text{DBGE}}$ PZ0-PZ7,PU7 10 本削除	-10
I2S	2ch	1ch	Ch1 を削除 PF3(I2S1CKO,X1D4),PF4(I2S1DO), PF5(I2S1WS) 3 本削除	-3
8bit timer	8ch	8ch	PP1(TA3OUT),PP2 (T5OUT), 2 本削除	-2
SIO	1ch	2ch	ただし、＋1ch 分は開発ツール上ではデバッグ出来ません。	
16bit timer	2ch	2ch	PP7(TB1OUT0) 1 本削除	-1
LCDC	TFT 16M 対応	TFT 64k 対応	LD バスを 24 本→16 本 PU0(LD16)-PU7(LD23) PU7 が DSU 機能と重なっているため、 7 本削除。32bit バスモードでは LCDC 使用不可	-7
汎用ポート	P84/$\overline{\text{CSZB}}$ P85/$\overline{\text{CSZC}}$ PV0 PV1 PV2 PV3 PV4 PX7 PW0 to PW7	削除 削除 削除 削除 削除 削除 削除 削除 削除	ポートピン 15 本削除	-16
電源	DVCC3A 12 DVCC3B 1 DVCC1A 5 DVCC1B 1 DVCC1C 1 DVCC1S 1 DVSSCOM 12	DVCC3A 8 DVCC3B 0 DVCC1A 4 DVCC1B 1 DVCC1C 1 DVCC1S 1 DVSSCOM 8	電源ピン 10 本削除	-10
Dummy	4 本	無し	ダミー4 本削除	-4
$\overline{\text{TEST}}$	無し	追加	TEST ピン追加	+1
TOTAL			228 ピン BGA → 176 ピン QFP (52 本削除)	-52

その他 仕様変更

SIO の 2ch 化	CZ26A,CF26A では 1ch のみであった、SIO を 1ch 追加。 ただし、追加分の SIO 機能は開発ツールではデバッグ対応出来ません。
X1D4 端子の追加	源振クロック(外部 X1)の×1、×1/2、×1/4、×1/8 のクロックを CPU の状態(Normal、IDLE1、IDLE2 いずれの場合も)出力することが出来る。ただし、開発ツールでは対応不可。
LCDC にモノクロ TFT 仕様を追加	LCDC に特殊仕様であるモノクロ TFT モードを追加。ただし、開発ツールでのデバッグは対応出来ません。
SPI 出力を別ポートから出力対応	SPI は 1ch のみとチャネル数の変更はありませんが、2 種類の別端子から出力対応可能です。しかし、この機能も開発ツールでのデバッグは対応できません。

Not Recommended for New Design

3.4 クロック機能およびスタンバイ機能

TMP92CF29A は(1)クロックギア、(2)クロック逓倍回路 (PLL)、(3) スタンバイ制御、(4)ノイズ低減回路などの機能を内蔵しています。これらの機能は低電力かつ低ノイズのシステムになっています。

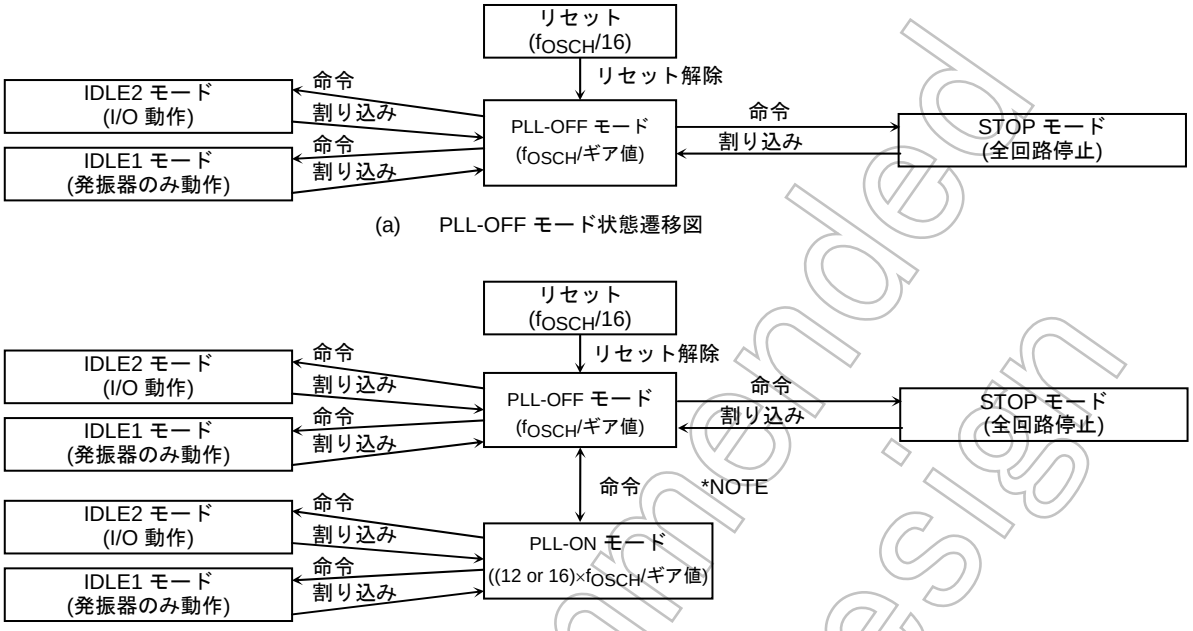
この章は下記に示すような構成になっています。

3.4.1 システムクロック系統ブロック図
3.4.2 SFR説明
3.4.3 システムクロック制御部
3.4.4 クロック逓倍回路 (PLL)
3.4.5 ノイズ低減回路
3.4.6 スタンバイ制御部

Not Recommended for New Design

クロックの動作モードとしては、PLL-OFF モード (X1、 X2 端子のみ) と PLL-ON モード (X1、X2 と PLL)の 2 モードがあります。

図 3.4.1に動作モード別状態遷移図を示します。



*注)

- PLL-ON モードから PLL-OFF モードに切り替える場合、次の設定に従ってください。
  1) CPU クロックの切り替え (PLLCR0<FCSEL> <- “0”)
  2) PLL 回路を停止 (PLLCR1<PLLON><-“0”)
- PLL-ON モードから STOP モードへの直接切り替えは出来ません。
  必ず一度 PLL-OFF モードに設定してから STOP モードに切り替えてください。

図 3.4.1 動作モード別状態遷移図

X1、X2 端子より入力されるクロック周波数を f_{OSCH}、 XT1、XT2 端子より入力されるクロック周波数を fs、SYSCR1<GEAR2:0>で選択したクロックをシステムクロック f_{SYS} と定義します。また、この f_{SYS} の 1 周期を 1 ステートと定義します。

Not Recommended for New Design

3.4.1 システムクロック系統ブロック図

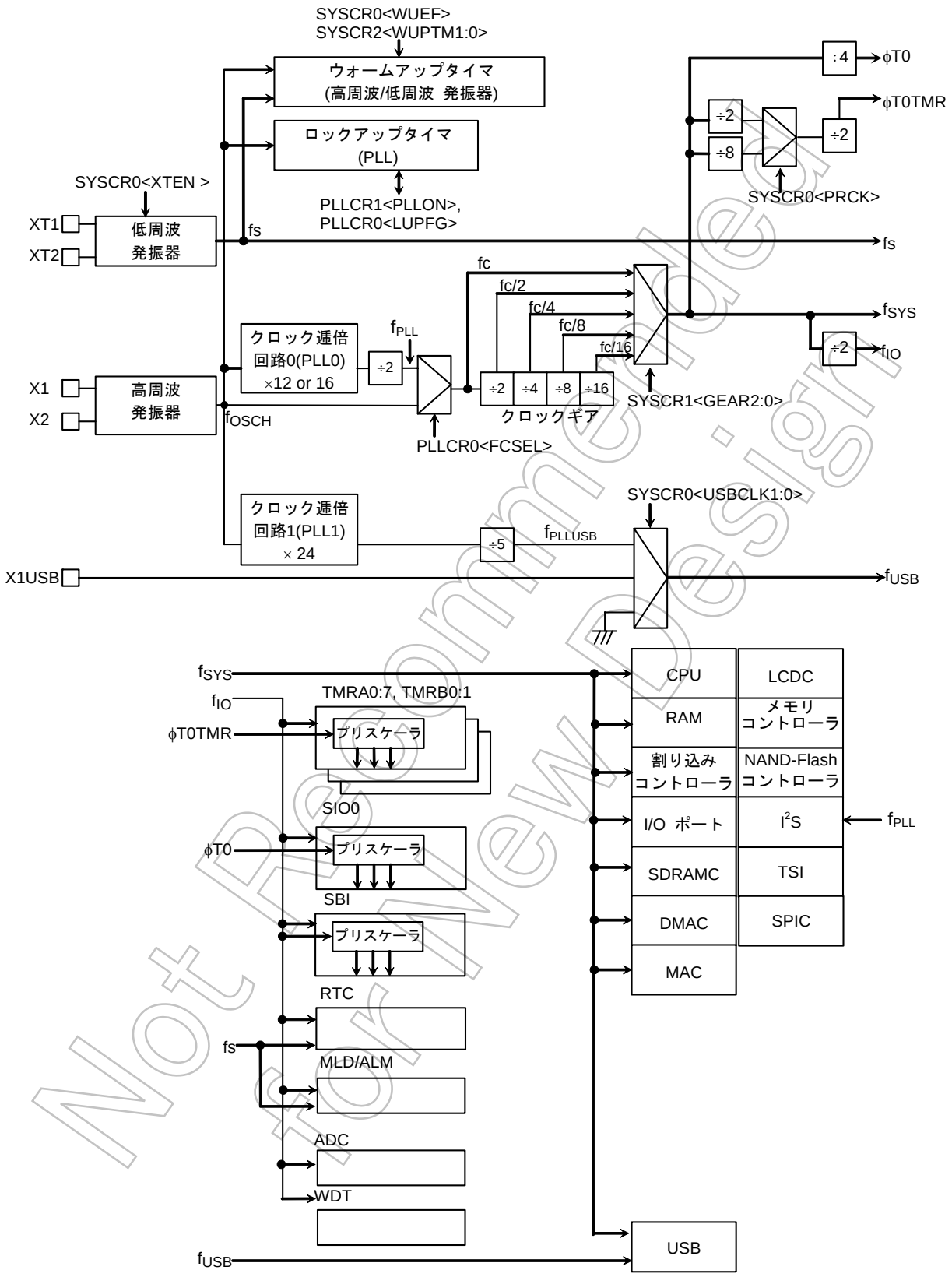


図 3.4.2システムクロック系統ブロック図

Not Recommended for New Design

TMP92CF29A では、CPU 専用(PLL0)と USB 専用(PLL1)の PLL 回路を 2 種類持っています。
各々の PLL は独立して制御することが可能です。
外部発振子の周波数は、6~10MHz です。10MHz 以上の発振子を接続しないでください。
また、外部の発振器を使ってクロックを入力する場合も、入力周波数範囲は 6~10MHz です。
10MHz を超えるクロックを入力しないでください。

表 3.4.1 f_{OSCH} 用設定例

	高周波発振: f_{OSCH}	システムクロック: f_{SYS}	システムクロック: f_{SYS}	USB クロック: f_{USB}
(a) USB 必要 PLL あり (PLL0 ON/PLL1ON)	10.0 MHz	最大 80 MHz	最大 60 MHz	48 MHz
(b) USB 不要 PLL あり (PLL0 ON/PLL1OFF)	最大 10.0 MHz	最大 80 MHz	最大 60 MHz	–
(c) USB 不要 PLL なし(PLL0 OFF/PLL1OFF)	最大 10.0 MHz	最大 10 MHz	最大 10 MHz	–

注) USB を使用するときは、高周波発振子を 10.0MHz にしてください。

Not Recommended for New Design

3.4.2 SFR説明

		7	6	5	4	3	2	1	0
SYSCR0 (10E0H)	bit Symbol		XTEN	USBCLK1	USBCLK0		WUEF		PRCK
	Read/write		R/W				R/W		R/W
	リセット後		1	0	0		0		0
	機能		低速発振器 (fs) 0: 停止 1: 動作	USB クロック選択 (f_{USB}) 00: Disable 01: Reserved 10: $X1_{USB}$ 11: f_{PLLUSB}			ウォームアップタイマ 0: ライト don't care 注 3) 1: ライトスタートタイマ 0: リードウォームアップ終了 1: リードウォームアップ中		プリスケーラクロック選択 0: $f_{SYS}/2$ 1: $f_{SYS}/8$

		7	6	5	4	3	2	1	0
SYSCR1 (10E1H)	bit Symbol						GEAR2	GEAR1	GEAR0
	Read/write						R/W		
	リセット後						1	0	0
	機能						高周波のギア値選択(fc) 000: fc 001: fc/2 010: fc/4 011: fc/8 100: fc/16 101: Reserved 110: Reserved 111: Reserved		

		7	6	5	4	3	2	1	0
SYSCR2 (10E2H)	bit Symbol	ー	CKOSEL	WUPTM1	WUPTM0	HALTM1	HALTM0		
	Read/write	R/W							
	リセット後	0	0	1	0	1	1		
	機能	"0"をライトしてください。	CLKOUT 選択 0: f_{SYS} 1: fs	ウォームアップタイマ 00: Reserved 01: 2^8/入力周波数 10:2^{14}/入力周波数 11:2^{16}/入力周波数		HALT モード 00: Reserved 01: STOP モード 10: IDLE1 モード 11: IDLE2 モード			

注 1) SYSCR0<bit7><bit3><bit1>,SYSCR1<bit7:3>,SYSCR2<bit1:0>は不定値がリードされます。

注 2) 低速発振器はリセットにより発振許可となります。

注 3) ウォームアップ中に SYSCR0<WUEF>に "0"をライトすると、ウォームアップ終了フラグは立ちませんので、ウォームアップ中は SYSCR0 レジスタはライトしないでください。(ウォームアップ中は SYSCR0 のリードモディファイライトは禁止です。)

図 3.4.3 システムクロック関係 SFR

Not Recommended for New Design

		7	6	5	4	3	2	1	0
EMCCR0 (10E3H)	bit Symbol	PROTECT				–	EXTIN	DRVOSCH	DRVOSCL
	Read/Write	R				R/W			
	リセット後	0				0	0	1	1
	機能	プロテクトフラグ 0: OFF 1: ON				“0” をライトしてください。	1: fc 外部クロック	fc 発振器ドライブ能力 1: Normal 0: Weak	fs 発振器ドライブ能力 1: Normal 0: Weak
EMCCR1 (10E4H)	bit Symbol	下記 1ST-KEY,2ND-KEY のライトによりプロテクト ON/OFF 切り替わり 1ST-KEY: EMCCR1=5AH,EMCCR2=A5H を連続ライト 2ND-KEY: EMCCR1=A5H,EMCCR2=5AH を連続ライト							
	Read/Write								
	リセット後								
	機能								
EMCCR2 (10E5H)	Bit symbol								
	Read/Write								
	リセット後								
	機能								

注1) STOP モードから発振を開始する時など、発振停止から発振を再起動する場合は、EMCCR0<DRVOSCH>,<DRVOSCL>を “1”に設定してください。

注2) 外部発振子を使用する場合、EMCCR0<EXTIN> = “1”に設定しないでください。

図 3.4.4 システムクロック関係 SFR

Not Recommended for New Design

PLLCR0 (10E8H)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol		FCSEL	LUPFG					
Read/Write		R/W	R					
リセット後		0	0					
機能		fc クロック選択 0: f_{OSCH} 1: f_{PLL}	ロックアップタイマ状態フラグ 0: not end 1: end					

注) PLLCR0<LUPFG>の論理は 900/L1 の DFM と異なるので注意してください。

PLLCR1 (10E9H)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	PLL0	PLL1	LUPSEL					PLLTIMES
Read/Write	R/W							R/W
リセット後	0	0	0					0
機能	CPU 用 PLL0 0: Off 1: On	USB 用 PLL1 0: Off 1: On	ロックアップカウンタ段数選択 0: 12 段 (PLL0 用) 1:13 段 (PLL1 用)					PLL 逓倍数選択 0: × 12 1: × 16

図 3.4.5 PLL 関係 SFR

PxDR (xxxxH)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	Px7D	Px6D	Px5D	Px4D	Px3D	Px2D	Px1D	Px0D
Read/Write	R/W							
システムリセット後	1	1	1	1	1	1	1	1
Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–
機能	スタンバイモードの入出力バッファドライブレジスタ							

(使用目的と使用方法)

- このレジスタはスタンバイモード時の、各々のピンの状態を設定します。
- すべてのポートはそれぞれ、上記フォーマットと同等のレジスタを持っています。(“X”はポート名を意味します。)
- 各レジスタの詳細については 3.7 章の「ポート機能」を参照してください。
- “HALT” 命令前に期待するピンの状態を各レジスタに設定してください。CPU が “HALT”命令を実行後にイネーブルとなります。
- 3 種類あるスタンバイモードの全てで有効になります。(IDLE2,IDLE1 または STOP モード)
- PMC 機能仕様時も有効となります。詳細は PMC の章を参照してください。

入出力の状態を以下の表に示します。

OE	PxnD	出力バッファ	入力バッファ
0	0	OFF	OFF
0	1	OFF	ON
1	0	OFF	OFF
1	1	ON	OFF

注 1) OE はスタンバイモード前の出力イネーブル信号を意味しています。基本的に PxCR は OE として使用されます。

注 2) PxnD の“n” は PORTx のビット番号を意味しています。

図 3.4.6 ドライブレジスタ関係 SFR

Not Recommended for New Design

3.4.3 システムクロック制御部

システムクロック制御部は、CPU コアおよび内蔵 I/O へ供給されるシステムクロック (f_{SYS}) を生成する回路です。SYSCR0<XTEN>で低速発振器の発振制御、fc クロックを入力として SYSCR1<GEAR2:0>で高速クロックのギアを 1、2、4、8、16 段 (fc、fc/2、fc/4、fc/8、fc/16) に切り替え、消費電力の低減を図ることができます。

リセットにより、PLL-OFF モードになり <XTEN> = "1"、<GEAR2:0> = "100" に初期化されますのでシステムクロック f_{SYS} は fc/16 となります。例えば、X1、X2 端子に 10MHz の発振子を接続していると、リセットにより f_{SYS} は 625kHz となります。

(1) クロックギアコントローラ

システムクロック f_{SYS} をクロックギア選択レジスタ SYSCR1<GEAR2:0> により fc、fc/2、 fc/4、 fc/8、 fc/16 のいずれかに設定できます。クロックギアを使用して f_{SYS} を切り替えることにより、消費電力の低減が図れます。

下記に、クロックギアの切り替え例を示します。

(設定例)

高速クロックのギア切り替え

```
SYSCR1      EQU     10E1H

            LD      (SYSCR1),XXXXX001B    ;   システムクロック fSYS を fc/2 へ切り替え
            LD      (DUMMY),00H               ダミー命令
X: don't care
```

(高速クロックギア切り替え時の注意点)

クロックギアの切り替えは、設定例のように SYSCR1<GEAR2:0>レジスタへ値を書き込むことにより実行されますが、書き込んだ後、すぐには切り替らず数クロックの実行時間が必要となります。よって、クロックギア切り替え命令の次の命令は、切り替え前のクロックギアで実行する場合があります。クロックギア切り替え命令の次の命令から切り替え後のクロックで実行すべき場合は、下記例のようなダミーの命令 (ライトサイクルが実行される命令) を挿入してください。

```
(例)
SYSCR1      EQU     10E1H
            LD      (SYSCR1),XXXXX010B    ;   fSYS を fc/4 へ切り替え
            LD      (DUMMY),00H           ;   ダミー命令
                    切り替え後のクロックギア
                    で実行すべき命令
```

Not Recommended for New Design

3.4.4 クロック逓倍回路 (PLL)

PLL0 は f_{OSCH} の 12 または 16 倍となる、f_{PLL} クロック信号を出力します。これにより発振器の周波数は低く、内部クロックは高速にすることが可能です。

リセットにより PLL0 は停止状態に初期化されますので PLL0 を使用する場合は PLLCR0、PLLCR1 レジスタへの設定が必要です。

この回路は発振器のように動作許可後に安定させる時間を必要とし、それをロックアップタイムといいます。この時間を確認するために 12 段のバイナリカウンタがあります。ロックアップタイムは f_{OSCH} = 10MHz の場合で約 0.41ms です。また、USB 専用の PLL(PLL1)も内蔵しています。PLL1 用には 13 段のバイナリカウンタが用意されており、ロックアップタイムは f_{OSCH} = 10MHz の場合で約 0.82ms です。

注 1) PLL 用入力周波数の制限
PLL 用の入力周波数の限界(高速発振器)は次のとおりです。
f_{OSCH} = 6 ~10 MHz (Vcc = 1.4 ~1.6V)

注 2) PLLCR0<LUPFG>
PLLCR0<LUPFG>の論理は 900/L1 の DFM とは異なります。
ロックアップ終了の判断は注意してください。

注 3) PLLCR1<PLL0>, PLLCR1<PLL1>
PLL0 と PLL1 の ON は同時に行えません。
両方 ON する場合は、片方のロックアップ終了を確認後、もう片方の PLL を ON してください。

表 3.4.2はf_{OSCH} =10MHzの場合の、PLLとクロックギア使用によるf_{SYS}周波数です。

表 3.4.2 f_{OSCH} =10MHz の場合の f_{SYS} 周波数

f_{OSCH}	f_{PLL}	f_{SYS} 周波数				
		fc	fc/2	fc/4	fc/8	fc/16
10MHz	f_{OSCH} 10MHz	10MHz	5MHz	2.5MHz	1.25MHz	625kHz
	×12 120MHz	60MHz	30MHz	15MHz	7.5MHz	3.75MHz
	×16 160MHz	80MHz	40MHz	20MHz	10MHz	5MHz

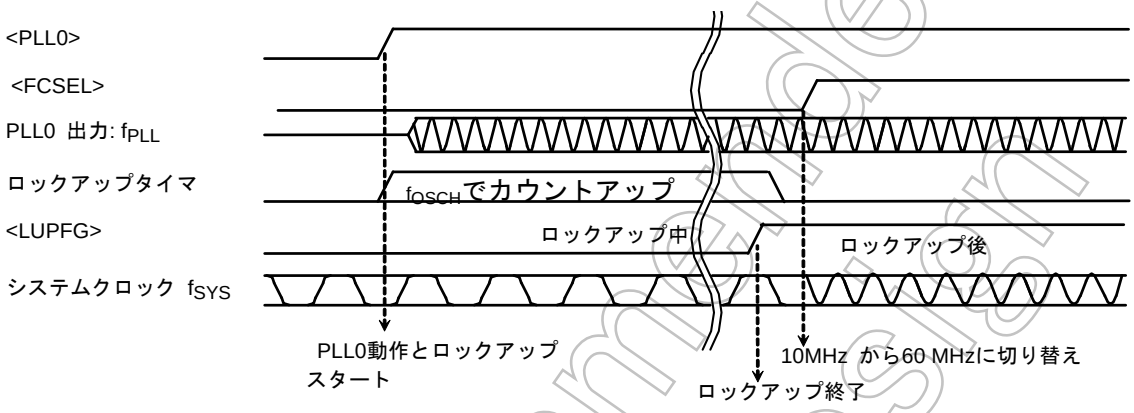
Not Recommended for New Design

以下は PLL0 スタートと PLL0 ストップの設定例です。

(設定例-1) PLL0 スタート

```
PLLCR0      EQU     10E8H
PLLCR1      EQU     10E9H
            LD      (PLLCR1),1XXXXXXXXB     ;   PLL0 動作とロックアップスタートをイネーブル
LUP:        BIT     5,(PLLCR0)              ;
            JR      Z,LUP                   ;   ロックアップの終了を検出
            LD      (PLLCR0), X1XXXXXXB     ;   10 MHz から 60 MHz に切り替え
```

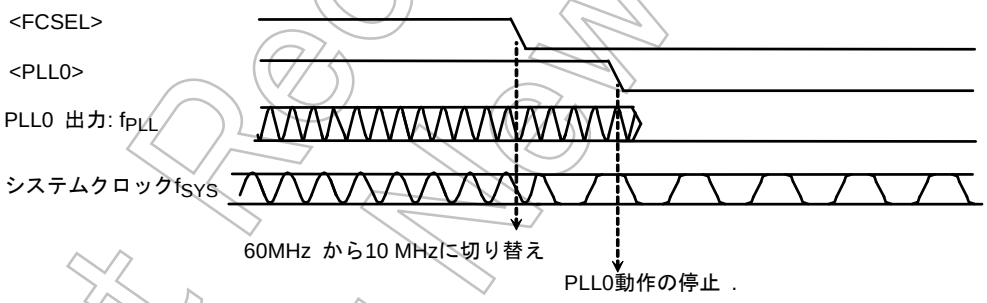
X: Don't care



(設定例-2) PLL0 ストップ

```
PLLCR0      EQU     10E8H
PLLCR1      EQU     10E9H
            LD      (PLLCR0),X0XXXXXXB      ;   60 MHz から 10 MHz に切り替え
            LD      (PLLCR1),0XXXXXXXB      ;   PLL0 停止
```

X: Don't care



注) PLL1 の場合も同様となります。

Not Recommended for New Design

PLL0 の使用制限

1. PLL0 使用中に PLL の動作を停止する場合、次の設定に従ってください。

```
        LD      (PLLCR0),X0XXXXXXB      ;  クロック fPLL を fOSCH に切り替えてください。
        LD      (PLLCR1),0XXXXXXXB      ;  PLL0 を停止させてください。
```

X: Don't care

2. PLL 使用中に STOP モードに切り替える場合、次の設定に従ってください。

```
        LD      (SYSCR2),XXXX01XXB      ;  STOP モードを設定
        LD      (PLLCR0), X0XXXXXXB     ;  システムクロック fPLL を fOSCH に切り替え
        LD      (PLLCR1), 0XXXXXXXB     ;  PLL0 停止
        HALT                            ;  STOP モードに切り替え
```

X: Don't care

設定例は以下のとおりです。

(1) スタートアップ/切り替えの コントロール

(OK) 高速発振器動作モード (f_{OSCH})→ PLL0 スタートアップ→ PLL0 使用モード (f_{PLL})

```
        LD      (PLLCR1), 1XXXXXXXB     ;  PLL0 スタートアップ/ロックアップ、スタートします。
LUP:    BIT     5,(PLLCR0)              ;
        JR      Z,LUP                   ;  ロックアップの終了のフラグをチェックします。
        LD      (PLLCR0), X1XXXXXXB     ;  システムクロック fOSCH を fPLL に切り替えます。
```

X: Don't care

(2) 切り替え/ 停止のコントロール

(OK) PLL0 使用モード (f_{PLL}) →高速発振器動作モード(f_{OSCH}) → PLL0 停止

```
        LD      (PLLCR0),X0XXXXXXB      ;  クロック fPLL を fOSCH に切り替えてください。
        LD      (PLLCR1),0XXXXXXXB      ;  PLL0 を停止させてください。
```

X: Don't care

(OK) PLL0 使用モード (f_{PLL}) →STOP モードに設定
→高速発振器動作モード (f_{OSCH}) → PLL 停止→ ホルト(高速発振器停止)

```
        LD      (SYSCR2),XXXX01XXB      ;  STOP モードを設定します。
                                        ;  (この設定は PLL0 使用前に設定しておいても有効です)
        LD      (PLLCR0),X0XXXXXXB      ;  クロック fPLL を fOSCH に切り替えてください。
        LD      (PLLCR1),0XXXXXXXB      ;  PLL0 を停止させてください。
        HALT                            ;  STOP モードに遷移します。
```

X: Don't care

(NG) PLL0 使用モード (f_{PLL}) →STOP モードに設定→ ホルト(高速発振器停止)

```
        LD      (SYSCR2),XXXX01XXB      ;  STOP モードを設定します。
                                        ;  (この設定は PLL0 使用前に設定しておいても有効です)
        HALT                            ;  STOP モードに遷移します。
```

X: Don't care

Not Recommended for New Design

3.4.5 ノイズ低減回路

EMI (不要輻射ノイズ) の低減、EMS (耐ノイズ対策) の強化を目的として、以下のような特長を実現する回路を内蔵しています。

(1) 高速発振器のドライブ能力低減

(2) 低速発振器のドライブ能力低減

(3) 高速発振器のシングルドライブ化

(4) SFR プロテクトレジスタによる暴走対策

これらは、EMCCR0- EMCCR2 レジスタによる設定が必要です。

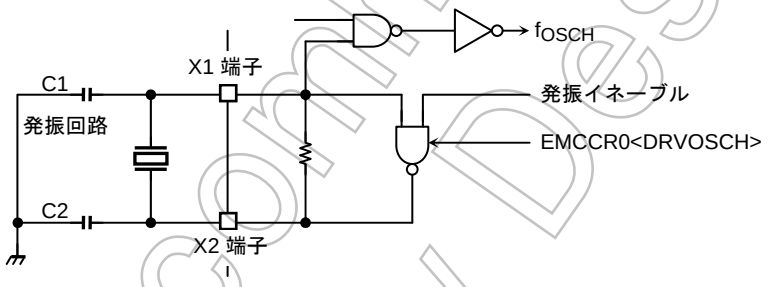
以下に(1)~(4)について説明します。

(1) 高速発振器のドライブ能力低減

(目　的)

外部に発振子を接続する場合に、発振器から出力される発振ノイズの抑制、発振器の低消費電力化を図ります。

(ブロック図)



(設定方法)

EMCCR0<DRVOSCH>に“0”をライトすることにより発振器のドライブ能力は低減します。リセットにより、<DRVOSCH>は“1”に初期化されますので、電源投入時はノーマルのドライブ能力で発振開始します。

注) この機能(EMCCR0<DRVODCH>=“0”)は、f_{OSCH} = 6 ~ 10MHz の状態で使用可能になります。

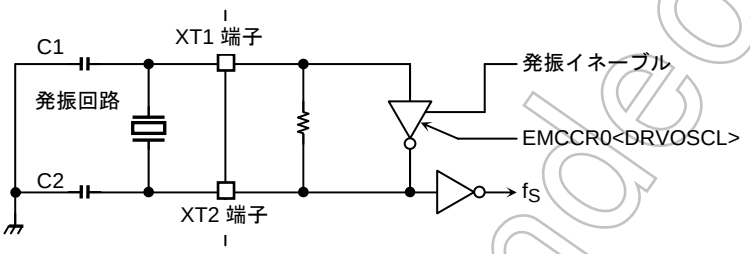
Not Recommended for New Design

(2) 低速発振器のドライブ能力低減

(目　的)

外部に発振子を接続する場合に、発振器から出力される発振ノイズの抑制、発振器の低消費電力化を図ります。

(ブロック図)



(設定方法)

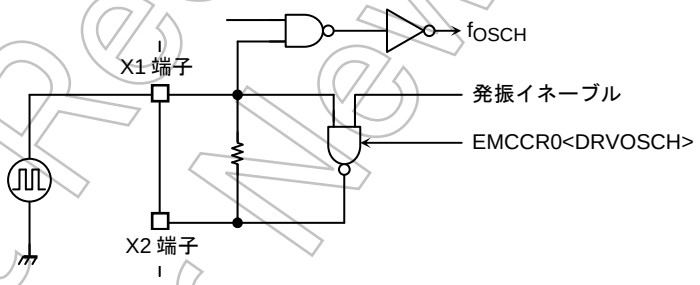
EMCCR0<DRVOSCL>に“0”をライトすることにより発振器のドライブ能力は低減します。リセットにより、<DRVOSCL>は “1” に初期化されますので、電源投入時はノーマルのドライブ能力で発振開始します。

(3) 高速発振器のシングルドライブ化

(目　的)

外部に発振器を接続する場合に、ツインドライブの不要化、X2 端子解放時にノイズ混入による誤動作を防止します。

(ブロック図)



(設定方法)

EMCCR0<EXTIN>に “1” をライトすることにより、発振回路は発振禁止となり、バッファとして機能を開始します。X2 端子は “1” を出力状態となります。

リセットにより、<EXTIN>は“0”に初期化されます。

注) 外部発振子を使用する場合、EMCCR0<EXTIN> = “1”に設定しないでください。

Not Recommended for New Design

(4) SFR プロテクトレジスタによる暴走対策

(目的)

ノイズ混入などによるプログラムの暴走時の対策です。

暴走時の対策プログラムがクロックの停止、メモリ制御レジスタ (メモリコントローラ、MMU) の変更などによりフェッチ不可能な状態になることを防止するため、プロテクトをかけると特定の SFR をライト動作禁止にします。

また、INTP0 割込みにより暴走時のエラー処理を容易にします。

特定の SFR 一覧

1. メモリコントローラ
   B0CSL/H 、 B1CSL/H 、 B2CSL/H 、 B3CSL/H 、 BECSL/H
   MSAR0、 MSAR1、 MSAR2、 MSAR3、
   MAMR0、MAMR1、MAMR2、MAMR3、PMEMCR、
   MEMCR0、CSTMGCR、WRTMGCR、RDTMGCR0、
   RDTMGCR1、BROMCR
2. MMU
   LOCALPX/PY/PZ、 LOCALLX/LY/LZ、
   LOCALRX/RY/RZ、 LOCALWX/WY/WZ、
   LOCALESX/ESY/ESZ、LOCALEDX/EDY/EDZ、
   LOCALOSX/OSY/OSZ、LOCALODX/ODY/ODZ
3. クロックギア
   SYSCR0、 SYSCR1、 SYSCR2、 EMCCR0
4. PLL
   PLLCR0、 PLLCR1
5. PMC
   PMCCTL

(動作説明)

EMCCR1 と EMCCR2 レジスタに 2 重の鍵を設定する事によりプロテクト(特定の SFR へのライト動作)の実行、解除が可能となります。

(2 重の鍵)

1st-KEY： EMCCR2 に 5AH、 EMCCR2 に A5H を連続ライト

2nd-KEY： EMCCR2 に A5H、 EMCCR2 に 5AH を連続ライト

プロテクトの状態は、EMCCR0<PROTECT>をリードすることにより確認できます。

リセットにより、プロテクト OFF 状態となります。

また、プロテクト ON 状態にて特定の SFR へのライト動作が実行された場合に INTP0 割込みを出力します。これにより暴走時のエラー処理を容易にします。

Not Recommended for New Design

3.4.6 スタンバイ制御部

(1) HALT モードと ドライブレジスタモード

HALT 命令を実行すると、SYSCR2 <HALTM1:0>の設定により、IDLE2、IDLE1、STOP のいずれかの HALT モードになります。また、各ポート端子の状態はドライブレジスタ PxDR の内容に応じてセットされます。

PxDR (xxxxH)		7	6	5	4	3	2	1	0
	bit symbol	Px7D	Px6D	Px5D	Px4D	Px3D	Px2D	Px1D	Px0D
	Read/Write	R/W							
	システム リセット後	1	1	1	1	1	1	1	1
	Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–
	機能	スタンバイモードの入出力バッファドライブレジスタ							

(使用目的と使用方法)

- このレジスタはスタンバイモード時の、各々のピンの状態を設定します。
- すべてのポートはそれぞれ、上記フォーマットと同等のレジスタを持っています。(“X”はポート名を意味します。)
- 各レジスタの詳細については 3.7 章の「ポート機能」を参照してください。
- “HALT” 命令前に期待するピンの状態を各レジスタに設定してください。CPU が “HALT”命令を実行後にイネーブルとなります。
- 3 種類あるスタンバイモードの全てで有効になります。(IDLE2,IDLE1 または STOP モード)
- PMC 機能仕様時も有効となります。詳細は PMC の章を参照してください。

入出力の状態を以下の表に示します。

OE	PxnD	出力バッファ	入力バッファ
0	0	OFF	OFF
0	1	OFF	ON
1	0	OFF	OFF
1	1	ON	OFF

注 1) OE はスタンバイモード前の出力イネーブル信号を意味しています。基本的に PxCR は OE として使用されます。

注 2) PxnD の“n” は PORTx のビット番号を意味しています。

各モードで動作するブロックを以下に示します。

(a) IDLE2 ：CPUのみ停止するモードです。
内蔵I/Oは、SFRの中にIDLE2 モード時の動作/停止設定レジスタを 1 ビット持ちIDLE2 モードでの動作設定が可能です。

表 3.4.3にIDLE2 設定レジスタの表を示します。

表 3.4.3 IDLE2 モードでの内蔵 I/O 設定レジスタ

内部 I/O	SFR
TMRA01	TA01RUN<I2TA01>
TMRA23	TA23RUN<I2TA23>
TMRA45	TA45RUN<I2TA45>
TMRA67	TA67RUN<I2TA67>
TMRB0	TB0RUN<I2TB0>
TMRB1	TB1RUN<I2TB1>
SIO0	SC0MOD1<I2S0>
SBI	SBIBR0<I2SBI>
A/D converter	ADMOD1<I2AD>
WDT	WDMOD<I2WDT>

(b) IDLE1 ：内部発振器と RTC、MLD のみ動作します。

(c) STOP ：すべての内部回路が停止します。

Not Recommended for New Design

ホルト状態での各ブロックの動作を 表 3.4.4 に示します。

表 3.4.4 I/O ホルト状態での各ブロックの動作

<table>
<tr><th colspan="2">HALT モード</th><th>IDLE2</th><th>IDLE1</th><th>STOP</th></tr>
<tr><td colspan="2">SYSCR2 <HALTM1:0></td><td>11</td><td>10</td><td>01</td></tr>
<tr><td rowspan="8">Block</td><td>CPU,MAC</td><td colspan="3">停止</td></tr>
<tr><td>I/O ポート</td><td colspan="3">PxDR レジスタ設定に依存</td></tr>
<tr><td>TMRA、TMRB</td><td rowspan="4">動作するブロックを選択することに利用可能</td><td colspan="2" rowspan="5">停止</td></tr>
<tr><td>SIO,SBI</td></tr>
<tr><td>A/D コンバータ</td></tr>
<tr><td>WDT</td></tr>
<tr><td>I²S、LCDC、SDRAMC、割り込みコントローラ, SPIC, DMAC, NDFC USBC</td><td colspan="2" rowspan="2">動作</td></tr>
<tr><td>RTC、MLD</td><td>動作</td></tr>
</table>

(2) ホルト状態からの解除

ホルト状態からの解除は、割り込み要求、または、リセットにより行うことができます。使用できるホルト解除ソースは、CPUのステータスレジスタSRに割り付けられている割り込みマスクレジスタ<IFF2:0> の状態と、HALTモードの組み合わせにより決まります。詳細を 表 3.4.5に示します。

- 割り込み要求による解除

割り込み要求によるホルト状態からの解除動作は､割り込み許可状態により異なります。“HALT” 命令実行前に設定されている割り込み要求レベルが割り込みマスクレジスタの値以上であれば、ホルト解除後、その要因による割り込み処理を行い、 “HALT” 命令の次の命令から処理をスタートします｡割り込み要求レベルが割り込みマスクレジスタの値より小さい場合はホルト解除を行いません (ノンマスカブル割り込みでは、マスクレジスタの値に関係なくホルト解除後、割り込み処理を行います)。

ただし、INT0~INT5、INT6、INT7(非同期割り込み設定時)、INTKEY、 INTRTC、INTALM 割り込みに限り、割り込み要求レベルが割り込みマスクレジスタの値より小さい場合でも、ホルト状態からの解除を行うことができます。この場合、割り込み処理は行わず HALT 命令の次の命令から処理をスタートします (割り込み要求フラグは“1”を保持します)。

- リセットによる解除

リセットにより、すべてのホルト状態からの解除を行うことができます。

ただし STOP モードの解除では、発振器動作が安定するための十分なリセット時間が必要です。

リセットによる解除では､内蔵 RAM のデータはホルト状態に入る直前の状態を保持できますが、その他の設定は初期化されます。(割り込みによる解除では、ホルト状態に入る直前の状態を保持します)

Not Recommended for New Design

表 3.4.5 ホルト解除ソースとホルト解除の動作

割り込み受付状態			割り込み許可 (割り込みレベル) ≥ (割り込みマスク)			割り込み禁止 (割り込みレベル) < (割り込みマスク)		
HALT モード			IDLE2	IDLE1	STOP	IDLE2	IDLE1	STOP
ホルト解除ソース	割り込み	INTWDT	◎	×	×	–	–	–
		INT0 ~ INT5 (注 1) INTKEY	◎	◎	◎ *1	○	○	○ *1
		INTUSB	◎	◎ *2	×	○	○ *2	×
		INT6 ~ INT7(PORT) (注 1)	◎	◎	◎ *1	○	○	○ *1
		INT6 ~ INT7(TMRB)	◎	×	×	×	×	×
		INTALM, INTRTC	◎	◎	×	○	○	×
		INTTA0 ~ INTTA7, INTTP0 INTTB00 ~ INTTB01, INTTB10 ~ INTTB11 INTRX,INTTX, INTSBI INTI2S0, INTLCD, INTAD, INTADHP INTSPIRX, INTSPITX INTRSC, INTRDY INTDMA0 ~ INTDMA5	◎	×	×	×	×	×
	RESET		LSI を初期化します。					

◎: ホルト解除後、割り込み処理を開始します。(RESET はマイクロコントローラを初期化します。)

○: ホルト解除後、HALT 命令の次の番地から処理を開始します。

×: ホルト解除に使うことができません。

–: ノンマスカブル割り込みの優先順位レベル (割り込み要求レベル) は最優先の “7” に固定されているため、この組み合わせはありません。

*1: ウォームアップ時間経過後にホルト解除を行います。

*2: USB で準備されている、24 種類の割込みの内、(USBINTFR1)レジスタの 6 種類の割込みは、IDLE1 モードからホルト解除が可能です。そのため、より低消費電力のシステムを構築することが可能です。ただし、その使用方法は以下に限られます。

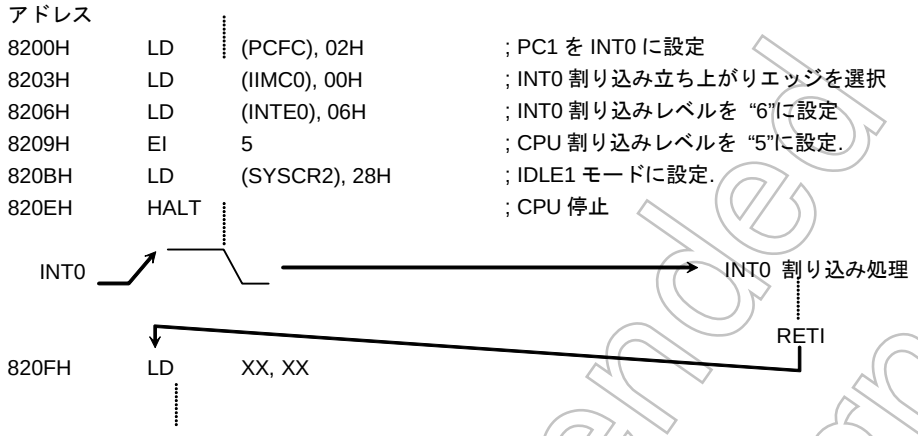
- IDLE1 へ移行
  INT_SUS または INT_CLKSTOP フラグが “1” (SUSPEND 状態) の状態から、HALT 命令実行
- IDLE1 から復帰
  INT_RESUME または INT_CLKON 要求 (SUSPEND 解除要求)での、ホルト解除
  INT_URST_STR または INT_URST_END 要求 (RESET 要求)での、ホルト解除

注) 割り込み許可状態において、レベルモードの INT0 割り込みによるホルト解除を行う場合、割り込み処理が開始されるまで “H” レベルを保持してください。それ以前で “L” レベルにした場合は、正しい割り込み処理を開始できません。

Not Recommended for New Design

(IDLE1 モードの解除例)

IDLE1 モードのホルト状態をエッジモードの INT0 割り込みにより解除する場合。



Not Recommended for New Design

(3) 各モードの動作

(a) IDLE2 モード

IDLE2 モードでは、各内蔵 I/O の SFR 中にある IDLE2 設定レジスタで指定した内蔵 I/O のみ動作し、CPU の命令実行動作は停止します。

IDLE2モードの割り込みによるホルト解除のタイミング例を図 3.4.7に示します。

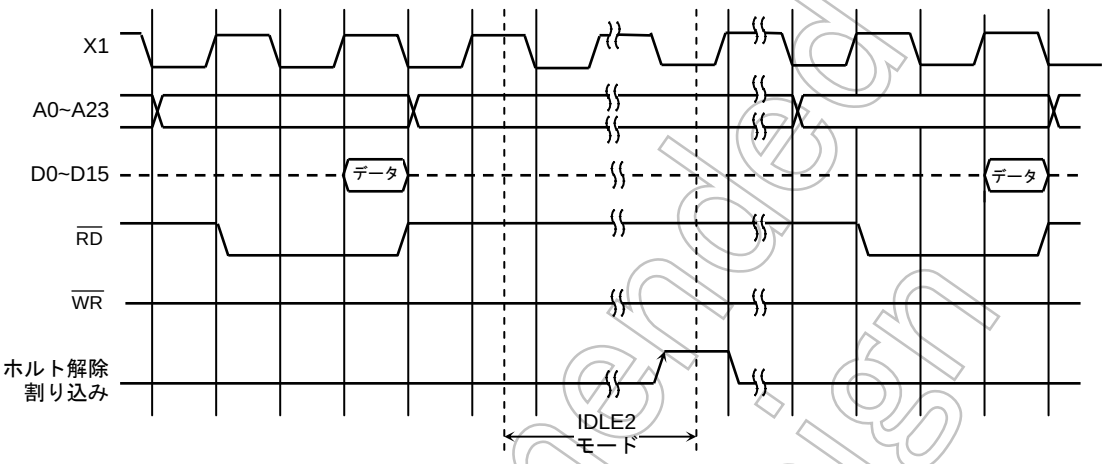


図 3.4.7 割り込みによるホルト解除のタイミング例 (IDLE2 モード時)

(b) IDLE1 モード

IDLE1 モードでは、内部発振器と RTC、MLD のみ動作し、システムクロックは停止します。

ホルト状態での、割り込み要求のサンプリングは、システムクロックと非同期に行われますが、解除 (動作の再開) は同期して行われます。

IDLE1モードの割り込みによるホルト解除のタイミング例を図 3.4.8に示します。

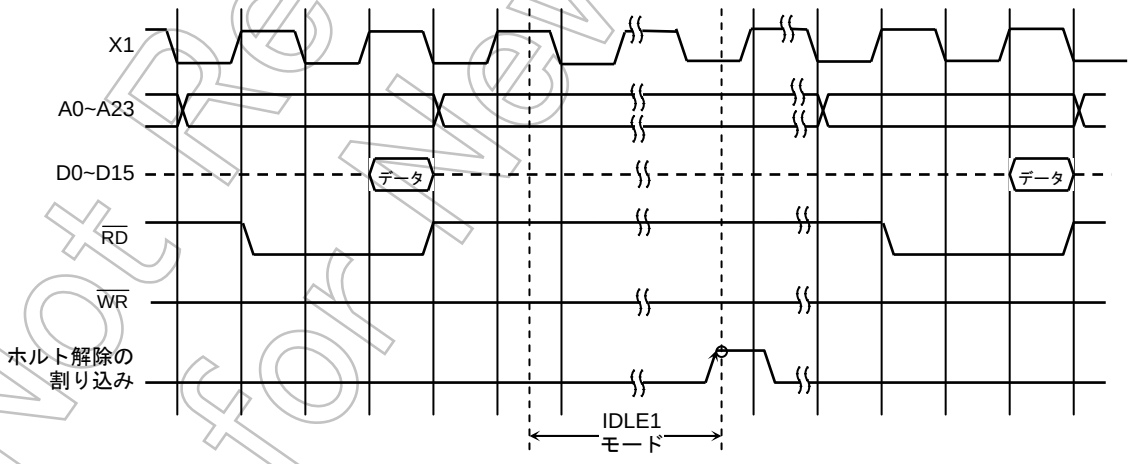


図 3.4.8 割り込みによるホルト解除のタイミング例 (IDLE1 モード時)

Not Recommended for New Design

(c) STOP モード

STOP モードでは、内部発振器も含めて、すべての内部回路が停止します。

STOPモードを解除する場合は、内部発振器の安定化のため、ウォームアップタイマによるウォームアップ時間経過後に、システムクロックの出力を開始します。図 3.4.9 に割り込みによるSTOPモードホルト状態の解除のタイミング例を示します。

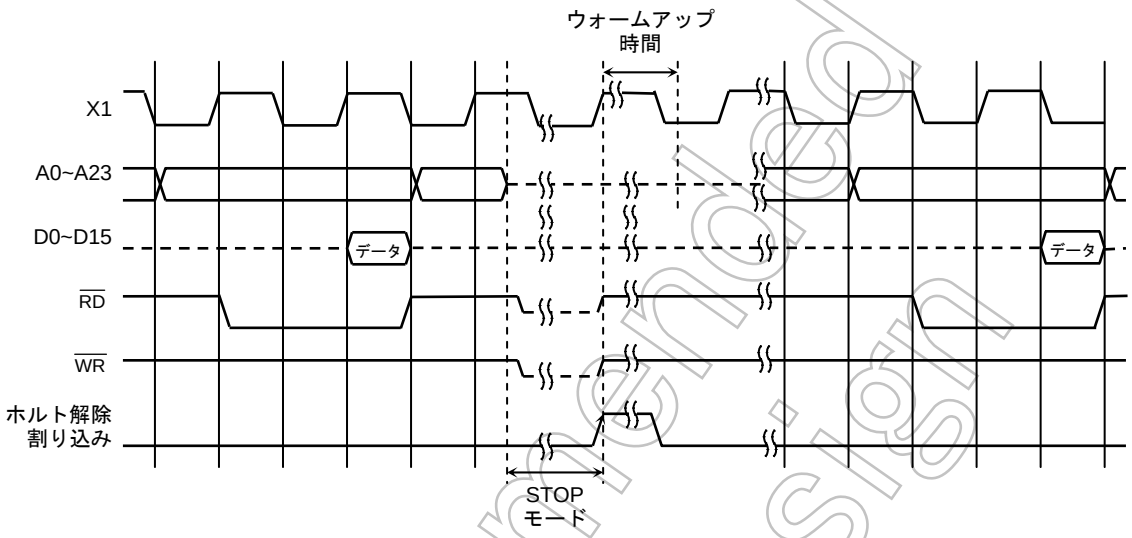


図 3.4.9　割り込みによるホルト解除のタイミング例 (STOP モード時)

表 3.4.6 ウォームアップ時間の設定例 (STOP モード解除時)

@f_{OSCH} = 10 MHz

SYSCR2<WUPTM1:0>		
01 (2^8)	10 (2^{14})	11 (2^{16})
25.6 μs	1.6384 ms	6.5536 ms

Not Recommended for New Design

表 3.4.7　入力バッファ状態表 (16bit バスモード)

ポート名	入力 機能名	入力バッファ状態						
		リセット中	CPU 動作中		HALT 中　(IDLE2/1/STOP)			
					<PxDR>=1		<PxDR>=0	
			機能 設定時	入力ポート 設定時	機能 設定時	入力ポート 設定時	機能 設定時	入力ポート 設定時
D0-D7	D0-D7	OFF	外部リードで ON	–	OFF	–	OFF	–
P10-P17	D8-D15	16bit Start OFF Boot Start ON		ON		ON		OFF
P60-P67	–	16bit Start OFF Boot Start ON	–		–		–	
P71-P74	–	ON	–		–		–	
P75	NDR/$\overline{B}$		ON		ON		OFF	
P76	$\overline{WAIT}$							
P90	–		–		–		–	
P91	RXD0		ON		ON		OFF	
P92	$\overline{CTS0}$,SCLK0							
P96 *1	INT4							
P97	–		–		–		–	
PA0-PA7 *1	KI0-KI7		ON		ON		OFF	
PC0	INT0							
PC1	INT1,TA0IN							
PC2	INT2							
PC3	INT3,TA2IN							
PC4-PC7	–		–		–		–	
PF0-PF2	–							
PG0-PG2 PG4,PG5 *2	–	OFF	–	Port リードで ON	–	OFF	–	
PG3 *2	$\overline{ADTRG}$		ON		ON		ON	
PJ5-PJ6	–	ON	–	ON	–	ON	–	
PL0-PL7	–							
PN0-PN7	–							
PP3	INT5		ON		ON		OFF	
PP4	INT6,TB0IN0							
PP5	INT7,TB1IN0							
PR0	SPDI							
PR1-PR3	–		–		–		–	
PT0-PT7	–							
PV6-PV7	SDA,SCL		ON		ON		OFF	
PX5	X1USB							
D+, D-	–	常時 ON						
$\overline{RESET}$	–							
AM0,AM1	–							
$\overline{TEST}$	–							
X1,XT1	–				IDLE2/DLE1: ON			

ON：常時BufferがONしているため、入力端子がドライブされてないと
　　入力バッファに貫通電流が流れます。
OFF：常時BufferがOFFしています
－　：対象なし

*1：Pull-Up/Down抵抗付きポートです。
*2：AIN入力では貫通電流が流れません

Not Recommended for New Design

表 3.4.8　出力バッファ状態表(1/2) (16bit バスモード)

ポート名	出力 機能名	出力バッファ状態						
		リセット中	CPU 動作中		HALT 中　(IDLE2/1/STOP)			
					<PxDR>=1		<PxDR>=0	
			機能 設定時	出力ポート 設定時	機能 設定時	出力ポート 設定時	機能 設定時	出力ポート 設定時
D0-D7	D0-D7	OFF	外部ライトで ON	–	OFF	–	OFF	–
P10-P17	D8-D15	16bit Start　OFF Boot Start　OFF		ON		ON		OFF
P40-P47	A0-A7	ON	ON	ON	ON	ON	OFF	
P50-P57	A8-A15							
P60-P67	A16-A23	16bit Start　ON Boot Start　OFF						
P70	$\overline{RD}$	ON						
P71	$\overline{WRLL}$, $\overline{NDRE}$	OFF						
P72	$\overline{WRLU}$, $\overline{NDWE}$							
P73	EA24							
P74	EA25							
P75	R/ $\overline{W}$							
P76	–		–		–		–	
SP80	$\overline{CS0}$	ON	ON	ON	ON	ON	OFF	
P81	$\overline{CS1}$, $\overline{SDCS}$							
P82	$\overline{CS2}$, $\overline{CSZA}$, $\overline{SDCS}$							
P83	$\overline{CS3}$, $\overline{CSXA}$							
P84	$\overline{CSZB}$							
P85	$\overline{CSZC}$							
P86	$\overline{CSZD}$, $\overline{ND0CE}$							
P87	$\overline{CSXB}$, $\overline{ND1CE}$							
P90	TXD0	OFF						
P91	–		–		–		–	
P92	SCLK0		ON		ON		OFF	
P96	PX	OFF		–		–		–
P97	PY							
PC0-PC3	–		–	ON	–	ON	–	OFF
PC4	EA26		ON		ON		OFF	
PC5	EA27							
PC6	EA28							
PC7	KO8							
PF0	I2S0CKO							
PF1	I2S0DO							
PF2	I2S0WS							
PF7	SDCLK	ON						
PG2	MX	OFF		–		–		–
PG3	MY							
PJ0	$\overline{SDRAS}$, $\overline{SRLLB}$	ON		ON		ON		OFF
PJ1	$\overline{SDCAS}$, $\overline{SRLUB}$							
PJ2	$\overline{SDWE}$, $\overline{SRWR}$							
PJ3	SDLLDQM							
PJ4	SDLUDQM							
PJ5	NDALE	OFF						
PJ6	NDCLE							
PJ7	SDCKE	ON		ON		ON		OFF
PK0	LCP0							
PK1	LLOAD							
PK2	LFR							
PK3	LVSYNC							
PK4	LHSYNC							
PK5	LGOE0							
PK6	LGOE1							
PK7	LGOE2							
PL0-PL7	LD0-LD7	OFF						

Not Recommended for New Design

表 3.4.9　出力バッファ状態表(2/2) (16bit バスモード)

<table>
<tr><th rowspan="3">ポート名</th><th rowspan="3">出力
機能名</th><th colspan="8">出力バッファ状態</th></tr>
<tr><th rowspan="2">リセット中</th><th colspan="2">CPU 動作中</th><th colspan="4">HALT 中　(IDLE2/1/STOP)</th></tr>
<tr><th colspan="2"><PxDR>=1</th><th colspan="2"><PxDR>=0</th></tr>
<tr><th></th><th></th><th>機能
設定時</th><th>出力ポート
設定時</th><th>機能
設定時</th><th>出力ポート
設定時</th><th>機能
設定時</th><th>出力ポート
設定時</th></tr>
<tr><td>PM1</td><td>MLDALM,TA1OUT</td><td rowspan="3">ON</td><td rowspan="5">ON</td><td rowspan="15">ON</td><td rowspan="5">ON</td><td rowspan="15">ON</td><td rowspan="5">OFF</td><td rowspan="15">OFF</td></tr>
<tr><td>PM2</td><td>$\overline{\text{MLDALM}}$, $\overline{\text{ALARM}}$</td></tr>
<tr><td>PM7</td><td>PWE</td></tr>
<tr><td>PN0-PN7</td><td>KO0-KO7</td><td rowspan="3">OFF</td></tr>
<tr><td>PP3</td><td>TA7OUT</td></tr>
<tr><td>PP4-PP5</td><td>–</td><td>–</td><td>–</td><td>–</td></tr>
<tr><td>PP6</td><td>TB0OUT0</td><td rowspan="2">ON</td><td rowspan="2">ON</td><td rowspan="2">ON</td><td rowspan="2">OFF</td></tr>
<tr><td>PP7</td><td>TB1OUT0</td></tr>
<tr><td>PR0</td><td>–</td><td rowspan="5">OFF</td><td>–</td><td>–</td><td>–</td></tr>
<tr><td>PR1</td><td>SPDO</td><td rowspan="4">ON</td><td rowspan="4">ON</td><td rowspan="4">OFF</td></tr>
<tr><td>PR2</td><td>$\overline{\text{SPCS}}$</td></tr>
<tr><td>PR3</td><td>SPCLK</td></tr>
<tr><td>PT0-PT7</td><td>LD8-LD15</td></tr>
<tr><td>PV6</td><td>SDA</td><td rowspan="2">OFF</td><td rowspan="2">ON</td><td rowspan="2">ON</td><td rowspan="2">OFF</td></tr>
<tr><td>PV7</td><td>SCL</td></tr>
<tr><td>PX4</td><td>CLKOUT, LDIV</td><td>ON</td><td>ON</td><td>ON</td><td>OFF</td></tr>
<tr><td>PX5</td><td>–</td><td>OFF</td><td>–</td><td>–</td><td>–</td></tr>
<tr><td>D+, D-</td><td>–</td><td>OFF</td><td colspan="6">USBC 動作状態に依存し ON/OFF</td></tr>
<tr><td>X2</td><td>–</td><td colspan="5" rowspan="2">常時 ON</td><td>IDLE2/1:ON,
STOP: output “H”</td></tr>
<tr><td>XT2</td><td>–</td><td>IDLE2/1:ON,
STOP: output “HZ”</td></tr>
</table>

ON : 常時バッファがONしています。ただし、バス開放時は特定の端子の出力　*1 : Pull-Up/Down抵抗付きポートです。
バッファはOFFします。

OFF : 常時BufferがOFFしています

ー　: 対象なし

Not Recommended for New Design

3.5 ブートROM

ユーザプログラムをダウンロードするためのブート ROM を内蔵しています。
ダウンロードの方法として 2 種類に対応しています。

3.5.1 動作モード

本製品には MULTI、BOOT モードの 2 つの動作モードがあります。各モードは $\overline{\text{RESET}}$ がアサートされたときの AM1、AM0 端子の状態により設定されます。

(1) MULTI モード: リセット後、CPU は外部メモリから命令をフェッチし、実行します。

(2) BOOTモード: リセット後、CPUは内蔵ブートROMからの命令をフェッチし、実行します。内蔵ブートROMはUSB、またはUART通信によりユーザプログラムを内蔵RAMに転送した後、内蔵RAMに分岐します。
この動作によって、ユーザプログラムはブートを開始します。
表 3.5.2 はブート動作の概要を示しています。

表 3.5.1 動作モード

モード設定端子			動作モード	
$\overline{\text{RESET}}$	AM1	AM0		
↗	0	1	MULTI	外部 16 ビットバスメモリから開始
	1	0	TEST (設定禁止)	
	1	1	BOOT (内蔵ブート ROM から開始)	
	0	0	TEST (設定禁止)	

表 3.5.2 ブート動作の概要

名称	認識順	ロード			ロード後の動作
		転送元	I/F	転送先	
(a)	1	PC 等 UART	UART	内蔵 RAM	内蔵 RAM に分岐
(b)	2	PC 等 USB_HOST	USB		

Not Recommended for New Design

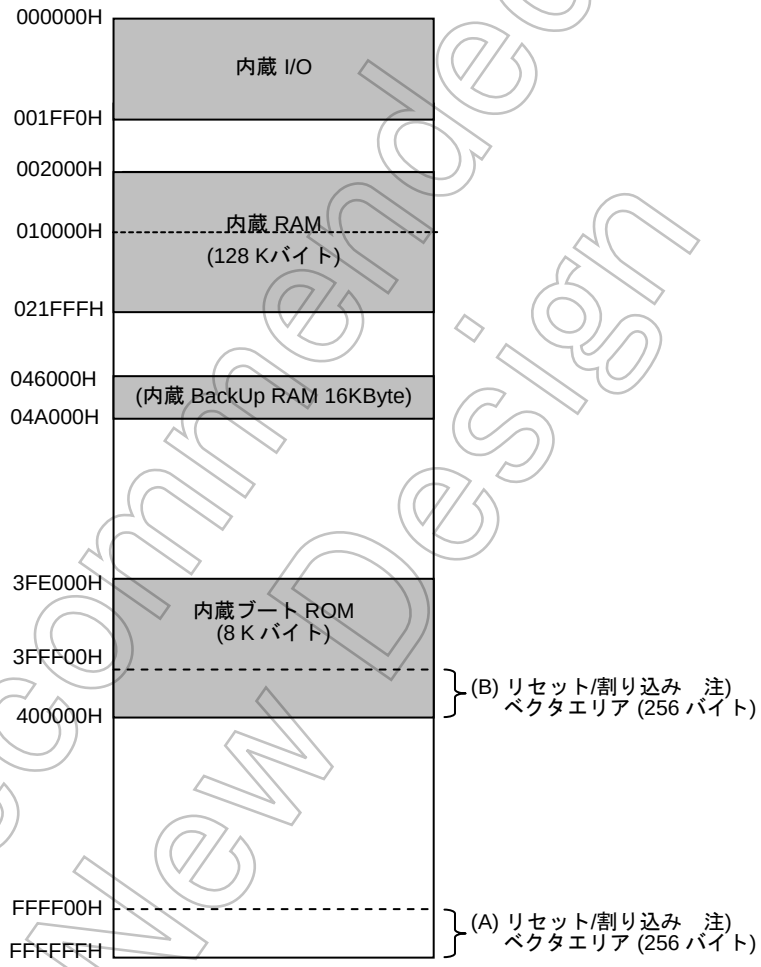
3.5.1 内蔵ブートROMのハードウエア仕様

(1) メモリマップ

図 3.5.1はBOOTモードのメモリマップを示します。

内蔵ブート ROM は、8 K バイト ROM で構成され、3FE000H~3FFFFFH アドレスにアサインされています。

MULTI モードでは、ブート ROM はアサインされなく上記エリアは外部エリアにアサインされます。



注) BROMCR<VACE> = “1” : (B) Boot 時
BROMCR<VACE> = “0” : (A) Multi モード時

図 3.5.1 BOOT モードのメモリマップ

(2) ブート ROM の排除機能

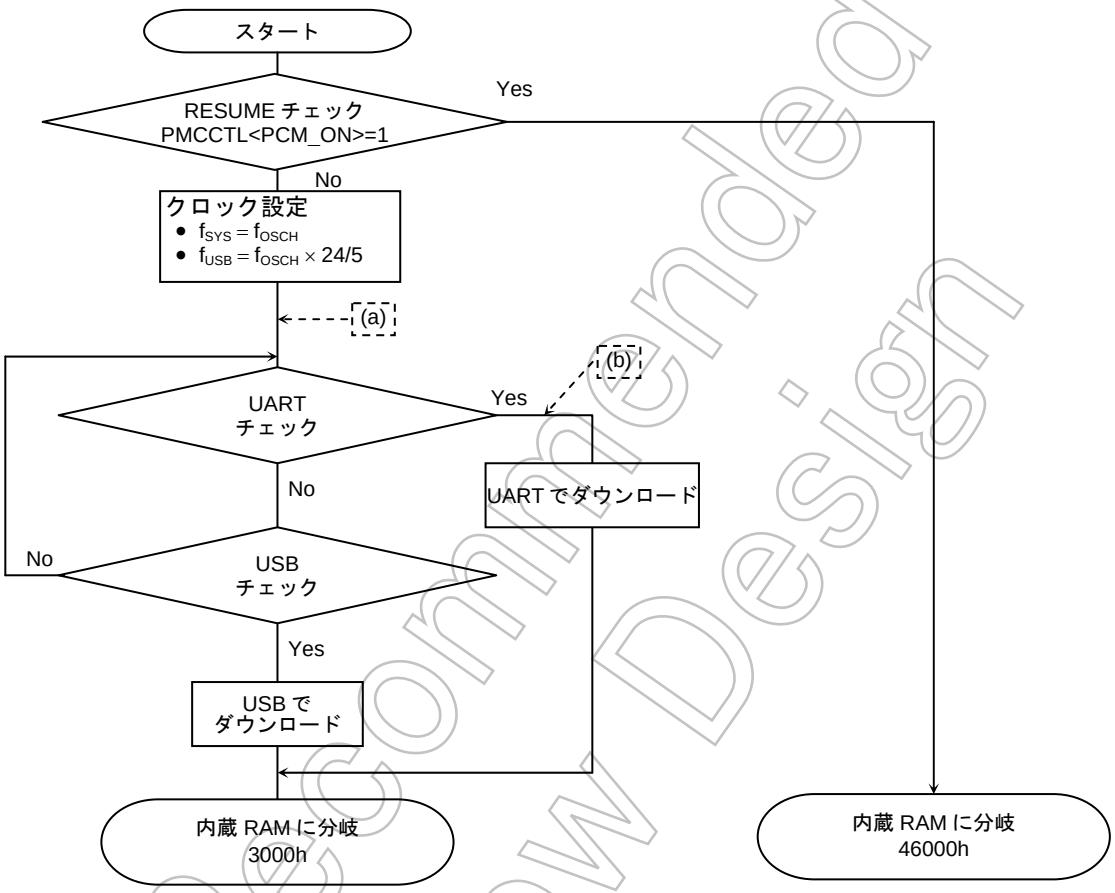
BOOT モードでブートシーケンス実行後、リセットをアサートすることなくアプリケーションシステムプログラムが動作を続けることがあります。この場合、Boot ROM の領域を外部領域に切り替えることも可能です。

Not Recommended for New Design

3.5.2 ブート動作の概要

ブート動作の転送元として UART、USB の 2 つから選択可能です。

リセット後、内蔵ブートROM上のブートプログラムは、図 3.5.2のようなフローチャートで動作します。いずれも転送元から内蔵RAMへユーザ プログラムを転送後、内蔵RAMへ分岐します。また、内蔵RAMの使用方法は転送元に関係なく共通であり 図 3.5.3に示します。



注 1)USB でダウンロードする場合、PC 上に専用の USB デバイスドライバ、アプリケーションソフトが必要となります。

注 2)UART でダウンロードする場合、PC 上に専用のアプリケーションソフトが必要となります。

注3) フローチャート中の(a)、(b)は外部ポート端子の設定を変更している部分を示します。
変更内容については 表 3.5.3 を参照してください。

図 3.5.2 内蔵ブート ROM のフローチャート概要

Not Recommended for New Design

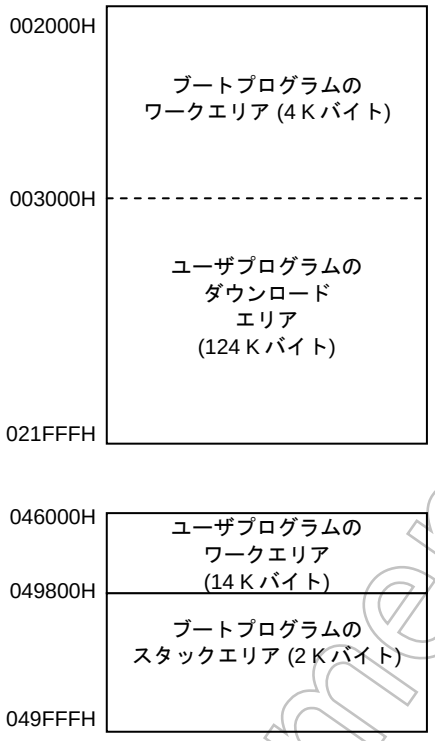


図 3.5.3 ブートプログラムの内蔵 RAM 使用方法

Not Recommended for New Design

(1) ポート設定、端子処理

ブートプログラムでは 表 3.5.3に示すようなポート設定をしています。また、表 3.5.4にブートプログラムを使用する際のポート端子推奨処理一覧を示しますので、システム上問題ないか確認の上、設計してください。

なお、他のポートは設定をしていません。リセット状態、もしくはブートプログラム起動時の状態になっています。

表 3.5.3 ブートプログラムでのポート設定

ポート名		機能名	I/O	ブートプログラムによる端子設定内容		
				(a)	(b)	(c)
UART	P90	TXD0	出力	リセット後の入力ポート状態を変更しません。	(a) から変更なし。	TXD0 出力端子に設定します。
	P91	RXD0	入力	RXD0 入力端子に設定します。		(b) から変更なし。
USB	–	D+	入出力	専用端子のため、特に設定しません。		
	–	D–	入出力			
	PP6	PUCTL	出力	リセット後の状態を変更しません。	1 に設定する	(b) から変更なし。

Not Recommended for New Design

表 3.5.4 推奨端子処理一覧

ポート名		機能名	I/O	ブート方法別のボード上の端子設定	
				UART	USB
UART	P90	TXD0	出力	レベルシフタへ接続が必要です。	USB からブートするための特別な処理は不要です。
	P91	RXD0	入力		UART 処理への移行を防止するため、プルアップ (推奨 100 kΩ) してください。
USB	–	D+	入出力	UART からブートするための特別な処理は不要です。	ダンピング抵抗 (推奨 27Ω) と ON/OFF 制御可能なプルアップ抵抗 (推奨 1.5 kΩ) を設け USB コネクタへ接続が必要です。未アクセス時の貫通電流対策のため、抵抗でレベル固定してください。
	–	D–	入出力	USB を使用しない場合は、D+/D-端子に貫通電流が流れないように、プルアップ/ダウンなどの処理をしてください。	ダンピング抵抗 (推奨 27Ω) を設け USB コネクタへ接続が必要です。未アクセス時の貫通電流対策のため、抵抗でレベル固定してください。
	PP6	PUCTL	出力	–	D+端子のプルアップ抵抗の ON/OFF 制御端子として使用しています。“1” で ON する様に外部にスイッチを設けてください。

注 1)UART からブートする場合で、かつ システムとして USB を使用する場合は、USB の D+端子用のプルアップ抵抗をブートモード時に ON にしないでください。

注 2)USB からブートする場合、PC 上で UART のアプリケーションソフトは起動しないでください。

注 3) UART からブートする場合、USB コネクタは接続しないでください。

注 4) USB を使用しない場合は、D+/D-端子に貫通電流が流れないように、プルアップ/ダウンなどの処理をしてください。

Not Recommended for New Design

(2) ブートプログラムの I/O レジスタ設定

ブートプログラムにて設定している内蔵I/Oレジスタを 表 3.5.5に示します。

ブートシーケンス実行後、リセットをアサートすることなくアプリケーションシステムプログラムが動作を続ける場合、これらの設定値を注意の上プログラムを作成してください。また、CPU 内レジスタ、内蔵 RAM もブートプログラム実行後の状態となっていますので同様に注意してください。

表 3.5.5 内蔵 I/O レジスター覧

レジスタ名称	設定値	設定内容
WDMOD	00H	ウォッチドックタイマは停止しています。
WDCR	B1H	ウォッチドックタイマは禁止状態です。
SYSCR0	70H	高周波発振動作、低周波動作状態。
SYSCR1	00H	クロックギアは 1/1 状態です。
SYSCR2	2CH	初期状態のままの設定です。
PLLCR0	00H	PLL クロックを使用しない設定をします。
PLLCR1	00H または 60H	通常は PLLOFF の設定をします。 ただし、USB からのブートの場合のみ、USB 用の PLL が動作状態となります。
INTEUSB	04H	USB 割り込みレベルを設定します。
INTETC01	44H	INTTC 割り込みレベルを設定します。

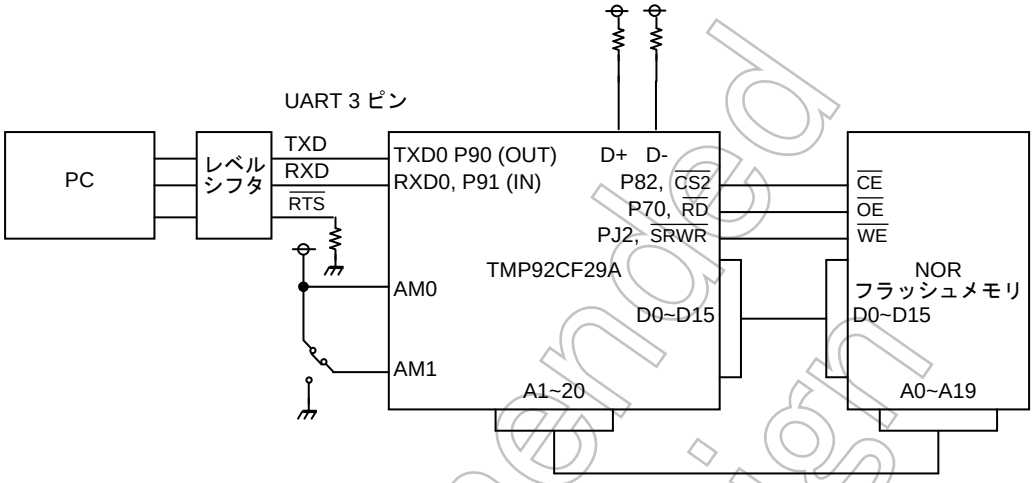
注) ここでは UART、USB の各 I/O レジスタに対する設定値は省略しています。ユーザプログラム内でこれらの機能を使用する場合は、各 I/O レジスタを再設定してください。

Not Recommended for New Design

3.5.3 UARTでのダウンロード

(1) 接続例

図 3.5.4はUARTの例（16 ビットNORフラッシュはプログラムメモリを想定）を示しています。



注) USB を使用しない場合は、D+/D-端子に貫通電流が流れないように、プルアップ/ダウンなどの処理をしてください。

図 3.5.4 UART の例

(2) UART インタフェース仕様

SIO チャネル 0 がダウンロードに使用されます。

以下は BOOT モードの UART での通信フォーマットを示しています。

ブートの前に、PC 側も同様にセットアップをしてください。

デフォルトボーレートは 9600 bpsですが、表 3.5.8に示される他の値へ変更することが可能です。

シリアル転送モード	:	UART (非同期通信) モード、全二重通信
データ長	:	8 ビット
パリティビット	:	なし
STOP ビット	:	1 ビット
ハンドシェーク	:	なし
ボーレート (デフォルト)	:	9600 bps

Not Recommended for New Design

(3) UART データ転送フォーマット

表 3.5.6~表 3.5.11は、対応周波数、データ転送フォーマット、ボーレート変更コマンド、動作コマンド、バージョン管理情報、周波数測定結果とその格納アドレスを示しています。

また、これらの表の他に後述のブートプログラム動作説明も参照してください。

表 3.5.6 対応周波数 (X1)

6.00 MHz	8.00 MHz	9.00 MHz	10.00 MHz

注) 発振周波数に関係なく、内蔵の PLL (クロック逓倍回路) は使用しません。

表 3.5.7 転送フォーマット

	転送バイト数	PC から TMP92CF29A への転送データ	ボーレート	TMP92CF29A から PC への転送データ
ブート ROM	1 回目 2 回目	マッチングデータ (5AH) –	9600 bps	– (周波数測定とボーレート自動設定) OK: エコーバックデータ (5AH) Error: 送信なし
	3 回目 ~ 6 回目	–		バージョン管理情報 (表 3.5.10 参照)
	7 回目	–		周波数情報
	8 回目 9 回目	ボーレート変更コマンド (表 3.5.8) –		– OK: エコーバックデータ Error: エラーコード × 3
	10 回目 ~ n – 4 回目	ユーザ プログラム Intel Hex フォーマット (バイナリ)	変更後ボーレート	NG: チェックサムエラーにより動作停止
	n – 3 回目	–		OK:SUM (High) ((4)-c) の注意参照)
	n – 2 回目	–		OK:SUM (Low)
	n – 1 回目 n 回目	ユーザ プログラム開始コマンド (C0H) (表 3.5.9参照) –		– OK: データをエコーバック (C0H) Error: エラーコード × 3
RAM	–	ユーザ プログラム開始アドレスに分岐		

“エラーコード × 3” はエラーコードを 3 回送信することを意味します。例えば、エラーコードが 62H のとき、62H を 3 回送信します。エラーコードについては (4)-b) を参照してください。

Not Recommended for New Design

表 3.5.8 ボーレート変更コマンド

ボーレート (bps)	9600	19200	38400	57600	115200
変更コマンド	28H	18H	07H	06H	03H

注 1) f_{OSCH} (発振周波数) が 10.0MHz の場合、57600、115200bps ボーレートは対応していません。

注 2) f_{OSCH} (発振周波数) が 6.00、8.00、9.00MHz の場合、38400、57600、115200bps ボーレートは対応していません。

表 3.5.9 動作コマンド

動作コマンド	動作
C0H	ユーザ プログラム開始

表 3.5.10 バージョン管理情報

バージョン情報	ASCII コード
FRM1	46H, 52H, 4DH, 31H

表 3.5.11 周波数測定結果データ

発振子の周波数 (MHz)	6.000	8.000	9.000	10.000
	09H	0AH	08H	0BH

(4) UART ブートプログラム動作の説明

ブートプログラムは、PC から送信されるデータを UART にて受信し内蔵 RAM へ転送します。転送が正常に終了した場合、SUM を計算し、ユーザ プログラムの実行を開始する前に PC に結果を送信します。実行する開始アドレスは最初の受信アドレスです。このブートプログラムは、ユーザ独自のオンボードプログラミング制御を可能とします。

UART からのブートの場合も、最大のプログラム容量は拡張 Intel hex を使用し、最大 124K バイトとなります。(3000h~21FFFh)

a) 動作手順

1. 初めにシリアルケーブルを接続します。マイコンをリセットする前に接続を行ってください。
2. AM1、AM0 両端子を “1” に設定し、マイコンをリセットします。
3. 1st バイトの受信データはマッチングデータを意味します。ブートプログラムが BOOT モードで実行開始すると、マッチングデータの受信待ち状態になります。マッチングデータを受信することでシリアルチャネルの初期ボーレートは 9600 bps に自動的になります。マッチングデータは 5AH です。
4. 2nd バイトは 1st バイトのボーレート自動設定が完了すると、PC にエコーバック送信 (5AH) をします。ボーレート自動設定でミスした場合、動作停止状態に移行します。
5. 3rd バイトから 6th バイトは ASCII コードでブートプログラムのバージョン管理情報を送信します。PC は正しいバージョンのブートプログラムであることを確認してください。

Not Recommended for New Design

6. 7th バイトは測定した周波数情報を送信します。PC は発振周波数が正しく測定されたかを確認してください。
7. 8thバイトの受信データはボーレート変更データです。5 種類のボーレート変更データは 表 3.5.8に示され、使用可能です。ボーレートを変更しない場合でも、初期ボーレートデータ (28H; 9600 bps) を送信してください。ボーレートの変更はエコーバック送信終了後、有効となります。
8. 9th バイトは 8th バイトの受信データが動作周波数に対応するボーレート変更データのひとつであるとき、PC に受信データのエコーバック送信を行います。その後ボーレートの変更を行います。受信ボーレートデータが一致しなかった場合は、ボーレート変更エラーコード (62H) の 3 バイトを送信した後に動作停止状態に移行します。
9. 10th バイトから n–4 バイトの受信データは Intel Hex フォーマットのバイナリデータとして受信されます。またエコーバック送信は行いません。
   ブートプログラムは Intel Hex フォーマットのスタートマーク (3AH, “ : ”) を受信するまで受信データを無視し、エラーコードの送信も行いません。スタートマークを受信後、データ長からチェックサムまでを受信します。受信したライトデータは逐次、内蔵 RAM の指定されたアドレスへライトします。
   受信エラーまたはチェックサムエラーが発生した場合、PC にエラーコードを戻すことなく動作停止状態に移行します。
   エンドレコードの検出で SUM 計算ルーチンを実行しますので、PC はエンドレコードを送信後に SUM の受信待ち状態にしてください。
10. n–3 バイトと n–2 バイトは SUM の値を上位バイト、下位バイトの順序で 2 バイトを PC に送信します。SUM 計算方法の詳細は、 後述の “SUM の注意点” を参照してください。SUM の計算は、エンドレコードを検出し、受信エラー、あるいは Intel Hex フォーマットのチェックサムエラーがなかった場合のみ実行します。そして SUM の計算後すぐに、SUM データを PC へ送信します。PC はエンドレコードの送信後に SUM の値が送信されるかどうかで RAM へのライトが正常に終了したかどうかを判断してください。
11. SUM の送信後、ユーザプログラム開始コードの受信状態に移行します。SUM の値が正しい場合、PC はユーザ プログラム開始コマンドを n–1 バイトに送信してください。ユーザ プログラム開始コマンドは C0H です。
12. n バイトはユーザ プログラム開始コードをエコーバック送信します。エコーバック送信後、スタックポインタは 4A000H に設定され、Intel Hex フォーマットのデータとして最初に受信されたアドレスに分岐します。
13. ユーザ プログラム開始コードが間違っている場合や受信エラーが発生した場合、3 バイトのエラーコードを PC に送信後に動作停止状態に移行します。

Not Recommended for New Design

b) エラーコード

ブートプログラムの処理状況を各種コードでPCに送信します。エラーコードは以下の 表 3.5.12に示されます。

表 3.5.12 エラーコード

エラーコード	エラーコードの意味
62H	未対応なボーレートである。
64H	動作コマンドが不適である。
A1H	受信データのフレーミングエラーが発生。
A3H	受信データのオーバランエラーが発生。

*1: ユーザプログラム受信中に受信エラーが発生した場合、エラーコードを PC に送信しません。

*2: エラーコードの送信後、動作停止状態に移行します。

c) SUM の注意点

1. 計算方法

SUM はバイト + バイト..... + バイトを計算し、結果としてワードで返します。すなわちデータはバイトでリードされ、計算されワードで返します。

例:

A1H
B2H
C3H
D4H

左記 4 バイトが計算対象データの場合、

SUM は

A1H + B2H + C3H + D4H = 02EAH

SUM (HIGH) = 02H

SUM (LOW) = EAH

となります。

2. 計算対象データ

計算対象データは、最初に受信したアドレスから最後に受信したアドレスまでのデータとなります。

また、受信アドレスが連続していない場合（ライトしないエリアがある場合）も計算されます。ユーザプログラムは不連続にならないようにしてください。

Not Recommended for New Design

d) Intel Hex フォーマット (バイナリ) の注意点

1. レコードのチェックサム受信後、次のレコードのスタートマーク (3AH, “ : ”) を待ちます。レコード間で 3AH 以外のデータを受信してもそのデータを無視します。
2. PC 上のプログラムは、エンドレコードのチェックサム送信後は何も送信せずに 2 バイト分の受信データ (SUM の上位、下位のデータ) 待ち状態にしてください。これはエンドレコードのチェックサム受信後、SUM の計算を行いその計算結果を 2 バイトで返すためです。
3. 内蔵 RAM エリア以外へのライトの動作は、誤動作の原因になります。レコードを転送する場合、パラグラフアドレスを 0000H に設定してください。
4. アドレスポインタの初期値は 00H となっているため、最初に転送するレコードタイプはアドレスを示すレコードである必要はありません。
5. アドレス 3000H から 21FFFH はロードするユーザ プログラムに割り当てられます。
6. あらかじめ ASCII コードからバイナリフォーマットに Intel Hex フォーマットのユーザプログラムを変換してください。

以下に、バイナリフォーマットファイルの作成方法を、例を使用し説明します。

例) Intel HEX フォーマットファイルからバイナリフォーマットファイルへの変換方法

下記は Intel HEX フォーマットファイルをテキストエディタで表示した例を示しています。

: 103000000607F100030000F201030000B1F16010B7

: 00000001FF

実際には ASCII コードが使用されるため、以下のようになります。

3A313033303030303030363037463130303033303030304632303130333030303030
4231463136303130423 70D0A3A303030303030303146460D0A

以下の表の規則に従って、上記のデータを変換してください。

変換前 (ASCII)	変換後 (バイナリ)
3A	3A (3A のみ変換しません)
30~39	0~9
41 or 61	A
42 or 62	B
43 or 63	C
44 or 64	D
45 or 65	E
46 or 66	F
0D0A	削除

Intel HEX フォーマットを以下に示します。

データレコード 3A 10 3000 00 0607F100030000F201030000B1F16010 B7

データ　チェックサム

レコードタイプ

アドレス

データ数

: (スタートマーク)

エンドレコード 3A 00 0000 01 FF

データ

レコードタイプ

アドレス

データ数

: (スタートマーク)

Not Recommended for New Design

e) ユーザ プログラム受信時のエラー

ユーザ プログラム受信中に Intel Hex フォーマットで以下のエラーが発生した場合、動作停止状態に移行します。

レコードタイプが 00H、01H、02H 以外の場合

チェックサムエラーが発生した場合

f) 周波数測定とボーレート間のエラー

マッチングデータを受信するとき、発振周波数を測定します。

誤差が±3%以内の場合、その周波数であると測定できます。

各ボーレートは 表 3.5.13に示される設定誤差を含みます。

例えば 10.00 MHz、9600 bpsの場合、実際には 0.2%の誤差で 9615.38 bpsに設定されます。通信が確立するためには、表 3.5.13に示される設定誤差と、周波数の誤差の合計が±3%以内である必要があります。

表 3.5.13 各ボーレートの設定誤差 (%)

	9600 bps	19200 bps	38400 bps	57600 bps	115200 bps
6.000 MHz	0.2	0.2	–	–	–
8.000 MHz	0.2	0.2	–	–	–
9.000 MHz	0.2	–0.7	–	–	–
10.000 MHz	0.2	0.2	–1.4	–	–

–: 未対応

Not Recommended for New Design

(5) その他注意点

a) ハンドシェーク機能について

TMP92CF29A では専用の $\overline{\text{CTS}}$ 端子を持っていますが、ブートプログラムでは CTS による送信制御を行っていません。

b) RS-232C コネクタについて

ブート中に RS-232C コネクタの抜き差しを行わないでください。

c) PC 上のソフトウエアについて

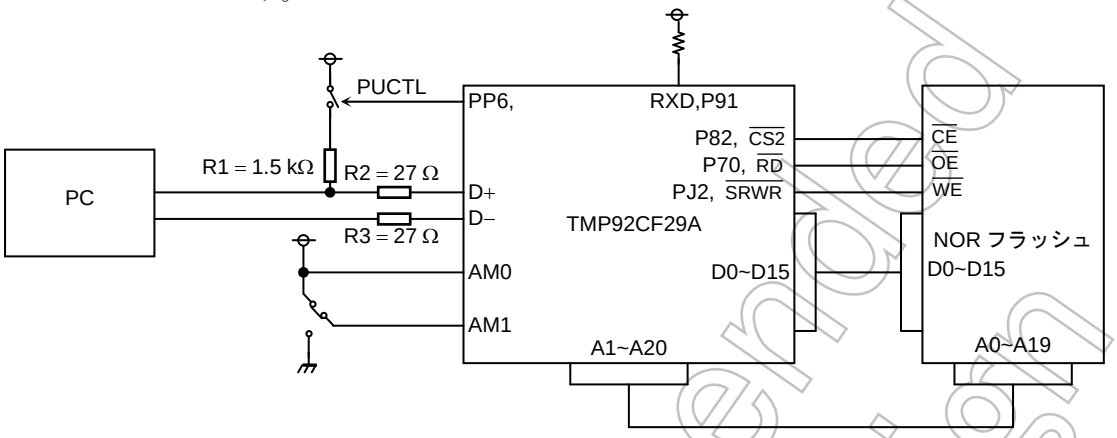
PC 上に専用のアプリケーションソフトが必要となります。

Not Recommended for New Design

3.5.4 USBでのダウンロード

(1) 接続例

図 3.5.5 はUSB (16 ビットNORフラッシュはプログラムメモリを想定) の接続例を示しています。



注 1) プルアップ/プルダウン抵抗の値は推奨値です。

注 2) PP6 端子は USB の PUCTL (プルアップ制御) 出力として割り当てられてます。

注 3) D+,D-端子は未使用時(未アクセス時)にも常に入力ゲートが開放状態のため、貫通電流対策のためにレベル固定することが必要です。上記の図では省略していますが、USB の章を確認の上、レベル固定をするようにお願いいたします。

図 3.5.5 USB の接続例

(2) USB インタフェース仕様概要

USB でブートする場合、発振周波数は 10.00 MHz にしてください。転送スピードはフルスピード (12 Mbps) 固定です。

USB 仕様の 4 つの転送タイプ中、下記 2 つの転送タイプを使用してブート機能を実現しています。

表 3.5.14 ブートプログラムが使用する転送タイプ

転送タイプ	用　　途
コントロール転送	スタンダードリクエスト、ベンダーリクエストの送信を行います。
バルク転送	ベンダーリクエストでの要求物の返信、ユーザ プログラムの送信を行います。

Not Recommended for New Design

全体フロー概要を以下に記述します。

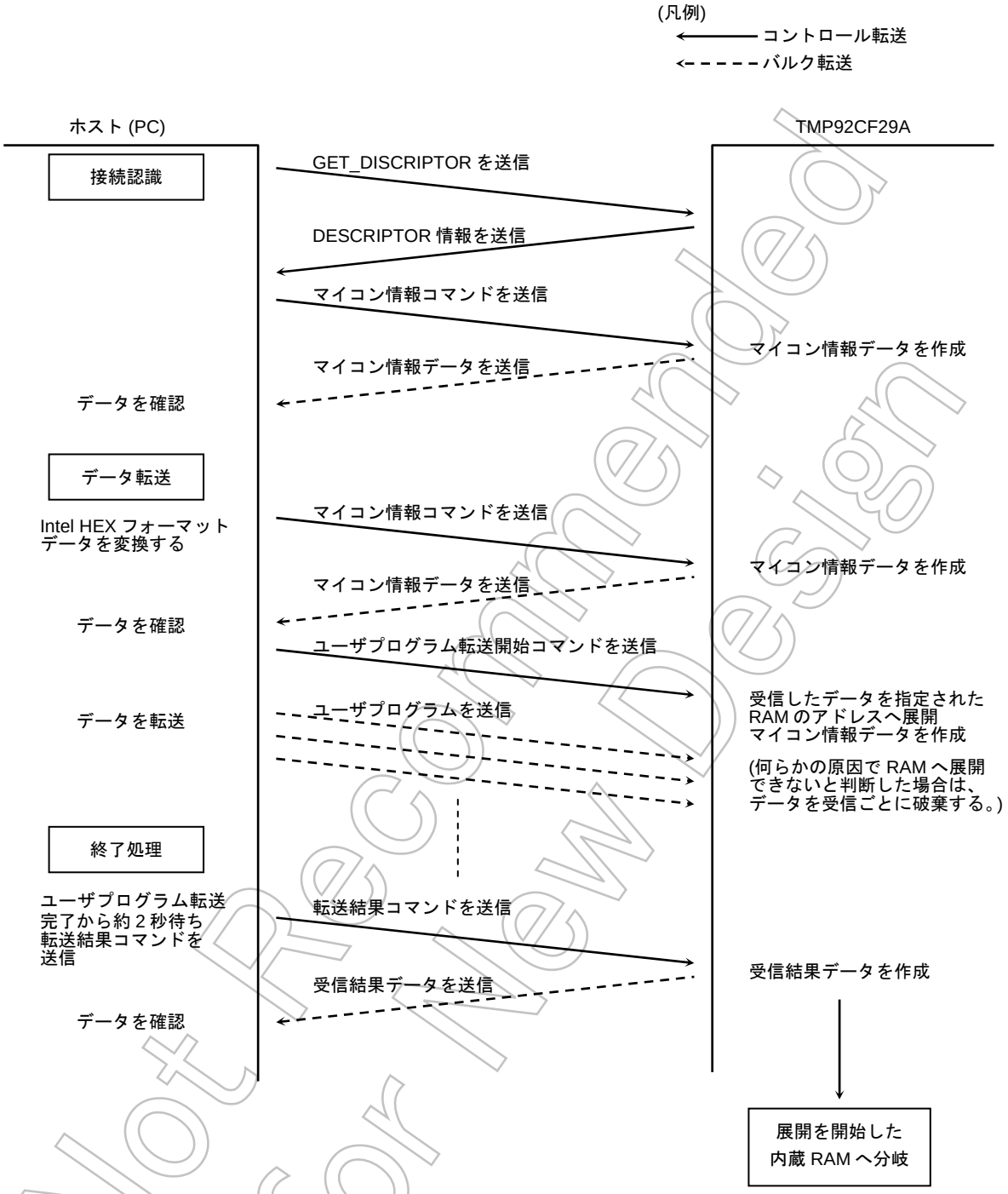


図 3.5.6 全体フロー概要

Not Recommended for New Design

ベンダーリクエストコマンド表を以下に記述します。

表 3.5.15ベンダーリクエストコマンド表

コマンド名称	ベンダーリクエストの数値	動作概要	備考
マイコン情報コマンド	00H	マイコン情報を送信する。	マイコン情報データの送信はセットアップステージ終了後、バルク IN 転送で行います。
ユーザ プログラム転送開始コマンド	02H	ユーザプログラムを受信する。	wIndex にユーザ プログラムの転送サイズを入れてください。 ユーザ プログラムの受信はセットアップステージ終了後、バルク OUT 転送で行ってください。
ユーザプログラム転送結果コマンド	04H	転送結果を送信する。	転送結果データの送信はセットアップステージ終了後、バルク IN 転送で行います。

セットアップコマンドのデータ構造を以下に記述します。

表 3.5.16 セットアップコマンドのデータ構造

フィールド名	値	意味
bmRequestType	40H	D7 0: ホスト~デバイス D6-D5 2: ベンダ D4-D0 0: デバイス
bRequest	00H, 02H, 04H	00H: マイコン情報 02H: ユーザプログラム転送開始 04H: ユーザプログラム転送結果
wValue	00H~FFFFH	固有データ番号 (マイコン側では未使用)
wIndex	00H~FFFFH	ライトする長さ ユーザプログラム転送開始時使用 (ユーザプログラム転送サイズ)
wLength	0000H	固定

Not Recommended for New Design

スタンダードリクエストコマンド表を以下に記述します。

表 3.5.17 スタンダードリクエストコマンド表

スタンダードリクエスト	応答方法
GET_STATUS	ハード自動応答
CLEAR_FEATURE	ハード自動応答
SET_FEATURE	ハード自動応答
SET_ADDRESS	ハード自動応答
GET_DISCRIPTOR	ハード自動応答
SET_DISCRIPTOR	未対応
GET_CONFIGRATION	ハード自動応答
SET_CONFIGRATION	ハード自動応答
GET_INTERFACE	ハード自動応答
SET_INTERFACE	ハード自動応答
SYNCH_FRAME	無視

GET_DISCRIPTOR で返信する情報を以下に記述します。

表 3.5.18 GET_DISCRIPTOR で返信する情報

DeviceDescriptor

フィールド名	値	意味
Blength	12H	18 バイト
BdescriptorType	01H	デバイスディスクリプタ
BcdUSB	0110H	USB Version 1.1
BdeviceClass	00H	デバイスクラス未使用
BdeviceSubClass	00H	サブコマンド未使用
BdeviceProtocol	00H	プロトコル未使用
BmaxPacketSize0	40H	EP0 最大パケットサイズ 64 バイト
IdVendor	0930H	ベンダ ID
IdProduct	6504H	プロダクト ID (0)
BcdDevice	0001H	デバイスバージョン (v0.1)
Imanufacturer	00H	製造者名を示すストリングディスクリプタの インデックス値
Iproduct	00H	製品名を示すストリングディスクリプタの インデックス値
IserialNumber	00H	製造番号を示すストリングディスクリプタの インデックス値
BnumConfigurations	01H	構成は 1 つ

Not Recommended for New Design

ConfigrationDescriptor

フィールド名	値	意味
bLength	09H	9 バイト
bDescriptorType	02H	コンフィグレーションディスクリプタ
wTotalLength	0020H	コンフィグレーション＋＋エンドポイントの各ディスクリプタを合わせた長さ (32 バイト)
bNumInterfaces	01H	インタフェースは 1 つ
bConfigurationValue	01H	構成番号 1
iConfiguration	00H	このコンフィグレーション名を示すストリングディスクリプタのインデックス値 (未使用)
bmAttributes	80H	バス電源
MaxPower	31H	最大消費電力 (49 mA)

InterfaceDescriptor

フィールド名	値	意味
bLength	09H	9 バイト
bDescriptorType	04H	インタフェースディスクリプタ
bInterfaceNumber	00H	インタフェース番号 0
bAlternateSetting	00H	代替設定番号 0
bNumEndpoints	02H	エンドポイントは 2 つ
bInterfaceClass	FFH	固有のデバイス
bInterfaceSubClass	00H	
bInterfaceProtocol	50H	BulkOnly プロトコル
iInterface	00H	このインタフェース名を示すストリングディスクリプタのインデックス値 (未使用)

EndpointDescriptor

フィールド名	値	意味
<Endpoint1>		
blength	07H	7 バイト
bDescriptorType	05H	エンドポイントディスクリプタ
bEndpointAddress	01H	EP1 は OUT
bmAttributes	02H	バルク転送
wMaxPacketSize	0040H	ペイロード 64 バイト
bInterval	00H	(バルク転送のため、無視される)
<Endpoint2>		
bLength	07H	7 バイト
bDescriptor	05H	エンドポイントディスクリプタ
bEndpointAddress	82H	EP2 は IN
bmAttributes	02H	バルク転送
wMaxPacketSize	0040H	ペイロード 64 バイト
bInterval	00H	(バルク転送のため、無視される)

Not Recommended for New Design

マイコン情報コマンドで返信する情報を以下に記述します。

表 3.5.19 マイコン情報コマンドで返信する情報

マイコン情報	ASCII コード
TMP92CF29A	54H, 4DH, 50H, 39H, 32H, 43H, 46H, 32H, 39H,20H, 20H, 20H, 20H, 20H, 20H

転送結果コマンドで返信する情報を以下に記述します。

表 3.5.20 転送結果コマンドで返信する情報

転送結果	値	エラー条件
正常終了	00H	
ユーザ プログラム未受信	02H	ユーザ プログラム転送開始が抜けて、ユーザ プログラム転送結果を受信した場合。
Intel HEX 形式以外のファイル受信	04H	ユーザ プログラムの最初のデータが ‘ : ’ (3AH) 以外だった場合。
規定以上のユーザプログラム容量受信	06H	ユーザ プログラム転送開始コマンド受信時の wIndex 以上のデータを受信した場合。
規定外アドレス受信	08H	ユーザ プログラムダウンロード領域以外のアドレスにダウンロード要求された場合。
プロトコルエラーまたは上記以外のエラー	0AH	ユーザ プログラム転送開始、ユーザ プログラム転送結果を最初に受信した場合。 Intel HEX ファイル内のチェック SUM 異常を検出した場合。 Intel HEX ファイル内のレコードタイプ異常を検出した場合。 Intel HEX ファイル内のアドレスレコードのレングスが 3 以上の場合。 Intel HEX ファイル内のエンドレコードのレングスが 0 以外の場合。

Not Recommended for New Design

(3) USB ブートプログラム動作説明

PC から Intel HEX フォーマットで送られてきたデータを内蔵 RAM へ転送します。転送が正常に終了するとユーザプログラムの実行を開始します。実行開始アドレスは、最初に受信したアドレスとなります。

この機能により、ユーザ独自のオンボードプログラミング制御を行うことができます。

a. 動作手順

1. USB ケーブルを接続してください。
2. AM0、AM1 端子を共に 1 に設定し、マイコンをリセットします。
3. PC は USB の接続を認識したら、GET_DISCRIPTOR コマンドで接続先の情報を確認してください。
4. PC はマイコン情報コマンドをコマンド転送 (ベンダーリクエスト) で送信しセットアップステージ終了後、バルク IN 転送でマイコン情報データを確認してください。
5. ブートプログラムはマイコン情報コマンドを受信すると、マイコン情報を ASCII コードで送信準備します。
6. PC は Intel HEX のファイルを後述のバイナリ形式に変換し、ユーザ プログラムを作成してください。
7. PC はユーザプログラム転送開始コマンドをコマンド転送 (ベンダーリクエスト) で送信し、セットアップステージ終了後、バルク OUT 転送でユーザ プログラムを転送してください。
8. PC はユーザ プログラム転送完了後、約 2 秒待ってユーザ プログラム転送結果コマンドをコマンド転送 (ベンダーリクエスト) で送信しセットアップステージ終了後、バルク IN 転送で転送結果を確認してください。
9. ブートプログラムは、ユーザ プログラム転送結果コマンドを受信すると、転送結果の値を送信準備します。
10. 転送結果が正常終了以外の場合、ブートプログラムは異常処理に入り自然復旧しません。PC 上のデバイスドライバを終了させ、2. からやり直してください。

Not Recommended for New Design

b. ユーザプログラムフォーマット (バイナリ) の注意点

1. レコードのチェックサム受信後は、次のレコードのスタートマーク (3AH, “:”) 待ち状態になりますので、レコード間に 3AH 以外のデータを送信しても、そのデータは無視します。
2. 最初に転送するレコードタイプはアドレスレコードである必要はありません。アドレスポインタの初期値が 00H になっているためです。
3. ユーザ プログラムの転送領域は 3000H 番地から 21FFFH 番地まで (124K バイト) が割り当てられています。この範囲内でユーザ プログラム作成してください。

※ USB 転送においては、ライトサイズを wIndex で 0000-FFFFhex の範囲で設定するため、転送する Object サイズの最大値は 64K バイトになりますので注意してください。

4. ユーザ プログラムは Intel HEX フォーマットファイル (通常 ASCII コードで記述されています) をバイナリ形式に変換して転送してください。変換方法を以下に記述します。(変換方法は UART ダウンロードと同様)
なお、USB で使用するユーザ プログラムの 1 レコード当たりのデータ数は最大 250 バイトにしてください。

例) Intel HEX フォーマットファイルでアドレス 3000H から 16 バイトのデータをライトする場合の転送データ

Intel HEX フォーマットファイルをテキストエディタで表示させると下記の様に表示されます。

: 103000000607F100030000F201030000B1F16010B7

: 00000001FF

しかし、Intel HEX フォーマットファイルは通常 ASCII コードで記述されていますので、上記ファイルは実際には下記のようなデータで構成されています。

3A313033303030303030363037463130303033303030304632303130333030303030
4231463136303130423730D0A3A303030303030303146460D0A

上記データを下記表の法則で変換して、実際の転送データを作成してください。

変換前 (ASCII)	変換後 (バイナリ)
3A	3A (3A は変換後もそのまま 3A で残してください。)
30~39	0~9
41 or 61	A
42 or 62	B
43 or 63	C
44 or 64	D
45 or 65	E
46 or 66	F
0D0A	削除

変換後データおよびデータの意味を以下に記述します。

データレコード　3A 10 3000 00 0607F100030000F201030000B1F16010 B7

- 00 → レコードタイプ
- 0607F100030000F201030000B1F16010 → データ
- B7 → チェックサム
- 3000 → アドレス
- 10 → データ数
- 3A → : (スタートマーク)

エンドレコード　3A 00 0000 01 FF

- 01 → レコードタイプ
- FF → チェックサム
- 0000 → アドレス
- 00 → データ数
- 3A → : (スタートマーク)

Not Recommended for New Design

(4) その他注意点

a) USB コネクタについて

ブート中に USB コネクタの抜き差しを行わないでください。

b) PC 上のソフトウエアについて

PC 上に専用の USB デバイスドライバ、アプリケーションソフトが必要となります。

Not Recommended for New Design

3.6 割り込み

TLCS-900/H1 の割り込みは、CPU の割り込みマスクレジスタ <IFF2:0> (ステータスレジスタの 12 ~14 ビット)と割り込みコントローラによって制御されます。

TMP92CF29A の割り込み要因には、下記に示す合計 57 本があります。

CPU によって生成される割り込み: 9 本
- ソフトウエア割り込み: 8 本
- 未定義命令実行違反割り込み: 1 本

内部割り込み: 39 本
- 内蔵 I/O 割り込み: 31 本
- マイクロ DMA 転送終了/ HDMA 転送終了共通割り込み: 6 本
- マイクロ DMA 転送終了専用割り込み: 2 本

外部割り込み: 9 本
- 外部端子の割り込み (INT0~INT7, INTKEY)

割り込み要因ごとに、個別の割り込みベクタ番号(固定)が割り当てられており、マスカブル割り込みのそれぞれに、6 レベルの優先順位(可変)を割り付ける事ができます。ノンマスカブル割り込みの優先順位は、最優先の “7”に固定されています。

割り込みが発生すると、割り込みコントローラは、その割り込み要因の優先順位を CPU に送ります。同時に複数の割り込みが発生した場合は、最も高い優先順位値(最高はノンマスカブル割り込みの“7”) を CPU に送ります。

CPU は、その送られてきた優先順位値と、CPU の割り込みマスクレジスタ(IFF2:0)の値を比較し、送られてきた優先順位値が、割り込みマスクレジスタの値以上であれば、その割り込みを受け付けます。割り込みマスクレジスタ(IFF2:0)の値は EI 命令(EI num…IFF<2:0>の内容が num になります。) を使用して書き替えることができます。例えば、“EI 3”とプログラムすると、割り込みコントローラに設定された、優先順位値 3 以上のマスカブル割り込みと、ノンマスカブル割り込みが受け付け可能となります。また、DI 命令(IFF<2:0>が 7 になります。) は動作的には “EI 7”と同じですが、マスカブル割り込みの優先順位値が 0~6 であるため、マスカブル割り込みの受け付け禁止用として使用されます。なお、EI 命令は実行後直ちに有効となります。

TLCS-900/H1 の割り込みには、上記汎用割り込み処理モードに加えて、内部/外部メモリおよび内蔵 I/O に対するデータ転送を行うことが出来る「マイクロ DMA」および「HDMA」処理モードがあります。マイクロ DMA は CPU が、HDMA は DMA コントローラが自動的にデータの転送(1/2/4 バイト)を行います。HDMA は、マイクロ DMA より高速な転送が可能です。マイクロ DMA 要求、および HDMA 要求は割り込み要因から与えられる以外に、ソフトウエアから要求を発行する “ソフトスタート機能”があります。

図 3.6.1 に割り込み処理全体のフローを示します。

Not Recommended for New Design

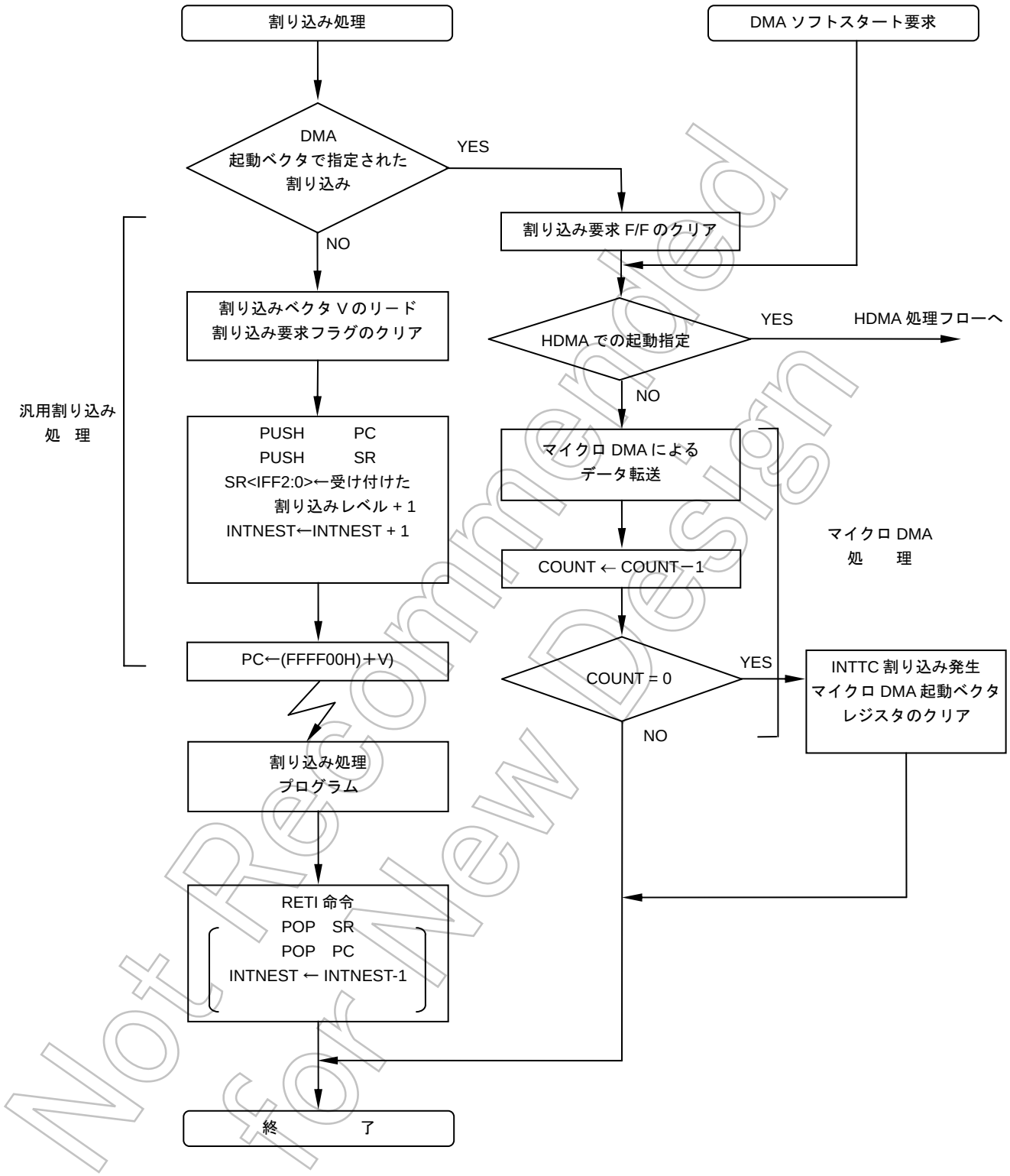


図 3.6.1 割り込み処理全体のフロー

Not Recommended for New Design

3.6.1 汎用割り込み処理

CPU が割り込みを受け付けると、下記の動作をします。ただしソフトウエア割り込みと未定義命令実行違反割り込みが CPU で生成される場合、CPU は 1 と 3 をスキップし、2、4、5 のみを実行します。

1. CPU は、割り込みコントローラから、割り込みベクタをリードします。割り込みコントローラは、同一レベルに設定された割り込みが同時に発生した場合、デフォルトプライオリティ(固定:ベクタ値が小さいほど優先順位が高い)にしたがって割り込みベクタを発生し、その割り込み要求をクリアします。
2. CPU は、プログラムカウンタ「PC」とステータスレジスタ「SR」を、スタック領域(XSP が示す領域)へ PUSH します。
3. CPU の割り込みマスクレジスタ<IFF2:0>の値を、受け付けた割り込みレベルより “1” だけ高い値にセットします。ただし、値が “7”の時は、インクリメントせず“7”をセットします。
4. 割り込みネスティングカウンタ INTNEST を、+1 カウントアップします。
5. CPU は、「FFFF00H+割り込みベクタ」番地のデータで示される番地へジャンプし、割り込み処理ルーチンを開始します。

割り込み処理が終了し、メインルーチンに戻る時は、通常「RETI」命令で行います。この命令を実行すると、スタックからプログラムカウンタ PC とステータスレジスタ SR の内容をリストアし、割り込みネスティングカウンタ INTNEST を－1 します。

ノンマスカブル割り込みは、プログラムによって割り込み受け付けを禁止する事ができません。一方、マスカブル割り込みは、プログラムによって割り込みの許可/禁止が選択できるとともに、各割り込みソースごとに優先順位を設定する事ができます(0 か 7 の割り込みレベルの設定は割り込み要求が無効になります)。CPU は、CPU 自身が持つ割り込みマスクレジスタ<IFF2:0>の値以上の、優先順位値を持つ割り込み要求があると、割り込みを受け付けます。そして、CPU のマスクレジスタ<IFF2:0>に、受け付けた優先順位に“1”を加えた値をセットします。

したがって、割り込み処理中に、現在実行している割り込みよりも高いレベルの割り込みが発生した場合には、その割り込み要求を受け付け、割り込み処理のネスティング状態になります。

なお、CPU が割り込みを受け付け、前記 1~5 までの処理をしている間に発生した別の割り込み要求は、その割り込み処理ルーチンの先頭命令が実行された直後にサンプリングされます。先頭命令を DI 命令にすると、マスカブル割り込みのネスティングを禁止する事ができます。

リセット後、CPU のマスクレジスタ<IFF2:0>は、“111”に初期化されているため、マスカブル割り込み禁止状態になっています。

TMP92CF29Aでは、メモリFFFF00H~FFFFFFH番地(256 バイト)が、割り込みベクタ領域に割り当てられています。表 3.6.1 に割り込みテーブルを示します。

Not Recommended for New Design

表 3.6.1　TMP92CF29A の割り込みベクタとマイクロ DMA/HDMA スタートベクタ

デフォルトプライオリティ	タイプ	割り込み要因とマイクロ DMA 要求要因	ベクタ値	ベクタ参照アドレス	マイクロ DMA /HDMA スタートベクタ
1	ノンマスカブル	リセットまたは [SWI0] 命令	0000H	FFFF00H	
2		[SWI1] 命令	0004H	FFFF04H	
3		未定義命令実行違反 または[SWI2] 命令	0008H	FFFF08H	
4		[SWI3] 命令	000CH	FFFF0CH	
5		[SWI4] 命令	0010H	FFFF10H	
6		[SWI5] 命令	0014H	FFFF14H	
7		[SWI6] 命令	0018H	FFFF18H	
8		[SWI7] 命令	001CH	FFFF1CH	
9		(Reserved)	0020H	FFFF20H	
10		INTWD: ウォッチドッグタイマ	0024H	FFFF24H	
-	マスカブル	マイクロ DMA (注 2)	–	–	–
11		INT0: INT0 端子 入力	0028H	FFFF28H	0AH (注 1)
12		INT1: INT1 端子 入力	002CH	FFFF2CH	0BH
13		INT2: INT2 端子 入力	0030H	FFFF30H	0CH
14		INT3: INT3 端子 入力	0034H	FFFF34H	0DH
15		INT4: INT4 端子 入力(TSI)	0038H	FFFF38H	0EH
16		INTALM: ALM (8192Hz,512Hz,64Hz,2Hz,1Hz)	003CH	FFFF3CH	0FH
17		INTTA4: 8-ビットタイマ 4	0040H	FFFF40H	10H
18		INTTA5: 8-ビットタイマ 5	0044H	FFFF44H	11H
19		INTTA6: 8-ビットタイマ 6	0048H	FFFF48H	12H
20		INTTA7: 8-ビットタイマ 7	004CH	FFFF4CH	13H
21		INTP0: Protect 0 (特定の SFR へのライト)	0050H	FFFF50H	14H
22		(Reserved)	0054H	FFFF54H	15H
23		INTTA0: 8-ビットタイマ 0	0058H	FFFF58H	16H
24		INTTA1: 8-ビットタイマ 1	005CH	FFFF5CH	17H
25		INTTA2: 8-ビットタイマ 2	0060H	FFFF60H	18H
26		INTTA3: 8-ビットタイマ 3	0064H	FFFF64H	19H
27		INTTB00: 16-ビットタイマ 0	0068H	FFFF68H	1AH
28		INTTB01: 16-ビットタイマ 0	006CH	FFFF6CH	1BH
29		INTKEY: キーウェイクアップ	0070H	FFFF70H	1CH
30		INTRTC: RTC(アラーム 割り込み)	0074H	FFFF74H	1DH
31		(Reserved)	0078H	FFFF78H	1EH
32		INTLCD: LCDC	007CH	FFFF7CH	1FH
33		INTRX0: シリアル受信終了	0080H	FFFF80H	20H (注 1)
34		INTTX0: シリアル送信終了	0084H	FFFF84H	21H
35		INTTB10: 16-ビットタイマ 1	0088H	FFFF88H	22H
36		INTTB11: 16-ビットタイマ 1	008CH	FFFF8CH	23H
37		INT5: INT5 端子 入力	0090H	FFFF90H	24H
38		INT6: INT6 端子 入力	0094H	FFFF94H	25H
39		INT7: INT7 端子 入力	0098H	FFFF98H	26H
40		INTI2S0: I^2S(チャネル 0)	009CH	FFFF9CH	27H
41		(Reserved)	00A0H	FFFFA0H	28H
42		INTADM: AD 監視機能	00A4H	FFFFA4H	29H
43		INTSBI: SBI	00A8H	FFFFA8H	2AH
44		INTSPIRX: SPIC 受信	00ACH	FFFFACH	2BH
45		INTSPITX: SPIC 送信	00B0H	FFFFB0H	2CH
46		INTRSC: NAND Flash コントローラ	00B4H	FFFFB4H	2DH
47		INTRDY: NAND Flash コントローラ	00B8H	FFFFB8H	2EH
48		INTUSB: USB	00BCH	FFFFBCH	2FH
49		INTRX1: シリアル受信終了	00C0H	FFFFC0H	30H (注 1)
50		INTTX1: シリアル送信終了	00C4H	FFFFC4H	31H

Not Recommended for New Design

デフォルトプライオリティ	タイプ	割り込み要因とマイクロ DMA 要求要因	ベクタ値	ベクタ参照アドレス	マイクロ DMA /HDMA スタートベクタ
51	マスカブル	INTADHP: AD 最優先変換終了	00C8H	FFFFC8H	32H
52		INTAD: AD 変換終了	00CCH	FFFFCCH	33H
53		INTTC0/INTDMA0: マイクロ DMA0 / HDMA0 終了	00D0H	FFFFD0H	34H
54		INTTC1/INTDMA1: マイクロ DMA1 / HDMA1 終了	00D4H	FFFFD4H	35H
55		INTTC2/INTDMA2: マイクロ DMA2 / HDMA2 終了	00D8H	FFFFD8H	36H
56		INTTC3/INTDMA3: マイクロ DMA3 / HDMA3 終了	00DCH	FFFFDCH	37H
57		INTTC4/INTDMA4: マイクロ DMA4 / HDMA4 終了	00E0H	FFFFE0H	38H
58		INTTC5/INTDMA5: マイクロ DMA5 / HDMA5 終了	00E4H	FFFFE4H	39H
59		INTTC6 : マイクロ DMA6 終了	00E8H	FFFFE8H	3AH
60		INTTC7 : マイクロ DMA7 終了	00ECH	FFFFECH	3BH
- to -		(Reserved)	00F0H : 00FCH	FFFFF0H : FFFFFCH	- to -

注 1) マイクロ DMA / HDMA を起動するときは、エッジ検出モードに設定してください。

注 2) マイクロ DMA デフォルトプライオリティ

マイクロ DMA は他のマスカブル割り込みより優先され起動します。

Not Recommended for New Design

3.6.2 マイクロ DMA

TMP92CF29A には、マイクロ DMA 機能と HDMA 機能があります。ここではマイクロ DMA 機能について説明します。HDMA 機能については DMA コントローラの章を参照してください。

マイクロ DMA 機能に設定された割込み要求は、設定された割込みレベルに関わらず、マスカブル割り込みの中で最も高い割り込みレベル(レベル 6)で処理を行います。

マイクロ DMA 機能は CPU の協調動作によって実現されているため、CPU が HALT 命令を実行しスタンバイ状態(IDLE2,IDLE1,STOP)になると、マイクロ DMA の要求は無視(保留)されます。

マイクロ DMA は 8 チャネル用意されており、後述のバースト指定により、連続転送が可能です。

注) マイクロ DMA 終了割り込みを使う場合は、SIMC レジスタのビット 7 に常に "1"をライトしてください。

Not Recommended for New Design

(1) マイクロ DMA の動作

マイクロ DMA は、マイクロ DMA/HDMA 起動ベクタレジスタで指定された割り込み要求が発生し、且つ、DMA 選択レジスタでマイクロ DMA 起動が指定されていると、割り込み要求元の割り込みレベルに関わらず、CPU に対しマスカブル割り込みの中で最も優先順位の高いレベルでデータ転送処理を行います。IFF=7 のときは、マイクロ DMA の要求は受けつけられません。

マイクロ DMA は 8 チャネル用意されており、同時に 8 種類までの割り込み要因に対して、マイクロ DMA を設定する事ができます。

マイクロ DMA が受け付けられると、そのチャネルに割り当てられている割り込み要求フラグをクリアし、コントロールレジスタに設定された、転送元アドレスから転送先アドレスに、データ転送が一回(1/2/4 バイト)行われ、転送数カウンタを 1 によってデクリメントします。デクリメントした結果が “0”ならば、以下のような動作をします。

- CPU はマイクロ DMA 転送終了を割り込みコントローラに伝えます。
- 割り込みコントローラはマイクロ DMA 転送終了割り込み(INTTC0~INTTC7)を発生させます。
- マイクロ DMA/HDMA 起動ベクタレジスタの値を “0”クリアして、次のマイクロ DMA 起動を禁止します。
- マイクロ DMA 処理を終了します。

デクリメントした結果が “0”でない場合、後述のバースト指定がなければ、マイクロ DMA 処理は終了します。この場合、転送終了割り込み(INTTCn)は発生しません。

割り込み要因を汎用割り込み処理と兼用せずマイクロ DMA もしくは HDMA 起動のみに使用する場合は、割り込みレベルを “0”にしておく必要があります。これはマイクロ DMA/HDMA 起動ベクタに設定されるまでの間に、その割り込み要求が発生すると、割り込みレベルが 1~6 の場合、CPU は汎用割り込み処理を行うためです。

割り込み要因をマイクロ DMA と汎用割り込みの起動で兼用する場合は、その割り込み要因の割り込みレベルを、他のすべての割り込み要因の割り込みレベルより低くする必要があります(注 1)。

注 1) マイクロ DMA 要因の割り込みレベルを他の割り込みレベルより高くすると、下記のような動作 をする場合があります。
下記設定にてINTxxx割り込みが先に発生し、割り込み処理フロー(図 3.6.1参照) で、“マイクロDMA起動ベクタで指定された割り込み”の確認後で、“割り込みベクタVのリード”の間にINTyyyが発生した場合、INTyyyの割り込みレベルのほうが高いため、その時点ではベクタVはINTyyyのベクタVに変化してしまいます。割り込み処理フローでは、マイクロDMAの確認が終了しているため、割り込みベクタVがすり替わる形となり、CPUはそのままINTyyyのベクタVをリードしてしまい、マイクロDMAの転送カウンタにかかわらずINTyyyが発生してしまいます。
INTxxx: レベル 1 DMA 設定なし
INTyyy: レベル 6 DMA 設定あり

マイクロ DMA 転送終了割り込みは、他のマスカブル割り込みと同様に割り込みレベルとデフォルトプライオリティにより、優先順位が決まります。

また、複数チャネルのマイクロ DMA 要求が、同時に発生した場合の優先順位は、割り込みレベルに無関係で、チャネル番号の若い方が高くなります。(CH0(高)→CH7(低))

注 2) 一つの割り込みで、複数のマイクロ DMA を起動しないでください。複数設定した場合、チャネル番号の大きい方 (優先順位が低いマイクロ DMA) が起動されません(優先順位の高いマイクロ DMA 起動で、割り込みフラグがクリアされてしまうため)。

Not Recommended for New Design

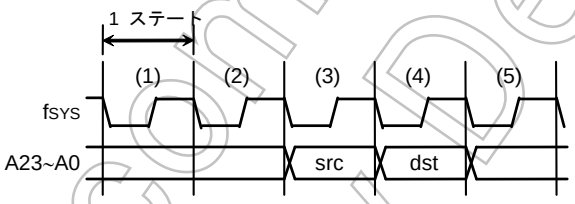
転送元/転送先アドレスを設定するレジスタは、32 ビット幅のコントロールレジスタになっていますが、アドレスは 24 本しか出力されていないため、マイクロ DMA で取り扱える空間は、16M バイトとなります。

転送モードとしては、1/2/4 バイト転送の 3 種類があり、それぞれの転送モードに対して、転送後、転送元/転送先アドレスをインクリメント、デクリメント、固定するモードを用意しています。このモードにより、メモリからメモリ、I/O からメモリ、メモリから I/O、I/O から I/O のデータ転送を簡単に行えます。転送モードの詳細は、「(4)転送モードレジスタ詳細」を参照して下さい。

転送数カウンタは、16 ビット幅で構成されているため、一つの割り込み要因に対して、最大 65536 回(転送カウンタの初期値が 0000H のとき最大)の、マイクロ DMA 処理を行うことができます。

マイクロDMA処理を行うことの出来る割り込み要因は、表 3.6.1でマイクロDMA起動ベクタのある 47 種類の割り込みとソフトスタートによる計 48 種類です。

転送先アドレスINCモード(カウンタモード以外は同様)のマイクロDMAサイクルを 図 3.6.2に示します。(ソースメモリ、ディスティネーションメモリともに内部RAMで、両アドレスは 4 の倍数の場合。)



注) src および dst アドレスは内部 RAM のアドレスのため、出力されません。

図 3.6.2 マイクロ DMA サイクル図

ステート (1),(2): 命令 フェッチサイクル(次の命令コードの先取り)
ステート (3) : マイクロ DMA リードサイクル
ステート (4) : マイクロ DMA ライトサイクル
ステート (5) : ((1), (2)ステートに同じ)

Not Recommended for New Design

(2)ソフトスタート機能

割り込み要因によるマイクロ DMA/HDMA の起動以外に、DMAR レジスタへのライトサイクルが発生した事により、マイクロ DMA もしくは HDMA を起動する “マイクロ DMA/HDMA ソフトスタート機能”があります。

DMAR レジスタの各ビットに “1”をライトする事により、マイクロ DMA もしくは HDMA を一回起動する事ができます(“0”をライトしても変化しません)。転送が終了すると、終了したチャネルに対応する DMAR レジスタのビットが、自動的に“0”にクリアされます。

また、再度 DMAR レジスタに“1”をライトすると、マイクロ DMA 転送カウンタ(DMACn)、もしくは HDMA 転送カウンタ B(HDMACBn)が “0”でない限り、ソフトスタートを引き続き行う事ができます。

DMAB レジスタでバースト指定されている場合は、マイクロ DMA を起動するとマイクロ DMA 転送カウンタが “0”になるまで、連続的にデータ転送されます。割り込み要因によるマイクロ DMA 転送の合間にソフトスタートを実行してもマイクロ DMA 転送カウンタは変化しません。他のビットへの誤書き込みを防ぐために、リードモディファイライト命令は使わないでください。

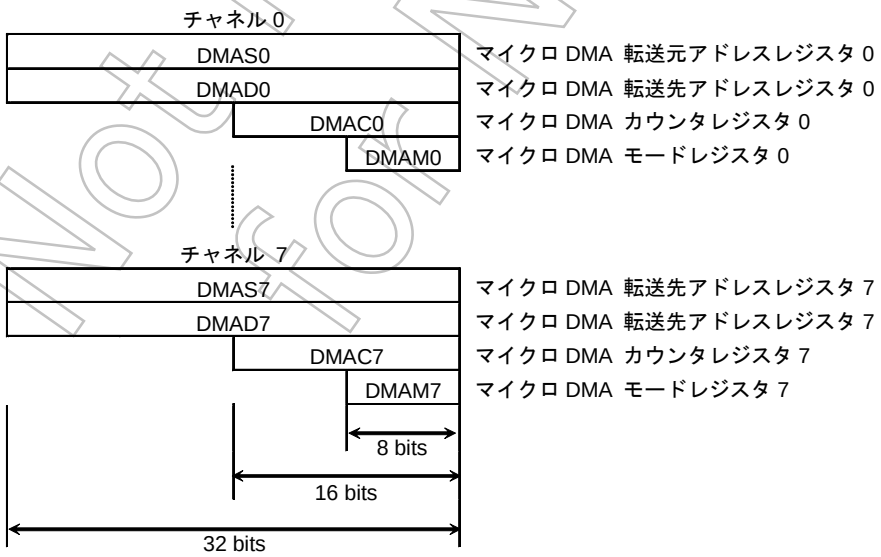
注 1) ソフトスタートの場合、複数チャネルの同時スタートはしないでください。

注 2) 連続して、動作させる場合、すべてのチャネルのマイクロ DMA が終了していることを確認の上（すべて"0" であることの確認）、再スタートしてください。

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
DMAR	DMA request	109H (RMW 禁)	DREQ7	DREQ6	DREQ5	DREQ4	DREQ3	DREQ2	DREQ1	DREQ0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			1: DMA のソフト要求							

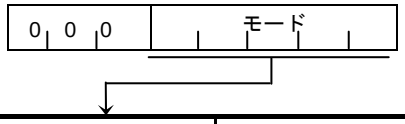
(3) 転送制御レジスタ

転送元アドレス、転送先アドレスは、下記のレジスタで設定します。これらのレジスタは、「LDC cr,r」命令を使用して、データの設定を行います。



Not Recommended for New Design

(4)転送モードレジスタ詳細



DMAM0 ~ DMAM7

DMAMn[4:0]	モード 説明	実行時間
0 0 0 z z	転送先 INC モード (DMADn +) ← (DMASn) DMACn ← DMACn - 1 DMACn = 0 の場合 INTTCn	5 ステート
0 0 1 z z	転送先 DEC モード (DMADn -) ← (DMASn) DMACn ← DMACn - 1 DMACn = 0 の場合 INTTCn	5 ステート
0 1 0 z z	転送元 INC モード (DMADn) ← (DMASn +) DMACn ← DMACn - 1 DMACn = 0 の場合 INTTCn	5 ステート
0 1 1 z z	転送元 DEC モード (DMADn) ← (DMASn -) DMACn ← DMACn – 1 DMACn = 0 の場合 INTTCn	5 ステート
1 0 0 z z	転送元および転送先 INC モード (DMADn +) ← (DMASn +) DMACn ← DMACn – 1 DMACn = 0 の場合 INTTCn	6 ステート
1 0 1 z z	転送元および転送先 DEC モード (DMADn -) ← (DMASn -) DMACn ← DMACn – 1 DMACn = 0 の場合 INTTCn	6 ステート
1 1 0 z z	転送元 および転送先 Fixed モード (DMADn) ← (DMASn) DMACn ← DMACn – 1 DMACn = 0 の場合 INTTCn	5 ステート
1 1 1 00	カウンタモード DMASn ← DMASn + 1 DMACn ← DMACn – 1 DMACn = 0 の場合 INTTCn	5 ステート

ZZ:00 = 1-バイト 転送
01 = 2-バイト 転送
10 = 4-バイト 転送
11 = Reserved

注 1) n はマイクロ DMA チャネルナンバ(0 ~ 7)を表しています。
DMADn+/DMASn+: ポスト-インクリメント(レジスタ値は転送後にインクリメントします。)
DMADn–/DMASn–: ポスト-デクリメント(レジスタ値は転送後にデクリメントします。)
“I/O” は固定されたメモリアドレスを意味します; “メモリ” は増大あるいは減少するメモリアドレスを意味します。

注 2) 転送 モードレジスタは上にリストされた値以外は設定しないでください。

注 3) 上記の表の実行時間はベストケースを表しています。(1-ステート メモリアクセス)

Not Recommended for New Design

3.6.3 割り込み コントローラ

図 3.6.3に、割り込み回路のブロック図を示します。この図の左半分は割り込みコントローラを示し、右半分はCPUの割り込み要求信号回路とホルト解除回路を示しています。

割り込みコントローラは、各割り込みチャネルごと(合計 59 チャネル)に、割り込み要求フラグ(フリップフロップ)、割り込み優先順位設定レジスタ、マイクロ DMA/HDMA 起動ベクタ設定レジスタを持っています。割り込み要求フラグは、周辺からの割り込み要求をラッチするためのものです。

このフラグは、以下の場合にクリアされます。

- リセット動作
- CPU が割り込みを受け付け、その割り込みのベクタを CPU がリードしたとき
- 割り込みをクリアする命令の実行(INTCLR レジスタに DMA 起動ベクタをライト)
- CPU がその割り込みでのマイクロ DMA 要求を受け付けた時
- DMAC がその割り込みでの HDMA 要求を受け付けた時
- その割り込みでのマイクロ DMA バースト転送が終了した時

割り込みの優先順位は、各割り込み要因ごとに準備されている割り込み優先順位設定レジスタ(INTE0AD、INTE12,‥‥等)にそれぞれの優先順位をライトすることで設定出来ます。設定出来る割り込みレベルは 1 から 6 までの 6 レベルです。ライト優先順位値を “0”(または “7”)にする事により、該当する割り込み要求は禁止されます。

また、同時に同一レベルの割り込み要求が発生した場合には、デフォルトプライオリティ(プライオリティ値の小さいもの = ベクタの小さいもの)に従い、割り込みを受け付けます。なお、割り込み優先順位設定レジスタの 3 ビット目、7 ビット目をリードすると、割り込み要求フラグの状態がリードされ、各チャネルの割り込み要求の有無がわかります。

割り込みコントローラは、同時に発生した割り込みの中で、最も優先順位の高い割り込みレベルと、そのベクタアドレスを CPU へ送ります。CPU は、ステータスレジスタ(SR)に設定された割り込みマスクレジスタ<IFF2:0>と割り込みレベルを比較し、割り込みのレベルが高ければ、この割り込みを受け付けます。そして、CPU 側の SR<IFF2:0>に、受け付けた割り込みレベル+1 の値をセットし、この値以上の割り込み要求だけが、多重に受け付けられる割り込み要因となります。割り込み処理の終了(RETI 命令の実行)により、CPU 側の SR<IFF2:0>には、スタックに退避されていた、割り込み発生以前の割り込みマスクレジスタの値をリストアします。

割り込みコントローラには、マイクロDMA/HDMAの起動ベクタを格納するレジスタ(8 チャネル)が用意されています。このレジスタに起動ベクタ(表 3.6.1参照)をライトする事により、該当する割り込み要求が発生する事によって、マイクロDMAもしくはHDMAが起動されます。なお、このマイクロDMAもしくはHDMA処理の前に、マイクロDMAパラメータ用レジスタ(DMAS, DMAD等)、もしくはHDMAパラメータ用レジスタ(HDMAS, HDMAD等)に値を設定しておく必要があります。

Not Recommended for New Design

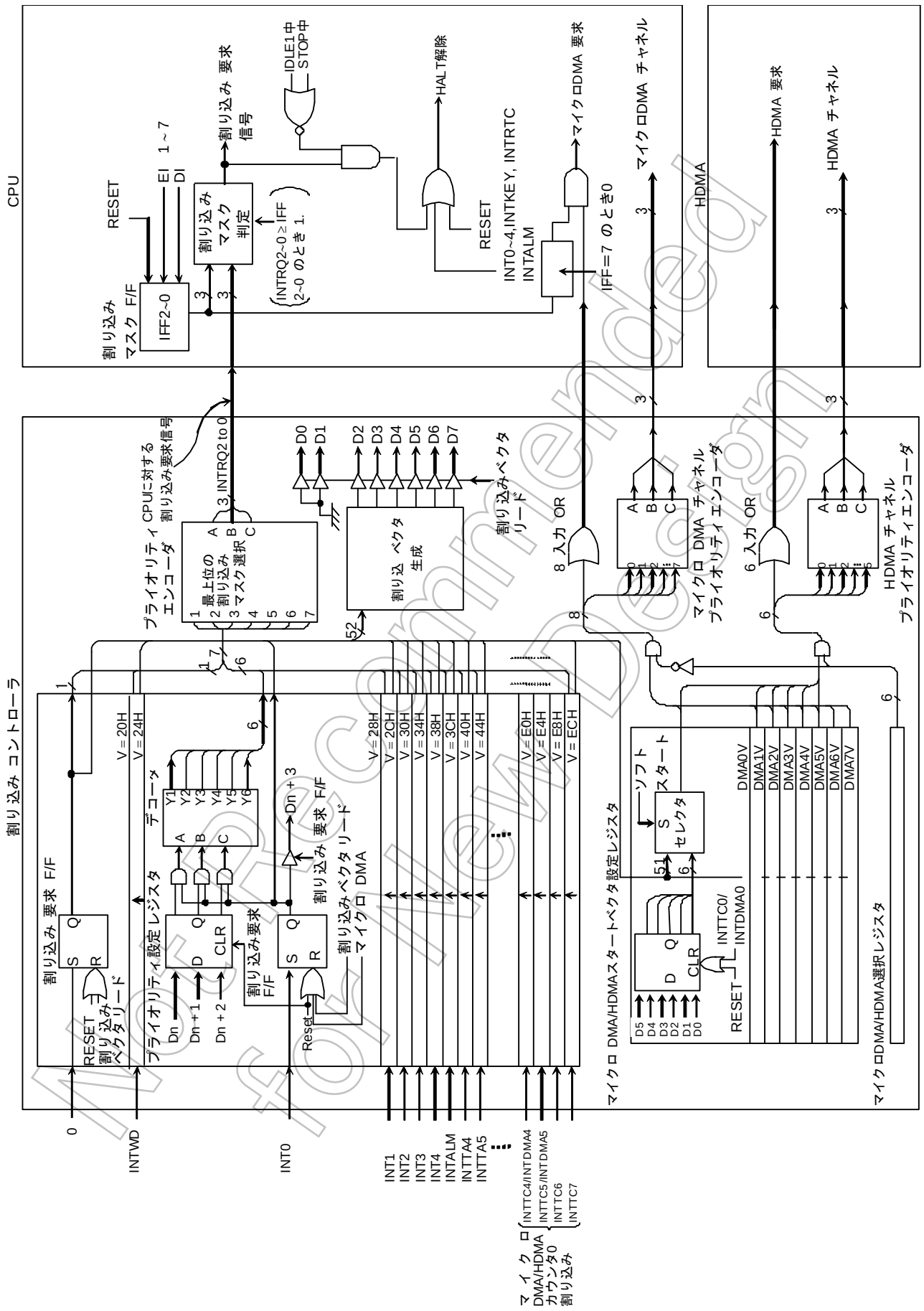


図 3.6.3　割り込み コントローラブロック図

Not recommended for New Design

(1) 割り込み レベル設定レジスタ

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
INTE0	INT0 enable	F0H	–				INT0			
			–	–	–	–	I0C	I0M2	I0M1	I0M0
			–	–			R	R/W		
			“0”をライトしてください				0	0	0	0
INTE12	INT1 & INT2 enable	D0H	INT2				INT1			
			I2C	I2M2	I2M1	I2M0	I1C	I1M2	I1M1	I1M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTE34	INT3 & INT4 enable	D1H	INT4				INT3			
			I4C	I4M2	I4M1	I4M0	I3C	I3M2	I3M1	I3M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTE56	INT5 & INT6 enable	D2H	INT6				INT5			
			I6C	I6M2	I6M1	I6M0	I5C	I5M2	I5M1	I5M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTE7	INT7 enable	D3H	–				INT7			
			–	–	–	–	I7C	I7M2	I7M1	I7M0
			–	–			R	R/W		
			“0”をライトしてください				0	0	0	0
INTETA01	INTTA0 & INTTA1 enable	D4H	INTTA1 (TMRA1)				INTTA0 (TMRA0)			
			ITA1C	ITA1M2	ITA1M1	ITA1M0	ITA0C	ITA0M2	ITA0M1	ITA0M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTETA23	INTTA2 & INTTA3 enable	D5H	INTTA3 (TMRA3)				INTTA2 (TMRA2)			
			ITA3C	ITA3M2	ITA3M1	ITA3M0	ITA2C	ITA2M2	ITA2M1	ITA2M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTETA45	INTTA4 & INTTA5 enable	D6H	INTTA5 (TMRA5)				INTTA4 (TMRA4)			
			ITA5C	ITA5M2	ITA5M1	ITA5M0	ITA4C	ITA4M2	ITA4M1	ITA4M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTETA67	INTTA6 & INTTA7 enable	D7H	INTTA7 (TMRA7)				INTTA6 (TMRA6)			
			ITA7C	ITA7M2	ITA7M1	ITA7M0	ITA6C	ITA6M2	ITA6M1	ITA6M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0

割り込み要求フラグ

IxxM2	IxxM1	IxxM0	機能 (ライト)
0	0	0	割り込み要求を禁止に設定
0	0	1	割り込みレベルを “1”に設定
0	1	0	割り込みレベルを“2”に設定
0	1	1	割り込みレベルを“3”に設定
1	0	0	割り込みレベルを“4”に設定
1	0	1	割り込みレベルを“5”に設定
1	1	0	割り込みレベルを“6”に設定
1	1	1	割り込み要求を禁止に設定

Not Recommended for New Design

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
INTETB0	INTTB00 & INTTB01 enable	D8H	INTTB01 (TMRB0)				INTTB00 (TMRB0)			
			ITB01C	ITB01M2	ITB01M1	ITB01M0	ITB00C	ITB00M2	ITB00M1	ITB00M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTETB1	INTTB10 & INTTB11 enable	D9H	INTTB11 (TMRB1)					INTTB10 (TMRB1)		
			ITB11C	ITB11M2	ITB11M1	ITB11M0	ITB10C	ITB10M2	ITB10M1	ITB10M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTES0	INTRX0 & INTTX0 enable	DBH	INTTX0					INTRX0		
			ITX0C	ITX0M2	ITX0M1	ITX0M0	IRX0C	IRX0M2	IRX0M1	IRX0M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTES1	INTRX1 & INTTX1 enable	DCH	INTTX1					INTRX1		
			ITX1C	ITX1M2	ITX1M1	ITX1M0	IRX1C	IRX1M2	IRX1M1	IRX1M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTESBIADM	INTSBI & INTADM enable	E0H	INTADM					INTSBI		
			IADM0C	IADMM2	IADMM1	IADMM0	ISBI0C	ISBIM2	ISBIM1	ISBIM0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTESPI	INTSPI enable	E1H	INTSPITX					INTSPIRX		
			ISPITC	ISPITM2	ISPITM1	ISPITM0	ISPIRC	ISPIRM2	ISPIRM1	ISPIRM0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTEUSB	INTUSB enable	E3H	–					INTUSB		
			–	–	–	–	IUSBC	IUSBM2	IUSBM1	IUSBM0
			–	–			R	R/W		
			“0”をライトしてください				0	0	0	0
INTEALM	INTALM enable	E5H	–					INTALM		
			–	–	–	–	IALMC	IALMM2	IALMM1	IALMM0
			–	–			R	R/W		
			“0”をライトしてください				0	0	0	0
INTERTC	INTRTC enable	E8H	–					INTRTC		
			–	–	–	–	IRC	IRM2	IRM1	IRM0
			–	–			R	R/W		
			“0”をライトしてください				0	0	0	0

割り込み要求フラグ

IxxM2	IxxM1	IxxM0	機能 (ライト)
0	0	0	割り込み要求を禁止に設定
0	0	1	割り込みレベルを“1”に設定
0	1	0	割り込みレベルを“2”に設定
0	1	1	割り込みレベルを“3”に設定
1	0	0	割り込みレベルを“4”に設定
1	0	1	割り込みレベルを“5”に設定
1	1	0	割り込みレベルを“6”に設定
1	1	1	割り込み要求を禁止に設定

Not Recommended for New Design

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
INTEKEY	INTKEY enable	E9H	–				INTKEY			
			–	–	–	–	IKC	IKM2	IKM1	IKM0
			–	–			R	R/W		
			“0”をライトしてください				0	0	0	0
INTELCD	INTLCD enable	EAH	–				INTLCD			
			–	–	–	–	ILCD1C	ILCDM2	ILCDM1	ILCDM0
			–	–			R	R/W		
			“0”をライトしてください				0	0	0	0
INTEI2S0	INTI2S0 enable	EBH	–				INTI2S0			
			–	–	–	–	I I2S0C	II2S0M2	II2S0M1	II2S0M0
			–	–			R/W	R/W		
			“0”をライトしてください				0	0	0	0
INTENDFC	INTRSC & INTRDY enable	ECH	INTRSC				INTRDY			
			IRSCC	IRSCM2	IRSCM1	IRSCM0	IRDYC	IRDYM2	IRDYM1	IRDYM0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTEP0	INTP0 enable	EEH	–				INTP0			
			–	–	–	–	IP0C	IP0M2	IP0M1	IP0M0
			–	–			R	R/W		
			“0”をライトしてください				0	0	0	0
INTEAD	INTAD & INTADHP enable	EFH	INTADHP				INTAD			
			IADHPC	IADHPM2	IADHPM1	IADHPM0	IADC	IADM2	IADM1	IADM0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0

割り込み要求フラグ

IxxM2	IxxM1	IxxM0	機能 (ライト)
0	0	0	割り込み要求を禁止に設定
0	0	1	割り込みレベルを“1”に設定
0	1	0	割り込みレベルを“2”に設定
0	1	1	割り込みレベルを“3”に設定
1	0	0	割り込みレベルを“4”に設定
1	0	1	割り込みレベルを“5”に設定
1	1	0	割り込みレベルを“6”に設定
1	1	1	割り込み要求を禁止に設定

Not Recommended for New Design

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
INTETC01 /INTEDMA01	INTTC0/INTDMA0 & INTTC1/INTDMA1 enable	F1H	INTTC1/INTDMA1				INTTC0/INTDMA0			
			ITC1C /IDMA1C	ITC1M2 /IDMA1M2	ITC1M1 /IDMA1M1	ITC1M0 /IDMA1M0	ITC0C /IDMA0C	ITC0M2 /IDMA0M2	ITC0M1 /IDMA0M1	ITC0M0 /IDMA0M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTETC23 /INTEDMA23	INTTC2/INTDMA2 & INTTC3/INTDMA3 Enable	F2H	INTTC3/INTDMA3				INTTC2/INTDMA2			
			ITC3C /IDMA3C	ITC3M2 /IDMA3M2	ITC3M1 /IDMA3M1	ITC3M0 /IDMA3M0	ITC2C /IDMA2C	ITC2M2 /IDMA2M2	ITC2M1 /IDMA2M1	ITC2M0 /IDMA2M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTETC45 /INTEDMA45	INTTC4/INTDMA4 & INTTC5/INTDMA5 Enable	F3H	INTTC5/INTDMA5				INTTC4/INTDMA4			
			ITC5C /IDMA5C	ITC5M2 /IDMA5M2	ITC5M1 /IDMA5M1	ITC5M0 /IDMA5M0	ITC4C /IDMA4C	ITC4M2 /IDMA4M2	ITC4M1 /IDMA4M1	ITC4M0 /IDMA4M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTETC67	INTTC6 & INTTC7 enable	F4H	INTTC7 (DMA7)				INTTC6 (DMA6)			
			ITC7C	ITC7M2	ITC7M1	ITC7M0	ITC6C	ITC6M2	ITC6M1	ITC6M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTWDT	INTWD enable	F7H	–				INTWD			
			–	–	–	–	ITCWD	–	–	–
			–	–			R			
			“0”をライトしてください。				0	–	–	–

割り込み要求フラグ

IxxM2	IxxM1	IxxM0	機能 (ライト)
0	0	0	割り込み要求を禁止に設定
0	0	1	割り込みレベルを“1”に設定
0	1	0	割り込みレベルを“2”に設定
0	1	1	割り込みレベルを“3”に設定
1	0	0	割り込みレベルを“4”に設定
1	0	1	割り込みレベルを”5”に設定
1	1	0	割り込みレベルを”6”に設定
1	1	1	割り込み要求を禁止に設定

Not Recommended for New Design

(2) 外部割り込み制御

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
IIMC0	Interrupt input mode control 0	F6H (RMW 禁)	I5EDGE	I4EDGE	I3EDGE	I2EDGE	I1EDGE	I0EDGE	I0LE	–
			W						R/W	R/W
			0	0	0	0	0	0	0	0
			INT5 エッジ 0:立ち上がり 1: 立ち下がり	INT4 エッジ 0:立ち上がり 1: 立ち下がり	INT3 エッジ 0:立ち上がり 1: 立ち下がり	INT2 エッジ 0:立ち上がり 1: 立ち下がり	INT1 エッジ 0:立ち上がり 1: 立ち下がり	INT0 エッジ 0:立ち上がり 1: 立ち下がり	0:INT0 エッジモード 1:INT0 レベルモード	"0"をライトしてください。
IIMC1	Interrupt input mode control 1	FAH (RMW 禁)							I7EDGE	I6EDGE
									W	
									0	0
									INT7 エッジ 0:立ち上がり 1: 立ち下がり	INT6 エッジ 0:立ち上がり 1: 立ち下がり

注 1) INT0 端子のモードをレベルにしてからエッジに切り替える場合(<I0LE>を "1"から "0"へ)、INT0 を禁止してから切り替えてください。

```
DI
LD      (IIMC0), XXXXXX0-B   ;レベルからエッジに切り替える
LD      (INTCLR), 0AH        ;割り込み要求フラグをクリア

NOP                          ;EI の実行をウェイト
NOP
NOP
EI
```

注) X = Don't care; "-" = No change.

注 2) 外部割り込みの入力パルス幅にはスペックがあります。「4.電気的特性」を参照して下さい。

注 3)ポートの設定において、16 ビットタイマ入力を選択しキャプチャー制御を行う場合、INT6,INT7 は、IIMC1 レジスタの設定ではなく、TBnMOD<TBnCPM1:0>の設定に従って動作します。

外部割り込み端子 機能

割り込み	端子名	モード	設定方法
INT0	PC0	立ち上がりエッジ	<I0LE> = 0,<I0EDGE> = 0
		立ち下がりエッジ	<I0LE> = 0, <I0EDGE> = 1
		High レベル	<I0LE> = 1
INT1	PC1	立ち上がりエッジ	<I1EDGE> = 0
		立ち下がり エッジ	<I1EDGE> = 1
INT2	PC2	立ち上がり エッジ	<I2EDGE> = 0
		立ち下がり エッジ	<I2EDGE> = 1
INT3	PC3	立ち上がり エッジ	<I3EDGE> = 0
		立ち下がり エッジ	<I3EDGE> = 1
INT4	P96	立ち上がり エッジ	<I4EDGE> = 0
		立ち下がり エッジ	<I4EDGE> = 1
INT5	PP3	立ち上がりエッジ	<I5EDGE> = 0
		立ち下がり エッジ	<I5EDGE> = 1
INT6	PP4	立ち上がりエッジ	<I6EDGE> = 0
		立ち下がり エッジ	<I6EDGE> = 1
INT7	PP5	立ち上がりエッジ	<I7EDGE> = 0
		立ち下がり エッジ	<I7EDGE> = 1

Not Recommended for New Design

(3) SIO 受信割り込み制御

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
SIMC	SIO interrupt mode control	F5H (RMW 禁)	–	–					IR1LE	IR0LE
			W						W	
			0	0					1	1
			“0”をライトしてください 注)	“0”をライトしてください					0:INTRX1 エッジモード 1:INTRX1 レベルモード	0:INTRX0 エッジモード 1:INTRX0 レベルモード

注) マイクロ DMA 終了割り込みを使う場合は、常に“1”をライトしてください。

INTRX エッジ Enable

0	エッジ 検出 INTRX
1	“H”レベル INTRX

Not Recommended for New Design

(4) 割り込み要求フラグクリアレジスタ

割り込み要求フラグのクリアは、INTCLR レジスタにマイクロ DMA/HDMA 起動ベクタをライトする事で行います。

例えば、INT0 割り込みフラグをクリアする場合、DI 命令後に下記のレジスタ操作を行います。

INTCLR ← 0AH　INT0 割り込み要求フラグのクリア

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
INTCLR	Interrupt clear control	F8H (RMW 禁)	CLRV7	CLRV6	CLRV5	CLRV4	CLRV3	CLRV2	CLRV1	CLRV0
			W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			割り込みベクタ							

(5)マイクロ DMA/HDMA スタートベクタレジスタ

マイクロ DMA/HDMA 処理をどの割り込み要因に割り当てるかを選択するレジスタです。このレジスタに設定されたベクタ値と一致するマイクロ DMA/HDMA 起動ベクタを持つ割り込み要因をマイクロ DMA/HDMA 起動要因として割り当てます。

マイクロ DMA 転送カウンタ(DMACn)、もしくは HDMA 転送カウンタ B(HDMACBn)が“0”になると、割り込みコントローラにそのチャネルに相当するマイクロ DMA/HDMA 転送終了割り込みが伝えられるとともに、このマイクロ DMA/HDMA 起動ベクタレジスタはクリアされ、そのチャネルのマイクロ DMA/HDMA 起動要因がクリアされますので、引き続きマイクロ DMA/HDMA 処理をさせたい場合は、マイクロ DMA/HDMA 転送終了割り込み処理の中で、再度このマイクロ DMA/HDMA 起動ベクタレジスタをセットする必要があります。

また、複数チャネルのマイクロ DMA/HDMA 起動ベクタレジスタに同一ベクタが設定されている場合は、チャネル番号の小さい方が優先されます。

したがって、2 チャネルのマイクロ DMA/HDMA 起動ベクタレジスタに同一ベクタが設定されている場合、チャネル番号の小さいチャネルがマイクロ DMA/HDMA 転送終了になるまで実行され、そのチャネルのマイクロ DMA/HDMA 起動ベクタを再度設定しなければ、その後のマイクロ DMA/HDMA 起動はチャネル番号の大きいチャネルに移行します。(マイクロ DMA/HDMA のチェーン)

Not Recommended for New Design

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
DMA0V	DMA0 start vector	100H			DMA0V5	DMA0V4	DMA0V3	DMA0V2	DMA0V1	DMA0V0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					DMA0 起動ベクタ					
DMA1V	DMA1 start vector	101H			DMA1V5	DMA1V4	DMA1V3	DMA1V2	DMA1V1	DMA1V0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					DMA1 起動ベクタ					
DMA2V	DMA2 start vector	102H			DMA2V5	DMA2V4	DMA2V3	DMA2V2	DMA2V1	DMA2V0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					DMA2 起動ベクタ					
DMA3V	DMA3 start vector	103H			DMA3V5	DMA3V4	DMA3V3	DMA3V2	DMA3V1	DMA3V0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					DMA3 起動ベクタ					
DMA4V	DMA4 start vector	104H			DMA4V5	DMA4V4	DMA4V3	DMA4V2	DMA4V1	DMA4V0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					DMA4 起動ベクタ					
DMA5V	DMA5 start vector	105H			DMA5V5	DMA5V4	DMA5V3	DMA5V2	DMA5V1	DMA5V0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					DMA5 起動ベクタ					
DMA6V	DMA6 start vector	106H			DMA6V5	DMA6V4	DMA6V3	DMA6V2	DMA6V1	DMA6V0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					DMA6 起動ベクタ					
DMA7V	DMA7 start vector	107H			DMA7V5	DMA7V4	DMA7V3	DMA7V2	DMA7V1	DMA7V0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					DMA7 起動ベクタ					

(6)マイクロ DMA/HDMA 選択レジスタ

マイクロ DMA 処理もしくは HDMA 処理のどちらを起動するかを選択するレジスタです。

マイクロ DMA/HDMA 起動ベクタレジスタ(DMAnV)は、マイクロ DMA および HDMA 機能で兼用しています。マイクロ DMA/HDMA 起動ベクタレジスタに設定されたベクタ値と一致する割り込み要因が発生した時にマイクロ DMA および HDMA 機能のどちらを起動するかを選択するレジスタです。

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
DMASEL	Micro DMA/HDMA select	10AH			DMASEL5	DMASEL4	DMASEL3	DMASEL2	DMASEL1	DMASEL0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					0:マイクロ DMA5 1:HDMA5	0:マイクロ DMA4 1:HDMA4	0:マイクロ DMA3 1:HDMA3	0:マイクロ DMA2 1:HDMA2	0:マイクロ DMA51 1:HDMA1	0:マイクロ DMA0 1:HDMA0

Not Recommended for New Design

(7) マイクロＤＭＡのバースト指定

マイクロ DMA 処理はバースト指定を行うことにより、1 回のマイクロ DMA 起動で転送カウンタ・レジスタが“0”になるまで、連続転送を行う事が可能です。下記に示す DMAB レジスタのマイクロ DMA チャネルに対応するビットを “1”にすることで、バースト指定できます。

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
DMAB	DMA burst	108H	DBST7	DBST6	DBST5	DBST4	DBST3	DBST2	DBST1	DBST0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			1: DMA バースト要求							

Not Recommended for New Design

(8) 注意事項

CPU は、命令実行ユニットとバスインタフェースユニットが分離されています。そのため、割り込みが発生する直前に、その割り込みコントローラの割り込み要求フラグをクリアする命令をフェッチした場合、CPU が割り込みを受け付けて、割り込みベクタをリードするまでの間に、その割り込み要求フラグをクリアする命令(注)を実行するということがあり得ます。この場合、CPU は要因消滅ベクタ "0004H"をリードし、FFFF04H 番地の割り込みベクタをリードします。

上記の現象を回避するため、割り込み要求フラグをクリアする時は、DI 命令の後にクリアする命令を置くようにして下さい。クリアする命令を実行した後、再び EI 命令で割り込みをイネーブルにするときは、クリア命令後必ず 3 命令(例 : "NOP"が 3 回)以上間をおいてから EI 命令を実行してください。クリア命令後すぐに EI 命令を実行すると、割り込み要求フラグがクリアされる前に、割り込みイネーブルになることがあります。

また、POP SR 命令により割り込みマスクレベル (ステータスレジスタ SR の<IFF2:0>) を書き替えるときは、必ず DI 命令により割り込みを禁止した後に POP SR 命令を実行してください。

さらに、以下の 2 点は例外の回路になっていますので注意が必要です。

INT0 の レベルモード	エッジタイプの割り込みでないため、割り込み要求用フリップフロップ機能はキャンセルされ、周辺割り込み要求がそのままフリップフロップの S 入力を素通りし、Q出力になります。モード変更(エッジ→レベル)を行った場合、以前の割り込み要求フラグは、自動的にクリアされます。

	INT0 を "0" から "1" にすることによって、CPU が割り込み応答シーケンスに入ったときは、その割り込み応答シーケンスが完了するまで INT0 を "1" のままにしておく必要があります。また、INT0 のレベルモードを HALT の解除に使用する場合も一度 "0" から "1" にした場合は、HALT が解除されるまで必ず "1" に保持しておく必要があります。(ノイズによって途中で "0" が入ることがないようにしてください。)
	レベルモードからエッジモードへ切り替えたとき、そのレベルモード時に受け付けた割り込み要求フラグは、クリアされません。そのため、割り込み要求フラグを以下にシーケンスでクリアしてください。
	
	DI
	LD (IIMC0), 00H ; レベルからエッジへ切り替える
	LD (INTCLR), 0AH ; INT0 割り込み要求フラグをクリア
	NOP ; EI の実行をウェイト
	NOP
	NOP
	EI

INTRX	レベルモード時、割り込み要求用フリップフロップをクリアするには、リセット動作またはシリアルチャネルの受信バッファをリードする必要があります。INTCLR レジスタライトによるクリアはできません。

注: 下記の命令および端子変化も、この割り込み要求フラグをクリアする命令に相当します。

INT0: エッジモードで割り込み要求発生後のレベルモードへの切り替え命令

レベルモードでの割り込み要求発生後の端子入力変化("H"→ "L")

INTRX: 受信バッファをリードする命令

Not Recommended for New Design

3.7 DMAC (DMA Controller)

6 チャネルの DMAC を内蔵しています。この DMAC は 900/H1 CPU によるマイクロ DMA 機能よりも、高速にデータ転送を実現可能です。

下記に特長を示します。

1) 独立した 6 チャネルの DMA 設定が可能です。

2) 転送開始要求の種類

チャネルごとに INTC(割込みコントローラ)に接続された割込み要求ソースのハード要求 またはソフト要求の 2 種類より選択可能です。

3) 転送デバイス

チャネルごとにメモリ → メモリ, メモリ → I/O, I/O →メモリ, I/O→ I/O の 4 種類から選択可能です。

4) 転送時のアドレスモード

デュアルアドレスモードのみ対応しています。

5) カウントレジスタの 2 重構造 および DMA 終了割込み

1 回の要求で複数回の DMA を実行し、それを複数回実行可能な様にカウントレジスタを 2 つ持っています。また、DMA 終了割込み: INTDMA0(INTDMA5 をアサートし汎用割込み処理中で 次の処理準備などに対応できる様になっています。

6) チャネル間優先順位 (INTC のマイクロ DMA 受付仕様と同じ)

基本的に要求の順番に従って受付けます。ただし、同時に要求がアサートされた場合もしくは 他処理中のため待たされ 同時にアサートされたものとみなされる場合はチャネル番号の少ない方が優先されます。

7) DMAC バス占有回避機能

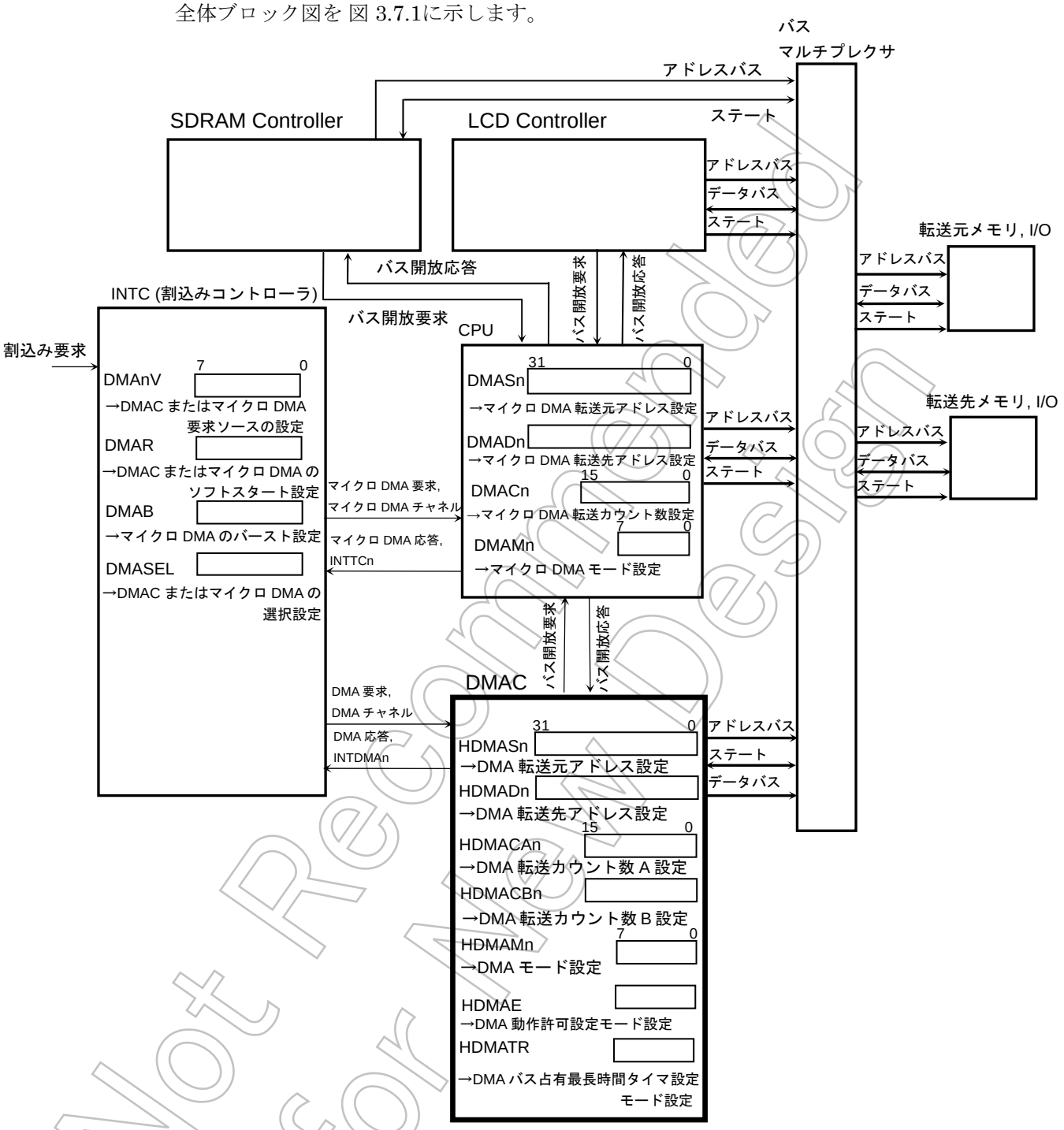
DMAC によるバス占有により、CPU または LCDC が停止してしまう事を回避可能な様に 内部に専用タイマを備えています。

8) HALT(IDLE2)状態も動作

Not Recommended for New Design

3.7.1 ブロック図

全体ブロック図を 図 3.7.1に示します。



注) チャネル番号を表すために “n”を使用していますが、マイクロ DMA は 0~7 で DMA は 0~5 です。

図 3.7.1 全体ブロック図

Not Recommended for New Design

3.7.2 SFR

DMAC の SFR を以下に説明します。これらは 16 ビットデータバスで CPU に接続されています。

(1) HDMASn (DMA 転送元アドレス設定レジスタ)

DMA 転送元アドレスを設定するレジスタです。DMA 実行により、転送元アドレスが更新される場合、このレジスタも更新されます。

HDMAS0~HDMAS5 までありますがレジスタ構成は全て同じです。

バスサイジング機能もサポートしますが アドレスのアライメント機能はありませんので 2 バイトの際は偶数アドレス、4 バイト転送の際は、4 の整数倍のアドレスを設定するようにしてください。

HDMASn レジスタ

HDMASn		7	6	5	4	3	2	1	0
	bit Symbol	DnSA7	DnSA6	DnSA5	DnSA4	DnSA3	DnSA2	DnSA1	DnSA0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	DMAn 用転送元アドレス 7~0 を設定							
		15	14	13	12	11	10	9	8
	bit Symbol	DnSA15	DnSA14	DnSA13	DnSA12	DnSA11	DnSA10	DnSA9	DnSA8
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	DMAn 用転送元アドレス 15~8 を設定							
		7	6	5	4	3	2	1	0
	bit Symbol	DnSA23	DnSA22	DnSA21	DnSA20	DnSA19	DnSA18	DnSA17	DnSA16
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	DMAn 用転送元アドレス 23~16 を設定							

チャネルごとのレジスタ名、アドレス

	転送元アドレス [23:16]	転送元アドレス [15:8]	転送元アドレス [7:0]
チャネル 0	(0902H)	(0901H)	HDMAS0 (0900H)
チャネル 1	(0912H)	(0911H)	HDMAS1 (0910H)
チャネル 2	(0922H)	(0921H)	HDMAS2 (0920H)
チャネル 3	(0932H)	(0931H)	HDMAS3 (0930H)
チャネル 4	(0942H)	(0941H)	HDMAS4 (0940H)
チャネル 5	(0952H)	(0951H)	HDMAS5 (0950H)

注) 全てのレジスタはリードモディファイライト可能です。

図 3.7.2 HDMASn レジスタ

Not Recommended for New Design

(2) HDMADn (DMA 転送先アドレス設定レジスタ)

DMA 転送先アドレスを設定するレジスタです。DMA 実行により、転送元アドレスが更新される場合、このレジスタも更新されます。

HDMAD0~HDMAD5 までありますがレジスタ構成は全て同じです。

バスサイジング機能もサポートしますが アドレスのアライメント機能はありませんので 2 バイトの際は偶数アドレス、4 バイト転送の際は、4 の整数倍のアドレスを設定するようにしてください。

HDMADn レジスタ

HDMADn		7	6	5	4	3	2	1	0
	bit Symbol	DnDA7	DnDA6	DnDA5	DnDA4	DnDA3	DnDA2	DnDA1	DnDA0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	DMAn 用転送先アドレス 7~0 を設定							
		15	14	13	12	11	10	9	8
	bit Symbol	DnDA15	DnDA14	DnDA13	DnDA12	DnDA11	DnDA10	DnDA9	DnDA8
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	DMAn 用転送先アドレス 15~8 を設定							
		7	6	5	4	3	2	1	0
	bit Symbol	DnDA23	DnDA22	DnDA21	DnDA20	DnDA19	DnDA18	DnDA17	DnDA16
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	DMAn 用転送先アドレス 23~16 を設定							

チャネルごとのレジスタ名、アドレス

	転送先アドレス [23:16]	転送先アドレス [15:8]	転送先アドレス [7:0]
チャネル 0	(0906H)	(0905H)	HDMAD0 (0904H)
チャネル 1	(0916H)	(0915H)	HDMAD1 (0914H)
チャネル 2	(0926H)	(0925H)	HDMAD2 (0924H)
チャネル 3	(0936H)	(0935H)	HDMAD3 (0934H)
チャネル 4	(0946H)	(0945H)	HDMAD4 (0944H)
チャネル 5	(0956H)	(0955H)	HDMAD5 (0954H)

注) 全てのレジスタはリードモディファイライト可能です。

図 3.7.3 HDMADn レジスタ

Not Recommended for New Design

(3) HDMACAn (DMA 転送カウント数 A 設定レジスタ)

1 回の DMA 要求で転送する回数を設定するレジスタです。各レジスタは 16bit で構成され 1 回~65536 回(0001H 設定で 1 回、FFFFH 設定で 65535 回、0000H 設定で 65536 回)まで設定できます。DMA 実行により、転送カウント数 A が更新される場合でも、このレジスタは更新されません。

HDMACA0~HDMACA5 までありますがレジスタ構成は全て同じです。

HDMACAn レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
HDMACAn	bit Symbol	DnCA7	DnCA6	DnCA5	DnCA4	DnCA3	DnCA2	DnCA1	DnCA0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	DMAn 用転送カウント数 A7~0 を設定							
		15	14	13	12	11	10	9	8
	bit Symbol	DnCA15	DnCA14	DnCA13	DnCA12	DnCA11	DnCA10	DnCA9	DnCA8
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	DMAn 用転送カウント数 A15~8 を設定							

チャネルごとのレジスタ名、アドレス

	転送カウント数 A [15:8]	転送カウント数 A [7:0]
チャネル 0	(0909H)	HDMACA0 (0908H)
チャネル 1	(0919H)	HDMACA1 (0918H)
チャネル 2	(0929H)	HDMACA2 (0928H)
チャネル 3	(0939H)	HDMACA3 (0938H)
チャネル 4	(0949H)	HDMACA4 (0948H)
チャネル 5	(0959H)	HDMACA5 (0958H)

注) 全てのレジスタはリードモディファイライト可能です。

図 3.7.4 HDMACAn レジスタ

Not Recommended for New Design

(4) HDMACBn (DMA 転送カウント数 B 設定レジスタ)

DMA 要求回数を設定するレジスタです。各レジスタは 16bit で構成され 1 回~65536 回(0001H 設定で 1 回、FFFFH 設定で 65535 回、0000H 設定で 65536 回)まで設定できます。DMA 実行により、転送カウント数 B が更新される場合、このレジスタは更新されます。

HDMACB0~HDMACB5 までありますがレジスタ構成は全て同じです。

HDMACBn レジスタ

HDMACBn	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	DnCB7	DnCB6	DnCB5	DnCB4	DnCB3	DnCB2	DnCB1	DnCB0
Read/Write	R/W							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
機能	DMAn 用転送カウント数 B7~0 を設定							
	15	14	13	12	11	10	9	8
bit Symbol	DnCB15	DnCB14	DnCB13	DnCB12	DnCB11	DnCB10	DnCB9	DnCB8
Read/Write	R/W							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
機能	DMAn 用転送カウント数 B15~8 を設定							

チャネルごとのレジスタ名、アドレス

	転送カウント数 B [15:8]	転送カウント数 B [7:0]
チャネル 0	(090BH)	HDMACB0 (090AH)
チャネル 1	(091BH)	HDMACB1 (091AH)
チャネル 2	(092BH)	HDMACB2 (092AH)
チャネル 3	(093BH)	HDMACB3 (093AH)
チャネル 4	(094BH)	HDMACB4 (094AH)
チャネル 5	(095BH)	HDMACB5 (095AH)

注) 全てのレジスタはリードモディファイライト可能です。

図 3.7.5 HDMACBn レジスタ

Not Recommended for New Design

(5) HDMAMn (DMA 転送モード設定レジスタ)

DMA 転送モードを設定するレジスタです。

HDMAM0~HDMAM5 までありますがレジスタ構成は全て同じです。

HDMAMn レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
HDMAMn	bit Symbol				DnM4	DnM3	DnM2	DnM1	DnM0
	Read/Write				R/W				
	リセット後				0	0	0	0	0
	機能				DMA 転送モード選択 000 : 転送先 INC (I/O → MEM) 001 : 転送先 DEC (I/O → MEM) 010 : 転送元 INC (MEM → I/O) 011 : 転送元 DEC (MEM → I/O) 100 : 転送元/先 INC(MEM → MEM) 101 : 転送元/先 DEC(MEM → MEM) 110 : 転送元/先固定 (I/O→ I/O) 111 : Reserved 注 2)			転送データサイズ 00 : 1 バイト 01 : 2 バイト 10 : 4 バイト 11 : Reserved	

チャネルごとのレジスタ名、アドレス

	転送モード [7:0]
チャネル 0	HDMAM0 (090CH)
チャネル 1	HDMAM1 (091CH)
チャネル 2	HDMAM2 (092CH)
チャネル 3	HDMAM3 (093CH)
チャネル 4	HDMAM4 (094CH)
チャネル 5	HDMAM5 (095CH)

注 1) 全てのレジスタはリードモディファイライト可能です。

注 2) INC: ポストインクリメント
DEC: ポストデクリメント
I/O: 固定されたメモリアドレス
MEM: インクリメントあるいはデクリメントするメモリアドレス

図 3.7.6 HDMAMn レジスタ

Not Recommended for New Design

(6) HDMAE (DMA 動作許可レジスタ)

DMAC 動作の許可/禁止を設定するレジスタです。

チャネルごとに 1bit ずつ準備されています。未使用のチャネルは “0”に設定してください。

HDMAE レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
HDMAE (097EH)	bit Symbol			DMAE5	DMAE4	DMAE3	DMAE2	DMAE1	DMAE0
	Read/Write			R/W					
	リセット後			0	0	0	0	0	0
	機能			DMA チャネル動作許可 0: Disable 1: Enable					

注) 全てのレジスタはリードモディファイライト可能です。

図 3.7.7 HDMAE レジスタ

(7) HDMATR (DMA バス占有最長時間タイマレジスタ)

DMAC がバスを占有し続けてよい最長時間を設定するレジスタです。92CF29A のバス権には優先レベルがありませんので 一度 DMAC がバス権を取得するとその後に他のバスマスタ(LCDC など)からのバス開放要求がアサートされても DMAC が転送終了してバス権を開放するまで待たされる事になります。これにより、例えば LCDC の表示用 DMA が実行できずに LCD 表示が誤動作する事を回避するために DMAC はバス権の連続取得時間をカウントしこのレジスタへ設定された時間数分を実行すると、全転送が終了していなくてもいったんバス権を開放し、16 ステート後に再びバス開放要求をアサートして引き続き、残りの DMA の実行をします。この機能は DMA チャネル 0~5 に無関係に、どのチャネルがバスを占有しても機能します。設定する場合は、HDMAE レジスタが“00H”の状態で HDMATR<DMATE>に “1”,<DMATR6:0>に値を設定してください。

注) DMAC 機能をソフトスタートする場合、DMAR レジスタに“1”を書いて起動しますが、転送終了の確認には、DMAR レジスタを使用しないでください。HDMATR を併用した場合、DMA 動作が完全に終了(B カウンタの値が“0”)する前に、一旦バス権を開放するため、DMAR レジスタの値は“0”にクリアされています。ご注意ください。

HDMATR レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
HDMATR (097FH)	bit Symbol	DMATE	DMATR6	DMATR5	DMATR4	DMATR3	DMATR2	DMATR1	DMATR0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	タイマ動作 0: Disable 1: Enable	バス占有最長時間設定 バス占有最長時間 / (256/f_{SYS}) で求めた値を設定してください。 なお、00H は設定禁止です。						

注) 全てのレジスタはリードモディファイライト可能です。

図 3.7.8 HDMATR レジスタ

Not Recommended for New Design

3.7.3 動作説明

DMAC の動作を個別に説明します。

(1) 全体フロー

割込み(DMA)が要求された場合の DMAC の処理フローを以下に示します。

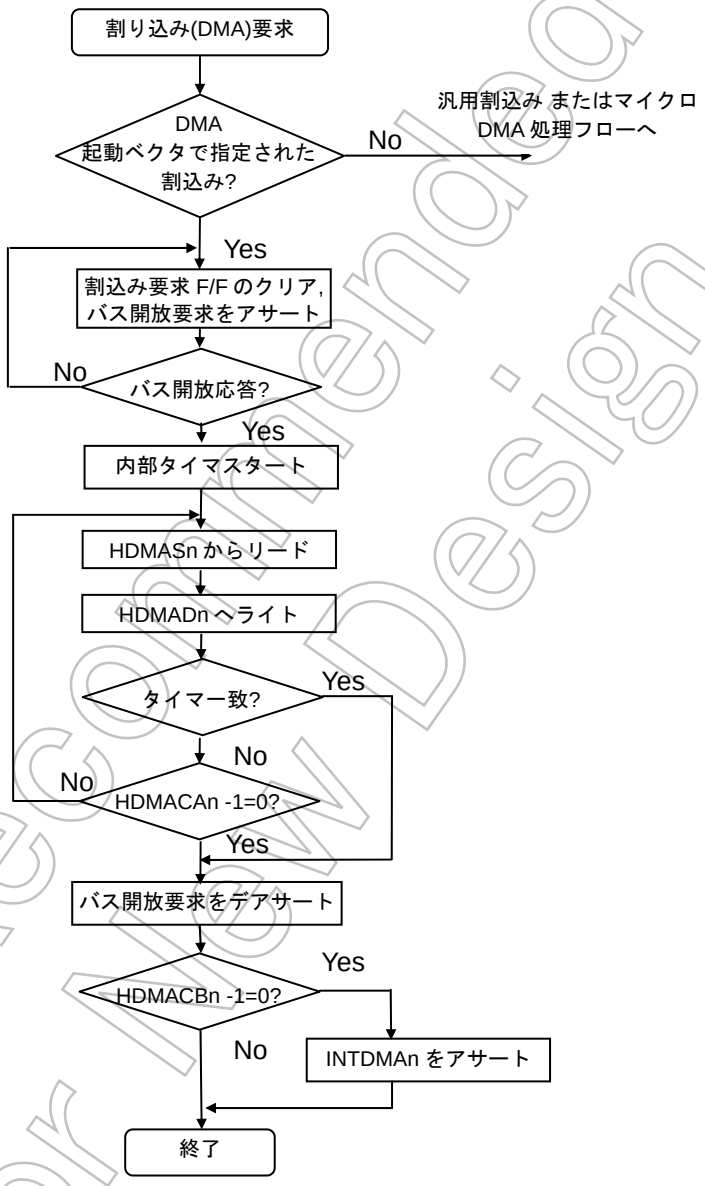


図 3.7.9 全体フロー

Not Recommended for New Design

(2) バスアービトレーション

TMP92CF29A では、CPU 以外でバスを使用するバスマスタは DMA コントローラ、LCD コントローラ、SDRAM コントローラの 3 つのコントローラが存在します。各々は独立に動作し必要に応じて、CPU にバス開放要求をアサートしバス開放応答を受けるとバスマスタとして動作します。この 3 つのコントローラでの優先順位は特になく、開放要求をアサートしたものから順番に処理されます。一旦バス権を取得すると バス権を開放するまで 他のコントローラからのバス開放要求は待たされることになります。また、いずれかのバスマスタがバス権を取得している間は、ノンマスカブル割込み要求を含む CPU の処理も保留されます。

(3) 転送元/先メモリの設定

DMAC がアクセスする転送元,転送先に設定されるメモリ または I/O は TMP92CF29A の内部、外部メモリ共に設定可能です。外部メモリで MMU を使用する場合でも DMAC へのアドレス設定は、論理アドレスを設定してください。バス幅,ウエイト数はメモリコントローラへの設定値, 外部メモリのバンク機能は MMU への設定値に従って、アクセスします。

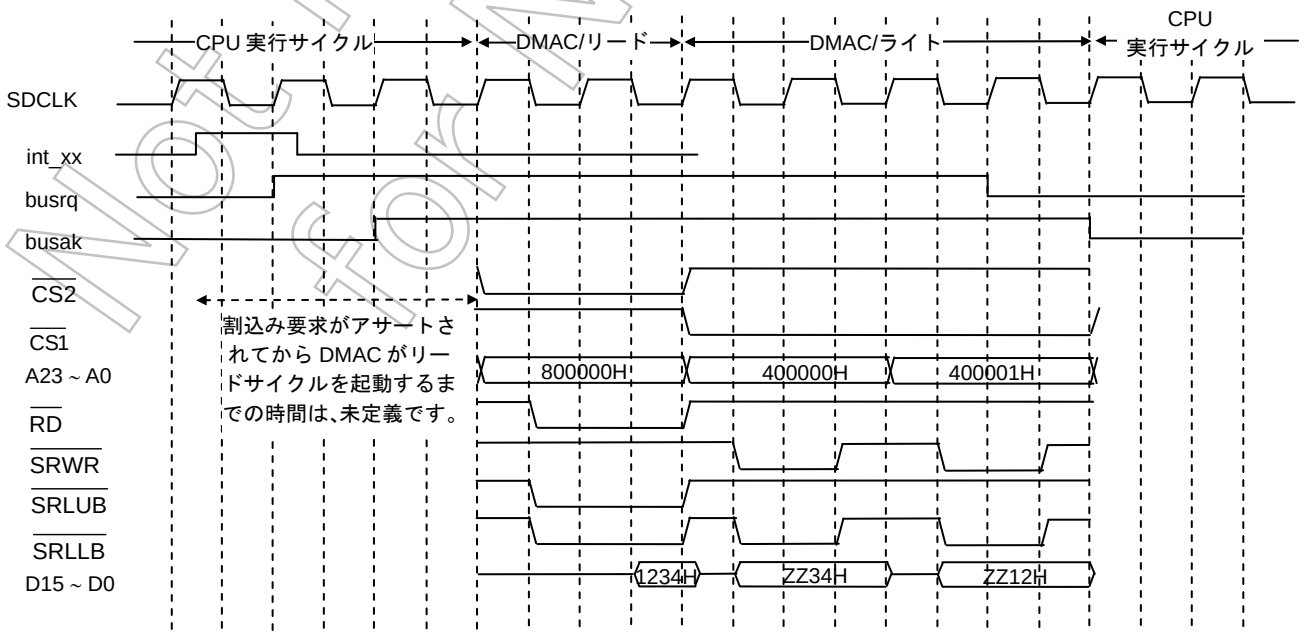
また、バスサイジング機能もサポートしますが アドレスのアライメント機能はありませんので 2 バイトの際は偶数アドレス、4 バイト転送の際は、4 の整数倍のアドレスを設定するようにしてください。

表 3.7.1 HDMA とマイクロ DMA のアドレス設定方法の違い

	転送長	HDMA	マイクロ DMA
Source address	1byte 転送	特に制限無し	特に制限無し
	2byte 転送	偶数アドレス	
	4byte 転送	4 の整数倍のアドレス	
Destination address	1byte 転送	特に制限無し	
	2byte 転送	偶数アドレス	
	4byte 転送	4 の整数倍のアドレス	

(4) 動作タイミング

以下に動作タイミング図の例を示します。これは、$\overline{CS2}$ エリアに接続される 16bit メモリから $\overline{CS1}$ に接続される 8bit メモリへ 2 バイト転送を 1 回実行した例です。



Not Recommended for New Design

3.7.4 設定例

DMAC の設定例を説明します。

(1) 内蔵 RAM 上の音楽データを I²S へ DMA 転送する場合

(転送仕様)

内蔵 RAM： 2000H~9FFFH までに格納される 32KB のデータを INTI2S 要求がアサートされるごとに 64B(4B×16 回)のデータを I²S の FIFO-RAM へ DMAC チャネル 0 を使用して転送します。ただし、INTI2S は I²S の FIFO エンプティ割込みであり 1 回目のデータ設定は事前に必要なため、最初の 64 バイトだけは DMA のソフト起動で転送します。また、32KB 転送終了後に INTDMA0 割込みルーチンにて次の処理の準備を設定します。

(a) メインルーチン

No	命令	コメント
1	ld xhl,2000H	;
2	ld (hdmas0), xhl	; 転送元アドレス=2000H に設定します
3	ld xde,i2sbuf	;
4	ld (hdmad0), xde	; 転送先アドレス=i2sbuf に設定します。
5	ldw (hdmaca0),16	; カウンタ A=16 に設定します。
6	ldw (hdmacb0),512	; カウンタ B=512 (32768/64) に設定します。
7	ldb (hdmam0),0AH	; 転送モード=転送元 INC,4 バイトに設定します。
8	set 0,(hdmae)	; DMA チャネル 0 動作許可に設定します。
9	ld (dmar),01H	; 最初の 64B をソフト起動で DMA 転送(最初の 1 回のみ)に設定します。
10	nop	;
11	ld (dma0v),i2s_vector	; INTI2S を DMA0 に設定します。
12	ld (intedma01),xxH	; INTDMA レベル=x に設定します。
13	ldw (i2sctl0),xxxxH	; I²S へ動作モード設定します。
14	ldw (i2sctl1),xxxxH	; I²S 送信開始します。
15	ei xx	; CPU 割込み許可します。

INTDMA0割込みルーチン

No	命令	コメント
1	res 0,(hdmae)	; DMA チャネル 0 動作を禁止します。
2	:	
3	:	
4	:	
5	:	
6		
7		
8		
9		
10		
11	reti	;

Not Recommended for New Design

3.7.5 使用上の注意

- ソフト起動時の注意点

  DMAC 機能をソフトスタートする場合、DMAR レジスタに“1”を書いて起動しますが、転送終了の確認には、DMAR レジスタを使用しないでください。HDMATR を併用した場合、DMA 動作が完全に終了(B カウンタの値が“0”)する前に、一旦バス権を開放するため、DMAR レジスタの値は“0”にクリアされています。転送終了の確認には、HDMACBn レジスタ(B カウンタ)の値をご利用ください。

Not Recommended for New Design

3.7.6 バス占有率の計算について

本 LSI には CPU 以外に LCD コントローラ、SDRAM コントローラ、および DMA コントローラがバスマスタとなる状態が存在します。そのため、各々の機能が円滑に動作するためには、使用時に注意が必要となります。

各々のバスマスタが行う DMA 動作をわかりやすく説明するために、DMAC 回路が行う DMA 転送を HDMA、LCD コントローラが行う表示 RAM からのリードを LDMA、さらに SDRAM コントローラが SDRAM に対し Auto Refresh 動作を行う動作を ARDMA と定義して説明します。

(1) CPU+ HDMA の同時使用の場合

DMA コントローラは、CPU に対してバス開放要求を出し、バス権を得た後に DMA 転送(HDMA)を行います。DMA コントローラは、CPU が HALT 状態(IDLE2 モードのみ)でも動作しますので、HALT 状態では CPU の動作を圧迫することはありませんが、CPU が動作中に同時に HDMA を起動した場合、HDMA 中は CPU の命令実行ができません。

このため、DMA コントローラを起動する際は、その転送時間と起動間隔、また同時に起動するチャネル数等の条件下において、CPU が停止する時間を(t_{STOP} (HDMA)と定義)事前に見積もっておく必要があります。

CPU バス停止率 = t_{STOP} (HDMA)[s] / HDMA 起動間隔 [周期: s]

HDMA 起動間隔 [周期: s] = HDMA 起動割込み周期 [周期: s]

注) HDMA 起動間隔は起動割込み要因の間隔となりますが、ソフトウェアでの起動も可能です。

t_{STOP} (HDMA) [s] = (Source リード時間 + Destination ライト時間) × 転送回数 + α

State / byte

対象メモリ / Read / Write	内蔵 RAM	外部 SDRAM 16bit バス	外部 SRAM 16bit バス	外部 SRAM 8bit バス
Read	1 / 4 注 1	バースト 1 / 2 注 2 1word 6 / 2 注 2	2 / 2 注 3	2 / 1 注 3
Write	1 / 4	バースト 1 / 2 注 2 1word 3 / 2 注 2	2 / 2 注 3	2 / 1 注 3

注 1) 2-1-1-1 アクセスとなります。連続したアドレスへのアクセスは 1state でアクセスできます

注 2) 組み合わせるソースおよびデスティネーションによってその転送スピードが変わります。

a) 内蔵 RAM および内蔵 I/O(SFR)の場合はバーストアクセスが可能です。この場合、6-1-1-1 アクセスとなります。同一ページ内の連続したアドレスのみ 1state でアクセスできます。また、アクセス終了時に+ 4state かかります。

b) 内蔵 RAM および内蔵 I/O 以外の場合は 1word アクセスとなります。

注 3) 0-wait の場合です。

State / byte

主な対象 I/O / Read / Write	I^2S	NANDF	USB	SPI
Read	−	2 / 2	2 / 2	2 / 4
Write	2 / 4	2 / 2	2 / 2	2 / 4

Not Recommended for New Design

Sample1: CPU + HDMA 同時使用時の計算例

条件 1: CPU 動作スピード(f_{SYS}): 60MHz
I²S サンプリング周波数: 48kHz (60MHz / 25 / 50 = 48kHz)
I²S データ転送 bit 長: 16bit
DMAC 1ch 使用: Ch0: 内蔵 RAM から I²S 5Kbyte

計算例 1:

DMAC ソースデータリード時間 :

内蔵 RAM データリード時間 = 1state / 4byte (ただし最初の 1byte は 2state)

DMAC デスティネーションライト時間 :

I²S レジスタライト時間 = 2state / 4byte

転送回数

5Kbyte のデータを 4byte ずつ転送すると、5Kbyte / 4byte = 1280 [回] 転送が必要です。I²S は 64byte のごとに割込みが発生しますので、DMA コントローラの A カウンタに 64byte / 4byte = 16 回、DMAC の B カウンタに 80 回の設定をします。

※ 80 回の割込みが発生するため、内蔵 RAM への 1'st リード(+1state)は 80 回発生し(+80state)、また、BUSREQ 要求からバス開放までに、割り込み要求ごとに 2State(160state)オーバーヘッド時間が必要になります。

t_{STOP} (HDMA) = (((1 + 2) × 16) × 80) + 80 + 160) / f_{SYS} [S] = 68 [μs]

HDMA 起動間隔 [周期: s] = 1 / I²S サンプリング周波数 [Hz] × (64 / 16)
= 83.33 [ms]

CPU バス停止率 = t_{STOP} (HDMA) [s] / HDMA 起動間隔 [周期: s]
= 68 [μs] / 83.33 [ms] = 0.08 [%]

Not Recommended for New Design

(2) CPU + LDMA の同時使用の場合

LCD コントローラは、CPU へバス開放要求しバス権を得てから、DMA 転送(LDMA)を行います。

LDMA が正常に行われない場合、正常な表示が出来ませんので、LDMA は優先させる必要があります。また、CPU は LDMA の処理が終了するまでは、命令実行が出来ません。

そのため、内蔵 LCD コントローラを使用して、LCD 表示する場合は、表示 RAM の種類、表示 RAM のバス幅、LCDD の種類、表示画素数、表示のクオリティなどを考慮して CPU がどの程度自由に動作できるかを事前に見積もっておく必要があります。

LCD コントローラが 1 行分のデータ転送の際に、CPU が停止する時間を t_{STOP} (LDMA) と定義すると、各表示モードにおける t_{STOP}(LDMA) は下記計算式で表現されます。

$$t_{STOP}\,(\mathrm{LDMA}) = (\mathrm{SegNum} \times K / 8) \times t_{LRD}$$

外部 16bit SRAM:	t_{LRD} = (2 + wait 数) / f_{SYS} [Hz] / 2
内蔵 RAM:	t_{LRD} = 1 / f_{SYS} [Hz] / 4
外部 16bit SDRAM:	t_{LRD} = 1 / f_{SYS} [Hz] / 2
SegNum :	表示セグメント数
K :	1 画素の表示に必要な表示 bit 数

モノクロ表示の時	K=1
4Gray 表示の時	K=2
16Gray 表示の時	K=4
256 カラー表示の時	K=8
4096 色表示の時	K=12
65536 色表示の時	K=16

注 1) SDRAM 使用時には、オーバーヘッド時間が追加され上記計算式は
t_{STOP} [s] = (SegNum × K/8) × t_{LRD} + ((1/f_{SYS}) × 8)

注 2) 内蔵 RAM 使用時には、オーバーヘッド時間が追加され上記計算式は
t_{STOP} [s] = (SegNum × K/8)× t_{LRD} + (1/f_{SYS})
CPU のバス停止率は 1 行のデータ更新時間 t_{LP} のうちの、t_{STOP}(LDMA)の閉める割合を示しますので、
CPU バス停止率 = t_{STOP} (LDMA) [s] / LHSYNC [s: 周期]
で表現することが出来ます。

Not Recommended for New Design

Sample2: CPU + LDMA 同時使用時の計算例

条件 1:

CPU 動作スピード(f_{SYS}):	60MHz
表示 RAM:	内蔵 RAM
表示サイズ:	QVGA(320seg × 240com)
表示クオリティ:	65536 色(TFT)
リフレッシュレート:	70Hz (ダミーサイクル 20 クロック含む)

計算例 1:

t_{STOP} (LDMA) = ((SegNum × K / 8) × t_{LRD}) + (1 / f_{SYS} [Hz])
= ((320 × 16 / 8) × 1 / f_{SYS} [Hz] / 4) + (1 / f_{SYS} [Hz])
= ((640) × 16.67 [ns] / 4) + 16.67 [ns]
= 2.68 [μs]

LHSYNC [周期: s] = 1/70 [Hz] /(COM+20=260) = 54.95 [μs]

CPU バス停止率 = t_{STOP} (LCD)[s] / LHSYNC [周期: s]
= 2.68 [μs] / 54.95 [μs] = 4.88 [%]

条件 2:

CPU 動作スピード(f_{SYS}):	10MHz
表示 RAM:	外部 16bit SRAM (+ 0wait)
表示サイズ:	QVGA(240seg × 320com)
表示クオリティ:	4096 色(STN)
リフレッシュレート:	100Hz (ダミーサイクル無し)

計算例 2:

t_{STOP} (LDMA) = (SegNum × K / 8) × t_{LRD}
= (240 × 12 / 8) × (2 + wait 数) / f_{SYS} [Hz] / 2
= (360) × 200 [ns] / 2
= 36 [μs]

LHSYNC [周期:s] = 1/100 [Hz] / (COM = 240) = 41.67 [μs]

CPU バス停止率 = t_{STOP} (LCD)[s] / LHSYNC [周期:s]
= 36 [μs] / 41.67 [μs] = 86.40 [%]

Not Recommended for New Design

(3) CPU + LDMA + ARDMA の同時使用の場合

SDRAM コントローラがバス権を取得する場合は、SDRAM を LCD の表示 RAM として利用する場合のみでなく、ワーク、データ、スタック領域等として使用する場合も含まれます。SDRAM コントローラが Auto Refresh 動作で、SDRAM のデータをリフレッシュする間、SDRAM コントローラがバス権を有すること(ARDMA)になります。

通常の ARDMA 時間は、決められたステートごとに数クロックで終了するため、特に気にする必要はありませんが、長時間 LCD コントローラがバス権を連続して取得する場合、本来その間に行われるべき ARDMA が実行できず、SDRAM コントローラ内蔵の専用カウンタに蓄積されます。

LCD コントローラがバス権を開放した後に、連続して ARDMA が実行されます。

各バスマスタのバス権取得優先順位は、LCDC > SDRAMC > CPU を想定して設定する必要があります。LCD コントローラと SDRAM コントローラが 1 行分のデータ転送の際に、CPU が停止する時間を t_{STOP} (LDMA･ARDMA)と定義し、下記計算式で表現されます。

t_{STOP} (LDMA･ARDMA) = t_{STOP} (LDMA)[s] − (t_{STOP}(LDMA)[s] / AR 間隔 [s] × 2 / f_{SYS} [Hz])

CPU バス停止率 = t_{STOP} (LDMA･ARDMA)[s] / LHSYNC [周期:s]

Auto Refresh 間隔表

SDRCR<SRS2:0>			挿入間隔 (ステート)	周波数 (システムクロック)					
SRS2	SRS1	SRS0		6MHz	10MHz	20MHz	40MHz	60MHz	80MHz
0	0	0	47	7.8	4.7	2.4	1.18	0.78	0.59
0	0	1	78	13.0	7.8	3.9	1.95	1.30	0.98
0	1	0	156	26.0	15.6	7.8	3.90	2.60	1.95
0	1	1	312	52.0	31.2	15.6	7.80	5.20	3.90
1	0	0	468	78.0	46.8	23.4	11.70	7.80	5.85
1	0	1	624	104.0	62.4	31.2	15.60	10.40	7.80
1	1	0	936	156.0	93.6	46.8	23.40	15.60	11.70
1	1	1	1248	208.0	124.8	62.4	31.20	20.80	15.60

単位[μs]

Not Recommended for New Design

Sample3: CPU + LDMA + ARDMA 同時使用時の計算例

条件 1:

CPU 動作スピード(f_{SYS}):	60MHz
表示 RAM:	外部 16bit SDRAM
表示サイズ:	QVGA(320seg × 240com)
表示クオリティ:	65536 色(TFT)
リフレッシュレート:	70Hz(ダミーサイクル 20 クロック含む)
SDRAM Auto Refresh:	936State ごと(15.6μs ごと)

計算例 1:

t_{STOP} (LDMA) =((SegNum × K / 8) × t_{LRD}) + (8 / f_{SYS} [Hz])
= ((320 ×16 / 8) × 1 / f_{SYS} [Hz] / 2) + (8 / f_{SYS} [Hz])
= ((640) × 16.67 [ns] / 2) + 133.33 [ns]
= 5.47 [μs]

LHSYNC [周期:s] = 1/70 [Hz] / (COM + 20 = 260) = 54.95 [μs]

5.47 [μs]中に SDRAM の Auto Refresh が発生する回数は 1 回以下のため、

t_{STOP} (ARDMA) = 2 / f_{SYS} [Hz] = 33.33 [ns]

CPU バス停止率 = t_{STOP}(LDMA･ARDMA) [s] / LHSYNC [周期:s]
= (5.47 [μs] + 33.33 [ns]) / 54.95 [μs] = 10.01 [%]

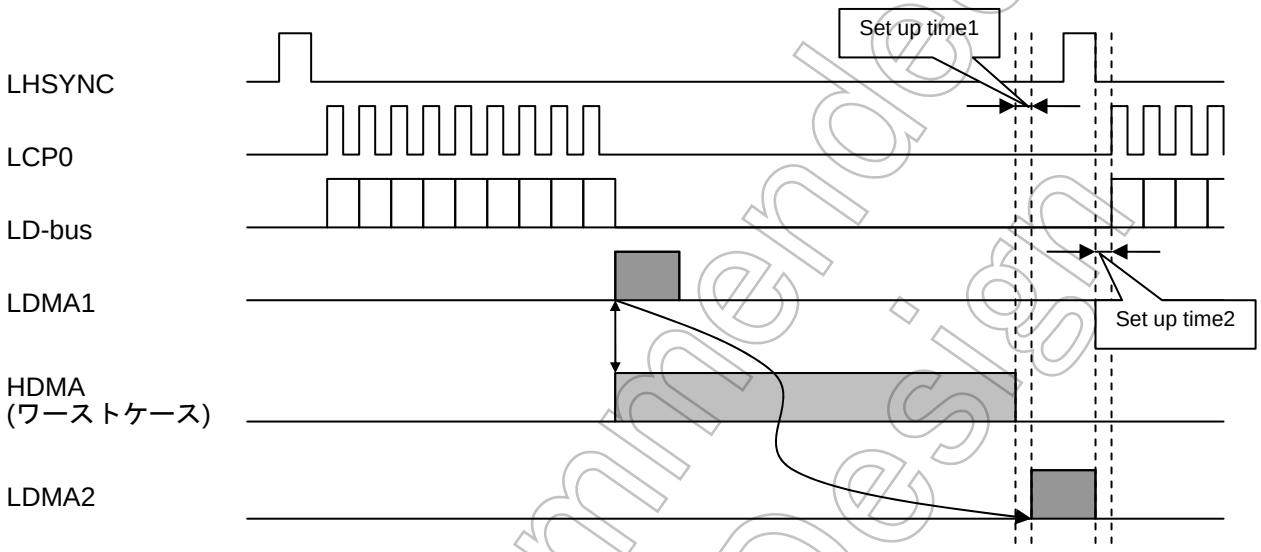
Not Recommended for New Design

(4) CPU + LDMA+ ARDMA + HDMA の同時使用の場合

すべてのバスマスタを同時使用する例です。

まず、LCD の表示は、LCD コントローラが行う LDMA が途切れると、正しい表示ができなくなりますので、優先順位の設定は LDMA > ARDMA > HDMA > CPU と設定する必要があります。

ここでは、CPU のバス停止率を計算する前に、まず正常な表示をさせるための条件を求めます。



上図は、LCD コントローラが LCD ドライバへデータを転送するための、LHSYNC 信号、LCP0 信号、LD-bus 信号および、表示 RAM から LCD コントロール内の FIFO バッファへデータをリードする転送(LDMA1)を示しています。

LDMA の開始は LCD ドライバへデータを送信終了した直後から開始されます。もし、LDMA1 が開始される直前に HDMA がスタートした場合、LDMA の開始は HDMA が終了するまで、待たされることになります(LDMA2)。一方、LDMA2 は、次段の LCD ドライバ出力が開始される前に、動作を終了させる必要があります。

LHSYNC [周期:s] – LCD ドライバへのデータ転送時間 [s] – t_{STOP}(LCD) [s]

= HDMA 連続時間 [s] + CPU 動作時間 [s]

STN の場合

LCD ドライバデータへの転送時間 [s] = SegNum/8×(1/f_{SYS}) × (LD バス転送速度)

TFT の場合

LCD ドライバデータへの転送時間 [s] = SegNum×(1/ f_{SYS}) × (LD バス転送速度)

Not Recommended for New Design

Sample4: CPU + LDMA+ ARDMA + HDMA 同時使用時の計算例

条件 1:	CPU 動作スピード(f_{SYS}):	60MHz
表示 RAM:	内蔵 RAM	
表示サイズ:	QVGA (320seg × 240com)	
表示クオリティ:	65536 色(TFT)	
リフレッシュレート:	70Hz (ダミーサイクル 20 クロック含む)	
SDRAM Auto Refresh:	936State ごと(15.6μs ごと)	
SDRAM:	16 bit 幅	
HDMA :	内蔵 RAM ~ I²S	5Kbyte

計算例 1:

t_{STOP} (LDMA) =((SegNum × K / 8) × t_{LRD}) + (1 / f_{SYS} [Hz])
= ((320 ×16 / 8) × 1 / f_{SYS} [Hz] / 4) + (1 / f_{SYS} [Hz])
= ((640) ×16.67 [ns] / 4) + 16.67 [ns]
= 2.68 [μs]

LHSYNC [周期: s] = 1/70 [Hz] /(COM+20 = 260) = 54.95 [μs]
t_{STOP} (HDMA) = (((1 + 2) × 16) × 80) + 80 + 160) / f_{SYS} [s] = 68 [μs]

LCD ドライバデータ転送時間 [s]
= SegNum × (1/f_{SYS}) × (LD バス転送速度)
= 320 × (1/60MHz) × 16 = 85 [μs]

LHSYNC [周期:s] < LCD ドライバへのデータ転送時間 [s]ですので設定不可です。
転送スピードを× 4 に修正して計算しなおすと、
(LCD ドライバへのデータ転送スピードは、要求される仕様に応じて調整してください)

LCD ドライバへのデータ転送時間 [s]
= SegNum × (1/f_{SYS}) × (LD バス転送速度)
= 320 × (1 / 60MHz) × 4 = 21.3 [μs]

LHSYNC [周期: s] – LCD ドライバデータ転送時間 [S] – t_{STOP}(LDMA)
= 54.95 [μs] – 21.3 [μs] – 2.68 [μs] = 30.94 [μs]

正常な LCD 表示をするためには、1 回の連続 HDMA 時間は 30.94[μs] 以下にする必要があります。すべてのデータを内蔵 RAM から I²S へ転送するには t_{STOP} (HDMA) = 68 [μs] の時間がかかりますが、HDMATR 機能を使用して、HDMA の連続時間を制限します。

Not Recommended for New Design

HDMATR レジスタ

HDMATR (097FH)		7	6	5	4	3	2	1	0
	bit Symbol	DMATE	DMATR6	DMATR5	DMATR4	DMATR3	DMATR2	DMATR1	DMATR0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	タイマ動作 0: Disable 1:Enable	バス占有最長時間設定 バス占有最長時間 / (256/f_{SYS}) で求めた値を設定してください。 なお、00H は設定禁止です。						

注) 全てのレジスタはリードモディファイライト可能です。

上記 HDMATR レジスタに 87H をライトすることで、256 × 7 × (1 / f_{SYS})時間で連続 HDMA 時間を、29.9 [μs]に設定します。HDMA の起動間隔 [周期: s]= 83.33 [ms]で、LHSYNC [周期: s] = 54.95 [μs]よりも周期が長くなりますので、HDMA 転送は LHSYNC [周期: s]内に 1 回発生するものと仮定します。

5.47 [μs]中に SDRAM の Auto Refresh が発生する回数は 1 回以下のため、

t_{STOP} (ARDMA) = 2 / f_{SYS} [Hz] = 33.33 [ns]

LDMA と ARDMA と HDMA すべての DMA がバスを占有する時間を

t_{STOP}(LDMA･ARDMA･HDMA)

とし、CPU のバス停止率を計算すると、

CPU バス停止率 = t_{STOP}(LDMA･ARDMA･HDMA) [s] / LHSYNC [周期: s]
= (5.47 [μs] + 33.33 [ns]＋29.9 [μs]) / 54.95 [μs] = 64.42 [%]

注) 強制的に HDMA の転送時間が 29.9 [μs]に制限されますので、正確にはその都度、バス のアサート時間と RAM アクセス時間が、上記時間に追加されます。

Not Recommended for New Design

3.8 ポート機能

TMP92CF29Aは 表 3.8.1に示すような汎用入出力ポート機能だけでなく、内部のCPUや内蔵I/Oの入出力機能も持っています。表 3.8.2ポート機能に各ポート端子の機能を、入出力ポート設定一覧表に各端子の設定方法を示します。

表 3.8.1 ポート機能 (1/2)(R: PD = プログラマブルプルダウン抵抗付, U = プルアップ抵抗付)

ポート名	ピン名称	ピン数	方向	R	入出力設定	内蔵機能用ピン名称
ポート 1	P10~P17	8	入出力	–	ビット	D8~D15
ポート 4	P40~P47	8	出力	–	(固定)	A0~A7
ポート 5	P50~P57	8	出力	–	(固定)	A8~A15
ポート 6	P60~P67	8	入出力	–	ビット	A16~A23
ポート 7	P70	1	出力	–	(固定)	$\overline{RD}$
	P71	1	入出力	–	ビット	$\overline{WRLL}$, $\overline{NDRE}$
	P72	1	入出力	–	ビット	$\overline{WRLU}$, $\overline{NDWE}$
	P73	1	入出力	–	ビット	EA24
	P74	1	入出力	–	ビット	EA25
	P75	1	入出力	–	ビット	R/ $\overline{W}$,NDR/ $\overline{B}$
	P76	1	入出力	–	ビット	$\overline{WAIT}$
ポート 8	P80	1	出力	–	(固定)	$\overline{CS0}$
	P81	1	出力	–	(固定)	$\overline{CS1}$, $\overline{SDCS}$
	P82	1	出力	–	(固定)	$\overline{CS2}$, $\overline{CSZA}$, $\overline{SDCS}$
	P83	1	出力	–	(固定)	$\overline{CS3}$, $\overline{CSXA}$
	P86	1	出力	–	(固定)	$\overline{CSZD}$, $\overline{ND0CE}$
	P87	1	出力	–	(固定)	$\overline{CSXB}$, $\overline{ND1CE}$
ポート 9	P90	1	入出力	–	ビット	TXD0, TXD1
	P91	1	入出力	–	ビット	RXD0, RXD1
	P92	1	入出力	–	ビット	SCLK0, $\overline{CTS0}$, SCLK1, $\overline{CTS1}$
	P96	1	入力	PD	(固定)	INT4,PX
	P97	1	入力	–	(固定)	PY
ポート A	PA0~PA7	8	入力	U	(固定)	KI0 ~ KI7
ポート C	PC0	1	入出力	–	ビット	INT0
	PC1	1	入出力	–	ビット	INT1,TA0IN
	PC2	1	入出力	–	ビット	INT2
	PC3	1	入出力	–	ビット	INT3,TA2IN
	PC4	1	入出力	–	ビット	EA26, SPDI
	PC5	1	入出力	–	ビット	EA27, SPDO
	PC6	1	入出力	–	ビット	EA28, SPCLK
	PC7	1	入出力	–	ビット	KO8
ポート F	PF0	1	入出力	–	ビット	I2S0CKO
	PF1	1	入出力	–	ビット	I2S0DO
	PF2	1	入出力	–	ビット	I2S0WS
	PF7	1	出力	–	(固定)	SDCLK
ポート G	PG0 ~ PG1	2	入力	–	(固定)	AN0 ~ AN1
	PG2	1	入力	–	(固定)	AN2,MX
	PG3	1	入力	–	(固定)	AN3, $\overline{ADTRG}$,MY
	PG4~ PG5	2	入力	–	(固定)	AN4 ~ AN5

Not Recommended for New Design

表 3.8.1 ポート機能(2/2)

ポート名	ピン名称	ピン数	方向	R	入出力設定	内蔵機能用ピン名称
ポート J	PJ0	1	出力	–	(固定)	$\overline{SDRAS}$, $\overline{SRLLB}$
	PJ1	1	出力	–	(固定)	$\overline{SDCAS}$, $\overline{SRLUB}$
	PJ2	1	出力	–	(固定)	$\overline{SDWE}$, $\overline{SRWR}$
	PJ3	1	出力	–	(固定)	SDLLDQM
	PJ4	1	出力	–	(固定)	SDLUDQM
	PJ5	1	入出力	–	ビット	NDALE
	PJ6	1	入出力	–	ビット	NDCLE
	PJ7	1	出力	–	(固定)	SDCKE
ポート K	PK0	1	出力	–	(固定)	LCP0
	PK1	1	出力	–	(固定)	LLOAD
	PK2	1	出力	–	(固定)	LFR
	PK3	1	出力	–	(固定)	LVSYNC
	PK4	1	出力	–	(固定)	LHSYNC
	PK5	1	出力	–	(固定)	LGOE0
	PK6	1	出力	–	(固定)	LGOE1
	PK7	1	出力	–	(固定)	LGOE2
ポート L	PL0~ PL7	8	入出力	–	ビット	LD0~LD7
ポート M	PM1	1	出力	–	(固定)	MLDALM, TA1OUT
	PM2	1	出力	–	(固定)	$\overline{ALARM}$, $\overline{MLDALM}$
	PM7	1	出力	–	(固定)	PWE
ポート N	PN0~ PN7	8	入出力	–	ビット	KO0~KO7
ポート P	PP3	1	入出力	–	ビット	INT5,TA7OUT, TXD0, TXD1
	PP4	1	入出力	–	ビット	INT6,TB0IN0, RXD0, RXD1
	PP5	1	入出力	–	ビット	INT7, TB1IN0, SCLK0, $\overline{CTS0}$ SCLK1, $\overline{CTS1}$
	PP6	1	出力	–	(固定)	TB0OUT0
ポート R	PR0	1	入出力	–	ビット	SPDI
	PR1	1	入出力	–	ビット	SPDO
	PR2	1	入出力	–	ビット	$\overline{SPCS}$
	PR3	1	入出力	–	ビット	SPCLK
ポート T	PT0 ~ PT7	8	入出力	–	ビット	LD8 ~ LD15
ポート V	PV6	1	入出力	–	ビット	SDA
	PV7	1	入出力	–	ビット	SCL
ポート X	PX4	1	出力	–	(固定)	CLKOUT,LDIV
	PX5	1	入出力	–	ビット	X1USB, X1D4

Not Recommended for New Design

表 3.8.2 I/O ポート設定一覧表(1/5) X: Don't care

ポート	ピン名称	仕様	入出力 レジスタ			
			Pn	PnCR	PnFC	PnFC2
ポート 1	P10 ~ P17	入力ポート	X	0	0	なし
		出力ポート	X	1		
		D8 ~ D15 バス	X	X	1	
ポート 4	P40 ~ P47	出力ポート	X	なし	0	なし
		A0 ~ A7 出力	X	なし	1	
ポート 5	P50 ~ P57	出力ポート	X	なし	0	なし
		A8 ~ A15 出力	X	なし	1	
ポート 6	P60 ~ P67	入力ポート	X	0	0	なし
		出力ポート	X	1		
		A16 ~ A23 出力	X	X	1	
ポート 7	P70 ~ P76	出力ポート	X	1	0	なし
	P71 ~ P76	入力ポート	X	0	0	
	P70	$\overline{RD}$ 出力	X	なし	1	
	P71	$\overline{WRLL}$ 出力	1	1	1	
		$\overline{NDRE}$ 出力	0			
	P72	$\overline{WRLU}$ 出力	1	1	1	
		$\overline{NDWE}$ 出力	0			
	P73	EA24 出力	X	1	1	
	P74	EA25 出力	X	1	1	
	P75	R/W 出力	X	1	1	
		NDR/B 入力	X	0	1	
	P76	$\overline{WAIT}$ 入力	X	0	1	
ポート 8	P80 ~ P87	出力ポート	X	なし	0	0
	P80	$\overline{CS0}$ 出力	X		1	なし
	P81	$\overline{CS1}$ 出力	X		1	0
		$\overline{SDCS}$ 出力	X		X	1
	P82	$\overline{CS2}$ 出力	X		1	0
		$\overline{CSZA}$ 出力	X		0	1
		$\overline{SDCS}$ 出力	X		1	1
	P83	$\overline{CS3}$ 出力	X		1	0
		$\overline{CSXA}$ 出力	X		X	1
	P86	$\overline{CSZD}$ 出力	X		1	0
		$\overline{ND0CE}$ 出力	X		1	1
	P87	$\overline{CSXB}$ 出力	X		1	0
		$\overline{ND1CE}$ 出力	X		1	1

Not Recommended for New Design

表 3.8.2 I/O ポート設定一覧表(2/5) X: Don't care

ポート	ピン名称	仕様	入出力 レジスタ			
			Pn	PnCR	PnFC	PnFC2
ポート 9	P90, P92	入力ポート	X	0	0	なし
	P91	入力ポート、RXD0 入力	X	0	なし	なし
	P96	入力ポート	X	なし	0	なし
	P97	入力ポート	X	なし	なし	なし
	P90 ~ P92	出力ポート	X	1	0	0
	P90	TXD0 出力	X	1	1	0
		TXD0 出力(オープンドレイン)	X	1	1	1
		TXD1 出力	X	1	1	0
		TXD1 出力(オープンドレイン)	X	1	1	1
	P92	SCLK0 出力	X	1	1	<P95F2> =0
		SCLK0, $\overline{CTS0}$ 入力	X	0	0	0
		SCLK1 出力	X	1	1	<P95F2> =1
		SCLK1, $\overline{CTS1}$入力	X	0	0	0
	P96	INT4 入力	X	なし	1	なし
ポート A	PA0 ~ PA7	入力ポート	X	なし	0	なし
		KI0 ~ KI7 入力	X		1	
ポート C	PC0 ~ PC3 PC5 ~ PC7	入力ポート	X	0	0	なし
		出力ポート	X	1	0	なし
	PC4	入力ポート	X	0	0	X
		出力ポート	X	1	0	X
	PC0	INT0 入力	X	0	1	なし
	PC1	INT1 入力	X	0	1	なし
		TA0IN 入力	X	1	1	なし
	PC2	INT2 入力	X	0	1	なし
	PC3	INT3 入力	X	0	1	なし
		TA2IN 入力	X	1	1	なし
	PC4	EA26 出力	X	0	1	X
		(PC4)SPDI 入力	X	1	1	1
		(PR0)SPDI 入力	X	1	1	0
	PC5	EA27 出力	X	0	1	なし
		SPDO 出力	X	1	1	なし
	PC6	EA28 出力	X	0	1	なし
		SPCLK 出力	X	1	1	なし
	PC7	KO8 出力 (オープンドレイン)	X	1	1	なし
ポート F	PF0 ~ PF2	入力ポート	X	0	0	なし
	PF0 ~ PF2	出力ポート	X	1	0	なし
	PF7	出力ポート	X	なし	0	なし
	PF0	I2S0CKO 出力	X	X	1	
	PF1	I2S0DO 出力	X	X	1	
	PF2	I2S0WS 出力	X	X	1	
	PF7	SDCLK 出力	X	なし	1	

Not Recommended for New Design

表 3.8.2 I/O ポート設定一覧表(3/5) X: Don't care

ポート	ピン名称	仕様	入出力レジスタ			
			Pn	PnCR	PnFC	PnFC2
ポート G	PG0 ~ PG5	入力ポート	X	なし	なし	なし
		AN0 ~ AN5 入力				
	PG3	$\overline{\text{ADTRG}}$ 入力			1	
	PG2	MX 出力 注)			なし	
	PG3	MY 出力 注)				
ポート J	PJ5 ~ PJ6	入力ポート	X	0	0	なし
	PJ5 ~ PJ6	出力ポート	X	1	0	
	PJ0 ~ PJ4, PJ7	出力ポート	X	なし	0	
	PJ0	$\overline{\text{SDRAS}}$, $\overline{\text{SRLLB}}$ 出力	X	なし	1	
	PJ1	$\overline{\text{SDCAS}}$, $\overline{\text{SRLUB}}$ 出力	X		1	
	PJ2	$\overline{\text{SDWE}}$, $\overline{\text{SRWR}}$ 出力	X		1	
	PJ3	SDLLDQM 出力	X		1	
	PJ4	SDLUDQM 出力	X		1	
	PJ5	NDALE 出力	X	1	1	
	PJ6	NDCLE 出力	X	1	1	
	PJ7	SDCKE 出力	X	なし	1	
ポート K	PK0 ~ PK7	出力ポート	X	なし	0	なし
	PK0	LCP0 出力	X		1	
	PK1	LLOAD 出力	X		1	
	PK2	LFR 出力	X		1	
	PK3	LVSYNC 出力	X		1	
	PK4	LHSYNC 出力	X		1	
	PK5	LGOE0 出力	X		1	
	PK6	LGOE1 出力	X		1	
	PK7	LGOE2 出力	X		1	
ポート L	PL0 ~ PL7	入力ポート	X	0	0	なし
		出力ポート	X	1	0	
		LD0 ~ LD7 出力	X	X	1	
ポート M	PM1 ~ PM2 PM7	出力ポート	X	なし	0	なし
	PM1	TA1OUT 出力	0		1	
		MLDALM 出力	1		1	
	PM2	$\overline{\text{MLDALM}}$ 出力	0		1	
		$\overline{\text{ALARM}}$ 出力	1		1	
	PM7	PWE 出力	X		1	
ポート N	PN0 ~ PN7	入力ポート	X	0	0	なし
		出力ポート (CMOS 出力)	X	1	0	
		KO 出力(Open-drain 出力)	X		1	

注) タッチスクリーン使用の場合

Not Recommended for New Design

表 3.8.2 I/O ポート設定一覧表(4/5) X: Don't care

ポート	ピン名称	仕様	入出力レジスタ			
			Pn	PnCR	PnFC	PnFC2
ポート P	PP3 ~ PP5	入力ポート	X	0	0	<PP1F2:3F2>=0
	PP3 ~ PP5	出力ポート	X	1	0	<PP1F2:3F2>=0
	PP6	出力ポート	X	なし	0	なし
	PP3	INT5 入力	X	0	1	<PP1F2>=0
		TA7OUT 出力	X	1	1	<PP1F2>=0
		TXD0 出力	X	X	X	<PP0F2>=0 <PP1F2>=1 <PP4F2>=1
		TXD0 出力（オープンドレイン）	X	X	X	<PP0F2>=1 <PP1F2>=1 <PP4F2>=1
		TXD1 出力	X	X	X	<PP0F2>=0 <PP1F2>=1 <PP4F2>=0
		TXD1 出力（オープンドレイン）	X	X	X	<PP0F2>=1 <PP1F2>=1 <PP4F2>=0
	PP4	INT6 入力	X	0	1	<PP2F2>=0
		TB0IN0 入力	X	1	1	<PP2F2>=0
		RXD1 (PP4/RXD1)入力	X	X	X	<PP2F2>=1 <PP5F2>=0
		RXD1(P91/RXD1)入力	X	X	X	<PP2F2>=1 <PP5F2>=1
	PP5	INT7 入力	X	0	1	<PP3F2>=0
		TB1IN0 入力	X	1	1	<PP3F2>=0
		SCLK1 (PP5/SCLK1)入力 $\overline{\text{CTS1}}$ 入力	X	0	X	<PP3F2>=1 <PP6F2>=0
		SCLK1 (P92/SCLK1)入力 $\overline{\text{CTS1}}$ 入力	X	0	X	<PP3F2>=1 <PP6F2>=1
		SCLK0 出力	X	1	X	<PP3F2>=1 <PP6F2>=1
		SCLK1 出力	X	1	X	<PP3F2>=1 <PP6F2>=0
	PP6	TB0OUT0 出力	X	なし	1	なし
ポート R	PR0 ~ PR3	入力ポート	X	0	0	なし
	PR0 ~ PR3	出力ポート	X	1	0	
	PR0	SPDI _PR0 入力(PC4 へ)	X	0	1	
	PR1	SPDO 出力	X	1	1	
	PR2	$\overline{\text{SPCS}}$ 出力	X	1	1	
	PR3	SPCLK 出力	X	1	1	
ポート T	PT0 ~ PT7	入力ポート	X	0	0	なし
		出力ポート	X	1	0	
		LD8 ~ LD15 出力	X	X	1	
ポート V	PV6 ~ PV7	入力ポート	X	0	0	0
	PV6 ~ PV7	出力ポート	X	1	0	0
	PV6 ~ PV7	出力ポート(オープンドレイン)	X	1	0	1
	PV6	SDA 入出力	X	1	1	0
		SDA 入出力(オープンドレイン)	X	1	1	1
	PV7	SCL 入出力	X	1	1	0
		SCL 入出力(オープンドレイン)	X	1	1	1

Not Recommended for New Design

表 3.8.2 I/O ポート設定一覧表(5/5) X: Don't care

ポート	ピン名称	仕様	入出力レジスタ			
			Pn	PnCR	PnFC	PnFC2
ポート X	PX5	入力ポート	X	0	0	X
	PX4	出力ポート	X	なし	0	X
	PX5	出力ポート	X	1	0	X
	PX4	CLKOUT 出力	0	なし	1	X
		LDIV 出力	1		1	X
	PX5	X1USB 入力	X	0	1	X
		X1D4 出力 (出力クロック=X1/8)	1	1	1	<PX5F2:4F2> =00
		X1D4 出力 (出力クロック=X1/4)	1	1	1	<PX5F2:4F2> =01
		X1D4 出力 (出力クロック=X1/2)	1	1	1	<PX5F2:4F2> =10
		X1D4 出力 (出力クロック=X1/1)	1	1	1	<PX5F2:4F2> =11

Not Recommended for New Design

3.8.1 ポート 1 (P10 ~ P17)

ポート 1 は、ビット単位で入出力の指定ができる 8 ビットの汎用入出力ポートです。ビットごとの入出力の指定は、コントロールレジスタ P1CR およびファンクションレジスタ P1FC によって行います。汎用入出力ポート機能以外にデータバス(D8~D15)機能があります。また以下に示す AM1 と AM0 端子の組合せにより、リセット解除後、ポート 1 を下記機能端子に設定します。

AM1	AM0	リセット後の機能設定
0	0	設定禁止
0	1	データバス (D8 ~ D15)
1	0	設定禁止
1	1	入力ポート (P10 ~ P17)

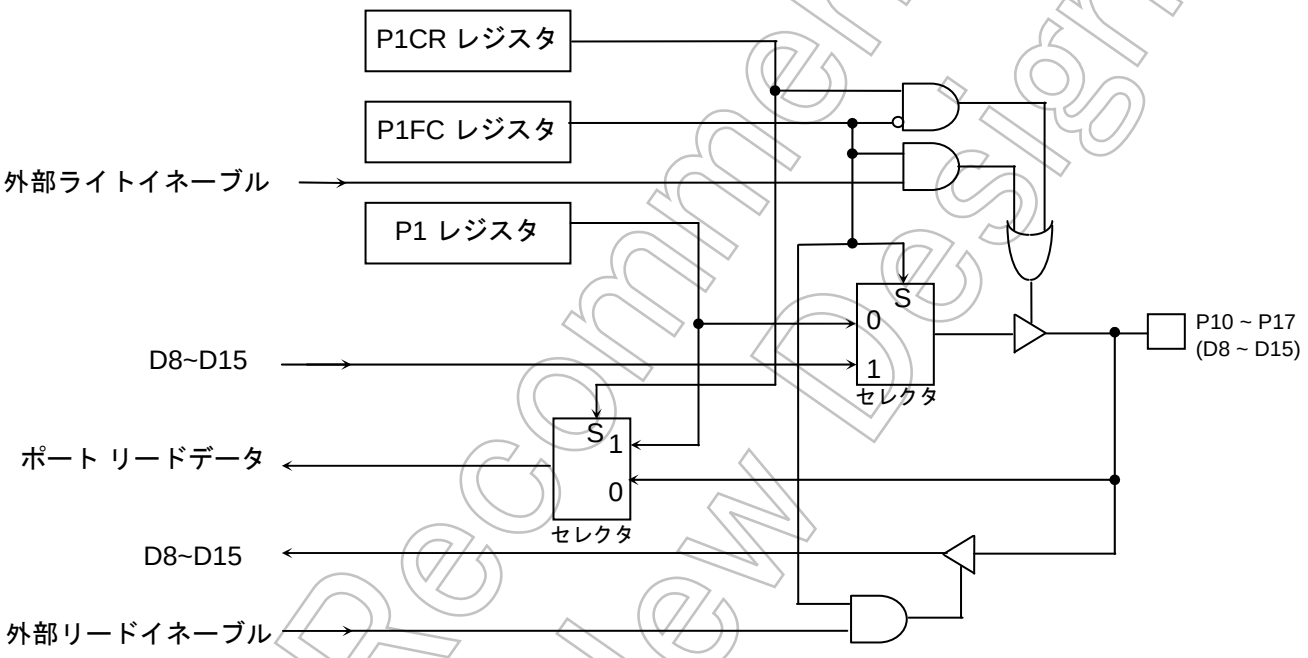


図 3.8.1 ポート 1

Not Recommended for New Design

ポート 1 レジスタ

P1 (0004H)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	P17	P16	P15	P14	P13	P12	P11	P10
Read/Write	R/W							
システム リセット後	外部端子データ(出力ラッチは “0”にクリアされます)							
Hot リセット後	–							

ポート 1 コントロールレジスタ

P1CR (0006H)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	P17C	P16C	P15C	P14C	P13C	P12C	P11C	P10C
Read/Write	W							
システム リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–
機能	0: 入力 1: 出力							

ポート 1 ファンクションレジスタ

P1FC (0007H)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol								P1F
Read/Write								W
システム リセット後 注 2)								0/1
Hot リセット後								–
機能								0: ポート 1: データバス (D8~D15)

ポート 1 ドライブレジスタ

P1DR (0081H)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	P17D	P16D	P15D	P14D	P13D	P12D	P11D	P10D
Read/Write	R/W							
システム リセット後	1	1	1	1	1	1	1	1
Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–
機能	スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ							

注 1) P1CR,P1FC はリードモディファイライトできません。

注 2) AM 端子の状態によって、リセット後、ポートかデータバスに変わります。

図 3.8.2 ポート 1 レジスタ

Not Recommended for New Design

3.8.2 ポート 4 (P40 ~ P47)

ポート 4 は 8 ビットの汎用出力ポートです。汎用出力ポート機能以外にアドレスバス(A0~A7)機能があります。ビット単位での機能切り替えが可能です。また以下に示す AM1 と AM0 端子の組合せにより、リセット解除後、ポート 4 を下記機能端子に設定します。

AM1	AM0	リセット後の機能設定
0	0	設定禁止
0	1	アドレス バス (A0 ~ A7)
1	0	設定禁止
1	1	出力ポート (P40 ~ P47)

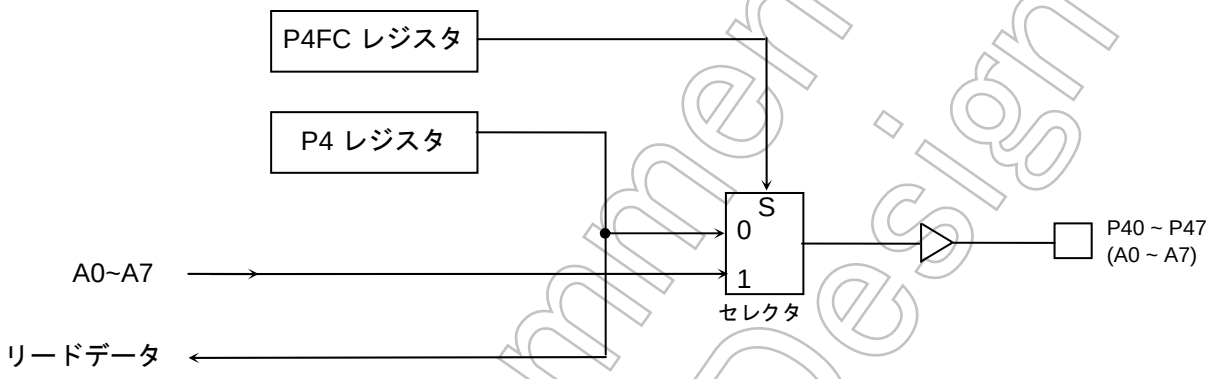


図 3.8.3 ポート 4

Not Recommended for New Design

ポート 4 レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
P4 (0010H)	bit Symbol	P47	P46	P45	P44	P43	P42	P41	P40
	Read/Write	R/W							
	システムリセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–

ポート 4 ファンクションレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
P4FC (0013H)	bit Symbol	P47F	P46F	P45F	P44F	P43F	P42F	P41F	P40F
	Read/Write	W							
	システムリセット後 注 2)	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1
	Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–
	機能	0: ポート　1:アドレスバス (A0~A7)							

ポート 4 ドライブレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
P4DR (0084H)	bit Symbol	P47D	P46D	P45D	P44D	P43D	P42D	P41D	P40D
	Read/Write	R/W							
	システムリセット後	1	1	1	1	1	1	1	1
	Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–
	機能	スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ							

注 1) P4FC はリードモディファイライトできません。

注 2) AM 端子の状態によって、リセット後、ポートかアドレスバスに変わります。

図 3.8.4　ポート 4 レジスタ

Not Recommended for New Design

3.8.3 ポート 5 (P50 ~ P57)

ポート 5 は 8 ビットの汎用出力ポートです。汎用出力ポート機能以外にアドレスバス(A8~A15)機能があります。ビット単位での機能切り替えが可能です。また以下に示す AM1 と AM0 端子の組合せにより、リセット解除後、ポート 5 を下記機能端子に設定します。

AM1	AM0	リセット後の機能設定
0	0	設定禁止
0	1	アドレス バス (A8 ~ A15)
1	0	設定禁止
1	1	出力ポート (P50 ~ P57)

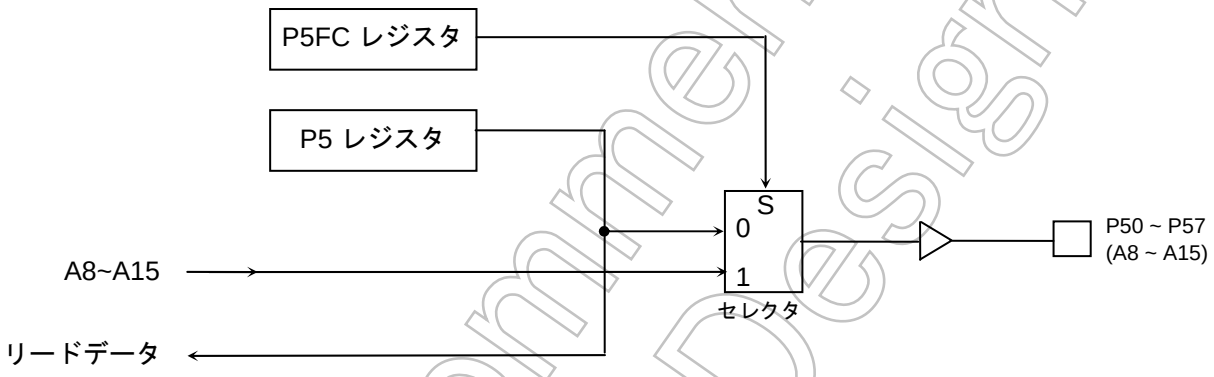


図 3.8.5 ポート 5

Not Recommended for New Design

ポート 5 レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
P5 (0014H)	bit Symbol	P57	P56	P55	P54	P53	P52	P51	P50
	Read/Write	R/W							
	システム リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–

ポート 5 ファンクションレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
P5FC (0017H)	bit Symbol	P57F	P56F	P55F	P54F	P53F	P52F	P51F	P50F
	Read/Write	W							
	システム リセット後 注 2)	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1
	Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–
	機能	0: ポート　1:アドレスバス (A8~A15)							

ポート 5 ドライブレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
P5DR (0085H)	bit Symbol	P57D	P56D	P55D	P54D	P53D	P52D	P51D	P50D
	Read/Write	R/W							
	システム リセット後	1	1	1	1	1	1	1	1
	Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–
	機能	スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ							

注 1) P5FC はリードモディファイライトできません。

注 2) AM 端子の状態によって、リセット後、ポートかアドレスバスに変わります。

図 3.8.6　ポート 5 レジスタ

Not Recommended for New Design

3.8.4 ポート 6 (P60 ~ P67)

ポート 6 は、ビット単位で機能切り替えおよび入出力の指定ができる 8 ビットの汎用入出力ポートです。ビットごとの入出力の指定は、コントロールレジスタ P6CR およびファンクションレジスタ P6FC によって行います。汎用入出力ポート機能以外にアドレスバス(A16~A23)機能があります。また以下に示す AM1 と AM0 端子の組合せにより、リセット解除後、ポート 6 を下記機能端子に設定します。

AM1	AM0	リセット後の機能設定
0	0	設定禁止
0	1	アドレス バス(A16 ~ A23)
1	0	設定禁止
1	1	入力ポート(P60 ~ P67)

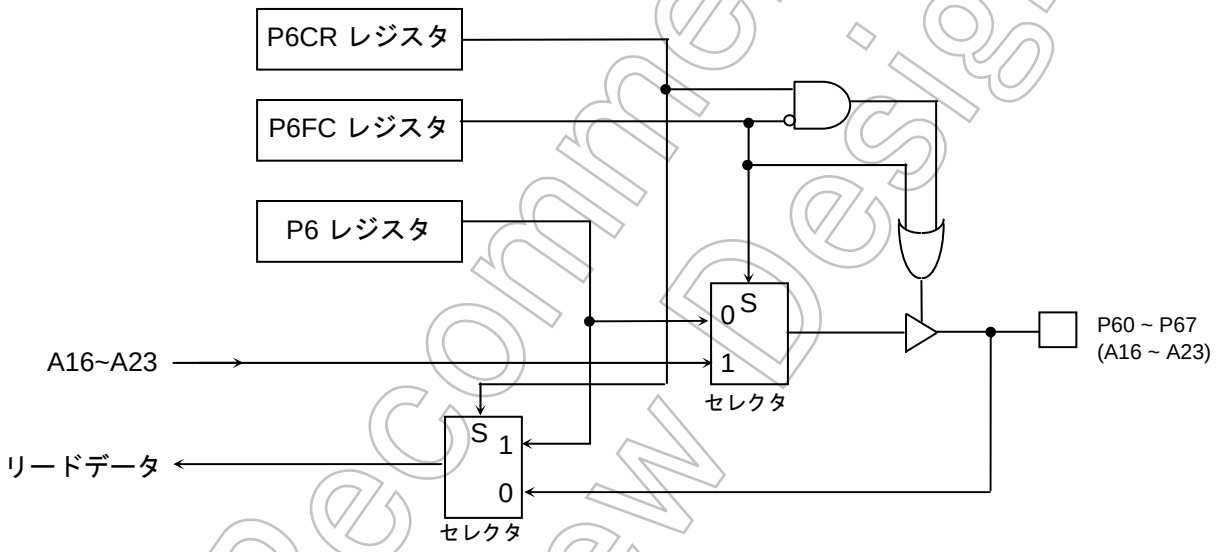


図 3.8.7 ポート 6

Not Recommended for New Design

ポート 6 レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
P6 (0018H)	bit Symbol	P67	P66	P65	P64	P63	P62	P61	P60
	Read/Write	R/W							
	システム リセット後	外部端子データ(出力ラッチは “0”にクリアされます)							
	Hot リセット後	–							

ポート 6 コントロールレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
P6CR (001AH)	bit Symbol	P67C	P66C	P65C	P64C	P63C	P62C	P61C	P60C
	Read/Write	W							
	システム リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–
	機能	0: 入力 1: 出力							

ポート 6 ファンクションレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
P6FC (001BH)	bit Symbol	P67F	P66F	P65F	P64F	P63F	P62F	P61F	P60F
	Read/Write	W							
	システム リセット後 注 2)	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1
	Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–
	機能	0: ポート 1:アドレスバス(A16~A23)							

ポート 6 ドライブレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
P6DR (0086H)	bit Symbol	P67D	P66D	P65D	P64D	P63D	P62D	P61D	P60D
	Read/Write	R/W							
	システム リセット後	1	1	1	1	1	1	1	1
	Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–
	機能	スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ							

注 1) P6CR、P6FC はリードモディファイライトできません。

注 2) AM 端子の状態によって、リセット後、ポートかアドレスバスに変わります。

図 3.8.8 ポート 6 レジスタ

Not Recommended for New Design

3.8.5 ポート 7 (P70 ~ P76)

ポート 7 は、7 ビットの汎用入出力ポートです (P70 端子は出力のみ)。
ビットごとの入出力の指定は、コントロールレジスタ P7CR およびファンクションレジスタ P7FC によって行います。また汎用入出力ポート機能以外に、P70 から P76 端子は外部メモリ接続用としてのインターフェース端子の機能があります。リセット後、P70 端子は出力モード、P71~P76 端子は入力モードとなります。また以下に示す AM1 と AM0 端子の組合せにより、リセット解除後、P70 端子を下記機能端子に設定します。

AM1	AM0	リセット後の機能設定
0	0	設定禁止
0	1	$\overline{RD}$ 端子
1	0	設定禁止
1	1	出力ポート (P70)

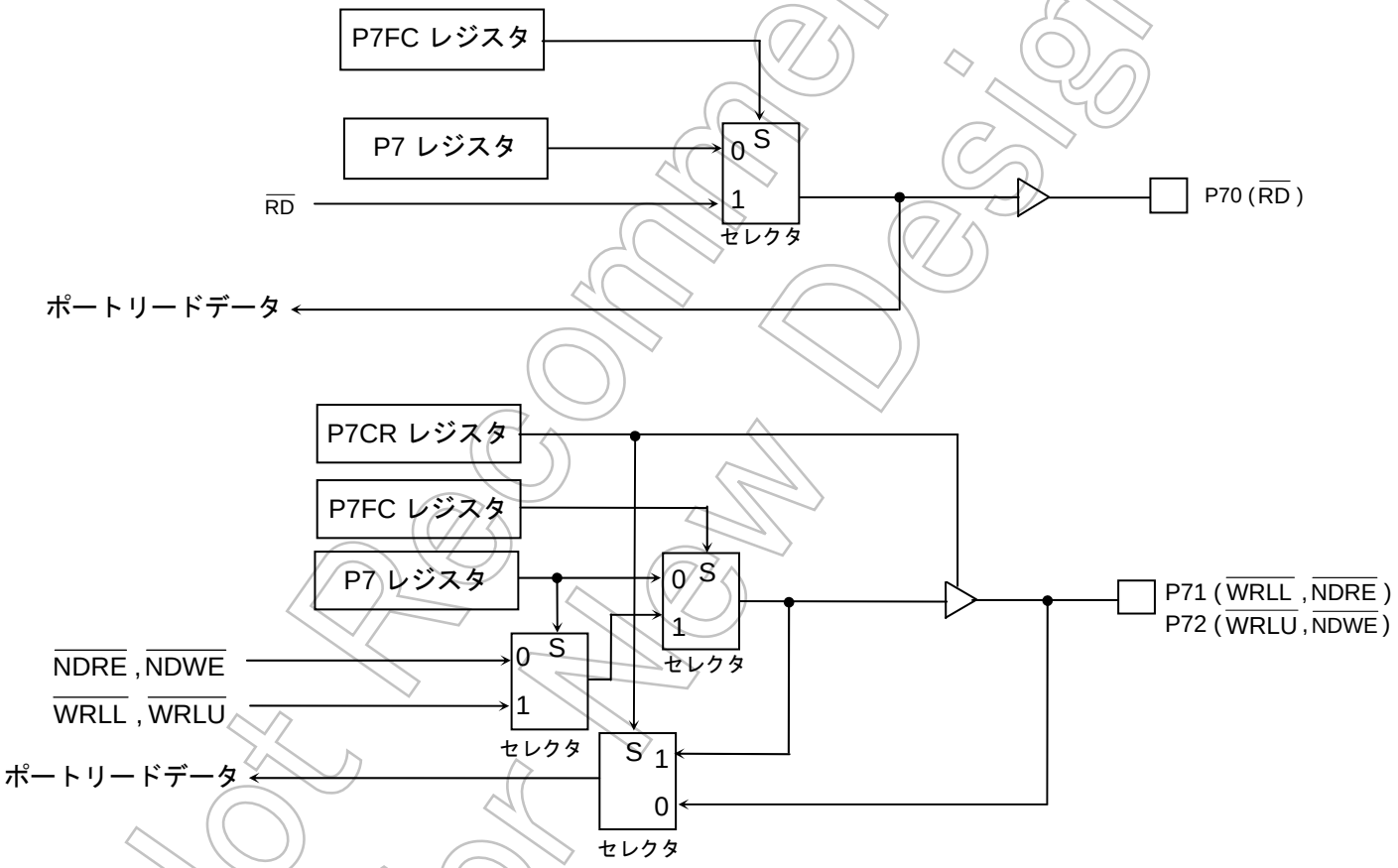
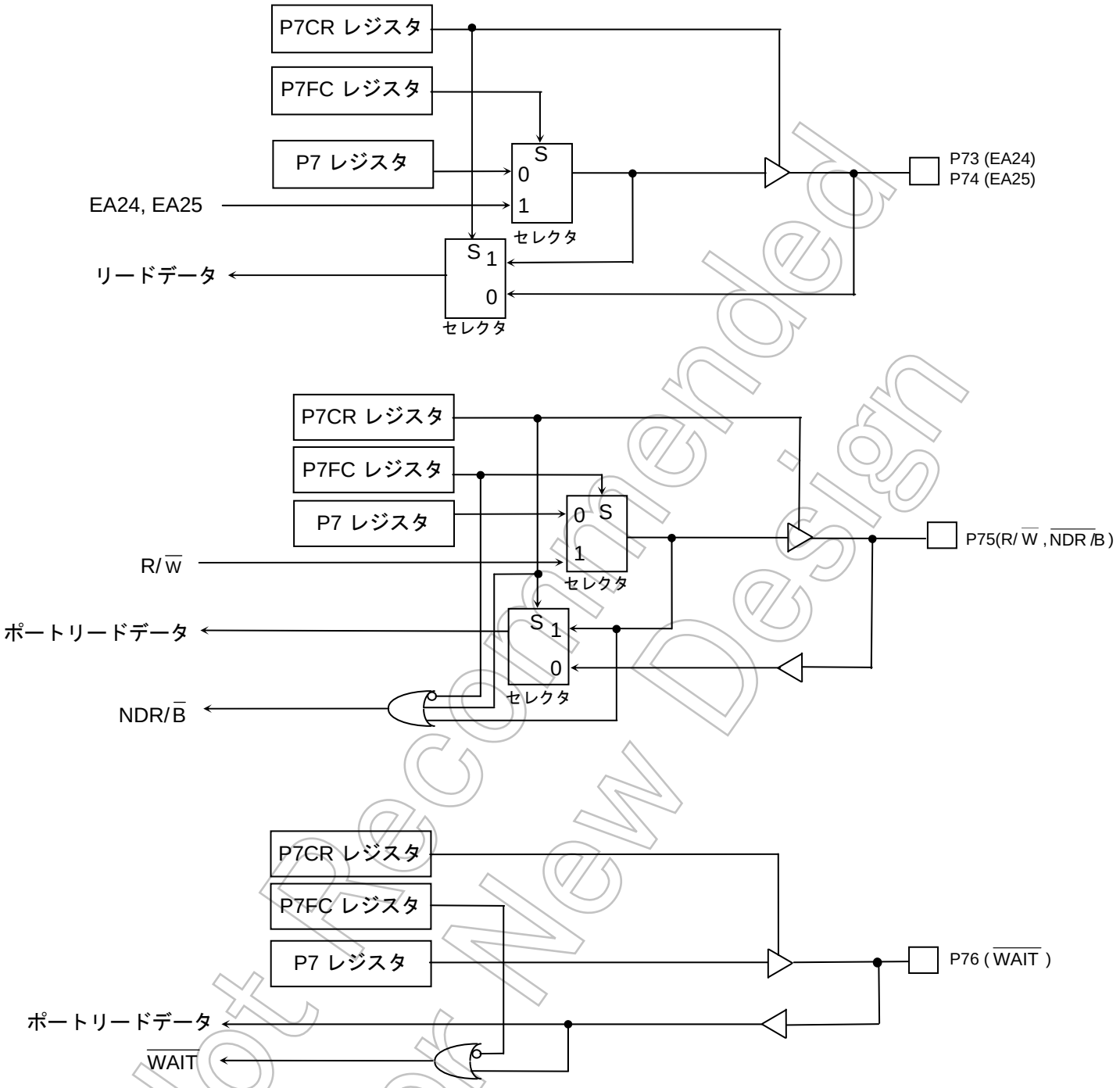


図 3.8.9 ポート 7

Not Recommended for New Design



Not Recommended for New Design

図 3.8.10　ポート 7

ポート 7 レジスタ

P7 (001CH)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol		P76	P75	P74	P73	P72	P71	P70
Read/Write		R/W						
システム リセット後		外部端子データ (出力ラッチは “1”にセットされます)		外部端子データ (出力ラッチは “0”にクリアされます)		外部端子データ (出力ラッチは “1”に セットされます)		1
Hot リセット後		–		–		–		–

ポート 7 コントロールレジスタ

P7CR (001EH)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol		P76C	P75C	P74C	P73C	P72C	P71C	
Read/Write		W						
システム リセット後		0	0	0	0	0	0	
Hot リセット後		–	–	–	–	–	–	
機能		0: 入力 1: 出力						

ポート 7 ファンクションレジスタ

P7FC (001FH)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol		P76F	P75F	P74F	P73F	P72F	P71F	P70F
Read/Write		W						
システム リセット後		0	0	0	0	0	0	0/1 注 3)
Hot リセット後		–	–	–	–	–	–	–
機能		0: ポート 1: $\overline{WAIT}$	以下の表を参照してください	以下の表を参照してください	以下の表を参照してください	0: ポート 1: $\overline{NDWE}$ at <P72> = 0 $\overline{WRLU}$ at <P72> = 1	0:ポート 1: $\overline{NDRE}$ at <P71> = 0 $\overline{WRLL}$ at <P71> = 1	0: ポート 1: $\overline{RD}$

ポート 7 ドライブレジスタ

P7DR (0087H)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol		P76D	P75D	P74D	P73D	P72D	P71D	P70D
Read/Write		R/W						
システム リセット後		1	1	1	1	1	1	1
Hot リセット後		–	–	–	–	–	–	–
機能		スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ						

P73 設定

<P73C> / <P73F>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	Reserved	EA24 出力

P72 設定

<P72C> / <P72F>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	Reserved	$\overline{NDWE}$ 出力 (at <P72>=0) $\overline{WRLU}$ 出力 (at <P72>=1)

P71 設定

<P71C> / <P71F>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	Reserved	$\overline{NDRE}$ 出力 (at <P71>=0) $\overline{WRLL}$ 出力 (at <P71>=1)

P76 設定

<P76C> / <P76F>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	$\overline{WAIT}$ 入力	Reserved

P75 設定

<P75C> / <P75F>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	NDR/ B 入力	R/ W 出力

P74 設定

<P74C> / <P74F>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	Reserved	EA25 出力

注 1) P7CR、P7FC はリードモディファイライトできません。

注 2) $\overline{NDRE}$ および $\overline{NDWE}$ を使用する場合、グリッチの出力を回避するために、次の順番でレジスタを設定してください。

順番	レジスタ	bit2	bit1
(1)	P7	0	0
(2)	P7FC	1	1
(3)	P7CR	1	1

注 3) AM 端子の状態によって、リセット後、ポートか $\overline{RD}$ 端子に変わります。

図 3.8.11 ポート 7 レジスタ

Not Recommended for New Design

3.8.6 ポート 8 (P80 ~P83, P86, P87)

ポート 8 は 6 ビットの出力ポートです。リセット動作により、P82 の出力ラッチは“0”にクリアされ、P80~P81 と P83, P86~P87 の出力ラッチは“1”にセットされます。ただし、ブートモードでスタートした場合(AM[1:0]= “11”)、P82 の出力ラッチは“1”にセットされます。

ポート 8 は機能レジスタ P8FC を使用して外部メモリ用のインタフェース端子としての機能も持っています。

これらの機能は P8FC、P8FC2 レジスタの該当ビットに“1”を設定することで動作します。リセットにより P8FC および P8FC2 は“0”にクリアされ、全てのビットは出力ポートモードになります。

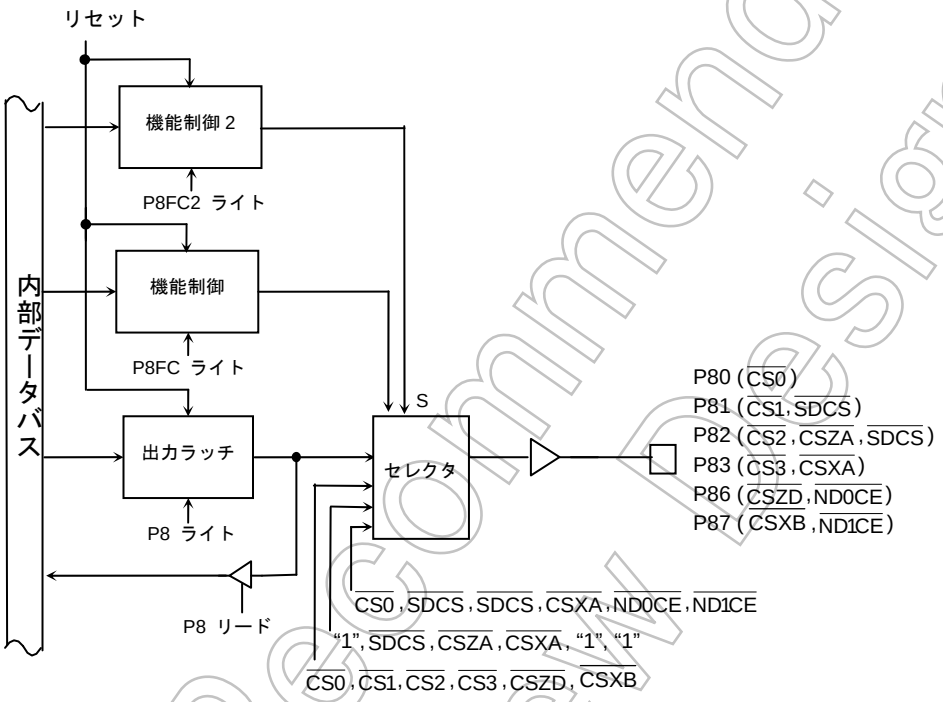


図 3.8.12 ポート 8

Not Recommended for New Design

ポート 8 レジスタ

P8 (0020H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	P87	P86			P83	P82	P81	P80
Read/Write	R/W				R/W			
システム リセット後	1	1			1	0 (注 3)	1	1
Hot リセット後	–	–			–	–	–	–

ポート 8 ファンクション レジスタ

P8FC (0023H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	P87F	P86F			P83F	P82F	P81F	P80F
Read/Write	W				W			
システム リセット後	0	0			0	0	0	0
Hot リセット後	–	–			–	–	–	–
機能	0: ポート 1: <P87F2>	0: ポート 1: <P86F2>			以下の表を参照してください	以下の表を参照してください	0: ポート 1: $\overline{CS1}$	0: ポート 1: $\overline{CS0}$

ポート 8 ファンクションレジスタ 2

P8FC2 (0021H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	P87F2	P86F2			P83F2	P82F2	P81F2	
Read/Write	W				W			
システム リセット後	0	0			0	0	0	
Hot リセット後	–	–			–	–	–	
機能	0: $\overline{CSXB}$ 1: $\overline{ND1CE}$	0: $\overline{CSZD}$ 1: $\overline{ND0CE}$			以下の表を参照してください	以下の表を参照してください	0: <P81F> 1: $\overline{SDCS}$	

ポート 8 ドライブレジスタ

P8DR (0088H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	P87D	P86D			P83D	P82D	P81D	P80D
Read/Write	R/W				R/W			
システム リセット後	1	1			1	1	1	1
Hot リセット後	–	–			–	–	–	–
機能	スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ							

P86 設定

<P86F> / <P86F2>	0	1
0	出力ポート	$\overline{CSZD}$ 出力
1	設定禁止	$\overline{ND0CE}$ 出力

P83 設定

<P83F> / <P83F2>	0	1
0	出力ポート	$\overline{CS3}$ 出力
1	$\overline{CSXA}$ 出力	

P82 設定

<P82F> / <P82F2>	0	1
0	出力ポート	$\overline{CS2}$ 出力
1	$\overline{CSZA}$ 出力	$\overline{SDCS}$ 出力

P87 設定

<P87F> / <P87F2>	0	1
0	出力ポート	$\overline{CSXB}$ 出力
1	Reserved	$\overline{ND1CE}$ 出力

注 1) P8FC と P8FC2 はリードモディファイライトできません。

注 2) P82 端子がリセットによってプログラムメモリ用 $\overline{CE}$ として“0”を出力するため、P82 端子を $\overline{CS2}$ 、$\overline{CSZA}$ に設定する前に P8<P82>レジスタに“1”をライトしないで下さい。

注 3) ブートモードでスタートした場合(AM1:0= “11”)、P82 の出力ラッチは“1”にセットされます。

注 4) $\overline{ND0CE}$ および $\overline{ND1CE}$ を使用する場合、次の順番でレジスタを設定してください。

順番	レジスタ	bit7	bit6
(1)	P8	1	1
(2)	P8FC2	1	1
(3)	P8FC	1	1

図 3.8.13 ポート 8 レジスタ

Not Recommended for New Design

3.8.7 ポート 9 (P90~P92,P96,P97)

ポート 90~92 はビット単位で入出力の指定ができる 3 ビットの汎用入出力ポートです。リセット動作により P90~P92 は入力ポートとなり、また出力ラッチの全ビットは“1”へセットされます。

P96~P97 は 2 ビットの汎用入力ポートです。ポート 9 ファンクションレジスタ P9FC の該当ビットへ “1” をライトすることにより各機能が可能となります。リセット動作により、P9FC レジスタの値は “0” にリセットされ、全ビットが入力ポートとなります。

(1) ポート 90 (TXD0), ポート 91 (RXD0), ポート 92 (SCLK0, $\overline{CTS0}$)

ポート 90~92 は汎用入出力ポートです。それ以外に SIO0 または SIO1 としての機能を持っています。SIO0 または SIO1 としての機能は PP3~PP5 端子も持っています。SIO0 を、ポート 9、ポート P のどちらで使うかの選択は、P9FC2<P93F2, P94F2, P95F2>で設定し、SIO0 または SIO1 としての機能は PP3~PP5 端子も持っています。SIO1 を、ポート 9、ポート P のどちらで使うかの選択は、PPFC2<PP4F2, PP5F2, PP6F2 >で設定します。

以下はそれぞれの端子の機能を示しています。

	SIO モード (SIO0 モジュール)	UART, IrDA モード (SIO0 モジュール)
P90	TXD0,TXD1 (データ出力)	TXD0,TXD1 (データ出力)
P91	RXD0,RXD1 (データ入力)	RXD0,RXD1 (データ入力)
P92	SCLK0,SCLK1 (クロック入力 あるいは出力)	$\overline{CTS0}$, $\overline{CTS1}$ (送信クリア)

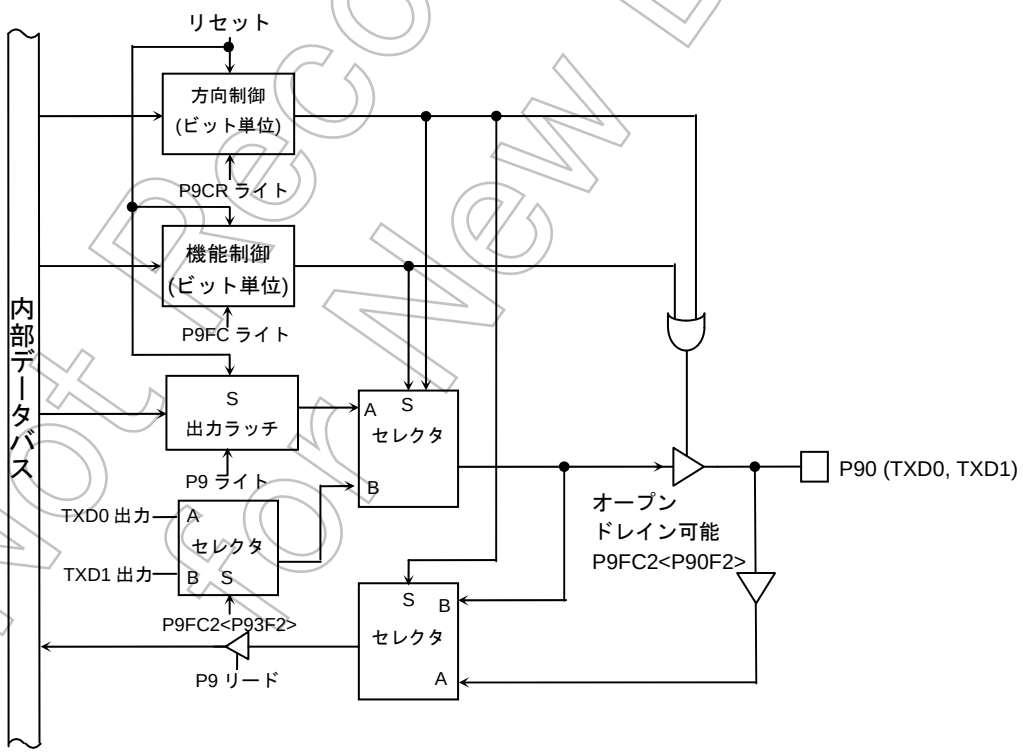


図 3.8.14 P90

Not Recommended for New Design

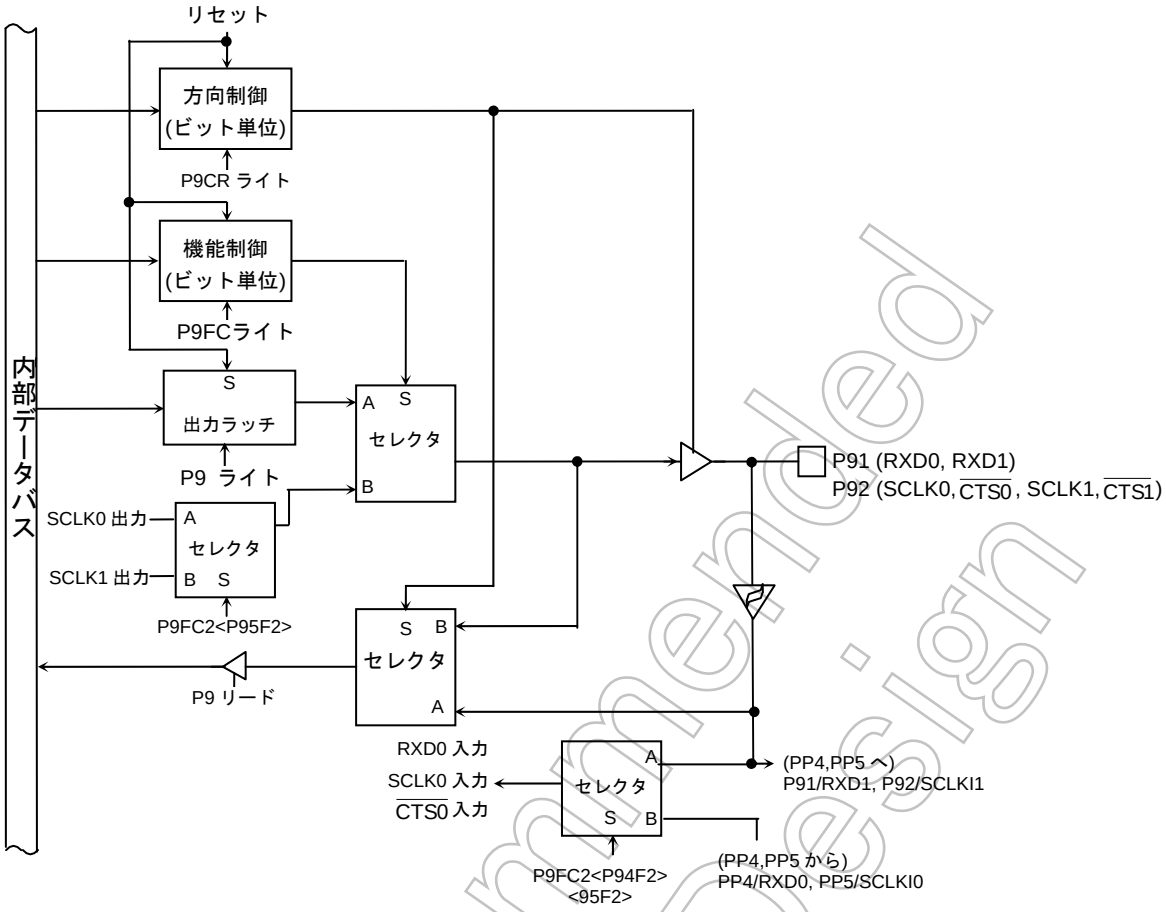


図 3.8.15　P91,92

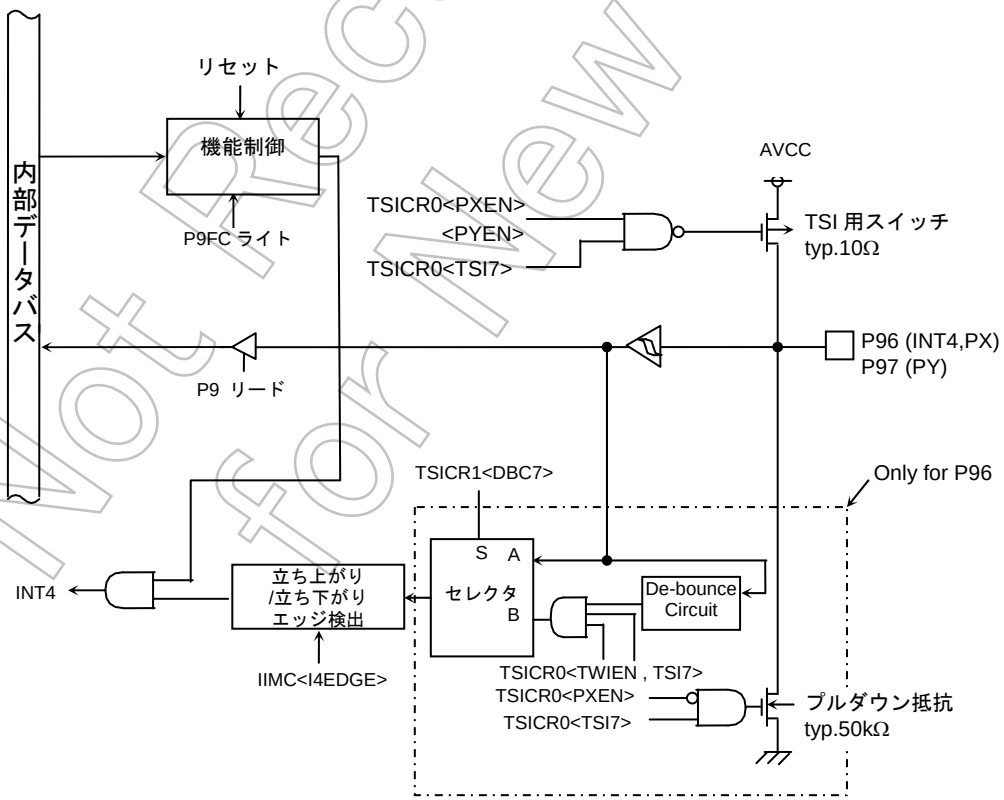


図 3.8.16　ポート 96,97

Not Recommended for New Design

ポート 9 レジスタ

P9 (0024H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	P97	P96				P92	P91	P90
Read/Write	R					R/W		
システム リセット後	外部端子データ					外部端子データ(出力ラッチレジスタは“1”にセットされます)		
Hot リセット後	–					–		

ポート 9 コントロールレジスタ

P9CR (0026H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol						P92C	P91C	P90C
Read/Write						W		
システム リセット後						0	0	0
Hot リセット後						–	–	–
機能						以下の表を参照してください		

ポート 9 ファンクション レジスタ

P9FC (0027H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol		P96F				P92F		P90F
Read/Write		W				W		W
システム リセット後		0				0		0
Hot リセット後		–				–		–
機能		0: 入力ポート 1: INT4				以下の表を参照してください		以下の表を参照してください

ポート 9 ファンクションレジスタ 2

P9FC2 (0025H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	–		P95F2	P94F2	P93F2	–		P90F2
Read/Write	W		W			W		W
システム リセット後	0		0	0	0	0		0
Hot リセット後	–		–	–	–	–		–
機能	“0”をライトしてください。		P92 の SCLK 選択 0: SCLK0 1: SLCK1 SIO0 の SCLK, $\overline{CTS}$ 入力選択 0: P92 1: PP5	SIO0 の RXD 選択 0: P91 1: PP4	P90 の TXD 選択 0: TXD0 1: TXD1	“0”をライトしてください。		0:CMOS 1:オープンドレイン

Not Recommended for New Design

ポート 9 ドライブレジスタ

P9DR (0089H)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	P97D	P96D				P92D	P91D	P90D
Read/Write	R/W					R/W		
システム リセット後	1	1				1	1	1
Hot リセット後	–	–				–	–	–
機能	スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ							

P92 設定

<P92F> \ <P92C>	0	1
0	入力ポート $\overline{CTS0}$, $\overline{CTS1}$, SCLK0,SCLK1 入力	出力ポート
1	設定禁止	SCLK0, SCLK1 出力

P91 設定

<P91C>	
0	1
入力ポート RXD0,RXD1 入力	出力ポート

P90 設定

<P90F> \ <P90C>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	設定禁止	TXD0/1 出力

注 1) P9CR、P9FC および P9FC2 はリードモディファイライトできません。

注 2) P96 端子を INT4 入力に設定した状態で、P9DR<P96D>を“0”(入力禁止)に設定し P96 端子に“0”をドライブしている状態で HALT 命令を実行すると内部的に INT4 が発生します。HALT 状態で外部割込みを使用しない合は、ポート設定に変更するなど割込みが発生しない様に設定してください。

図 3.8.17 ポート 9 レジスタ

Not Recommended for New Design

3.8.8 ポート A (PA0 ~ PA7)

ポート A は 8 ビットのプルアップ抵抗付き汎用入力ポートです。入力ポート以外にキーボードインターフェース端子としてキーオンウェイクアップ機能があります。この機能は PAFC レジスタの該当ビットへ “1”をライトすることにより動作可能となります。

リセット動作により、PAFC の全ビットの値は “0” にリセットされ、全端子が入力ポートとなります。

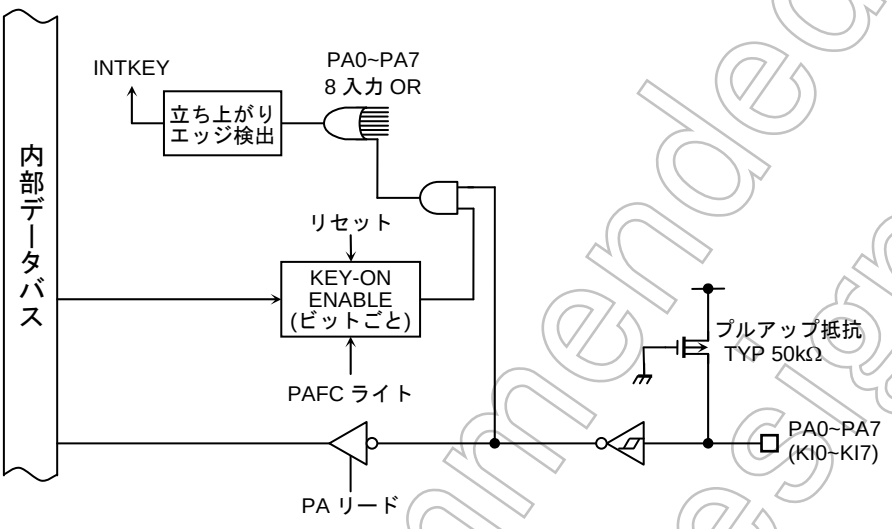


図 3.8.18 ポート A

PAFC = “1”の時に、KI0-KI7 端子のいずれかの端子の状態が立ち下がると、そのエッジを検出して INTKEY 割込みを発生します。INTKEY 割込みは全ての HALT モード状態を解除可能です。

Not Recommended for New Design

ポート A レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
PA (0028H)	bit Symbol	PA7	PA6	PA5	PA4	PA3	PA2	PA1	PA0
	Read/Write	R							
	システム リセット後	外部端子データ							
	Hot リセット後	–							

ポート A ファンクション レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
PAFC (002BH)	bit Symbol	PA7F	PA6F	PA5F	PA4F	PA3F	PA2F	PA1F	PA0F
	Read/Write	W							
	システム リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–
	機能	0: KEY IN 禁止 1: KEY IN 許可							

ポート A ドライブレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
PADR (008AH)	bit Symbol	PA7D	PA6D	PA5D	PA4D	PA3D	PA2D	PA1D	PA0D
	Read/Write	R/W							
	システム リセット後	1	1	1	1	1	1	1	1
	Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–
	機能	スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ							

注) PAFC はリードモディファイライトできません。

図 3.8.19 ポート A レジスタ

Not Recommended for New Design

3.8.9 ポートC (PC0 ~ PC7)

ポート C はビット単位で入出力の指定ができる 8 ビットの汎用入出力ポートです。リセット動作によりポート C は入力ポートとなり、また出力ラッチの全ビットは“1”へセットされます。

汎用入出力ポート機能以外に、ポート C はタイマの入力端子(TA0IN,TA2IN)機能や、外部割込み入力端子(INT0~INT3)機能、拡張アドレス機能（EA26, EA27, EA28)、SPI コントローラ用出力端子(SPDI, SPDO, SPCLK), Key 用出力端子(KO8)を持っています。上記設定はファンクションレジスタ PCFC を使用します。外部割込みのエッジ選択は割込みコントローラ部にある IIMC レジスタにて設定します。

(1) PC0 (INT0), PC2 (INT2)

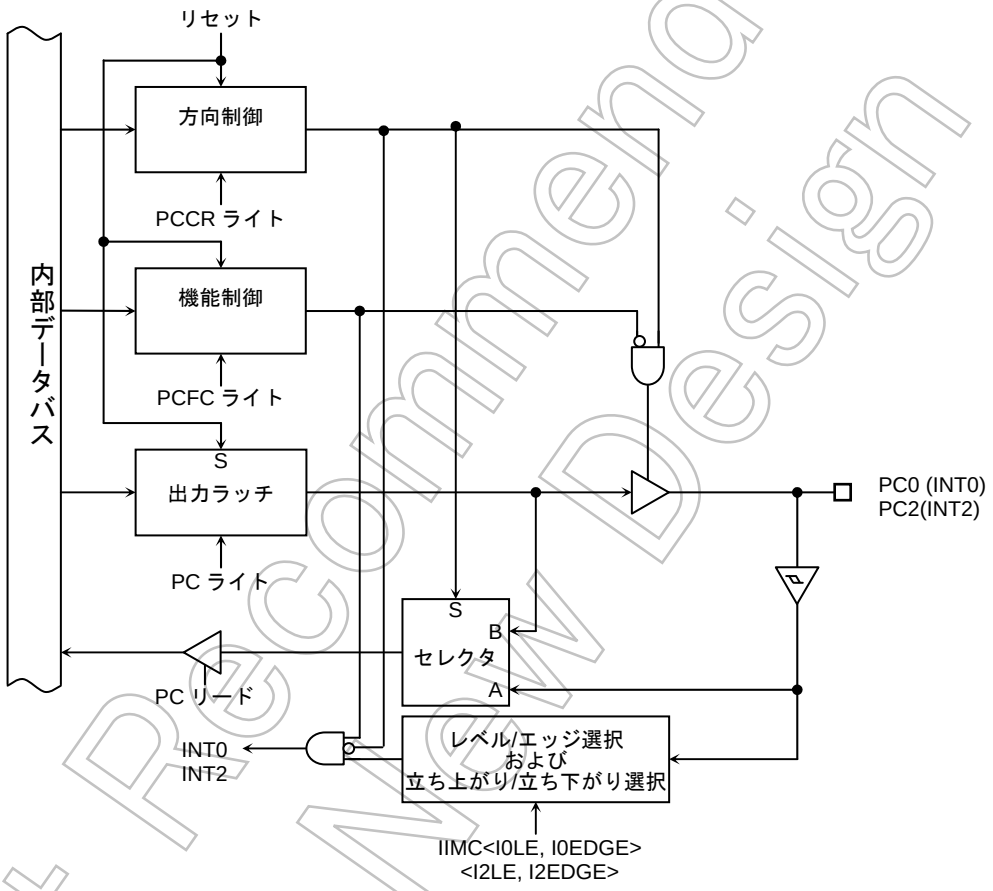


図 3.8.20 ポート C0, C2

Not Recommended for New Design

(2) PC1 (INT1, TA0IN), PC3 (INT3, TA2IN)

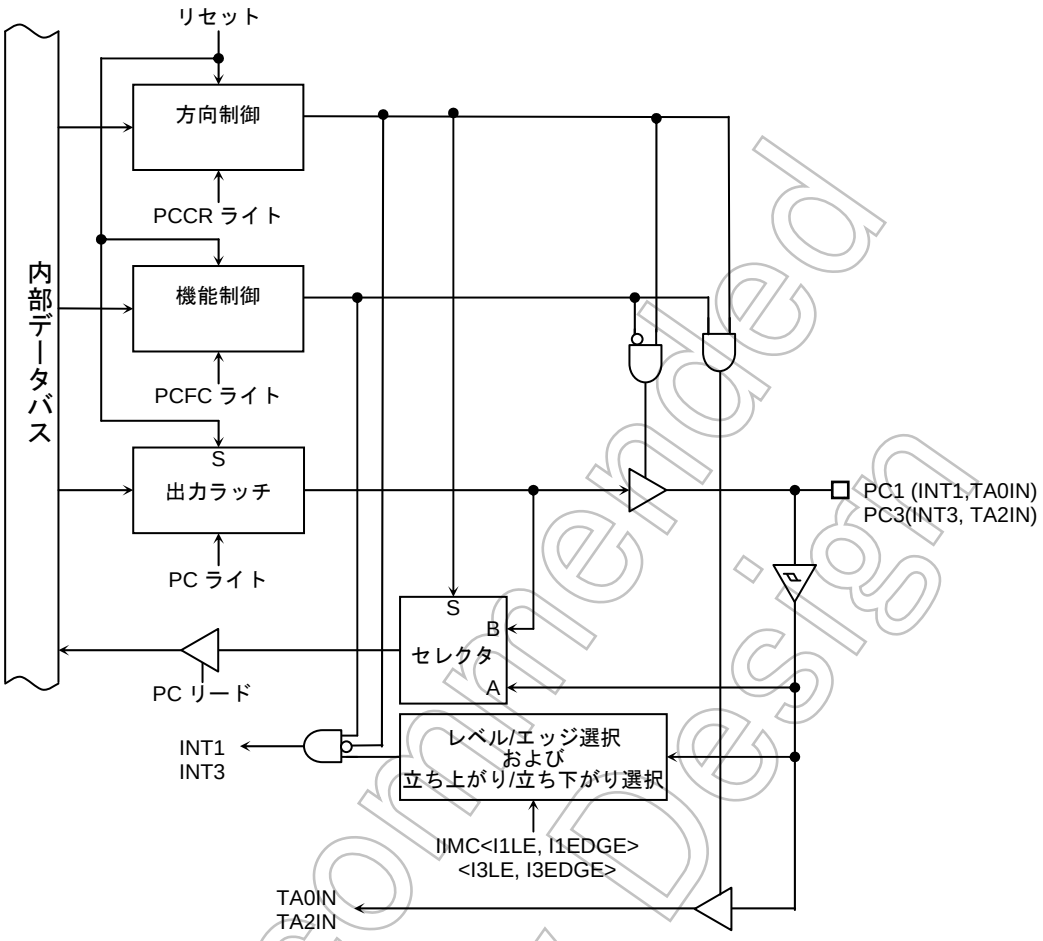


図 3.8.21 ポート C1,C3

Not Recommended for New Design

(3) PC4 (EA26, SPDI),

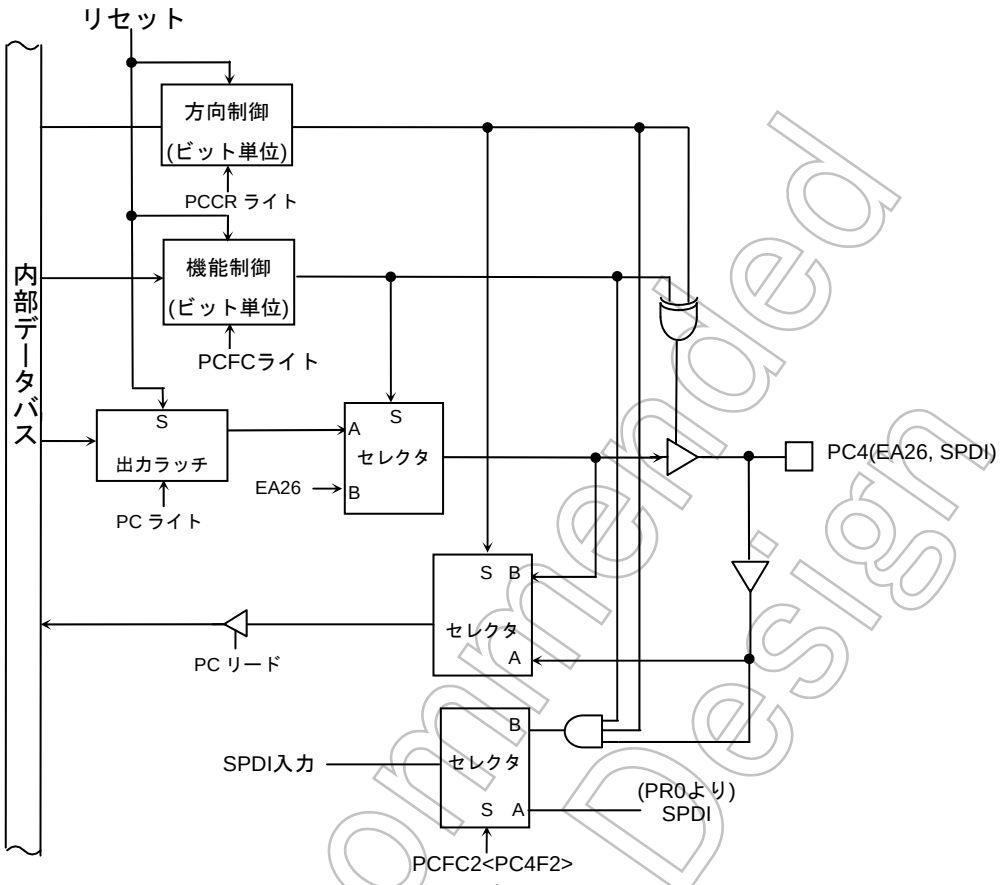


図 3.8.22 ポート C4

(4) PC5 (EA27), PC6 (EA28)

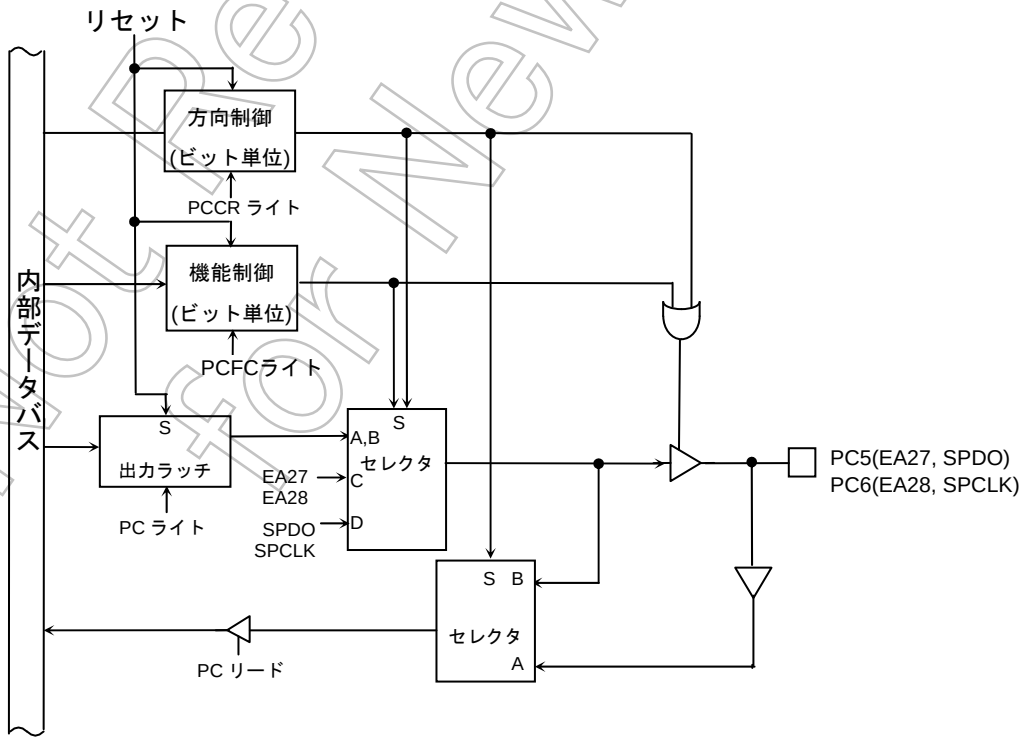


図 3.8.23 ポート C5,C6

Not Recommended for New Design

(5) PC7 (KO8)

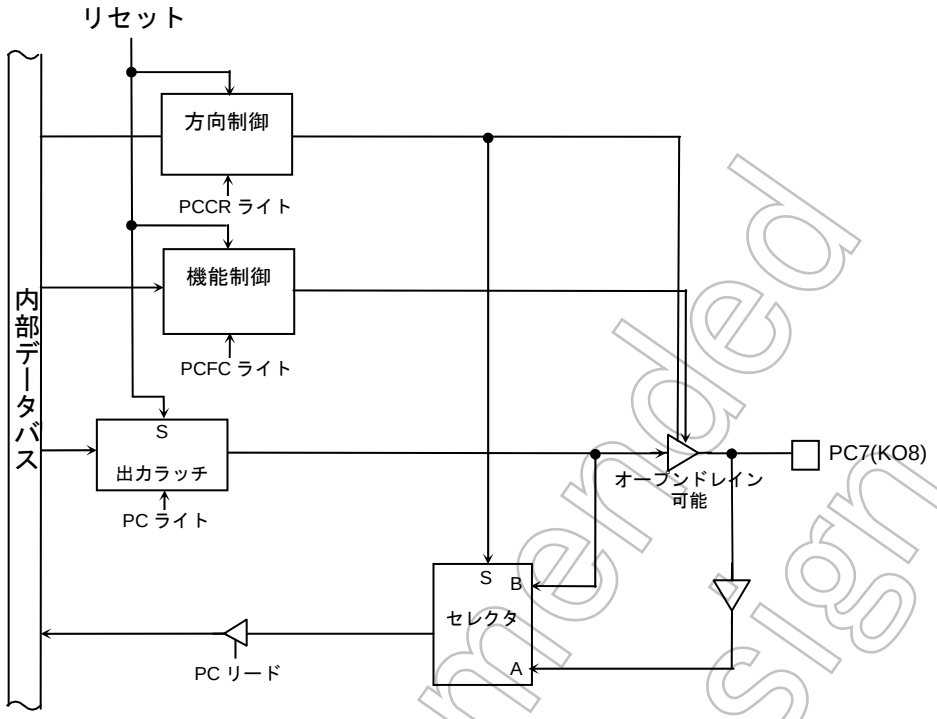


図 3.8.24 ポート C7

Not Recommended for New Design

ポート C レジスタ

PC (0030H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PC7	PC6	PC5	PC4	PC3	PC2	PC1	PC0
Read/Write	R/W							
システム リセット後	外部端子データ(出力ラッチは“1”にセットされます)							
Hot リセット後	–							

ポート C コントロールレジスタ

PCCR (0032H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PC7C	PC6C	PC5C	PC4C	PC3C	PC2C	PC1C	PC0C
Read/Write	W							
システム リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–
機能	0: 入力 1: 出力							

ポート C ファンクションレジスタ

PCFC (0033H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PC7F	PC6F	PC5F	PC4F	PC3F	PC2F	PC1F	PC0F
Read/Write	W							
システム リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–
機能	以下の表を参照してください							

ポート C ファンクションレジスタ 2

PCFC2 (0031H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol				PC4F2				
Read/Write				W				
システム リセット後				0				
Hot リセット後				–				
機能				SPDI 端子選択 0: PR0 1: PC4				

ポート C ドライブ レジスタ

PCDR (008CH)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PC7D	PC6D	PC5D	PC4D	PC3D	PC2D	PC1D	PC0D
Read/Write	R/W							
システム リセット後	1	1	1	1	1	1	1	1
Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–
機能	スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ							

Not Recommended for New Design

PC2 設定

<PC2C> / <PC2F>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	INT2	設定禁止

PC1 設定

<PC1C> / <PC1F>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	INT1	TA0IN 入力

PC0 設定

<PC0C> / <PC0F>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	INT0	設定禁止

PC5 設定

<PC5C> / <PC5F>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	EA27 出力	SPDO 出力

PC4 設定

<PC4C> / <PC4F>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	EA26 出力	SPDI 入力

PC3 設定

<PC3C> / <PC3F>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	INT3	TA2IN 入力

PC7 設定

<PC7C> / <PC7F>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	設定禁止	KO8 出力 (オープンドレイン)

PC6 設定

<PC6C> / <PC6F>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	EA28 出力	SPCLK 出力

注 1) PCCR, PCFC リードモディファイライトできません。

注 2) PC3,PC2,PC1,PC0 端子を INT3,INT2,INT1,INT0 入力に設定した状態で、PCDR<PC3D:0D>を“0000”(入力禁止)に設定し PC3,PC2,PC1,PC0 端子に“0”をドライブしている状態で HALT 命令を実行すると内部的に INT3,INT2,INT1,INT0 が発生します。HALT 状態で外部割込みを使用しない場合は、ポート設定に変更するなど割込みが発生しない様に設定してください。

図 3.8.25 ポート C レジスタ

Not Recommended for New Design

3.8.10 ポートF(PF0~PF2,PF7)

ポート F0~F2 はビット単位で入出力の指定ができる 3 ビットの汎用入出力ポートです。リセット動作により、全ての端子が入力ポートとなり、また出力ラッチレジスタの全ビットは "1" へセットされます。

PF0~PF2 は汎用入出力ポート以外に I²S0 の出力機能があります。この機能は PFFC レジスタの該当ビットへ"1"をライトする事により、それぞれの機能が動作可能となります。

ポート F7 は 1 ビットの汎用出力ポートです。汎用出力ポートのほかに PF7 は SDCLK 出力機能があります。リセット動作により、PF7 は SDCLK 出力端子に設定されます。

(1) ポート F0 (I2S0CKO), ポート F1 (I2S0DO), ポート F2 (I2S0WS)

ポート F0~F2 は汎用入出力ポートです。それ以外に I²S としての機能を持っています。

以下はそれぞれの端子の機能を示しています。

	I²S モード (I2S0 モジュール)
PF0	I2S0CKO (クロック出力)
PF1	I2S0DO (データ出力)
PF2	I2S0WS (ワード選択出力)

Not Recommended for New Design

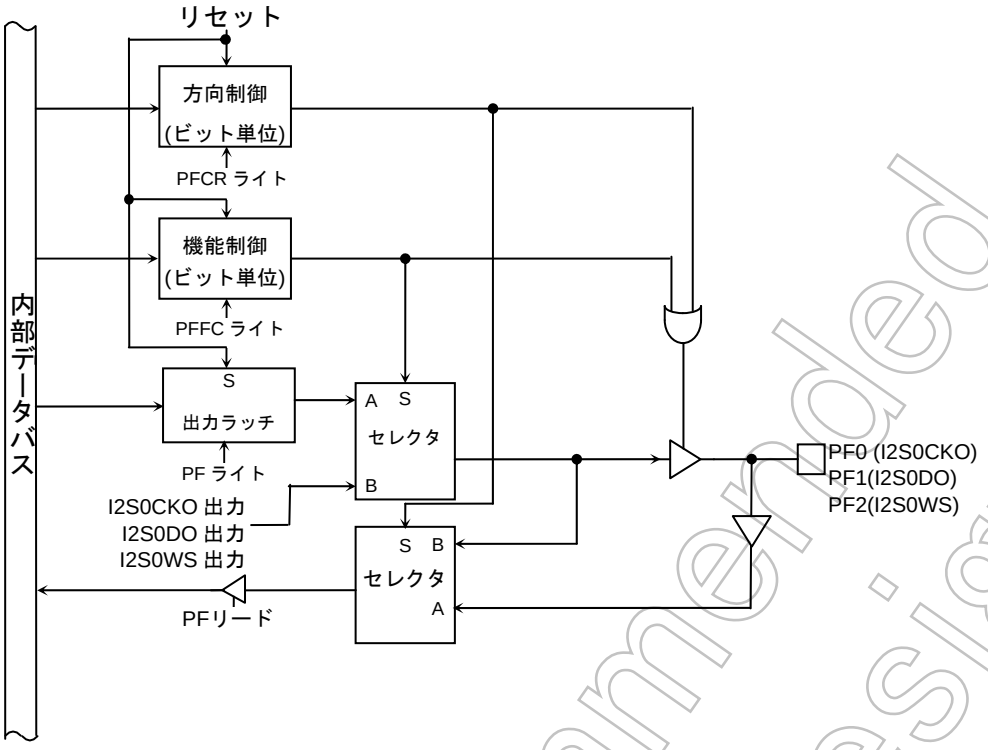


図 3.8.26　ポート F0, F1, F2

(2) ポート F7 (SDCLK)

ポート F7 汎用出力ポートです。それ以外に SDCLK 出力としての機能を持っています。

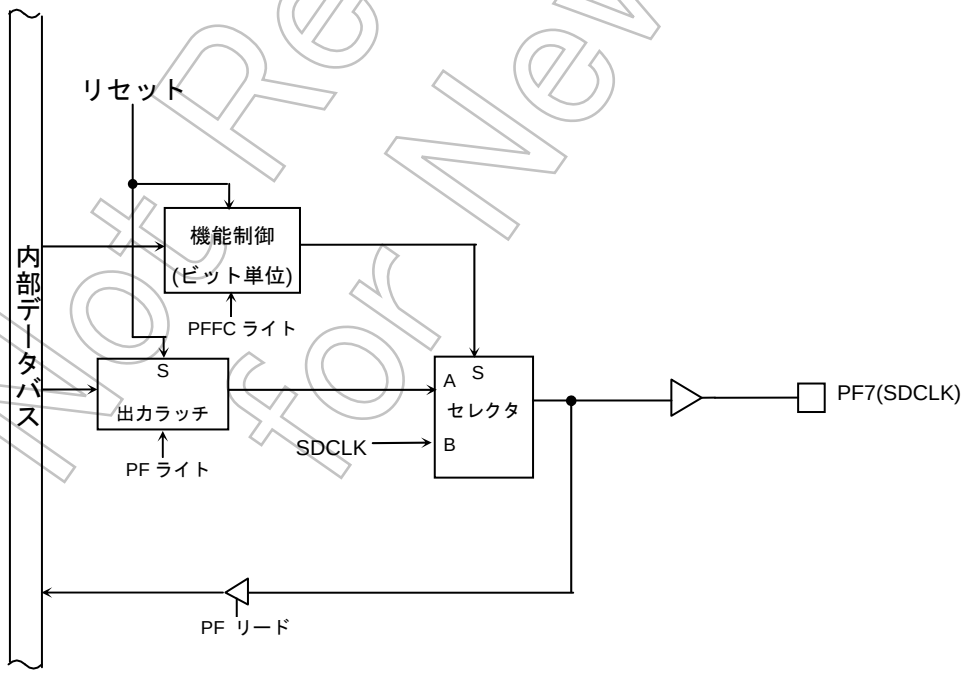


図 3.8.27　ポート F7

Not Recommended for New Design

ポート F レジスタ

PF (003CH)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PF7					PF2	PF1	PF0
Read/Write	R/W					R/W		
システム リセット後	1					外部端子データ(出力ラッチは"1"にセットされます)		
Hot リセット後	–					–		

ポート F コントロールレジスタ

PFCR (003EH)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol						PF2C	PF1C	PF0C
Read/Write						W		
システム リセット後						0	0	0
Hot リセット後						–	–	–
機能						以下の表を参照してください		

ポート F ファンクション レジスタ

PFFC (003FH)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PF7F					PF2F	PF1F	PF0F
Read/Write	W					W		
システム リセット後	1					0	0	0
Hot リセット後	–					–	–	–
機能	0: ポート 1: SDCLK					以下の表を参照してください		

ポート F ドライブレジスタ

PFDR (008FH)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PF7D					PF2D	PF1D	PF0D
Read/Write	R/W					R/W		
システム リセット後	1					1	1	1
Hot リセット後	–					–	–	–
機能	スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ					スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ		

PF2 設定

<PF2C> / <PF2F>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	I2S0WS 出力	

PF1 設定

<PF1C> / <PF1F>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	I2S0DO 出力	

PF0 設定

<PF0C> / <PF0F>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	I2S0CKO 出力	

注) PFCR、PFFC はリードモディファイライトできません。

図 3.8.28 ポート F レジスタ

Not Recommended for New Design

3.8.11 ポート G (PG0 ~ PG5)

ポート G は 6 ビットの入力ポートです。このポートは内部 AD コンバータ用アナログ入力端子の機能も持ち合わせています。PG3 は AD コンバータ用 ADTRG 端子としての機能を、PG2、PG3 はタッチスクリーンインターフェース用 MX、MY 端子としての機能を持っています。

ただし、(PG)レジスタは、バイト単位でアクセスできません。(演算命令、ビット操作命令、ローテート/シフト命令の全ての命令において、バイトアクセスは禁止です。) 必ず、ワードアクセスしてください。

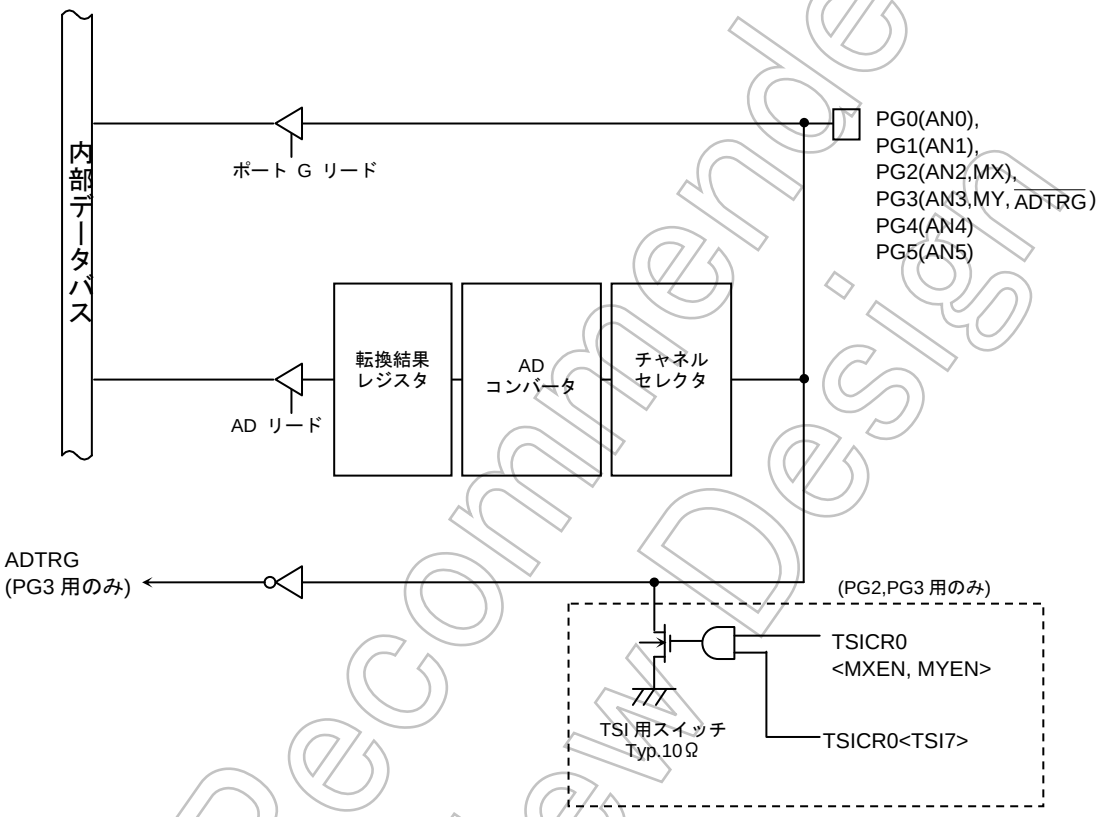


図 3.8.29 ポート G

Not Recommended for New Design

ポート G レジスタ

PG (0040H)	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit Symbol			PG5	PG4	PG3	PG2	PG1	PG0
Read/Write			R					
システム リセット後			外部端子データ					
Hot リセット後			–					

注) AD コンバータの入力チャネルおよび ADTRG 入力モードレジスタの選択は AD コンバータの設定によって許可されます。

ポート G ファンクションレジスタ

PGFC (0043H)	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit Symbol					PG3F			
Read/Write					W			
システム リセット後					0			
Hot リセット後					–			
機能					0:入力ポート or AN3 1:$\overline{\text{ADTRG}}$			

ポート G ドライバレジスタ

PGDR (0090H)	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit Symbol					PG3D	PG2D		
Read/Write					R/W			
システム リセット後					1	1		
Hot リセット後					–	–		
機能					スタンバイモード用 入出力バッファ ドライブレジスタ			

注) PGFC はリードモディファイライトできません。

図 3.8.30 ポート G レジスタ

Not Recommended for New Design

3.8.12 ポート J (PJ0 ~ PJ7)

ポート J0~J4 および J7 は 6 ビットの出力ポートです。リセット動作により出力ラッチ PJ は“1”にセットされ、ポート J は“1”を出力します。ポート J5 および J6 は 2 ビットの入出力ポートです。

出力ポート機能以外に、ポート J には SDRAM コントローラ用出力端子（$\overline{\text{SDRAS}}$, $\overline{\text{SDCAS}}$, $\overline{\text{SDWE}}$, SDLLDQM, SDLUDQM, SDCKE）機能と SRAM コントローラ用出力端子（$\overline{\text{SRWR}}$, $\overline{\text{SRLLB}}$, $\overline{\text{SRLUB}}$）機能、そして NAND-Flash(NDALE,NDCLE)機能があります。これらの設定は PJFC レジスタによって行ないます。

ただし、PJ0~PJ2 用の SDRAM あるいは SRAM の出力信号はメモリコントローラの設定によって自動的に選択されます。

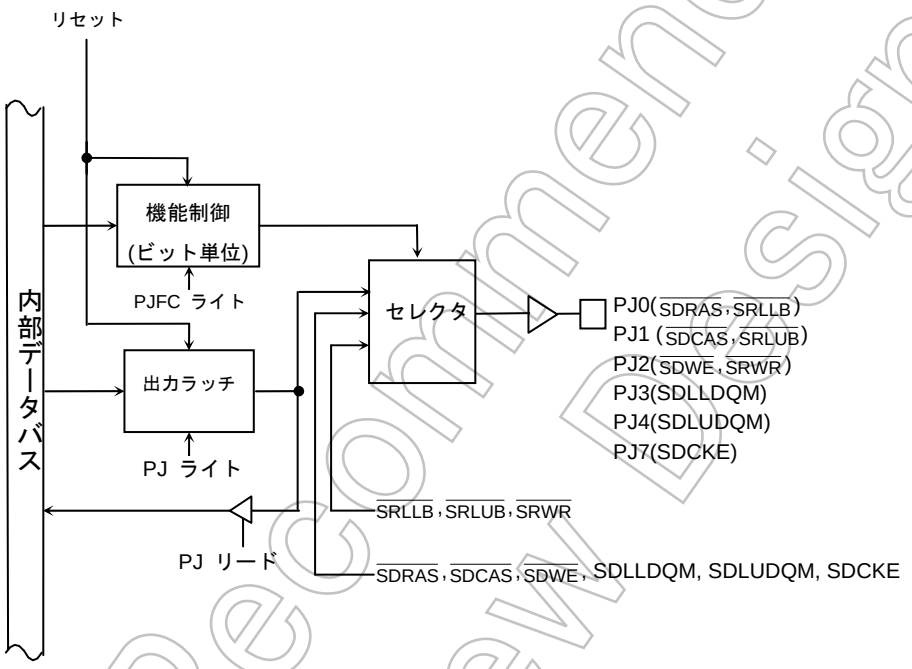


図 3.8.31 ポート J0~J4 および J7

Not Recommended for New Design

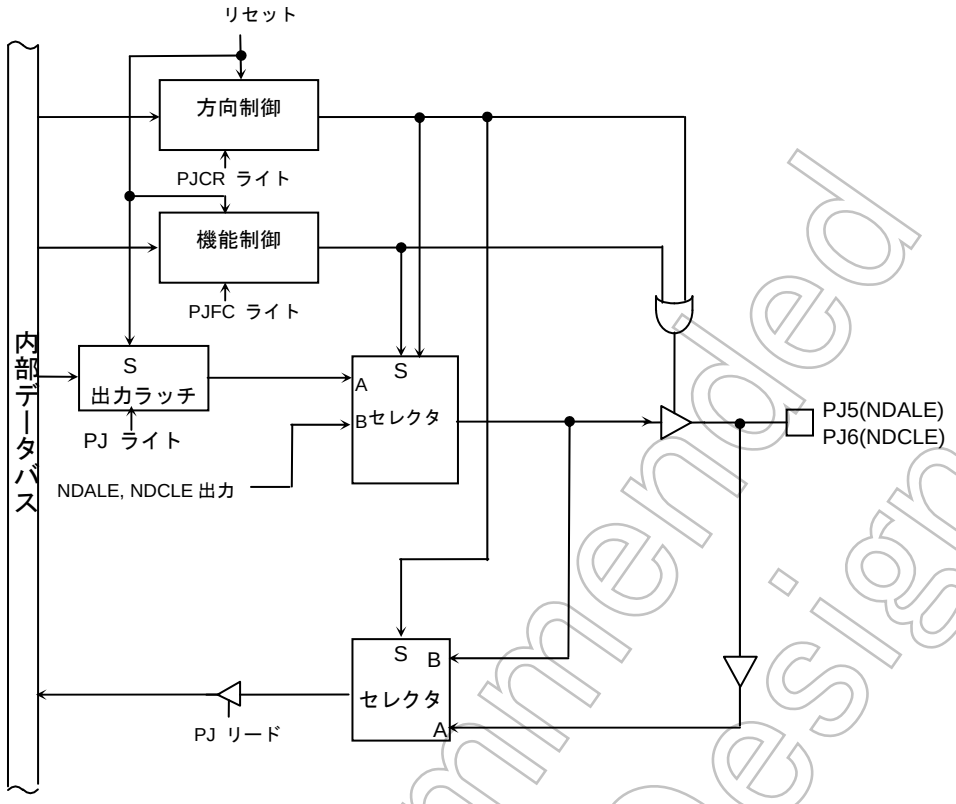


図 3.8.32 ポート J5,J6

Not Recommended for New Design

ポート J レジスタ

PJ (004CH)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PJ7	PJ6	PJ5	PJ4	PJ3	PJ2	PJ1	PJ0
Read/Write	R/W							
システム リセット後	1	外部端子データ (出力ラッチは "1"にセットされます)		1	1	1	1	1
Hot リセット後	–	–		–	–	–	–	–

ポート J コントロールレジスタ

PJCR (004EH)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol		PJ6C	PJ5C					
Read/Write		W						
システム リセット後		0	0					
Hot リセット後		–	–					
機能		以下の表を参照してください						

ポート J ファンクションレジスタ

PJFC (004FH)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PJ7F	PJ6F	PJ5F	PJ4F	PJ3F	PJ2F	PJ1F	PJ0F
Read/Write	W							
システム リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–
機能	0: ポート 1: SDCKE	以下の表を参照してください		0: ポート 1:SDLUDQM	0: ポート 1:SDLLDQM	0: ポート 1: $\overline{\text{SDWE}}$, $\overline{\text{SRWR}}$	0: ポート 1: $\overline{\text{SDCAS}}$, $\overline{\text{SRLUB}}$	0: ポート 1: $\overline{\text{SDRAS}}$, $\overline{\text{SRLLB}}$

ポート J ドライブレジスタ

PJDR (0093H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PJ7D	PJ6D	PJ5D	PJ4D	PJ3D	PJ2D	PJ1D	PJ0D
Read/Write	R/W							
システム リセット後	1	1	1	1	1	1	1	1
Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–
機能	スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ							

PJ6 設定

<PJ6C> / <PJ6F>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	Reserved	NDCLE 出力

PJ5 設定

<PJ5C> / <PJ5F>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	Reserved	NDALE 出力

注) PJCR および PJFC はリードモディファイライトできません。

図 3.8.33 ポート J レジスタ

Not Recommended for New Design

3.8.13 ポート K (PK0 ~ PK7)

ポート K0~K7 は 8 ビットの出力ポートです。リセット動作により出力ラッチ PK は“0”にセットされ、PK0~PK7 端子は“0”を出力します。出力ポート機能以外に、ポート K には LCD コントローラ用出力端子(LCP0,LHSYNC,LLOAD,LFR,LVSYNC,LGOE0~LGOE2) の機能があります。これらの設定は PKFC によって行ないます。

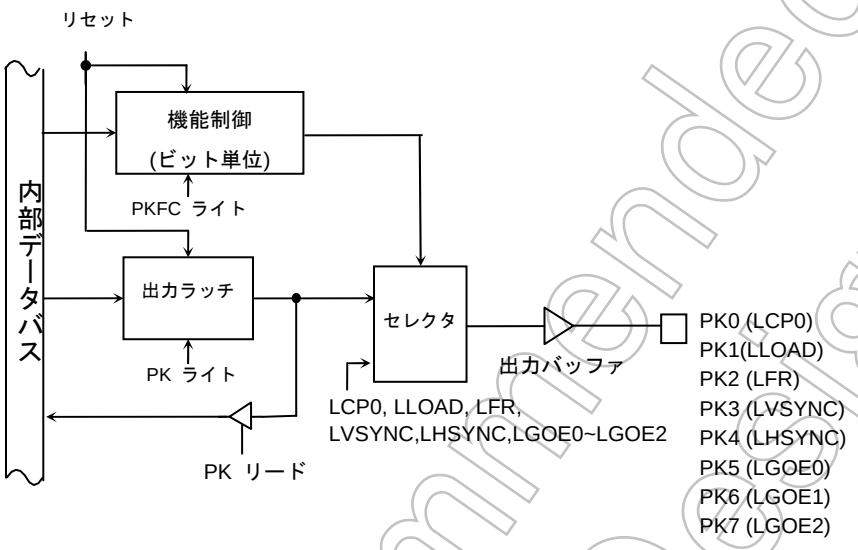


図 3.8.34 ポート K0~K7

Not Recommended for New Design

ポート K レジスタ

PK (0050H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PK7	PK6	PK5	PK4	PK3	PK2	PK1	PK0
Read/Write	R/W							
システム リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–

ポート K ファンクションレジスタ

PKFC (0053H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PK7F	PK6F	PK5F	PK4F	PK3F	PK2F	PK1F	PK0F
Read/Write	W							
システム リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–
機能	0:ポート 1:LGOE2	0:ポート 1:LGOE1	0:ポート 1:LGOE0	0:ポート 1:LHSYNC	0: ポート 1: LVSYNC	0: ポート 1: LFR	0: ポート 1: LLOAD	0: ポート 1: LCP0

ポート K ドライブレジスタ

PKDR (0094H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PK7D	PK6D	PK5D	PK4D	PK3D	PK2D	PK1D	PK0D
Read/Write	R/W							
システム リセット後	1	1	1	1	1	1	1	1
Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–
機能	スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ							

注) PKFC はリードモディファイライトできません。

図 3.8.35 ポート K レジスタ

Not Recommended for New Design

3.8.14 ポート L (PL0 ~ PL7)

ポート L0~L7 ビット単位で入出力設定可能な 8 ビットの汎用入出力ポートです。リセット動作により PL0~PL7 は入力ポートとなり、また出力ラッチ PL は“0”に設定されます。

入出力ポート機能以外に、LCD コントローラ用データバス(LD0~LD7)の機能を持っています。これらの設定はファンクションレジスタ PLFC レジスタによって行ないます。

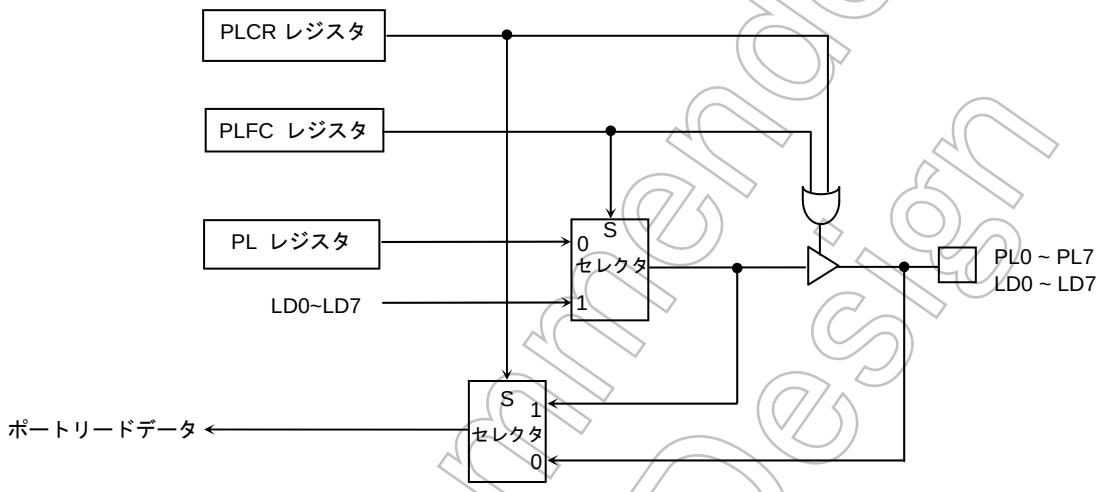


図 3.8.36 ポート L0 ~ L7

Not Recommended for New Design

ポート L レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
PL (0054H)	bit Symbol	PL7	PL6	PL5	PL4	PL3	PL2	PL1	PL0
	Read/Write	R/W							
	システムリセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–

ポート L コントロールレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
PLCR (0056H)	bit Symbol	PL7C	PL6C	PL5C	PL4C	PL3C	PL2C	PL1C	PL0C
	Read/Write	W							
	システムリセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–
	機能	0: 入力 1: 出力							

ポート L ファンクションレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
PLFC (0057H)	bit Symbol	PL7F	PL6F	PL5F	PL4F	PL3F	PL2F	PL1F	PL0F
	Read/Write	W							
	システムリセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–
	機能	0: ポート 1: LCDC 用データバス (LD7~LD0)							

ポート L ドライブレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
PLDR (0095H)	bit Symbol	PL7D	PL6D	PL5D	PL4D	PL3D	PL2D	PL1D	PL0D
	Read/Write	R/W							
	システムリセット後	1	1	1	1	1	1	1	1
	Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–
	機能	スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ							

注 1) PLCR, PLFC はリードモディファイライトできません。

注 2) LD7~LD0 として使用する場合 PLnC を“1”に設定してください。

<PLnC> / <PLnF>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	LDn	

図 3.8.37 ポート L レジスタ

Not Recommended for New Design

3.8.15 ポート M(PM1 ~ PM2、PM7)

PM1~PM2、PM7 は 3 ビットの出力ポートです。リセット動作により出力ラッチ PM は”1”に設定され PM1~PM2、PM7 端子は”1”を出力します。

ポート出力機能以外に、ポート M はタイマの出力端子(TA1OUT), RTC アラーム用出力端子($\overline{\text{ALARM}}$), メロディ/アラームジェネレータ用出力端子(MLDALM, $\overline{\text{MLDALM}}$)、電源制御端子(PWE)としての機能も持ち合わせています。これらの設定はファンクションレジスタ PMFC で行ないます。

PM1 は MLDALM および TA1OUT、PM2 は $\overline{\text{ALARM}}$ および $\overline{\text{MLDALM}}$ の二つの出力機能を持っています。この機能の選択は PM<PM1>、PM<PM2>で行ないます。

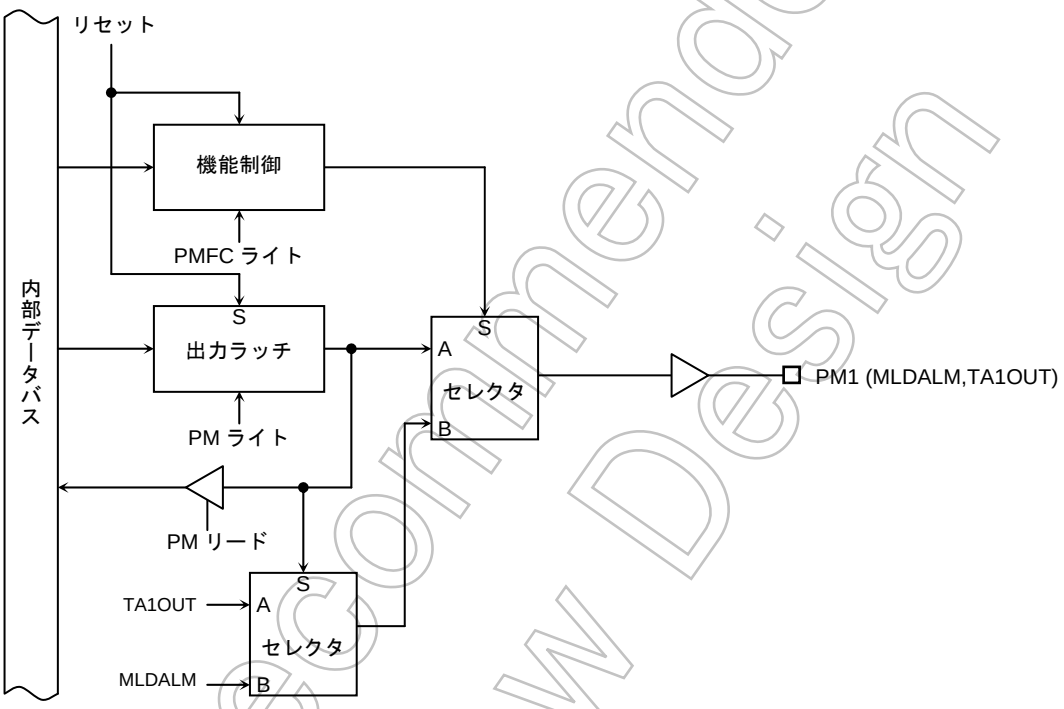


図 3.8.38 ポート M1

Not Recommended for New Design

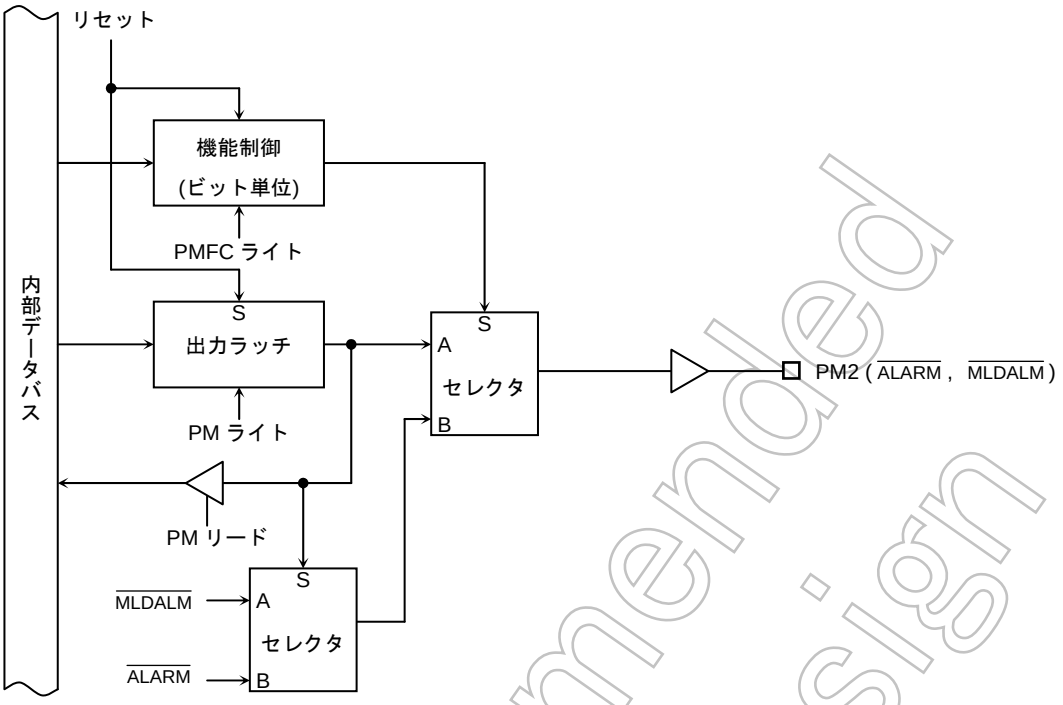


図 3.8.39　ポート M2

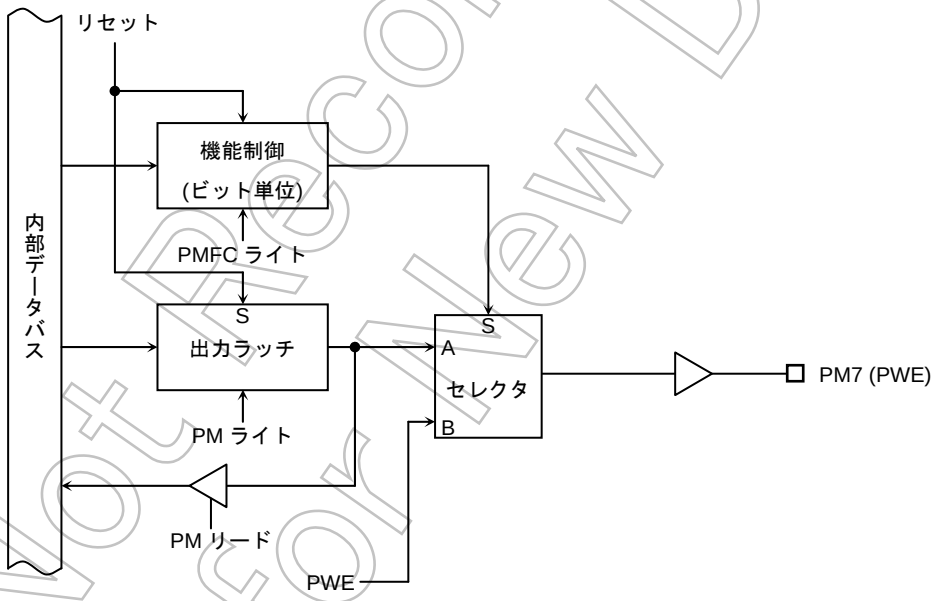


図 3.8.40　ポート M7

Not Recommended for New Design

ポート M レジスタ

PM (0058H)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PM7					PM2	PM1	
Read/Write	R/W					R/W		
システム リセット後	1					1	1	
Hot リセット後	–					–	–	

ポート M ファンクションレジスタ

PMFC (005BH)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PM7					PM2F	PM1F	
Read/Write	W					W		
システム リセット後	0					0	0	
Hot リセット後	–					–	–	
機能	0: ポート 1: PWE					0: ポート 1: $\overline{\text{ALARM}}$ at <PM2>=1 $\overline{\text{MLDALM}}$ at <PM2>=0	0: ポート 1:MLDALM at <PM1>=1 TA1OUT at <PM1>=0	

ポート M ドライブレジスタ

PMDR (0096H)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PM7D					PM2D	PM1D	
Read/Write	R/W					R/W		
システム リセット後	1					1	1	
Hot リセット後	–					–	–	
機能	スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ					スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ		

注) PMFC はリードモディファイライトできません。

図 3.8.41 ポート M レジスタ

Not Recommended for New Design

3.8.16 ポートN (PN0 ~ PN7)

ポート N はビット単位で入出力指定可能な 8 ビットの汎用入出力ポートです。リセット動作によりポート N は入力ポートとなります。

汎用入出力ポート機能以外に、ポート N はキーボード用インタフェース端子 KO0~KO7 として、オープンドレインタイプの出力バッファに設定可能です。

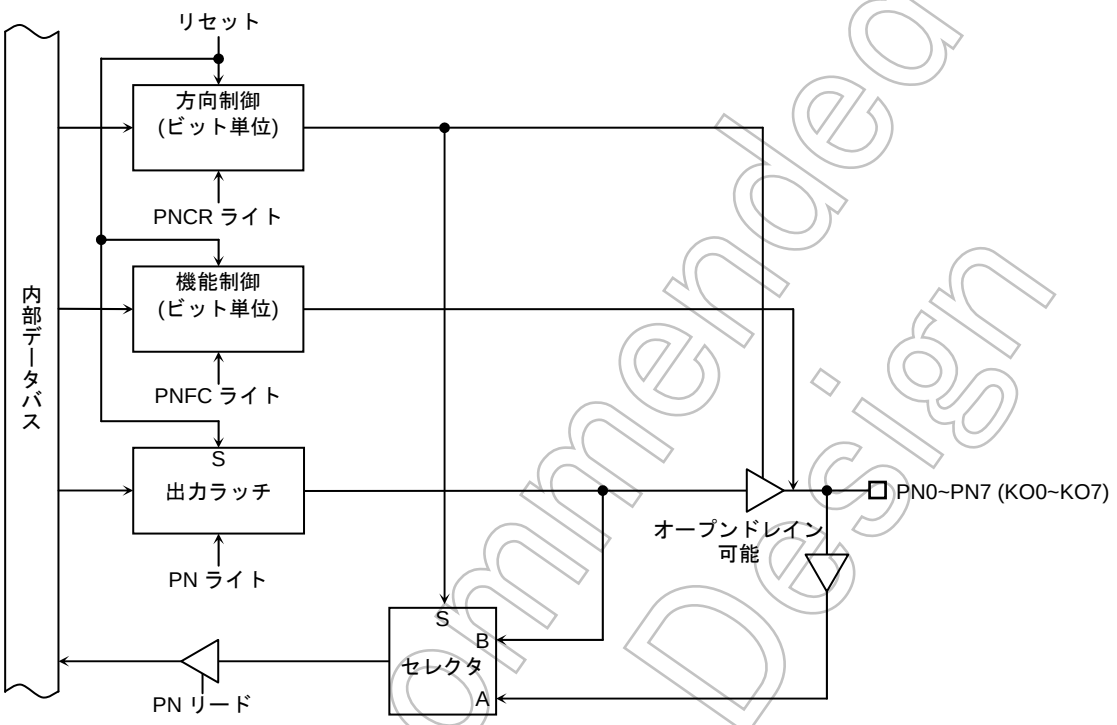


図 3.8.42 ポート N

Not Recommended for New Design

ポート N レジスタ

PN (005CH)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PN7	PN6	PN5	PN4	PN3	PN2	PN1	PN0
Read/Write	R/W							
システム リセット後	外部端子データ(出力ラッチは “1”にセットされます)							
Hot リセット後	–							

ポート N コントロールレジスタ

PNCR (005EH)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PN7C	PN6C	PN5C	PN4C	PN3C	PN2C	PN1C	PN0C
Read/Write	W							
システム リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–
機能	0: 入力 1: 出力							

ポート N ファンクション レジスタ

PNFC (005FH)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PN7F	PN6F	PN5F	PN4F	PN3F	PN2F	PN1F	PN0F
Read/Write	W							
システム リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–
機能	0: CMOS 出力 1: オープンドレイン出力							

ポート N ドライブレジスタ

PNDR (0097H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PN7D	PN6D	PN5D	PN4D	PN3D	PN2D	PN1D	PN0D
Read/Write	R/W							
システム リセット後	1	1	1	1	1	1	1	1
Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–
機能	スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ							

注) PNCR,PNFC はリードモディファイライトできません。

図 3.8.43 ポート N レジスタ

Not Recommended for New Design

3.8.17 ポートP (PP3~PP6)

ポート P3~P5 はビット単位で入出力指定ができる 3 ビットの汎用入出力ポートです。リセット動作により、P3~P5 は入力ポートとなり、出力ラッチは“0”にリセットされます。汎用入出力ポート機能以外に、タイマの出力端子(TA7OUT)機能、タイマの入力 (TB0IN0,TB1IN0)機能、外部割込み入力端子(INT5~INT7)機能、シリアル転送 SIO0(TXD0,RXD0,SCLK0, $\overline{CTS0}$)機能、SIO1(TXD1,RXD1,SCLK1, $\overline{CTS1}$)機能を持っています。

ポート P6 は 1 ビットの出力ポートです。リセット動作により出力ラッチは“0”にリセットされます。出力ポート機能以外にタイマの出力端子(TB0OUT0)機能を持っています。

これらの機能は PPCR、PPFC レジスタの該当ビットを設定することで動作します。

外部割込みのエッジ選択は割込みコントローラ部にある IIMC レジスタにて設定します。

尚、ポートの設定において、16 ビットタイマ入力を選択しキャプチャ制御を行う場合、INT6,INT7 は IIMC1 レジスタの設定ではなく、TBnMOD<TBnCPM1:0>の設定に従って動作します。

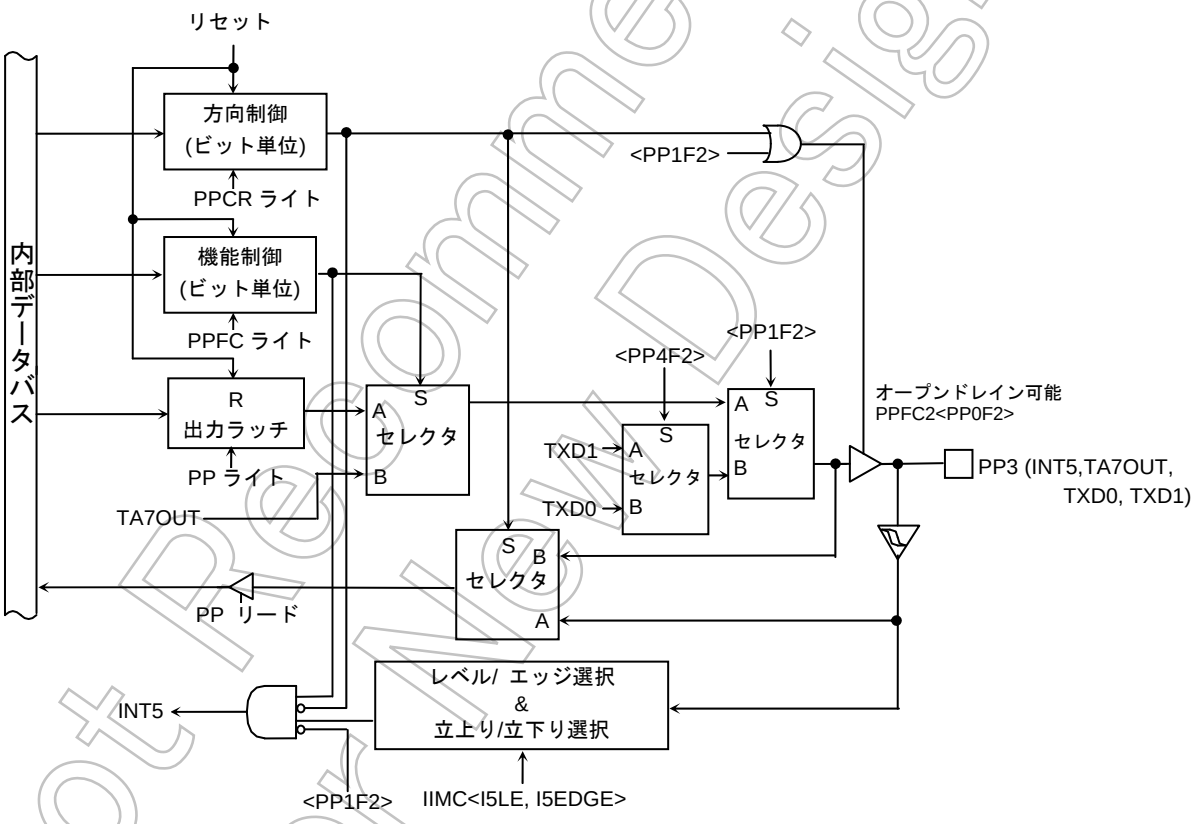


図 3.8.44 ポート P3

Not Recommended for New Design

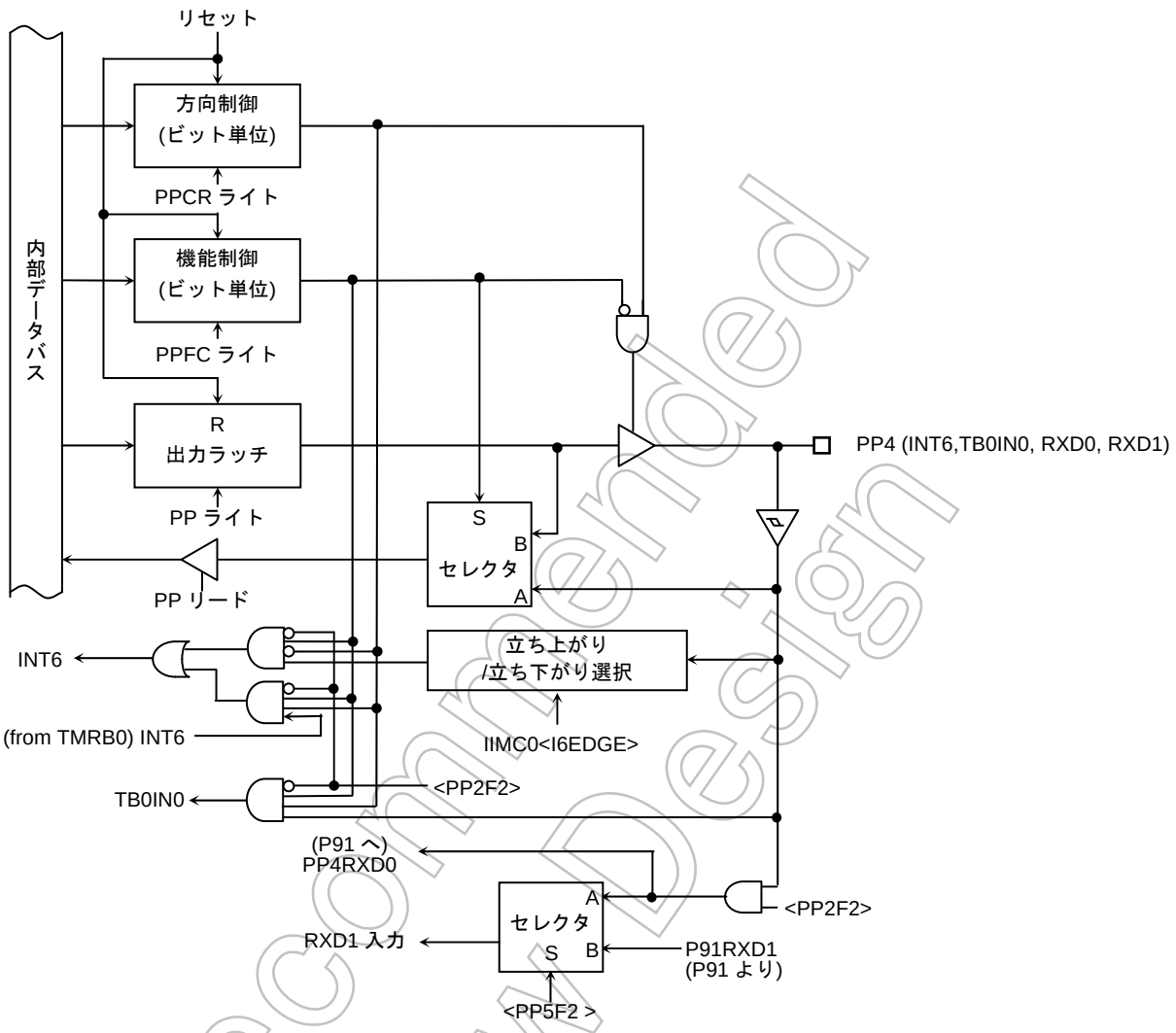


図 3.8.45　ポート P4

Not Recommended for New Design

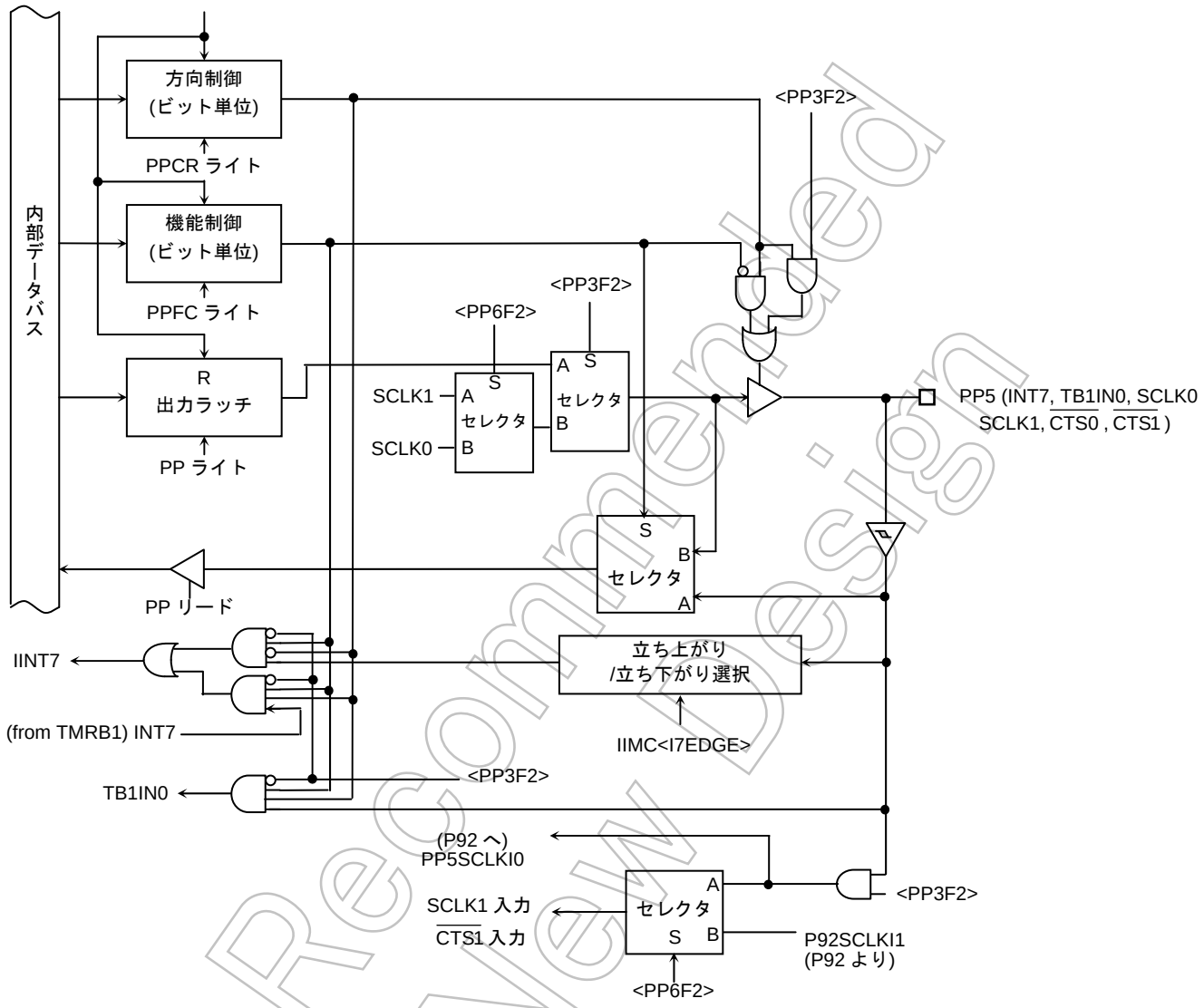


図 3.8.46　ポート P5

Not Recommended for New Design

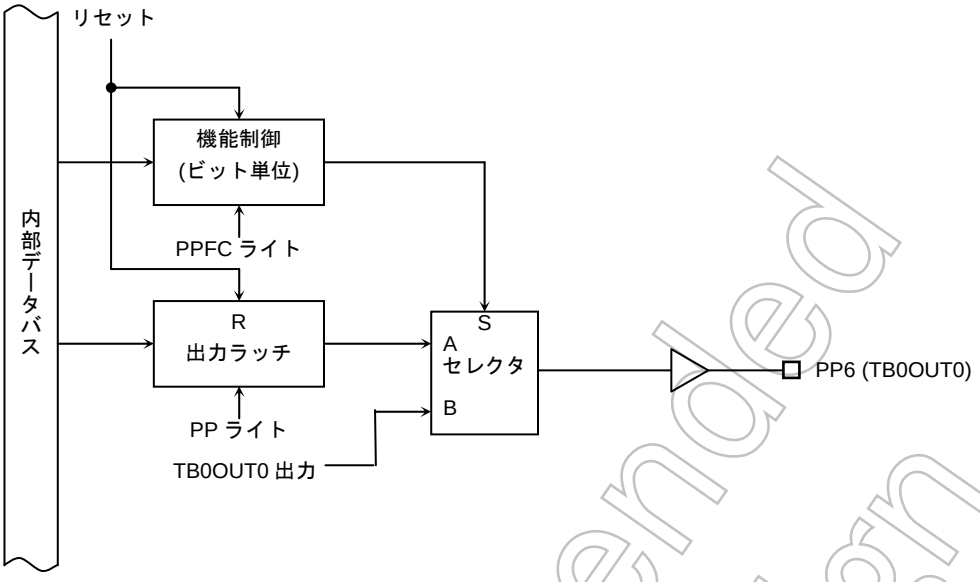


図 3.8.47 ポート P6

Not Recommended for New Design

ポート P レジスタ

PP (0060H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol		PP6	PP5	PP4	PP3			
Read/Write		R/W						
システム リセット後		0	外部端子データ (出力ラッチレジスタは “0”にリセットされます)					
Hot リセット後		–	–	–	–			

ポート P コントロールレジスタ

PPCR (0062H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol			PP5C	PP4C	PP3C			
Read/Write			W					
システム リセット後			0	0	0			
Hot リセット後			–	–	–			
機能			0: 入力 1: 出力					

ポート P ファンクションレジスタ

PPFC (0063H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol		PP6F	PP5F	PP4F	PP3F			
Read/Write		W						
システム リセット後		0	0	0	0			
Hot リセット後		–	–	–	–			
機能		0:ポート 1:TB0OUT0	下記表を参照してください。					

ポート P ドライブレジスタ

PPDR (0098H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol		PP6D	PP5D	PP4D	PP3D			
Read/Write		W						
システム リセット後		1	1	1	1			
Hot リセット後		–	–	–	–			
機能		スタンバイモード用 入出力バッファドライブレジスタ						

Not Recommended for New Design

ポート P ファンクションレジスタ 2

PPFC2 (0061H)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol		PP6F2	PP5F2	PP4F2	PP3F2	PP2F2	PP1F2	PP0F2
Read/Write		W						
システム リセット後		0	0	0	0	0	0	0
Hot リセット後		–	–	–	–	–	–	–
機能		PP5 の SCLK 出力 0: SCLK1 1: SCLK0 SIO1 の SCLK, $\overline{CTS}$ 入力 0: PP5 1: P92	SIO1 の RXD 選択 0: PP4 1: P91	PP3 選択 0: TXD1 1: TXD0	PP5 端子 0: 上記以外 1: SCLK, $\overline{CTS}$ 入力 または SCLK 出力	PP4 端子 0: 上記以外 1: RXD 入力	PP3 端子 0: 上記以外 1: TXD 出力	PP3 端子 0: CMOS 1: オープンドレイン

PP3 設定 (<PP1F2>=0 の時)

<PP3C> / <PP3F>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	INT5 入力	TA7OUT 出力

PP4 設定 (<PP2F2>=0 の時)

<PP4C> / <PP4F>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	INT6 入力	TB0IN0 入力

PP5 設定 (<PP3F2>=0 の時)

<PP5C> / <PP5F>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	INT7 入力	TB1IN0 入力

注 1) <PP3F2, PP2F2, PP1F2>: “1”にすると PPCR, PPFC の設定に関係なく、PP3~PP5 端子は SIO0 または SIO1 の機能になります。PP3 は TXD へ、PP4 は RXD へ、PP5 は<PP5C>=0 であれば、SCLK 入力または $\overline{CTS}$ 入力へ設定され、<PP5C>=1 であれば、SCLK 出力に設定されます。

注 2) PPCR、PPFC はリードモディファイライトできません。

注 3) PP5,PP4,PP3 端子を INT7,INT6,INT5 入力に設定した状態で、PPDR<PP5D:3D>を“0000”(入力禁止)に設定し PP5,PP4,PP3 端子に“0”をドライブしている状態で HALT 命令を実行すると内部的に INT7,INT6,INT5 が発生します。HALT 状態で外部割込みを使用しない場合は、ポート設定に変更するなど割込みが発生しない様に設定してください。

図 3.8.48 ポート P レジスタ

Not Recommended for New Design

3.8.18 ポートR (R0~R3)

ポート R0~R3 はビット単位で入出力指定ができる 4 ビットの入出力ポートです。リセット動作により、R0~R3 は入力ポートとなり、出力ラッチは“0”にリセットされます。汎用入出力ポート機能以外に、SPI コントローラ用端子(SPCLK, $\overline{\text{SPCS}}$,SPDO および SPDI)機能を持っています。

これらの機能は PRCR、PRFC レジスタの該当ビットを設定することで動作します。

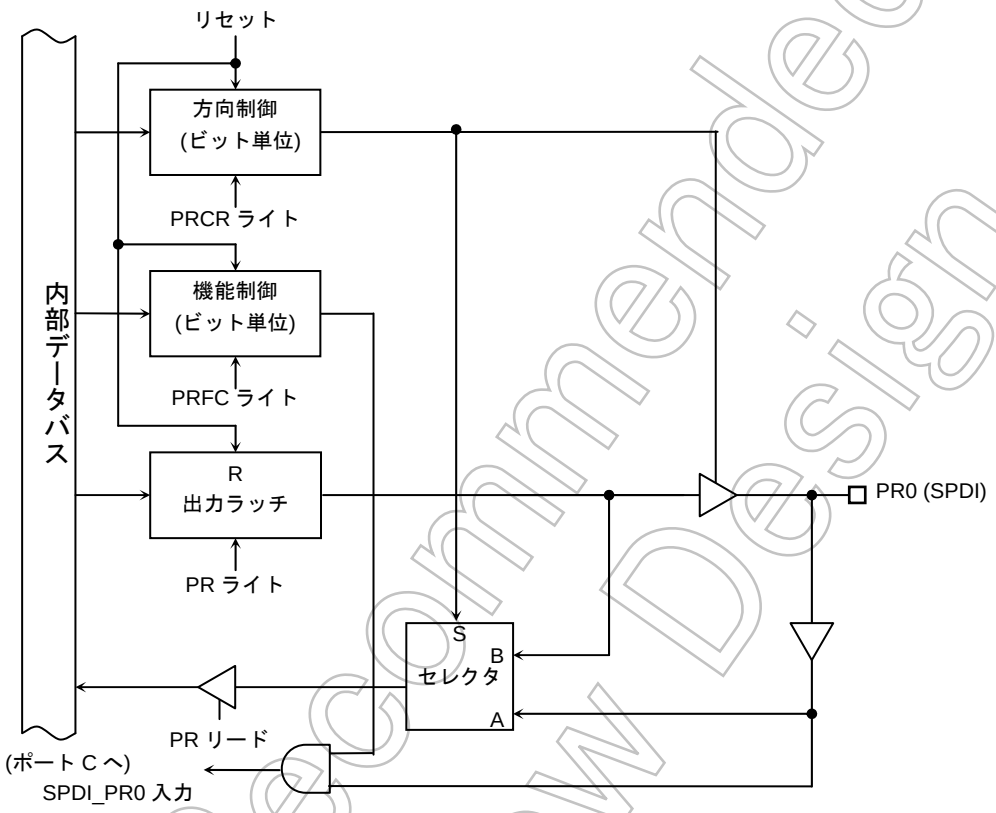


図 3.8.49 ポート R0

Not Recommended for New Design

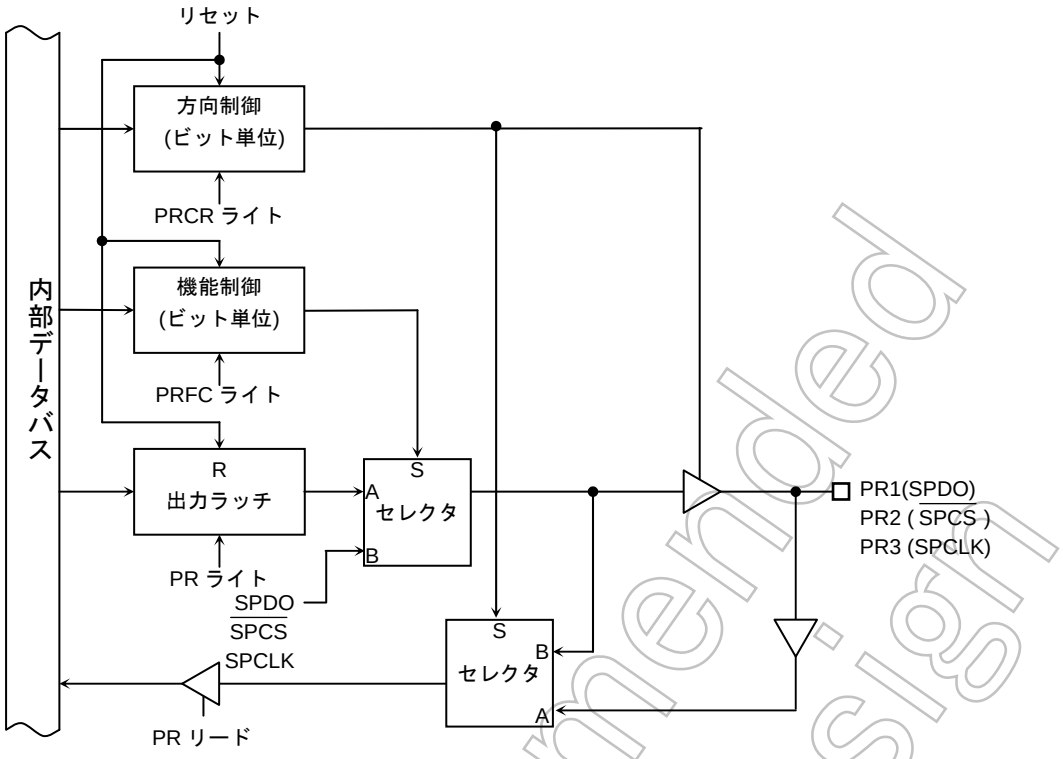


図 3.8.50　ポート R1~R3

Not Recommended for New Design

ポート R レジスタ

PR (0064H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol					PR3	PR2	PR1	PR0
Read/Write					R/W			
システム リセット後					外部端子データ (出力ラッチレジスタは"0"にリセットされます)			
Hot リセット後					–			

ポート R コントロールレジスタ

PRCR (0066H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol					PR3C	PR2C	PR1C	PR0C
Read/Write					W			
システム リセット後					0	0	0	0
Hot リセット後					–	–	–	–
機能					0:入力, 1:出力			

ポート R ファンクションレジスタ

PRFC (0067H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol					PR3F	PR2F	PR1F	PR0F
Read/Write					W			
システム リセット後					0	0	0	0
Hot リセット後					–	–	–	–
機能					0: ポート 1: SPCLK	0: ポート 1: $\overline{\text{SPCS}}$	0: ポート 1: SPDO	0: ポート 1: SPDI

ポート R ドライブレジスタ

PRDR (0099H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol					PR3D	PR2D	PR1D	PR0D
Read/Write					R/W			
システム リセット後					1	1	1	1
Hot リセット後					–	–	–	–
機能					スタンバイモード用入出力バッファ ドライブレジスタ			

PR1 設定

<PR1C> <PR1F>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	Reserved	SPDO 出力

PR0 設定

<PR0C> <PR0F>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	SPDI 入力	Reserved

PR3 設定

<PR3C> <PR3F>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	Reserved	SPCLK 出力

PR2 設定

<PR2C> <PR2F>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	Reserved	$\overline{\text{SPCS}}$ 出力

注) PRCR,PRFC はリードモディファイライトできません。

図 3.8.51 ポート R レジスタ

Not Recommended for New Design

3.8.19 ポートT (PT0~PT7)

ポート T0~T7 はビット単位で入出力指定ができる 8 ビットの入出力ポートです。リセット動作により、T0~T7 は入力ポートとなり、出力ラッチは“0”にリセットされます。汎用入出力ポート機能以外に、LCD コントローラ用データバス端子(LD8~LD15)機能を持っています。

これらの機能は PTCR、PTFC レジスタの該当ビットを設定することで動作します。

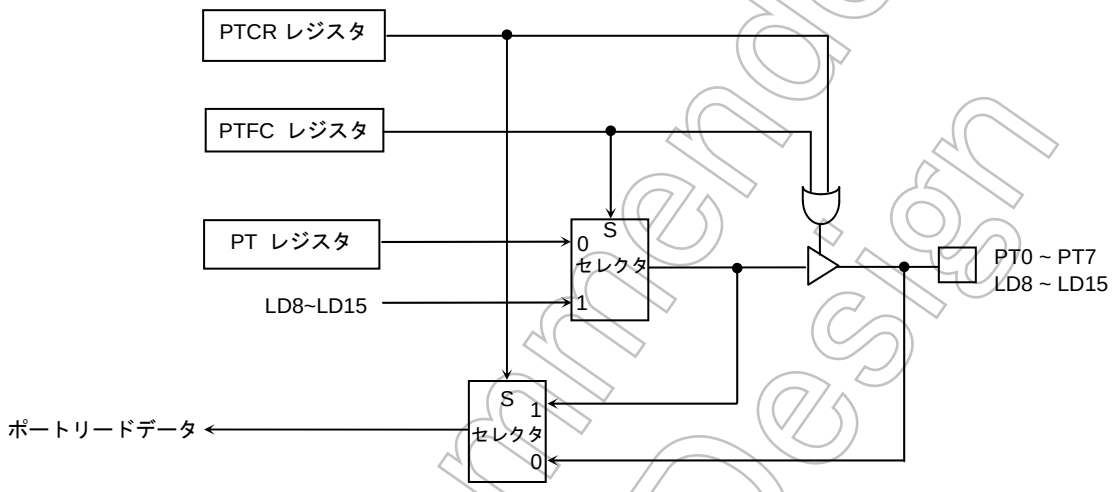


図 3.8.52 ポート T0~T7

Not Recommended for New Design

ポート T レジスタ

PT (00A0H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PT7	PT6	PT5	PT4	PT3	PT2	PT1	PT0
Read/Write	R/W							
システム リセット後	外部端子データ(出力ラッチは“0”にリセットされます)							
Hot リセット後	–							

ポート T コントロールレジスタ

PTCR (00A2H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PT7C	PT6C	PT5C	PT4C	PT3C	PT2C	PT1C	PT0C
Read/Write	W							
システム リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–
機能	0: 入力 1: 出力							

ポート T ファンクションレジスタ

PTFC (00A3H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PT7F	PT6F	PT5F	PT4F	PT3F	PT2F	PT1F	PT0F
Read/Write	W							
システム リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–
機能	0: ポート 1: LCDC 用データバス (LD15~LD8)							

ポート T ドライブレジスタ

PTDR (009BH)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PT7D	PT6D	PT5D	PT4D	PT3D	PT2D	PT1D	PT0D
Read/Write	R/W							
システム リセット後	1	1	1	1	1	1	1	1
Hot リセット後	–	–	–	–	–	–	–	–
機能	スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ							

注 1) PTCR および PTFC はリードモディファイライトできません。

注 2) LD15~LD8 として使用する場合 PTnC を“1”に設定してください。

<PTnC> / <PTnF>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	LDn	

図 3.8.53 ポート T レジスタ

Not Recommended for New Design

3.8.20 ポートV (PV6,PV7)

ポート V6,V7 はビット単位で入出力指定ができる 2 ビットの入出力ポートです。リセット動作により、V6,V7 は入力ポートとなり、出力ラッチは“0”にリセットされます。汎用入出力ポート機能以外に SBI 入出力端子(SDA, SCL)を持っています。これらの機能は PVCR、PVFC レジスタの該当ビットを設定することで動作します。

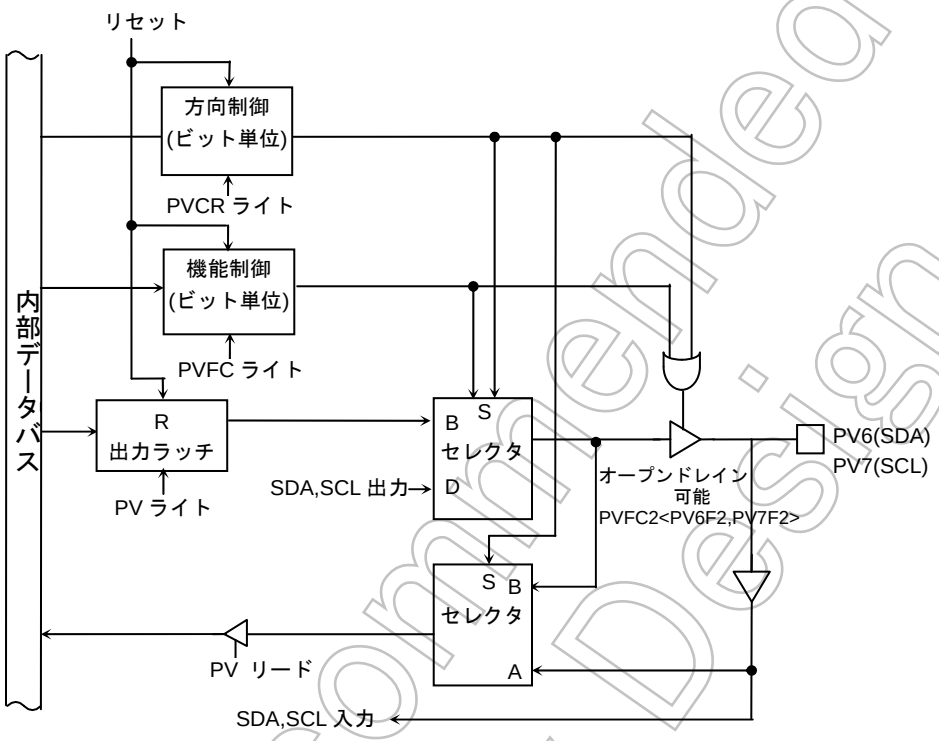


図 3.8.54 ポート V6, V7

Not Recommended for New Design

ポート V レジスタ

PV (00A8H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PV7	PV6						
Read/Write	R/W							
システム リセット後	外部端子データ(出力ラッチレジスタは“0”にリセットされます)							
Hot リセット後	–							

ポート V コントロールレジスタ

PVCR (00AAH)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PV7C	PV6C						
Read/Write	W							
システム リセット後	0	0						
Hot リセット後	–	–						
機能	0: 入力 1: 出力							

ポート V ファンクションレジスタ

PVFC (00ABH)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PV7F	PV6F						
Read/Write	W							
システム リセット後	0	0						
Hot リセット後	–	–						
機能	以下の表を参照してください							

ポート V ファンクションレジスタ 2

PVFC2 (00A9H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PV7F2	PV6F2						
Read/Write	W	W						
システム リセット後	0	0						
Hot リセット後	–	–						
機能	0:CMOS 1:オープンドレイン	0:CMOS 1:オープンドレイン						

ポート V ドライブレジスタ

PVDR (009DH)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PV7D	PV6D						
Read/Write	R/W							
システム リセット後	1	1						
Hot リセット後	–	–						
機能	スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ							

PV7 設定

<PV7C> / <PV7F>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	Reserved	SCL 入出力

PV6 設定

<PV6C> / <PV6F>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	Reserved	SDA 入出力

注) PVCR, PVFC,PVFC2 はリードモディファイライトできません。

図 3.8.55 ポート V レジスタ

Not Recommended for New Design

3.8.21 ポートX (PX4, PX5)

ポート X5 はビット単位で入出力指定ができる 1 ビットの入出力ポートです。リセット動作により、X5 は入力ポートとなり、出力ラッチは“0”にリセットされます。汎用入出力ポート機能以外に、USB クロック入力端子(X1USB)機能、X1,X2 発振クロックの分周クロック出力(X1D4)を持っています。これらの機能は PXCR、PXFC レジスタの該当ビットを設定することで動作します。

ポート X4 は 1 ビットの汎用出力ポートです。リセット動作により出力ラッチは“0”にリセットされます。汎用出力ポート機能以外に、システムクロック出力端子(CLKOUT)機能、LDIV 出力端子機能を持っています。この機能は PX、PXFC レジスタの該当ビットを設定することで動作します。

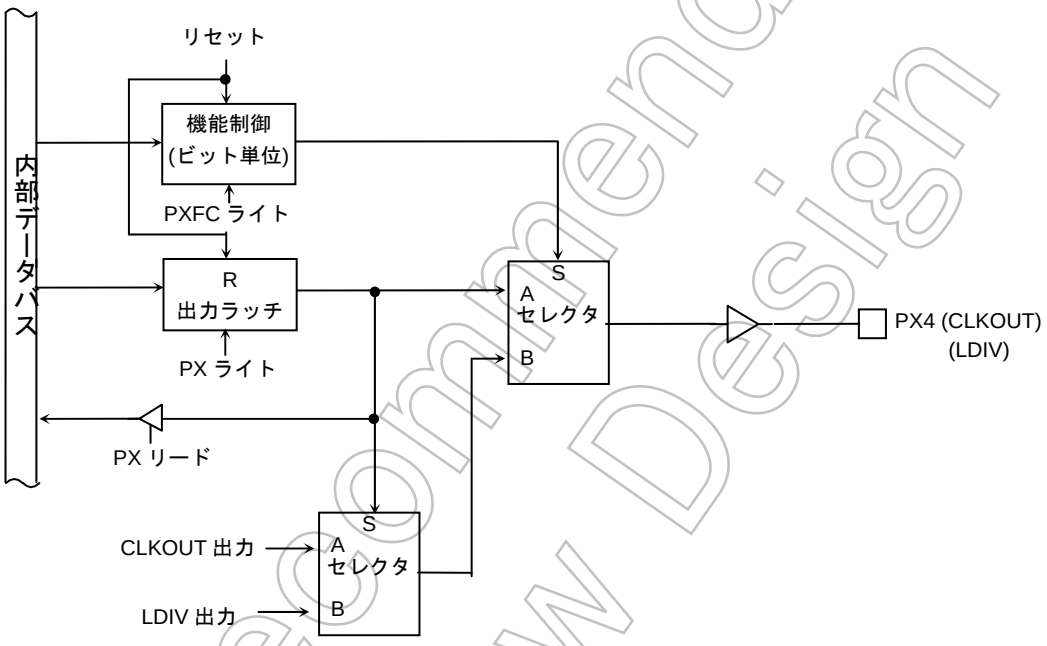


図 3.8.56 ポート X4

Not Recommended for New Design

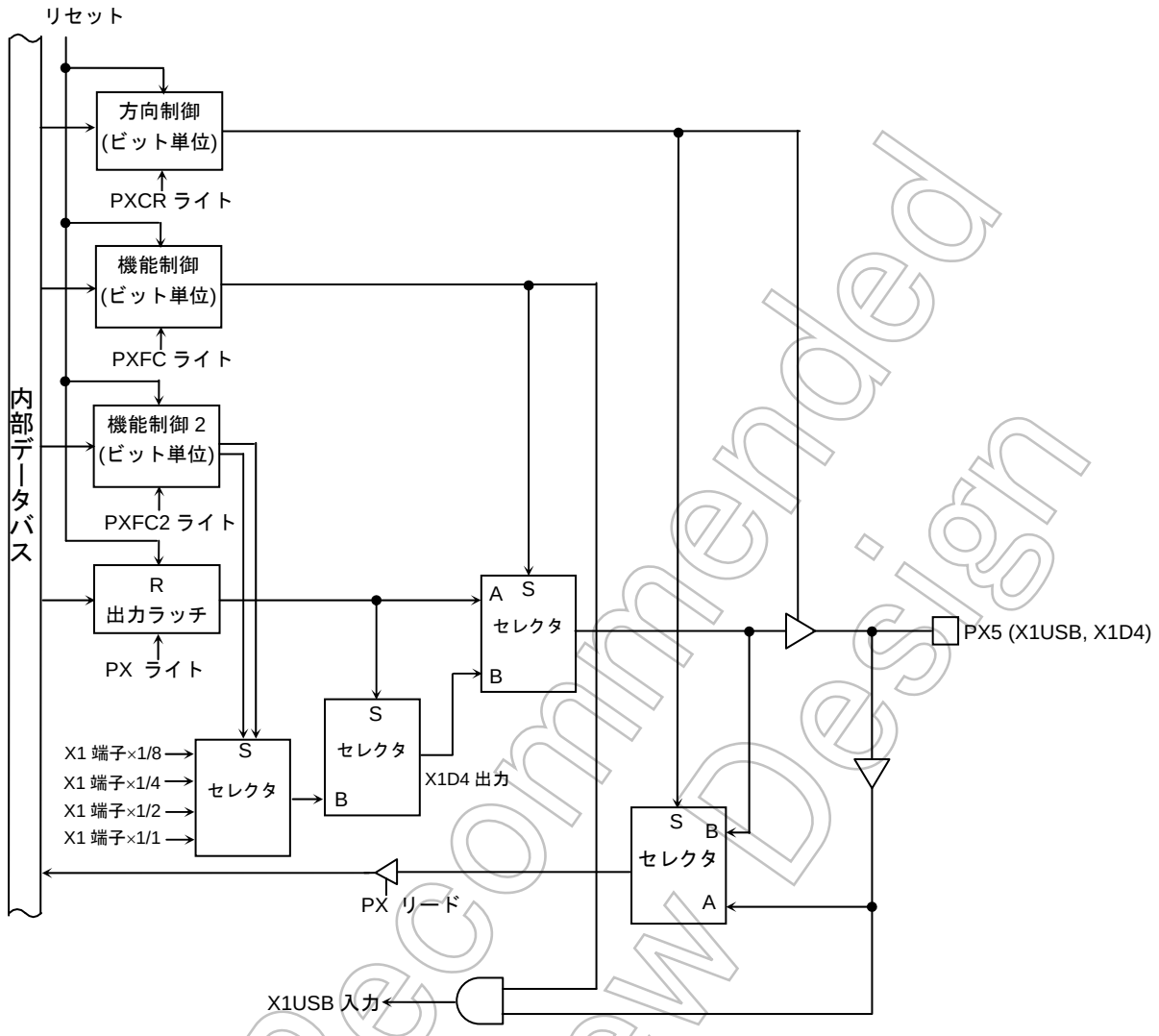


図 3.8.57 ポート X5

Not Recommended for New Design

ポート X レジスタ

PX (00B0H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol			PX5 注 3)	PX4 注 2)				
Read/Write			R/W					
システム リセット後			外部端子データ (出力ラッチレジスタは“0” にリセットされます)					
Hot リセット後			–					

ポート X コントロールレジスタ

PXCR (00B2H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol			PX5C					
Read/Write			W					
システム リセット後			0					
Hot リセット後			–					
機能			0:入力 1:出力					

ポート X ファンクションレジスタ

PXFC (00B3H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol			PX5F	PX4F				
Read/Write			W					
システム リセット後			0	0				
Hot リセット後			–	–				
機能			下記表を参照ください。					

ポート X ファンクションレジスタ 2

PXFC2 (00B1H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol			PX5F2	PX4F2				
Read/Write			W					
システム リセット後			0	0				
Hot リセット後			–	–				
機能			X1D4 出力クロック選択 00: X1 端子×1/8 01: X1 端子×1/4 10: X1 端子×1/2 11: X1 端子×1/1					

Not Recommended for New Design

ポート X ドライブレジスタ

PXDR (009FH)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol			PXD5	PXD4				
Read/Write			R/W					
システム リセット後			1	1				
Hot リセット後			–	–				
機能			スタンバイモード用 入出力バッファ ドライブレジスタ					

注 1) PXCR,PXFC, PXFC2 はリードモディファイライトできません。

注 2) PXFC<PX4F>= “1”の場合、PX<PX4>の設定によって機能が変わります。詳細は下記 PX4 設定表を参照してください。

注 3) PX5 を X1D4 端子として使用する場合、必ず PX<PX5>を”1”に設定してください。詳細は下記 PX5 設定表を参照してください。

PX4 設定

<PX4F> \ <PX4>	0	1
0	出力ポート	
1	CLKOUT 出力	LDIV 出力

PX5 設定

<PX5F> \ <PX5C>	0	1
0	入力ポート	出力ポート
1	X1USB 入力	X1D4 出力 at <PX5>= “1”

図 3.8.58 ポート X レジスタ

Not Recommended for New Design

3.9 メモリコントローラ

3.9.1 機能概要

メモリコントローラは、任意の 4 つのブロックアドレス空間に対して、以下のような制御を行うことができます。

(1) 4 ブロックのアドレス空間をサポート

外部エリア内に設定する 4 つのブロックアドレス空間に対し、ブロックサイズとスタートアドレスを指定することができます (block0~3)。

* SRAM あるいは ROM　：全 CS-ブロック (CS0 ~ CS3) 対応。
* SDRAM　：CS1 あるいは CS2-ブロックのどちらかのみ対応。
* Page-ROM　：CS2 ブロックのみ対応。
* NAND-Flash　：CS 設定は不要ですが、使用する際は BROMCR<CSDIS> を“1”に設定して、外部エリアとし他の CS メモリとの衝突を避けるように設定してください。

(2) 接続メモリの指定

選択したアドレス空間に接続するメモリとして、SRAM、ROM、SDRAM を指定できます。

(3) データバス幅の指定

選択したアドレス空間のデータバス幅は、8/16 ビットが選択できます。

(4) ウェイトの制御

コントロールレジスタ内のウェイト指定ビットと $\overline{\text{WAIT}}$ 入力端子により、外部バスサイクルのウェイト数を制御することができます。リードサイクルとライトサイクルは、それぞれ独立にウェイト数を設定することができます。ウェイト数の制御には、下記に示す 15 のモードがあります。

0~10 ウェイト, 12 ウェイト, 16 ウェイト, 20 ウェイト, 4+N ウェイト($\overline{\text{WAIT}}$ 端子による制御)

Not Recommended for New Design

3.9.2 制御レジスタとリセット解除後の動作

ここでは、メモリコントローラを制御するレジスタと、リセット解除後の状態、必要な設定について説明します。

(1) コントロールレジスタ

メモリコントローラの制御レジスタには、以下のようなものがあります。

・コントロールレジスタ：BnCSH/BnCSL(n=0~3,EX)
接続するメモリの種類やリード、ライトのウェイト数など、メモリコントローラの基本的な機能の設定を行います。
・メモリスタートアドレスレジスタ：MSARn(n=0~3)
選択したブロックアドレス空間のスタートアドレスを設定します。
メモリアドレスマスクレジスタ MAMRn(n=0~3)
選択したブロックアドレス空間のブロックサイズを設定します
・ページ ROM コントロールレジスタ: PMEMCR
Page-ROM アクセス方法を設定します。
コントロール信号タイミング調整レジスタ:CSTMGCR, WRTMGCR, RDTMGCRn
・コントロール信号の立ち上がり/立ち下がりタイミングの調整をします。
内部ブート ROM コントロールレジスタ: BROMCR
ブート ROM アクセス方法を設定します。

Not Recommended for New Design

表 3.9.1コントロールレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
B0CSL	Bit symbol	B0WW3	B0WW2	B0WW1	B0WW0	B0WR3	B0WR2	B0WR1	B0WR0
(0140H)	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	1	0	0	0	1	0
B0CSH	Bit Symbol	B0E			B0REC	B0OM1	B0OM0	B0BUS1	B0BUS0
(0141H)	Read/Write	R/W			R/W				
	リセット後	0			0	0	0	0	0
MAMR0	Bit Symbol	M0V20	M0V19	M0V18	M0V17	M0V16	M0V15	M0V14-V9	M0V8
(0142H)	Read/Write	R/W							
	リセット後	1	1	1	1	1	1	1	1
MSAR0	Bit Symbol	M0S23	M0S22	M0S21	M0S20	M0S19	M0S18	M0S17	M0S16
(0143H)	Read/Write	R/W							
	リセット後	1	1	1	1	1	1	1	1
B1CSL	Bit symbol	B1WW3	B1WW2	B1WW1	B1WW0	B1WR3	B1WR2	B1WR1	B1WR0
(0144H)	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	1	0	0	0	1	0
B1CSH	Bit Symbol	B1E			B1REC	B1OM1	B1OM0	B1BUS1	B1BUS0
(0145H)	Read/Write	R/W			R/W				
	リセット後	0			0	0	0	0	0
MAMR1	Bit Symbol	M1V21	M1V20	M1V19	M1V18	M1V17	M1V16	M1V15-V9	M1V8
(0146H)	Read/Write	R/W							
	リセット後	1	1	1	1	1	1	1	1
MSAR1	Bit Symbol	M1S23	M1S22	M1S21	M1S20	M1S19	M1S18	M1S17	M1S16
(0147H)	Read/Write	R/W							
	リセット後	1	1	1	1	1	1	1	1
B2CSL	Bit symbol	B2WW3	B2WW2	B2WW1	B2WW0	B2WR3	B2WR2	B2WR1	B2WR0
(0148H)	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	1	0	0	0	1	0
B2CSH	Bit Symbol	B2E	B2M		B2REC	B2OM1	B2OM0	B2BUS1	B2BUS0
(0149H)	Read/Write	R/W			R/W				
	リセット後	1	0		0	0	0	0	1
MAMR2	Bit Symbol	M2V22	M2V21	M2V20	M2V19	M2V18	M2V17	M2V16	M2V15
(014AH)	Read/Write	R/W							
	リセット後	1	1	1	1	1	1	1	1
MSAR2	Bit Symbol	M2S23	M2S22	M2S21	M2S20	M2S19	M2S18	M2S17	M2S16
(014BH)	Read/Write	R/W							
	リセット後	1	1	1	1	1	1	1	1
B3CSL	Bit symbol	B3WW3	B3WW2	B3WW1	B3WW0	B3WR3	B3WR2	B3WR1	B3WR0
(014CH)	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	1	0	0	0	1	0
B3CSH	Bit Symbol	B3E			B3REC	B3OM1	B3OM0	B3BUS1	B3BUS0
(014DH)	Read/Write	R/W			R/W				
	リセット後	0			0	0	0	0	0
MAMR3	Bit Symbol	M3V22	M3V21	M3V20	M3V19	M3V18	M3V17	M3V16	M3V15
(014EH)	Read/Write	R/W							
	リセット後	1	1	1	1	1	1	1	1
MSAR3	Bit Symbol	M3S23	M3S22	M3S21	M3S20	M3S19	M3S18	M3S17	M3S16
(014FH)	Read/Write	R/W							
	リセット後	1	1	1	1	1	1	1	1

Not Recommended for New Design

表 3.9.2コントロールレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
BEXCSL (0158H)	Bit Symbol	BEXWW3	BEXWW2	BEXWW1	BEXWW0	BEXWR3	BEXWR2	BEXWR1	BEXWR0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	1	0	0	0	1	0
BEXCSH (0159H)	Bit Symbol				BEXREC	BEXOM1	BEXOM0	BEXBUS1	BEXBUS0
	Read/Write				R/W				
	リセット後				0	0	0	0	0
PMEMCR (0166H)	Bit Symbol				OPGE	OPWR1	OPWR0	PR1	PR0
	Read/Write				R/W				
	リセット後				0	0	0	1	0
CSTMGCR (0168H)	Bit Symbol			TACSEL1	TACSEL0			TAC1	TAC0
	Read/Write			R/W				R/W	
	リセット後			0	0			0	0
WRTMGCR (0169H)	Bit Symbol			TCWSEL1	TCWSEL0	TCWS1	TCWS0	TCWH1	TCWH0
	Read/Write			R/W					
	リセット後			0	0	0	0	0	0
RDTMGCR0 (016AH)	Bit Symbol	B1TCRS1	B1TCRS0	B1TCRH1	B1TCRH0	B0TCRS1	B0TCRS0	B0TCRH1	B0TCRH0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
RDTMGCR1 (016BH)	Bit Symbol	B3TCRS1	B3TCRS0	B3TCRH1	B3TCRH0	B2TCRS1	B2TCRS0	B2TCRH1	B2TCRH0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
BROMCR (016CH)	Bit Symbol						CSDIS	ROMLESS	VACE
	Read/Write						R/W		
	リセット後						1	0/1	1/0
RAMCR (016DH)	Bit Symbol								–
	Read/Write								R/W
	リセット後								“1”をライトしてください。

Not Recommended for New Design

(2) リセット解除後の動作

リセット解除後には、AM1/AM0 端子の状態に従い起動データバス幅が決定され外部メモリをアクセスします。具体的には下記のようになります。

AM1	AM0	スタートモード
0	0	設定禁止
0	1	外部 16 ビットバススタート (注)
1	0	設定禁止
1	1	内蔵 ROM (内部 32 ビット MROM)スタート (ブートモード)

注) リセット後起動することに使用されるメモリは NOR-Flash, Masked-ROM のどちらかです。NAND-Flash および SDRAM は使用できません。

AM1/AM0 端子は、リセット解除時のみ有効です。それ以外では、データバス幅はコントロールレジスタの<BnBUS1:0>に設定された値になります。

リセット後は、ブロックアドレス空間 2 のコントロールレジスタ(B2CSH/B2CSL)のみが、自動的に有効になります(リセットにより B2CSH<B2E> は“1” に設定されます)。ブロックアドレス空間 2 の制御レジスタのバス幅指定ビットへ、AM1/AM0 端子で指定されたデータバス幅が、ロードされます。また、リセット後、ブロックアドレス空間はアドレス 000000H~FFFFFFH に設定されています(B2CSH<B2M> は “0”にリセットされます) 。

リセット解除後、MSARn と MAMRn で、ブロックアドレス空間の指定を行い、BnCS を設定します。設定を有効にするために、BnCSH<BnE>を“1”にセットしてください。

Not Recommended for New Design

3.9.3 基本的な機能の説明とレジスタの設定

ここでは、メモリコントローラの機能のうち、ブロックアドレスエリアの設定、接続メモリ、ウェイト数の設定について説明します。

(1) ブロックアドレス空間の指定

CS0~CS3 空間の設定は、MSAR0~MSAR3 と、MAMR0~MAMR3 により行います。

(a) メモリスタートアドレスレジスタ

図 3.9.1にメモリスタートアドレスレジスタを示します。MSAR0~MSAR3 は、CS0~CS3 空間のスタートアドレスを設定するレジスタです。<S23:16>にはスタートアドレスの上位 8 ビット (A23~A16) を設定します。また、スタートアドレスの下位 16 ビット (A15~A0)は“0”固定になっています。従ってスタートアドレスは、000000H~FF0000Hまで 64 Kバイトごとの値になります。図 3.9.2にスタートアドレスとスタートアドレスレジスタ値の関係を示します。

メモリスタートアドレスレジスタ (CS0~CS3 空間)

		7	6	5	4	3	2	1	0
MSAR0 (0143H) / MSAR1 (0147H)	Bit symbol	S23	S22	S21	S20	S19	S18	S17	S16
	Read/Write	R/W							
MSAR2 (014BH) / MSAR3 (014FH)	リセット後	1	1	1	1	1	1	1	1
	機能	スタートアドレス A23~A16 設定							

CS0~CS3 空間のスタートアドレス設定

図 3.9.1 メモリスタートアドレスレジスタ

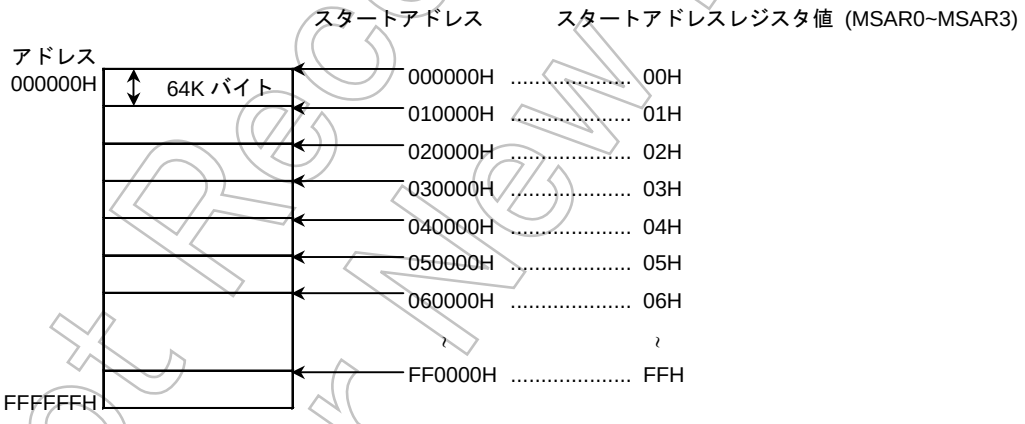


図 3.9.2 スタートアドレスとスタートアドレスレジスタ値の関係

Not Recommended for New Design

(b) メモリアドレスマスクレジスタの設定

図 3.9.3にメモリアドレスマスクレジスタを示します。MAMR0~MAMR3 は、MSAR0~MSAR3 で設定したスタートアドレスの各ビットに対しマスク指定を行うことで、CS0~CS3 空間サイズを設定しています。“0” をライトしたビットに対応するアドレスが、CS0~CS3 空間の領域かどうかの比較対象となります。上位のビットについては、かならず比較されます。

また CS0~CS3 空間は、それぞれ MAMR0~MAMR3 によってマスクできるアドレスビットが異なります。

CS0 : A20~A8
CS1 : A21~A8
CS2,CS3 : A22~15

従って設定できる空間サイズも異なります。

注) リセット解除後は、CS2 の制御レジスタのみが有効になっています。CS2 には特別に B2CSH<B2M>があり、このビットを”0”にすると、CS2 は 000000H~FFFFFFH に設定されます。リセット解除後はこの状態に設定されています。この B2CSH<B2M>を “1”に設定すると、他のブロックアドレス空間と同様に、スタートアドレスとアドレス空間サイズを設定することができます。

メモリアドレスマスクレジスタ (CS0 空間)

		7	6	5	4	3	2	1	0
MAMR0 (0142H)	Bit symbol	V20	V19	V18	V17	V16	V15	V14~9	V8
	Read/Write	R/W							
	リセット後	1	1	1	1	1	1	1	1
	機能	CS0 空間サイズ設定 0: アドレス比較対象							

CS0 空間は最小 256 バイトエリアから、最大 2 M バイトエリアを設定できます。

メモリアドレスマスクレジスタ (CS1 空間)

		7	6	5	4	3	2	1	0
MAMR1 (0146H)	Bit symbol	V21	V20	V19	V18	V17	V16	V15~9	V8
	Read/Write	R/W							
	リセット後	1	1	1	1	1	1	1	1
	機能	CS1 空間サイズ設定 0: アドレス比較対象							

CS1 空間は最小 256 バイトエリアから、最大 4 M バイトエリアを設定できます。

メモリアドレスマスクレジスタ (CS2, CS3 空間)

		7	6	5	4	3	2	1	0
MAMR2 (014AH) / MSAR3 (014FH)	Bit symbol	V22	V21	V20	V19	V18	V17	V16	V15
	Read/Write	R/W							
	リセット後	1	1	1	1	1	1	1	1
	機能	CS2、CS3 空間サイズ設定 0: アドレス比較対象							

CS2 および CS3 空間は、最小 32 K バイトから、最大 8 M バイトエリアを設定できます。

図 3.9.3 メモリアドレスマスクレジスタ

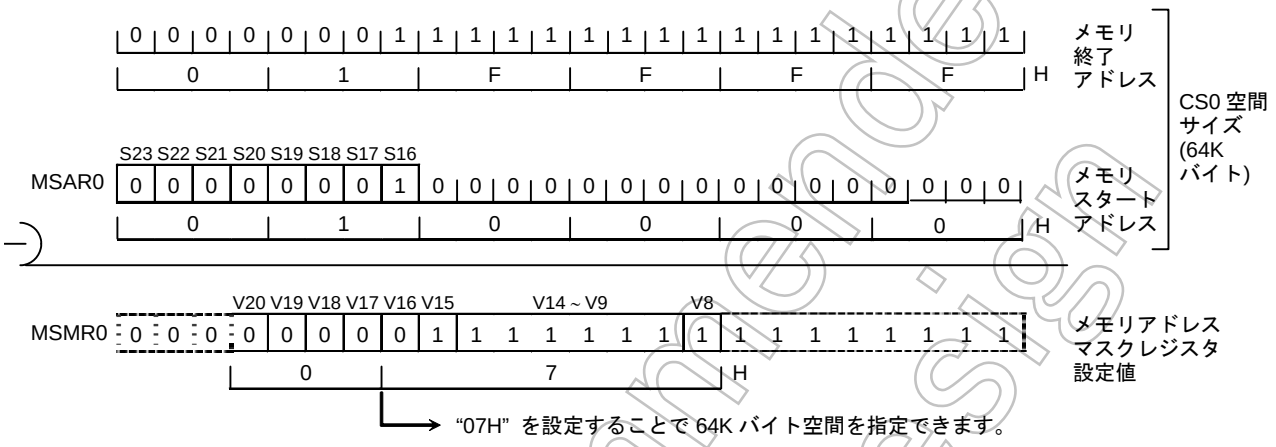
Not Recommended for New Design

(c) メモリスタートアドレス、アドレス空間の設定方法

CS0 空間を用いて、010000H から始まる 64K バイトの空間を指定する場合を例として説明します。

MSAR0<S23:16>に、スタートアドレスの上位 8 ビットに相当する “01H” を設定します。次に、終了アドレス (01FFFFH) と、スタートアドレスとの差を計算により求めます。この結果のビット 20~8 は、CS0 空間を指定する際のマスク値に相当します。この値をメモリアドレスマスクレジスタ MAMR0<V20:8>に設定することで、空間サイズを設定できます。

この例では、MAMR0 に“07H”を設定し、64K バイト空間を指定しています。



(d) アドレス空間サイズ指定

表 3.9.3に、CS空間と空間サイズの関係を示します。△は、メモリスタートアドレスレジスタとメモリアドレスマスクレジスタの組み合わせにより、設定できない場合があることを意味します。△で示す組み合わせを用いて空間サイズを設定する場合、000000Hから希望のサイズステップで、スタートアドレスを設定してください。

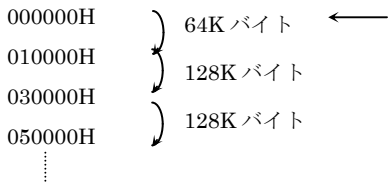
なお、CS2 空間を 16M バイト空間に設定、または、2 つ以上のアドレス空間を重ねて設定した場合には、CS 空間番号の小さい方が優先的に選択されます。

(例) CS0 空間を 128K バイトエリアに設定する場合

① 設定できるスタートアドレス

この場合、いずれのスタートアドレスも設定可能です。

② 設定できないスタートアドレス



設定サイズ以外のサイズステップであり、このケースでは、以降のスタートアドレスは、希望の空間サイズを設定できません。

Not Recommended for New Design

表 3.9.3　CS 空間と空間サイズ

サイズ (バイト) / CS 空間	256	512	32 K	64 K	128 K	256 K	512 K	1 M	2 M	4 M	8 M
CS0	○	○	○	○	△	△	△	△	△		
CS1	○	○		○	△	△	△	△	△	△	
CS2			○	○	△	△	△	△	△	△	△
CS3			○	○	△	△	△	△	△	△	△

注) △は、メモリスタートアドレスレジスタとメモリアドレスマスクレジスタの組み合わせにより、設定できない場合があることを示しています。

(e)　ブロックアドレス空間の優先順位

設定したブロックアドレス空間が、内蔵メモリの空間と重複した場合、ブロックアドレス空間は以下のような優先順位で処理されます。

内蔵 I/O > 内蔵メモリ > ブロックアドレス空間 0>1>2>3

(f)　CS0~CS3 空間外バス幅ウェイトコントロール

BEXCSL,BEXCSH は、任意の 4 ブロックアドレス空間 (CS0~CS3 空間) 外のアドレス空間 ($\overline{\text{CSEX}}$ 空間) がアクセスされたときの、データバス幅選択とウェイト数を設定するレジスタです。このレジスタの設定は CS0~CS3 空間外のエリアに対して、常にイネーブルです。

Not Recommended for New Design

(2) 接続メモリの指定

BnCSH<BnOM1:0>を設定することにより、各ブロックアドレス空間に接続するメモリの種類を設定することができます。設定されたメモリによって、メモリインタフェース信号が出力されます。設定は、次のように行います。

BnCSH<BnOM1:0>

BnOM1	BnOM0	機能
0	0	SRAM/ROM (デフォルト)
0	1	(Reserved)
1	0	(Reserved)
1	1	SDRAM

注) SDRAM は CS1 もしくは CS2 のみで設定が可能です。

(3) データバス幅の設定

データバス幅は、ブロックアドレス空間ごとに設定することが出来ます。バス幅の設定は BnCSH<BnBUS1:0>で、以下のように行います。

BnCSH <BnBUS1:0>

BnBUS1	BnBUS0	機能
0	0	8 ビットバスモード (デフォルト)
0	1	16 ビットバスモード
1	0	設定禁止
1	1	設定禁止

注) SDRAM は"01" (16 ビット バス)に設定する必要があります。

このように、アクセスするアドレスに応じてデータバス幅を変えることを"ダイナミックバスサイジング"と呼びます。データサイズ、バス幅、スタートアドレスにより、データが、データバスのどの部分に出力されるかが変わります。バス動作の詳細は次のようになります。なお、TMP92CF29A の外部データバス端子数は 16 本ですので、メモリデータバス幅が 32 ビットの欄は無視してください。

注) バス幅が異なるメモリを連続したアドレスに配置している場合、両方のメモリにまたがるアクセスを 1 命令で実行しないでください。データの正常なリード/ライトが行われない場合があります。

Not Recommended for New Design

データサイズ (ビット)	スタートアドレス	メモリデータバス幅 (ビット)	CPU アドレス	CPU データ			
				D31 ~ D24	D23 ~ D16	D15 ~ D8	D7 ~ D0
8	4n + 0	8/16/32	4n + 0	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b7 ~ b0
	4n + 1	8	4n + 1	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b7 ~ b0
		16/32	4n + 1	xxxxx	xxxxx	b7 ~ b0	xxxxx
	4n + 2	8/16	4n + 2	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b7 ~ b0
		32	4n + 2	xxxxx	b7 ~ b0	xxxxx	xxxxx
	4n + 3	8	4n + 3	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b7 ~ b0
		16	4n + 3	xxxxx	xxxxx	b7 ~ b0	xxxxx
		32	4n + 3	b7 ~ b0	xxxxx	xxxxx	xxxxx
16	4n + 0	8	(1) 4n + 0	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b7 ~ b0
			(2) 4n + 1	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b15 ~ b8
		16/32	4n + 0	xxxxx	xxxxx	b15 ~ b8	b7 ~ b0
	4n + 1	8	(1) 4n + 1	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b7 ~ b0
			(2) 4n + 2	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b15 ~ b8
		16	(1) 4n + 1	xxxxx	xxxxx	b7 ~ b0	xxxxx
			(2) 4n + 2	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b15 ~ b8
		32	4n + 1	xxxxx	b15 ~ b8	b7 ~ b0	xxxxx
	4n + 2	8	(1) 4n + 2	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b7 ~ b0
			(2) 4n + 1	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b15 ~ b8
		16	4n + 2	xxxxx	xxxxx	b15 ~ b8	b7 ~ b0
		32	4n + 2	b15 ~ b8	b7 ~ b0	xxxxx	xxxxx
	4n + 3	8	(1) 4n + 3	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b7 ~ b0
			(2) 4n + 4	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b15 ~ b8
		16	(1) 4n + 3	xxxxx	xxxxx	b7 ~ b0	xxxxx
			(2) 4n + 4	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b15 ~ b8
		32	(1) 4n + 3	b7 ~ b0	xxxxx	xxxxx	xxxxx
			(2) 4n + 4	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b15 ~ b8
32	4n + 0	8	(1) 4n + 0	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b7 ~ b0
			(2) 4n + 1	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b15 ~ b8
			(3) 4n + 2	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b23 ~ b16
			(4) 4n + 3	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b31 ~ b24
		16	(1) 4n + 0	xxxxx	xxxxx	b15 ~ b8	b7 ~ b0
			(2) 4n + 2	xxxxx	xxxxx	b31 ~ b24	b23 ~ b16
		32	4n + 0	b31 ~ b24	b23 ~ b16	b15 ~ b8	b7 ~ b0
	4n + 1	8	(1) 4n + 0	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b7 ~ b0
			(2) 4n + 1	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b15 ~ b8
			(3) 4n + 2	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b23 ~ b16
			(4) 4n + 3	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b31 ~ b24
		16	(1) 4n + 1	xxxxx	xxxxx	b7 ~ b0	xxxxx
			(2) 4n + 2	xxxxx	xxxxx	b23 ~ b16	b15 ~ b8
			(3) 4n + 4	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b31 ~ b24
		32	(1) 4n + 1	b23 ~ b16	b15 ~ b8	b7 ~ b0	xxxxx
			(2) 4n + 4	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b31 ~ b24
	4n + 2	8	(1) 4n + 2	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b7 ~ b0
			(2) 4n + 3	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b15 ~ b8
			(3) 4n + 4	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b23 ~ b16
			(4) 4n + 5	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b31 ~ b24
		16	(1) 4n + 2	xxxxx	xxxxx	b15 ~ b8	b7 ~ b0
			(2) 4n + 4	xxxxx	xxxxx	b31 ~ b24	b23 ~ b16
		32	(1) 4n + 2	b15 ~ b8	b7 ~ b0	xxxxx	xxxxx
			(2) 4n + 4	xxxxx	xxxxx	b31 ~ b24	b23 ~ b16
	4n + 3	8	(1) 4n + 3	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b7 ~ b0
			(2) 4n + 4	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b15 ~ b8
			(3) 4n + 5	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b23 ~ b16
			(4) 4n + 6	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b31 ~ b24
		16	(1) 4n + 3	xxxxx	xxxxx	b7 ~ b0	xxxxx
			(2) 4n + 4	xxxxx	xxxxx	b23 ~ b16	b15 ~ b8
			(3) 4n + 6	xxxxx	xxxxx	xxxxx	b31 ~ b24
		32	(1) 4n + 3	b7 ~ b0	xxxxx	xxxxx	xxxxx
			(2) 4n + 4	xxxxx	b31 ~ b24	b23 ~ b16	b15 ~ b8

xxxxx : リード時はそのバスの入力データが無視されることを示します。ライト時は、そのバスがハイインピーダンスで、そのバスのライトストローブ信号は、ノンアクティブのままであることを示します。

Not Recommended for New Design

(4) ウェイトの制御

外部バスサイクルは、最小 2 ステート(25ns @ f_{SYS} = 80MHz)で完了します。BnCSL<BnWW3:0>を設定することにより、ライトサイクルのウェイト数を、BnCSL<BnWR3:0>を設定することにより、リードサイクルのウェイト数を指定することができます。設定は次のように行います。

BnCSL <BnWW>/<BnWR>

<BnWW3> <BnWR3>	<BnWW2> <BnWR2>	<BnWW1> <BnWR1>	<BnWW0> <BnWR0>	機能
0	0	0	1	2 ステート (0 ウェイト)アクセス固定モード
0	0	1	0	3 ステート (1 ウェイト)アクセス固定モード (デフォルト)
0	1	0	1	4 ステート (2 ウェイト)アクセス固定モード
0	1	1	0	5 ステート (3 ウェイト)アクセス固定モード
0	1	1	1	6 ステート (4 ウェイト)アクセス固定モード
1	0	0	0	7 ステート (5 ウェイト)アクセス固定モード
1	0	0	1	8 ステート (6 ウェイト)アクセス固定モード
1	0	1	0	9 ステート (7 ウェイト)アクセス固定モード
1	0	1	1	10 ステート (8 ウェイト)アクセス固定モード
1	1	0	0	11 ステート (9 ウェイト)アクセス固定モード
1	1	0	1	12 ステート (10 ウェイト)アクセス固定モード
1	1	1	0	14 ステート (12 ウェイト)アクセス固定モード
1	1	1	1	18 ステート (16 ウェイト)アクセス固定モード
0	1	0	0	22 ステート (20 ウェイト)アクセス固定モード
0	0	1	1	6 ステート+ $\overline{\text{WAIT}}$ 端子入力モード
上記以外				Reserved

注 1) SDRAM には上記の設定は無効です。「SDRAM コントローラ」を参照してください。

注 2) NAND-Flash には上記の設定は無効です。

(a) ウェイト数固定モード

指定されたステート数でバスサイクルを完了するモードです。ステート数は、2 ステート(0 ウェイト)~12 ステート(10 ウェイト)、14 ステート(12 ウェイト)、18 ステート(16 ウェイト)、22 ステート(20 ウェイト)を選択できます。

(b) $\overline{\text{WAIT}}$ 端子入力モード

$\overline{\text{WAIT}}$ 入力端子をサンプリングし、信号がアクティブの間ウェイトを挿入しつづけます、このモードでは、最小のバスサイクルが 6 ステートとなります。6 ステート目に、ウェイト信号がノンアクティブ(“H”レベル)であれば、そこでバスサイクルは完了します。6 ステート以上は、ウェイト信号がアクティブな限りバスサイクルが延長されます。

Not Recommended for New Design

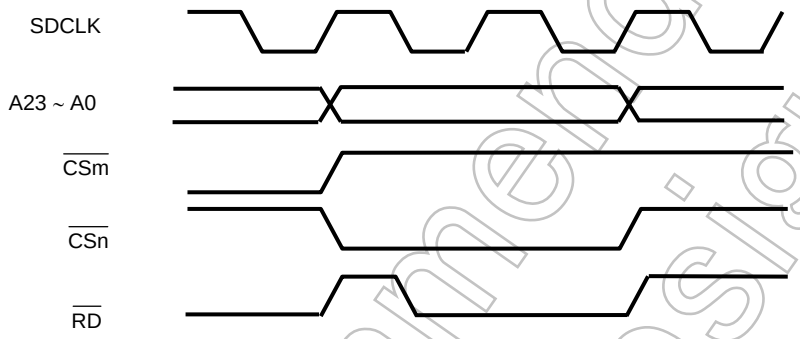
(5) リカバリ (データホールド) サイクル制御

メモリによってはリードサイクル用 $\overline{CE}$ あるいは $\overline{OE}$ からのデータホールド時間について A.C スペックが定義されており、その場合データ衝突の問題が想定されます。この問題を避けるために、1 つのダミーサイクルを BmCSH<BmREC>に “1”を設定することによって CSm ブロックアクセスサイクル後に挿入することが出来ます。この 1 ダミーサイクルはサイクルがほかの CS ブロックのとき挿入されます。

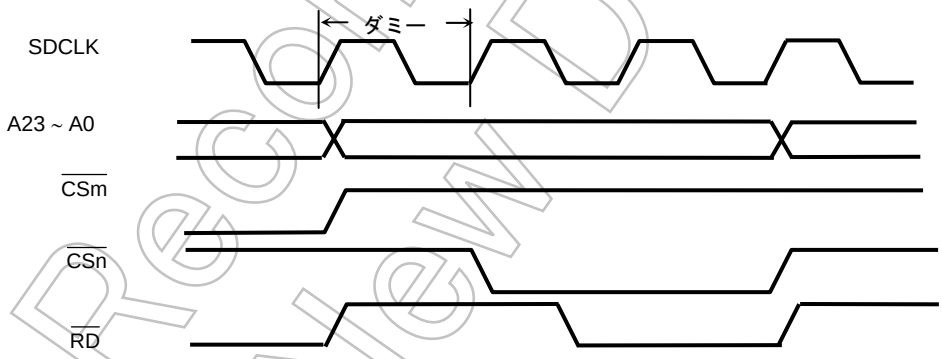
BnCSH<BnREC>

0	ダミーサイクルを挿入しない(デフォルト)
1	ダミーサイクルを挿入

- ダミーサイクルを挿入しないとき(0 ウェイト)



- ダミーサイクルを挿入するとき(0 ウェイト)



Not Recommended for New Design

(6) コントロール信号タイミング調整機能

本機能により $\overline{CSn}$, $\overline{CSZx}$, $\overline{CSXx}$,R/$\overline{W}$, $\overline{RD}$, $\overline{WRxx}$, $\overline{SRWR}$, $\overline{SRxxB}$ 信号の立ち上がり/立ち下がりタイミングを変更することができ、メモリのセットアップ/ホールド時間に合わせて調整することができます。

$\overline{CSn}$, $\overline{CSZx}$, $\overline{CSXx}$,R/$\overline{W}$ および $\overline{WRxx}$, $\overline{SRWR}$, $\overline{SRxxB}$ (ライトサイクル時)については、一つの CS エリアに対してのみ変更可能です。$\overline{RD}$, $\overline{SRxxB}$ (リードサイクル時)については、全 CS エリアに対し個別に変更が可能です。本機能未使用の CS エリアおよび EX エリアについては、基準バスタイミングにて動作します。((7)を参照してください。)本機能は BnCSH<BnREC>との併用はできません。

なお、SDRAM 用コントロール信号については SDRAM コントローラの設定にて調整が可能です。

CSTMGCR<TxxSEL1:0>, WRTMGCR<TxxSEL1:0>

00	CS0 エリアのタイミングを変更
01	CS1 エリアのタイミングを変更
10	CS2 エリアのタイミングを変更
11	CS3 エリアのタイミングを変更

CSTMGCR<TAC1:0>

00	TAC = 0 × 1/f_{SYS} (デフォルト)
01	TAC = 1 × 1/f_{SYS}
10	TAC = 2 × 1/f_{SYS}
11	Reserved

TAC: A23-0 to CSn,CSZx,CSXx,R/W ディレイ

WRTMGCR<TCWS/H1:0>

00	TCWS/H = 0.5 × 1/f_{SYS} (デフォルト)
01	TCWS/H = 1.5 × 1/f_{SYS}
10	TCWS/H = 2.5 × 1/f_{SYS}
11	TCWS/H = 3.5 × 1/f_{SYS}

TCWS: CSn to WRxx,SRWR,SRxxB ディレイ

TCWH: WRxx,SRWR,SRxxB to CSn ディレイ

RDTMGCR0/1<BnTCRH1:0>

00	TCRH = 0 × 1/f_{SYS} (デフォルト)
01	TCRH = 1 × 1/f_{SYS}
10	TCRH = 2 × 1/f_{SYS}
11	TCRH = 3 × 1/f_{SYS}

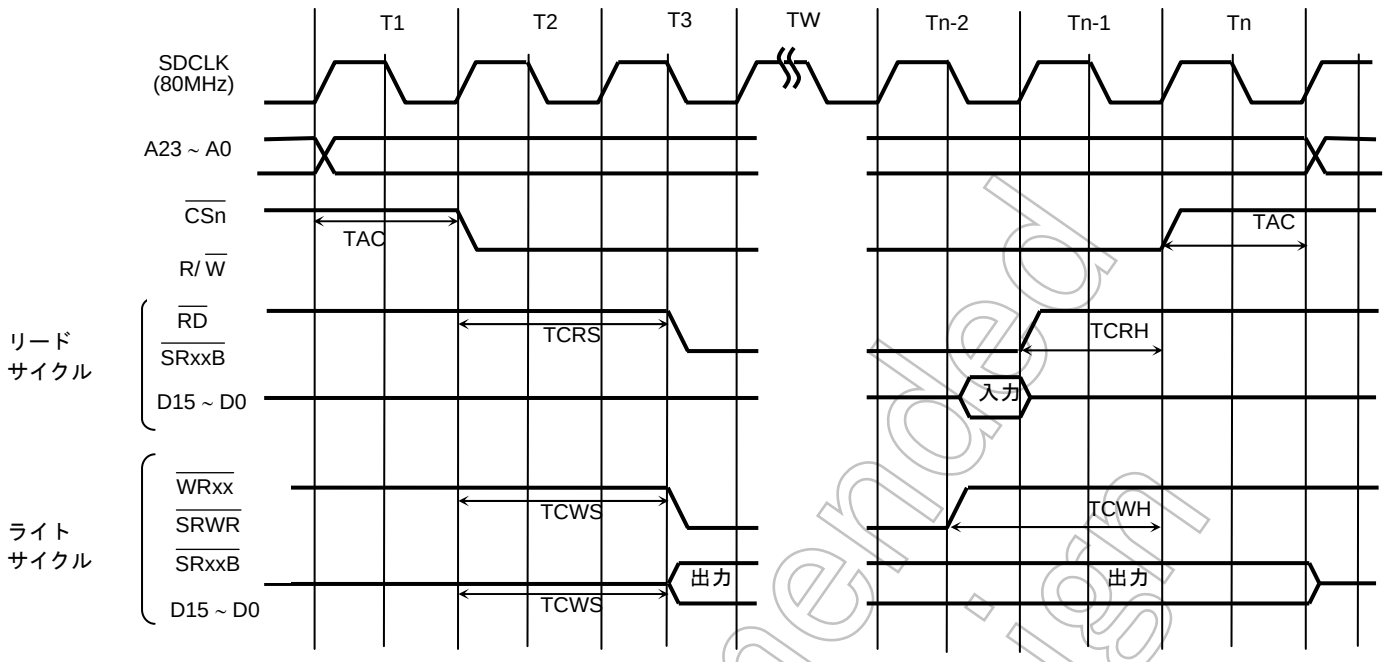
TCRH: RD,SRxxB to CSn ディレイ

RDTMGCR0/1<BnTCRS1:0>

00	TCRS = 0.5 × 1/f_{SYS} (デフォルト)
01	TCRS = 1.5 × 1/f_{SYS}
10	TCRS = 2.5 × 1/f_{SYS}
11	TCRS = 3.5 × 1/f_{SYS}

TCRS: CSn to RD,SRxxB ディレイ

Not Recommended for New Design



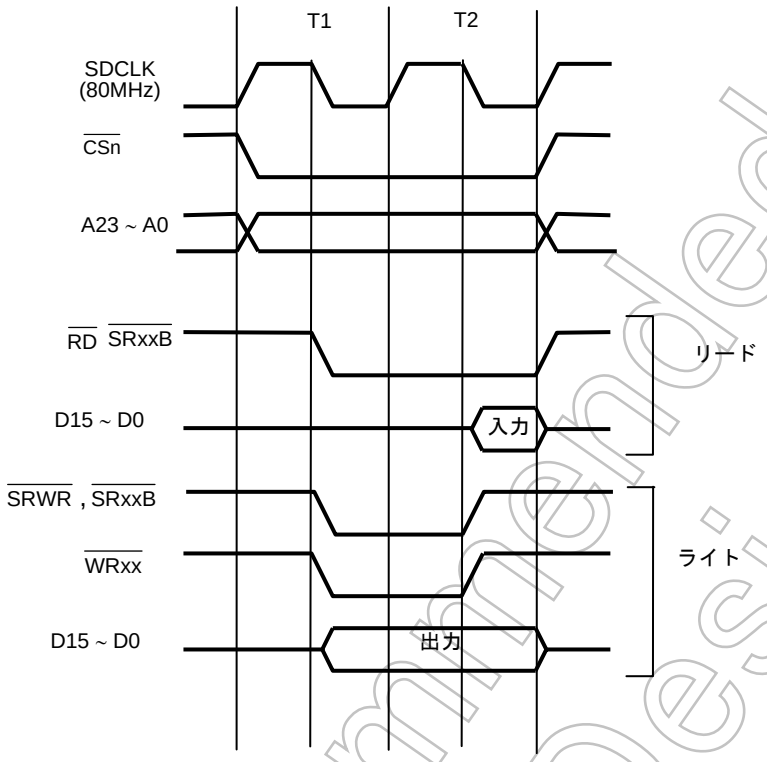
注 1) BnCSL レジスタの設定に従い TW サイクルが挿入されます。0-Wait に設定した場合 TW サイクルは挿入されません。

注 2) 上記は 16 ビットバスアクセスの場合を示しています。

Not Recommended for New Design

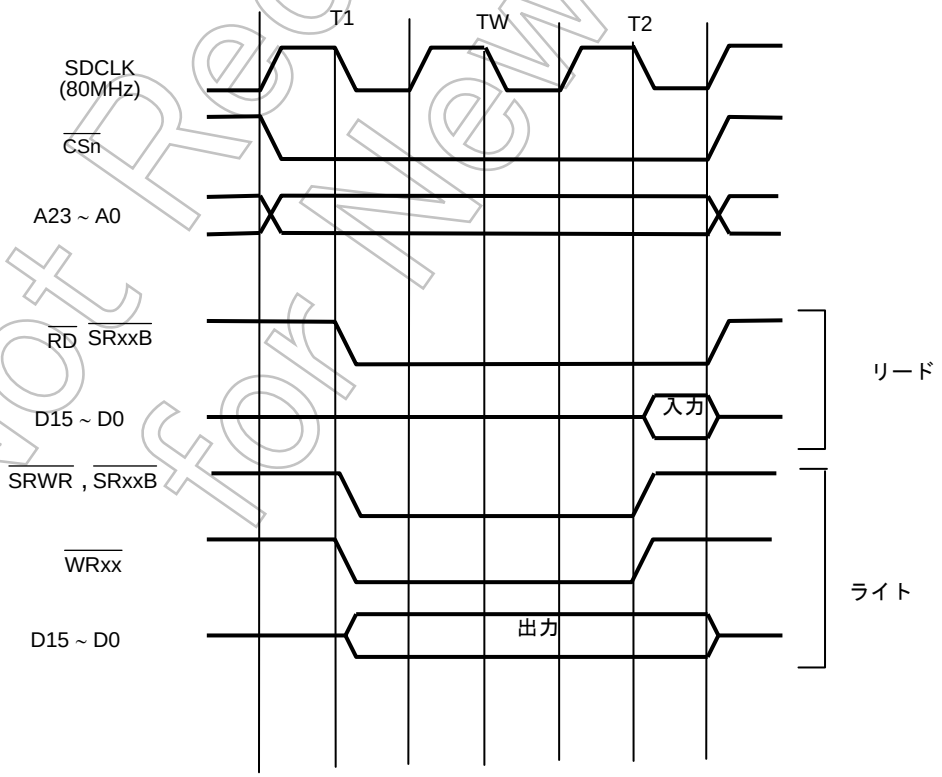
(7) 基準バスタイミング

(a) 外部リード/ライトバスサイクル(0 ウェイト)



注) 上記は 16 ビットバスアクセスの場合を示しています。

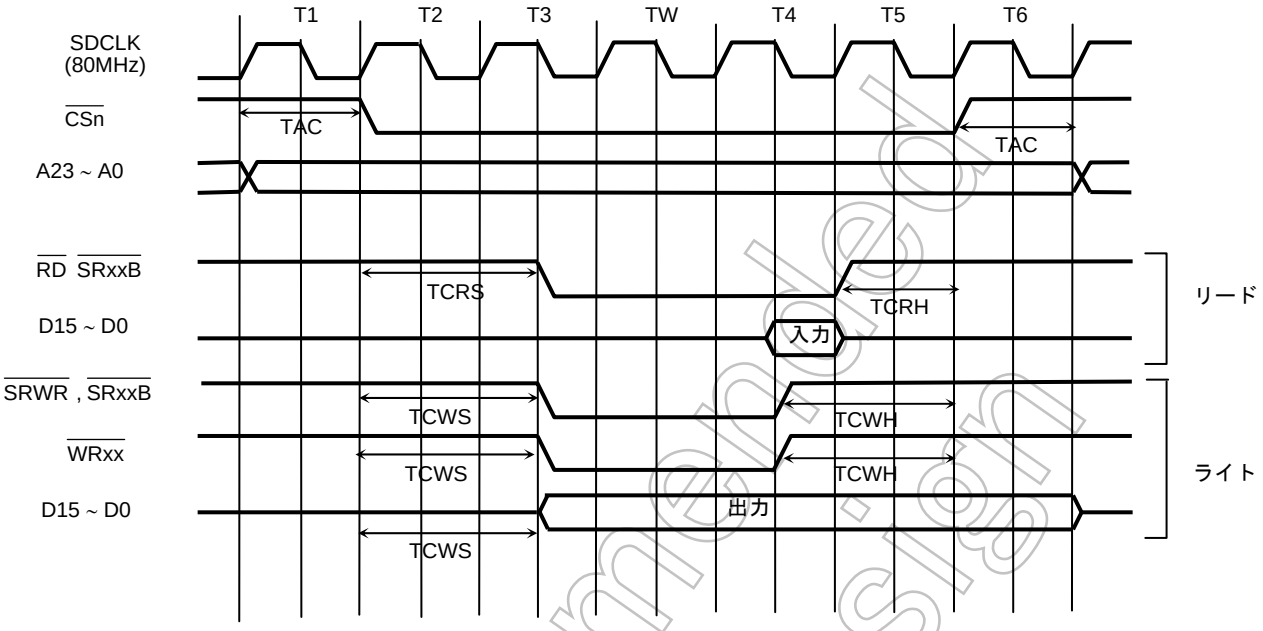
(b) 外部リード/ライトバスサイクル(1 ウェイト)



注) 上記は 16 ビットバスアクセスの場合を示しています。

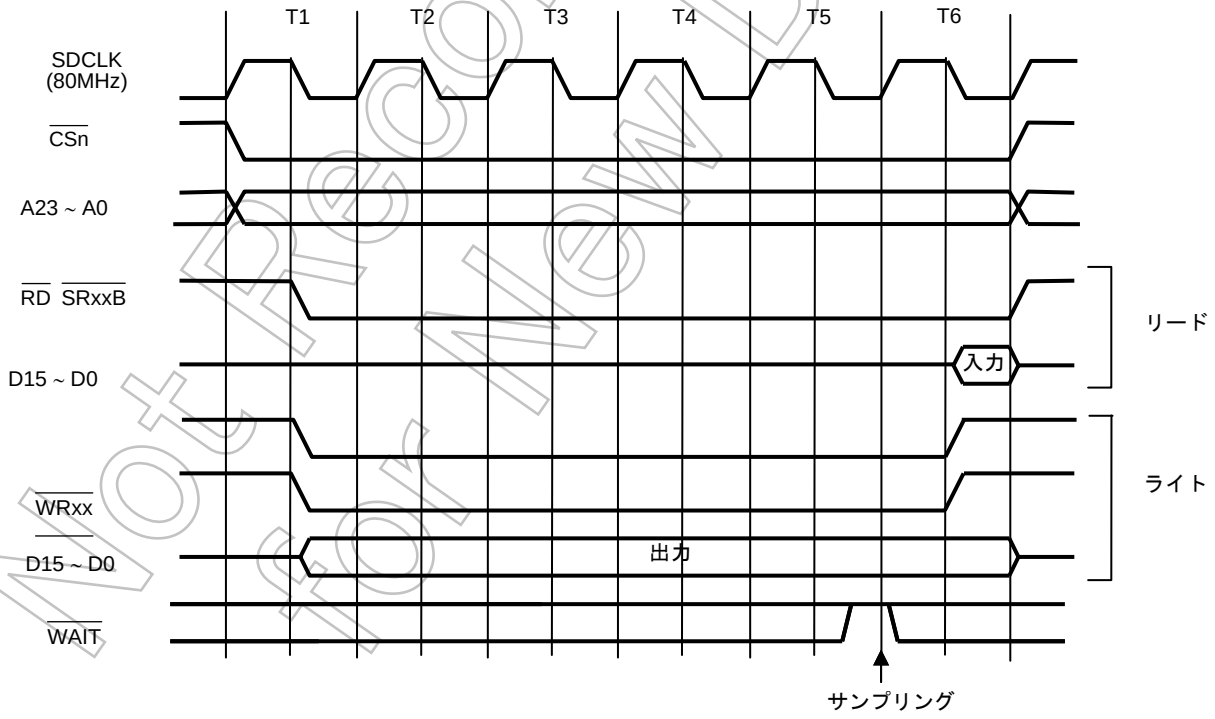
Not Recommended for New Design

(c) 外部リードバスサイクル(1 ウェイト + TAC:1×1/f_{SYS} + TCRS:1.5×1/f_{SYS} + TCRH:1×1/f_{SYS})
外部ライトバスサイクル(1 ウェイト + TAC:1×1/f_{SYS} + TCWS/H:1.5×1/f_{SYS})



注) 上記は 16 ビットバスアクセスの場合を示しています。

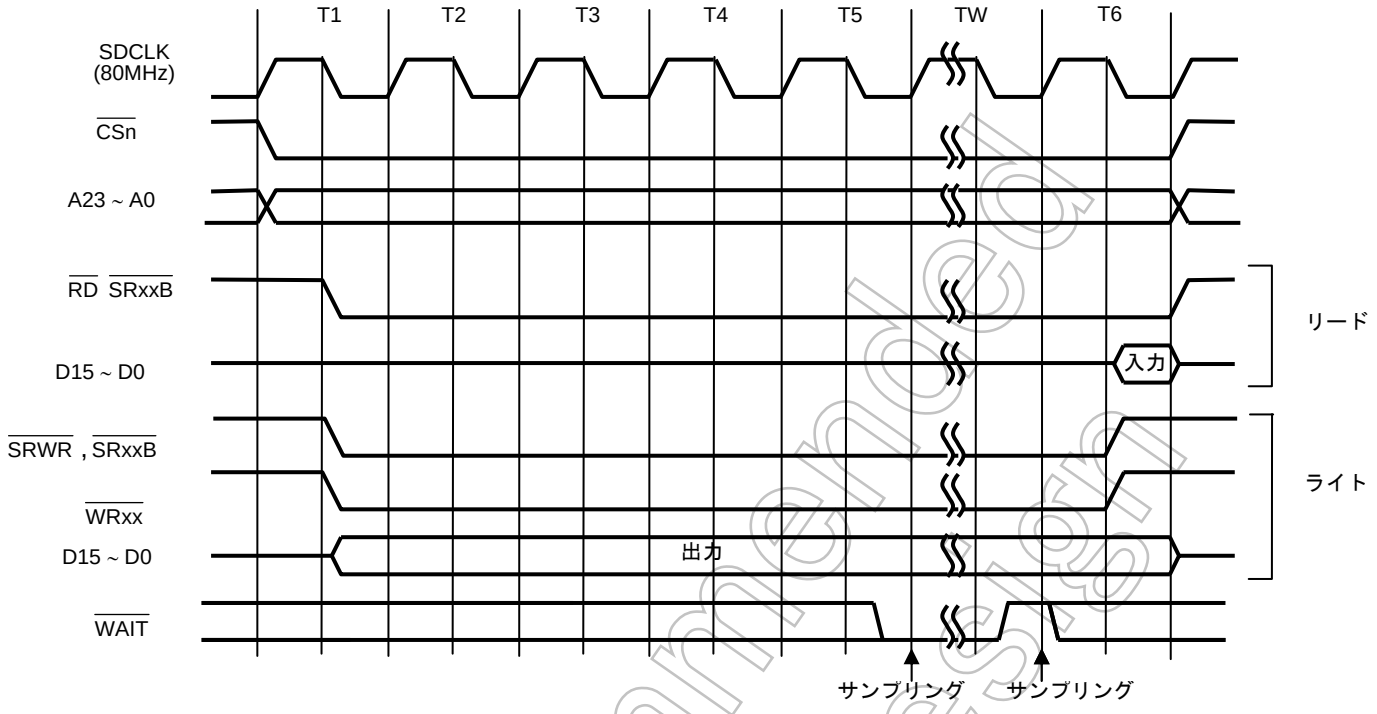
(d) 外部リード/ライトバスサイクル(4 ウェイト + WAIT 端子入力モード)



注) 上記は 16 ビットバスアクセスの場合を示しています。

Not Recommended for New Design

(e) 外部リード/ライトバスサイクル(4 ウェイト + $\overline{\text{WAIT}}$ 端子入力モード)



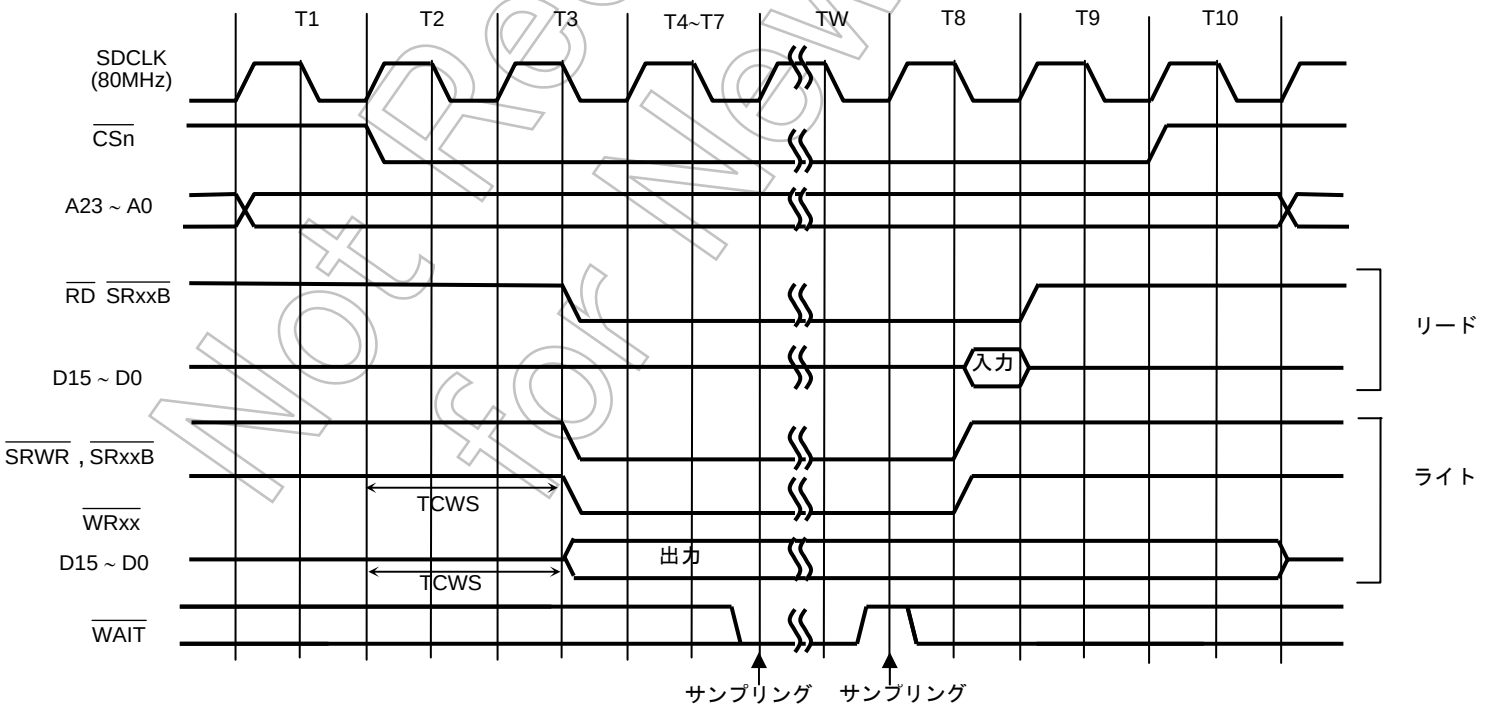
注) 上記は 16 ビットバスアクセスの場合を示しています。

(f) 外部リードバスサイクル

(4 ウェイト+ $\overline{\text{WAIT}}$ 端子入力モード + TAC:1×1/f_{SYS} + TCRS:1.5×1/f_{SYS} + TCRH:1×1/f_{SYS})

外部ライトバスサイクル

(4 ウェイト+ $\overline{\text{WAIT}}$ 端子入力モード + TAC:1×1/f_{SYS} + TCWS/H:1.5×1/f_{SYS})



注) 上記は 16 ビットバスアクセスの場合を示しています。

Not Recommended for New Design

(8) 外部メモリ接続

図 3.9.4 は外部 16 ビットSRAM、16 ビットNOR-FlashとTMP92CF29Aの接続方法の接続例を示しています。

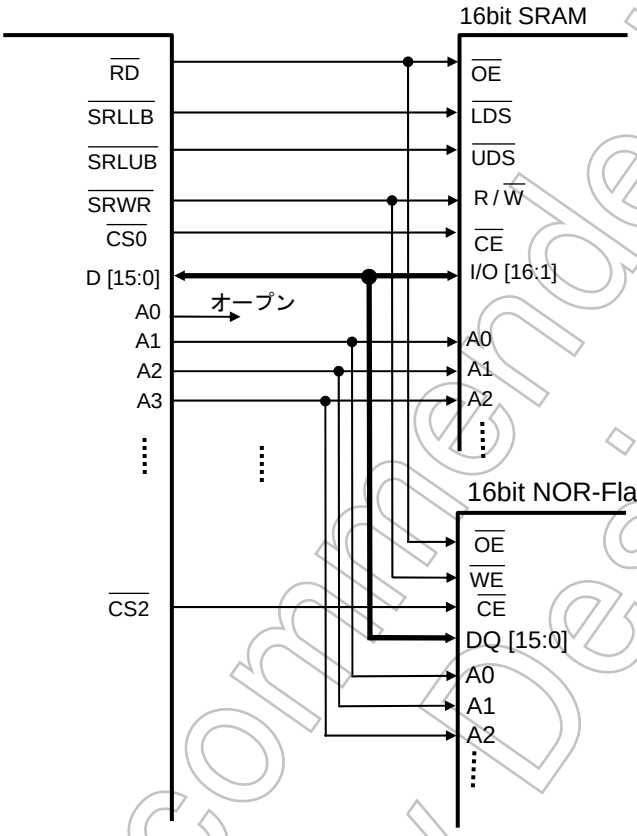


図 3.9.4　外部 16 ビット SRAM、NOR-Flash 接続例

Not Recommended for New Design

3.9.4 ROMのページモードアクセス制御

ROM のページモードアクセスを行う場合の動作と、レジスタの設定方法について説明します。設定は PMEMCR レジスタで行います。

(1) 動作とレジスタの設定方法

ページモードの ROM アクセスをサポートしています。ただし、ページモードの ROM アクセスを指定できるのは、CS2 のみです。 ROM のページモードの設定は、PMEMCR で行います。

PMEMCR<OPGE>を“1”に設定すると、CS2 のメモリアクセスは、ページモードアクセスになります。PMEMCR<OPWR1:0>でリードサイクル数の設定を行います。

PMEMCR<OPWR1/OPWR0>

OPWR1	OPWR0	ページのサイクル数
0	0	1 ステート (n-1-1-1 モード) (n ≥ 2)
0	1	2 ステート (n-2-2-2 モード) (n ≥ 3)
1	0	3 ステート (n-3-3-3 モード) (n ≥ 4)
1	1	4 ステート (n-4-4-4 モード) (n ≥ 5)

注) ウェイト数 n は、各ブロックアドレス空間のコントロールレジスタ(BnCSL)で設定して下さい。

PMEMCR<PR1:0>には、CPU 側から見た ROM のページサイズ(バイト数)を設定します。設定されたページの境界までデータがリードされると、メモリコントローラは、一連のページリード動作を終了させ、次のページの先頭データのリードはノーマルサイクルで行い、その次より再びページリードを続けます。

PMEMCR <PR1/PR0>

PR1	PR0	ROM ページ サイズ
0	0	64 バイト
0	1	32 バイト
1	0	16 バイト (デフォルト)
1	1	8 バイト

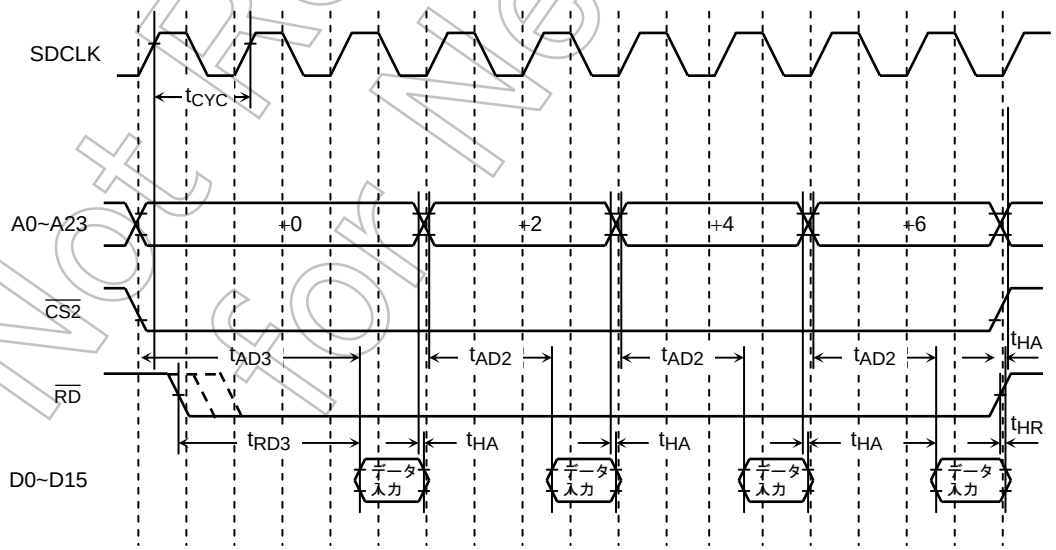


図 3.9.5 タイミングパルス図 (8 バイト設定例)

Not Recommended for New Design

3.9.5 内蔵ROM制御

内蔵 ROM について説明します。

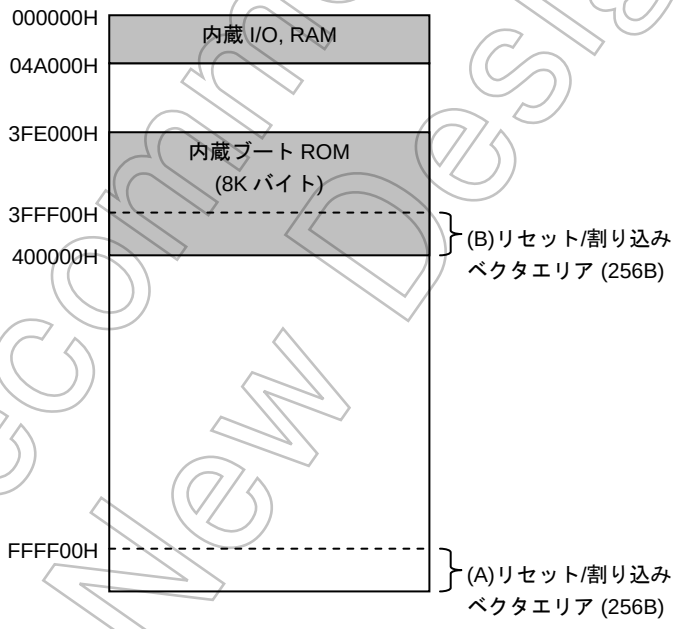
(1) ブートモード

ブートモードは以下の AM1 および AM0 端子のリセットでの状態によって起動されます。

AM1	AM0	スタートモード
0	0	設定禁止
0	1	外部 16 ビットバススタート
1	0	設定禁止
1	1	内蔵 ROM (内部 32 ビット MROM)スタート (ブートモード)

(2) 内蔵 ROM メモリマップ

内蔵 ROM は 8K バイトマスク ROM で構成され、アドレス 3FE000H~3FFFFFH に割り当てられます。



(3) リセット/割り込みアドレス切り替え回路

リセット/割り込みベクタエリアは TLCS-900/H1 では FFFF00H~FFFFEFH ((A)エリア) に割り当てられます。

しかし、ブート ROM は他のエリアに割り当てられているため、リセット/割り込みベクタアドレス切り替え回路が準備されています。ブートモードでは、リセット/割り込みベクタエリアはそれにより 3FFF00H~3FFFEFH((B)エリア)エリアに割り当てられます。そして ブートシーケンスの後、これらのエリアは BROMCR<VACE> を “0” に設定することにより、(A)エリアに切り替えることができます。よって(A)エリアはアプリケーションシステムプログラム用のみ使用することが可能です。BROMCR<VACE>はブートモードで “1” に初期化されます。他のスタートモードでは、このレジスタは意味を持ちません。

注) 最後の 16 バイトのエリア (FFFFF0H~FFFFFFH) はエミュレータ用に予約されています。よって、このエリアは<VACE>レジスタによって切り替えられません。

Not Recommended for New Design

(4) ブート ROM のバイパス

ブートモードでのブートシーケンスの後、アプリケーションシステムプログラムはリセットをアサートすることなしに実行しつづけることが可能です。

この場合、アドレス 3FE000H~3FFFFFH に配置される外部メモリはブート ROM が割り当てられているためアクセスできません。

よって、内蔵ブート ROM は BROMCR<ROMLESS>を“1” に設定することにより、バイパスさせることが可能です。

この<ROMLESS>はブートモードで“0”に初期化されます。他のスタートモードでは、このビットは “1” に初期化されます。

このビットが “1” に設定された場合、“0” をライトすることは禁止です。

BROMCR (016CH)	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol						CSDIS	ROMLESS	VACE
Read/Write						R/W		
リセット後						1	0/1 注)	1/0 注)
機能						NAND フラッシュ エリア CS 出力 0: 許可 1: 禁止	ブート ROM 0: 使用 1: バイパス	ベクタ アドレス 変換 0: 禁止 1: 許可

注) 起動モードによってリセット後の値は異なります。

Not Recommended for New Design

3.9.6 注意事項

(1) $\overline{CS}$ と $\overline{RD}$ の間のタイミングの注意点

$\overline{RD}$ (リード信号)の負荷容量が $\overline{CS}$ (チップセレクト信号)の容量より大きい場合のリード信号の遅れにより、意図しないリードサイクルが発生する場合があります。図 3.9.6の(a)のような意図しないリードサイクルによって、不具合が発生する恐れがあります。

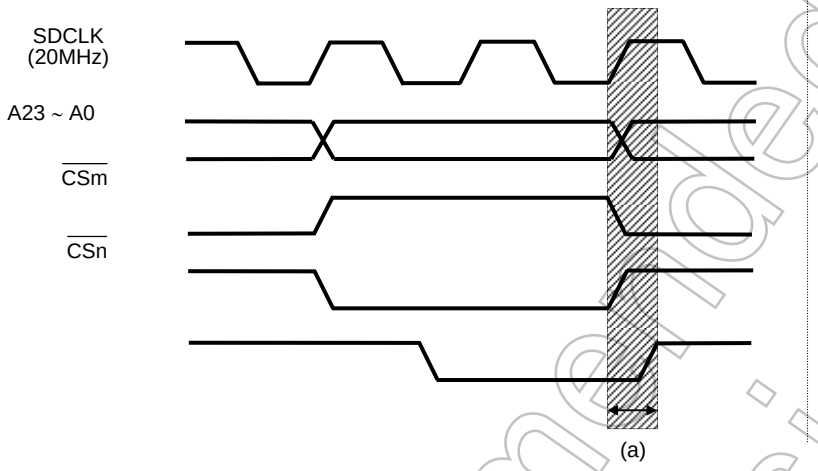


図 3.9.6 リード信号遅延時のリードサイクル

例： JEDEC標準型コマンドを採用しているNOR-Flashを外部に接続する場合、トグルビットを正しくリードできない場合があります。図 3.9.7のようにNOR-Flashアクセスの前のサイクルのリード信号立ち上がりが遅れたとき、(b)のように意図しないリードサイクルが生じます。

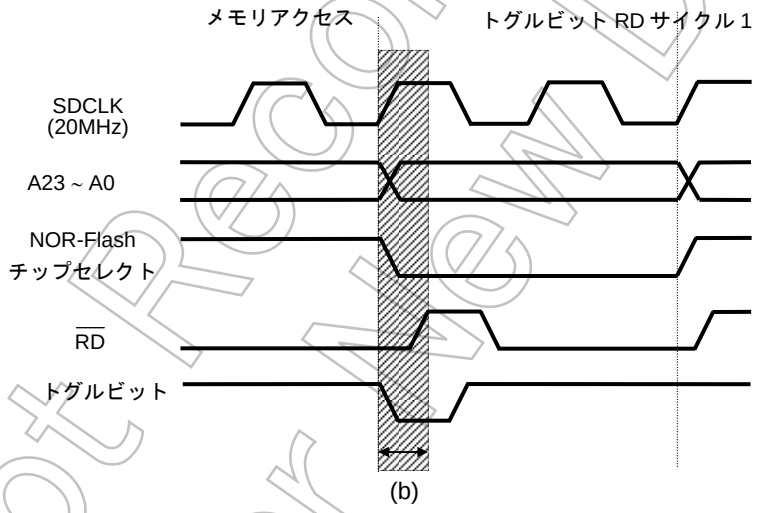


図 3.9.7 NOR-Flash トグルビットリードサイクル

この意図しないリードサイクルでトグルビットが反転してしまう場合、CPU はいつも同じ値のトグルビットをリードすることになり、正しくトグルビットをリードできません。

このような現象が起こる場合があるため、データポーリング機能などの制御を使用しこの現象の影響を受けないようにするか、$\overline{RD}$ 信号のタイミング調整機能(RDTMGCRn<BnTCRH1:0>)を使用し $\overline{RD}$ 立ち上がりタイミングを調整してこの現象が発生しないように対策することを推奨します。

Not Recommended for New Design

(2) NAND-Flash エリアについての注意点 1

図 3.9.8はNAND-Flashのメモリマップを示しています。

また、CS3 エリアでは 000000H から 3FFFFFH までのアドレスに割り当てることを推奨しており、この場合を例として説明します。この場合、“NAND-Flash” と CS3 エリアが重なっていますが、BROMCR<CSDIS>= “1”により $\overline{CS3}$ 端子はアクティブになりません。なお、$\overline{CS3}$ のみでなく $\overline{CS0}$ ~ $\overline{CS3}$ 、$\overline{CSXA}$ 、$\overline{CSXB}$ 、$\overline{CSZA}$ 、$\overline{CSZD}$ 端子全てがアクティブになりません。

注 1) 上記設定の場合、CS3 用メモリの 296K バイト(000000H~049FFFH)までのアドレスを使用することはできません。

注 2) NAND-Flash 用の 16 バイト(001FF0H~001FFFH)エリアは、設定された CS ブロックに関係なく下記の仕様に固定しています。よって上記設定の場合でも、NAND-Flash エリアは CS3 エリアの設定には従いません。
(NAND-Flash エリアの仕様)
1.バス幅 : NAND-Flash コントローラ中の NDFMCR1<BUSW>に依存します。
2.ウエイト制御 : NAND-Flash コントローラ中の NDFMCR0<SPLW1:0>,<SPHW1:0>に依存します。

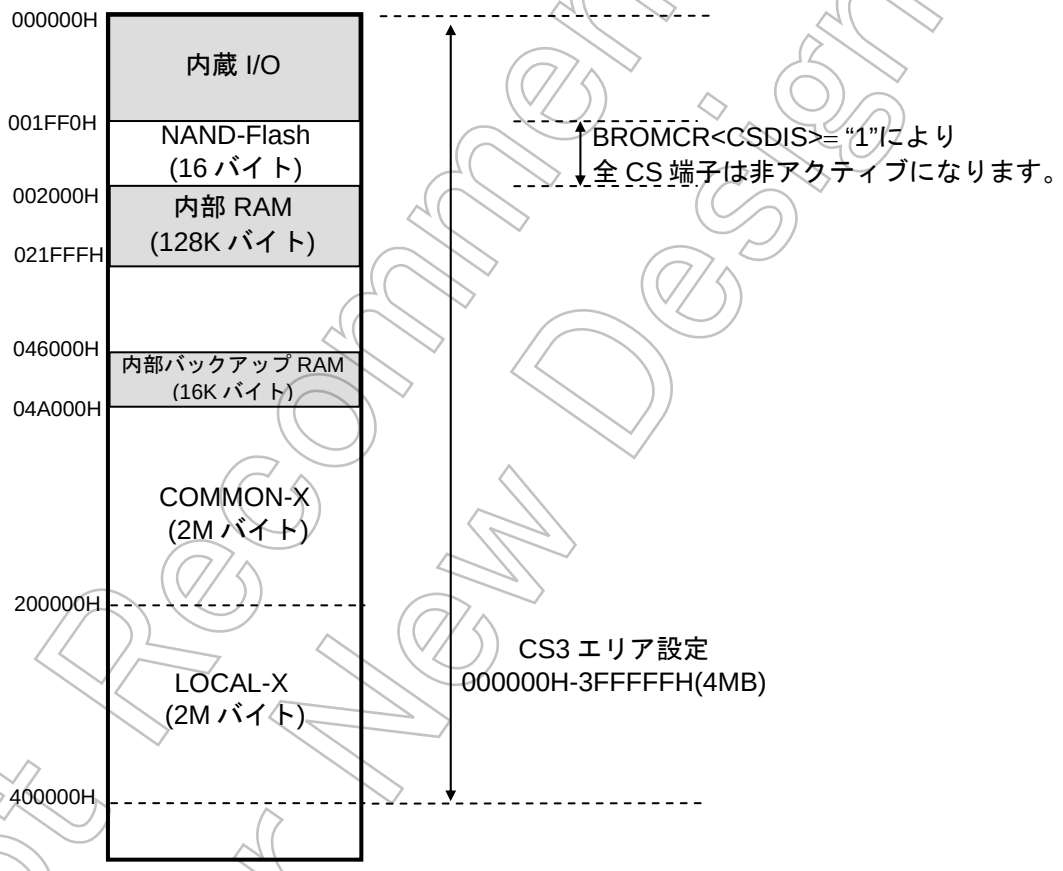


図 3.9.8 CS3 推奨設定

Not Recommended for New Design

(2) NAND フラッシュエリア設定についての注意点 2

SDRAM(SDCS) と、NANDF との併用の場合、BROMCR<CSDIS>ビットは利用できません。ここでは、SDRAM と NANDF を使用する場合の例を示します。

000000H~3FFFFFH のエリアには CS2 または CS1(SDCS)を割り当てることを推奨していますのでこの場合について説明します。

この場合、“NAND フラッシュ”と CS2 または CS1(SDCS)エリアが重なっています。

NAND フラッシュをアクセスする場合、同時にアクセスされ、データ衝突のような問題が発生します。この現象を避けるには、CS0 を 32K バイトの 000000H~007FFFH までのアドレスに割り当てることを推奨します。（$\overline{CS0}$ 端子は必要ありません。）

CS0 の設定優先順位は CS2 または CS1(SDCS)より高いため、NAND フラッシュへのアクセスは CS0 の設定が選択され、データコンフリクトを回避することができます。

注) この場合、CS2 または CS1 のメモリの 32 K バイト 000000H~007FFFH までのアドレスを使用することはできません。

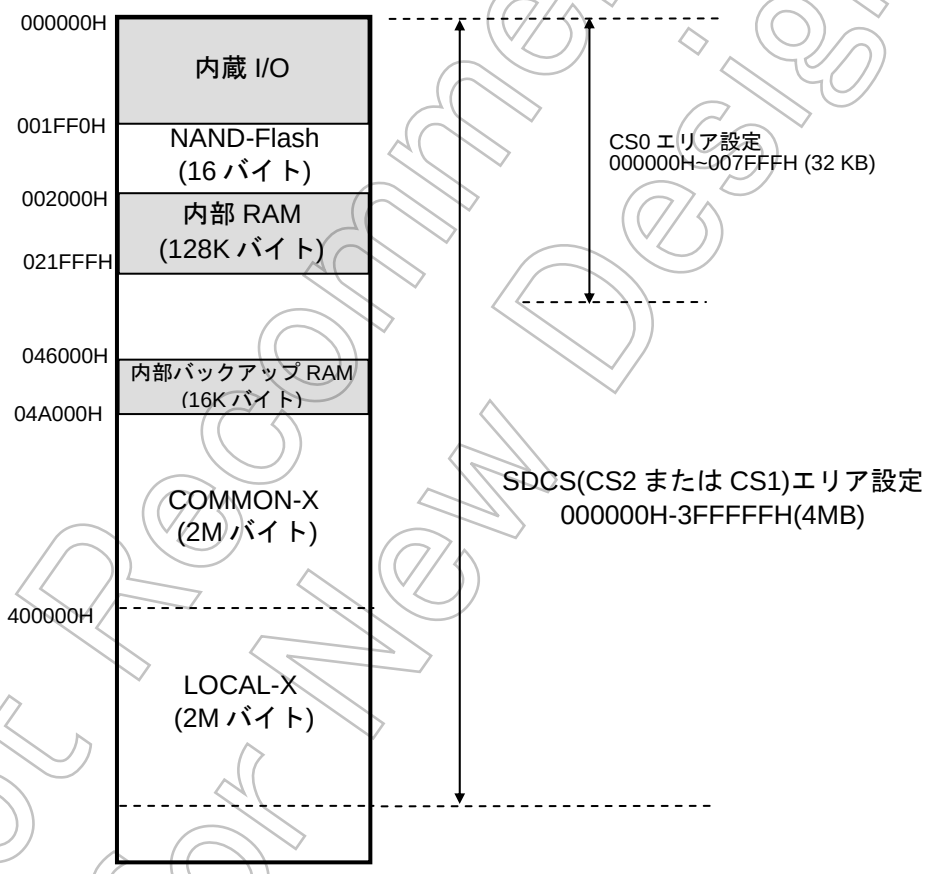


図 3.9.9 SDCS、CS0 推奨設定

Not Recommended for New Design

3.10 外部メモリ拡張機能 (MMU)

プログラム/データエリアに 3 個のローカルエリアを持たせることにより 2.1G バイトまで拡張可能な MMU 機能です。

推奨アドレスメモリマップは 図 3.10.1を参照してください。

使用メモリが 16 M バイト以下の時は、MMU のレジスタの設定をする必要はありませんので、メモリコントローラの章を参照してください。

バンクの設定が可能なエリアはローカルエリアと呼ばれます。ローカルエリアのアドレスは固定されており変更できません。

また、バンク設定ができないエリアをコモンエリアと呼びます。

基本的に、一連のプログラムは一つのバンク内で終結させてください。同じローカルエリアの異なったバンク間を JP 命令などで、直接分岐することはできません。詳細は先の設定例を参照願います。

TMP92CF29A は外部メモリを接続するための以下の外部端子を持っています。

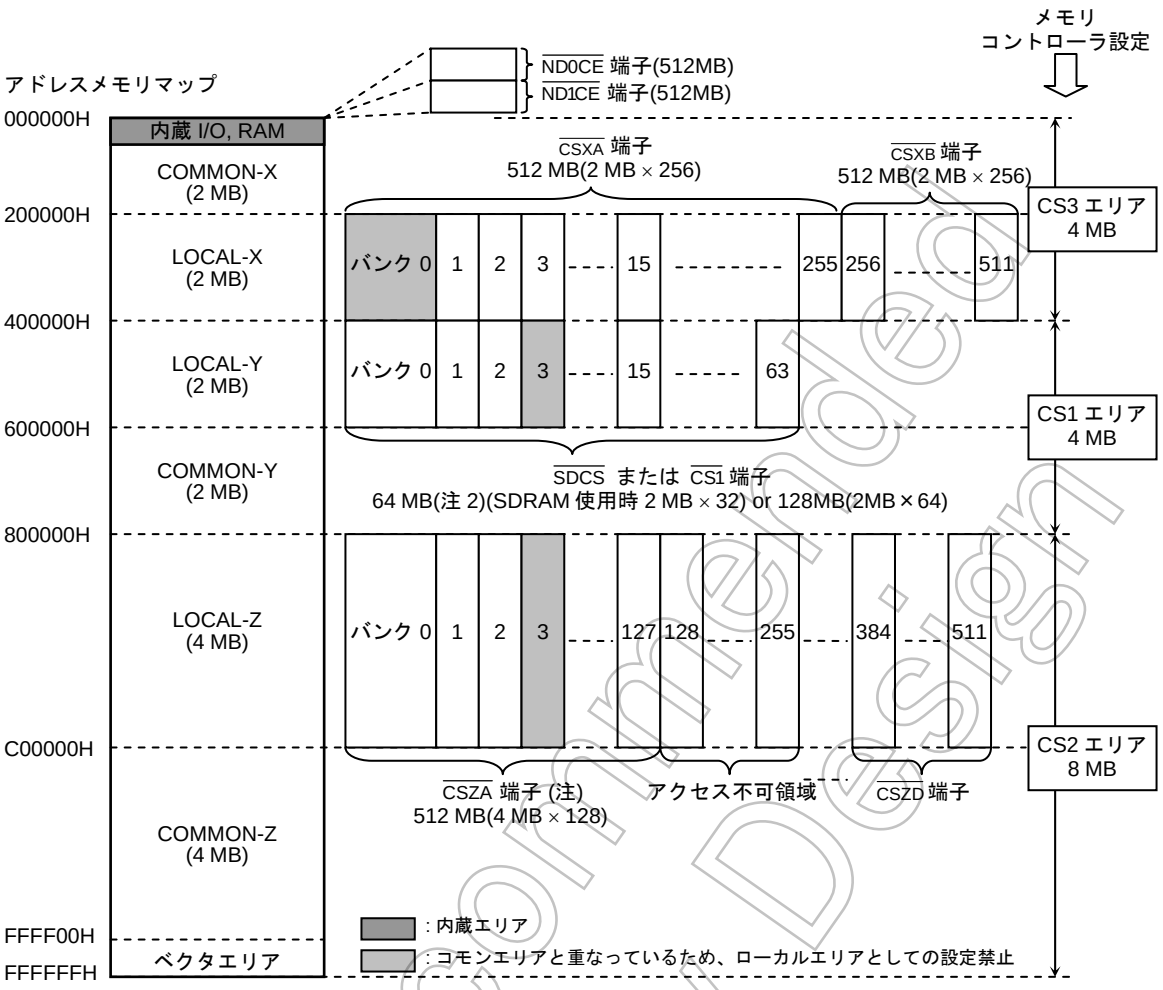
アドレスバス　：EA28, EA27, EA26, EA25,EA24, および A23 ~ A0
チップセレクト：$\overline{CS0}$ ~ $\overline{CS3}$, $\overline{CSXA}$ ~ $\overline{CSXB}$, $\overline{CSZA}$, $\overline{CSZD}$, $\overline{SDCS}$, $\overline{ND0CE}$ および $\overline{ND1CE}$
データバス　：D15~D0

注) 本製品は、弊社同シリーズマイコン TMP92CZ26AXBG および TMP92CF26A のサブセットマイコンです。ピン数を縮小した関係上、拡張メモリの総容量が 3.1G バイトから 2.1G バイトに縮小され、あわせて Z エリアのバンクが 512 バンクから 256 バンクに縮小されています。

3.10.1 推奨メモリマップ

図 3.10.1は推奨アドレスメモリマップのひとつを示しています。これは最大メモリサイズに拡張している例です。

Not Recommended for New Design

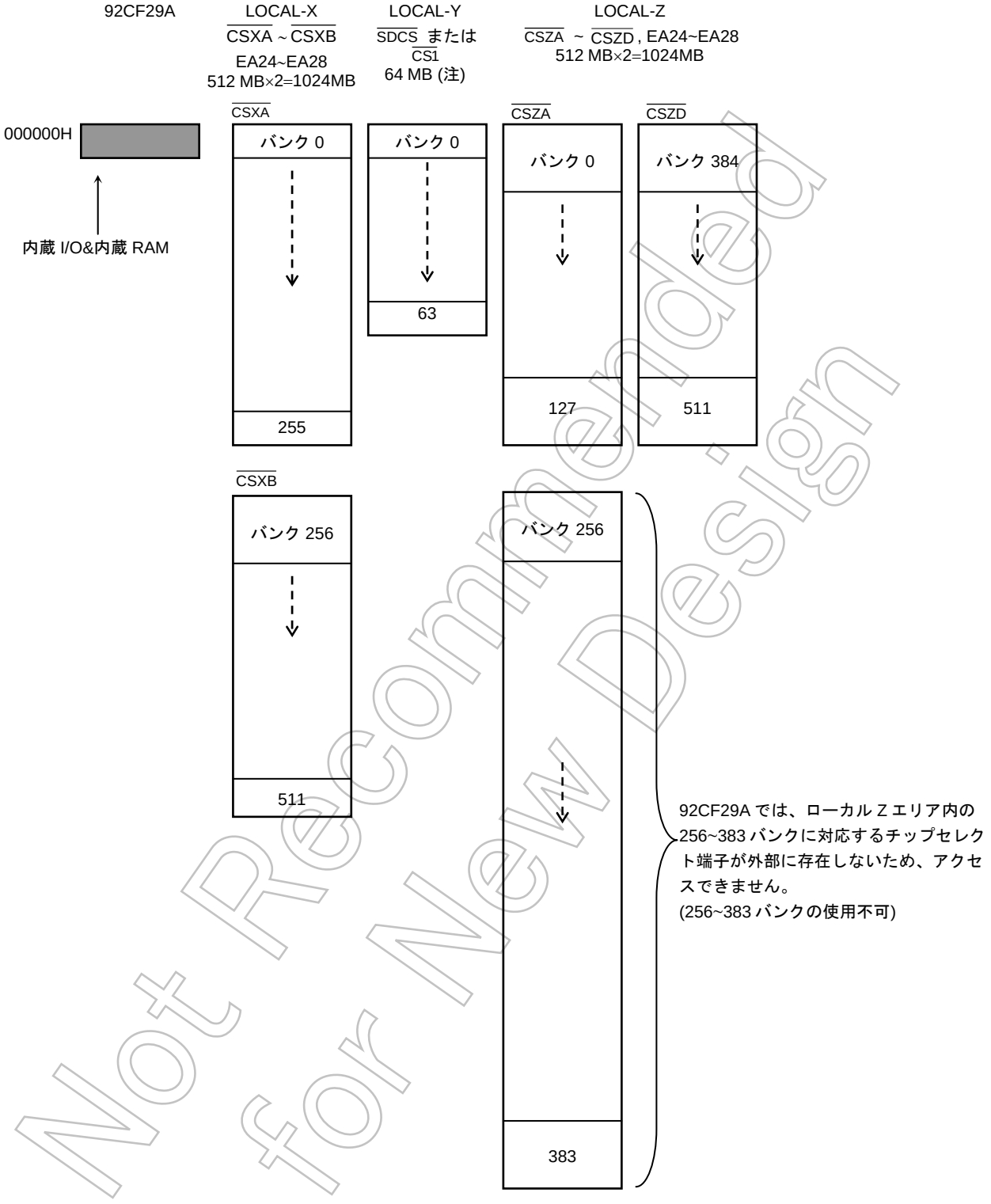


注 1) CSZA は LOCAL-Z のバンク 0 から 127 までだけでなく COMMON-Z も対応するチップセレクトです。

注 2) LOCAL-Y エリアに SDRAM を接続する場合は 64MB(2MB×32)までの対応となります。

図 3.10.1 最大仕様の推奨メモリマップ (論理アドレス)

Not Recommended for New Design



注) LOCAL-Y エリアに SDRAM を接続する場合は 64MB(2MB×32)までの対応となります。

図 3.10.2 最大仕様の推奨メモリマップ (物理アドレス)

Not Recommended for New Design

3.10.2 コントロールレジスタ

TMP92CF29A の MMU は 24 個のレジスタを持っています。これらは 8 つの使用目的 (プログラム、リードデータ、ライトデータ、LCD 表示用データ、偶数/奇数チャネル DMA 用ソースデータ、偶数/奇数用 DMA 用デスティネーションデータ) と 3 つのローカルエリア (LOCAL-X、Y、Z) の組み合わせとして用意されています。

これらの異なる 8 つの目的のレジスタを各々のローカルエリアに持たせることによって、データアクセスを容易にしています。

(使用方法と仕組み)

イネーブルレジスタと、各ローカルレジスタのバンク値を設定します。

関係する端子とメモリ設定をポートとメモリコントローラに設定します。

その後、CPU や LCDC がローカルエリアの論理アドレスにアクセスすると、MMU はレジスタに設定されたバンクに基づいて、論理アドレスを物理アドレスへ変換して出力します。この物理アドレスは外部アドレスバス端子に出力され、外部メモリへのアクセスが可能となります。つまりプログラム上は同一の論理アドレスをアクセスしても、レジスタに設定されたバンクによって物理アドレスは変化し、別バンクのメモリへアクセスが可能となる仕組みになっています。

注 1) バンクを設定する際、コモンエリアと重なる設定はしないでください。(ローカルエリアとコモンエリアが同一のアドレスを示すため)

注 2) ローカルエリアでプログラムバンク(LOCALPX, PY or PZ) を変更することはできません。各ローカルエリアのプログラムバンクの設定は必ずコモンエリアで変更してください。(ただし、リードデータ、ライトデータおよび LCD 表示用データのバンク設定はローカルエリアでも変更が可能です。)

注 3) リードデータ、ライトデータ、DMA 用データおよび LCD 表示データ用のバンクの設定 (LOCALRn、LOCALWn、LOCALLn、LOCALESn、LOCALEDn、LOCALOSn、LOCALODn; "n"は X、Y、Z を意味します。) レジスタが設定された後、そのバンクが有効になるまでにセットアップ時間を必要としますので、設定直後の命令によってそのメモリをアクセスすることはできません。この場合、下記の例のように SFR や他のメモリをアクセスするダミー命令の挿入が必要となります。

(例)

```
ld      xix, 200000h        ;
ldw     (localrx), 8001h    ;  リードデータバンクの設定
ldw     wa, (localrx)       ;  ← SFRにアクセスするダミー命令を挿入してください。
ldw     wa, (xix)           ;  LOCAL-X エリアのバンク 1 をリード
```

注 4) LOCAL-Z 使用時、チップセレクト信号 $\overline{\text{CSZA}}$ を P82 端子に設定してください。この場合、$\overline{\text{CSZA}}$ はバンク 0~15 用としてだけでなく COMMON-Z のチップセレクトとしても機能します。ただし、リセット後は P82 を設定する前に以下の設定を行ってください。

```
ldw     (localpz), 8000h        ; プログラム用 LOCAL-Z バンクイネーブル
ldw     (localrz), 8000h        ; データリード用 LOCAL-Z バンクイネーブル
ldw     (localwz), 8000h        ; データライト用 LOCAL-Z バンクイネーブル (*1)
ldw     (locallz), 8000h        ; LCD 表示メモリ用 LOCAL-Z バンクイネーブル (*2)
ld      (p8fc),   ------0--B    ;
ld      (p8fc2),  ------1--B    ; P82 端子を CSZA 出力に設定
```

*1) COMMON-Z エリアがデータライトメモリとして使用されない場合はこの設定はありません。

*2) COMMON-Z エリアが LCD 表示メモリとして使用されない場合はこの設定は必要ありません。

Not Recommended for New Design

3.10.2.1 プログラム用バンクレジスタ

プログラム用バンクレジスタをこれらのレジスタへ設定してください。

前述のように、あるバンク内で、同一ローカルエリアの異なるバンクへの直接分岐はできません。バンク内で同一ローカルエリアのバンク切り替えは禁止です。

プログラム用 LOCAL-X レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALPX (0880H)	Bit symbol	X7	X6	X5	X4	X3	X2	X1	X0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LOCAL-X 用バンク数設定 (“0”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		15	14	13	12	11	10	9	8
(0881H)	Bit symbol	LXE							X8
	Read/Write	R/W							R/W
	リセット後	0							0
	機能	LOCAL-X 用バンク使用 0: 禁止 1: 許可	LOCAL-X 用バンク数設定 X8-X0 設定と CS 関係 000000000~011111111 CSXA 100000000~111111111 CSXB						

プログラム用 LOCAL-Y レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALPY (0882H)	Bit symbol			Y5	Y4	Y3	Y2	Y1	Y0
	Read/Write			R/W					
	リセット後			0	0	0	0	0	0
	機能			LOCAL-Y 用バンク数設定 (“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)					
		15	14	13	12	11	10	9	8
(0883H)	Bit symbol	LYE							
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0							
	機能	LOCAL-Y 用バンク使用 0: 禁止 1: 許可							

プログラム用 LOCAL-Z レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALPZ (0884H)	Bit symbol	Z7	Z6	Z5	Z4	Z3	Z2	Z1	Z0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LOCAL-Z 用バンク数設定 (“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		15	14	13	12	11	10	9	8
(0885H)	Bit symbol	LZE							Z8
	Read/Write	R/W							R/W
	リセット後	0							0
	機能	LOCAL-Z 用バンク使用 0: 禁止 1: 許可	LOCAL-Z 用バンク数設定 Z8-Z0 設定と CS 関係 000000000~001111111 CSZA 100000000~101111111 設定禁止 010000000~011111111 設定禁止 110000000~111111111 CSZD						

Not Recommended for New Design

3.10.2.2 LCD表示用バンクレジスタ

LCD表示用バンクレジスタにはLCD表示用バンクをこれらのレジスタに設定してください。CPU動作のバンクとLCD表示用のバンクを別々に設定が可能なため、表示中でもCPUのアクセスするバンク(プログラム、リードデータ、ライトデータ)を切り換えることが可能です。

LCD表示データ用LOCAL-Xレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALLX (0888H)	Bit symbol	X7	X6	X5	X4	X3	X2	X1	X0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LOCAL-X用バンク数設定 (“0”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		15	14	13	12	11	10	9	8
(0889H)	Bit symbol	LXE							X8
	Read/Write	R/W							R/W
	リセット後	0							0
	機能	LOCAL-X用バンク使用 0: 禁止 1: 許可	LOCAL-X用バンク数設定 X8-X0設定とCS関係 000000000~011111111 CSXA 100000000~111111111 CSXB						

LCD表示データ用LOCAL-Yレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALLY (088AH)	Bit symbol			Y5	Y4	Y3	Y2	Y1	Y0
	Read/Write			R/W					
	リセット後			0	0	0	0	0	0
	機能			LOCAL-Y用バンク数設定 (“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)					
		15	14	13	12	11	10	9	8
(088BH)	Bit symbol	LYE							
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0							
	機能	LOCAL-Y用バンク使用 0: 禁止 1: 許可							

LCD表示データ用LOCAL-Zレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALLZ (088CH)	Bit symbol	Z7	Z6	Z5	Z4	Z3	Z2	Z1	Z0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LOCAL-Z用バンク数設定 (“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		15	14	13	12	11	10	9	8
(088DH)	Bit symbol	LZE							Z8
	Read/Write	R/W							R/W
	リセット後	0							0
	機能	LOCAL-Z用バンク使用 0: 禁止 1: 許可	LOCAL-Z用バンク数設定 Z8-Z0設定とCS関係 000000000~001111111 CSZA 100000000~101111111 設定禁止 010000000~011111111 設定禁止 110000000~111111111 CSZD						

Not Recommended for New Design

3.10.2.3 リードデータ用レジスタ

CPU のリードデータ用バンクをこれらのレジスタに設定してください。

下記は、LOCALX エリアにおいてリードデータ用バンクを 1 に設定した例です。”ldw wa, (xix)”命令では、xix 番地のデータを CPU の wa レジスタにリードする動作ですが、xix 番地をリードデータ用バンクに設定時、xix 番地からデータをリード(オペランド)する際にのみバンクがイネーブル状態となります。データをリード(オペランド)以外のアクセス(オペコード)はプログラムバンクがイネーブルとなります。

(例)

```
ld      xix, 200000h        ;
ld      (localrx), 8001h    ;   リードデータバンクを設定
ldw     wa, (localrx)       ;   ← SFR にアクセスするダミー命令を挿入
ldw     wa, (xix)           ;   LOCAL-X エリアのバンク 1 をリード
```

リードデータ用 LOCAL-X レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALRX (0890H)	Bit symbol	X7	X6	X5	X4	X3	X2	X1	X0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LOCAL-X 用バンク数設定 (“0”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		15	14	13	12	11	10	9	8
(0891H)	Bit symbol	LXE							X8
	Read/Write	R/W							R/W
	リセット後	0							0
	機能	LOCAL-X 用バンク使用 0: 禁止 1: 許可	LOCAL-X 用バンク数設定 X8-X0 設定と CS 関係 000000000~011111111 CSXA 100000000~111111111 CSXB						

リードデータ用 LOCAL-Y レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALRY (0892H)	Bit symbol			Y5	Y4	Y3	Y2	Y1	Y0
	Read/Write			R/W					
	リセット後			0	0	0	0	0	0
	機能			LOCAL-Y 用バンク数設定 (“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)					
		15	14	13	12	11	10	9	8
(0893H)	Bit symbol	LYE							
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0							
	機能	LOCAL-Y 用バンク使用 0: 禁止 1: 許可							

リードデータ用 LOCAL-Z レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALRZ (0894H)	Bit symbol	Z7	Z6	Z5	Z4	Z3	Z2	Z1	Z0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LOCAL-Z 用バンク数設定 (“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		15	14	13	12	11	10	9	8
(0895H)	Bit symbol	LZE							Z8
	Read/Write	R/W							R/W
	リセット後	0							0
	機能	LOCAL-Z 用バンク使用 0: 禁止 1: 許可	LOCAL-Z 用バンク数設定 Z8-Z0 設定と CS 関係 000000000~001111111 CSZA 100000000~101111111 設定禁止 010000000~011111111 設定禁止 110000000~111111111 CSZD						

Not Recommended for New Design

3.10.2.4 ライトデータ用バンクレジスタ

CPU のライトデータ用バンクをこれらのレジスタに設定してください。

下記は、LOCAL-X エリアにおいてライトデータ用バンクを 1 に設定した例です。“ldw (xix), wa” 命令では、CPU の wa レジスタのデータを xix 番地にライトする動作ですが、xix 番地をライトデータ用バンクに設定時、xix 番地にデータをライトする際(オペランド)にのみバンクがイネーブル状態となります。

(例)

```
ld    xix, 200000h        ;
ld    (localwx), 8001h    ;  ライトデータバンクを設定
ldw   wa, (localwx)       ;  ← SFR にアクセスするダミー命令を挿入
ldw   (xix), wa           ;  LOCAL-X エリアのバンク 1 へライト
```

ライトデータ用 LOCAL-X レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALWX (0898H)	Bit symbol	X7	X6	X5	X4	X3	X2	X1	X0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LOCAL-X 用バンク数設定 (“0”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		15	14	13	12	11	10	9	8
	Bit symbol	LXE							X8
	Read/Write	R/W							R/W
(0899H)	リセット後	0							0
	機能	LOCAL-X 用バンク使用 0: 禁止 1: 許可	LOCAL-X 用バンク数設定 X8-X0 設定と CS 関係 000000000~011111111 CSXA 100000000~111111111 CSXB						

ライトデータ用 LOCAL-Y レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALWY (089AH)	Bit symbol			Y5	Y4	Y3	Y2	Y1	Y0
	Read/Write			R/W					
	リセット後			0	0	0	0	0	0
	機能			LOCAL-Y 用バンク数設定 (“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)					
		15	14	13	12	11	10	9	8
	Bit symbol	LYE							
	Read/Write	R/W							
(089BH)	リセット後	0							
	機能	LOCAL-Y 用バンク使用 0: 禁止 1: 許可							

ライトデータ用 LOCAL-Z レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALWZ (089CH)	Bit symbol	Z7	Z6	Z5	Z4	Z3	Z2	Z1	Z0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LOCAL-Z 用バンク数設定 (“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		15	14	13	12	11	10	9	8
	Bit symbol	LZE							Z8
	Read/Write	R/W							R/W
(089DH)	リセット後	0							0
	機能	LOCAL-Z 用バンク使用 0: 禁止 1: 許可	LOCAL-Z 用バンク数設定 Z8-Z0 設定と CS 関係 000000000~001111111 CSZA 100000000~101111111 設定禁止 010000000~011111111 設定禁止 110000000~111111111 CSZD						

Not Recommended for New Design

3.10.2.5 DMA機能用バンクレジスタ

本 LSI では CPU のリード/ライト以外に内蔵の DMAC 回路がバスマスタとなって、データを高速に転送する機能を持っています。(DMAC のページを参照ください)

CPU のバンクや、LCDC の表示データのバンクとは異なる DMA 専用バンクで、CPU のプログラムバンク、リードバンク、ライトバンク等の状態にかかわらず、DMA 動作時のソースアドレスのバンク、デスティネーションアドレスのバンクの指定が可能です。

本 LSI で指定可能な DMAC は 6 チャネルですが、バンク制御は 2 種類です。各々、DMA チャネル 0,2,4 の偶数チャネルは E グループ(ES、ED のグループ)、DMA チャネル 1,3,5 の奇数チャネルは O グループ(OS、OD のグループ)の 2 種類に分けられ、同一グループ内でのチャネル別バンクの指定は出来ません。

下記は、LOCALX エリア　　において DMA_ソースアドレス用バンクを 1 、LOCALY エリアにおいて DMA_デスティネーションアドレス用バンクを 2 に設定した例です。DMAC の章で記述の DMA 機能で設定する、ソースアドレスが LOCALX エリア、デスティネーションアドレスが LOCALY エリアに設定されていた場合に、チャネル 0 の DMA が起動すると、LOCALX のバンク 1 がソース、LOCALY のバンク 2 がデスティネーションになります。

(例)

```
ldw     (localesx), 8001h     ;   チャネル 0 用 DMA ソースバンクを設定
ldw     (localedy), 8002h     ;   チャネル 0 用 DMA デスティネーションバンクを設定

DMA チャネル 0 起動
```

偶数グループ DMA ソース用 LOCAL-X レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALESX (08A0H)	Bit symbol	X7	X6	X5	X4	X3	X2	X1	X0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LOCAL-X 用バンク数設定 (“0”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		15	14	13	12	11	10	9	8
	Bit symbol	LXE							X8
	Read/Write	R/W							R/W
(08A1H)	リセット後	0							0
	機能	LOCAL-X 用バンク使用 0: 禁止 1: 許可	LOCAL-X 用バンク数設定 X8-X0 設定と CS 関係 000000000~011111111 CSXA 100000000~111111111 CSXB						

偶数グループ DMA ソース用 LOCAL-Y レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALESY (08A2H)	Bit symbol			Y5	Y4	Y3	Y2	Y1	Y0
	Read/Write			R/W					
	リセット後			0	0	0	0	0	0
	機能			LOCAL-Y 用バンク数設定 (“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)					
		15	14	13	12	11	10	9	8
	Bit symbol	LYE							
	Read/Write	R/W							
(08A3H)	リセット後	0							
	機能	LOCAL-Y 用バンク使用 0: 禁止 1: 許可							

Not Recommended for New Design

偶数グループ DMA ソース用 LOCAL-Z レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALESZ (08A4H)	Bit symbol	Z7	Z6	Z5	Z4	Z3	Z2	Z1	Z0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LOCAL-Z 用バンク数設定 (“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		15	14	13	12	11	10	9	8
	Bit symbol	LZE							Z8
	Read/Write	R/W							R/W
(08A5H)	リセット後	0							0
	機能	LOCAL-Z 用バンク使用 0: 禁止 1: 許可	LOCAL-Z 用バンク数設定 Z8-Z0 設定と CS 関係 000000000~001111111 CSZA 100000000~101111111 設定禁止 010000000~011111111 設定禁止 110000000~111111111 CSZD						

偶数グループ DMA デスティネーション用 LOCAL-X レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALEDX (08A8H)	Bit symbol	X7	X6	X5	X4	X3	X2	X1	X0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LOCAL-X 用バンク数設定 (“0”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		15	14	13	12	11	10	9	8
	Bit symbol	LXE							X8
	Read/Write	R/W							R/W
(08A9H)	リセット後	0							0
	機能	LOCAL-X 用バンク使用 0: 禁止 1: 許可	LOCAL-X 用バンク数設定 X8-X0 設定と CS 関係 000000000~011111111 CSXA 100000000~111111111 CSXB						

偶数グループ DMA デスティネーション用 LOCAL-Y レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALEDY (08AAH)	Bit symbol			Y5	Y4	Y3	Y2	Y1	Y0
	Read/Write			R/W					
	リセット後			0	0	0	0	0	0
	機能			LOCAL-Y 用バンク数設定 (“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)					
		15	14	13	12	11	10	9	8
	Bit symbol	LYE							
	Read/Write	R/W							
(08ABH)	リセット後	0							
	機能	LOCAL-Y 用バンク使用 0: 禁止 1: 許可							

Not Recommended for New Design

偶数グループ DMA デスティネーション用 LOCAL-Z レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALEDZ (08ACH)	Bit symbol	Z7	Z6	Z5	Z4	Z3	Z2	Z1	Z0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LOCAL-Z 用バンク数設定 (“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		15	14	13	12	11	10	9	8
(08ADH)	Bit symbol	LZE							Z8
	Read/Write	R/W							R/W
	リセット後	0							0
	機能	LOCAL-Z 用バンク使用 0: 禁止 1: 許可	LOCAL-Z 用バンク数設定 Z8-Z0 設定と CS 関係 000000000~001111111 CSZA 100000000~101111111 設定禁止 010000000~011111111 設定禁止 110000000~111111111 CSZD						

奇数グループ DMA ソース用 LOCAL-X レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALOSX (08B0H)	Bit symbol	X7	X6	X5	X4	X3	X2	X1	X0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LOCAL-X 用バンク数設定 (“0”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		15	14	13	12	11	10	9	8
(08B1H)	Bit symbol	LXE							X8
	Read/Write	R/W							R/W
	リセット後	0							0
	機能	LOCAL-X 用バンク使用 0: 禁止 1: 許可	LOCAL-X 用バンク数設定 X8-X0 設定と CS 関係 000000000~011111111 CSXA 100000000~111111111 CSXB						

奇数グループ DMA ソース用 LOCAL-Y レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALOSY (08B2H)	Bit symbol			Y5	Y4	Y3	Y2	Y1	Y0
	Read/Write			R/W					
	リセット後			0	0	0	0	0	0
	機能			LOCAL-Y 用バンク数設定 (“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)					
		15	14	13	12	11	10	9	8
(08B3H)	Bit symbol	LYE							
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0							
	機能	LOCAL-Y 用バンク使用 0: 禁止 1: 許可							

Not Recommended for New Design

奇数グループ DMA ソース用 LOCAL-Z レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALOSZ (08B4H)	Bit symbol	Z7	Z6	Z5	Z4	Z3	Z2	Z1	Z0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LOCAL-Z 用バンク数設定 (“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		15	14	13	12	11	10	9	8
(08B5H)	Bit symbol	LZE							Z8
	Read/Write	R/W							R/W
	リセット後	0							0
	機能	LOCAL-Z 用バンク使用 0: 禁止 1: 許可	LOCAL-Z 用バンク数設定 Z8-Z0 設定と CS 関係 000000000~001111111 CSZA 100000000~101111111 設定禁止 010000000~011111111 設定禁止 110000000~111111111 CSZD						

奇数グループ DMA デスティネーション用 LOCAL-X レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALODX (08B8H)	Bit symbol	X7	X6	X5	X4	X3	X2	X1	X0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LOCAL-X 用バンク数設定 (“0”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		15	14	13	12	11	10	9	8
(08B9H)	Bit symbol	LXE							X8
	Read/Write	R/W							R/W
	リセット後	0							0
	機能	LOCAL-X 用バンク使用 0: 禁止 1: 許可	LOCAL-X 用バンク数設定 X8-X0 設定と CS 関係 000000000~011111111 CSXA 100000000~111111111 CSXB						

奇数グループ DMA デスティネーション用 LOCAL-Y レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALODY (08BAH)	Bit symbol			Y5	Y4	Y3	Y2	Y1	Y0
	Read/Write			R/W					
	リセット後			0	0	0	0	0	0
	機能			LOCAL-Y 用バンク数設定 (“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)					
		15	14	13	12	11	10	9	8
(08BBH)	Bit symbol	LYE							
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0							
	機能	LOCAL-Y 用バンク使用 0: 禁止 1: 許可							

Not Recommended for New Design

奇数グループ DMA デスティネーション用 LOCAL-Z レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALODZ (08BCH)	Bit symbol	Z7	Z6	Z5	Z4	Z3	Z2	Z1	Z0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LOCAL-Z 用バンク数設定 (“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		15	14	13	12	11	10	9	8
(08BDH)	Bit symbol	LZE							Z8
	Read/Write	R/W							R/W
	リセット後	0							0
	機能	LOCAL-Z 用バンク使用 0: 禁止 1: 許可	LOCAL-Z 用バンク数設定 Z8-Z0 設定と CS 関係 000000000~001111111 CSZA 100000000~101111111 設定禁止 010000000~011111111 設定禁止 110000000~111111111 CSZD						

Not Recommended for New Design

3.10.3 設定例

以下に下記条件での使用例を説明します。

No.	使用	メモリ	設定	MMU エリア	論理アドレス	物理アドレス
(a)	メインルーチン	NOR-Flash (16 MB, 1 pcs)	$\overline{CSZA}$, 16 ビット, 1 ウェイト	COMMON-Z	C00000H~FFFFFFH	
(b)	キャラクタ ROM			LOCAL-Z のバンク 0	800000H~BFFFFFH	000000H~3FFFFFH
(c)	サブルーチン	SRAM (16 MB, 1 pcs)	$\overline{CS1}$, 16 ビット, 0 ウェイト	LOCAL-Y のバンク 0	400000H~5FFFFFH	000000H~1FFFFFH
(d)	LCD 表示 RAM			LOCAL-Y のバンク 1		200000H~3FFFFFH
(e)	スタック RAM	内蔵 RAM (144KB)	– (32 ビット, 2-1-1-1 クロック)	LOCAL-Y のバンク 2	002000H~049FFFH	

(a) メインルーチン (COMMON－Z)

論理アドレス	物理アドレス	No	命令	コメント
		1	org C00000H	;
C00000H	<- (同一)	2	ldw (mamr2), 80FFH	; CS2 800000-FFFFFF/8 MB
C000xxH	<-	3	ldw (b2csl), C122H	; CS2 16 ビット ROM, 1 ウェイト
		4	Ldw (mamr1), 40FFH	; CS1 400000-7FFFFF/4 MB
		5	ldw (b1csl), 8111H	; CS1 16 ビット RAM, 0 ウェイト
		5.1	ldw (localpz), 8000H	; プログラム用 LOCAL-Z バンクイネーブル
		5.2	ldw (localrz), 8000H	; リードデータ用 LOCAL-Z バンクイネーブル
		6	ld (p8fc), 02H	; P81: $\overline{CS1}$
		7	ld (p8fc2), 04H	; P82: $\overline{CSZA}$
		9	ld xsp, 48000H	; スタックポインタ = 48000H
		10	ldw (localpy), 8000H	; LOCAL-Y のバンク 0 はサブルーチン用にプログラムバンクとして設定。
		11	:	;
C000yyH	<-	12	call 400000H	; サブルーチンをコール
		13	:	;
		14	:	;
		15	:	;

- No.2~No.8 の命令はポートとメモリコントローラを設定します。
- No.9 はスタックポインタ設定です。内蔵 RAM に割り当てています。
- No.10 は No.12 の命令の実行のための設定です。
- No.12 はサブルーチンをコールする命令です。CPU が 400000H アドレスを出力すると、MMU は外部アドレスバス A23~A0 に変換した物理アドレス 000000H を出力します。また SRAM 用 $\overline{CS1}$ は論理アドレスが CS1 のエリア内にあるため、同時にアサートされます。これらの命令によって CPU はサブルーチンに分岐が可能となります。

注) この例はすでに SRAM にサブルーチンプログラムがライトされていることを前提にしています。

Not Recommended for New Design

(b) サブルーチン (LOCAL-Y のバンク 0)

論理アドレス	物理アドレス	No	命令	コメント
		16	org 400000H	;
400000H	000000H	17	ldw (localwy), 8001H	; LOCAL-Y のバンク 1 を LCD 表示 RAM 用ライトデータ用に設定
4000xxH	0000xxH	18	ldw (locally), 8001H	; LOCAL-Y のバンク 1 を LCD 表示 RAM 用として設定
		19	ldw (localrz), 8001H	; LOCAL-Z のバンク 0 はキャラクタ RAM 用リードデータ用に設定
		20	ld xiy, 800000H	; キャラクタ ROM リード用インデックスアドレスレジスタ
		21	ld wa, (xiy)	; キャラクタ ROM をリード
		22	:	; 表示データにそれを変換
		23	~~ld (localpy), 82H~~	;
		24	ld xix, 400000H	; LCD 表示データライト用インデックスアドレスレジスタ
		25	ld (xix), bc	; LCD 表示データライト
		26	:	; LCD コントローラを設定
		27	:	;
		28	ld xiz, 400000H	; LCD 開始アドレスを LCDC に設定
		29	ld (lsarcl), xiz	;
		30	ld (lcdctl0), 01H	; LCD 表示動作開始
		31	:	;
5000yyH	1000yyH	32	ret	;

- No.17 および No.18 で LOCAL-Y のバンク 1 の設定です。LCD 表示データを CPU が表示 RAM にライトし、LCDC が表示 RAM からリードする設定です。つまり、(LOCALWY) と (LOCALLY) を同じバンク 1 に設定すべきです。
- No.19 はキャラクタ ROM からデータをリードする LOCAL-Z のバンク 0 用設定です。
- No.20 および No.21 はキャラクタ ROM からデータをリードする命令です。CPU が 800000H アドレスを出力すると、MMU は外部アドレスバス A23~A0 に変換した物理アドレス 000000H を出力し、NOR-Flash 用 $\overline{CSZA}$ は論理アドレスが CS2 のエリア内にあるため同時にアサートされます。これらの命令によって、CPU はキャラクタ ROM からデータをリードすることが可能となります。
- No.23 はローカルエリアでプログラムバンクを切り替える命令です。バンク内で、同一ローカルエリアのプログラムバンク設定は禁止です。NG の例です。
- No.24 および No.25 は SRAM にデータをライトする命令です。CPU が 400000H アドレスを出力すると、MMU は外部アドレスバス A23~A0 に変換した物理アドレス 200000H を出力し、SRAM 用 $\overline{CS1}$ は論理アドレスが CS1 のエリア内にあるためアサートされます。これらの命令により、CPU は SRAM にデータをライトすることが可能となります。
- No.28 および No.29 は LCD 開始アドレスを LCD コントローラに設定しています。LCDC が DMA サイクルにて 400000H アドレスを出力すると、MMU は外部アドレスバス A23~A0 に変換した物理アドレス 200000H を出力し、SRAM 用 $\overline{CS1}$ は論理アドレスが CS1 のエリア内にあるためアサートされます。 これらの命令により、LCDC は SRAM からデータをリードすることが可能となります。
- No.30 は LCD 表示動作を開始する命令です。

Not Recommended for New Design

3.11 SDRAM コントローラ(SDRAMC)

データ用、プログラム用、表示用としてアクセス可能な、SDRAM コントローラを内蔵しています。下記にその特徴を記します。

(1) サポート SDRAM

データレートタイプ　：SDR(シングルデータレート) タイプのみ
メモリ容量　：16 / 64 / 128 / 256 / 512Mbit
バンク数　：2 / 4 バンク
データバス幅　：16 bit
リードバースト長　：1 ワード /フルページ
ライトモード　：シングル / バースト

(2) イニシャライズシーケンスコマンドのサポート

全バンクプリチャージコマンド
8 回のオートリフレッシュコマンド
モードレジスタセットコマンド

(3) アクセスモード

	CPU サイクル	HDMA サイクル	LCDC サイクル
バースト長	1 ワード	1 ワード／フルページ選択可	フルページ
アドレッシングモード	シーケンシャル	シーケンシャル	シーケンシャル
CAS レイテンシ(クロック)	2	2	2
ライトモード	シングル	シングル／バースト選択可	

(4) アクセスサイクル

- CPU アクセスサイクル
  リードサイクル　：1 ワード– 最小 4-3-3-3 ステート
  ライトサイクル　：シングル– 最小 3-2-2-2 ステート
  データサイズ　：1Byte / 1Word / 1LongWord

- HDMA アクセスサイクル
  リードサイクル　：1 ワード– 最小 4-3-3-3 ステート/フルページ – 最小 4-1-1-1 ステート
  ライトサイクル　：シングル– 最小 3-2-2-2 ステート/バースト– 最小 2-1-1-1 ステート
  データサイズ　：1Byte / 1Word / 1LongWord

- LCDC アクセスサイクル
  リードサイクル　：フルページ– 最小 4-1-1-1 ステート
  データサイズ　：1Word

(5) リフレッシュサイクル自動発生

- オート･リフレッシュは、SDRAM アクセス以外の期間に発生します。
- オート･リフレッシュ間隔は、プログラマブルです。
- セルフ･リフレッシュ機能をサポートしています。

注) SDRAM アドレス領域は、メモリコントローラの CS1、もしくは CS2 の設定により決まります。ただし、バスサイクルステート数は、SDRAM コントローラが管理します。

Not Recommended for New Design

3.11.1 コントロールレジスタ

図 3.11.1にコントロールレジスタを示します。これらのレジスタを設定することで、SDRAMCの動作を制御します。

SDRAM アクセスコントロールレジスタ

SDACR (0250H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	SRDS	–	SMUXW1	SMUXW0	SPRE			SMAC
Read/Write	R/W							R/W
リセット後	1	0	0	0	0			0
機能	リードデータシフト機能 0: Disable 1: Enable	“0”をライトしてください	アドレスマルチプレクスタイプ選択 00: TypeA (A9-) 01: TypeB (A10-) 10: TypeC (A11-) 11: Reserved		リード/ライトコマンド選択 0:Without Auto Precharge 1:With Auto Precharge			SDRAMコントローラ 0:禁止 1:許可

SDRAM コマンド間隔設定レジスタ

SDCISR (0251H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol		STMRD	STWR	STRP	STRCD	STRC2	STRC1	STRC0
Read/Write		R/W						
リセット後		1	1	1	1	1	0	0
機能		TMRD 0: 1CLK 1: 2CLK	TWR 0: 1CLK 1: 2CLK	TRP 0: 1CLK 1: 2CLK	TRCD 0: 1CLK 1: 2CLK	TRC 000: 1CLK 100: 5CLK 001: 2CLK 101: 6CLK 010: 3CLK 110: 7CLK 011: 4CLK 111: 8CLK		

SDRAM リフレッシュコントロールレジスタ

SDRCR (0252H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	–			SSAE	SRS2	SRS1	SRS0	SRC
Read/Write	R/W			R/W				
リセット後	0			1	0	0	0	0
機能	“0”をライトしてください			セルフリフレッシュオートExit 機能 0:Disable 1:Enable	リフレッシュ間隔 000: 47state 100: 468state 001: 78state 101: 624state 010: 156state 110: 936state 011: 312state 111:1248state			オートリフレッシュ 0:Disable 1:Enable

Not Recommended for New Design

SDRAM コマンドレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
SDCMM (0253H)	Bit symbol						SCMM2	SCMM1	SCMM0
	Read/Write						R/W		
	リセット後						0	0	0
	機能						コマンド発行 (注 1) (注 2) 000: Don't care 001: イニシャライズコマンド発行 a.全バンクプリチャージコマンド b. 8 回のオートリフレッシュコマンド c.モードレジスタセットコマンド 010: 全バンクプリチャージコマンド 100: Reserved 101: セルフリフレッシュ ENTRY コマンド 110: セルフリフレッシュ EXIT コマンド その他: Reserved		

注 1) コマンドが発行された後に<SCMM2:0>は"000"にクリアされますので、次のコマンド発行時は "000"であることを確認した上でライトしてください。ただし、セルフリフレッシュ ENTRY コマンドは "000"にクリアされませんので、セルフリフレッシュ中かどうか確認するフラグとして使用可能です。

注 2) セルフリフレッシュ EXIT コマンドは、セルフリフレッシュ ENTRY 中であることを確認した後、ライトしてください。

SDRAM HDMA バースト長選択レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
SDBLS (0254H)	Bit symbol			SDBL5	SDBL4	SDBLS	SDBL2	SDBL1	SDBL0
	Read/Write			R/W					
	リセット後			0	0	0	0	0	0
	機能			HDMA5 用	HDMA4 用	HDMA3 用	HDMA2 用	HDMA1 用	HDMA0 用
				HDMA バースト長選択 0:1 Word Read / Single Write 1:Full Page Read / Burst Write					

図 3.11.1 コントロールレジスタ

Not Recommended for New Design

3.11.2 動作説明

(1) メモリアクセスコントロール

SDACR<SMAC>に “1”を設定すると、SDRAM コントローラはイネーブルになります。

バスマスタ(CPU, LCDC, DMAC)が SDRAM アドレス領域へのアクセスサイクルを発生すると SDRAM コントローラは SDRAM 用の信号を出力します。

SDRAMサイクルのタイミングを 図 3.11.2~図 3.11.5に示します。SDRAMアクセスサイクル数はメモリコントローラのウェイト制御には依存しません。本SDRAMコントローラが管理します。

(a) コマンド発行機能

SDCMM レジスタの設定に従いコマンドを発行します。また、バスマスタが発生したアクセスサイクルに応じて自動的にコマンドを発行します。

本SDRAMコントローラが発行するコマンドを 表 3.11.1に示します。

表 3.11.1 コマンド一覧

コマンド	CKE_{n-1}	CKE_n	SDxxDQM	A10	A15-A11 A9-A0	$\overline{SDCS}$	$\overline{SDRAS}$	$\overline{SDCAS}$	$\overline{SDWE}$
Bank Activate	H	H	H	RA	RA	L	L	H	H
Precharge All	H	H	H	H	X	L	L	H	L
Read	H	H	L	L	CA	L	H	L	H
Read with Auto Precharge	H	H	L	H	CA	L	H	L	H
Write	H	H	L	L	CA	L	H	L	L
Write with Auto Precharge	H	H	L	H	CA	L	H	L	L
Mode Register Set	H	H	H	L	M	L	L	L	L
Burst Stop	H	H	H	X	X	L	H	H	L
Auto Refresh	H	H	H	X	X	L	L	L	H
Self Refresh Entry	H	L	H	X	X	L	L	L	H
Self Refresh Exit	L	H	H	X	X	H	H	H	H

注 1) H=High level、L=Low level、RA=Row address、CA=Column address、M=Mode data、X=don’t care

注 2) CKE_n はコマンド入力サイクルの CKE レベルを示します。
CKE_{n-1} はコマンド入力サイクルの 1 つ前のサイクルでの CKE レベルを示します。

Not Recommended for New Design

(b)アドレスマルチプレクス機能

アクセスサイクル中、A0~A15 端子よりロー/カラムのマルチプレクスアドレスを出力します。マルチプレクス幅は、SDACR<SMUXW1:0>で設定します。マルチプレクス幅とロー/カラムアドレスの関係を 表 3.11.2に示します。

表 3.11.2 アドレスマルチプレクス

92CF29A ピン名称	SDRAM アクセスサイクルのアドレス			
	ローアドレス			カラムアドレス
	TypeA <SMUXW>"00"	TypeB <SMUXW>"01"	TypeC <SMUXW>"10"	
A0	A9	A10	A11	A1
A1	A10	A11	A12	A2
A2	A11	A12	A13	A3
A3	A12	A13	A14	A4
A4	A13	A14	A15	A5
A5	A14	A15	A16	A6
A6	A15	A16	A17	A7
A7	A16	A17	A18	A8
A8	A17	A18	A19	A9
A9	A18	A19	A20	A10
A10	A19	A20	A21	AP 注)
A11	A20	A21	A22	ローアドレス
A12	A21	A22	A23	
A13	A22	A23	EA24	
A14	A23	EA24	EA25	
A15	EA24	EA25	EA26	

注) AP: オートプリチャージ

(c) バースト長

CPU によるアクセス時のバースト長は 1 ワードリード/シングルライトに、また、LCDC によるアクセス時のバースト長はフルページに固定されます。

HDMA による SDRAM リードおよびライトのバースト長の選択は、下記の全条件を満たした場合可能になります。

- HDMA 転送モードがインクリメントモード
- SDRAM と内臓 RAM/内臓 I/O との転送時

その他の設定では、1 ワードリード/シングルライトでのみ HDMA 動作が可能です。HDMA のチャネルごとの動作(シングル or バースト)を SDBLS<SDBL5:0>へ設定して下さい。

Not Recommended for New Design

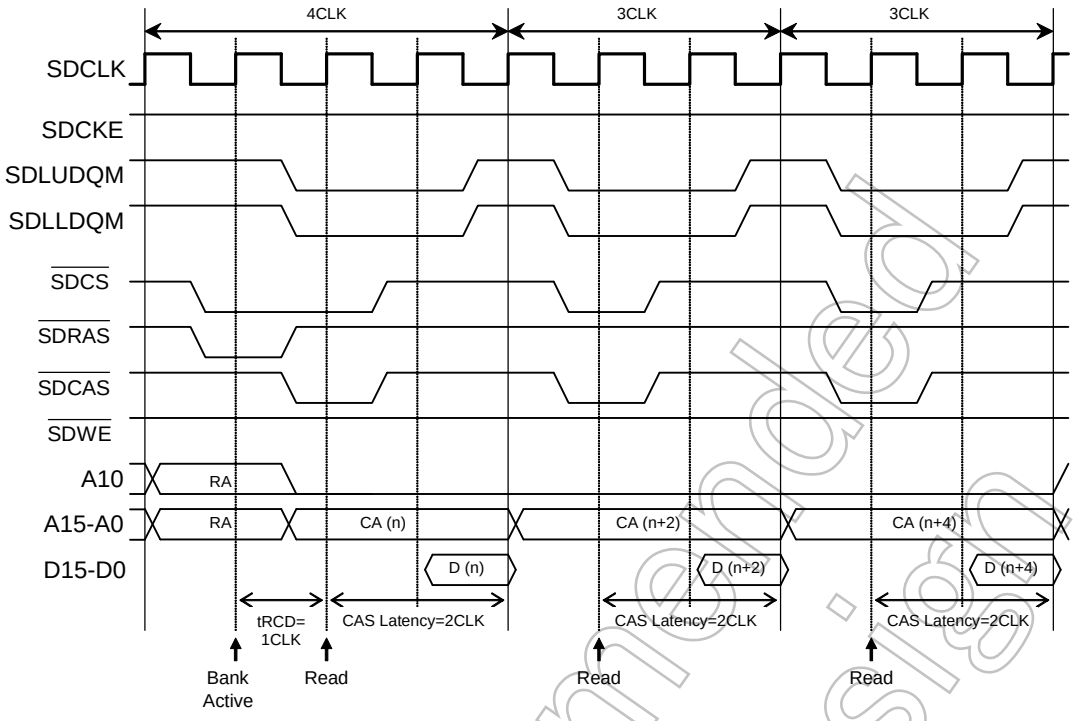


図 3.11.2 1 ワードリードサイクルのタイミング

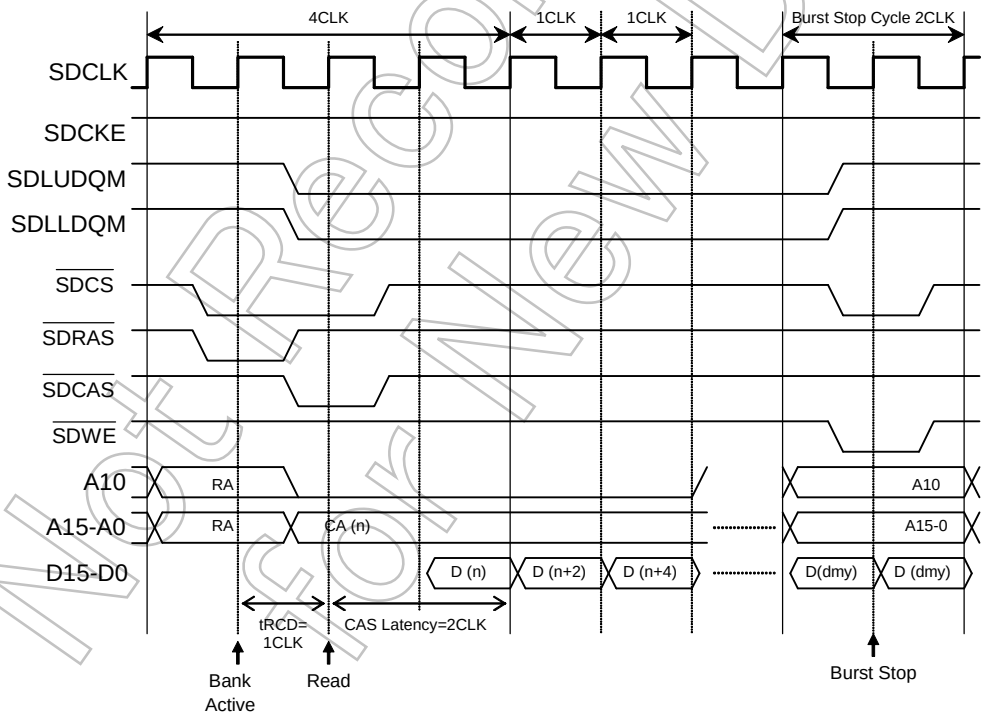


図 3.11.3 フルページリードサイクルのタイミング

Not Recommended for New Design

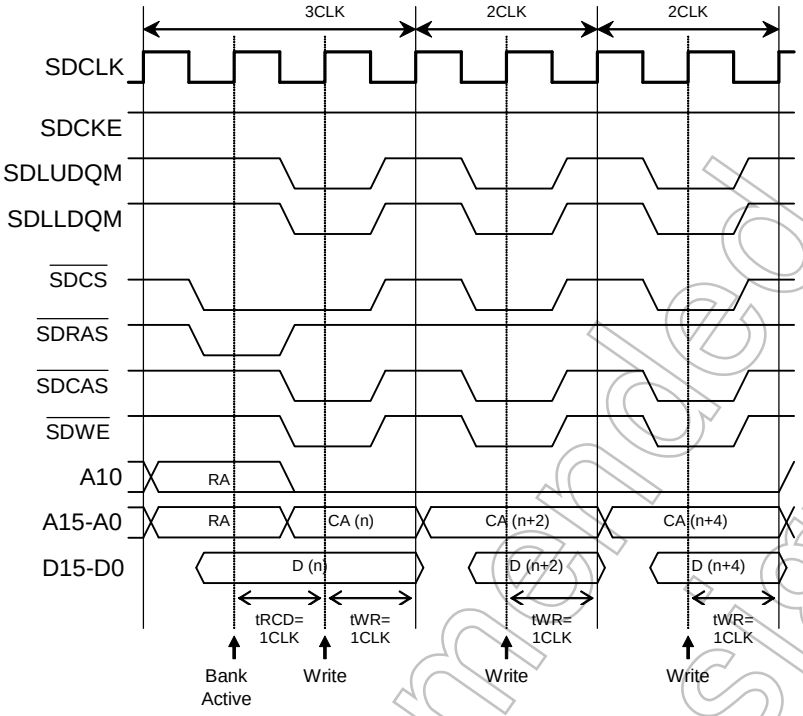


図 3.11.4 シングルライトサイクルのタイミング

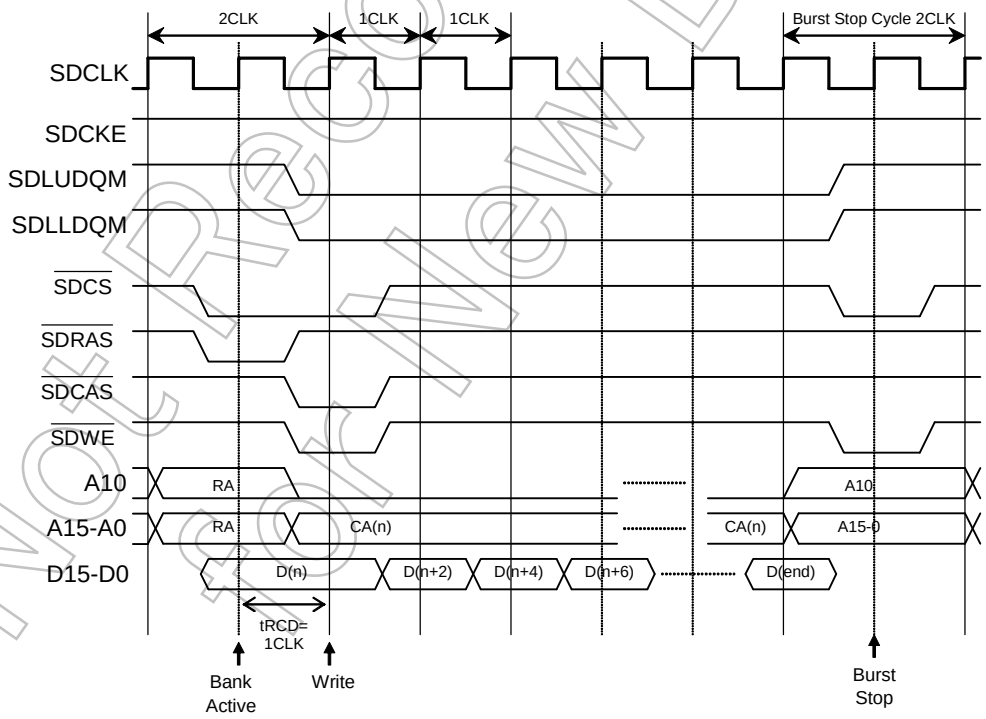


図 3.11.5 バーストライトサイクルのタイミング

Not Recommended for New Design

(2) SDRAM 上での命令実行

CPU は SDRAM に格納された命令を実行することが可能です。しかし、以下の機能は動作することができません。

a) HALT 命令の実行

b) クロックギア設定の変更禁止 (変更による A.C 未達を懸念)

c) SDACR、SDCMM、SDCISR レジスタ設定の変更禁止

上記の動作が必要とされる場合、内蔵 RAM 等の他のメモリに分岐して実行することが必要となります。

(3) コマンド間隔調整機能

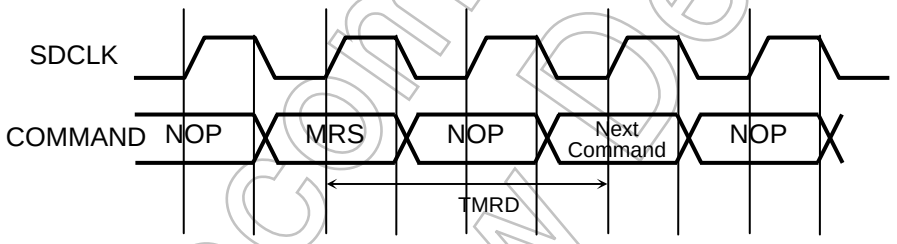
本機能により各種コマンド間隔を調整することができます。クロックギア等で動作周波数を変更した場合でも、最適なサイクルでアクセス可能となります。

設定は SDCISR レジスタにて行います。TMP92CF29A の動作周波数と SDRAM の A.C.規定に従って設定してください。

なお、SDCICR レジスタの変更は SDRAM へのアクセスが発生しない状態で行ってください。

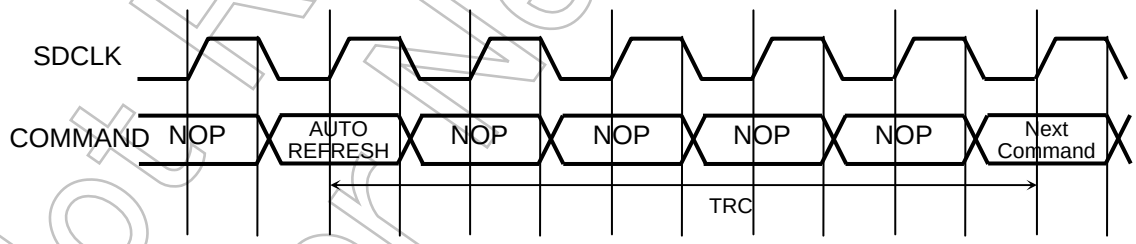
以下に各種タイミング波形を示します。

(a)モードレジスタセットコマンド



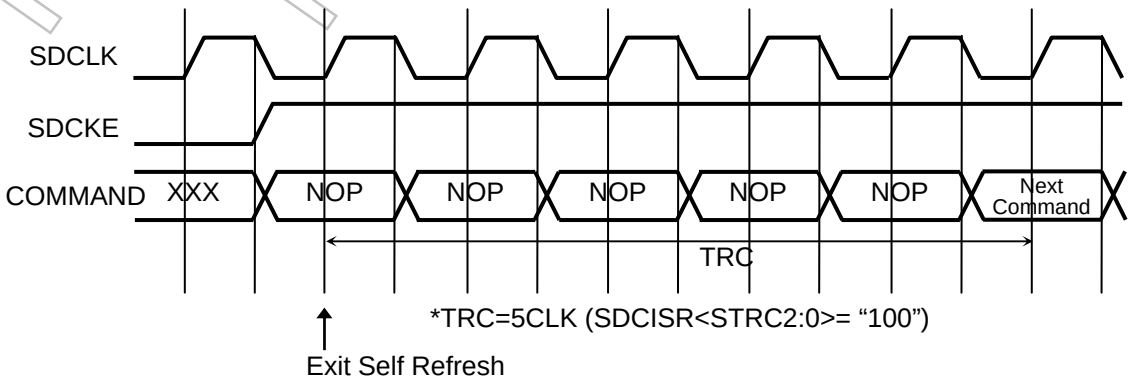
*TMRD=2CLK (SDCISR<STMRD>="1")

(b)オートリフレッシュコマンド



*TRC=5CLK (SDCISR<STRC2:0>="100")

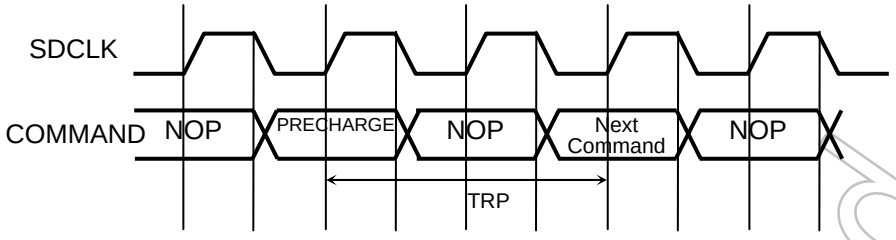
(c) セルフリフレッシュ Exit



*TRC=5CLK (SDCISR<STRC2:0>= "100")

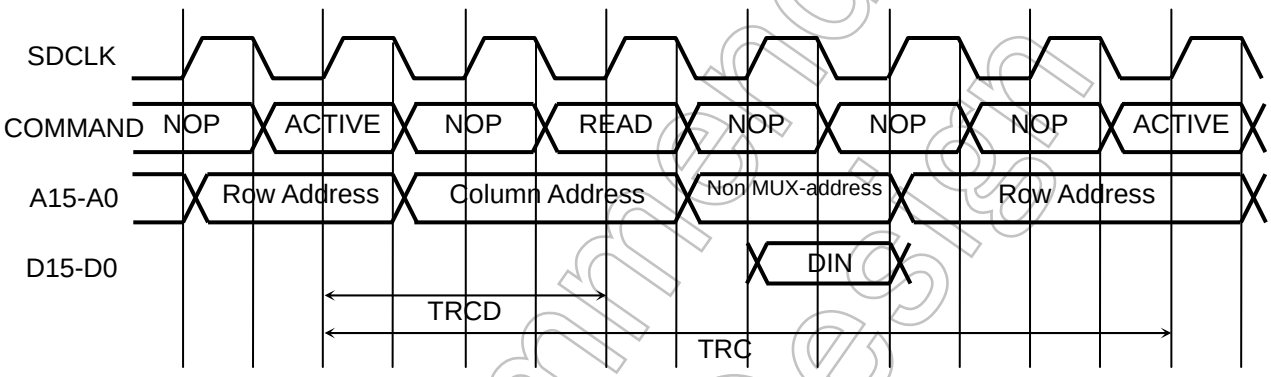
Not Recommended for New Design

(d)プリチャージコマンド



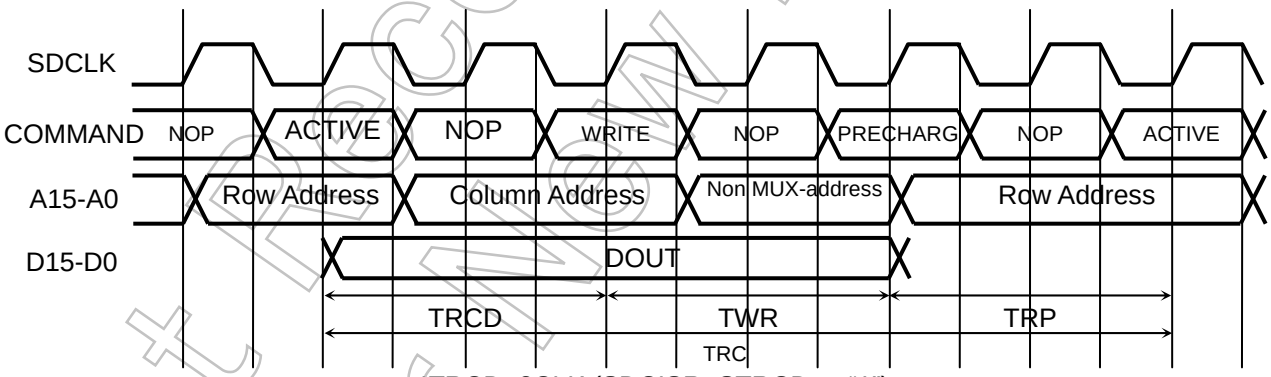
*TRP=2CLK (SDCISR<STRP>= “1”)

(e) リードサイクル



*TRCD=2CLK (SDCISR<STRCD>= “1”)
*TRC=6CLK (SDCISR<STRC2:0>= “101”)

(f) ライトサイクル



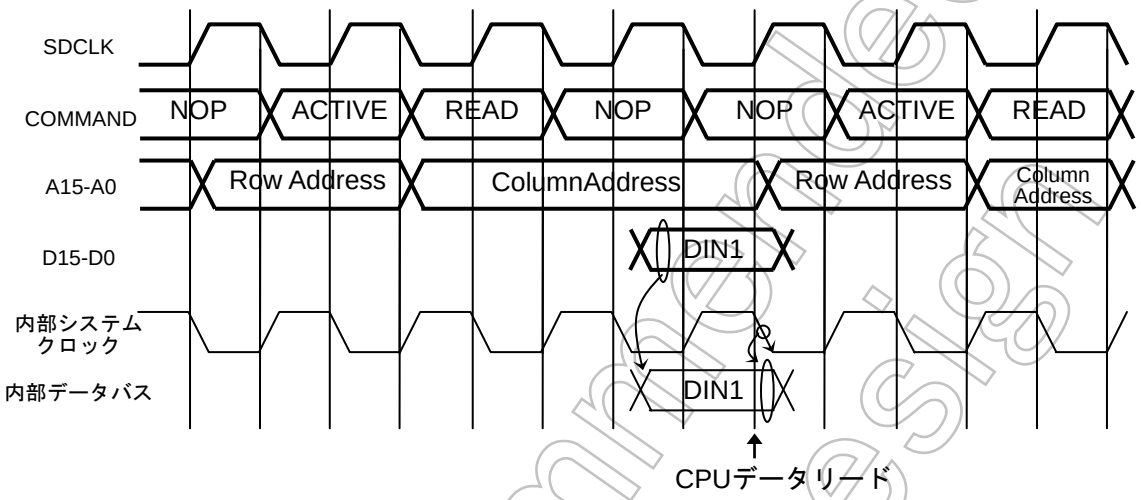
*TRCD=2CLK (SDCISR<STRCD>= “1”)
*TWR=2CLK (SDCISR<STWR>= “1”)
*TRP=2CLK (SDCISR<STRP>= “1”)
*TRC=6CLK (SDCISR<STRC2:0>= “101”)

Not Recommended for New Design

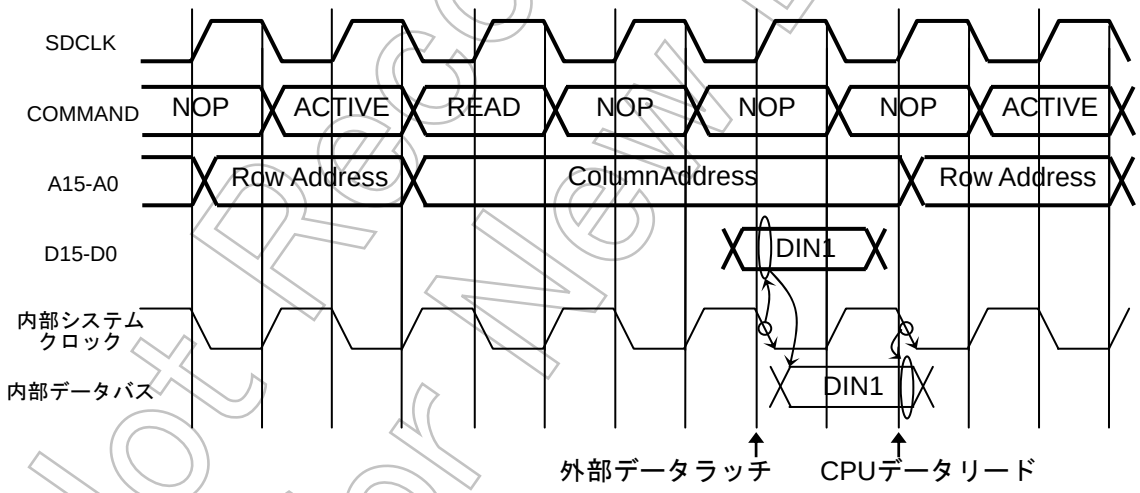
(4) リードデータシフト機能

SDRAM からのデータ入力 A.C.が満足しない場合に、リードデータをポート回路でラッチし次のステートで CPU へデータをリードさせる機能です。この機能を使用する場合、リードサイクルは 1 ステート増加します。ライトサイクルの動作には影響しません。以下にタイミング波形を示します。

(a) リードデータシフト機能ディセーブル、1 ワードリード(SDACR<SRDS> = “0”)

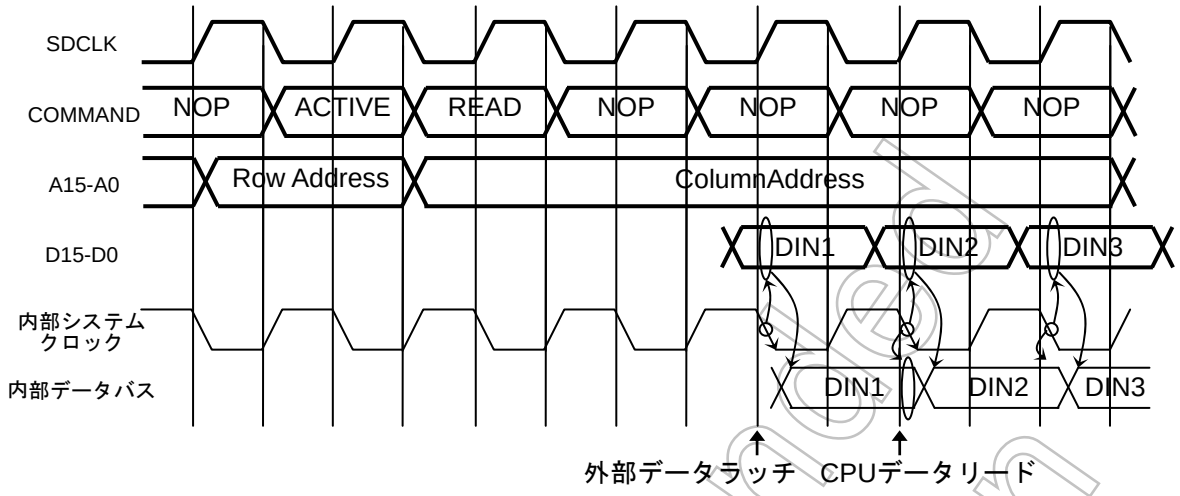


(b) リードデータシフト機能イネーブル、1 ワードリード(SDACR<SRDS> = “1”)



Not Recommended for New Design

(c) リードデータシフト機能イネーブル、フルページリード(SDACR<SRDS>= “1”)



(5) リード/ライトコマンド

1 ワードリード/シングルライトモード時に使用するリード/ライトコマンドをSDACR<SPRE>で設定可能です。

SDACR<SPRE>= “1”に設定した場合、“RD/WR With Auto Precharge”コマンドを使用します。これはアクセスサイクルごとに SDRAM 内部で自動的に Precharge が行われるため、アクセスサイクル中以外では SDRAM は常に “Bank Idle”状態になります。よって、SDRAM の消費電力を低減できますが、反面、アクセスサイクル毎に “Bank Active”コマンドが必要になるためパフォーマンスは低下します。

SDACR<SPRE>= “0”に設定した場合、 “RD/WR Without Auto Precharge”コマンドを使用します。これはアクセスサイクル毎に Precharge が行われないため、SDRAM は常に “Bank Active”状態になります。よって、SDRAM の消費電力は大きくなりますが、反面、アクセスサイクルごとに “Bank Active”コマンドは不要になるためパフォーマンスは上がります。SDRAM のページ領域を超えたアクセスが発生した場合、Auto Refresh コマンドが発生した場合は、本 SDRAM コントローラが”All Bank Precharge”コマンドを自動的に発行します。

また、本マイコンには LCD コントローラと、DMAC 機能が内蔵されていますが、LCD コントローラの表示用 RAM を SDRAM に設定し、且つ、DMAC を併用する場合に限り、SDACR<SPRE>= “0”の設定は使用出来ません。常に SDACR<SPRE>= “1”にて使用してください。

Not Recommended for New Design

(6) リフレッシュコントロール

TMP92CF29A はオートリフレッシュおよびセルフリフレッシュの 2 つのリフレッシュコマンドをサポートしています。

(a)オートリフレッシュ

オートリフレッシュコマンドは、SDRCR<SRS2:0> に設定された間隔を SDRCR<SRC>を “1”にすることで自動的に発生します。発生間隔は 47~1248 ステートの間に設定することが可能です。(0.78μs~20.8μs @ f_{SYS}=60MHz)

CPU の動作 (命令フェッチおよび実行) はオートリフレッシュコマンドを実行している間停止します。オートリフレッシュサイクルを 図 3.11.6に示します。また、オートリフレッシュ発生間隔を 表 3.11.3に示します。オートリフレッシュ機能はIDLE1 モード、STOPモードでは動作しませんので、後述するセルフリフレッシュ機能を使用してください。

注) システムリセットによりオートリフレッシュ機能は無効となります。

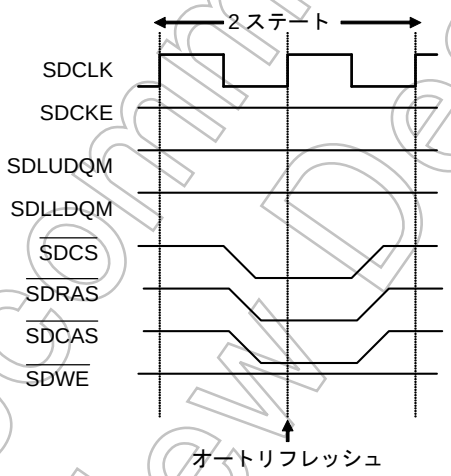


図 3.11.6 オートリフレッシュサイクルのタイミング

注 1) オートリフレッシュ間隔の設定は、以下の表を目安に設定してください。

注 2) SDRAM が要求する、リフレッシュ間隔と CPU の動作スピードに注意してください。

表 3.11.3 システムクロックとオートリフレッシュ間隔

SDRCR<SRS2:0>			挿入間隔 (ステート)	周波数 (システムクロック)MHz											
SRS2	SRS1	SRS0		1	2	3	4	6	8	10	20	30	40	60	80
				リフレッシュ間隔μs											
0	0	0	47	47.0	23.5	15.67	11.75	7.83	5.88	4.70	2.35	1.57	1.18	0.78	0.59
0	0	1	78	78.0	39.0	26.0	19.5	13.0	9.75	7.80	3.9	2.60	1.95	1.30	0.98
0	1	0	156	156.0	78.0	52.0	39.0	26.0	19.5	15.60	7.8	5.20	3.90	2.60	1.95
0	1	1	312	312.0	156.0	104.0	78.0	52.0	39.0	31.2	15.60	10.4	7.80	5.20	3.90
1	0	0	468	468.0	234.0	156.0	117.0	78.0	58.5	46.8	23.4	15.60	11.7	7.80	5.85
1	0	1	624	624.0	312.0	208.0	156.0	104.0	78.0	62.4	31.2	20.8	15.60	10.4	7.80
1	1	0	936	936.0	468.0	312.0	234.0	156.0	117.0	93.6	46.8	31.2	23.4	15.60	11.70
1	1	1	1248	1248.0	624.0	416.0	312.0	208.0	156.0	124.8	62.4	41.6	31.2	20.8	15.60

注) 網掛けの部分は、64ms 内に 4096 回リフレッシュが必要な SDRAM の場合、使用出来ない設定となります (リフレッシュ要求は、15.625μs 以下)

Not Recommended for New Design

(b)セルフリフレッシュ

セルフリフレッシュENTRYコマンドはSDCMM<SCMM2:0>を “101”にすることにより発生します。セルフリフレッシュサイクルを 図 3.11.7に示します。セルフリフレッシュへENTRYする前に、必ず、一度全バンクをプリチャージしてください。セルフリフレッシュENTRYの間、リフレッシュはSDRAM内で動作します。(オートリフレッシュコマンドは必要ありません)

注 1) システムリセットによりスタンバイモードが解除された場合は I/O レジスタは初期化され、セルフリフレッシュ状態から Exit されます。また、オートリフレッシュ機能も無効になっていますので注意してください。

注 2) セルフリフレッシュ ENTRY 中は SDRAM にアクセスすることはできません。

注 3) セルフリフレッシュ ENTRY コマンド後に HALT 命令を実行する場合は、SDCMM<SCMM2:0>を”101”に設定する命令と HALT 命令間に 10 バイト以上の NOP あるいはほかの命令を実行してください。

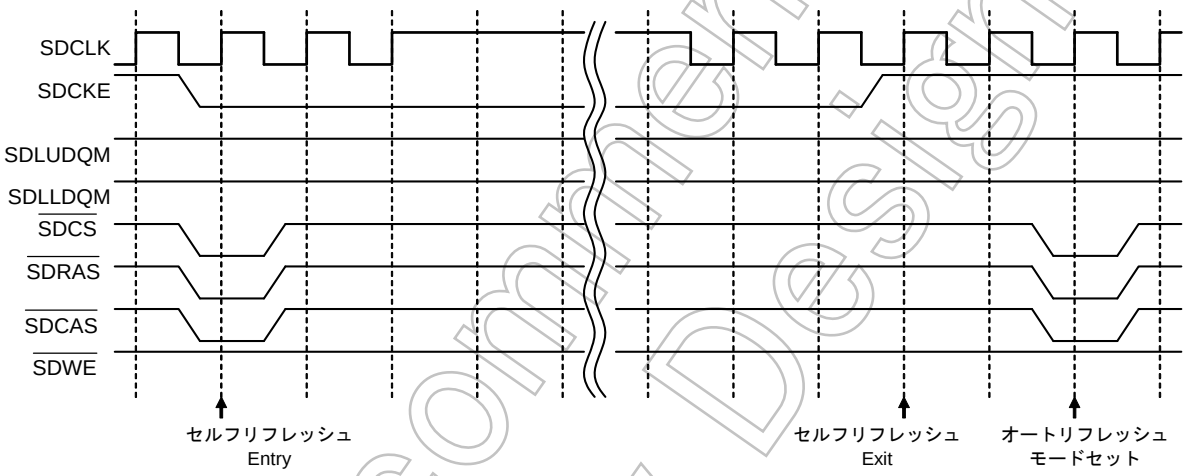


図 3.11.7 セルフリフレッシュサイクルのタイミング

設定例)

```
org   0x2000          ;  Internal RAM
ld    (sdcmm),0x02    ;  All Bank Precharge Command
ld    (sdcmm),0x05    ;  Self Refresh Entry Command
NOP×10                ;  Setup time
halt                  ;
```

Not Recommended for New Design

セルフリフレッシュ状態は、セルフリフレッシュ EXIT コマンドを実行することにより解除できます。セルフリフレッシュ EXIT コマンドの実行は、SDCMM<SCMM2:0>に “110”をライトする方法と、HALT 状態解除に同期して自動的に EXIT する方法の 2 通りがあります。いずれの場合もセルフリフレッシュ EXIT 直後に 1 回のオートリフレッシュを実行し、その後は設定された条件でオートリフレッシュを実行します。セルフリフレッシュ EXIT した場合、<SCMM2:0>は “000”にクリアされます。

SDRAM リフレッシュコントロールレジスタ

SDRCR (0252H)	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	–			SSAE	SRS2	SRS1	SRS0	SRC
Read/Write	R/W			R/W				
リセット後	0			1	0	0	0	0
機能	“0”をライトしてください			セルフリフレッシュオート Exit 機能 0:Disable 1:Enable	リフレッシュ間隔 000: 47state 100: 468state 001: 78state 101: 624state 010:156state 110: 936state 011:312state 111:1248state			オートリフレッシュ 0:Disable 1:Enable

HALT 状態解除に同期した EXIT コマンドの実行は、SDRCR<SSAE>を “1”にすることで可能となります。

HALT状態解除に同期したEXITコマンドの実行は、SDRCR<SSAE>を “0”にすることにより禁止することができます。自動的にEXITさせたくない場合は禁止してください。クロックギアダウン時の動作クロック周波数低下によりSDRAMの使用条件を満たさなくなる状態でEXITする場合も禁止してください。この場合の実行フローを 図 3.11.8に示します。

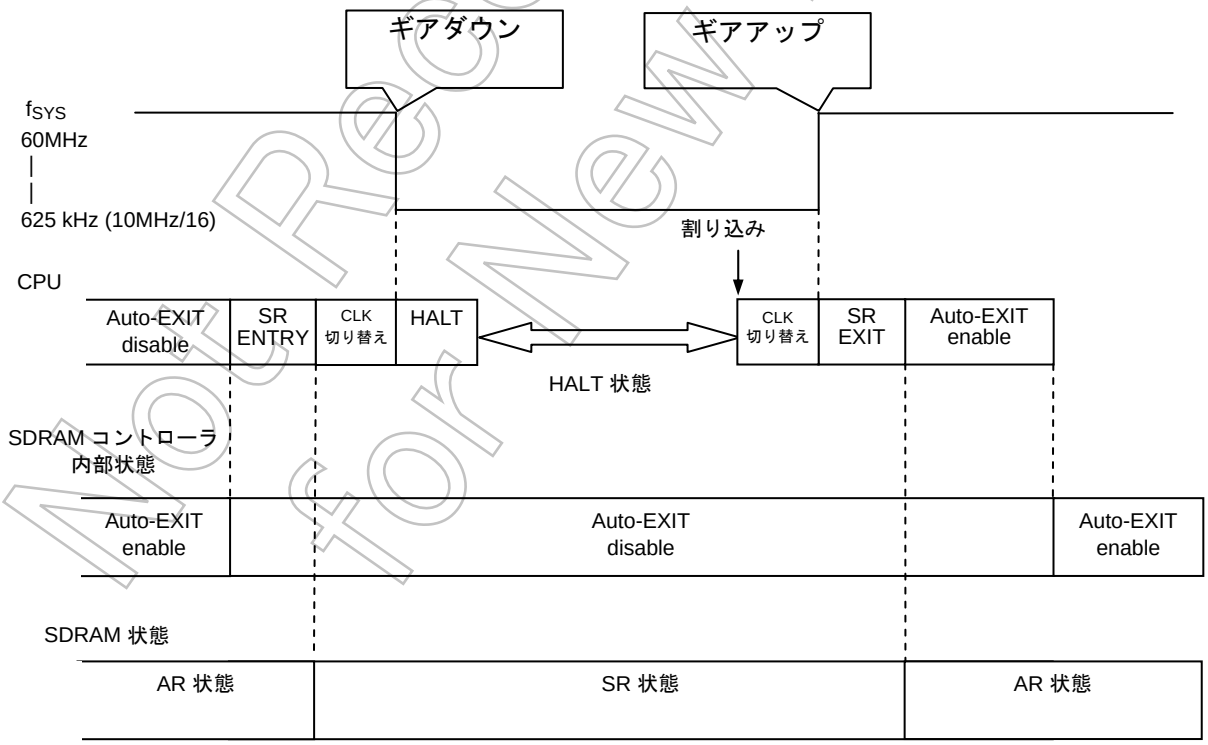


図 3.11.8 クロックギアダウンで HALT 命令実行する際の実行フロー例

Not Recommended for New Design

(7) SDRAM イニシャライズ

リセット解除後 SDRAM に必要な以下のコマンドを発行することができます。イニシャライズコマンドの内容を下記に示します。

1. オールバンクプリチャージコマンド
2. 8 回のオートリフレッシュコマンド
3. モードレジスタセットコマンド

上記コマンドは、SDCMM<SCMM2:0>を “001”にすることにより発行します。

このコマンドを発行中、CPU の動作(命令フェッチ，実行)は停止します。

また、イニシャライズコマンドを発行する前に、SDRAM コントロール信号とアドレス信号(A0~A15)としてのポートの設定が必要となります。

イニシャライズコマンドが終了した後、SDCMM<SCMM2:0>は自動的に “000”にクリアされます。

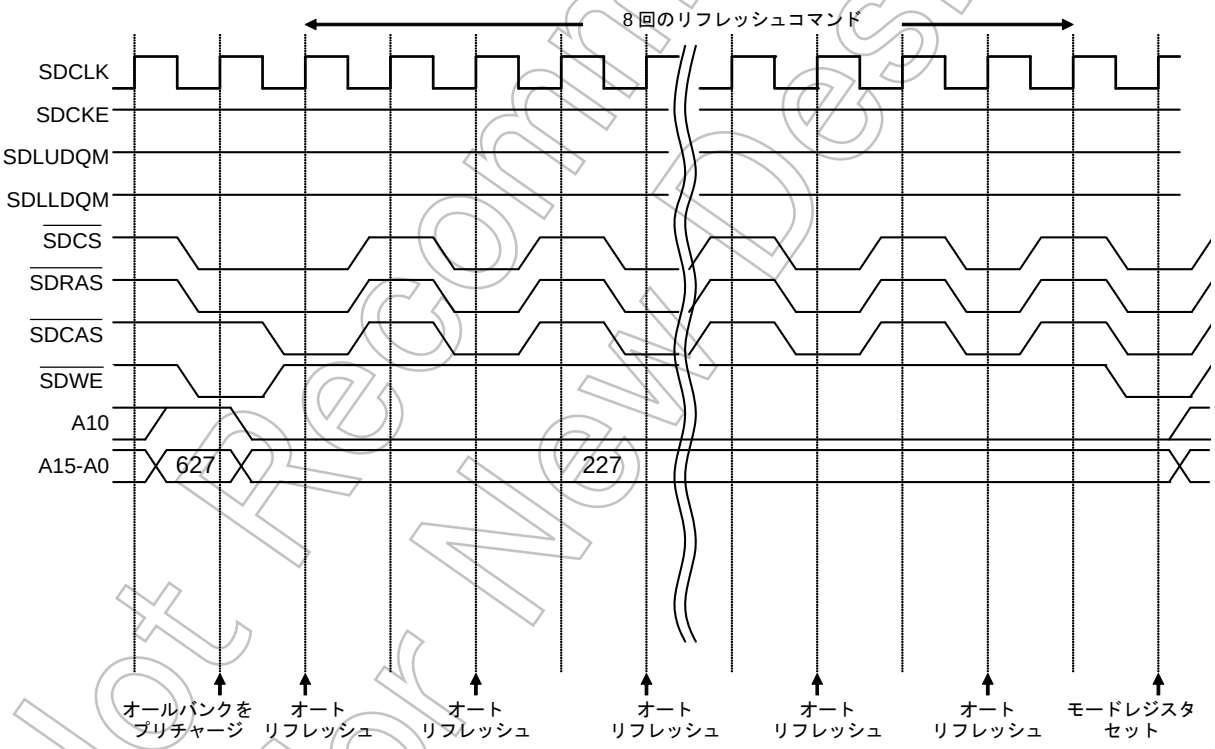


図 3.11.9　イニシャライズコマンドのタイミング

Not Recommended for New Design

(8) 接続例

SDRAMとの接続例を 図 3.11.10 に示します。

表 3.11.4 SDRAM との接続

92CF29A ピン名称	SDRAM ピン名称				
	データバス幅 16bit				
	16M	64M	128M	256M	512M
A0	A0	A0	A0	A0	A0
A1	A1	A1	A1	A1	A1
A2	A2	A2	A2	A2	A2
A3	A3	A3	A3	A3	A3
A4	A4	A4	A4	A4	A4
A5	A5	A5	A5	A5	A5
A6	A6	A6	A6	A6	A6
A7	A7	A7	A7	A7	A7
A8	A8	A8	A8	A8	A8
A9	A9	A9	A9	A9	A9
A10	A10	A10	A10	A10	A10
A11	BS	A11	A11	A11	A11
A12	–	BS0	BS0	A12	A12
A13	–	BS1	BS1	BS0	BS0
A14	–	–	–	BS1	BS1
A15	–	–	–	–	–
$\overline{\text{SDCS}}$	CS	CS	CS	CS	CS
SDLUDQM	UDQM	UDQM	UDQM	UDQM	UDQM
SDLLDQM	LDQM	LDQM	LDQM	LDQM	LDQM
$\overline{\text{SDRAS}}$	RAS	RAS	RAS	RAS	RAS
$\overline{\text{SDCAS}}$	CAS	CAS	CAS	CAS	CAS
$\overline{\text{SDWE}}$	WE	WE	WE	WE	WE
SDCKE	CKE	CKE	CKE	CKE	CKE
SDCLK	CLK	CLK	CLK	CLK	CLK
SDACR <SMUXW>	00: TypeA	00: TypeA	01: TypeB	01: TypeB	10: TypeC

: Command address pin of SDRAM

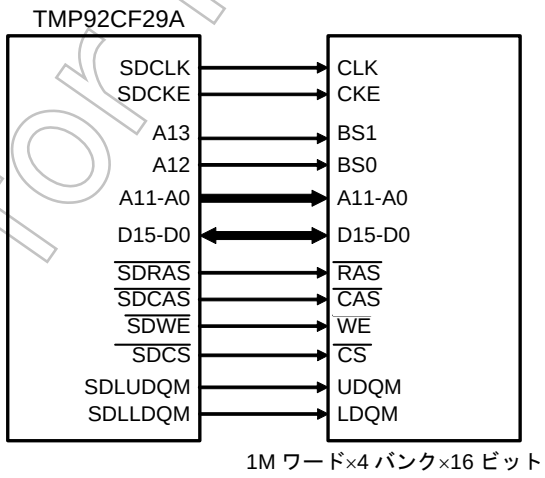


図 3.11.10 SDRAM との接続例 (1M ワード × 4 バンク × 16 ビット)

Not Recommended for New Design

3.11.3 HDMAを使用した転送時間の計算例

HDMA を使用し、SDRAM を転送デバイスとした場合の転送時間計算例を以下に示します。

- SDRAM から内蔵 SRAM への転送

条件 1：システムクロック(f_{SYS})：60MHz

SDRAM リードサイクル：フルページ(5-1-1-1) 16bit データバス

SDRAM Auto Refresh 間隔：936state(15.6μs)

内蔵 RAM ライトサイクル：ライト 1state 32bit データバス

転送バイト数：512Byte

計算例：

転送時間 = (SDRAM リード時間+SRAM ライト時間)×転送回数
+ (SDRAM バーストスタート+ストップ時間)
+ (プリチャージ時間+Auto Refresh 時間)×Auto Refresh 回数

(a) リード／ライト時間

(SDRAM リード 1state×2 + 内蔵 RAM ライト 1state)×512Byte/4Byte
= 384state×1/60MHz
= 6.4μs

(b) バーストスタート/ストップ時間

スタート(TRCD:2CLK) 5state+ストップ 2state
= 7state/60MHz
= 0.117μs

(c) Auto Refresh 時間

(a)が 384state であるため 0~1 回発生するが、ここでは 1 回発生するものとする。

(プリチャージ(TRP:2CLK) 2state+AREF(TRC:5CLK) 5state) ×AREF 1 回
= 7state×1/60MHz
= 0.117μs

転送総時間 = (a) + (b) + (c)
= 6.4μs + 0.117μs + 0.117μs
= 6.634μs

Not Recommended for New Design

3.11.4 SDRAM使用時の注意点

SDRAM コントローラを使用する上でいくつかの注意点があります。
下記項目をよく確認いただき、誤った使用をしないようにご注意願います。

1) WAIT アクセス

SDRAM を使用する際は、SDRAM 以外のメモリアクセスに一部条件が追加されます。

メモリコントローラが持つ外部 WAIT 端子入力設定において、SDRAM コントローラが制御するオートリフレッシュ機能のリフレッシュ間隔×8190 を超える時間を外部 WAIT として挿入することはできません。外部 WAIT はオートリフレッシュ間隔 × 8190 以下の時間にしてください。

2) HALT 命令前の SDRAM SR(セルフリフレッシュ)-Entry、Initialize、All Bank Precharge コマンド発行

SDRAM コントローラの持つコマンド (SR-Entry、Initialize、All Bank Precharge) の発行には SDCMM レジスタ設定後から数ステートの実行時間が必要です。

よって、その後に HALT 命令を実行する場合は、HALT 命令との間に 10 バイト以上の NOP 命令,あるいは他の命令を実行してください。

3) AR(オートリフレッシュ)間隔の設定

SDRAM 使用においては、使用する SDRAM の最低動作周波数、最低リフレッシュ間隔を満たすようなシステムクロック周波数を設定することが必要です。

SDRAM を使用し、且つクロックギアをアップ/ダウンさせることがあるシステムでは、SDRAM の AR 間隔に注意してください。

なお、AR 間隔を変更時は SDRCR<SRC>に “0”をライトし AR を禁止にした状態で変更してください。

4) SFR の設定変更

SDACR<SPRE>,SDCISR レジスタの設定を変更する場合は、SDRAM コントローラを禁止 (SDACR<SMAC> =“0”)してから変更してください。

5) SDRAM コントローラの禁止

SDRAM コントローラを禁止する場合は、下記の手順で設定してください。

```
        LD    (SDCMM),0x02    ;  All Bank Precharge コマンドを発行
LOOP:   LD    A,(SDCMM)       ;  SDCMM レジスタのリード
        CP    A,0x00          ;  All Bank Precharge コマンドが終了するまでポーリング
        JP    NZ,LOOP         ;
        LD    (SDACR),0x00    ;  SDRAM コントローラを停止
```

6) DMAC 機能、LCDC 機能との併用

本マイコンには LCD コントローラと、DMAC 機能が内蔵されていますが、LCD コントローラの表示用 RAM を SDRAM に設定し、且つ、DMAC を併用する場合に限り、SDACR<SPRE>= “0”の設定は使用出来ません。常に SDACR<SPRE>= “1”にて使用してください。

Not Recommended for New Design

3.12 NAND_Flashコントローラ

3.12.1 特長

NAND-Flash コントローラ (NDFC)は NAND-Flash メモリへの専用接続端子を備えています。

また、エラー訂正に必要な ECC 計算機能を備えています。SLC(Single Level Cell)タイプの NAND-Flash メモリに対応した、1-bit/256byte のエラー検知が可能な Hamming Code ECC 計算機能と、MLC(Multi Level Cell)タイプの NAND-Flash メモリに対応した、4-address/518byte のエラー検知が可能な、Reed Solomon ECC 計算機能もサポートしています。

チャネル 0 とチャネル 1 の計 2 チャネルの NAND-Flash コントローラを内蔵していますが、チップイネーブル以外の端子は兼用端子となっています。ここではチャネル 0 のみの動作を説明します。

NAND-Flash コントローラには以下の特長があります。

(1) レジスタによる NAND-Flash メモリインターフェースの制御
(2) 8/16 ビット幅の NAND-Flash メモリに対応
(3) 512 バイト/2048 バイトのページサイズに対応
(4) 256KB 以上の大容量ブロックサイズに対応
(5) Hamming Code ECC 生成回路を内蔵 (SLC タイプ用)
(6) Reed Solomon 符号化・複合化による、4-address(4-byte)のエラー検出回路を内蔵 (MLC タイプ用)

注 1) NAND-Flash の $\overline{WP}$ (Write Protect) 端子については、サポートしていません。必要な場合は、外部で準備してください。

注 2) 2 チャネルの同時アクセスはできません。切り替えて使用してください。

Not Recommended for New Design

3.12.2 ブロック図

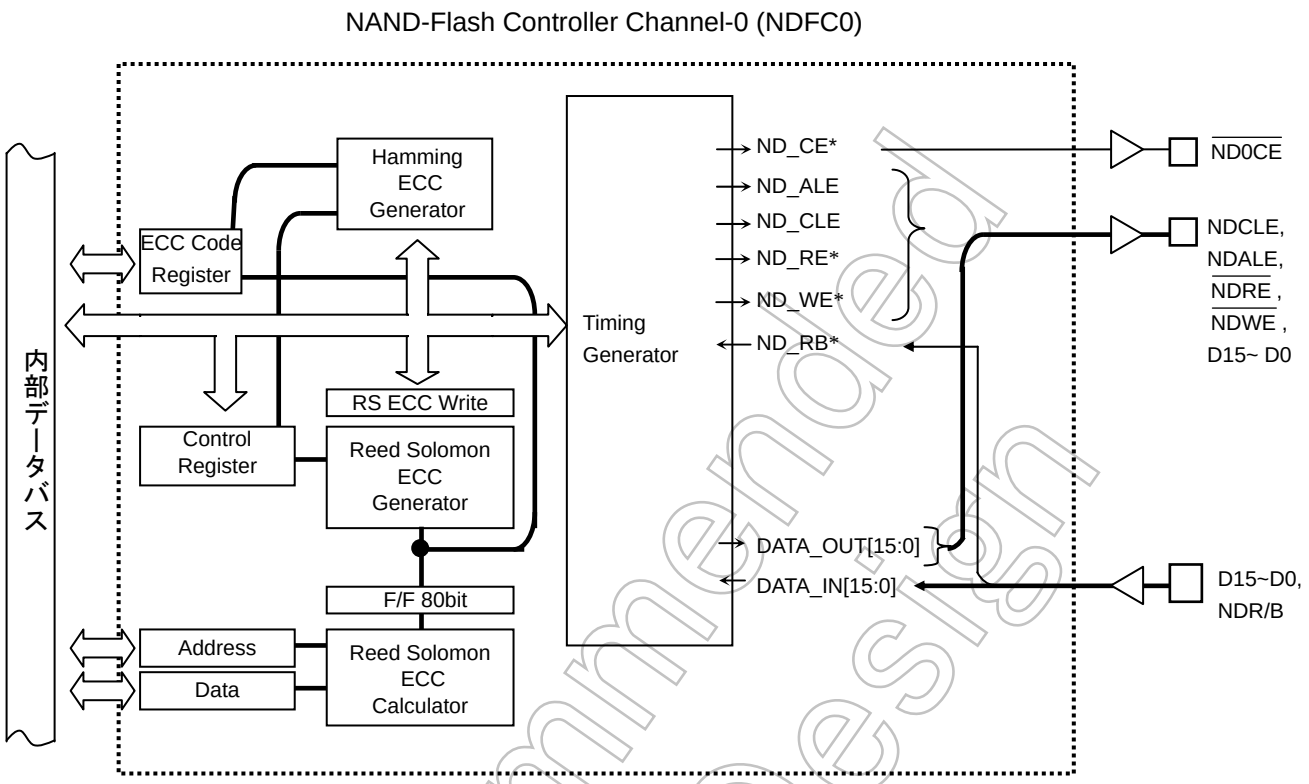


図 3.12.1 NAND Flash コントローラブロック図

Not Recommended for New Design

3.12.3 動作説明

3.12.3.1 NAND-Flashメモリへのアクセス

本制御回路では NAND-Flash メモリに対し、コントローラ内部のレジスタを経由して間接的にデータアクセスを行います。ここでは NAND-Flash メモリにアクセスするための動作を説明いたします。

NAND-Flash メモリへのコマンドを生成する専用のシーケンサは準備されていませんので、NDCLE、NDALE、$\overline{\text{NDCE}}$ 端子の制御は、全て S/W にて“H/L”の切り替えが必要です。

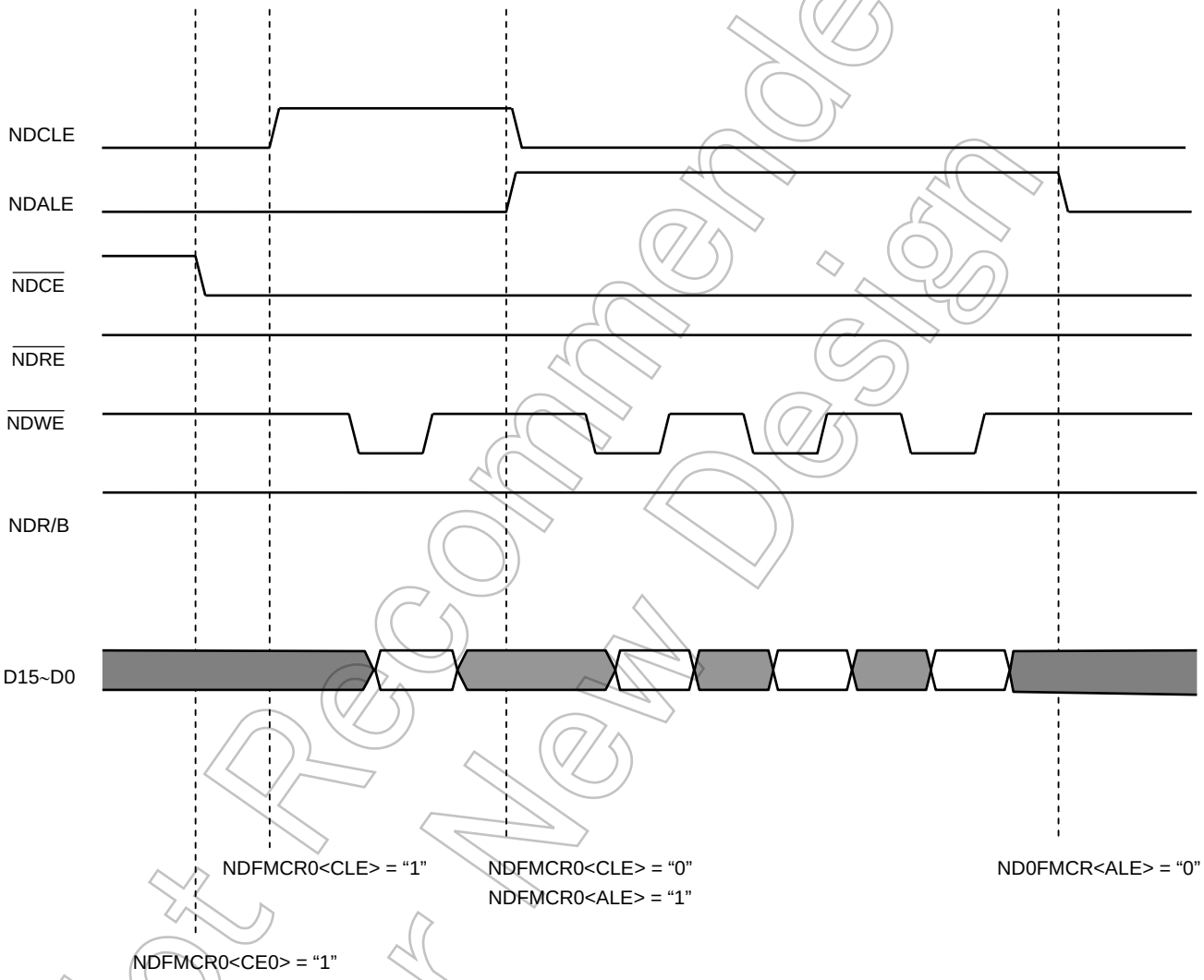


図 3.12.2 NAND-Flash への基本アクセス

Not Recommended for New Design

次に $\overline{\text{NDRE}}$ 、$\overline{\text{NDWE}}$ 信号の制御です。

ND0FDTR レジスタに対して、リード/ライトの動作を行います。実際のリード動作は ND0FDTR レジスタからのリードではなく、外部の NAND-Flash メモリのリード動作が終了した後に終了し、同様にライト動作も ND0FDTR レジスタへのライトではなく外部の NAND-Flash へのライトが終了した後で、ライト終了となります。

この時、$\overline{\text{NDRE}}$ と $\overline{\text{NDWE}}$ の Low 幅と High 幅の調整が可能です。CPU の動作スピード(f_{SYS})と NAND-Flash メモリのアクセスタイムにあわせて調整してください(詳細は電気的特性を参照ください)。

下記の例は、NDFMCR0<SPLW1:0>= 2、NDFMCR0<SPHW1:0> = 2 に設定し 6clk アクセスにした例です(ライト時にはデータのドライブ時間も延びます)。

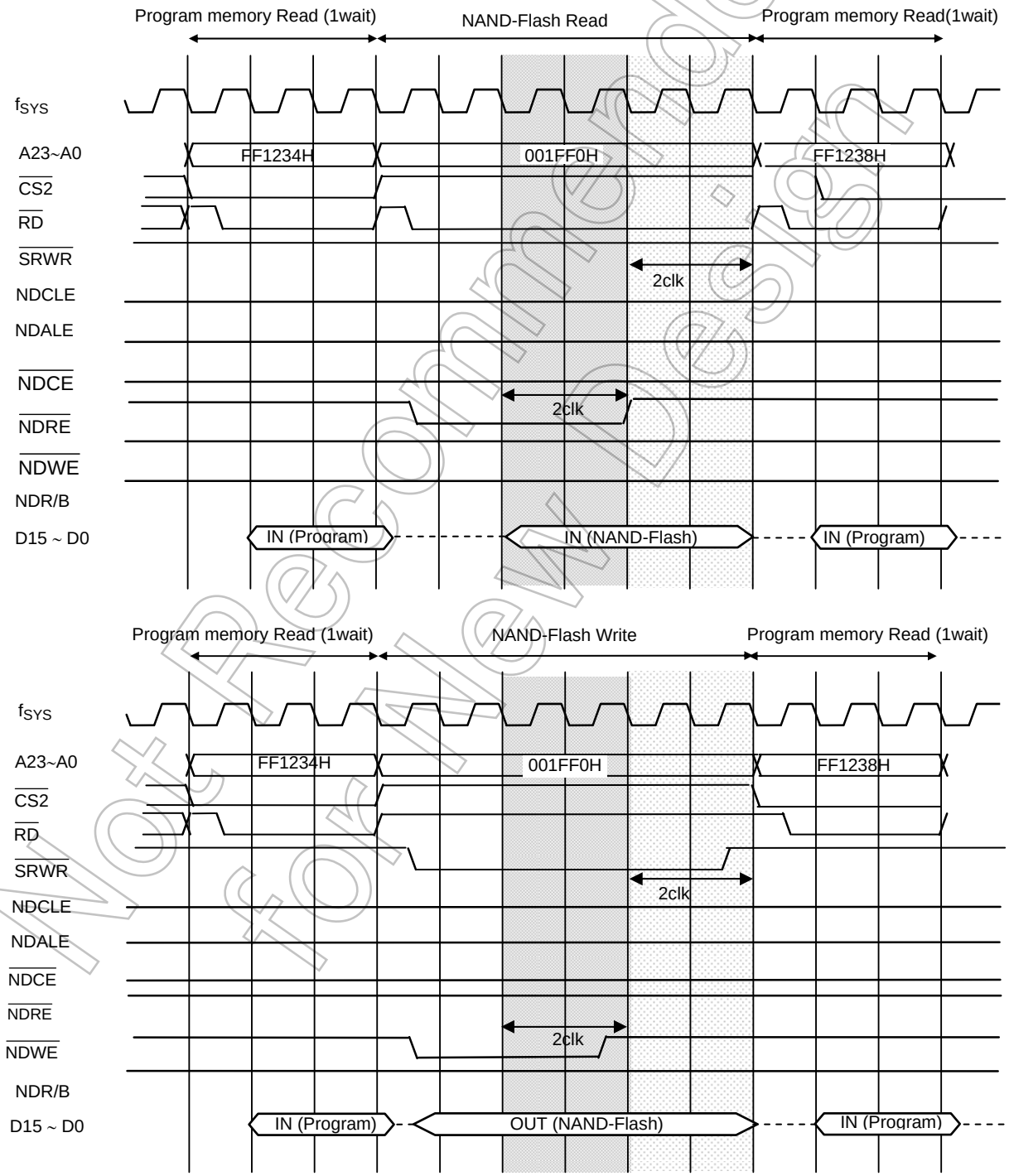


図 3.12.3　NAND-Flash へのリード/ライトアクセス

Not Recommended for New Design

3.12.4 ECC 制御

ここでは、ECC の制御に関する説明をいたします。NAND-Flash メモリでは、その特性上メモリ内にエラービットが含まれる可能性があります。そこで、ECC(Error Correction Code)を利用して、エラー訂正処理が必要です。

下記のフローは、ECC 制御の基本的な流れを示すフローチャートです。

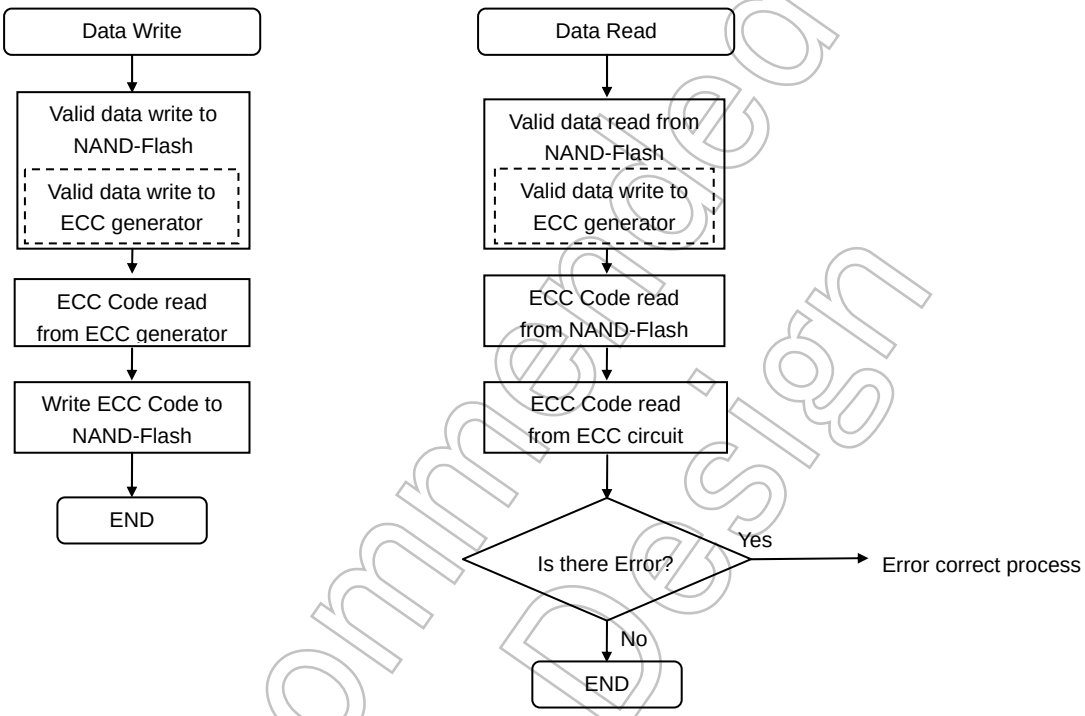


図 3.12.4 ECC 制御基本フロー

ライト時：

1. NAND-Flash メモリにデータライトする時は、実際の NAND-Flash メモリへライトするのと同時に、本回路内の ECC generator がライトしたデータの ECC を生成します。
2. 有効なデータとは別に、ECC を NAND-Flash メモリの冗長エリアにライトします。

リード時：

1. NAND-Flash メモリからリードする時は、ライト時と同様に、データのリードと同時に本回路内の ECC generator が ECC を発生させます。
2. NAND-Flash メモリから冗長エリアにライトしておいた ECC をリードし、ライト時とリード時の ECC を使って、エラービットを算出し、訂正を行います。

Not Recommended for New Design

3.12.4.1 ハミングとリードソロモンの相違点

本回路では、SLC(または 2LC: 2 値データ)および MLC(または 4LC: 現在は 4 値データのみ)に対応した、ECC 発生回路(ECC Generator)を内蔵しています。

SLC に対応したハミング ECC 計算では、有効データ 256Byte に対し、22bit の ECC を発生させ、1-bit/256byte のエラーを検知・訂正することが出来ます。エラービットの検出計算、訂正は S/W にて対応する必要があります。Smart Media を使用する場合ハミングを使用します。

MLC に対応したリードソロモン ECC 計算では、有効データ 1Byte~518Byte に対し、80bit の ECC を発生させ、4-address/518byte のエラービットを検知・訂正することが出来ます。リードソロモン ECC も、ハミングと同様にエラービットの訂正は S/W での対応が必要ですが、エラービットの検出計算は H/W がサポートします。

下記にハミングとリードソロモンの違いを表にまとめています。

表 3.12.1　ハミングとリードソロモンの相違点

	Hamming	Reed Solomon
訂正可能な 最大エラー数	1-bit	4-address (1-address = 8bit は全て訂正可能)
ECC のビット数	22 bit / 256 byte	80bit / ~518 byte
エラービットの 検出方法	S/W にて対応します。	H/W が検出します。
エラービットの 訂正方法	S/W にて対応します。	S/W にて対応します。
エラービットの 検出時間	S/W にて対応しますので、S/W の作成方法に依存します。	下記の表を参照ください。
その他	Smart Media 対応	―

エラービット数	リードソロモン・エラービット検出時間 Clock 数	備 考
4	813 (max)	検出までにかかるトータルのクロック数を表していますが、CPU がレジスタに対してリード/ライトする時間は含んでいません。
3	648 (max)	
2	358 (max)	
1	219 (max)	
0	1	

Not Recommended for New Design

3.12.4.2 エラー訂正方法

Hamming ECC

- 1 ページが 512byte の有効データの場合 44bit の ECC が発生します。エラーの訂正処理は 256byte ずつ、(ECC : 22bit 分)行う必要があります。ここでは、22bit の ECC を使って、256byte の訂正処理の方法を説明しています。
- 大容量ページ(2048byte 等)の NAND-Flash メモリの場合は、複数回にわけて対応することが必要です。

1) 計算 ECC と冗長部の ECC を、それぞれ下位 2 バイトがラインパリティ(LPR15:0)、上位 1 バイトがカラムパリティ(CPR7:2: カラムパリティの有効データは上位 6 ビット)になるように、並び替えます。
2) 各々の ECC の、排他的論理和をとり XOR データを生成します。
3) XOR データが 0 なら ECC の一致が取れているので正常終了(エラーなし)。0 以外の場合、データ補正可能なエラーなのかをチェックします。
4) XOR データ内に ON ビットが 2 ビット以上無ければ、ECC 自体の 1 ビット異常と認識し、終了します(訂正不可)。
5) XOR データ内の有効データ、bit0 から bit21 までの 2 ビットずつのデータが 01B または 10B のいずれかになっていればデータ補正可能なエラーと判定し、データ補正に移行。00B または 11B が存在するならデータ補正不可能なエラーと判定し、異常終了します。

	訂正可能な XOR データ例	訂正不可能な XOR データ例
2 進数	10 01 10 00 カラムパリティ 10 10 01 10 ラインパリティ 01 01 10 10	10 11 10 00 カラムパリティ 10 10 01 10 ラインパリティ 01 01 10 10

6) データ補正は、XOR データのラインパリティからエラーのあった行情報、カラムパリティからビット情報を作成し、その 1 ビットを反転して終了します。

例) XOR データが 10011010100110010110 10 の場合

2 バイトのラインパリティを 1 バイトに変換する。(10→1、01→0)
6 ビットのカラムパリティを 3 ビットに変換する。(10→1、01→0)

ラインパリティ： 10 10 01 10 01 01 10 10
⇩ ⇩ ⇩ ⇩ ⇩ ⇩ ⇩ ⇩
1 1 0 1 0 0 1 1 = D3H ・D3/FF H にエラー

カラムパリティ： 10 01 10
⇩ ⇩ ⇩
1 0 1 = 5 ・bit5 にエラー

212 番地のビット 5 のデータを反転し、訂正終了。

Not Recommended for New Design

Reed-Solomon ECC

- 本回路では、518byte までの有効データに対し 80bit の ECC を発生します。大容量ページ(2048byte 等)の NAND-Flash メモリの場合は複数回にわけて対応することが必要です。
- 基本的にエラー訂正のための計算作業は必要ありません。エラー検出が正常にされていれば、エラーアドレスとエラービットを参照するのみです。ただし、エラーアドレスの変換を必要とする場合があります。下記に例を用いて説明します。

1) NDRSCAn レジスタの示すエラーアドレスが 000H~007H までの場合は、ECC 部にエラーが存在しますが、訂正の必要はありません。

(ECC 部のエラー箇所の訂正は出来ません。しかし、ECC 部にエラーが存在した場合は ECC 部エラーを含め、トータル 4symbol のエラー訂正が本製品の能力になりますので、注意が必要です)

2) NDRSCAn レジスタの示すエラーアドレスが 008H~20DH の場合は、20DH との差がエラーアドレスとなります。

(有効データを 512 バイトとして処理する場合は、エラーアドレスが 008H~207H の場合は、207H との差がエラーアドレスとなります)

例 1)NDRSCAn = 005H　NDRSCDn = 04H = 00000100B の場合

エラーアドレスが 000H~007H の範囲であるため、訂正不要。

(エラービットはビット 2 に存在しますが、訂正不要)

例 2)NDRSCAn = 083H　NDRSCDn = 81H = 10000001B の場合

20DH – 083H = 18AH 番地のビット 7 のデータとビット 0 のデータを反転し、訂正終了。

(有効データが 512 バイトの場合、207H – 083H = 184H 番地のビット 7 のデータとビット 0 のデータを反転し、訂正終了)

注) エラーアドレス(変換後のエラーアドレス) が、000H~007H と計算された場合は、冗長エリア(ECC)内にエラービットが存在することを示していますが、この場合エラー訂正は必要ありません。ReedSolomon では、冗長エリアも含め 4symbol 以内のエラー数であれば、たとえエラービットが冗長エリアの ECC であっても、正確にエラービットの算出をします。

Not Recommended for New Design

3.12.5 レジスタの説明

NAND-FLASH Control0 Register

		7	6	5	4	3	2	1	0
NDFMCR0 (08C0H)	bit Symbol	WE	ALE	CLE	CE0	CE1	ECCE	BUSY	ECCRST
	Read/Write	R/W						R	W
リードモディファイライトできません。	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	WE 許可 0: disable 1: enable	ALE 制御 0: “L” out 1: “H” out	CLE 制御 0: “L” out 1: “H” out	$\overline{CE0}$ 制御 0: “H” out 1: “L” out	$\overline{CE1}$ 制御 0: “H” out 1: “L” out	ECC 回路制御 0: Disable 1: Enable	NANDF 状態 1: BUSY 0: Ready	ECC Reset 制御 0: – 1: Reset *リードすると常に“0”になります。
		15	14	13	12	11	10	9	8
(08C1H)	bit Symbol	SPLW1	SPLW0	SPHW1	SPHW0	RSECCL	RSEDN	RSESTA	RSECGW
	Read/Write	R/W						W	R/W
リードモディファイライトできません。	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	Strobe パルス幅制御 ($\overline{NDRE}$ と $\overline{NDWE}$ の Low 幅) 挿入幅 = (f_{SYS}) × (設定値)		Strobe パルス幅制御 ($\overline{NDRE}$ と $\overline{NDWE}$ の High 幅) 挿入幅 = (f_{SYS}) × (設定値)		Reed Solomon ECC Latch 0: disable 1: enable	Reed Solomon 動作切り替え 0: encode (ライト時) 1: decode (リード時)	Reed Solomon Error Cal Start 0: – 1: Start *リードすると常に“0”になります。	Reed Solomon ECC Generator Write 制御 0: Disable 1: Enable

図 3.12.5 NAND-Flash Mode control0 register

(a) <ECCRST >

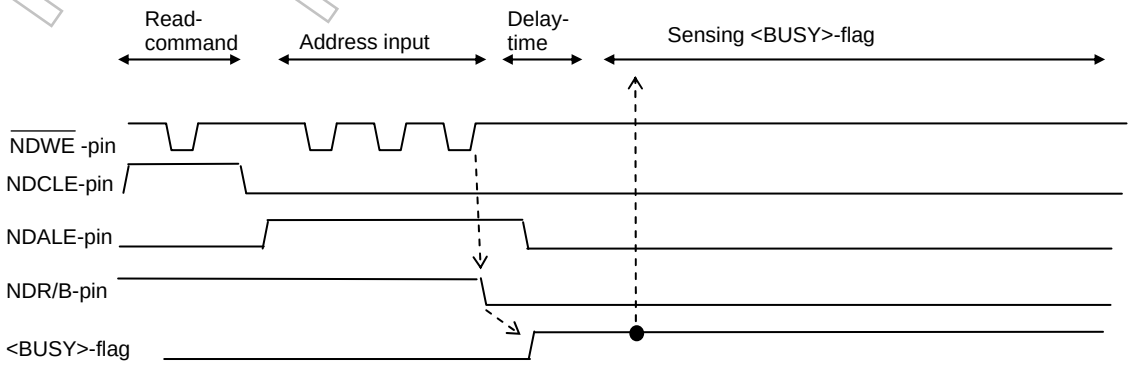
ハミング、リードソロモンともに、使用するビットです。

ハミング ECC のリセットの場合 NDFMCR1<ECCS>= “0”、リードソロモン ECC をリセットする場合 NDFMCR1<ECCS> = “1”と設定し、“1”をライトすることで、回路内の ECC をクリアします。また、同時に NDECCRDn レジスタの内容もクリアされます。

この時、NDFMCR0<ECCE> = “0”の状態ではクリアされませんので、必ず NDFMCR0<ECCE> = “1”に設定するようにしてください。

(b) <BUSY>

ハミング、リードソロモンともに、使用するビットです。NAND-Flash メモリの状態(NDR/B 端子状態)を確認するビットです。BUSY 状態の時は“1”となり、RDY 状態の時は“0”となります。数ステートのノイズフィルタを NDFC に内蔵しているため、NDR/B 端子の状態が変化した場合、同時に<BUSY>フラグは更新されません。そのため、ソフトによる遅延時間 (例 “NOP” 命令 × 10)がこのフラグのチェックを開始する前に必要となります。



Not Recommended for New Design

(c) <ECCE>

ハミング、リードソロモンともに、使用するビットです。

ECC 回路の制御を行うビットです。ECC をリセットする際(ECCRST に“1”をライトする時)には、イネーブル状態で(“1”)ある必要があります。

(d) <CE1:0>、<CLE>、<ALE>

ハミング、リードソロモンともに、使用するビットです。NAND-Flash メモリの各端子を制御するビットです。

(e) <WE>

ハミング、リードソロモンともに、使用するビットです。ライトの許可を制御します。

(f) <RSECGW>

リードソロモンの場合のみ、使用するビットです。

ハミング使用時には“0”に設定してください。

有効データ部と ECC では、本回路内部でその処理方法が異なるため、S/W で有効データ部をリードする時と、ECC をリードする時を分けて管理する必要があります。

NAND-Flash メモリから有効データをリードする時には、“0”: Disable とし、NAND-Flash の冗長エリアにライトされた ECC をリードする時には、“1”: Enable とします。

注 1) DMA 転送を利用した有効データ部と ECC の連続リードは出来ません。有効データのリードが終了した後、一旦転送を停止させ、本ビットの設定を “0”→ “1”に変更した後に ECC をリードしてください。

注 2) NAND-Flash メモリから ECC をリードした直後は、内部処理のために、システムクロック(f_{SYS})20 クロックの期間は、NAND-Flash メモリへのアクセス(リード/ライト)とエラービットの算出計算が出来ません。NOP×20 などの処理が必要です。

(g) <RSESTA>

リードソロモンの場合のみ、使用するビットです。

ライト時の ECC とリード時の ECC から生成された中間コードを使って、エラーアドレスとエラービットの箇所を計算します。“1”をライトすると、計算を開始します。

(h) <RSEDN>

リードソロモンの場合のみ、使用するビットです。

ハミング使用時には“0”に設定してください。

ライト時には ECC を発生させるために、“0”: encode を選択し、NDECCRD n からリードした ECC を NAND-Flash メモリの冗長エリアにライトします。またリード時には “1”: decode を選択し、NAND-Flash メモリから有効データをリードし、さらに NAND-Flash の冗長エリアにライトされた ECC をリードすることで、エラーアドレスとエラービットの箇所を計算させるための中間コードを発生します。

Not Recommended for New Design

(i) <RSECCL>

リードソロモンの場合のみ、使用するビットです。

ハミング使用時には“0”に設定してください。

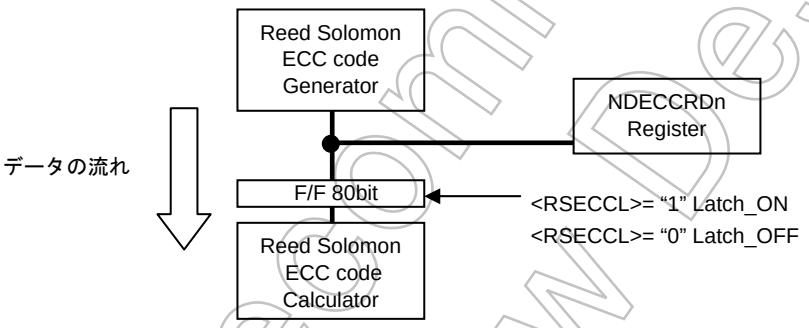
リードソロモンの回路は、2 種類の回路からなっており、ECC を発生する回路と、ECC から、エラーアドレスとエラービットを算出する回路から構成されています。

ECC の発生と、エラー算出がシリアルに行われる場合は特に問題ありませんが、ECC 発生とエラー計算を並列に行いたい場合は、エラー算出中には、エラー算出に使用する中間コードが変化しないように固定(ラッチ)しておく必要があります。

ライト時の ECC とリード時の ECC から生成された中間コードを使って、エラーアドレスとエラービットを計算しますが、その中間コードに、回路内部でラッチをかけるためのビットです。

<RSECCL>に “1”をライトすることで、中間コードにラッチがかかり、ECC 発生回路が ECC を更新させても、エラー算出回路には伝達されなくなり、エラーアドレス・エラービットを計算中も並行して、別ページの、ECC を発生させることが可能となります。この時の ECC 発生は Encode (ライト時)、Decode (リード時)共に対応可能です。

<RSECCL>に “0”をライトすると、ラッチが外れて ECC 発生回路のデータがエラー算出回路に逐次更新されます。



(j) <SPHW1:0>

ハミング、リードソロモンともに、使用するビットです。

$\overline{\text{NDRE}}$ と $\overline{\text{NDWE}}$ 信号の High 幅を設定します。設定値 × f_{SYS} の幅を High 幅に挿入できます。

(k) <SPLW1:0>

ハミング、リードソロモンともに、使用するビットです。

$\overline{\text{NDRE}}$ と $\overline{\text{NDWE}}$ 信号の Low 幅を設定します。設定値× f_{SYS} の幅を Low 幅に挿入できます。

Not Recommended for New Design

NAND-FLASH Control1 Register

		7	6	5	4	3	2	1	0
NDFMCR1 (08C2H)	bit Symbol	INTERDY	INTRSC				BUSW	ECCS	SYSCKE
	Read/Write	R/W					R/W		
	リセット後	0	0				0	0	0
	機能	Interrupt READY 0: Mask 1: Enable	Interrupt RS calc 0: Mask 1: Enable				Data bus Width 0: 8bit 1: 16bit	ECC Calculation 0: H/C 1: R/S	Clock Control 0: disable 1: enable
		15	14	13	12	11	10	9	8
(08C3H)	bit Symbol	STATE3	STATE2	STATE1	STATE0	SEER1	SEER0		
	Read/Write	R							
	リセット後	0	0	0	0	不定	不定		
	機能	Status read(下図参照)							

表 3.12.2　Reed Solomon 計算結果状態一覧表

STATE<3:0>	Note
0000	計算終了 0(Error 無し)
0001	計算終了 1(5-symbol 以上 Error 有り:訂正不可)
0010	計算終了 2(Error 有り)
0011	
0100~1111	計算中

注) <STATE3:0>の値は計算処理をスタート後、有効となります。

SEER<1:0>	Note
00	1-address Error
01	2-address Error
10	3-address Error
11	4-address Error

注) <SEER1:0>の値は、計算終了後から有効となります。

(a)　<SYSCKE>

ハミング、リードソロモンともに、使用するビットです。

本回路を使用する際には必ず“1”: Enable 状態にします。本回路を使用しない場合は”0”に設定し、消費電流を低減できます。

(b)　<ECCS>

ハミング/リードソロモンの切り替えビットです。“0”でハミング、“1”でリードソロモンの設定となります。ECC をクリアする場合にも選択する必要があります。

(c)　<BUSW>

ハミング、リードソロモンともに、使用するビットです。

アクセスする NAND-Flash メモリのバス幅を決めます。”0”で 8 ビットバス、”1”で 16 ビットバスの設定となります。メモリコントローラでの設定は不要です。

(d)　<INTRSC>

リードソロモンの場合のみ、使用するビットです。

ハミング使用時には“0”に設定してください。

エラーアドレスとエラービットの計算が終了した際に、発生する割り込みの制御ビットです。“1”で割り込み許可、“0”で割り込み禁止を設定します。

Not Recommended for New Design

(e) <INTRDY>

ハミング、リードソロモンともに、使用するビットです。

NAND-Flash メモリの NDR/B 端子の状態が Busy から Ready 状態(0→1)になった時に発生する割り込みの制御ビットです。“1”で割り込み許可、“0”で割り込み禁止を設定します。

(f) <STATE3:0>、<SEER1:0>

リードソロモンの場合のみ、使用するビットです。

ハミング使用時には、意味を持ちません。

エラーアドレスとエラービットの計算結果の状態を示すフラグです。詳細は 表 3.12.2を参照してください。

Not Recommended for New Design

NANDFC Data Register0

		7	6	5	4	3	2	1	0
NDFDTR0 (1FF0H)	bit Symbol	D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
	機能	NAND-Flash Data Register (7-0)							
		15	14	13	12	11	10	9	8
(1FF1H)	bit Symbol	D15	D14	D13	D12	D11	D10	D9	D8
	Read/Write	R/W							
	リセット後	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
	機能	NAND-Flash Data Register (15-8)							

NANDFC Data Register1

		7	6	5	4	3	2	1	0
NDFDTR1 (1FF2H)	bit Symbol	D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
	機能	NAND-Flash Data Register (7-0)							
		15	14	13	12	11	10	9	8
(1FF3H)	bit Symbol	D15	D14	D13	D12	D11	D10	D9	D8
	Read/Write	R/W							
	リセット後	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
	機能	NAND-Flash Data Register (15-8)							

注) このレジスタは R/W 可能なレジスタですが、内部に F/F は存在しません。ライト時とリード時の動作が異なるため、ライト後、リードしてもライトデータは保持されていません。

図 3.12.6 NAND-Flash データレジスタ(ND0FDTR, ND1FDTR)

NAND-Flash メモリへデータをリード・ライトする場合、NDFDTR0 レジスタをアクセスします。

このレジスタにデータをライトすると、NAND-FLASH メモリへデータがライトされ、このレジスタをリードすると NAND-FLASH からデータをリードします。チャネル 0、1 共に同一のレジスタを使用します。

DMA 動作で、4 バイト転送を利用できるようにレジスタを 4 バイト分準備しています。たとえば 32 ビットメモリの内蔵 RAM から 8 ビット幅の NAND-Flash メモリへデータを DMA 転送する場合は、デスティネーションアドレスを NDFDTR0(NDFDTR1 は設定不可)に設定し、4 バイト転送の設定が可能です。DMA での実際の動作は『4 バイトリード × 1 回 → バイトライト× 4 回(この場合下位→上位アドレスの順)』となります。

データレジスタは 4 バイト存在しますが、NAND-Flashメモリデータアクセスする際は、必ずNDFDTR0(1FF0 番地)をアクセスしてください。詳細は 表 3.12.3を参照してください。

Not Recommended for New Design

表 3.12.3　NANDFC Data Register アクセス方法

ライト時

アクセス データサイズ	命令実行例	8bit 幅 NAND-Flash	16bit 幅 NAND-Flash
1 バイトアクセス	ld (0x1FF0),a	○	×
2 バイトアクセス	ld (0x1FF0),wa	○	○
4 バイトアクセス	ld (0x1FF0),xwa	○	○

リード時

アクセス データサイズ	命令実行例	8bit 幅 NAND-Flash	16bit 幅 NAND-Flash
1 バイトアクセス	ld a,(0x1FF0)	○	×
2 バイトアクセス	ld wa,(0x1FF0)	○	○
4 バイトアクセス	ld xwa,(0x1FF0)	○	○

Not Recommended for New Design

NANDFC code ECC Register 0

		7	6	5	4	3	2	1	0
NDECCRD0 (08C4H)	bit Symbol	ECCD7	ECCD6	ECCD5	ECCD4	ECCD3	ECCD2	ECCD1	ECCD0
	Read/Write	R							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	NAND-Flash ECC code Register (7-0)							
		15	14	13	12	11	10	9	8
(08C5H)	bit Symbol	ECCD15	ECCD14	ECCD13	ECCD12	ECCD11	ECCD10	ECCD9	ECCD8
	Read/Write	R							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	NAND-Flash ECC code Register (15-8)							

NANDFC code ECC Register1

		7	6	5	4	3	2	1	0
NDECCRD1 (08C6H)	bit Symbol	ECCD7	ECCD6	ECCD5	ECCD4	ECCD3	ECCD2	ECCD1	ECCD0
	Read/Write	R							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	NAND-Flash ECC code Register (7-0)							
		15	14	13	12	11	10	9	8
(08C7H)	bit Symbol	ECCD15	ECCD14	ECCD13	ECCD12	ECCD11	ECCD10	ECCD9	ECCD8
	Read/Write	R							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	NAND-Flash ECC code Register (15-8)							

NANDFC code ECC Register2

		7	6	5	4	3	2	1	0
NDECCRD2 (08C8H)	bit Symbol	ECCD7	ECCD6	ECCD5	ECCD4	ECCD3	ECCD2	ECCD1	ECCD0
	Read/Write	R							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	NAND-Flash ECC code Register (7-0)							
		15	14	13	12	11	10	9	8
(08C9H)	bit Symbol	ECCD15	ECCD14	ECCD13	ECCD12	ECCD11	ECCD10	ECCD9	ECCD8
	Read/Write	R							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	NAND-Flash ECC code Register (15-8)							

Not Recommended for New Design

NANDFC code ECC Register3

		7	6	5	4	3	2	1	0
NDECCRD3 (08CAH)	bit Symbol	ECCD7	ECCD6	ECCD5	ECCD4	ECCD3	ECCD2	ECCD1	ECCD0
	Read/Write	R							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	NAND-Flash ECC code Register (7-0)							
		15	14	13	12	11	10	9	8
(08CBH)	bit Symbol	ECCD15	ECCD14	ECCD13	ECCD12	ECCD11	ECCD10	ECCD9	ECCD8
	Read/Write	R							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	NAND-Flash ECC code Register (15-8)							

NANDFC code ECC Register4

		7	6	5	4	3	2	1	0
NDECCRD4 (08CCH)	bit Symbol	ECCD7	ECCD6	ECCD5	ECCD4	ECCD3	ECCD2	ECCD1	ECCD0
	Read/Write	R							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	NAND-Flash ECC code Register (7-0)							
		15	14	13	12	11	10	9	8
(08CDH)	bit Symbol	ECCD15	ECCD14	ECCD13	ECCD12	ECCD11	ECCD10	ECCD9	ECCD8
	Read/Write	R							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	NAND-Flash ECC code Register (15-8)							

図 3.12.7 NAND-Flash ECC コードリードレジスタ

本回路内で計算した、ECC をリードするためのレジスタです。

有効データのリード/ライトが終了し、NDFMCR0<ECCE>に"0"をライトした時点で、本レジスタには ECC が準備されています(NDFMCR0<ECCE>が “1”から “0”に変化したときに、最新の ECC に更新されます)。

ハミングの場合、22bit/~256Byte、リードソロモンの場合 80bit/~518Byte となります。

80 ビット分のレジスタが用意されており、16 ビット幅のレジスタが 5 つの構成となっていますので、32 ビットアクセスは出来ません。16 ビットずつリードしてください。

ECC 計算終了後、ハミングの場合、NDECCRD0 レジスタに前半 256 バイト分の 16 ビットラインパリティ、NDCCRD1<ECCD7:2> の 6 ビットに前半 256 バイト分カラムパリティが格納されています。さらに NDECCRD2 レジスタには後半 256 バイト分の 16 ビットラインパリティ、NDCCRD3<ECCD7:2> の 6 ビットに後半 256 バイト分カラムパリティが格納されています。

ハミングの場合、NDECCRD4 レジスタは使用しません。

Not Recommended for New Design

リードソロモンの場合は、80 ビットの ECC が、NDECCRD0、NDECCRD1、NDECCRD2、NDECCRD3、NDECCRD4 に格納されています。

注) ECC コードをリードする場合、NDFMCR0<ECCE>を “0”にした後に ECC データをリードしてください。NDFMCR0<ECCE>が “1”から “0”に変化したときに最新の ECC に更新されます 。また、NDFMCR0<ECCRST>にて、ECC をリセットしても、ECC Generator 内部の ECC がクリアされるだけで、本レジスタの内容はリセットされません。

レジスタ名	ハミング	リードソロモン
NDECCRD0	[15:0] ラインパリティ (前半 256 バイト分)	[15:0] R/S ECC code 79:64
NDECCRD1	[7:2] カラムパリティ (前半 256 バイト分)	[15:0] R/S ECC code 63:48
NDECCRD2	[15:0] ラインパリティ (後半 256 バイト分)	[15:0] R/S ECC code 47:32
NDECCRD3	[7:2] カラムパリティ (後半 256 バイト分)	[15:0] R/S ECC code 31:16
NDECCRD4	未使用	[15:0] R/S ECC code 15:0

ECC を NAND-Flash メモリの冗長エリアにライトする例を、下記の表に示します。

ハミングの場合で、スマートメディアを利用する際は、スマートメディアの物理フォーマット仕様で冗長エリアのアドレスが規定されています。詳細はスマートメディアの物理フォーマット仕様を参照ください。

	リードソロモン	NAND-Flash アドレス
NDECCRD0	[15:0] R/S ECC code 79:64	上位 8bit [79:72]→ 518 番地 下位 8bit [71:64] → 519 番地
NDECCRD1	[15:0] R/S ECC code 63:48	上位 8bit [63:56] → 520 番地 下位 8bit [55:48] → 521 番地
NDECCRD2	[15:0] R/S ECC code 47:32	上位 8bit [47:40] → 522 番地 下位 8bit [39:32] → 523 番地
NDECCRD3	[15:0] R/S ECC code 31:16	上位 8bit [31:24] → 524 番地 下位 8bit [23:16] → 525 番地
NDECCRD4	[15:0] R/S ECC code 15:0	上位 8bit [15:8] → 526 番地 下位 8bit [7:0] → 527 番地

Not Recommended for New Design

NANDFC Reed Solomon Calculation Result Address Register

		7	6	5	4	3	2	1	0
NDRSCA0 (08D0H)	bit Symbol	RS0A7	RS0A6	RS0A5	RS0A4	RS0A3	RS0A2	RS0A1	RS0A0
	Read/Write	R							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	NAND-Flash Reed Solomon Calculation Result Address Register (7-0)							
		15	14	13	12	11	10	9	8
(08D1H)	bit Symbol							RS0A9	RS0A8
	Read/Write							R	
	リセット後							0	0
	機能							NAND-Flash Reed Solomon Calculation Result Address Register (9-8)	
		7	6	5	4	3	2	1	0
NDRSCA1 (08D4H)	bit Symbol	RS1A7	RS1A6	RS1A5	RS1A4	RS1A3	RS1A2	RS1A1	RS1A0
	Read/Write	R							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	NAND-Flash Reed Solomon Calculation Result Address Register (7-0)							
		15	14	13	12	11	10	9	8
(08D5H)	bit Symbol							RS1A9	RS1A8
	Read/Write							R	
	リセット後							0	0
	機能							NAND-Flash Reed Solomon Calculation Result Address Register (9-8)	
		7	6	5	4	3	2	1	0
NDRSCA2 (08D8H)	bit Symbol	RS2A7	RS2A6	RS2A5	RS2A4	RS2A3	RS2A2	RS2A1	RS2A0
	Read/Write	R							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	NAND-Flash Reed Solomon Calculation Result Address Register (7-0)							
		15	14	13	12	11	10	9	8
(08D9H)	bit Symbol							RS2A9	RS2A8
	Read/Write							R	
	リセット後							0	0
	機能							NAND-Flash Reed Solomon Calculation Result Address Register (9-8)	
		7	6	5	4	3	2	1	0
NDRSCA3 (08DCH)	bit Symbol	RS3A7	RS3A6	RS3A5	RS3A4	RS3A3	RS3A2	RS3A1	RS3A0
	Read/Write	R							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	NAND-Flash Reed Solomon Calculation Result Address Register (7-0)							
		15	14	13	12	11	10	9	8
(08DDH)	bit Symbol							RS3A9	RS3A8
	Read/Write							R	
	リセット後							0	0
	機能							NAND-Flash Reed Solomon Calculation Result Address Register (9-8)	

Not Recommended for New Design

図 3.12.8 NAND-Flash Reed Solomon Address3 register

エラーが 1-address のみの場合 NDRSCA0 レジスタにエラーアドレスが格納され、エラーが 2-address の場合、NDRSCA0 レジスタと NDRSCA1 レジスタにエラーアドレスが格納されます。このように、エラービットが 4-address 以内の場合に有効なエラーアドレスが格納されます。

エラーアドレスの数は、NDFMCR1<SEER1:0>を確認ください。

NANDFC Reed Solomon Calculation Result Data Register

		7	6	5	4	3	2	1	0
NDRSCD0 (08D2H)	bit Symbol	RS0D7	RS0D6	RS0D5	RS0D4	RS0D3	RS0D2	RS0D1	RS0D0
	Read/Write	R							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	NANDFC Reed Solomon Calculation Result Data Register (7-0)							
		7	6	5	4	3	2	1	0
NDRSCD1 (08D6H)	bit Symbol	RS1D7	RS1D6	RS1D5	RS1D4	RS1D3	RS1D2	RS1D1	RS1D0
	Read/Write	R							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	NANDFC Reed Solomon Calculation Result Data Register (7-0)							
		7	6	5	4	3	2	1	0
NDRSCD2 (08DAH)	bit Symbol	RS2D7	RS2D6	RS2D5	RS2D4	RS2D3	RS2D2	RS2D1	RS2D0
	Read/Write	R							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	NANDFC Reed Solomon Calculation Result Data Register (7-0)							
		7	6	5	4	3	2	1	0
NDRSCD3 (08DEH)	bit Symbol	RS3D7	RS3D6	RS3D5	RS3D4	RS3D3	RS3D2	RS3D1	RS3D0
	Read/Write	R							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	NANDFC Reed Solomon Calculation Result Data Register (7-0)							

図 3.12.9 NAND-Flash Reed Solomon Data register

エラーが 1-address のみの場合 NDRSCD0 レジスタにエラーデータが格納され、エラーが 2-address の場合、NDRSCD0 レジスタと NDRSCD1 レジスタにエラーデータが格納されます。このように、エラービットが 4-address 以内の場合に有効なエラーデータが格納されます。

エラーアドレスの数は、NDFMCR1<SEER1:0>を確認ください。

Not Recommended for New Design

3.12.6 SLCタイプNAND Flashへのアクセス例

1. 初期化

```
;
; ***** Initialize for NANDFC *****
;          condition: 8bit-bus, CE0, SLC, 512(528)Byte/Page, Hamming
;
          ld      (ndfmcr1),0001h  ; 8bit bus, Hamming ECC, SYSCK-ON
          ld      (ndfmcr0),2000h  ; SPLW1:0=0, SPHW1:0=2
```

2. ライト

有効データのライト

```
; ***** Writing valid data*****
;
          ldw     (ndfmcr0),2010h  ; CE0 enable
          ldw     (ndfmcr0),20B0h  ; WE enable, CLE enable
          ld      (ndfdtr0),80h    ; serial input command
          ldw     (ndfmcr0),20D0h  ; ALE enable
          ld      (ndfdtr0),xxh    ; Address write (3 or 4times)
          ldw     (ndfmcr0),2095h  ; Reset ECC code, ECCE enable, CE0 enable
          ld      (ndfdtr0),xxh    ; Data write (512-times)
```

ECC 発生→リード

```
; ***** ECC code Read *****
;
          ldw     (ndfmcr0),2010h  ; ECC circuit disable

          ldw     xxxx,(ndeccrd0)  ; Read ECC Code from internal circuit
;                 1'st Read:       D15-0 > LPR15:0          For first half 256byte
          ldw     xxxx,(ndeccrd1)  ; Read ECC Code from internal circuit
;                 2'nd Read:       D15-0 > FFh+CPR5:0+11b   For first half 256byte
          ldw     xxxx,(ndeccrd0)  ; Read ECC Code from internal circuit
;                 3'rd Read:       D15-0 > LPR15:0          For last half 256byte
          ldw     xxxx,(ndeccrd1)  ; Read ECC Code from internal circuit
;                 4'th Read:       D15-0 > FFh+CPR5:0+11b   For last half 256byte
```

NAND-Flash メモリへの ECC のライト

```
; ***** Writing Dummy data & ECC code*****
;
          ldw     (ndfmcr0),2090h  ; ECC circuit disable, data write mode
          ld      (ndfdtr0),xxh    ; Redundancy Area Data write (16-times)
;                 Write to D520:   LPR7:0       > D7-0   For last half 256byte
;                 Write to D521:   LPR15:8      > D7-0   For last half 256byte
;                 Write to D522:   CPR5:0+11b   > D7-0   For last half 256byte
;                 Write to D525:   LPR7:0       > D7-0   For first half 256byte
;                 Write to D526:   LPR15:8      > D7-0   For first half 256byte
;                 Write to D527:   CPR5:0+11b   > D7-0   For first half 256byte
```

Not Recommended for New Design

ページプログラムの実行

```
; ***** Set Auto Page program*****
;
        ldw     (ndfmcr0),20B0h  ; WE enable, CLE enable
        ld      (ndfdtr0),10h    ; Auto page program command
        ldw     (ndfmcr0),2010h  ; WE disable, CLE disable
;
;       Wait set up time (from Busy to Ready)
;               1. Flag polling
;               2. Interruption
;
```

ステータスのリード

```
; ***** Read Status*****
;
        ldw     (ndfmcr0),20B0h  ; WE enable, CLE enable
        ld      (ndfdtr0),70h    ; Status Read command
        ldw     (ndfmcr0),2010h  ; WE disable, CLE disable
        ld      xx,(ndfdtr0)     ; Status Read
```

Not Recommended for New Design

3. リード

有効データのリード

```
; ***** Read valid data*****
;
        ldw     (ndfmcr0),2010h   ; CE0 enable
        ldw     (ndfmcr0),20B0h   ; WE enable, CLE enable
        ld      (ndfdtr0),00h     ; Read command
        ldw     (ndfmcr0),20D0h   ; ALE enable
        ld      (ndfdtr0),xxh     ; Address write (3 or 4times)
;
;       Wait set up time (from Busy to Ready)
;               1. Flag polling
;               2. Interruption
;
        ldw     (ndfmcr0),2015h   ; Reset ECC code, ECCE enable, CE0 enable
        ld      xx,(ndfdtr0)      ; Data Read (512-times)
        ldw     (ndfmcr0),2010h   ; ECC circuit disable
        ld      xx,(ndfdtr0)      ; Redundancy Data Read (8-times)
        ld      xx,(ndfdtr0)      ; ECC Data Read (3-times)
        ld      xx,(ndfdtr0)      ; Redundancy Data Read (2-times)
        ld      xx,(ndfdtr0)      ; ECC Data Read (3-times)
```

ECC 発生→リード

```
; ***** ECC code Read *****
;
        ldw     (ndfmcr0),2010h   ; ECC circuit disable
        ldw     xxxx,(ndeccrd0)   ; Read ECC Code from internal circuit
;               1'st Read:        D15-0 > LPR15:0          For first half 256byte
        ldw     xxxx,(ndeccrd1)   ; Read ECC Code from internal circuit
;               2'nd Read:        D15-0 > FFh+CPR5:0+11b   For first half 256byte
        ldw     xxxx,(ndeccrd0)   ; Read ECC Code from internal circuit
;               3'rd Read:        D15-0 > LPR15:0          For last half 256byte
        ldw     xxxx,(ndeccrd1)   ; Read ECC Code from internal circuit
;               4'th Read:        D15-0 > FFh+CPR5:0+11b   For last half 256byte
```

ソフトウエア処理

リード時に発生したECCデータと、メモリからリードした冗長データを比較し、エラーが発生した場合には、エラールーチン処理を行い、データ補正を行います。詳細は 3.12.4.2の『エラー訂正方法』を参照ください。

Not Recommended For New Design

4. IDリード

ID リードの手順は以下の通りです。

```
ldw     (ndfmcr0),20B0h  ; WE Enable, CLE enable
ld      (ndfdtr0),90h    ; write to ID read command
ldw     (ndfmcr0),20D0h  ; ALE enable, CLE disable
ld      (ndfdtr0),00h    ; write to 00
ldw     (ndfmcr0),2010h  ; WE disable, CLE disable
ld      xx,(ndfdtr0)     ; read 1'st ID maker code
ld      xx,(ndfdtr0)     ; read 2'nd ID device code
```

Not Recommended for New Design

3.12.7 NAND Flash (MLCタイプ) へのアクセス例 (518byteを有効データとする場合)

1. 初期化

```
;
; ***** Initialize for NANDFC *****
;       condition: 16bit-bus, CE1, MLC, 2048(2112)Byte/Page, ReedSolomon
;
        ld      (ndfmcr1),0007h  ; 16bit bus, ReedSolomon ECC, SYSCK-ON
        ld      (ndfmcr0),5000h  ; SPLW1:0=1, SPHW1:0=1
```

2. ライト

有効データのライト

```
; ***** Writing valid data*****
;
        ldw     (ndfmcr0),5008h  ; CE1 enable
        ldw     (ndfmcr0),50A8h  ; WE enable, CLE enable
        ldw     (ndfdtr0),0080h  ; serial input command
        ldw     (ndfmcr0),50C8h  ; ALE enable
        ldw     (ndfdtr0),00xxh  ; Address write ( 4 or 5 times)
        ldw     (ndfmcr0),508Dh  ; Reset ECC code, ECCE enable
        ldw     (ndfdtr0),xxxxh  ; Data write (259-times/:518byte)
                                           (256-times/512byte)
```

ECC 発生→リード

```
; ***** ECC code Read *****
;
        ldw     (ndfmcr0),5008h  ; ECC circuit disable
        ldw     (ndfmcr0),50A8h  ; WE enable, CLE enable
        ldw     (ndfdtr0),0080h  ; serial input command
        ldw     (ndfmcr0),50C8h  ; ALE enable
        ldw     (ndfdtr0),00xxh  ; Address write ( 4 or 5 times)

        ldw     xxxx,(ndeccrd0)  ; Read ECC Code from internal circuit
;               Read:   D79-64
        ldw     xxxx,(ndeccrd1)  ; Read ECC Code from internal circuit
;               Read:   D63-48
        ldw     xxxx,(ndeccrd2)  ; Read ECC Code from internal circuit
;               Read:   D47-32
        ldw     xxxx,(ndeccrd3)  ; Read ECC Code from internal circuit
;               Read:   D31-16
        ldw     xxxx,(ndeccrd4)  ; Read ECC Code from internal circuit
;               Read:   D15-0
```

Not Recommended for New Design

NAND-Flash メモリへの ECC のライト

```
; ***** Writing Dummy data & ECC code*****
;
        ldw     (ndfmcr0),5088h   ; ECC circuit disable, data write mode
        ldw     (ndfdtr0),xxxxh   ; Redundancy Area Data write
;               Write to 207-206hex address:        > D79-64
        ldw     (ndfdtr1),xxxxh   ; Redundancy Area Data write
;               Write to 209-208hex address:        > D63-48
        ldw     (ndfdtr0),xxxxh   ; Redundancy Area Data write
;               Write to 20B-20Ahex address:        > D47-32
        ldw     (ndfdtr1),xxxxh   ; Redundancy Area Data write
;               Write to 20D-20Chex address:        > D31-16
        ldw     (ndfdtr0),xxxxh   ; Redundancy Area Data write
;               Write to 20F-20Ehex address:        > D15-0
;
;       2112byte 分の処理のために、ライト動作を 4 回繰り返します。
```

ページプログラムの実行

```
; ***** Set Auto Page program*****
;
        ldw     (ndfmcr0),50A8h   ; WE enable, CLE enable
        ldw     (ndfdtr0),0010h   ; Auto page program command
        ldw     (ndfmcr0),5008h   ; WE disable, CLE disable
;
;       Wait set up time (from Busy to Ready)
;               1. Flag polling
;               2. Interruption
```

注) ページサイズが 2112 バイトの場合、ECC 処理は 518 (512) バイト単位で終了しても、518(512)バイトごとのプログラミングはできません。ECC を含む 1 ページ分のデータがそろった時点でプログラミングを行います。詳細は NANDF メモリの仕様を参照してください。

ステータスのリード

```
; ***** Read Status*****
;
        ldw     (ndfmcr0),50A8h   ; WE enable, CLE enable
        ldw     (ndfdtr0),0070h   ; Status Read command
        ldw     (ndfmcr0),5008h   ; WE disable, CLE disable
        ldw     xxxx,(ndfdtr0)    ; Status Read
```

Not Recommended for New Design

3. リード(ECCデータのリードを含む)

有効データのリード

```
; ***** Read valid data*****
;
        ldw     (ndfmcr0),5008h   ; CE1 enable
        ldw     (ndfmcr0),50A8h   ; WE enable, CLE enable
        ldw     (ndfdtr0),0000h   ; Read command 1
        ldw     (ndfmcr0),50C8h   ; ALE enable
        ldw     (ndfdtr0),00xxh   ; Address write (4 or 5times)
        ldw     (ndfmcr0),50A8h   ; WE enable, CLE enable
        ldw     (ndfdtr0),0030h   ; Read command 2
;
;       Wait set up time (from Busy to Ready)
;               1. Flag polling
;               2. Interruption
;
        ldw     (ndfmcr0),540Dh   ; ECC Reset, ECC circuit enable, decode mode
        ldw     xxxx,(ndfdtr0)    ; Data Read (259-times:518byte)
                                            (256-times:512byte)
        ldw     (ndfmcr0),550Ch   ; RSECGW enable
        ldw     xxxx,(ndfdtr0)    ; Read ECC Code (5-times:80bit)
;
;       Wait set up time ( 20system clock )
;
(1) エラービット計算処理
        ldw     (ndfmcr1),0047h   ; Error bit calculation interrupt enable
        ldw     (ndfmcr0),560Ch   ; Error bit calculation circuit start
;
;       Wait set up time
;       Interrupt routine (End of calculation for Reed Solomon Error bit)
;
INT:    ldw     xxxx,(ndfmcr1)    ; Check Error status "state3:0, seer1:0"
;
;       エラーが発生した場合には、エラールーチン処理を行い、
;       データ補正を行います。詳細は 3.12.4.2の『エラー訂正方法』
;       を参照ください。
;
;       2112byte 分の処理のために、リード動作を 4 回繰り返します。
;
```

Not Recommended for New Design

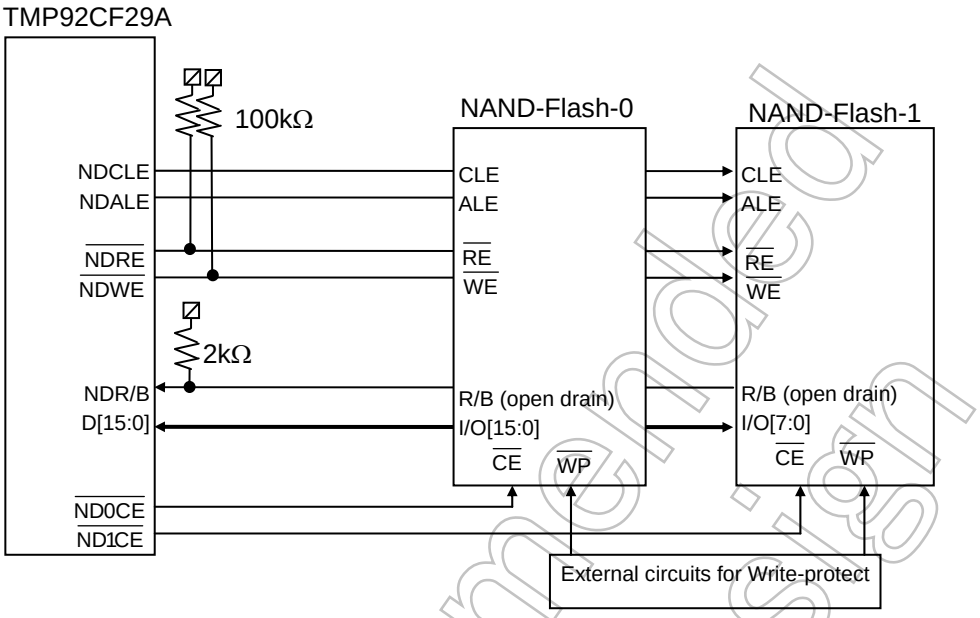
4. IDリード

ID リードの手順は以下の通りです。

```
ldw     (ndfmcr0),50A8h  ; WE enable, CLE enable
ldw     (ndfdtr0),0090h  ; write to ID read command
ldw     (ndfmcr0),50C8h  ; ALE enable, CLE disable
ldw     (ndfdtr0),0000h  ; write to 00
ldw     (ndfmcr0),5008h  ; WE disable, CLE disable
ldw     xxxx,(ndfdtr0)   ; read 1'st ID maker code
ldw     xxxx,(ndfdtr1)   ; read 2'ndID device code
```

Not Recommended for New Design

3.12.8 NAND-Flash接続例



注 1) リセットによって、NDRE と NDWE 端子は入力ポートに設定されますプルアップ抵抗が必要となります。

注 2) NDR/B 端子のプルアップ抵抗値については、使用する NAND-Flash メモリと、基板容量等によって適切な値を設定することが必要です。(標準設定例 ：2kΩ)

注 3) NAND-Flash の WP (Write Protect)端子については、サポートしていません。必要な場合、外部で準備して下さい。

図 3.12.10 NAND-Flash 接続例

Not Recommended for New Design

3.13 8 ビットタイマ(TMRA)

8 ビットタイマを 8 チャネル (TMRA0~TMRA7) 内蔵しています。

TMRA は 2 チャネルを 1 モジュールとし、4 モジュールで構成され、それぞれ TMRA01, TMRA23, TMRA45, TMRA67 と呼びます。各モジュールは次の 4 種類のモードを持っています。

- 8 ビットインタバルタイマモード
- 16 ビットインタバルタイマモード
- 8 ビットプログラマブル矩形波 (PPG: 可変周期で可変デューティ) 出力モード
- 8 ビット PWM (パルス幅変調: 固定周期で可変デューティ) 出力モード

図 3.13.1 ~図 3.13.4にTMRA01, TMRA23, TMRA45, TMRA67 のブロック図を示します。

各チャネルは主に 8 ビットアップカウンタ、8 ビットコンパレータおよび 8 ビットタイマレジスタで構成され、2 チャネルに 1 つのプリスケーラ、タイマフリップフロップで構成されています。

タイマの動作モードやタイマフリップフロップは 5 バイトのレジスタ(SFR)で制御されます。

4 つの各モジュール (TMRA01, TMRA23, TMRA45, TMRA67) は、それぞれ独立に動作します。いずれのモジュールも 表 3.13.1 に示される仕様相違点を除いて同一の動作をしますので、TMRA01 の場合についてのみ説明します。

表 3.13.1 TMRA のモジュール別仕様相違点

仕様 ＼ モジュール		TMRA01	TMRA23	TMRA45	TMRA67
外部端子	外部クロック入力端子	TA0IN (PC1 と兼用)	TA2IN (PC3 と兼用)	低周波クロック 32kHz	低周波クロック 32kHz
	タイマフリップフロップ出力端子	TA1OUT (PM1 と兼用)	–	–	TA7OUT (PP3 と兼用)
SFR 名 (アドレス)	タイマ RUN レジスタ	TA01RUN (1100H)	TA23RUN (1108H)	TA45RUN (1110H)	TA67RUN (1118H)
	タイマレジスタ	TA0REG (1102H) TA1REG (1103H)	TA2REG (110AH) TA3REG (110BH)	TA4REG (1112H) TA5REG (1113H)	TA6REG (111AH) TA7REG (111BH)
	タイマモードレジスタ	TA01MOD (1104H)	TA23MOD (110CH)	TA45MOD (1114H)	TA67MOD (111CH)
	タイマフリップフロップコントロールレジスタ	TA1FFCR (1105H)	TA3FFCR (110DH)	–	TA7FFCR (111DH)

Not Recommended for New Design

3.13.1 モジュール別のブロック図

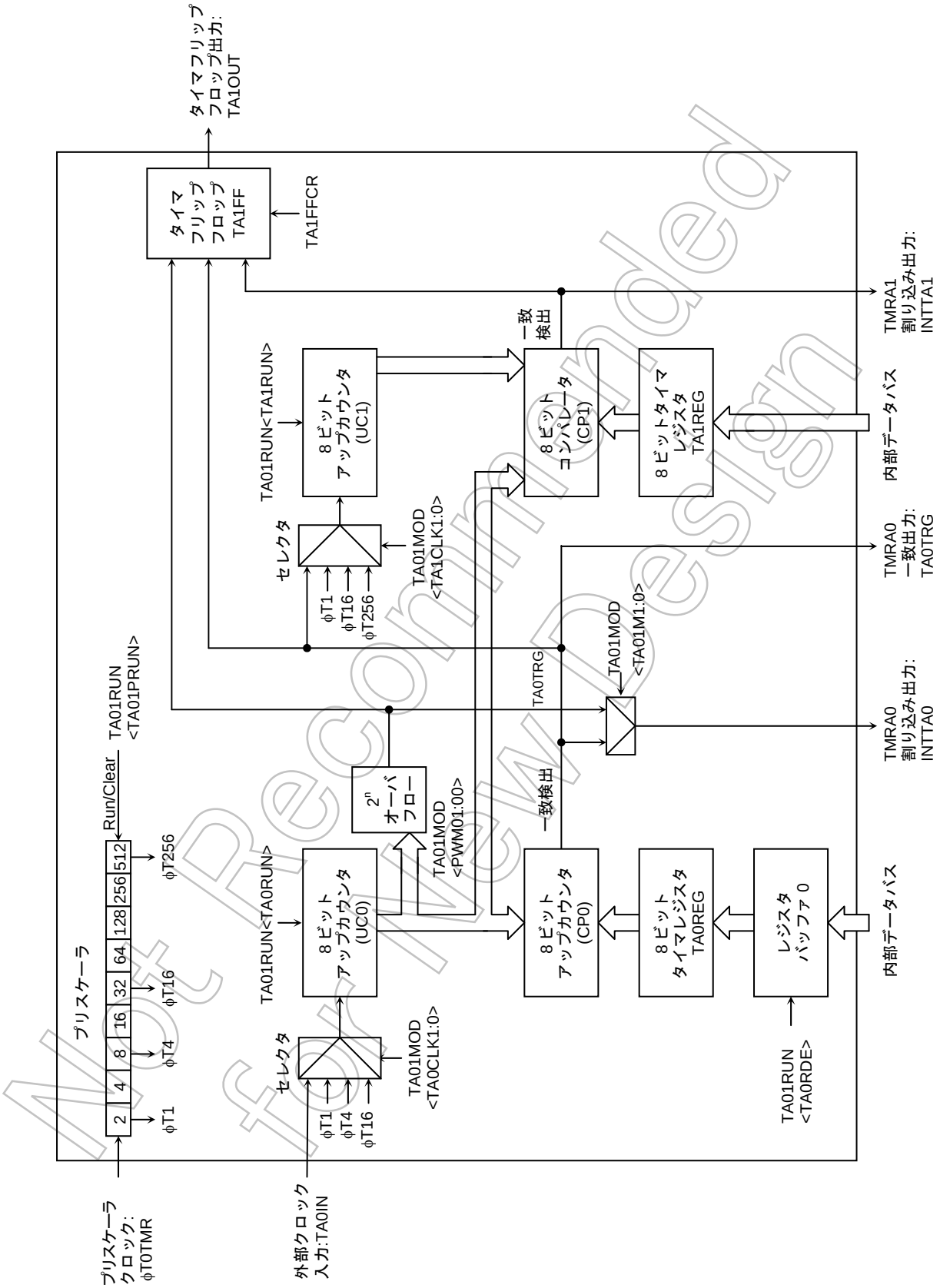


図 3.13.1 TMRA01 ブロック図

Not Recommended for New Design

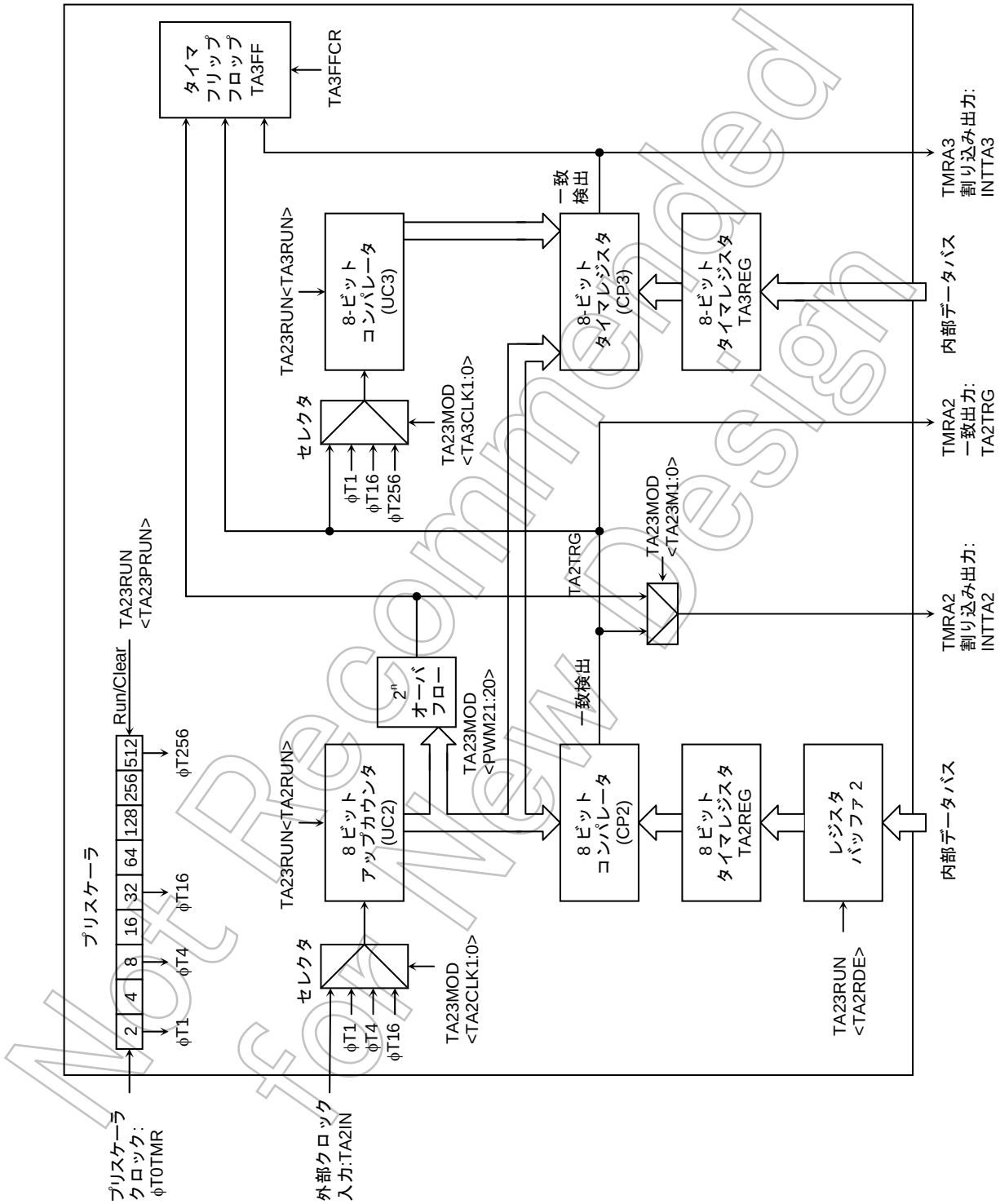


図 3.13.2 TMRA23 ブロック図

Not Recommended for New Design

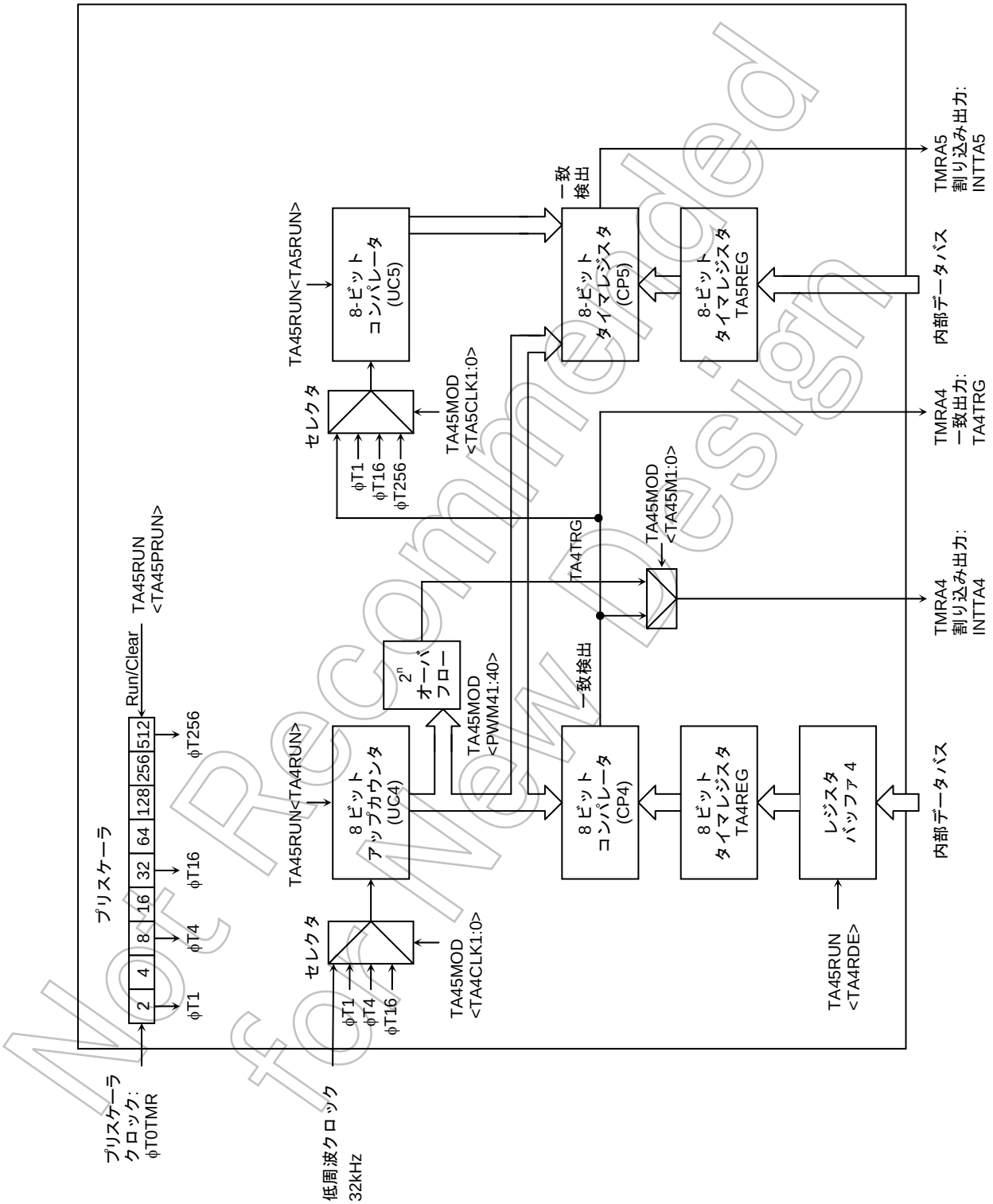


図 3.13.3 TMRA45 ブロック図

Not Recommended for New Design

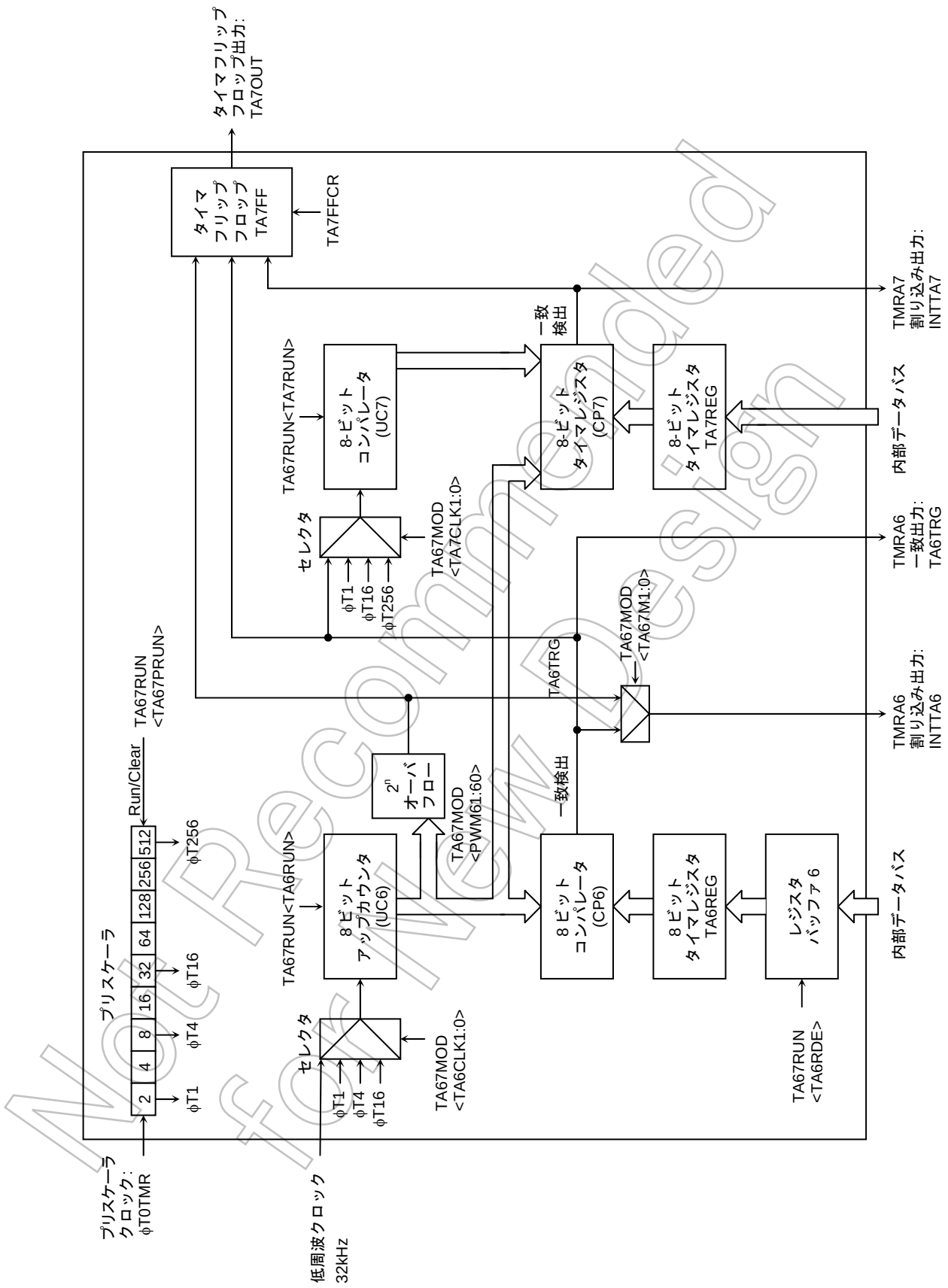


図 3.13.4 TMRA67 ブロック図

Not Recommended for New Design

3.13.2 回路別の動作説明

(1) プリスケーラ

TMRA01 のクロックソースを得るため 9 ビットプリスケーラがあります。プリスケーラの入力クロックϕT0TMR は、クロックギア部の SYSCR0<PRCK> にて選択したクロックです。

プリスケーラはTA01RUN<TA01PRUN> により動作/停止の設定をします。“1” をライトするとカウント開始し、“0” をライトするとクリアされ停止します。プリスケーラ出力クロックの分解能を 表 3.13.2 に示します。

(プリスケーラとタイマカウンタは個別にスタートできますが、タイマカウンタのカウントアップはプリスケーラ入力タイミングとプリスケーラスタートタイミングに依存します。)

表 3.13.2 プリスケーラ出力クロック分解能

	クロックギア選択 SYSCR1 <GEAR2:0>	クロックギア部プリスケーラ SYSCR0 <PRCK>	–	タイマカウンタ入力クロック TMRA 部プリスケーラ TAxxMOD<TAxCLK1:0>			
				ϕT1(1/2)	ϕT4(1/8)	ϕT16(1/32)	ϕT256(1/512)
fc	000(1/1)	0(1/2)	1/2	fc/8	fc/32	fc/128	fc/2048
	001(1/2)			fc/16	fc/64	fc/256	fc/4096
	010(1/4)			fc/32	fc/128	fc/512	fc/8192
	011(1/8)			fc/64	fc/256	fc/1024	fc/16384
	100(1/16)			fc/128	fc/512	fc/2048	fc/32768
	000(1/1)	1(1/8)		fc/32	fc/128	fc/512	fc/8192
	001(1/2)			fc/64	fc/256	fc/1024	fc/16384
	010(1/4)			fc/128	fc/512	fc/2048	fc/32768
	011(1/8)			fc/256	fc/1024	fc/4096	fc/65536
	100(1/16)			fc/512	fc/2048	fc/8192	fc/131072

Not Recommended for New Design

(2) アップカウンタ (UC0, UC1)

タイマモードレジスタ TA01MOD で指定された入力クロックによってカウントアップする 8 ビットのバイナリカウンタです。

UC0 の入力クロックは、*TA0IN 端子からの外部クロックと、3 種類のプリスケーラ出力クロックφT1, φT4, φT16 から、TA01MOD<TA0CLK1:0>の設定値に応じて選択されます。

UC1 の入力クロックは動作モードによって異なります。16 ビットタイマモードに設定した場合は、UC0 のオーバフロー出力が入力クロックとなり、16 ビットタイマモード以外の設定の場合は、TA01MOD<TA1CLK1:0>の設定によりプリスケーラ出力クロックφT1, φT16, φT256 と、TMRA0 のコンパレータ出力 (一致検出) の中から選択されます。

アップカウンタは、TA01RUN<TA0RUN>, <TA1RUN>によってカウント/停止&クリアを設定します。リセット時、アップカウンタはクリアされ、停止します。

注) TMR45 と TMR67 は、外部端子からのクロック入力は対応していませんが、低周波(32kHz)クロックを選択することが出来ます。

Not Recommended for New Design

(3) タイマレジスタ (TA0REG, TA1REG)

インタバル時間を設定する 8 ビットのレジスタです。タイマレジスタへの設定値とアップカウンタの値が一致すると、コンパレータの一致検出信号が出力されます。タイマレジスタに“00H”を設定した場合は、アップカウンタのオーバフロー時に、一致信号がアクティブになります。

TA0REG は、ダブルバッファ構成になっており、レジスタバッファ 0 とペアになっています。

ダブルバッファは、TA01RUN<TA0RDE>により制御されます。<TA0RDE> = “0” のときディセーブル、<TA0RDE> = “1” のときイネーブルとなります。

ダブルバッファイネーブル時、レジスタバッファ 0 からタイマレジスタ 0 へのデータ転送タイミングは、PWM モードの 2^n オーバフロー、または、PPG モードの周期のコンペア一致時です。従って、タイマモード時に、ダブルバッファを使用することはできません。

(ダブルバッファ使用時は、PWM モードのオーバフロー又は、PPG モードの周期一致のみしかタイマレジスタを更新する方法はありません。)

リセット時は<TA0RDE> = “0” に初期化され、ダブルバッファディセーブルになっています。ダブルバッファを使用するときは、タイマレジスタに設定値をライトし、<TA0RDE> = “1” に設定した後、次の設定値をライトしてください。

図 3.13.5にTA0REGの構成を示します。

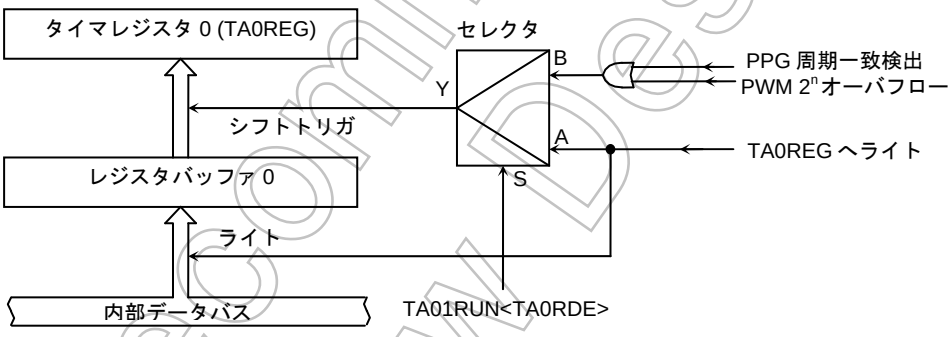


図 3.13.5 タイマレジスタ 0 (TA0REG)の構成

注) TA0REG とレジスタバッファ 0 は同じアドレスに割り付けられています。
<TA0RDE> = “0” のときは、レジスタバッファ 0 と TA0REG の両方に同じ値がライトされ、<TA0RDE> = “1” のときは、レジスタバッファ 0 のみにライトされます。

Not Recommended for New Design

(4) コンパレータ (CP0,CP1)

アップカウンタの値とタイマレジスタの値とを比較し、一致すると、アップカウンタを 0 にクリアするとともに、割り込み INTTA0, INTTA1 を発生します。また、タイマフリップフロップ反転イネーブルであれば同時にタイマフリップフロップの値を反転させます。

注) タイマ動作中にタイマレジスタにアップカウンタ値以下の値をライトするとタイマはオーバフローを起こし期待した値での割り込みの発生は得られません。 (変更した設定値がアップカウンタ値以上であれば正常に動作可能です。)
また、16 ビットモードでの動作時は、下位 8 ビットのみのライトではコンペア回路が動作しませんのでライトは必ず下位 8 ビット、上位 8 ビットの順で 16 ビット単位で行ってください。

(5) タイマフリップフロップ (TA1FF)

タイマフリップフロップ TA1FF は、コンパレータからの一致検出信号により反転するフリップフロップです。反転のディセーブル/イネーブルは、TA1FFCR<TA1FFIE>により設定できます。

リセットにより、TA1FF は “0” になります。TA1FFCR<TA1FFC1:0>に “01”、または、“10” をライトすることで、TA1FF の値を “1”、または、“0” に設定することができます。また、このビットに “00” をライトすることにより、TA1FF の値を反転させることができます (ソフト反転)。

TA1FF の値は、タイマフリップフロップ出力端子 TA1OUT (PM1,PV0 と兼用) へ出力することができます。タイマ出力を行う場合、あらかじめポート関連レジスタの設定を行う必要があります。

各モードによる TA1FF の反転

8 ビットタイマモード	: UC0 と TA0REG の一致または、UC1 と TA1REG の一致 (どちらか 1 つ選択)
16 ビットタイマモード	: UC0 は TA0REG の一致及び、UC1 は TA1REG の一致
8 ビット PWM モード	: オーバフローまたは、UC0 と TA0REG の一致
8 ビット PPG モード	: UC0 と TA0REG 一致または UC0 と TA1REG の一致

注) タイマによる反転とレジスタ設定による変更要求が同時に行われた場合はその時の状態によって以下のような動作となりますので注意が必要です。

- タイマによる反転とレジスタ設定による反転が同時に起きた場合
  → 1 回だけ反転します。
- タイマによる反転とレジスタ設定による”1”セットが同時に起きた場合
  → ”1”セットとなります。
- タイマによる反転とレジスタ設定による”0”クリアが同時に起きた場合
  → ”0”クリアとなります。

また、タイマ動作中に反転制御の変更を行うと正しく動作しませんので、設定の変更はタイマを停止させた状態で行って下さい。

Not Recommended for New Design

3.13.3 SFR説明

TMRA01 RUN レジスタ

TA01RUN (1100H)	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	TA0RDE				I2TA01	TA01PRUN	TA1RUN	TA0RUN
Read/Write	R/W				R/W			
リセット後	0				0	0	0	0
機能	ダブルバッファ 0: 禁止 1: 許可				IDLE2 モード時 0: 停止 1: 動作	TMRA01 プリスケーラ 0: 停止 & クリア 1: 動作 (カウントアップ)	アップカウンタ(UC1)	アップカウンタ(UC0)

TA0REG ダブルバッファの制御

0	禁止
1	許可

カウント動作

0	停止 & クリア
1	カウントアップ

注) TA01RUN のビット 4, 5, 6 は、リードすると “1”がリードされます。

TMRA23 RUN レジスタ

TA23RUN (1108H)	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	TA2RDE				I2TA23	TA23PRUN	TA3RUN	TA2RUN
Read/Write	R/W				R/W			
リセット後	0				0	0	0	0
機能	ダブルバッファ 0: 禁止 1: 許可				IDLE2 モード時 0: 停止 1: 動作	TMRA23 プリスケーラ 0: 停止 & クリア 1: 動作 (カウントアップ)	アップカウンタ(UC3)	アップカウンタ(UC2)

TA2REG ダブルバッファの制御

0	禁止
1	許可

カウント動作

0	停止 & クリア
1	カウントアップ

注) TA23RUN のビット 4, 5, 6 は、リードすると“1”がリードされます。

図 3.13.6 TMRA のレジスタ

Not Recommended for New Design

TMRA45 RUN レジスタ

TA45RUN (1110H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	TA4RDE				I2TA45	TA45PRUN	TA5RUN	TA4RUN
Read/Write	R/W				R/W			
リセット後	0				0	0	0	0
機能	ダブルバッファ 0: 禁止 1: 許可				IDLE2 モード時 0: 停止 1: 動作	TMRA45 プリスケーラ	アップカウンタ(UC5)	アップカウンタ(UC4)
						0: 停止 & クリア 1: 動作 (カウントアップ)		

TA4REG ダブルバッファの制御

0	禁止
1	許可

カウント動作

0	停止 & クリア
1	カウントアップ

注) TA45RUN のビット 4, 5, 6 は、リードすると“1”がリードされます。

TMRA67 RUN レジスタ

TA67RUN (1118H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	TA6RDE				I2TA67	TA67PRUN	TA7RUN	TA6RUN
Read/Write	R/W				R/W			
リセット後	0				0	0	0	0
機能	ダブルバッファ 0: 禁止 1: 許可				IDLE2 モード時 0: 停止 1: 動作	TMRA67 プリスケーラ	アップカウンタ(UC7)	アップカウンタ(UC6)
						0: 停止 & クリア 1: 動作 (カウントアップ)		

TA6REG ダブルバッファの制御

0	禁止
1	許可

カウント動作

0	停止 & クリア
1	カウントアップ

注) TA67RUN のビット 4, 5, 6 は、リードすると“1”がリードされます。

図 3.13.7 TMRA のレジスタ

Not Recommended for New Design

TMRA01 モードレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
TA01MOD (1104H)	Bit symbol	TA01M1	TA01M0	PWM01	PWM00	TA1CLK1	TA1CLK0	TA0CLK1	TA0CLK0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	動作モード 00: 8 ビットタイマ 01: 16 ビットタイマ 10: 8 ビット PPG 11: 8 ビット PWM		PWM 周期 00: Reserved 01: 2^6 10: 2^7 11: 2^8		TMRA1 ソースクロック 00: TA0TRG 01: φT1 10: φT16 11: φT256		TMRA0 ソースクロック 00: TA0IN 端子入力 01: φT1 10: φT4 11: φT16	

TMRA0 の入クロック

<TA0CLK1:0>	00	TA0IN 端子入力
	01	φT1
	10	φT4
	11	φT16

TMRA1 の入力クロック

		TA01MOD<TA01M1:0>≠01	TA01MOD<TA01M1:0>=01
<TA1CLK1:0>	00	TMRA0 の一致出力	TMRA0 のオーバフロー出力 (16 ビットタイマモード)
	01	φT1	
	10	φT16	
	11	φT256	

8 ビット PWM モード時の周期選択

<PWM01:00>	00	Reserved
	01	2^6×ソースクロック
	10	2^7×ソースクロック
	11	2^8×ソースクロック

TMRA01 の動作モード選択

<TA01MA1:0>	00	8 ビットタイマ×2ch
	01	16 ビットタイマ
	10	8 ビットプログラム矩形波出力
	11	8 ビット PWM (TMRA0), 8 ビットタイマ (TMRA1)

図 3.13.8 TMRA のレジスタ

Not Recommended for New Design

TMRA23 モードレジスタ

TA23MOD (110CH)	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	TA23M1	TA23M0	PWM21	PWM20	TA3CLK1	TA3CLK0	TA2CLK1	TA2CLK0
Read/Write	R/W							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
機能	動作モード 00: 8 ビットタイマ 01: 16 ビットタイマ 10: 8 ビット PPG 11: 8 ビット PWM		PWM 周期 00: Reserved 01: 2^6 10: 2^7 11: 2^8		TMRA3 ソースクロック 00: TA2TRG 01: φT1 10: φT16 11: φT256		TMRA2 ソースクロック 00: TA2IN 端子入力 01: φT1 10: φT4 11: φT16	

TMRA2 の入力クロック

<TA2CLK1:0>	00	TA2IN 端子入力
	01	φT1
	10	φT4
	11	φT16

TMRA3 の入力クロック

		TA23MOD<TA23M1:0>≠01	TA23MOD<TA23M1:0>=01
<TA3CLK1:0>	00	TMRA2 の一致出力	TMRA2 のオーバフロー出力 (16 ビットタイマモード)
	01	φT1	
	10	φT16	
	11	φT256	

8 ビット PWM モード時の周期選択

<PWM21:20>	00	Reserved
	01	2^6 ×ソースクロック
	10	2^7 ×ソースクロック
	11	2^8 ×ソースクロック

TMRA23 の動作モード選択

<TA23M1:0>	00	8 ビットタイマ×2ch
	01	16 ビットタイマ
	10	8 ビットプログラム矩形波出力
	11	8 ビット PWM (TMRA2), 8 ビットタイマ (TMRA3)

図 3.13.9 TMRA のレジスタ

Not Recommended for New Design

TMRA45 モードレジスタ

TA45MOD (1114H)	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	TA45M1	TA45M0	PWM41	PWM40	TA5CLK1	TA5CLK0	TA4CLK1	TA4CLK0
Read/Write	R/W							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
機能	動作モード 00: 8 ビットタイマ 01: 16 ビットタイマ 10: 8 ビット PPG 11: 8 ビット PWM		PWM 周期 00: Reserved 01: 2^6 10: 2^7 11: 2^8		TMRA5 ソースクロック 00: TA4TRG 01: φT1 10: φT16 11: φT256		TMRA4 ソースクロック 00: 32kHz クロック 01: φT1 10: φT4 11: φT16	

TMRA4 の入力クロック

<TA4CLK1:0>	00	32kHz クロック
	01	φT1
	10	φT4
	11	φT16

TMRA5 の入力クロック

		TA45MOD<TA45M1:0>≠01	TA45MOD<TA45M1:0>=01
<TA5CLK1:0>	00	TMRA4 の一致出力	TMRA4 のオーバフロー出力 (16 ビットタイマモード)
	01	φT1	
	10	φT16	
	11	φT256	

8 ビット PWM モード時の周期選択

<PWM41:40>	00	Reserved
	01	2^6 ×ソースクロック
	10	2^7 ×ソースクロック
	11	2^8 ×ソースクロック

TMRA45 の動作モード選択

<TA45M1:0>	00	8 ビットタイマ×2ch
	01	16 ビットタイマ
	10	8 ビットプログラム矩形波出力
	11	8 ビット PWM (TMRA4), 8 ビットタイマ (TMRA5)

図 3.13.10 TMRA のレジスタ

Not Recommended for New Design

TMRA67 モードレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
TA67MOD (111CH)	Bit symbol	TA67M1	TA67M0	PWM61	PWM60	TA7CLK1	TA7CLK0	TA6CLK1	TA6CLK0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	動作モード 00: 8 ビットタイマ 01: 16 ビットタイマ 10: 8 ビット PPG 11: 8 ビット PWM		PWM 周期 00: Reserved 01: 2^6 10: 2^7 11: 2^8		TMRA7 ソースクロック 00: TA6TRG 01: φT1 10: φT16 11: φT256		TMRA6 ソースクロック 00: 32kHz クロック 01: φT1 10: φT4 11: φT16	

TMRA6 の入力クロック

<TA6CLK1:0>	00	32kHz クロック
	01	φT1
	10	φT4
	11	φT16

TMRA7 の入力クロック

		TA67MOD<TA67M1:0>≠01	TA67MOD<TA67M1:0>=01
<TA7CLK1:0>	00	TMRA6 の一致出力	TMRA6 のオーバフロー出力 (16 ビットタイマモード)
	01	φT1	
	10	φT16	
	11	φT256	

8 ビット PWM モード時の周期選択

<PWM61:60>	00	Reserved
	01	2^6 ×ソースクロック
	10	2^7 ×ソースクロック
	11	2^8 ×ソースクロック

TMRA67 の動作モード選択

<TA67M1:0>	00	8 ビットタイマ×2ch
	01	16 ビットタイマ
	10	8 ビットプログラム矩形波出力
	11	8 ビット PWM (TMRA6), 8 ビットタイマ (TMRA7)

図 3.13.11 TMRA のレジスタ

Not Recommended for New Design

TMRA1 フリップフロップコントロールレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
TA1FFCR (1105H)	Bit symbol					TA1FFC1	TA1FFC0	TA1FFIE	TA1FFIS
	Read/Write					R/W		R/W	
	リセット後					1	1	0	0
リードモディファイライトはできません。	機能					00: TA1FF 反転 01: TA1FF セット 10: TA1FF クリア 11: Don't care		TA1FF 反転制御 0: 禁止 1: 許可	TA1FF 反転信号セレクト 0: TMRA0 1: TMRA1

タイマフリップフロップ 1 (TA1FF) の反転信号セレクト
(8 ビットタイマモード以外は Don't care)

TA1FFIS	0	TMRA0 による反転
	1	TMRA1 による反転

TA1FF の反転制御

TA1FFIE	0	反転禁止
	1	反転許可

TA1FF の制御

<TA1FFC1:0>	00	TA1FF の値を反転 (ソフト反転)
	01	TA1FF を "1" にセット
	10	TA1FF を "0" にクリア
	11	Don't care

注) TA1FFCR のビット 4, 5, 6, 7 は、リードすると"1"がリードされます。

図 3.13.12 TMRA のレジスタ

Not Recommended for New Design

TMRA3 フリップフロップコントロールレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
TA3FFCR (110DH)	Bit symbol					TA3FFC1	TA3FFC0	TA3FFIE	TA3FFIS
	Read/Write					R/W		R/W	
	リセット後					1	1	0	0
リードモディファイライトはできません。	機能					00: TA3FF 反転 01: TA3FF セット 10: TA3FF クリア 11: Don't care		TA3FF 反転制御 0: 禁止 1: 許可	TA3FF 反転信号セレクト 0: TMRA2 1: TMRA3

タイマフリップフロップ 3 (TA3FF) の反転信号セレクト
(8 ビットタイマモード以外は Don't care)

TA3FFIS	0	TMRA2 による反転
	1	TMRA3 による反転

TA3FF の反転制御

TA3FFIE	0	反転禁止
	1	反転許可

TA3FF の制御

<TA3FFC1:0>	00	TA3FF の値を反転 (ソフト反転)
	01	TA3FF を"1" にセット
	10	TA3FF を"0" にクリア
	11	Don't care

注) TA3FFCR のビット 4, 5, 6, 7 は、リードすると"1"がリードされます。

図 3.13.13 TMRA のレジスタ

Not Recommended for New Design

TMRA7 フリップフロップコントロールレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
TA7FFCR (111DH)	Bit symbol					TA7FFC1	TA7FFC0	TA7FFIE	TA7FFIS
	Read/Write					R/W		R/W	
	リセット後					1	1	0	0
リード モディファイ ライトはでき ません。	機能					00: TA7FF 反転 01: TA7FF セット 10: TA7FF クリア 11: Don't care		TA7FF 反転制御 0: 禁止 1: 許可	TA7FF 反転信号 セレクト 0: TMRA6 1: TMRA7

タイマフリップフロップ 7 (TA7FF) の反転信号セレクト
(8 ビットタイマモード以外は Don't care)

TA7FFIS TA7FF の反転制御	0	TMRA6 による反転
	1	TMRA7 による反転

TA7FFIE TA7FF の制御	0	反転禁止
	1	反転許可

<TA7FFC1:0>	00	TA7FF の値を反転 (ソフト反転)
	01	TA7FF を"1" にセット
	10	TA7FF を"0" にクリア
	11	Don't care

注) TA7FFCR のビット 4, 5, 6, 7 は、リードすると"1"がリードされます。

図 3.13.14 TMRA のレジスタ

Not Recommended for New Design

タイマレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
TA0REG (1102H)	bit Symbol	−							
	Read/Write	W							
	リセット後	0							
TA1REG (1103H)	bit Symbol	−							
	Read/Write	W							
	リセット後	0							
TA2REG (110AH)	bit Symbol	−							
	Read/Write	W							
	リセット後	0							
TA3REG (110BH)	bit Symbol	−							
	Read/Write	W							
	リセット後	0							
TA4REG (1112H)	bit Symbol	−							
	Read/Write	W							
	リセット後	0							
TA5REG (1113H)	bit Symbol	−							
	Read/Write	W							
	リセット後	0							
TA6REG (111AH)	bit Symbol	−							
	Read/Write	W							
	リセット後	0							
TA7REG (111BH)	bit Symbol	−							
	Read/Write	W							
	リセット後	0							

注)上記レジスタは、リードモディファイライトは禁止です。

図 3.13.15 TMRA レジスタ

Not Recommended for New Design

3.13.4 モード別動作説明

(1) 8 ビットタイマモード

TMRA0, TMRA1 は、それぞれ独立に 8 ビットインタバルタイマとして使用できます。機能、および、カウントデータの設定を行う場合、TMRA0, TMRA1 を停止させた状態で行ってください。

1. 一定周期の割り込みを発生させる場合

ここでは TMRA1 を使用した例を示します。TMRA1 を用いて、一定周期ごとに TMRA1 割り込み INTTA1 を発生させる場合、まず TMRA1 を停止させ、動作モード、入力クロック、周期をそれぞれ TA01MOD、TA1REG に設定します。次に割り込み INTTA1 をイネーブルにしてから、TMRA1 をカウントさせます。

例) fc = 50 MHz で 20 μs ごとに INTTA1 割り込みを発生させたい場合、次の順序で各レジスタを設定します。

* クロック条件
- クロックギア: 1/1
- クロックギア部プリスケーラ: 1/2

		MSB 7	6	5	4	3	2	1	LSB 0	
TA01RUN	←	–	X	X	X	–	–	0	–	TMRA1 を停止し、“0”にクリアします。
TA01MOD	←	0	0	X	X	0	1	–	–	8 ビットタイマモードにし、入力クロックを φT1 (0.16 μs 分解能, @ fc =50 MHz)に設定します。
TA1REG	←	0	1	1	1	1	1	0	1	TA1REG に 20 μs ÷ φT1 = 125 = 7DH をライトします。
INTETA01	←	X	1	0	1	X	–	–	–	INTTA1 をイネーブル、割り込みレベル 5 に設定します。
TA01RUN	←	–	X	X	X	–	1	1	–	TMRA1 をカウントさせます。

X : Don't care, – : No change

入力クロックの選択は表 3.13.2を参考にしてください。

注) TMRA0 と TMRA1 の入力クロックは下記のように異なります。
TMRA0: TA0IN 端子入力、φT1, φT4, φT16
TMRA1: TMRA0 の一致検出信号、φT1, φT16, φT256

Not Recommended for New Design

2. デューティ 50 %の矩形波を出力させる場合

一定周期ごとにタイマフリップフロップ TA1FF の値を反転させ、この値をタイマフリップフロップ出力端子 TA1OUT へ出力します。

例) f_{SYS} = 50MHz で周期 3.2 μs の矩形波を TA1OUT から出力させたい場合、次の順序で各レジスタを設定します。この場合、TMRA0 か TMRA1 を使用しますが、ここでは TMRA1 を使用したときのレジスタ設定例を示します。

＊クロック条件 クロックギア: 1/1
クロックギア部プリスケーラ: 1/2

		7	6	5	4	3	2	1	0	
TA01RUN	←	–	X	X	X	–	–	0	–	TMRA1 を停止し、“0” にクリアします。
TA01MOD	←	0	0	X	X	0	1	X	X	8 ビットタイマモードにし、入力クロックを φT1 (0.16 μs @ f_{SYS} = 50 MHz)にします。
TA1REG	←	0	0	0	0	1	0	1	0	TA1REG に 3.2 μs ÷ φT1 ÷ 2 = 0AH をセットします。
TA1FFCR	←	X	X	X	X	1	0	1	1	TA1FF を “0” にクリアし、TMRA1 からの一致検出信号で反転するように設定します。
PM	←	–	X	X	X	X	–	0	X	PM1 を TA1OUT 出力端子に設定します。
PMFC	←	–	X	X	X	X	–	1	X	
TA01RUN	←	–	X	X	X	–	1	1	–	TMRA1 のカウントを開始させます。

X: Don't care, –: No change

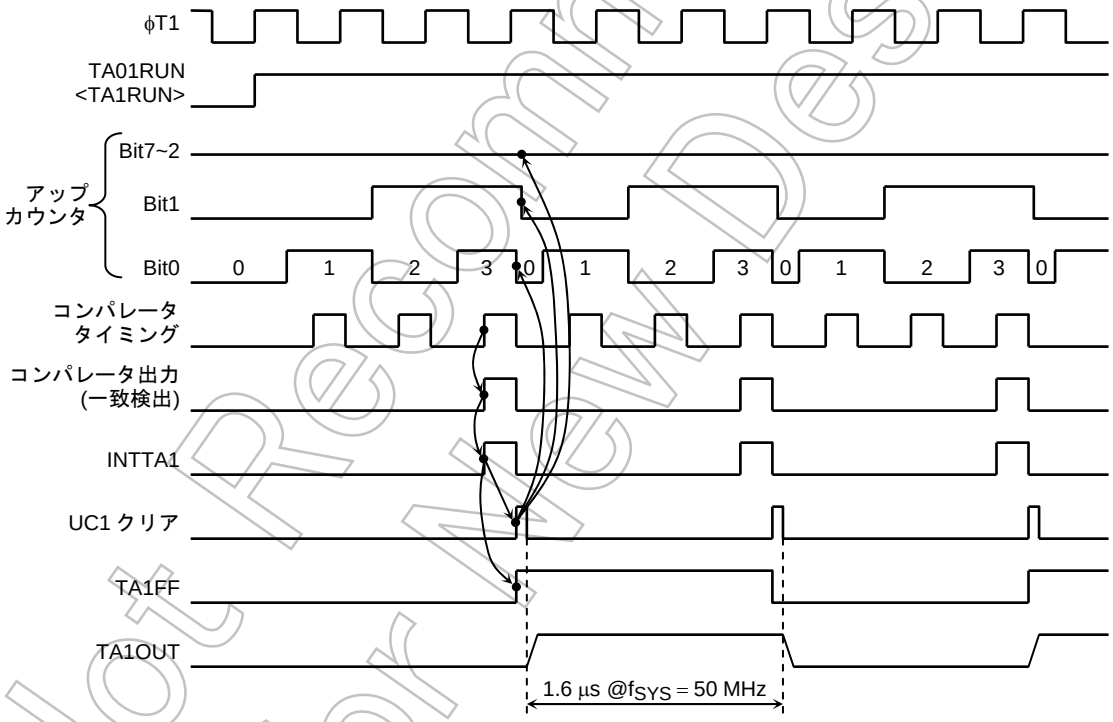


図 3.13.16 矩形波 (デューティ 50%) 出力のタイミングチャート

Not Recommended for New Design

3. TMRA0 の一致出力で TMRA1 をカウントアップさせる場合

8 ビットタイマモードに設定し、TMRA1 の入力クロックを TMRA0 のコンパレータ出力に設定します。

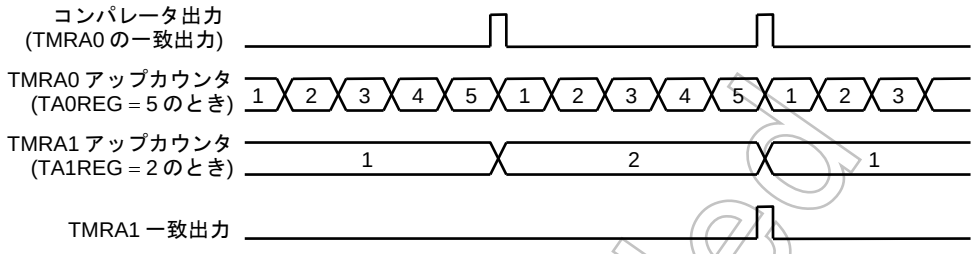


図 3.13.17 TMRA0 による TMRA1 のカウントアップ

(2) 16 ビットタイマモード

TMRA0 と TMRA1 をペアにして、16 ビットインタバルタイマとして使用できます。

TA01MOD<TA01M1:0>を “01” に設定することで 16 ビットタイマモードとなります。

16 ビットタイマモードに設定すると、TA01MOD<TA1CLK1:0> の設定値にかかわらず、TMRA1 の入力クロックは、TMRA0 のオーバフロー出力になります。TMRA0 の入力クロックの選択は 表 3.13.2を参考にしてください。

タイマ割り込み周期は、タイマレジスタ TA0REG に下位 8 ビットを、TA1REG に上位 8 ビットを設定します。この場合、必ず TA0REG から先に設定してください (TA0REG にデータをライトするとコンペアが一時禁止され、TA1REG へのデータライトでコンペアが開始されるためです)。

例: f_{SYS} = 50 MHz で 0.13 秒ごとに割り込み INTTA1 を発生させる場合、タイマレジスタ TA0REG, TA1REG には次の値を設定します。

* クロック条件 { システムクロック: f_{SYS}
プリスケーラクロック: $f_{SYS}/4$

ϕT16 (= 2.6 μs @ f_{SYS} = 50 MHz) を入力クロックとしてカウントすると

0.13 s ÷ 2.6 μs = 50000 = C350H

従って TA1REG = C3H, TA0REG = 50H を設定します。

Not Recommended for New Design

TMRA0 のコンパレータ出力は、アップカウンタ UC0 と TA0REG が一致するたびに出力されますが、アップカウンタ UC0 はクリアされません。また、このとき INTTA0 は発生しません。

TMRA1 のコンパレータは、アップカウンタ UC1 と TA1REG が一致すると、コンパレートタイミング時、毎回一致検出信号が出力されます。TMRA0, TMRA1 両方のコンパレータの一致検出信号が同時に出力されると、アップカウンタ UC0, UC1 が 0 にクリアされ、割り込み INTTA1 が発生します。また反転イネーブルであれば、タイマフリップフロップ TA1FF の値は反転されます。

例: TA1REG = 04H, TA0REG = 80H の場合

図 3.13.18 16 ビットタイマモードによるタイマ出力

(3) 8 ビット PPG (プログラマブル矩形波) 出力モード

TMRA0 を用いて、任意周波数, 任意デューティの矩形波を出力することができます。出力パルスは Low アクティブ、High アクティブどちらの設定も可能です。

このモードに設定した場合 TMRA1 は使用できません。

矩形波は TA1OUT (PM1,PV0 と兼用) へ出力されます。

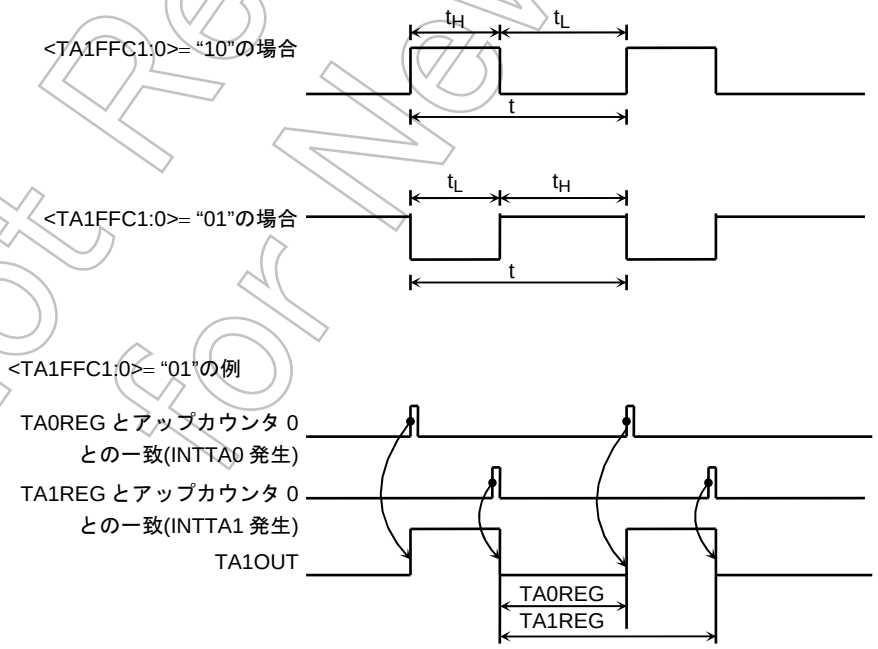


図 3.13.19 8 ビット PPG 出力波形

Not Recommended for New Design

このモードは、8 ビットアップカウンタ UC0 が、タイマレジスタ TA0REG および TA1REG と一致するたびにタイマ出力を反転させることにより、プログラマブル矩形波を出力するものです。

ただし、(TA0REG の設定値) < (TA1REG の設定値) の条件を満たす必要があります。

なお、このモードでは、TMRA1 のアップカウンタ UC1 は使用できませんが、TA01RUN<TA1RUN> = 1 に設定して、TMRA1 をカウント状態にしてください。

このモードをブロック図で示すと 図 3.13.20のようになります。

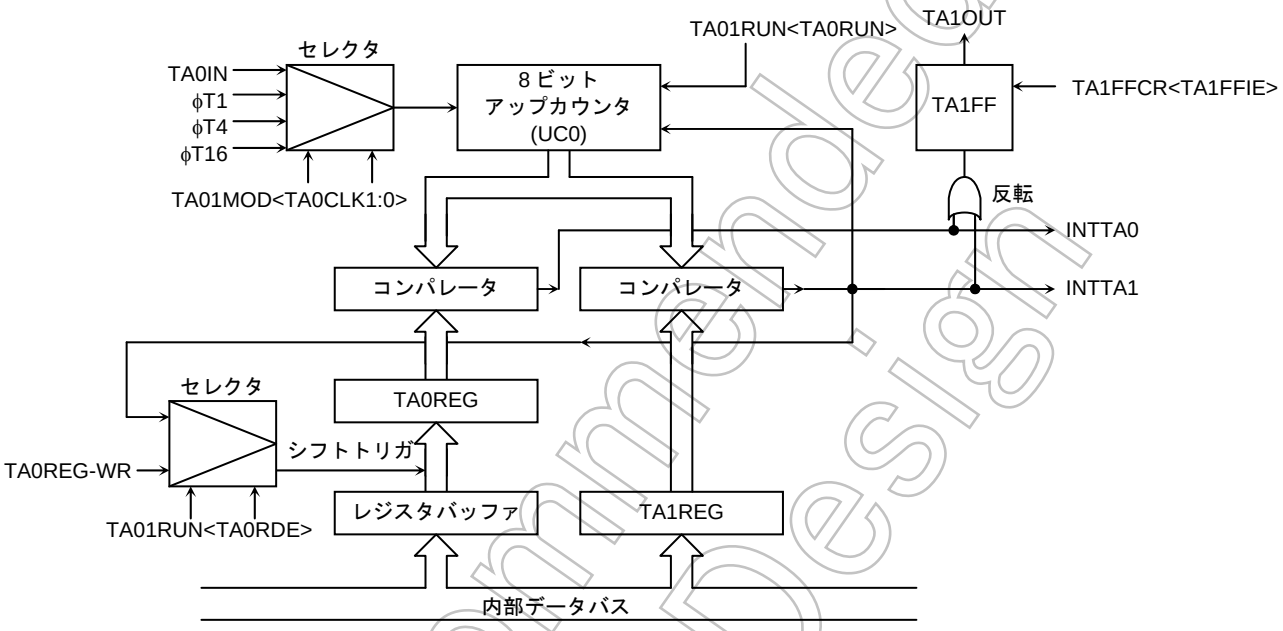


図 3.13.20 8 ビット PPG 出力モードのブロック図

このモードでは、TA0REG をダブルバッファイネーブルにすることにより、レジスタバッファの値が TA1REG と UC0 の一致時に、TA0REG へシフトインされます。

ダブルバッファを使用することにより、小さいデューティ (デューティを変化させるとき) への対応が容易に行えます。

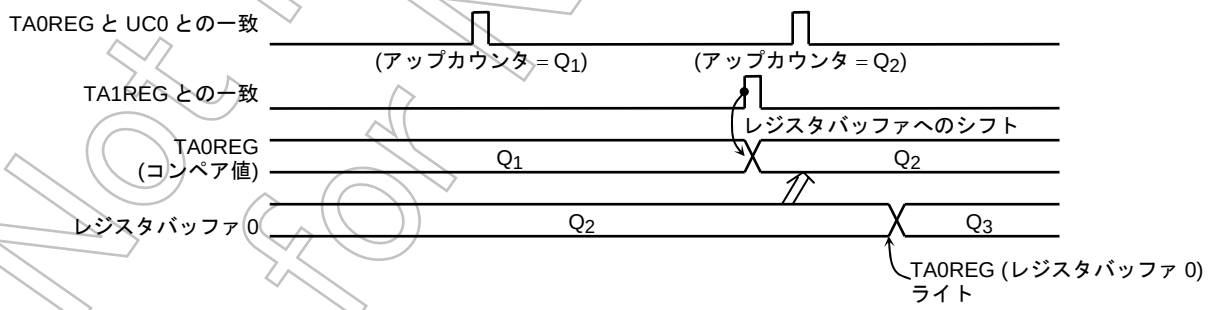
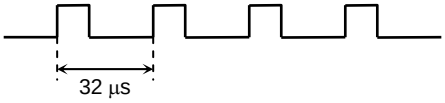


図 3.13.21 レジスタバッファの動作

注) TAxREG の設定値は、最小値 01H~最大値 00H(100H に相当します)となります。また、設定値を最大値の 00H にした場合は、アップカウンタのオーバフローに同期します。

Not Recommended for New Design

例) デューティ 1/4 の 31.25 kHz のパルスを出力する場合 (f_{SYS} = 50 MHz)



* クロック条件 システムクロック: f_{SYS}
プリスケーラクロック: $f_{SYS}/4$

タイマレジスタへの設定値を求めます。
周波数を 31.25 kHz にするには、周期 t = 1/31.25 kHz = 32μs の波形をつくります。
ϕT1 = 0.16 μs (@50 MHz) を用いると、

32 μs ÷ 0.16 μs = 200

従って、TA1REG = 200 = C8H に設定します。
次に、デューティを 1/4 にするには、t × 1/4 = 32 μs × 1/4 = 8 μs

8 μs ÷ 0.16 μs = 50

従って、TA0REG = 50 = 32H に設定します。

		7	6	5	4	3	2	1	0	
TA01RUN	←	–	X	X	X	–	–	0	0	TMRA0、A1 を停止し、“0”にクリアします。
TA01MOD	←	1	0	X	X	X	X	0	1	8 ビット PPG モードにし、入力クロックを ϕT1 にします。
TA0REG	←	0	0	1	1	0	0	1	0	32H をライトします。
TA1REG	←	1	1	0	0	1	0	0	0	C8H をライトします。
TA1FFCR	←	X	X	X	X	0	1	1	X	TA1FF をセットし、反転イネーブルにします。
										bit2, 3 を“10” にすると負論理の出力波形が得られます。
PM	←	–	X	X	X	X	–	0	X	PM1 を TA1OUT 端子に設定します。
PMFC	←	–	X	X	X	X	–	1	X	
TA01RUN	←	1	X	X	X	–	1	1	1	TMRA0、TMRA1 のカウントを開始します。

X: Don't care, –: No change

Not Recommended for New Design

(4) 8 ビット PWM 出力モード

TMRA0 のみ可能なモードで、分解能 8 ビットまでの PWM を出力することができます。PWM 出力は TA1OUT 端子 (PM1 と兼用) へ出力されます。

このモードでは、TMRA1 は 8 ビットタイマとして使用できます。

タイマ出力の反転は、アップカウンタ UC0 がタイマレジスタ TA0REG の設定値と一致したときと、2n (n = 6, 7, 8 のいずれかを TA01MOD<PWM01:00>で指定) カウンタオーバフロー発生時に起こります。また、UC0 は 2n カウンタのオーバフローによってクリアされます。

なお、この PWM モードを使用する場合、次の条件を満たさなければなりません。

(TA0REG の設定値) < (2n カウンタのオーバフロー設定値)

(TA0REG の設定値) ≠ 0

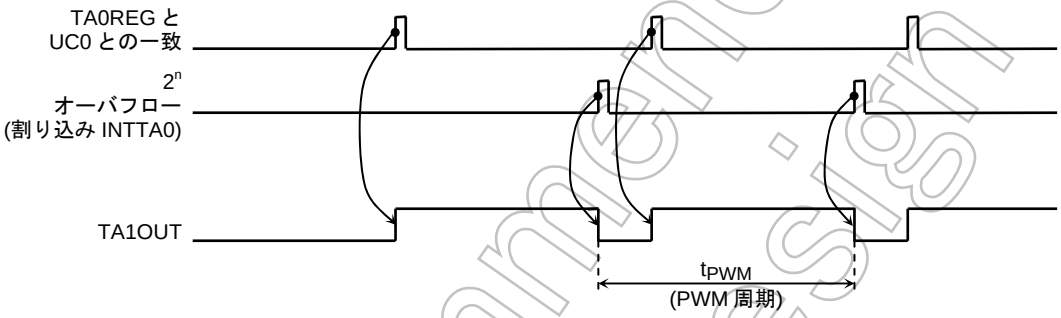


図 3.13.22 8 ビット PWM 出力波形

このモードをブロック図で示すと 図 3.13.23のようになります。

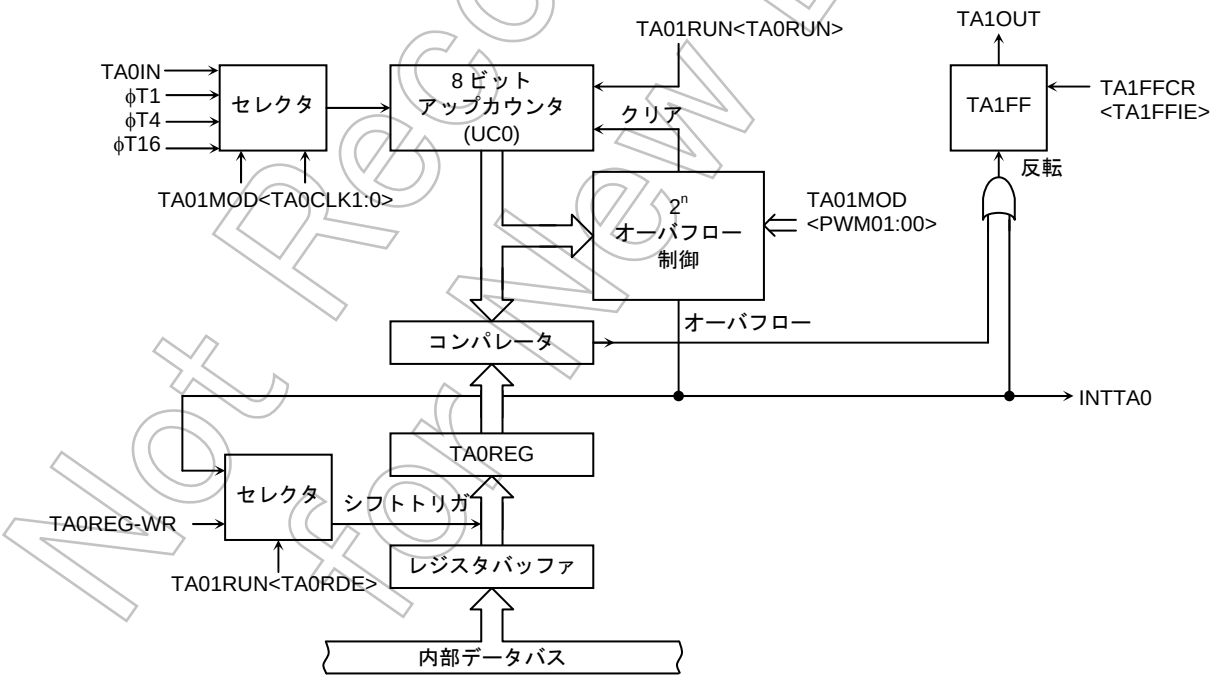


図 3.13.23 8 ビット PWM 出力モードのブロック図

Not Recommended for New Design

このモードでは、TA0REG をダブルバッファイネーブルにすることにより、2^n オーバフロー検出で、レジスタバッファの値が TA0REG へシフトインされます。

ダブルバッファを使用することにより、小さいデューティへの対応が、容易に行えます。

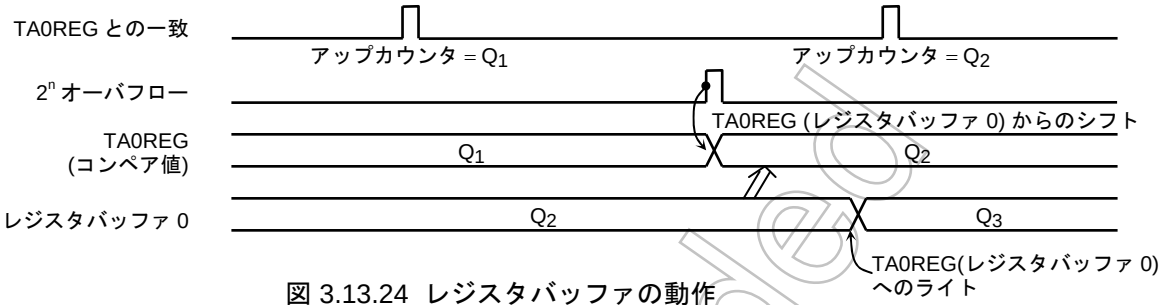
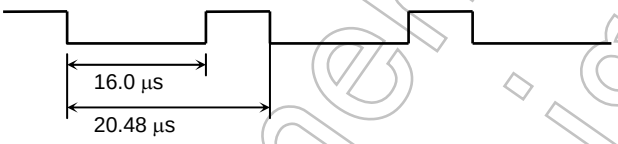


図 3.13.24 レジスタバッファの動作

例) f_{SYS} = 50 MHz 時、TMRA0 を使って下記の PWM 波形を TA1OUT 端子へ出力する場合



＊クロック条件 システムクロック: f_{SYS}
プリスケーラクロック: $f_{SYS}/4$

PWM 周期 20.48 μs をφT1 = 0.16 μs (@f_{SYS} = 50 MHz)で実現する場合:

20.48 μs ÷ 0.16 μs = 128 = 2^n

従って、n = 7 に設定します。

"L" レベルの周期は 16.0 μs だからφT1 = 0.16 μs では

16.0 μs ÷ 0.16 μs = 100 = 64H

を TA0REG に設定します。

		MSB 7	6	5	4	3	2	1	LSB 0	
TA01RUN	←	–	X	X	X	–	–	–	0	TMRA0 を停止し、"0"にクリアします。
TA01MOD	←	1	1	1	0	–	–	0	1	8 ビット PWM モード (周期 = 2^7) にし、入力クロックをφ1 にします。
TA0REG	←	0	1	0	1	1	0	1	0	5AH をライトします。
TA1FFCR	←	X	X	X	X	1	0	1	X	TA1FF を 0 にクリアし、反転イネーブルにします。
PM	←	–	X	X	X	X	–	0	X	PC1 を TA1OUT 端子に設定します。
PMFC	←	–	X	X	X	X	–	1	X	
TA01RUN	←	1	X	X	X	–	1	–	1	TMRA0 のカウントを開始します。

X: Don't care, –: No change

Not Recommended for New Design

表 3.13.3 PWM 周期

	クロックギア選択 SYSCR1 <GEAR2:0>	クロックギア部プリスケーラ SYSCR0 <PRCK>		PWM cycle TAxxMOD<PWMx1:0>								
				2^6 (x64)			2^7(x128)			2^8(x256)		
				TAxxMOD<TAxCLK1:0>			TAxxMOD<TAxCLK1:0>			TAxxMOD<TAxCLK1:0>		
				φT1(x2)	φT4(x8)	φT16(x32)	φT1(x2)	φT4(x8)	φT16(x32)	φT1(x2)	φT4(x8)	φT16(x32)
1/fc	000(x1)	0(x2)	x2	512/fc	2048/fc	8192/fc	1024/fc	4096/fc	16384/fc	2048/fc	8192/fc	32768/fc
	001(x2)			1024/fc	4096/fc	16384/fc	2048/fc	8192/fc	32768/fc	4096/fc	16384/fc	65536/fc
	010(x4)			2048/fc	8192/fc	32768/fc	4096/fc	16384/fc	65536/fc	8192/fc	32768/fc	131072/fc
	011(x8)			4096/fc	16384/fc	65536/fc	8192/fc	32768/fc	131072/fc	16384/fc	65536/fc	262144/fc
	100(x16)			8192/fc	32768/fc	131072/fc	16384/fc	65536/fc	262144/fc	32768/fc	131072/fc	524288/fc
	000(x1)	1(x8)		2048/fc	8192/fc	32768/fc	4096/fc	16384/fc	65536/fc	8192/fc	32768/fc	131072/fc
	001(x2)			4096/fc	16384/fc	65536/fc	8192/fc	32768/fc	131072/fc	16384/fc	65536/fc	262144/fc
	010(x4)			8192/fc	32768/fc	131072/fc	16384/fc	65536/fc	262144/fc	32768/fc	131072/fc	524288/fc
	011(x8)			16384/fc	65536/fc	262144/fc	32768/fc	131072/fc	524288/fc	65536/fc	262144/fc	1048576/fc
	100(x16)			32768/fc	131072/fc	524288/fc	65536/fc	262144/fc	1048576/fc	131072/fc	524288/fc	2097152/fc

(5) 動作モード設定一覧

TMRA01 の各モードをまとめると 表 3.13.4のような設定になります。

表 3.13.4 各タイマモードの設定レジスタ

レジスタ名	TA01MOD				TA1FFCR
<レジスタ中の機能名>	<TA01M1:0>	<PWM01:00>	<TA1CLK1:0>	<TA0CLK1:0>	TA1FFIS
機 能	タイマモード	PWM 周期	上位タイマ入力クロック	下位タイマ入力クロック	タイマ F/F 反転 信号セレクト
8 ビットタイマ × 2 チャネル	00	–	下位タイマ一致 φT1, φT16, φT256 (00, 01, 10, 11)	外部, φT1, φT4, φT16 (00, 01, 10, 11)	0:下位タイマ出力 1:上位タイマ出力
16 ビットタイマモード	01	–	–	外部, φT1, φT4, φT16 (00, 01, 10, 11)	–
8 ビット PPG × 1 チャネル	10	–	–	外部, φT1, φT4, φT16 (00, 01, 10, 11)	–
8 ビット PWM × 1 チャネル	11	2^6 , 2^7 , 2^8 (01, 10, 11)	–	外部, φT1, φT4, φT16 (00, 01, 10, 11)	–
8 ビット PWM × 1 チャネル	11	–	φT1, φT16 , φT256 (01, 10, 11)	–	出力不可

–: Don't care

Not Recommended for New Design

3.14 16 ビットタイマ/イベントカウンタ(TMRB)

多機能 16 ビットタイマ/イベントカウンタを 2 チャネル (TMRB0, TMRB1) 内蔵しています。TMRB は、次の 3 つの動作モードを持っています。

- 16 ビットインタバルタイマモード
- 16 ビットイベントカウンタモード
- 16 ビットプログラマブル矩形波出力 (PPG) モード

また、キャプチャ機能を利用することで、次のようにキャプチャすることができます。

- 周波数測定モード
- パルス幅測定モード

図 3.14.1、図 3.14.2 にTMRB0, TMRB1 のブロック図を示します。

各チャネルは、主に 16 ビットアップカウンタ、1 キャプチャレジスタ 2 本 (1 本はダブルバッファ構造)、16 ビットキャプチャレジスタ 2 本、コンパレータ 2 個、および、キャプチャ入力制御、タイマフリップフロップとその制御回路で構成されています。

タイマの動作モードやタイマフリップフロップは 11 バイトのレジスタ (SFR) で制御されます。

各チャネル (TMRB0, TMRB1) はそれぞれ独立に動作します。いずれのチャネルも 表 3.14.1に示される仕様相違点を除いて同一の動作をしますので、動作説明はTMRB0 の場合についてのみ説明します。

表 3.14.1 TMRB のチャネル別仕様相違点

仕様 ＼ チャネル		TMRB0	TMRB1
外部端子	外部クロック/ キャプチャトリガ入力端子	TB0IN0 (PP4 と兼用)	TB1IN0 (PP5 と兼用)
	タイマフリップフロップ 出力端子	TB0OUT0 (PP6 と兼用)	–
SFR 名 (アドレス)	タイマ RUN レジスタ	TB0RUN (1180H)	TB1RUN (1190H)
	タイマモードレジスタ	TB0MOD (1182H)	TB1MOD (1192H)
	タイマフリップフロップ コントロールレジスタ	TB0FFCR (1183H)	–
	タイマレジスタ	TB0RG0L (1188H) TB0RG0H (1189H) TB0RG1L (118AH) TB0RG1H (118BH)	TB1RG0L (1198H) TB1RG0H (1199H) TB1RG1L (119AH) TB1RG1H (119BH)
	キャプチャレジスタ	TB0CP0L (118CH) TB0CP0H (118DH) TB0CP1L (118EH) TB0CP1H (118FH)	TB1CP0L (119CH) TB1CP0H (119DH) TB1CP1L (119EH) TB1CP1H (119FH)

Not Recommended for New Design

3.14.1 チャネル別のブロック図

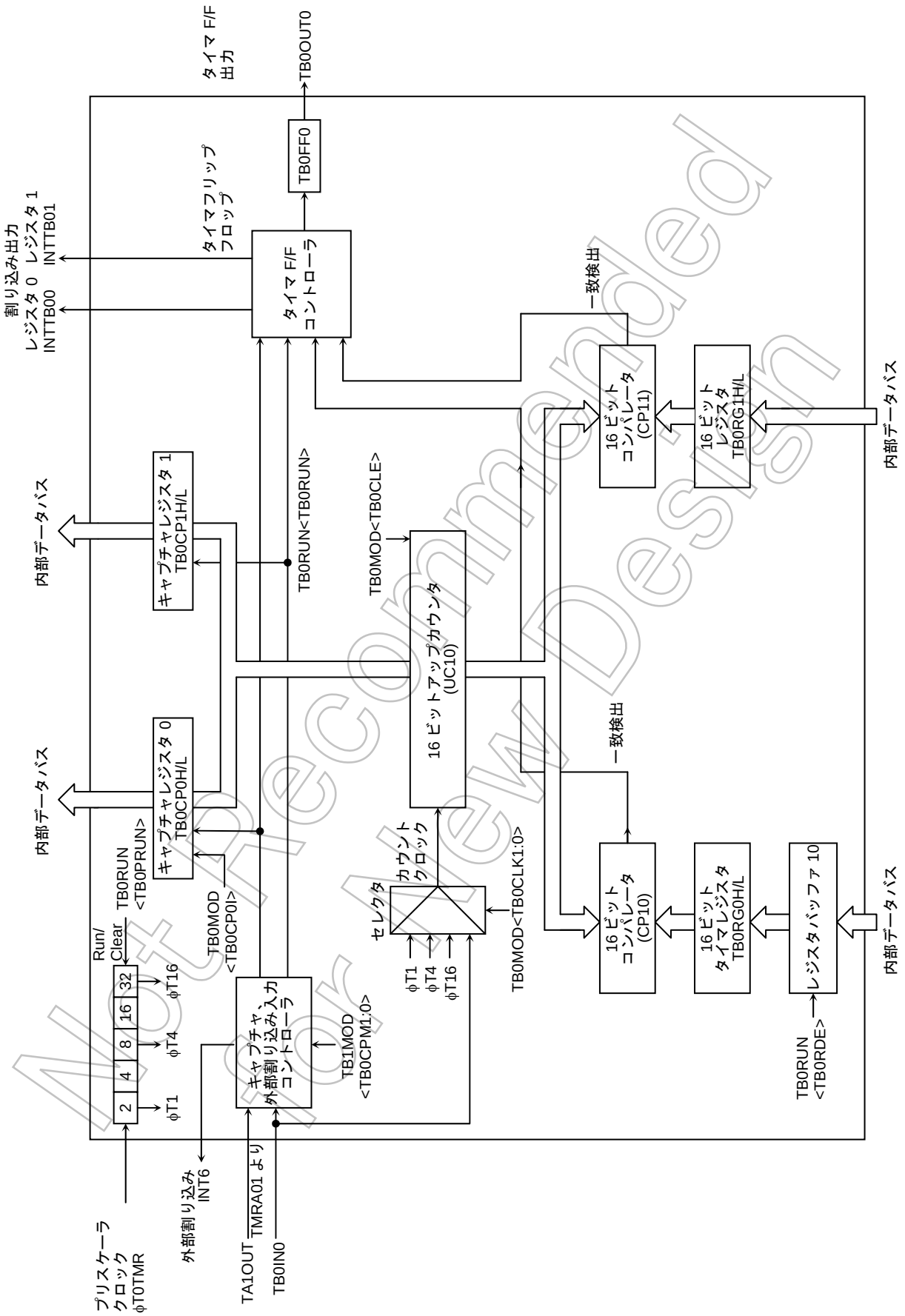


図 3.14.1 TMRB0 ブロック図

Not Recommended for New Design

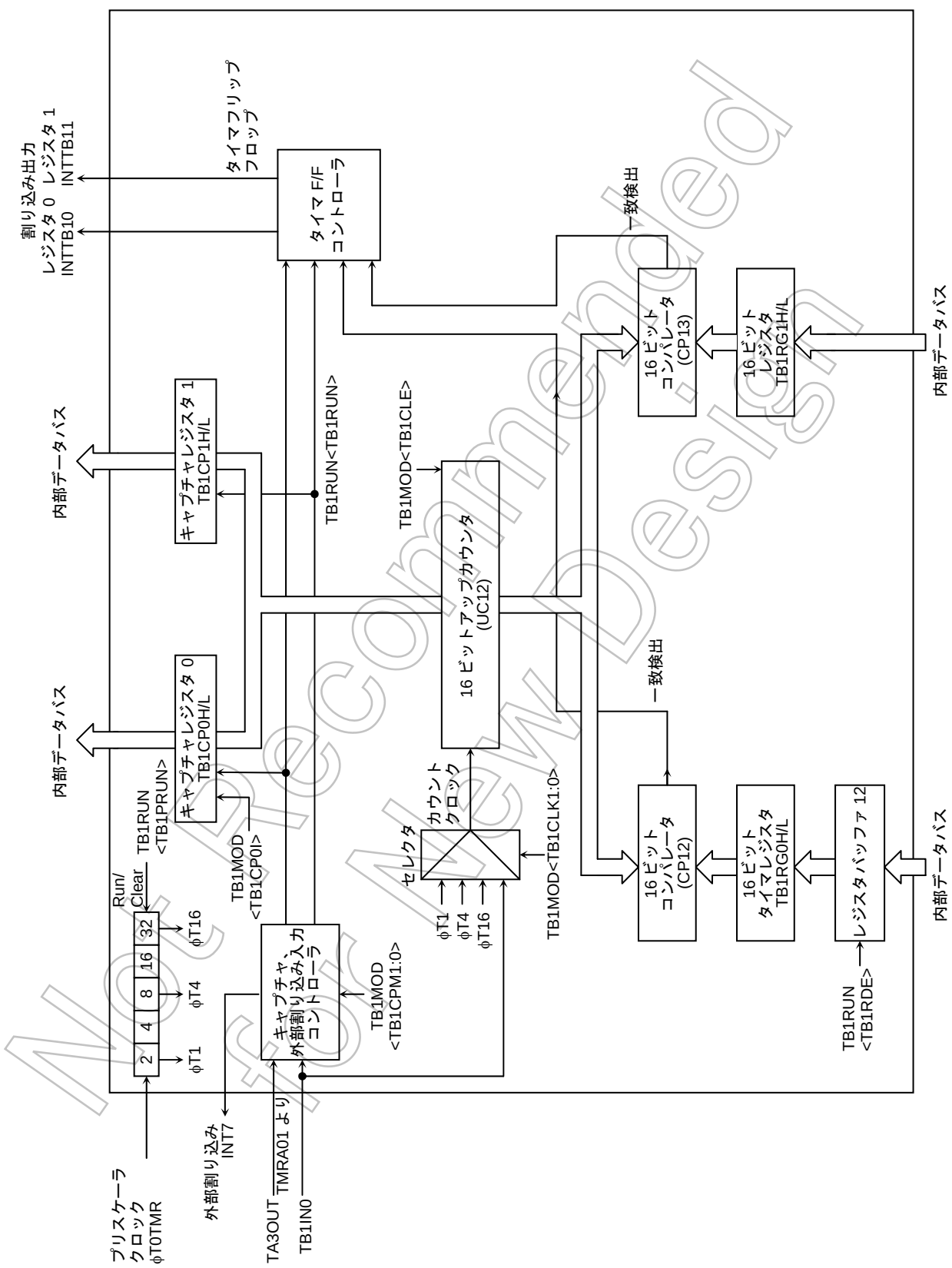


図 3.14.2 TMRB1 ブロック図

Not Recommended for New Design

3.14.2 回路別の動作説明

(1) プリスケーラ

TMRB0 のクロックソースを得るため、5 ビットプリスケーラがあります。プリスケーラへの入力クロックϕT0TMR はクロックギア部の SYSCR0<PRCK>にて選択したクロックです。

プリスケーラはTB0RUN<TB0PRUN>により制御されます。“1”に設定するとカウントを開始し、“0” に設定するとクリアされ停止します。プリスケーラ出力クロックの分解能を 表 3.14.2に示します。

表 3.14.2 プリスケーラ出力クロック分解能

	クロックギア選択 SYSCR1 <GEAR2:0>	クロックギア部プリスケーラ SYSCR0 <PRCK>	–	タイマカウンタ入力クロック TMRB 部プリスケーラ TBxMOD<TBxCLK1:0>		
				ϕT1(1/2)	ϕT4(1/8)	ϕT16(1/32)
fc	000(1/1)	0(1/2)	1/2	fc/8	fc/32	fc/128
	001(1/2)			fc/16	fc/64	fc/256
	010(1/4)			fc/32	fc/128	fc/512
	011(1/8)			fc/64	fc/256	fc/1024
	100(1/16)			fc/128	fc/512	fc/2048
	000(1/1)	1(1/8)		fc/32	fc/128	fc/512
	001(1/2)			fc/64	fc/256	fc/1024
	010(1/4)			fc/128	fc/512	fc/2048
	011(1/8)			fc/256	fc/1024	fc/4096
	100(1/16)			fc/512	fc/2048	fc/8192

(2) アップカウンタ (UC10)

TB0MOD<TB0CLK1:0>で指定された入力クロックによって、カウントアップする 16 ビットのバイナリカウンタです。

UC10 の入力クロックは、3 種類のプリスケーラ出力クロックϕT1, ϕT4, ϕT16、または、TB0IN0 端子から入力される外部クロックのいずれかを選択できます。

UC10 は、TB0RUN<TB0RUN>によってカウントの開始および停止&クリアを設定します。

UC10 は、タイマレジスタ TB0RG1H/L と一致すると、クリアイネーブルであれば、“0”にクリアされます。クリアディセーブルであれば、カウンタはフリーランニングカウンタとして動作します。このクリアイネーブル/ディセーブルは、TB0MOD<TB0CLE>で設定します。

Not Recommended for New Design

(3) タイマレジスタ (TB0RG0H/L, TB0RG1H/L)

カウンタ値を設定する 16 ビットレジスタで、2 本ずつ内蔵されています。このタイマレジスタへの設定値と、アップカウンタ UC10 の値とが一致すると、コンパレータの一致検出信号がアクティブになります。

タイマレジスタ TB0RG0H/L, TB0RG1H/L へのデータ設定は、上位と下位の 2 バイトのデータ設定が必ず必要です。2 バイトデータ転送命令を用いるか、1 バイトデータ転送命令を 2 回用いて下位 8 ビット、上位 8 ビットの順に行います。

(下位 8 ビットのみのライトではコンペア回路が動作しませんのでライトは必ず下位 8 ビット、上位 8 ビットの順で 16 ビット単位で行って下さい)

このタイマレジスタは、TB0RG0H/L がダブルバッファ構成になっており、レジスタバッファ 10 とペアになっています。TB0RG0H/L は TB0RUN<TB0RDE> によってダブルバッファのイネーブル/ディセーブルを制御します。<TB0RDE> = “0” のときディセーブル、 <TB0RDE> = “1” のときイネーブルとなります。

ダブルバッファイネーブル時、レジスタバッファ 10 からタイマレジスタ TB0RG0H/L へのデータ転送は、UC10 と TB0RG1H/L との一致時に行われます。

但し、このデータ転送は、一致する前にレジスタバッファに上位 8 ビット、下位 8 ビットの両方がライトされている必要があります。片方のみしかライトされてないときはこのデータ転送は行われません。

ダブルバッファ回路は、レジスタバッファの上位 8 ビット、下位 8 ビットにライトされたかどうかを示す内部フラグをそれぞれ持っており、両方のフラグがライトされたことを示しているときに、アップカウンタ(UC10)とタイマレジスタ(TB0RG1H/L)の値が一致すると、データ転送が行われます。従って、上位、下位の順番に関係なく両方のレジスタバッファにライトされていると、アップカウンタ(UC10)とタイマレジスタ(TB0RG1H/L)の値が一致後、レジスタバッファからタイマレジスタへのデータ転送が行われます。このため、以下のように本来意図しないデータ転送が行われることがあります。

例えば、レジスタバッファへ(H1L1)を設定中に下位 8bit(L1)のみライト後、割り込みが発生し、割込みルーチン内でレジスタバッファへの 16 ビットライトとタイマレジスタへのデータ転送が行われると、割込みルーチン終了後に残りの上位 8 ビット(H1)をレジスタバッファにライトしても、内部フラグは、片方しかライトされたことを示さないため、アップカウンタ(UC10)とタイマレジスタ(TB0RG1H/L)の値が一致しても、タイマレジスタへのデータ転送は行われません。また、この後に新たにレジスタバッファに(H2L2)を設定しようとして下位 8 ビット(L2)をライトすると、内部フラグが両方にライトされたことを示し、残りの上位 8 ビット(H2)をレジスタバッファにライトする前に、アップカウンタ(UC10)とタイマレジスタ(TB0RG1H/L)の値が一致すると、タイマレジスタに(H2L1)がデータ転送され、意図した(H2L2)と異なるデータがタイマレジスタに転送されます。

このような割込みによるデータ転送のずれを避ける方法の 1 つとして、レジスタバッファへ設定前に DI(割込み禁止)を行い、レジスタバッファ設定後、EI(割込み許可)を行う方法があります。

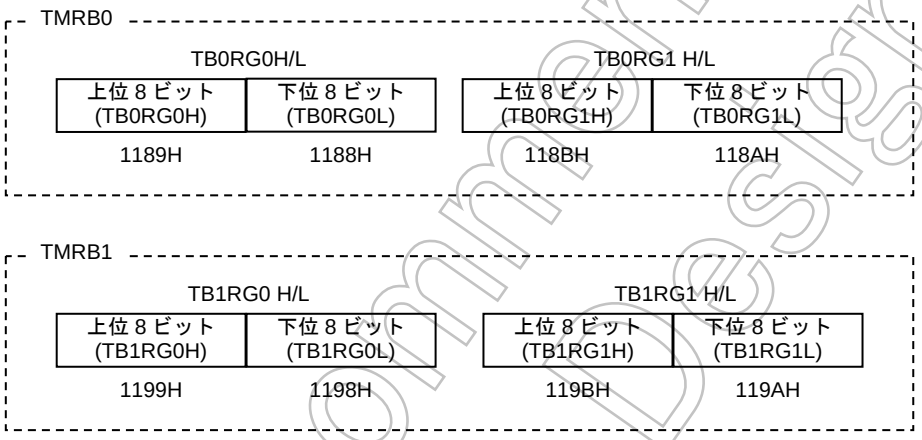
Not recommended for new design

リセット後は、TB0RG0H/L, TB0RG1H/L は不定のため 16 ビットタイマを使用する場合は、あらかじめデータをライトする必要があります。

リセット後は、TB0RUN<TB0RDE> = “0” に初期化され、ダブルバッファディセーブルになっています。ダブルバッファを使用するときは、タイマレジスタにデータをライトし<TB0RDE> = “1” に設定した後、レジスタバッファ 10 へ次のデータをライトしてください。

TB0RG0H/L とレジスタバッファ 10 は、同じアドレス 1189H/1188H に割り付けられています。<TB0RDE> = “0” のときは、TB0RG0H/L とレジスタバッファ 10 に同じ値がライトされ、<TB0RDE> = “1” のときは、それぞれのレジスタバッファ 10 にのみライトされます。タイマレジスタに初期値をライトするときには、<TB0RDE> = “0”に設定しダブルバッファをディセーブルにしておく必要があります。

各タイマレジスタのアドレスは次のとおりです。



TB0RG0H/L~TB1RG1H/L はライト専用レジスタのため、リードすることはできません。

Not Recommended for New Design

(4) キャプチャレジスタ (TB0CP0H/L, TB0CP1H/L)

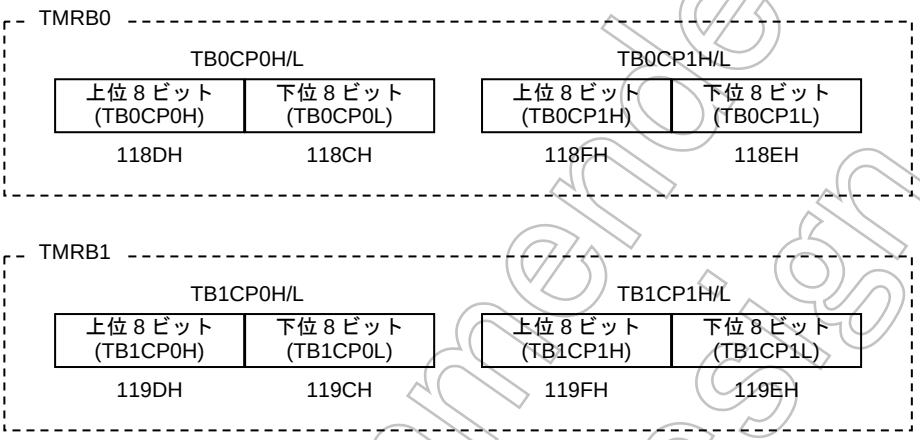
アップカウンタ UC10 の値をラッチする 16 ビットのレジスタです。

このキャプチャレジスタの値は上位と下位の 2 バイトのデータリードが必要です。

キャプチャレジスタをリードする場合は、2 バイトデータ転送命令を用いるか、1 バイトデータ転送命令を 2 回用いて下位 8 ビット、上位 8 ビットの順にリードしてください。

(キャプチャレジスタリード中はキャプチャ動作禁止になっていますので、必ず下位 8 ビット、上位 8 ビットの順で 16 ビットのデータとしてリードしてください)

各キャプチャレジスタのアドレスは次のとおりです。



TB0CP0H/L~TB1CP1H/L はリード専用レジスタです。プログラムによるライトはできません。

(5) キャプチャ、外部割り込み制御

アップカウンタ UC10 の値を、キャプチャレジスタ TB0CP0H/L, TB0CP1H/L にラッチするタイミングと、外部割り込みの発生を制御する回路です。

キャプチャレジスタのラッチタイミング、外部割り込みは、TB0MOD<TB0CPM1:0> で設定します。

また、ソフトウエアによってもアップカウンタ UC10 の値をキャプチャレジスタへ取り込むことができ、TB0MOD<TB0CP0I>に “0” を設定するたびに、その時点の UC10 の値をキャプチャレジスタ TB0CP0H/L へキャプチャします。この際、プリスケーラを RUN 状態 (TB0RUN<TB0PRUN> = “1”) にしておく必要があります。

Not Recommended for New Design

(6) コンパレータ (CP10, CP11)

アップカウンタ UC10 と、タイマレジスタ TB0RG0H/L, TB0RG1H/L への設定値とを比較し、一致を検出する 16 ビットコンパレータです。

一致すると、それぞれ割り込み INTTB00, INTTB01 を発生します。

(7) タイマフリップフロップ (TB0FF0)

タイマフリップフロップ (TB0FF0) は、コンパレータからの一致信号、キャプチャレジスタへのラッチ信号によって反転するフリップフロップです。TB0FF0 の制御は、TB0FFCR<TB0C1T1, TB0C0T1, TB0E1T1, TB0E0T1>によって設定できます。

リセット後、TB0FF0 の値は不定となります。TB0FFCR<TB0FF0C1:0>に "00" を設定することで反転、"01" を設定することで "1" にセット、"10" を設定することで "0" にクリアできます。

注) タイマによる反転とレジスタ設定による変更要求が同時に行われた場合はその時の状態によって以下のような動作となりますので注意必要です。

- タイマによる反転とレジスタ設定による反転が同時に起きた場合

→ 1 回だけ反転します。

- タイマによる反転とレジスタ設定による"1"セットが同時に起きた場合

→ "1"セットとなります。

- タイマによる反転とレジスタ設定による"0"クリアが同時に起きた場合

→ "0"クリアとなります。

また、タイマによる反転と反転禁止を同時に行うと、反転する場合と反転しない場合が起きますので、反転の制御を変更(反転イネーブル/ディセーブル)は、タイマの動作を停止させた状態で行って下さい。

TB0FF0 の値は、タイマ出力端子 TB0OUT0 端子 (PP6 と兼用)、TB0OUT1 端子(PP7 と兼用) へ出力することができます。タイマ出力を行う場合、あらかじめポート関連レジスタに設定を行う必要があります。

Not Recommended for New Design

3.14.3 SFR説明

TMRB0 RUN レジスタ

TB0RUN (1180H)	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	TB0RDE	–			I2TB0	TB0PRUN		TB0RUN
Read/Write	R/W				R/W			R/W
リセット後	0	0			0	0		0
機能	ダブルバッファ 0: 禁止 1: 許可	“0” をライトしてください。			IDLE2 モード時 0: 停止 1: 動作	TMRB0 プリスケーラ 0: 停止 & クリア 1: 動作 (カウントアップ)		アップカウンタ(UC10)

カウント動作

<TB0PRUN>, <TB0RUN>	0	停止 & クリア
	1	カウントアップ

注) TB0RUN のビット 1, 4, 5 は、リードすると “1”がリードされます。

TMRB1 RUN レジスタ

TB1RUN (1190H)	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	TB1RDE	–			I2TB1	TB1PRUN		TB1RUN
Read/Write	R/W				R/W			R/W
リセット後	0	0			0	0		0
機能	ダブルバッファ 0: 禁止 1: 許可	“0” をライトしてください。			IDLE2 モード時 0: 停止 1: 動作	TMRB1 プリスケーラ 0: 停止 & クリア 1: 動作 (カウントアップ)		アップカウンタ(UC12)

カウント動作

<TB1PRUN>, <TB1RUN>	0	停止 & クリア
	1	カウントアップ

注) TB1RUN のビット 1, 4, 5 は、リードすると“1”がリードされます。

図 3.14.3 TMRB のレジスタ

Not Recommended for New Design

TMRB0 モードレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
TB0MOD (1182H)	Bit symbol	–	–	TB0CP0I	TB0CPM1	TB0CPM0	TB0CLE	TB0CLK1	TB0CLK0
	Read/Write	R/W		W*	R/W				
	リセット後	0	0	1	0	0	0	0	0
リード モディファイ ライト できません	機能	“0”をライトしてください		ソフトウエア キャプチャ 制御 0: ソフトウエア キャプチャ 1: 未定義	キャプチャタイミング 00: ディセーブル INT6 は立ち上がりエッジ 01: TB0IN0↑ INT6 は立ち上がりエッジ 10: TB0IN0↑ TB0IN0↓ INT6 は立ち下がりエッジ 11: TA1OUT↑ TA1OUT↓ INT6 は立ち上がりエッジ		アップ カウンタ制御 0: ディセーブル 1: イネーブル	ソースクロック選択 00: TB0IN0 端子入力 01: φT1 10: φT4 11: φT16	

入力クロック

<TB0CLK1:0>	00	外部入力クロック (TB0IN0 端子入力)
	01	φT1
	10	φT4
	11	φT16

アップカウンタ (UC10) のクリア

<TB0CLE>	0	アップカウンタのクリア禁止
	1	TB0RG1 H/L との一致でクリア

キャプチャ/割り込みタイミング

		キャプチャ制御	INT6 制御
<TB0CPM1:0>	00	キャプチャ禁止	TB0IN0 の立ち上がりで INT6 発生
	01	TB0IN0 の立ち上がりで TB0CP0H/L へキャプチャ	
	10	TB0IN0 の立ち上がりで TB0CP0H/L へキャプチャ TB0IN0 の立ち下がりで TB0CP1H/L へキャプチャ	TB0IN0 の立ち下がりで INT6 発生
	11	TA1OUT の立ち上がりで TB0CP0H/L へキャプチャ TA1OUT の立ち下がりで TB0CP1H/L へキャプチャ	TB0IN0 の立ち上がりで INT6 発生

ソフトウエアキャプチャ

<TB0CP0I>	0	TB0CP0H/L へアップカウンタの値を取り込みます。
	1	未定義

図 3.14.4 TMRB のレジスタ

Not Recommended for New Design

TMRB1 モードレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
TB1MOD (1192H)	Bit symbol	–	–	TB1CP0I	TB1CPM1	TB1CPM0	TB1CLE	TB1CLK1	TB1CLK0
	Read/Write	R/W		W*	R/W				
	リセット後	0	0	1	0	0	0	0	0
リード モディファイ ライト できません	機能	“0”をライトしてください		ソフトウエア キャプチャ 制御 0: ソフトウエア キャプチャ 1: 未定義	キャプチャタイミング 00: ディセーブル INT7 は立ち上がりエッジ 01: TB1N0↑ INT7 は立ち上がりエッジ 10: TB1IN0↑,TB1IN0↓ INT7 は立ち下がりエッジ 11: TA3OUT↑ TA3OUT↓ INT7 は立ち上がりエッジ		アップ カウンタ制御 0: ディセーブル 1: イネーブル	入力クロック選択 00: TB1IN0 端子入力 01: φT1 10: φT4 11: φT16	

入力クロック

<TB1CLK1:0>	00	外部入力クロック (TB1IN0 端子入力)
	01	φT1
	10	φT4
	11	φT16

アップカウンタ (UC12) のクリア

<TB1CLE>	0	アップカウンタのクリア禁止
	1	TB1RG1H/L との一致でクリア

キャプチャ/割り込みタイミング

		キャプチャ制御	INT7 制御
<TB1CPM1:0>	00	キャプチャ禁止	TB1IN0 の立ち上がりで INT7 発生
	01	TB1IN0 の立ち上がりで TB1CP0H/L へキャプチャ	
	10	TB1IN0 の立ち上がりで TB1CP0H/L へキャプチャ TB1IN0 の立ち下がりで TB1CP1H/L へキャプチャ	TB1IN0 の立ち下がりで INT7 発生
	11	TA1OUT の立ち上がりで TB1CP0H/L へキャプチャ TA1OUT の立ち下がりで TB1CP1H/L へキャプチャ	TB1IN0 の立ち上がりで INT7 発生

ソフトウエアキャプチャ

<TB1CP0I>	0	TB1CP0H/L へアップカウンタの値を取り込みます。
	1	未定義

図 3.14.5 TMRB のレジスタ

Not Recommended for New Design

TMRB0 フリップフロップコントロールレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
TB0FFCR (1183H)	Bit symbol	–	–	TB0C1T1	TB0C0T1	TB0E1T1	TB0E0T1	TB0FF0C1	TB0FF0C0
	Read/Write	W*		R/W				W*	
	リセット後	1	1	0	0	0	0	1	1
リード モディファイ ライト できません	機能	“11”をライトしてください * リードすると常に “11” になります。		TB0FF0 反転制御 0: 反転禁止 1: 反転許可				TB0FF0 の制御 00: 反転 01: セット 10: クリア 11: Don’t care * リードすると常に “11” になります。	
				TB0CP1H/L へ UC10 値をキャプチャする時	TB0CP0H/L へ UC10 値をキャプチャする時	UC10 と TB0RG1H/L との一致時	UC10 と TB0RG0H/L との一致時		

タイマフリップフロップ (TB0FF0) の制御

<TB0FF0C1:0>	00	TB0FF0 の値を反転します。(ソフト反転)
	01	TB0FF0 を “1” にセットします
	10	TB0FF0 を “0” にセットします
	11	Don’t care

UC10 と TB0RG0H/L との一致時
タイマフリップフロップ (TB0FF0) の反転制御

<TB0E0T1>	0	反転禁止
	1	反転許可

UC10 と TB0RG1H/L との一致時
タイマフリップフロップ (TB0FF0) の反転制御

<TB0E1T1>	0	反転禁止
	1	反転許可

TB0CP0H/L へ UC10 値をキャプチャした時
タイマフリップフロップ (TB0FF0) の反転制御

<TB0C0T1>	0	反転禁止
	1	反転許可

TB0CP1H/L へ UC10 値をキャプチャした時
タイマフリップフロップ (TB0FF0) の反転制御

<TB0C1T1>	0	反転禁止
	1	反転許可

図 3.14.6 TMRB のレジスタ

Not Recommended for New Design

		7	6	5	4	3	2	1	0
TB0RG0L (1188H)	bit Symbol	−							
	Read/Write	W							
	リセット後	0							
TB0RG0H (1189H)	bit Symbol	−							
	Read/Write	W							
	リセット後	0							
TB0RG1L (118AH)	bit Symbol	−							
	Read/Write	W							
	リセット後	0							
TB0RG1H (118BH)	bit Symbol	−							
	Read/Write	W							
	リセット後	0							
TB1RG0L (1198H)	bit Symbol	−							
	Read/Write	W							
	リセット後	0							
TB1RG0H (1199H)	bit Symbol	−							
	Read/Write	W							
	リセット後	0							
TB1RG1L (119AH)	bit Symbol	−							
	Read/Write	W							
	リセット後	0							
TB1RG1H (119BH)	bit Symbol	−							
	Read/Write	W							
	リセット後	0							

注）上記レジスタは、リードモディファイライトは禁止です。

図 3.14.7　TMRB レジスタ

Not Recommended for New Design

3.14.4 モード別動作説明

(1) 16 ビットインタバルタイマモード

一定周期の割り込みを発生させる場合、タイマレジスタ TB0RG1H/L にインタバル時間を設定し、INTTB01 割り込みを発生します。

		7	6	5	4	3	2	1	0	
TB0RUN	←	–	0	X	X	–	–	X	0	TMRB0 を停止します。
INTETB0	←	X	1	0	0	X	0	0	0	INTTB01 をイネーブル (レベル 4) に、INTTB00 をディセーブルにします。
TB0FFCR	←	1	1	0	0	0	0	1	1	トリガディセーブルにします。
TB0MOD	←	0	0	1	0	0	1	*	*	入力クロックをプリスケーラ出力クロックにし、キャプチャ機能をディセーブルにします。
						(** = 01, 10, 11)				
TB0RG1H/L	←	*	*	*	*	*	*	*	*	インタバル時間を設定します。
		*	*	*	*	*	*	*	*	(16 ビット)
TB0RUN	←	–	0	X	X	–	1	X	1	TMRB0 を起動します。

X: Don't care、–: No change

(2) 16 ビットイベントカウンタモード

入力クロックを外部クロック（TB0IN0 端子入力）にすることでイベントカウンタにすることができます。

アップカウンタは TB0IN0 端子入力の立ち上がりエッジでカウントアップします。ソフトウエアキャプチャを行い、キャプチャ値をリードすることでカウント値をリードすることができます。

		7	6	5	4	3	2	1	0	
TB0RUN	←	–	0	X	X	–	–	X	0	TMRB0 を停止します。
PPCR	←	X	X	–	1	–	–	–	X	PP4 を TB0IN0 入力モードに設定します。
PPFC	←	–	–	–	1	–	–	–	X	
INTETB0	←	X	1	0	0	X	0	0	0	INTTB01 をイネーブル (レベル 4) に、INTTB00 をディセーブルにします。
TB0FFCR	←	1	1	0	0	0	0	1	1	トリガディセーブルにします。
TB0MOD	←	0	0	1	0	0	1	0	0	入力クロックを TB0IN0 端子入力にします。
TB0RG1H/L	←	*	*	*	*	*	*	*	*	カウント数を設定します。
		*	*	*	*	*	*	*	*	(16 ビット)
TB0RUN	←	–	0	X	X	–	1	X	1	TMRB0 を起動します。

X: Don't care、–: No change

イベントカウンタとして使用する場合も、プリスケーラは “RUN” にしてください (TB0RUN <TB0PRUN> = “1”)。

Not Recommended for New Design

(3) 16 ビット PPG (プログラマブル矩形波) 出力モード

任意周波数、任意デューティの矩形波 (プログラマブル矩形波)を出力することができます。出力パルスは、Low アクティブ、High アクティブどちらでも可能です。

アップカウンタ UC10 とタイマレジスタ TB0RG0H/L, TB0RG1H/L への設定値との一致によりタイマフリップフロップ TB0FF0 の反転トリガをかけることで、プログラマブル矩形波を TB0OUT0 端子より出力することができます。ただし、TB0RG0H/L と TB0RG1H/L の設定値は次の条件を満たす必要があります。

(TB0RG0H/L への設定値) < (TB0RG1H/L への設定値)

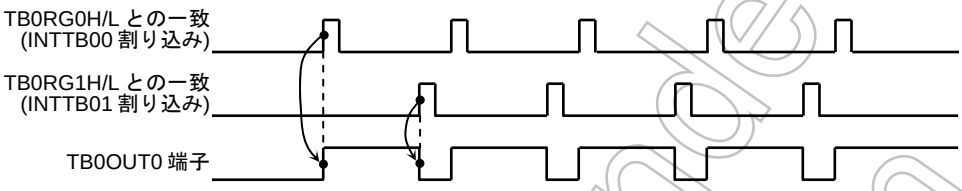


図 3.14.8 プログラマブル矩形波(PPG)出力波形例

このモードでは、TB0RG0H/L のダブルバッファをイネーブルにすることにより、TB0RG1H/L との一致で、レジスタバッファ 0 の値が TB0RG0H/L へシフトインされます。これにより、小さいデューティ(デューティを変化させるとき)への対応が容易に行えます。

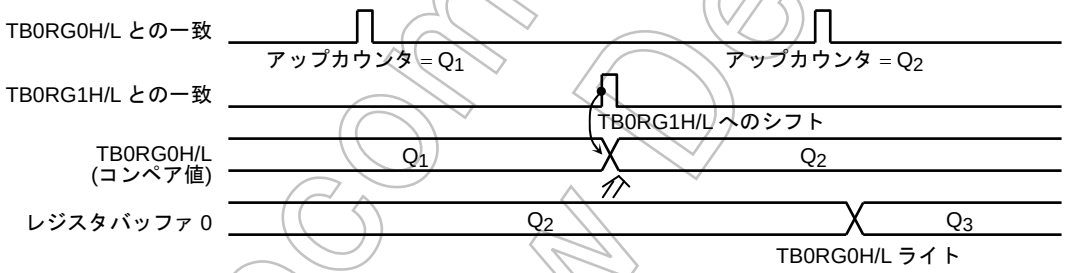


図 3.14.9 ダブルバッファの動作

注) TBxRGxH/L の設定値は、最小値 0001H~最大値 0000H(10000H に相当します)となります。又、設定値を最大値の"0000H"にした場合は、アップカウンタのオーバフローに同期します。

Not Recommended for New Design

このモードのブロック図を示します。

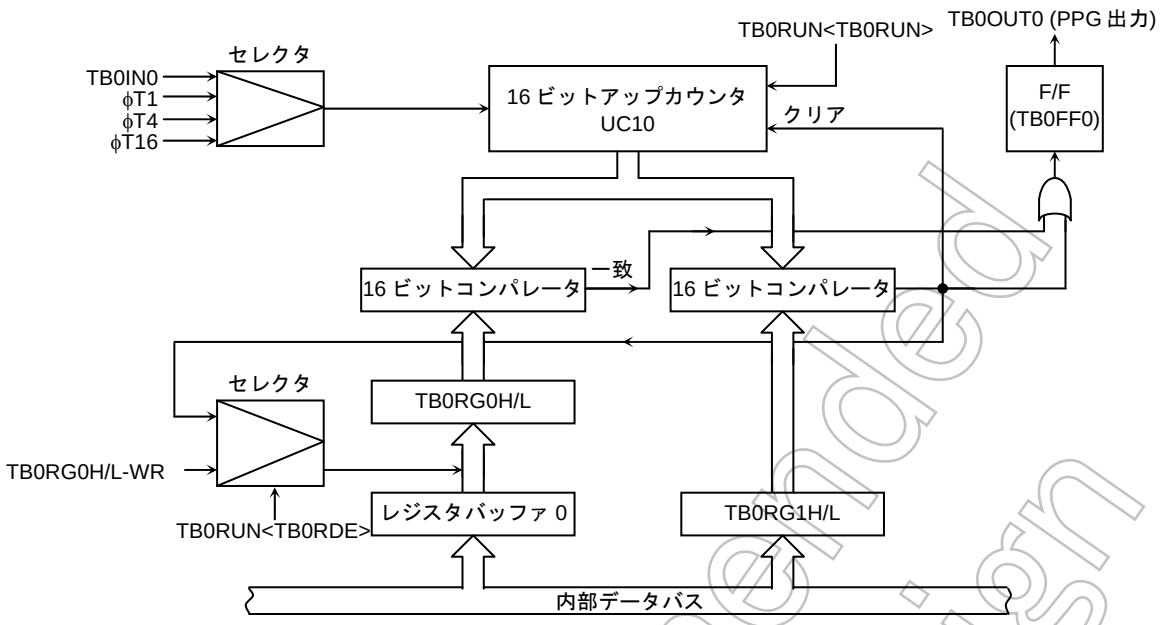


図 3.14.10 16 ビット PPG モードのブロック図

16 ビット PPG 出力モード時の各レジスタは、次のように設定します。

		7	6	5	4	3	2	1	0	
TB0RUN	←	0	0	X	X	–	–	X	0	TB0REG0H/L のダブルバッファディセーブルおよび TMRB0 を停止します。
TB0RG0H/L	←	*	*	*	*	*	*	*	*	デューティを設定します。
		*	*	*	*	*	*	*	*	(16 ビット)
TB0RG1H/L	←	*	*	*	*	*	*	*	*	周期を設定します。
		*	*	*	*	*	*	*	*	(16 ビット)
TB0RUN	←	1	0	X	X	–	0	X	0	TB0RG0H/L のダブルバッファイネーブルにします。(INTTB01 割り込みでデューティ/周期の変更)
TB0FFCR	←	X	X	0	0	1	1	1	0	TB0FF0 を TB0RG0H/L、TB0RG1H/L との一致検出で反転する ように設定します。また TB0FF0 の初期値を “0” にします。
TB0MOD	←	0	0	1	0	0	1	*	*	入力クロックをプリスケーラ出力クロックにし、キャプチャ機能ディセーブルにします。 (** = 01, 10, 11)
PPFC	←	–	1	–	–	–	–	–	X	PP6 を TB0OUT0 に割り付けます。
TB0RUN	←	1	0	X	X	–	1	X	1	TMRB0 を起動します。

X: Don't care、–: No change

Not Recommended for New Design

(4) キャプチャ機能を利用した応用例

キャプチャ機能を利用することにより次に示す例をはじめ、多くの応用が可能です。

1. 外部トリガパルスからのワンショットパルス出力
2. 周波数測定
3. パルス幅測定

1. 外部トリガパルスからのワンショットパルス出力

外部トリガパルスからのワンショットパルス出力は、次のように行います。

16 ビットアップカウンタ UC10 をプリスケーラ出力クロックを用いてフリーランニングでカウントアップさせておきます。TB0IN0 端子より外部トリガパルスを入力し、キャプチャ機能を用いて、外部トリガパルスの立ち上がりで、アップカウンタ値をキャプチャレジスタ TB0CP0H/L に取り込みます。

外部トリガパルスの立ち上がり時、割り込み INT6 が発生します。この割り込みで、タイマレジスタ TB0RG0H/L には、TB0CP0H/L の値 (c) とディレイタイム (d) を加算した値 (c + d) を設定します。タイマレジスタ TB0RG1H/L には、TB0RG0H/L の値とワンショットパルスのパルス幅 (p) を加算した値 (c + d + p) を設定します。

さらに、タイマフリップフロップコントロールレジスタ TB0FFCR<TB0E1T1, TB0E0T1> に “11” を設定し、UC10 と TB0RG0H/L との一致および TB0RG1H/L との一致により、タイマフリップフロップ TB0FF0 が反転するようにトリガイネーブルにします。ワンショットパルス出力後、INTTB01 の割り込み処理により、これをディセーブルに戻します。

なお、文中の (c)、(d)、(p) は、図 3.14.11「外部トリガパルスからのワンショットパルス出力 (ディレイあり)」のc、d、p と対応しています。

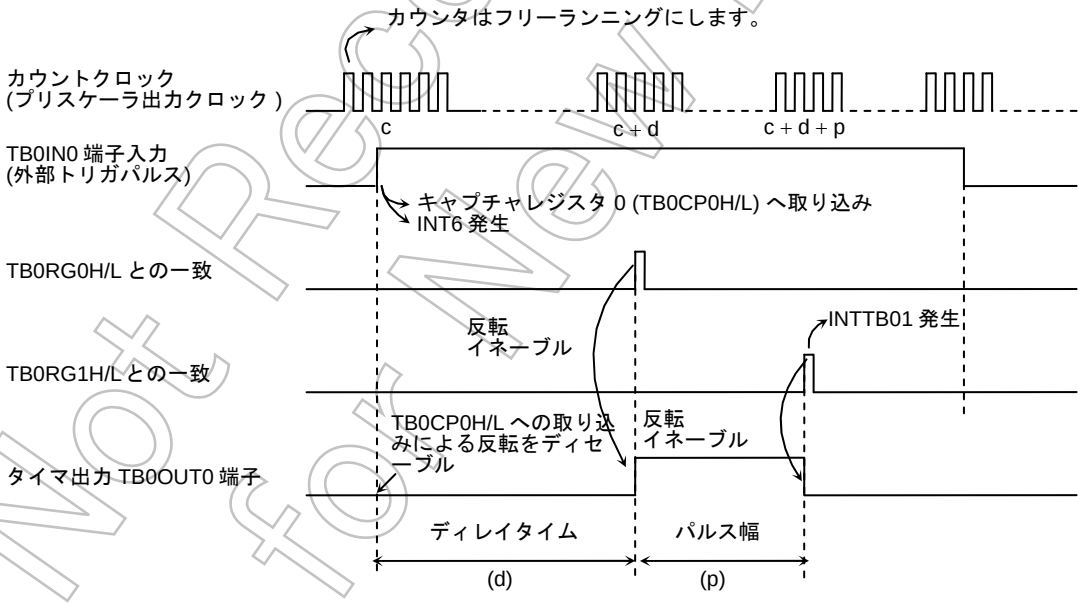


図 3.14.11 外部トリガパルスからのワンショットパルス出力 (ディレイあり)

Not Recommended for New Design

設定例: TB0IN0 端子からの外部トリガパルスに対して、3 ms ディレイで 2 ms のワンショットパルスを出力する場合

*クロック条件

システムクロック: f_{SYS}
プリスケーラクロック: $f_{SYS}/4$

メインでの設定

TB0MOD	←	X	X	1	0	1	0	0	1	フリーランニングにします。 φT1 でカウントさせます。 TB0IN0 入力の立ち上がりで TB0CP0H/L へ取り込みます。
TB0FFCR	←	X	X	0	0	0	0	1	0	TB0FF0 を“0”にクリアします。 TB0FF0 の反転をディセーブルにします。
PPFC	←	–	1	–	–	–	–	–	X	PP6 端子を TB0OUT0 に割り付けます。(ポート設定)
INTE56	←	X	1	0	0	X	–	–	–	INT6 をイネーブルにします。
INTETB0	←	X	0	0	0	X	0	0	0	INTTB00, INTTB01 をディセーブルにします。
TB0RUN	←	–	0	X	X	–	1	X	1	TMRB0 を起動します。

INT6 ルーチンでの設定

TB0RG0H/L	←	TB0CP0H/L + 3ms/φT1								
TB0RG1H/L	←	TB0RG0H/L + 2ms/φT1								
TB0FFCR	←	X	X	–	–	1	1	–	–	TB0RG0H/L, TB0RG1H/L との一致による TB0FF0 の反転をイネーブルにします。
INTETB0	←	X	1	0	0	X	0	0	0	INTTB01 をイネーブルにします。

INTTB01 ルーチンでの設定

TB0FFCR	←	X	X	–	–	0	0	–	–	TB0RG0H/L, TB0RG1H/L との一致による TB0FF0 の反転をディセーブルにします。
INTETB0	←	X	0	0	0	X	0	0	0	INTTB01 をディセーブルにします。

X: Don't care, –: No change

ディレイが不要な場合、TB0CP0H/L への取り込みによって TB0FF0 を反転させ、割り込み INT6 で TB0CP0H/L の値 (c) にワンショットパルスの幅 (p) を加算した値 (c + p) を TB0RG1H/L に設定します。TB0FF0 は、TB0RG1H/L と UC10 の一致によって反転するように、反転イネーブルを選択します。また、INTTB01 割り込みでこれをディセーブルに戻します。

Not Recommended for New Design

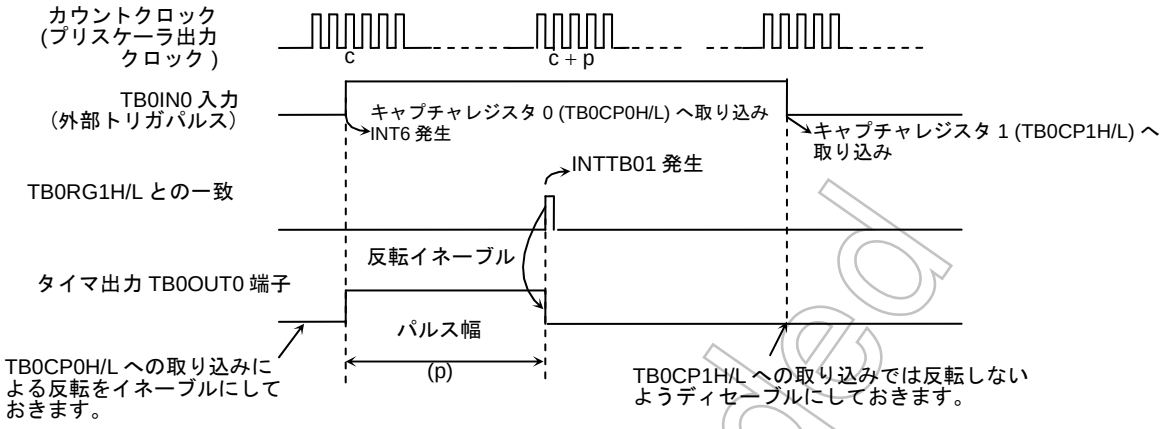


図 3.14.12 ワンショットパルス出力 (ディレイなし)

2. 周波数測定

キャプチャ機能を用いて外部クロックの周波数測定を行うことができます。

周波数測定は、16 ビットイベントカウンタモードと 8 ビットタイマ (TMRA01) を組み合せて行います (TMRA01 は、TA1FF を反転させることで測定時間の設定に用います)。

TMRB0 のカウントクロックは TB0IN0 端子入力を選択し、外部クロック入力によるカウント動作を行います。TB0MOD<TB0CPM1:0> には “11” を設定します。この設定により、8 ビットタイマ (TMRA01) のタイマフリップフロップ TA1FF の立ち上がりで、キャプチャレジスタ TB0CP0H/L に 16 ビットアップカウンタ UC10 のカウンタ値を取り込み、8 ビットタイマ (TMRA01) の TA1FF の立ち下がりで、キャプチャレジスタ TB0CP1H/L に UC10 のカウンタ値の取り込みを行います。

周波数は、8 ビットタイマの割り込み INTTA0 または INTTA1 で測定時間を基準にして TB0CP0H/L, TB0CP1H/L の差より求めます。

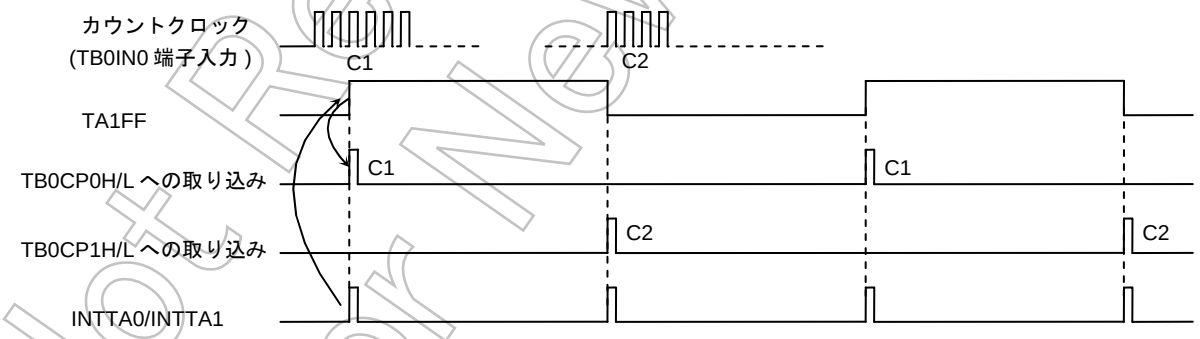


図 3.14.13 周波数測定

例えば、8 ビットタイマによる TA1FF の “1” レベル幅の設定値が 0.5 s で、TB0CP0H/L と TB0CP1H/L の差が 100 であれば、周波数は 100 ÷ 0.5 s = 200 Hz となります。

注) 上記例の周波数は、Duty50%にした時の値です。

Not Recommended for New Design

3. パルス幅測定

キャプチャ機能を用いて、外部パルスの “H” レベル幅を測定することができます。TB0IN0 端子より外部パルスを入力し、アップカウンタ UC10 はプリスケーラ出力クロックを用いてフリーランニングでカウントアップさせておきます。キャプチャ機能を用いて、外部パルスの立ち上がり/立ち下がり、それぞれのエッジでトリガをかけ、このときのアップカウンタ値をキャプチャレジスタ TB0CP0H/L, TB0CP1H/L に取り込みます。TB0IN0 端子の立ち下がりにより、INT6 が発生します。

“H” レベルパルス幅は、TB0CP0H/L と TB0CP1H/L の差を求め、その値に内部クロックの周期をかけることにより求めることができます。

例えば TB0CP0H/L と TB0CP1H/L の差が 100 で、プリスケーラ出力クロックの周期が 0.8 μs であれば、パルス幅は、100 × 0.8 μs = 80 μs となります。

なお、クロックソースにより定まる UC10 の最大カウント時間を超えるパルス幅の測定を行う場合は、注意が必要です。この場合は、ソフトウエアによる処理を行ってください。

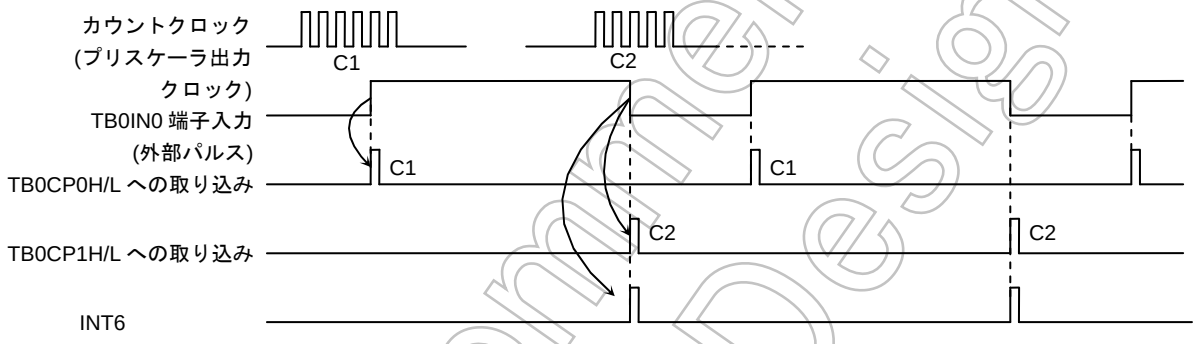


図 3.14.14 パルス幅測定

注) パルス幅測定は、TB0MOD<TB0CPM1:0> に “10” を設定することで行います。外部割り込み INT6 は、TB0IN0 入力の立ち下がりエッジで発生します。その他の設定では、INT6 は TB0IN0 入力の立ち上がりエッジで発生します。

また、外部パルスの “L” レベル幅を測定することもできます。この場合、2 回目の INT6 割り込み処理により、1 回目の C2 と 2 回目の C1 の差に、プリスケーラ出力クロックの周期をかけることにより求めることができます。

Not Recommended for New Design

3.15 シリアルチャネル(SIO)

シリアル入出力を 2 チャネル内蔵しています。SIO0、SIO1 呼びます。下記に示すように UART モード (非同期通信) および I/O インタフェースモード (同期通信) を選択できます。また、赤外線データ通信規格である「IrDA1.0」のハードウエア規格をサポートするためのデータ変復調機能があります。

- I/O インタフェース モード —— モード0： I/Oを拡張するためのI/Oデータの送受信とその同期信号 (SCLK) の送受信を行うモード
- 非同期通信 (UART) モード
  - モード1： 送受信データ長 7ビット
  - モード2： 送受信データ長 8ビット
  - モード3： 送受信データ長 9ビット

このうち、モード 1 とモード 2 は、パリティビットの付加が可能で、モード 3 はマスタコントローラがシリアルリンク（マルチコントローラシステム）でスレーブコントローラを起動させるためのウェイクアップ機能を有しています。

図 3.15.2、図 3.15.3に、各チャネルのブロック図を示します。

各チャネルは主に、プリスケーラ、シリアルクロック生成回路、受信バッファとその制御回路、送信バッファとその制御回路で構成されています。

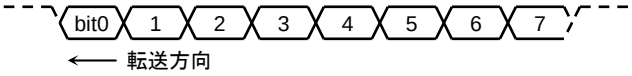
各チャネルはそれぞれ独立に動作します。いずれのチャネルも下記に示す 表 3.15.1の使用相違点を除いて同一の動作をしますので、SIO0 の場合のみ説明します。

表 3.15.1 SIO のチャネル別仕様相違点

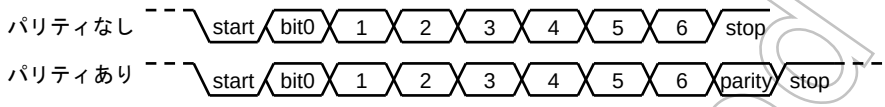
	チャネル 0	チャネル 1
端子名称	TXD0 (P90 または PP3) RXD0 (P91 または PP4) $\overline{CTS0}$/SCLK0 (P92 または PP5)	TXD1 (P90 または PP3) RXD1 (P91 または PP4) $\overline{CTS1}$/SCLK1 (P92 または PP5)
IrDA モード	あり	あり

Not Recommended for New Design

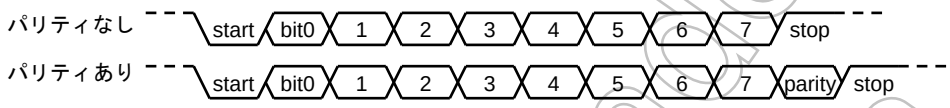
- モード 0 (I/O インタフェースモード)



- モード 1 (7 ビット UART モード)



- モード 2 (8 ビット UART モード)



- モード 3 (9 ビット UART モード)

図 3.15.1 データフォーマット

Not Recommended for New Design

3.15.1 ブロック図

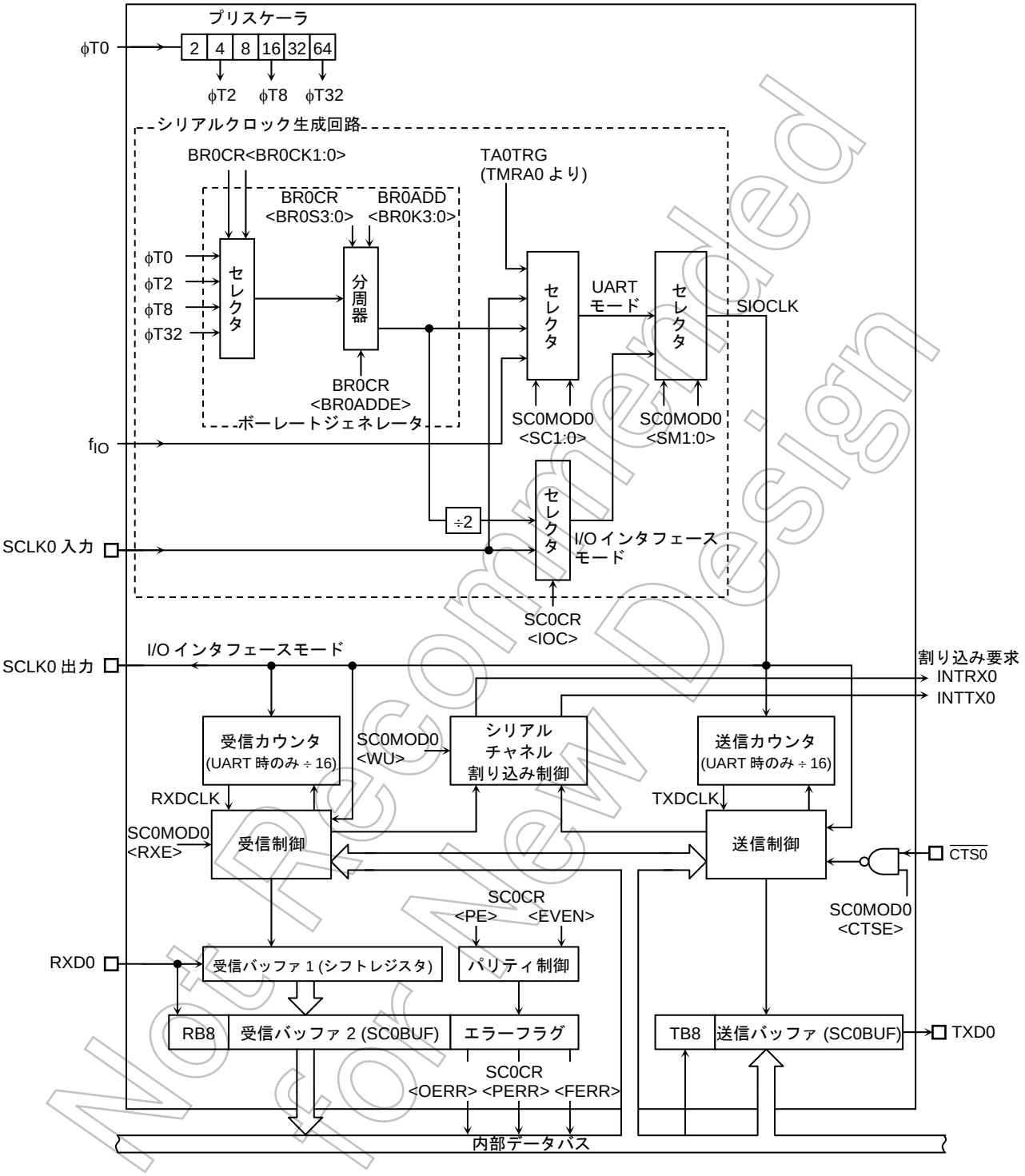


図 3.15.2 SIO0 ブロック図

Not Recommended for New Design

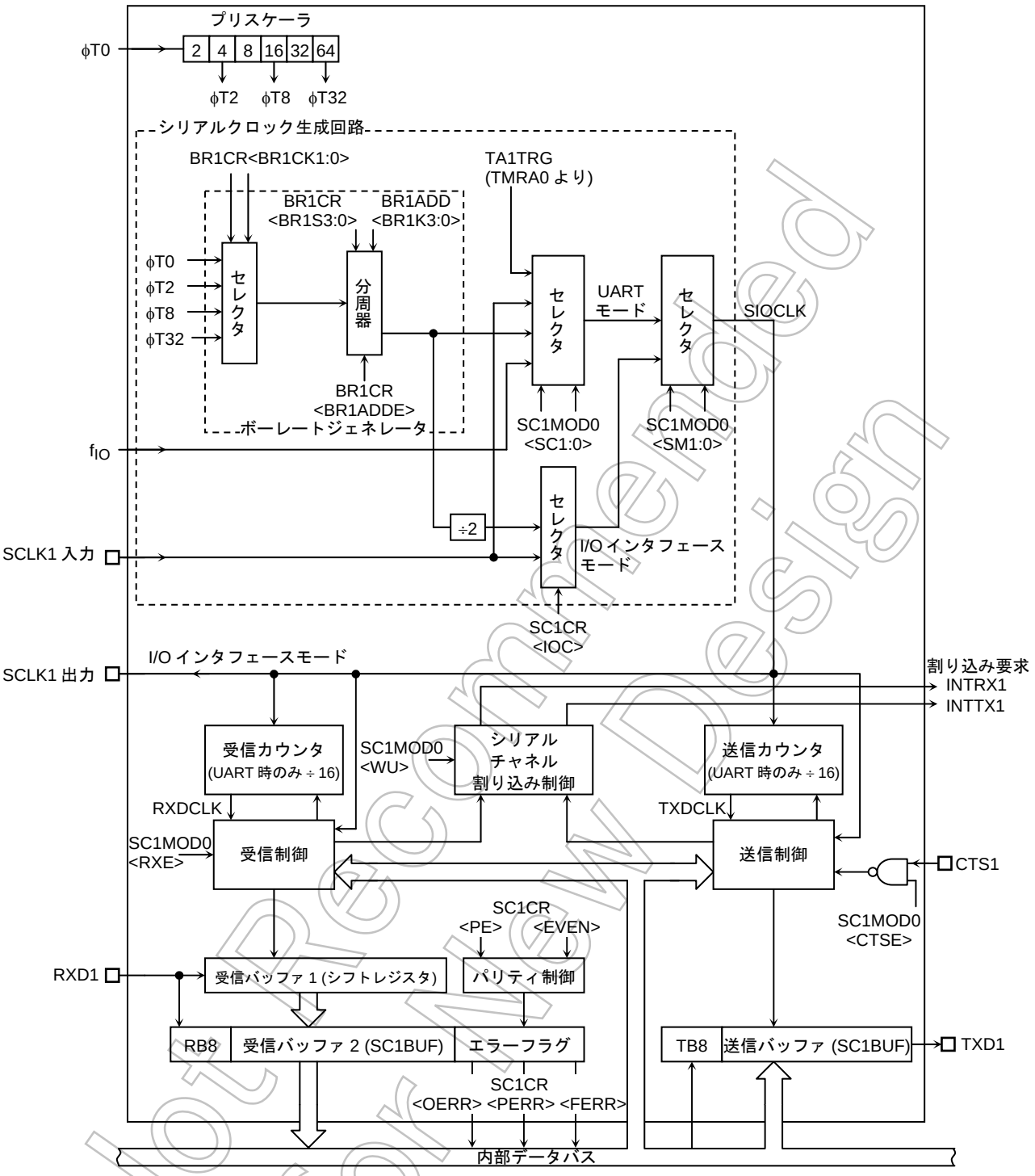


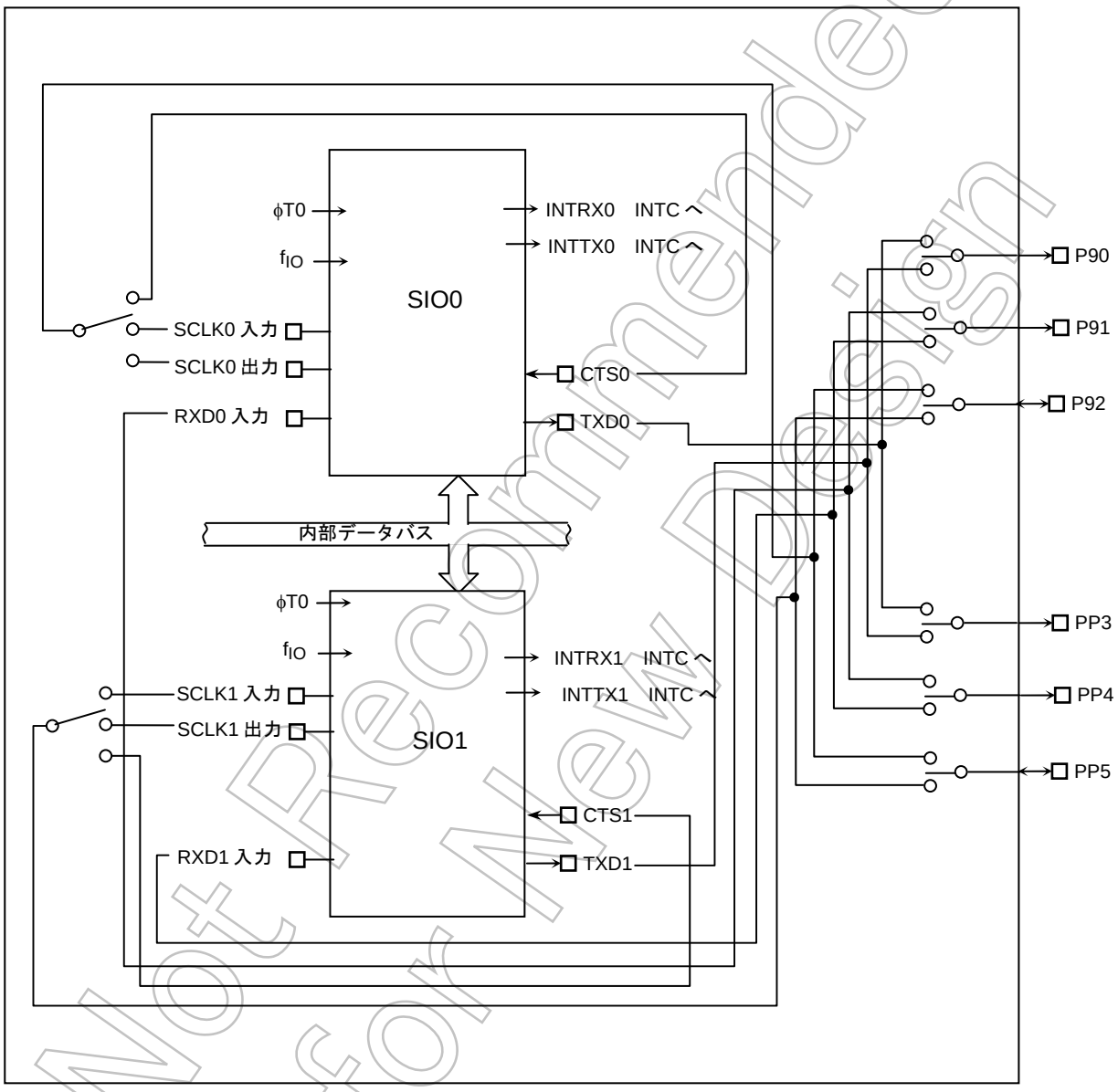
図 3.15.3 SIO1 ブロック図

Not Recommended for New Design

- ブロック図の追加説明

下記に、TMP92CF29A に内蔵される 2ch の SIO 回路の接続イメージを示します。

2ch の回路が内蔵されており、各々の信号を P90,P91,P92、または PP3,PP4,PP5 に設定することが出来ます。



Not Recommended for New Design

図 3.15.4　内部回路と外部ポートの接続イメージ図

注 1)上記はイメージを示しており、回路構成や設定方法は、ポートの章を参照してください。

注 2)外部ポートを切り替えて使用する場合は、内部回路を完全に停止させてから切り替えを行うようにしてください。

3.15.2 回路別動作説明

(1) SIO 部プリスケーラ、プリスケーラクロック選択

SIO0 の動作クロックを生成するために、6 ビットプリスケーラがあります。プリスケーラは、シリアル転送クロックに、ボーレートジェネレータを選択した場合動作することが可能となります。プリスケーラ出力クロックの分解能を 表 3.15.3に示します。

表 3.15.2 ボーレートジェネレータへのプリスケーラクロック分解能

–	クロックギア選択 SYSCR1 <GEAR2:0>	–	ボーレートジェネレータ入力クロック SIO 部プリスケーラ BR0CR<BR0CK1:0>			
			φT0(1/1)	φT2(1/4)	φT8(1/16)	φT32(1/64)
fc	000(1/1)	1/4	fc/4	fc/16	fc/64	fc/256
	001(1/2)		fc/8	fc/32	fc/128	fc/512
	010(1/4)		fc/16	fc/64	fc/256	fc/1024
	011(1/8)		fc/32	fc/128	fc/512	fc/2048
	100(1/16)		fc/64	fc/256	fc/1024	fc/4096

ボーレートジェネレータには、プリスケーラ出力クロックよりφT0, φT2, φT8, φT32 の 4 種類のクロックが用いられます。

Not Recommended for New Design

(2) ボーレートジェネレータ

ボーレートジェネレータは、シリアルチャネルの転送速度を定める送受信クロックを生成するための回路です。

ボーレートジェネレータへの入力クロックは、SIO 部 6 ビットプリスケーラより、φT0、φT2、φT8、φT32 を用います。この入力クロックの選択はボーレートジェネレータコントロールレジスタ BR0CR<BR0CK1:0>で設定します。

ボーレートジェネレータは、1、N + (16 – K) /16、16 分周が可能な分周器を内蔵しており、BR0CR<BR0ADDE><BR0S3:0>、BR0ADD<BR0K3:0>の設定に従い分周を行い転送速度を決定します。

- UART モードの場合

(1) BR0CR <BR0ADDE> = “0”の場合

BR0ADD <BR0K3:0> の設定は無視され、BR0CR <BR0S3:0> に設定された値”N”に従い N 分周を行います。(N = 1、2、3 … 16)

(2) BR0CR <BR0ADDE> = “1”の場合

N + (16 – K)/16 分周機能がイネーブルになり BR0CR <BR0S3:0> に設定された値 “N” (N = 2、3 … 15)、BR0ADD <BR0K3:0> に設定された値 “K”に従い N + (16－K)/16 分周を行います。(K = 1、2、3 … 15)

注) N = 1 および 16 のときは N + (16－K)/16 分周機能は禁止となりますので必ず BR0CR <BR0ADDE> = “0” に設定してください。

- I/O インタフェースモードの場合

I/O インタフェースモード時は N + (16－K)/16 分周機能は使用できません。必ず BR0CR <BR0ADDE> = “0”に設定して N 分周を行ってください。

次に、ボーレートジェネレータを使用した場合のボーレートの算出方法を示します。

・ UART モード

$$\text{ボーレート} = \frac{\text{ボーレートジェネレータの入力クロック}}{\text{ボーレートジェネレータの分周値}} \div 16$$

・ I/O インタフェースモード

$$\text{ボーレート} = \frac{\text{ボーレートジェネレータの入力クロック}}{\text{ボーレートジェネレータの分周値}} \div 2$$

Not Recommended for New Design

- 整数分周 (N 分周) の場合

f_C = 19.6608MHz で入力クロック φT2、分周値 "N" (BR0CR<BR0S3:0>) =8、BR0CR<BR0ADDE> = "0"の場合の UART モードのボーレートは、

* クロック条件 { クロックギア : 1/1

$$\text{ボーレート} = \frac{\text{ボーレートジェネレータの入力クロック}}{\text{ボーレートジェネレータの分周値}} \div 16$$

$$= \frac{f_C/16}{8} \div 16$$

$$= 19.6608 \times 10^6 \div 16 \div 8 \div 16 = 9600\ (\text{bps})$$ となります。

注) +(16-K)/16 分周機能は禁止に設定されるため BR0ADD <BR0K3:0> の設定は無視されます。

- N +(16-K)/16 分周 (UART モードのみ) の場合

また、f_C = 15.9744 MHz で入力クロックφT2、分周値 "N" (BR0CR<BR0S3:0>) = 6、"K" (BR0ADD<BR0K3:0>) = 8、BR0CR<BR0ADDE> = 1 の場合のボーレートは、

* クロック条件 { クロックギア : 1/1

$$\text{ボーレート} = \frac{\text{ボーレートジェネレータの入力クロック}}{\text{ボーレートジェネレータの分周値}} \div 16$$

$$= \frac{f_C/16}{6 + \frac{(16-8)}{16}} \div 16$$

$$= 15.9744 \times 10^6 \div 16 \div (6 + \frac{8}{16}) \div 16 = 9600\ (\text{bps})$$ となります。

表 3.15.3にUARTモードのボーレートの例を示します。

また、外部クロック入力をシリアルクロックに使用することもできます。この場合のボーレートの算出方法を示します。

- UART モード

  Baud Rate = 外部クロック入力 ÷ 16

  ただし、(外部クロック入力周期) ≧ 4/f_{SYS} を満足する必要があります。

- I/O インタフェースモード

  Baud Rate = 外部クロック入力

  ただし、(外部クロック入力周期)≧16/f_{SYS} を満足する必要があります。

Not Recommended for New Design

表 3.15.3 UART ボーレートの選択

(ボーレートジェネレータ使用、BR0CR <BR0ADDE> = 0 の場合) (単位: kbps)

f_{SYS} [MHz]	入力クロック / 分周値 N	φT0 (f_{SYS}/4)	φT2 (f_{SYS}/16)	φT8 (f_{SYS}/64)	φT32 (f_{SYS}/256)
7.3728	1	115.200	28.800	7.200	1.800
↑	3	38.400	9.600	2.400	0.600
↑	6	19.200	4.800	1.200	0.300
↑	A	11.520	2.880	0.720	0.180
↑	C	9.600	2.400	0.600	0.150
↑	F	7.680	1.920	0.480	0.120
9.8304	1	153.600	38.400	9.600	2.400
↑	2	76.800	19.200	4.800	1.200
↑	4	38.400	9.600	2.400	0.600
↑	5	30.720	7.680	1.920	0.480
↑	8	19.200	4.800	1.200	0.300
↑	0	9.600	2.400	0.600	0.150
44.2368	6	115.20	28.800	7.200	1.800
↑	9	76.800	19.200	4.800	1.200
58.9824	2	460.800	115.200	28.800	7.200
↑	3	307.200	76.800	19.200	4.800
↑	5	184.320	46.080	11.520	2.880
↑	6	153.600	38.400	9.600	2.400
↑	8	115.200	28.800	7.200	1.800
↑	C	76.800	19.200	4.800	1.200
↑	F	61.440	15.360	3.840	0.960
73.728	1	1152.000	288.000	72.000	18.000
↑	3	384.000	96.000	24.000	6.000
↑	6	192.000	48.000	12.000	3.000
↑	A	115.200	28.800	7.200	1.800
↑	C	96.000	24.000	6.000	1.500
↑	F	76.800	19.200	4.800	1.200

注 1) I/O インタフェースモード時の転送レートは本表の値の 8 倍になります。

UART モード時、シリアル送信クロックにタイマの一致出力(TA0TRG)が使用できます。

タイマのトリガ出力使用時に必要なタイマ出力周波数の算出方法

TA0TRG の周波数 = ボーレート × 16

注 2) I/O インタフェースモードでは, TMRA0 一致検出信号を転送クロックとして使用することはできません。

Not Recommended for New Design

(3) シリアルクロック生成回路

送受信基本クロックを生成する回路です。

- I/O インタフェースモードの場合

SC0CR <IOC> = “0” の SCLK 出力モードのときは、前記ボーレートジェネレータの出力を 2 分周し、基本クロックをつくります。

SC0CR <IOC> = “1” の SCLK 入力モードのときは、SC0CR <SCLKS> の設定に従って立ち上がり/立ち下がりエッジを検出し、基本クロックをつくります。

- 非同期通信 (UART) モードの場合

SC0MOD0 <SC1:0> の設定により、前記ボーレートジェネレータからのクロック、内部クロック f_{IO}、タイマ TMRA0 からの一致検出信号、または外部クロック (SCLK0 端子) のいずれかを選択し、基本クロック SIOCLK をつくります。

(4) 受信カウンタ

受信カウンタは、非同期通信 (UART) モードで用いられる 4 ビットのバイナリカウンタで、SIOCLK でカウントアップされます。データ 1 ビットの受信に SIOCLK が 16 発用いられ 7, 8, 9 発目でデータをサンプリングします。

3 度のデータサンプリングによる多数決論理によって受信データを判断しています。

例えば、7, 8, 9 発目のクロックで、データが “1”, “0”, “1”であれば、受信データは “1”と判断され、また、“0”, “0”, “1”であれば “0” と判断されます。

(5) 受信制御部

- I/O インタフェースモードの場合

SC0CR <IOC> = “0” の SCLK 出力モードのときは、SC0CR <SCLKS> の設定に従って SCLK0 端子へ出力されるシフトクロックの立ち上がり/立ち下がりエッジで RXD0 端子をサンプリングします。

SC0CR <IOC> = “1” の SCLK 入力モードのときは、SC0CR <SCLKS> の設定に従って SCLK 入力の立ち上がり/立ち下がりエッジで RXD0 端子をサンプリングします。

- 非同期通信 (UART) モードの場合

受信制御部は、多数決論理によるスタートビット検出回路を持ち、3 度のサンプリング中 2 度以上 “0” であれば正常なスタートビットと判断し、受信動作を開始します。

データ受信中も、多数決論理により受信データを判断しています。

Not Recommended for New Design

(6) 受信バッファ

受信バッファは、オーバランエラーを防ぐため二重構造となっています。受信バッファ 1 (シフトレジスタ型) に受信データが 1 ビットずつ格納され、7 ビットまたは 8 ビットのデータがそろうともう一方の受信バッファ 2 (SC0BUF) へ移されるとともに割り込み INTRX0 が発生します。

CPU は受信バッファ 2 (SC0BUF)をリードします。CPU が受信バッファ 2 (SC0BUF) をリードする前でも、受信データは受信バッファ 1 へ格納することができます。

ただし、受信バッファ 1 に次のデータが全ビット受信される前に受信バッファ 2 (SC0BUF) をリードしなければオーバランエラーとなります。オーバランエラーが発生した場合、受信バッファ 2 および SC0CR <RB8> の内容は保存されていますが、受信バッファ 1 の内容は失われます。

8 ビット UART のパリティ付加の場合のパリティビット、9 ビット UART モードの場合の最上位ビットは SC0CR <RB8> に格納されます。

9 ビット UART の場合、SC0MOD0 <WU> を "1" にすることによって、スレーブコントローラのウェイクアップ動作が可能で、SC0CR <RB8> = "1" のときのみ、割り込み INTRX0 が発生します。

SIO 割り込みモードは SIMC レジスタによって設定可能です。

注 1) SC0CR<RB8>については受信バッファはダブルバッファ構造に対応していません。

注 2) 受信バッファ 1 から受信バッファ 2 への転送タイミングと CPU からのリードタイミングが同時の場合、不定になることがあります。これを避けるため、受信割り込みをトリガにして、受信バッファ 2 をリードするようにして下さい。

(7) 受信割り込み使用時の注意

・受信割り込みは、割り込みの検出方法をレベルとエッジから選択できます。詳細は、3.6.3(3)機能切り替えレジスタ SIMC を参照して下さい。

・受信割り込みは、割り込み検出方法がレベルの場合、レベルで出続けるため、割り込みジャンプ後も割り込み許可状態にしていると何度でも同じ割り込みが発生します。

(8) 送信カウンタ

送信カウンタは非同期通信 (UART) モードで用いられる 4 ビットのバイナリカウンタで、受信カウンタ同様 SIOCLK でカウントされ、16 発ごとに送信クロック TXDCLK を生成します。

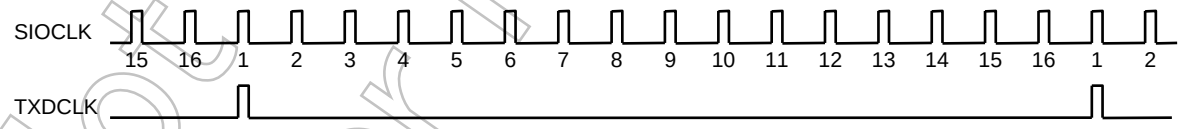


図 3.15.5 送信クロックの生成

Not Recommended for New Design

(9) 送信制御部

- I/O インタフェースモードの場合

SC0CR <IOC> = “0” の SCLK 出力モードのときは、SC0CR <SCLKS> の設定に従って SCLK0 端子より出力されるシフトクロックの立ち上がり/立ち下がりエッジで送信バッファのデータを 1 ビットずつ TXD0 端子へ出力します。

SC0CR <IOC> = “1” の SCLK 入力モードのときは、SC0CR <SCLKS> の設定に従って SCLK 入力の立ち上がり/立ち下がりエッジで送信バッファのデータを 1 ビットずつ TXD0 端子へ出力します。

- 非同期通信 (UART) モード

送信バッファに CPU から送信データがライトされると次の TXDCLK の立ち上がりエッジに同期して送信を開始します。

Not Recommended for New Design

ハンドシェイク機能

$\overline{\text{CTS0}}$ を使用することにより、1 データフォーマット単位での送信が可能となり、オーバランエラーの発生を防ぐことができます。この機能は SC0MOD<CTSE>の設定によってイネーブル/ディセーブルできます。

送信は $\overline{\text{CTS0}}$ 端子が “H” レベルになると、現在送信中のデータを送信完了後、$\overline{\text{CTS0}}$ 端子が “L” レベルに戻るまで送信を停止します。ただし、INTTX0 割り込みは発生し、次の送信データを CPU に要求し、送信バッファにデータをライトし、送信待機します。

なお、$\overline{\text{RTS}}$ 端子はありませんが、受信側にて受信が終了したとき (受信割り込みルーチン内) に $\overline{\text{RTS}}$ 機能に割り当てた任意の 1 ポートを “H” レベルにして、送信側に送信の一時停止を要求することにより容易にハンドシェイク機能を構築できます。

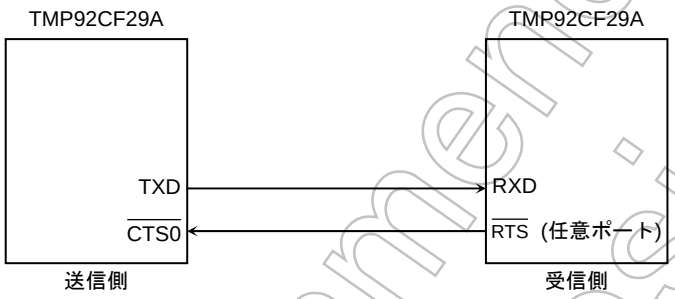
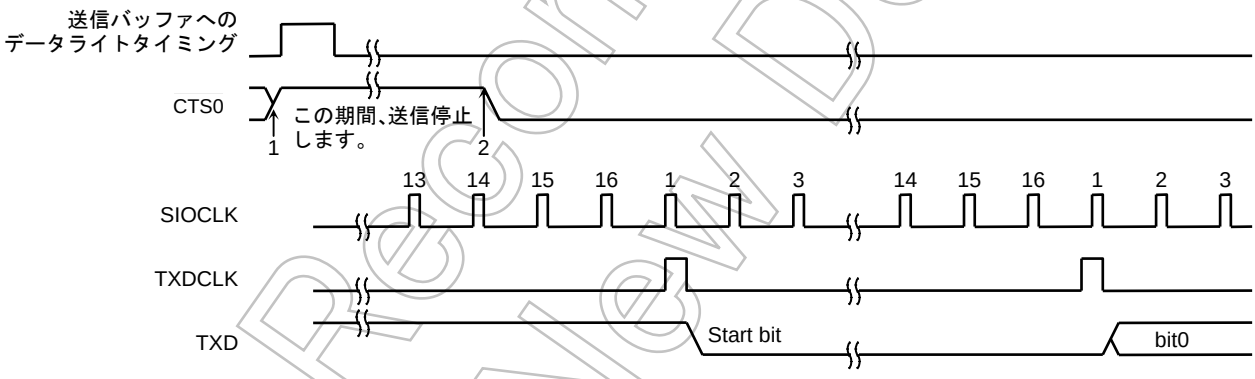


図 3.15.6 ハンドシェイク機能



注 1) 送信中に $\overline{\text{CTS0}}$ 信号を立ち上げた場合は、送信終了後、次のデータの送信を停止します。

注 2) $\overline{\text{CTS0}}$ 信号立ち下がり後の最初の TXDCLK クロックの立ち下がりから送信を開始します。

図 3.15.7 $\overline{\text{CTS0}}$ (Clear to send) 信号のタイミング

Not Recommended for New Design

(10)送信バッファ

送信バッファ SC0BUF は CPU よりライトされた送信データを最下位ビット(LSB)から順にシフトアウトし送出されます。全ビットシフトアウトされると送信バッファエンプティで INTTX0 割り込みが発生します。

(11)パリティ制御回路

シリアルチャネルコントロールレジスタ SC0CR <PE> を “1” に設定するとパリティ付の送信を行います。ただし、7 ビット UART または 8 ビット UART モードのみパリティ付加が可能です。SC0CR<EVEN> レジスタによって偶数あるいは奇数 パリティを選択することができます。

送信時、パリティ制御回路は送信バッファ SC0BUF にライトされたデータにより自動的にパリティを発生し、7 ビット UART モードのときは SC0BUF <TB7> に、8 ビット UART モードのときは SC0MOD0 <TB8> にパリティを格納して、送信します。なお、<PE> と <EVEN> の設定は、送信データを送信バッファにライトする前に行ってください。

受信時、受信バッファ 1 にシフトインされ、受信バッファ 2 (SC0BUF) に移されたデータにより、パリティを自動発生し、7 ビット UART モードのときは、SC0BUF <RB7> と、8 ビット UART モードのときは、SC0CR<RB8> のパリティと比較され、異なっているとパリティエラーが発生し、SC0CR <PERR> フラグがセットされます。

Not Recommended for New Design

(12)エラーフラグ

受信データの信頼性をあげるために 3 つのエラーフラグが用意されています。

1. オーバランエラー <OERR>

受信バッファ 2 (SC0BUF) に有効データが格納されている状態で受信バッファ 1 に次のデータが全ビット受信されるとオーバランエラーが発生します。

オーバランエラー発生時の処理フロー例を下記に示します。

(受信割り込みルーチン)

1) 受信バッファをリードする
2) エラーフラグをリードする
3) if<OERR>= “1”の時
   (ア) 受信禁止に設定 (<RXE>に “0”をライト)
   (イ) 現フレームの終了待ち
   (ウ) 受信バッファのリード
   (エ) エラーフラグのリード
   (オ) 受信許可に設定 (<RXE>に “1”をライト)
   (カ) 再送信要求
4) その他の処理

注) オーバランエラーは、受信バッファ 2(SC0BUF)のみが対象になります。従って、SC0CR<RB8>をリードしなかった場合は、オーバランエラーは発生しません。

2. パリティエラー <PERR>

受信バッファ 2 (SC0BUF) に移されたデータから発生したパリティと、RXD 端子より受信したパリティビットとを比較し、異なっているとパリティエラーが発生します。

注) パリティエラーフラグはリードするとクリアされますが、2 回検出をしているため、2 回の間にパリティエラーフラグをリードした場合、クリアされてないように見えることがあります。これを避けるため、受信割り込みをトリガにしてパリティエラーフラグのリードをするようにして下さい。

3. フレーミングエラー <FERR>

受信データのストップビットを中央付近で 3 回サンプリングし、多数決した結果が “0” の場合フレーミングエラーが発生します。

Not Recommended for New Design

(13)各信号発生タイミング

1. UART モードの場合

受信

モード	9 ビット (注)	8 ビット+パリティ (注)	8 ビット, 7 ビット+パリティ, 7 ビット
割り込み発生 タイミング	最終ビット (Bit 8) の中央付近	最終ビット (パリティビット) の中央付近	ストップビットの中央付近
フレーミングエラー 発生タイミング	ストップビットの中央付近	ストップビットの中央付近	ストップビットの中央付近
パリティ エラー 発生タイミング	—	最終ビット (パリティビット) の中央付近	ストップビットの中央付近
オーバラン エラー 発生タイミング	最終ビット (Bit 8) の中央付近	最終ビット (パリティビット) の中央付近	ストップビットの中央付近

注) 9 ビットモード、8 ビット + パリティモードでは、割り込みは 9 ビット目と同時に発生します。そのため、割り込み発生後、1 ビット転送分(ストップビットが転送されるまで)時間をおいてフレーミングエラーのチェックをしてください。

送信

モード	9-ビット	8 ビット+パリティ	8 ビット, 7 ビット+パリティ, 7 ビット
割り込み タイミング	ストップビット送信される直前	ストップビット送信される直前	ストップビット送信される直前

2. I/O インタフェースモードの場合

送信 割り込み タイミング	SCLK 送信モード	最終ビット終了直後 (図 3.15.5参照)
	SCLK 入力モード	最終 SCLK の立ち上がり直後 (立ち上がりモード), 立ち下がりモードでは立ち下がり直後 (図 3.15.6参照)
受信 割り込み タイミング	SCLK 送信モード	受信バッファ 2 (SC0BUF) へ受信データを移すタイミング (最終SCLKの直後) (図 3.15.22参照)
	SCLK 入力モード	受信バッファ 2 (SC0BUF) へ受信データを移すタイミング (最終SCLKの直後) (図 3.15.23参照)

Not Recommended for New Design

3.15.3 SFR説明

SC0MOD0 (1202H)	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit Symbol	TB8	CTSE	RXE	WU	SM1	SM0	SC1	SC0
Read/Write	R/W							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
機能	送信データビット 8	ハンドシェイク機能制御 0: CTS ディセーブル 1: CTS イネーブル	受信機能 0:受信禁止 1:受信許可	ウェイクアップ機能 0: ディセーブル 1: イネーブル	シリアル転送モード 00: I/O インタフェースモード 01: 7 ビット長 UART モード 10: 8 ビット長 UART モード 11: 9 ビット長 UART モード		シリアル転送クロック (UART 用) 00: タイマ TA0TRG 01: ボーレートジェネレータ 10: 内部クロック f_{IO} 11: 外部クロック (SCLK0 入力)	

シリアル転送クロック (UART 用)

00	タイマ TMRA0 の一致検出信号
01	ボーレートジェネレータ
10	内部クロック f_{IO}
11	外部クロック (SCLK0 入力)

注) I/O インタフェースモード時は、シリアルコントロールレジスタ (SC0CR) でクロックを選択します。

シリアル転送モード

00	I/O インタフェースモード	
01	UART モード	7 ビットモード
10		8 ビットモード
11		9 ビットモード

ウェイクアップ機能

	9 ビット UART	その他のモード
0	受信するごとに割り込み	don't care
1	SC0CR<RB8> = "1" のときのみ割り込み	

受信機能

0	受信禁止
1	受信許可

ハンドシェイク機能($\overline{CTS0}$ 端子)

0	ディセーブル(常時送信可能)
1	イネーブル

送信データビット 8

Not Recommended for New Design

図 3.15.8 シリアルモードコントロールレジスタ 0 (SIO0 用、SC0MOD0)

SC1MOD0 (120AH)	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit Symbol	TB8	CTSE	RXE	WU	SM1	SM0	SC1	SC0
Read/Write	R/W							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
機能	送信データビット 8	ハンドシェイク機能制御 0: CTS ディセーブル 1: CTS イネーブル	受信機能 0: 受信禁止 1: 受信許可	ウェイクアップ機能 0: ディセーブル 1: イネーブル	シリアル転送モード 00: I/O インタフェースモード 01: 7 ビット長 UART モード 10: 8 ビット長 UART モード 11: 9 ビット長 UART モード		シリアル転送クロック (UART 用) 00: *タイマ TA0TRG 01: ボーレートジェネレータ 10: 内部クロック f_{IO} 11: 外部クロック (SCLK1 入力)	

シリアル転送クロック (UART 用)

00	タイマ TMRA0 の一致検出信号
01	ボーレートジェネレータ
10	内部クロック f_{IO}
11	外部クロック (SCLK1 入力)

注) I/O インタフェースモード時は、シリアルコントロールレジスタ (SC1CR) でクロックを選択します。

シリアル転送モード

00	I/O インタフェースモード	
01	UART モード	7 ビットモード
10		8 ビットモード
11		9 ビットモード

ウェイクアップ機能

	9 ビット UART	その他のモード
0	受信するごとに割り込み	don't care
1	SC1CR<RB8> = "1" のときのみ割り込み	

受信機能

0	受信禁止
1	受信許可

ハンドシェイク機能($\overline{\text{CTS0}}$ 端子)

0	ディセーブル(常時送信可能)
1	イネーブル

送信データビット 8

Not Recommended for New Design

注) SIO1 のソースクロックをタイマから入力できますが、SIO0 のタイマと同じ TMRA0 のみの使用が可能です。
SIO0 と異なるタイマの使用は出来ませんのでご注意ください。

図 3.15.9 シリアルモードコントロールレジスタ 1 (SIO1 用、SC1MOD0)

SC0CR (1201H)

リードモディファイライトはできません

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	RB8	EVEN	PE	OERR	PERR	FERR	SCLKS	IOC
Read/Write	R	R/W		R(Read すると 0 クリアされます。)			R/W	
リセット後	不定	0	0	0	0	0	0	0
機能	受信データビット 8	パリティ 0: Odd 1: Even	パリティ付加 0: 禁止 1: 許可	0:エラー未検出 1:エラー検出 オーバラン	パリティ	フレーミング	SCLK0 のエッジ選択 0:SCLK0↑ 1:SCLK0↓	0:ボーレートジェネレータ 1: SCLK0 端子入力

I/O インタフェース入力クロック選択

0	ボーレートジェネレータ
1	SCLK0 端子入力

SCLK0 入力/出力動作時のエッジ選択

0	SCLK0 の立ち上がりエッジでデータの送受信
1	SCLK0 の立ち下がりエッジでデータの送受信

フレーミングエラーフラグ
パリティエラーフラグ
オーバランエラーフラグ
} 読み出すと"0"にクリアされます。

パリティ付加イネーブル

0	禁止(ディセーブル)
1	許可(イネーブル)

偶数パリティ付加/チェック

0	奇数(Odd)パリティ
1	偶数(Even)パリティ

受信データビット 8

注) エラーフラグはリードされるとすべてクリアされるため、ビットテスト命令を用いて 1 ビットのみのテストは行わないでください。

図 3.15.10 シリアルコントロールレジスタ (SIO0 用、SC0CR)

Not Recommended for New Design

SC1CR (1209H)

リードモディファイライトはできません

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	RB8	EVEN	PE	OERR	PERR	FERR	SCLKS	IOC
Read/Write	R	R/W		R(Read すると 0 クリアされます。)			R/W	
リセット後	不定	0	0	0	0	0	0	0
機能	受信データビット 8	パリティ 0: Odd 1: Even	パリティ付加 0: 禁止 1: 許可	0:エラー未検出 1:エラー検出			SCLK1 のエッジ選択 0:SCLK1↑ 1:SCLK1↓	0:ボーレートジェネレータ 1: SCLK1 端子入力
				オーバラン	パリティ	フレーミング		

I/O インタフェース入力クロック選択

0	ボーレートジェネレータ
1	SCLK1 端子入力

SCLK0 入力/出力動作時のエッジ選択

0	SCLK1 の立ち上がりエッジでデータの送受信
1	SCLK1 の立ち下がりエッジでデータの送受信

フレーミングエラーフラグ
パリティエラーフラグ
オーバランエラーフラグ
} 読み出すと“0”にクリアされます。

パリティ付加イネーブル

0	禁止(ディセーブル)
1	許可(イネーブル)

偶数パリティ付加/チェック

0	奇数(Odd)パリティ
1	偶数(Even)パリティ

受信データビット 8

注) エラーフラグはリードされるとすべてクリアされるため、ビットテスト命令を用いて 1 ビットのみのテストは行わないでください。

図 3.15.11 シリアルコントロールレジスタ (SIO1 用、SC1CR)

Not Recommended for New Design

BR0CR (1203H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	ー	BR0ADDE	BR0CK1	BR0CK0	BR0S3	BR0S2	BR0S1	BR0S0
Read/Write	R/W							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
機能	“0”をライトしてください	+(16–K)/16 分周機能 0: ディセーブル 1: イネーブル	00: φT0 01: φT2 10: φT8 11: φT32		分周値 “N” の設定			

+(16–K)/16 分周機能イネーブル

0	禁止(ディセーブル)
1	許可(イネーブル)

ボーレートジェネレータの入力クロックの選択

00	内部クロック φT0
01	内部クロック φT2
10	内部クロック φT8
11	内部クロック φT32

BR0ADD (1204H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol					BR0K3	BR0K2	BR0K1	BR0K0
Read/Write					R/W			
リセット後					0	0	0	0
機能					N+(16–K)/16 分周の K 値の設定			

ボーレートジェネレータの分周値の設定

	BR0CR<BR0ADDE> = “1”		BR0CR<BR0ADDE> = “0”
BR0CR <BR0S3:0> / BR0ADD <BR0K3:0>	0000(N = 16) or 0001(N = 1)	0010(N = 2) ~ 1111(N = 15)	0001(N = 1)(ONLY UART) ~ 1111(N = 15) 0000(N = 16)
0000	禁止	禁止	N 分周
0001(K = 1) ~ 1111(K = 15)	禁止	$N + \frac{16-K}{16}$ 分周	

注 1) + (16-K)/16 分周の使用可否

N	UART モード	I/O モード
2 to 15	○	×
1 , 16	×	×

ボーレートジェネレータ分周値の“1”分周は UART モードで、+ (16 – K)/16 分周機能を使用しないときのみ設定可能です。I/O インタフェースでは設定しないでください。

注 2) + (16 – K)/16 分周機能を使用する場合、かならず BR0ADD <BR0K3:0> に K 値 (K = 1~15) を設定後に BR0CR <BR0ADDE> = “1” を設定してください。BR0ADD レジスタの未使用ビットは、ライトしても動作に影響ありません。リード時は、不定です。

図 3.15.12 ボーレートジェネレータコントロール (SIO0 用、BR0CR, BR0ADD)

Not Recommended for New Design

BR1CR (120BH)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	ー	BR1ADDE	BR1CK1	BR1CK0	BR1S3	BR1S2	BR1S1	BR1S0
Read/Write	R/W							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
機能	“0”をライトしてください	+(16–K)/16 分周機能 0: ディセーブル 1: イネーブル	00: φT0 01: φT2 10: φT8 11: φT32		分周値 “N” の設定			

+(16–K)/16 分周機能イネーブル

0	禁止(ディセーブル)
1	許可(イネーブル)

ボーレートジェネレータの入力クロックの選択

00	内部クロック φT0
01	内部クロック φT2
10	内部クロック φT8
11	内部クロック φT32

BR1ADD (120CH)	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol					BR1K3	BR1K2	BR1K1	BR1K0
Read/Write					R/W			
リセット後					0	0	0	0
機能					N+(16–K)/16 分周の K 値の設定			

ボーレートジェネレータの分周値の設定

	BR1CR<BR1ADDE> = “1”		BR1CR<BR1ADDE> = “0”
BR1CR <BR1S3:0> / BR1ADD <BR1K3:0>	0000(N =16) or 0001(N = 1)	0010(N = 2) ~ 1111(N = 15)	0001(N = 1)(ONLY UART) ~ 1111(N = 15) 0000(N = 16)
0000	禁止	禁止	N 分周
0001(K = 1) ~ 1111(K = 15)	禁止	$N + \frac{16-K}{16}$ 分周	

注 1) + (16-K)/16 分周の使用可否

N	UART モード	I/O モード
2 to 15	○	×
1 , 16	×	×

ボーレートジェネレータ分周値の“1”分周は UART モードで、+ (16 – K)/16 分周機能を使用しないときのみ設定可能です。I/O インタフェースでは設定しないでください。

注 2) + (16 – K)/16 分周機能を使用する場合、かならず BR1ADD <BR1K3:0> に K 値 (K = 1~15) を設定後に BR1CR <BR1ADDE> = “1” を設定してください。BR1ADD レジスタの未使用ビットは、ライトしても動作に影響ありません。リード時は、不定です。

図 3.15.13 ボーレートジェネレータコントロール (SIO1 用、BR1CR, BR1ADD)

Not Recommended for New Design

SC0BUF (1200H)

7	6	5	4	3	2	1	0	
TB7	TB6	TB5	TB4	TB3	TB2	TB1	TB0	(送信)
RB7	RB6	RB5	RB4	RB3	RB2	RB1	RB0	(受信)

注) SC0BUF はリードモディファイライトできません。

図 3.15.14　シリアル送受信バッファレジスタ (SIO0 用、SC0BUF)

SC0MOD1 (1205H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	I2S0	FDPX0						
Read/Write	R/W	R/W						
リセット後	0	0						
機能	IDLE2 0: 停止 1: 動作	同期式 0: 半二重 1: 全二重						

図 3.15.15　シリアルモードコントロールレジスタ 1 (SIO0 用、SC0MOD1)

SC1BUF (1208H)

7	6	5	4	3	2	1	0	
TB7	TB6	TB5	TB4	TB3	TB2	TB1	TB0	(送信)
RB7	RB6	RB5	RB4	RB3	RB2	RB1	RB0	(受信)

注) SC1BUF はリードモディファイライトできません。

図 3.15.16　シリアル送受信バッファレジスタ (SIO1 用、SC1BUF)

SC1MOD1 (120DH)

	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	I2S1	FDPX1						
Read/Write	R/W							
リセット後	0	0						
機能	IDLE2 0: 停止 1: 動作	同期式 0: 半二重 1: 全二重						

図 3.15.17　シリアルモードコントロールレジスタ 1 (SIO1 用、SC1MOD1)

Not Recommended for New Design

3.15.4 モード別動作説明

(1) モード 0 (I/O インタフェース モード)

このモードは、入出力端子 (I/O) 数を増やす場合に使用され、外部に接続されるシフト レジスタなどとデータの送受信を行います。

このモードには、同期クロック SCLK を出力する SCLK 出力モードと、外部より同期クロック SCLK を入力する SCLK 入力モードがあります。

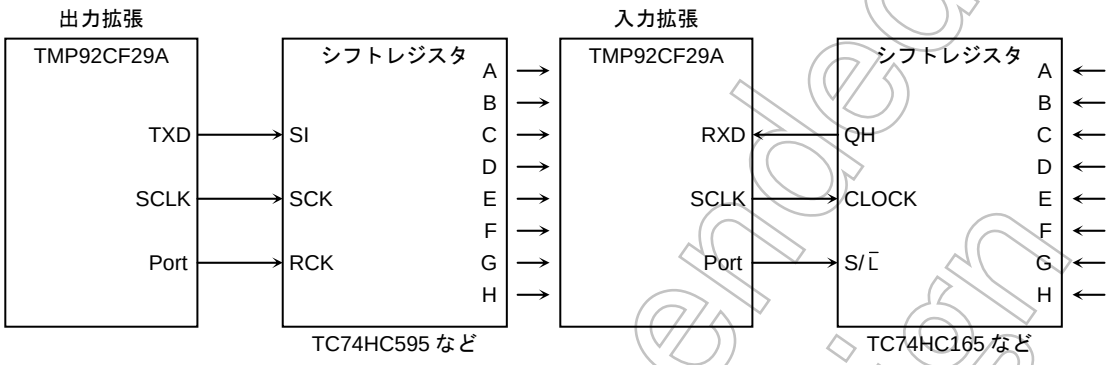


図 3.15.18 SCLK 出力モード接続例

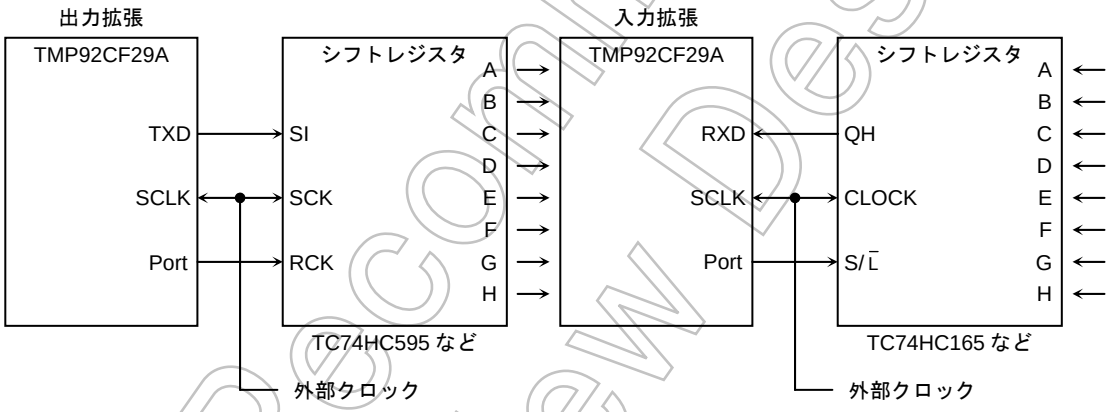


図 3.15.19 SCLK 入力モード接続例

Not Recommended for New Design

1. 送信

SCLK 出力モードでは、CPU が送信バッファにデータをライトするたびに、8 ビットのデータが TXD0 端子、同期クロックが SCLK0 端子より出力されます。データがすべて出力されると、INTES0 <ITX0C> がセットされ、割り込み INTTX0 が発生します

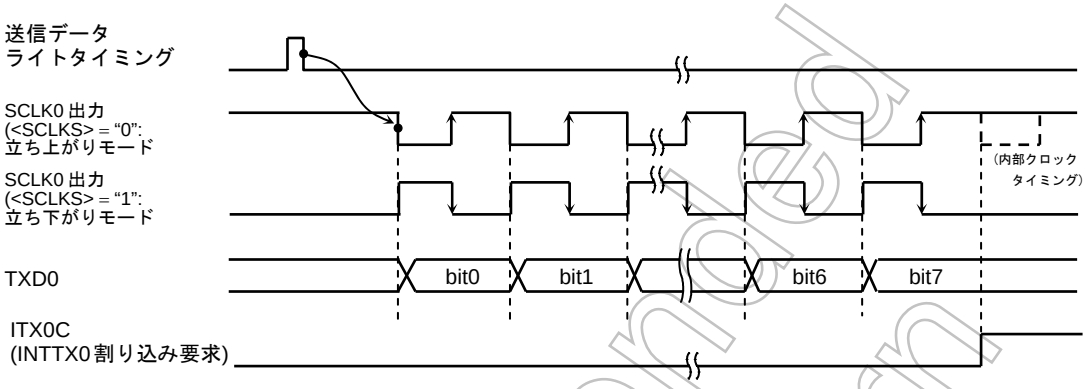


図 3.15.20　I/O インタフェース モード送信動作 (SCLK0 出力モード)

SCLK 入力モードでは、CPU により送信バッファにデータがライトされている状態で SCLK0 入力がアクティブになると、8 ビットのデータが TXD0 端子より出力されます。

データがすべて出力されると、INTES0 <ITX0C> がセットされ割り込み INTTX0 が発生します。

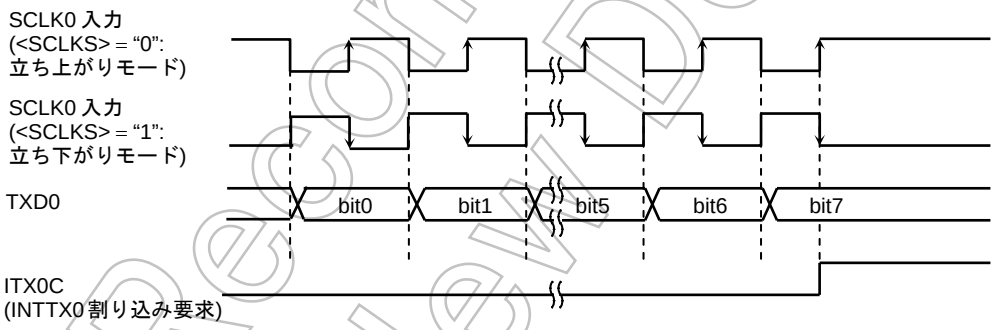


図 3.15.21 I/O インタフェース モード送信動作 (SCLK0 入力モード)

Not Recommended for New Design

2. 受信

SCLK 出力モードでは受信データが CPU にリードされ、受信割り込みフラグ INTES0 <IRX0C> がクリアされるたびに、SCLK0 端子より同期クロックが出力され次のデータが受信バッファ 1 にシフトインされます。8 ビットデータが受信されると、データは受信バッファ 2 (SC0BUF) に移され、再び INTES0 <IRX0C> がセットされて割り込み INTRX0 が発生します。
最初の SCLK 出力の開始は、SC0MOD0<RXE>を“1”にセットすることで行います。

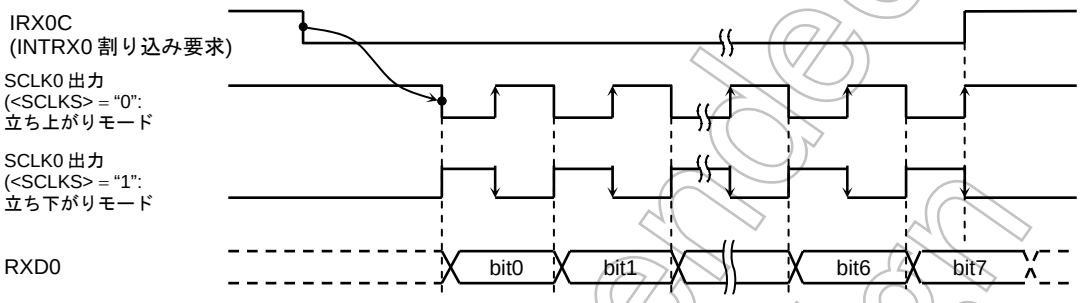


図 3.15.22 I/O インタフェース モード受信動作 (SCLK0 出力モード)

SCLK 入力モードでは受信データが CPU にリードされ、受信割り込みフラグ INTES0 <IRX0C> がクリアされている状態で、SCLK0 入力がアクティブになると、次のデータが受信バッファ 1 にシフトインされます。8 ビットデータが受信されると、データは受信バッファ 2 (SC0BUF) に移され、再び INTES0 <IRX0C> がセットされて割り込み INTRX0 が発生します。

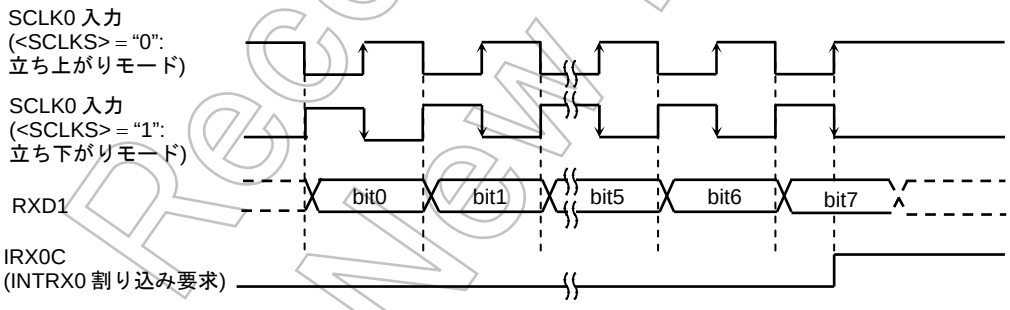


図 3.15.23 I/O インタフェース モード受信動作 (SCLK0 入力モード)

注) 受信動作を行う場合には SCLK 入/出力のどちらのモードでも、受信イネーブル状態 (SC0MOD <RXE> = “1”) にしておく必要があります。

Not Recommended for New Design

3. 送受信 (全二重)

全二重モードで、送受信を行う場合は、かならず、受信割り込みレベルを “0”に設定し、送信割り込みのみに割込みレベル (“1”~ “6”のいずれか) を設定してください。
受信処理は、送信割り込み処理ルーチン内で、上記例のように、送信データセットの前に行ってください。

例: チャネル 0, SCLK 出力
9600bps で送受信を行う場合
f_{SYS} = 2.4576 MHz

メインルーチンでの設定

	7	6	5	4	3	2	1	0	
INTES0	X	0	0	1	X	0	0	0	INTTX0 レベルを“1”に設定します。 INTRX0 レベルを“0”に設定します。
P9CR	X	X	X	X	X	1	0	1	P90(TXD0), P91(RXD0),P92(SCLK0)に設定します。
P9FC	–	–	X	X	X	1	X	1	
SC0MOD0	–	–	–	–	0	0	–	–	I/O インタフェースモードに設定します。
SC0MOD1	–	1	X	X	X	X	X	X	全二重モードに設定します。
SC0CR	–	–	–	–	–	–	0	0	SCLK0 出力モード、立ち上がりエッジを選択します。
BR0CR	0	0	0	1	1	0	0	0	転送レートを 9600bps に設定します。
SC0MOD0	–	–	1	–	–	–	–	–	受信許可に設定します。
SC0BUF	*	*	*	*	*	*	*	*	送信データを設定し、送信開始します。

INTTX0 割り込みルーチン

Acc	←	SC0BUF							受信バッファをリードします。
SC0BUF	*	*	*	*	*	*	*	*	次の送信データを設定します。

X = Don't care; “–” = No change

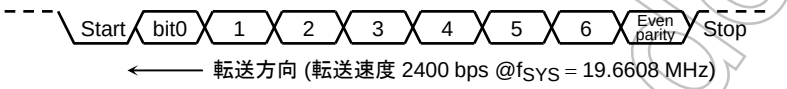
Not Recommended for New Design

(2) モード 1 (7 ビット UART モード)

シリアルチャネルモードレジスタ SC0MOD <SM1:0> を“01”にセットすると 7 ビット UART モードになります。

このモードではパリティビットの付加が可能で、シリアルチャネルコントロールレジスタ SC0CR <PE> でパリティビット付加のイネーブル/ディセーブルを制御します。 <PE> = “1” (イネーブル) のときは、SC0CR <EVEN> で偶数パリティ/奇数パリティを選択できます。

例) 下記フォーマットのデータを送信する場合の各コントロールレジスタの設定を示します。



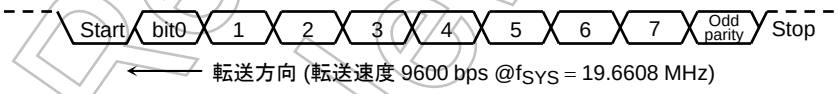
		7	6	5	4	3	2	1	0	
P9CR	←	X	X	X	X	X	–	–	1	P90 を TXD0 端子として設定します。
P9FC	←	–	–	X	X	X	–	X	1	
SC0MOD0	←	X	0	–	X	0	1	0	1	7 ビット UART モードに設定します。
SC0CR	←	–	1	1	–	–	–	–	–	偶数パリティを付加します。
BR0CR	←	0	0	1	0	1	0	0	0	転送レートを 2400 bps に設定します。
INTES0	←	X	1	0	0	X	0	0	0	INTTX0 割り込みをイネーブル、レベル 4 に設定します。
SC0BUF	←	*	*	*	*	*	*	*	*	送信データを設定します。

X : Don't care, – : No change

(3) モード 2 (8 ビット UART モード)

SC0MOD0 <SM1:0> を“10”にセットすると 8 ビット UART モードになります。このモードでは、パリティビットの付加が可能で SC0CR <PE> でパリティビット付加のイネーブル/ディセーブルを制御します。<PE> = “1”(イネーブル) のとき、SC0CR <EVEN> で偶数パリティ/奇数パリティの選択も可能です。

例) 下記フォーマットのデータを送信する場合の各コントロールレジスタの設定を示します。



Not Recommended for New Design

メインルーチンでの設定

		7	6	5	4	3	2	1	0	
P9CR	←	X	X	X	X	X	–	0	–	P91 を RXD0 端子として設定します。
P9FC	←	–	–	X	X	X	–	X	–	
SC0MOD0	←	–	–	1	–	1	0	0	1	8 ビット UART モードで受信イネーブルにします。
SC0CR	←	–	0	1	–	–	–	–	–	奇数パリティ付加します。
BR0CR	←	0	0	0	1	1	0	0	0	転送レートを 9600 bps に設定します。
INTES0	←	X	1	0	0	X	0	0	0	INTTX0 割り込みをイネーブル、レベル 4 に設定します。

割り込みルーチンでの処理例

A_{CC} ← SC0CR AND 00011100
if $A_{CC} \neq 0$ then ERROR } エラーチェックを実行します。
A_{CC} ← SC0BUF 受信データをリードします。
X : Don't care, – : No change

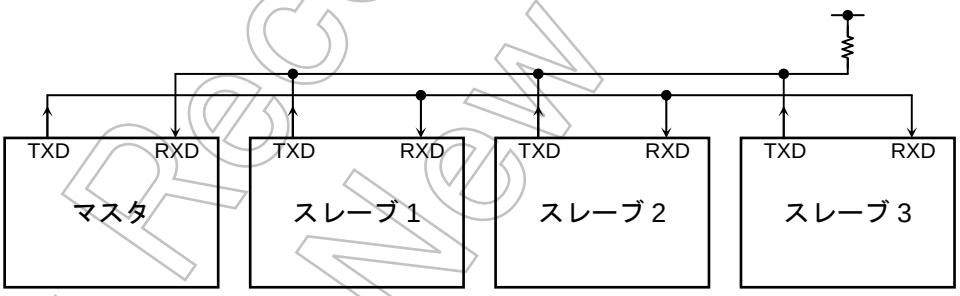
(4) モード 3 (9 ビット UART モード)

SC0MOD0 <SM1:0> を“11”にセットすると 9 ビット UART モードになります。このモードでは、パリティビットの付加はできません。

最上位ビット (9 ビット目) は、送信の場合シリアルチャネルモードレジスタ SC0MOD0 の <TB8> にライトし、受信の場合シリアルチャネルコントロールレジスタ SC0CR の <RB8> に格納されます。また、バッファに対するライト、リードはかならず<TB8>,<RB8> を先に行い、SC0BUF を後にします。

ウェイクアップ機能

9 ビット UART モードでは、SC0MOD0 <WU> を “1” にすることによってスレーブコントローラのウェイクアップ動作が可能で、<RB8> = “1”のときのみ割り込み INTRX0 が発生します。



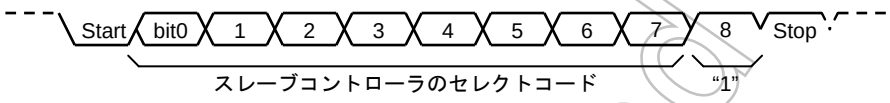
注) スレーブコントローラの TXD 端子は、かならず ODE レジスタを設定してオープンドレイン出力モードにしてください。

図 3.15.24 ウェイクアップ機能によるシリアルリンク

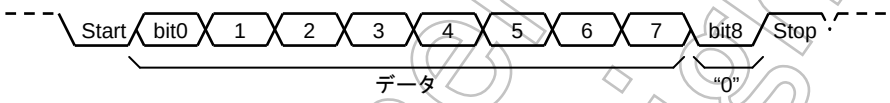
Not Recommended for New Design

プロトコル

1. マスタおよびスレーブコントローラは 9 ビット UART モードにします。
2. 各スレーブコントローラは SC0MOD0 <WU> を “1” にセットし、受信可能状態とします。
3. マスタコントローラは、スレーブコントローラのセレクトコード (8 ビット) を含む 1 フレームを送信します。このとき最上位ビット (ビット 8) <TB8> は “1” にします。



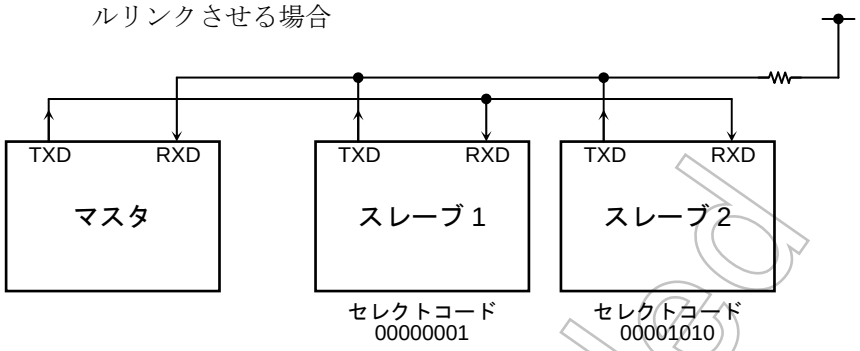
4. 各スレーブコントローラは、上記フレームを受信し、自分のセレクトコードと一致すれば、WU ビットを “0” にクリアします。
5. マスタコントローラは指定したスレーブコントローラ (SC0MOD0 <WU> = “0”にクリアされたコントローラ) に対しデータを送信します。このとき、最上位ビット (ビット 8) <TB8> は “0” にクリアされます。



6. WU=1 のままのスレーブコントローラは、受信データの最上位ビット (ビット 8) の <RB8> が “0” であるため割り込み INTRX0 が発生せず、受信データを無視します。
   また、<WU> = “0”になったスレーブコントローラがマスタコントローラにデータを送信し、この送信データで受信終了をマスタコントローラに知らせることもできます。

Not Recommended for New Design

設定例: 内部クロック f_{IO} を転送クロックとして 2 つのスレーブコントローラとシリアルリンクさせる場合



- マスタコントローラの設定

メインルーチン

P9CR	← X X X X X – 0 1	P90 を TXD0、P91 を RXD0 端子として設定します。
P9FC	← – – X X X – X 1	
INTES0	← X 1 0 0 X 1 0 1	INTTX0 割り込みをイネーブル、割り込みレベルを 4 に設定します。 INTRX0 割り込みをイネーブル、割り込みレベルを 5 に設定します。
SC0MOD0	← 1 0 1 0 1 1 1 0	9 ビット UART モードの転送クロックとして f_{IO} を設定します。
SC0BUF	← 0 0 0 0 0 0 0 1	スレーブコントローラ 1 のセレクトコードを設定します。

割り込みルーチン (INTTX0)

SC0MOD0	← 0 – – – – – – –	TB8 を “0” に設定します。
SC0BUF	← * * * * * * * *	送信データを設定します。

- スレーブの設定

メイン

P9CR	← X X X X X 0 1	P90 を TXD0 (オープンドレイン出力) P91 を RXD0 にします。
P9FC	← – – X X X – X 1	
P9FC2	← X X X X X X X 1	
INTES0	← X 1 0 0 X 1 0 0	INTTX0, INTRX0 をイネーブルにします。
SC0MOD0	← 0 0 1 1 1 1 1 0	転送クロックとして f_{IO} を使用する 9 ビット UART 送信モードで、<WU> =を“1” に設定します。

INTRX0 割り込み

Acc ← SC0BUF
if Acc =セレクトコード
Then SC0MOD0 ← - - - 0 - - - -<WU> を“0”にクリア

Not Recommended for New Design

3.15.5 IrDAのサポート

SIO0、SIO1 には、赤外線データ通信規格である「IrDA1.0」のハードウエア規格をサポートするためのデータ変復調機能があります。図 3.15.25に、構成図を示します。

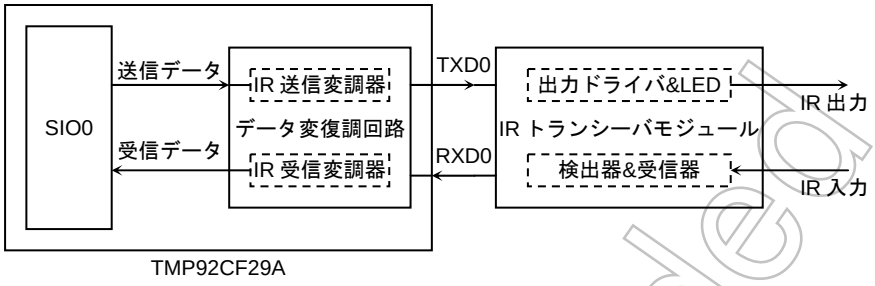


図 3.15.25 IrDA の構成図

(1) 送信データの変調

送信データが “0” のときは、モデムはボーレート周期の 3/16 倍の幅、または 1/16 倍の幅の TXD0 端子に“1”を出力します。またパルス幅は SIR0CR<PLSEL>にて選択されます。送信データが “1” のときは、モデムは “0”を出力します。

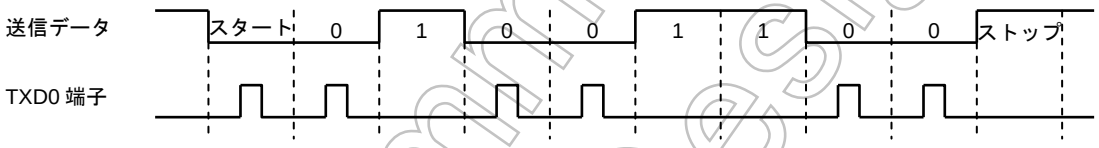


図 3.15.26 送信データの変調例

(2) 受信データの変調

受信データが、有効なパルス “1”の幅のときは、モデムは SIO0 に対して “0” を出力し、それ以外のときは、“1” を出力します。

有効なパルス幅は SIR0CR<SIR0WD3:0>にて選択されます。

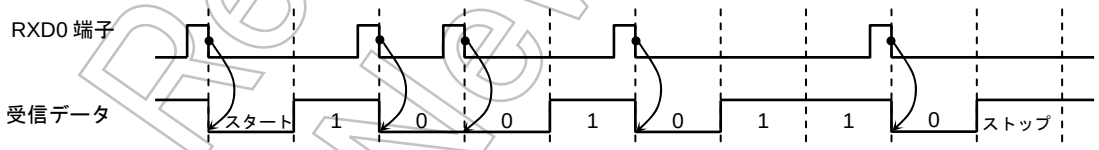


図 3.15.27 受信データの変調例

Not Recommended for New Design

(3) データのフォーマット

データフォーマットは、以下のフォーマットのみとなります。

- データ長 ：8 ビット
- パリティビット：なし
- ストップビット：1 ビット

(4) SFR 説明

図 3.15.28 にコントロールレジスタを示します。このレジスタの設定変更を行うときは、かならずSIO0 が停止している間に行ってください。以下にこのレジスタの設定方法の特徴を示します。

```
1)  SIO 設定                    ;SIO を UART に設定します。
        ↓
2)  LD   (SIR0CR), 07H          ;受信データパルス幅を 16x に設定します。
3)  LD   (SIR0CR), 37H          ;TXEN, RXEN の送受信を許可します。
        ↓
4)  送受信スタート              ;SIO0 から送信データが送られてくるか、赤外線受信パルスを受けると、
    および SIO0 用の受信        データの変復調を行います。
```

Not Recommended for New Design

(5) 使用上の注意

1. IrDA 使用時のボーレート作成

   IrDA 使用時のボーレートは SIO 本体の SC0MOD0<SC1:0>に “01”を設定し、ボーレートジェネレータを使用して作成してください。それ以外の TA0TRG、f_{IO}、SCLK0 入力は使用できません。

2. IrDA 送信時の出力パルス幅、ボーレートジェネレータ

   IrDA1.0 の物理層規格として、データの転送速度と赤外線パルス幅が規定されています。

表 3.15.4 転送速度とパルス出力幅の規格

転送速度	変調方式	転送速度許容誤差 (%)	パルス幅 (最小値)	パルス幅 3/16 (公称値)	パルス幅 (最大値)
2.4 kbps	RZI	±0.87	1.41 μs	78.13 μs	88.55 μs
9.6 kbps	RZI	±0.87	1.41 μs	19.53 μs	22.13 μs
19.2 kbps	RZI	±0.87	1.41 μs	9.77 μs	11.07 μs
38.4 kbps	RZI	±0.87	1.41 μs	4.88 μs	5.96 μs
57.6 kbps	RZI	±0.87	1.41 μs	3.26 μs	4.34 μs
115.2 kbps	RZI	±0.87	1.41 μs	1.63 μs	2.23 μs

赤外線パルス出力幅は、ボーレート T × 3/16、または 1.6 μs (ボーレート 115.2 kbps 時の T × 3/16 に相当) と規定されています。

TMP92CF29A では、送信時の出力パルス幅を T × 3/16 と T × 1/16 とを選択できる機能がありますが、T × 1/16 を選択できるのは転送レートが 38.4 kbps 以下のときだけです。115.2 kbps. 57.6 kbps 時には、出力パルス幅を T × 1/16 に設定してはいけません。

同様の理由で、SIO0 のボーレートジェネレータでの＋(16-K)/16 分周機能は次の(6)USB における IrDA115.2Kbps の使用にて説明される場合以外、115,2Kbps のボーレートを発生させ使用することはできません。また、送信パルス幅を 1/16 に設定し、転送レートの 38.4 kbps を SIO0 のボーレートジェネレータで生成するときもまた、＋(16-K)/16 分周機能を使用することはできません。

表 3.15.5(16-K)/16 分周機能のボーレートとパルス幅

パルス幅	ボーレート					
	115.2 kbps	57.6 kbps	38.4 kbps	19.2 kbps	9.6 kbps	2.4 kbps
T × 3/16	×(注)	○	○	○	○	○
T × 1/16	–	–	×	○	○	○

○: (16-K)/16 分周機能使用可

×: (16-K)/16 分周機能使用不可

ー: 1/16 パルス幅に設定不可

注) 特別な場合で(16-K)/16 分周機能使用可

Not Recommended for New Design

SIR0CR (1207H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PLSEL	RXSEL	TXEN	RXEN	SIR0WD3	SIR0WD2	SIR0WD1	SIR0WD0
Read/Write	R/W							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
機能	送信パルス幅選択 0: 3/16 1: 1/16	受信データ論理 0:"H"パルス 1:"L"パルス	送信動作 0: 禁止 1: 許可	受信動作 0: 禁止 1: 許可	SIRRxD の有効パルス幅の設定 2x × (設定値 +1) +100ns 以上のパルス幅を有効とする 設定可 : 1~14 設定不可 : 0, 15			

受信有効パルス幅の設定

計算式: 受信有効パルス幅 ≥ 2x × (設定値 + 1)+100ns

$x = 1/f_{SYS}$

0000	設定不可
0001	4 x+100nS 以上のパルス幅のものを有効とする
∫	
1110	30 x+100nS 以上のパルス幅のものを有効とする
1111	設定不可

受信 (復調) 動作の許可

0	受信動作を禁止する (受信された入力は無視されます)
1	受信動作を許可する

送信 (変調) 動作の許可

0	送信動作を禁止する (SIO からの入力は無視されます)
1	送信動作を許可する

送信パルス幅の選択

0	3/16 のパルス幅
1	1/16 のパルス幅

補足) ボーレートが遅く、IrDA1.0 規格のパルス幅 (最小 1.6 μs) を確保できる場合、本ビットを "1" に設定することで、赤外線点灯時間を減らし、消費電力を軽減することができます。

図 3.15.28 IrDA コントロールレジスタ 0（SIO0 用）

Not Recommended for New Design

SIR1CR (120FH)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PLSEL	RXSEL	TXEN	RXEN	SIR1WD3	SIR1WD2	SIR1WD1	SIR1WD0
Read/Write	R/W							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
機能	送信パルス幅選択 0: 3/16 1: 1/16	受信データ論理 0:"H"パルス 1:"L"パルス	送信動作 0: 禁止 1: 許可	受信動作 0: 禁止 1: 許可	SIRRxD の有効パルス幅の設定 2x × (設定値 +1) +100ns 以上のパルス幅を有効とする 設定可 : 1~14 設定不可 : 0, 15			

受信有効パルス幅の設定

計算式: 受信有効パルス幅 ≧ 2x × (設定値 + 1)+100ns

$x = 1/f_{SYS}$

0000	設定不可
0001	4 x+100nS 以上のパルス幅のものを有効とする
∫	
1110	30 x+100nS 以上のパルス幅のものを有効とする
1111	設定不可

受信 (復調) 動作の許可

0	受信動作を禁止する (受信された入力は無視されます)
1	受信動作を許可する

送信 (変調) 動作の許可

0	送信動作を禁止する (SIO からの入力は無視されます)
1	送信動作を許可する

送信パルス幅の選択

0	3/16 のパルス幅
1	1/16 のパルス幅

補足) ボーレートが遅く、IrDA1.0 規格のパルス幅 (最小 1.6 μs) を確保できる場合、本ビットを "1" に設定することで、赤外線点灯時間を減らし、消費電力を軽減することができます。

図 3.15.29 IrDA コントロールレジスタ 1 (SIO1 用)

Not Recommended for New Design

3.16 シリアルバスインタフェース (SBI)

シリアルバスインタフェース (SBI) を 1 チャネル内蔵しています。

シリアルバスインタフェースは、下記の動作モードのみを持っています。

- I²C バスモード (マルチマスタ)

I²C バスモードのときには、PV6 (SDA), PV7 (SCL) を通して外部デバイスと接続されます。

各端子の設定は、下記のとおりとなります。

	PVFC2<PV7F2, PV6F2>	PVCR<PV7C, PV6C>	PVFC<PV7F, PV6F>
I²C バスモード	11	11	11

3.16.1 構成

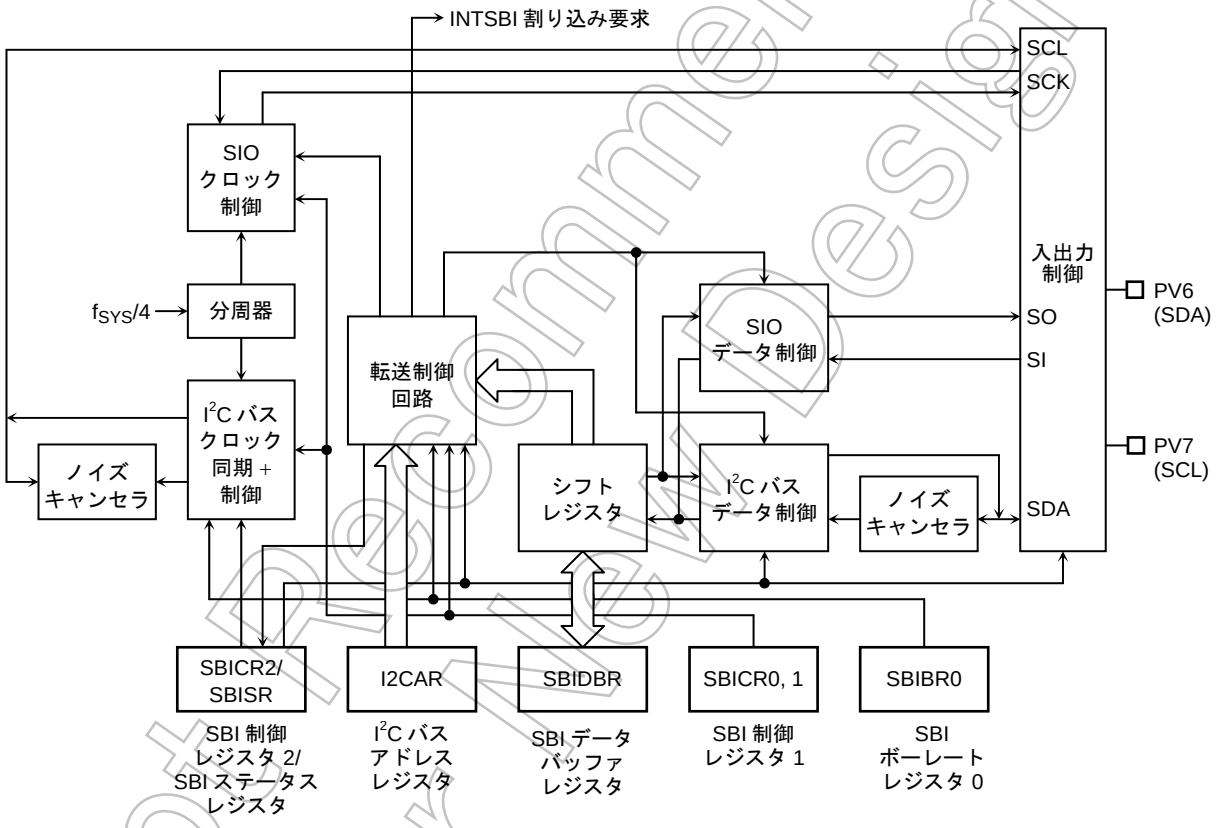


図 3.16.1 シリアルバスインタフェース (SBI)

Not Recommended for New Design

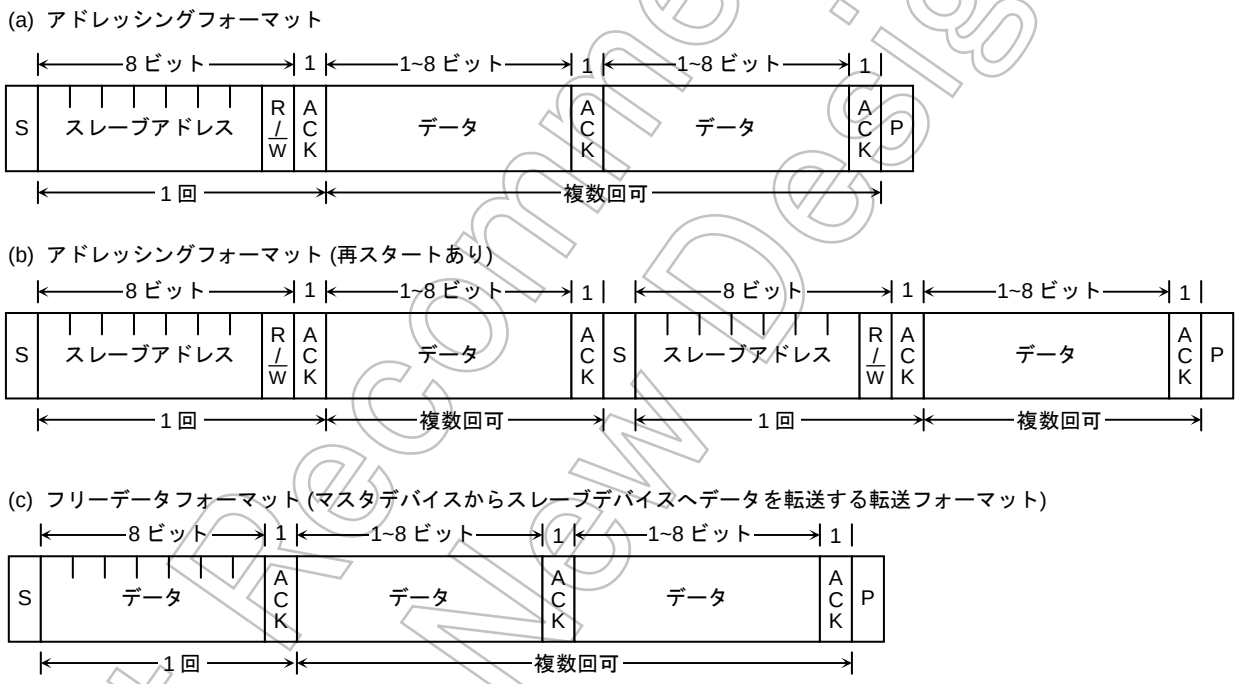
3.16.2 制御

シリアルバスインタフェースの制御および動作状態のモニタは、以下のレジスタで行います。

- シリアルバスインタフェース制御レジスタ 0 (SBICR0)
- シリアルバスインタフェース制御レジスタ 1 (SBICR1)
- シリアルバスインタフェース制御レジスタ 2 (SBICR2)
- シリアルバスインタフェースデータバッファレジスタ (SBIDBR)
- I^2C バスアドレスレジスタ (I2CAR)
- シリアルバスインタフェースステータスレジスタ (SBISR)
- シリアルバスインタフェースボーレートレジスタ 0 (SBIBR0)

3.16.3 I^2Cバスモード時のデータフォーマット

I^2Cバスモード時のデータフォーマットを 図 3.16.2に示します。



S: スタートコンディション
R/$\overline{W}$: 方向ビット
ACK: アクノリッジビット
P: ストップコンディション

図 3.16.2 I^2C バスモード時のデータフォーマット

Not Recommended for New Design

3.16.4 I²Cバスモード時のコントロールレジスタ

シリアルバスインタフェース (SBI) を I²C バスモードで使用するときの制御および動作状態のモニタは、以下のレジスタで行います。

シリアルバスインタフェース制御レジスタ 0

		7	6	5	4	3	2	1	0
SBICR0 (1247H)	Bit symbol	SBIEN	–	–	–	–	–	–	–
	Read/Write	R/W	R						
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
リードモディファイライトできません。	機能	SBI 動作 0 : 禁止 1 : 許可	リードすると常に"0"になります。						

<SBIEN> : SBI を使用する場合は、SBI モジュールの各レジスタを設定する前に SBI 動作許可"1"にしてください。

図 3.16.3 I²C バスモード関係のレジスタ

Not Recommended for New Design

シリアルバスインタフェース制御レジスタ 1

SBICR1 (1240H)	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	BC2	BC1	BC0	ACK	–	SCK2	SCK1	SCK0/ SWRMON
Read/Write	R/W			R/W	R	R/W		R/W
リセット後	0	0	0	0	1	0	0	0/1 (注 2)
機能	転送ビット数の選択 注 1)			アクノリッジメントクロック 0: 発生しない 1: 発生する	リードすると常に "1" になります。	内部 SCL 出力クロックの周波数選択とリセットモニタ		

リードモディファイライトできません。

内部 SCL 出力クロックの周波数選択 <SCK2:0> @ライト

000	n = 4	–	(注 3)
001	n = 5	–	(注 3)
010	n = 6	–	(注 3)
011	n = 7	–	(注 3)
100	n = 8	68	kHz
101	n = 9	36	kHz
110	n = 10	19	kHz
111	(Reserved)	(Reserved)	

システムクロック: f_{SYS} (=80MHz)
クロックギア : fc/1
周波数 = $\frac{f_{SYS}/4}{2^n + 36}$ [Hz]

ソフトウエアリセット状態モニタ <SWRMON> @リード

0	ソフトウエアリセット中
1	初期値

アクノリッジメントのためのクロック発生の選択

0	アクノリッジのためのクロックを発生しない。
1	アクノリッジのためのクロックを発生する。

転送ビット数の選択

<BC2:0>	<ACK> = 0 のとき		<ACK> = 1 のとき	
	クロック数	データ長	クロック数	データ長
000	8	8	9	8
001	1	1	2	1
010	2	2	3	2
011	3	3	4	3
100	4	4	5	4
101	5	5	6	5
110	6	6	7	6
111	7	7	8	7

注 1) SCLラインクロックの周波数については、3.16.5 (3)「シリアルクロック」を参照してください。

注 2) SCK0 の初期値は "0"、 SWRMON の初期値は、SBI 動作許可(SBICR0<SBIEN>="1") の場合 SWRMON ="1"、SBI 動作禁止(SBICR0<SBIEN>="0") の場合 SWRMON ="0"です。

注 3) 本 I^2C バス回路は、高速モードに対応していません。標準モードのみの対応となります。100kbps を超える設定が可能な場合がありますが I^2C 規格の規格外となります。

図 3.16.4 I^2C バスモード関係のレジスタ

Not Recommended for New Design

シリアルバスインタフェース制御レジスタ 2

SBICR2 (1243H)

リードモディファイライトできません。

	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	MST	TRX	BB	PIN	SBIM1	SBIM0	SWRST1	SWRST0
Read/Write	W				W 注 1)		W 注 1)	
リセット後	0	0	0	1	0	0	0	0
機能	マスタ/スレーブの選択 0:スレーブ 1:マスタ	送信/受信の選択 0:受信 1:送信	スタート/ストップコンディションの発生 0:ストップコンディション発生 1:スタートコンディション発生	INTSBI 割り込み要求解除 0: Don't care 1:割り込み要求の解除	シリアルバスインタフェースの動作モード選択 注 2) 00:ポートモード 01:Reserved 10:I^{2}C バスモード 11:Reserved		ソフトウエアリセットの発生 最初に "10"、次に "01" をライトすると、ソフトリセットが発生します。	

シリアルバスインタフェースの動作モード選択 注 2)

00	ポートモード (シリアルバスインタフェースの出力禁止)
01	Reserved
10	I^{2}C バスモード
11	Reserved

注 1) このレジスタをリードすると、SBISR レジスタとして機能します。

注 2) ポートモードへの切り替えは、バスフリーを確認してから行ってください。
また、ポートモードから I^{2}C バスモードへの切り替えは、ポートの状態が "H" レベルになっていることを確認してから行ってください。

図 3.16.5 I^{2}C バスモード関係のレジスタ

表 3.16.1 ベースクロック 分解能

@f_{SYS} = 80MHz

クロックギア値 <GEAR1:0>	ベースクロック分解能
000(fc)	$f_{SYS}/2^2$ (50ns)
001(fc/2)	$f_{SYS}/2^3$ (0.1μs)
010(fc/4)	$f_{SYS}/2^4$ (0.2μs)
011(fc/8)	$f_{SYS}/2^5$ (0.4μs)
100(fc/16)	$f_{SYS}/2^6$ (0.8μs)

Not Recommended for New Design

シリアルバスインタフェースステータスレジスタ

SBISR (1243H)		7	6	5	4	3	2	1	0
	Bit symbol	MST	TRX	BB	PIN	AL	AAS	AD0	LRB
	Read/Write	R							
	リセット後	0	0	0	1　注 2)	0	0	0	0
リード モディファイライト できません。	機能	マスタ/スレーブ選択モニタ 0:スレーブ 1:マスタ	送信/受信選択モニタ 0:受信 1:送信	I²C バス状態モニタ 0:バスフリー 1:バスビジー	INTSBI 割り込み要求モニタ 0:割り込み要求発生状態 1:割り込み要求解除状態	アービトレーションロスト検出 0: ー 1: 検出	スレーブアドレス一致検出 0: 未検出 1: 検出	ゼネラルコール検出 0: 未検出 1: 検出	最終受信ビットモニタ 0: “0” 1: “1”

最終受信ビットモニタ

0	最終受信ビット “0”
1	最終受信ビット “1”

ゼネラルコール検出

0	未検出
1	ゼネラルコール検出

スレーブアドレス一致検出

0	未検出
1	スレーブアドレス一致または ゼネラルコール検出

アービトレーションロスト検出

0	–
1	アービトレーションロスト検出

注 1) このレジスタをライトすると、SBICR2 として機能します。

注 2) PIN の初期値は SBI 動作許可(SBICR0<SBIEN>=“1”) の場合 PIN =“1”、SBI 動作禁止(SBICR0<SBIEN>=“0”) の場合 PIN =“0”です。

図 3.16.6　I²C バスモード関係のレジスタ

Not Recommended for New Design

シリアルバスインタフェースボーレートレジスタ 0

SBIBR0 (1244H)

リードモディファイライトできません。

	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	–	I2SBI	–	–	–	–	–	–
Read/Write	W	R/W	R					R/W
リセット後	0	0	1	1	1	1	1	0
機能	リードすると常に“1”になります。	IDLE2 0: 停止 1: 動作	リードすると常に”1”になります。					”0”をライトしてください。

IDLE2 時の動作

0	停止
1	動作

シリアルバスインタフェースデータバッファレジスタ

SBIDBR (1241H)

リードモデファイライトできません。

	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	DB7	DB6	DB5	DB4	DB3	DB2	DB1	DB0
Read/Write	R (受信)/W (送信)							
リセット後	不定							

注 1) 送信データライト時には、データを MSB (ビット 7) 側につめてライトしてください。また、受信データは LSB 側に格納されます。

注 2) SBIDBR はライト用のバッファとリード用のバッファを個別に持っているため、ライトしたデータをリードすることはできません。従って、ビット操作などのリードモディファイライト命令 (RMW) ではアクセスできません。

I^2C バスアドレスレジスタ

I2CAR (1242H)

リードモデファイライトできません。

	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	SA6	SA5	SA4	SA3	SA2	SA1	SA0	ALS
Read/Write	R/W							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
機能	スレーブデバイスとして動作するときのスレーブアドレスの設定							アドレス認識モードの指定

アドレス認識モードの指定

0	スレーブアドレスを認識する。
1	スレーブアドレスを認識しない。

図 3.16.7 I^2C バスモード関係のレジスタ

Not Recommended for New Design

3.16.5 I²Cバスモード時の制御

(1) アクノリッジメントモードの指定

スレーブアドレス一致、またはゼネラルコール検出時、SBICR1<ACK> を “1” にセットしておくと、アクノリッジメントモードとして動作します。マスタのときには、アクノリッジ信号のためのクロックを 1 クロック付加します。トランスミッタモードのときには、このクロックの期間中、SDA 端子を開放し、レシーバからのアクノリッジ信号を受信できる状態にします。レシーバモードのときにはこのクロック期間中、SDA 端子を “L” レベルに引き、アクノリッジ信号を発生します。

<ACK> を “0” に設定しておくと、非アクノリッジメントモードとして動作し、マスタのときにアクノリッジ信号のためのクロックを発生しません。

(2) 転送ビット数の選択

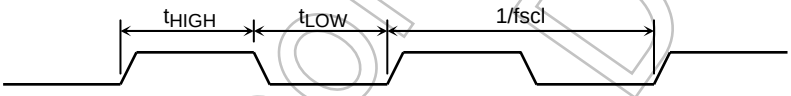
SBICR1<BC2:0> により、次に送受信するデータのビット数を選択します。

<BC2:0> はスタートコンディションにより “000” にクリアされるため、スレーブアドレス, 方向ビットの転送は必ず 8 ビットで行われます。それ以外のとき、<BC2:0>は一度設定された値を保持します。

(3) シリアルクロック

a. クロックソース

SBICR1<SCK2:0> で、マスタモード時に SCL 端子から出力されるシリアルクロックの最大転送周波数を選択します。通信ボーレートを設定する場合、本誌記載の下記計算式に合わせて t_{LOW} の最小幅など、I²C バス規定を満たす通信ボーレートを選択してください。



$t_{LOW} = (2^{n-1} + 29)/(f_{SYS}/4)$

$t_{HIGH} = (2^{n-1} + 6)/(f_{SYS}/4)$

$fscl = 1/(t_{LOW} + t_{HIGH})$

$= \dfrac{f_{SYS}/4}{2^n + 36}$

注) f_{SBI} は、f_{SYS} を示します。

SBI0CR1<SCK2:0>	n
000	4
001	5
010	6
011	7
100	8
101	9
110	10

図 3.16.8 クロックソース

Not Recommended for New Design

b. クロック同期化

I²C バスでは、端子の構造上バスをワイヤードアンドで駆動させるため、クロックラインを最初に “L” レベルに引いたマスタが、“H” レベルを出力しているマスタのクロックを無効にします。このため、“H” レベルを出力しているマスタはこれを検出し、対応する必要があります。

クロック同期化機能を持っており、バス上に複数のマスタが存在する場合でも、正常に転送が行われます。

クロック同期の手順を、バス上に 2 つのマスタが同時に存在した場合を例に挙げて以下に示します。

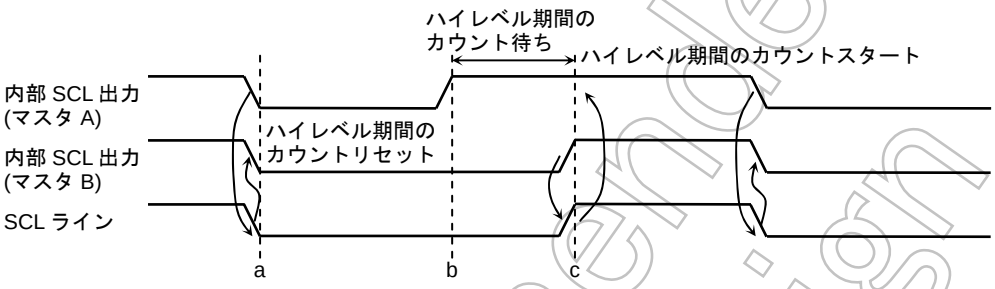


図 3.16.9 クロック同期化の例

a 点でマスタ A が内部 SCL 出力を “L” レベルに引くことで、バスの SCL ラインは “L” レベルになります。マスタ B はこれを検出し、マスタ B の “H” レベル期間のカウントをリセットし、内部 SCL 出力を “L” レベルに引きます。

b 点でマスタ A は “L” レベル期間のカウントを終わり、内部 SCL 出力を “H” レベルにします。しかし、マスタ B が、バスの SCL ラインを “L” レベルに保持し続けているので、マスタ A は “H” レベル期間のカウントを止めます。マスタ A は、c 点でマスタ B が内部 SCL 出力を “H” レベルにし、バスの SCL ラインが “H” レベルになったことを検出後、“H” レベル期間のカウントを始めます。

以上のようにバス上のクロックは、バスに接続されているマスタの中で最も短い “H” レベル期間を持つマスタと、最も長い “L” レベル期間を持つマスタによって決定されます。

(4) スレーブアドレスとアドレス認識モードの設定

スレーブデバイスとして動作させるときは、I2CAR にスレーブアドレス <SA6:0> と <ALS> を設定します。

<ALS> に “0” を設定すると、アドレス認識モードになります。

(5) マスタ/スレーブの選択

SBICR2<MST> を “1” に設定すると、マスタデバイスとして動作します。

<MST> を “0” に設定すると、スレーブデバイスとして動作します。<MST> はバス上のストップコンディションの検出、またはアービトレーションロストの検出で、ハードウエアにより “0” にクリアされます。

Not Recommended for New Design

(6) トランスミッタ/レシーバの選択

SBICR2<TRX> を “1” に設定するとトランスミッタとして動作し、<TRX> を “0” に設定するとレシーバとして動作します。

スレーブモード時は、

- アドレッシングフォーマットのデータ転送を行うとき
- 受信したスレーブアドレスが I2CAR にセットした値と同じとき
- ゼネラルコール (スタートコンディション後の 8 ビットのデータがすべて “0”) を受信したとき

ハードウエアによりマスタデバイスから送られてくる方向ビット (R/$\overline{W}$) が “1” の場合、<TRX> は “1” にセットされ、“0” の場合、<TRX> は “0” にクリアされます。

マスタモード時は、スレーブデバイスからアクノリッジが返ってくると、ハードウエアにより、送信した方向ビットが “1” の場合、<TRX> は “0” に、方向ビットが “0” の場合、<TRX> は “1” に変化します。アクノリッジが返ってこないときは、以前の状態を保ちます。

<TRX> はバス上のストップコンディションの検出、または、アービトレーションロストの検出で、ハードウエアにより “0” にクリアされます。

(7) スタート/ストップコンディションの発生

SBICR<BB> が “0” のときに、SBICR2<MST, TRX, BB, PIN> に “1” をライトすると、バス上にスタートコンディションと、データバッファレジスタにライトしたスレーブアドレス、方向ビットが出力されます。あらかじめ <ACK> に “1” を設定してください。

図 3.16.10 スタートコンディションの発生とスレーブアドレスの発生

<BB> = “1” のときに、<MST, TRX, PIN> に “1” , <BB> に “0” をライトすると、バス上にストップコンディション出力のシーケンスを開始します。バス上にストップコンディションが発生するまで、<MST, TRX, BB, PIN> の内容を書き替えないでください。

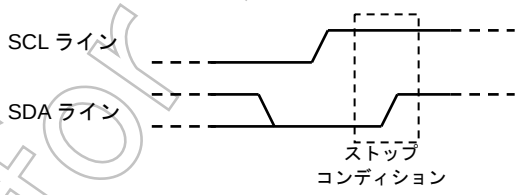


図 3.16.11 ストップコンディションの発生

また、SBISR<BB> をリードすることで、バスの状態を知ることができます。<BB> は、バス上のスタートコンディションを検出すると “1” にセットされ (バスビジー状態)、ストップコンディションを検出すると “0” にクリアされます (バスフリー状態)。

Not Recommended for New Design

(8) 割り込みサービス要求と解除

シリアルバスインタフェース割り込み要求 (INTSBI) が発生すると、SBICR2<PIN> が "0" にクリアされます。<PIN> が "0" の間、SCL ラインを "L" レベルに引きます。

<PIN> は "1" ワードの送信または受信が終了すると "0" にクリアされ、SBIDBR にデータをライトするか、SBIDBR からデータをリードすると、"1" にセットされます。

<PIN> が "1" にセットされてから SCL ラインが開放されるまで、t_{LOW} の時間がかかります。

アドレス認識モード (<ALS> = "0") では、受信したスレーブアドレスが I2CAR にセットした値と同じとき、またはゼネラルコール (スタートコンディション後の 8 ビットのデータがすべて "0") を受信したときに、<PIN> が "0" にクリアされます。プログラムで SBICR2<PIN> に "1" をライトすると "1" にセットされますが、"0" をライトしても "0" にクリアされません。

(9) シリアルバスインタフェースの動作モード

SBICR2<SBIM1:0> でシリアルバスインタフェースの動作モードを設定します。

I²C バスモードで使用するときは、シリアルバスインタフェース端子の状態が "H" レベルになっていることを確認後、<SBIM1:0> を "10" に設定します。

ポートモードへの切り替えは、バスがフリーであることを確認してから行ってください。

(10) アービトレーションロスト検出モニタ

I²C バスではマルチマスタ (1 つのバス上で同時に 2 つ以上のマスタが存在する) が可能なため、転送されるデータの内容を保証するために、バスのアービトレーション手順が必要となります。

バスビジー状態の時に、スタートコンディションを出力しようとした場合は SCL,SDA ラインには出力されずにアービトレーションロストが発生します。I²C バスではバスのアービトレーションに SDA ラインのデータを使用します。

アービトレーションの手順を、バス上に 2 つのマスタが同時に存在した場合を例に挙げて以下に示します。a 点のビットまでマスタ A, マスタ B とも同じデータを出力し、a 点でマスタ A が "L" レベルを出力、マスタ B が "H" レベルを出力すると、バスの SDA ラインはワイヤードアンドで駆動されるために、マスタ A よって "L" レベルに引かれます。b 点でバスの SCL ラインが立ち上がると、スレーブデバイスは SDA ラインデータ (マスタ A のデータ) を取り込みます。このときマスタ B の出力したデータは無効になります。マスタ B のこの状態を "アービトレーションロスト" と呼びます。マスタ B は SDA 端子を開放し、ほかのマスタの出力するデータに影響を及ぼさないようにします。また、複数のマスタが 1 ワード目でまったく等しいデータを送信した場合、アービトレーションの手順は 2 ワード目以降も継続されます。

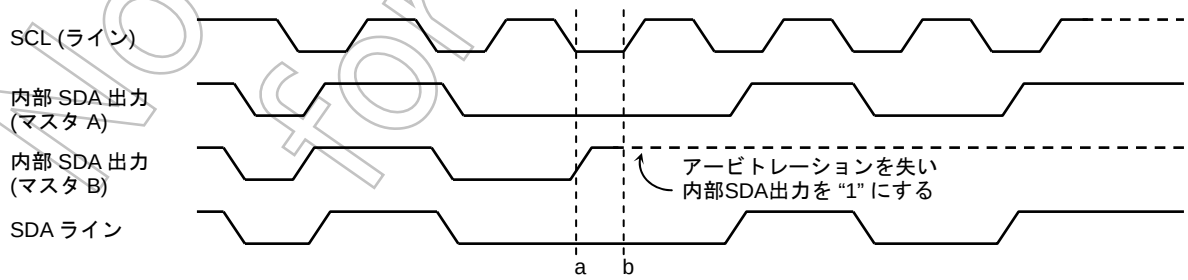


図 3.16.12 アービトレーションロスト

Not Recommended for New Design

バスの SDA ラインのレベルと内部 SDA 出力のレベルの比較は、SCL ラインの立ち上がりで行います。この比較結果が不一致の場合、アービトレーションロストになり、SBISR<AL> が “1” にセットされます。

<AL> が “1” にセットされると SBISR<MST, TRX> は “0” にリセットされ、スレーブレシーバモードになります。そのため、<AL>が “1” にセットされた後のデータ転送ではクロックの出力を停止します。

<AL> は SBIDBR にデータをライトするか、SBIDBR からデータをリードする、または SBICR2 にデータをライトすると、“0” にリセットされます。

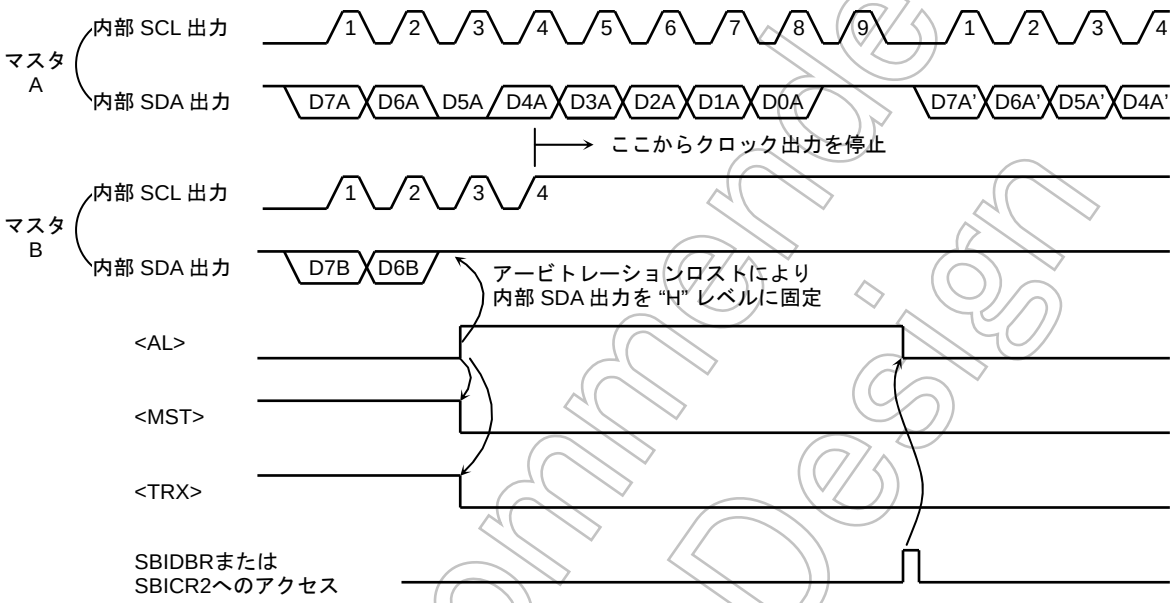


図 3.16.13　マスタ B の場合の例 (D7A = D7B, D6A = D6B)

(11) スレーブアドレス一致検出モニタ

SBISR<AAS> は、スレーブモード時、アドレス認識モード (I2CAR<ALS> = “0”) のとき、ゼネラルコールまたは I2CAR にセットした値と同じスレーブアドレスを受信すると “1” にセットされます。<ALS> = “1” のときは、最初の 1 ワードが受信されると “1” にセットされます。<AAS> は SBIDBR にデータをライトするか、SBIDBR からデータをリードすると “0” にクリアされます。

(12) ゼネラルコール検出モニタ

SBISR<AD0> は、スレーブモード時、ゼネラルコール (スタートコンディション後の 8 ビットのデータがすべて “0”) を受信したとき “1” にセットされ、バス上のスタートコンディションまたはストップコンディションが検出されると、“0” にクリアされます。

(13) 最終受信ビットモニタ

SBISR<LRB> には、SCL ラインの立ち上がりで取り込まれた SDA ラインの値がセットされます。

アクノリッジメントモードのとき、INTSBI 割り込み要求発生直後に SBISR<LRB> をリードすると、ACK 信号がリードされます。

Not Recommended for New Design

(14) ソフトウエアリセット

シリアルバスインタフェース回路が外部からのノイズによりロックした場合、ソフトウエアリセット機能を使い、シリアルバスインタフェース回路を初期化することができます。

SBICR2<SWRST1:0> へ最初に “10” 、次に “01” をライトすると、シリアルバスインタフェース回路にリセット信号が入力され、回路が初期化されます。

このとき、すべてのコントロールレジスタとステータスフラグは、リセット直後の値となります。

また、SBICR1<SWRMON>はシリアルバスインタフェース回路の初期化が終了すると、自動的に “1” にセットされます。

注) ソフトウエアリセットをかけると動作モード選択もリセットされ、I²Cモードからポートモードになります。

(15) シリアルバスインタフェースデータバッファレジスタ (SBIDBR)

SBIDBR をリード/ライトすることで、受信データのリード/送信データのライトを行います。

また、マスタモード時において、このレジスタにスレーブアドレスと方向ビットを設定後、スタートコディションを発生します。

(16) I²C バスアドレスレジスタ (I2CAR)

I2CAR<SA6:0> は、スレーブデバイスとして動作する場合のスレーブアドレスを設定するビットです。

また、I2CAR<ALS> = “0” に設定すると、マスタデバイスから出力されるスレーブアドレスを認識し、データフォーマットはアドレッシングフォーマットとなります。<ALS> = “1” に設定すると、スレーブアドレスを認識せず、データフォーマットはフリーデータフォーマットとなります。

(17) IDLE2 設定レジスタ (SBIBR0)

SBIBR0<I2SBI> は、IDLE2 モードに遷移した際に動作の許可/禁止を設定するレジスタです。

HALT 命令を実行する前に、あらかじめ設定してください。

Not Recommended for New Design

3.16.6 I²Cバスモード時のデータ転送手順

(1) デバイスの初期化

最初に SBICR1<ACK, SCK2:0> を設定します。SBICR1 のビット 7~5、3 には “0” をライトしてください。

次に I2CAR にスレーブアドレス <SA6:0> と <ALS> (アドレッシングフォーマット時、<ALS> = “0”) を設定します。

最後に、SBICR2<MST, TRX, BB> に “0” 、<PIN> に “1”、<SBIM1:0> に “10” 、ビット 1, 0 に “0” をライトし、初期状態をスレーブレシーバモードにします。

```
            7 6 5 4 3 2 1 0
SBICR1   ← 0 0 0 X 0 X X X      ACK および SCL クロックの設定をします。
I2CAR    ← X X X X X X X X      スレーブアドレスおよびアドレス認識モードの設定をします。
SBICR2   ← 0 0 0 1 1 0 0 0      スレーブレシーバモードにします。
注)  X: Don't care
```

(2) スタートコンディション、スレーブアドレスの発生

a. マスタモードの場合

マスタモード時は、スタートコンディションとスレーブアドレスを次の手順で発生します。

はじめに、バスフリー状態 (<BB> = “0”) を確認します。

次に、SBICR1<ACK> に “1” をライトして、アクノリッジメントモードに設定します。また、SBIDBR に、送信するスレーブアドレスと方向ビットのデータをライトします。

<BB> = “0” の状態で、SBICR2<MST, TRX, BB, PIN> に “1111” をライトすると、バス上にスタートコンディションが発生します。スタートコンディションの発生に次いで、SCL 端子から 9 発のクロックを出力します。最初の 8 クロックで、SBIDBR に設定したスレーブアドレスと方向ビットを出力します。9 クロック目で、SDA ラインを開放し、スレーブデバイスからのアクノリッジ信号を受信します。

9 クロック目の立ち下がりで、INTSBI 割り込み要求が発生し、<PIN> = “0” にクリアされます。マスタモード時は、<PIN> = “0” の間 SCL ラインを “L” レベルに引きます。また、スレーブデバイスからのアクノリッジ信号が返ってきたときのみ、INTSBI 割り込み要求の発生により、送信した方向ビットに合わせて <TRX> は変化します。

メインルーチンでの設定

```
            7 6 5 4 3 2 1 0
Reg.     ← SBISR
Reg.     ← Reg. e 0x20
if Reg.  ≠ 0x00                 バスがフリー状態になるまで確認します。
Then
SBICR1   ← X X X 1 X X X X      アクノリッジメントモードに設定します。
SBIDBR1  ← X X X X X X X X      目的のスレーブのスレーブアドレスと方向をセットします。
SBICR2   ← 1 1 1 1 1 0 0 0      スタートコンディションの発生を行います。
```

INTSBI 割り込みルーチンでの処理例

```
INTCLR ←0X2a        割り込み要求をクリアします。
処理
割り込み終了
```

Not Recommended for New Design

b. スレーブモードの場合

スレーブモードの場合は、スタートコンディションとスレーブアドレスを受信します。

マスタデバイスからのスタートコンディションを受信した後、SCL ラインの最初の 8 クロックで、マスタデバイスからのスレーブアドレスと方向ビットを受信します。ゼネラルコールまたは I2CAR に設定されたスレーブアドレスと同一のアドレスを受信したとき、9 クロック目で SDA ラインを“L”レベルに引き、アクノリッジ信号を出力します。

9 クロック目の立ち下がりで INTSBI 割り込み要求が発生し、<PIN> (“0”にクリアされます。スレーブモード時は<PIN> (“0”の間、SCL ラインを“L”レベルに引きます。

図 3.16.14 スタートコンディションとスレーブアドレスの発生

Not Recommended for New Design

(3) 1 ワードのデータ転送

1 ワード転送終了の INTSBI 割り込みの処理で <MST> をテストし、マスタモード/スレーブモードの判断をします。

a. マスタモードの場合 (<MST> = “1”)

<TRX> をテストし、トランスミッタ/レシーバの判断をします。

トランスミッタモードの場合 (<TRX> = “1”)

<LRB> をテストします。<LRB> が “1” のとき、レシーバはデータを要求していないのでストップコンディションを発生する処理 (後記参照) を行ってデータ転送を終了します。

<LRB> が “0” のとき、レシーバが次のデータを要求しています。次に転送するデータのビット数が 8 ビットのとき、SBIDBR に転送データをライトします。8 ビット以外のときは<BC2:0>, <ACK>を設定し、転送データを SBIDBR にライトします。データをライトすると <PIN> が“1”になり、SCL 端子から次の 1 ワードのデータ転送用のシリアルクロックが発生され、SDA 端子から 1 ワードのデータが転送されます。転送終了後、INTSBI 割り込み要求が発生して<PIN>が“0”になり、SCL 端子を “L” レベルに引きます。複数ワードの転送が必要な場合は、上記 <LRB> のテストから繰り返します。

if MST = 0
Then スレーブモード時の処理へ移行
if TRX = 0
Then レシーバモード時の処理へ移行
if LRB = 0
Then ストップコンディションを発生する処理へ移行

		7	6	5	4	3	2	1	0	
SBICR1	←	X	X	X	X	X	X	X	X	転送ビット数および ACK を設定します。
SBIDBR	←	X	X	X	X	X	X	X	X	転送データをライトします。

割り込み終了
注) X: Don’t care

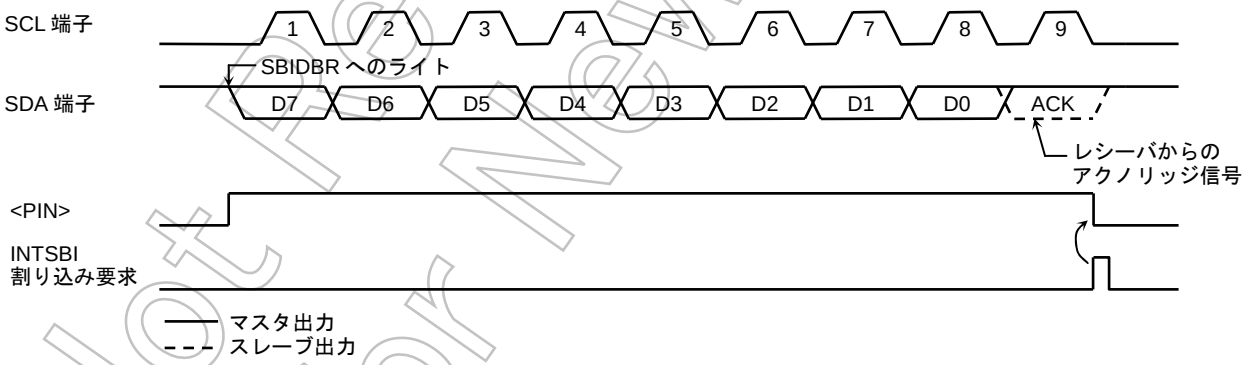


図 3.16.15 <BC2:0> = “000” , <ACK> = “1” のときの例 (トランスミッタモード)

Not Recommended for New Design

レシーバモードの場合 (<TRX> = “0”)

転送するデータのビット数が 8 ビット以外のときは <BC2:0>, <ACK> を設定し、SCL ラインを開放するために SBIDBR から受信データをリードします (スレーブアドレス送信直後のリードデータは不定です)。データをリードすると <PIN> は “1” になり、次の 1 ワードのデータ転送用のシリアルクロックを SCL 端子に出力し、アクノリッジのタイミングで “L” レベルを SDA 端子に出力します。

その後、INTSBI 割り込み要求が発生し、<PIN> が 0 になり SCL 端子を “L” レベルに引きます。SBIDBR から受信データをリードするたびに 1 ワードの転送クロックとアクノリッジを出力します。

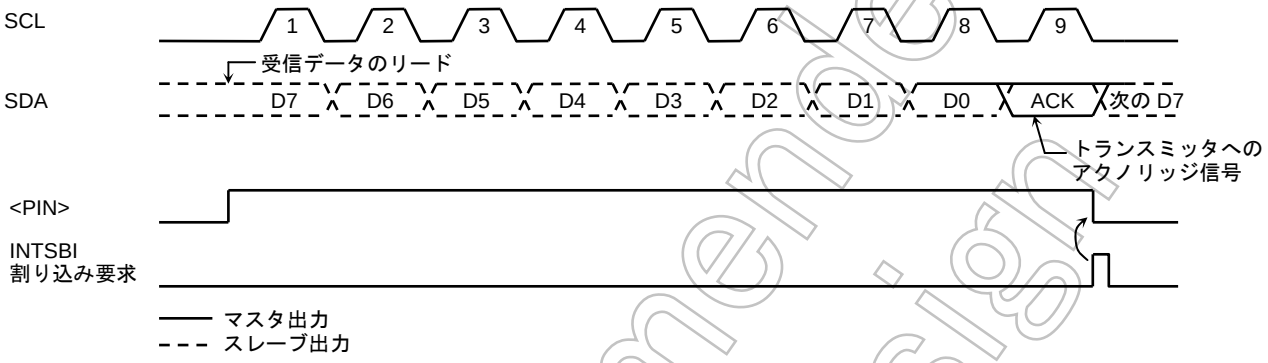


図 3.16.16 <BC2:0> = “000” , <ACK> = “1” のときの例 (レシーバモード)

トランスミッタに対してデータの送信を終了させるときは、最後に受信したいデータの 1 ワード手前のデータをリードする前に <ACK> を “0” にクリアします。これにより、最終データのアクノリッジのためのクロックは発生されなくなります。転送終了の割り込み要求発生後の処理で <BC2:0> = “001” に設定し、データをリードすると、1 ビット転送のためのクロックを発生します。このときマスタはレシーバなので、バスの SDA ラインは “H” レベルを保ちます。トランスミッタは ACK 信号としてこの “H” レベルを受信するので、レシーバはトランスミッタへ送信終了を知らせることができます。

この 1 ビット転送の受信終了割り込み要求後の処理で、ストップコンディションを発生させ、データ転送を終了させます。

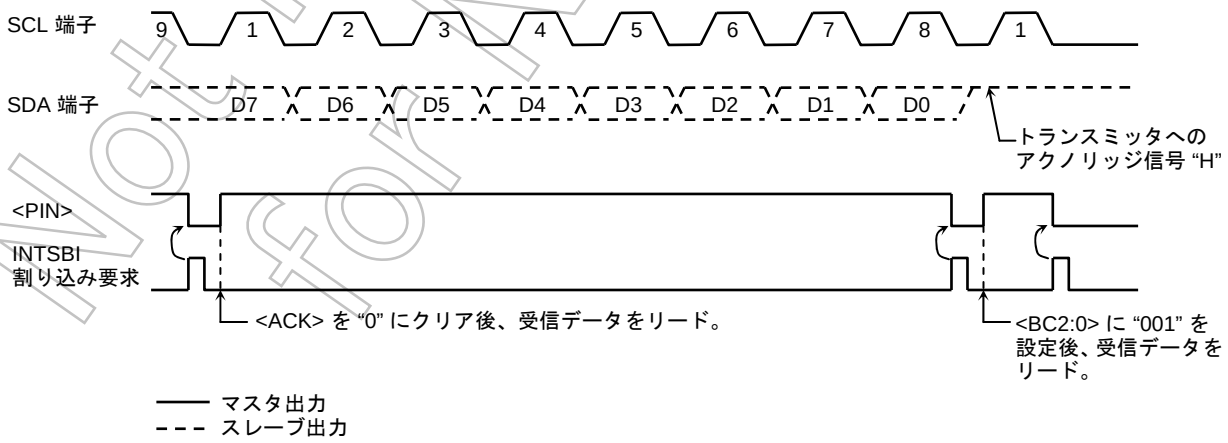


図 3.16.17 マスタレシーバモード時に、データの送信を終了させる場合の処理

Not Recommended for New Design

例: データを N 回受信する場合

INTSBI 割り込み (データ送信後)

		7 6 5 4 3 2 1 0	
SBICR1	←	X X X X X X X X	受信データのビット数および ACK を設定します。
Reg.	←	SBIDBR	ダミーデータを取り込みます。
割り込み終了			

INTSBI 割り込み (データ受信 1~ (N–2) 回目)

		7 6 5 4 3 2 1 0	
Reg.	←	SBIDBR	1~ (N–2) 回目のデータを取り込みます。
割り込み終了			

INTSBI 割り込み (データ受信 (N−1) 回目)

		7 6 5 4 3 2 1 0	
SBICR1	←	X X X 0 0 X X X	アクノリッジ信号のクロックを発生しないようにします。
Reg.	←	SBIDBR	(N–1) 回目のデータを取り込みます。
割り込み終了			

INTSBI 割り込み (データ受信 N 回目)

		7 6 5 4 3 2 1 0	
SBICR1	←	0 0 1 0 0 X X X	1 ビット転送のためのクロックを発生します。
Reg.	←	SBIDBR	N 回目のデータを取り込みます。
割り込み終了			

INTSBI 割り込み (データ受信後)

ストップコンディションを発生する処理	データ転送を終了させます。
割り込み終了	

注) X: Don’t care

Not Recommended for New Design

b. スレーブモードの場合 (<MST> = “0”)

スレーブモード時は、通常のスレーブモードとしての処理、またはアービトレーションロストを検出し、スレーブモードになったときの処理を行います。

スレーブモードのとき、マスタが送ったスレーブアドレス、またはゼネラルコールを受信したとき、もしくは、受信したスレーブアドレスが一致した後、または、ゼネラルコールを受信した後のデータ転送終了時に INTSBI 割り込み要求が発生します。また、マスタモードのとき、アービトレーションロストを検出するとスレーブモードとして動作し、アービトレーションロストを検出したワード転送の終了時に INTSBI 割り込み要求が発生します。INTSBI 割り込み要求が発生すると <PIN> が “0” にリセットされ、SCL 端子を “L” レベルに引きます。SBIDBR にデータをライト、SBIDBR からデータをリード、または、<PIN> に “1” を設定すると SCL 端子が t_{LOW} 後に開放されます。

SBISR<AL>, <TRX>, <AAS>, <AD0> をテストし、場合分けを行います。

表 3.16.2にスレーブモード時の状態と必要な処理を示します。

例: スレーブレシーバモード時スレーブアドレスが一致し、方向ビットが “1”の場合

INTSBI 割り込み
if TRX = 0
Then その他処理へ移行
if AL = 1
Then その他処理へ移行
if AAS = 0
Then その他処理へ移行

		7	6	5	4	3	2	1	0	
SBICR1	←	X	X	X	1	X	X	X	X	送信ビット数を設定します。
SBIDBR	←	X	X	X	X	X	X	X	X	送信データをセットします。

注) X: Don’t care

Not Recommended for New Design

表 3.16.2 スレーブモード時の処理

<TRX>	<AL>	<AAS>	<AD0>	状態	処理
1	1	1	0	スレーブアドレス送信中にアービトレーションロストを検出し、ほかのマスタが送った方向ビットが “1” のスレーブアドレスを受信	1 ワードのビット数を <BC2:0> にセットし、送信するデータを SBIDBR にライトします。
	0	1	0	スレーブレシーバモード時、マスタが送った方向ビットが “1” のスレーブアドレスを受信	
		0	0	スレーブトランスミッタモード時、1 ワードのデータの送信が終了	LRB をテストし、“1” にセットされていた場合、レシーバが次のデータを要求していないので <PIN> に “1” をセット、<TRX> を “0” にリセットしバスを解放します。<LRB> が “0” にリセットされていた場合、レシーバが次のデータを要求しているので 1 ワードのビット数を <BC2:0> にセットし、送信するデータを SBIDBR にライトします。
0	1	1	1/0	スレーブアドレス送信中にアービトレーションロストを検出し、ほかのマスタが送った方向ビットが “0” のスレーブアドレス、またはゼネラルコールを受信	<PIN> を “1” にセットするために SBIDBR のリード (ダミーリード)、または <PIN> に “1” をライトします。
		0	0	スレーブアドレスを送信中、またはデータ送信中に、アービトレーションロストを検出し、そのワードの転送が終了	
	0	1	1/0	スレーブレシーバモード時、マスタの送った方向ビットが “0” のスレーブアドレス、またはゼネラルコールを受信	
		0	1/0	スレーブレシーバモード時、1 ワードのデータの受信が終了	1 ワードのビット数を <BC2:0> にセットし、受信データを SBIDBR からリードします。

Not Recommended for New Design

(4) ストップコンディションの発生

SBISR<BB> = “1” のときに、SBICR2<MST, TRX, PIN>に “1” 、<BB>に “0” をライトすると、バス上にストップコンディション出力のシーケンスを開始します。バス上にストップコンディションが発生するまで、<MST, TRX, BB, PIN>の内容を書き替えないでください。

なお、バスの SCL ラインがほかのデバイスにより引かれていた場合、SCL ラインが開放されるのを待ち、SDA 端子が立ち上がり、ストップコンディションが発生します。

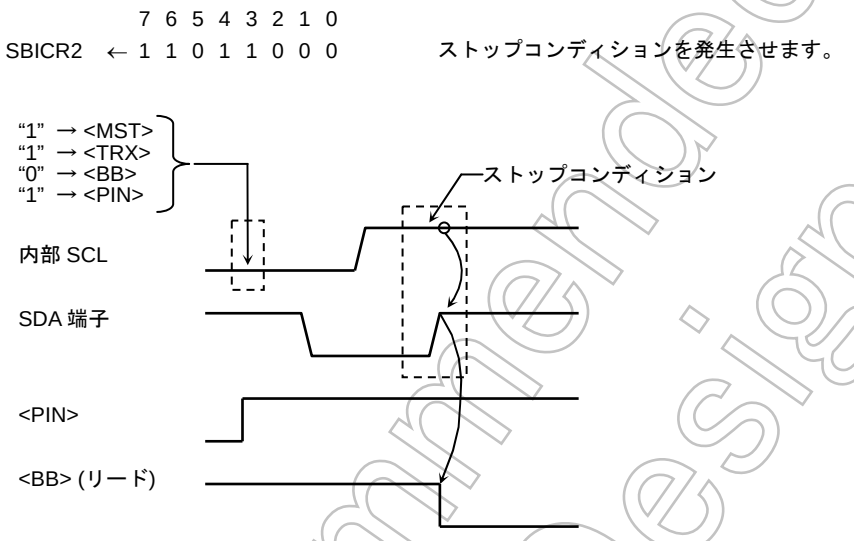


図 3.16.18 ストップコンディションの発生 (シングルマスタの場合)

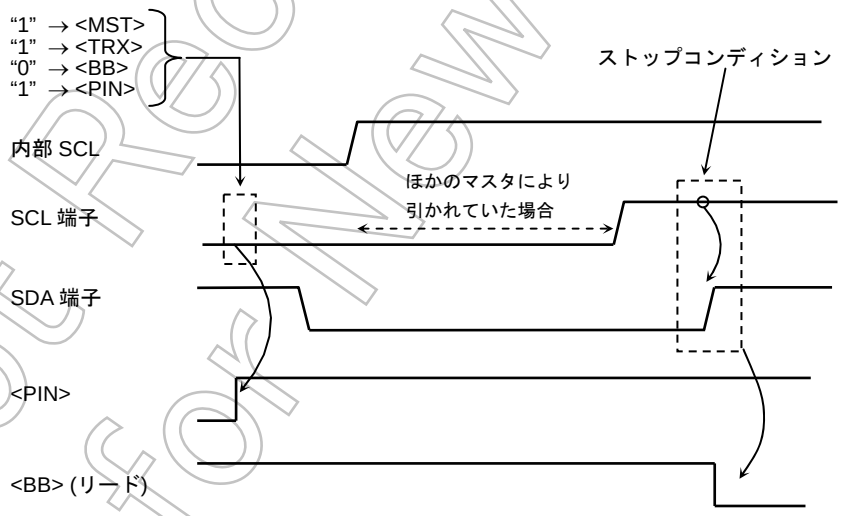


図3.16.19 ストップコンディションの発生 (マルチマスタの場合)

Not Recommended for New Design

(5) 再スタートの手順

再スタートはマスタデバイスがスレーブデバイスに対して、データ転送を終了させずに転送の方向を変化させるときに使用します。マスタモード時、再スタートを発生する場合の手順を以下に示します。

まず、SBICR2<MST, TRX, BB> に “0” 、<PIN> に “1” をライトし、バスを開放します。このとき SDA 端子は “H” レベルを保ち、SCL 端子が開放され、バス上にストップコンディションが発生されないため、ほかのデバイスから見るとバスはビジー状態のままです。この後、SCL 端子が開放されバスフリー状態になったことを SBISR<BB> = “0” 、もしくはポートモードによる SCL 端子の信号レベル 1 の確認で行います。次に <LRB> をテストして “1” になるまで待ち、ほかのデバイスがバスの SCL ラインを “L” レベルに引いていないことを確認します。以上の手順によってバスがフリー状態になっていることを確認した後に、前記 (2) の手順でスタートコンディションの発生を行います。

なお、再スタート時のセットアップタイムを満たすために、バスフリーの確認からスタートの発生まで、最低 4.7 μs のソフトウエアによる待ち時間が必要です。

	7 6 5 4 3 2 1 0	
SBICR2	← 0 0 0 1 1 0 0 0	バスを解放します。
if SBISR<BB> ≠ 0		SCL 端子の解放を確認します。
Then		
if SBISR<LRB> ≠ 1		他のデバイスの SCL 端子 “L” レベルの確認を行います。
Then		
4.7 μs Wait		
SBICR1	← X X X 1 X X X X	アクノリッジメントモードに設定します。
SBIDBR	← X X X X X X X X	目的のスレーブのスレーブアドレスと方向をセットします。
SBICR2	← 1 1 1 1 1 0 0 0	スタートコンディションの発生を行います。

注) X: Don’t care

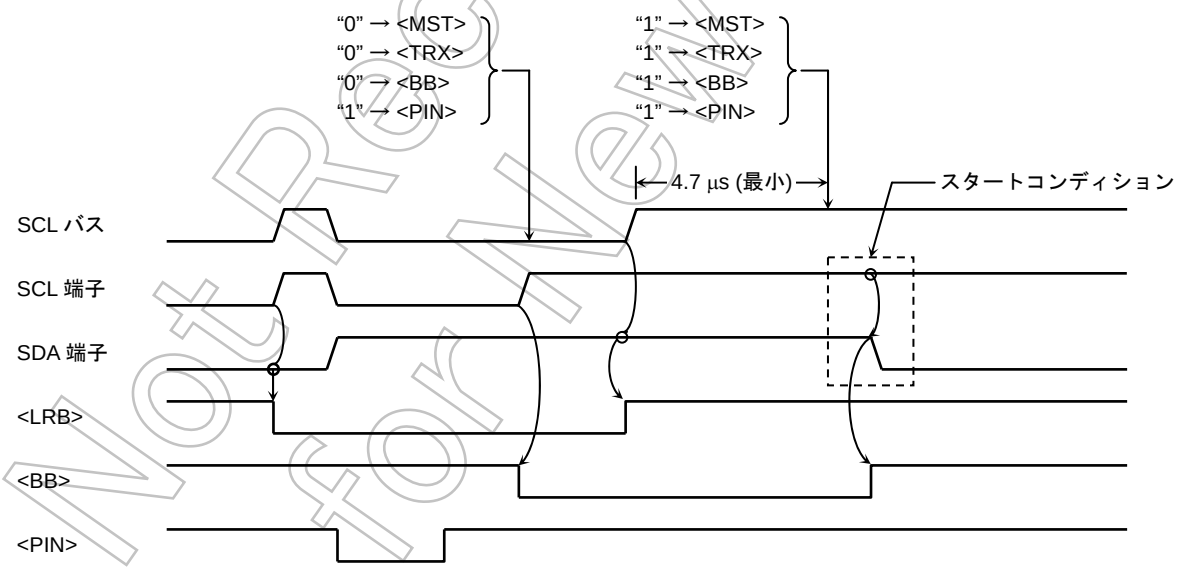


図 3.16.20 再スタートを発生する場合のタイミングチャート

注) <MST>= “0”の状態の時に<MST>= “0”をライトしないでください。 (再スタートできません)

Not Recommended for New Design

3.17 USBコントローラ

3.17.1 システム概要

USB コントローラ（UDC）は、USB システムを構築する上で、必要な種々のシリアルデータコミュニケーションに適合すべく設計されています。

主要機能と特長は次のとおりです。

(1) USB rev1.1 をサポート

(2) フルスピード (12 Mbps)対応 (Low スピード (1.5 Mbps) には対応していません)

(3) 384 バイトのディスクリプタ RAM を使用したエナミュレーション自動応答(スタンダードリクエスト)

(4) コントロール、割り込み、バルクの 3 種類の転送タイプに対応

エンドポイント 0:	コントロール	64 バイト × 1FIFO
エンドポイント 1:	バルク (OUT)	64 バイト × 2FIFO
エンドポイント 2:	バルク (IN)	64 バイト × 2FIFO
エンドポイント 3:	インターラプト (IN)	8 バイト × 1FIFO

(5) 受信データのサンプルクロックを生成する DPLL を内蔵

(6) SOP、EOP、RESUME、RESET、TIMEOUT を検出および生成

(7) NRZI データのエンコードおよびデコード

(8) スタフビットの挿入および除去

(9) CRC の生成および検査

(10) パケット ID の生成およびデコード

(11) パワーマネージメント機能を内蔵

(12) デュアルパケットモードに対応

注 1) TMP92CF29A は D+端子に必要なプルアップ抵抗を内蔵していません。外部でのプルアップ制御が必要です。外部スイッチ、出力ポートおよびソフトウエアで制御してください。

注 2) 動作上、一部USB1.1 の規格と異なる仕様があります。後述の「3.17.11使用上の注意事項」を事前に確認してください。

Not Recommended for New Design

3.17.1.1 システム構成

USB コントローラ (UDC) は、下記の 3 ブロック構成となっています。

1. 900/H1 CPU I/F
2. UDC コア (DPLL, SIE, IFM, PWM) 、リクエストコントローラ、ディスクリプタ RAM、4 つのエンドポイント FIFO
3. USB トランシーバ

3.17.2章では、900/H1 CPU I/F 関連の構成を 3.17.3章では、UDCコア、リクエストコントローラ、ディスクリプタRAM関連の構成を説明します。

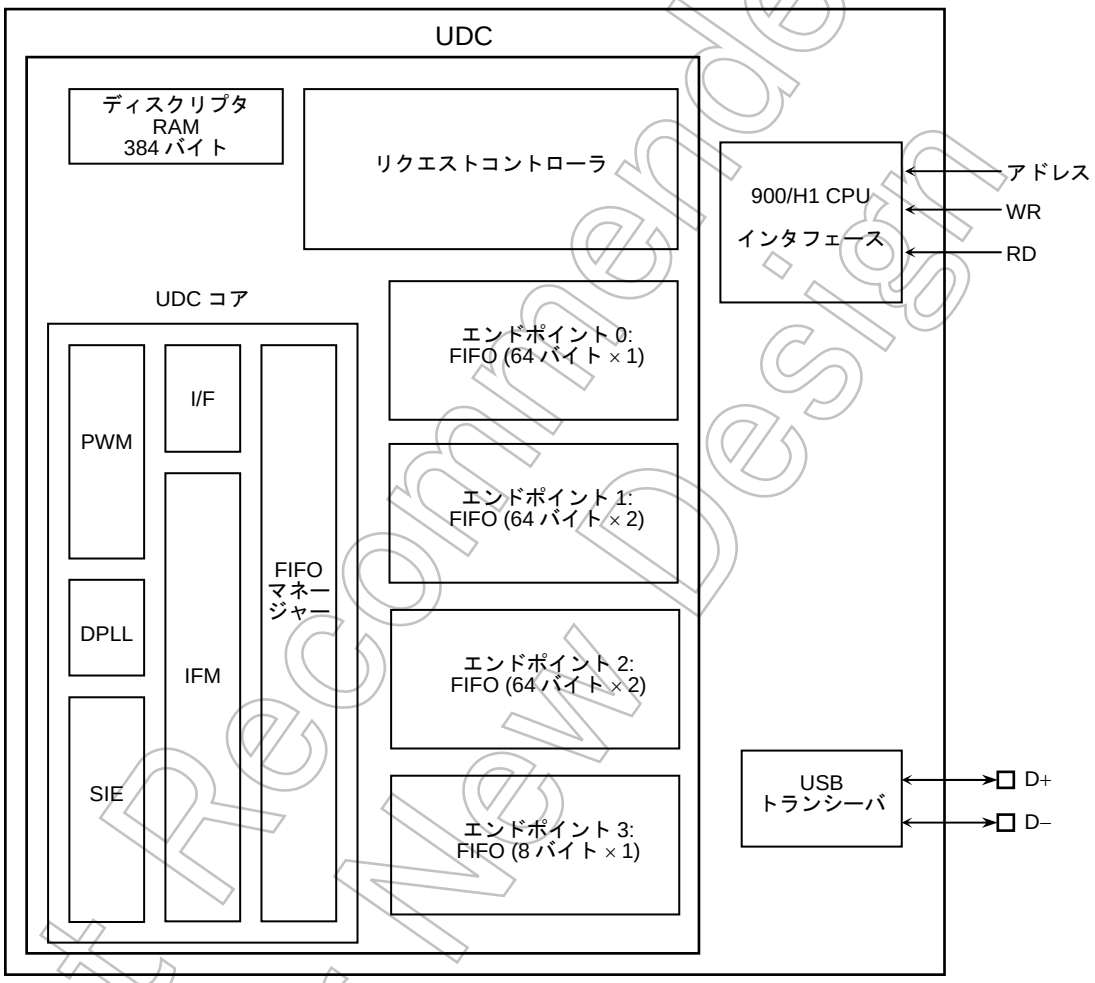
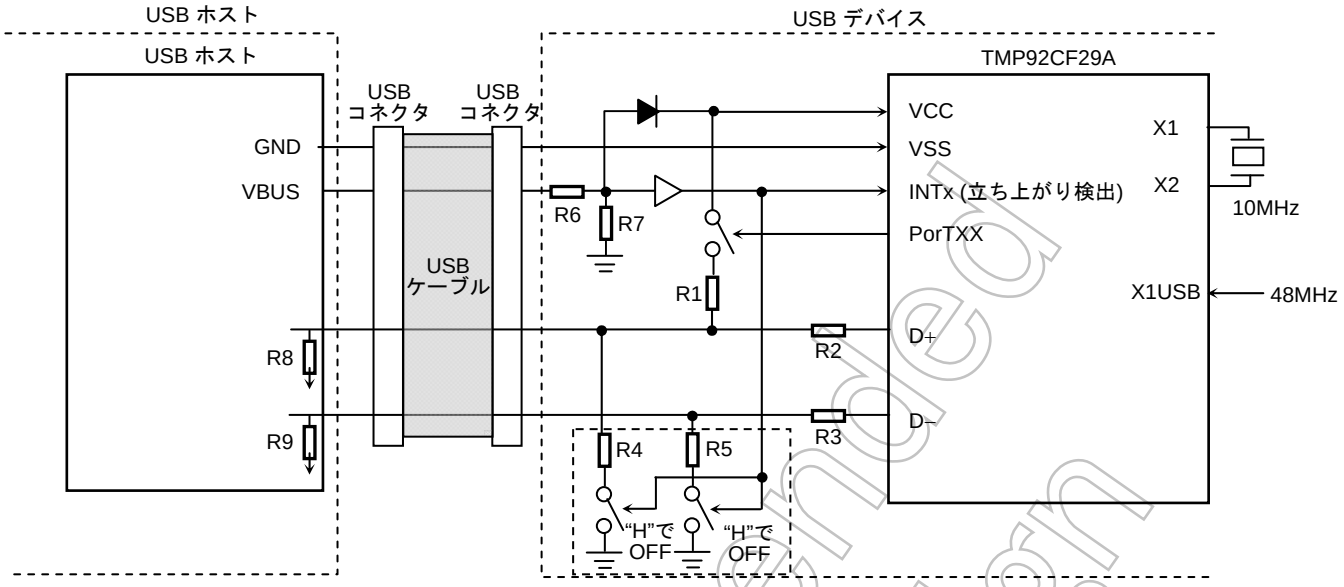


図 3.17.1 UDC ブロック図

Not Recommended for New Design

3.17.1.2 接続例



TMP92CF29A 内蔵の USB コントローラを使用する場合、以上のような接続が必要です。

1) D+端子のプルアップ処理
- USB 規定上、Full Speed の通信では、D+端子をプルアップすることが必要です。またこのプルアップは S/W で、ON/OFF 制御が必要です。
  推奨値：R1=1.5kΩ

2) D+、D−信号の直列抵抗挿入
- USB 規定上、D+、D−信号には、各々直列抵抗の挿入が必要です。
  推奨値：R2=27Ω、R3=27Ω

3) コネクタ接続検出および D+端子、D−端子の貫通電流対策処理
- TMP92CF29A の D+、D−端子は未使用時(ホストと未接続時)には、貫通電流対策のために、レベル固定が必要です。ここでは、コネクタ接続の検出信号を利用して、レベル固定用のプルダウン抵抗を制御する方法を紹介しています。
  推奨値：R4=10kΩ、R5=10kΩ
- コネクタ接続の検出を VBUS(5V 電圧)で検出する方法を例として紹介しています。
  ※ 波形の立ち上がりが、緩慢な場合、波形整形用に適当なバッファリングをすることをお勧めします。
  推奨値：R6=60kΩ、R7=100kΩ(サスペンド時の VBUS 消費電流 < 500μA)

4) X1,X2 に 10MHz の発振子の接続、または X1USB に 48MHz のクロック入力
- 外部 10MHz 発振と、内蔵 PLL の組み合わせで USB を使用する場合、内蔵 PLL の精度の関係上、使用できる外付けハブの段数に制約が生じます(最大 3 段まで)。
- 外付けハブは 5 段接続が必須の場合は、必ず X1USB 端子より±2500ppm 以下の精度で 48MHz のクロックを入力する必要があります。

5) HOST 側プルダウン抵抗
- USB 規定上、USB_HOST 側で D+信号と D−信号をプルダウンする必要があります。
  推奨値：R8=15kΩ、R9=15kΩ

注) 上記の接続、および抵抗値などは一例であり、その動作を保証するものではありません。必ず最新の USB 規格の確認と、お客様のセット上での動作確認をお願いいたします。

Not Recommended for New Design

3.17.2 900/H1 CPU I/F

900/H1 CPU I/F は、UDC 本体と 900/H1CPU とのアダプタです。
主に、下記のコントロールを行います。

- INTUSB (UDC からの割り込み) 発生
- SFR のアダプタ
- USB クロック制御 (48 MHz)

3.17.2.1 SFR説明

900/H1 CPU I/F には、UDC、USB トランシーバをコントロールするため、内部に以下のようなレジスタが用意されています。

USB コントロール

USBCR1 (USB コントロールレジスタ 1)

USB 割り込みコントロール

USBINTFR1 (USB 割り込みフラグレジスタ 1)
USBINTFR2 (USB 割り込みフラグレジスタ 2)
USBINTFR3 (USB 割り込みフラグレジスタ 3)
USBINTFR4 (USB 割り込みフラグレジスタ 4)
USBINTMR1 (USB 割り込みマスクレジスタ 1)
USBINTMR2 (USB 割り込みマスクレジスタ 2)
USBINTMR3 (USB 割り込みマスクレジスタ 3)
USBINTMR4 (USB 割り込みマスクレジスタ 4)

表 3.17.1 900/H1 CPU I/F SFR

アドレス	Read/Write	SFR symbol
07F0H	R/W	USBINTFR1
07F1H	R/W	USBINTFR2
07F2H	R/W	USBINTFR3
07F3H	R/W	USBINTFR4
07F4H	R/W	USBINTMR1
07F5H	R/W	USBINTMR2
07F6H	R/W	USBINTMR3
07F7H	R/W	USBINTMR4
07F8H	R/W	USBCR1

Not Recommended for New Design

3.17.2.2 USBCR1 レジスタ

このレジスタは、USB 使用時に設定するレジスタで、USB クロックの許可、内部トランシーバの設定などを行います。

		7	6	5	4	3	2	1	0
USBCR1 (07F8H)	bit Symbol	TRNS_USE	WAKEUP					SPEED	USBCLKE
	Read/Write	R/W	R/W					R/W	R/W
	リセット後	0	0					1	0
	機能								

- TRNS_USE (Bit7)

  0: USB トランシーバの禁止
  1: USB トランシーバ許可

  USB を使用するアプリケーションでは、常に “1” に設定してください。

- WAKEUP (Bit6)

  0: –
  1: リモートウェイクアップ機能スタート

  リモートウェイクアップ機能が必要な時には、まず、レジスタ Current_Config<REMOTE WAKEUP>をチェックして下さい。

  <REMOTE WAKEUP>=”1”(サスペンド状態)であることを確認し、<WAKEUP>に“1”をライトし、その後”0”を<WAKEUP> へライトしてください。これにより remote-wakeup 機能が開始されます。<REMOTE WAKEUP = “0” あるいは EP0,1,2,3_STATUS<SUSPEND>=“0”の時には、<WAKEUP>に“1”をライトしないで下さい。

- SPEED (Bit1)

  1: フルスピード (12 MHz)
  0: Reserved

  このビットは USB スピードを選択します。

  常に “1” に設定してください。

- USBCLKE (Bit0)

  0: USB クロック禁止
  1: USB クロック許可

  このビットは USB クロックの供給を制御します。

  USB コントローラに供給される 48MHz のクロックは、PLL 回路から供給されます。(f_{USB})。よって USB コントローラにクロック供給を開始するときは、PLL 回路のロックアップが終了していることを(安定発振)確認後、<USBCLKE>に“1”をライトしてください。

  また、PLL を停止する際は、<USBCLKE>に“0”をライトし USB クロックを停止後、PLL を停止してください。

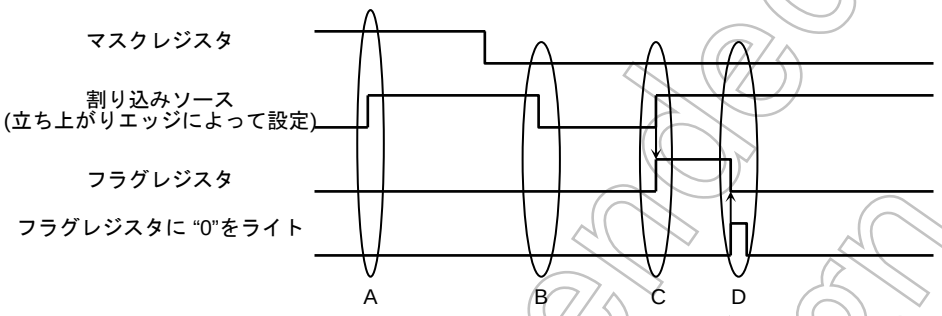
Not Recommended for New Design

3.17.2.3 USBINTFRn、MRnレジスタ

これらの SFR は、UDC が出力する 23 個の割り込みソースから INTUSB(CPU に対しては 1 つのみ)を制御します。USBINTMRn はマスクレジスタで、USBINTFRn は フラグレジスタです。したがって INTUSB ルーチンでは、USBINTFRn を確認後に発生している割り込みを判断し、処理してください。

以下は全マスクおよびフラグレジスタコモンの仕様となります。

(全マスクおよびフラグレジスタの共通仕様)



A: フラグレジスタはマスクレジスタ = “1” のためセットされません。

B: フラグレジスタは割り込みソースが “1” から “0” に切り替わるためセットされません。

C: フラグレジスタはマスクレジスタ = “0” および割り込みソースが “0” から “1” に切り替わるためセットされます。

D: フラグ レジスタはフラグレジスタに“0”をライトすることによって“0”にリセットされます。

注1) “INTUSB 発生回数” および “フラグにセットされたビット数”は常に同じとは限りません。INTUSB 割り込みルーチンでは、フラグレジスタの確認後、フラグレジスタをクリアしてください。また、INTUSB 割り込みルーチン分岐後、フラグレジスタ(USBINTFRn)をリードする前に発生した割り込みは、INTC 割り込み要求フラグは保持されたままとなります。そのため、INTUSB 割り込みルーチンを抜けた後、再度 USB 割り込みルーチンに分岐しますが、フラグレジスタ(USBINTFRn)がすべて”0”の場合がありますので、その場合でも異常終了しないようソフトウエアで対応してください。

注2) USBINTMRn あるいは USBINTFRn にライトする時は、その前に INTUSB を禁止(00H を INTEUSB レジスタにライト)してください。

Not Recommended for New Design

USBINTFR1 (07F0H) リード モディファイ ライト できません

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	INT_URST_STR	INT_URST_END	INT_SUS	INT_RESUME	INT_CLKSTOP	INT_CLKON		
Read/Write	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W		
リセット後	0	0	0	0	0	0		
機能	リード時 0: 割り込みなし 1: 割り込みあり			ライト時 0: フラグクリア 1: ー				

注)上記の割り込みは、IDLE2,IDLE1 モードからのホルト解除が可能です。 (STOP モードは解除できません)

※ USB で準備されている、24 種類の割込みの内、上記 6 種類の割込みは、IDLE1 モードからホルト解除が可能です。そのため、より低消費電力のシステムを構築することが可能です。ただし、その使用方法は以下に限られます。

IDLE1 へ移行　INT_SUS または INT_CLKSTOP フラグが "1" (SUSPEND 状態) の状態から、ホルト命令実行

IDLE1 から復帰　INT_RESUME または INT_CLKON 要求 (SUSPEND 解除要求) での、ホルト解除
INT_URST_STR または INT_URST_END 要求 (RESET 要求) での、ホルト解除

- INT_URST_STR (Bit7)

  INT_URST_STR (USB リセット開始割り込み)のためのフラグレジスタです。

  これは USB コントローラが USB ホストからの "USB リセット"信号を受信しはじめたとき、"1"にセットされます。アプリケーションプログラムはこの割り込みによって全 UDC を初期化する必要があります。

- INT_URST_END (Bit6)

  INT_URST_END (USB リセット終了割り込み)のためのフラグレジスタです。

  これは USB コントローラが USB ホストからの "USB リセット終了"の信号を受信したとき "1"にセットされます。

- INT_SUS (Bit5)

  INT_SUS (サスペンド割り込み)のためのフラグレジスタです。

  これは USB が"サスペンド状態"に切り替わったとき"1"にセットされます。

- INT_RESUME (Bit4)

  INT_RESUME (レジューム割り込み)のためのフラグレジスタです。

  これは USB が"レジューム状態"に切り替わったときに"1"にセットされます。

- INT_CLKSTOP (Bit3)

  INT_CLKSTOP (クロック供給停止許可割り込み)のためのフラグレジスタです。これは USB が "サスペンド状態" に切り替わった後に "1"にセットされます。クロックを停止する場合は、この割り込み検出後 USBCR1<USBCLKE>ビットを"0"にしてクロックを停止してください。

- INT_CLKON (Bit2)

  INT_CLKON (クロック供給開始許可割り込み)のためのフラグレジスタです。

  これは USB が"レジューム状態"、または USB ホストからの"USB リセット"信号を検出したとき"1"にセットされます。クロックを停止している場合は、この割り込み検出後 USBCR1<USBCLKE>ビットを"1"にしてクロックを開始してください。

Not Recommended for New Design

USBINTFR2 (07F1H)
リード
モディファイ
ライト
できません

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	EP1_FULL_A	EP1_Empty_A	EP1_FULL_B	EP1_Empty_B	EP2_FULL_A	EP2_Empty_A	EP2_FULL_B	EP2_Empty_B
Read/Write	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
機能	リード時 0: 割り込みなし 1: 割り込みあり				ライト時 0: フラグクリア 1: ー			

注) 上記の割り込みは、IDLE2 モードからのホルト解除が可能です。(IDLE1,STOP モードは解除できません。)

USBINTFR3 (07F2H)
リード
モディファイ
ライト
できません

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	EP3_FULL_A	EP3_Empty_A	EP3_FULL_B	EP3_Empty_B				
Read/Write	R/W	R/W	R/W	R/W				
リセット後	0	0	0	0				
機能	リード時 0: 割り込みなし 1: 割り込みあり ライト時 0: フラグクリア 1: ー							

注) 上記の割り込みは、IDLE2 モードからのホルト解除が可能です。(IDLE1,STOP モードは解除できません。)

EPx_FULL_A/B:

(送信時)
CPU が FIFO_A/B にフルにデータをライトしたときに“1”にセットされます。

(受信時)
UDC が FIFO_A/B にフルにデータを受信したときに“1”にセットされます。

EPx_Empty_A/B:

(送信時)
FIFO が送信後空になったときに“1”にセットされます。

(受信時)
CPU が FIFO からデータをリードし、FIFO が空になったときに”1”にセットされます。

注) EPx_FULL_A/B および EPx_Empty_A/B のフラグレジスタはステータスフラグではありません。したがって FIFO ステータスが必要な場合 DATASET レジスタを検査しなければなりません。

Not Recommended for New Design

USBINTFR4 (07F3H) リード モディファイ ライト できません

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	INT_SETUP	INT_EP0	INT_STAS	INT_STASN	INT_EP1N	INT_EP2N	INT_EP3N	
Read/Write	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	
機能	リード時 0: 割り込みなし ライト時 0: フラグクリア 1: 割り込みあり 1: ー							

注) 上記の割り込みは、IDLE2 モードからのホルト解除が可能です。(IDLE1,STOP モードは解除できません。)

- INT_SETUP (Bit7)

  INT_SETUP (セットアップ割り込み)のためのフラグレジスタです。

  これは USB ホストから S/W(ソフトウエア)制御が必要な要求を受信したとき“1”にセットされます。INT_SETUP ルーチン内の S/W によって、まず 8 バイトのデバイスリクエストを UDC からリードし、各要求にしたがって処理を実行してください。

- INT_EP0 (Bit6)

  INT_EP0 (コントロール転送のデータフェーズの受信データ割り込み)のためのフラグレジスタです。

  UDC がコントロール転送のデータフェーズのデータを受信したときに”1”にセットされます。コントロールライト転送時この割り込みが発生した場合 FIFO からデータをリードする必要があります。コントロールリード転送時、この割り込みが発生した場合 FIFO へ送信データをライトする必要があります。ホストによってはデータステージ最終パケットの “ACK”をアサートしない事があります。その場合、この割り込みは発生しません。よって最終パケットデータがデータステージでライトされた後のこの割り込みは無視してください。理由は送信データ数がホストから支持されるかデバイスの容量に依存するからです。

- INT_STAS (Bit5)

  INT_STAS (ステータスステージ終了割り込み)のためのフラグレジスタです。

  これはステータスステージが終了したとき“1”にセットされます。

  この割り込みが発生した場合、リクエストが正常終了したことを意味します。

  この割り込みが発生せず、INT_SETUP が発生した場合、EP0_STATUS <STAGE_ERR> は“1”にセットされ、リクエストが正常終了しなかったことを意味します。

Not Recommended for New Design

- INT_STASN (Bit4)

  INT_STASN(ホストステータスステージ切り替わり割り込み)ためのフラグレジスタです。USB ホストがコントロールリード転送でステータスステージに切り替わったとき“1”にセットされます。この割り込みはデータ長が wLength(ホストによって指定)より小さい場合必要になります。

- INT_EPxN (Bit3~Bit1)

  INT_EPxN (ホストへの NAK 応答割り込み)ためのフラグレジスタです。これはエンドポイント 1,2,3 が NAK を送信したときに“1”にセットされます。

Not Recommended for New Design

USBINTMR1 (07F4H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	MSK_URST_STR	MSK_URST_END	MSK_SUS	MSK_RESUME	MSK_CLKSTOP	MSK_CLKON		
Read/Write	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W		
リセット後	1	1	1	1	1	1		
機能	0: マスクしない 1: マスクする							

- MSK_URST_STR（Bit7）
  USBINTFR1<INT_URST_STR>のためのマスクレジスタです。
- MSK_URST_END (Bit6)
  USBINTFR1 <INT_URST_END>>のためのマスクレジスタです。
- MSK_SUS (Bit5)
  USBINTFR1<INT_SUS>のためのマスクレジスタです。
- MSK_RESUME (Bit4)
  USBINTFR1<INT_RESUME>のためのマスクレジスタです。
- MSK_CLKSTOP (Bit3)
  USBINTFR1<INT_URST_STR>のためのマスクレジスタです。
- MSK_CLKON (Bit2)
  USBINTFR1 <INT_CLKON>のためのレジスタです。

Not Recommended for New Design

USBINTMR2 (07F5H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	EP1_MSK_FA	EP1_MSK_EA	EP1_MSK_FB	EP1_MSK_EB	EP2_MSK_FA	EP2_MSK_EA	EP2_MSK_FB	EP2_MSK_EB
Read/Write	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット後	1	1	1	1	1	1	1	1
機能	0: マスクしない 1: マスクする							

- EP1/2_MSK_FA/FB/EA/EB

  USBINTFR2<EP1/2_FULL_A/B>,<EP1/2_Empty_A/B>のためのマスクレジスタです。

USBINTMR3 (07F6H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	EP3_MSK_FA	EP3_MSK_EA						
Read/Write	R/W	R/W						
リセット後	1	1						
機能	0: マスクしない 1: マスクする							

- EP3_MSK_FA/FB/EA/EB

  USBINTFR3<EP3_FULL_A/B>,<EP3_Empty_A/B>のためのマスクレジスタです。

Not Recommended for New Design

USBINTMR4 (07F7H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	MSK_SETUP	MSK_EP0	MSK_STAS	MSK_STASN	MSK_EP1N	MSK_EP2N	MSK_EP3N	
Read/Write	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	
リセット後	1	1	1	1	1	1	1	
機能	0: マスクしない 1: マスクする							

- MSK_SETUP (Bit7)
  USBINTFR4<INT_SETUP >のためのマスクレジスタです。
- MSK_EP0 (Bit6)
  USBINTFR4<INT_EP0>のためのマスクレジスタです。
- MSK_STAS (Bit5)
  USBINTFR4<INT_STAS>のためのマスクレジスタです。
- MSK_STASN (Bit4)
  USBINTFR4<INT_STASN>のためのマスクレジスタです。
- MSK_EP1N (Bit3)
  USBINTFR4<INT_EP1N>のためのマスクレジスタです。
- MSK_EP2N (Bit2)
  USBINTFR4<INT_EP2N>のためのマスクレジスタです。
- MSK_EP3N (Bit1)
  USBINTFR4<INT_EP3N>のためのマスクレジスタです。

Not Recommended for New Design

3.17.3 UDC コア

3.17.3.1 SFR説明

USB トランシーバおよび UDC をコントロールするため、内部に以下のようなレジスタが用意されています。

a) FIFO

エンドポイント 0~3 FIFO レジスタ

b) デバイスリクエスト

bmRequestType	レジスタ	bRequest	レジスタ
wValue_L	レジスタ	wValue_H	レジスタ
wIndex_L	レジスタ	wIndex_H	レジスタ
wLength_L	レジスタ	wLength_H	レジスタ

c) ステータス

Current_Config	レジスタ	USB_STATE	レジスタ
StandardRequest	レジスタ	Request	レジスタ
EPx_STATUS	レジスタ		

d) セットアップ

EPx_BCS	レジスタ	EPx_SINGLE	レジスタ
Standard Request mode	レジスタ	Request Mode	レジスタ
DescriptorRAM	レジスタ	PortStatus	レジスタ

e) コントロール

EPx_MODE	レジスタ	EOP	レジスタ
COMMAND	レジスタ	INT_Control	レジスタ
SetupReceived	レジスタ	USBREADY	レジスタ

f) その他

ADDRESS	レジスタ	DATASET	レジスタ
EPx_SIZE_L_A	レジスタ	EPx_SIZE_H_A	レジスタ
EPx_SIZE_L_B	レジスタ	EPx_SIZE_H_B	レジスタ
FRAME_L	レジスタ	FRAME_H	レジスタ
USBBUFF TEST	レジスタ		

Not Recommended for New Design

表 3.17.2 UDC コア SFR (1/3)

アドレス	Read/Write	SFR シンボル
0500H	R/W	Descriptor RAM0
0501H	R/W	Descriptor RAM1
0502H	R/W	Descriptor RAM2
0503H	R/W	Descriptor RAM3
⋮		⋮
067DH	R/W	Descriptor RAM381
067EH	R/W	Descriptor RAM382
067FH	R/W	Descriptor RAM383
0780H	R/W	ENDPOINT0
0781H	R/W	ENDPOINT1
0782H	R/W	ENDPOINT2
0783H	R/W	ENDPOINT3
0784H 注)	R/W	ENDPOINT4
0785H 注)	R/W	ENDPOINT5
0786H 注)	R/W	ENDPOINT6
0787H 注)	R/W	ENDPOINT7
0788H	–	Reserved
0789H	R/W	EP1_MODE
078AH	R/W	EP2_MODE
078BH	R/W	EP3_MODE
078CH 注)	R/W	EP4_MODE
078DH 注)	R/W	EP5_MODE
078EH 注)	R/W	EP6_MODE
078FH 注)	R/W	EP7_MODE
0790H	R	EP0_STATUS
0791H	R	EP1_STATUS
0792H	R	EP2_STATUS
0793H	R	EP3_STATUS
0794H 注)	R	EP4_STATUS
0795H 注)	R	EP5_STATUS
0796H 注)	R	EP6_STATUS
0797H 注)	R	EP7_STATUS
0798H	R	EP0_SIZE_L_A
0799H	R	EP1_SIZE_L_A
079AH	R	EP2_SIZE_L_A
079BH	R	EP3_SIZE_L_A
079CH 注)	R	EP4_SIZE_L_A
079DH 注)	R	EP5_SIZE_L_A
079EH 注)	R	EP6_SIZE_L_A
079FH 注)	R	EP7_SIZE_L_A
07A1H	R	EP1_SIZE_L_B
07A2H	R	EP2_SIZE_L_B
07A3H	R	EP3_SIZE_L_B
07A4H 注)	R	EP4_SIZE_L_B
07A5H 注)	R	EP5_SIZE_L_B
07A6H 注)	R	EP6_SIZE_L_B
07A7H 注)	R	EP7_SIZE_L_B
07A8H	–	Reserved

Not Recommended for New Design

表 3.17.3 UDC コア SFR (2/3)

アドレス	Read/Write	SFR シンボル
07A9H	R	EP1_SIZE_H_A
07AAH	R	EP2_SIZE_H_A
07ABH	R	EP3_SIZE_H_A
07ACH 注)	R	EP4_SIZE_H_A
07ADH 注)	R	EP5_SIZE_H_A
07AEH 注)	R	EP6_SIZE_H_A
07AFH 注)	R	EP7_SIZE_H_A
07B1H	R	EP1_SIZE_H_B
07B2H	R	EP2_SIZE_H_B
07B3H	R	EP3_SIZE_H_B
07B4H 注)	R	EP4_SIZE_H_B
07B5H 注)	R	EP5_SIZE_H_B
07B6H 注)	R	EP6_SIZE_H_B
07B7H 注)	R	EP7_SIZE_H_B
07C0H	R	bmRequestType
07C1H	R	bRequest
07C2H	R	wValue_L
07C3H	R	wValue_H
07C4H	R	wIndex_L
07C5H	R	wIndex_H
07C6H	R	wLength_L
07C7H	R	wLength_H
07C8H	W	SetupReceived
07C9H	R	Current_Config
07CAH	R	StandardRequest
07CBH	R	Request
07CCH	R	DATASET1
07CDH	R	DATASET2
07CEH	R	USB_STATE
07CFH	W	EOP
07D0H	W	COMMAND
07D1H	R/W	EPx_SINGLE1
07D2H 注)	R/W	EPx_SINGLE2
07D3H	R/W	EPx_BCS1
07D4H 注)	R/W	EPx_BCS2
07D5H	–	Reserved
07D6H	R/W	INT_Control
07D7H	–	Reserved
07D8H	R/W	Standard Request Mode
07D9H	R/W	Request Mode
07DAH	–	Reserved
07DBH	–	Reserved
07DCH	–	Reserved
07DDH	–	Reserved

Not Recommended for New Design

表 3.17.4 UDC コア SFR (3/3)

アドレス	Read/Write	SFR シンボル
07DEH	W	ID_CONTROL
07DFH	R	ID_STATE
07E0H	R/W	Port_Status
07E1H	R	FRAME_L
07E2H	R	FRAME_H
07E3H	R	ADDRESS
07E4H	–	Reserved
07E5H	–	Reserved
07E6H	R/W	USBREADY
07E7H	–	Reserved
07E8H	W	Set Descriptor STALL

注) これらのレジスタは、TMP92CF29A では使用されません。

Not Recommended for New Design

3.17.3.2 EPx FIFOレジスタ (x: 0~3)

このレジスタは、エンドポイントごとに独立して用意されています。

このレジスタを介して UDC 内の FIFO へデータ転送、あるいは FIFO からのデータ転送を行います。

オートバスエナミュレーション時に、UDC 内部のリクエストコントローラが、エンドポイントディスクリプタに定義されているモードを、各々のエンドポイント毎、自動的に設定します。この設定された値により、各エンドポイントは任意の方向に自動的に設定されます。

Endpoint0 (0780H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	EP0_DATA7	EP0_DATA6	EP0_DATA5	EP0_DATA4	EP0_DATA3	EP0_DATA2	EP0_DATA1	EP0_DATA0
Read/Write	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット後	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定

Endpoint1 (0781H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	EP1_DATA7	EP1_DATA6	EP1_DATA5	EP1_DATA4	EP1_DATA3	EP1_DATA2	EP1_DATA1	EP1_DATA0
Read/Write	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット後	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定

Endpoint2 (0782H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	EP2_DATA7	EP2_DATA6	EP2_DATA5	EP2_DATA4	EP2_DATA3	EP2_DATA2	EP2_DATA1	EP2_DATA0
Read/Write	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット後	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定

Endpoint3 (0783H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	EP3_DATA7	EP3_DATA6	EP3_DATA5	EP3_DATA4	EP3_DATA3	EP3_DATA2	EP3_DATA1	EP3_DATA0
Read/Write	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット後	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定

注) これらのウィンドウレジスタは、各レジスタが 1 バイトアドレスのみ所有しているため、1 バイトのロード命令を使用することにより、ライトあるいはリードをしなければなりません。2 バイトあるいは 4 バイトでのロード命令は使用しないでください。

USB ホストから受信したデバイスリクエストは、以下に示す 8 バイト分のレジスタに格納されます。このデバイスリクエストは、bmRequestType、bRequest、wValue_L、wValue_H、wIndex_L、wIndex_H、wLength_L、wLength_H の 8 つのレジスタにより構成され、ホストから新規のセットアップトークンを受信するたびに更新されます。

エラーなく受信したときのみ、INT_SETUP 割り込みをアサートし、新規のデバイスリクエストを受信したことを知らせます。また、受信したリクエストによって、UDC 内で自動的に処理するリクエストがあります。その場合、INT_SETUP 割り込みを外部にアサートせず、STANDARD_REQUEST_FLAG、REQUEST_FLAG をもって、UDC が現在処理中のリクエストを外部に知らせます。

Not Recommended for New Design

3.17.3.3 bmRequestTypeレジスタ

このレジスタは、デバイスリクエストの bmRequestType フィールドを示したものです。

bmRequestType (07C0H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	DIRECTION	REQ_TYPE1	REQ_TYPE0	RECIPIENT4	RECIPIENT3	RECIPIENT2	RECIPIENT1	RECIPIENT0
Read/Write	R	R	R	R	R	R	R	R
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

- DIRECTION (bit7)
  0: ホストからデバイスへ
  1: デバイスからホストへ

- REQ_TYPE (bit6~5)
  00: スタンダード
  01: クラス
  10: ベンダー
  11: Reserved

- RECIPIENT (bit4~0)
  00000: デバイス
  00001: インタフェース
  00010: エンドポイント
  00011: etc
  Others: Reserved

3.17.3.4 bRequestレジスタ

このレジスタは、デバイスリクエストの bRequest フィールドを示したものです。

bRequest (07C1H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	REQUEST7	REQUEST6	REQUEST5	REQUEST4	REQUEST3	REQUEST2	REQUEST1	REQUEST0
Read/Write	R	R	R	R	R	R	R	R
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

(スタンダード)
Bit 00000000: GET_STATUS
00000001: CLEAR_FEATURE
00000010: (Reserved)
00000011: SET_FEATURE
00000100: (Reserved)
00000101: SET_ADDRESS
00000110: GET_DESCRIPTOR
00000111: SET_DESCRIPTOR
00001000: GET_CONFIGURATION
00001001: SET_CONFIGURATION
00001010: GET_INTERFACE
00001011: SET_INTERFACE
00001100: SYNCH_FRAME

(プリンタクラス)
Bit 00000000: GET_DEVICE_ID
00000001: GET_PORT_STATUS
00000010: SOFT_RESET

Not Recommended for New Design

3.17.3.5 wValueレジスタ

このレジスタには、wValue_L レジスタと、wValue_H レジスタの 2 つがあります。
wValue_L レジスタは、ホストから転送されるデバイスリクエストの wValue フィールドの下位バイトを示し、wValue_H レジスタは、その上位バイトを示します。

wValue_L (07C2H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	VALUE_L7	VALUE_L6	VALUE_L5	VALUE_L4	VALUE_L3	VALUE_L2	VALUE_L1	VALUE_L0
Read/Write	R	R	R	R	R	R	R	R
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

wValue_H (07C3H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	VALUE_H7	VALUE_H6	VALUE_H5	VALUE_H4	VALUE_H3	VALUE_H2	VALUE_H1	VALUE_H0
Read/Write	R	R	R	R	R	R	R	R
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

3.17.3.6 wIndexレジスタ

このレジスタには、wIndex_L レジスタと、wIndex_H レジスタの 2 つがあります。
wIndex_L レジスタは、ホストから転送されるデバイスリクエストの wIndex フィールドの下位バイトを示し、wIndex_H レジスタは、その上位バイトを示します。
これらは通常 Index やオフセットを渡すために使用します。

wIndex_L (07C4H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	INDEX_L7	INDEX_L6	INDEX_L5	INDEX_L4	INDEX_L3	INDEX_L2	INDEX_L1	INDEX_L0
Read/Write	R	R	R	R	R	R	R	R
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

wIndex_H (07C5H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	INDEX_H7	INDEX_H6	INDEX_H5	INDEX_H4	INDEX_H3	INDEX_H2	INDEX_H1	INDEX_H0
Read/Write	R	R	R	R	R	R	R	R
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

3.17.3.7 wLengthレジスタ

このレジスタには、wLength_L レジスタと、wLength_H レジスタの 2 つがあります。
wLength_L レジスタは、ホストから転送されるデバイスリクエストの wLength フィールドの下位バイトを示し、wLength_H レジスタは、その上位バイトを示します。

wLength_L (07C6H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	LENGTH_L7	LENGTH_L6	LENGTH_L5	LENGTH_L4	LENGTH_L3	LENGTH_L2	LENGTH_L1	LENGTH_L0
Read/Write	R	R	R	R	R	R	R	R
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

wLength_H (07C7H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	LENGTH_H7	LENGTH_H6	LENGTH_H5	LENGTH_H4	LENGTH_H3	LENGTH_H2	LENGTH_H1	LENGTH_H0
Read/Write	R	R	R	R	R	R	R	R
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

Not Recommended for New Design

3.17.3.8 SetupReceivedレジスタ

このレジスタは、外部アプリケーションが INT_SETUP 割り込みを認識したことを UDC に知らせるためのレジスタです。

SetupReceived (07C8H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0
Read/Write	W	W	W	W	W	W	W	W
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

UDC は、外部アプリケーションより、このレジスタをアクセスされると、デバイスリクエストを受信したものと認識し、EP0 の FIFO へのアクセス禁止を解きます。これは、1 つ前のデバイスリクエストが正常に終了していない間に、新規のリクエストが来たときに、外部アプリケーションが新規のリクエストに対する INT_SETUP 割り込みを認識するまでの間、EP0 に格納されたデータを保護するためです。

従って、CPU が INT_SETUP 割り込みに対するデバイスリクエストを認識したとき、このレジスタに 00H を WR してください。

注) このレジスタにライトを行った後の EP0_FIFO レジスタへのアクセスは、12MHz の 2 クロック分のリカバリタイムを必要とします。

3.17.3.9 Current_Configレジスタ

このレジスタは、SET_CONFIGURATION、SET_INTERFACE にてセットされた現行のコンフィグ値、インタフェース値を示します。

Current_Config (07C9H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	REMOTEWAKEUP		ALTERNATE[1]	ALTERNATE[0]	INTERFACE[1]	INTERFACE[0]	CONFIG[1]	CONFIG[0]
Read/Write	R		R	R	R	R	R	R
リセット後	0		0	0	0	0	0	0

- CONFIG (Bit1~Bit0)
  - 00: UNCONFIGURED　ホストによってまだコンフィグされていないことを示します。
  - 01: CONFIGURED1　ホストによってコンフィグ 1 に設定されたことを示します。
  - 10: CONFIGURED2　ホストによってコンフィグ 2 に設定されたことを示します。

- INTERFACE (Bit3~Bit2)
  - 00: INTERFACE0　ホストによってインタフェース 0 に設定されたことを示します。
  - 01: INTERFACE1　ホストによってインタフェース 1 に設定されたことを示します。
  - 10: INTERFACE2　ホストによってインタフェース 2 に設定されたことを示します。

- ALTERNATE (Bit5~Bit4)
  - 00: ALTERNATE0　ホストによって代替設定 0 に設定されたことを示します。
  - 01: ALTERNATE1　ホストによって代替設定 1 に設定されたことを示します。
  - 10: ALTERNATE2　ホストによって代替設定 2 に設定されたことを示します。

- REMOTE WAKEUP (Bit7)
  - 0: ディセーブル　ホストによって Remote Wakeup をディセーブルにされたことを示します。
  - 1: イネーブル　ホストによって Remote Wakeup をイネーブルにされたことを示します。

注 1) CONFIG, INTERFACE, ALTERNATE はそれぞれ 3 つ(0,1,2)をサポートしています。

注 2) 各リクエストをソフトウエア制御する場合は、このレジスタに値はセットされません。

Not Recommended for New Design

3.17.3.10 StandardRequest レジスタ

このレジスタは、現在実行中のスタンダードリクエストを示すレジスタです。
各ビットで“1”がセットされているビットが現在実行中のリクエストです。

Standard Recuest (07CAH)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	S_INTERFACE	G_INTERFACE	S_CONFIG	G_CONFIG	G_DESCRIPT	S_FEATURE	C_FEATURE	G_STATUS
Read/Write	R	R	R	R	R	R	R	R
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

- S_INTERFACE (Bit 7) :SET_INTERFACE
- G_INTERFACE (Bit 6) :GET_INTERFACE
- S_CONFIG (Bit 5) :SET_CONFIGRATION
- G_CONFIG (Bit 4) :GET_CONFIGRATION
- G_DESCRIPT (Bit 3) :GET_DESCRIPTOR
- S_FEATURE (Bit 2) :SET_FEATURE
- C_FEATURE (Bit 1) :CLEAR_FEATURE
- G_STATUS (Bit 0) :GET_STATUS

3.17.3.11 Requestレジスタ

このレジスタは、現在実行中のデバイスリクエストを示すレジスタです。
各ビットで“1”がセットされているビットが現在実行中のリクエストです。

Request (07CBH)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol		SOFT_RESET	G_PORT_STS	G_DEVICE_ID	VENDOR	CLASS	ExSTANDARD	STANDARD
Read/Write		R	R	R	R	R	R	R
リセット後		0	0	0	0	0	0	0

- SOFT_RESET (Bit 6) :SOFT_RESET
- G_PORT_STS (Bit 5) :GET_PORT_STATUS
- G_DEVICE_ID (Bit 4) :GET_DEVICE_ID
- VENDOR (Bit 3) :ベンダークラスリクエスト
- CLASS (Bit 2) :クラスリクエスト
- ExSTANDARD (Bit 1) :エナミュレーション自動応答未対応 (SET_DESCRIPTOR, SYNCH_FRAME)
- STANDARD (Bit 0) :スタンダードリクエスト

Not Recommended for New Design

3.17.3.12 DATASETレジスタ

このレジスタは FIFO 内のデータの有無を示します。

アプリケーションは、このレジスタをアクセスすることにより、エンドポイントごとに FIFO のデータの有無を確認することができます。受信時には USB ホストからの有効なデータ転送が終了すると、割り込みと共に該当するエンドポイントに対応したビットが“1”にセットされ、アプリケーションが FIFO から 1 パケット分のデータをリードすると“0”にリセットされます。送信時は FIFO に 1 パケット分のデータの転送が終了すると“1”にセットされ、USB ホストに対して有効なデータ送信が行われると割り込みと共に“0”にリセットされます。

DATASET1 (07CCH)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	EP3_DSET_B	EP3_DSET_A	EP2_DSET_B	EP2_DSET_A	EP1_DSET_B	EP1_DSET_A		EP0_DSET_A
Read/Write	R	R	R	R	R	R		R
リセット後	0	0	0	0	0	0		0

DATASET2 (07CDH)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	EP7_DSET_B	EP7_DSET_A	EP6_DSET_B	EP6_DSET_A	EP5_DSET_B	EP5_DSET_A	EP4_DSET_B	EP4_DSET_A
Read/Write	R	R	R	R	R	R	R	R
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

注) DATASET1<EP3_DSET_B>、DATASET2 レジスタは TMP92CF29A では使用されません。

- シングルパケットモード (DATASET1: Bit0, 2, 4, 6 DATASET2: Bit0, 2, 4, 6)

  これらのビットは該当エンドポイントの FIFO にデータがあるかないかを示します。

  受信モードのエンドポイントでは該当エンドポイントのビットが“1”の状態であれば FIFO 内にリードされるべきデータが存在します。EPx_SIZE レジスタをアクセスし、リードすべきデータのサイズを把握し、そのサイズ分のデータをリードしてください。“0”のときはリードされるべきデータがありません。

  送信モードのエンドポイントでは該当エンドポイントのビットが“0”であれば、CPU は FIFO へペイロード以下のデータを転送することが可能です。もしも“1”の状態であれば送信待ちのデータが FIFO 内にありますので、該当ビットが“0”にクリアされてから UDC 内の FIFO にデータを転送する必要があります。ショートパケットを送信する場合には、送信するデータを該当エンドポイントにライトした後、EOP レジスタをアクセスしてください。

- デュアルパケットモード (DATASET1: Bit3, 5 ,7 DATASET2: Bit1, 3, 5, 7)

  これらのビットは、デュアルパケットモード時に有効になります。デュアルパケットモードでは FIFO が 2 パケットありますので、パケット A、B ごとに DATASET ビットを用意しています。

  アイソクロナス転送では、上記動作と異なり、現在のフレームでアクセス可能なパケットが示されます。この場合 A または B どちらかのビットが“1”になり、フレームの切り替わりに対応して更新されます。

Not Recommended for New Design

注 1)受信モード時、該当エンドポイントの A、B パケットのビットが共に“1”ならば、EPx_SIZE レジスタの PKT_ACTIVE ビットを確認の上、データを受信すべきパケットのサイズを把握し、そのサイズ分のデータを取り込む必要があります。

注 2)送信モード時、該当エンドポイントの A、B パケットのビットが共に“1”でなければ、送信用 FIFO に空きがあることを示しています。ペイロードサイズ以下のデータを FIFO にライトしてください。もしも、ショートパケットとなる場合は、送信するデータを FIFO にライトした後、EOP レジスタをアクセスし、該当エンドポイントの EOP ビットに“0”をライトしてください。片方のパケットにライトできる最大サイズは MAX ペイロードサイズまでです。該当エンドポイントの A、B パケットのビットが共に“0”の場合、MAX ペイロードサイズ × 2 バイト分、連続してライトすることが可能です。

注3) デュアルモードでの送信時、A、B パケット共にデータがない状態で、EOP レジスタをアクセスし、該当エンドポイントの EOP ビットに“0”をライトした場合、NULL データが FIFO にセットされます。シングルモードにおいては、A パケットにデータがない状態で、上述した EOP アクセスを行うと、NULL データがバンク A の FIFO にセットされます。

注4) NULL パケット(0Length パケット)受信時にはこのレジスタはセットされません。

Not Recommended for New Design

3.17.3.13 EPx_STATUS レジスタ (x: 0~7)

これらは各エンドポイントのためのステータスレジスタです。
<SUSPEND>はすべてのエンドポイントで共通です。

		7	6	5	4	3	2	1	0
EP0_STATUS (0790H)	bit Symbol		TOGGLE	SUSPEND	STATUS[2]	STATUS[1]	STATUS[0]	FIFO_DISABLE	STAGE_ERR
	Read/Write		R	R	R	R	R	R	R
	リセット後		0	0	1	1	1	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP1_STATUS (0791H)	bit Symbol		TOGGLE	SUSPEND	STATUS[2]	STATUS[1]	STATUS[0]	FIFO_DISABLE	STAGE_ERR
	Read/Write		R	R	R	R	R	R	R
	リセット後		0	0	1	1	1	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP2_STATUS (0792H)	bit Symbol		TOGGLE	SUSPEND	STATUS[2]	STATUS[1]	STATUS[0]	FIFO_DISABLE	STAGE_ERR
	Read/Write		R	R	R	R	R	R	R
	リセット後		0	0	1	1	1	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP3_STATUS (0793H)	bit Symbol		TOGGLE	SUSPEND	STATUS[2]	STATUS[1]	STATUS[0]	FIFO_DISABLE	STAGE_ERR
	Read/Write		R	R	R	R	R	R	R
	リセット後		0	0	1	1	1	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP4_STATUS (0794H)	bit Symbol		TOGGLE	SUSPEND	STATUS[2]	STATUS[1]	STATUS[0]	FIFO_DISABLE	STAGE_ERR
	Read/Write		R	R	R	R	R	R	R
	リセット後		0	0	1	1	1	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP5_STATUS (0795H)	bit Symbol		TOGGLE	SUSPEND	STATUS[2]	STATUS[1]	STATUS[0]	FIFO_DISABLE	STAGE_ERR
	Read/Write		R	R	R	R	R	R	R
	リセット後		0	0	1	1	1	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP6_STATUS (0796H)	bit Symbol		TOGGLE	SUSPEND	STATUS[2]	STATUS[1]	STATUS[0]	FIFO_DISABLE	STAGE_ERR
	Read/Write		R	R	R	R	R	R	R
	リセット後		0	0	1	1	1	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP7_STATUS (0797H)	bit Symbol		TOGGLE	SUSPEND	STATUS[2]	STATUS[1]	STATUS[0]	FIFO_DISABLE	STAGE_ERR
	Read/Write		R	R	R	R	R	R	R
	リセット後		0	0	1	1	1	0	0

注) EP4,EP5,EP6,EP7 レジスタは TMP92CF29A では使用されません。

- TOGGLE (Bit6) トグルシーケンスビットの状態を表します。
  0: TOGGLE BIT0
  1: TOGGLE BIT1

- SUSPEND (Bit5) UDC のパワーマネージメントの状態を示します。
  0: RESUME SUSPEND の状態では UDC に対するアクセスは制限されます。
  1: SUSPEND 詳細は 3.17.9章を参照してください。

Not recommended for New Design

- STATUS (Bit4~Bit2)

UDC のエンドポイントの状態を示します。
エンドポイントごとに転送の可否、あるいは各種転送の結果を示します。これは、各エンドポイントの転送モードと密接に関係します。
以下に各状態について説明します。(アイソクロナス転送のエンドポイントを使用した場合には、動作が異なりますので、詳細については3.17.6章を参照ください。)

000: READY

受信:

デバイスが受信可能な状態にあります。
エンドポイント 1~7 では、このレジスタは SET_CONFIGURATION にて転送タイプを設定することにより、"READY" に初期化されます。エンドポイント 0 ではホストからの USB リセットを検出すると READY に初期化されます。ステータスステージの正常終了時にも READY にセットされます。

送信:

基本的には受信時と同様に初期化が行われた場合にセットされます。ただし送信の場合には、FIFO に送信用のデータがセットされてホストからのトークンに応答してデータをホストへ正常に転送し ACK を受信した場合にもステータスレジスタは変化せず READY のままとなります。この場合、EPx_Empty_A あるいは EPx_Empty_B 割り込みは正常に送信が終了したことを示します。

001: DATAIN

UDC は、ホストからの受信データがエラーなく受信されたときに、EPx_FULL_A あるいは EPx_FULL_B 割り込みは発生が発生するとともに DATAIN にセットされます。

010: FULL

3.17.8(2)章のステータスレジスタの詳細を参照してください。

011: TX_ERR

UDC は、ホストからの IN トークンに対してデータを送信した後、ホストからの ACK が受け取れなかった場合に、ステータスレジスタに TX_ERR をセットします。この場合 CPU への割り込みは発生しません。ホストはリトライを行い、再度 IN トークンを送ってきます。

100: RX_ERR

UDC は、受信したトークンのデータ部にエラー (CRC エラーなど) が合った場合に、ホストに ACK を送らずにステータスレジスタに RX_ERR をセットします。この場合 CPU への割り込みは発生しません。ホストはリトライを、行い再度データを UDC に送ってきます。また、データ部は正常でトグルエラーがあった場合には、ホストに ACK を送りステータスレジスタに RX_ERR をセットします。

101: BUSY

このステータスはコントロール転送のみに使用されます。
コントロール転送時にデータステージ終了後、ホストからステータスステージのトークンを受信したとき、セットされます。ステータスステージを終了する準備ができているときは、正常終了し READY に戻ります。バルク転送モードやインターラプト転送モードでは使用しません。

110: STALL

該当エンドポイントがストール状態になったことを示します。
この状態では SETUP トークンを除いて STALL ハンドシェークを返します。コントロールエンドポイントでは SETUP トークンを受信するとストール状態から READY 状態にもどります。その他のエンドポイントでは、FIFO の初期化コマンドを受け付けると READY に戻ります。

111: INVALID

該当エンドポイントが未構成の状態を示します。
この状態のときは、ホストからのトークンに対して無反応となります。
リセットによる初期化時には、すべてのエンドポイントがこの状態となります。USB リセットを受信するとエンドポイント 0 のみ READY 状態に戻ります。構成されると該当エンドポイントは READY となります。

Not Recommended for New Design

- FIFO_DISABLE (Bit1)
  0: FIFO 許可状態
  1: FIFO 禁止状態

エンドポイント 0 以外の FIFO の状態を示します。
FIFO が禁止状態に設定されているとすべての転送に強制的に NAK ハンドシェークを返します。禁止と許可の設定は COMMAND レジスタのアクセスで行います。転送モードが変更になったとき、このビットは “0” にクリアされます。

- STAGE_ERR (Bit0)
  0: SUCCESS
  1: ERROR

このビットは、ステータスステージが正常に終了しなかったことを示します。ステータスステージが正常に終了することなく、新規の SETUP トークンが来たときにセットされます。
このビットが “1”の場合、EP0_STATUS レジスタをリードすることによってこのビットは “0”にクリアされます。それ以降に、正常なコントロール転送やその他の転送が行われても、このビットはリセットされません。クリアするには必ずリードしてください。ソフトウエアの処理が終了し、EOP レジスタをライトすると、UDC はステータスステージへ移行し、ステータスステージ終了を待ちます。この時、ソフトウエアにてステータスステージが正常に終了したことを捕捉する必要のある場合には、新規のリクエストフラグが来たときに、このレジスタをリードすることにより、前回のリクエストが正常に終了したかどうかを把握することができます。また、ソフトウエアにてリクエストに対する処理実行中に、新規のリクエストフラグがアサートされた時にも、このビットをモニターすれば、前回のリクエストが途中で中断したかどうかがわかります。

Not Recommended for New Design

3.17.3.14 EPx_SIZE レジスタ (x: 0~7)

このレジスタは以下の機能を備えています。

- 受信時、該当するエンドポイントに対して正常に受信した 1 パケット分のデータ数を示します。
- 送信時、ペイロードサイズを表示。ただし、ショートパケット送信時はそのレングス値を示します。送信時にはこのレジスタをリードする必要はありません。
- デュアルパケットモードの設定と現在有効なパケットを示します。

このレジスタはエンドポイントごとに用意されており、データサイズの上位 9~7 ビットを表す HIGH レジスタと、下位 6~0 ビットおよび FIFO のコントロールビットからなる LOW レジスタがあります。またデュアルパケットモードをサポートするため、HIGH/LOW レジスタはそれぞれパケット A、B の 2 セットが存在します。

		7	6	5	4	3	2	1	0
EP0_SIZE_L_A (0798H)	bit Symbol	PKT_ACTIVE	DATASIZE6	DATASIZE5	DATASIZE4	DATASIZE3	DATASIZE2	DATASIZE1	DATASIZE0
	Read/Write	R	R	R	R	R	R	R	R
	リセット後	1	0	0	0	1	0	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP1_SIZE_L_A (0799H)	bit Symbol	PKT_ACTIVE	DATASIZE6	DATASIZE5	DATASIZE4	DATASIZE3	DATASIZE2	DATASIZE1	DATASIZE0
	Read/Write	R	R	R	R	R	R	R	R
	リセット後	1	0	0	0	1	0	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP2_SIZE_L_A (079AH)	bit Symbol	PKT_ACTIVE	DATASIZE6	DATASIZE5	DATASIZE4	DATASIZE3	DATASIZE2	DATASIZE1	DATASIZE0
	Read/Write	R	R	R	R	R	R	R	R
	リセット後	1	0	0	0	1	0	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP3_SIZE_L_A (079BH)	bit Symbol	PKT_ACTIVE	DATASIZE6	DATASIZE5	DATASIZE4	DATASIZE3	DATASIZE2	DATASIZE1	DATASIZE0
	Read/Write	R	R	R	R	R	R	R	R
	リセット後	1	0	0	0	1	0	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP4_SIZE_L_A (079CH)	bit Symbol	PKT_ACTIVE	DATASIZE6	DATASIZE5	DATASIZE4	DATASIZE3	DATASIZE2	DATASIZE1	DATASIZE0
	Read/Write	R	R	R	R	R	R	R	R
	リセット後	1	0	0	0	1	0	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP5_SIZE_L_A (079DH)	bit Symbol	PKT_ACTIVE	DATASIZE6	DATASIZE5	DATASIZE4	DATASIZE3	DATASIZE2	DATASIZE1	DATASIZE0
	Read/Write	R	R	R	R	R	R	R	R
	リセット後	1	0	0	0	1	0	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP6_SIZE_L_A (079EH)	bit Symbol	PKT_ACTIVE	DATASIZE6	DATASIZE5	DATASIZE4	DATASIZE3	DATASIZE2	DATASIZE1	DATASIZE0
	Read/Write	R	R	R	R	R	R	R	R
	リセット後	1	0	0	0	1	0	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP7_SIZE_L_A (079FH)	bit Symbol	PKT_ACTIVE	DATASIZE6	DATASIZE5	DATASIZE4	DATASIZE3	DATASIZE2	DATASIZE1	DATASIZE0
	Read/Write	R	R	R	R	R	R	R	R
	リセット後	1	0	0	0	1	0	0	0

注) EP4,5,6,7_SIZE_L_A レジスタは TMP92CF29A では使用しません。

Not Recommended for New Design

		7	6	5	4	3	2	1	0
EP1_SIZE_L_B (07A1H)	bit Symbol	PKT_ACTIVE	DATASIZE6	DATASIZE5	DATASIZE4	DATASIZE3	DATASIZE2	DATASIZE1	DATASIZE0
	Read/Write	R	R	R	R	R	R	R	R
	リセット後	0	0	0	0	1	0	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP2_SIZE_L_B (07A2H)	bit Symbol	PKT_ACTIVE	DATASIZE6	DATASIZE5	DATASIZE4	DATASIZE3	DATASIZE2	DATASIZE1	DATASIZE0
	Read/Write	R	R	R	R	R	R	R	R
	リセット後	0	0	0	0	1	0	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP3_SIZE_L_B (07A3H)	bit Symbol	PKT_ACTIVE	DATASIZE6	DATASIZE5	DATASIZE4	DATASIZE3	DATASIZE2	DATASIZE1	DATASIZE0
	Read/Write	R	R	R	R	R	R	R	R
	リセット後	0	0	0	0	1	0	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP4_SIZE_L_B (07A4H)	bit Symbol	PKT_ACTIVE	DATASIZE6	DATASIZE5	DATASIZE4	DATASIZE3	DATASIZE2	DATASIZE1	DATASIZE0
	Read/Write	R	R	R	R	R	R	R	R
	リセット後	0	0	0	0	1	0	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP5_SIZE_L_B (07A5H)	bit Symbol	PKT_ACTIVE	DATASIZE6	DATASIZE5	DATASIZE4	DATASIZE3	DATASIZE2	DATASIZE1	DATASIZE0
	Read/Write	R	R	R	R	R	R	R	R
	リセット後	0	0	0	0	1	0	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP6_SIZE_L_B (07A6H)	bit Symbol	PKT_ACTIVE	DATASIZE6	DATASIZE5	DATASIZE4	DATASIZE3	DATASIZE2	DATASIZE1	DATASIZE0
	Read/Write	R	R	R	R	R	R	R	R
	リセット後	0	0	0	0	1	0	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP7_SIZE_L_B (07A7H)	bit Symbol	PKT_ACTIVE	DATASIZE6	DATASIZE5	DATASIZE4	DATASIZE3	DATASIZE2	DATASIZE1	DATASIZE0
	Read/Write	R	R	R	R	R	R	R	R
	リセット後	0	0	0	0	1	0	0	0

注) EP3,4,5,6,7_SIZE_L_B レジスタは TMP92CF29A では使用しません。

Not Recommended for New Design

		7	6	5	4	3	2	1	0
EP1_SIZE_H_A (07A9H)	bit Symbol						DATASIZE9	DATASIZE8	DATASIZE7
	Read/Write						R	R	R
	リセット後						0	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP2_SIZE_H_A (07AAH)	bit Symbol						DATASIZE9	DATASIZE8	DATASIZE7
	Read/Write						R	R	R
	リセット後						0	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP3_SIZE_H_A (07ABH)	bit Symbol						DATASIZE9	DATASIZE8	DATASIZE7
	Read/Write						R	R	R
	リセット後						0	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP4_SIZE_H_A (07ACH)	bit Symbol						DATASIZE9	DATASIZE8	DATASIZE7
	Read/Write						R	R	R
	リセット後						0	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP5_SIZE_H_A (07ADH)	bit Symbol						DATASIZE9	DATASIZE8	DATASIZE7
	Read/Write						R	R	R
	リセット後						0	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP6_SIZE_H_A (07AEH)	bit Symbol						DATASIZE9	DATASIZE8	DATASIZE7
	Read/Write						R	R	R
	リセット後						0	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP7_SIZE_H_A (07AFH)	bit Symbol						DATASIZE9	DATASIZE8	DATASIZE7
	Read/Write						R	R	R
	リセット後						0	0	0

注) EP4,5,6,7_SIZE_H_A レジスタは TMP92CF29A では使用しません。

Not Recommended for New Design

		7	6	5	4	3	2	1	0
EP1_SIZE_H_B (07B1H)	bit Symbol						DATASIZE9	DATASIZE8	DATASIZE7
	Read/Write						R	R	R
	リセット後						0	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP2_SIZE_H_B (07B2H)	bit Symbol						DATASIZE9	DATASIZE8	DATASIZE7
	Read/Write						R	R	R
	リセット後						0	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP3_SIZE_H_B (07B3H)	bit Symbol						DATASIZE9	DATASIZE8	DATASIZE7
	Read/Write						R	R	R
	リセット後						0	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP4_SIZE_H_B (07B4H)	bit Symbol						DATASIZE9	DATASIZE8	DATASIZE7
	Read/Write						R	R	R
	リセット後						0	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP5_SIZE_H_B (07B5H)	bit Symbol						DATASIZE9	DATASIZE8	DATASIZE7
	Read/Write						R	R	R
	リセット後						0	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP6_SIZE_H_B (07B6H)	bit Symbol						DATASIZE9	DATASIZE8	DATASIZE7
	Read/Write						R	R	R
	リセット後						0	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP7_SIZE_H_B (07B7H)	bit Symbol						DATASIZE9	DATASIZE8	DATASIZE7
	Read/Write						R	R	R
	リセット後						0	0	0

注) EP3,4,5,6,7_SIZE_H_B レジスタは TMP92CF29A では使用しません。

- DATASIZE9~7 (H Bit2~0)
- DATASIZE6~0 (L Bit6~0)

受信時は UDC がホストより受信した 1 パケット分のデータ数を示します。このレジスタはホストからの受信が正常終了した場合に更新されます。EPx_MODE レジスタを設定することでバルク転送/インターラプト転送時は MAX ペイロードサイズ、アイソクロナス転送時は 0 に初期化されます。

- PKT_ACTIVE (L Bit7)
  1: OUT_ENABLE
  0: OUT_DISABLE

デュアルパケットモードを選択した場合に、このビットはアクセスが許されるパケットを示します。この場合、UDC は 2 つに分割された FIFO のパケット A とパケット B に対して交互にアクセスを行います。UDC 内の FIFO に対する CPU からのアクセスは、このビットを参照した上で行ってください。受信エンドポイントの場合、このビットが “1”のパケットからリードしてください。なお、シングルパケットモード使用時には常にパケット A を使用し、このビットは意味を持ちません。

Not Recommended for New Design

3.17.3.15 FRAMEレジスタ

このレジスタは SOF トークンに伴ってホストより発行されるフレーム番号を示し、そしてこれはアイソクロナス転送に使用されます。

HIGH/LOW の 2 つレジスタがあり、それぞれフレーム番号の上位と下位を示します。

		7	6	5	4	3	2	1	0
FRAME_L (07E1H)	bit Symbol	–	T[6]	T[5]	T[4]	T[3]	T[2]	T[1]	T[0]
	Read/Write	R	R	R	R	R	R	R	R
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

		7	6	5	4	3	2	1	0
FRAME_H (07E2H)	bit Symbol	T[10]	T[9]	T[8]	T[7]		CREATE	FRAME_STS1	FRAME_STS0
	Read/Write	R	R	R	R		R	R	R
	リセット後	0	0	0	0		0	1	0

- T[10:7] (H Bit7~4)
- T[6:0] (L Bit6~0)

SOF トークン受信時に更新され、ホストから送られてくるフレーム番号を示します。

- CREATE (H Bit2)
  0: DISABLE
  1: ENABLE

UDC ホストからの SOF トークンが受信できなかった場合に備え、UDC 内部で SOF を自動発生する機能の許可、不許可を表示します。
この機能は COMMAND レジスタをアクセスすることにより設定します。リセットによってこのビットは “0” に初期化されます。

- FRAME STS1-0 (H Bit1, 0)
  00: BEFORE
  01: VALID
  10: LOST

これらのビットは、FRAME レジスタに表示されたフレーム番号が SOF トークン受信時にセットされた正しい値であるかどうかを示します。LOST 状態では正しいフレーム番号は不明です。
VALID 状態では FRAME レジスタに表示された番号は正しいです。
BEFORE 状態では SOF の自動発生機能を使用しているときに、内部で SOF が発生した時刻より USB ホストから SOF トークンを受信した時点までを表示しています。フレーム番号としては FRAME レジスタに表示された物から一つ進んだ値が正しい値です。

3.17.3.16 ADDRESSレジスタ

エナミュレーション時に USB ホストより指定されるデバイスアドレスを示します。
UDC からリードすることにより現在のアドレス設定を確認できます。

		7	6	5	4	3	2	1	0
ADDRESS (07E3H)	bit Symbol		A6	A5	A4	A3	A2	A1	A0
	Read/Write		R	R	R	R	R	R	R
	リセット後		0	0	0	0	0	0	0

- A6~0 (Bit6~0)

UDC はすべてのパケット ID 内のアドレスとこのレジスタの内容を比較して有効なトランザクションかどうかを判断します。USB リセットにより、00H に初期化されます。

Not Recommended for New Design

3.17.3.17 EOPレジスタ

このレジスタは、コントロール転送のデータフェーズ終了時、またバルク IN、インターラプト IN 転送でのショートパケット送信時に使用します。

EOP (07CFH)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	EP7_EOPB	EP6_EOPB	EP5_EOPB	EP4_EOPB	EP3_EOPB	EP2_EOPB	EP1_EOPB	EP0_EOPB
Read/Write	W	W	W	W	W	W	W	W
リセット後	1	1	1	1	1	1	1	1

注 1) EOP<EP7_EOPB、EP6_EOPB、EP5_EOPB、EP4_EOPB>レジスタは TMP92CF29A では使用しません。

注 2) このレジスタにライトする場合、12MHz の 5 クロック分のリカバリタイムを必要とします。このレジスタライト後、420ns 以上のダミー命令を挿入してください。

コントロール転送のデータフェーズにおいて、送信すべきデータを FIFO に全てライトした時、または、受信すべきデータを全てリードした時、EP0_EOPB ビットに“0”をライトしてください。UDC は、この信号をもってステータスステージ終了へと移行します。

バルク IN、インターラプト IN エンドポイントにおいて、ショートパケットを送信する場合、送信するデータのライト終了信号として使用します。この時、ライトしたエンドポイントに対応する EOPB ビットに“0”をライトしてください。必要のないビットには“1”をライトしてください。

Not Recommended for New Design

3.17.3.18 Port Statusレジスタ

このレジスタは、プリンタクラス対応のリクエスト受信時に使用します。GET_PORT_STATUS リクエスト受信には、このレジスタに格納されているデータを使用することによって自動的に応答します。

Port Status (07E0H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	Reserved7	Reserved6	PaperError	Select	NotError	Reserved2	Reserved1	Reserved0
Read/Write	W	W	W	W	W	W	W	W
リセット後	0	0	0	1	1	0	0	0

注)TMP92CF29A ではプリンタクラスに対応していないためこのレジスタは使用しません。

リクエスト受信前にデータがセットされている必要があります。このレジスタは、全ビットライト可能ですので、Reserved ビットには“0”をライトしてください。
このレジスタはリセットにより、“18H” に初期化されます。

3.17.3.19 Standard Request Modeレジスタ

このレジスタは、スタンダードリクエストに対する応答をハードウェアで自動的に行うか、ソフトウエアにて制御するかを設定するレジスタです。各ビットがリクエストの種類を表します。
対象ビットを “0”にリセットすることにより、ハードウェアによる自動応答となり、“1”にセットすることにより、ソフトウエアでの制御となります。自動応答時にリクエストを受信した場合には、割り込み信号(INT_SETUP、INT_EP0、INT_STAS、INT_STASN)をディセーブルし、ソフトウエア制御時にリクエストを受信した場合には、割り込み信号をアサートし、制御権をソフトウエアに移します。

Standard Request Mode (07D8H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	S_Interface	G_Interface	S_Config	G_Config	G_Descript	S_Feature	C_Feature	G_Status
Read/Write	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0

- G_Status (Bit 0) : GET_STATUS
- C_Feature (Bit 1) : CLEAR_FEATURE
- S_Feature (Bit 2) : SET_FEATURE
- G_Descript (Bit 3) : GET_DESCRIPTOR
- G_Config (Bit 4) : GET_CONFIGRATION
- S_Config (Bit 5) : SET_CONFIGRATION
- G_Interface (Bit 6) : GET_INTERFACE
- S_Intetface (Bit 7) : SET_INTERFACE

Not Recommended for New Design

3.17.3.20 Request Modeレジスタ

このレジスタは、クラスリクエストに対する応答をハードウェアで自動的に行うか、ソフトウエアにて制御するかを設定するレジスタです。各ビットがリクエストの種類を表します。

対象ビットを“0”にリセットすることにより、ハードウェアによる自動応答となり、“1”にセットすることにより、ソフトウエアでの制御となります。自動応答時にリクエストを受信した場合には、割り込み信号(INT_SETUP、INT_EP0、INT_STAS、INT_STASN)をディセーブルし、ソフトウエア制御時にリクエストを受信した場合には、割り込み信号をアサートし、制御権をソフトウエアに移します。

Request Mode (07D9H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol		Soft_Reset	G_Port_Sts	G_DeviceId				
Read/Write		R/W	R/W	R/W				
リセット後		0	0	0				

注)TMP92CF29A では、プリンタクラスは自動応答に対応していないため、このレジスタは使用しません。

- ー (Bit 0~3) : Reserved
- G_DeviceId (Bit 4) : GET_DEVICE_ID
- G_Port_Sts (Bit 5) : GET_PORT_STATUS
- Soft_Reset (Bit 6) : SOFT_RESET
- ー (Bit 7) : Reserved

注 1) SET_ADDRESS リクエストについては、自動応答のみのサポートとなります。

注 2) SET_DESCRIPTOR、SYNCH_FRAME については、ソフトウエアでのみの制御となります。

注 3) ベンダーリクエスト、プリンタクラスなどのクラスリクエストについてもソフトウエアでのみの制御となります。

注 4) INT_SETUP、INT_EP0、INT_STAS、INT_STASN の割り込みは、ソフトウエア制御時のみアサートします。

Not Recommended for New Design

3.17.3.21 COMMANDレジスタ

このレジスタは、エンドポイントごとにコマンドを設定するレジスタです。ビット 6~4 にてエンドポイントの選択を、ビット 3~0 でコマンドの種類を設定することができます。サポートしていないエンドポイントに対して発行されたコマンドは無視されます。

COMMAND (07D0H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol		EP[2]	EP[1]	EP[0]	Command[3]	Command[2]	Command[1]	Command[0]
Read/Write		W	W	W	W	W	W	W
リセット後		0	0	0	0	0	0	0

注) このレジスタにライトする場合、12MHz の 5 クロック分のリカバリタイムを必要とします。このレジスタライト後、420ns 以上のダミー命令を挿入してください。

- EP[2:0] (Bit 6~4)

  000: エンドポイント 0 を選択します
  001: エンドポイント 1 を選択します
  010: エンドポイント 2 を選択します
  011: エンドポイント 3 を選択します

- COMMAND[3:0] (Bit 3~0)

  0000: Reserved
  0001: Reserved

  0010: SET_DATA0
  該当エンドポイントのトグルシーケンスビットをクリアします。 (EP0~3) このコマンドが入力されると該当エンドポイントのトグルシーケンスビットを強制的に“0”に設定します。転送によるデータトグルの更新は UDC により自動的に行われますが、エンドポイントのトグルシーケンスビットを強制的に“0”に戻す場合は、このコマンドを実行する必要があります。コントロール転送とアイソクロナス転送では、すべてハードウェアで制御するため、このコマンドを実行する必要はありません。

  0011: RESET
  該当エンドポイントをリセットします。(EP0~3) このコマンドが入力されると該当エンドポイントの初期化を行います。
  CLEAR_FEATURE リクエストによるエンドポイントの STALL をクリアする場合には、このコマンドを実行してください。(転送のモードには影響を与えません。)
  このコマンドによって初期化される項目は以下の通りです。
  - 該当エンドポイントのトグルシーケンスビットをクリアします
  - 該当エンドポイントの STALL をクリアします
  - FIFO_ENABLE 状態に設定します。
  - FIFO のデータをクリアします。

  0100: STALL
  該当エンドポイントを STALL させます。(EP0~3) デバイスリクエストに対する応答として、STALL ハンドシェークを返信する必要がある場合には、このコマンドを実行してください。

  0101: INVALID
  該当エンドポイントを使用禁止状態にします。(EP1~3) UDC は、USB ホストからの USB_RESET 信号を検出すると、自動的にエンドポイント 0 を除くすべてのエンドポイントを使用禁止状態にします。デバイスリクエストによりコンフィグ、インタフェースが変更された場合は、使用しないエンドポイントを使用禁止状態にする必要があります。

  0110: CREATE_SOF
  擬似 SOF 発生機能をイネーブルにします。(EP0) デフォルトは、ディセーブルに設定されており、アイソクロナス転送使用時に必要となります。詳細については、弊社技術部までお問い合わせください。

  0111: FIFO_DISABLE
  該当エンドポイントの FIFO をディセーブルにします。(EP1~3) 外部からこのコマンドがセットされると、該当エンドポイントに対する転送は、トグルエラー以外はすべて NAK を返信します。これが、外部からセットされたとき、パケットを受信中であれば、次のトークンから有効となります。転送実行中のパケットには影響を与えません。

Not Recommended for New Design

1000: FIFO_ENABLE　該当エンドポイントの FIFO をイネーブルにします。(EP1~3) FIFO_DISABLE コマンドによって FIFO をディセーブルにしたとき、ディセーブル状態を解除するのに使用します。この場合もパケットを受信中であれば、次のトークンから有効となります。ホストからの USB_RESET 検出、SET_CONFIG、SET_INTERFACE リクエストによって転送モード設定を行ったとき、および RESET コマンド実行時に、該当エンドポイントは FIFO_ENABLE の状態になります。

1001: INIT_DESCRIPTOR　システム動作中にディスクリプタ RAM を書き替えた場合に使用します。(EP0)
UDC はホストコントローラーからの USB_RESET を検出すると、自動的にディスクリプタ RAM の中身を読み込み、各種設定を行います。システムが動作中にディスクリプタ RAM を変更した場合には、再度設定を読み直す必要がありますので、このコマンドを実行してください。USB ホストに接続した際は、自動的にリードを開始しますので、このコマンドを実行する必要はありません。

1010: FIFO_CLEAR　該当エンドポイントの FIFO を初期化します。(EP1~3)
ただし、EPx_STATUS<TOGGLE>は初期化しません。
ソフトウエアによるリセットの場合には、このコマンドを実行してください
このコマンドによって初期化される項目は以下の通りです。

- 該当エンドポイントの STALL をクリアします
- FIFO_ENABLE 状態に設定します。
- FIFO のデータをクリアします。

1011: STALL_CLEAR　該当エンドポイントの STALL をクリアします。(EP1~3) エンドポイントの STALL のみをクリアする場合には、このコマンドを実行してください。

Not Recommended for New Design

3.17.3.22 INT_Controlレジスタ

このレジスタにライトする値により、INT_STASN 割り込みをディセーブル、イネーブルにします。

外部リセットによりディセーブルに初期化されます。また、セットアップパケットを受信時にディセーブルとします。

INT_Control (07D6H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol								Status_nak
Read/Write								R/W
リセット後								0

INT_STASN 割り込みは、コントロールリード転送において、ホストが wLength で指定したデータ長よりも、少ないデータ長でデータフェーズを終了した場合に、デバイス側とステージ管理の同期がとれなくなるため、ステータスステージに移行したことを知らせる目的で追加してあります。必要な場合は、セットアップパケット受信後にイネーブルにしてください。

- STATUS_NAK (Bit0)
  - 0: INT_STASN 割り込み　　ディセーブル
  - 1: INT_STASN 割り込み　　イネーブル

3.17.3.23 USB STATEレジスタ

USB ホストとの通信における、現在のデバイスのステートを表示します。

USB STATE (07CEH)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol						Configured	Addressed	Default
Read/Write						R/W	R	R
リセット後						0	0	1

注)　このレジスタにライトする場合、12MHz の 5 クロック分のリカバリタイムを必要とします。このレジスタライト後、420ns 以上のダミー命令を挿入してください。

UDC 内部では、この Configured、Addressed、Default ビットを参照して各デバイスリクエストへの応答を管理しています。SET_CONFIG リクエストに対する処理をソフトウエアで行う場合、このレジスタに現在のステートをライトする必要があります。ホストよりコンフィグ 0 が指定された場合、Unconfigured となり、Addressed ステートに戻る必要があります。このため、コンフィグ 0 が指定された場合には、ビット 2 に“0”をライトする必要があります。

Configured ビット (ビット 2) に“0”がライトされたとき、ハードウェアにて Addressed ビット (ビット 1) を自動的に“1”にセットします。デバイスがサポートしているコンフィグ値をホストから指定されたとき、デバイスはそのコンフィグディスクリプタ中のエンドポイントディスクリプタにて指定されている値で、各エンドポイントのモード設定を行う必要があります。

モード設定終了後、EOP レジスタをアクセスする前に、この Configured ビット (ビット 2) を“1”にセットしてください。このビットが“1”にセットされたとき、Addressed ビット (ビット 1) は自動的に“0”にリセットされます。

- Bit2~0
  - 001: Default
  - 010: Addressed
  - 100: Configured

Not Recommended for New Design

3.17.3.24 EPx_MODEレジスタ

エンドポイントの転送モードを設定するレジスタです。(EP1~3)

SET_CONFIG、SET_INTERFACE の処理をソフトウエアでの制御する場合、このレジスタをアクセスしてモード設定を行ってください。

		7	6	5	4	3	2	1	0
EP1_MODE (0789H)	bit Symbol			Payload[2]	Payload[1]	Payload[0]	Mode[1]	Mode[0]	Direction
	Read/Write			R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
	リセット後			0	0	0	0	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP2_MODE (078AH)	bit Symbol			Payload[2]	Payload[1]	Payload[0]	Mode[1]	Mode[0]	Direction
	Read/Write			R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
	リセット後			0	0	0	0	0	0
		7	6	5	4	3	2	1	0
EP3_MODE (078BH)	bit Symbol			Payload[2]	Payload[1]	Payload[0]	Mode[1]	Mode[0]	Direction
	Read/Write			R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
	リセット後			0	0	0	0	0	0

ライト可能なタイミングは制約があります。

SET_CONFIG、SET_INTERFACE リクエストに対する処理をソフトウエア制御とした場合、INT_SETUP 割り込みを受信してから、EOP レジスタをアクセスするまでの間にライトを終了させてください。その他のタイミングではライト禁止とします。

注 1) このレジスタにライトする場合、12MHz の 5 クロック分のリカバリタイムを必要とします。このレジスタライト後、420ns 以上のダミー命令を挿入してください。

注 2) このレジスタに書き込みを行った場合、COMMAND レジスタの RESET と同等の初期化が行われます。

- DIRECTION (Bit0)
  - 0: OUT　ホストからデバイスへの向き
  - 1: IN　デバイスからホストへの向き

- MODE[1:0] (Bit2, 1)
  - 00: コントロール転送
  - 01: アイソクロナス転送
  - 10: バルク転送、またはインターラプト転送
  - 11: インターラプト (トグルなし)

- PAYLOAD[2:0] (Bit3, 4, 5)
  - 000:　8 バイト
  - 001:　16 バイト
  - 010:　32 バイト
  - 011:　64 バイト
  - 100:128 バイト
  - 101:256 バイト
  - 110:512 バイト
  - 111:1023 バイト (注 1)

注 1) アイソクロナス転送の最大パケットサイズは、1023 バイトです。

注 2) ディスクリプタの wMaXPacketSize に 8、16、…、1023 以外を指定した場合、Set_Configuration、Set_Interface の自動応答によって、ディスクリプタ値より大きい Payload が設定されます。

- Others (Bit6, 7)　Reserved

Not Recommended for New Design

3.17.3.25 EPx_SINGLEレジスタ

各エンドポイントの FIFO のモード (SINGLE/DUAL) を設定するレジスタです。

EPx_SINGLE1 (07D1H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	EP3_SELECT	EP2_SELECT	EP1_SELECT		EP3_SINGLE	EP2_SINGLE	EP1_SINGLE	
Read/Write	R/W	R/W	R/W		R/W	R/W	R/W	
リセット後	0	0	0		0	0	0	

注) エンドポイント 3 は TMP92CF29A ではシングルモードのみ対応しています。

Bit 0: 未使用
1: EP1_SINGLE
2: EP2_SINGLE
3: EP3_SINGLE
4: 未使用
5: EP1_SELECT
6: EP2_SELECT
7: EP3_SELECT

EPx_SINGLE ビットは、EPx_SELECT ビットが“1”のときに以下の内容が有効になります。
0: DUAL モード 1: SINGLE モード
EPx_SELECT ビットは、EPx_SINGLE ビットの内容を有効にするときに“1”にセットしてください。
0: 無効 1: 有効

3.17.3.26 EPx_BCSレジスタ

各エンドポイントの FIFO への CPU アクセスモードを有効にするレジスタです。

EPx_BCS1 (07D3H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	EP3_SELECT	EP2_SELECT	EP1_SELECT		EP3_BCS	EP2_BCS	EP1_BCS	
Read/Write	R/W	R/W	R/W		R/W	R/W	R/W	
リセット後	0	0	0		0	0	0	

Bit 0: 未使用
1: EP1_BCS
2: EP2_BCS
3: EP3_BCS
4: 未使用
5: EP1_SELECT
6: EP2_SELECT
7: EP3_SELECT

EPx_BCS ビットは、エンドポイント使用の有無にかかわらず、必ず “1” に設定してください。
0: Reserved 1: CPU アクセス
EPx_SELECT ビットは、EPx_BCS ビットの内容を有効にするときに“1”にセットしてください。
0: 無効 1: 有効

Not Recommended for New Design

3.17.3.27 USBREADYレジスタ

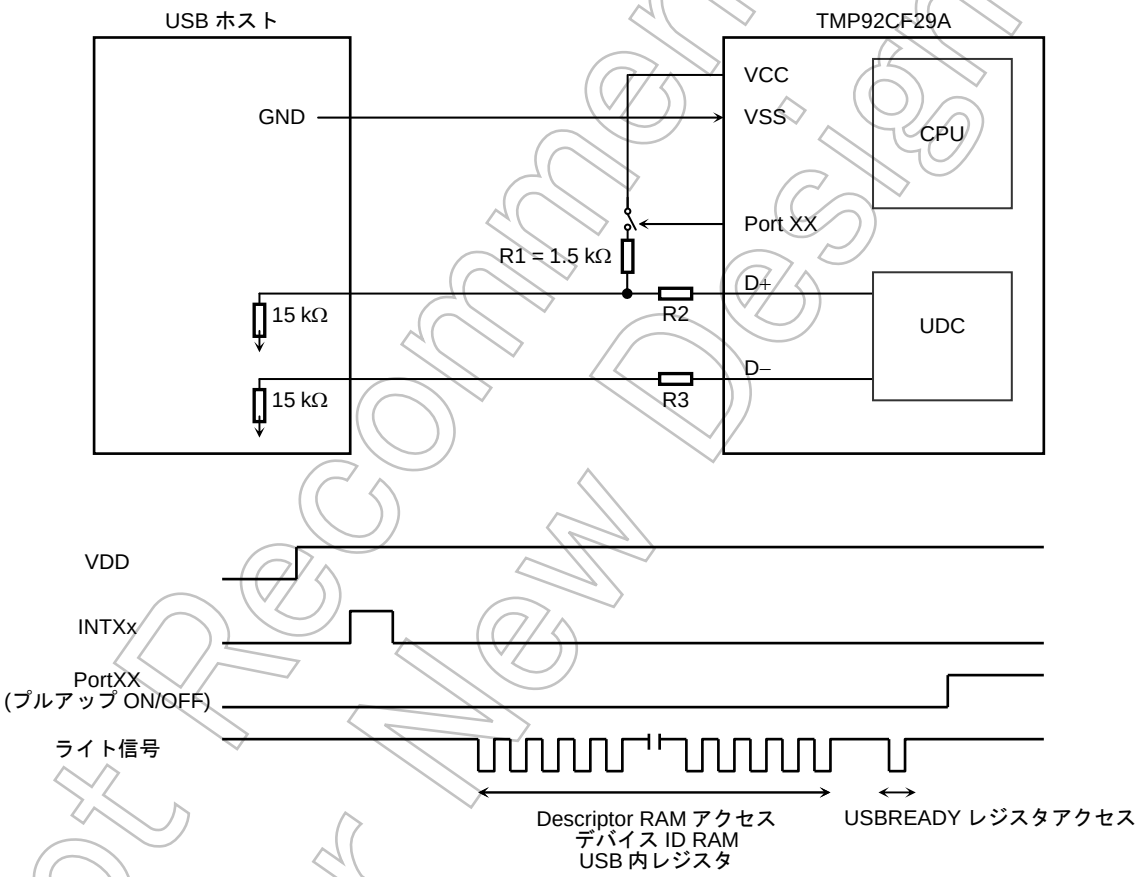
これは、ディスクリプタ RAM に、データのライトが終了したことを UDC に知らせるためのレジスタです。ディスクリプタ RAM にデータを格納後、必ず Bit0 に “0”をライトしてください。

USBREADY (07E6H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol								USBREADY
Read/Write								R/W
リセット後								0

Bit0: USBREADY

0: ディスクリプタ RAM へのライトが終了したことを示します。
1: ディスクリプタ RAM へのライトが可能であることを示します。
(ただし、ホストと接続されている状態でのディスクリプタ RAM ライトは行わないでください。)



USB ケーブルからの VDD 信号のレベルを検出し、初期化するシーケンスを入れてください。このとき、UDC は、USB_RESET 解除後、USBREADY レジスタに “0”をライトするまでは、USB_RESET 信号の検出をディセーブルします。

これは、D+信号上のプルアップ抵抗を制御信号にてコントロールする場合において、プルアップ抵抗が OFF 状態でホストと接続されているとき、ホスト側のプルダウン抵抗により USB_RESET 信号と等価な状態となるため、USBREADY レジスタに “0”をライトするまでは、USB_RESET の検出をしないようにしてあります。

注1) プルアップ抵抗およびコントロールスイッチは TMP92CF29A の外部で必要になります。

注2) 上記は通信時の接続例となります。コネクタ接続検出、未使用・未接続時の貫通電流対策の回路が別途必要となります。

Not Recommended for New Design

3.17.3.28 Set Descriptor STALL レジスタ

このレジスタは、Set Descriptor リクエストに対して、データステージまたはステータスステージで自動的に STALL を返送するかどうかを設定するレジスタです。

Set Descriptor STALL (07E8H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol								S_D_STALL
Read/Write								W
リセット後								0

Bit0: S_D_STALL
0: ソフトウエア制御 (デフォルト)
1: 自動 STALL

3.17.3.29 Descriptor RAM レジスタ

このレジスタは、ディスクリプタを RAM に格納する際に使用します。ディスクリプタのサイズは、384 バイトです。ただし、ディスクリプタを格納する際は、ディスクリプタ RAM 構成例に従ったフォーマットでライトする必要があります。

Descriptor RAM (0500H) ~ (067FH)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0
Read/Write	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット後	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定

RD/WR 可能なタイミングは、USB_RESET 検出前、および、SET_DESCRIPTOR リクエスト処理中のみです。

この SET_DESCRIPTOR リクエスト処理期間は、INT_SETUP アサートから、EOP レジスタをアクセスするまでです。また、SET_DESCRIPTOR にてディスクリプタの書き替え要求があった場合、以下のシーケンスでリクエストを処理してください。

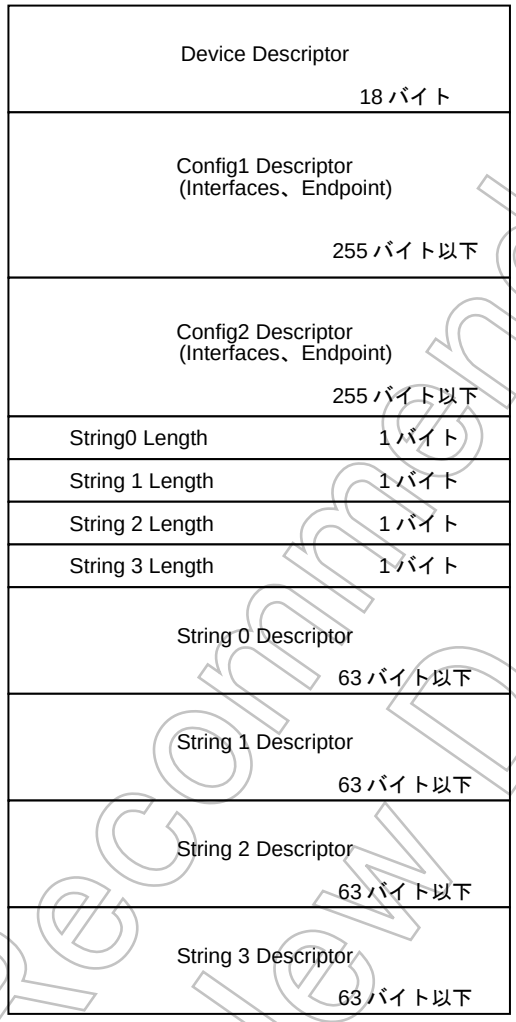
1) SET_DESCRIPTOR リクエストで転送されたディスクリプタをパケットごとにリードしてください。
2) 最後のパケット分のディスクリプタをリード終了したら、ディスクリプタ用の RAM に全ディスクリプタをライトしてください。
3) ライト終了後、COMMAND レジスタの INIT_DESCRIPTOR を実行してください。
4) 以上の処理が終了しましたら、EOP レジスタをアクセスし、ステータスステージを終了させます。
5) INT_STAS 割り込みを受信したら、ステータスステージの正常終了を表します。

USB_RESET を検出すると自動的にリードを開始しますので、ホストに接続した際は、INIT_DESCRIPTOR コマンドを実行する必要はありません。

Not Recommended for New Design

3.17.4 ディスクリプタRAM

USB 仕様で定義されるディスクリプタを格納するエリアです。デバイス、コンフィグ、インタフェース、エンドポイント、ストリングディスクリプタを以下のフォーマットで RAM にセットする必要があります。



注 1) String Descriptor をサポートしない場合、StringxLength のエリアは、サイズ 0 としてください。未サポートストリングディスクリプタに対しては、STALL を返信します

注 2) Config Descriptor の説明はディスクリプタ例を参照してください。

注 3) UDC 内部のシーケンサにてコンフィグ数、インタフェース数、エンドポイント数を決定しますので、サポートするエンドポイント数が少なければ、アドレスを詰めて割り当ててください。

注 4) この機能はディスクリプタを RAM として格納する場合のみ効果的です。

注 5) RAM サイズは全部で 384 バイトです。

注 6) ディスクリプタ RAM の RD/WR での可能なタイミングは USB_RESET および SET_DESCRIPTOR リクエストの処理前のみです。(このタイミング以外のアクセスを禁止します。) ライトは USB ホストに接続、および SET_DESCRIPTOR リクエストの処理の前に終了しなければなりません。この SET_DESCRIPTOR リクエスト処理時間は INT_SETUP アサートから EOP レジスタのアクセスまでの間となっています。

注 7) 標準ディスクリプタ以外のクラス・ディスクリプタやベンダー・ディスクリプタなどは、自動応答にて対応できません。

Not Recommended for New Design

ディスクリプタ RAM 設定例:

アドレス	DATA	Description	Description
Device Descriptor			
500H	12H	bLength	
501H	01H	bDescriptorType	Device Descriptor
502H	00H	bcdUSB (L)	USB Spec 1.00
503H	01H	bcdUSB (H)	Ifc's specify own
504H	00H	bDeviceClass	
505H	00H	bDeviceSubClass	
506H	00H	bDevicEProtocol	
507H	08H	bMAXPacketSize0	
508H	6CH	bVendor (L)	Toshiba
509H	04H	bVendor (H)	
50AH	01H	idProduct (L)	
50BH	10H	idProduct (H)	
50CH	00H	bcdDevice (L)	Release 1.00
50DH	01H	bcdDevice (H)	
50EH	00H	bManufacture	
50FH	00H	iProduct	
510H	00H	bSerialNumber	
511H	01H	bNumConfiguration	
Config1 Descriptor			
512H	09H	bLength	
513H	02H	bDescriptorType	Config Descriptor
514H	4EH	wtotalLength (L)	78 byte
515H	00H	wtotalLength (H)	
516H	01H	bNumInterfaces	
517H	01H	bConfigurationValue	
518H	00H	iConfiguration	
519H	A0H	bmAttributes	Bus powered-remote wakeup
51AH	31H	MaxPower	98 mA
Interface0 Descriptor AlternateSetting0			
51BH	09H	bLength	
51CH	04H	bDescriptorType	Interface Descriptor
51DH	00H	bInterfaceNumber	
51EH	00H	bAlternateSetting	AlternateSetting0
51FH	01H	bNumEndpoints	
520H	07H	bInterfaceClass	
521H	01H	bInterfaceSubClass	
522H	01H	bInterfaceProtocol	
523H	00H	iInterface	
Endpoint1 Descriptor			
524H	07H	bLength	
525H	05H	bDescriptorType	Endpoint Descriptor
526H	01H	bEndpointAddress	OUT
527H	02H	bmAttributes	BULK
528H	40H	wMaxpacketSize (L)	64 byte
529H	00H	wMaxpacketSize (H)	
52AH	00H	bInterval	

Not Recommended for New Design

アドレス	DATA	Description	Description
Interface0 Descriptor AlternateSetting1			
52BH	09H	bLength	
52CH	04H	bDescriptorType	Interface Descriptor
52DH	00H	bInterfaceNumber	
52EH	01H	bAlternateSetting	AlternateSetting1
52FH	02H	bNumEndpoints	
530H	07H	bInterfaceClass	
531H	01H	bInterfaceSubClass	
532H	02H	bInterfaceProtocol	
533H	00H	iInterface	
Endpoint1 Descriptor			
534H	07H	bLength	
535H	05H	bDescriptorType	EndpointDescriptor
536H	01H	bEndpointAddress	OUT
537H	02H	bmAttributes	BULK
538H	40H	wMaxPacketSize (L)	64 byte
539H	00H	wMaxPacketSize (H)	
53AH	00H	bInterval	
Endpoint2 Descriptor			
53BH	07H	bLength	
53CH	05H	bDescriptorType	Endpoint Descriptor
53DH	82H	bEndpointAddress	IN
53EH	02H	bmAttributes	BULK
53FH	40H	wMaxpacketSize (L)	64 byte
540H	00H	wMaxpacketSize (H)	
541H	00H	bInterval	
Interface0 Descriptor AlternateSetting2			
542H	09H	bLength	
543H	04H	bDescriptorType	Interface Descriptor
544H	00H	bInterfaceNumber	
545H	02H	bAlternateSetting	AlternateSetting2
546H	03H	bNumEndpoints	
547H	FFH	bInterfaceClass	
548H	00H	bInterfaceSubClass	
549H	FFH	bInterfaceProtocol	
54AH	00H	iInterface	
Endpoint1 Descriptor			
54BH	07H	bLength	
54CH	05H	bDescriptorType	Endpoint Descriptor
54DH	01H	bEndpointAddress	OUT
54EH	02H	bmAttributes	BULK
54FH	40H	wMaxpacketSize (L)	64 byte
550H	00H	wMaxpacketSize (H)	
551H	00H	bInterval	
Endpoint2 Descriptor			
552H	07H	bLength	
553H	05H	bDESCRIPTORType	Endpoint Descriptor
554H	82H	bEndpointAddress	IN
555H	02H	bmAttributes	BULK
556H	40H	wMaxpacketSize (L)	64 byte
557H	00H	wMaxpacketSize (H)	
558H	00H	bInterval	

Not Recommended for New Design

アドレス	DATA	Description	Description
Endpoint3 Descriptor			
559H	07H	bLength	
55AH	05H	bDESCRIPTORType	ENDPOINT DESCRIPTOR
55BH	83H	bEndpointAddress	IN
55CH	03H	bmAttributes	INTERRUPT
55DH	08H	wMaxpacketSize (L)	8 byte
55EH	00H	wMaxpacketSize (H)	
55FH	01H	bInterval	1 ms
String Descriptor Length SETUP Area			
560H	04H	bLength	Length of String Descriptor0
561H	10H	bLength	Length of String Descriptor 1
562H	00H	bLength	Length of String Descriptor 2
563H	00H	bLength	Length of String Descriptor 3
String Descriptor0			
564H	04H	bLength	
565H	03H	bDescriptorType	String Descriptor
566H	09H	bString	Language ID 0x0409
567H	04H	bString	
String Descriptor1			
568H	10H	bLength	
569H	03H	bDescriptorType	String Descriptor
56AH	00H	bString	(Toshiba)
56BH	54H	bString	T
56CH	00H	bString	
56DH	6FH	bString	o
56EH	00H	bString	
56FH	73H	bString	s
570H	00H	bString	
571H	68H	bString	h
572H	00H	bString	
573H	69H	bString	i
574H	00H	bString	
575H	62H	bString	b
576H	00H	bString	
577H	61H	bString	a
String Descriptor2			
String Descriptor3			

Not Recommended for New Design

3.17.5 デバイスリクエスト

3.17.5.1 スタンダードリクエスト

UDC はスタンダードリクエストについて、自動応答をサポートしております。

(1) GET_STATUS リクエスト

このリクエストにより、指定された受信側のステータスを自動的に返信します。

bmRequestType	bRequest	wValue	wIndex	wLength	Data
10000000B 10000001B 10000010B	GET_STATUS	0	0 Interface Endpoint	2	Device, Interface あるいは Endpoint Status

デバイスへのリクエストについては、以下の情報をリトルエンディアン順に返信します。

D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0
0	0	0	0	0	0	Remote Wakeup	Self Power
D15	D14	D13	D12	D11	D10	D9	D8
0	0	0	0	0	0	0	0

- RemoteWakeup　現在のリモートウェイクアップの設定を返信します。
このビットは、SET_FEATURE、CLEAR_FEATURE リクエストにより、セットあるいはリセットされます。デフォルトは、0 となります。

- SelfPower　現在の電源設定を返信します。コンフィグディスクリプタ内の bmAttributes フィールドに設定している値に応じて、Self、BusPower どちらかの値を返信します。

インタフェースへのリクエストについては、2 バイト分 00H を返信します。

エンドポイントへのリクエストについては、以下の情報をリトルエンディアン順に返信します。

D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0
0	0	0	0	0	0	0	HALT
D15	D14	D13	D12	D11	D10	D9	D8
0	0	0	0	0	0	0	0

- HALT　選択されたエンドポイントの HALT ステータスを返信します。

Not Recommended for New Design

(2) CLEAR_FEATURE リクエスト

このリクエストにより、特定の機能をクリアまたはディセーブルします。

bmRequestType	bRequest	wValue	wIndex	wLength	Data
00000000B 00000001B 00000010B	CLEAR_ FEATURE	Feature Selector	0 Interface Endpoint	0	なし

- 受信側デバイス

  FeatureSelector: 1　　現在のリモートウェイクアップの設定をディセーブルします。

  FeatureSelector: 1 以外　STALL します。
- 受信側インタフェース

  STALL します。
- 受信側エンドポイント

  FeatureSelector: 0　　該当エンドポイントの HALT をクリアします。

  注) HALT のクリアとしては、以下の設定を行います。

  ･FIFO の初期化

  ･トグルシーケンスビットのクリア

  ･STALL 状態のクリア

  FeatureSelector: 0 以外　STALL します。

注) 存在しないエンドポイントへのリクエストの場合、STALL します。

(3) SET_FEATURE リクエスト

このリクエストにより、特定の機能を設定またはイネーブルします。

bmRequestType	bRequest	wValue	wIndex	wLength	Data
00000000B 00000001B 00000010B	SET_ FEATURE	Feature Selector	0 Inerface Endpoint	0	なし

- 受信側デバイス

  FeatureSelector: 1　　現在のリモートウェイクアップの設定をイネーブルにします。

  FeatureSelector: 1 以外　STALL します。
- 受信側インタフェース

  STALL します。
- 受信側エンドポイント

  FeatureSelector: 0　　該当エンドポイントを HALT させます。

  FeatureSelector: 0 以外　STALL します。

注) 存在しないエンドポイントへのリクエストの場合、STALL します。

Not Recommended for New Design

(4) SET_ADDRESS リクエスト

このリクエストにより、デバイスアドレスを設定します。後続のリクエストは、ここで設定されたデバイスアドレスを使用して応答します。

このリクエストのステータスステージが正常に完了するまでは、以前のデバイスアドレスで応答します。

bmRequestType	bRequest	wValue	wIndex	wLength	Data
00000000B	SET_ADDRESS	Device Address	0	0	なし

(5) GET_DESCRIPTOR リクエスト

このリクエストにより、指定されたディスクリプタを返信します。

bmRequestType	bRequest	wValue	wIndex	wLength	Data
10000000B	GET_ DESCRIPTOR	Descriptor Type および Descriptor Index	0 あるいは Language ID	Descriptor Length	Descriptor

- デバイス　　ディスクリプタ RAM に格納されたデバイスディスクリプタを送信します。
- コンフィグ　　ディスクリプタ RAM に格納されたコンフィグディスクリプタを送信します。
  このとき、コンフィグディスクリプタの次に続くインタフェース、エンドポイントディスクリプタについても続けて送信します。
- ストリング　　wValue フィールドの下位バイトで指定されたインデックスのストリングディスクリプタを送信します。

注) Get_Descriptor の自動応答によって「wLength」と「ディスクリプタタイプで定義された、ディスクリプタ長」を比較し、短いデータ長のディスクリプタを送信します。

Not Recommended for New Design

(6) SET_DESCRIPTOR リクエスト

このリクエストにより、特定の機能を設定またはイネーブルします。

bmRequestType	bRequest	wValue	wIndex	wLength	Data
00000000B	SET_ DESCRIPTOR	Descriptor Type および Descriptor Index	0 あるいは Language ID	Descriptor Length	Descriptor

このリクエストの自動応答については、未サポートです。

INT_SETUP 割り込みに応じて、受信したリクエストが、SET_DESCRIPTOR リクエストであることを判別した場合、DATASET レジスタの EP0_DSET_A ビットが "1"になっているのを確認し、データを引き取ってください。終了時には、EOP レジスタをアクセスし、EP0_EOPB ビットに "0"をライトするとステータスステージを終了します。処理としては、ベンダーリクエストと同様になりますので、詳細については、ベンダーリクエストの項を参照してください。

(7) GET_CONFIGURATION リクエスト

このリクエストにより、現在のデバイスのコンフィギュレーション値を送信します。

bmRequestType	bRequest	wValue	wIndex	wLength	Data
10000000B	GET_ CONFIG	0	0	1	Configuration Value

未構成時には、"0"を返信します。構成時には、そのコンフィギュレーション値を返信します。

(8) SET_CONFIGURATION リクエスト

このリクエストにより、デバイス構成を設定します。

bmRequestType	bRequest	wValue	wIndex	wLength	Data
00000000B	SET_ CONFIG	Configuration Value	0	0	なし

wValue フィールドの下位バイトで指定された値でコンフィギュレーションします。この値が "0"のときは、未構成になります。

Not Recommended for New Design

(9) GET_INTERFACE リクエスト

このリクエストにより、指定されたインタフェースで設定されている AlternateSetting 値を返信します。

bmRequestType	bRequest	wValue	wIndex	wLength	Data
10000001B	GET_ INTERFACE	0	Interface	1	AlternateSetting

指定されたインタフェースが存在しない場合、STALL します。

(10) SET_INTERFACE リクエスト

このリクエストにより、指定したインタフェースにおける AlternateSetting を選択します。

bmRequestType	bRequest	wValue	wIndex	wLength	Data
00000001B	SET_ INTERFACE	AlternateSetting	Interface	0	なし

指定されたインタフェースが存在しない場合、STALL します。

(11) SYNCH_FRAME リクエスト

このリクエストにより、エンドポイントの同期フレームを送信します。

bmRequestType	bRequest	wValue	wIndex	wLength	Data
10000010B	SYNCH_FRAME	0	Endpoint	3	Frame No

このリクエストの自動応答については、未サポートです。

INT_SETUP 割り込みに応じて、受信したリクエストが SYNCH_FRAME であることを判別した場合、DATASET レジスタの EP0_DSET_A ビットが “0”になっているのを確認し、Frame No の 2 バイトのデータのライトを行ってください。終了時には、EOP レジスタをアクセスし、EP0_EOPB ビットに“0”をライトするとステータスステージを終了します。エンドポイントがアイソクロナス転送をサポートし、かつこのリクエストをサポートする場合のみ使用することができます。処理の方法としては、ベンダーリクエストと同様ですので、詳細については、ベンダーリクエストの項を参照してください。

Not Recommended for New Design

3.17.5.2 プリンタクラスリクエスト

UDC はプリンタクラスのリクエストの自動応答はサポートしておりません。INT_SETUP 割り込みに応じて、クラスリクエストに対する処理を行ってください。その場合の処理は、ベンダーリクエストに対する処理と同様になります。

3.17.5.3 ベンダーリクエスト (クラスリクエスト)

UDC はベンダーリクエストの自動応答はサポートしておりません。

INT_SETUP 割り込みに応じて、デバイスリクエストが格納されたレジスタをアクセスして、受信したリクエストの判別を行い、そのリクエストがベンダーリクエストであった場合、外部から UDC を操作して、それに対応する処理を行う必要があります。

以下に、データフェーズが送信 (コントロールリード)と受信の場合 (コントロールライト) とに分けて説明します。

(a) コントロールリードリクエスト

bmRequestType	bRequest	wValue	wIndex	wLength	Data
110000xxB	ベンダー固有	ベンダー固有	ベンダー固有	ベンダー固有 (0 以外)	Vender Data

アプリケーションは、INT_SETUP 割り込みを受け付け後、受信したリクエストの内容を bmRequestType、bRequest、wValue、wIndex、wLength レジスタから判定し、そのリクエストに対応した処理を行ってください。

アプリケーションは、リクエストの判定を行った後、Setup_Received レジスタをアクセスし、INT_SETUP 割り込みを認識したことを UDC に知らせる必要があります。

次に DATASET レジスタをアクセスし、EP0_DSET_A ビットが“0”になっているのを確認して、エンドポイント 0 の FIFO にデータをライトしてください。(ペイロード以上のデータを送信する場合には、DATASET レジスタの EP0_DSET_A のビットをポーリングし、“0”であるのを確認してからデータをライトしてください。INT_EP0 割り込み信号でも対応可能です)

すべてのデータをライトし終わったら、EOP レジスタの EP0 のビットに “0”をライトしてください。UDC はこれを受け、ステータスステージを自動的に終了します。

また、UDC は正常にステータスステージを終了すると、INT_STAS 割り込みをアサートします。

外部のアプリケーションがステータスステージの正常終了を確認したい場合には、INT_STAS 割り込みを使用してステージの管理を行ってください。ステータスステージを正常に終了できなかった場合や、ステータスステージ中にもかかわらず新規の SETUP トークンを受信することがあります。この場合、INT_SETUP 割り込み信号アサート時に、EP0_STATUS レジスタの STAGE_ERROR ビットが“1”に変化し、外部にステータスステージを正常に終了できなかったことを知らせます。

また、USB のコントロールリード転送におけるプロトコルにて、wLength に示された値よりも短いデータ数でデータフェーズが終わることがあります。この場合、INT_STASN 割り込み信号によりステータスステージへの移行を知ることができます。通常、ベンダーリクエストの場合、ドライバー側にて受信バッファサイズをホストコントローラーにセットしますので、このようなことが発生することはありえません。

注) ホストによっては、デバイス側のペイロードサイズを把握するまでは、デバイスから 8 バイトのペイロードで送ったデータがショートパケットと認識され、見た目上、前述のケースになる場合がありますので、注意が必要です。

Not Recommended for New Design

(b) コントロールライト/リクエスト

データフェーズがない場合

bmRequestType	bRequest	wValue	wIndex	wLength	Data
010000xxB	ベンダー固有	ベンダー固有	ベンダー固有	0	なし

アプリケーションは、INT_SETUP 割り込みを受け付け後、リクエストの内容を bmRequestType、bRequest、wValue、wIndex、wLength レジスタから判定し、そのリクエストに対応した処理を行ってください。アプリケーションは、リクエストの判定を行った後、SETUP_Received レジスタをアクセスし、INT_SETUP 割り込みを認識したことを UDC に知らせる必要があります。

アプリケーション側にて処理が終了しましたら、EOP レジスタの EP0 のビットに "0"をライトしてください。UDC はこれを受け、ステータスステージを自動的に終了します。

データフェーズがある場合

bmRequestType	bRequest	wValue	wIndex	wLength	Data
010000xxB	ベンダー固有	ベンダー固有	ベンダー固有	ベンダー固有 (0 以外)	Vender Data

アプリケーションは INT_SETUP 割り込みを受信したら、デバイスリクエストの内容を bmRequestType、bRequest、wValue、wIndex、wLength レジスタから判定し、そのリクエストに対応した処理を行ってください。アプリケーションは、リクエストの判定を行った後、SETUP_Received レジスタをアクセスし、INT_SETUP 割り込みを認識したことを UDC に知らせる必要があります。

アプリケーション側にてデータを受信する準備ができましたら、DATASET レジスタをアクセスし、EP0_DATASET が "1"であるのを確認して、エンドポイント 0 の FIFO からデータをリードしてください。もしも、ペイロード以上のデータを受信する場合には、DATASET レジスタ EP0_DSET_A のビットをポーリングし、"1"になっているのを確認して次のパケットのデータをリードする必要があります(INT_EP0 割り込み信号を使用しても構いません)。すべてのデータをリードした後、EOP レジスタの EP0 のビットに "0"をライトしてください。UDC はこれを受け、ステータスステージを自動的に終了します。

UDC は、正常にステータスステージを終了しますと、INT_STAS 割り込みをアサートします。もしも外部のアプリケーションが、ステータスステージの正常終了を把握する場合には、この割り込み信号を使用して、ステージの管理を行ってください。また、ステータスステージを正常に終了できなかった場合や、同ステージ中に、新規の SETUP トークンを受信することがあります。このとき、INT_SETUP 割り込み信号アサート時に、EP0_STATUS レジスタの STAGE_ERROR ビットに "1"をたて、外部にステータスステージを正常に終了できなかったことを知らせます。

Not Recommended for New Design

以下にアプリケーションから見た、UDC のコントロールフローを示します。

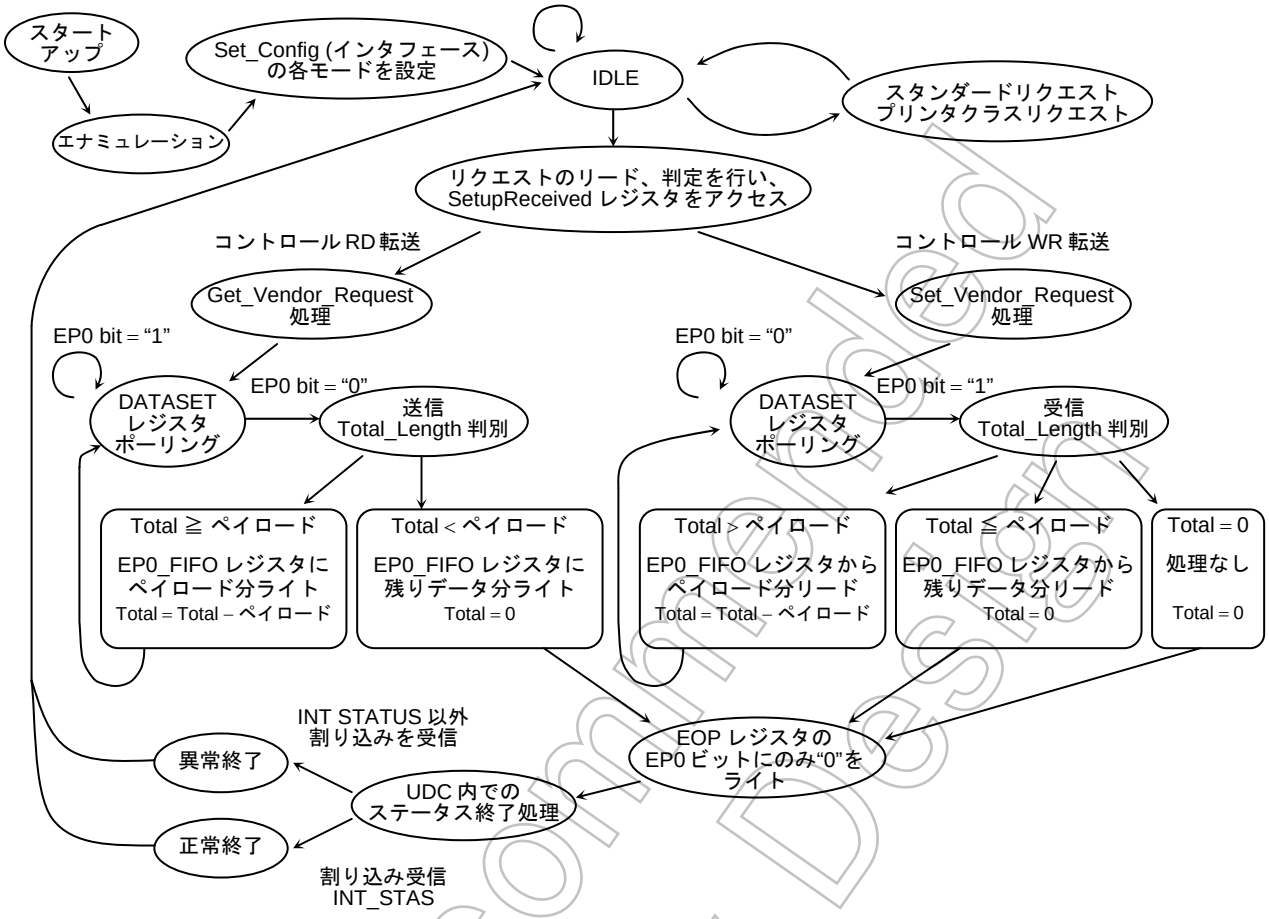


図 3.17.2 アプリケーションから見た UDC の制御フロー

注) SETUP パケットを重複して受信したような場合の特殊なケースについてのフローは明記しておりません。フローの詳細については、コントロール転送の章を参照してください。

Not Recommended for New Design

3.17.6 転送モードとプロトコル処理

UDC はパケットの受信、アドレスエンドポイント転送モードの判定、エラー処理、データ受信パケットのトグルビット CRC 確認、データ送信パケットのトグルビット CRC を含んだ生成と、ハンドシェーク応答をハードウェアで自動的に行います。

(1) プロトコル概要

USB パケットのフォーマットは以下のように定義されており、送受信時共に UDC 内のハードウェアで処理されます。

- SYNC フィールド

  各パケットの最初に必ず存在し、UDC 内部で入力データと内部 CLK の同期を取ります。

- パケット識別子フィールド (PID)

  USB パケットごとに SYNC フィールドのすぐ後に続きます。このコードをデコードすることにより、UDC は PID タイプを判別し転送タイプを判断します。

- アドレスフィールド

  このフィールドを使用して、UDC はホストからこのファンクションが指定されたかどうかを確認します。UDC は ADDRESS レジスタに設定されたアドレスと比較し、一致すればそれに続く処理を行い、一致しなければこのトークンを無視します。

- エンドポイントフィールド

  4 ビットのフィールドで、2 つ以上のサブチャンネルを必要とする場合、そのファンクションを特定します。UDC はコントロールエンドポイントを除く、最大 7 つまでのエンドポイントをサポートすることが可能です。許可されていないエンドポイントに対するトークンは無視します。

- フレーム番号フィールド

  11 ビットのフィールドは、ホストによってフレームごとにインクリメントされます。このフィールドは各フレームの一番始めに送られる SOF トークンに続いており、フレーム番号が指定されます。UDC は SOF トークン受信時にこのフィールドの内容を読み取り、FRAME レジスタにフレーム番号をセットします。

- データフィールド

  このフィールドは 0~1023 バイトで、バイト単位のデータとなります。受信時、UDC はこのデータ部分だけを FIFO に転送し、CRC を確認した後、割り込み信号をアサートして FIFO へのデータ転送が終了したことを知らせます。送信時には IN トークンに続いて FIFO のデータを転送し、データの最後にデータ CRC フィールドを付加します。

- CRC 機能

  トークンには 5 ビット、データには 15 ビットの CRC が付加されます。UDC は受信したデータの CRC と、付加された CRC との比較を自動的に行い、送信時には CRC を自動生成して送信します。転送モードによっては比較を行わない物があります。

Not Recommended for New Design

(2) 転送モード

UDC はフルスピードで 4 つの転送モードをサポートしています。

- フルスピードデバイス

  コントロール転送

  インターラプト転送

  バルク転送

  アイソクロナス転送

以下に各転送モードにおける、UDC の動作について説明します。なお、各転送の動作については FIFO までのデータの流れを説明します。

(a) バルク転送

バルク転送は、エラー検出とリトライを利用してホストとファンクションとの間でエラーのない転送を保証します。基本的にはトークン、データ、ハンドシェークの 3 フェーズを使用しますが、フロー制御およびストール条件では、データフェーズはハンドシェイクフェーズに置き替えられ、2 フェーズとなります。UDC はエンドポイントごとのステータスを保持しており、ハードウェアでフロー制御を行います。各エンドポイントの状態は EPx_STATUS レジスタにより確認することができます。

Not Recommended for New Design

(a-1) バルク送信モード

送信時のバルク転送は、以下のようなトランザクションフォーマットに従います。

- トークン　　：　IN
- データ　　：　DATA0/DATA1, NAK, STALL
- ハンドシェーク：　ACK

制御フロー

IN トークンを受信したときの UDC 内部の制御フローを以下に示します。

1. トークンパケットを受け取り、アドレス･エンドポイント番号エラーを確認し、該当エンドポイントの転送モードが IN トークンと適合するかを調べます。適合しなければ IDLE に戻ります。
2. EPx_STATUS レジスタの状態を確認します。
   - INVALID 状態 ：　IDLE に戻ります。
   - STALL 状態　：　ストールハンドシェークを返し、IDLE に戻ります。

   FIFO の状態を確認し、1 パケット分のデータが準備されていなければ、NAK ハンドシェークを返し、IDLE に戻ります。1 パケット分のデータが FIFO に準備されていれば、3 へ移行します。
3. データパケットの生成に移行します。

   UDC 内部のトグルビットレジスタを使用して、データパケットを生成します。

   次に、UDC 内部の FIFO から SIE へデータを転送しデータパケットを生成します。このとき転送されるデータ数を確認し、各エンドポイントの MAX ペイロードサイズ以上のデータがある場合、ビットスタフエラーを起こさせて、その転送を終了させ、STATUS を STALL とします。
4. FIFO のデータを最後まで転送すると、計算していた CRC ビットを最後に付加します。
5. ホストからの ACK ハンドシェークを受信すると
   - FIFO をクリアします。
   - DATASET レジスタをクリアします。
   - トグルビットを更新して次に備えます。
   - STATUS を READY にセットします。

UDC は正常終了します。FIFO は次のデータを受け入れることが可能です。

もしも、ホストからの ACK を受信せずにタイムアウトしてしまったときは、

- STATUS を TX_ERR とします。
- FIFO のアドレスポインタを元に戻します。

を行い FIFO のデータを保存したまま次のリトライを待ちます。

このフローを 図 3.17.3に示します。

Not Recommended for New Design

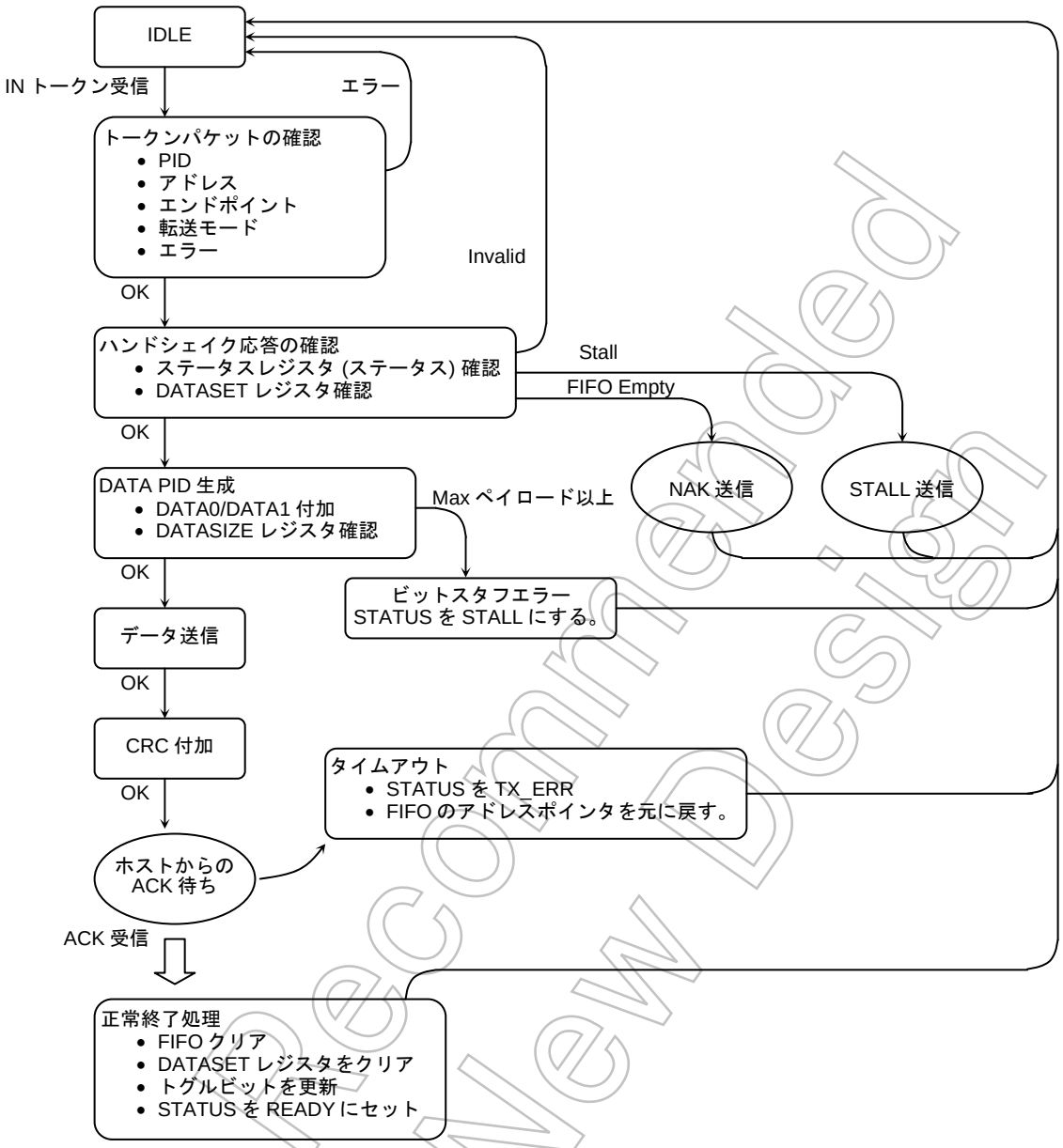


図 3.17.3 UDC 内部の制御フロー (バルク転送 (送信) /インターラプト転送 (送信))

Not Recommended for New Design

(a-2) バルク受信モード

受信時のバルク転送は、以下のようなトランザクションフォーマットに従います。

- トークン　　：　OUT
- データ　　：　DATA0/DATA1
- ハンドシェーク：　ACK, NAK, STALL

制御フロー

OUT トークンを受信したときの UDC 内部の制御フローを以下に示します。

1. トークンパケットを受け取り、アドレスエンドポイント番号エラーを確認し、該当エンドポイントの転送モードが OUT トークンと適合するかを調べます。適合しなければ IDLE に戻ります。
2. ステータスレジスタの状態を確認します。
   - INVALID 状態　：　IDLE に戻ります。
   - STALL 状態　　：　データフェーズが終わり次第、STALL ハンドシェークを返し、IDLE に戻りデータは破棄します。

   FIFO の状態を確認し 1 パケット分のデータを格納する準備ができていなければ、今転送されたデータを破棄し、データフェーズに続いて NAK ハンドシェークを返し、IDLE に戻ります。
3. データパケットの受信を行います。

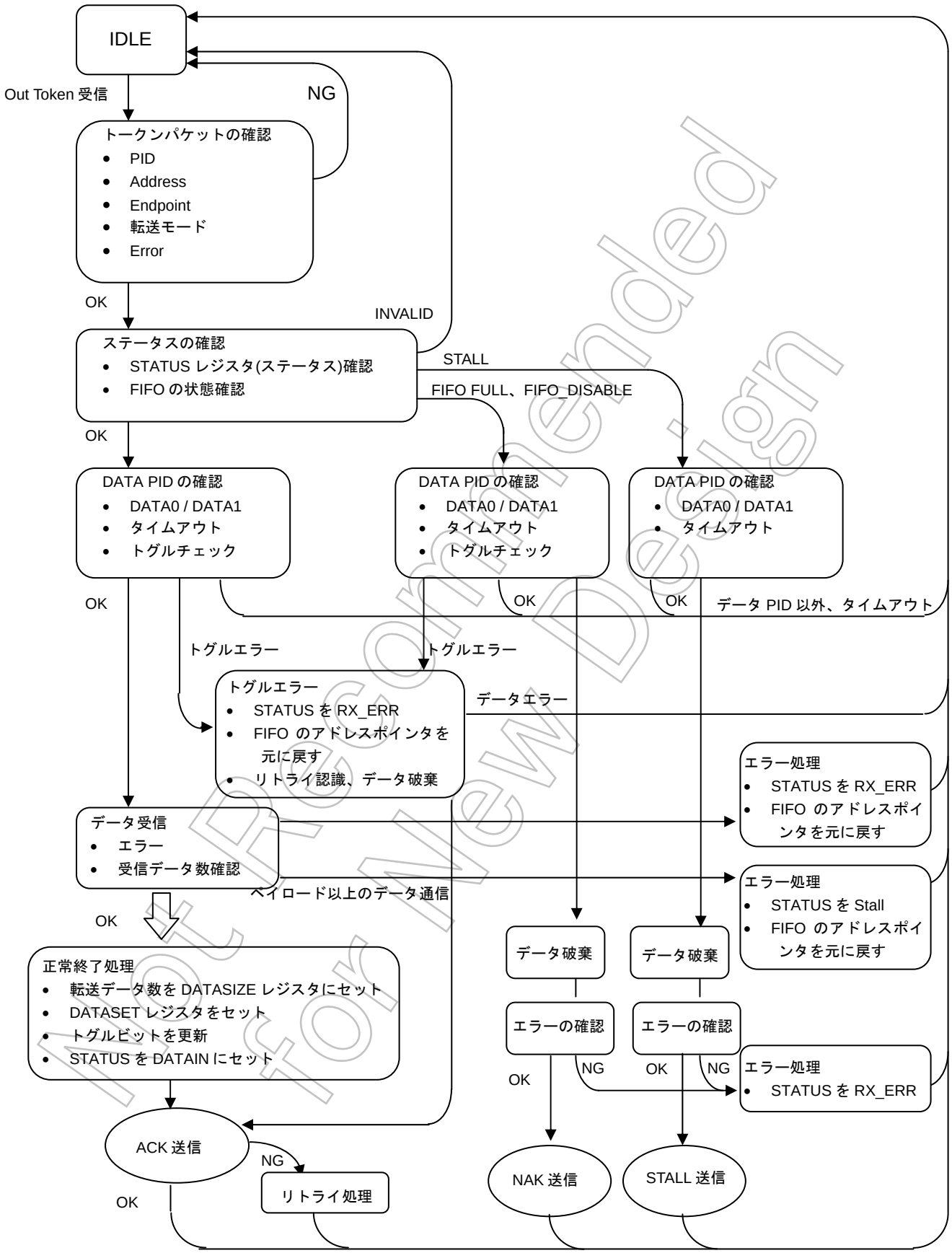
   UDC 内部の SIE から FIFO へデータを転送します。

   このとき、転送されたデータ数を確認し、各エンドポイントの MAX ペイロードサイズ以上のデータがある場合、STATUS を STALL とし、IDLE に戻ります。このとき、ACK ハンドシェークは返信しません。
4. データを最後まで FIFO に転送した後、計算した CRC と転送された CRC を比べて一致しないときはステータスに RX_ERR をセットして、ACK を返さずに IDLE に戻ります。USB ホストはリトライを試み、次のデータを正常に受信できたとき、STATUS は、DATAIN に変わります。また、データトグルが一致しなかったときは、前回の転送でホストが ACK を取れなかったものと判断し、現在の転送を前回の転送のリトライと考え、データを破棄、STATUS を RX_ERR とし、ホストへは ACK を返信して IDLE に戻ります。FIFO のアドレスポインタは元に戻されますので、次のデータを受信可能となります。
5. CRC とトグルが一致して正常に終了した場合には、ACK ハンドシェークを返して UDC 内で以下の処理を行います。
   - 転送データ数を DATASIZE レジスタにセットします。
   - DATASET レジスタをセットします。
   - トグルビットを更新して次に備えます。
   - STATUS を READY にセットします。

   これで UDC は、正常終了します。

   このフローを 図 3.17.4に示します。

Not Recommended for New Design



Not Recommended for New Design

図 3.17.4 UDC 内部の制御フロー (バルク転送 (受信))

(b) インターラプト転送

インターラプト転送は、送信バルク転送と同一のトランザクション･フォーマットを使用します。

トグルビットを用いた転送時の UDC のハードウェアの設定、および応答は送信バルク転送と同一です。

インターラプト転送では、トグルビットを用いないで転送を行うことができます。この場合ホストからの ACK ハンドシェークを受信しないときでもトグルビットを更新して正常終了します。UDC は次の転送のために FIFO をクリアします。

(b-1) インターラプト送信モード (トグルモード)

UDC の動作は、バルク送信モードと同一となります。(a) を参照してください。

(b-2) インターラプト送信モード (NOT トグルモード)

基本的にはバルク送信モードと同一ですが、ホストからの ACK ハンドシェークを受信できなかった場合の処理が異なります。

データパケット送出後、ホストからの ACK ハンドシェークを受信すると

- FIFO をクリアします。
- DATASET レジスタをクリアします。
- トグルビットを更新して次に備えます。
- ステータスを READY にセットします。

UDC は正常終了します。FIFO は次のデータを受け入れることが可能です。

もしも、ホストからの ACK を受信せずにタイムアウトしてしまったときは、

- FIFO をクリアします。
- DATASET レジスタをクリアします。
- トグルビットを更新して次に備えます。
- STATUS を TX_ERR とします。

を行い STATUS が変更となる以外は同一です。

Not Recommended for New Design

(c) コントロール転送

コントロール転送は、次の 3 つのステージで構成されます。

- セットアップステージ
- データステージ
- ステータスステージ

データステージは省略される場合があります。それぞれのステージは 1 つあるいは複数のトランザクションで構成されます。UDC はハードウェアで 3 つのステージ管理を行いながら、それぞれのトランザクション処理を行います。コントロール転送はデータステージの有無、または方向によって以下の 3 つの種類があります。

- コントロールリード転送
- コントロールライト転送
- コントロールライト転送 (データステージなし)

3 つの転送シーケンスは 図 3.17.6、図 3.17.7、図 3.17.8に示します。

なお、UDC は、スタンダードリクエストについてハードウェアにて自動応答します。オプションのスタンダードリクエスト、クラスリクエスト、ベンダーリクエストについては、UDC をコントロールする CPU の介在が必要となります。

以下に、UDC 内部の制御フローおよび、CPU 介在時の制御フローを示します。

(c-1) セットアップステージ

セットアップステージは、トークン ID が SETUP となることを除き送信バルクトランザクションと同一です。ただし、UDC の制御フローは異なります。

- トークン　　：　SETUP
- データ　　：　DATA0
- ハンドシェーク：　ACK

制御フロー

SETUP トークンを受信したときの UDC 内部の制御フローを以下に示します。

1. SETUP トークンパケットを受け取り、アドレス･エンドポイント番号エラーを確認し、該当エンドポイントがコントロール転送モードかを調べます。適合しなければ IDLE に戻ります。
2. ステータスレジスタの状態を確認します。

   INVALID 状態でのみ IDLE に戻ります。

   バルク転送では、STATUS レジスタの値や FIFO の状態によりデータの受け入れを許可していましたが、セットアップステージではいかなる状況においても、STATUS を READY に戻し、CPU からの FIFO へのアクセスを禁止し、エンドポイント 0 の FIFO 内部をクリアし、以降のデータフェーズに備えます。

   CPU が UDC 内部の SetupReceived レジスタをアクセスすると、デバイスリクエストを受信したことを認識したものとし、CPU から EP0 の FIFO のアクセス禁止を解きます。これは一つ前のデバイスリクエストが正常に終了していない間に新規のリクエストが来たとき、受信できるようにするためです。

Not Recommended for New Design

3. データパケットの受信を行います。

UDC 内部の SIE から 8 バイト分のデバイスリクエストを、以下のリクエストレジスタへデータを転送します。

- bmRequestType レジスタ
- bRequest レジスタ
- wValue レジスタ
- wIndex レジスタ
- wLength レジスタ

4. データを最後まで FIFO に転送したのち、計算した CRC と転送された CRC を比べて一致しないときは、STATUS に RX_ERR をセットして、ホストに対し ACK ハンドシェークを返さずに IDLE に戻ります。ホストはリトライします。

5. CRC とトグルが一致して正常に終了した場合には、ホストに ACK ハンドシェークを返します。

- 受信したデバイスリクエストの制御権を判別し、ソフトウエアでの制御が必要なリクエストであれば、INT_SETUP 割り込みをアサートして、外部にリクエスト受信したことを知らせます。ハードウェアでの自動応答をする場合には、INT_SETUP 割り込みをアサートしません。
- ステージ制御フローに従って、次のステージの準備をします。
- STATUS を DATAIN にセットします。
- トグルビットを “1”にセットします。

これでセットアップステージは終了します。

このフローを 図 3.17.5に示します。

このセットアップステージで転送された 8 バイトのデータは、デバイスリクエストとなります。

CPU はデバイスリクエストに対応した処理を行わなければなりません。

UDC は 8 バイトのデータから次の内容だけを検出し、ステージ管理をハードウェアで行います。

- データステージの有無
- データステージの方向

これらを元にコントロールリード転送、コントロールライト転送、コントロールライト (データフェーズなし) 転送を判断します。

Not Recommended for New Design

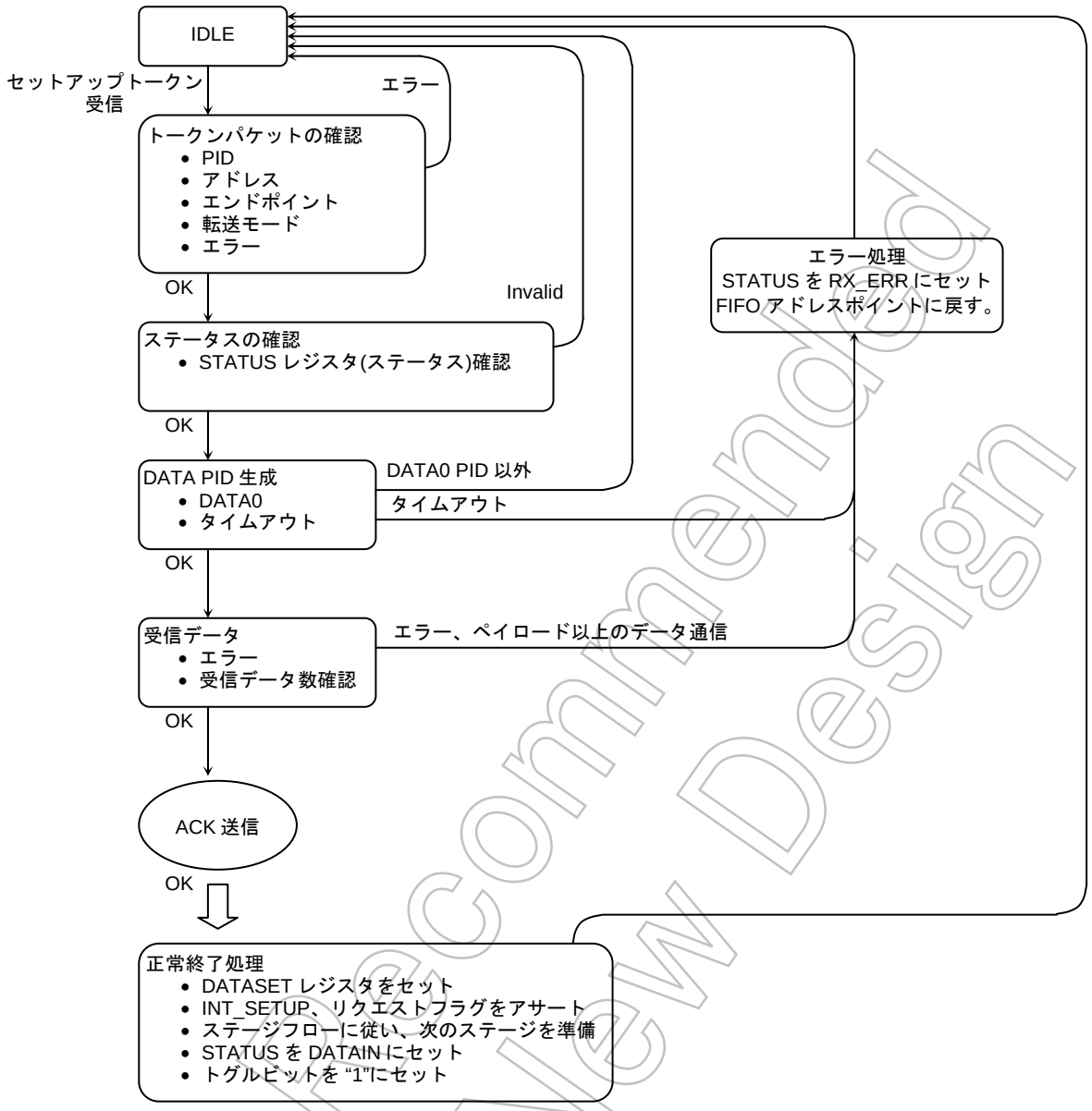


図 3.17.5 UDC 内部の制御フロー (セットアップステージ)

Not Recommended for New Design

(c-2) データステージ

データステージは、トグルシーケンスに基づいて、1 つまたは複数のトランザクションにより構成されます。トランザクションは送信または受信バルクトランザクションと同一フォーマットとなりますが、以下の点で異なります。

- セットアップステージを受けてトグルビットは“1”からスタートします。
- IN および OUT のトークンは、デバイスリクエスト中の方向ビットと比較して正しいかどうかを判断します。転送方向が逆のトークンを受信するとステータスステージとして認識します。
- INT_EP0 割り込みをアサートします。

(c-3) ステータスステージ

ステータスステージは、IN または OUT のトークンに続いて、DATA1 の PID を伴った 0 データ長のパケットとハンドシェークで構成されます。1 つ前のステージとは方向が異なるトランザクションを使用します。これは以下の様な組み合わせとなります。

- コントロールリード転送 : OUT
- コントロールライト転送 : IN
- コントロールライト転送 (データフェーズなし) : IN

UDC は内部のコントロール転送のフロー制御に基づいてステータスステージを処理します。このとき、ステータスステージが正常終了するために、CPU は処理の終わりで EOP レジスタの EP0 ビットに “0”をライトする必要があります。以下にステータスステージの詳細を示します。

(c-3-1) ステータスステージ

IN ステータスステージのトランザクションフォーマットは以下のようになります。

- トークン : IN
- データ : DATA1 (0 データ長)、NAK、STALL
- ハンドシェーク : ACK

制御フロー

UDC 内部の IN ステータスステージの処理フローは以下のようになります。

1. トークンパケットを受け取り、アドレスエンドポイント番号エラーを確認し、適合しなければ IDLE に戻ります。UDC 内部のステージ制御フローに基づいてステータスステージが許可されていれば、次に進みます。
2. ステータスレジスタの状態を確認します。
   - INVALID 状態 : IDLE に戻ります。
   - STALL 状態 : STALL ハンドシェークを返し、IDLE に戻ります。

   外部より EOP レジスタがアクセスされたかどうかを確認し、未アクセスであれば、コントロール転送を継続するため NAK ハンドシェークを返し、IDLE に戻ります。
3. EOP レジスタがアクセスされたことを認識すると、0 データ長のデータパケットと CRC の送信を行います。

Not Recommended for New Design

4. ホストからの ACK ハンドシェークを受信すると
   - ステータスを READY にセットします。
   - INT_STAS 割り込みをアサートします。

以上で正常終了となります。

もしもホストからの ACK ハンドシェークが受信できずタイムアウトした場合には、

- STATUS レジスタに TX_ERR をセットして IDLE に戻り、ステータスステージのリトライを待ちます。

このとき、ステータスステージが正常に終了することなく、新規のセットアップステージが開始されると、UDC は、STATUS レジスタにステージエラーをセットします。

(c-3-2) OUT ステータスステージ

OUT ステータスステージのトランザクションフォーマットは以下のようになります。

- トークン　：　OUT
- データ　：　DATA1 (0 データ長)
- ハンドシェーク：　ACK, NAK, STALL

制御フロー

UDC 内部の OUT ステータスステージの処理フローは以下のようになります。

1. トークンパケットを受け取りアドレス･エンドポイント番号エラーを確認し、適合しなければ IDLE に戻ります。UDC 内部のステージ制御フローに基づいてステータスステージが許可されていれば、次に進みます。
2. ステータスレジスタの状態を確認します。
   - INVALID 状態：　IDLE に戻ります。
   - STALL 状態　：　データパケットを破棄して STALL ハンドシェークを返し、IDLE に戻ります。

   外部より EOP レジスタがアクセスされたかどうかを確認し、未アクセスであれば、コントロール転送を継続するため NAK ハンドシェークを返し、IDLE に戻ります。
3. EOP レジスタがアクセスされたことを認識すると、0 データパケットと CRC の受信を行います。
4. データにエラーがなかった場合には、ホストに対して ACK ハンドシェークを送信します。
   - STATUS を READY にセットします。
   - INT_STAS 割り込みをアサートします。

以上で正常終了となります。

もしも、データにエラーがあった場合には、ACK ハンドシェークを返しません。

- STATUS レジスタに RX_ERR をセットして IDLE に戻り、ステータスステージのリトライを待ちます。

このとき、ステータスステージが正常に終了することなく、新規のセットアップステージが開始されると、UDC は、STATUS レジスタにステージエラーをセットします。

このプロトコルのシーケンスについては、付録の項を参照願います。

Not Recommended for New Design

(c-4) ステージ管理

UDC は、コントロール転送の各ステージの進行をハードウェアで管理しています。

各ステージの遷移は USB ホストからのトークンの受信、あるいは CPU がソフトウエアでレジスタをアクセスすることによって行われます。従って、コントロール転送のそれぞれのステージはソフトウエアと連係しながら進める必要があります。また UDC は SETUP ステージの 8 バイトのデータから次の内容だけを検出し、コントロール転送の種類を判別しステージ管理を行います。

- データステージの有無
- データステージの方向

これらを元にコントロールリード転送、コントロールライト転送、コントロールライト (データステージ無し) 転送を判断します。

以下に、各種のコントロール転送時のステージの遷移を行う条件を示します。

UDC 内のステートが次のステージに移行する前に、ホストから次のステージに対応したトークンを受信すると NAK ハンドシェークを返し BUSY を USB ホストに伝えます。なお、すべてのコントロール転送においてどの状態からでもホストからの SETUP トークンを受信すると現在の処理を中止して UDC 内でセットアップステージに移行します。CPU は以前のコントロール転送を実行中であっても、新規の INT_SETUP 割り込みを受け付けることでこれに対応しなければなりません。

Not Recommended for New Design

コントロールリード転送時のステージ遷移条件

* ホストからの SETUP トークンを受信
  - UDC 内でセットアップステージがスタートする。
  - リクエストのデータを正常に受信、判別し、外部に INT_SETUP 割り込みをアサートする。
  - UDC 内部でデータステージへ移行。
* ホストからの IN トークンを受信
  - CPU は INT_SETUP 割り込みに反応してリクエストレジスタからリクエストを引き取る。
  - リクエストを判別し、INT_SETUP 割り込みを認識したことを UDC に知らせるため、SetupReceived レジスタをアクセスする。
  - デバイスリクエストの内容に応じ、DATASET レジスタの EP0 ビットをモニターし、データを FIFO にライトする。
  - UDC は、ペイロード分のデータを FIFO にセットされるか、EOP レジスタでショートパケット転送を CPU に指示された時点で、DATASET レジスタの EP0 ビットをセット。
  - UDC は、FIFO にセットされたデータを IN トークンに反応してホストへ転送。
  - CPU は処理が終了したとき、EOP レジスタの EP0 ビットに“0”をライトする。
  - UDC 内部でステータスステージへ移行。
* ホストからの OUT トークンを受信
  - OUT トークンに対し ACK を返信し、UDC 内部で IDLE 状態に移行。
  - リクエストを判別し、INT_SETUP 割り込みを認識したことを UDC に知らせるため、SetupReceived レジスタをアクセスする。
  - INT_STAS 割り込みを外部にアサートする。

これらの状態遷移を 図 3.17.6に示します。

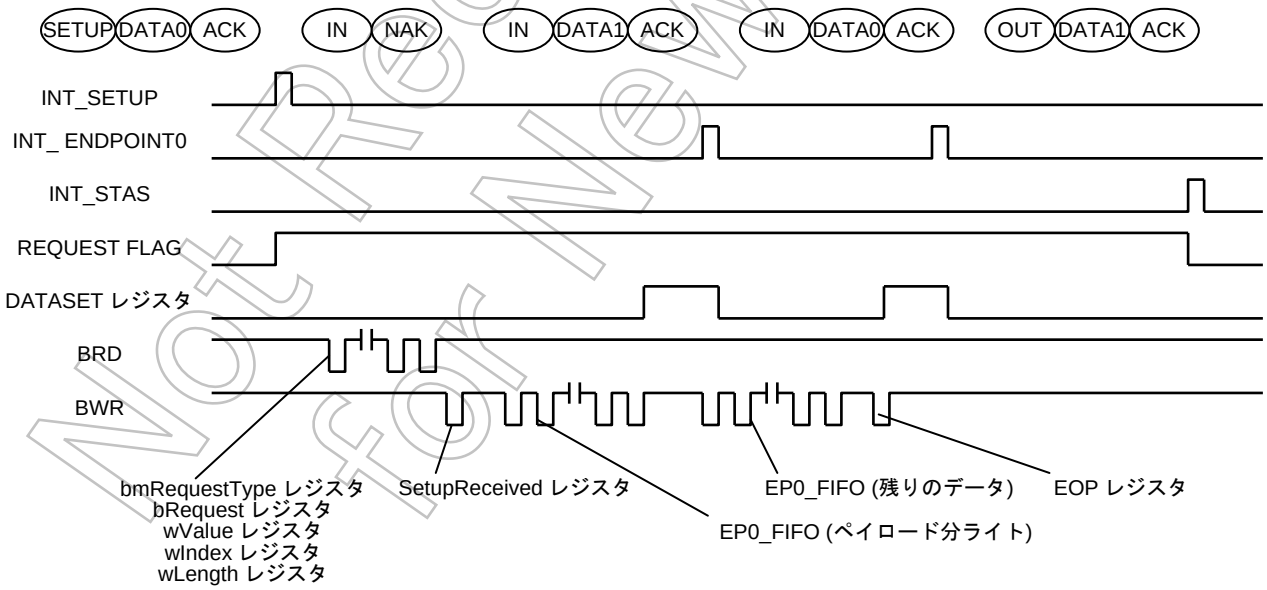


図 3.17.6 UDC 内部の制御フロー図 (コントロールリード転送)

Not Recommended for New Design

コントロールライト転送時のステージ遷移条件

* ホストからの SETUP トークンを受信
  - UDC 内でセットアップステージがスタートする。
  - リクエストのデータを正常に受信、判別し、外部に INT_SETUP 割り込みをアサートする。
  - UDC 内部でデータステージへ移行。
* ホストからの OUT トークンを受信
  - CPU は INT_SETUP 割り込みに反応してリクエストレジスタからリクエストを引き取る。
  - CPU は、リクエストを判別し、INT_SETUP 割り込みを認識したことを UDC に知らせるため、SetupReceived レジスタをアクセスする。
  - データフェーズのデータを正常に受信し、DATASET レジスタの EP0 ビットをセット。
  - CPU は、DATASET レジスタがセットされたことにより、FIFO 内のデータを引き取る。
  - CPU は、デバイスリクエストに伴い、受信したデータの処理を行う。
  - CPU は、処理が終了したとき、EOP レジスタの EP0 ビットに“0”をライトする。
  - UDC 内部でステータスステージへ移行。
* ホストからの IN トークンを受信
  - IN トークンに対し 0 データのデータパケットを返信し、UDC 内部で IDLE 状態に移行。
  - 0 データパケットに対する ACK を受信したとき、INT_STAS 割り込みを外部にアサートする。

これらの状態遷移を 図 3.17.7に示します。

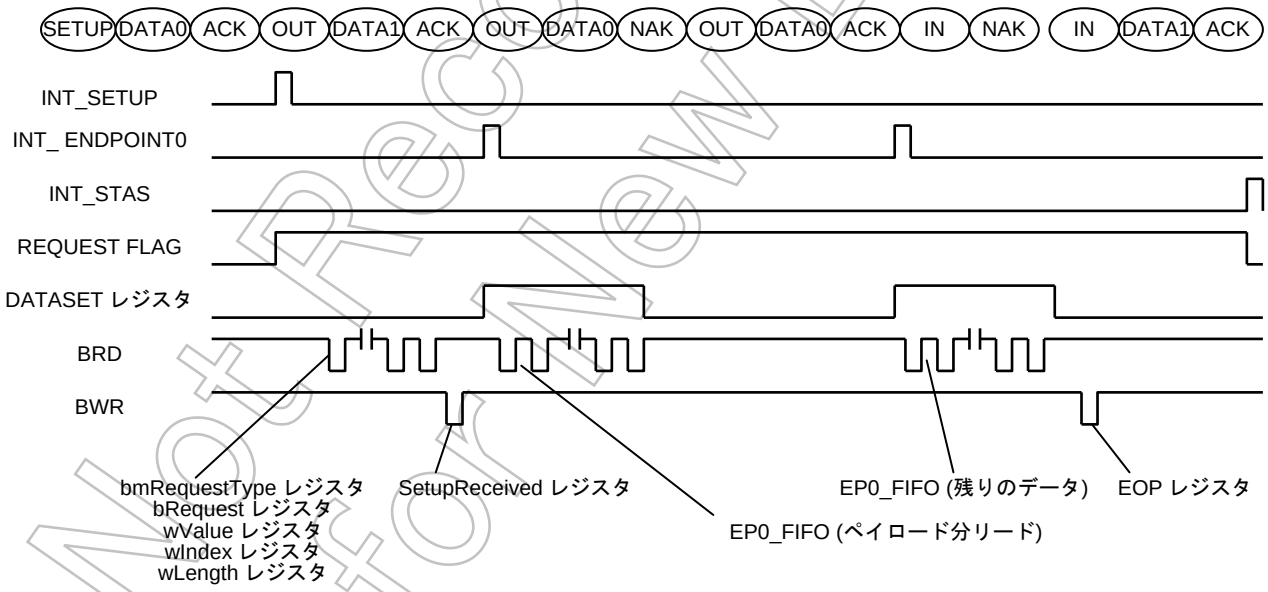


図 3.17.7 UDC 内部の制御フロー図 (コントロールライト転送)

コントロールリード転送において、データステージのトランザクション数は、デバイスリクエストで指定したデータ数と必ずしも一致しません。従って、CPU は、INT_STASN 割り込みを使用して処理を進めることが可能です。ただし、クラス、ベンダーリクエストを使用する際、wLength の値と、データフェーズでのデータ転送数を必ず一致させるようにすれば、この割り込みを使用する必要はありません。データステージのデータがわからない場合は、DATASIZE レジスタをアクセスし、現在受信したデータ数を確認することができます。

Not Recommended for New Design

コントロールライト (データステージなし) 転送時のステージ遷移条件

* ホストからの SETUP トークンを受信

- UDC 内でセットアップステージがスタートする。
- リクエストのデータを正常に受信、判別し、外部に INT_SETUP 割り込みをアサートする。
- UDC 内部でデータステージへ移行。

* ホストからの IN トークンを受信

- CPU は、INT_SETUP 割り込みに反応してリクエストレジスタからリクエストを引き取る。
- リクエストを判別し、INT_SETUP 割り込みを認識したことを UDC に知らせるため、SetupReceived レジスタをアクセスする。
- CPU は、デバイスリクエストに伴い、受信したデータの処理を行う。
- CPU は、処理が終了したとき、EOP レジスタの EP0 ビットに“0”をライトする。
- UDC 内部でステータスステージへ移行。
- IN トークンに対し 0 データのデータパケットを返信し、UDC 内部で IDLE 状態に移行。
- 0 データパケットに対する ACK を受信したとき、INT_STAS 割り込みを外部にアサートする。

これらの状態遷移を 図 3.17.8に示します。

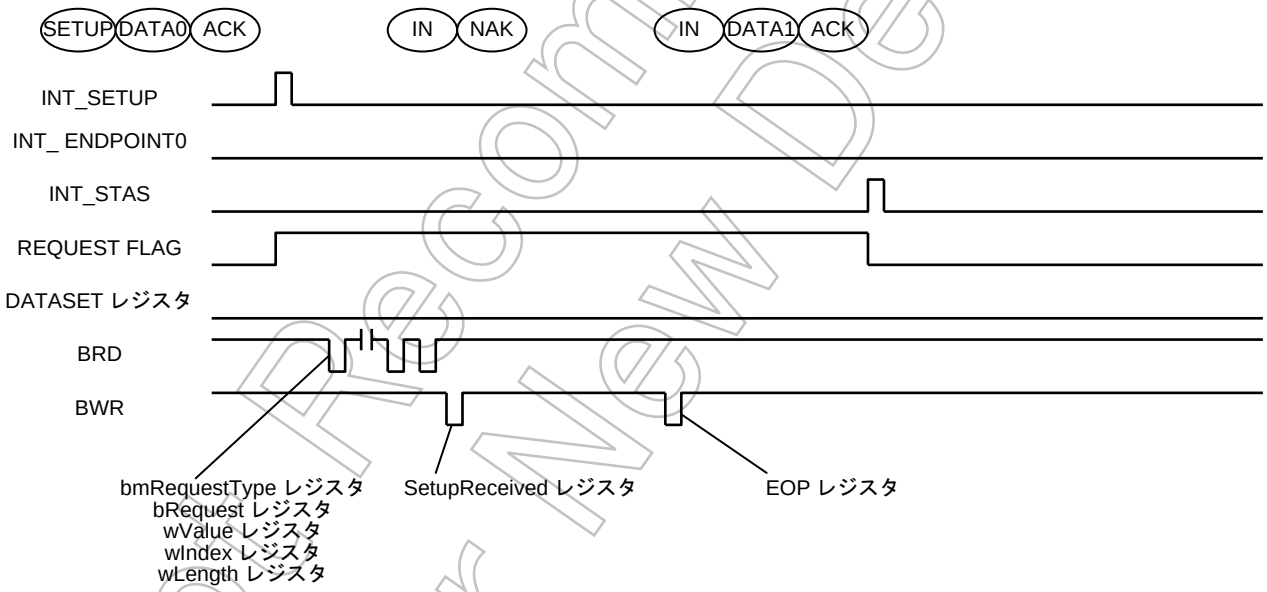


図 3.17.8 UDC 内部の制御フロー図 (コントロールライト転送データフェーズなし)

No Recommended for New Design

(d) アイソクロナス転送

アイソクロナス転送は、フレームごとに限定されたデータ数において転送を保証します。

ただし、他の 3 つの転送と異なりエラー発生時に再転送を行いません。従って、アイソクロナス転送は、トークン、データの 2 フェーズのみで転送を行い、ハンドシェイクフェーズは使用しません。また、このトランザクションはトグルシーケンスをサポートしていないため、データフェーズにおけるデータ PID は常に DATA0 となります。従って、UDC は、受信モード時にデータ PID の確認を行いません。

アイソクロナス転送ではフレームごとにデータを処理するため、転送終了時の処理をすべて SOF トークンの受信によって行います。UDC は、アイソクロナス転送時に内部の FIFO をデュアルパケットモード時と同様に 2 分割して使用します。

(d-1) アイソクロナス送信モード

送信時のアイソクロナス転送は、以下のようなトランザクションフォーマットに従います。

- トークン　：　IN
- データ　：　DATA0

制御フロー

アイソクロナス転送は、フレーム管理となっており、エンドポイントの FIFO へライトしたデータは、次のフレームでの IN トークンによって送信されます。

アイソクロナス送信転送時の FIFO には以下の二つの状態があります。

X. 現在のフレームでホストに送信するデータを格納している FIFO
(DATASET レジスタビット = “1”の状態)

Y. 次のフレームでホストに送信するためのデータを格納する FIFO
(DATASET レジスタビット = “0”の状態)

2 分割された 2 つの FIFO (パケット A，B) は、2 つの状態 (X，Y) のどちらかの状態となります。以下のフローは現在のフレームでパケット A が X 状態、パケット B が Y 状態として説明します。

SOF の受信により状態 X と Y は交互に切り替わります。

IN トークンを受信したときの UDC 内部の制御フローを以下に示します。

1. トークンパケットを受け取り、アドレスエンドポイント番号を確認し、該当エンドポイントの転送モードが IN トークンと適合するかを調べます。適合しなければ IDLE に戻ります。
2. ステータスレジスタの状態を確認します。
   - INVALID 状態　：　IDLE に戻ります。
3. データパケットの生成に移行します。

   データパケットを生成します。この際データ PID は必ず DATA0 を付加します。次に UDC 内部のパケット A の FIFO (X 状態) から SIE へデータを転送し、DATA パケットを生成します。
4. FIFO のデータを最後まで転送すると計算していた CRC ビットを最後に付加します。

Not Recommended for New Design

5. ホストからの SOF トークンを受信すると以下の処理を行います。
   - パケット A の FIFO を X 状態から Y 状態に変更し、データをクリアします。
   - パケット B を Y 状態から X 状態に変更します。
   - フレーム番号を FRAME レジスタにセットします。
   - SOF をアサートして外部にフレームがインクリメントされたことを知らせます。
   - DATASET レジスタは、パケット A のビットをクリアし、現在のフレームで転送する予定のパケット B のビットをセットします。
   - STATUS を READY にセットします。

   UDC は、これで正常終了します。

   パケット A の FIFO は次のデータを受け入れることが可能です。

   この更新されたフレームでは、パケット A の FIFO とパケット B の FIFO の役割が入れ替わり、同一フローで転送が行われます。もしも、エラーなどで SOF トークンを受信できなかったときは、フレームの更新が行われないためこのデータは失われてしまいます。UDC は受信した PID 部分に問題がなく、CRC エラーを伴ったフレームデータを受信すると FRAME レジスタのステータスに LOST をセットし、正しいフレーム番号は不明になります。しかし、この場合 SOF はアサートされ、FIFO の状態は更新されます。なお、フレーム内でアイソクロナス送信転送を行うことなく SOF トークンを受信すると、USBC は X 状態になっていた FIFO をクリアするとともに、ステータスを FULL にセットします。

※EPx_DATASET_A,BはSOF受信後3クロック時間(12MHz)で変化します。FIFOへデータをWriteする場合はEPx_DATASET_A,Bが変化した後、FIFOへのアクセスを行ってください。

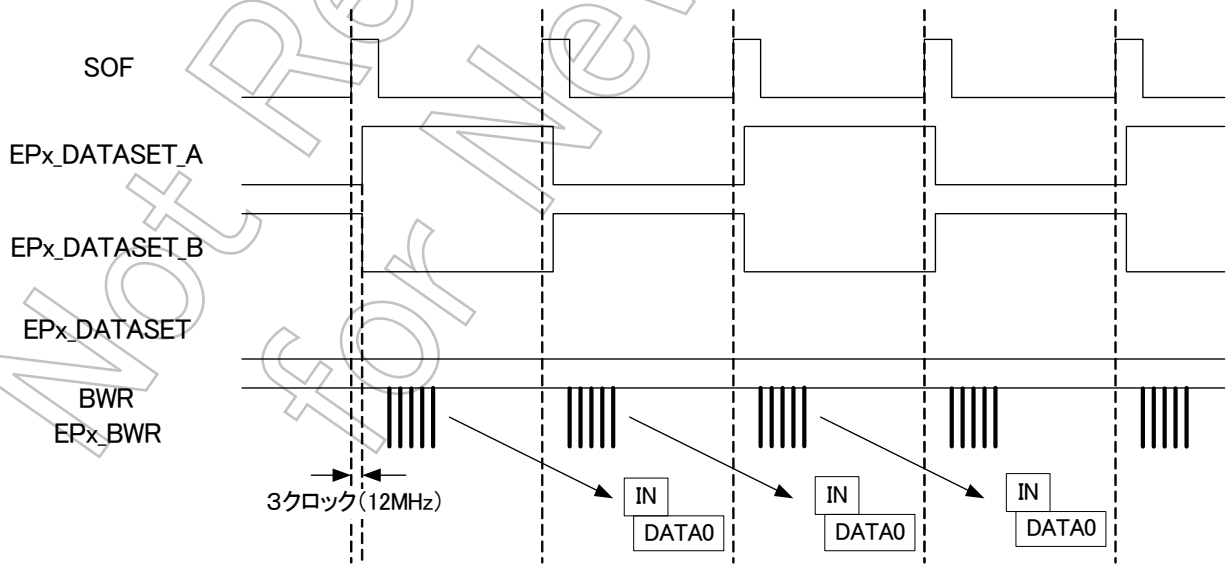
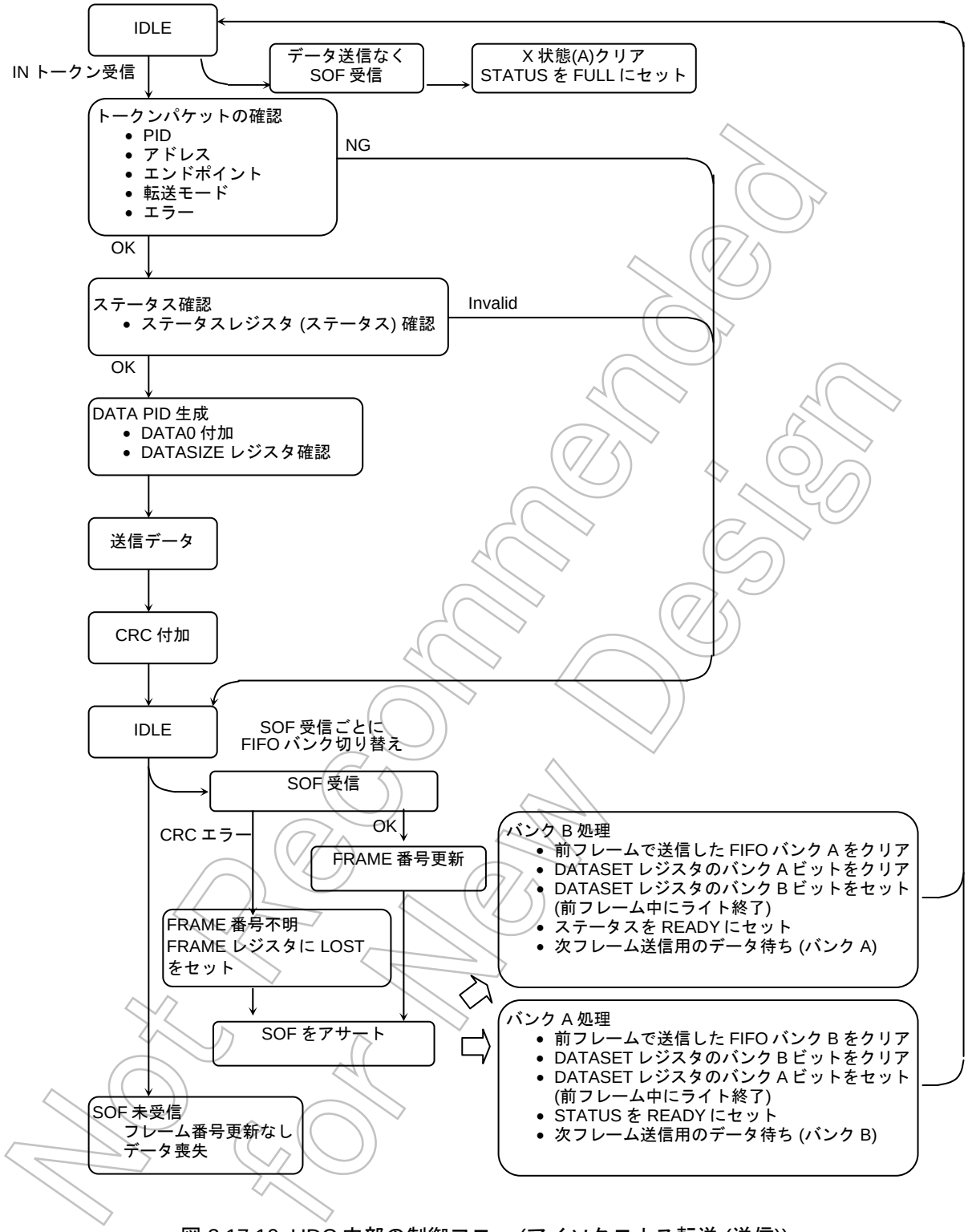


図 3.17.9 アイソクロナス転送 モード

Not Recommended for New Design



Not Recommended for New Design

図 3.17.10 UDC 内部の制御フロー (アイソクロナス転送 (送信))

(d-2) アイソクロナス受信モード

受信時のアイソクロナス転送は、以下のようなトランザクションフォーマットに従います。

- トークン　：　OUT
- データ　：　DATA0

制御フロー

アイソクロナス転送はフレーム管理となっており、OUT トークンで FIFO に書かれたデータは、次のフレームで CPU に引き取られます。

アイソクロナス受信転送時の FIFO にも、以下の 2 つの状態があります。

X. 現在のフレームにおいてホストから受信したデータを格納する FIFO (DATASET レジスタビット= “0”の状態)

Y. 前のフレームでホストから受信したデータを格納している FIFO (DATASET レジスタビット= “1”の状態)

2 分割された 2 つの FIFO (パケット A, B) は、2 つの状態 (X, Y) のどちらかの状態となります。以下のフローは、現在のフレームでパケット A が X 状態、パケット B が Y 状態として説明します。SOF の受信により状態 X と Y は交互に切り替わります。

OUT トークンを受信したときの UDC 内部の制御フローを以下に示します。

すべての処理はハードウェアで行われます。

1. トークンパケットを受け取りアドレス･エンドポイント番号を確認し、該当エンドポイントの転送モードが OUT トークンと適合するかを調べます。適合しなければ IDLE に戻ります。
2. ステータスレジスタの状態を確認します。
   - INVALID 状態　：　IDLE に戻ります。
3. データパケットの受信を行います。

   UDC 内部の SIE からパケット A の FIFO (X 状態) へデータを転送します。
4. データを最後まで FIFO に転送したのち、計算した CRC と転送された CRC を比較します。

   結果は転送終了時点でステータスに反映されますが、データは FIFO に格納し、パケット A に受信した転送データ数をパケット A の DATASIZE レジスタにセットします。
5. ホストからの SOF トークンを受信すると以下の処理を行います。
   - パケット A の FIFO を X 状態から Y 状態に変更します。
   - パケット B を Y 状態から X 状態に変更し、データをクリアして次の転送に備えます。
   - フレーム番号を FRAME レジスタにセットします。
   - SOF をアサートして外部にフレームがインクリメントされたことを知らせます。
   - DATASET レジスタは、パケット A のビットをセットし、現在のフレームで受信データを格納するパケット B のビットをクリアします。
   - CRC 比較結果が一致していた場合は、ステータスに DATAIN をセットします。もしも一致しなかった場合は、ステータスに RX_ERR をセットします。

UDC は、これで正常終了します。CPU はパケット A のデータを引き取ります。

Not Recommended for New Design

この更新されたフレームでは、パケット A の FIFO とパケット B の FIFO の役割が入れ替わり同一フローで転送が行われます。もしも、エラーなどで SOF トークンを受信できなかったときは、フレームの更新が行われないためこのデータは失われてしまいます。UDC は受信した PID 部分に問題がなく、CRC エラーを伴ったフレームデータを受信すると FRAME レジスタの STATUS に LOST をセットし、正しいフレーム番号は不明になります。しかし、この場合 SOF はアサートされ、FIFO の状態は更新されます。なお、フレーム内でアイソクロナス送信転送を行うことなく SOF トークンを受信すると、UDC は X 状態になっていた FIFO をクリアするとともに STATUS を READY にセットします。

これらを 図 3.17.12に示します。

※EPx_DATASETはSOF受信後２クロック時間(12MHz)で立ち上がります。FIFO内のデータをReadする場合はEPx_DATASETが立ち上がった後、FIFOへのアクセスを行ってください。

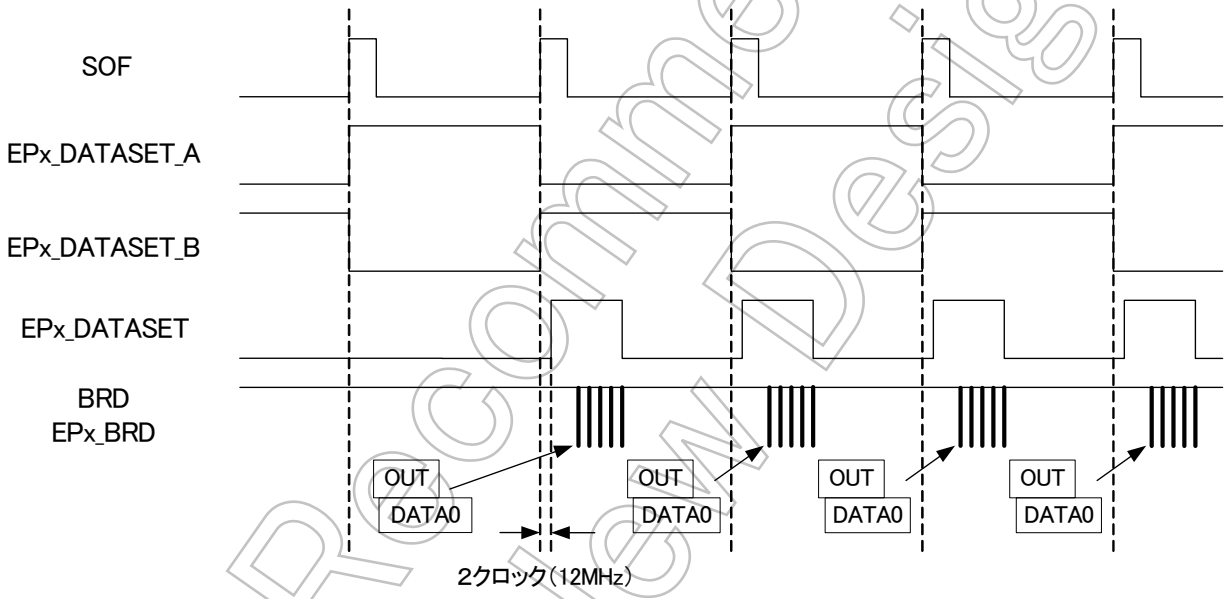


図 3.17.11 アイソクロナス受信モード

Not Recommended for New Design

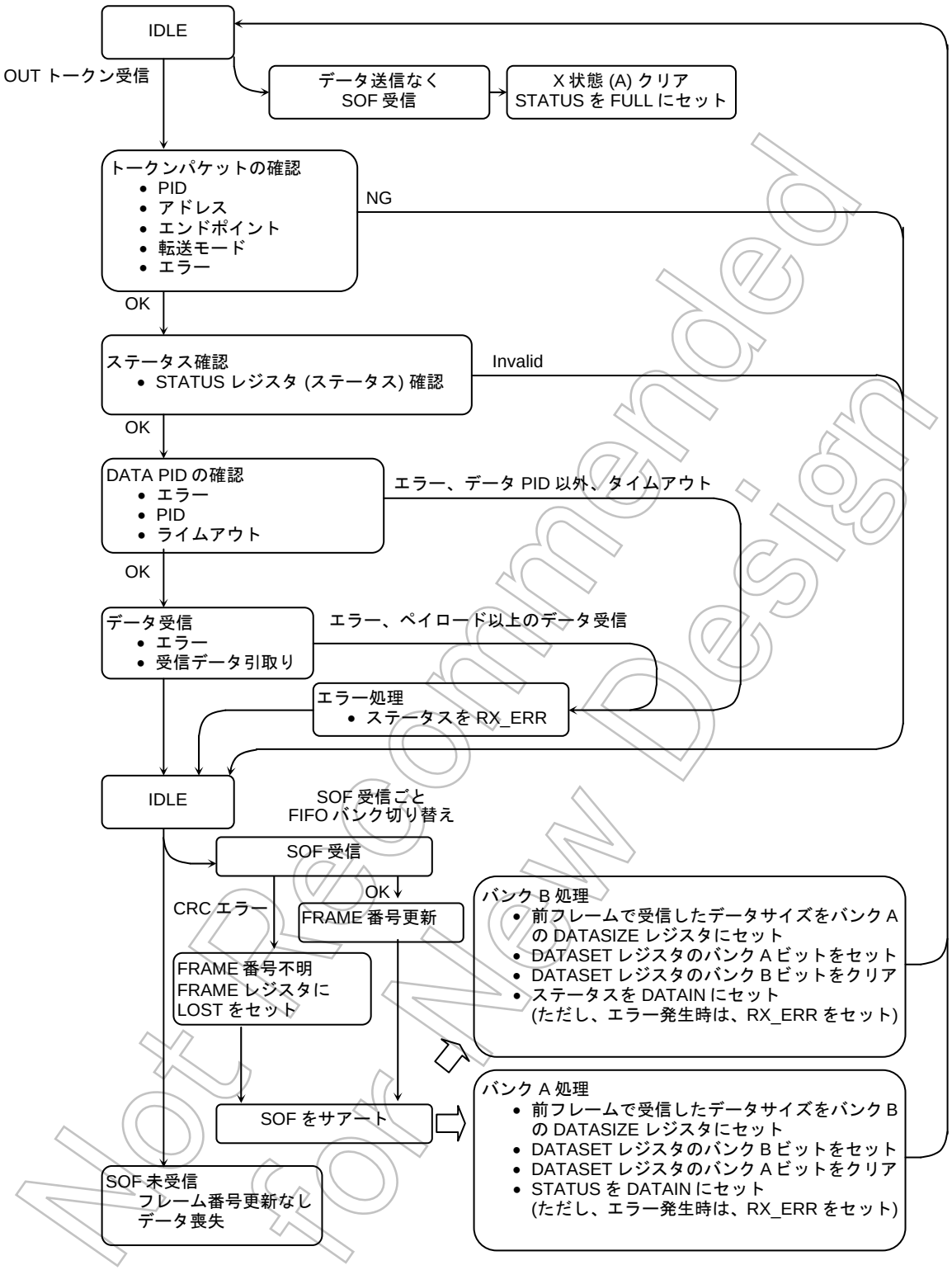


図 3.17.12 UDC 内部の制御フロー (アイソクロナス転送 (受信))

Not Recommended for New Design

3.17.7 バスインタフェースとFIFOへのアクセス

(1) CPU バスインタフェース

UDC ではシングルパケット、デュアルパケットの 2 種類の FIFO アクセスを用意しております。シングルパケットモードは、ハードウェアでインプリメントされた FIFO 容量を 1 つの大きな FIFO として使用するモードです。デュアルパケットモードは、FIFO 容量を 2 分割し 2 つの独立した FIFO として使用します。UDC が USB ホストと送受信中でも FIFO との転送が可能であることより、バスを効率的に使用できます。ただし、コントロール転送はシングルパケットモードのみ対応しております。

デュアルパケットモードで使用するエンドポイントの EPx_SINGLE 信号を“0”固定にする必要があります。この信号を“1”固定とした場合、FIFO レジスタはシングルモードで動作します。

例: エンドポイント 1 をペイロード 64 バイトのデュアルパケットで使用する場合

EP1_FIFO サイズ	:	128 バイトを用意
EP1_SINGLE 信号	:	“0”固定
EP1 ディスクリプタ設定		
方向	:	任意
MAX ペイロードサイズ	:	64 バイト
転送モード	:	任意

Not Recommended for New Design

(a) シングルパケットモード

CPU バス I/F 使用時における、シングルパケットモードのデータシーケンスについて示します。

図 3.17.13は受信シーケンスを、図 3.17.14は送信シーケンスを示します。ここではFIFOへのアクセスを中心に説明しています。USBホストとのデータシーケンスについては、5 章を参照してください。

なお、エンドポイント 0 については、シングルパケットモード専用になっておりますので、モードの変更はできません。

エンドポイント 1-3 のシングルパケット、デュアルパケットの切り替えは、

EPx_SINGLE レジスタを設定することにより変更できます。転送時の切り替えはしないでください。

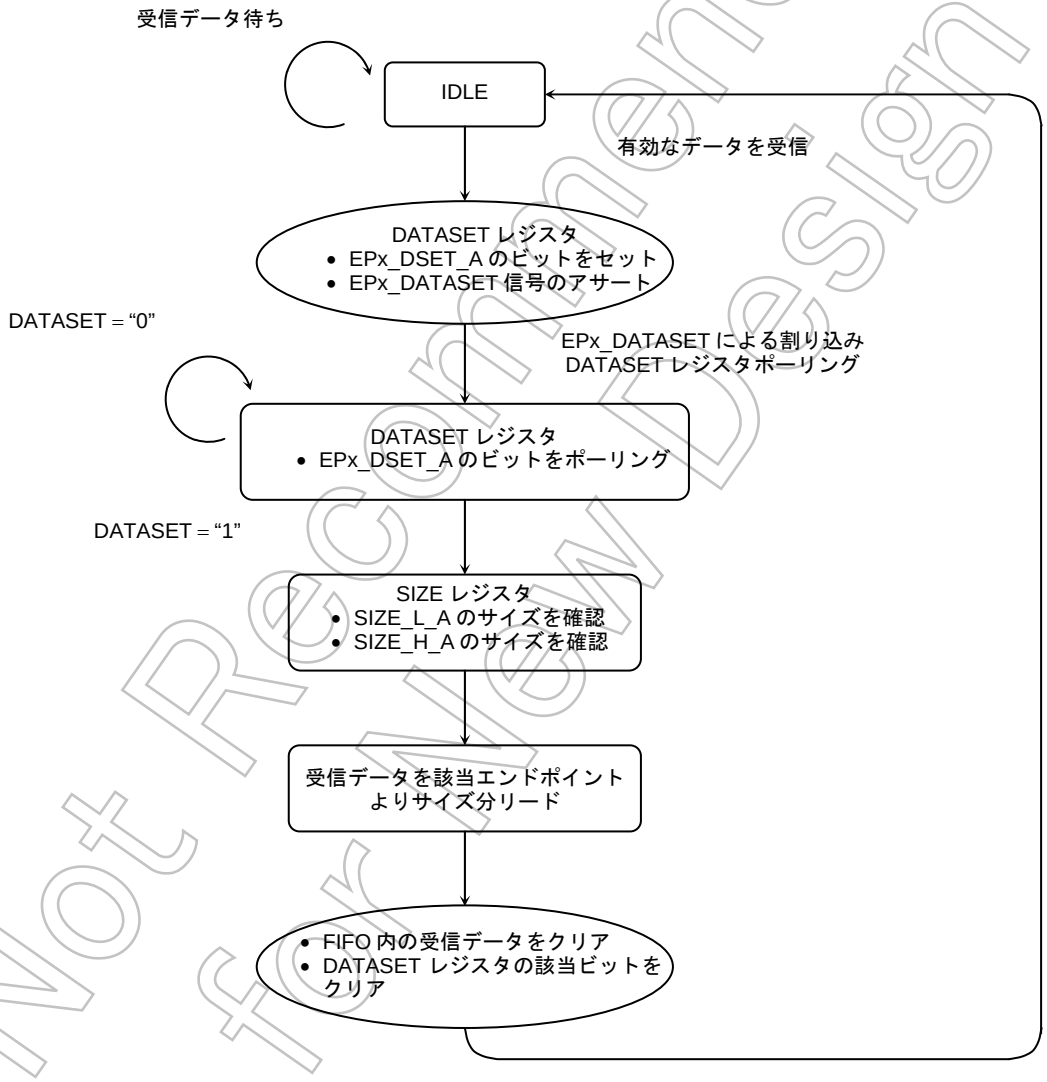
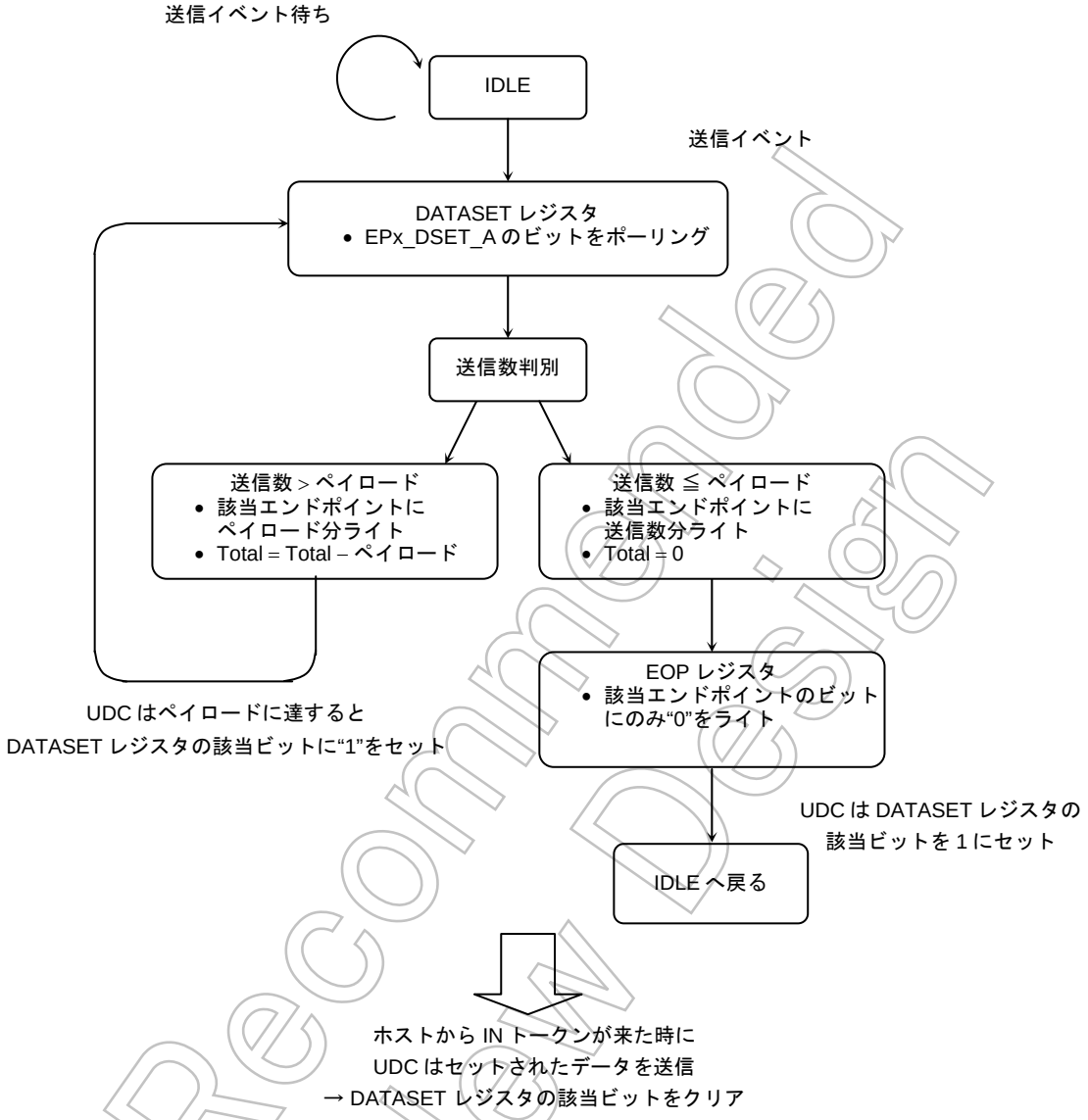


図 3.17.13 シングルパケットモード時の受信シーケンス

Not Recommended for New Design

以下にシングルパケットモード時の送信シーケンスを示します。



- ショートパケット送信時に EOP レジスタへのアクセスが必要です。
- エンドポイント 0 へアクセスする場合には、コントロール転送終了を示すためにも使用していますので、コントロール転送終了時には、ショートパケットでなくてもアクセスしてください。

図 3.17.14 シングルパケットモード時の送信シーケンス

Not Recommended for New Design

(b) デュアルパケットモード

デュアルパケットモードは、FIFO を 2 つの独立な A と B のパケットに分割し、ハードウェアにて順番にコントロールするモードです。USB ホストとのデータの送受信と、UDC 外部とのやり取りを同時に行うことが可能です。

受信用の FIFO からデータをリードするときには、2 つのパケットの状態を確認し、優先順位を考慮しながら行う必要があります。2 つのパケットに受信したデータを保持している場合においても、アクセスできる FIFO は、2 つのパケットで共通ですので、UDC は先に受信したデータから順次出力します。EPx_SIZE レジスタは A、B パケットごとに用意されていますので、CPU は、PKT_ACTIVE ビットを用いてどちらのパケットが先にアクセスされたのかを確認の上、先に受信したパケットのデータ数を把握する必要があります。PKT_ACTIVE ビットが“1”にセットされているほうが先に受信したパケットになります。A パケットと B パケットは必ず交互にデータをセットします。

以下にこのシーケンスを示します。

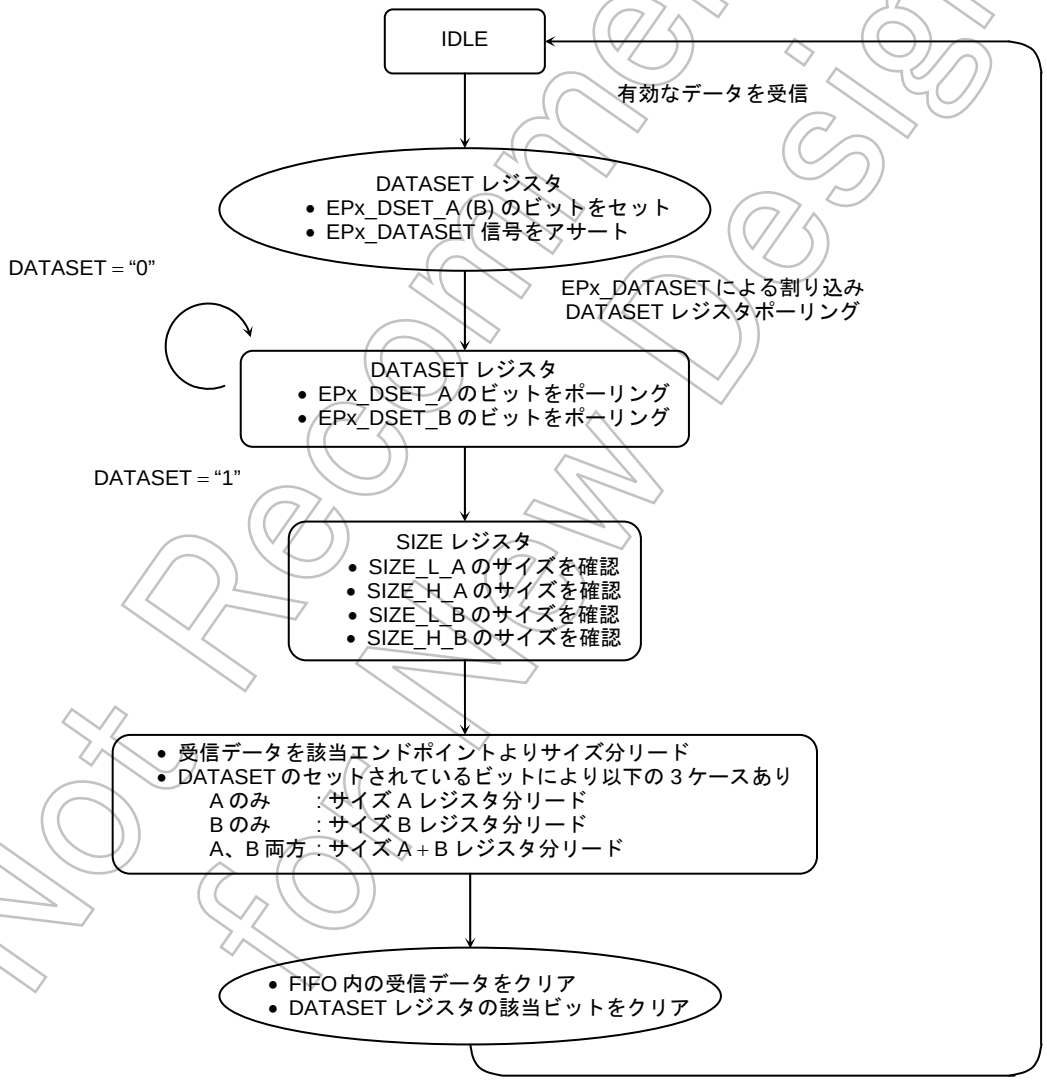
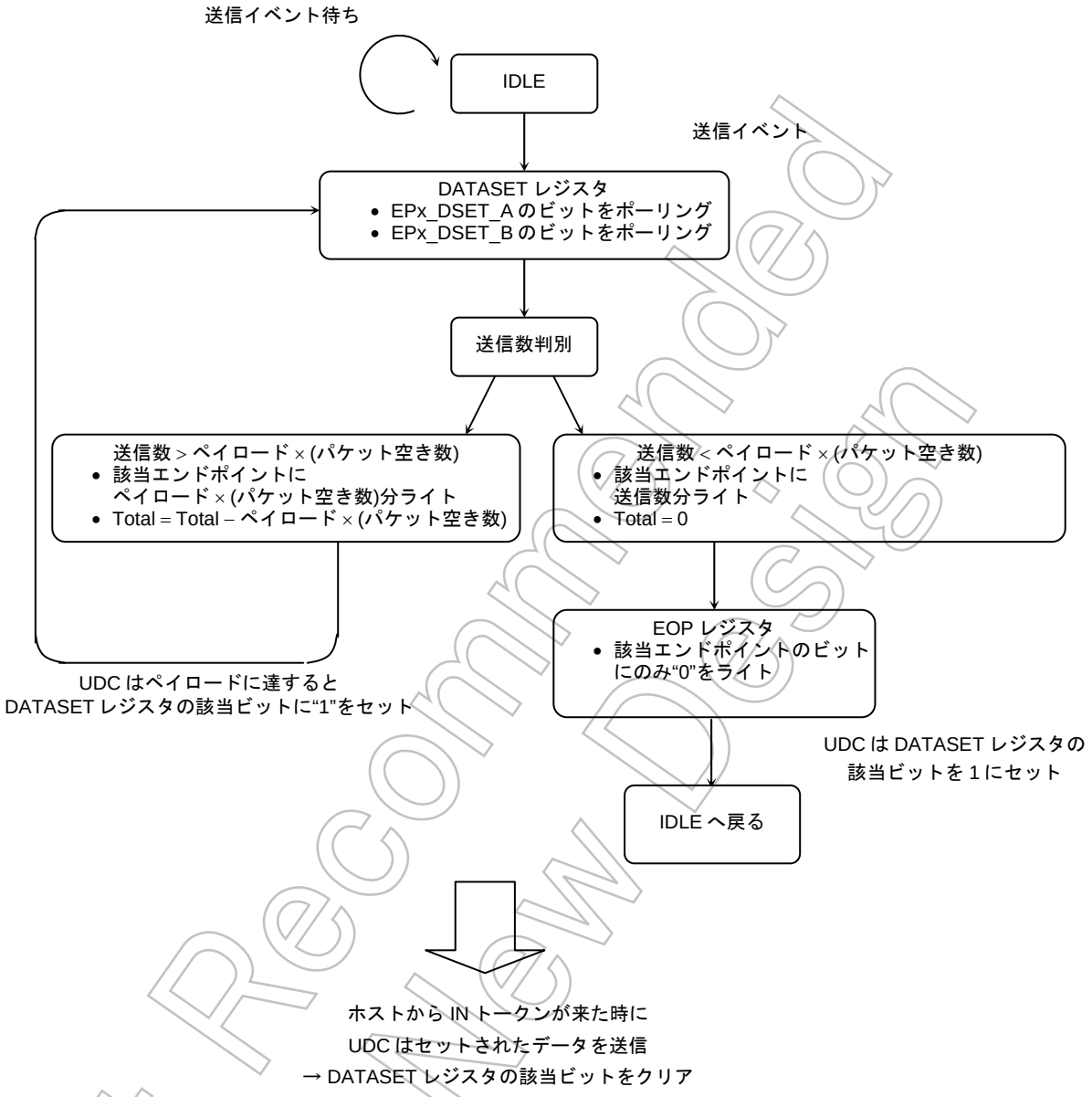


図 3.17.15 デュアルパケットモード時の受信シーケンス

Not Recommended for New Design

送信時にはパケット A，B を考慮することなく空いている FIFO にデータをセットすることができます。
以下にデュアルパケットモード時の送信シーケンスを示します。



- ショートパケット送信時に EOP レジスタへのアクセスが必要です。
- コントロール転送は、シングルモードのみとなります。

図 3.17.16 デュアルパケットモード時の送信シーケンス

Not Recommended for New Design

(c) パケットの発行

NULL パケットを送信する場合、EPx_EOPB 信号より L パルスを入力することにより、FIFO に 0 レングスのデータがセットされ、IN トークンに対し NULL パケットを送信することが可能です。

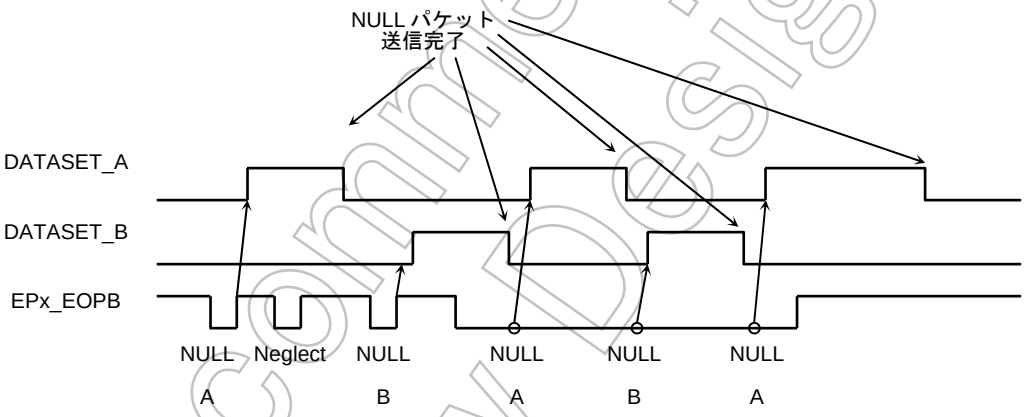
ただし、NULL データを FIFO にセットするには、DATASET 信号が L レベルの状態 (つまり FIFO にデータが入っていない場合) のみ有効となります。

ある期間内、受信した IN トークンに対してすべて NULL パケットにて応答する場合、EPx_EOPB 信号を L レベルに保持することにより、応答することが可能です。

しかしながら、デュアルパケットモードの場合、EPx_DATASET 信号はデータの空きを示すために L レベルアサートしますので、どちらのバンクにもデータがないという状態を、外部から知ることができません。

注) EOP レジスタアクセスによっても NULL パケットをセット可能です。

例)



(2) 割り込み制御

割り込み信号が用意されています。この機能はシステムを使用しています。

詳細は 3.17.2 900/H1 CPU I/Fを参照してください。

Not Recommended for New Design

3.17.8 USBデバイス応答

USB コントローラ（UDC）は、ハードウェアリセット検出時、USB バスリセット検出時、エナミュレーション応答時に UDC 内の初期化や各種レジスタの設定を行います。

以下にそれぞれの状態について説明します。

(1) バスリセット検出時の状態

UDC は USB 信号線上にバスリセットを検出すると内部のレジスタを初期化し、USB ホストからのエナミュレーション動作に備えます。UDC は USB リセット検出後にデフォルトパイプを使用可能とするため、ENDPOINT0 をコントロール転送、8 バイトペイロード、デフォルトアドレスに設定します。それ以外のエンドポイントを禁止状態に設定します。

レジスタ名		イニシャル値
ENDPOINT STATUS	EP0	00H
	EP0 以外	1CH

(2) STATUS レジスタ詳細

エンドポイントごとに用意されたステータスレジスタは UDC のエンドポイントごとの状態を示します。

それぞれの状態は各種 USB の転送に影響します。それぞれの転送時の状態変化は、5 章を参照してください。

EPx_STATUS レジスタの値は 0~3 で以下の状態を表します。0~4 までの表示は各種転送の結果を示します。UDC 外部から確認することで、そのエンドポイントに対する直前の転送結果を確認することが可能です。

0 READY
1 DATAIN
2 FULL
3 TX_ERR
4 RX_ERR

これらの状態はエンドポイントが正常に動作していることを示します。

各転送モードにより表示の意味が異なりますので、以下の各転送モード別の欄を参照してください。

Not Recommended for New Design

ISO 転送モード

1 つ前のフレームの転送状態を示します。SOF の受信で更新されます。

	OUT (RX)	IN (TX)
イニシャル時	READY	READY
転送なし	READY	FULL
正常終了	DATAIN	READY
エラーを検出	RXERR	TXERR

ISO 転送以外の転送モード

直前の転送の結果を示します。転送終了時に更新されます。

	OUT, SETUP	IN
イニシャル時	READY	READY
正常転送終了時	DATAIN	READY
ステータスステージ終了時	READY	READY
エラー転送時	RXERR	TXERR

なお、イニシャル時とは RESET、USB リセット、Current_Config レジスタの更新時を示します。エラー検出時にはインターラプトのトグル転送モードとアイソクロナス転送モードを除いて EPx_DATASET を発生しません。

ステータスレジスタの表示のうち 5~7 はエンドポイントが特別な状態にあることを示します。

5 BUSY　コントロール転送を行うエンドポイントでのみ発生します。UDC がコントロールライト転送を行っているときに CPU がエナミュレーション処理を完了しない状態で、USB ホストからのステータスステージの ID を受信したときにセットされます。CPU がエナミュレーション処理を終了し、UDC に対して EOP レジスタの EP0 ビットに “0”がライトされるまでは STATUS は BUSY となります。エナミュレーション処理が終了し EOP レジスタの EP0 ビットに “0”がライトされ、USB ホストからのステータスステージを正常終了すれば、READY を表示します。

6 STALL　エンドポイントが STALL 状態にあることを示します。この状態はプロトコル違反を行ったときか、バスエナミュレーションでエラーを起こした場合に発生します。正常転送が可能な状態にエンドポイントを戻すためには USB ホストによるデバイスリクエストが必要となります。このリクエストにより正常状態に戻ります。ただし、コントロールエンドポイントについては、SETUP トークンを受信すると正常状態に戻りセットアップステージに入ります。

7 INVALID　この状態はエンドポイントが使用できない状態であることを示します。UDC はディスクリプタで指定されていないエンドポイントを INVALID 状態に設定し、このエンドポイントに対するトークンはすべて無視します。この状態は初期化時には必ず発生します。UDC はハードウェアリセットを検出すると、すべてのエンドポイントを INVALID 状態に設定します。次に USB リセットを受信するとエンドポイント 0 のみが READY に更新されます。ディスクリプタ上で定義されたその他のエンドポイントは、SET_CONFIG リクエストを正常終了すると READY に更新されます。

Not Recommended for New Design

3.17.9 パワーマネージメント

USB コントローラ (UDC) は任意のレジューム状態 (電源投入状態) からサスペンド (保留) 状態への移行、およびサスペンド状態から電源投入状態への復帰、を行うことが可能です。

UDC に供給する CLK を操作することにより更なる低消費電力化も可能です。

(1) サスペンド状態への移行

USB ホストは IDLE ステートを連続させることにより、USB デバイスをサスペンド状態に設定することができます。UDC は、以下の手順でサスペンド状態に移行します。

- UDC は USB 信号線上において 3ms 以上(約 3.07ms)の連続した IDLE ステートを検出するとサスペンド状態に移行します。このとき、STATUS レジスタの SUSPEND ビットを “1”にセットします。
- UDC は USB 信号線上において 5ms 以上 (約 5.46ms)の連続した IDLE ステートを検出すると USBINTFR1<INT_SUS>と<INT_CLKSTOP>を“0”から“1”に更新します。その後、USBCR1<USBCLKE>ビットを“0”に設定して、USB クロックを停止してください。
- この状態では、UDC 内部のレジスタの値はすべて保持されていますが、外部からのアクセスはステータスレジスタと Current_Config レジスタ、USBINTFR1/2、USBINTMR1/2、USBCR1 のリード以外は行うことができません。

(2) ホストレジュームによるサスペンド状態からの復帰

USB ホストからのレジューム状態出力により USB 信号線上のバスのアクティビティが回復すると、UDC は SUSPEND 状態を解除し STATUS レジスタの SUSPEND ビットも“0”にリセットしてシステムを再開させます。このホストからのレジューム状態出力は少なくとも 20 ms 間は保持されているため、USB 信号線上に有効なプロトコルが発生するのはこの時間が経過した後となります。

(3) リモートウェイクアップによるサスペンド状態からの復帰

リモートウェイクアップはサスペンドしている USB デバイスから USB ホストにレジュームを促すためのシステムです。リモートウェイクアップはアプリケーションにより、サポートされない場合があります。またリモートウェイクアップはバスエナミュレーションによって USB ホストから使用を制限されます。

UDC のリモートウェイクアップ機能は許可されている場合に使用可能です。

バスエナミュレーションによるリモートウェイクアップの設定は、Current_Config レジスタの bit7 で確認できます。このビットが “1”のとき、リモートウェイクアップが使用可能です。このビットでリモートウェイクアップをディセーブルすることはしませんので、このビットがディセーブルを表す場合、リモートウェイクアップを行わないでください。

これらの条件を満たしているとき、サスペンド状態にある UDC の USBCR1<WAKEUP>に “1”→ “0” をライトすることにより、USB ホストに対しレジューム状態出力を行い、UDC からホストへレジュームを促します。UDC はサスペンド状態に移行した後、2 ms の間は WAKEUP 入力を無視します。従って、リモートウェイクアップは、USBINTFR1<INT_SUS>が “1”になってから有効となります。

Not Recommended for New Design

(4) CLK 入力信号の制御による低消費電力化

UDC はサスペンド状態に移行すると CLK を停止して低消費電力状態へ移行しますが、システムとしては供給される CLK を元から停止することにより、更なる低消費電力化が可能となります。UDC に供給している CLK は、USBINTFR1<INT_SUS>、<INT_CLKSTOP>と USBCR1<USBCLKE>を使用して USB へのクロック供給をコントロールすることができます。

そのためには、次のように動作する必要があります。UDC がサスペンド状態に移行すると USBINTFR1<INT_SUS>が “1”、USBINTFR1<INT_CLKSTOP>が “1”になり、確認後、USBCR1<USBCLKE>を “0” にセットすることにより、供給 CLK (USBCLK) を停止させます。ホストからのレジュームにより SUSPEND 状態が解除されると 3 ms 以内に正常な CLK を UDC に供給しなければなりません。

またリモートウェイクアップを使用するときは、使用前に必ず安定した CLK を UDC に供給する必要があります。CLK の発生源として逓倍回路を使用する場合も、上記の制御を必要とします。

Not Recommended for New Design

- USB リセットによるサスペンドからの復帰 (INT_CLKON 割り込みを使用)

  UDC がサスペンド状態の時に CLK を停止させていると、USB リセットを検出することができませんので、前述のように SUSPEND 状態で CLK を制御することができません。

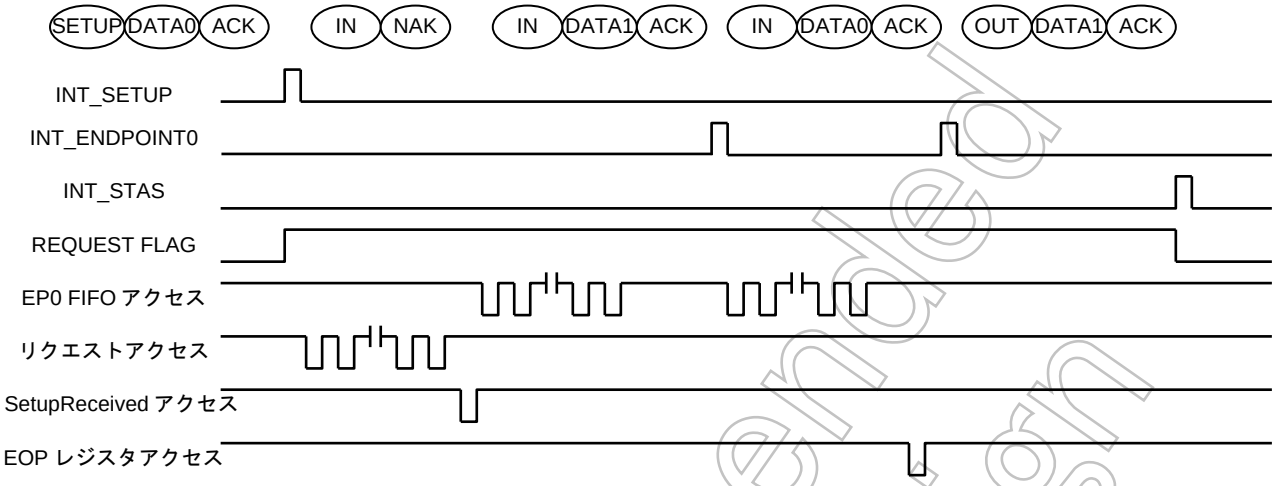
  UDC が SUSPEND 状態の時に CLK を停止している場合は、INT_CLKON 割り込みを検出後 USBCR1<USBCLKE>を“1”にセットしてクロックを入力することによって、USB リセットを検出し SUSPEND 状態から復帰することができます。

Not Recommended for New Design

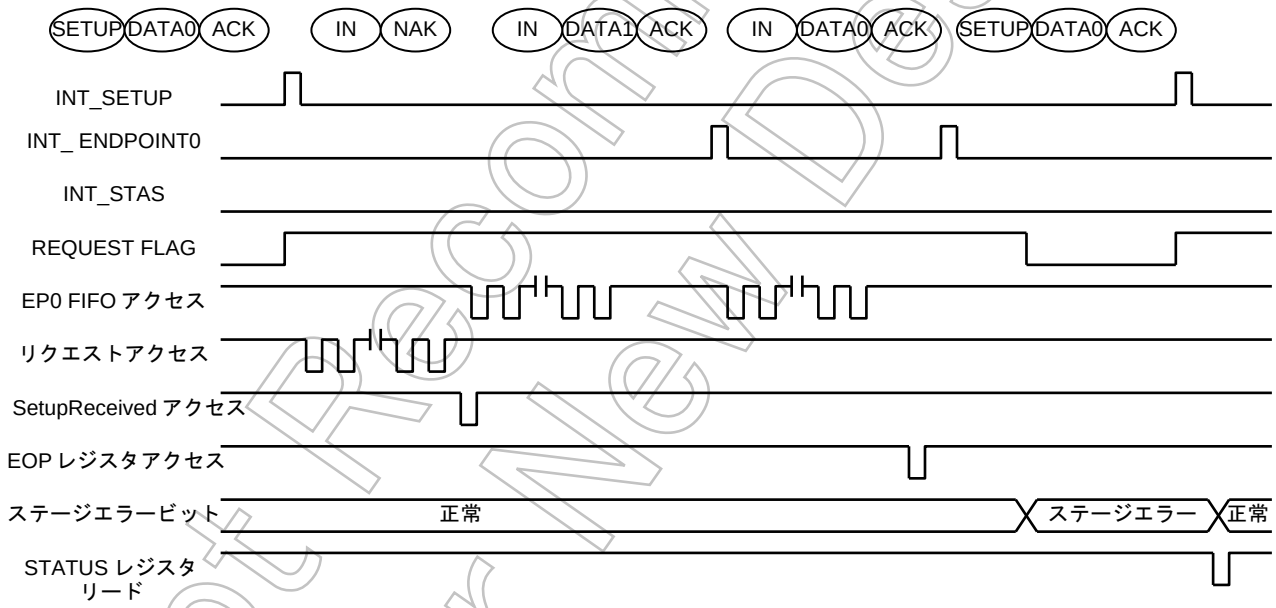
3.17.10 付録

(1) USB 通信における外部アクセスフロー

a) 正常動作



b) ステージエラー



Not Recommended for New Design

(2) レジスタ初期値

レジスタ名	OUTSIDE リセット 初期値	USB_RESET 初期値
bmRequestType	0x00	0x00
bRequest	0x00	0x00
wValue_L	0x00	0x00
wValue_H	0x00	0x00
wIndex_L	0x00	0x00
wIndex_H	0x00	0x00
wLength_L	0x00	0x00
wLength_H	0x00	0x00
Current_Config	0x00	0x00
StandardRequest	0x00	0x00
Request	0x00	0x00
DATASET	0x00	0x00
Port Status	0x18	保持
Standard Request Mode	0x00	保持
Request Mode	0x00	保持

レジスタ名	OUTSIDE リセット 初期値	USB_RESET 初期値
INT_Control	0x00	0x00
USBBUFF_TEST	0x00	保持
USB_STATE	0x01	0x01
EPx_MODE	0x00	0x00
EPx_STATUS	0x1C	0x1C
EPx_SIZE_L_A	0x88	0x88
EPx_SIZE _L_B	0x08	0x08
EPx_SIZE _H_A	0x00	0x00
EPx_SIZE_H_B	0x00	0x00
FRAME_L	0x00	0x00
FRAME_H	0x02	0x02
ADDRESS	0x00	0x00
EPx_SINGLE	0x00	保持
EPx_BCS	0x00	保持
ID_STATE	0x01	0x00

注 1) 上記初期値は、RESET 信号によって初期化される値です。各種状態によって、表示する値が異なる場合があります。
2 章のレジスタ構成を参照してください。

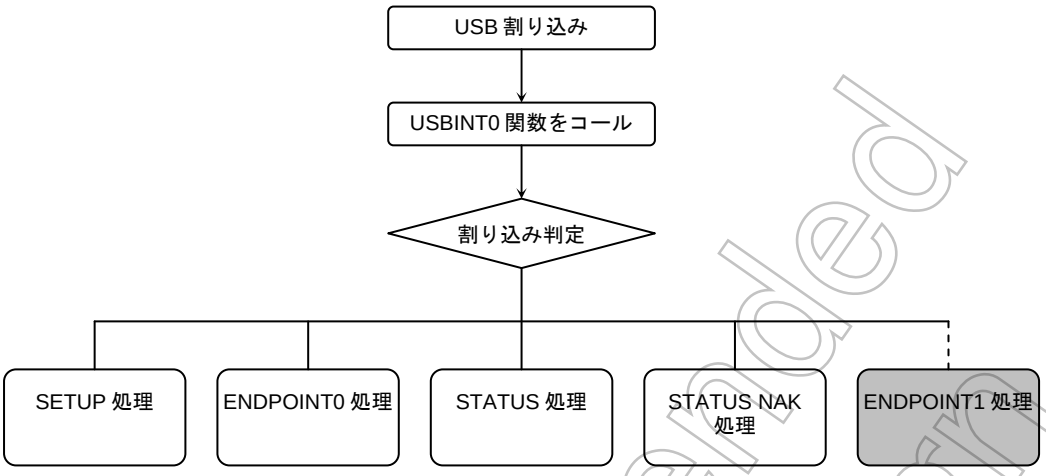
注 2) EP0_STATUS レジスタについては、USB_RESET 受信後、0x00 に初期化されます。

注 3) ID_STATE レジスタの初期値は、BRESET 信号によって初期化される値です。USB_RESET 信号をホストより受信すると 0x00 に初期化されます。

Not Recommended for New Design

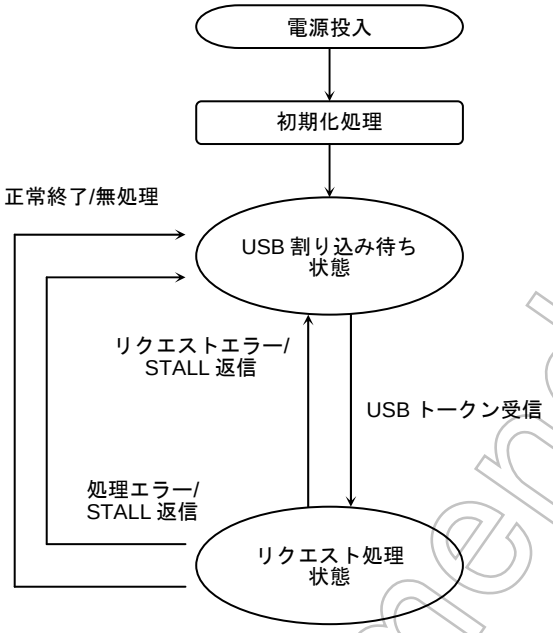
(3) USB コントロールフローチャート

(a) スタンダードリクエストに対する処理 (概略フローチャート (例))



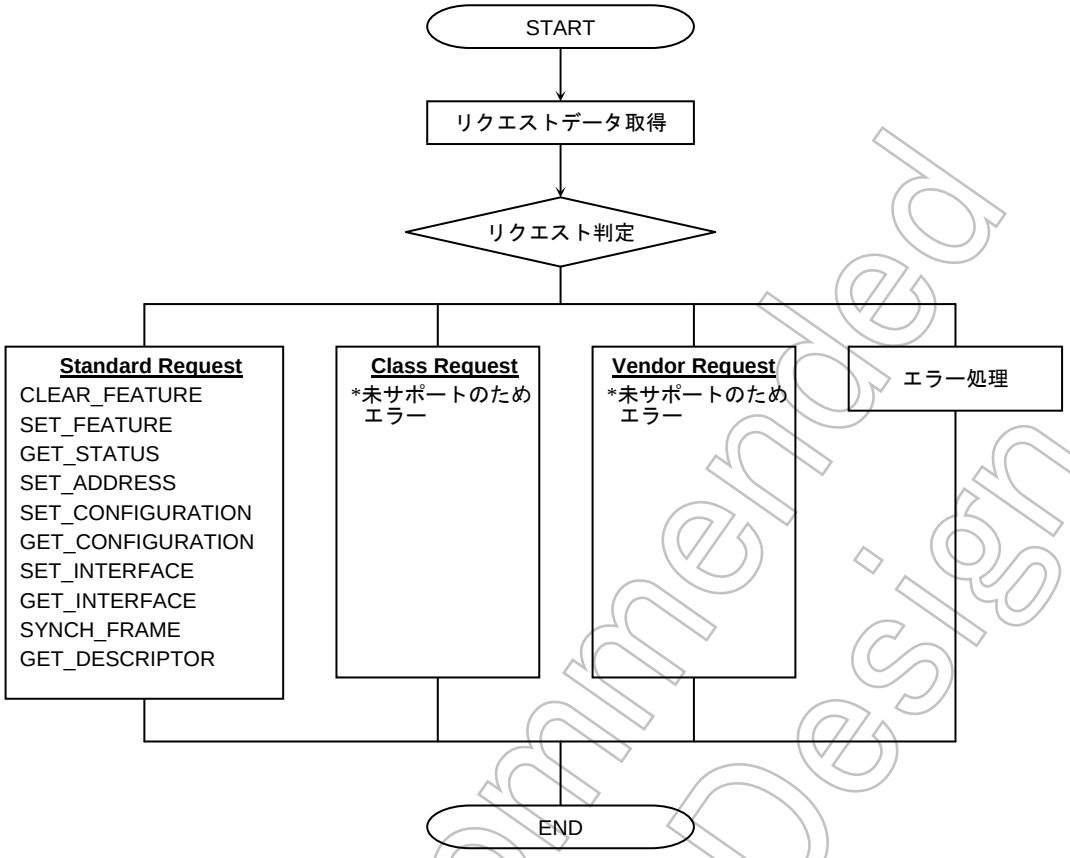
Not Recommended for New Design

(b) 状態遷移



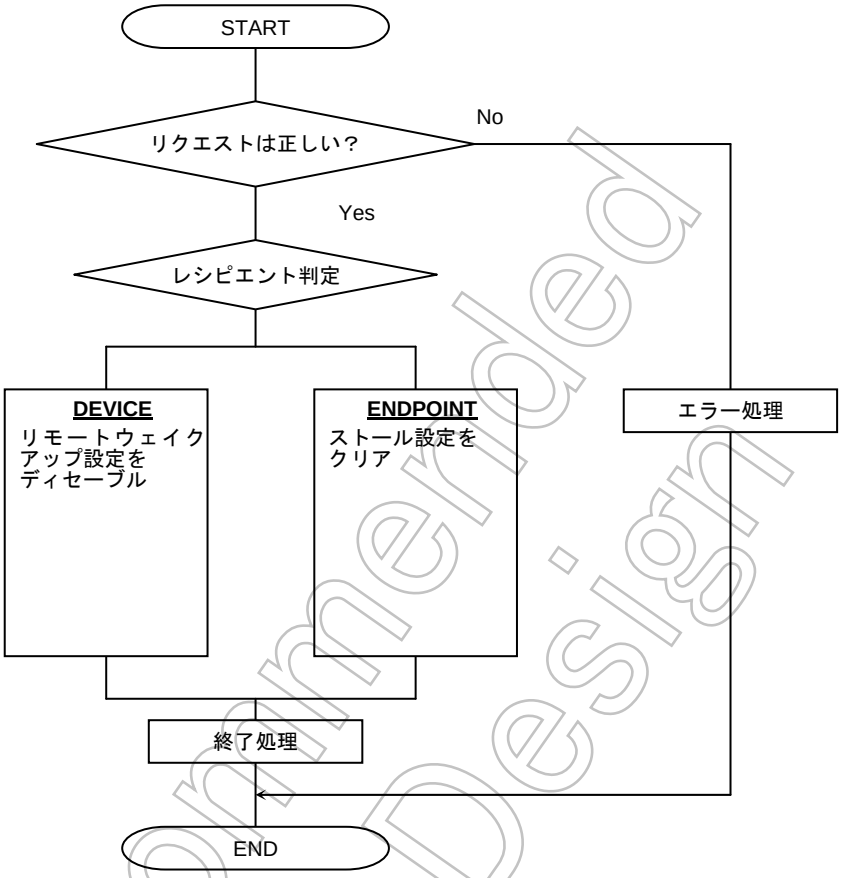
Not Recommended for New Design

(c) デバイスリクエストと各種リクエスト判定



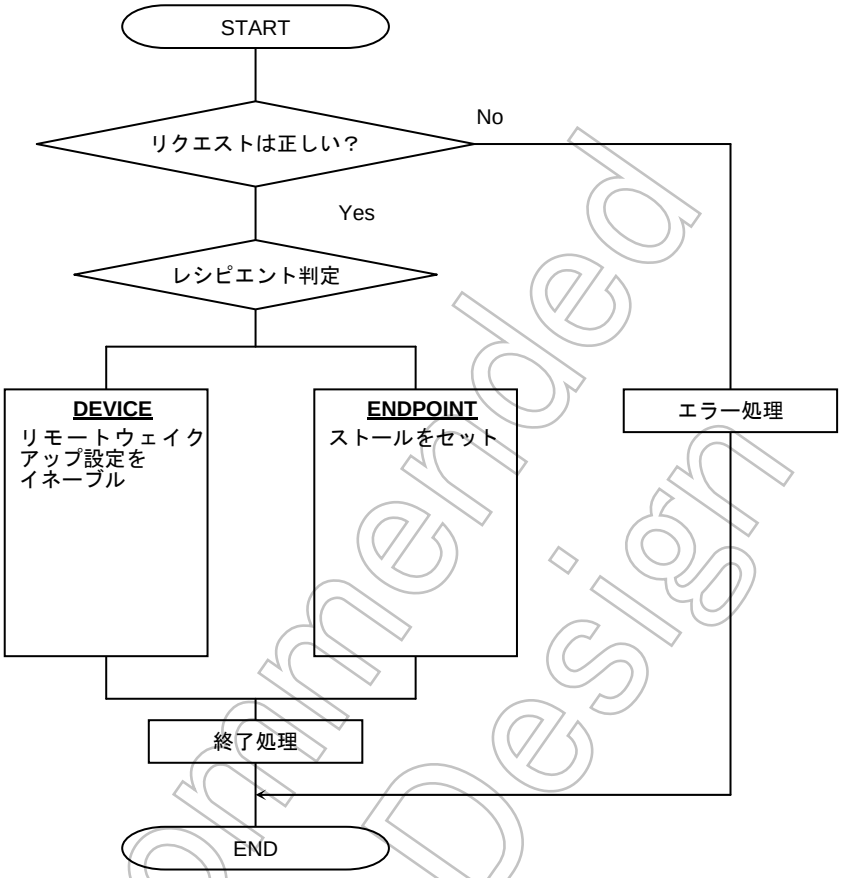
Not Recommended for New Design

(c-1)　CLEAR_FEATURE リクエスト処理



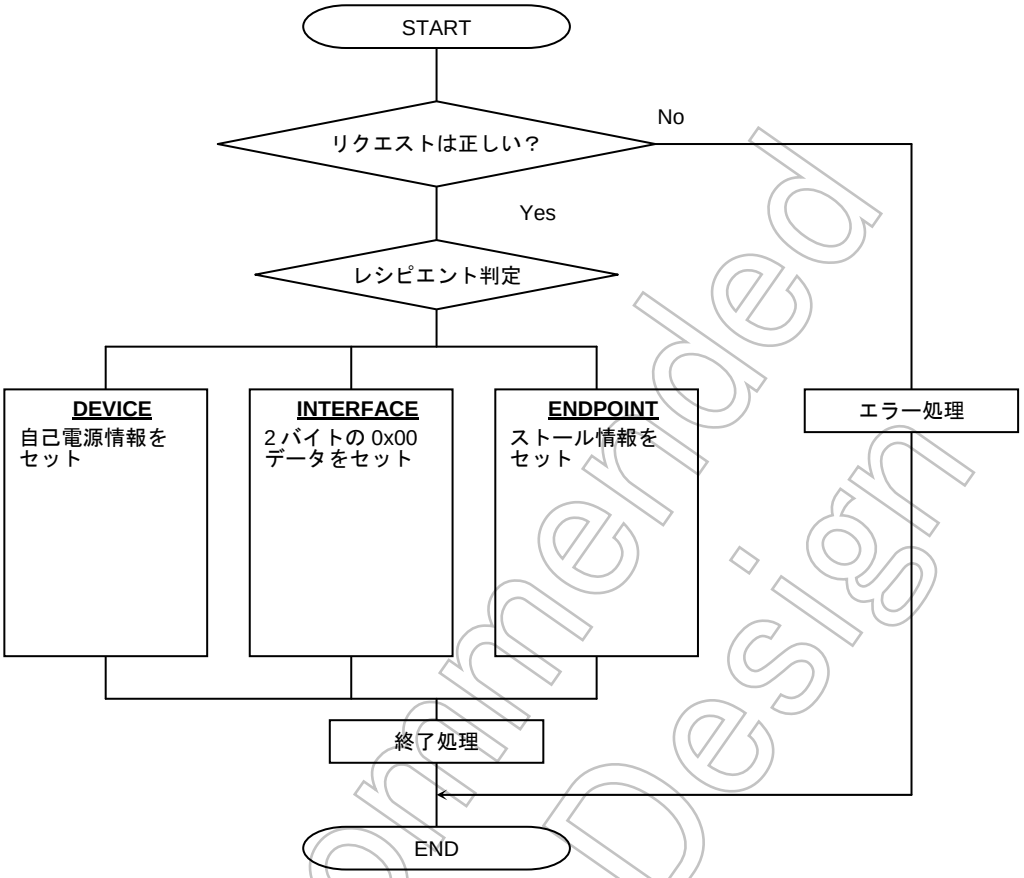
Not Recommended for New Design

(c-2)　SET_FEATURE リクエスト処理



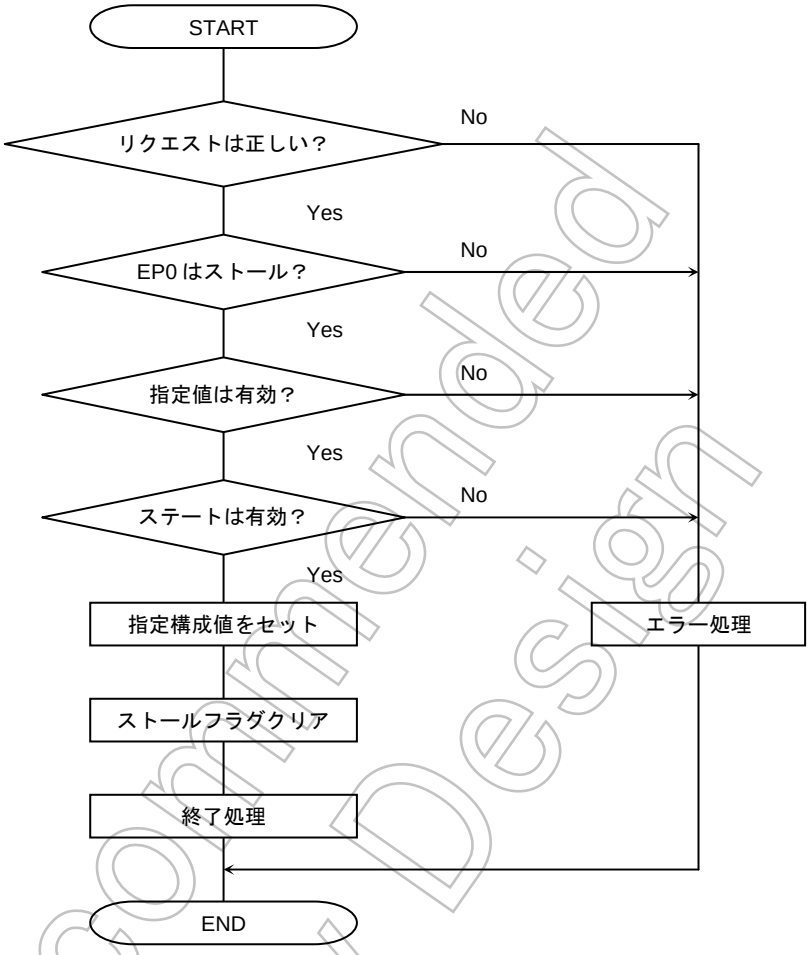
Not Recommended for New Design

(c-3) GET_STATUS リクエスト処理



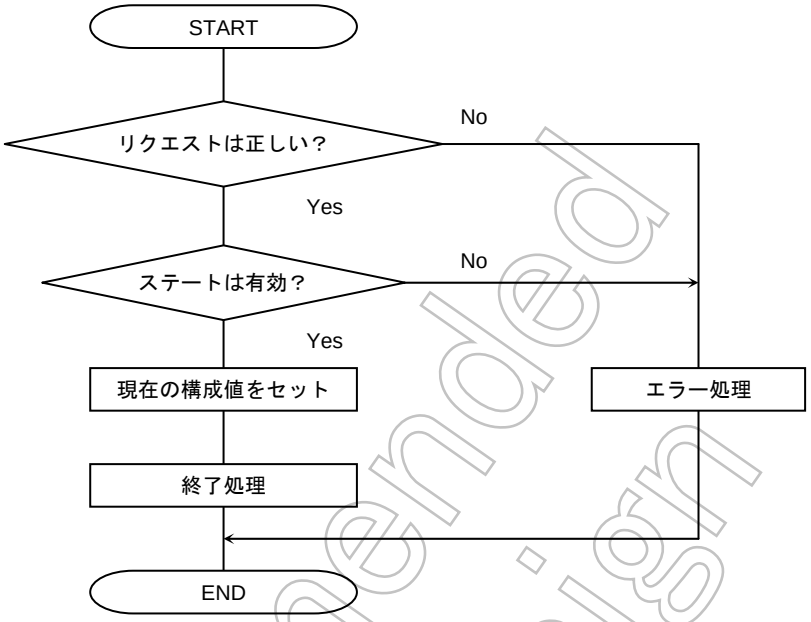
Not Recommended for New Design

(c-4) SET_CONFIGURATION リクエスト処理



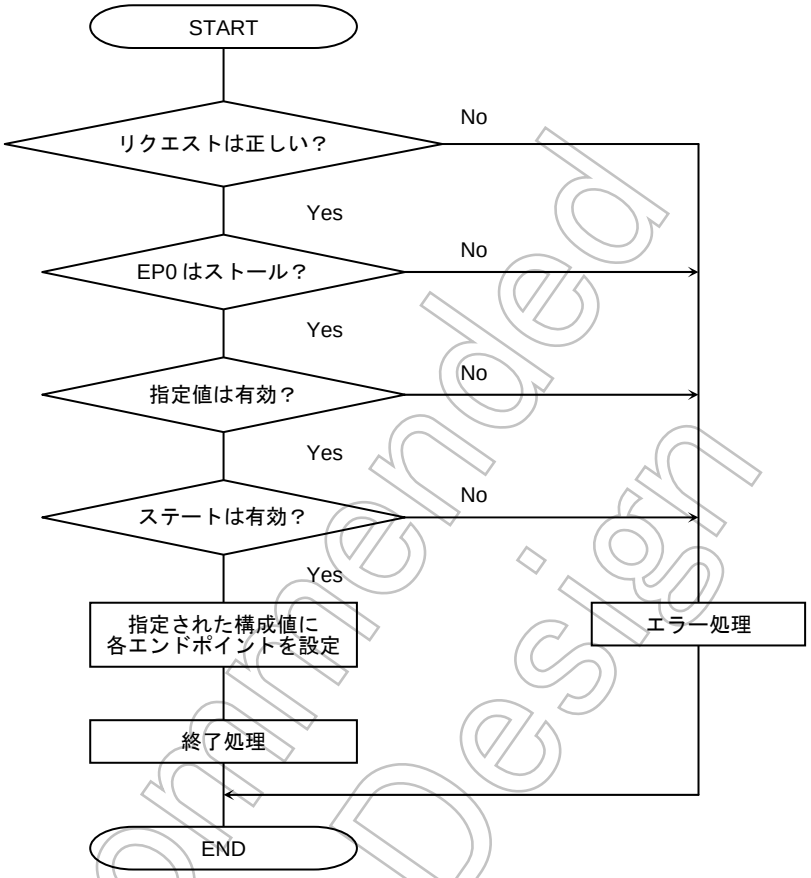
Not Recommended for New Design

(c-5) GET_CONFIGURATION リクエスト処理



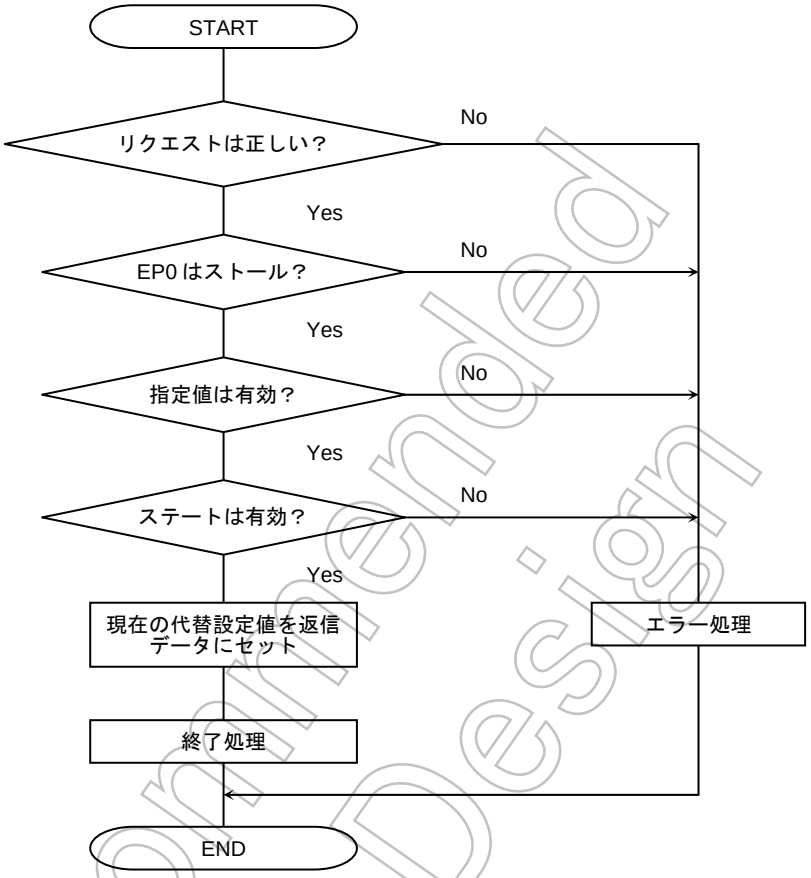
Not Recommended for New Design

(c-6) SET_INTERFACE リクエスト処理



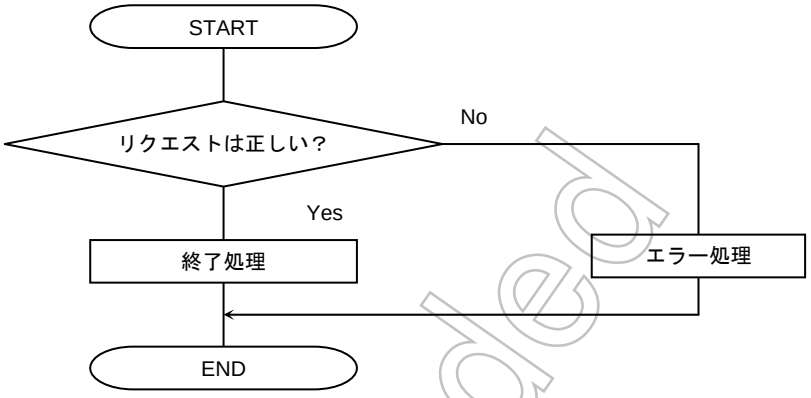
Not Recommended for New Design

(c-7) SYNCH_FRAME リクエスト処理

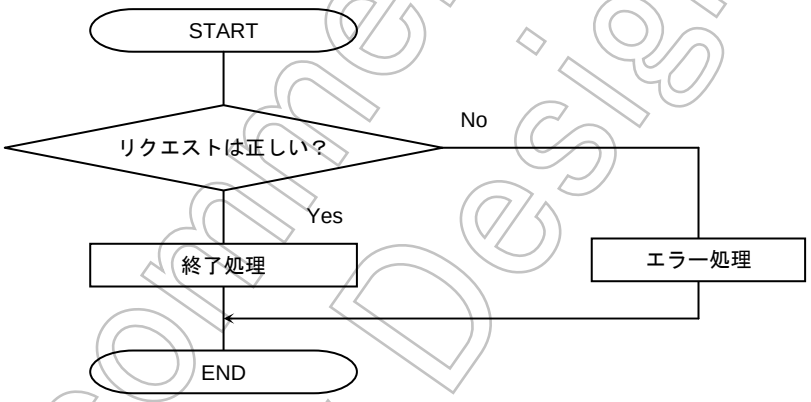


Not Recommended for New Design

(c-8) SYNCH_FRAME リクエスト処理

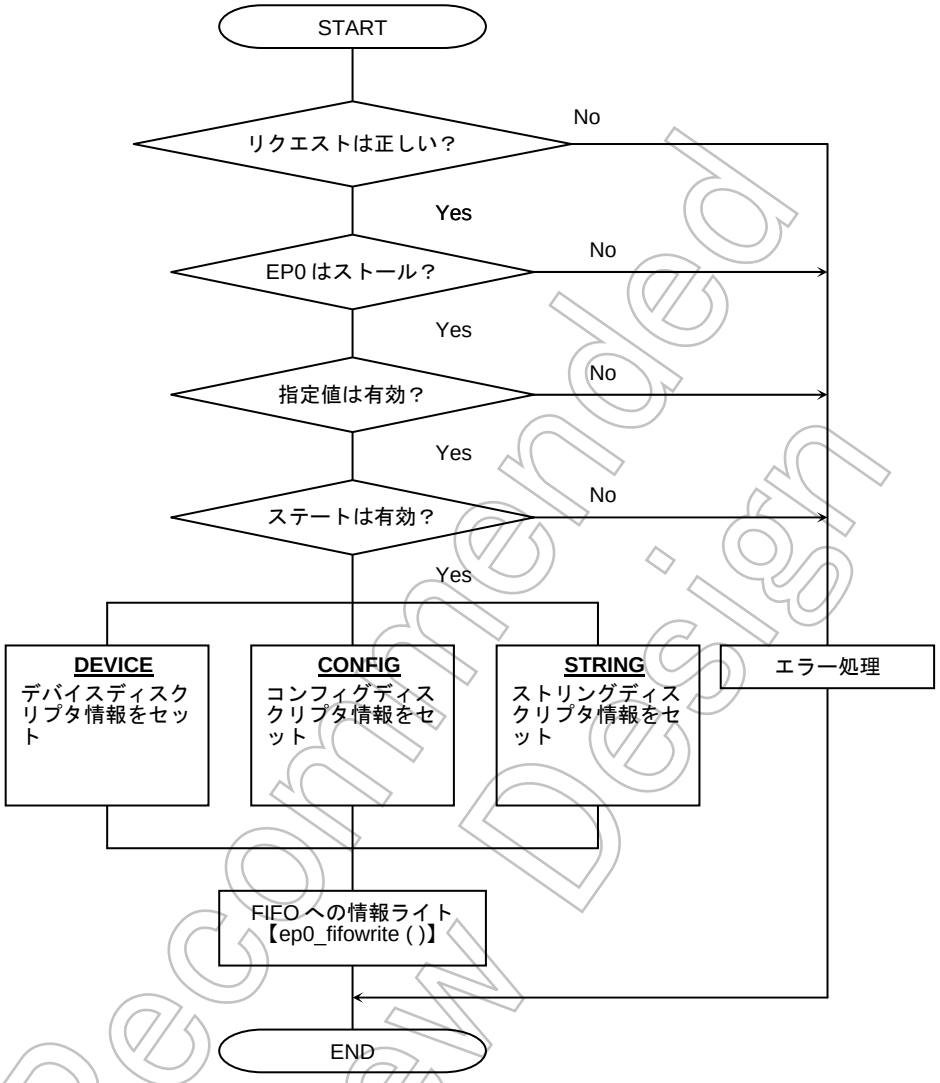


(c-9) SET_DESCRIPTOR リクエスト処理



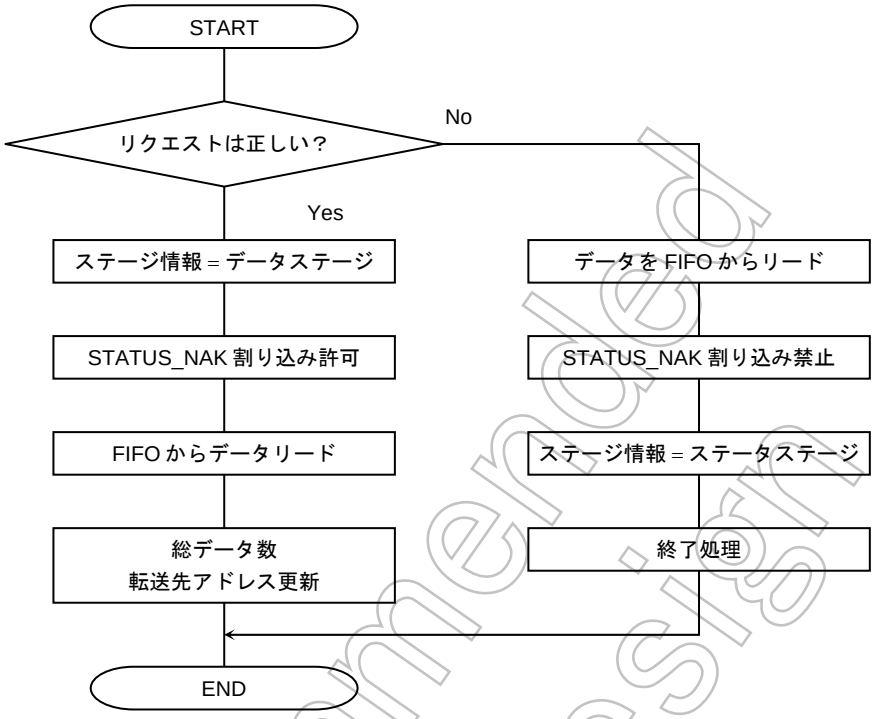
Not Recommended for New Design

(c-10) GET_DESCRIPTOR リクエスト処理



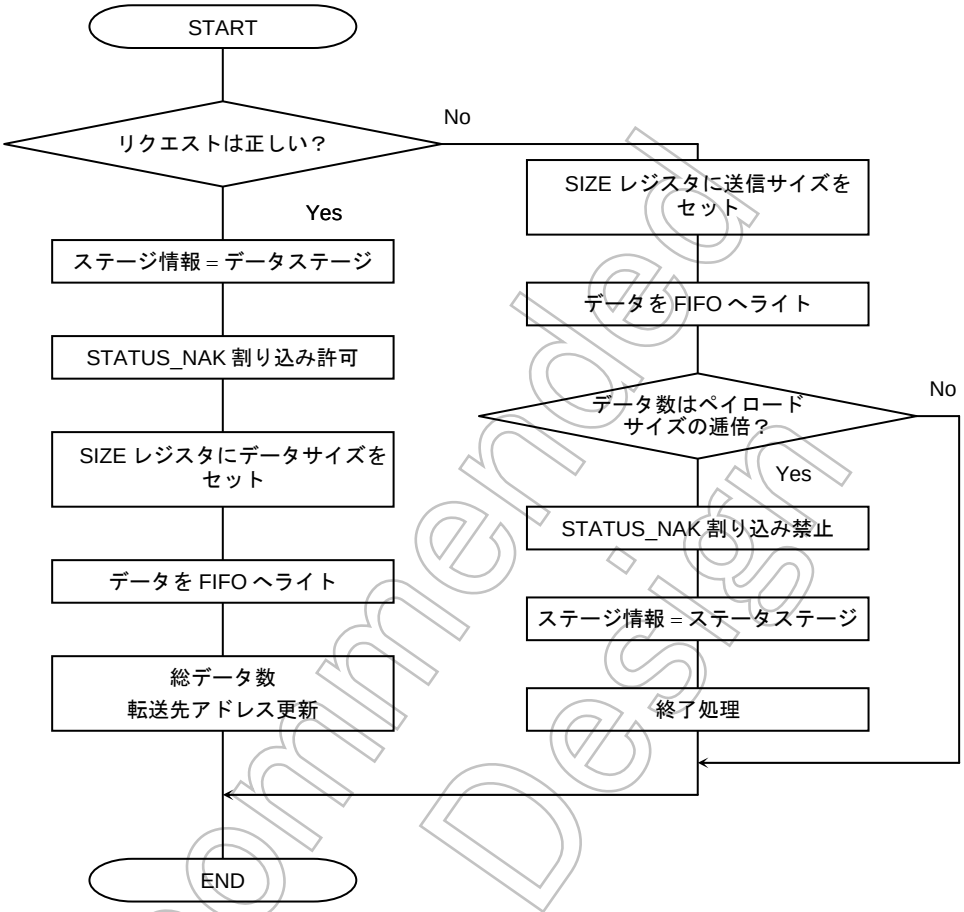
Not Recommended for New Design

(c-11) EP0 の FIFO からのデータリード処理



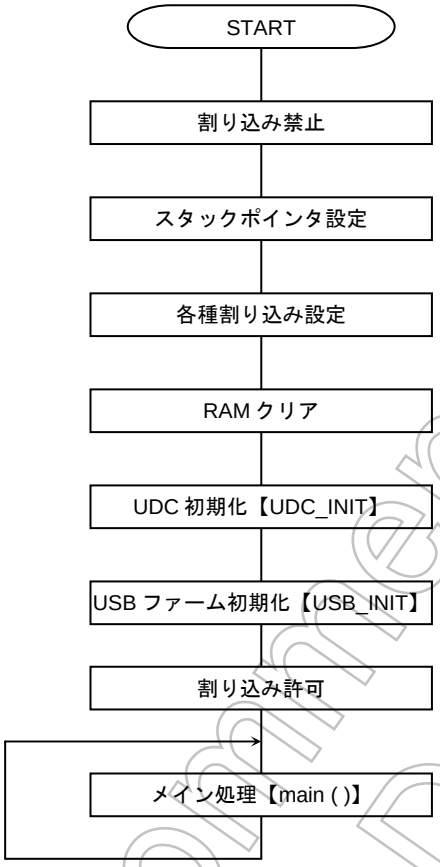
Not Recommended for New Design

(c-12) EP0 の FIFO へのデータライト処理

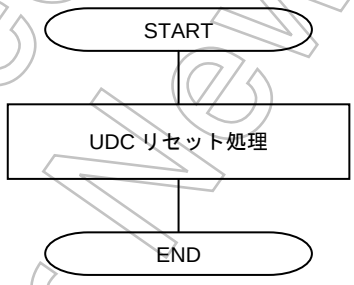


Not Recommended for New Design

(c-13) マイコン初期設定処理



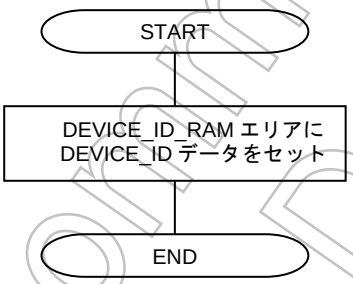
(c-14) UDC 初期設定処理



Not Recommended for New Design

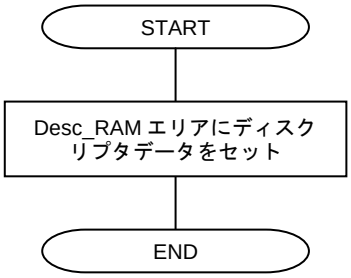
(c-15) USB ファーム変数初期設定処理

(c-16) DEVICE_ID データを UDC の DEVICE_ID にセット

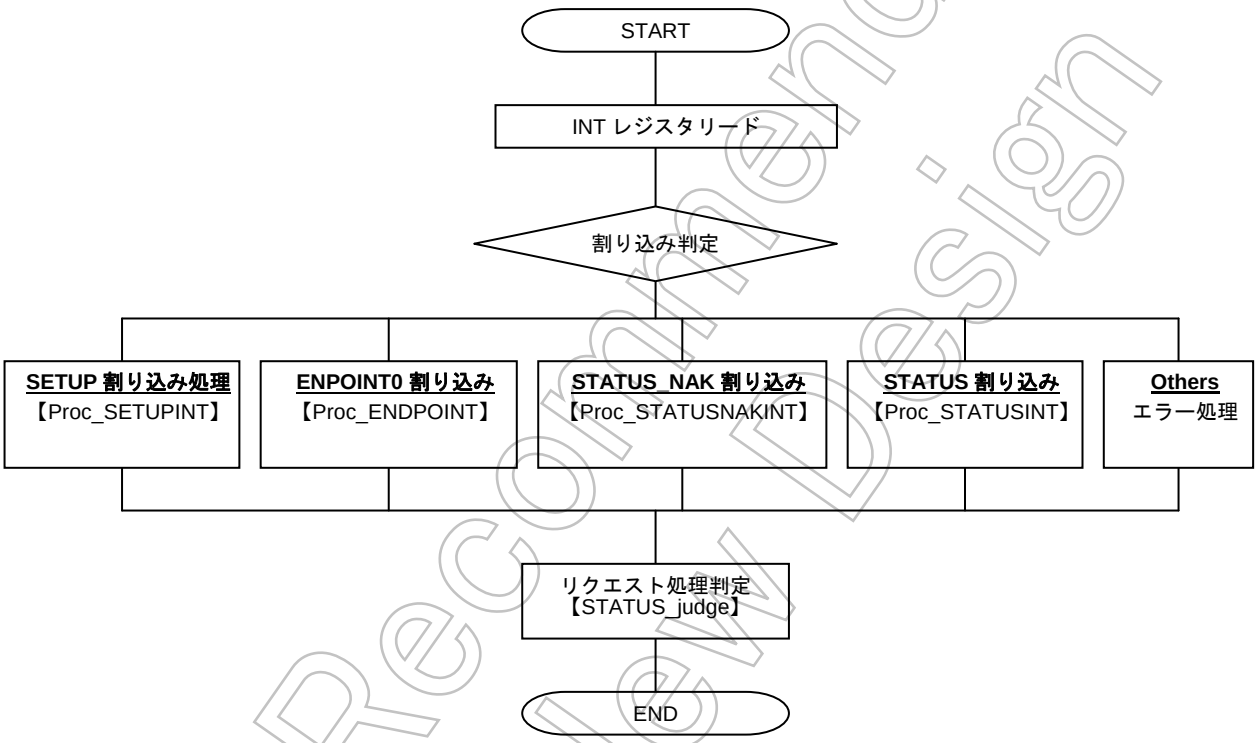


Not Recommended for New Design

(c-17) ディスクリプタデータセット処理



(c-18) USB 割り込み処理



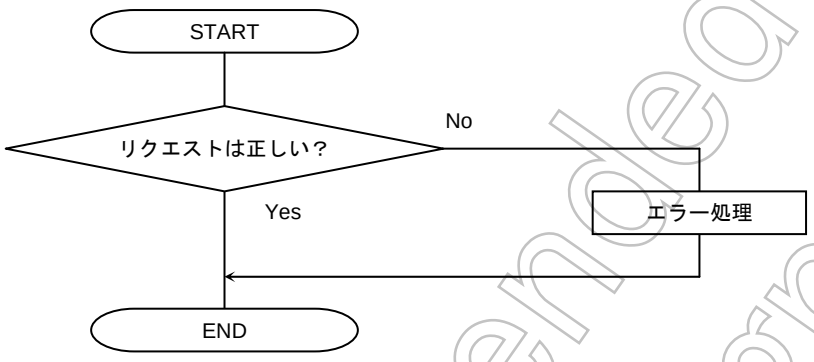
Not Recommended for New Design

(c-19) 未使用マスカブル割り込みダミー機能

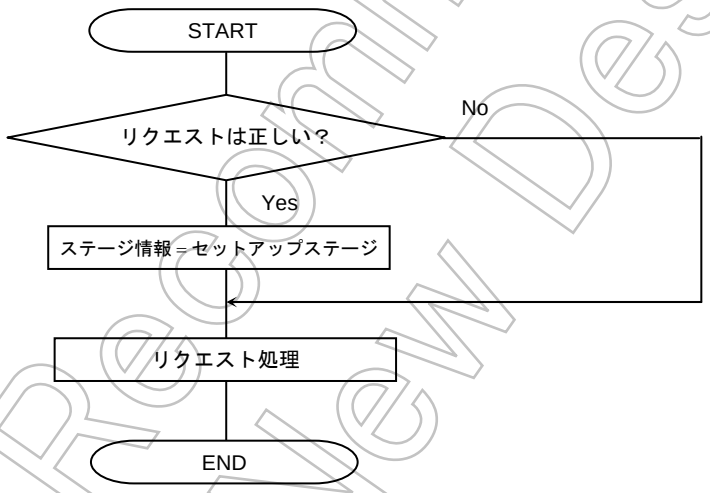
* 処理は何も行っていないため、概略フローは省略します。

(c-20) リクエスト判定処理

処理結果よりエラーの場合 STALL コマンドを発行します。

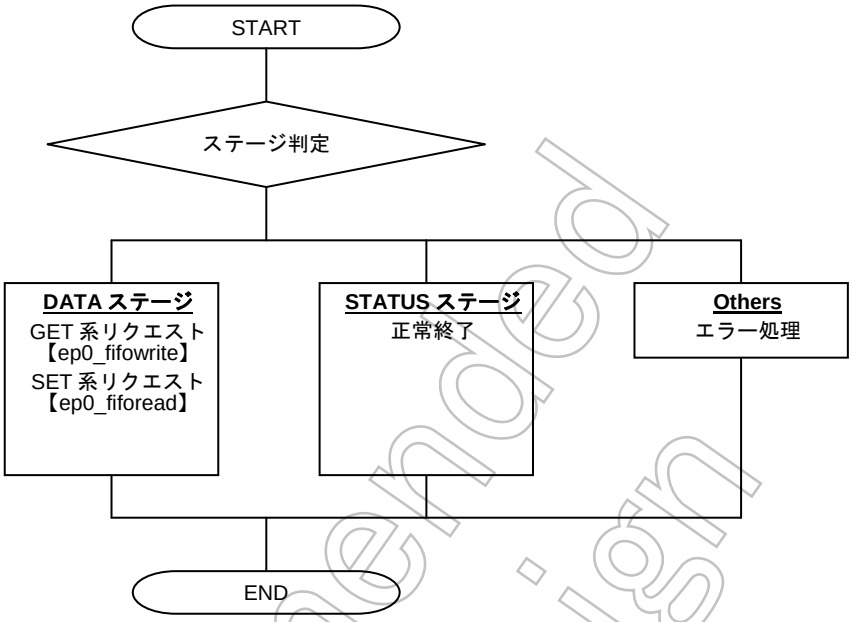


(c-21) セットアップステージ処理

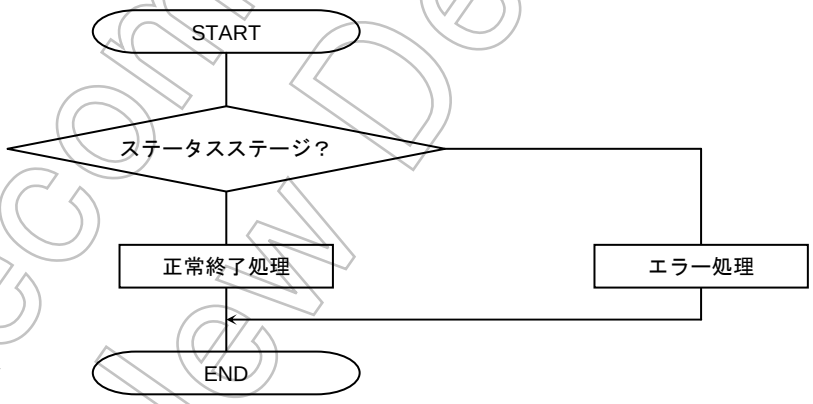


Not Recommended for New Design

(c-22) セットアップステージ以外でのエンドポイント 0 の処理を行います。

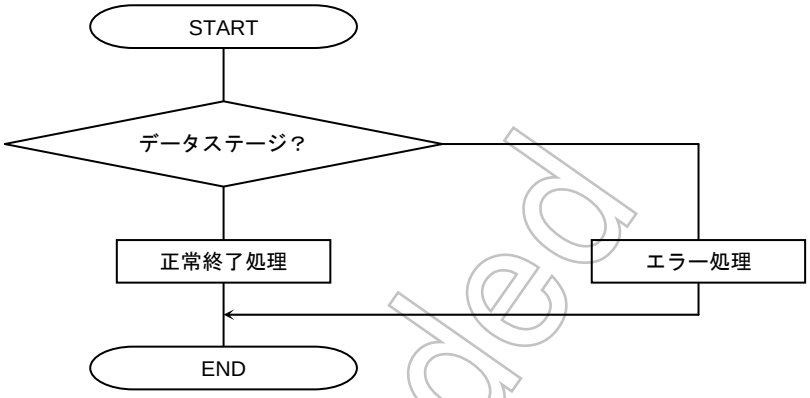


(c-23) ステータスステージ割り込み処理

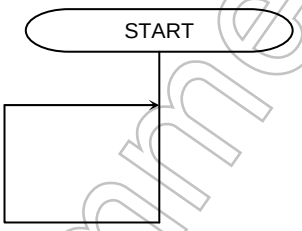


Not Recommended for New Design

(c-24) STATUS NAK 割り込み処理

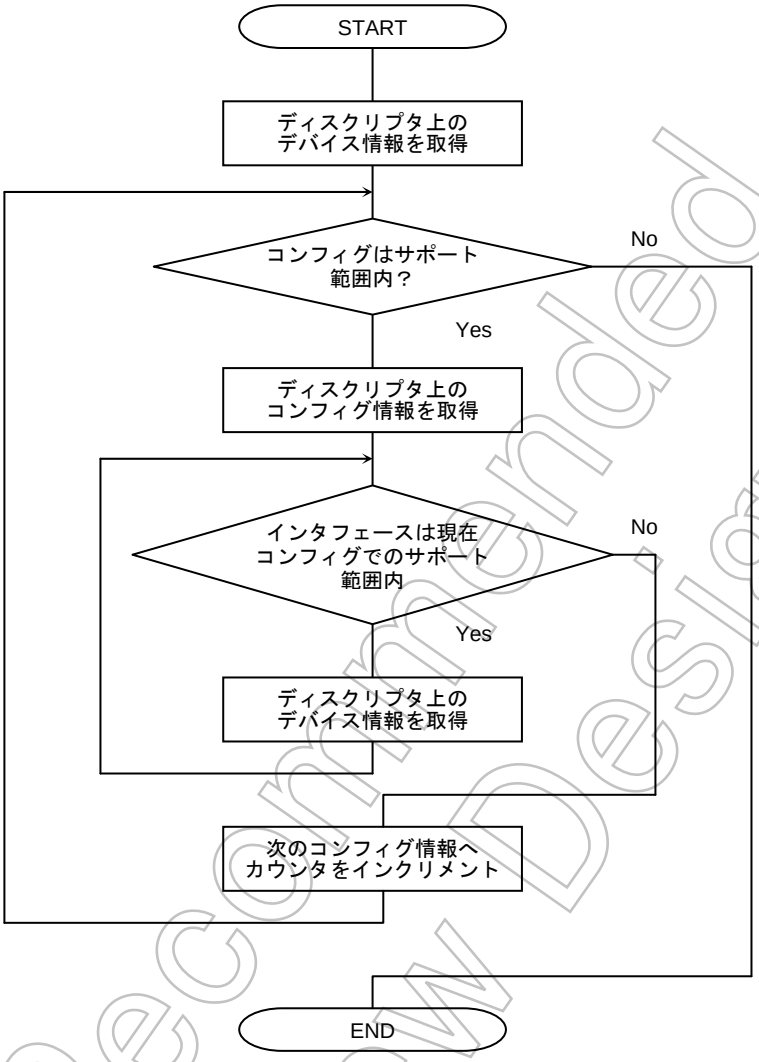


(c-25) USB 処理は割り込みにて行うためメインでは無処理



Not Recommended for New Design

(c-26) 各種ディスクリプタ情報 (標準リクエスト関連) の取得



Not Recommended for New Design

3.17.11 使用上の注意事項

1. TMP92CF29A に内蔵される USB デバイスコントローラを利用する場合は、USB の規定から 10MHz±2500ppm 以下(クリスタル発振子)の発振子を推奨いたします。またその場合も、本 USB デバイスコントローラと内部クロックの精度の関係上、外部ハブの利用は最大 3 段までとなります。USB コンプライアンス(USB ロゴ)の認証を受ける場合は、外付けハブは 5 段接続が必須のため、この場合は、必ず X1USB 端子より±2500ppm 以下の精度で 48MHz のクロックを入力する必要があります。

2. TMP92CF29A USB デュアルパケットモード使用時の動作について

   デュアルパケットモードは、FIFO を 2 つの独立な A と B のパケットに分割し、ハードウェアにて順番にコントロールするモードです。

   受信用の FIFO からデータをリードするときには、2 つのパケットの状態を確認し、優先順位を考慮しながら行う必要がありますが、その処理について以下ご注意願います。

   有効データの存在を示す EPx_SIZE レジスタは A、B パケットごとに用意されていますので、CPU は、PKT_ACTIVE ビットを用いてどちらのパケットが先にアクセスされたのかを確認の上、先に受信したパケットのデータ数を把握する必要があります。PKT_ACTIVE ビットが“1”にセットされているほうが先に受信したパケットになります。

   A のみアクティブ、B のみアクティブ、AB 共にアクティブの判断をする場合に、アクティブビットを、その都度レジスタから読み出すと、時間的なアクティブビットの変化により、処理を誤る可能性があります。

   そのため、割込み要求などで EPx_SIZE レジスタ内のアクティブビットの情報は、一旦 RAM などに退避し、RAM 内の情報を使って分岐処理を行うようにしてください。

Not Recommended for New Design

3.18 SPIC (SPI Controller)

SPIC は、マスタモードのみをサポートする Serial Peripheral Interface Controller です。
SD カード、MMC(Multi Media Card)等と SPI モードで接続が可能です。
下記に特長を示します。

1) 送信/受信に各々32 バイトの FIFO を内蔵しています。
2) 送信/受信データの CRC7、CRC16 を生成可能です。
3) 最大 20Mbps ボーレート対応可能です。
4) 複数の SD カード、MMC と接続可能です。ただし、$\overline{CS}$ 端子として $\overline{SPCS}$ 端子は 1 端子のため、 2 接続以上は他の出力ポートを使用する必要があります。

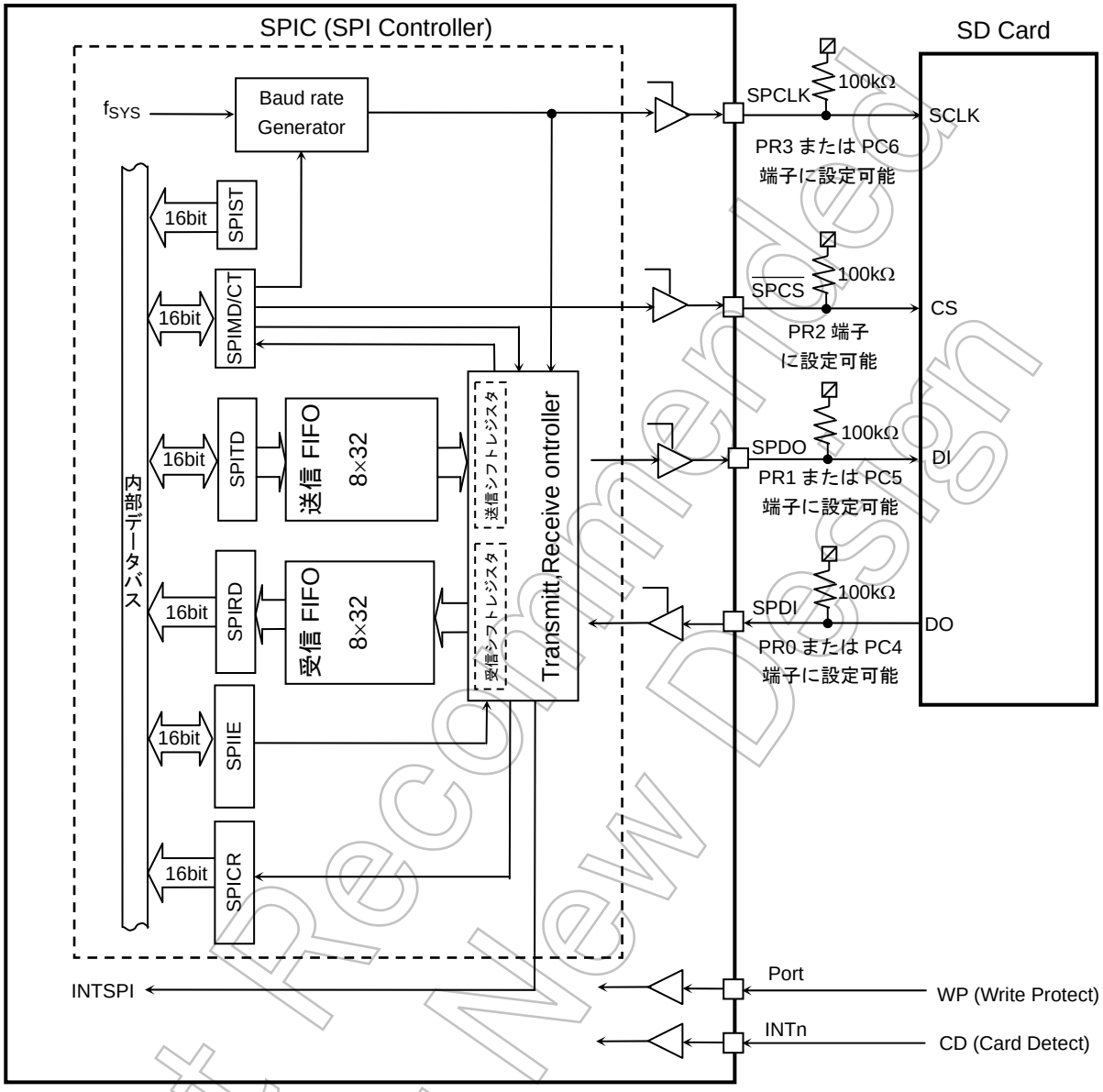
   また、内蔵の SPI 回路は 1 チャネルのみ存在しており、PR0~PR3 端子と兼用となっていますが、PC4~PC6 端子に割り当てることも可能になっています。
5) INTSPITX(送信割り込み)、INTSPIRX(受信割り込み)の 2 本の割り込み機能

   RFUL、TEMP、 REND、TEND の 4 種類の割り込みに対してそれぞれ、状態のリード、マスクを制御可能です。

Not Recommended for New Design

3.18.1 ブロック図

ブロック図、およびSDカードとの接続例を 図 3.18.1に示します。



注 1) リセットによって、SPCLK, $\overline{\text{SPCS}}$,SPDO,SPDI 端子は入力ポートに設定されます(PR0~PR3)。そのためレベル固定用のプルアップ抵抗が必要となります。実際に使用される抵抗の値に関しては最終セット上で確認してください。

注 2) Write Protect とカード検出のための端子は、汎用ポートや汎用割り込み信号を利用してください。

図 3.18.1 SPIC ブロック図と接続例

Not Recommended for New Design

3.18.2 SFR

SPIC の SFR を以下に説明します。これらは 16 ビットデータバスで CPU に接続されています。

(1) SPIMD(SPI モード設定レジスタ)

SPIMD は動作モード、使用クロックなどを設定するレジスタです。

SPIMD レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
SPIMD (0820H) リードモディファイライトできません	Bit symbol	SWRST	XEN				CLKSEL2	CLKSEL1	CLKSEL0
	Read/Write	W	R/W				R/W		
	リセット後	0	0				1	0	0
	機能	S/W リセット 0: don't care 1: Reset	SYSCK 0: disable 1: enable				ボーレート選択(注 1) 000:Reserved 100: $f_{SYS}/8$ 001: $f_{SYS}/2$ 101: $f_{SYS}/16$ 010: $f_{SYS}/3$ 110: $f_{SYS}/64$ 011: $f_{SYS}/4$ 111: $f_{SYS}/256$		
		15	14	13	12	11	10	9	8
(0821H)	Bit symbol	LOOPBACK	MSB1ST	DOSTAT		TCPOL	RCPOL	TDINV	RDINV
	Read/Write	R/W				R/W			
	リセット後	0	1	1		0	0	0	0
	機能	LOOPBACK テストモード 0:disbale 1:enable	送受信開始 BIT 0:LSB 1:MSB	非送信時の SPDO 端子状態設定 0:"0"固定 1:"1"固定		送信時の同期クロックエッジ設定 0: 立ち下がり 1: 立ち上がり	受信時の同期クロックエッジ設定 0: 立ち下がり 1: 立ち上がり	送信時のデータ反転 0: disable 1: enable	受信時のデータ反転 0: disable 1: enable

注) 本 LSI の、SD カード SPI モードでは、20Mbps が最高速となります。使用される CPU の動作周波数(f_{SYS})に合わせて 20MHz を超えた設定をしないようにしてください。

図 3.18.2 SPIMD レジスタ

(a) <LOOPBACK>

<XEN>= "1",<LOOPBACK>= "1"に設定すると、内部 SPDO 出力を内部 SPDI へ入力できますのでテストに使用できます。その際は送信、受信の実行の有無に関係なく常に SPCLK 端子よりクロックを出力します。

設定を変更するときは、送信/受信動作を実行しないでください。

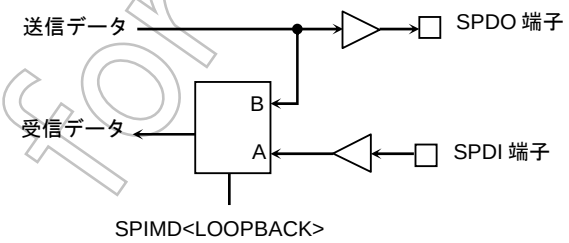


図 3.18.3 <LOOPBACK>レジスタの機能

(b) <MSB1ST>

送信/受信データの開始ビットを選択します。設定を変更するときは、送信/受信動作を実行しないでください。

Not Recommended for New Design

(c) <DOSTAT>

非送信時(送信終了後や受信動作時)の SPDO 端子の状態を設定します。設定を変更するときは、送信/受信動作を実行しないでください。

(d) <TCPOL>

送信動作の同期クロックのエッジを選択します。設定を変更するときは、<XEN>= “0”の状態にしてください。また、<RCPOL>と同じ値を設定してください。

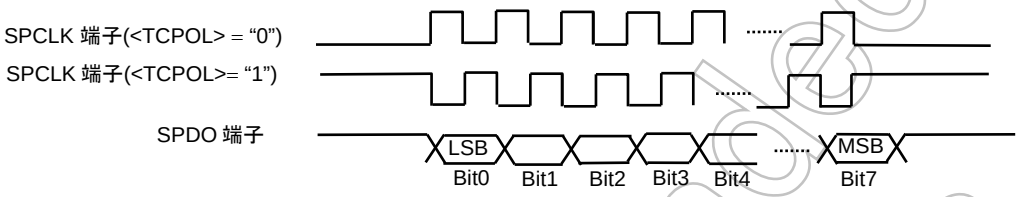


図 3.18.4 <TCPOL>レジスタの機能

(e) <RCPOL>

受信動作の同期クロックのエッジを選択します。設定を変更するときは、<XEN>= “0”の状態にしてください。また、<TCPOL>と同じ値を設定してください。

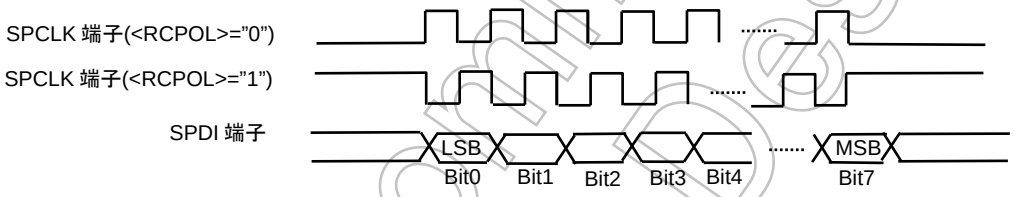


図 3.18.5 <RCPOL>レジスタの機能

(f) <TDINV>

送信データを SPDO 端子から出力するデータを論理反転する/しないを選択します。設定を変更するときは、送信/受信動作を実行しないでください。

(g) <RDINV>

SPDI 端子から入力する受信データを論理反転する/しないを選択します。設定を変更するときは、送信/受信動作を実行しないでください。

Not Recommended for New Design

(h) <SWRST>

送受信のポインタにソフトウエアリセットをかけるビットです。<XEN>が “1”の状態でSPICT<TXE>に“0”をライトし、送信を停止してから、<SWRST>に“1”をライトすることで送信 FIFO および受信 FIFO のリードポインタ、ライトポインタを初期化します。

SPICT<TXE>に “0”をライトすると、送信途中の UNIT データが、送信された後に、送信が停止し、<SWRST>に“1”をライトすることで、送信 FIFO 内のデータは無効となります。一旦ソフトウエアリセットをかけた後に送信を再開してもデータは出力されません。送信途中には<SWRST>に“1”をライトしないでください。

また、受信においては、受信 FIFO にある受信データが無効になります。

連続受信の場合は、受信 FIFO 内のデータが無効となっても、連続して受信動作をしますので、SPICT<RXE>に“0”をライトして、現在受信中の受信終了後に受信動作を停止させ、(受信中の UNIT が無いことを確認後、REND 割り込み後または 1UNIT 受信時間経過後)、<SWRST>=“1”とすることで、受信動作を全て停止できます。受信途中には<SWRST>に“1”をライトしないでください。

ソフトウエアリセットを行うには<SWRST>=“1”とライトするだけの 1shot の動作でリセットされます(<SWRST>= “0”のライトは不要)。また、<XEN>=“1” と<SWRST>=“1”の同時ライトも対応しています。

(i) <XEN>

内部のクロックの動作設定を選択します。SPI コントローラを使用する際は常に“1”に設定してください。

(j) <CLKSEL2:0>

ボーレート選択レジスタです。ボーレートはシステムクロック(f_{SYS})から生成しています。下記の表に示すように、システムクロックに応じて、ボーレート設定が可能となります。設定を変更するときは、送信,受信動作を実行しないでください。

注) 本 LSI の、SD カード SPI モードでは、20Mbps が最高速となります。使用される CPU の動作周波数(f_{SYS})に合わせて 20MHz を超えた設定をしないようにしてください。

表 3.18.1 ボーレート設定例

<CLKSEL2:0>	ボーレート値[Mbps]	
	f_{SYS} =60MHz 時	f_{SYS} =80MHz 時
$f_{SYS}/2$	–	–
$f_{SYS}/3$	20	–
$f_{SYS}/4$	15	20
$f_{SYS}/8$	7.5	10
$f_{SYS}/16$	3.75	5
$f_{SYS}/64$	0.9375	1.25
$f_{SYS}/256$	0.234375	0.3125

Not Recommended for New Design

(2) SPICT(SPI コントロールレジスタ)

SPICT はデータ長、CRC などを設定するレジスタです。

SPICT レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
SPICT (0822H)	Bit symbol	CEN	SPCS_B	UNIT16	TXMOD	TXE	FDPXE	RXMOD	RXE
	Read/Write	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W		
	リセット後	0	1	0	0	0	0	0	0
	機能	通信端子制御 0: disable 1: enable	$\overline{\text{SPCS}}$ 端子設定 0: “0”出力 1: “1”出力	データ長選択 0: 8bit 1: 16bit	送信モード 0: UNIT 1: 連続送信	送信イネーブル 0: disable 1: enable	全 2 重でのアライメント 0: disable 1: enable	受信モード 0: UNIT 1: 連続受信	受信イネーブル 0: disable 1: enable
		15	14	13	12	11	10	9	8
(0823H)	Bit symbol	CRC16_7_B	CRCRX_TX_B	CRCRESET_B					
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0					
	機能	CRC 選択 0: CRC7 1: CRC16	CRC データ 0: 送信 1: 受信	CRC 演算レジスタ制御 0:リセット 1:リセット解除					

図 3.18.6　SPICT レジスタ

(a) <CRC16_7_B>

CRC7,CRC16 を選択するレジスタです。

(b) <CRCRX_TX_B>

CRC 演算回路への入力データを選択します。送信データと CRC 演算するか、受信データと CRC 演算するかを選択します。

(c) <CRCRESET_B>

CRC 演算レジスタを初期化します。

Not Recommended for New Design

送信データのCRC16 を計算し、送信データに続いてCRCを送信する手順を下 図 3.18.7のフローチャートを用いて説明します。

(1) CRC7 と CRC16 のどちらを計算するか SPICT<CRC16_7_B>に設定し、送受信のどちらのデータの CRC を計算するか<CRCRX_TX_B>で設定します。
(2) SPICR レジスタをリセットするため、<CRCRESET_B>に“0”をライトしてから“1”をライトします。
(3) 送信データを SPITD にライトし、全データの送信完了を待ちます。
(4) SPICR レジスタをリードして、CRC の計算結果を取得します。
(5) (4)で取得した CRC を(3)と同じ手順で送信します。

受信データの CRC 計算も同様の手順で実行できます。

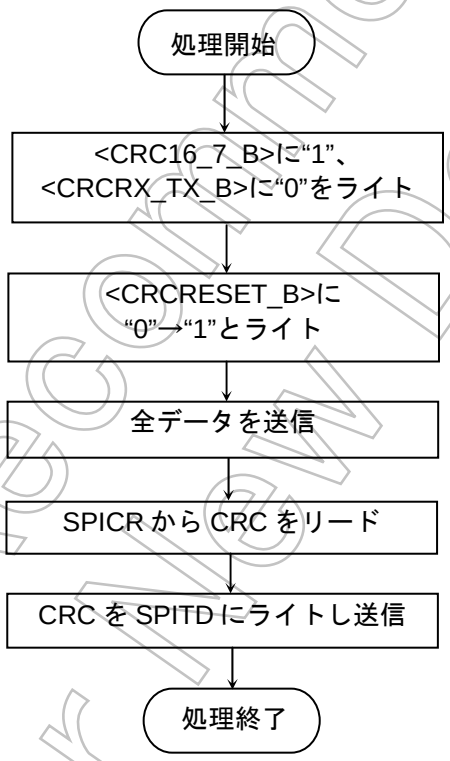


図 3.18.7 CRC 計算手順フローチャート

Not Recommended for New Design

(d) <CEN>

SD カード、MMC との通信端子の許可/禁止設定を選択します。

カードが挿入されてない状態や電源が OFF の場合に、SPDI 端子がフローティング状態になり、貫通電流を流す事や$\overline{\text{SPCS}}$、SPCLK、SPDO 端子が“1”を出力しカードに電流を流し込むことを防止するためのレジスタです。ポート R の PRCR、PRFC レジスタ$\overline{\text{SPCS}}$、SPCLK、SPDO、SPDI を選択している状態で <CEN>に“0”をライトすると、SPIDI 端子を入力禁止(貫通電流防止状態)、$\overline{\text{SPCS}}$,SPCLK,SPDO 端子をハイインピーダンス状態にします。

<CEN>は、カードが挿入されカードの電源を投入し、さらに SPI コントローラへのクロック供給をした後(SPIMD<XEN>=“1”後)、“1”をライトしてください。

(e) <SPCS_B>

$\overline{\text{SPCS}}$ 端子へ出力する値を設定します。

(f) <UNIT16>

送信/受信のデータ長を選択します。なお、これ以降 データ長を UNIT と記します。

設定を変更するときは、送信/受信動作を実行しないでください。

(g) <FDPXE>

全 2 重通信実行時に“1”に設定します。送信/受信を UNIT でアライメントさせるかどうかを選択します。設定を変更するときは、送信/受信動作を実行しないでください。

(h) <TXMOD>

UNIT 送信するか、連続送信するかを選択します。送信中には連続送信→UNIT 送信、UNIT 送信→連続送信の書き換えはできません。

UNIT 送信の場合送信 FIFO は無効となり、TEMP 割り込みは SPITD から送信シフトレジスタに転送された時点で発生します。

連続送信の場合 32 バイトの FIFO が有効となり、TEMP 割り込みは FIFO 内に 16 バイトの空きか、32 バイトの空きが出来た時点で発生します。

(i) <TXE>

送信イネーブルビットです。送信 FIFO に送信データをライトした後に“1”をライトするか、あらかじめ“1”をライトした状態で送信 FIFO に送信データをライトすることで、送信がスタートします。送信中も Enable/Disable の書き換えは可能です。送信中に“0”をライトすると、送信途中の UNIT のみ送信を完了した後、送信を停止します。

Not Recommended for New Design

注意事項:

UNIT モード(SPICT<TXMOD>= “0”)を使用時は、以下の制限があります。

SPICT<TXE>を“1”に設定した後、UNIT 送信が終了するまでは他のレジスタを変更しないで下さい。

Program Sample1:

```
        LD      (SPITDx), A     ; 送信データを設定します。
        DI                      ; 割り込みディセーブルにします。
        SET 3,  (SPICT)         ; <TXE>を“1”に設定し、送信をスタートさせます。

Wait:   BIT 1,  (SPIST)         ;  送信終了を待ちます。
        JPZ,    Wait
        RES 3,  (SPICT)         ; <TXE>を“0”に設定し、ディセーブルにします。
        EI                      ; 割り込みイネーブルにします。
```

Program Sample2 (推奨):

送信終了フラグを確認してください。(SPIST<TEND>= “1”)

```
        LD  (SPITDx), A         ; 送信データを設定します。
        DI                      割り込みディセーブルにします
        SET 3,  (SPICT)         <TXE>を“1”に設定し、送信をスタートさせます。
        RES 3,  (SPICT)         ; <TXE>を“0”に設定し、ディセーブルにします。
        EI                      ; 割り込みイネーブルにします。
```

(j) <RXMOD>

UNIT 受信するか、連続受信するかを選択します。

受信中には、連続受信→UNIT 受信、UNIT 受信→連続受信の書き換えは出来ません。

UNIT 受信の場合受信 FIFO は無効となり、RFUL 割り込みは受信シフトレジスタから SPIRD に転送された時点で発生します。

連続受信の場合、32 バイトの FIFO が有効となり、RFUL 割り込みは FIFO 内に 16 バイト分のデータが格納された時点か、32 バイト分のデータが格納された時点で発生します。

Not Recommended for New Design

(k) <RXE>

UNIT 受信の場合“1”をライトすることで、UNIT 分のデータを 1 回だけ受信します。

“1”をライトしたまま SPIRD からデータリードすると、さらに 1 回だけ受信します。連続受信の場合“1”をライトすることで、32 バイトの FIFO がフルになるまで、連続して受信します。受信中も Enable/Disable の書き換えは可能です。受信中に“0”をライトすると、受信途中の UNIT のみ受信を完了した後受信を停止します。

[送受信動作モード]

SPI コントローラでは下記 6 つの動作モードをサポートしています。

これらは<FDPXE>、<RXMOD>、<RXE>、<TXMOD>、<TXE>レジスタで選択されます。

表 3.18.2 送受信動作モード

動作モード	レジスタ設定					説明
	<FDPXE>	<TXMOD>	<TXE>	<RXMOD>	<RXE>	
(1) UNIT 送信	0	0	1	x	x	ライトされた送信データを UNIT ごとに送信
(2) 連続送信	0	1	1	x	x	FIFO 内にライトされた送信データを順次送信
(3) UNIT 受信	0	x	x	0	1	1UNIT のみデータを受信
(4) 連続受信	0	x	x	1	1	バッファに空きがあれば自動受信
(5) UNIT 送受信	1	0	1	0	1	送信,受信データを UNIT ごとにアライメントし、1UNIT の送受信
(6) 連続送受信	1	1	1	1	1	送信,受信データを UNIT ごとにアライメントし、連続送受信

x: don’t care

Not Recommended for New Design

UNIT 送信と連続送信の違いについて

UNIT 送信は、まず SPICT<TXMOD>="0"として UNIT 送信モードに設定します。

UNIT 送信モードにすることで送信 FIFO は無効となります。SPICT<TXE>="1"の状態で UNIT データをライトするか、SPITD に 1UNIT 分のデータをライトした後に SPICT<TXE>="1"にすることによって実行されます。

送信中には、連続送信→UNIT 送信、UNIT 送信→連続送信の書き換えはできません。

UNIT 送信の場合、TEMP 割り込みは SPITD から送信シフトレジスタに転送された時点で発生します。また、TEND 割り込みは SPITD が空で、最後の UNIT の送信がすべて終了した時点で発生します。

注意事項:

UNIT モード(SPICT<TXMOD>="0")を使用時は、以下の制限があります。

SPICT<TXE>を"1"に設定した後、UNIT 送信が終了するまでは他のレジスタを変更しないで下さい。

```
Program Sample1:
        LD      (SPITDx), A     ; 送信データを設定します。
        DI                      ; 割り込みディセーブルにします。
        SET 3,  (SPICT)         ; <TXE>を"1"に設定し、送信をスタートさせます。

Wait:   BIT 1,  (SPIST)         ; 送信終了を待ちます。
        JPZ,    Wait
        RES 3,  (SPICT)         ; <TXE>を"0"に設定し、ディセーブルにします。
        EI                      ; 割り込みイネーブルにします。

Program Sample2 (推奨):
        送信終了フラグを確認してください。(SPIST<TEND>= "1")

        LD  (SPITDx), A         ; 送信データを設定します。
        DI                      ; 割り込みディセーブルにします
        SET 3,  (SPICT)         ; <TXE>を"1"に設定し、送信をスタートさせます。
        RES 3,  (SPICT)         ; <TXE>を"0"に設定し、ディセーブルにします。
        EI                      ; 割り込みイネーブルにします。
```

連続送信は、まず SPICT<TXMOD>="1"として連続送信モードに設定します。連続送信の場合、32 バイトの FIFO が有効となります。連続送信の場合は、送信 FIFO へのデータライトは必ず 16 バイトごとに行ってください。16 バイト以外のライトを行うと、TEMP 割り込みが正常に発生しません。

連続送信は、SPICT<TXE>="1"の状態でライトされた送信データを順次送出します。または FIFO にデータをライトした後に SPICT<TXE>="1"とすることで、データをライトした順序で順次送出します。

連続送信ではデータのある限り連続して送出を行うため、送信 FIFO(32 バイト)が空にならない限り連続して送信することできます。

送信中には、連続送信→UNIT 送信、UNIT 送信→連続送信の書き換えはできません。

送信中も SPICT<TXE>の書き換えは可能です。送信中に SPICT<TXE>="0"をライトすると、送信途中の UNIT のみ送信を完了した後、送信を停止します。

連続送信の場合、TEMP 割り込みは FIFO 内に 16 バイトの空きか、32 バイトの空きができた時点で発生します。

また、TEND 割り込みは送信 FIFO が空で、最後の UNIT の送信がすべて終了した時点で発生します。

Not Recommended for New Design

UNIT 受信と連続受信の違いについて

UNIT 受信は 1UNIT だけデータを受信するモードです。

SPICT<RXMOD>="0"に設定することで UNIT 受信モードになります。UNIT 受信モードにすることで受信 FIFO は無効となります。

SPICT<RXE>="1"をライトすると 1UNIT の受信を行い SPIRD に受信データが格納され受信を停止します。1UNIT ずつデータの受信、および処理を行いたい場合には、SPICT<RXE>="0"をライトしてから SPIRD をリードしてください。SPICT<RXE>が"1"のまま、再度 SPIRD をリードすると、再度 1UNIT だけ受信動作を行います。受信中には、連続受信→UNIT 受信、UNIT 受信→連続受信の書き換えはできません。

UNIT 受信の場合、RFUL と REND 割り込みは受信シフトレジスタから、SPIRD にシフトされた時点で発生します。

連続受信は、受信 FIFO に空きがある場合に、連続して自動的にデータを受信するモードです。SPICT<RXMOD>="1"をライトすることで連続受信モードになります。連続受信モードにすることで、32 バイトの受信 FIFO が有効になります。

連続受信の場合は、受信 FIFO からのデータリードは、必ず 16 バイトごとに行ってください。16 バイト以外のリードを行うと、RFUL 割り込みが正常に発生しません。

SPICT<RXE>="1"をライトすると、受信 FIFO に受信データが格納されます。受信 FIFO が FULL(32 バイト)にならない限り、次のデータを自動的に受信するため、UNIT ごとに途切れることなく連続して受信を行うことができます。受信中には、連続受信→UNIT 受信、UNIT 受信→連続受信の書き換えはできません。

受信中に SPICT<RXE>="0"をライトすると、リード中の UNIT の受信終了後、受信動作を停止します。RFUL 割り込みは FIFO 内に 16 バイト分のデータが格納された時点と、32 バイト分のデータが格納された時点で発生します。

また、REND 割り込みは、受信 FIFO32 バイトが FULL になった状態で発生します。

Not Recommended for New Design

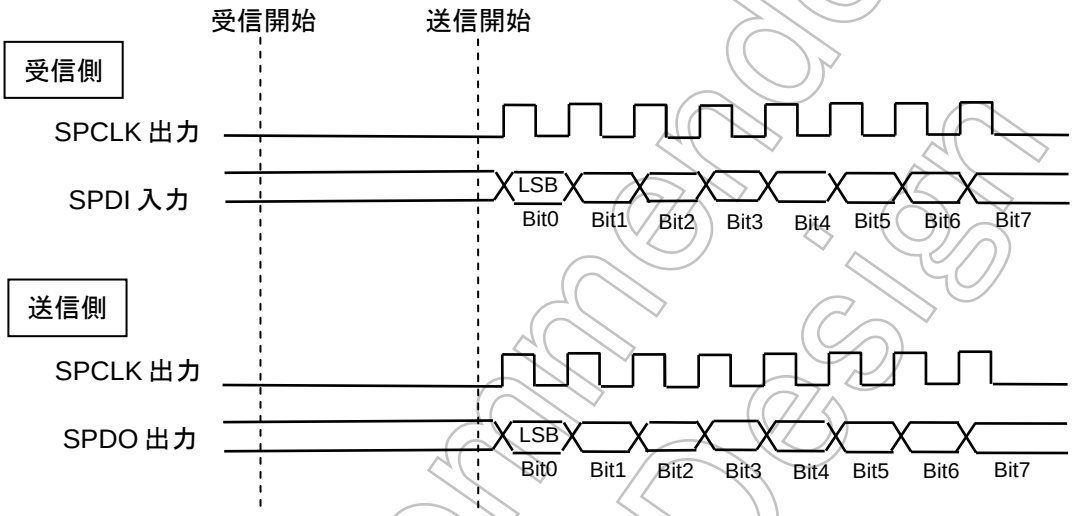
送受信について

送受信を同時に行う場合には、必ず<FDPXE>に“1”をライトしてください。

最初に<FDPXE>に“1”をライトしてから SPICT<RXE>に“1”をライトして UNIT 受信開始待機状態とします。

SPICT<FDPXE>に“1”をライトしてから<RXE>に“1”をライトすると、即座には受信は開始されません。これは同時に行うべき送信データがまだ準備されていないためです。<TXE>=“1”の状態で、SPITD に送信データをライトするとその時点から送受信が開始されます。

この場合の送受信のそれぞれの動作は図のとおりとなります。



注) 送受信を同時に行わない場合は、<FDPXE>=“0”の状態で通信を行います。

Not Recommended for New Design

(3) 割り込み

割り込みは、割り込みコントローラに対して、送信割り込み INTSPITX と、受信割り込み INTSPIRX に大別され、さらに本回路内で、送信で 2 種類、受信で 2 種類の計 4 種類の割り込みがあります。

(a) 送信割り込み

TEMP(送信 FIFO エンプティ割り込み)と、TEND(送信終了割り込み)があります。

この 2 種類の割り込みの内、TEMP 割り込みは送信モードが UNIT か連続かの違いによってその発生が異なります。

連続送信の場合は、送信 FIFO へのデータライトは必ず 16 バイトごとに行ってください。16 バイト以外のライトを行うと、TEMP 割り込みが正常に発生しません。

UNIT 送信の時

UNIT 送信では送信 FIFO が無効となるため、エンプティ割り込みは SPITD にライトしたデータが送信シフトレジスタにシフトされた時点で発生します。

TEND は SPITD が空で、最後の UNIT の送信がすべて終了した時点で発生します。(SPIMD<TCPOL>="0"の時最終ビットのクロックの立ち下がり後)

連続送信の時

エンプティ割り込みは送信 FIFO に 16 バイト分空が出来た状態と、送信 FIFO に 32 バイトの空きが出来た時の 2 つの事象で発生します。

TEND は送信 FIFO が空で、最後の UNIT の送信がすべて終了した時点で発生します。(SPIMD<TCPOL>="0"の時最終ビットのクロックの立ち下がり後)

(b) 受信割り込み

RFUL(受信 FIFO 割り込み)と、REND(受信終了割り込み)があります。

この 2 種類の割り込みの内 RFUL 割り込みは、受信モードが UNIT か連続かの違いによってその発生が異なります。

連続受信の場合は受信 FIFO からのデータリードは必ず 16 バイトごとに行ってください。16 バイト以外のリードを行うと、RFUL 割り込みが正常に発生しません。

UNIT 受信の時

RFUL 割り込みは受信 FIFO が無効となるため、REND 割り込みと同じタイミングで発生します。受信シフトレジスタから、SPIRD にシフトされた時点で発生します。

連続受信の時

RFUL 割り込みは受信 FIFO に 16 バイト分のデータが格納された時と、32 バイト分のデータが格納された時の 2 つの事象で発生します。

REND 割り込みは、受信 FIFO32 バイトが FULL になった状態で発生します。

Not Recommended for New Design

(3-1) SPIST(SPI ステータスレジスタ)

SPIST は、3 つのステータスを示すレジスタです。

SPIST レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
SPIST (0824H)	Bit symbol					TEMP		TEND	REND
	Read/Write					R		R	
	リセット後					1		1	0
	機能					送信 FIFO 状態 0: 空きなし 1: 空きあり		送信状態 0: 送信中か送信データあり 1: 送信終了	受信状態 0: 受信中か受信データなし 1: 受信終了か、FIFO に空きなし
		15	14	13	12	11	10	9	8
(0825H)	Bit symbol								
	Read/Write								
	リセット後								
	機能								

図 3.18.8 SPIST レジスタ

(a) <TEMP>

UNIT 送信の場合は、SPITD に有効データがある場合に“0”、また有効データが無い場合に“1”にセットされます。

連続送信の場合は、送信 FIFO 中に有効データが無い場合に“1”にセットされます。

(b) <TEND>

SPITD か、FIFO 中に送信すべき有効データがある場合と送信最中は“0”にリセットされ、SPITD か FIFO 中に送信すべき有効データが無く、且つデータをすべて送信終了した場合に“1”にセットされます。

(c) <REND>

UNIT 受信の場合は、受信を終了し SPIRD に有効データが格納された場合(有効データがある場合)に“1”にセットされ、受信中または有効データが無い場合に“0”にリセットされます。

連続受信の場合は、最終データの受信を終了し受信 FIFO 中に、32 バイトの有効データがある場合に“1”にセットされ、1 バイトでも空きが有る場合に“0”になります。

なお、RFUL フラグはその意味合いが REND フラグと全く同じになるために存在しません。

Not Recommended for New Design

(3-2) SPIIE(SPI 割込みイネーブルレジスタ)

SPIIE は、4 つの割込み出力の許可を設定するレジスタです。

SPIIE レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
SPIIE (082CH)	Bit symbol					TEMPIE	RFULIE	TENDIE	RENDIE
	Read/Write					R/W			
	リセット後					0	0	0	0
	機能					TEMP 割り込み 0: 禁止 1: 許可	RFUL 割り込み 0: 禁止 1: 許可	TEND 割り込み 0: 禁止 1: 許可	REND 割り込み 0: 禁止 1: 許可
		15	14	13	12	11	10	9	8
(082DH)	Bit symbol								
	Read/Write								
	リセット後								
	機能								

図 3.18.9　SPIIE レジスタ

(a) <TEMPIE>

TEMP 割り込みの許可を設定するビットです。

(b) <RFULIE>

RFUL 割り込みの許可を設定するビットです。

(c) <TENDIE>

TEND 割り込みの許可を設定するビットです。

(d) <RENDIE>

REND 割り込みの許可を設定するビットです。

注) 送信割り込み(INTSPITX)に 2 種類(TEMP、TEND)、受信割り込み(INTSPIRX)に 2 種類(RFUL、REND)の計 4 種類の割り込みがありますが、送信用の割り込みは TEMP か TEND、受信用の割り込みは RFUL か REND のどちらか 1 種類の割り込みを選択して使用してください。(TEMP と TEND の同時使用、または RFUL、REND の同時使用はしないでください)

Not Recommended for New Design

(4) SPICR(SPI CRC レジスタ)

SPICR は送信/受信データの CRC 演算結果を格納するレジスタです。

SPICR レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
SPICR (0826H)	Bit symbol	CRCD7	CRCD6	CRCD5	CRCD4	CRCD3	CRCD2	CRCD1	CRCD0
	Read/Write	R							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	CRC 演算結果格納レジスタ[7:0]							
		15	14	13	12	11	10	9	8
	Bit symbol	CRCD15	CRCD14	CRCD13	CRCD12	CRCD11	CRCD10	CRCD9	CRCD8
	Read/Write	R							
(0827H)	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	CRC 演算結果格納レジスタ[15:8]							

図 3.18.10　SPICR レジスタ

(a) <CRCD15:0>

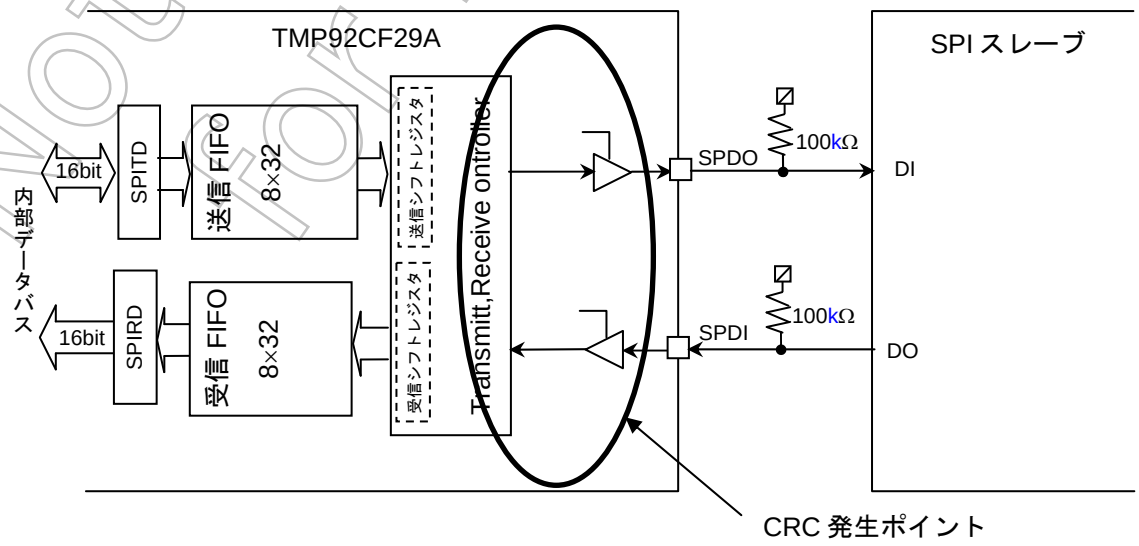
SPICT<CRC16_7_b><CRCRX_TX_B><CRCRESET_B>レジスタの設定に従って演算した結果を格納するレジスタです。CRC16 の場合 全ビット有効で、CRC7 の場合下位 7 ビットが有効です。

送信データの CRC16 を演算する場合の動作手順を例として説明します。

まず、<CRC16_7_b>="1", <CRCRX_TX_B>="0", <CRCRESET_B>="0"をライト後に、<CRCRESET_B>="1"をライトして CRC 演算レジスタの初期化を実施します。次に送信データを SPITD へライトし CRC を演算する全データを送信終了させます。

送信終了は SPIST<TEND>で確認してください。終了後、SPICR レジスタをリードすると送信データの CRC16 をリードできます。

注) CRC 発生ポイントは、下記の示す様に、本マイコンの入出力時に発生します。FIFO を使用した連続送受信の場合等、CRC を比較するポイントに注意してください。



Not Recommended for New Design

(5) SPITD(SPI 送信データレジスタ)

SPITD0、SPITD1 は送信データをライトするレジスタです。

SPITD0 レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
SPITD0 (0830H)	Bit symbol	TXD7	TXD6	TXD5	TXD4	TXD3	TXD2	TXD1	TXD0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	送信データレジスタ[7:0]							
		15	14	13	12	11	10	9	8
	Bit symbol	TXD15	TXD14	TXD13	TXD12	TXD11	TXD10	TXD9	TXD8
	Read/Write	R/W							
(0831H)	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	送信データレジスタ[15:8]							

SPITD1 レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
SPITD1 (0832H)	Bit symbol	TXD7	TXD6	TXD5	TXD4	TXD3	TXD2	TXD1	TXD0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	送信データレジスタ[7:0]							
		15	14	13	12	11	10	9	8
	Bit symbol	TXD15	TXD14	TXD13	TXD12	TXD11	TXD10	TXD9	TXD8
	Read/Write	R/W							
(0833H)	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	送信データレジスタ[15:8]							

図 3.18.11 SPITD レジスタ

送信データをライトするレジスタです。リードすると最後にライトしたデータがリードされます。送信 FIFO に空きが無い状態で次のデータをライトすると上書きされますので注意が必要です。

SPITD は 4 バイト存在しますので、DMA との併用など 4 バイト命令でのライトも可能です。ただし、データをライトする際は必ず 830 番地からライトしてください。また、データをライトする方法(命令)には制約があります。

詳細は下記の表を参照してください。

送信データ ライトサイズ	命令実行例	UNIT 送信(FIFO 未使用)		連続送信(FIFO 使用)	
		1 バイト送信 <unit16>=0	2 バイト送信 <unit16>=1	1 バイト送信 <unit16>=0	2 バイト送信 <unit16>=1
1 バイトライト	ld (0x830),a	○	×	禁止	×
2 バイトライト	ld (0x830),wa	×	○	○	○
4 バイトライト	ld (0x830),xwa	×	×	○	○

○: CPU がライトしたデータ全てが送信される。
×: CPU がライトした以外に無効なデータが送信される。

Not Recommended for New Design

(6) SPIRD(SPI 受信データレジスタ)

SPIRD0、SPIRD1 は受信データをリードするレジスタです。

SPIRD0 レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
SPIRD0 (0834H)	Bit symbol	RXD7	RXD6	RXD5	RXD4	RXD3	RXD2	RXD1	RXD0
	Read/Write	R							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	受信データレジスタ[7:0]							
		15	14	13	12	11	10	9	8
	Bit symbol	RXD15	RXD14	RXD13	RXD12	RXD11	RXD10	RXD9	RXD8
	Read/Write	R							
(0835H)	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	受信データレジスタ[15:8]							

SPIRD1 レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
SPIRD0 (0836H)	Bit symbol	RXD7	RXD6	RXD5	RXD4	RXD3	RXD2	RXD1	RXD0
	Read/Write	R							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	受信データレジスタ[7:0]							
		15	14	13	12	11	10	9	8
	Bit symbol	RXD15	RXD14	RXD13	RXD12	RXD11	RXD10	RXD9	RXD8
	Read/Write	R							
(0837H)	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	受信データレジスタ[15:8]							

図 3.18.12　SPIRD レジスタ

受信データをリードするレジスタです。リードする際には RFUL または REND のステータスを確認後リードしてください。

SPIRD は 4 バイト存在しますので、DMA との併用など 4 バイト命令でのリードも可能ですが、基本的にデータをリードする際は 834 番地からリードしてください(一部例外あり)。

また、データをリードする方法(命令)には制約があります。詳細は下記の表を参照ください。

受信データ リードサイズ	命令実行例	UNIT 受信(FIFO 未使用)		連続受信(FIFO 使用)	
		1 バイト受信 <unit16>=0	2 バイト受信 <unit16>=1	1 バイト受信 <unit16>=0	2 バイト受信 <unit16>=1
1 バイトリード	ld a,(0x834)	○	○	禁止	禁止
	ld a,(0x835)	×	○	禁止	禁止
2 バイトリード	ld wa,(0x834)	△*1	○	○	○
4 バイトリード	ld xwa,(0x834)	△*2	△*3	○	○

○: CPU がリード時に有効データだけをリードする。

△: CPU がリード時に有効データ＋無効データをリードする。無効データは読み捨てる必要がある。

×: CPU がリード時に無効データしかリードしない。

*1: 834 番地 = 有効データ　835 番地 = 無効データ

*2: 834 番地 = 有効データ　835 番地 = 無効データ　836 番地 = 無効データ、837 番地 = 無効データ

*3: 834 番地 = 有効データ　835 番地 = 有効データ　836 番地 = 無効データ、837 番地 = 無効データ

Not Recommended for New Design

3.18.3 FIFOに関する注意点

本回路には、以下に示す注意があります。

(1) 送信

送信 FIFO が FULL の状態でデータをライトするとデータが上書きされてしまいます。また、FIFO 内のライトポインタも異常な状態となりますので割り込みや送信が正常に行われません。ソフトウェアでライト回数を管理してください。

連続送信の場合は、送信 FIFO へのデータライトは必ず 16 バイトごとに行ってください。16 バイト以外のライトを行うと、TEMP 割り込みが正常に発生しません。

注) 16 バイト以外の単位で送信する場合は UNIT 送信を使用してください。

(2) 受信

受信 FIFO が空の状態でデータをリードすると不定データがリードされます。また、FIFO 内のリードポインタも異常な状態となりますので割り込みや受信が正常に行われません。ソフトウェアでリード回数を管理してください。

連続受信の場合は、受信 FIFO からのデータリードは必ず 16 バイトごとに行ってください。16 バイト以外のリードを行うと、RFUL 割り込みが正常に発生しません。

注)16 バイト以外の単位で受信する場合は UNIT 受信を使用してください。

(3) CRC

CRC の発生ポイントは、マイコンから SPI スレーブへの送受信に(詳細は SPICRC レジスタ説明の章を参照ください)します。FIFO を使用した連続送受信の場合、CRC 比較のタイミングに注意してください。

例) 連続受信の場合

1. 連続受信開始
2. 有効データ終了(FIFO_Full)
3. 受信停止
4. 有効データリード(FIFO→内蔵 RAM 等)
5. 内蔵 CRC 発生回路からの CRC1 リード
6. (SD-CARD から UNIT 受信→) CRC2 受信開始
7. CRC 比較

上記の 2→4 の動作は割り込みを利用した、HDMA 等の連続受信が可能ですが、CRC 比較を行う場合は、3 のように一旦受信停止を行わないと、5 の内蔵 CRC 発生からの CRC1 が、「有効データ＋CRC2」を含む CRC となり、正常に処理されません。

Not Recommended for New Design

3.19 I²S (Inter-IC Sound)

I²S フォーマット互換のシリアル出力回路を内蔵しています。外部に DA コンバータなどの音声出力用 LSI を接続することによりデジタルオーディオシステムなどに使用できます。

下記に特長を記述します。

表 3.19.1 動作の特長

	I²S モード
チャネル	1 チャネル
フォーマット	I²S フォーマット互換 右寄せ、左寄せ対応可 ステレオ/モノラル対応 マスタ送信のみ
使用端子	1. I2S0CKO (クロック出力) 2. I2S0DO (出力) 3. I2S0WS (ワード選択出力)
WS 周波数	『転送クロックジェネレータ、ワードセレクト信号の設定』を参照してください
データ転送レート	
送信バッファ	64Byte × 2
データ方向	MSB-first 、LSB-first のどちらかを選択可能
データ長	8 ビットまたは 16 ビット
クロックのエッジ	立ち上がりエッジまたは立下りエッジ
割り込み	INTI2S0 (64 バイト FIFO バッファエンプティ割り込み)

Not Recommended for New Design

3.19.1 ブロック図

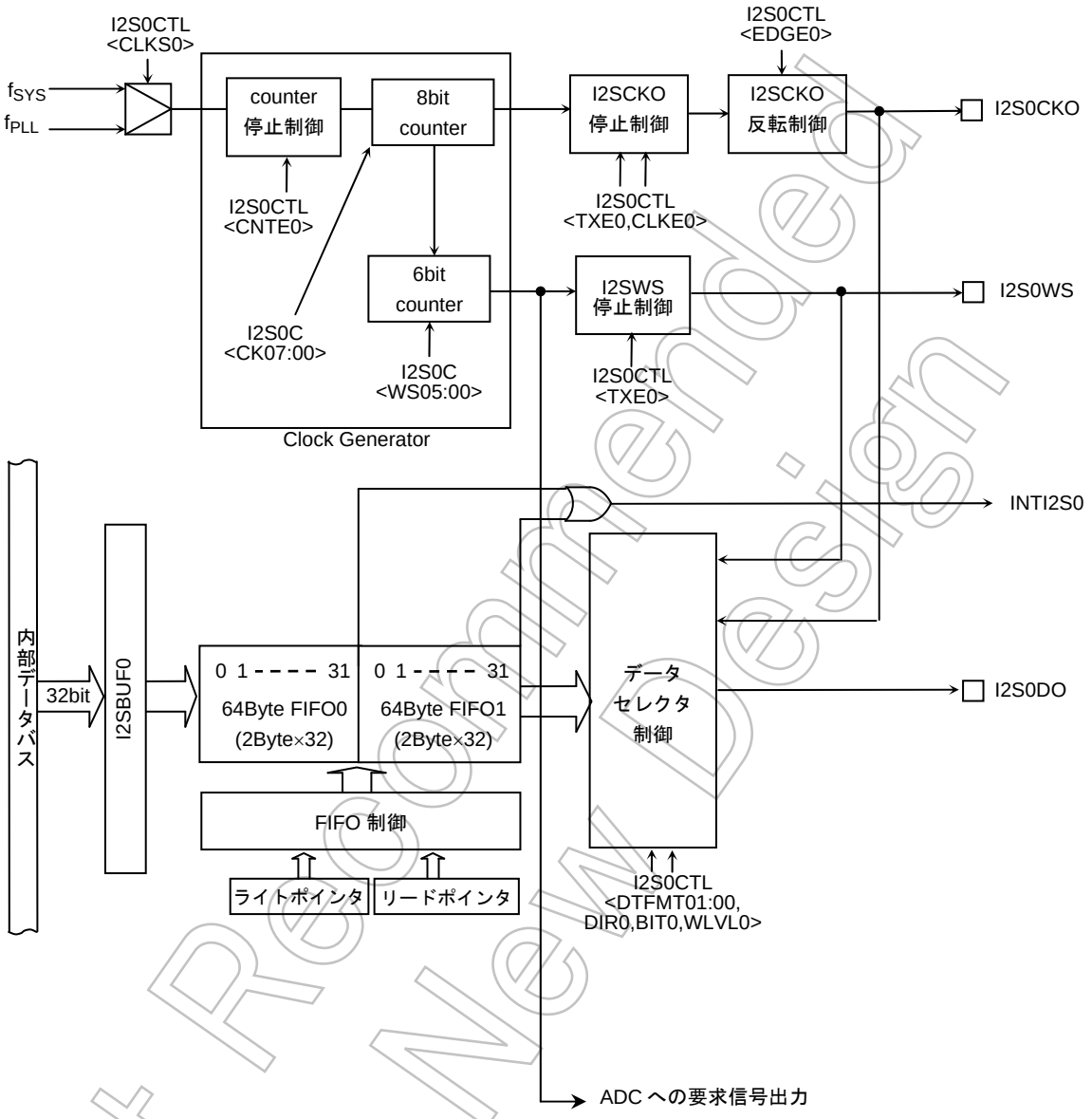


図 3.19.1 I²S ブロック図

Not Recommended for New Design

3.19.2 SFR

以下の表は I²S の SFR です。この I²S の制御レジスタは 32 ビットデータバスで CPU に接続されます。下記の送信バッファ I2S0BUF は必ず 4 バイトの転送命令を使用してください。

I²S0 コントロールレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
I2S0CTL (1808H)	bit Symbol	TXE0	*CNTE0		DIR0	BIT0	DTFMT01	DTFMT00	SYSCKE0
	Read/Write	R/W			R/W				
	リセット後	0	0		0	0	0	0	0
	機能	送信 0: 停止 1: 開始	カウンタ 制御 0: クリア 1: スタート		送信開始 BIT 0: MSB 1: LSB	ビット長 0: 8 ビット 1:16 ビット	出力フォーマット 00: I²S 01: Left	10: Right 11: Reserve	システム クロック 0: 禁止 1: 許可
		15	14	13	12	11	10	9	8
(1809H)	bit Symbol	CLKS0			FSEL0	TEMP0	WLVL0	EDGE0	CLKE0
	Read/Write	R/W			R/W	R	R/W		
	リセット後	0			0	1	0	0	0
	機能	ソース クロック 選択 0: f_{SYS} 1: f_{PLL}			ステレオ モノラル 切替え 0: ステレオ 1: モノラル	送信 FIFO 状態 0: data 有 1: data 無	WS レベル 0:low 左 1:high 左	データ出力 用クロック エッジ 0: 立ち下がり 1: 立ち上がり	クロック 許可 (送信後) 0: 動作 1: 停止

I²S0 分周値設定レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
I2S0C (180AH)	bit Symbol	CK07	CK06	CK05	CK04	CK03	CK02	CK01	CK00
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	CK 信号分周値設定(8 ビットカウンタ)							
		15	14	13	12	11	10	9	8
(180BH)	Bit symbol			WS05	WS04	WS03	WS02	WS01	WS00
	Read/Write			R/W					
	リセット後			0	0	0	0	0	0
	機能			WS 信号分周値設定(6 ビットカウンタ)					

I²S0 バッファレジスタ

		15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
I2S0BUF (1800H)	bit Symbol	B015	B014	B013	B012	B011	B010	B009	B008	B007	B006	B005	B004	B003	B002	B001	B000
	Read/Write	W															
	リセット後	不定															
リード	機能	送信バッファ用レジスタ(FIFO バッファ)															
モディファイ ライトはでき ません		31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	Bit Symbol	B031	B030	B09	B028	B027	B026	B025	B024	B023	B022	B021	B020	B019	B018	B017	B016
	Read/Write	W															
	リセット後	不定															
	機能	送信バッファ用レジスタ(FIFO バッファ)															

図 3.19.2 I²S チャネル 0 制御レジスタ

Not Recommended for New Design

(a) <SYSCKE0>

I²S 回路へのソースクロック接続を制御します。回路を動作させる場合は常に、<SYSCKE0>="1"に設定してください。FIFO バッファにデータを書き込む際にも、<SYSCKE0>="1"に設定しておくことが必要です。また、使用しない場合は消費電流を低減するために、<SYSCKE0>="0"に設定することをお勧めいたします。

(b) <DTFMT01:00>

データ出力フォーマットを設定するビットです。I²S、右寄せ、左寄せの設定ができます。

転送途中や、データ毎にフォーマットの変更は出来ません。フォーマットを切り替える際には、<SYSCKE0>="1"の状態、且つ<CNTE0>="0"の状態で、<TXE0>="0"として、送信を停止してから切り替えを行ってください。

(c) <BIT0>

データのビット長を設定するレジスタです。8/16 ビットの設定が可能です。

転送途中や、データ毎にビット長の切り替えは出来ません。切り替える際には、<SYSCKE0>="1"の状態、且つ<CNTE0>="0"の状態で、<TXE0>="0"として、送信を停止してから切り替えを行ってください。

(d) <DIR0>

データ送信の方向を決めるビットです。LSB_Fast と MSB_Fast の切り替えが可能です。

転送途中や、データ毎に方向切り替えは出来ません。切り替える際には、<SYSCKE0>="1"の状態、且つ<CNTE0>="0"の状態で、<TXE0>="0"として、送信を停止してから切り替えを行ってください。

(e) <CNTE0>

クロックジェネレータカウンタのクリア／スタートを制御します。

SYSCKE0 ビットと同様に、本回路を使用時は常にスタート状態で使用します。

<CNTE0>="0"の状態で、<TXE0>="0"とするとクロックジェネレータカウンタはクリアされますが、<CNTE0>="1"の状態では、<TXE0>="0"としてもクロックジェネレータカウンタはクリアされませんので注意してください。

(f) <TXE0>

データ送信の制御を行います。

<TXE0>="0"とすると送信を停止し、<TXE0>="1"とすると送信を開始します。

<CNTE0>="0"の状態で、<TXE0>="0"とするとクロックジェネレータカウンタはクリアされ、送信 FIFO バッファの内容もクリアされます。

<CNTE0>="1"の状態で、<TXE0>="0"とすると、送信 FIFO バッファの内容もクリアされますが、クロックジェネレータカウンタはクリアされませんので注意してください。

Not Recommended for New Design

(g) <CLKE0>

<CLKE0>="0"に設定すると、常に I2S0CKO クロックを出力しますが、<CLKE0>="1"に設定すると、有効データ送信中のみ、I2S0CKO クロックを出力し、有効データが無い箇所ではクロックを出力しないモードになります。

注) I^2S フォーマットでは、I2S0WS が変化して、1 クロック後に有効データが出力されますが、<CLKE0>= "1"に設定すると、I2S0WS の変化後の最初のクロックは有効データが存在しないため、クロックが出力されません。よって、I^2S フォーマットでは、<CLKE0>="0"に設定しないでください。

(h) <EDGE0>

I2S0CKO とデータの位相関係を制御するビットです。

<EDGE0>= "0"で立ち下がり設定となり、データの変化点でクロックが立ち下がり、立ち上がりエッジでデータをラッチするモードになります。また、<EDGE0>= "1"で立ち上がり設定となり、データの変化点でクロックが立ち上がり、立ち下がりエッジでデータをラッチするモードになります。

エッジを切り替える際には、<SYSCKE0>="1"の状態、且つ<CNTE0>="0"の状態で、<TXE0>="0"として、送信を停止してから切り替えを行ってください。

(i) <WLVL0>

Word Select 信号(I2S0WS)の位相を設定するビットです。

I2S0WS 信号の出力は、常に"High"レベルが最初に出力されます。<WLVL0>を切り替えることによって、データ出力の順序が変わります。詳細は後述の "FIFO バッファおよびデータフォーマット"を参照してください。

位相を切り替える際には、<SYSCKE0>="1"の状態、且つ<CNTE0>="0"の状態で、<TXE0>="0"として、送信を停止してから切り替えを行ってください。

(j) <TEMP0>

送信 FIFO バッファにデータが存在するか否かを示すフラグです。

<TEMP0>="1"の時には、FIFO バッファに送信データは存在しません。<TEMP0>="0"の時には、送信 FIFO バッファ内に送信すべきデータが残っていることを示します。

このビットは読み取り専用ですので、ライトすることは出来ません。一旦送信を停止することで(<TXE0>="0")、FIFO バッファはクリアされます。

(k) <FSEL0>

ステレオかモノラルかを切り換えるビットです。

<FSEL0>="0"でステレオ、<FSEL0>="1"でモノラルを選択します。詳細は後述の"データフォーマット"を参照ください。

フォーマットを切り替える際には、<SYSCKE0>="1"の状態、且つ<CNTE0>="0"の状態で、<TXE0>="0"として、送信を停止してから切り替えを行ってください。

Not Recommended for New Design

(l) <CLKS0>

I²S 回路へのソースクロック接続の切り替えを行うビットです。

<CLKS0>="0" で、CPU に供給されているシステムクロック(f_{SYS})が選択され、<CLKS0>="1"で、PLL 回路の出力クロック(f_{PLL})が選択されます。f_{PLL} を選択する場合は、あらかじめ、PLL 回路を動作させ、PLL 回路が安定している必要(Lock-Up 時間確認)があります。詳細は、クロック逓倍回路の章を参照ください。

(m) <CK07:00>

クロックジェネレータカウンタの値を設定する 8 ビットのカウンタです。

カウンタ値を切り替える際には、<SYSCKE0>="1"の状態、且つ<CNTE0>="0"の状態で、<TXE0>="0"として、送信を停止してから切り替えを行ってください。

(n) <WS05:00>

クロックジェネレータカウンタの値を設定する 6 ビットのカウンタです。

カウンタ値を切り替える際には、<SYSCKE0>="1"の状態、且つ<CNTE0>="0"の状態で、<TXE0>="0"として、送信を停止してから切り替えを行ってください。

Not Recommended for New Design

3.19.3 動作説明

(1) 転送クロックジェネレータ、ワードセレクト信号の設定

I²S 回路における、各クロック周波数(I2S0CKO、I2S0WS 信号)は、システムクロック(f_{SYS})をソースクロックとして生成されます。プリスケーラと専用のクロックジェネレータによって分周し、転送クロックとサンプリング周波数を設定します。

<CNTE0>="1"に設定することで、カウンタがスタートします。<CNTE0>="0"とすればカウンタは停止し、クリアされます。

A)クロックジェネレータ

- 8 ビットカウンタ

  I2S0CTL<CLKS0>にて選択されたクロックを分周して、I2S0CKO 信号を生成する 8 ビットカウンタです。

- 6 ビットカウンタ

  上記 I2S0CKO 信号を分周して、I2S0WS 信号を生成する 6 ビットカウンタです。

B) ワードセレクト

- ワードセレクト信号(I2S0WS)

  I²S フォーマットにおいて、有効データの位置と Left データと Right データを区別するための信号です。データ転送クロックに同期しています。

  また、チャネル 0 のみ本信号を ADC への AD 変換のトリガ信号として使用することが可能です。

  WS 信号と、有効データの出力の関係は I²S フォーマットのほかに、『左寄せ』か『右寄せ』を選択することができます。

  また、チャネル 0 のみ ADC へ WS 信号の立ち上がりで割り込み要求を出力します。

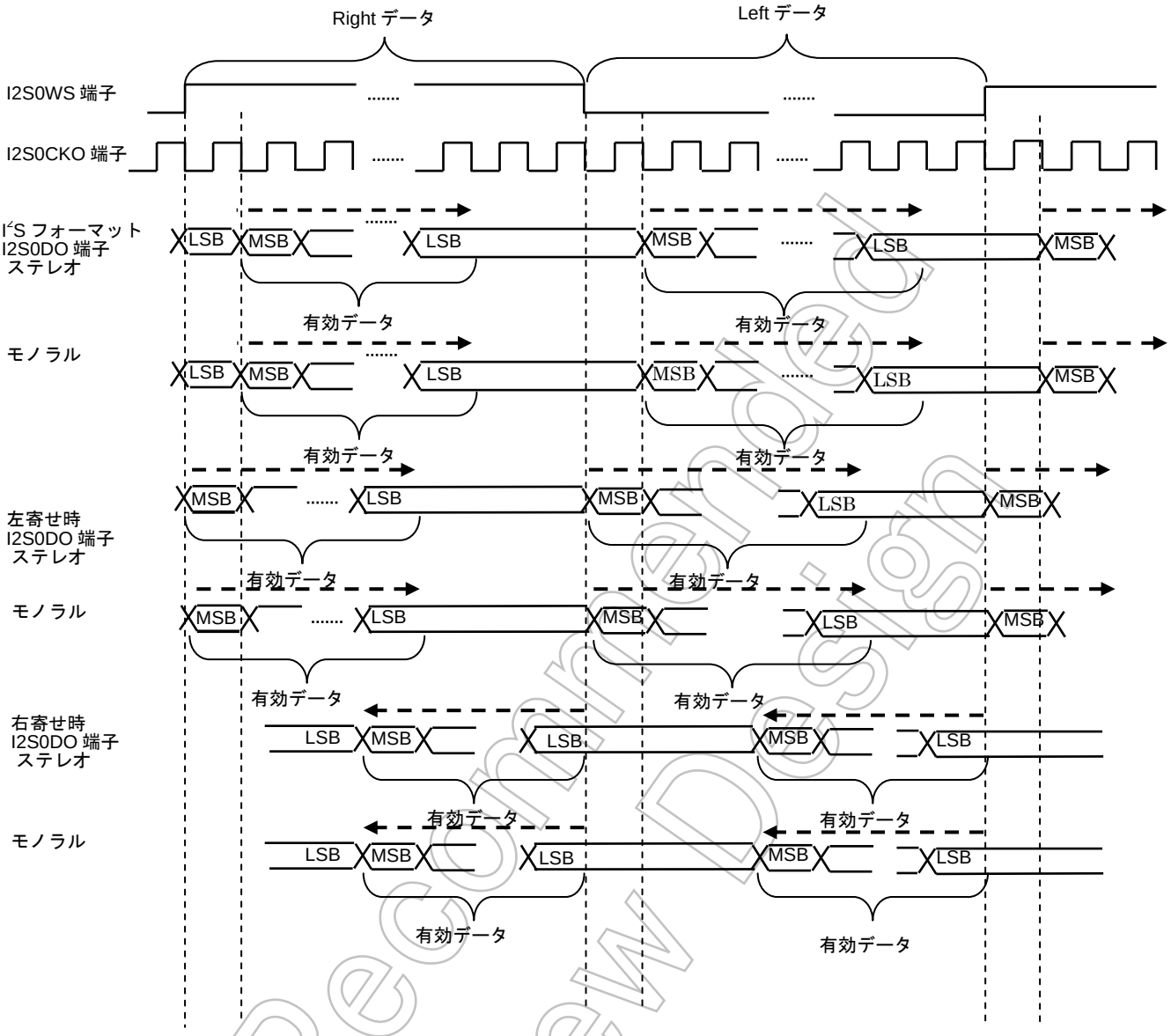
  (制御は ADC 内の制御レジスタにて行います)

(2) データフォーマット

I2S0CTL<DTFMT01:00>を設定することで、I²S フォーマットの他に、『左寄せ』か『右寄せ』を選択することができます。

また、I2S0CTL<FSEL0>を設定することで、ステレオ/モノラルの出力に対応しています。詳細は図 3.19.3を参照ください。

Not Recommended for New Design



注) モノラル設定時には、Right データと Left データは同じ信号が出力されます。また、ステレオ設定時には、送信 FIFO バッファ内のデータは、1 ワードずつ更新されますが、モノラル設定時には、同一データを 2 回送信後、次のデータに更新されます。
モノラル設定時には、左右同一のデータを送信 FIFO バッファに書き込む必要は無く、左右に同一のデータを出力します。

TMP92CZ26A/CF26A でサポートされているモノラル機能と、TMP92CF29A でサポートされているモノラル機能は異なっていますのでご注意ください。TMP92CZ26A/CF26A でサポートされているモノラル機能は、片チャネルのみ出力となります。

図 3.19.3　出力フォーマット

Not Recommended for New Design

(3) クロックジェネレータ(8 ビット/6 ビットカウンタ)設定例

クロックジェネレータは、データ転送速度とサンプリング周波数を定める基準クロックを生成するための回路です。

		7	6	5	4	3	2	1	0
I2S0C (180AH)	bit Symbol	CK07	CK06	CK05	CK04	CK03	CK02	CK01	CK00
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	CK 信号分周値設定(8 ビットカウンタ)							
		15	14	13	12	11	10	9	8
(180BH)	Bit symbol			WS05	WS04	WS03	WS02	WS01	WS00
	Read/Write			R/W					
	リセット後			0	0	0	0	0	0
	機能			WS 信号分周値設定(6 ビットカウンタ)					

- 転送クロック I2S0CKO の設定

I2S0CTL<CLKS0>にて選択されたクロックを分周して転送クロックを生成します。8 ビットのカウンタにて 3~256 分周の対応が可能です。(1、2 分周の設定は禁止)
また、転送クロックが 10MHz を超える設定は禁止です。使用する周波数と分周値の組み合わせによって転送クロックが 10MHz を超えないように設定してください。

例) 00000000 設定時=256 分周 00000001 設定時=1 分周

11111111 設定時=255 分周、f_{SYS} = 60MHz、I2S0C<CK07:00> = 150 の場合

[データ転送速度]

I2S0CKO = f_{SYS} / 150 = 60 [MHz] / 150 = 400 [kbps]

注) I2S0C<CK07:00>に設定する値は、偶数設定を推奨します。奇数設定も可能ですが、奇数設定の場合は CK 信号のクロック duty が 50(になりません。奇数設定された場合には、I2S0CKO 信号における High の期間が Low の期間よりも、f_{SYS} または f_{PLL} の 1 パルス分長く出力されます(<EDGE0> = “0”の時は Low 幅が長くなる)。

- サンプリング周波数 WS の設定

上記で設定した転送クロック(CK)を分周して転送クロックを生成します。6 ビットのカウンタにて 16(64 分周の対応が可能です(1~15 分周の設定は禁止)。

例)000000 設定時=64 分周、000001 設定時=1 分周、111111 設定時= 63 分周

f_{SYS} = 60MHz、I2SnC<CK07:00> =150、I2SnC<WS05:00> = 50 の場合

[サンプリング周波数]

I2S0CKO = f_{SYS} / 150 / 50 = 60 [MHz] / 150 / 50 = 8 [kHz]

本例では転送クロック 400kbps、サンプリング周波数 8kHz となります。

Not Recommended for New Design

注 1) I2S0C<WS05:00>に設定する値は、転送データ数以上のクロック数を設定することが必要です。データ長 8 ビットの場合は 16 以上(I^2S 転送の場合は 18 以上)、データ長 16 ビットの場合は 32 以上(I^2S 転送の場合は 34 以上)に設定してください。

注 2) I2S0C<WS05:00>に設定する値は、偶数設定を推奨します。奇数設定も可能ですが、奇数設定の場合は WS 信号のクロック duty が 50%になりません。奇数設定された場合には、WS 信号における High の期間が Low の期間よりも、I2S0CKO の 1 パルス分長く出力されます。

- 特殊機能

I2S0WS 信号を利用した特殊機能として、チャネル 0 にのみ、この信号の立ち上がりのタイミングを利用して、本 LSI に内蔵される AD コンバータの AD 変換をスタートさせることが出来ます。

I2S0CTL<SYSCKE0>= “1”、I2S0CTL<CNTE0>= “1”にすることで、I2S0WS 信号を内蔵の AD コンバータに送ることが出来ます。このとき、I2S0CTL<TXE0>の値には無関係に動作することが出来ます。

本信号を利用した、詳細な AD 変換の利用方法は、AD コンバータの章を参照してください。

(4) FIFO バッファおよびデータフォーマット

16 ビット(幅)×32(深さ)×2 の計 128 バイトの FIFO バッファを持っています。4 バイト(32 ビット)の I2S0BUF レジスタにデータをライトすると、この FIFO バッファへデータがライトされます。

本 FIFO バッファへのライトは 4 バイト単位でのライトが必要です。出力の順序、左右等を考慮する必要があります。送信レジスタ I2S0BUF にデータライトする時には必ず 4 バイトの転送命令を使用してください。1 バイト、2 バイトの転送命令を使用すると FIFO バッファは更新されず、送信も開始されません。またアドレスは、1800H にライトしてください。(チャネル 0 の場合です。チャネル 1 の場合は 1810H にライトしてください。

ライト データサイズ	命令実行例	ビット長=8bit 幅	ビット長=16bit 幅
1 バイトアクセス	ld (0x1800),a	×	×
2 バイトアクセス	ld (0x1800),wa	×	×
4 バイトアクセス	ld (0x1800),xwa	○	○

そのライトシーケンスは、

(4 バイト転送命令)× (16 回) = 64 バイトデータライト

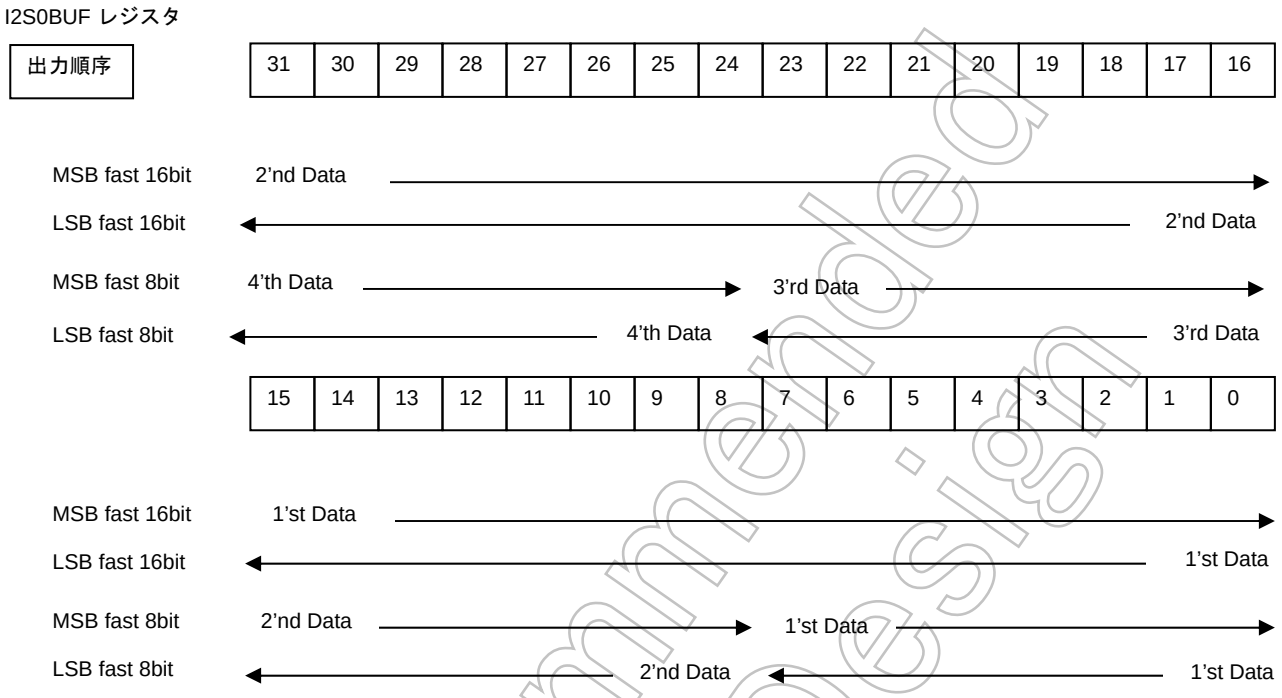
の 64 バイト単位でのデータライトをしてください。64 バイト単位で、データをライトしない場合、正常なタイミングで割り込みが発生しません。

I2S0CTL<TEMP0>フラグは、各々のチャネルの FIFO バッファ(128 バイト)に有効データが無い場合に“1”にセットされ、1 バイトでも有効なデータが存在する場合は“0”にリセットされます(FIFO バッファ内の最後の有効データが、送信シフトレジスタに送られた瞬間に TEMP0 フラグは“1”にセットされます)。

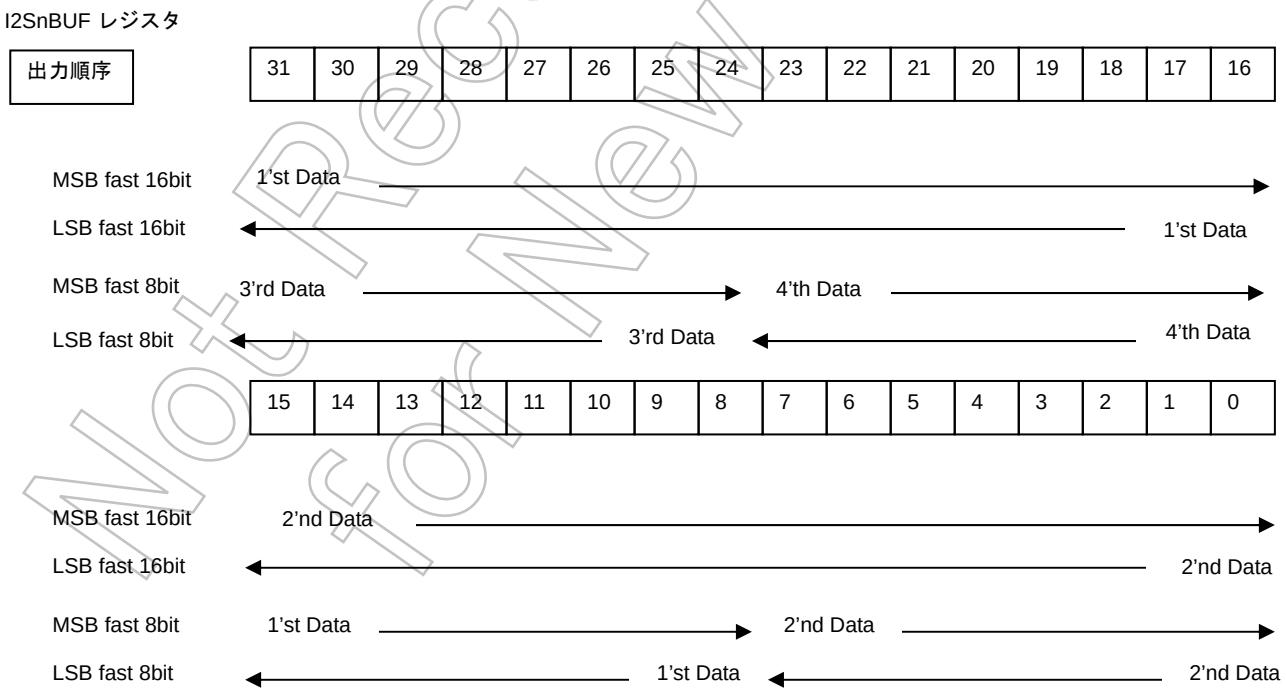
Not recommended for new design

ライトデータと出力順序は各々以下のようになります。

- I2S0CTL<WLVL0> = “0”の場合



- I2S0CTL<WLVL0> = “1”の場合



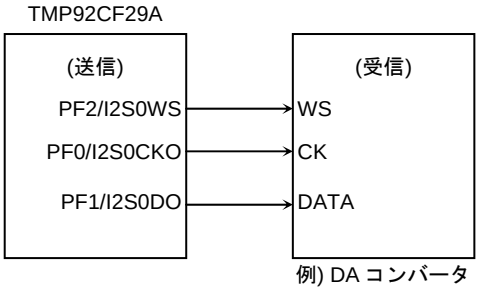
注) モノラル設定時は、左右の切り替え(I2S0CTL<WLVL0> = “0”と I2S0CTL<WLVL0> = “1”)で、データの出力順序が入れ替わりますので、ご注意ください。またモノラル設定時にはデータ更新が、同一データを 2 回送信してから更新されます。

Not Recommended for New Design

3.19.4 設定例

(1) 接続例

図 3.19.4 はチャネル 0 の外部LSIとの接続例を示しています。



注) RESET 後、PF0~PF2 はハイインピーダンス状態になります。必要に応じてプルアップ、あるいはプルダウンに接続してください。

図 3.19.4 外部 LSI との接続例

(2) 動作手順

連続して動作する 64 バイトの FIFO バッファを 2 個内蔵しており、64 バイト分の FIFO バッファのデータが空になるごとに、INTI2S0 割り込みが発生します。 割り込みルーチン中に次の送信データを FIFO バッファにライトしてください。

設定例およびタイミング図を以下に示します。

(設定例) I2S0WS を 8kHz、I2SnCKO を 400kHz、立ち上がりエッジに同期してデータ送信を行う場合 (@f_{SYS} = 60 MHz)

(メインルーチン)

	7	6	5	4	3	2	1	0	
INTEI2S01	X	–	–	–	X	0	0	1	割り込みレベルを設定
PFCR	X	X	–	–	–	–	–	–	端子を PF0 (I2S0CKO)、PF1 (I2S0DO)、PF2 (I2S0WS)に設定
PFFC	–	X	–	–	–	1	1	1	
I2S0C	1	0	0	1	0	1	1	0	分周値 N=150
	X	X	1	1	0	0	1	0	分週値 K=50
I2S0CTL	0	0	X	0	1	0	0	1	I^2S モード,MSB-first, 16bit に設定
	0	X	X	0	X	0	0	0	ステレオ,立下がりエッジ, WS=0 Left, Clock 停止に設定
I2S0BUF	*	*	*	*	*	*	*	*	左右 4 バイトデータを FIFO にライト (32times: 128 バイト分)
	*	*	*	*	*	*	*	*	
	*	*	*	*	*	*	*	*	
	*	*	*	*	*	*	*	*	
I2S0CTL	1	1	X	0	1	0	0	1	送信開始
	0	X	X	0	X	0	0	0	

(INTI2S 割り込みルーチン)

I2S0BUF	*	*	*	*	*	*	*	*	左右 4 バイトデータを FIFO にライト (16times: 64 バイト分)
	*	*	*	*	*	*	*	*	
	*	*	*	*	*	*	*	*	
	*	*	*	*	*	*	*	*	

X: Don't care, –: No change

Not Recommended for New Design

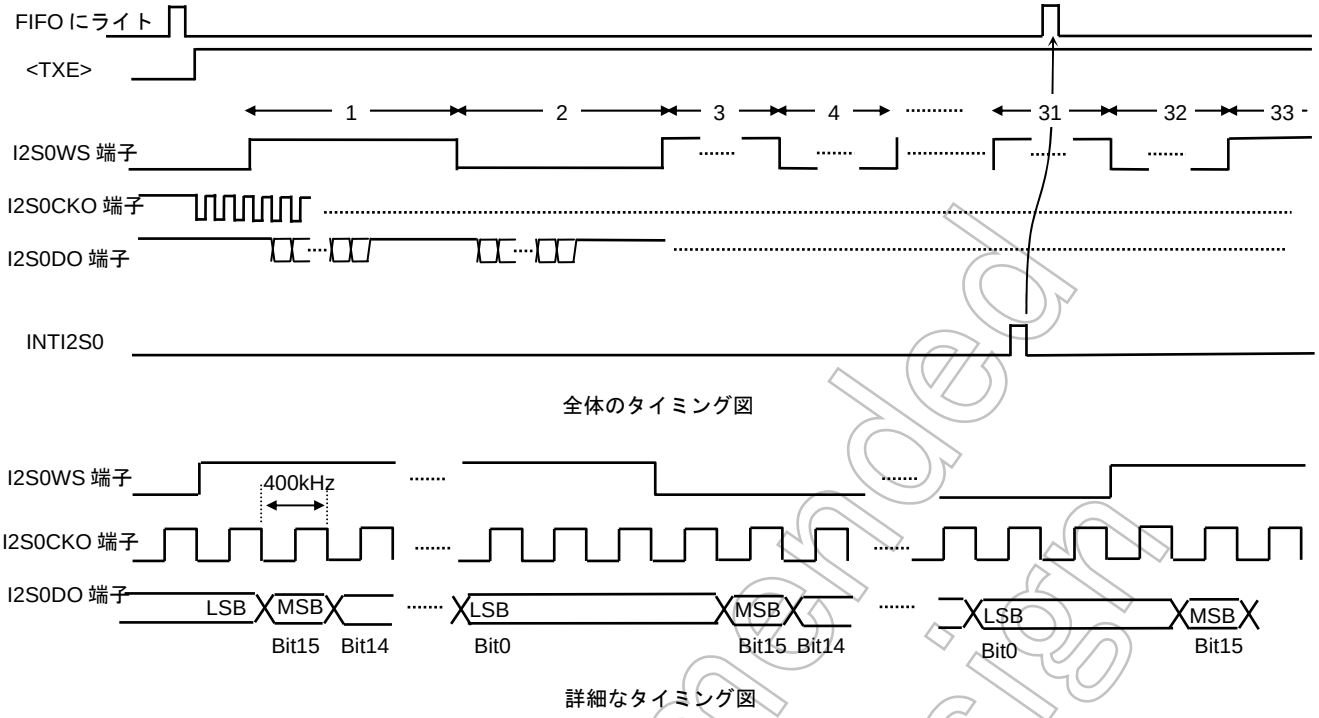


図 3.19.5 タイミング図 (I^2S フォーマット/ステレオ/16bit/MSB 1'st の場合)

(3) 注意事項

1) INTI2S0 発生タイミング

FIFO バッファから、内部シフトレジスタへは 4 バイト単位で転送されます。

INTI2S0 は FIFO バッファに 64 バイト分の空が出来る度(61 バイト目から、64 バイト目の、4 バイトのデータを内部シフトレジスタへ転送後)と、FIFO バッファが完全に空になった状態(125 バイト目から、128 バイト目の 4 バイトのデータを内部シフトレジスタへ転送後)の 2 つの事象で発生します。これにより FIFO バッファ内には 64 バイトまたは 128 バイトの空があることとなり、次のデータをライトイネーブルとなります。

FIFO バッファへのライトは 64 バイトごとのライトが基本となります。FIFO バッファは 128 バイト分ありますので、残りの 64 バイト分の FIFO バッファが空になるまでは、I^2S 出力は途切れることなく出力することが可能です。I2S0CTL<TEMP0> フラグを確認して、送信 FIFO バッファの状態を判断することも可能です。

Not Recommended for New Design

2) I2S0CTL<TXE0>

<TXE0>レジスタに“1”をライトすることによって送信を開始し、“0”をライトすることによって停止します。<TXE0>に一度“1”をライトすると、FIFO バッファにデータが有る限り自動的にデータを送信します。 <TXE0> = “1”の時(送信中)、は他の制御ビットの書き換えはしないでください。

送信を停止する場合、I2S0CTL<TEMP0>フラグを確認して FIFO バッファにデータが無いことを確認し、現在設定している I2S0WS の周期、2 周期が終了した時点(データが全て送信された後)で、“0”を<TXE0>にライトして停止させてください。ただし、モノラル転送の場合は I20SWS の周期、4 周期が終了した時点(データが全て送信された後)で、“0”を<TXE0>にライトして停止させてください。

なお、送信中に<TXE0>に“0”をライトした場合は、直ちに送信を停止します。また送信を停止すると、同時に内蔵 FIFO バッファのリード・ライトポインタ、出力シフトレジスタのデータ、クロックジェネレータのカウンタがクリアされます(ただし、I2S0CTL<CNTE0>=“1”の時、クロックジェネレータはクリアされません。チャネル 0 でクロックジェネレータをクリアする場合は、I2S0CTL<CNTE0>=“0”に設定してください)。そのため、一旦送信ストップ後に再度送信を開始しても、何も出力されません。

さらに、外部端子信号 WS は“L” に、CK はエッジの設定によって立ち上がりエッジの場合“L”に、立ち下がりエッジの場合“H”で停止します。

3) I2S0CTL<CNTE0>

I2S0CKO および、I2S0WS を生成するクロックジェネレータ(8bit/6bit カウンタ)を制御するビットです。

I2S0CTL<CNTE0>に“1”をライトすると、カウンタがスタートし、“0”をライトするとカウンタがクリアされます。通常、I²S データを送信する際は、I2S0CTL<TXE0>と I2S0CTL<CNTE0>の両方に“1”をライトし、送信を実行します。送信を停止する際も、I2S0CTL<TXE0>を“0”にし、I2S0CTL<CNTE0>= “1”では、クロックジェネレータはクリアされません。クロックジェネレータをクリアする場合は、I2S0CTL<CNTE0>= “0”に設定してください。

4) FIFO バッファ

128 バイトの FIFO バッファが用意されていますが、全ての FIFO バッファ領域を使用する必要はありません。その際、INTI2S0 割り込みをトリガに、64 バイトごとのライトが基本となります。INTI2S0 割り込みを待たずにライトしたり、64 バイト以外のライトを行うと、割り込みが正常に発生しません。また、FIFO バッファにデータをライトする時には、必ず<SYSCKE0>=“1”に設定する必要があります。

割り込みが不要な、最終データのライトが 64 バイトに満たない場合は、必要なデータをライト、その後 TEMP0 フラグが“1”になることを確認し、現在設定している I2S0WS の周期、2 周期が終了した時点(データが全て送信された後)で、“0”を<TXE0>にライトして停止させてください。ただし、モノラル転送の場合は I2S0WS の周期、4 周期が終了した時点(データが全て送信された後)で、“0”を<TXE0>にライトして停止させてください。

Not Recommended for New Design

5) I2S0BUF のアドレス

I2S0BUF にデータをライトする際には “ロングワードデータ転送命令”を 使用します。“ワードデータ転送命令” 、“バイトデータ転送命令”は使用できません。

```
例)  ld   (I2S0BUF),xwa;  OK
     ld   (I2S0BUF), wa;  NG
     ld   (I2S0BUF), a;   NG
```

6) HALT 命令との併用

I^2S 回路は IDLE1/STOP モードでは動作しませんので、IDLE1 時にも動作する PLL クロックが、回路に誤動作を招く可能性があります。HALT モードに移行する前には I^2S 回路を停止させてください。

また、送信を停止して、CPU を HALT モードに移行される場合、停止命令から HALT 実行までに、回路を正常に停止させる時間が必要です。NOP×10 時間を必要とします。

```
例)  ld   (I2S0CTL), 0x00  ;送信停止
     NOP×10
     HALT
```

Not Recommended for New Design

3.20 LCDコントローラ (LCDC)

LCD ドライバ LSI(LCD モジュール)を制御する LCD コントローラを 内蔵しています。

サポートできる表示は、モノクロ/グレー、256~65536 色カラー表示、表示サイズは 64 × 64 から 640 × 480 dot までに対応しています。

LCD ドライバ(LCD モジュール)の種類としては、STN (Super Twisted Nematic)、およびデジタル RGB 入力の TFT (Thin Film Transistor) に対応しています。

- STN 対応

STN 方式の LCD ドライバでは、8bit 幅のデータ I/F により 2 (モノクロ) /4Gray /16Gray /64Gray /256 Color /4096 Color/65536 Color 色が対応可能です。

動作モード、表示 RAM のスタートアドレス、LCD サイズ(コモン、セグメント)などを I/O レジスタに設定後スタートレジスタをセットします。それにより、LCDC は CPU にバス開放要求を出力し表示 RAM からデータをリードし、必要に応じたデータ変換を行い専用 FI/FO バッファにライトします。

- TFT カラー対応モード

デジタル RGB 入力の TFT ドライバに対応しています。

TFT 対応 LCD ドライバでは 8 ~ 16bit 幅のデータ I/F により、4096/65536 色が対応可能です。データの転送方法は上記シフトレジスタと同様です。

8bit(R3:G3:B2)、12bitRGB(R4:G4:B4)、16bitRGB(R5:G6:B5 の表示データと、データを取り込むシフトクロック LCP0、フレーム信号 LFR、データロード信号 LLOAD 信号の他に反転データを出力していることを示す LDIV 端子を持っており、ノイズ低減/消費電流などに効果を発揮します。

また、ゲートドライバの制御には水平同期信号 LHSYNC、垂直同期信号 LVSYNC の他に TFT ドライバメーカーの各種信号に対応するためにプログラマブルに制御出来る 3 ビットの OE 端子を有しています。

また特殊仕様として、モノクロ TFT 液晶パネルの出力にも対応しています。

Not Recommended for New Design

3.20.1 タイプ別LCDCの特長

それぞれモードについての特長 、端子の使用方法などを下記に示します。

表 3.20.1 タイプ別 LCDC の特長

(接続例では東芝製 LCD ドライバを接続することを前提に信号名などを記述しています)

LCD ドライバの種類		シフトレジスタ型	
		TFT	STN
表示色		256/4096/65536 色カラー	モノクロ、4、16、64 階調 256/4096/65536 色カラー
対応可能な LCD 表示画素数		モノクロ TFT の場合 ROW(common): 64,96,128,160,200,240,320,480 Column (Segment): 240,320,480,640	モノクロ/グレー/4096 色以下表示の場合 ROW (common): 64,96,120,128,160,200,240,320,480 Column (Segment): 64,128,160,240,320,480,640
		4096 色以下の場合 ROW(common): 64,96,128,160,200,240,320,480 Column (Segment): 64,128,160,240,320,480,640	
		65536 色以下表示の場合 ROW(common): 64,96,128,160,200,240,320,480 Column (Segment): 64,128,160,240,320, 480	65536 色以下表示の場合 ROW(common): 64,96,128,160,200,240,320,480 Column (Segment): 64,128,160,240,320
データ・ローテーション機能		左右反転、上下反転、左右上下反転、90 度回転機能 QVGA サイズ、65536 カラーのみ対応	
PIP 機能対応		サブウインドウ挿入	
転送元データバス幅 (SRAM,SDRAM)		16(32: 内蔵 RAM)bit, 外部 32bit には未対応	16(32: 内蔵 RAM)bit, 外部 32bit には未対応
転送先データバス幅 (LCD ドライバ)		8~16bit	8bit
最大転送レート (VRAM Read)		1-clk / 4Byte @ 内蔵 RAM	
外部端子	LCD ドライバ data Bus: LD15~LD0 端子	LCD ドライバのデータバスへ接続します。 ・ 8bit モード時は LD7~LD0 ・TFT モード時は LD15~LD0	
	LCP0 端子	TFT ソースドライバのデータシフトクロックです。	シフトクロックパルス出力端子 0 です。カラムドライバの CP 端子へ接続します。この端子の立下がりエッジで LCD ドライバはデータバスの値をラッチします。
	LHSYNC 端子	TFT ゲートドライバのシフトクロック(垂直シフトクロック)です。	ラッチパルス出力端子です。ドライバの LP 端子へ接続します。この端子の立ち上がりエッジで LCD ドライバの出力段レジスタに表示データが更新されます。
	LLOAD 端子	TFT ソースドライバが TFT パネルへデータをロードするためのイネーブル信号です。	N/A
	LGOE0~LGOE2 端子	TFT ゲートドライバのゲート制御信号の調整信号です。	N/A
	LFR 端子	LCD 交流化信号出力端子です。カラム/ロードライバの FR 端子へ接続します。	LCD 交流化信号出力端子です。カラム/ロードライバの FR 端子へ接続します。
	LVSYNC 端子	TFT ゲートドライバのシフトクロックの取り込み開始を示す信号です。	LCD のリフレッシュレートを決める周波数です。
	LDIV 端子	データ反転機能を持つ TFT ソースドライバに接続します。データが反転していることを示す端子です。	N/A

Not Recommended for New Design

3.20.2 SFR

LCDMODE0 レジスタ

LCDMODE0 (0280H)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	RAMTYPE1	RAMTYPE0	SCPW1	SCPW0	MODE3	MODE2	MODE1	MODE0
Read/Write	R/W							
リセット後	0	0	1	1	0	0	0	0
機能	表示 RAM 00: 内蔵 RAM 01: 外部 SRAM 10: SDRAM 11: Reserved		LD バス転送速度 SCPW2= 0 00: 2-clk 01: 4-clk 10: 8-clk 11: 16-clk SCPW2= 1 00: 6-clk 01: 12-clk 10: 24-clk 11: 48-clk		モード選択 0000 : Reserved 0001 : SR 型モノクロ 0010 : SR 型 4Gray 0011 : Reserved 0100 : SR 型 16Gray 0101 : SR 型 64Gray 0110 : STN256 色 0111 : STN4096 色		1000 : STN64K 色 1001 : Reserved 1010 : TFT256 色 1011 : TFT4096 色 1100 : TFT64K 色 1101 : Reserved 1110 : TFT モノクロ 1111 : Reserved	

注) LCDC の表示 RAM に設定した SDRAM のアクセス方法は"Burst 1clk Access"のみです。

LCDMODE1 レジスタ

LCDMODE1 (0281H)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	LDC2	LDC1	LDC0	LDINV	AUTOINV	INTMODE	FREDGE	SCPW2
Read/Write	R/W						W	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
機能	データ変換機能 (64K カラー:16bps のみ対応) 000: 通常 001: 左右反転 010: 上下反転 011: 上下左右 100: 横 → 縦 101: Reserved 110: Reserved 111: Reserved			LD バス反転 0:ノーマル 1:反転	自動バス反転 0:停止 1:動作 (TFT 設定時のみ有効)	割り込み選択 0:LLOAD 1:LVSYNC	FR エッジ切り替え 0: LHSYNC 前エッジ同期 1:LHSYNC 後エッジ同期	LD バス転送速度 0: normal 1: 1/3 設定

注) <LDINV>=1 設定にて LD バスの出力データはすべて反転して出力されますが、「自動バス反転」における反転状態を示す LDIV 端子の信号は変化しません。

LCD サイズ 設定レジスタ

LCDSIZE (0284H)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	COM3	COM2	COM1	COM0	SEG3	SEG2	SEG1	SEG0
Read/Write	R/W							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
機能	コモン設定 0000 : reserved 0001 : 64 0010 : 96 0011 : 120 0100 : 128 0101 : 160 0110 : 200 0111 : 240		1000 : 320 1001 : 480 1010 : Reserved 1011 : Reserved 1100 : Reserved 1101 : Reserved 1110 : Reserved 1111 : Reserved		セグメント設定 0000 : Reserved 0001 : 64 0010 : 128 0011 : 160 0100 : 240 0101 : 320 0110 : 480 0111 : 640		1000 : Reserved 1001 : Reserved 1010 : Reserved 1011 : Reserved 1100 : Reserved 1101 : Reserved 1110 : Reserved 1111 : Reserved	

注 1) 本 LSI は表示 RAM に設定可能な 144Kbyte の大容量 RAM を内蔵していますが、表示サイズと最大表示色によっては内蔵 RAM 容量では不足となる場合がありますので、ご注意ください。

注 2)TFT モノクロモードを使用する場合、64、128、160 セグメントの設定は使用できません。

Not Recommended for New Design

LCD コントロール 0 レジスタ

LCDCTL0 (0285H)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PIPE	ALL0	FRMON	–		DLS	LCP0OC	START
Read/Write	R/W			R/W		R/W		
リセット後	0	0	0	0		0	0	0
機能	PIP 機能 0:Disable 1:Enable	セグメント データ設定 0:通常 1:出力 全て"0"出力	FR 分割 設定 0: 停止 1: 動作	"0"をライトしてください。		FR 信号 LCP0/Line 切り替え 0:Line 1:LCP0	LCP0(注) 0:常に出力 1:有効データ出力時 LLOAD Enable 幅 0:設定値 1:有効データ出力時	LCDC 動作 0:停止 1:動作

注)STN 設定時は、<LCP0OC>ビットの設定に関わらず、LCP0 信号は有効データ出力時に出力されます。

LCD コントロール 1 レジスタ

LCDCTL1 (0286H)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	LCP0P	LHSP	LVSP	LLDP			LVSW1	LVSW0
Read/Write	R/W						R/W	
リセット後	1	0	1	0			0	0
機能	LCP0 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり	LHSYNC 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり	LVSYNC 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり	LLOAD 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり			LVSYNC イネーブル時間制御 00 : LHSYNC_1CLK 01 : LHSYNC_2CLK 10 : LHSYNC_3CLK 11 : Reserved	

LCD コントロール 2 レジスタ

LCDCTL2 (0287H)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	LGOE2P	LGOE1P	LGOE0P					
Read/Write	R/W							
リセット後	0	0	0					
機能	LGOE2 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり	LGOE1 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり	LGOE0 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり					

Divide FRM0 レジスタ

LCDDVM0 (0283H)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	FMP3	FMP2	FMP1	FMP0	FML3	FML2	FML1	FML0
Read/Write	R/W							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
機能	LCP0 DVM bit3-0 設定				LHSYNC DVM bit3-0 設定			

Divide FRM1 レジスタ

LCDDVM1 (0288H)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	FMP7	FMP6	FMP5	FMP4	FML7	FML6	FML5	FML4
Read/Write	R/W							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
機能	LCP0 DVM bit7-4 設定				LHSYNC DVM bit7-4 設定			

Not Recommended for New Design

LCD LHSYNC Pulse レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDHSP (028AH)	bit Symbol	LH7	LH6	LH5	LH4	LH3	LH2	LH1	LH0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LHSYNC cycle 設定 bit7-0							
		7	6	5	4	3	2	1	0
(028BH)	bit Symbol	LH15	LH14	LH13	LH12	LH11	LH10	LH9	LH8
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LHSYNC cycle 設定 bit15-8							

LCD LVSYNC Pulse レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDVSP (028CH)	bit Symbol	LVP7	LVP6	LVP5	LVP4	LVP3	LVP2	LVP1	LVP0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LVSYNC cycle 設定 bit7-0							
		7	6	5	4	3	2	1	0
(028DH)	bit Symbol							LVP9	LVP8
	Read/Write							R/W	
	リセット後							0	0
	機能							LVSYNC cycle 設定 bit9-8	

LCD LVSYNC Pre Pulse レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDPRVSP (028EH)	bit Symbol		PLV6	PLV5	PLV4	PLV3	PLV2	PLV1	PLV0
	Read/Write		R/W						
	リセット後		0	0	0	0	0	0	0
	機能		LVSYNC Pre-cycle 設定 bit6-0						

Not Recommended for New Design

LHSYNC Delay レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDHSDLY (028FH)	bit Symbol		HSD6	HSD5	HSD4	HSD3	HSD2	HSD1	HSD0
	Read/Write		R/W						
	リセット後		0	0	0	0	0	0	0
	機能		LHSYNC Delay 設定 bit6-0						

LLOAD Delay レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDLDDLY (0290H)	bit Symbol	PDT	LDD6	LDD5	LDD4	LDD3	LDD2	LDD1	LDD0
	Read/Write	R/W	R/W						
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	データ出力タイミング 0:LLOAD と同時 1:LLOAD より 1clk 遅れ	LLOAD Delay 設定 bit6-0						

LGOE0 Delay レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDO0DLY (0291H)	bit Symbol		OE0D6	OE0D5	OE0D4	OE0D3	OE0D2	OE0D1	OE0D0
	Read/Write		R/W						
	リセット後		0	0	0	0	0	0	0
	機能		OE0 Delay 設定 bit6-0						

LGOE1 Delay レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDO1DLY (0292H)	bit Symbol		OE1D6	OE1D5	OE1D4	OE1D3	OE1D2	OE1D1	OE1D0
	Read/Write		R/W						
	リセット後		0	0	0	0	0	0	0
	機能		Setting bit6-0 for OE1 Delay						

LGOE2 Delay レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDO2DLY (0293H)	bit Symbol		OE2D6	OE2D5	OE2D4	OE2D3	OE2D2	OE2D1	OE2D0
	Read/Write		R/W						
	リセット後		0	0	0	0	0	0	0
	機能		Setting bit6-0 for OE2 Delay						

Not Recommended for New Design

LHSYNC width レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDHSW (0294H)	bit Symbol	HSW7	HSW6	HSW5	HSW4	HSW3	HSW2	HSW1	HSW0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LHSYNC Width 設定 bit7-0							

LLOAD width レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDLDW (0295H)	bit Symbol	LDW7	LDW6	LDW5	LDW4	LDW3	LDW2	LDW1	LDW0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LLOAD Width 設定 bit7-0							

LGOE0 width レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDHO0W (0296H)	bit Symbol	O0W7	O0W6	O0W5	O0W4	O0W3	O0W2	O0W1	O0W0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LGOE0 Width 設定 bit7-0							

LGOE1 width レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDHO1W (0297H)	bit Symbol	O1W7	O1W6	O1W5	O1W4	O1W3	O1W2	O1W1	O1W0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LGOE1 Width 設定 bit7-0							

LGOE2 width レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDHO2W (0298H)	bit Symbol	O2W7	O2W6	O2W5	O2W4	O2W3	O2W2	O2W1	O2W0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LGOE2 Width 設定 bit7-0							

signal width Bit8,9 レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDHWB8 (0299H)	bit Symbol	O2W9	O2W8	O1W9	O1W8	O0W8	LDW9	LDW8	HSW8
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	Setting bit8,9 for LGOE2 Width		Setting bit8,9 for LGOE1 Width		Setting bit8 for LGOE0 Width	Setting bit8,9 for LLOAD Width		Setting bit8 for LHSYNC Width

Not Recommended for New Design

LCD Main Area Start address レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LSAML (02A0H)	bit Symbol	LMSA7	LMSA6	LMSA5	LMSA4	LMSA3	LMSA2	LMSA1	
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	
	機能	LCD メインエリア スタートアドレス(A7-A1)							
		7	6	5	4	3	2	1	0
LSAMM (02A1H)	bit Symbol	LMSA15	LMSA14	LMSA13	LMSA12	LMSA11	LMSA10	LMSA9	LMSA8
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LCD メインエリア スタートアドレス(A15-A8)							
		7	6	5	4	3	2	1	0
LSAMH (02A2H)	bit Symbol	LMSA23	LMSA22	LMSA21	LMSA20	LMSA19	LMSA18	LMSA17	LMSA16
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	1	0	0	0	0	0	0
	機能	LCD メインエリア スタートアドレス (A23-A16)							

注)内蔵 RAM を VRAM に設定した場合、A1 信号は設定できません。4 バイト単位での設定となります。

LCD Sub Area Start address レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LSASL (02A4H)	bit Symbol	LSSA7	LSSA6	LSSA5	LSSA4	LSSA3	LSSA2	LSSA1	
	Read/Write							R/W	
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	
	機能	LCD サブエリア スタートアドレス(A7-A1)							
		7	6	5	4	3	2	1	0
LSASM (02A5H)	bit Symbol	LSSA15	LSSA14	LSSA13	LSSA12	LSSA11	LSSA10	LSSA9	LSSA8
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LCD サブエリア スタートアドレス(A15-A8)							
		7	6	5	4	3	2	1	0
LSASH (02A6H)	bit Symbol	LSSA23	LSSA22	LSSA21	LSSA20	LSSA19	LSSA18	LSSA17	LSSA16
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	1	0	0	0	0	0	0
	機能	LCD サブエリア スタートアドレス(A23-A16)							

注)内蔵 RAM を VRAM に設定した場合、A1 信号は設定できません。4 バイト単位での設定となります。

LCD Sub Area Hot Point レジスタ (X-dir)

		7	6	5	4	3	2	1	0
LSAHX (02A8H)	bit Symbol	SAHX7	SAHX6	SAHX5	SAHX4	SAHX3	SAHX2	SAHX1	SAHX0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LCD Sub Area Hot Point Set Register (7-0)							
		7	6	5	4	3	2	1	0
(02A9H)	bit Symbol							SAHX9	SAHX8
	Read/Write							R/W	
	リセット後							0	0
	機能							LCD Sub Area Hot Point Set Register (9-8)	

Not Recommended for New Design

LCD Sub Area Hot Point レジスタ (Y-dir)

		7	6	5	4	3	2	1	0
LSAHY (02AAH)	bit Symbol	SAHY7	SAHY6	SAHY5	SAHY4	SAHY3	SAHY2	SAHY1	SAHY0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LCD Sub Area Hot Point Set Register (7-0)							
		7	6	5	4	3	2	1	0
(02ABH)	bit Symbol								SAHY8
	Read/Write								R/W
	リセット後								0
	機能								LCD Sub Area Hot Point Set Register (8)

LCD Sub Area display segment size レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LSASS (02ACH)	bit Symbol	SAS7	SAS6	SAS5	SAS4	SAS3	SAS2	SAS1	SAS0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LCD Sub Area Segment Size Set Register (7-0)							
		7	6	5	4	3	2	1	0
(02ADH)	bit Symbol							SAS9	SAS8
	Read/Write							R/W	
	リセット後							0	0
	機能							LCD Sub Area Segment Size Set Register (9-8)	

LCD Sub Area display common size レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LSACS (02AEH)	bit Symbol	SAC7	SAC6	SAC5	SAC4	SAC3	SAC2	SAC1	SAC0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LCD Sub Area Common Size Set Register (7-0)							
		7	6	5	4	3	2	1	0
(02AFH)	bit Symbol								SAC8
	Read/Write								R/W
	リセット後								0
	機能								LCD Sub Area Common Size Set Register (8)

Not Recommended for New Design

3.20.3 動作説明

3.20.3.1 動作概要

あらかじめ動作モード、転送元データ表示メモリのアドレス、 階調レベル、LCD サイズなどを I/O レジスタに設定後、スタートレジスタをセットします。

LCD コントローラは、CPU にバス開放要求(バス停止要求)し、表示 RAM からデータをリードします。表示サイズ分のデータを LCD コントローラ内部の FI/FO バッファへ格納後バス権を CPU に戻します。

FI/FO バッファ内の表示データは、LCD 専用のバス(LD 端子)より LCD ドライバへ転送されます。この時、データ転送に同期して LCD ドライバへ接続される LCP0 などの制御端子も規定の波形を出力します。

注) 表示 RAM データのリード中は、CPU が内部 BUSREQ 信号によって停止しています。従って CPU 停止時間を考慮してプログラミングする必要があります。

表示 RAM としては、外部の SDRAM、SRAM、または内蔵 RAM(144KByte)に対応しています。内蔵 RAM のアクセスは非常に高速に行われるため(32bit バス、2-1-1-1 システムクロックでのリードライト)、LCD コントローラがデータバスの制御権を奪取し、CPU 動作を停止する時間を最小限に押さえて、LCD ドライバへのデータ転送(DMA 動作)を実現しています。また、内蔵 RAM を使うことで表示中の消費電流を大幅に低減しています。

3.20.3.2 表示メモリのマッピング

表示 RAM の使用量は、同一の画素数の場合でも、表示色の違いによって、表示 1 画素分のデータ量に差があるため、それぞれ異なります(表示色はモノクロ ~ 65536 色の選択が可能)。

モノクロの場合、表示 1 画素は表示 RAM の 1bit に相当します。

同様に表示 RAM の使用量は以下のようになります。

4 階調	1 pixel = 2 bits
16 階調	1 pixel = 4 bits
64 階調	1 pixel = 6 bits
STN カラー 256 色	1 pixel = 8 bits
STN カラー4096 色	1 pixel = 12 bits
STN カラー65536 色	1 pixel = 16 bits

たとえば 4 階調表示の場合、で 320 セグメント×240 コモンの表示をさせる場合、表示 RAM には 320×240×2=152600bit (=19200Byte) の空間が必要となります。

詳細は後述の「各表示モードにおけるメモリマップイメージとデータ出力」を参照してください。

Not Recommended for New Design

3.20.3.3 表示RAMについて

本 LSD コントローラでは、表示用の RAM を内蔵 RAM、外部 SRAM、外部 SDRAM の設定が可能ですが、外部 SDRAM に設定する場合、下記の制約があります。

本マイコンには LCD コントローラと、DRAM コントローラ、DMAC 機能が内蔵されていますが、LCD コントローラの表示用 RAM を SDRAM に設定し、且つ、DMAC を併用する場合に限り、SDRAM 設定に条件が追加されます。SDACR<SPRE>= “0”の設定は出来ません。必ず、SDACR<SPRE>= “1”に設定してください。

SDRAM 設定の詳細については、SDRAMC の章を参照してください。

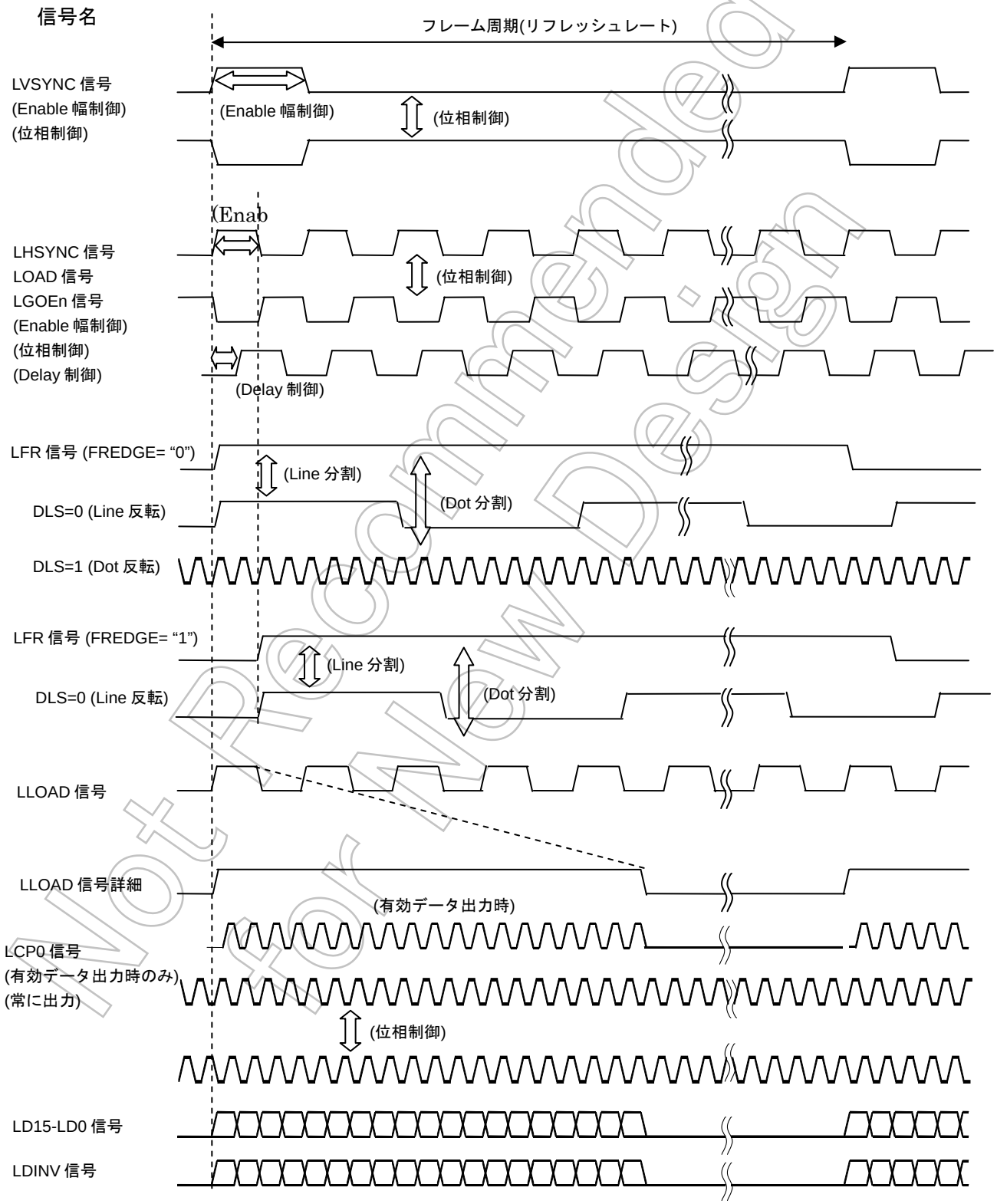
Not Recommended for New Design

3.20.3.4 基本動作

下記の図に LCD コントローラが生成する波形の基本タイミングと調整可能な機能を説明しています。

各々の信号はその Enable 時間、位相、Delay 時間等を調整することができます。

使用する LCD ドライバの種類(STN/TFT)や、仕様の違いによって使用する信号と接続方法、および設定方法が異なります。



Not Recommended for New Design

3.20.3.5 基準クロックLCP0 の設定

LCD コントローラ内において、すべての信号の基準になるクロックは LCP0 です。ここでは、LCP0 信号の周波数(周期)の設定方法を説明します。

TFT または STN モードを設定し LCDMODE0<SCPW1:0>、LCDMODE1<SCPW2>を設定することで、LCP0 のクロックスピード(LD バスの転送速度)が決定します。使用する LCD ドライバの特性に合わせて選択してください。

4 種類の LCP0 周期($f_{SYS}/2$, $f_{SYS}/4$, $f_{SYS}/6$, $f_{SYS}/8$, $f_{SYS}/12$, $f_{SYS}/16$, $f_{SYS}/24$, $f_{SYS}/48$)から選択できます。

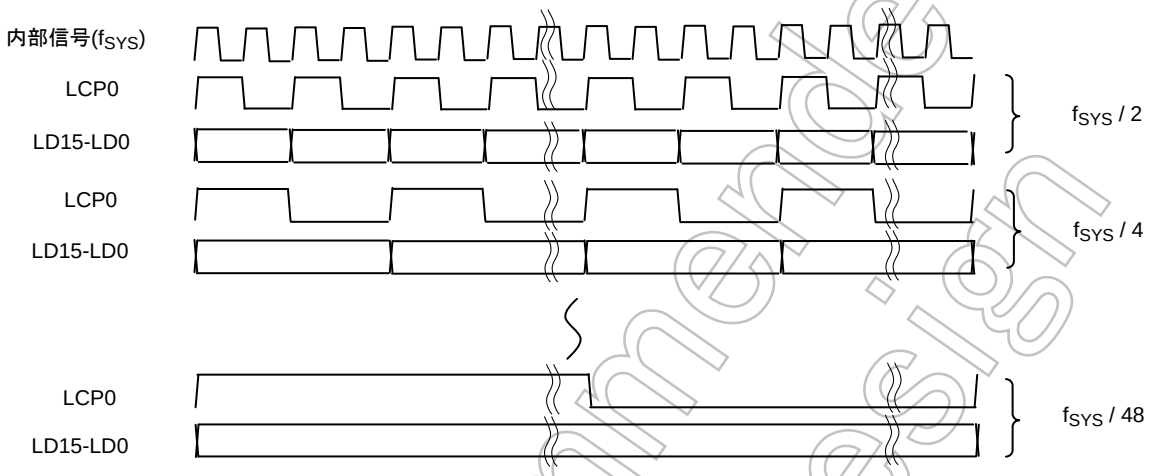


図 3.20.1 LCP 周波数選択

最低スピード

LCP0 周期を遅くしすぎることで、次段の信号に重ならないようにすることが必要です。

リフレッシュレートにあった表示データの転送スピードを設定しないと、正常にデータが転送されません。LHSYNC の周期内にデータ転送が終了するようにデータ転送スピードを設定してください。

STN カラー以外の場合 : セグメントサイズ / 8 × LCP0 [S:周期] < LHSYNC [S:周期]
STN カラーの場合 : セグメントサイズ × 3 / 8 LCP0 [S:周期] < LHSYNC [S:周期]
TFT の場合 : セグメントサイズ × LCP0 [S:周期] < LHSYNC [S:周期]

最高スピード

LCP0 周期を早くしすぎると、LCD ドライバへ転送するデータが準備できない内にデータを転送することとなり、誤動作します。動作モード、表示 RAM の種類(バス幅、Wait 等)を条件に最高スピードが制限されます。また、データ・ローテーション機能を併用した場合にはさらに転送スピードを遅くする必要があります。

Not Recommended for New Design

LCP0 設定範囲早見表

条件 : f_{SYS} = 60MHz
画面サイズ : カラーの場合 ~320 × 320
画面サイズ : モノクロ/グレーの場合 ~640 × 480

注) 本表は、上記条件での LCP0 の設定可能な範囲です。CPU クロックスピードや、画面サイズを変更、またはリフレッシュレート等を変更した場合は、LCP0 の範囲も変わりますので、ご注意ください。

表示 RAM / 表示モード	内蔵 RAM	SDRAM	外部 SRAM (0-WAIT)	外部 SRAM (N-WAIT)
STN モノクロ Refresh Cycle=70Hz	$f_{SYS}/2$ ~ $f_{SYS}/16$	$f_{SYS}/2$ ~ $f_{SYS}/16$	$f_{SYS}/2$ ~ $f_{SYS}/16$	$f_{SYS}/4$ ~ $f_{SYS}/16$(~2WAIT まで) $f_{SYS}/8$ ~ $f_{SYS}/16$(~6WAIT まで) $f_{SYS}/16$(~14WAIT まで)
STN 4Gray Refresh Cycle=70Hz	$f_{SYS}/2$ ~ $f_{SYS}/16$	$f_{SYS}/2$ ~ $f_{SYS}/16$	$f_{SYS}/2$ ~ $f_{SYS}/16$	$f_{SYS}/4$~ $f_{SYS}/8$(~2WAIT まで) $f_{SYS}/8$(~6WAIT まで)
STN 16Gray Refresh Cycle=140Hz	$f_{SYS}/2$ ~ $f_{SYS}/8$	$f_{SYS}/2$ ~ $f_{SYS}/8$	$f_{SYS}/4$ ~ $f_{SYS}/8$	$f_{SYS}/8$~ $f_{SYS}/16$(~2WAIT まで) $f_{SYS}/16$(~6WAIT まで)
STN 64Gray Refresh Cycle=200Hz	$f_{SYS}/4$	$f_{SYS}/4$	$f_{SYS}/4$	$f_{SYS}/4$(~1WAIT まで)
STN 256 カラー Refresh Cycle=70Hz	$f_{SYS}/2$ ~ $f_{SYS}/16$	$f_{SYS}/2$ ~ $f_{SYS}/16$	$f_{SYS}/4$ ~ $f_{SYS}/16$	$f_{SYS}/8$~ $f_{SYS}/16$(~2WAIT まで) $f_{SYS}/16$(~6WAIT まで)
STN 4K カラー Refresh Cycle=70Hz	$f_{SYS}/2$ ~ $f_{SYS}/16$	$f_{SYS}/2$ ~ $f_{SYS}/16$	$f_{SYS}/4$ ~ $f_{SYS}/16$	$f_{SYS}/4$ ~ $f_{SYS}/16$(~2WAIT まで) $f_{SYS}/8$~ $f_{SYS}/16$(~6WAIT まで) $f_{SYS}/16$(~14WAIT まで)
STN 64K カラー Refresh Cycle=70Hz	$f_{SYS}/2$ ~ $f_{SYS}/16$	$f_{SYS}/4$ ~ $f_{SYS}/16$	$f_{SYS}/8$ ~ $f_{SYS}/16$	$f_{SYS}/16$(~3WAIT まで)
STN 64K カラー Refresh Cycle=70Hz ＋ローテーション機能動作	$f_{SYS}/2$ ~ $f_{SYS}/16$	$f_{SYS}/4$ ~ $f_{SYS}/16$	$f_{SYS}/8$ ~ $f_{SYS}/16$	$f_{SYS}/16$ (~3WAIT まで)
TFT 4K カラー Refresh Cycle=70Hz	$f_{SYS}/2$ ~ $f_{SYS}/16$	$f_{SYS}/2$ ~ $f_{SYS}/16$	$f_{SYS}/2$ ~ $f_{SYS}/16$	$f_{SYS}/4$ ~ $f_{SYS}/16$(~2WAIT まで) $f_{SYS}/8$~ $f_{SYS}/16$(~6WAIT まで) $f_{SYS}/16$(~14WAIT まで)
TFT 64K カラー Refresh Cycle=70Hz	$f_{SYS}/2$ ~ $f_{SYS}/16$	$f_{SYS}/2$ ~ $f_{SYS}/16$	$f_{SYS}/2$ ~ $f_{SYS}/16$	$f_{SYS}/4$ ~ $f_{SYS}/16$(~2WAIT まで) $f_{SYS}/8$~ $f_{SYS}/16$ (~6WAIT まで) $f_{SYS}/16$(~14WAIT まで)
TFT 64K カラー ＋ローテーション機能動作	$f_{SYS}/2$ ~ $f_{SYS}/16$	$f_{SYS}/2$ ~ $f_{SYS}/16$	$f_{SYS}/2$ ~ $f_{SYS}/16$	$f_{SYS}/4$ ~ $f_{SYS}/16$(~2WAIT まで) $f_{SYS}/8$~ $f_{SYS}/16$(~6WAIT まで) $f_{SYS}/16$(~14WAIT まで)

Not Recommended for New Design

例 1: f_{SYS} = 10MHz、STN モード、<SCPW2:0> = “010”の場合
内部基本クロック LCP0 = f_{SYS} / 8 = 10MHz / 8 = 1.25 [MHz]
よって、LCP0 の周期は 1 / 1.25 [MHz] = 0.8 [μs]

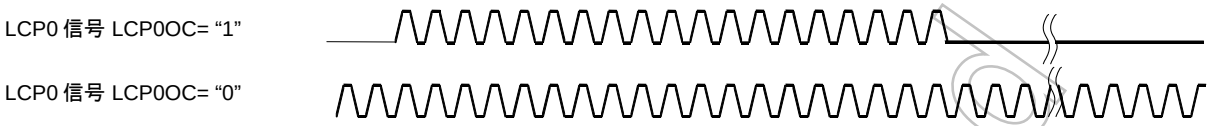
例 2: f_{SYS} = 60MHz、TFT モード、<SCPW2:0> = “011”の場合
内部基本クロック LCP0 = f_{SYS} / 16 = 60MHz / 16 = 3.75 [MHz]
よって、LCP0 の周期は 1 / 3.75 [MHz] = 266 [ns]

LCDMODE0 レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDMODE0 (0280H)	bit Symbol	RAMTYPE1	RAMTYPE0	SCPW1	SCPW0	MODE3	MODE2	MODE1	MODE0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	1	1	0	0	0	0
	機能	表示 RAM 00: 内蔵 RAM1(32bit) 01: 外部 SRAM 10: SDRAM 11: Reserved		LD バス転送速度 SCPW2= “0” 00: 2-clk 01: 4-clk 10: 8-clk 11: 16-clk SCPW2= “1” 00: 6-clk 01: 12-clk 10: 24-clk 11: 48-clk		モード選択 0000 : Reserved 0001 : SR 型モノクロ 0010 : SR 型 4Gray 0011 : Reserved 0100 : SR 型 16Gray 0101 : SR 型 64Gray 0110 : STN256 色 0111 : STN4096 色		1000 : STN64K 色 1001 : Reserved 1010 : TFT256 色 1011 : TFT4096 色 1100 : TFT64K 色 1101 : Reserved 1110 : TFT モノクロ 1111 : Reserved	

Not Recommended for New Design

LCDCTL0<LCP0OC>の制御で LCP0 信号を出力するタイミングを制御できます。LCP0OC= “0”の場合 LCP0 信号は常に出力され、LCP0OC= “1”の場合有効なデータを出力する場合のみ LCP0 信号が出力されます。

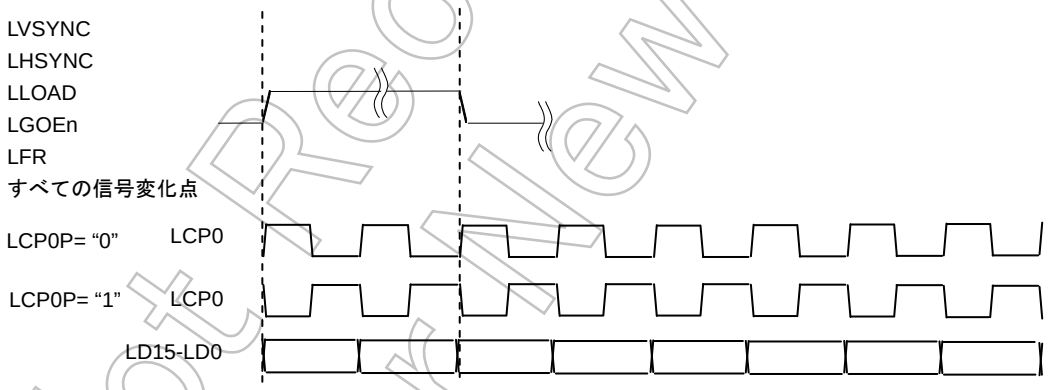


LCD Control0 レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDCTL0 (0285H)	bit Symbol	PIPE	ALL0	FRMON	–		DLS	LCP0OC	START
	Read/Write	R/W			R/W		R/W		
	リセット後	0	0	0	0		0	0	0
	機能	PIP 機能 0:Disable 1:Enable	セグメント データ設定 0:通常 1:出力 全て”0”出力	FR 分割 設定 0: 停止 1: 動作	“0” をライトしてください。		FR 信号 LCP0/Line 切り替え 0:Line 1:LCP0	LCP0(注) 0:常に出力 1:有効データ出力時 LLOAD Enable 幅 0:設定値 1:有効データ出力時	LCDC 動作 0:停止 1:動作

注)STN 設定時は、<LCP0OC>ビットの設定に関わらず、LCP0 信号は有効データ出力時に出力されます。

LCDCTL1<LCP0P>の設定により、位相の反転が可能です。



LCD Control1 レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDCTL1 (0286H)	bit Symbol	LCP0P	LHSP	LVSP	LLDP			LVSW1	LVSW0
	Read/Write	R/W						R/W	
	リセット後	1	0	1	0			0	0
	機能	LCP0 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり	LHSYNC 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり	LVSYNC 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり	LLOAD 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり			LVSYNC イネーブル時間制御 00 : LHSYNC_1CLK 01 : LHSYNC_2CLK 10 : LHSYNC_3CLK 11 : Reserved	

Not Recommended for New Design

3.20.3.6 リフレッシュレート

水平同期信号 LHSYNC の周期は、LCDHSP<LH15:0>に設定された値と LCP0 クロック周期の積で定義されます。LCDHSP レジスタに設定する値は TFT の場合は、

セグメントサイズ＋*ダミークロック数

の設定が必要です。また STN の場合は、

(セグメントサイズ / 8) + *ダミークロック数　　… カラー表示以外

(セグメントサイズ × 3 / 8) + *ダミークロック数　　… カラー表示

の設定が必要です。

LHSYNC [s:周期] = LCP0 [s:周期] × ((LH15:0) + 1)

LCD LHSYNC Pulse レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDHSP (028AH)	bit Symbol	LH7	LH6	LH5	LH4	LH3	LH2	LH1	LH0
	Read/Write	W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LHSYNC cycle 設定 bit7-0							
		7	6	5	4	3	2	1	0
(028BH)	bit Symbol	LH15	LH14	LH13	LH12	LH11	LH10	LH9	LH8
	Read/Write	W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LHSYNC cycle 設定 bit15-8							

垂直同期信号 LVSYNC の周期は、LCDVSP<LV9:0>レジスタに設定された値と LHSYNC 周期の積で定義されます。LCDVSP レジスタに設定する値は TFT の場合は、

コモンサイズ + *ダミークロック数

を設定し、STN の場合は

コモンサイズ + *ダミークロック数(必ずリアポーチ側に “1” 以上の設定が必要です)

を設定します。

LVSYNC [s:周期]　=　LHSYNC [s:周期] × ((LV9:0) + 1)

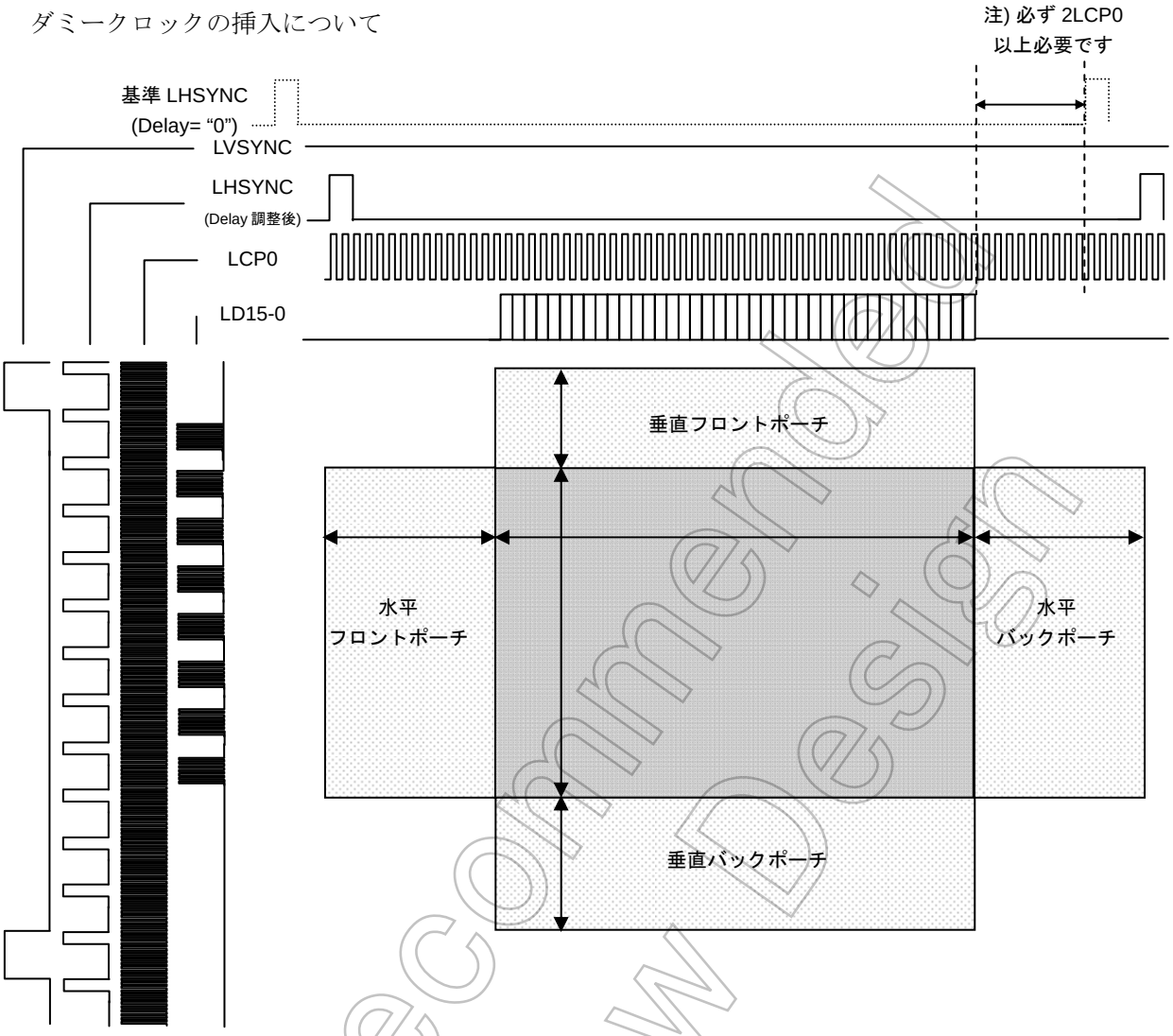
　　=　LCP0 [s:周期] × ((LH15:0) + 1) × ((LV9:0) + 1)

LCD LVSYNC Pulse レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDVSP (028CH)	bit Symbol	LVP7	LVP6	LVP5	LVP4	LVP3	LVP2	LVP1	LVP0
	Read/Write	W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LVSYNC cycle 設定 bit7-0							
		7	6	5	4	3	2	1	0
(028DH)	bit Symbol							LVP9	LVP8
	Read/Write							W	
	リセット後							0	0
	機能							LVSYNC cycle 設定 bit9-8	

Not Recommended for New Design

- ダミークロックの挿入について



上図は、LCD パネルにおいて、データ(LD15-0)、シフトクロック(LCP0)、水平同期信号(LHSYNC)、垂直同期信号(LVSYNC)を、表現したイメージ図です。

『リフレッシュレート』の章で説明した LCDHSP<LH15:0> および LCDVSP<LV9:0>の値は、上記の様なフロントポーチとバックポーチを考慮して設定してください。

注 1) 水平バックポーチの設定には制約があります。『データ転送の終了』＋『LCP0×2 クロック』が、基準 LHSYNC (Delay “0”の LHSYNC)の 1 サイクル内に終了していることが必要です。下記の式で定義されます。
ディレイ時間(LLOAD) + データ転送回数 + 2 < LHSYNC (LCP0 カウント数)

注 2) 垂直リアポーチの設定には制約があります。最小の設定値は "必要コモン数+1" の設定が必要です。

TFT ドライバの場合

TFT ドライバを使用する場合は、ドライバ(または LCD モジュール)にて推奨のダミークロック数が規定されています。参考にしてください。

STN ドライバの場合

STN ドライバを使用する場合は、リフレッシュレートを設定時に水平バックポーチの値を調整することで、細かなリフレッシュレートを設定することが可能です。また、水平バックポーチで調整しきれなかった場合、垂直バックポーチにてさらに調整も可能です。

詳細は後述の設定例を参照してください。

Not Recommended for New Design

- 設定方法

LVSYNC 周期内の LHSYNC の総数の内、有効データを伴わない、前半のダミーLHSYNC(垂直フロントポーチ)の数は、LCDPRVSP<PLV6:0>レジスタに設定された値で定義されます。

前半ダミーLHSYNC(垂直フロントポーチ) = <PLV6:0>

また後半のダミーLHSYNC(垂直バックポーチ)は、差分

(LVP [9:0] + 1) – (有効 LHSYNC：Common 数) – (前半ダミーLHSYNC 数: PLV [6:0])

で定義されます。垂直バックポーチの最小の設定値は "必要コモン数+1" の設定が必要です。

初期値設定では、LHSYNC 周期内の LCP0 の総数のうち、有効データを伴わない前半のダミーLCP0(水平フロントポーチ)の数は、LCDLDDLY<LDD6:0>に設定された値で定義されます。

前半ダミーLCP0(水平フロントポーチ) = <LDD6:0>

また後半のダミーLCP0(水平バックポーチ)は、差分

(総数: LH [15:0] + 1) – (有効 LCP0：Segment 数) – (前半ダミーLCP0: LDD [6:0])

で定義されます。

注 1) 後半のダミーLCP0 (水平バックポーチ)は、必ず(2×LCP0)分必要です。

注 2) LCDLDDLY<LDD6:0>に設定した Delay 時間は、基準 LHSYNC(Delay"0"の LHSYNC)を基準に Delay します。

LLOAD Delay レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDLDDLY (0290H)	bit Symbol	PDT	LDD6	LDD5	LDD4	LDD3	LDD2	LDD1	LDD0
	Read/Write	R/W	W						
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	データ出力タイミング 0:LLOAD と同時 1:LLOAD より 1clk 遅れ	LLOAD Delay 設定 bit6-0						

例: f_{SYS} = 30MHz、STN モード、320 セグメント× 240 コモン、4096 色カラー表示、LCDMODE0<SCPW1:0> = "00"で、リフレッシュレートを 200Hz に設定する場合

内部基本クロック LCP0 = f_{SYS} / 4 = 30 [MHz] / 4 = 7.5 [MHz]

よって、LCP0 の周期は 1 / 7.5 [MHz] = 0.133 [μs]

条件 1: リフレッシュレートが 200Hz のため、その周期は 5 [ms]

条件 2: LH = LH15:0 ≥ (320 × 3/8) – 1 = 119

条件 3: LV = LVP9:0 ≥ 240 – 1

まず、LV の値を最低値の 239 に設定し計算すると、

$$\text{LVSYNC [s:周期]} = \text{LHSYNC [S:周期]} \times ((\text{LV9:0}) + 1)$$

$$= \text{LCP0 [S:周期]} \times ((\text{LH15:0}) + 1) \times ((\text{LV9:0}) + 1)$$

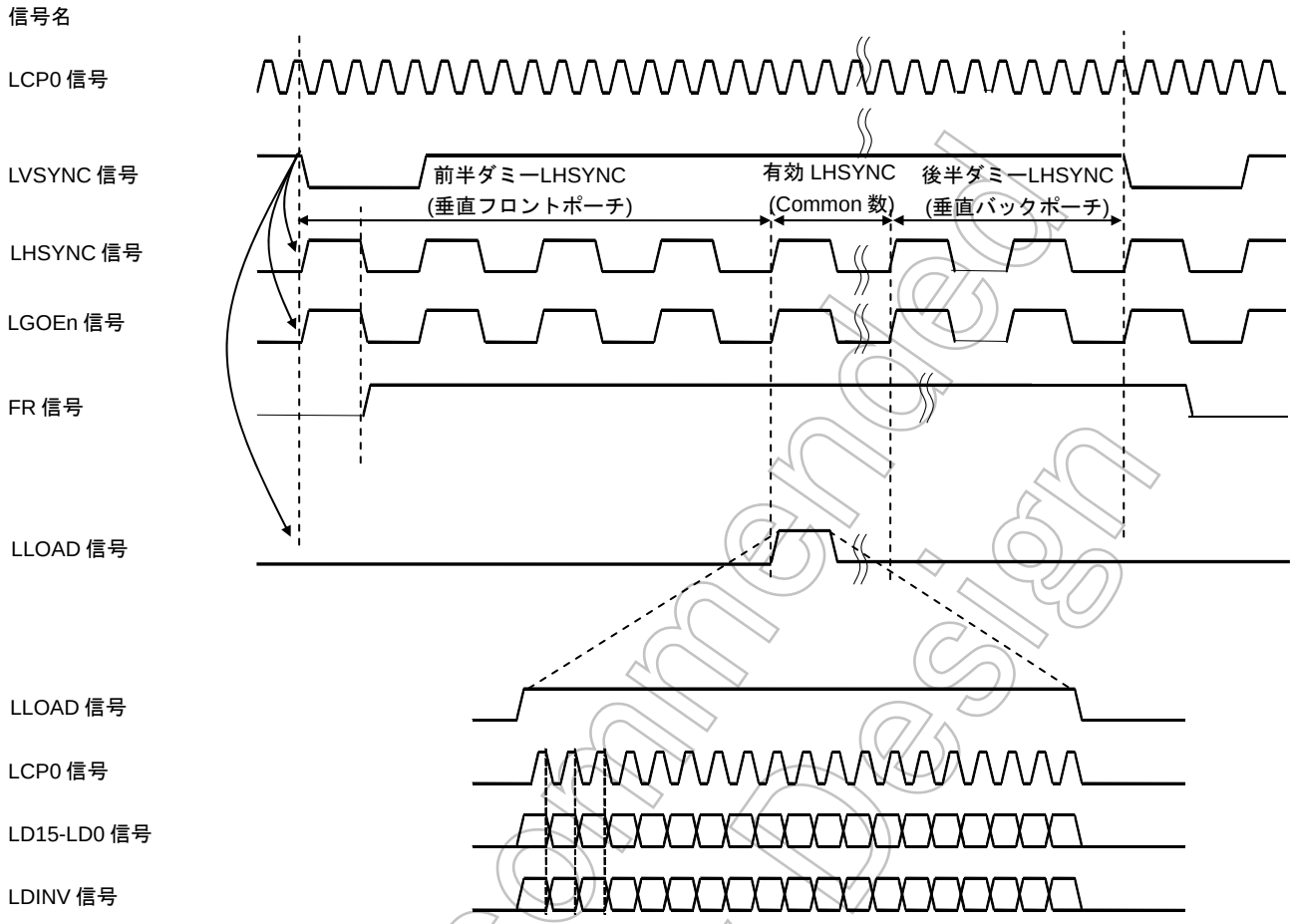
$$5\ [\text{ms}] = (1 / 7.5\ [\text{MHz}]) \times (\text{LH} + 1) \times 240$$

$$\text{LH} + 1 = (5 \times 10^{-3}) \times (7.5 \times 10^{6}) / 240$$

$$= 156.25$$

Not Recommended for New Design

3.20.3.7 各種信号の設定



上図は LCD コントローラが制御する信号の、代表的なタイミングをあらわした波形です。ここでは、信号ごとにその制御方法を説明いたします。

Not Recommended for New Design

(1) LVSYNC 信号

垂直同期信号 LVSYNC の周期は 1 画面分の切り替わりを示します(リフレッシュレート)。また、LVSYNC の周期は水平同期信号 LHSYNC の整数倍で定義されます。

- 垂直同期信号 LVSYNC の周期は、LCDVSP<LV 9:0 >に設定された値と LHSYNC 周期の積で計算され、LCDVSP レジスタに設定する値は TFT の場合は、『コモンサイズ＋*ダミークロック数以上の値』を設定し、STN の場合は『コモンサイズ＋*ダミークロック数以上の値』を設定します。

LVSYNC[s:周期] = LHSYNC [s:周期] × (LVP [9:0] + 1)

= LCP0 [s:周期] × (LH [15:0] + 1) × (LVP [9:0] + 1)

LCD LVSYNC Pulse レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDVSP (028CH)	bit Symbol	LVP7	LVP6	LVP5	LVP4	LVP3	LVP2	LVP1	LVP0
	Read/Write	W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LVSYNC cycle 設定 bit7-0							
		7	6	5	4	3	2	1	0
(028DH)	bit Symbol							LVP9	LVP8
	Read/Write							W	
	リセット後							0	0
	機能							LVSYNC cycle 設定 bit9-8	

- LCDCTL1<LVSW1:0>の設定により、LVSYNC 信号の Enable 幅を LHSYNC 信号の 1CLK、2CLK、3CLK の 3 通りから選択できます。また、LCDCTL1<LVSP>の設定により位相の反転が可能です。

LCD Control1 レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDCTL1 (0286H)	bit Symbol	LCP0P	LHSP	LVSP	LLDP			LVSW1	LVSW0
	Read/Write	R/W						R/W	
	リセット後	1	0	1	0			0	0
	機能	LCP0 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり	LHSYNC 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり	LVSYNC 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり	LLOAD 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり			LVSYNC イネーブル時間制御 00 : LHSYNC_1CLK 01 : LHSYNC_2CLK 10 : LHSYNC_3CLK 11 : Reserved	

Not Recommended for New Design

(2) LHSYNC 信号

水平同期信号 LHSYNC の周期は 1 ライン分の切り替わりを示します。LHSYNC 周期は基準クロック LCP0 信号の整数倍で定義されます。

- 水平同期信号 LHSYNC の周期は LCDHSP<LH15:0>に設定された値と、LCP0 クロック周期の積で計算されます。LCDHSP レジスタに設定する値は TFT の場合は、『セグメントサイズ＋*ダミークロック数以上の値』を設定する必要があります。また STN の場合は、

  (セグメントサイズ / 8) + *ダミークロック数　…カラー表示以外

  (セグメントサイズ × 3 / 8) + *ダミークロック数　…カラー表示

  以上の値

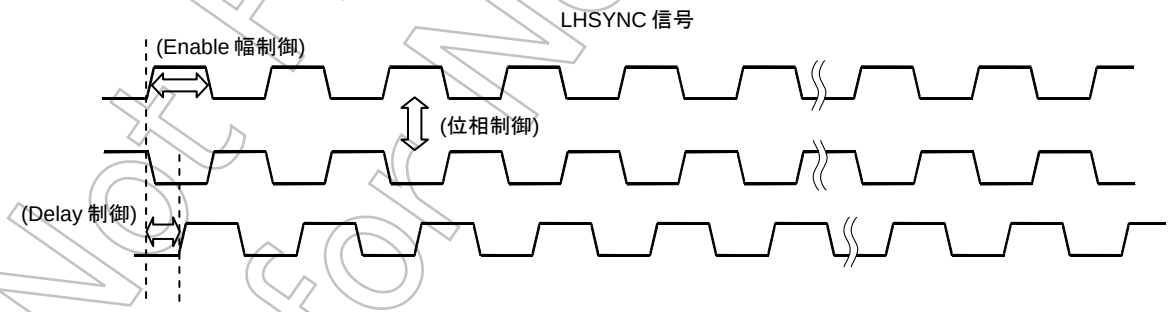
  の設定が必要です。

  LHSYNC[s:周期]　=　LCP0 [s:周期] × (LH [15:0] + 1)

LCD LHSYNC Pulse レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDHSP (028AH)	bit Symbol	LH7	LH6	LH5	LH4	LH3	LH2	LH1	LH0
	Read/Write	W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LHSYNC cycle 設定 bit7-0							
		7	6	5	4	3	2	1	0
(028BH)	bit Symbol	LH15	LH14	LH13	LH12	LH11	LH10	LH9	LH8
	Read/Write	W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LHSYNC cycle 設定 bit15-8							

- LCDHSW<HSW9:0>の設定により LHSYNC 信号の Enable 幅を設定できます。また、LVSYNC 信号に対して LCP0 信号単位での Delay 制御が可能です。



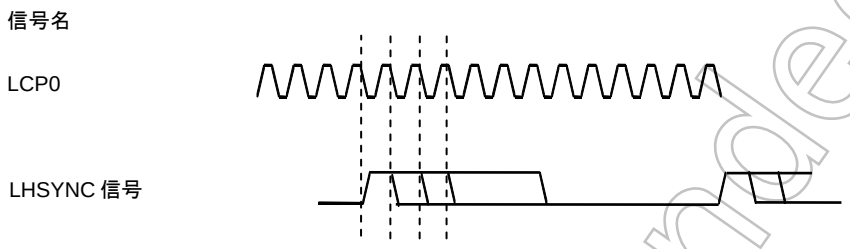
Not Recommended for New Design

- Enable 幅は LCDHSW<HSW8:0>の 9bit の値で設定します。1~512×LCP0 分の Enable 幅を設定できます。

  “0”をライトすると LP0 の 1clk 分の幅となり、

  Enable 幅 = <HSW8:0> + 1

  の計算式で表現されます。



High 幅設定
LCP0 クロック = 1,2,3,・・・512 パルス設定可能

LHSYNC width レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDHSW (0294H)	bit Symbol	HSW7	HSW6	HSW5	HSW4	HSW3	HSW2	HSW1	HSW0
	Read/Write	W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LHSYNC Width 設定 bit7-0							

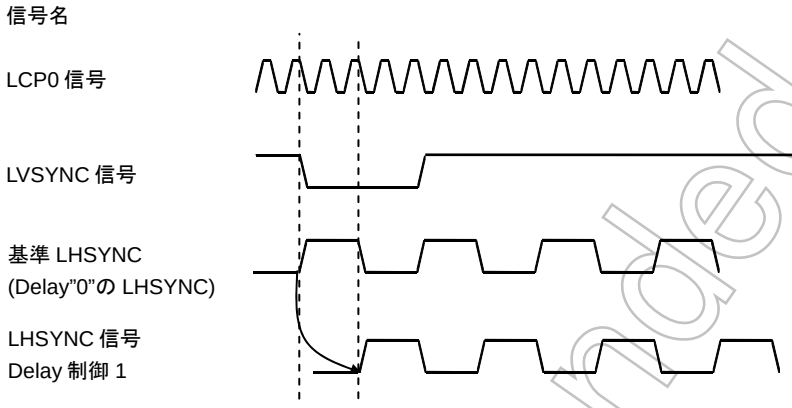
signal width Bit8,9 レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDHWB8 (0299H)	bit Symbol	O2W9	O2W8	O1W9	O1W8	O0W8	LDW9	LDW8	HSW8
	Read/Write	W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	Setting bit8,9 for LGOE2 Width		Setting bit8,9 for LGOE1 Width		Setting bit8 for LGOE0 Width	Setting bit8,9 for LLOAD Width		Setting bit8 for LHSYNC Width

Not Recommended for New Design

- 下図に示すように 0 ~ 127× LCP0 分の Delay 時間の挿入が可能です。

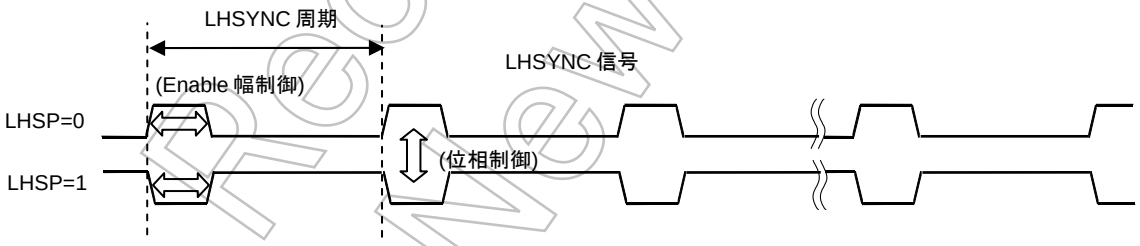
Delay クロック = <HSD6:0>



LHSYNC Delay レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDHSDLY (028FH)	bit Symbol		HSD6	HSD5	HSD4	HSD3	HSD2	HSD1	HSD0
	Read/Write		W						
	リセット後		0	0	0	0	0	0	0
	機能		LHSYNC Delay 設定 bit6-0						

- LCDCTL1<LVSP>の設定により、位相の反転が可能です。



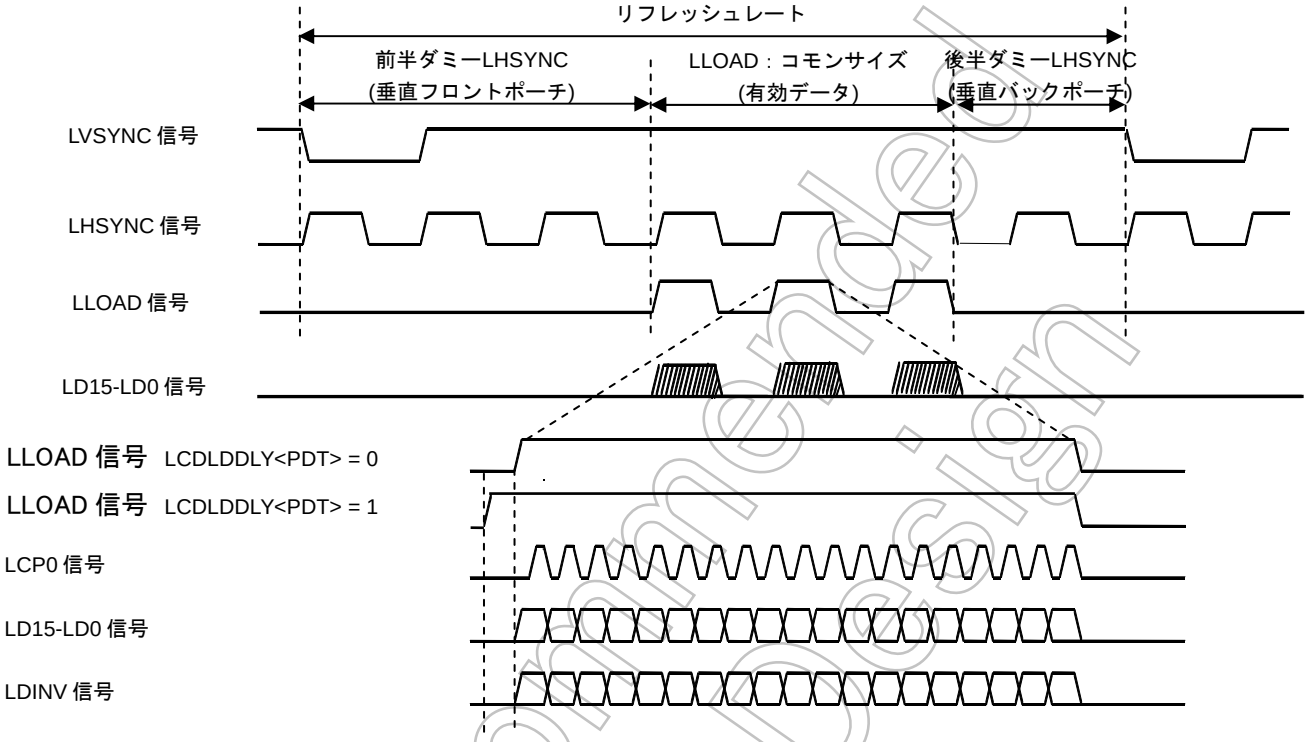
LCD Control1 レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDCTL1 (0286H)	bit Symbol	LCP0P	LHSP	LVSP	LLDP			LVSW1	LVSW0
	Read/Write	R/W						R/W	
	リセット後	1	0	1	0			0	0
	機能	LCP0 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり	LHSYNC 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり	LVSYNC 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり	LLOAD 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり			LVSYNC イネーブル時間制御 00 : LHSYNC_1CLK 01 : LHSYNC_2CLK 10 : LHSYNC_3CLK 11 : Reserved	

Not Recommended for New Design

(3) LLOAD 信号

LLOAD 信号とは、LCD ドライバが表示用データを受け取るための制御信号で、その周期は 1 ライン分の切り替わりに同期します。LLOAD 信号の周期は、LHSYNC 信号と同様に基準クロック LCP0 信号の整数倍で定義されます。



LHSYNC 信号と LLOAD 信号の違いは、LHSYNC 信号は途切れることなく出力されるのに対し、LLOAD 信号は有効データライン(コモン数)分しか出力されません。

また、データの出力は LLOAD 信号に同期して出力されます。そのため LCDLDDLY 設定で LLOAD 信号が遅れるとデータ出力もそれに同期して遅れます。

さらに、LCDLDDLY<PDT> = “1”の時、データは LLOAD 信号より LCP0 の 1 クロック分遅れて出力されます。

LCDLDDLY<PDT>	= “0”	データ出力は LLOAD 信号が Enable と同時に出力
LCDLDDLY<PDT>	= “1”	データ出力は LLOAD 信号より LCP0 の 1 クロック分遅れて出力

LLOAD 信号の Delay 制御は LCDLDDLY<PDT> = “1”を基準として設定されます。言い換えれば、LCDLDDLY<PDT> = “0”の場合に Delay 時間を “0”に設定しても、LLOAD 信号は LCP0 クロック 1 発分遅れて出力されます。注意してください。

Not Recommended for New Design

- 垂直フロントポーチと呼ぶ前半のダミーLHSYNC のパルス数は、LCDPRVSP<PLV6:0>の 7bit の値で設定します。0~127×LCP0 分の Delay 時間を設定できます。

  前半ダミーLHSYNC 時間 ＝ <PLV6:0>

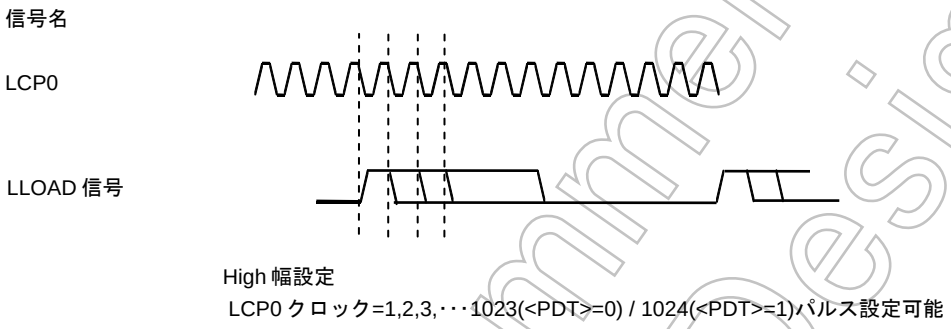
LCD LVSYNC Pre Pulse Register

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDPRVSP (028EH)	bit Symbol		PLV6	PLV5	PLV4	PLV3	PLV2	PLV1	PLV0
	Read/Write		W						
	リセット後		0	0	0	0	0	0	0
	機能		Setting bit6-0 for LVSYNC Pre-cycle						

また後半のダミーLHSYNC(垂直バックポーチ)は、差分

(<LVP9:0>＋1) – (有効 LHSYNC: Common 数) – (前半ダミーLHSYNC 数: <PLV6:0>)

で定義されます。



注) 垂直バックポーチの設定には制約があります。STN/TFT、いずれの場合も"1" 以上の設定が必要です。

- Enable 幅は LCDCTL0<LCP0OC>ビットに従って下記の通り出力されます。

  LCDCTL0<LCP0OC> ＝ “0” (LCDDLW)<LDW9:0>に設定された分出力

  LCDCTL0<LCP0OC> ＝ “1” 有効データ出力時、出力

LCD Control0 レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDCTL0 (0285H)	bit Symbol	PIPE	ALL0	FRMON	–		DLS	LCP0OC	START
	Read/Write	R/W			R/W		R/W		
	リセット後	0	0	0	0		0	0	0
	機能	PIP 機能 0:Disable 1:Enable	セグメントデータ設定 0:通常 1:出力 全て”0”出力	FR 分割設定 0: 停止 1: 動作	“0”をライトしてください。		FR 信号 LCP0/Line 切り替え 0:Line 1:LCP0	LCP0(注) 0:常に出力 1:有効データ出力時 LLOAD Enable 幅 0:設定値 1:有効データ出力時	LCDC 動作 0:停止 1:動作

注) STN 設定時は、<LCP0OC>ビットの設定に関わらず、LCP0 信号は有効データ出力時に出力されます。

Not Recommended for New Design

- LCDCTL0<LCP0OC>=0 の場合、LCDLDW<LDW9:0> の 10bit の値で設定します。0~1024×LCP0 分の Enable 幅を設定でき、LCDLDDLY<PDT>の設定により、以下の様になります。

  Enable 幅 = <LDW 9:0> + 1 (<PDT>=1 の場合、ただし<LDW9:0>=0 は設定不可)

  Enable 幅 = <LDW9:0> (<PDT>=0 の場合)

  の計算式で表現されます。

LLOAD width レジスタ

LCDLDW (0295H)

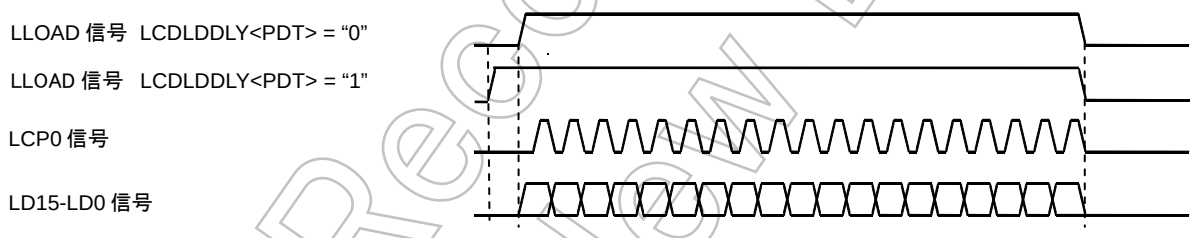
	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	LDW7	LDW6	LDW5	LDW4	LDW3	LDW2	LDW1	LDW0
Read/Write	W							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
機能	LLOAD Width 設定 bit7-0							

signal width Bit8,9 レジスタ

LCDHWB8 (0299H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	O2W9	O2W8	O1W9	O1W8	O0W8	LDW9	LDW8	HSW8
Read/Write	W							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
機能	Setting bit8,9 for LGOE2 Width		Setting bit8,9 for LGOE1 Width		Setting bit8 for LGOE0 Width	Setting bit8,9 for LLOAD Width		Setting bit8 for LHSYNC Width

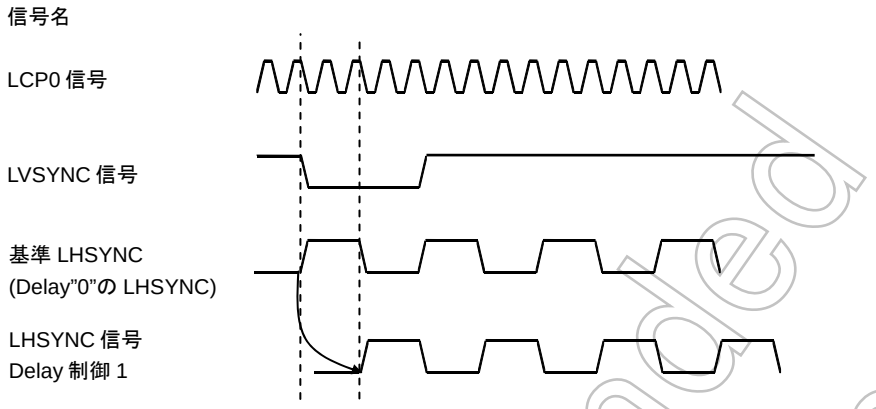
- LCDCTL0<LCP0OC>= “1”の場合、Enable 幅は以下の様になります。



Not Recommended for New Design

- 下図に示すように 0 ~ 127 ×LCP0 分の Delay 時間の挿入が可能です。

Delay クロック = <LDD6:0>

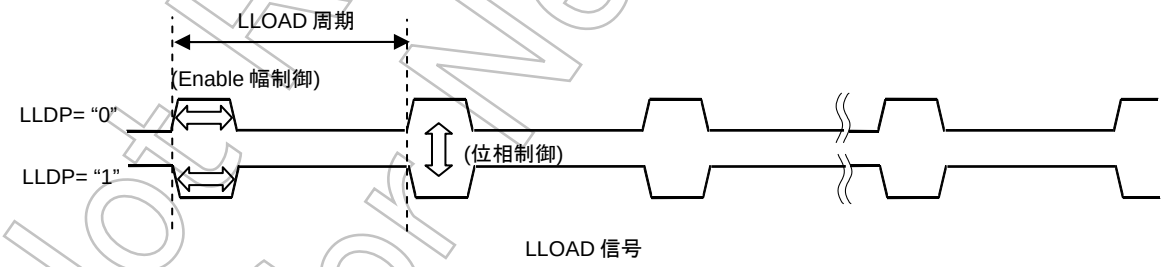


注) LLOAD 信号の Delay 制御は、LCDLDDLY<PDT> = "1"を基準として設定されます。言い換えれば、LCDLDDLY<PDT> = "0"の場合に、Delay 時間を"0"に設定しても、LLOAD 信号は LCP0 クロック 1 発分遅れて出力されます。注意してください。

LLOAD Delay レジスタ

LCDLDDLY (0290H)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	PDT	LDD6	LDD5	LDD4	LDD3	LDD2	LDD1	LDD0
Read/Write	R/W	W						
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
機能	データ出力タイミング 0:LLOAD と同時 1:LLOAD より 1clk 遅れ	LLOAD Delay 設定 bit6-0						

- LCDCTL1<LLDP>の設定により、位相の反転が可能です。



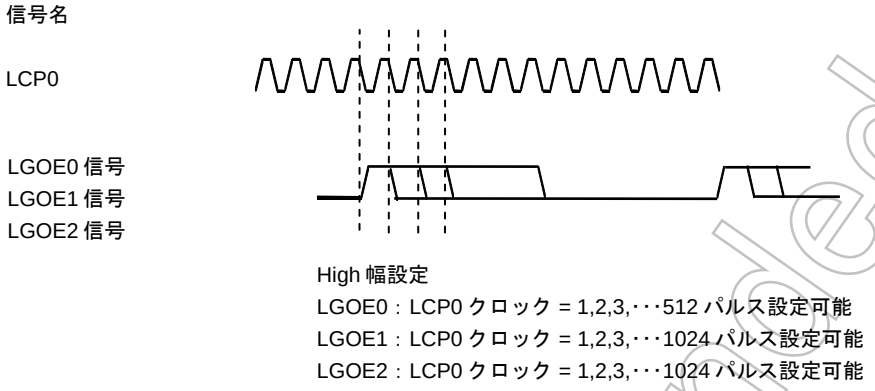
LCD Control1 レジスタ

LCDCTL1 (0286H)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	LCP0P	LHSP	LVSP	LLDP			LVSW1	LVSW0
Read/Write	R/W						R/W	
リセット後	1	0	1	0			0	0
機能	LCP0 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり	LHSYNC 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり	LVSYNC 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり	LLOAD 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり			LVSYNC イネーブル時間制御 00 : LHSYNC_1CLK 01 : LHSYNC_2CLK 10 : LHSYNC_3CLK 11 : Reserved	

Not Recommended for New Design

(4) LGOE 信号

LHSYNC 信号と同様に Enable 幅、Delay、位相のタイミング調整の制御が可能な 3 本の信号 LGOE0~LGOE2 端子を持っています。



LGOE0 width レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDHO0W (0296H)	bit Symbol	O0W7	O0W6	O0W5	O0W4	O0W3	O0W2	O0W1	O0W0
	Read/Write	W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LGOE0 Width 設定 bit7-0							

LGOE1 width レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDHO1W (0297H)	bit Symbol	O1W7	O1W6	O1W5	O1W4	O1W3	O1W2	O1W1	O1W0
	Read/Write	W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LGOE1 Width 設定 bit7-0							

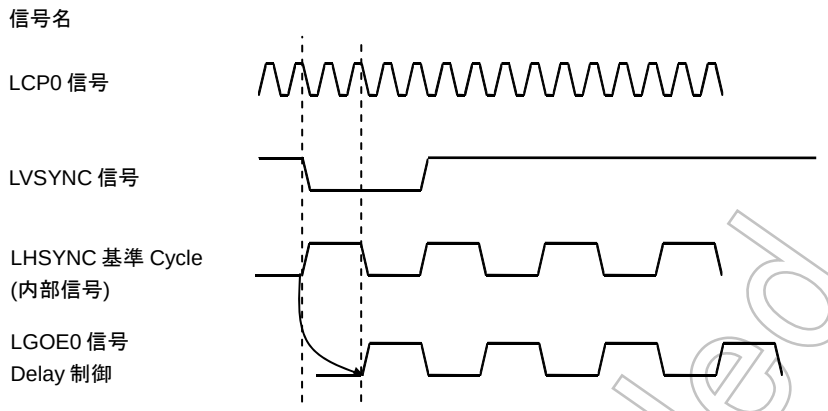
LGOE2 width レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDHO2W (0298H)	bit Symbol	O2W7	O2W6	O2W5	O2W4	O2W3	O2W2	O2W1	O2W0
	Read/Write	W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LGOE2 Width 設定 bit7-0							

signal width Bit8,9 レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDHWB8 (0299H)	bit Symbol	O2W9	O2W8	O1W9	O1W8	O0W8	LDW9	LDW8	HSW8
	Read/Write	W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	Setting bit8,9 for LGOE2 Width		Setting bit8,9 for LGOE1 Width		Setting bit8 for LGOE0 Width	Setting bit8,9 for LLOAD Width		Setting bit8 for LHSYNC Width

Not Recommended for New Design



LGOE0 Delay レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDO0DLY (0291H)	bit Symbol		OE0D6	OE0D5	OE0D4	OE0D3	OE0D2	OE0D1	OE0D0
	Read/Write		W						
	リセット後		0	0	0	0	0	0	0
	機能		OE0 Delay 設定 bit6-0						

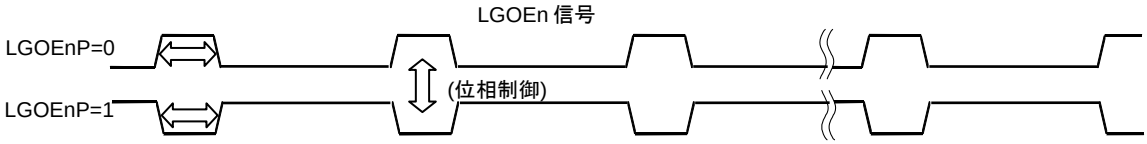
LGOE1 Delay レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDO1DLY (0292H)	bit Symbol		OE1D6	OE1D5	OE1D4	OE1D3	OE1D2	OE1D1	OE1D0
	Read/Write		W						
	リセット後		0	0	0	0	0	0	0
	機能		Setting bit6-0 for OE1 Delay						

LGOE2 Delay レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDO2DLY (0293H)	bit Symbol		OE2D6	OE2D5	OE2D4	OE2D3	OE2D2	OE2D1	OE2D0
	Read/Write		W						
	リセット後		0	0	0	0	0	0	0
	機能		Setting bit6-0 for OE2 Delay						

Not Recommended for New Design



LCD Control2 レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDCTL2 (0287H)	bit Symbol	LGOE2P	LGOE1P	LGOE0P					
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0					
	機能	LGOE2 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり	LGOE1 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり	LGOE0 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり					

Not Recommended for New Design

(5) LFR 信号

LFR(フレーム)信号は、LCD ドライバが液晶セルにバイアスを印加する方向を制御するために使用されます。モノクロで小さな画面の場合、通常 1 画面の切り替わりと同じタイミングでその極性を反転しますが、大画面表示や階調、カラーなどの場合より小さなエリアごとにその極性を反転し表示クオリティを調整します。

<FRMON>= “1”で本機能をイネーブルに設定した場合は、下記 LCDDVM0<FML3:0>と LCDDVM1<FML7:4>に N を設定し、<DLS>=0 でライン設定を選択すると、LFR 端子から LHSYNC の倍数、つまり(LHSYNC×N)のタイミングごとに極性反転した信号が出力されます。

<DLS>= “0”、ライン設定の場合で、<FREDGE>= “0”の場合、LFR 信号は LHSYNC の前半のエッジに同期し、<FREDGE>= “1”の場合、LFR 信号は LHSYNC の後半のエッジに同期します。

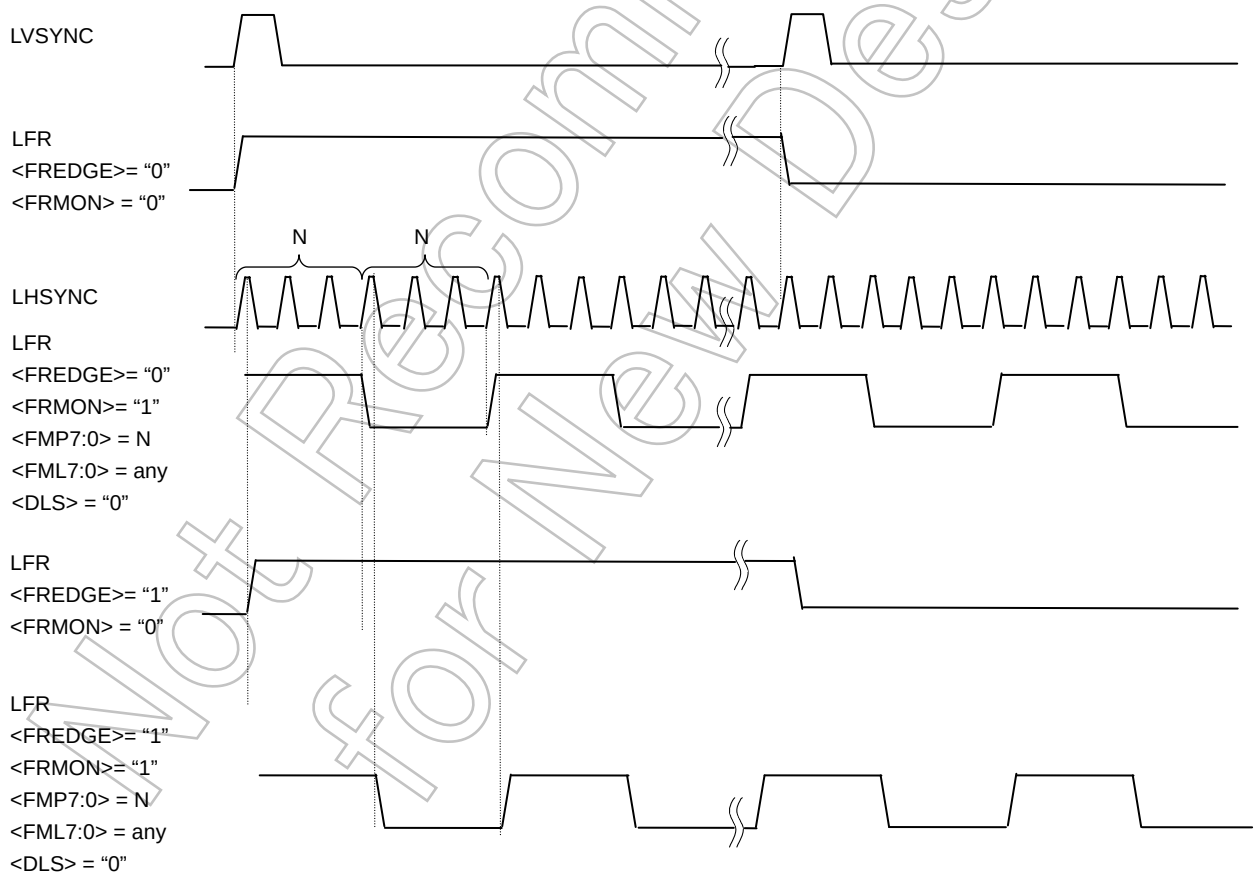
本機能を使用しない場合、LCDCTL0<FRMON> = 0 でディセーブルに設定すると、LFR 端子から LVSYNC 端子の周期ごとに極性反転した信号が出力されます。

本機能をイネーブルに設定したことによって LVSYNC 端子の波形やタイミングに変化はありません。(画像のリフレッシュレートは変化しません)

注 1) 実際に使用される LCD ドライバ、LCD パネルなどの特性によって効果は変化します。

注 2) LFR 信号は、LHSYNC 信号が Delay すると同期して Delay します。

(参考)一般的に DVM の値は素数(3,5,7,11,13 等)に設定すると表示品位が上がります。

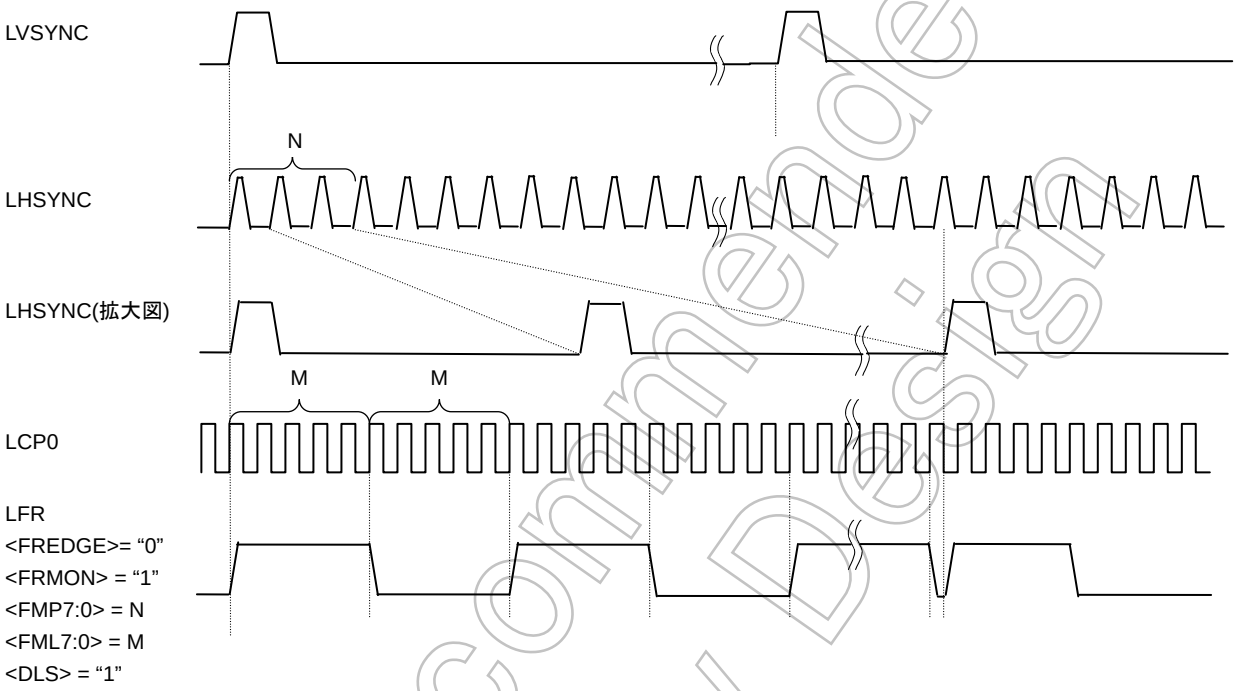


Not Recommended for New Design

さらに<DLS>="1"と設定し LCP0 設定を選択するとフレーム出力は LCDDVM0<FML3:0>ごとに極性を反転し、且つ LCDDVM0<FMP3:0>、 LCDDVM1<FMP7:4>に設定した M 値(LCP0×M)のタイミングごとに極性反転した信号を出力できます。

<DLS>= "1"、LCP0 設定の場合、LFR 信号は LHSYNC の立ち上がりエッジに同期して変化します。

かならず、<FREDGE>= "0"で使用してください。<FREDGE>= "1"では正常に動作しません。



注) <FREDGE>= "1"の場合は正常に動作いたしません。かならず<FREDGE>= "0"で使用してください

Not Recommended for New Design

LCD Control0 レジスタ

LCDCTL0 (0285H)		7	6	5	4	3	2	1	0
	bit Symbol	PIPE	ALL0	FRMON	–		DLS	LCP0OC	START
	Read/Write	R/W			R/W		R/W		
	リセット後	0	0	0	0		0	0	0
	機能	PIP 機能 0:Disable 1:Enable	セグメントデータ設定 0:通常 1:出力 全て"0"出力	FR 分割設定 (LLOAD) 0: 停止 1: 動作	"0" をライトしてください。		FR 信号 LCP0/Line 切り替え 0:Line 1:LCP0	LCP0 (注) 0:常に出力 1:有効データ出力時 LLOAD Enable 幅 0:設定値 1:有効データ出力時	LCDC 動作 0:停止 1:動作

注) STN 設定時は、<LCP0OC>ビットの設定に関わらず、LCP0 信号は有効データ出力時に出力されます。

Divide FRM0 レジスタ

LCDDVM0 (0283H)		7	6	5	4	3	2	1	0
	bit Symbol	FMP3	FMP2	FMP1	FMP0	FML3	FML2	FML1	FML0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LCP0 DVM bit3-0 設定				LHSYNC DVM bit3-0 設定			

Divide FRM1 レジスタ

LCDDVM1 (0288H)		7	6	5	4	3	2	1	0
	bit Symbol	FMP7	FMP6	FMP5	FMP4	FML7	FML6	FML5	FML4
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LCP0 DVM bit7-4 設定				LHSYNC DVM bit7-4 設定			

Not Recommended for New Design

(6) LD バス

LCD ドライバへデータを転送する際、転送用の専用バス(LD15~LD0)からデータを出力します。LCD ドライバの入力方式に合わせて、出力フォーマットを選択することができます。LCDC は CPU にバス開放要求を出力し、転送元のメモリからデータをリードします。

その後、外部にある LCD ドライバへ設定された LCD サイズ分のデータを LCD 専用データバス端子より転送します。そのため、LCDC が転送元の表示 RAM からデータをリードする際は自動的に CPU にバスの開放要求(CPU を停止する)を出します。この比率はリードするデータ量の大きさ、リードするスピード、表示 RAM のバス幅に依存しますので、表示モードと使用する表示 RAM からのリードのスピードによりバスの占有率が異なります。

表示 RAM	バス幅	有効データリード時間 (f_{SYS} Clock 数/Byte)	有効データリード時間 t_{LRD}(nS/Byte) @ f_{SYS} =60MHz
外部 SRAM	16bit	(2+Wait 数) /2	16.6
内蔵 RAM	32bit	**1/4	**4.16
外部 SDRAM	16bit	*1/2	*8.33

注) SDRAM 使用時は 1 コモン(行)データのリードごとに+ 9CLK のオーバーヘッド時間が必要です。また、内蔵 RAM 使用時は、1 コモン(行)データのリードごとに+ 1CLK のオーバーヘッド時間が必要です。また、コモン(行)が変わらなくても、内蔵 RAM のブロックが変わる際にも+ 1CLK のオーバーヘッド時間が必要です。

1 コモン(行)の転送の際に CPU が停止する時間を t_{STOP} と定義すると、各表示モードにおける t_{STOP} は下記計算式で表現されます。

$$t_{STOP} = (SegNum \times K / 8) \times t_{LRD}$$

SegNum : 表示セグメント数

K : 1 画素の表示に必要な表示 bit 数

モノクロ表示の時	K=1
4Gray 表示の時	K=2
16Gray 表示の時	K=4
256 カラー表示の時	K=8
4096 色表示の時	K=12
65536 色表示の時	K=16

注) SDRAM 使用時には、オーバーヘッド時間が追加され上記計算式は

$$t_{STOP}\ [s] \doteqdot (SegNum \times K / 8) \times t_{LRD} + ((1 / f_{SYS}) \times 8)$$

となります。バス占有率は 1 コモン(行)の更新時間 t_{LP} のうちの t_{STOP} の閉める割合を示しますので、

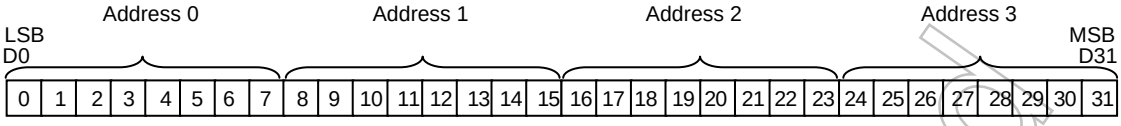
$$\text{CPU バス占有率} = t_{STOP}\ [s] / LHSYNC\ [s:\text{周期}]$$

Not Recommended for New Design

- 各表示モードにおけるメモリマップイメージとデータ出力

STN モノクロ(1ipxel 表示データ＝1bit メモリデータ)

表示メモリ



LD バス出力

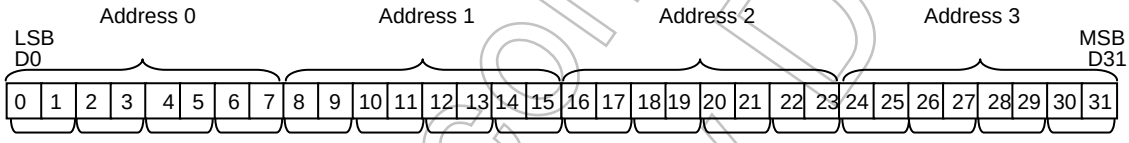
8bit タイプ

LD0 0 → 8 …
LD1 1 → 9 …
LD2 2 → 10 …
LD3 3 → 11 …
LD4 4 → 12 …
LD5 5 → 13 …
LD6 6 → 14 …
LD7 7 → 15 …

注) 240 セグメント設定の場合、256 セグメント分のデータが必要です。

STN 4 階調(1pixel 表示データ＝2bit メモリデータ)

表示メモリ



LD バス出力

8bit タイプ

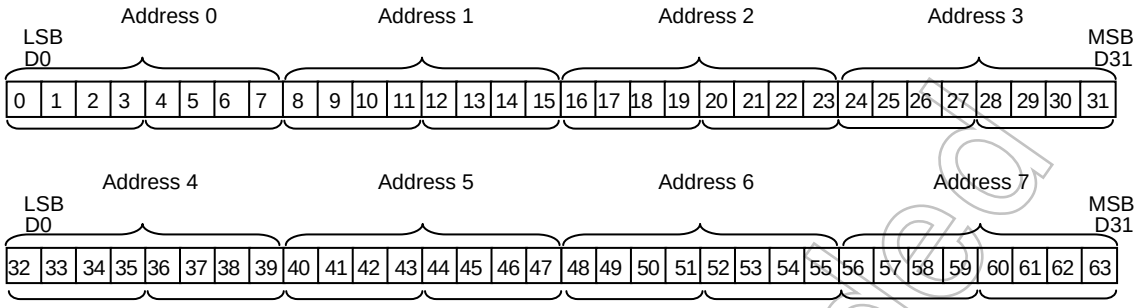
LD0 1 - 0 → 17-16 …
LD1 3 – 2 → 19-18 …
LD2 5 - 4 → 21-20 …
LD3 7- 6 → 23-22 …
LD4 9- 8 → 25-24 …
LD5 11-10 → 27-26 …
LD6 13-12 → 29-28 …
LD7 15-14 → 31-30 …

図 3.20.2 各表示モードにおけるメモリマップイメージとデータ出力

Not Recommended for New Design

STN 16 階調(1pixel 表示データ＝4bit メモリデータ)

表示メモリ



LD バス出力

8bit タイプ

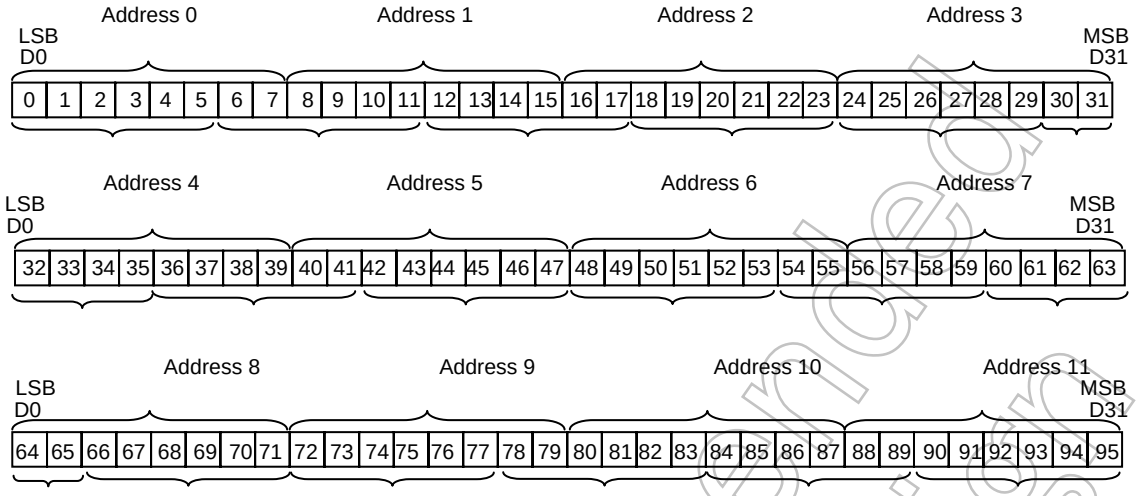
LD0	3-0	→	35-32	…
LD1	7-4	→	39-36	…
LD2	11-8	→	43-40	…
LD3	15-12	→	47-44	…
LD4	19-16	→	51-48	…
LD5	23-20	→	55-52	…
LD6	27-24	→	59-56	…
LD7	31-28	→	63-60	…

図 3.20.3　各表示モードにおけるメモリマップイメージとデータ出力

Not Recommended for New Design

STN 64 階調(1pixel 表示データ＝6bit メモリデータ)

表示メモリ



LD バス出力

8bit タイプ

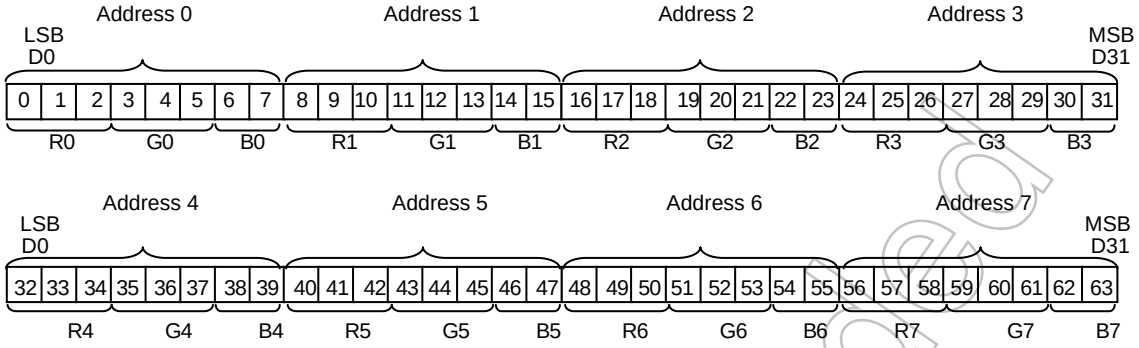
LD0	5-0	→	53-48
LD1	11-6	→	59-54
LD2	17-12	→	65-60
LD3	23-18	→	71-66
LD4	29-24	→	77-72
LD5	35-30	→	83-78
LD6	41-36	→	89-84
LD7	47-42	→	95-90

図 3.20.4 各表示モードにおけるメモリマップイメージとデータ出力

Not Recommended for New Design

STN 256 カラー(1pixel 表示データ＝8bit メモリデータ R:3bit,G:3bit,B:2bit)

表示メモリ



LD バス出力

8bit タイプ

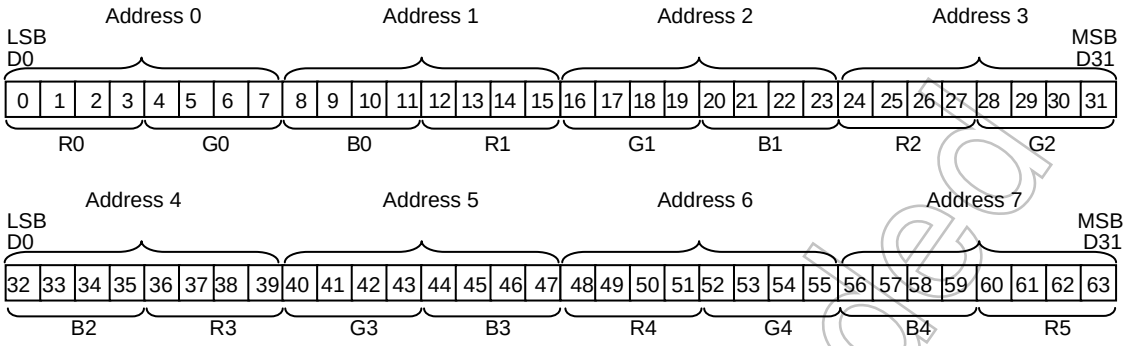
LD0	2-0(R0)	→	23-22(B2)	…
LD1	5-3(G0)	→	26-24(R3)	…
LD2	7-6(B0)	→	29-27(G3)	…
LD3	10-8(R1)	→	31-30(B3)	…
LD4	13-11(G1)	→	34-32(R4)	…
LD5	15-14(B1)	→	37-35(G4)	…
LD6	18-16(R2)	→	39-38(B4)	…
LD7	21-19(G2)	→	42-40(R5)	…

図 3.20.5　各表示モードにおけるメモリマップイメージとデータ出力

Not Recommended for New Design

STN 4096 カラー(12 bpp: R:4bit, G:4bit, B:4bit)

表示メモリ



LD バス出力

8bit タイプ

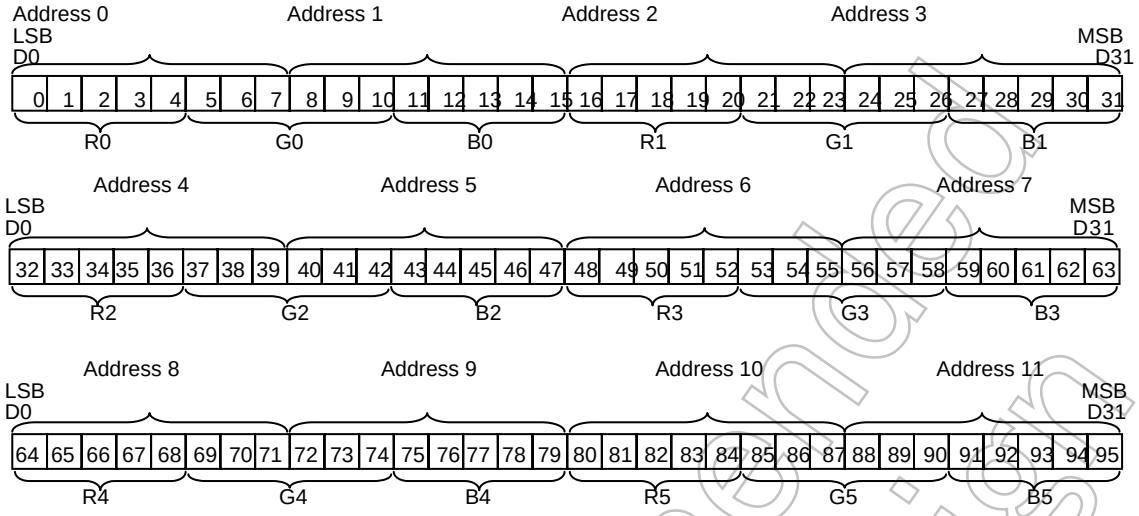
LD0	3-0(R0)	→	35-32(B2)	…
LD1	7-4(G0)	→	39-36(R3)	…
LD2	11-8(B0)	→	43-40(G3)	…
LD3	15-12(R1)	→	47-44(B3)	…
LD4	19-16(G1)	→	51-48(R4)	…
LD5	23-20(B1)	→	55-52(G4)	…
LD6	27-24(R2)	→	59-56(B4)	…
LD7	31-28(G2)	→	63-60(R5)	…

図 3.20.6　各表示モードにおけるメモリマップイメージとデータ出力

Not Recommended for New Design

STN 65536 カラー(16bpp: R:5bit, G:6bit, B:5bit)

表示メモリ



LD バス出力

8bit タイプ

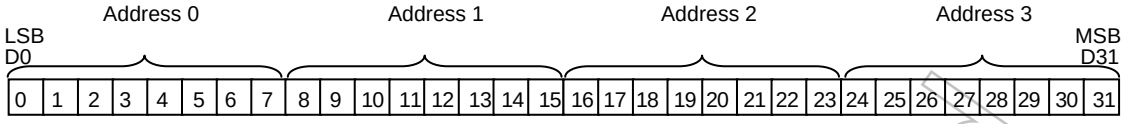
LD0	4-0(R0)	→	47-43(B2)	…
LD1	10-5(G0)	→	52-48(R3)	…
LD2	15-11(B0)	→	58-53(G3)	…
LD3	20-16(R1)	→	63-59(B3)	…
LD4	26-21(G1)	→	68-64(R4)	…
LD5	31-27(B1)	→	74-69(G4)	…
LD6	36-32(R2)	→	79-75(B4)	…
LD7	42-37(G2)	→	84-80(R5)	…

図 3.20.7各表示モードにおけるメモリマップイメージとデータ出力

Not Recommended for New Design

TFT モノクロ (1pixel 表示データ＝1bit メモリデータ)

表示メモリ



3bit (TFT)

LD0 0 → 3 …
LD1 1 → 4 …
LD2 2 → 5 …

注) 240 セグメント設定の場合、256 セグメント分のデータが必要です。

東芝松下ディスプレーテクノロジー社が提案している、モノクロ TFT ディスプレーを接続する際に、有効な設定です。

図 3.20.8　各表示モードにおけるメモリマップイメージとデータ出力

Not Recommended for New Design

TFT 256 カラー(1pixel 表示データ＝8bit メモリデータ R:3bit,G:3bit,B:2bit)

表示メモリ

8bit (TFT)

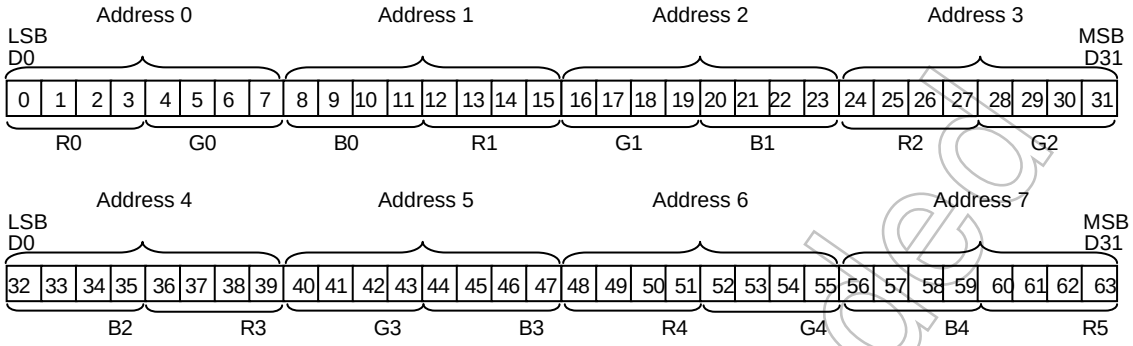
LD0	0(R0)	→	8(R1)	…
LD1	1(R0)	→	9(R1)	…
LD2	2(R0)	→	10(R1)	…
LD3	3(G0)	→	11(G1)	…
LD4	4(G0)	→	12(G1)	…
LD5	5(G0)	→	13(G1)	…
LD6	6(B0)	→	14(B1)	…
LD7	7(B0)	→	15(B1)	…

図 3.20.9　各表示モードにおけるメモリマップイメージとデータ出力

Not Recommended for New Design

TFT 4096 カラー(1pixel 表示データ＝12bit メモリデータ R:4bit,G:4bit,B:4bit)

表示メモリ



12bit (TFT)

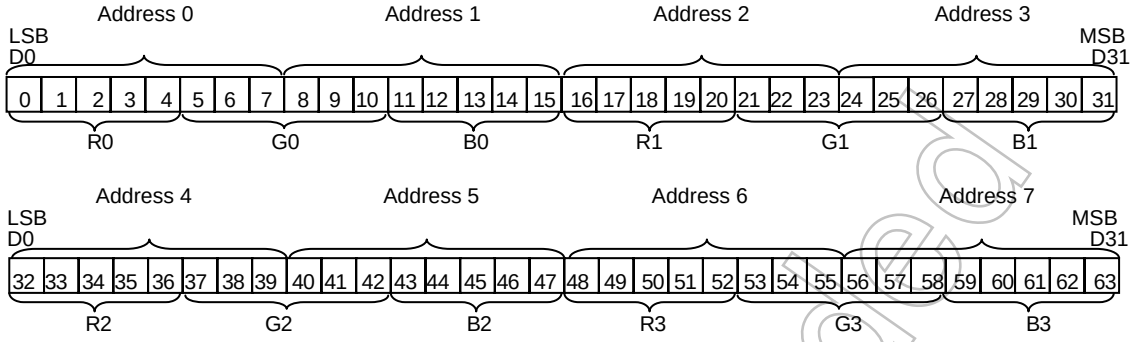
LD0	0(R0)	→	12(R1)	…
LD1	1(R0)	→	13(R1)	…
LD2	2(R0)	→	14(R1)	…
LD3	3(R0)	→	15(R1)	…
LD4	4(G0)	→	16(G1)	…
LD5	5(G0)	→	17(G1)	…
LD6	6(G0)	→	18(G1)	…
LD7	7(G0)	→	19(G1)	…
LD8	8(B0)	→	20(B1)	…
LD9	9(B0)	→	21(B1)	…
LD10	10(B0)	→	22(B1)	…
LD11	11(B0)	→	23(B1)	…

図 3.20.10　各表示モードにおけるメモリマップイメージとデータ出力

Not Recommended for New Design

TFT 65536 カラー(16bpp: R:5bit, G:6bit, B:5bit)

表示メモリ



16bit (TFT)

LD0	0(R0)	→	16(R1)	…
LD1	1(R0)	→	17(R1)	…
LD2	2(R0)	→	18(R1)	…
LD3	3(R0)	→	19(R1)	…
LD4	4(R0)	→	20(R1)	…
LD5	5(G0)	→	21(G1)	…
LD6	6(G0)	→	22(G1)	…
LD7	7(G0)	→	23(G1)	…
LD8	8(G0)	→	24(G1)	…
LD9	9(G0)	→	25(G1)	…
LD10	10(G0)	→	26(G1)	…
LD11	11(B0)	→	27(B1)	…
LD12	12(B0)	→	28(B1)	…
LD13	13(B0)	→	29(B1)	…
LD14	14(B0)	→	31(B1)	…
LD15	15(B0)	→	32(B1)	…

図 3.20.11　各表示モードにおけるメモリマップイメージとデータ出力

Not Recommended for New Design

(7) LDIV 信号

この時、LCDMODE1<AUTOINV>や<LDINV>の設定により、データ出力と同時に LDIV 信号を制御することも可能です。この信号は LD バス信号がすべて反転していることを示す信号です。

LCDMODE1<LDINV>を反転設定にすると、表示データは強制的にすべて反転し、LDIV 信号も同時に High 信号を出力します。また<AUTOINV>を動作設定すると 1 回前に送られたデータとこれから送ろうとしているデータを比較し、データの変化が過半数を超えた場合 (たとえば 12bit バス時は 7bit 以上、8bit バス時は 5bit 以上変化する場合)にデータを反転させて、同時に DINV 信号を High にします。これは、TFT ソースドライバで内部データ反転機能を有する場合、データの高速反転による放射ノイズや消費電流を低減することができる機能です。

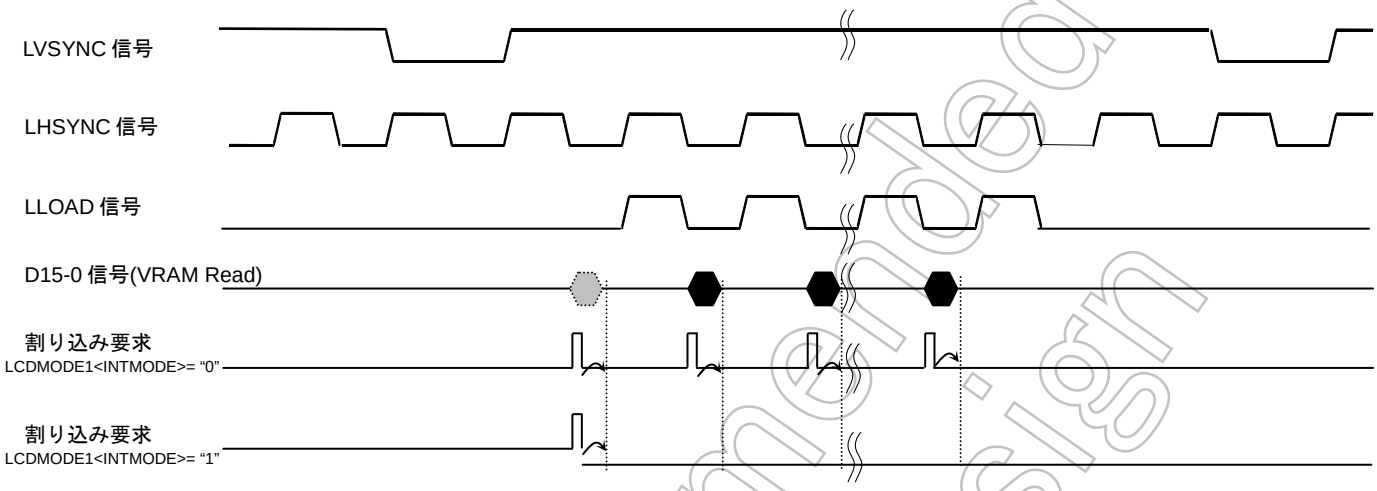
LCDMODE1<AUTOINV>と<LDINV>を同時に ON させた場合には、LCDMODE1<LDINV>機能が優先されます。 LDINV が動作、ANTOINV が停止状態となります。

Not Recommended for New Design

3.20.4 割り込み機能

LCD コントローラには 2 種類の割り込みが存在します。LLOAD に同期して発生する割り込みと LVSYNC 信号の直後に出力される LLOAD 信号に同期して発生する割り込みです。

LCDMODE1<INTMODE>にて発生タイミングの切り替えが可能です。



LCDMODE1<INTMODE>= "0"の時、LLOAD 信号発生の 1 つ前の表示 RAM Read スタートのタイミングごとに割り込み要求が発生します(LLOAD 周期に 1 回割り込み発生)。

LCDMODE1<INTMODE>= "1"の時、LLOAD 信号発生の 1 つ前の表示 RAM Read スタートのタイミングで割り込み要求が発生します (LVSYNC 周期に 1 回割り込み発生)。

注) 割り込み要求の発生ポイントは、表示 RAM からデータを Read するのと同時に発生しますが、表示 RAM からのデータ Read は CPU へのバス開放要求によって、DMA 転送されますので、DMA 動作が優先され、実際に CPU が割り込みを受け付けるのは、表示 RAM からデータをリードした直後となります。

LCDMODE1 レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDMODE1 (0281H)	bit Symbol	LDC2	LDC1	LDC0	LDINV	AUTOINV	INTMODE	FREDGE	SCPW2
	Read/Write	R/W						W	
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	データ変換機能 (64k カラー:16bps のみ対応) 000: 通常 001: 左右反転 010: 上下反転 011: 上下左右 100: 横 → 縦 101: Reserved 110: Reserved 111: Reserved			LD バス反転 0:ノーマル 1:反転	自動バス反転 0:停止 1:動作 (TFT 設定時のみ有効)	割り込み選択 0:LLOAD 1:LVSYNC	FR エッジ切り替え 0: LHSYNC 前エッジ同期 1:LHSYNC 後エッジ同期	LD バス転送速度 0: normal 1: 1/3 設定

注) LLOAD と LVSYNC の割り込み切り替えは、LCD コントローラが動作中に切り替えないでください。必ず一度 LCDCTL0<START>を "0"に設定後、割込みソースの切り替えを行ってください。

Not Recommended for New Design

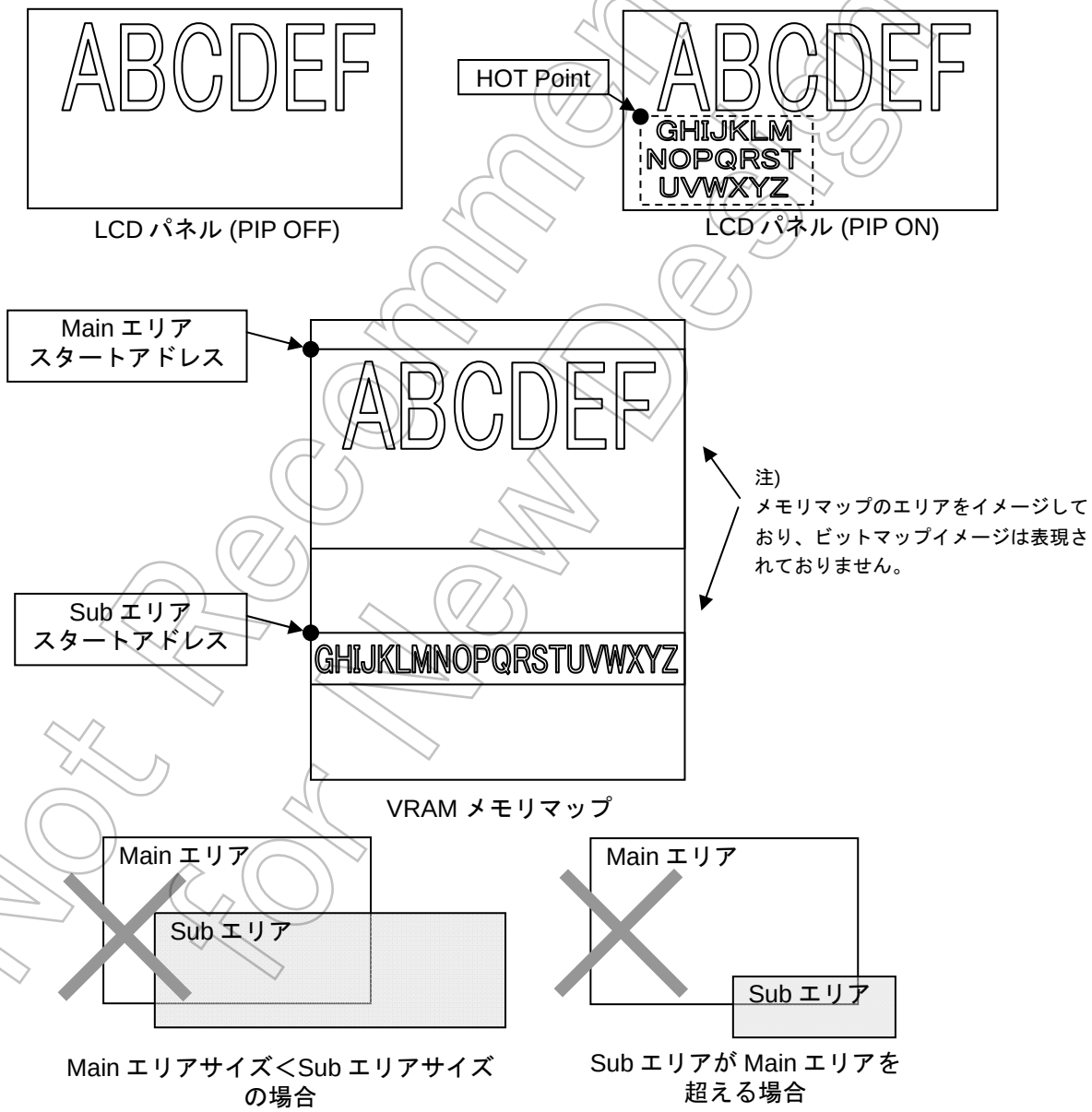
3.20.5 特殊機能

3.20.5.1 PIP(Picture in Picture)機能

本 LSI では現在表示中の画面上に別の画面を重ねて表示する、PIP(picture in picture)機能を持っています。

この機能は、表示メモリのアドレス空間を『メイン画面』と『サブ画面』とに分けて管理しています。メイン画面は通常の設定と同様に表示サイズ、スタートアドレスを設定します。次に、サブ画面の表示サイズとスタートアドレスをメイン画面と同様に設定し、サブ画面を表示する場所とサイズを設定します。

サブ画面の HOT_POINT(左上の頂点)とセグメント/コモンサイズを設定し、イネーブルビットをイネーブル状態にするとメイン画面上に重なる形でサブ画面が表示されます。



注) Sub エリアは常に、Main エリアの中に表示するようにしてください。Main エリアより大きなサイズを Sub エリアに設定したり、Main エリア外にはみ出す Sub エリア設定は出来ません。

Not Recommended for New Design

このとき、設定できる HOT_POINT は以下のとおりです。

	*VRAM アクセス	HOT_Point (X_dir)	HOT_Point (Y_dir)
モノクロ表示	16bit	16dot 単位	1Line ごと
	32bit	32dot 単位	
4 グレー表示	16bit	8dot 単位	
	32bit	16dot 単位	
16 グレー表示	16bit	4dot 単位	
	32bit	8dot 単位	
64 グレー表示	16bit	8dot 単位	
	32bit	16dot 単位	
256 カラー表示	16bit	2dot 単位	
	32bit	4dot 単位	
4K カラー表示	16bit	4dot 単位	
	32bit	8dot 単位	
64K カラー表示	16bit	1dot 単位	
	32bit	2dot 単位	

注 1) 上記表中の “VRAM アクセス” は、表示用 RAM へアクセスする時のバスサイズです。外部 RAM を使用の際は使用する RAM のビット幅を示し、内蔵 RAM の場合は常に 32 ビットアクセスとなります。

注 2) メインエリアとサブエリアで異なる RAM の選択はできません。

また、設定できるセグメント/コモンサイズは以下のとおりです。

	*VRAM アクセス	セグメントサイズ		コモンサイズ
		最小設定サイズ	設定単位	
モノクロ表示	16bit	32dot 単位	16dot 単位	1Line ごと
	32bit	64dot 単位	32dot 単位	
4 グレー表示	16bit	16dot 単位	8dot 単位	
	32bit	32dot 単位	16dot 単位	
16 グレー表示	16bit	8dot 単位	4dot 単位	
	32bit	16dot 単位	8dot 単位	
64 グレー表示	16bit	16dot 単位	8dot 単位	
	32bit	32dot 単位	16dot 単位	
256 カラー表示	16bit	4dot 単位	2dot 単位	
	32bit	8dot 単位	4dot 単位	
4K カラー表示	16bit	8dot 単位	4dot 単位	
	32bit	16dot 単位	8dot 単位	
64K カラー表示	16bit	2dot 単位	1dot 単位	
	32bit	4dot 単位	2dot 単位	

Not Recommended for New Design

LCD Main Area Start address レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LSAML (02A0H)	bit Symbol	LMSA7	LMSA6	LMSA5	LMSA4	LMSA3	LMSA2	LMSA1	
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	
	機能	LCD メインエリア スタートアドレス(A7-A1)							
		7	6	5	4	3	2	1	0
LSAMM (02A1H)	bit Symbol	LMSA15	LMSA14	LMSA13	LMSA12	LMSA11	LMSA10	LMSA9	LMSA8
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LCD メインエリア スタートアドレス(A15-A8)							
		7	6	5	4	3	2	1	0
LSAMH (02A2H)	bit Symbol	LMSA23	LMSA22	LMSA21	LMSA20	LMSA19	LMSA18	LMSA17	LMSA16
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	1	0	0	0	0	0	0
	機能	LCD メインエリア スタートアドレス (A23-A16)							

LCD Sub Area Start address レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LSASL (02A4H)	bit Symbol	LSSA7	LSSA6	LSSA5	LSSA4	LSSA3	LSSA2	LSSA1	
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	
	機能	LCD サブエリア スタートアドレス(A7-A1)							
		7	6	5	4	3	2	1	0
LSASM (02A5H)	bit Symbol	LSSA15	LSSA14	LSSA13	LSSA12	LSSA11	LSSA10	LSSA9	LSSA8
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LCD サブエリア スタートアドレス(A15-A8)							
		7	6	5	4	3	2	1	0
LSASH (02A6H)	bit Symbol	LSSA23	LSSA22	LSSA21	LSSA20	LSSA19	LSSA18	LSSA17	LSSA16
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	1	0	0	0	0	0	0
	機能	LCD サブエリア スタートアドレス(A23-A16)							

Not Recommended for New Design

LCD Sub Area Hot Point レジスタ (X-dir)

		7	6	5	4	3	2	1	0
LSAHX (02A8H)	bit Symbol	SAHX7	SAHX6	SAHX5	SAHX4	SAHX3	SAHX2	SAHX1	SAHX0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LCD Sub Area Hot Point Set Register (7-0)							
		7	6	5	4	3	2	1	0
(02A9H)	bit Symbol							SAHX9	SAHX8
	Read/Write							R/W	
	リセット後							0	0
	機能							LCD Sub Area Hot Point Set Register (9-8)	

LCD Sub Area Hot Point レジスタ (Y-dir)

		7	6	5	4	3	2	1	0
LSAHY (02AAH)	bit Symbol	SAHY7	SAHY6	SAHY5	SAHY4	SAHY3	SAHY2	SAHY1	SAHY0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LCD Sub Area Hot Point Set Register (7-0)							
		7	6	5	4	3	2	1	0
(02ABH)	bit Symbol								SAHY8
	Read/Write								R/W
	リセット後								0
	機能								LCD Sub Area Hot Point Set Register (8)

注) Hot Point を Dot 単位で設定します。表示色と表示 RAM へのアクセスのデータバス幅によって、設定可能な最小 Dot サイズが決定します。

LCD Sub Area display segment size レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LSASS (02ACH)	bit Symbol	SAS7	SAS6	SAS5	SAS4	SAS3	SAS2	SAS1	SAS0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LCD Sub Area Segment Size Set Register (7-0)							
		7	6	5	4	3	2	1	0
(02ADH)	bit Symbol							SAS9	SAS8
	Read/Write							R/W	
	リセット後							0	0
	機能							LCD Sub Area Segment Size Set Register (9-8)	

注) Segment Size を Dot 単位で設定します。表示色と表示 RAM へのアクセスのデータバス幅によって、設定可能な最小 Dot サイズが決定します。

Not Recommended for New Design

LCD Sub Area display common size レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LSACS (02AEH)	bit Symbol	SAC7	SAC6	SAC5	SAC4	SAC3	SAC2	SAC1	SAC0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	LCD Sub Area Common Size Set Register (7-0)							
		7	6	5	4	3	2	1	0
(02AFH)	bit Symbol								SAC8
	Read/Write								R/W
	リセット後								0
	機能								LCD Sub Area Common Size Set Register (8)

注) Common Size を 1Line 単位で設定します。

Not Recommended for New Design

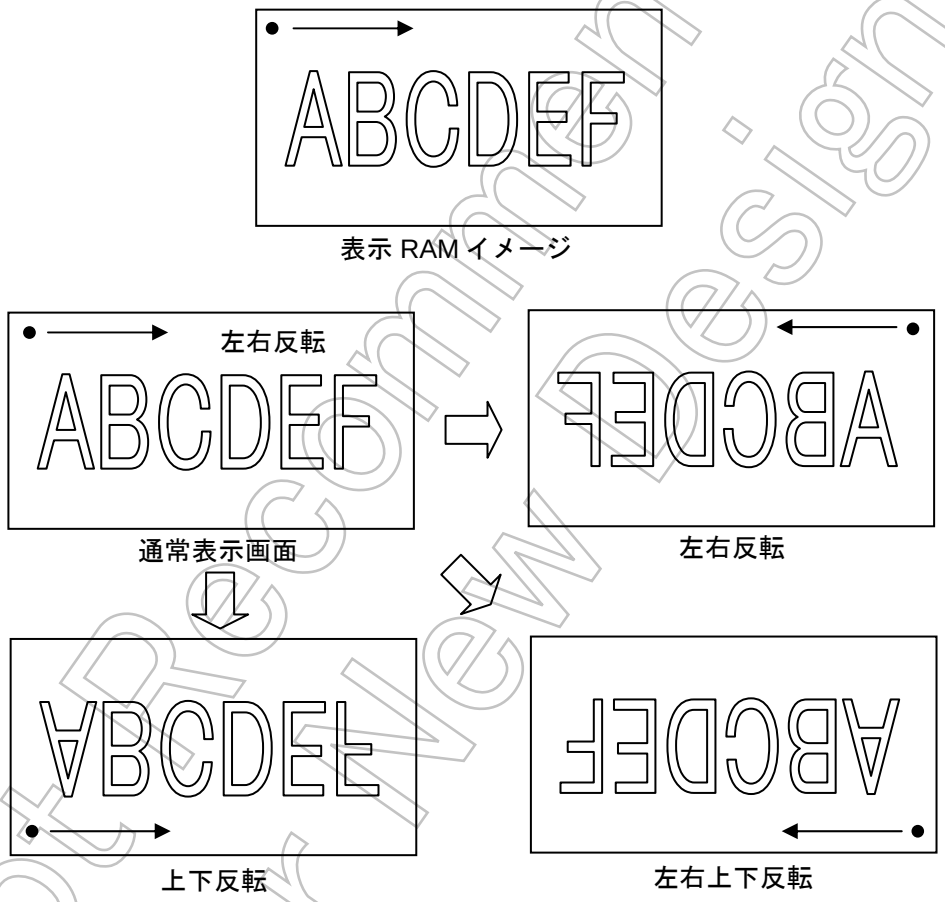
3.20.5.2 表示データ・ローテーション出力機能

本 LSI では表示 RAM にデータを LCDD に出力する際に使用する LCDD(LCD モジュール)の仕様に合わせて、データの出力方向をハードウェアで自動的に変換する機能を備えています。

表 3.20.2 動作条件

項目	上下左右機能	縦横機能
表示サイズ	320 × 240	320×240 → 240 × 320
カラー	64K カラー(16bpp)	64K カラー(16bpp)
対応 LCDD	TFT/STN	TFT/STN
表示 RAM	内蔵 RAM、外部 SRAM	内蔵 RAM、外部 SRAM

(1) 左右上下反転機能



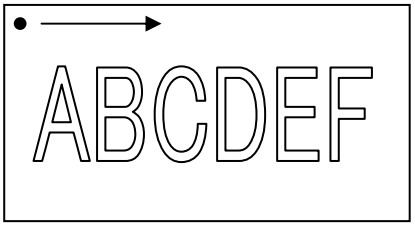
上図の表示 RAM イメージの図は、通常表示画面にあわせたデータのスキャン方法になっており、左上から右向きでデータをリードし LCDD にライトしていきます。

もし、右上から左向きにデータをライトしていく LCDD(LCDM)の場合、表示 RAM は左上から右向きにデータをリードし、LCDD へは右上から左向きにデータをライトしていくため、表示されるデータは “左右反転”された表示となります。

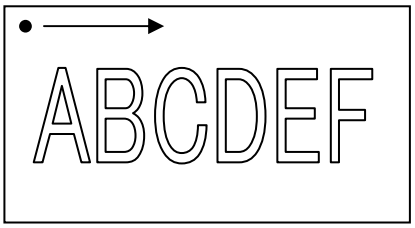
同様に、左下から右向きにデータをライトしていく LCDD では表示が “上下反転” し、右下から左向きにデータをライトしていく LCDD では表示が “上下左右反転”して表示されます。本機能では、表示 RAM データの書き換えを行わずに各 LCDD の仕様にあわせた出力を可能にしています。また言い換えれば、表示データの書き換えを行わずに表示を左右、上下方向に変換することを可能とした機能です。

Not Recommended for New Design

(2) 縦横変換機能



表示 RAM イメージ



QVGA (320×240)

縦長タイプ QVGA (240×320)
(本機能を利用した場合)

上図の表示 RAM イメージは、QVGA サイズ(320 segment×240 common:横長)の標準データを示しています。横長タイプの LCDD へのライトは問題なく行えます。

もし、そのデータを 240×320 の縦長タイプの LCDD にそのままライトしようとしても表示することは出来ません。

本機能では、表示データイメージを変更せずに表示イメージの縦横変換が行える機能です。

Not Recommended for New Design

(3) 設定方法

LCDMODE1<LDC2:0>の設定で反転モードを設定します。

LCDMODE1 レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
LCDMODE1 (0281H)	bit Symbol	LDC2	LDC1	LDC0	LDINV	AUTOINV	INTMODE	FREDGE	SCPW2
	Read/Write	R/W						W	
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	データ変換機能 (64k カラー:16bps のみ対応) 000: 通常 100: 横 → 縦 001: 左右反転 101: Reserved 010: 上下反転 110: Reserved 011: 上下左右 111: Reserved			LD バス反転 0:ノーマル 1:反転	自動バス反転 0:停止 1:動作 (TFT 設定時のみ有効)	割り込み選択 0:LLOAD 1:LVSYNC	FR エッジ切り替え 0: LHSYNC 前エッジ同期 1:LHSYNC 後エッジ同期	LD バス転送速度 0: normal 1: 1/3 設定

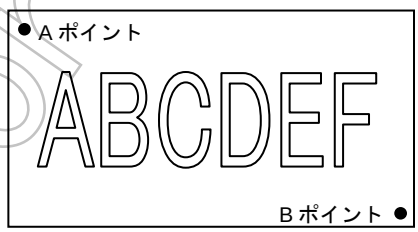
注) LDC2:0 のデータ変換設定は LCDC の動作中に切り替えることはできません。必ず一旦 LCDC を停止 (LCDCTL0<START>= “0”) してから設定してください。

『左右上下反転機能』や『縦横変換機能』を使う場合、メイン/サブエリアのスタートアドレスの設定が通常のモードと異なります。下記の方法にてアドレスの設定をしてください。

使用モード	設定ポイント	表示 RAM スタートアドレス設定例
通常時	A ポイント	00000h
縦横変換時	B ポイント	257FEh
左右反転時	A ポイント	00000h
上下反転時	B ポイント	257FEh
左右上下反転時	B ポイント	257FEh

B ポイントのアドレスの計算方法：

(320×240×16/8)－2 ＝ 153600－2
＝ 153598 [Dec]
＝ 257FE [hex]



表示 RAM イメージ(QVGA 320 × 240)

Not Recommended for New Design

3.20.6 使用上の注意

- LCD コントローラの動作中に動作モードを変更すると、最大 1 フレーム分の表示が乱れます。1 フレーム分の画像の乱れは通常問題になる可能性は低いと思われますが(液晶が応答しない、人間の目に見えない等)、LCD ドライバ、LCD パネルおよびフレーム周波数などに大きく依存しますで、実際にご使用になられる環境で確認されることをお勧めいたします。

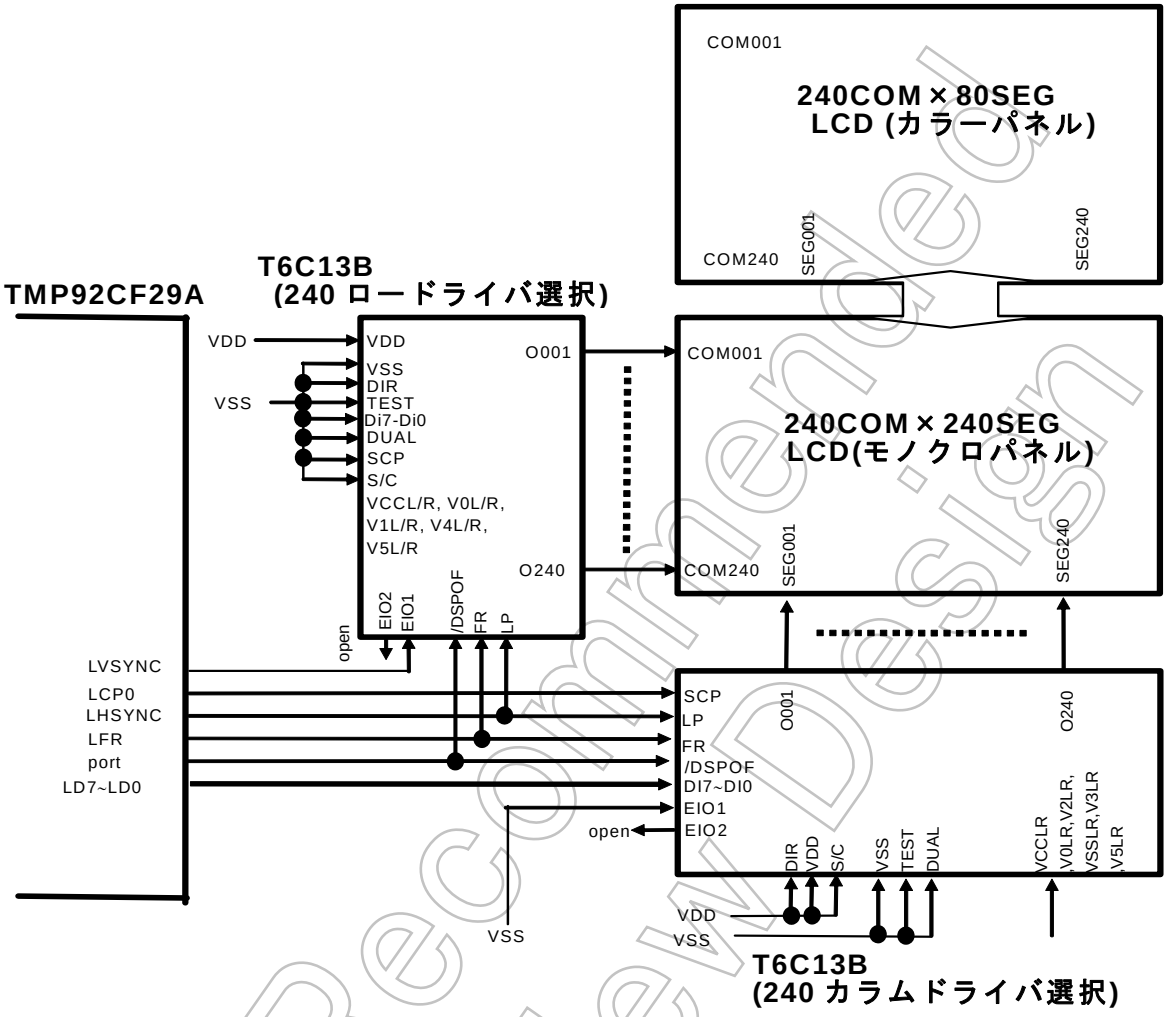
- データ変換設定は LCDMODE1<LDC2:0>の LCDC の動作中に切り替えることはできません。必ず一旦 LCDC を停止(LCDCTL0<START>="0")してから設定するようにしてください。

- LCD コントローラは CPU からバス権を取得して動作します。本 LSI には LCD コントローラ以外に HDMA、SDRAM コントローラなどが同様にバス権を取得して動作します。そのため各々のバスマスタの使用率をあらかじめ計算して見積もっておく必要があります。詳細は本紙の HDMA の章を参照願います。

Not Recommended for New Design

3.20.7 設定例

- STN の場合

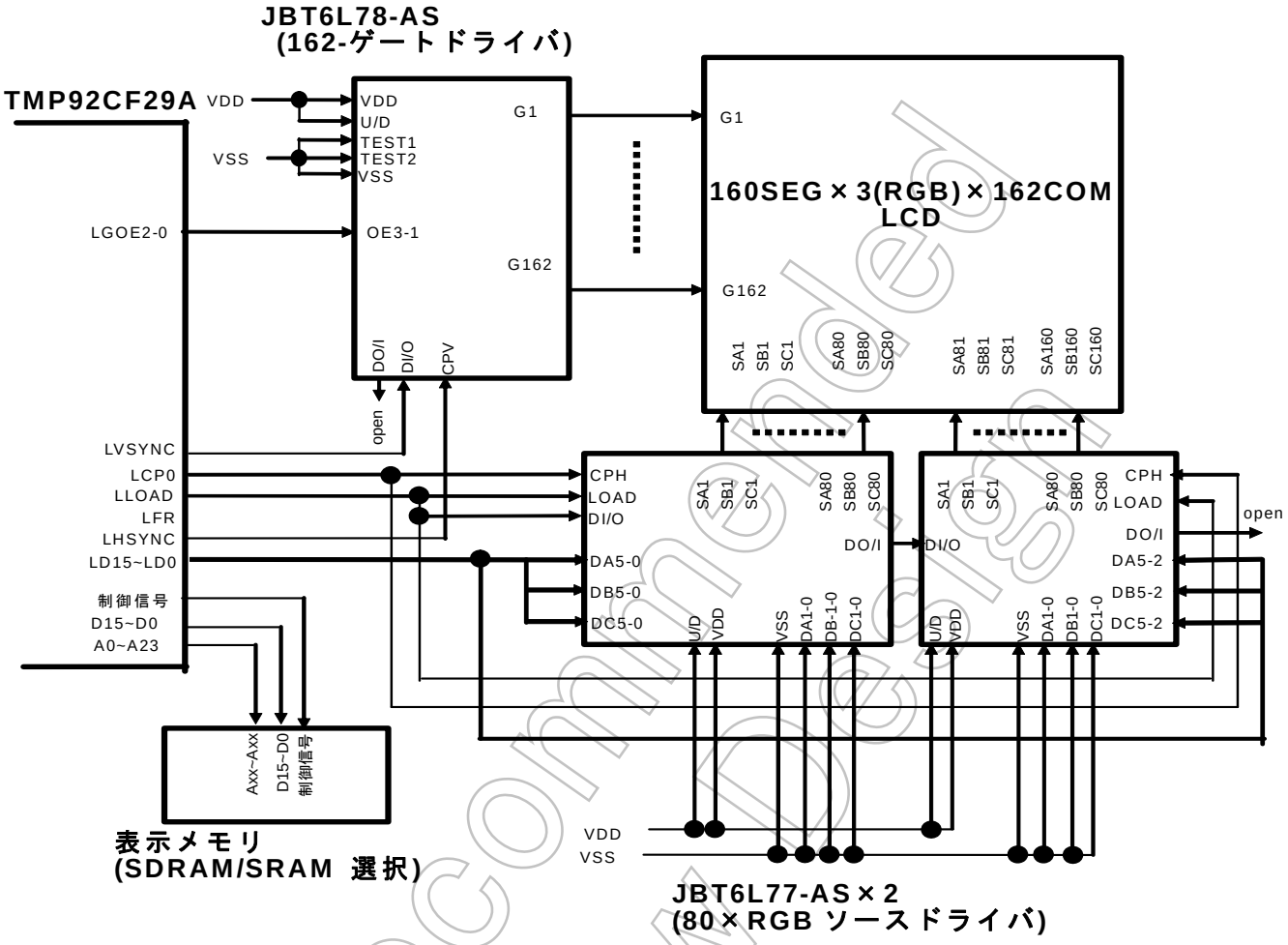


注) LCD ドライバ表示に必要な LCD 駆動電源は別回路が必要です。

図 3.20.12 SR モード時の LCD ドライバ接続例

Not Recommended for New Design

- TFT の場合



注) LCD ドライバ表示に必要な LCD 駆動電源は、別回路が必要です。

図 3.20.13 TFT タイプ LCD ドライバ接続例

Not Recommended for New Design

3.21 タッチスクリーンインタフェース (TSI)

4 端子型抵抗網タッチスクリーンインタフェースを内蔵しています。TSI は、タッチ検出および X/Y 位置測定の 2 つの動作を容易に実現できます。TSI 制御レジスタ(TSICR0,TSICR1)および内蔵 AD コンバータを使用して実行します。

3.21.1 TSIの外部接続図、内部ブロック図

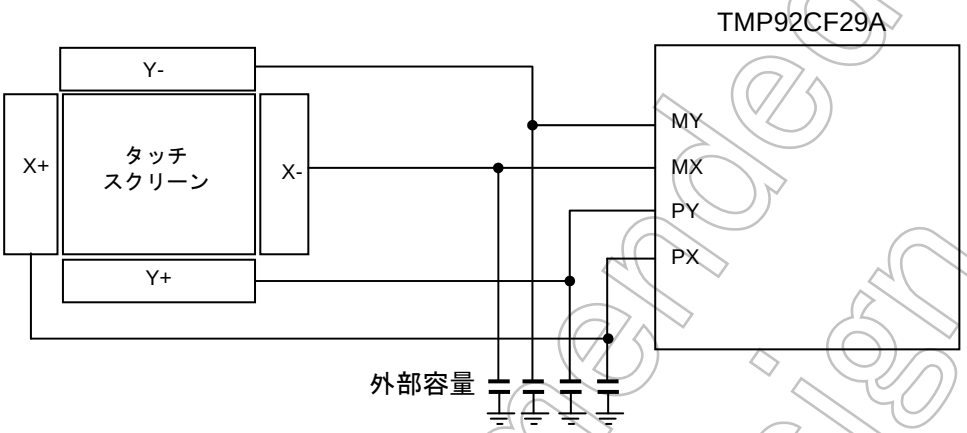


図 3.21.1 TSI の外部接続図

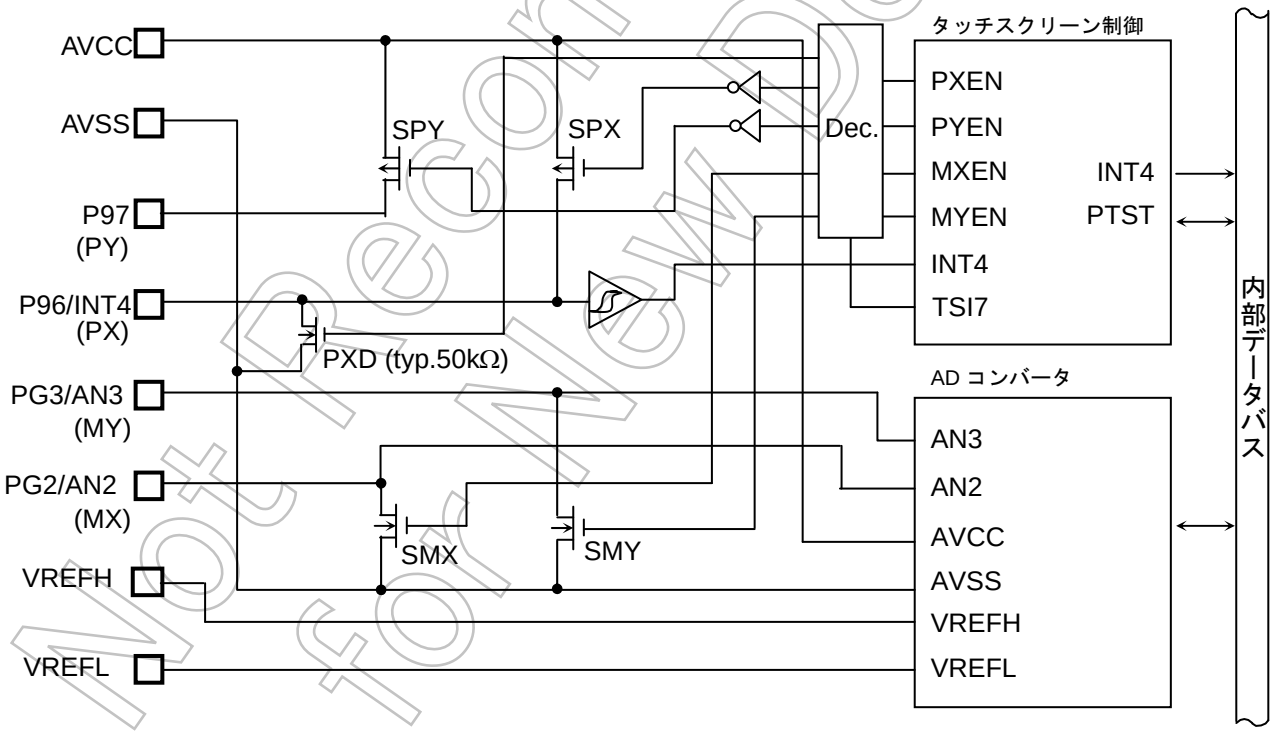


図 3.21.2 TSI の内部ブロック図

Not Recommended for New Design

3.21.2 タッチスクリーンインタフェース (TSI)制御レジスタ

TSI 制御レジスタ

TSICR0 (01F0H)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	TSI7	INGE	PTST	TWIEN	PYEN	PXEN	MYEN	MXEN
Read/Write	R/W		R	R/W				
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
機能	0 : 禁止 1 : 許可	ポート P96,97 の入力ゲート制御 0 : 許可 1 : 禁止	検出状態 0 :検出無 1 :検出中	INT4 割り込み制御 0 : 禁止 1 : 許可	SPY 0 : OFF 1 : ON	SPX 0 : OFF 1 : ON	SMY 0 : OFF 1 : ON	SMX 0 : OFF 1 : ON

PXD(内部プルダウン抵抗)ON/OFF 設定

<TSI7> \ <PXEN>	0	1
0	OFF	OFF
1	ON	OFF

デバウンス時間設定レジスタ

TSICR1 (01F1H)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	DBC7	DB1024	DB256	DB64	DB8	DB4	DB2	DB1
Read/Write	R/W							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	0 : 禁止 1 : 許可	1024	256	64	8	4	2	1
		デバウンス時間は“(N*64-16) / f_{SYS}”の式により設定されます。 “N” はビット 6 からビット 0 に“1”を設定した数の総計を表します。（注 3）						

注 1) デバウンス回路は CPU クロックが使用されているため、IDLE1、STOP モード時あるいは PCM 状態には、デバウンス回路は動作せずデバウンス回路を経由した割り込みも発生しません。IDLE1 あるいは STOP モード時には、HALT 状態以前にこの回路(“0”を TSICR1<DBC7>にライト)を禁止してください。 また、デバウンス時間を"0"に設定した場合は禁止した状態からシステムクロック(f_{SYS})6 クロック分遅れて内部に取り込まれます。

注 2) AD コンバータでアナログ入力データを変換中に通常の C-MOS 入力ゲートに貫通電流が流れることを防ぐために、TSICR0<INGE>の制御をすることができます。中間電圧が入力される場合には本 bit で P96, P97C-MOS ロジックへの入力信号を遮断してください。TSICR0<PTST>は初期のペンタッチを確認するものです。TSICR0<INGE>にて C-MOS ロジックへの入力が遮断すると、本 bit は常に“1”になりますので注意してください。

注 3) 例えば、(TSICR1)=95H に設定した場合、N = 64 + 4 + 1 = 69 となります。

Not Recommended for New Design

3.21.3 タッチ検出手順

タッチ検出手順は、タッチスクリーンにペンがタッチされ、検出されるまでの手順です。

タッチされると割込み INT4 を発生して本手順は終了します。X/Y 位置測定手順が終了すると再び本手順に戻し次のタッチ待ち状態として下さい。

非接触のタッチ待ち状態時は、 SPY スイッチだけを ON させ、他 3 つのスイッチ:SMY,

SPX,SMX はすべて OFF させて下さい。またこのとき、P96/INT4/PX 端子に内蔵するプルダウン抵抗は ON しています。

この状態では タッチスクリーン内の X 方向と Y 方向の内部抵抗は接続されていませんので

P96/INT4/PX 端子は、内部プルダウン抵抗(PXD)により Low 状態となり、INT4 割込みは発生しません。

次に、ペンがタッチされるとタッチスクリーン内の X 方向と Y 方向の内部抵抗が接続され

P96/INT4/PX 端子は High 状態となり、INT4 割込みを発生します。

1 回のペンタッチにより複数回の INT4 発生を防止するため、下記図のようなデバウンス回路があります。TSICR1 レジスタにデバウンス時間を設定することによりその時間以下のパルスを無視します。

デバウンス回路は、信号の立ち上がりを検出し、設定されたデバウンスカウンタ時間をカウントアップし、カウント後内部に信号を取り込みます。カウント中に信号が “L” になるとカウンタをクリアし、再度立ち上がりエッジ待ち状態になります。

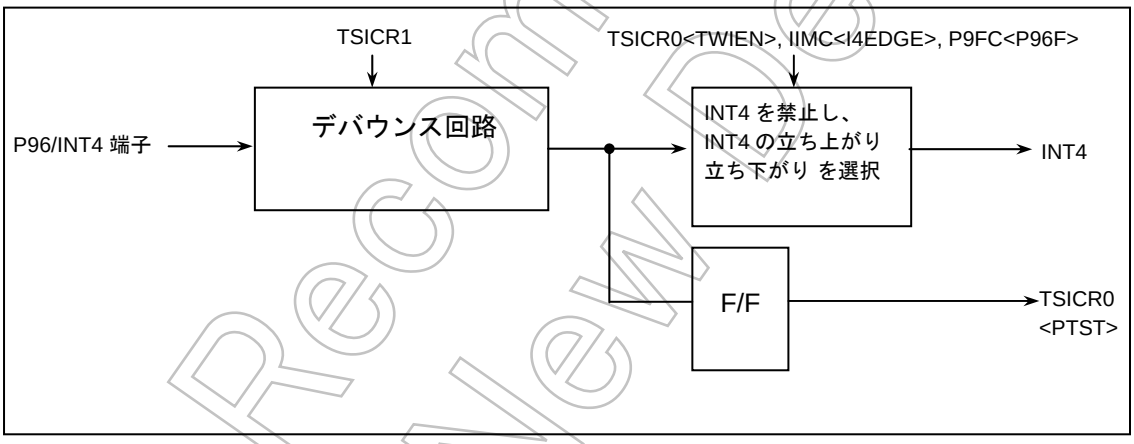


図 3.21.3 デバウンス回路のブロック図

Not Recommended for New Design

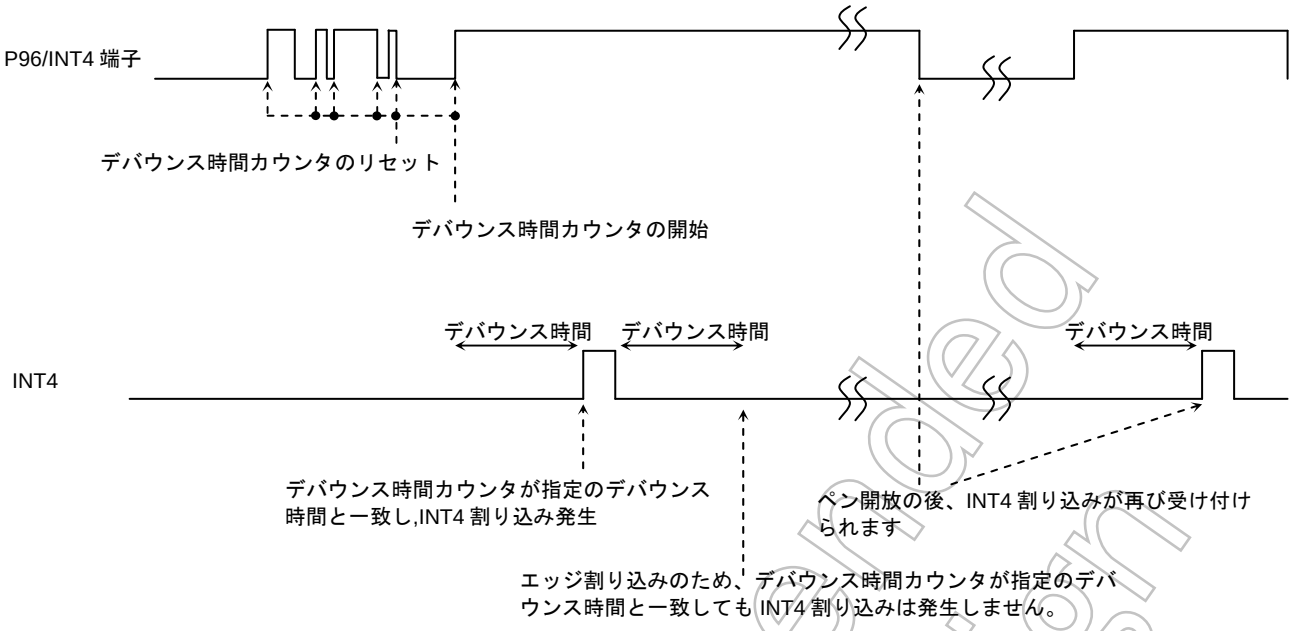


図 3.21.4　デバウンス回路のタイミング図

3.21.4　X/Y 位置測定手順

ペンがタッチされ INT4 割込み発生により、ペンの位置の測定を下記手順で実行してください。

<X 位置座標測定>

まず SPX と SMX スイッチを ON, SPY, SMY を OFF させます。これにより、PG3/MY/AN3 端子に X 位置を示すアナログ電圧が入力されます。この電圧を AD コンバータでデジタルコードに変換させることにより X 位置座標を測定できます。

<Y 位置座標測定>

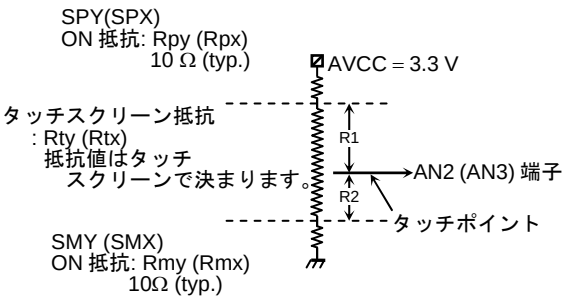
まず SPY と SMY スイッチを ON,SPX, SMX を OFF させます。これにより、PG2/MX/AN2 端子に Y 位置を示すアナログ電圧が入力されます。この電圧を AD コンバータでデジタルコードに変換させることにより Y 位置座標を測定できます。

上記X,Y位置測定時のAN3,AN2 端子へ入力されるアナログ電圧は 図 3.21.5 に示すような TMP92CF29A 内部のスイッチの ON 抵抗値とタッチスクリーン内部の抵抗の比で求められます。

したがって、タッチスクリーンの端をタッチした場合でもアナログ入力電圧は 3.3V もしくは 0V にはなりません。

また、各々の抵抗値はばらつきがありますので、これらの点を考慮の上設計してください。なお、AD 変換は必要に応じて数回実行して平均値を最終値とするなどして下さい。

Not Recommended for New Design



[AN2、AN3 端子へのアナログ入力電圧: E1 を求める計算式]

E1 = ((R2 + Rmy) / (Rpy + Rty + Rmy)) × AVCC[V]

例) AVCC = 3.3 V、Rpy = Rmy = 10 Ω R1 = 400 Ω and R2 = 100 Ωの場合
E1 = ((100 + 10) / (10 + 400 + 100 + 10) × 3.3
= 0.698 V

注 1) 上記は Y 座標位置の計算式ですが、X 座標位置も同様の方法で求めることが可能です。
注 2) Rty = R1 + R2 の関係となります。

図 3.21.5 アナログ入力電圧算出値

Not Recommended for New Design

3.21.5 タッチスクリーンインタフェース(TSI)のフローチャート

(1) タッチ検出手順　　(2) X/Y 位置測定手順

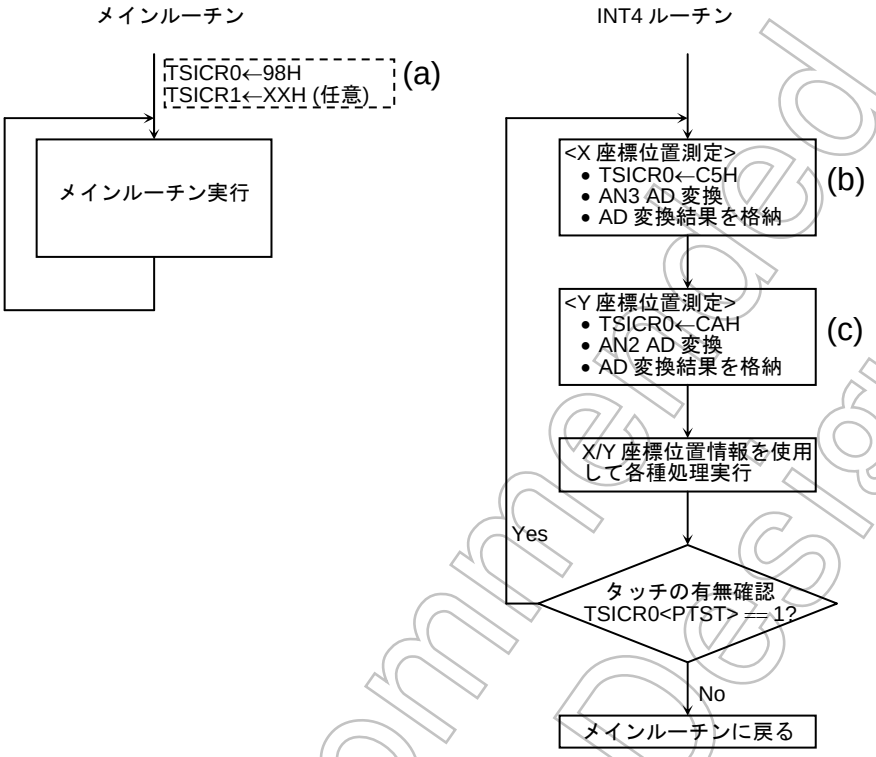


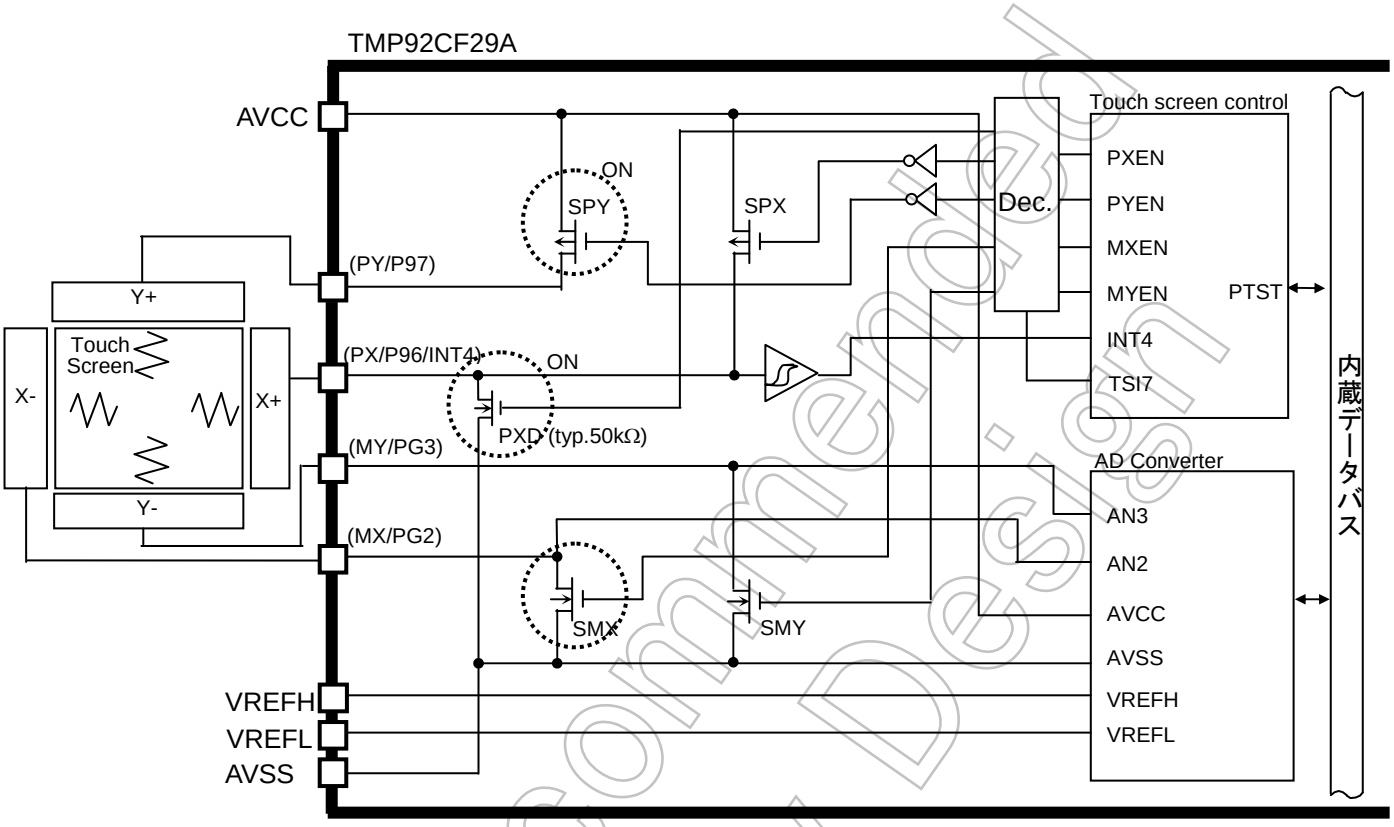
図 3.21.6 TSI 関係のフロー

次ページに、フロー内の(a)(b)(c)それぞれの回路状態を説明します。

Not Recommended for New Design

(a) メインルーチン: INT4 割り込み待ち状態

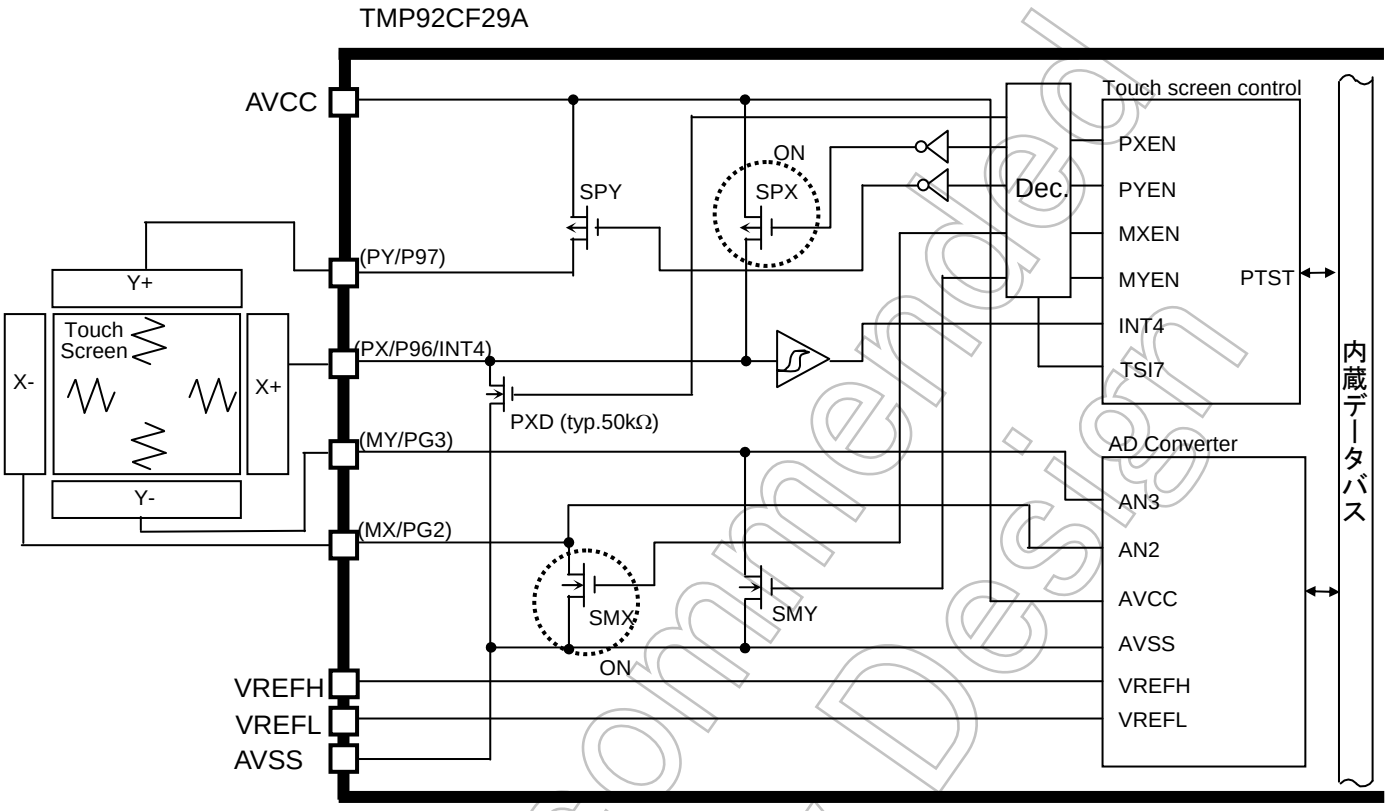
(p9fc)<P96F>, <P97F>= “1”	:	P96 を INT4/PX に、P97 を PY に設定します。
(inte34)	:	INT4 の割り込みレベルを設定します。
(tsicr0)=98h	:	プルダウンレジスタ、SPY を ON に、INT4 割り込み許可に設定します。
ei	:	割り込みイネーブルにします。



Not Recommended for New Design

(b) INT4 ルーチン: “X” 位置座標測定（AD 変換スタート）

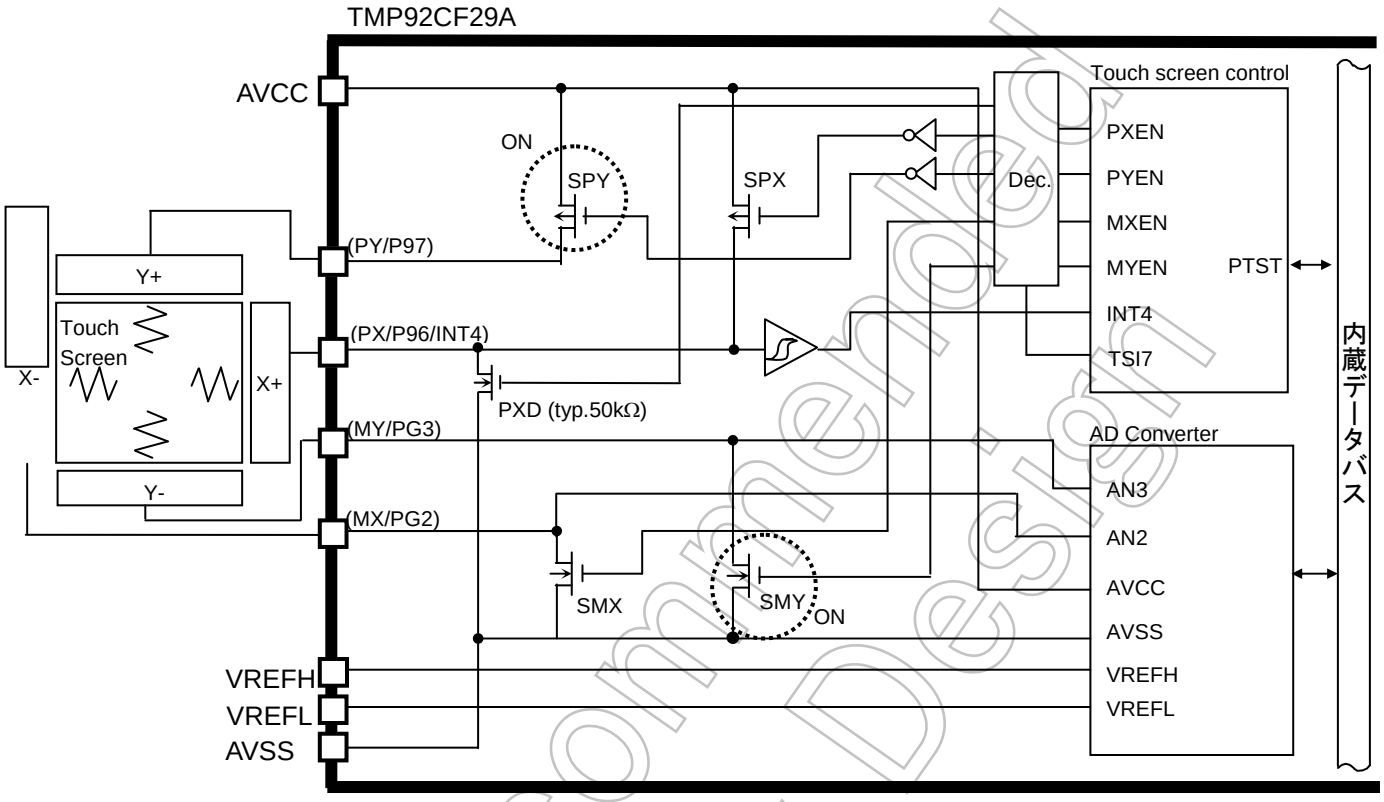
(tsicr0)=c5h	:	SMX,SPX を ON に設定します。P97,P96 入力ゲート OFF にします。
(admod1)=b0h	:	AN3 に設定します。
(admod0)=08h	:	AD 変換を開始します。



Not Recommended for New Design

(c) INT4 ルーチン: "Y" 位置座標測定 (AD 変換スタート)

(tsicr0)=cah	:	SMY,SPY を ON に設定します。 P97,P96 入力ゲート OFF にします。
(admod1)=a0h	:	AN2 に設定します。
(admod0)=08h	:	AD 変換を開始します。



Not Recommended for New Design

3.21.6 使用上の注意

1. デバウンス回路

デバウンス回路内は、CPU のシステムクロックが使用されているため、CPU にクロックが供給されない状態 (IDLE1、STOP モード時や、PCM 状態) では、デバウンス回路は動作しません。このため、デバウンス回路を経由した割り込みも発生しません。

IDLE1、STOP モード時、また PCM 状態から TSI を利用した起動を利用する場合には、HALT や PCM 状態以前に、デバウンス回路を禁止状態に設定してください。(TSICR1<DBC7>="0")

2. ポート処理

0V~AVcc の中間電圧を、A/D コンバータで変換中に、回路構成上、通常の C-MOS 入力ゲート (P96 と P97)にも中間電圧が印加されてしまいます。

TSICR0<INGE>を利用して、ポート 96、97 の貫通電流対策をしてください。また、この時 (TSICR0<INGE>="1")、C-MOS ロジックへの入力が遮断すると、初期のペンタッチの確認を行う TSICR0<PTST>は、常に"1"になりますので注意してください。

Not Recommended for New Design

3.22 リアルタイムクロック (RTC)

3.22.1 RTCの機能概略

1) 時計機能 (時間、分、秒)
2) カレンダー機能 (月日、週、うるう年)
3) 24 時間計と 12 時間計(AM/PM) のいずれかを選択可能
4) +/–30 秒補正機能 (ソフトウエアによる補正)
5) アラーム機能 (アラーム出力)
6) アラーム割り込み発生

3.22.2 ブロック図

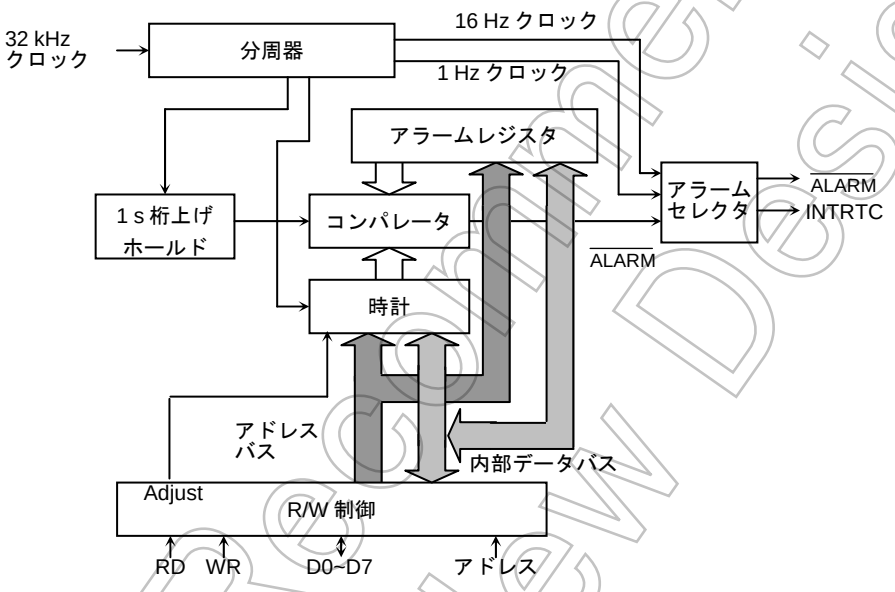


図 3.22.1 RTC ブロック図

注 1)西暦年桁について

本製品は、年桁を下 2 桁しか持っていません。そのため 99 年の翌年は 00 年として動作します。使用するシステムにおいて、西暦で年桁を取り扱う場合にはシステム側にて上 2 桁を管理してください。

注 2)うるう年について

うるう年は、4 で割り切れる年ですが例外があり 100 で割切れる年はうるう年ではありません。ただし、400 で割り切れる年はうるう年です。しかし、本製品は上記例外に対応していません。4 で割り切れる年のみをうるう年としていますのでこの点が問題であればシステム側にてあらかじめ対策してください。

Not Recommended for New Design

3.22.3 コントロールレジスタ

表 3.22.1 PAGE0 (時計機能) レジスタ

Symbol	アドレス	Bit7	Bit6	Bit5	Bit4	Bit3	Bit2	Bit1	Bit0	設定内容	Read/Write
SECR	1320H		40 秒	20 秒	10 秒	8 秒	4 秒	2 秒	1 秒	秒桁	R/W
MINR	1321H		40 分	20 分	10 分	8 分	4 分	2 分	1 分	分桁	R/W
HOURR	1322H			20 時 /PM/AM	10 時	8 時	4 時	2 時	1 時	時間桁	R/W
DAYR	1323H						W2	W1	W0	曜日桁	R/W
DATER	1324H			20 日	10 日	8 日	4 日	2 日	1 日	日桁	R/W
MONTHR	1325H				10 月	8 月	4 月	2 月	1 月	月桁	R/W
YEARR	1326H	80 年	40 年	20 年	10 年	8 年	4 年	2 年	1 年	年桁 (西暦下 2 桁)	R/W
PAGER	1327H	割り込み許可			秒補正設定	時計許可	アラーム許可		PAGE 設定	PAGE レジスタ	W, R/W
RESTR	1328H	1Hz 許可	16Hz 許可	時計リセット	アラームリセット	“0”をライトしてください				リセットレジスタ	W のみ

注) PAGE0 の SECR,MINR,HOURR,DAYR,DATER,MONTHR,YEARR はリードすると現在の状態がリードされます。

表 3.22.2 PAGE1 (アラーム機能) レジスタ

Symbol	アドレス	Bit7	Bit6	Bit5	Bit4	Bit3	Bit2	Bit1	Bit0	設定内容	Read/Write
SECR	1320H										
MINR	1321H		40 分	20 分	10 分	8 分	4 分	2 分	1 分	アラーム分桁	R/W
HOURR	1322H			20 時 /PM/AM	10 時	8 時	4 時	2 時	1 時	アラーム時間桁	R/W
DAYR	1323H						W2	W1	W0	アラーム週桁	R/W
DATER	1324H			20 日	10 日	8 日	4 日	2 日	1 日	アラーム日桁	R/W
MONTHR	1325H								24/12	24 時間クロックモード	R/W
YEARR	1326H							うるう年設定		うるう年モード	R/W
PAGER	1327H	割り込み許可			秒補正設定	時計許可	アラーム許可		PAGE 設定	PAGE レジスタ	W,R/W
RESTR	1328H	1Hz 許可	16Hz 許可	時計リセット	アラームリセット	“0” をライトしてください				リセットレジスタ	W のみ

注) PAGE1 の MINR,HOURR,DAYR,DATER,MONTHR,YEARR はリードすると現在の状態がリードされます。

Not Recommended for New Design

3.22.4 コントロールレジスタの説明

RTC はシステムリセットによる初期化はされません。従って、RTC は各レジスタに時刻/月日曜日年うるう年を設定後、動作を開始します。

(1) 秒桁レジスタの設定 (PAGE0 のみ)

SECR (1320H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol		SE6	SE5	SE4	SE3	SE2	SE1	SE0
Read/Write		R/W						
リセット後		不定						
機能	"0" がリードされます。	40 秒桁	20 秒桁	10 秒桁	8 秒桁	4 秒桁	2 秒桁	1 秒桁

設定例を下記に示します。

0	0	0	0	0	0	0	0 秒
0	0	0	0	0	0	1	1 秒
0	0	0	0	0	1	0	2 秒
0	0	0	0	0	1	1	3 秒
0	0	0	0	1	0	0	4 秒
0	0	0	0	1	0	1	5 秒
0	0	0	0	1	1	0	6 秒
0	0	0	0	1	1	1	7 秒
0	0	0	1	0	0	0	8 秒
0	0	0	1	0	0	1	9 秒
0	0	1	0	0	0	0	10 秒
			:				
0	0	1	1	0	0	1	19 秒
0	1	0	0	0	0	0	20 秒
			:				
0	1	0	1	0	0	1	29 秒
0	1	1	0	0	0	0	30 秒
			:				
0	1	1	1	0	0	1	39 秒
1	0	0	0	0	0	0	40 秒
			:				
1	0	0	1	0	0	1	49 秒
1	0	1	0	0	0	0	50 秒
			:				
1	0	1	1	0	0	1	59 秒

注) 上記以外の設定はしないでください。

Not Recommended for New Design

(2) 分析レジスタの設定 (PAGE0/1)

MINR (1321H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol		MI6	MI5	MI4	MI3	MI2	MI1	MI0
Read/Write		R/W						
リセット後		不定						
機能	"0" がリードされます。	40 分	20 分	10 分	8 分	4 分	2 分	1 分

設定例を下記に示します。

0	0	0	0	0	0	0	0 分
0	0	0	0	0	0	1	1 分
0	0	0	0	0	1	0	2 分
0	0	0	0	0	1	1	3 分
0	0	0	0	1	0	0	4 分
0	0	0	0	1	0	1	5 分
0	0	0	0	1	1	0	6 分
0	0	0	0	1	1	1	7 分
0	0	0	1	0	0	0	8 分
0	0	0	1	0	0	1	9 分
0	0	1	0	0	0	0	10 分
			:				
0	0	1	1	0	0	1	19 分
0	1	0	0	0	0	0	20 分
			:				
0	1	0	1	0	0	1	29 分
0	1	1	0	0	0	0	30 分
			:				
0	1	1	1	0	0	1	39 分
1	0	0	0	0	0	0	40 分
			:				
1	0	0	1	0	0	1	49 分
1	0	1	0	0	0	0	50 分
			:				
1	0	1	1	0	0	1	59 分

注) 上記以外の設定はしないでください。

Not Recommended for New Design

(3) 時間桁レジスタの設定 (PAGE0/1)

1. 24 時間クロックモード (MONTHR<MO0> = “1”)の場合

HOURR (1322H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol			HO5	HO4	HO3	HO2	HO1	HO0
Read/Write			R/W					
リセット後			不定					
機能	“0” がリードされます。		20 時	10 時	8 時	4 時	2 時	1 時

設定例を下記に示します。

0	0	0	0	0	0	0 時
0	0	0	0	0	1	1 時
0	0	0	0	1	0	2 時
:						
0	0	1	0	0	0	8 時
0	0	1	0	0	1	9 時
0	1	0	0	0	0	10 時
:						
0	1	1	0	0	1	19 時
1	0	0	0	0	0	20 時
:						
1	0	0	0	1	1	23 時

注) 上記以外の設定はしないでください。

2. 12 時間クロックモード (MONTHR<MO0> = “0”)の場合

HOURR (1322H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol			HO5	HO4	HO3	HO2	HO1	HO0
Read/Write			R/W					
リセット後			不定					
機能	“0” がリードされます。		PM/AM	10 時	8 時	4 時	2 時	1 時

設定例を下記に示します。

0	0	0	0	0	0	0 時 (AM)
0	0	0	0	0	1	1 時
0	0	0	0	1	0	2 時
:						
0	0	1	0	0	1	9 時
0	1	0	0	0	0	10 時
0	1	0	0	0	1	11 時
1	0	0	0	0	0	0 時 (PM)
1	0	0	0	0	1	1 時

注) 上記以外の設定はしないでください。

Not Recommended for New Design

(4) 週桁レジスタの設定 (PAGE0/1)

DAYR (1323H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol						WE2	WE1	WE0
Read/Write						R/W		
リセット後						不定		
機能	“0” がリードされます。					W2	W1	W0

設定例を下記に示します。

0	0	0	日曜日
0	0	1	月曜日
0	1	0	火曜日
0	1	1	水曜日
1	0	0	木曜日
1	0	1	金曜日
1	1	0	土曜日

注) 上記以外の設定はしないでください。

(5) 日桁レジスタ (PAGE0/1)

DATER (1324H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol			DA5	DA4	DA3	DA2	DA1	DA0
Read/Write			R/W					
リセット後			不定					
機能	“0” がリードされます。		20 日	10 日	8 日	4 日	2 日	1 日

設定例を下記に示します。

0	0	0	0	0	1	1 日
0	0	0	0	1	0	2 日
0	0	0	0	1	1	3 日
0	0	0	1	0	0	4 日
			:			
0	0	1	0	0	1	9 日
0	1	0	0	0	0	10 日
0	1	0	0	0	1	11 日
			:			
0	1	1	0	0	1	19 日
1	0	0	0	0	0	20 日
			:			
1	0	1	0	0	1	29 日
1	1	0	0	0	0	30 日
1	1	0	0	0	1	31 日

注1) 上記以外の設定はしないでください。

注2) 2 月 30 日など、存在しない日は設定しないでください。

Not Recommended for New Design

(6) 月桁レジスタの設定 (PAGE0 のみ)

MONTHR (1325H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol				MO4	MO4	MO2	MO1	MO0
Read/Write				R/W				
リセット後				不定				
機能	"0" がリードされます。			10 月	8 月	4 月	2 月	1 月

設定例を下記に示します。

0	0	0	0	1	1 月
0	0	0	1	0	2 月
0	0	0	1	1	3 月
0	0	1	0	0	4 月
0	0	1	0	1	5 月
0	0	1	1	0	6 月
0	0	1	1	1	7 月
0	1	0	0	0	8 月
0	1	0	0	1	9 月
1	0	0	0	0	10 月
1	0	0	0	1	11 月
1	0	0	1	0	12 月

注) 上記以外の設定はしないでください。

(7) 24 時間時計、12 時間時計の選択 (PAGE1 のみ)

MONTHR (1325H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol								MO0
Read/Write								R/W
リセット後								不定
機能	"0" がリードされます。							1: 24 時間 0: 12 時間

Not Recommended for New Design

(8) 年桁レジスタの設定 (PAGE0 のみ)

YEARR (1326H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	YE7	YE6	YE5	YE4	YE3	YE2	YE1	YE0
Read/Write	R/W							
リセット後	不定							
機能	80 年	40 年	20 年	10 年	8 年	4 年	2 年	1 年

設定例を下記に示します。

0	0	0	0	0	0	0	0	00 年
0	0	0	0	0	0	0	1	01 年
0	0	0	0	0	0	1	0	02 年
0	0	0	0	0	0	1	1	03 年
0	0	0	0	0	1	0	0	04 年
0	0	0	0	0	1	0	1	05 年
				:				
1	0	0	1	1	0	0	1	99 年

注) 上記以外の設定はしないでください。

(9) うるう年レジスタの設定 (PAGE1 のみ)

YEARR (1326H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol							LEAP1	LEAP0
Read/Write							R/W	
リセット後							不定	
機能	"0" がリードされます。						00: うるう年 01: うるう年から 1 年目 10: うるう年から 2 年目 11: うるう年から 3 年目	

設定例を下記に示します。

0	0	現在の年 (今年) がうるう年
0	1	現在がうるう年から 1 年目
1	0	現在がうるう年から 2 年目
1	1	現在がうるう年から 3 年目

Not Recommended for New Design

(10) PAGE レジスタの設定 (PAGE0/1)

		7	6	5	4	3	2	1	0
PAGER (1327H)	Bit symbol	INTENA			ADJUST	ENATMR	ENAALM		PAGE
	Read/Write	R/W			W	R/W			R/W
	リセット後	0			不定	不定			不定
リードモディファイライトできません	機能	INTRTC 0: 禁止 1: 許可	“0” がリードされます。		0: Don't care 1: 補正	時計 0: 禁止 1: 許可	ALARM 0: 禁止 1: 許可	“0” がリードされます。	PAGE 設定

注) ENATMR および ENAAML の各々の割込み許可ビットと、INTENA の割込み許可ビットは下記の設定順番を守り、同時に設定しないようにしてください。
(時計/アラーム許可と割り込み許可の設定間に時間差を設ける。)

(例) 現時刻、アラーム設定

```
ld    (pager), 0ch    :    時計、アラーム許可

ld    (pager), 8ch    :    割り込み許可
```

PAGE	0	Page0 が選択されます
	1	Page1 が選択されます

ADJUST	0	Don't care
	1	秒を補正します。秒が 0~29 秒のときにこのビットを “1” にすると、秒は “0” になります。また、30~59 秒のときは分を桁上げして秒を” 0” にします。f_{SYS} の一周期分 ADJUST 信号が出て、一度 ADJUST されるとその後自動的に ADJUST 解除されます。(PAGE0 のみ)

(11) リセットレジスタの設定 (PAGE0/1)

		7	6	5	4	3	2	1	0
RESTR (1328H)	Bit symbol	DIS1HZ	DIS16HZ	RSTTMR	RSTALM	–	–	–	–
	Read/Write	W							
	リセット後	不定							
リードモディファイライトできません	機能	1 Hz 0: 許可 1: 禁止	16 Hz 0: 許可 1: 禁止	1: 時計リセット	1: アラームリセット	“0” をライトしてください。			

RSTALM	0	未使用
	1	アラームレジスタをリセットします。

RSTTMR	0	未使用
	1	カウンタリセット

<DIS1HZ>	<DIS16HZ>	PAGER<ENAALM>	割込みソース信号
1	1	1	アラーム
0	1	0	1Hz
1	0	0	16Hz
その他			“0”が出力されます。

Not Recommended for New Design

3.22.5 動作説明

(1) 時計データをリードする場合

1. 1Hz 割り込みを利用する

1Hz の割り込みと内部データのカウントアップは同期していますので、1Hz 割り込みを待って、データをリードすれば、正常にデータリードできます。

2. 2 度読みを利用する

時計データのリード動作の途中で内部カウンタの桁上げが起こると誤ったデータをリードする場合があります。従って、データを正しく読み込むために、下記の方法で 2 度以上リードしてください。

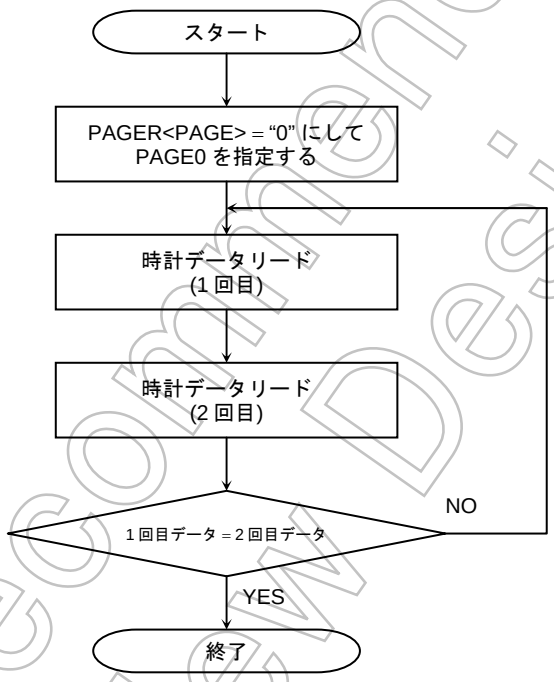


図 3.22.2 時計データのリードフロー

Not Recommended for New Design

(2) 時計データをライトする場合

一連のデータライト動作の途中で桁上げ信号が入ってくると、期待するデータはライトできません。従って、データを正しくライトするためにはつぎの方法があります。

1. 1Hz 割り込みを利用する

1Hz の割り込みと内部データのカウントアップは同期していますので、1Hz 割り込みを待って、データをライトすれば、正常にデータライトできます。

2. カウンタをリセットする

RTC 内部には 32.768 kHz の信号から 1 Hz を発生する 15 段のカウンタが内蔵されており、このカウンタをリセットした後にデータをライトします。

ただし、カウンタクリアした場合、直後の 1 回目のみ、所定時間の半分でカウントアップされます。そのため、正常な時間カウントの設定をする場合は、カウンタクリア後、1Hz 割り込みを許可し、最初の割り込み (0.5s で発生)を待ってその後に時間設定をするようにしてください。

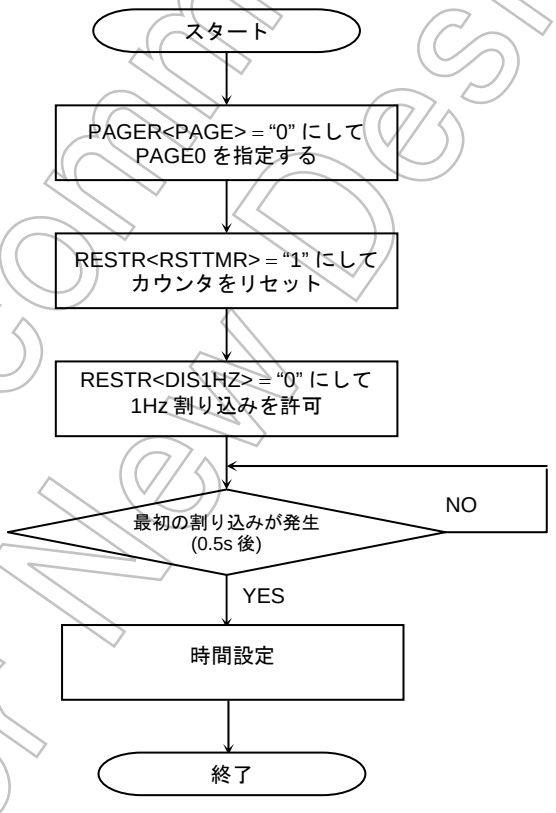


図 3.22.3 データライトのフロー

Not Recommended for New Design

3. 時計を禁止する場合

PAGER<ENATMR>に “0” をライトすると、時計は禁止となって桁上げは禁止されますが、1s Carry ホールド回路により誤カウントを防ぐことができます。

1s Carry ホールド回路は、時計が禁止中に分周器から発生した 1 秒の桁上げ信号を 1 回分だけ保持し、時計許可になってからその桁上げ信号を時計に出力して時刻を補正し、継続して動作します。ただし、時計禁止状態が 1 秒以上続くと時計は遅れてきます。

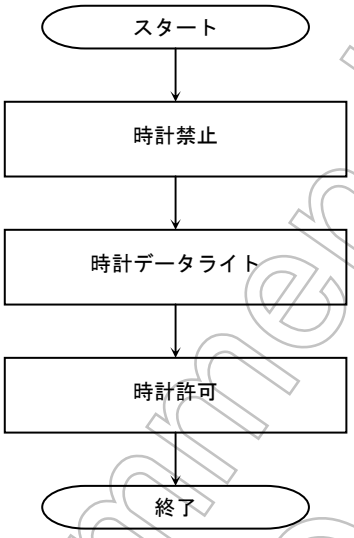


図 3.22.4 時計を禁止するフローチャート

Not Recommended for New Design

3.22.6 アラーム機能の説明

PAGER<PAGE>に “1” をライトすることにより、PAGE1 のレジスタ群でアラーム機能が使用できます。$\overline{\text{ALARM}}$ 端子からは以下 3 つの信号のいずれかを出力できます。INTRTC はいずれの場合も立ち下がりエッジを検出して 1 ショットのパルスを出力します。

なお、RTC はリセットにより初期化されませんので、時計、アラームの設定時に割り込みコントローラにある割り込み要求フラグをクリアしてから使用してください。

(1) アラームレジスタと時計の一致時、“0” を出力

(2) 1 Hz のクロックを出力

(3) 16 Hz のクロックを出力

なお、RTC はリセットにより初期化されませんので、リセット後、時計、アラームの設定時に割り込みコントローラにある割り込み要求フラグをクリアしてから使用してください。

(1) アラームレジスタと時計の一致時、$\overline{\text{ALARM}}$ 端子から“0” を出力

PAGER<ENAALM> = “1” で、PAGE1 のアラームレジスタと PAGE0 の時計の内容が一致したときに $\overline{\text{ALARM}}$ 端子に “0” を出力するとともに、PAGER<INTENA>= “1” ならば INTRTC 割り込みを発生し、その時刻になったことを知らせます。

アラームを使用する方法を下記に説明します。

アラームの初期化は RESTR<RSTALM>に “1” をライトすることにより行われ、アラーム分桁、アラーム時桁、アラーム日桁、アラーム曜日桁は Don’t care になります。このときは、常に時計の内容と一致したことになり PAGER<INENA>、<ENAALM>が “1” であれば INTRTC 割り込みを出力します。

アラーム分桁、アラーム時桁、アラーム日桁、アラーム曜日桁の設定は、PAGE1 の各レジスタにデータをライトすることにより行われます。データを設定した項目は、Don’t care が解除されます。

すべての項目が一致したときに PAGER<ENAALM>、PAGER<INTENA>が “1” であれば INTRTC 割り込みを要求します。ただし、未設定項目 (Don’t care 状態) は常に一致しているものとみなされます。

一度設定した項目は独立に Don’t care に戻すことはできませんがアラームの初期化を行うとすべて Don’t care になります。

例えば、毎日正午 (PM12:00) にアラームを出力させる場合のプログラムを下記に示します。

```
LD      (PAGER), 09H      ;  アラーム禁止、PAGE1 設定
LD      (RESTR), D0H      ;  アラーム初期化
LD      (DAYR), 01H       ;  W0
LD      (DATER),01H          1 日
LD      (HOURR), 12H      ;  12 時設定
LD      (MINR), 00H       ;  00 分設定
                          ;  セットアップ時間 31 μs (注)
LD      (PAGER), 0CH      ;  アラーム許可
LD      (PAGER), 8CH      ;  割り込み許可
```

アラーム設定は、低周波クロックに同期して動作していますので、CPU が高周波で動作している場合、レジスタ設定してから有効になるまでに最大 32 kHz の 1 クロック分 (約 30 μs) のズレを生じることがあります。上記例の場合、時間設定しアラーム許可までの間に 31 μs のセットアップ時間が必要です。

注) このセットアップ時間は内部割り込みのみの使用の際は不要です。

Not Recommended for New Design

(2) 1 Hz のクロックを出力する場合

PAGER<ENAALM> = “0”、RESTR<DIS1HZ> = “0”、<DIS16HZ> = “1” を設定すると $\overline{\text{ALARM}}$ 端子に 1 Hz のクロックを出力します。また、そのクロックの立ち下がりエッジで INTRTC 割り込みを出力します。

(3) 16 Hz のクロックを出力する場合

PAGER<ENAALM> = “0”、RESTR<DIS1HZ> = “1”、<DIS16HZ> = “0” を設定することにより $\overline{\text{ALARM}}$ 端子に 16 Hz のクロックを出力します。また、そのクロックの立ち下がりエッジで INTRTC 割り込みを出力します。

Not Recommended for New Design

3.23 メロディ/アラームジェネレータ (MLD)

メロディ波形、アラーム波形を作成する機能です。出力波形は両方の波形を MLDALM 端子より出力します。また、アラームジェネレータに使用する 15 ビットのフリーランカウンタより 5 種類の一定周期の割り込みを発生可能です。

下記に特長を示します。

1) メロディジェネレータ

低速クロック（32.768 kHz）を元に 4 Hz~5461 Hz の任意周波数のクロック波形を生成し MLDALM 端子より出力できます。外部にスピーカを接続することにより容易にメロディ音を鳴らすことが可能です。

2) アラームジェネレータ

低速クロック (32.768 kHz) を元に作成された変調周波数 (4096 Hz) にて、8 種類のアラーム波形を生成し MLDALM 端子より出力できます。また、この波形はレジスタにより反転して出力できます。

外部にスピーカを接続することにより容易にアラーム音を鳴らすことが可能です。

また、アラームジェネレータに使用されるフリーランカウンタを使用し 5 種類 (1 Hz, 2 Hz, 64 Hz, 512 Hz, 8192Hz) の一定周期の割り込みを発生可能です。

Not Recommended for New Design

3.23.1 ブロック図

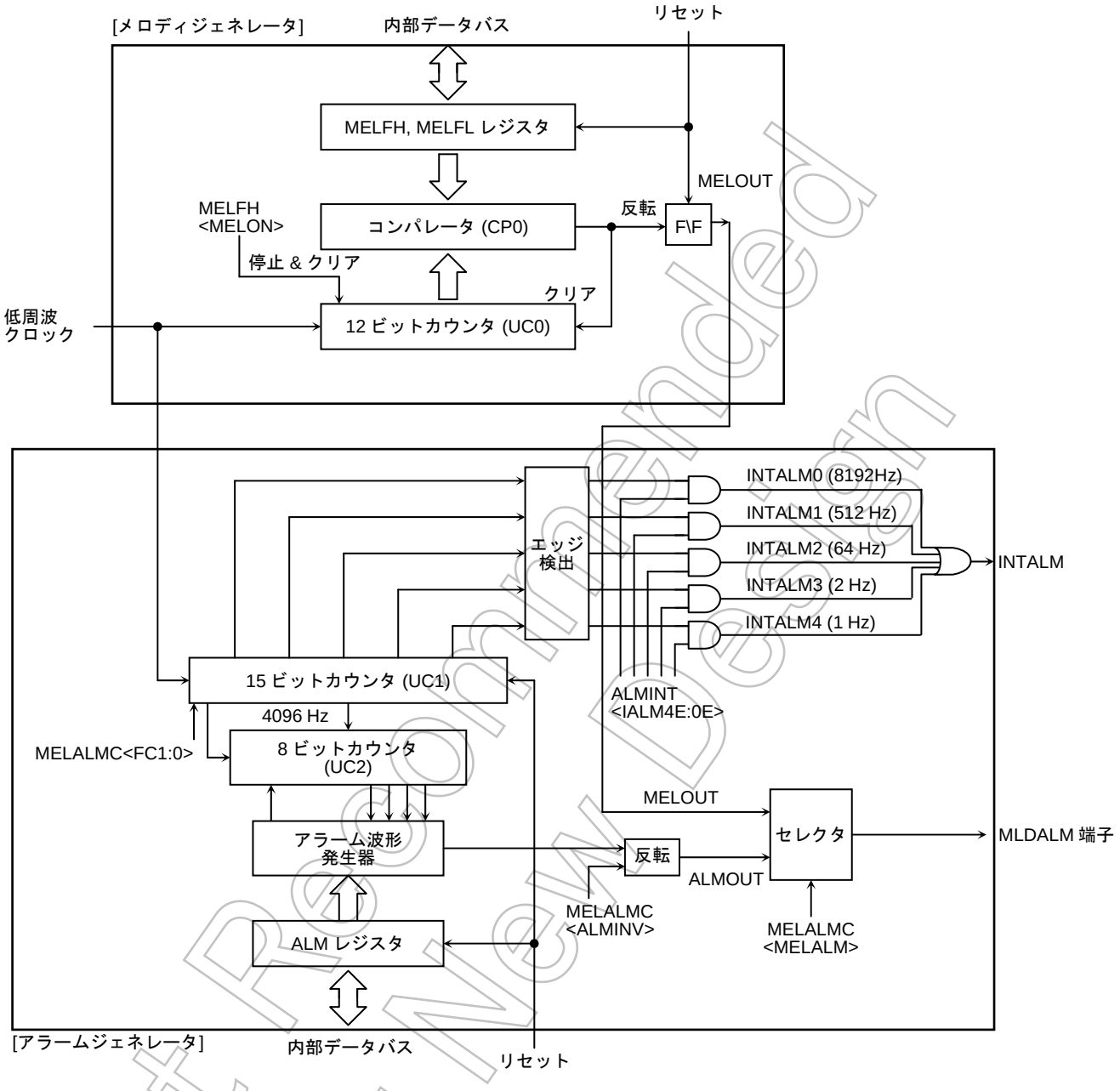


図 3.23.1 MLD ブロック図

Not Recommended for New Design

3.23.2 コントロールレジスタ

ALM レジスタ

ALM (1330H)	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	AL8	AL7	AL6	AL5	AL4	AL3	AL2	AL1
Read/Write	R/W							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
機能	アラームパターン設定							

MELALMC レジスタ

MELALMC (1331H)	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	FC1	FC0	ALMINV	–	–	–	–	MELALM
Read/Write	R/W		R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
機能	フリーランカウンタ制御 00: ホールド 01: 再スタート 10: クリア& 停止 11: クリア&スタート		アラーム波形反転 1: 反転	“0” をライトしてください。				出力波形選択 0: アラーム 1: メロディ

注 1) MELALMC<FC1>は常に“0” がリードされます。

注 2) フリーランカウンタが動作状態で、MELALMC<FC1:0>以外のビットに値を設定する場合は<FC1:0>に“01” をセットしてください。

MELFL レジスタ

MELFL (1332H)	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	ML7	ML6	ML5	ML4	ML3	ML2	ML1	ML0
Read/Write	R/W							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
機能	メロディ周波数設定 (下位 8 ビット)							

MELFH レジスタ

MELFH (1333H)	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	MELON				ML11	ML10	ML9	ML8
Read/Write	R/W				R/W			
リセット後	0				0	0	0	0
機能	メロディカウンタ制御 0: ストップ & クリア 1: スタート				メロディ周波数設定 (上位 4 ビット)			

ALMINT レジスタ

ALMINT (1334H)	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol			–	IALM4E	IALM3E	IALM2E	IALM1E	IALM0E
Read/Write			R/W	R/W				
リセット後			0	0	0	0	0	0
機能			“0” をライトしてください。	1:INTALM4 (1Hz) 許可	1:INTALM3 (2Hz) 許可	1:INTALM2 (64Hz) 許可	1:INTALM1 (512Hz) 許可	1:INTALM0 (8192Hz) 許可

注) INTALM0~INTALM4 は、同時に複数許可禁止です。必ず 1 つのみ許可してください。

Not Recommended for New Design

3.23.3 動作説明

3.23.3.1 メロディジェネレータ

低速クロック (32.768 kHz) を元に 4 Hz~5461 Hz の任意周波数のクロック波形を生成し MLDALM 端子より出力できます。外部にスピーカを接続することにより容易にメロディ音を鳴らすことが可能です。

(動作)

まず、MELALMC<MELALM>に“1”をライトし、MLDALM 端子からのメロディ波形出力を選択します。次に MELFH、MELFL レジスタの 12 ビットにメロディ出力周波数を設定します。

下記にメロディ出力周波数の求め方、設定例を示します。

(メロディ出力周波数計算式)

@fs = 32.768 [kHz]

メロディ出力波形　f_{MLD}[Hz] = 32768/ (2 × N + 4)

メロディ設定値　N = (16384/ f_{MLD}) − 2

(注: N = 1~4095 (001H~FFFH)、0 は設定禁止)

(プログラム例)

“A” の音階を出力する場合 (440 Hz)

```
LD      (MELALMC), --XXXXX1B    ;  メロディ波形を選択
LD      (MELFL), 23H            ;  N = 16384/440 − 2 = 35.2 = 023H
LD      (MELFH), 80H            ;  波形の生成を開始
```

(参考: 基本音階別設定値表)

音階	周波数 [Hz]	レジスタ値: N
C	264	03CH
D	297	035H
E	330	030H
F	352	02DH
G	396	027H
A	440	023H
B	495	01FH
C	528	01DH

Not Recommended for New Design

3.23.3.2 アラームジェネレータ

低速クロック (32.768 kHz) を元に作成された周波数 (4096 Hz) にて 8 種類のアラーム波形を生成し MLDALM 端子より出力できます。また、この波形はレジスタにより反転して出力できます。

外部にスピーカを接続することにより容易にアラーム音を鳴らすことが可能です。

また、アラームジェネレータに使用されるフリーランカウンタを使用し 5 種類(1 Hz, 2 Hz, 64 Hz, 512 Hz, 8192Hz)の一定周期の割り込みを発生可能です。

(動作)

まず、MELALMC<MELALM>に “0” をライトし、MLDALM 端子からのアラーム波形出力を選択、さらに MELALMC<FC1:0>に “10” を設定し、内部のカウンタをクリアします。次に、ALM レジスタの 8 ビットにアラームパターンを設定します。出力データを反転したい場合には<ALMINV>を反転に設定します。

最後に MELALMC<FC1:0>に“11”を設定し、フリーランカウンタをスタートさせます。

停止したい場合は ALM レジスタに“00H”をライトしてください。それによりアラームは停止します。

下記にアラームパターンの設定値、プログラム例、設定別出力波形を示します。

(アラームパターンの設定値)

ALM レジスタの設定値	アラーム波形
00H	“0” 固定
01H	AL1 パターン
02H	AL2 パターン
04H	AL3 パターン
08H	AL4 パターン
10H	AL5 パターン
20H	AL6 パターン
40H	AL7 パターン
80H	AL8 パターン
その他	未定義 (設定しないでください。)

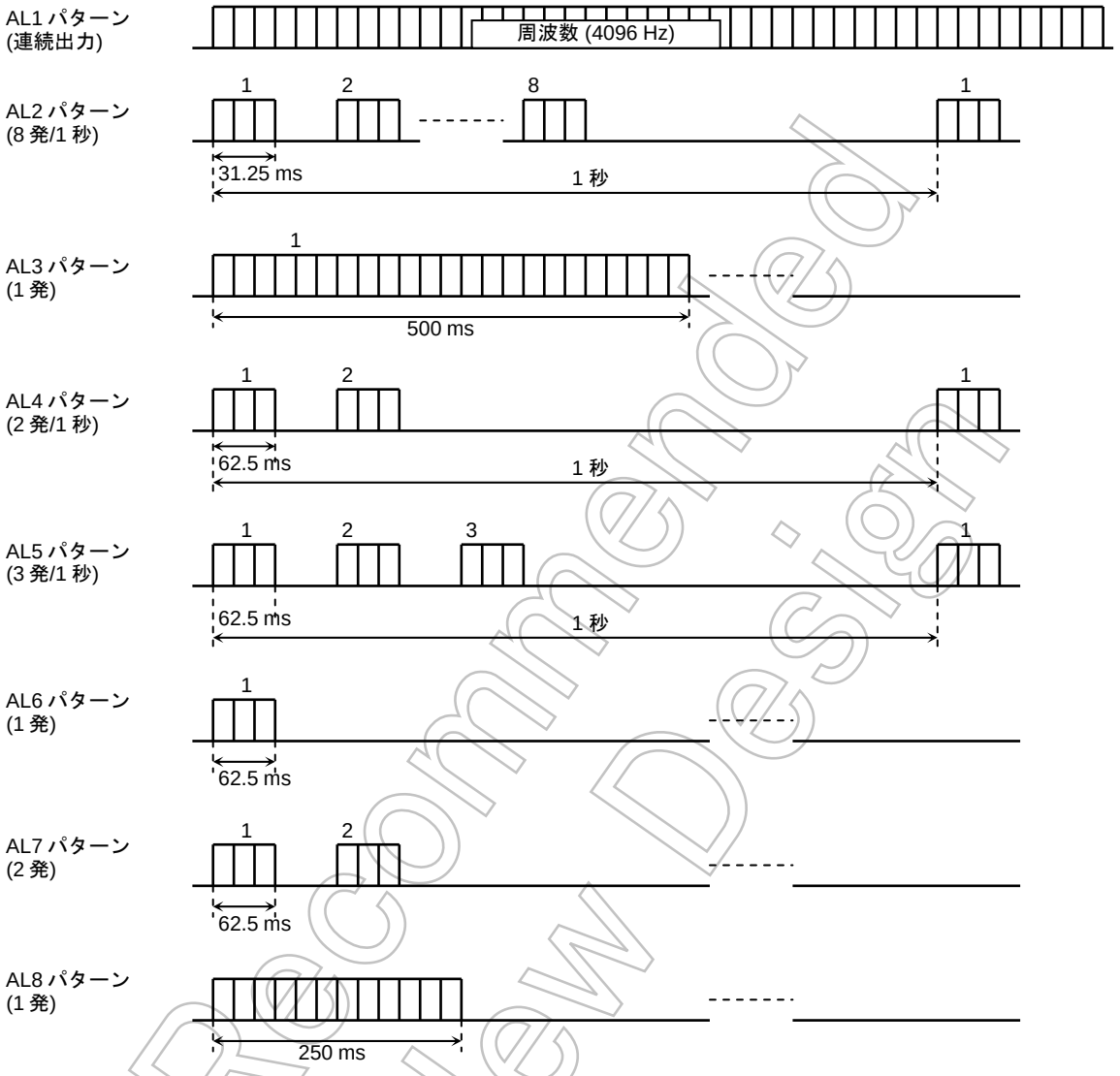
(プログラム例)

AL2 パターン (31.25 ms/8 発/1 秒) のアラームを出力する場合

```
LD      (MELALMC), 80H      ;  カウンタクリア、アラーム波形出力設定
LD      (ALM), 02H          ;  AL2 パターン設定
LD      (MELALMC), C0H      ;  フリーランカウンタスタート
```

Not Recommended for New Design

例: 各設定値のアラームパターンの波形: 反転なし



Not Recommended for New Design

3.24 アナログ/デジタルコンバータ

6 チャネルのアナログ入力を持つ、10 ビット逐次変換方式アナログ/デジタルコンバータ (AD コンバータ) を内蔵しています。

図 3.24.1に、ADコンバータのブロック図を示します。

6 チャネルのアナログ入力端子 (AN0~AN5) は、入力専用ポートと兼用です。

注1) IDLE2、IDLE1、STOP 、および PCM モードにより電源電流を低減させる場合は、タイミングにより内部コンパレータがイネーブル状態のままスタンバイに入ることがありますので、AD コンバータの動作が停止していることを確認してから “HALT”命令を実行してください。ただし IDLE2 モードの場合は ADMOD0<I2AD>が “0”の場合に限ります。

注2) AD コンバータを停止している状態で ADMOD1<DACON> = “0”にすると、消費電流の低減が図れます。

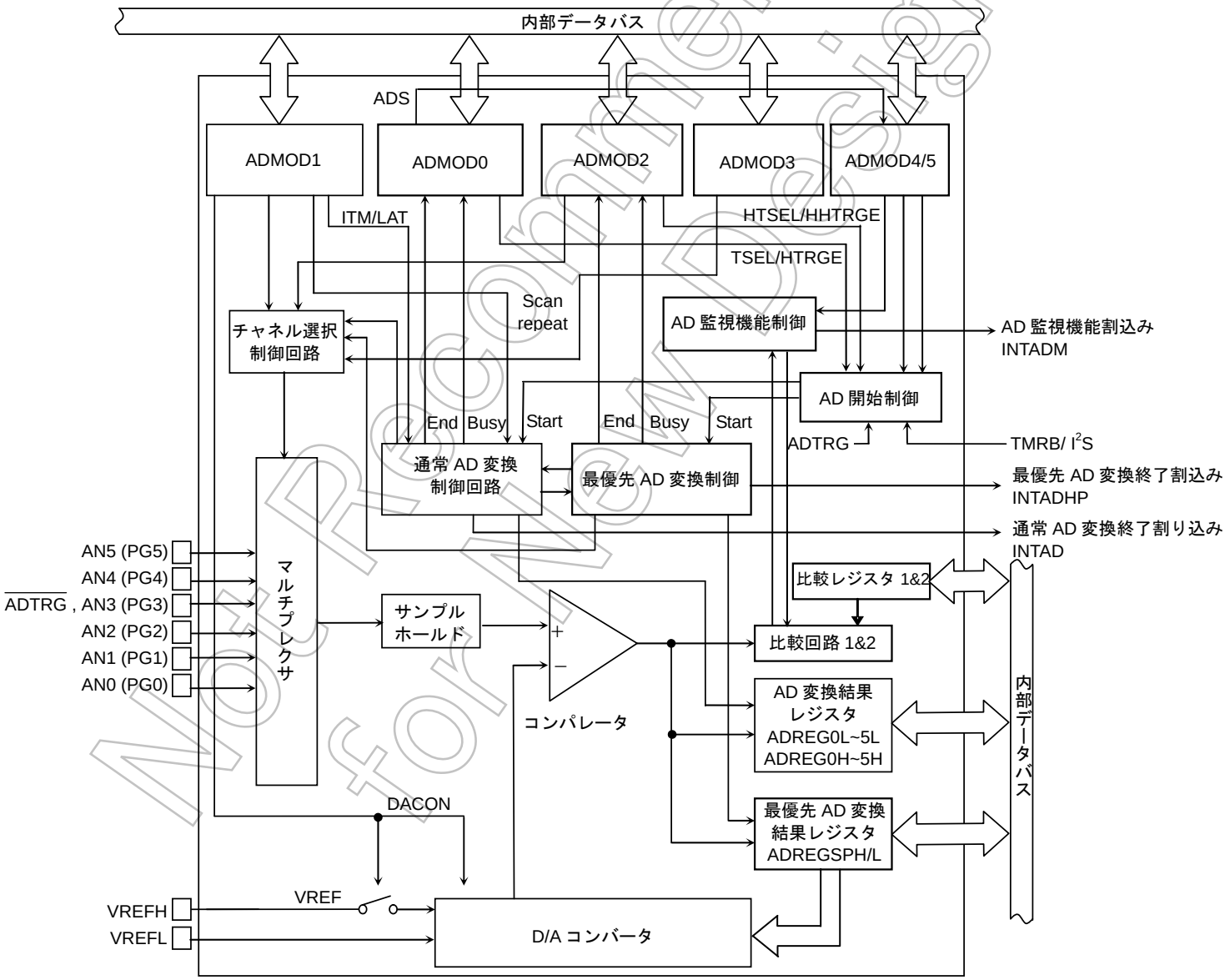


図 3.24.1 AD コンバータのブロック図

Not Recommended for New Design

3.24.1 コントロールレジスタ

AD コンバータは、AD モードコントロールレジスタ (ADMOD0、ADMOD1、ADMOD2、ADMOD3、ADMOD4、ADMOD5) により制御されています。また、AD 変換結果は、AD 変換結果上位/下位レジスタ ADREG0H/L~ADREG5H/L の 12 個のレジスタに格納されます。また、最優先変換結果は ADREGSPH/L に格納されます。

図 3.24.2~図 3.24.11にADコンバータ関係のレジスタを示します。

AD モードコントロールレジスタ 0 (通常変換制御)

		7	6	5	4	3	2	1	0
ADMOD0 (12B8H)	bit Symbol	EOS	BUSY		I2AD	ADS	HTRGE	TSEL1	TSEL0
	Read/Write	R	R		R/W				
	リセット後	0	0		0	0	0	0	0
	機能	通常 AD 変換シーケンスフラグ 0: 変換シーケンス中または開始前 1: 変換シーケンス終了	通常 AD 変換 BUSY フラグ 0: 変換停止 1: 変換中		IDLE2 モード時の AD 変換 0: 停止 1: 動作	通常 AD 変換開始 0: Don't Care 1: AD 変換開始 リードすると常に"0"がリードされます	ハードウェアトリガによる AD 変換 0: 禁止 1: 許可	ハードウェアトリガの選択 00: INTTB00 割り込み 01: Reserved 10: $\overline{\text{ADTRG}}$ 11: Reserved	

図 3.24.2 AD コンバータ関係のレジスタ

Not Recommended for New Design

AD モードコントロールレジスタ 1(通常変換制御)

ADMOD1 (12B9H)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	DACON	ADCH2	ADCH1	ADCH0	LAT	ITM	REPEAT	SCAN
Read/Write	R/W							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
機能	DA コンバータ、VREF 印加制御	アナログ入力チャネルの選択			レイテンシ 0: Wait 無し 1: 最終チャネルの変換結果格納レジスタをリード後開始	チャネル固定リピート変換モード時の割り込み指定	リピートモード指定 0 :シングル変換モード 1 :リピート変換モード	スキャンモード指定 0 :チャネル固定モード 1: チャネルスキャンモード

チャネル固定リピート変換モード時の AD 変換割込み指定

	チャネル固定リピート変換モード <SCAN>= “0”, <REPEAT>= “1”
0	1 回変換するごとに割込み発生
1	4 回変換するごとに割込み発生

チャネルスキャンリピートモード時の SCAN 開始タイミングの制御

	チャネルスキャンリピートモード <SCAN>= “1”, <REPEAT>= “1”
0	Wait 無し
1	最終チャネルの変換結果格納レジスタをリード後開始

アナログ入力チャネル選択

<SCAN> / <ADCH2:0>	0 チャネル固定	1 チャネルスキャン
000	AN0	AN0
001	AN1	AN0→AN1
010	AN2	AN0→AN1→AN2
011	AN3(注)	AN0→AN1→AN2→AN3(注)
100	AN4	AN0→AN1→AN2→AN3→AN4(注)
101	AN5	AN0→AN1→AN2→AN3→AN4→AN5(注)
110	Reserved	
111	Reserved	

DA コンバータ、VREF 印加制御

0	DAC、VREF 印加 off
1	DAC、VREF 印加 on (変換スタート前に”1”に設定してください)

注)PG3 端子を $\overline{\text{ADTRG}}$ として使用する場合、設定することはできません。

図 3.24.3　AD コンバータ関係のレジスタ

Not Recommended for New Design

AD モードコントロールレジスタ 2(最優先変換制御)

ADMOD2 (12BAH)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	HEOS	HBUSY			HADS	HHTRGE	HTSEL1	HTSEL0
Read/Write	R	R			R/W			
リセット後	0	0			0	0	0	0
機能	最優先 AD 変換シーケンスフラグ 0: 変換シーケンス中または開始前 1: 変換シーケンス終了	最優先 AD 変換 BUSY フラグ 0: 変換停止 1: 変換中			最優先 AD 変換開始 0: Don't Care 1: AD 変換開始 リードすると常に"0"がリードされます	ハードウェアトリガによる最優先 AD 変換 0: 禁止 1: 許可	ハードウェアトリガの選択 00: INTTB10 割込み 01: Reserved 10: $\overline{\text{ADTRG}}$ 11: I^{2}S Sampling Counter 出力	

AD モードコントロールレジスタ 3(最優先変換制御)

ADMOD3 (12BBH)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	–	HADCH2	HADCH1	HADCH0				–
Read/Write	R/W	R/W						R/W
リセット後	0	0	0	0				0
機能	"0"をライトしてください	最優先変換アナログ入力チャネルの選択						"0"をライトしてください

アナログ入力チャネル選択

<HADCH2:0>	最優先変換時のアナログ入力チャネル
000	AN0
001	AN1
010	AN2
011	AN3(注)
100	AN4
101	AN5
110	Reserved
111	Reserved

注)PG3 端子を $\overline{\text{ADTRG}}$ として使用する場合、設定することはできません。

図 3.24.4　AD コンバータ関係のレジスタ

Not Recommended for New Design

AD モードコントロールレジスタ 4 (AD 監視機能制御)

ADMOD4 (12BCH)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	CMEN1	CMEN0	CMP1C	CMP0C	IRQEN1	IRQEN0	CMPINT1	CMPINT0
Read/Write	R/W						R	
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
機能	AD 監視機能 1 0: 禁止 1: 許可	AD 監視機能 0 0: 禁止 1: 許可	AD 監視機能 1 割り込みの発生条件 0: 小 1: 等しい または大	AD 監視機能 0 割り込みの発生条件 0: 小 1: 等しい または大	AD 監視機能 1 割り込みの許可 0: 禁止 1: 許可(注)	AD 監視機能 0 割り込みの許可 0: 禁止 1: 許可(注)	AD 監視機能 1 割り込みのステータス 0: 未発生 1: 発生	AD 監視機能 0 割り込みのステータス 0: 未発生 1: 発生

注) AD 監査機能割り込みが発生すると自動的にクリアされて禁止状態になります。

AD モードコントロールレジスタ 5 (AD 監視機能制御)

ADMOD5 (12BDH)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol		CM1CH2	CM1CH1	CM1CH0		CM0CH2	CM0CH1	CM0CH0
Read/Write		R/W				R/W		
リセット後		0	0	0		0	0	0
機能		AD 監視機能 1 用の被比較アナログチャネル 000: AN0 100: AN4 001: AN1 101: AN5 010: AN2 110: Reserved 011: AN3 111: Reserved				AD 監視機能 0 用の被比較アナログチャネル 000: AN0 100: AN4 001: AN1 101: AN5 010: AN2 110: Reserved 011: AN3 111: Reserved		

図 3.24.5 AD コンバータ関係のレジスタ

注 1) <HHTRGE>、<HTRGE>に“1”を設定してハードウェアトリガにより AD 変換を行なう場合、$\overline{\text{ADTRG}}$ の場合は許可をする前に PGFC<PG3F>を“1”(ADTRG)に設定してください。また、16 ビットタイマの INTTBx0 割込みトリガの場合は、タイマ動作の停止中にまず、<TSEL1:0>、<HTSEL1:0>を“00”に設定してトリガ要因にタイマを選択し、次に<HHTRGE>、<HTRGE>を“1”に設定して許可を行なってください。最後にタイマを動作させる事により、一定間隔での AD 起動が可能となります。

注 2) $\overline{\text{ADTRG}}$ での AD 変換の起動を途中で中止する場合は、最初にハードウェアトリガを禁止(<HHTRGE>＝ “0”、<HTRGE>＝ “0”)してから、PGFC<PG3F>を“0”にして汎用 PORT に設定してください。

注 3) $\overline{\text{ADTRG}}$ での AD 起動を行なう場合は、許可後(<HHTRGE>＝ “1”または<HTRGE>＝“1”)に f_{SYS} で 3 クロック経過後可能になります。それ以前に入力された起動は無視されます。

注 4)AD 監視機能の比較レジスタ値を変更する時は、AD 監視機能を禁止(ADMOD4<CMEN1:0>＝“0”)にしてから行ってください。

Not Recommended for New Design

AD 変換結果下位レジスタ 0

		7	6	5	4	3	2	1	0
ADREG0L (12A0H)	bit Symbol	ADR01	ADR00					OVR0	ADR0RF
	Read/Write	R						R	R
	リセット後	0	0					0	0
	機能	AN0 AD 変換結果下位 2 ビット格納						オーバランフラグ 0: 発生無し 1: 発生	AD 変換結果格納フラグ 1:変換結果有

AD 変換結果上位レジスタ 0

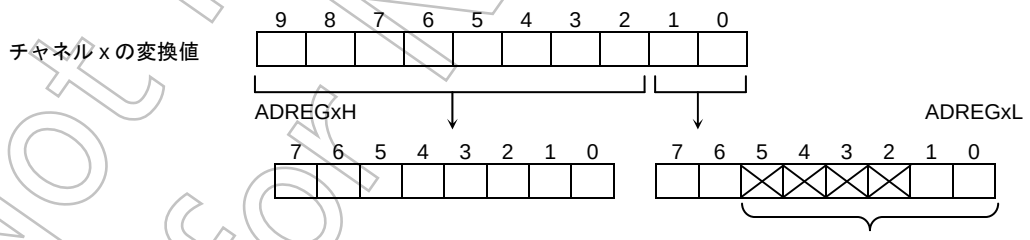
		7	6	5	4	3	2	1	0
ADREG0H (12A1H)	bit Symbol	ADR09	ADR08	ADR07	ADR06	ADR05	ADR04	ADR03	ADR02
	Read/Write	R							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	AN0 AD 変換結果上位 8 ビット格納							

AD 変換結果下位レジスタ 1

		7	6	5	4	3	2	1	0
ADREG1L (12A2H)	bit Symbol	ADR11	ADR10					OVR1	ADR1RF
	Read/Write	R						R	R
	リセット後	0	0					0	0
	機能	AN1 AD 変換結果下位 2 ビット格納						オーバランフラグ 0: 発生無し 1: 発生	AD 変換結果格納フラグ 1:変換結果有

AD 変換結果上位レジスタ 1

		7	6	5	4	3	2	1	0
ADREG1H (12A3H)	bit Symbol	ADR19	ADR18	ADR17	ADR16	ADR15	ADR14	ADR13	ADR12
	Read/Write	R							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	AN1 AD 変換結果上位 8 ビット格納							



- ビット 5~2 をリードすると、常に “0” になります。
- ビット 0 は、AD 変換結果格納フラグ <ADRxRF> です。AD 変換値が格納されると、“1” にセットされます。下位のレジスタ (ADREGxL) をリードすると、“0” にクリアされます。
- ビット 1 はオーバランフラグ<OVRx>です。両方の変換結果格納レジスタ(ADREGxH, ADREGxL) をリードする前に変換結果が上書きされると”1” にセットされます。フラグのリードにより”0”にクリアされます。

図 3.24.6　AD コンバータ関係のレジスタ

Not Recommended for New Design

AD 変換結果下位レジスタ 2

ADREG2L (12A4H)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	ADR21	ADR20					OVR2	ADR2RF
Read/Write	R						R	R
リセット後	0	0					0	0
機能	AN2 AD 変換結果下位 2 ビット格納						オーバランフラグ 0: 発生無し 1: 発生	AD 変換結果格納フラグ 1:変換結果有

AD 変換結果上位レジスタ 2

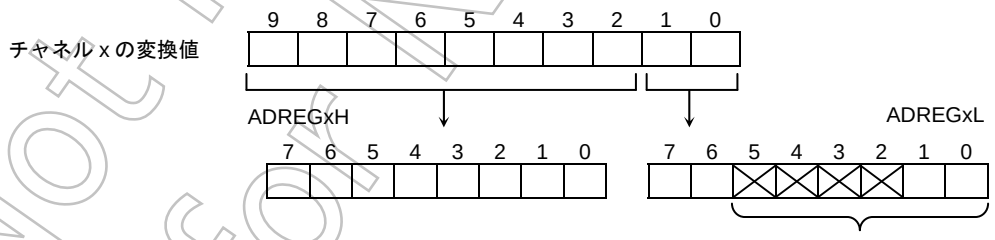
ADREG2H (12A5H)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	ADR29	ADR28	ADR27	ADR26	ADR25	ADR24	ADR23	ADR22
Read/Write	R							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
機能	AN2 AD 変換結果上位 8 ビット格納							

AD 変換結果下位レジスタ 3

ADREG3L (12A6H)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	ADR31	ADR30					OVR3	ADR3RF
Read/Write	R						R	R
リセット後	0	0					0	0
機能	AN3 AD 変換結果下位 2 ビット格納						オーバランフラグ 0: 発生無し 1: 発生	AD 変換結果格納フラグ 1:変換結果有

AD 変換結果上位レジスタ 3

ADREG3H (12A7H)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol	ADR39	ADR38	ADR37	ADR36	ADR35	ADR34	ADR33	ADR32
Read/Write	R							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
機能	AN3 AD 変換結果上位 8 ビット格納							



- ビット 5~2 をリードすると、常に “0” になります。
- ビット 0 は、AD 変換結果格納フラグ <ADRxRF> です。AD 変換値が格納されると、“1” にセットされます。下位のレジスタ (ADREGxL) をリードすると、“0” にクリアされます。
- ビット 1 はオーバランフラグ<OVRx>です。両方の変換結果格納レジスタ(ADREGxH, ADREGxL) をリードする前に変換結果が上書きされると”1” にセットされます。フラグのリードにより”0”にクリアされます。

図 3.24.7　AD コンバータ関係のレジスタ

Not Recommended for New Design

AD 変換結果下位レジスタ 4

		7	6	5	4	3	2	1	0
ADREG4L (12A8H)	bit Symbol	ADR41	ADR40					OVR4	ADR4RF
	Read/Write	R						R	R
	リセット後	0	0					0	0
	機能	AN4 AD 変換結果下位 2 ビット格納						オーバランフラグ 0: 発生無し 1: 発生	AD 変換結果格納フラグ 1:変換結果有

AD 変換結果上位レジスタ 4

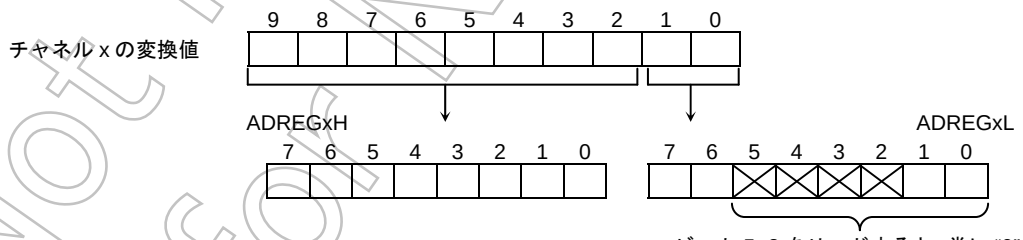
		7	6	5	4	3	2	1	0
ADREG4H (12A9H)	bit Symbol	ADR49	ADR48	ADR47	ADR46	ADR45	ADR44	ADR43	ADR42
	Read/Write	R							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	AN4 AD 変換結果上位 8 ビット格納							

AD 変換結果下位レジスタ 5

		7	6	5	4	3	2	1	0
ADREG5L (12AAH)	bit Symbol	ADR51	ADR50					OVR5	ADR5RF
	Read/Write	R						R	R
	リセット後	0	0					0	0
	機能	AN5 AD 変換結果下位 2 ビット格納						オーバランフラグ 0: 発生無し 1: 発生	AD 変換結果格納フラグ 1:変換結果有

AD 変換結果上位レジスタ 5

		7	6	5	4	3	2	1	0
ADREG5H (12ABH)	bit Symbol	ADR59	ADR58	ADR57	ADR56	ADR55	ADR54	ADR53	ADR52
	Read/Write	R							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	AN5 AD 変換結果上位 8 ビット格納							



- ビット 5~2 をリードすると、常に “0” になります。
- ビット 0 は、AD 変換結果格納フラグ <ADRxRF> です。AD 変換値が格納されると、“1” にセットされます。下位のレジスタ (ADREGxL) をリードすると、“0” にクリアされます。
- ビット 1 はオーバランフラグ<OVRx>です。両方の変換結果格納レジスタ(ADREGxH, ADREGxL) をリードする前に変換結果が上書きされると”1” にセットされます。フラグのリードにより”0”にクリアされます。

図 3.24.8　AD コンバータ関係のレジスタ

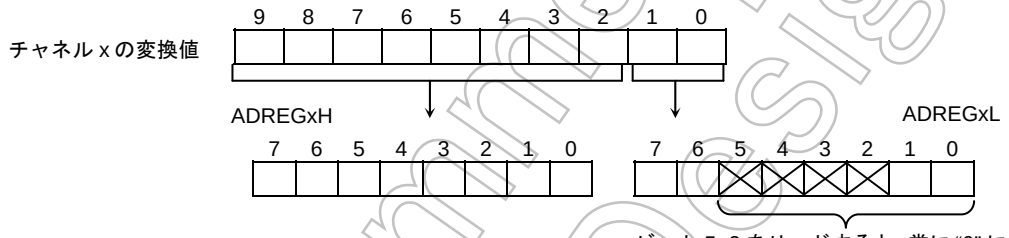
Not Recommended for New Design

最優先 AD 変換結果下位レジスタ SP

		7	6	5	4	3	2	1	0
ADREGSPL (12B0H)	bit Symbol	ADRSP1	ADRSP0					OVSRP	ADRSPRF
	Read/Write	R						R	R
	リセット後	0	0					0	0
	機能	AD 変換結果下位 2 ビット格納						オーバランフラグ 0: 発生無し 1: 発生	AD 変換結果格納フラグ 1:変換結果有

最優先 AD 変換結果上位レジスタ SP

		7	6	5	4	3	2	1	0
ADREGSPH (12B1H)	bit Symbol	ADRSP9	ADRSP8	ADRSP7	ADRSP6	ADRSP5	ADRSP4	ADRSP3	ADRSP2
	Read/Write	R							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	AD 変換結果上位 8 ビット格納							



- ビット 5~2 をリードすると、常に “0” になります。
- ビット 0 は、AD 変換結果格納フラグ <ADRxRF> です。AD 変換値が格納されると、“1” にセットされます。下位のレジスタ (ADREGxL) をリードすると、“0” にクリアされます。
- ビット 1 はオーバランフラグ<OVRx>です。両方の変換結果格納レジスタ(ADREGxH, ADREGxL) をリードする前に変換結果が上書きされると”1” にセットされます。フラグのリードにより”0”にクリアされます。

図 3.24.9　AD コンバータ関係のレジスタ

Not Recommended for New Design

AD 変換結果比較基準 0 下位レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
ADCM0REGL (12B4H)	bit Symbol	ADR21	ADR20						
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0						
	機能	AD 変換結果比較基準下位 2 ビット格納							

AD 変換結果比較基準 0 上位レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
ADCM0REGH (12B5H)	bit Symbol	ADR29	ADR28	ADR27	ADR26	ADR25	ADR24	ADR23	ADR22
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	AD 変換結果比較基準上位 8 ビット格納							

AD 変換結果比較基準 1 下位レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
ADCM1REGL (12B6H)	bit Symbol	ADR21	ADR20						
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0						
	機能	AD 変換結果比較基準下位 2 ビット格納							

AD 変換結果比較基準 1 上位レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
ADCM1REGH (12B7H)	bit Symbol	ADR29	ADR28	ADR27	ADR26	ADR25	ADR24	ADR23	ADR22
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	AD 変換結果比較基準上位 8 ビット格納							

注) このレジスタへ値を設定する時、または値を変更する時は、AD 監視機能を禁止 (ADMOD4<CMEN1:0> = “0”) した状態で行なってください。

図 3.24.10 AD コンバータ関係のレジスタ

Not Recommended for New Design

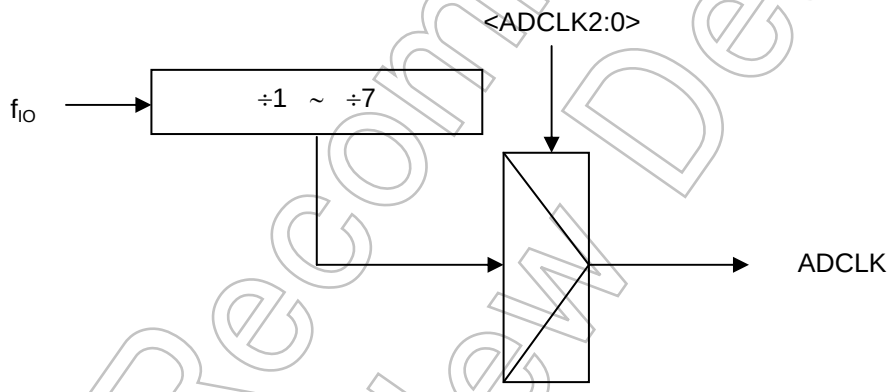
AD 変換クロック設定レジスタ

ADCCLK (12BFH)	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol					–	ADCLK2	ADCLK1	ADCLK0
Read/Write					R/W	R/W		
リセット後					0	0	0	0
機能					”0”をライトしてください。	AD 変換クロック選択 000: Reserved 001: $f_{IO}/1$ 010: $f_{IO}/2$ 011: $f_{IO}/3$ 100: $f_{IO}/4$ 101: $f_{IO}/5$ 110: $f_{IO}/6$ 111: $f_{IO}/7$		

注 1) AD 変換は上記レジスタで選択されたクロックで実行されますが、保証精度を満足するためには AD 変換クロックを 12MHz 以下になるように変換クロックを選択する必要があります。

注 2) AD 変換中は変換クロックを切り替えないでください。

図 3.24.11　AD コンバータ関係のレジスタ



$f_{IO}(f_{SYS}/2)$	<ADCLK2:0>	ADCLK	AD 変換速度
40MHz	100($f_{IO}/4$)	10.0MHZ	12 μsec
	101($f_{IO}/5$)	8MHZ	15 μsec
30MHz	011($f_{IO}/3$)	10.0MHZ	12μsec
	100($f_{IO}/4$)	7.5MHZ	16μsec

AD 変換速度は下記計算式で求められます。

変換速度 = 120 × (1/ADCLK)

Not Recommended for New Design

3.24.2 動作説明

3.24.2.1 アナログ基準電圧

アナログ基準電圧の“H”レベル側を VREFH 端子に、“L”レベル側を VREFL 端子に印加します。

3.24.2.2 アナログ入力チャネルの選択

アナログ入力チャネルの選択は、AD コンバータの動作モードによって異なります。

(1) 通常 AD 変換時

- アナログ入力チャネルを固定で使用する場合 (ADMOD1<SCAN>=“0”)

  ADMOD1<ADCH2:0>の設定により、アナログ入力 AN0 ~ AN5 端子の中から 1 チャネルを選択します。

- アナログ入力チャネルをスキャンで使用する場合 (ADMOD1<SCAN>=“1”)

  ADMOD1 <ADCH2:0> の設定により、6 種類のスキャンモードの中から 1 つのスキャンモードを選択します。

(2) 最優先 AD 変換時

ADMOD3<HADCH2:0>の設定により、アナログ入力 AN0~AN5 端子の中から 1 チャネルを選択します。

リセット後は ADMOD1<SCAN> は“0”に ADMOD1<ADCH2:0> は “000” に初期化され、これにより選択が行なわれますので、AN0 端子のチャネル固定入力が選択されます。なお、アナログ入力チャネルとして使用しない端子は、通常の入力ポートとして使用できます。

Not Recommended for New Design

3.24.2.3 AD変換開始

AD 変換には、通常 AD 変換と最優先 AD 変換の 2 種類があります。

通常 AD 変換は ADMOD0<ADS> に“1”を設定することによりソフトで起動が掛かります。また、最優先 AD 変換は ADMOD2<HADS>に“1”を設定することによりソフトで起動が掛かります。

通常 AD 変換は ADMOD1<REPEAT,SCAN>で指定される 4 種類の動作モードから 1 つの動作モードが選択されます。最優先 AD 変換の動作モードはチャネル固定のシングル変換のみです。

また、通常 AD 変換は ADMOD0<TSEL1:0>、最優先 AD 変換は ADMOD2<HTSEL1:0>で選択されるハードウェアトリガにより起動を掛けることができます。このビットが“10”の場合は、$\overline{\text{ADTRG}}$ 端子より入力される信号の立ち下がりエッジにより起動が掛かり、このビットが“00”の場合は通常 AD 変換は 16 ビットタイマ割込み INTTB00 で起動がかかり、最優先 AD 変換の場合は 16 ビットタイマ割込み INTTB10 で起動がかかります。このビットが“11” の場合は、I²S サンプリングクロックで起動がかかります。ハードウェアトリガが許可された場合でもソフトウエア起動は有効です。

注) HHTRGE が ON の状態で、HTSEL を切り替えると予期せぬ割り込みが発生する可能性があります。HTSEL を切り替える場合は、一旦 HHTRGE を OFF に設定後、切り替えるようにしてください。

通常 AD 変換が開始されると、AD 変換中を示す AD 変換 Busy フラグ(ADMOD0<BUSY>) が“1”にセットされます。また、最優先 AD 変換が開始されると、AD 変換中を示す AD 変換 Busy フラグ(ADMOD2<HBUSY>)が“1”にセットされます。

通常 AD 変換中に最優先変換開始された場合、ADMOD0<BUSY>は“1”に保持されます。

<HEOS>, <EOS>は変換が終了すると“1”になります。このフラグはリードした時のみ“0”にクリアされます。

通常 AD 変換中に ADMOD0<ADS> に“1” を設定すると通常 AD 変換が再起動されます。再起動された時点でそれまでの通常 AD 変換は直ちに中止されます。

通常 AD 変換中にハードウェアトリガによる通常 AD 変換の起動が許可されている場合は、ハードウェアトリガからの起動条件が成立するごとに通常 AD 変換が再起動されます。再起動された時点でそれまでの通常 AD 変換は直ちに中止され、再起動が掛かります。

通常 AD 変換中に ADMOD2<HADS>に“1” を設定する、またはハードウェアトリガによる最優先 AD 変換の起動が許可されていて、ハードウェアトリガからの起動条件が成立すると、現在変換中の AD 変換を直ちに中止して、最優先 AD 変換が始まり ADMOD3<HADCH2:0>で指定されるチャネルの AD 変換(チャネル固定のシングル変換)が開始されます。この結果が ADREGSPH/L へ格納されると、中止したチャネルから通常 AD 変換を再開します。

注) AD 変換が重なる場合、3 回以上の変換が重なることは出来ません。

禁止例 1: 1 回目通常変換 → (1 回目通常変換が終了する前に)2 回目通常変換開始
→ (2 回目通常変換が終了する前に)3 回目通常変換開始

禁止例 2: 1 回目通常変換 → (1 回目通常変換が終了する前に)2 回目通常変換開始
→ (2 回目通常変換が終了する前に)3 回目**最優先**変換開始

Not recommended for New Design

3.24.2.4 AD変換モードとAD変換終了割り込み

AD 変換には、次の 4 つの動作モードが用意されています。通常 AD 変換の場合は ADMOD1<REPEAT,SCAN>の設定により選択ができます。最優先 AD 変換の場合はチャネル固定のシングル変換モードのみです。

a. チャネル固定シングル変換モード

b. チャネルスキャンシングル変換モード

c. チャネル固定リピート変換モード

d. チャネルスキャンリピート変換モード

(1) 通常 AD 変換

動作モードの選択は、 ADMOD1<REPEAT, SCAN> で行います。AD 変換が開始されると ADMOD0<BUSY>が“1”にセットされます。指定された AD 変換が終了すると、AD 変換終了割り込み（INTAD）が発生し、AD 変換シーケンス終了を示す ADMOD0<EOS> が“1”にセットされます。

a. チャネル固定シングル変換モード

ADMOD0 <REPEAT, SCAN> に“00”を設定すると、チャネル固定シングル変換モードになります。

このモードでは、選択した 1 チャネルの変換を 1 回だけ行います。変換が終了した後、ADMOD0<EOS>が“1”にセットにされ、INTAD 割り込み要求が発生します。<EOS>はリードする事でのみ “0”にクリアされます。

b. チャネルスキャンシングル変換モード

ADMOD0 <REPEAT,SCAN> に“01”を設定すると、チャネルスキャンシングル変換モードになります。

このモードでは、選択したスキャンチャネルの変換をそれぞれ 1 回だけ行います。スキャン変換が終了した後、ADMOD0<EOS>が“1”にセットにされ、INTAD の割り込み要求が発生します。<EOS>はリードする事でのみ“0”にクリアされます。

c. チャネル固定リピート変換モード

ADMOD0<REPEAT,SCAN>に“10”を設定するとチャネル固定リピート変換モードになります。

このモードでは、選択した 1 チャネルの変換を繰り返し行います。変換が終了した後、ADMOD0<EOS> が “1” にセットされます。INTAD 割り込み要求発生タイミングは ADMOD1 <ITM> の設定により選択できます。<EOS>がセットされるタイミングも割込みのタイミングに連動します。

ADMOD0<EOS>はリードする事でのみ “0”にクリアされます。

<ITM> を “0” に設定すると AD 変換が 1 回終了するごとに割り込み要求が発生します。この場合変換結果は常に格納レジスタ の ADREGxH/L に格納されます。格納時点で EOS は 1 になります。

<ITM> を “1” に設定すると AD 変換が 4 回終了するごとに割り込み要求が発生します。この場合変換結果は格納レジスタの ADREG0H/L ~ADREG3H/L に順次格納されます。ADREG3 に格納後<EOS>は “1”に設定され、再び ADREG0 から格納を始めます。ADMOD0<EOS>は 4 回目の変換結果が格納されると “1”になります。<EOS>はリードする事でのみ “0”にクリアされます。

Not Recommended for New Design

d. チャネルスキャンリピート変換モード

ADMOD0 <REPEAT, SCAN> に “11” を設定するとチャネルスキャンリピート変換モードになります。

このモードでは、選択したスキャンチャネルの変換を繰り返し行います。最終チャネルの変換が終了するごとに ADMOD0<EOS> が “1” にセットされ、INTAD 割り込み要求が発生します。ADMOD0<EOS>はリードする事でのみ “0”にクリアされます。

リピート変換モード（c、d のモード）の動作を停止する場合は、ADMOD1 <REPEAT> に“0”をライトしてください。実行中のスキャン変換を終了した時点で、リピート変換モードは終了します。

ADMOD0<I2AD> =“0”の場合の IDLE2、IDLE1、STOP モードのスタンバイモードへ移行すると、AD 変換中でも AD コンバータはただちに動作を停止します。従って、スタンバイモードに移行するときの AD コンバータ状態によっては、AD コンバータは動作が停止しても電流を消費する事があります。これを避けるためには移行前に AD コンバータの動作を停止してください。

(2) 最優先 AD 変換

動作モードはチャネル固定のシングル変換のみです。ADMOD1<REPEAT, SCAN>の設定は関係ありません。起動条件が成立すると、ADMOD3<HADCH2:0> で指定されるチャネルの変換を一回だけ行います。変換が終了すると、最優先 AD 変換終了割り込み(INTADHP)が発生して、ADMOD2<HEOS>は“1”にセットされます。HEOS フラグはリードする事でのみ“0”にクリアされます。

表 3.24.1 AD 変換モードと割り込み発生タイミング、フラグ動作の関係

変換モード	割り込み発生タイミング	EOS セットタイミング (注)	ADMOD1		
			ITM	REPEAT	SCAN
チャネル固定シングル変換	変換終了後	変換終了後	–	0	0
チャネル固定リピート変換	1 回変換ごと	変換が 1 回終了ごと	0	1	0
	4 回変換ごと	変換が 4 回終了後	1		
チャネルスキャンシングル変換	スキャン変換終了後	スキャン変換終了後	–	0	1
チャネルスキャンリピート変換	1 回のスキャン変換終了ごと	1 回のスキャン変換終了ごと	–	1	1

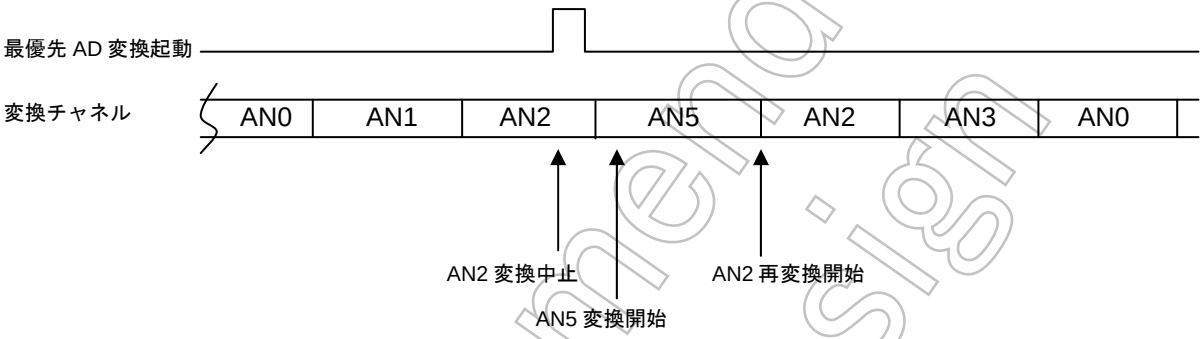
注) EOS はリードする事でのみ “0”にクリアされます。

Not Recommended for New Design

3.24.2.5 最優先変換モード

通常 AD 変換に割り込んで、最優先 AD 変換を行う事ができます。最優先 AD 変換は ADMOD2<HADS>に “1”を設定するソフトによる起動と、ADMOD2<HTSEL1:0>の設定によりハードウェアトリガを用いた起動ができます。通常 AD 変換中に最優先 AD 変換が起動されると、現在変換中の AD 変換を直ちに中止して ADMOD3<HADC2:0>で指定されるチャネルのシングル変換を行います。変換結果は ADREGSPH/L へ格納され、最優先 AD 変換割込み(INTADHP)が発生します。その後に通常 AD 変換が中止したチャネルから再開されます。また、最優先 AD 変換中の最優先 AD 変換の起動は無視されます。

例) ADMOD1<REPEAT,SCAN> = “11”、ADMOD1<ADCH2:0> = “011”でチャネル AN0~AN3 までのリピートスキャン変換中に ADMOD3<HADCH2:0> = “101”で AN5 の最優先 AD 変換が起動された場合



3.24.2.6 AD監視機能

ADMOD4<CMEN1:0>に“1”を設定すると AD 監視機能が有効になり、ADMOD5 で指定されたアナログチャネル変換終了後に結果格納レジスタの内容が比較基準レジスタ 0/1 の値より大または小 (CMP1C,0C で大か小は指定) になると IRQEN1，0 の許可状態に応じて AD 監視機能割り込みが発生します。また、この比較動作は該当変換結果格納レジスタへ結果が格納されるごとに行われ、条件が成立すると割り込みが発生します。また、AD 監視機能に割り当てている格納レジスタは通常ではソフトでリードは行われませんので、オーバランフラグ<OVRx>は常にセットされていることになり、変換結果格納フラグ<ADRxRF>もセットされているので注意してください。それぞれを別チャネルに割り当てた場合には 2 つのアナログチャネルに対して、大または小の監視が可能です。また、同じチャネルに割り当てた場合には、電圧範囲を設定した監視が可能です。

3.24.2.7 AD変換時間

1 回当たりの AD 変換は、サンプリングロクロック を含む 120 クロックです。AD 変換クロックは ADCLK<ADCLK2:0>によって、f_{IO} の 1/1~1/7 の中から選択されます。保証精度を満足するためには AD 変換クロックを 12MHz 以下、すなわち AD 変換時間を 10μs 以上にする必要があります。

Not Recommended for New Design

3.24.2.8 AD変換結果の格納とリード

AD 変換結果は、通常 AD 変換の AD 変換結果上位/下位レジスタ（ADREG0H/L~ADRG5H/L）に格納されます(ADREG0H/L~ADREG5H/L は、リード専用のレジスタです)。

チャネル固定リピート変換モードでは、AD 変換結果は、ADREG0H/L から ADREG3H/L へと順次格納されます。それ以外のモードでは、チャネル AN0、AN1、AN2、AN3、AN4、AN5 の変換結果がそれぞれ ADREG0H/L、ADREG1H/L、ADREG2H/L、ADREG3H/L、ADREG4H/L、ADREG5H/L に格納されます。

表 3.24.2にアナログ入力チャネルとAD変換結果レジスタの対応を示します。

表 3.24.2　アナログ入力チャネルと AD 変換結果レジスタの対応

アナログ入力チャネル (ポート G)	AD 変換結果レジスタ	
	右記以外の変換モード	チャネル固定リピート変換モード (4 回ごと)
AN0	ADREG0H/L	ADREG0H/L → ADREG1H/L → ADREG2H/L → ADREG3H/L → ADREG0H/L
AN1	ADREG1H/L	
AN2	ADREG2H/L	
AN3	ADREG3H/L	
AN4	ADREG4H/L	
AN5	ADREG5H/L	

注) オーバランを漏れなく検出するために、変換結果格納レジスタの上位を先にリードし、次に下位をリードしてください。この結果、下位に存在する OVRn= “0”、ADRnRF= “1”であれば、正しい変換結果を得た事になります。

3.24.2.9 データポーリング

割り込みを使用せずにデータポーリングで AD 変換結果を処理する場合は ADMOD0<EOS>のポーリングをしてください。ADMOD0<EOS>が“1”にセットされたことを確認後に AD 変換格納レジスタをリードしてください。

Not Recommended for New Design

設定例:

1. AN3 端子のアナログ入力電圧を AD 変換し、AD 割り込み (INTAD) 処理ルーチンで変換値を 2800H のメモリへライトする場合

メインルーチンでの設定

		7	6	5	4	3	2	1	0	
INTEAD	←	1	1	0	0	–	–	–	–	INTAD をイネーブルにし、レベルを “4” に設定します。
ADMOD1	←	1	1	0	0	0	0	1	1	アナログ入力チャネルを AN3 に設定します。
ADMOD0	←	X	X	0	0	0	0	0	1	チャネル固定シングル変換モードで変換を開始します。

割り込みルーチンでの処理例

WA	←	ADREG3	汎用レジスタ WA (16 ビット) へ ADREG3L、ADREG3H の値をリードします。
WA	←	> > 6	WA にリードした内容を右へ 6 回シフトし上位ビットに “0” を入れます。
(2800H)	←	WA	アドレス 2800H へ WA の内容をライトします。

2. AN0~AN2 の 3 端子のアナログ入力電圧をチャネルスキャンリピート変換モードで AD 変換し続ける場合

INTEAD	←	1	0	0	0	–	–	–	–	INTAD を禁止します。
ADMOD1	←	1	1	0	0	0	0	1	0	アナログ入力チャネルを AN0~AN2 に設定します。
ADMOD0	←	X	X	0	0	0	1	1	1	チャネルスキャンリピート変換モードで変換を開始します。

3. AN2 端子のアナログ入力電圧を最優先 AD 変換し、最優先 AD 変換終了割込み(INTADHP)処理ルーチンで変換値を 2A00H のメモリへライトする場合

メインルーチンでの設定

INTEAD	←	1	1	0	1	–	–	–	–	INTADHP をイネーブルにし、レベル”5”に設定します。
ADMOD1	←	1	0	0	0	0	0	0	0	DAC を On させます。
ADMOD3	←	0	0	1	0	0	0	0	0	アナログ入力チャネルを AN2 に設定します。
ADMOD2	←	0	0	0	0	1	0	0	0	最優先 AD 変換をソフト起動で開始します。

割り込みルーチンでの処理例

WA	←	ADREGSP	汎用レジスタ WA (16 ビット) へ ADREGSP、ADREGSPH の値をリードします。
WA	←	> > 6	WA にリードした内容を右へ 6 回シフトし上位ビットに “0” を入れます。
(2A00H)	←	WA	アドレス 2A00H へ WA の内容をライトします。

4. AN4 端子のアナログ入力電圧をチャネル固定シングルモードで通常 AD 変換し、変換結果が AD 変換比較レジスタに設定された値以上であれば、AD 比較機能割込み(INTADM)処理ルーチンで変換値を 2C00H のメモリにライトする場合

メインルーチンでの設定

INTEAD	←	–	–	–	–	1	0	1	1	INTAD をイネーブルにし、レベルを “3” に設定します。
ADMOD5	←	0	0	0	0	1	0	0	0	比較”0”用の被比較アナログ入力チャネルを AN4 に設定します。
ADMOD4	←	0	0	1	0	0	0	0	0	AD 比較機能”0”を許可、比較割込み”0”発生を許可、比較割込み”0”発生条件「変換結果 ≥ 結果比較レジスタ」
ADMOD1	←	1	0	1	0	0	0	0	0	アナログ入力チャネルを AN4 に設定します。
ADMOD0	←	0	0	0	0	1	0	0	0	通常 AD 変換をソフト起動で開始します。

割り込みルーチンでの処理例

WA	←	ADREG4	汎用レジスタ WA (16 ビット) へ ADREG4L、ADREG4H の値をリードします。
WA	←	> > 6	WA にリードした内容を右へ 6 回シフトし上位ビットに “0” を入れます。
(2C00H)	←	WA	アドレス 2C00H へ WA の内容をライトします。

X : Don't care, –: No change

Not Recommended for New Design

3.25 ウォッチドッグタイマ (暴走検出用タイマ)

暴走検出用のウォッチドッグタイマを内蔵しています。

ウォッチドッグタイマ (WDT) は、ノイズなどの原因により CPU が誤動作 (暴走) を始めた場合これを検出し、正常な状態に戻すことを目的としています。暴走を検出するとノンマスカブル割り込みを発生し CPU に知らせます。

また、このウォッチドッグタイマアウトを内部リセット へ接続することにより、強制的にリセット動作を行うことができます。(外部の $\overline{\text{RESET}}$ 端子のレベルは変化しません。)

3.25.1 構成

図 3.25.1にウォッチドッグタイマのブロック図を示します。

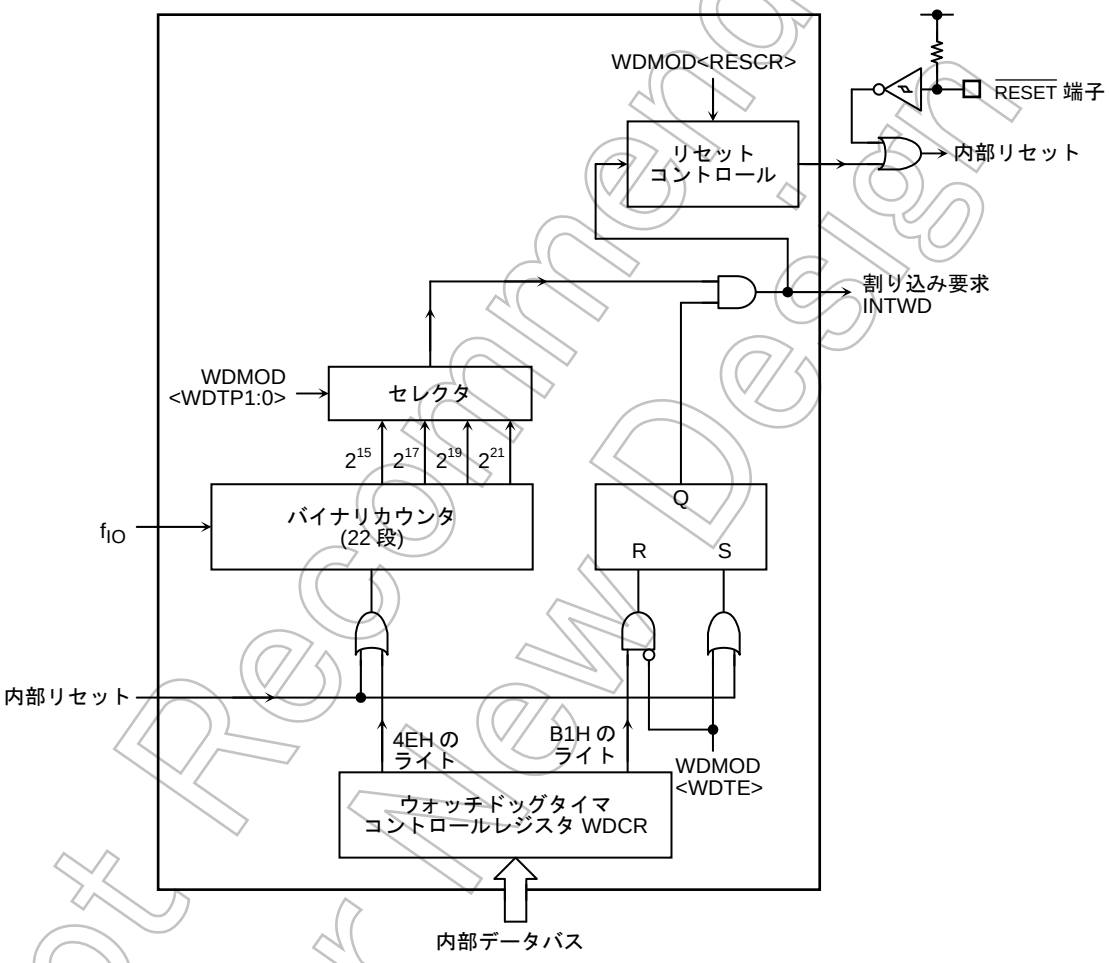


図 3.25.1 ウォッチドッグタイマのブロック図

注) 外乱ノイズなどの影響によりウォッチドッグタイマが完全な機能を果たせない場合がありますので、機器設計時には十分な考慮が必要です。

Not Recommended for New Design

3.25.2 動作説明

ウォッチドッグタイマは、WDMOD<WDTP1:0>で設定された検出時間後に割り込みINTWDを発生させるタイマです。ソフトウエア(命令)でウォッチドッグタイマ用のバイナリカウンタをINTWD割り込みが発生する前に“0”にクリアすることが必要です。もし、CPUがノイズなどの原因で誤動作(暴走)しバイナリカウンタをクリアする命令を実行しなければ、バイナリカウンタはオーバフローし、INTWD割り込みが発生します。CPUはINTWD割り込みにより誤動作(暴走)が発生したことを知り、誤動作(暴走)対策プログラムにより正常な状態に戻すことができます。

ウォッチドッグタイマは、リセット解除後ただちに動作を開始します。

また、IDLE1モードおよびSTOPモード中のウォッチドッグタイマは停止しています。バス解放中($\overline{BUSAK}$ = “L”)は、カウントを続けます。

IDLE2モードでは、WDMOD<I2WDT>の設定に依存します。必要に応じて、IDLE2モードに入る前にWDMOD<I2WDT>を設定してください。

ウォッチドッグタイマは、クロックf_{IO}を入力クロックとする、22段のバイナリカウンタで構成されています。バイナリカウンタの出力には2^{15}、2^{17}、2^{19}および2^{21}があります。

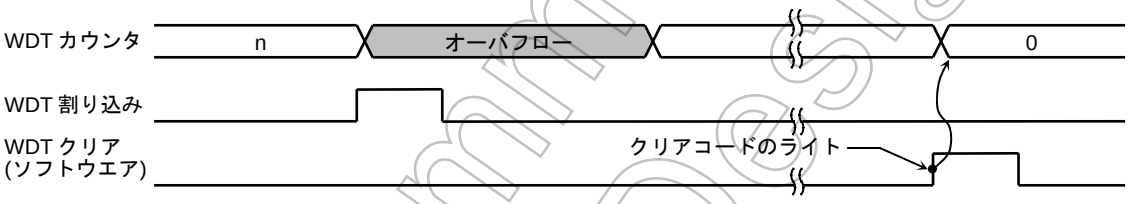


図 3.25.2 ノーマルモード

また、オーバフロー時に、本LSIをリセットすることも選択可能です。この場合、図3.25.3で示すように32クロック(102.4 μs @f_{OSCH} = 10 MHz)の期間、リセットを行います。なお、この場合(リセットされた場合)、クロックf_{IO}は、高速発振器のクロックf_{OSCH}をクロックギアで16分周したf_{SYS}を基に、それを2分周して生成されたものが使われます。

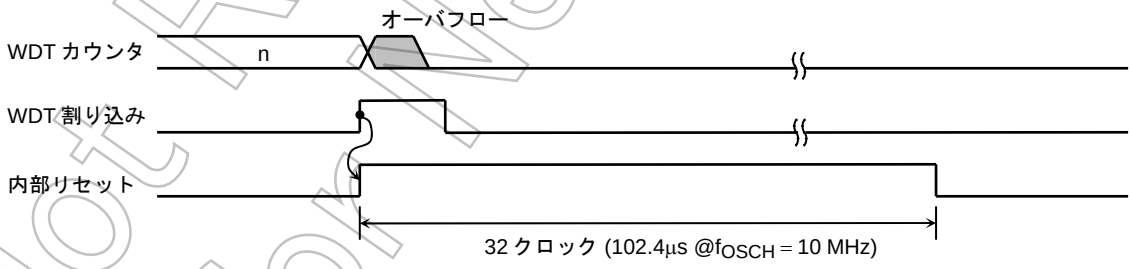


図 3.25.3 リセットモード

Not Recommended for New Design

3.25.3 コントロールレジスタ

ウォッチドッグ タイマ (WDT) は、2 つのコントロールレジスタ (WDMOD, WDCR) によって制御されています。

(1) ウォッチドッグタイマモードレジスタ (WDMOD)

1. ウォッチドッグタイマ検出時間の設定<WDTP1:0>

暴走検出のためのウォッチドッグタイマ割り込み時間を設定する 2 ビットのレジスタです。リセット時 WDMOD<WDTP1:0> = “00”に初期化されます。

ウォッチドッグ タイマの検出時間は $2^{15}/f_{IO}$ [s]です。(システムクロックの数は約 65,536 です。)

2. ウォッチドッグタイマイネーブル/ディセーブル制御レジスタ<WDTE>

リセット時 WDMOD<WDTE> = “1”に初期化されますので、ウォッチドッグ タイマはイネーブルになっています。ディセーブルにするには、このビットを “0” にクリアした後に WDCR レジスタにディセーブル コード (B1H) をライトする必要があります。この二重設定のため、暴走によるウォッチドッグタイマのディセーブルが発生し難くなっています。

逆にディセーブル状態からイネーブル状態に戻す場合は、<WDTE>を “1” にセットするだけでイネーブルとなります。

3. ウォッチドッグタイマアウトのリセット接続<RESCR>

暴走検出により本 LSI をリセットするか否かを設定するレジスタです。リセット時 WDMOD<RESCR> = “0”に初期化されますので、ウォッチドッグタイマアウト出力によるリセットは行われません。

(2) ウォッチドッグタイマコントロールレジスタ (WDCR)

ウォッチドッグタイマ機能のディセーブルおよびバイナリカウンタのクリアを制御するレジスタです。

- ディセーブル制御

WDMOD<WDTE>を “0” にクリアしたあと、この WDCR レジスタにディセーブルコード (B1H) をライトするとウォッチドッグ タイマをディセーブルにすることができます。

設定例:

WDCR	←	0	1	0	0	1	1	1	0	クリアコード (4EH) をライトします。
WDMOD	←	0	–	–	X	X	–	–	0	WDMOD<WDTE>を “0” にクリアします。
WDCR	←	1	0	1	1	0	0	0	1	ディセーブルコード (B1H) をライトします。

- イネーブル制御

WDMOD<WDTE>を “1” に設定します。

- ウォッチドッグタイマのクリア制御

WDCR レジスタにクリア コード (4EH) をライトすると、バイナリカウンタはクリアされ、再カウントします。

WDCR	←	0	1	0	0	1	1	1	0	クリアコード (4EH) をライトします。

注1) ディセーブル制御をする際には一旦クリアコード(4EH) をライトした後ディセーブル制御をしてください。(設定例を参照してください)

注2) ウォッチドッグタイマの設定を変更する際は、ディセーブル状態にしてから設定を変更してください。

Not Recommended for New Design

WDMOD (1300H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	WDTE	WDTP1	WDTP0			I2WDT	RESCR	–
Read/Write	R/W					R/W		
リセット後	1	0	0			0	0	0
機能	WDT 制御 1: 許可	検出時間選択 00: $2^{15}/f_{IO}$ 01: $2^{17}/f_{IO}$ 10: $2^{19}/f_{IO}$ 11: $2^{21}/f_{IO}$				IDLE2 0: 停止 1: 動作	1:リセット端子に WDT 出力を内部接続	“0” をライトしてください。

ウォッチドッグタイマアウト制御

0	–
1	WDT アウトをリセットへ接続

IDLE2 制御

0	停止
1	動作

ウォッチドッグタイマ検出時間

00	$2^{15}/f_{IO}$ (約 819.2 μs @f_{IO} = 40 MHz)
01	$2^{17}/f_{IO}$ (約 3.276 ms @f_{IO} = 40 MHz)
10	$2^{19}/f_{IO}$ (約 13.107 ms @f_{IO} = 40 MHz)
11	$2^{21}/f_{IO}$ (約 52.428 ms @f_{IO} = 40 MHz)

ウォッチドッグタイマイネーブル/ディセーブル制御

0	禁止 (ディセーブル)
1	許可 (イネーブル)

図 3.25.4 ウォッチドッグタイマモードレジスタ

WDCR (1301H)

リード モディファイ ライト できません。

	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	–							
Read/Write	W							
リセット後	–							
機能	B1H: WDT ディセーブルコード 4EH: WDT クリアコード							

WDT ディセーブル/クリア制御

B1H	ディセーブル
4EH	クリアコード
その他	Don’t care

図 3.25.5 ウォッチドッグタイマモードレジスタ

Not Recommended for New Design

3.26 電源管理回路PMC (Power Management Circuit)

微細プロセス製品のリーク(漏れ)電流対策のために、本製品ではスタンバイ時の電流を管理する電源管理回路を内蔵しています。電源供給は下記の 6 系統があります。

- アナログ電源 (A/D コンバータ用：AVCC & AVSS)
- 3V-A 系デジタル I/O 電源 (一般端子用：DVCC3A & DVSSCOM)
- 1.5V-A 系デジタル内部電源 (一般回路用：DVCC1A & DVSSCOM)
- 1.5V-B 系デジタル内部電源 (RTC、PMC 用：DVCC1B & DVSSCOM)
- 1.5V-C 系発振電源 (高周波発振器、PLL 用：DVCC1C & DVSS1C)

各電源供給は独立しています(VSS は一部共通)。

6 系統の電源の内、省電力状態時に供給される電源は、外部端子用の電源(DVCC3A)と、AD コンバータ用電源(AVCC)と、RTC およびバックアップ RAM 用の電源(DVCC1B)です。DVCC1A と DVCC1C 電源は、省電力状態に移行した後電源をカットしても LSI 内に貫通電流等が発生しないように、電源は内部で分離され信号は遮断されます。

- DVCC3A 電源

  外部端子の保持、外部電源の ON/OFF 制御、スタンバイ解除の割り込み入力用に 3V 系の電源を供給します。
- AVCC 電源

  タッチパネル I/F にて、スタンバイ解除の割り込み入力用に 3V 系の電源を供給します。
- DVCC1B 電源

  RTC、16kbyte の RAM、電源管理回路用に 1.5V 系の電源を供給します。

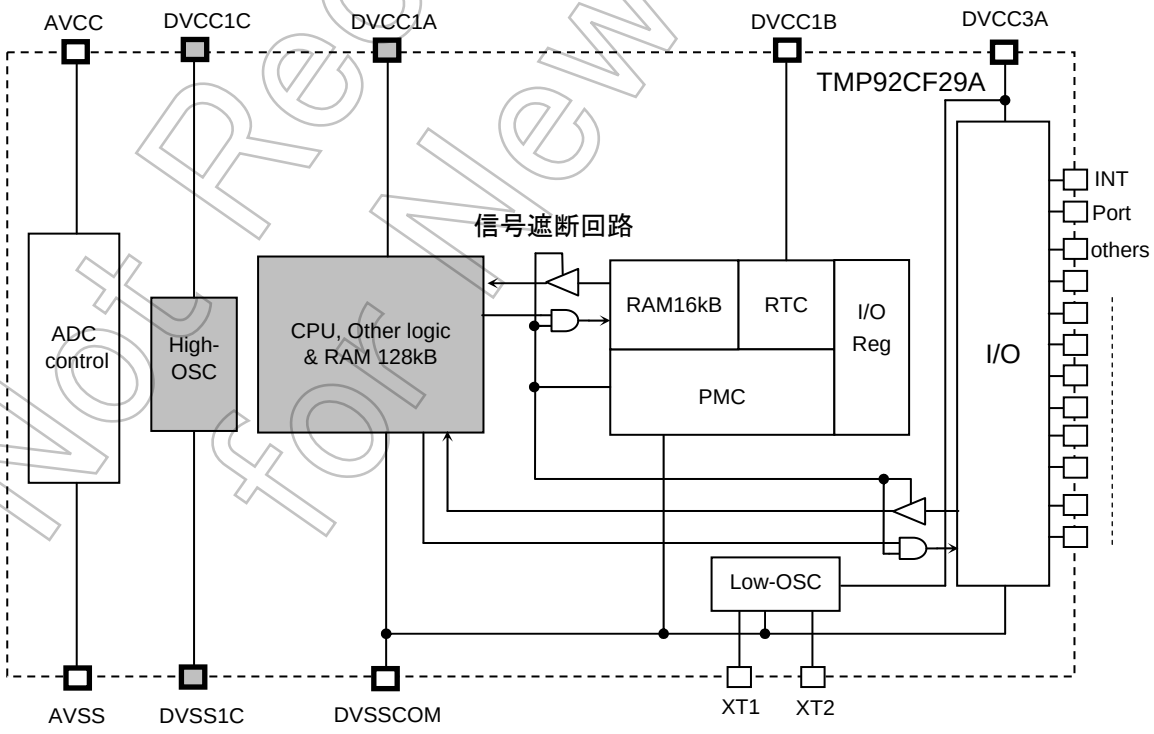


図 3.26.1 電源供給システム

Not Recommended for New Design

3.26.1 SFR

PMCCTL (02F0H)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit symbol	PCM_ON					–	WUTM1	WUTM0
Read/Write	R/W					W	R/W	
システム リセット後	0					0	0	0
Hot リセット後	–					–	–	–
機能	Power Cut 機能 0: disable 1: enable					“0”をライトしてください。 リードすると“0”になります。	Warm-up 時間設定 00: 2^9 (15.625 ms) 01: 2^{10} (31.25 ms) 10: 2^{11} (62.5 ms) 11: 2^{12} (125 ms)	

注 1) Wake-up 要求の割り込み後、約 77μs 後に外部 PWE 信号が“0”から“1”に変化します。この後 Warm-up タイマで設定された時間をカウントアップし、さらに約 92μs 後に、内部のリセット信号が解除される仕組みとなっています。使用する電源のレスポンスや、セット上の条件によって、電源が安定する時間は異なりますので、電源が安定する時間を考慮して、Warm-up 時間を決定してください。

注 2) 本レジスタは、通常時常に初期状態 (すべてのビットの値は “0”)にしておく必要があります。省電力状態に移行する直前に、レジスタへの書き込むようにしてください。また、省電力状態からの復帰直後、すべてのレジスタの値を初期値 (すべてのビットの値は “0”)に戻してください。詳細は後述の省電力状態移行のフローを参照してください。

<PCM_ON>に“1”をライトすることで、以下の動作が変化します。

	PCM_ON = 1	PCM_ON = 0
外部割込み入力	割り込み動作せず、 HOT_RESET 信号発生	割り込み動作
RESET 後の動作	–	AM1:0 端子に依存して起動
HOT_RESET 後の動作	AM1:0 端子に依存せず Boot_ROM から起動し 指定内蔵 RAM 領域に Jump	–
Warm-up カウンタ	PWE 端子の変化をトリガに 低周波クロックをカウント後 HOT_RESET を解除	–

Not Recommended for New Design

3.26.2 詳細動作説明

動作状態と省電力状態(PCM: Power Cut Mode)の状態遷移フローを以下に説明します。

- 省電力状態への移行

省電力状態へ移行させる場合は、CPU は内蔵 RAM で動作させてください。

低周波クロックは動作状態に設定します。また、移行の動作を阻害しないために割込み要求は禁止し、DMA 動作、WDT、および AD コンバータは停止させてください。

端子の状態をポート機能にて設定します。ただし、PM7 は PWE に機能設定し、内蔵 RTC と外部割込み端子 内、Wake-up 時に利用する端子は割り込みが Enable となる入力機能設定とします。

割り込みトリガは、エッジの選択が可能な場合、立ち上がりエッジのみの対応です。また、INT4 を TSI として利用する場合は、デバウンス回路は Disable 状態に設定することが必要です。

Wake-up する起動プログラムを内蔵 RAM46000H~49FFFH にライトしておきます。

(WDT や各種初期設定を含め、すべての処理をライトしておく必要があります。)

最後に、PLL を使用している場合は PLL を停止し、スタンバイ状態から Wake-up するときの Warm-up 時間 (電源安定 + 高周波クロック安定時間) を PMCCTL<WUTM1:0> に設定し、PMCCTL<PCM_ON>に“1”をライトして Power Cut に設定し電源を Off します。またこの時同時に、外部 I/O および PMC 回路以外の回路に対し RESET(HOT_RESET)がアサートされます。

注) PMCCTL<PCM_ON>に“1”をライトすることに同期して、電源管理信号(PWE)が “1” から “0” に変化し、外部の電源をオフします。

Not Recommended for New Design

1. 省電力状態への移行に必要な準備設定

(1) Warm-up 後に起動するプログラムのライト(46000H~49FFFH)

Boot ROM では PMCCTL の bit7 の“1”or “0”判定のみ行っています。WDT や各種初期設定を含め、すべての処理を起動後の RAM エリア(46000H~49FFFH)にライトしておく必要があります。

(2) 低周波クロックの Enable 制御

省電力モードへの移行や Wake-up の動作などはすべて低周波クロックで動作します。そのため低周波クロックを停止することはできません。

2. 実行順序

(1) プログラムの実行エリア → 内蔵 RAM からのプログラム実行

省電力モードへ移行する際に、その動作を阻害する可能性のある要因をすべて停止します。

a. ウォッチドッグタイマの停止

b. AD コンバータ動作の停止

c. システムの DMA 動作の停止

- LCDC の停止
- SDRAM の Auto リフレッシュの停止(セルフリフレッシュモードへの移行)
- HDMA 転送の停止

(2) ポート機能の固定(Pn、PnCR、PnFC、PnDR、Wake-up 用ポートの設定)

Wake-up 可能な外部割込みはすべて立ち上がりエッジのみの対応です。また、INT4 を TSI として利用する場合は、デバウンス回路は Disable 状態に設定することが必要です。

(3) 割り込みの禁止 (DI 命令の実行)

(4) PLL 動作の停止

高周波クロック f_{SYS} を f_{OSCH} に設定し、PLL 動作を停止させてください。

(5) Warm-up 時間の設定：PMCCTL<WUTM1:0>

Wake-up 要求の割り込み後、約 77μs 後に外部 PWE 信号が“0” から “1”に変化します。この後 Warm-up タイマで設定された時間をカウントアップし、さらに約 92μs 後に、内部のリセット信号が解除される仕組みとなっています。使用する電源のレスポンスや、セット上の条件によって、電源が安定する時間は異なりますので、電源が安定する時間を考慮して Warm-up 時間を決定してください。(15.625ms~125ms から選択可能です。)

(6) 省電力状態への移行(PMCCTL<PCM_ON>= “1”)

注) Warm-up 時間設定ビット PMCCTL<WUTM1:0>と、省電力状態への移行ビット PMCCTL<PCM_ON>の同時設定も可能です。

(7) 省電力状態への移行時間待ちのためのダミー命令の挿入 (NOP×20 を推奨)

注) Warm-up 時間の設定も含めて、PMCCTL レジスタへの書き込みは、省電力状態に移行する時と、省電力状態からの復帰直後(通常状態)しか出来ません。Warm-up 時間を事前に設定しないようにしてください (通常は、常に”00h”の状態にしてください)。

Not Recommended for New Design

- PCM 状態からの復帰

PCM 状態からの復帰は外部割り込みまたは内部リセットにて復帰します。(DVCC1A が遮断された状態でリセットからの復帰は禁止です。事前に DVCC1A への電源を供給し、十分に電圧が安定してからリセットしてください)。対象の割り込みは、RTC 割り込み、INT0~INT7(TSI 割り込み)および INTKEY 割り込みです。

表 3.26.1 PCM 状態を復帰可能な割り込み (ポート設定)

割り込みの種類	割り込み名	備考
RTC 割り込み	INTRTC	
外部端子割り込み	INT0	立ち上がり設定のみ対応
	INT1	立ち上がり設定のみ対応
	INT2	立ち上がり設定のみ対応
	INT3	立ち上がり設定のみ対応
	INT4	TSI の場合、デバウンス回路を Disable 設定する。 立ち上がり設定のみ対応
	INT5	立ち上がり設定のみ対応
	INT6	立ち上がり設定のみ対応
	INT7	立ち上がり設定のみ対応
キー割り込み	INTKEY	KI0~KI8 立ち下がりエッジの対応

割り込み要因の起動は、要求を受付けると電源管理信号(PWE)を “0”→ “1”とし、電源 OFF してあった各ブロックに電源を供給します。

PMCCTL<WUTM1:0>で設定された Warm-up を行った後、自動的に HOT_RESET を解除し、CPU は外部 AM 端子の状態に関わらず、内蔵 Boot_ROM から起動します。

外部ポートはすべて PCM 状態以前の状態が保持されていますが、PnDR 設定は、内部 HOT_RESET の解除とほぼ同時に解除されます。

- 出力端子の Hi-Z 状態 → “1”または “0”出力
- 入力端子の入力ゲート OFF → 入力端子の入力ゲート ON

内蔵 Boot_ROM では最初に PMC 回路内の<PCM_ON>を確認し、“1”であれば、すべての初期設定の前に、内蔵 RAM の 46000 番地へジャンプします。

ソフトウエアの処理で、PMC 回路内の<PCM_ON>を“1”から“0”に戻します。この時、かならず、Warm-up 時間も、初期値に戻すようにしてください。(必ず“00H”をライトしてください)

注 1) いずれの割り込みで電源が投入されても、PCM 状態からの割り込み要求では、割り込み動作はしません。また、どの割り込みで Wake-up したかも認識できません。

注 2) PMCCTL<PCM_ON>ビットは “1”のまま、保持されています。再度 Power Cut 状態にする場合は、1 度 “0”をライトし、もう一度 “1”をライトしてください。この時、“0”をライトしてから再度“1”をライトするまでに最低 31uS 以上間隔を空けてください。

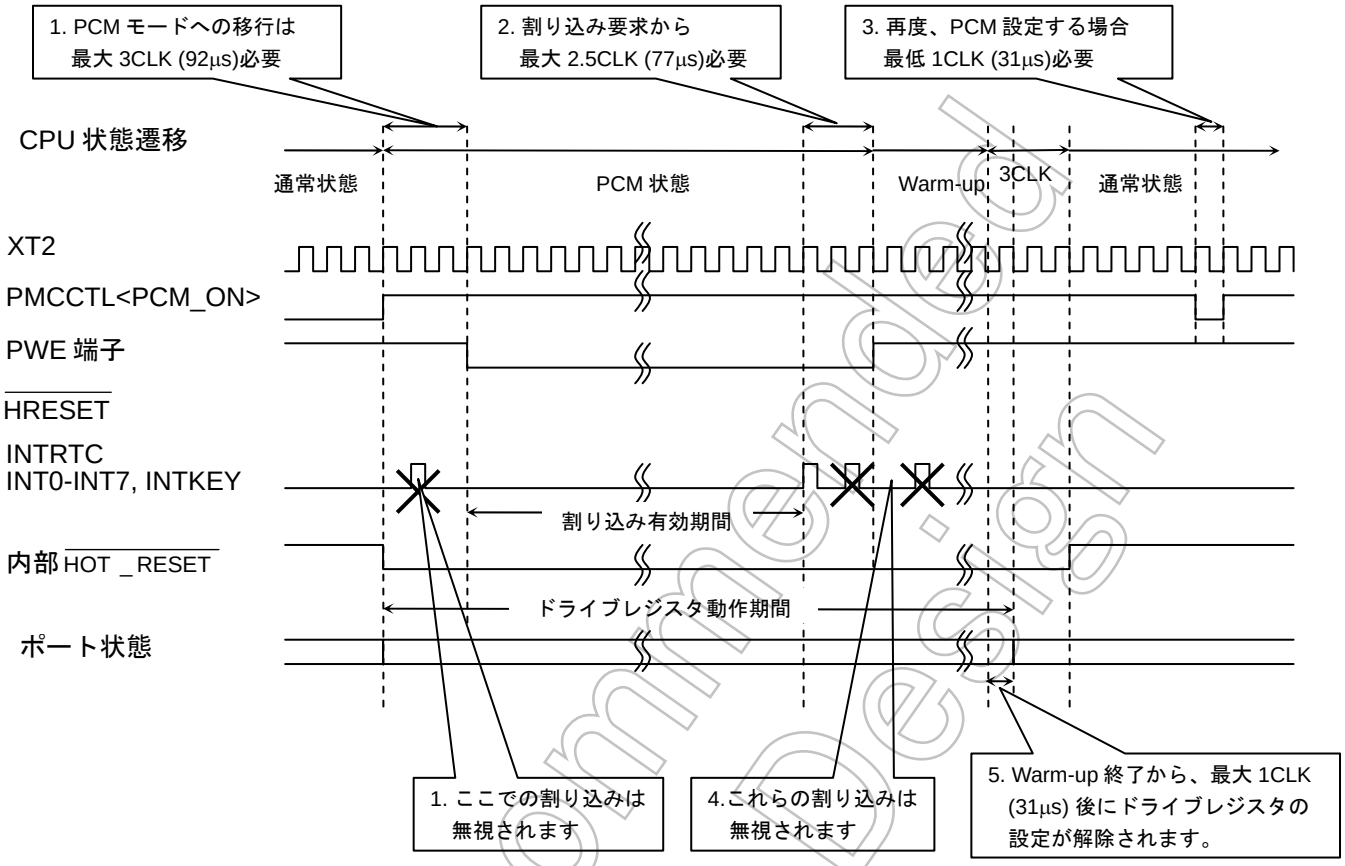
注 3) Boot モードからの復帰となりますので、一部 S/W で、再設定が必要です。ご注意ください。

内蔵 Boot_ROM が見えた状態 (ベクタアドレス変換許可)から復帰する。

BROMCR (016CH)		7	6	5	4	3	2	1	0
	Bit symbol						CSDIS	ROMLESS	VACE
	Read/Write						R/W		
	リセット後						1	0	1
	機能						NAND フラッシュエリア CS 出力 0: 許可 1: 禁止	ブート ROM 0: 使用 1: バイパス	ベクタアドレス変換 0: 禁止 1: 許可

Not Recommended for New Design

3.26.3 詳細タイミング説明と注意点



1. PMCCTL<PCM_ON>= “1”の設定をして省電力状態に移行するには、最大低周波クロックの 3 発分の時間 (約 92μs)が必要です。また、この低周波クロックの 3 発分の時間(約 92μs)期間は、外部からの Wake-up 要求は無視されます(省電力モード移行優先)。
2. Wake-up 要求から PWE 端子が“0”→“1”変化するまでの時間に最大低周波クロックの 2.5 発分の時間(約 77μs)が必要です。
3. 省電力モードから復帰後、ソフトウエアにて PMCCTL<PCM_ON>を“0”に設定して通常状態に復帰します。再度省電力モードに移行する場合は PMCCTL<PCM_ON>を“0” → “1”と設定しますが、最低、低周波クロックの 1 発分の時間(約 31μs)は PMCCTL<PCM_ON>を“0”に設定しておく必要があります。31μs 以内に、“1” → “0” → “1”と変化させても省電力モードに移行しない場合があります。
4. Wake-up 要求で省電力状態から復帰途中に他の Wake-up 要求が入っても、その要求は無視されます。
5. Warm-up 時間終了後最大低周波クロックの 1 発分の時間(約 31μs)経過した後に、ポートのドライブ設定が解除されます。その後、低周波クロックの 2 発分の時間(約 62μs)経過した後に内部リセット信号(Hot_Reset)が解除されます。

Not Recommended for New Design

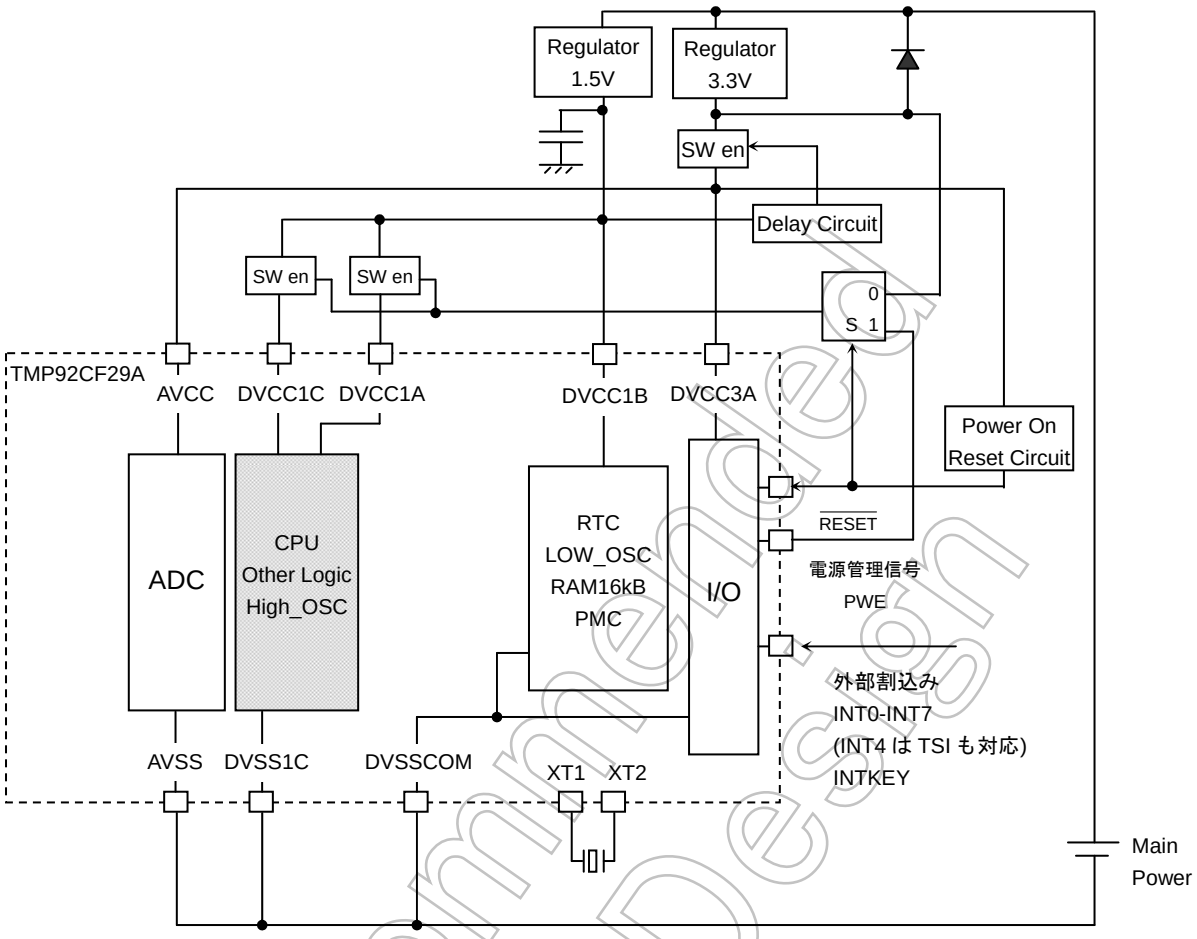


図 3.26.2 電源供給システム用 外部回路例

図 3.26.2は本システムを利用した外部回路例です。

通常時には上記電源管理端子(PWE)は “1”を出力し、すべてのブロックに電源を供給します。
また、Power Cut モード時には “0”を出力し、CPU、内蔵 RAM の一部、AD コンバータおよび RTC を除く内部の周辺回路の電源を OFF し、リーク(漏れ)電流を低減します。Power Cut モードに電源供給されるブロックは I/O(AD 端子含む)、TSI 回路、内蔵 RAM 16Kbyte、低周波発振回路、RTC、電源管理回路のみとなります。

Not Recommended for New Design

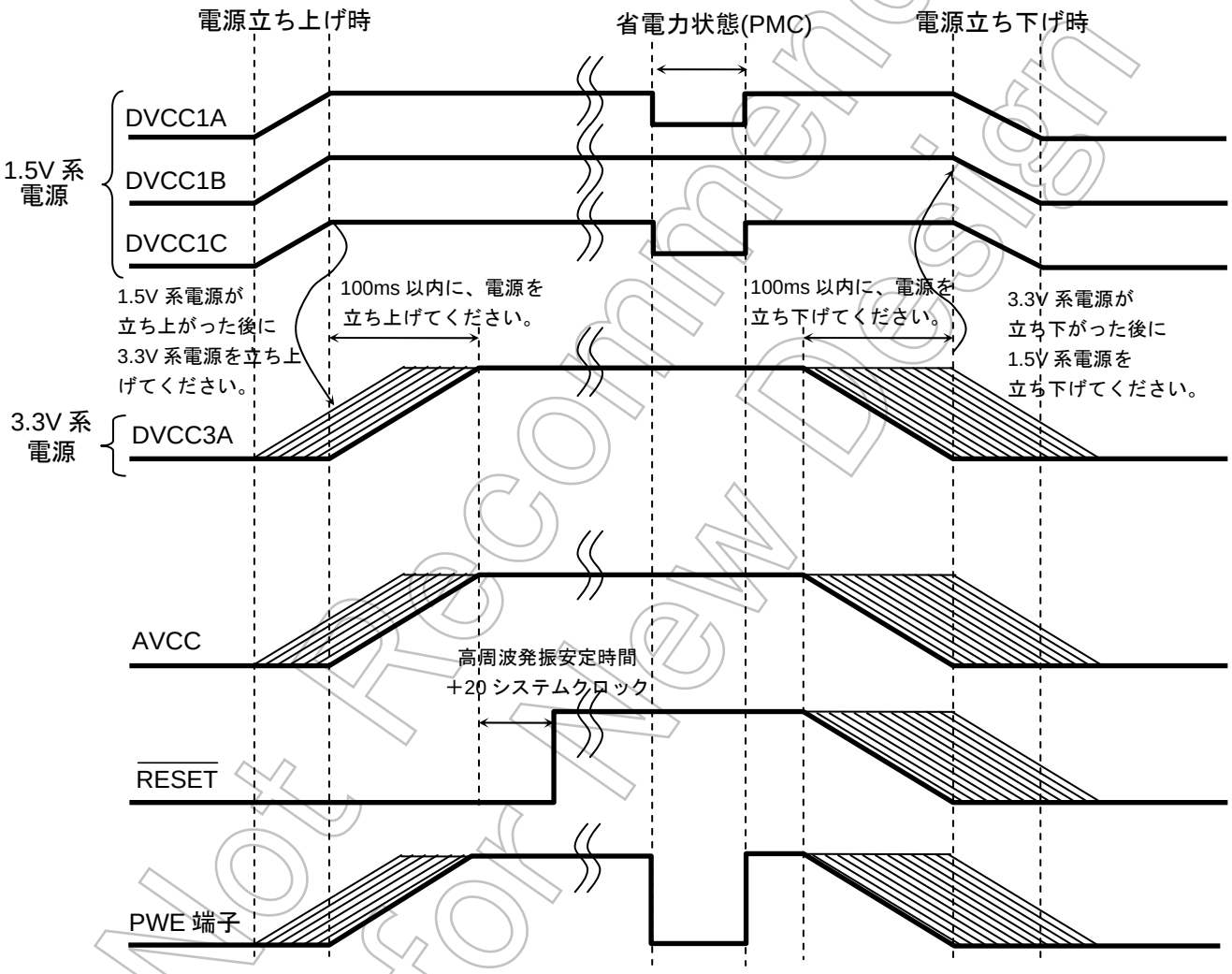
3.26.4 動作上の注意点

- 電源供給/停止に関する順序(初期電源投入/完全電源停止)

電源の初期電源の供給/完全電源の停止は以下に示すように、電源投入時には内部電源が先に電源投入され、電源停止時は内部電源が跡に電源停止されることが必要です。

電源 ON
(DVCC1A、 DVCC1B、 DVCC1C) → (DVCC3A、AVCC)

電源 OFF
(AVCC、DVCC3A) → (DVCC1C、DVCC1B、 DVCC1A)



注 1) 内部 1.5V 系と外部 3.3V 系電源を、同時に立ち上げ/立ち下げることも可能ですが、その場合、瞬間的に外部端子が不安定の状態になる可能性がありますので、周辺の LSI に接続の機器に影響を与える可能性がある場合には、上図の太線で示すように、内部 1.5V 系電源が確定・安定している間に、外部電源の立ち上げ/立ち下げを行ってください。

注 2) 立ち上げ時は 1.5V 系の電源より早く 3.3V 系電源を立ち上げないようにしてください。また、立ち下げ時は 1.5V 系の電源より後に 3.3V 系電源を立ち下げないようにしてください。

Not Recommended for New Design

設定例:

PCM 状態(省電力状態)への移行の設定例 (INT4 を TSI として使用し復帰させる場合)

```
        org     002000h

        ld      (syscr0),40h        ;   低周波クロックをイネーブルに設定する
        ldw     (wdmod),0b100h      ;   WDT を停止に設定する
        ldw     (admod0),0000h      ;
        ldw     (admod2),0000h      ;   AD コンバータを停止に設定する
        ldw     (admod4),0000h      ;
        ld      (lcdctl0),00h       ;   DMA 動作を停止に設定する
        ld      (pmfc),80h          ;   PM7 を PWE に設定する

        ld      (p9fc),40h          ;   INT4 割り込みをイネーブルに設定する
        ld      (inte34),50h        ;   割り込みレベルを設定する
        ld      (tsicr1),00         ;   デバウンス回路をディセーブルに設定する
        ld      (pllcr0), 00h       ;   CPU クロックを PLL→fOSCH に切り替え
        ld      (pllcr1), 00h       ;   PLL 回路を停止する
        ld      (pmcctl),00h        ;   Warm-up 時間を設定する
        di                          ;
        ld      (pmcctl),80h        ;   <PCM_ON> をイネーブルに設定する
                                        (PCM 状態スタート)
                                        注) これ以前は PMCCTL レジスタの値は、リセッ
                                            ト後の初期状態(00H)にしておいてください。
        nop×20                          PCM 状態移行時間待ち
```

Wake-up 後の設定例

```
        org     046000h

        ld      (pmcctl),00h        ;   <PCM_ON>をディセーブルに設定する
                                        注) 必ず、同時に Warm-up 時間も初期値に設定す
                                            るようにしてください (必ず、“00H”を書き込
                                            むようにしてください)。
```

Not Recommended for New Design

設定例 2:
PCM 状態(省電力状態)への移行の設定例 (SDRAM をセルフリフレッシュ状態にしたまま復帰する場合)

```
                ld      (syscr0),40h      ;  低周波クロックをイネーブルに設定
                ldw     (wdmod),0b100h    ;  ウォッチドッグタイマをディセーブルに設定
                ldw     (admod0),0000h    ;  AD コンバータをディセーブルに設定
                ldw     (admod2),0000h    ;
                ldw     (admod4),0000h    ;
                ld      (lcdctl0),00h     ;  LCDC をディセーブルに設定
                ld      (pmcctl),00h      ;  Warm-up 時間を設定
                ld      (inte0),55h       ;  INT0 のレベルを 5 に設定
                ei      5                 ;
                dl      0,0               ;
                ld      (pccr),00h        ;  PC0~PC3 を INT0~INT3 に設定
                ld      (pcfc),01h        ;
                                          ;
;((( Entry Self Refresh mode )))           ;
                res     ld                ;  Self Refresh auto exit 機能をディセーブルに設定
                ld      (sdcmm),02h       ;  All Bank Precharge command に設定
ABP:                                      ;
                ld      a,(sdcmm)         ;
                cp      a,00h             ;
                jr      nz,ABP            ;  All Bank Precharge command が終了するまでポ
                                             ーリング

                ld      (sdcmm),05h       ;  Self Refresh Entry command に設定
                nop×10                    ;  注)10 バイト以上の NOP あるいは他の命令を実行
                                             してください

                ld      (pj),7fh          ;  PJ7=0 に設定
                ld      (pjfc),1fh        ;  PJ7=ポート機能に設定
                ld      (pjdr),80h        ;  PJDR の ON/OFF を 設定

;((( Entry PMC mode )))
                di
;--- PLL off setting -----
                ld      (pllcr0),00h      ;  fSYS=fOSCH に設定
                ld      (pllcr1),00h      ;  PLL 回路を停止

                ld      (pmcctl),80h      ;  PCM 状態をイネーブルに設定
                                             (PCM モードスタート)
                        nop×20            ;  PCM 状態移行時間待ち

Wake-up 後の設定例
                org     046000h           ;

                ld      (pmcctl),00h      ;  <PCM_ON>をディセーブルに設定する
                                             注) 必ず、同時に Warm-up 時間も初期値に設定し
                                                てください。(必ず“00H”をライトしてください)
```

注) SDRAMC は Wake-up 時に HOT リセットにより初期化されます。
SDRAMC の初期化で SDCKE 端子の出力は初期値である “1”になります。この事により SDRAM はセルフリフレッシュから復帰します。また、同時に SDRAMC のオートリフレッシュ機能も停止状態になりますので、結果として SDRAM のデータは、保持できずに消失します。
SDRAMC は HOT リセットで初期化されますが、ポート回路は HOT リセットによって端子状態が変化しません。この機能を利用し、SDRAM データの消失を防ぐことが出来ます。
PMC 状態への移行の前に SDCKE 端子の機能を、あらかじめ PJ7 端子に設定して “0”が出力されるようにしておきます。PMC 状態中の PJ7 端子の出力は、PJ および PJDR の設定により決定されますので、上記設定を参考に PCM 状態中に PJ7 端子が“0”を出力するように設定してください。

Not Recommended for New Design

3.27 積和演算回路(Multiply and Accumulate Calculation unit)

32 ビット × 32 ビット + 64 ビットの高速積和演算回路を内蔵しています。下記にその特徴を示します。

- 1MAC 演算は 1 システムクロックで実行。(レジスタアクセス時間は除く)
- 3 つの演算モード : 1) 64 ビット + 32 ビット× 32 ビット
  2) 64 ビット– 32 ビット× 32 ビット
  3) 32 ビット × 32 ビット – 64 ビット
- 符号なし/符号付き演算に対応。
- 演算は整数演算のみ対応。

3.27.1 レジスタ

TMP92CF29A の MAC は 1 個のコントロールレジスタ、3 個のデータレジスタを持っています。これらは 32 ビットバスで CPU に接続され、1 システムクロック(f_{SYS})でアクセス可能です。

3.27.1.1 コントロールレジスタ

コントロールレジスタを示します。このレジスタを設定することで、MAC の動作を制御します。

MAC コントロールレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
MACCR (1BFCH)	bit Symbol	MOVF	MOPST	MSTTG2	MSTTG1	MSTTG0	MSGMD	MOPMD1	MOPMD0
	Read/Write	R/W	W	R/W					
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
リード モディファイ ライト できません	機能	オーバーフローフラグ 0:オーバーフロー無し 1:オーバーフロー発生	演算ソフトスタート 0:Don't care 1:演算スタート	演算スタートトリガ選択 000: MACMA<7:0>へのライト 001: MACMB<7:0>へのライト 010: MACMOR<7:0>へのライト 011: MACMOR<39:32>へのライト 1xx: <MOPST>への“1” ライト			符号モード 0:符号なし 1:符号付き	演算モード 00: 64 + 32×32 01: 64 – 32×32 10: 32×32 – 64 11: Reserved	

注 1) <MOPST>はライトオンリーです。リードすると“0”がリードされます。

注 2) <MSTTG2:0>への“1xx”設定と<MOPST>への“1”ライトは同ライトサイクルで行えます。

注 3) <MOVF>は演算スタート後 2 システムクロック(f_{SYS}) 確定します。

Not Recommended for New Design

3.27.1.2 データレジスタ

データレジスタを示します。

	データレジスタ							
	Bit<63:56>	Bit<55:48>	Bit<47:40>	Bit<39:32>	Bit<31:24>	Bit<23:16>	Bit<15:8>	Bit<7:0>
乗数 A レジスタ					(1BE3H)	(1BE2H)	(1BE1H)	MACMA (1BE0H)
乗数 B レジスタ					(1BE7H)	(1BE6H)	(1BE5H)	MACMB (1BE4H)
積和 レジスタ	(1BEFH)	(1BEEH)	(1BEDH)	MACORH (1BECH)	(1BEBH)	(1BEAH)	(1BE9H)	MACORL (1BE8H)

注 1) すべてのレジスタはリセット後は“0”にクリアされます。

注 2) すべてのレジスタはリードモディファイライト可能です。

注 3) すべてのレジスタは、Long Word/Word/Byte アクセス可能です (符号モード利用時は Long アクセスのみ)。

注 4) MACCR<MSTTG2:0>に“000”, “001”, “010”または “011”を設定し、かつ Word または Byte 単位でライトする場合は、各レジスタの<7:0>ビットを最後にライトしてください。

注 5) MACORL レジスタは演算スタート後 1 システムクロック(f_{SYS})で確定します。また、MACORH レジスタは演算スタート後 2 システムクロック(f_{SYS})で確定します。よって、演算直後に MACOR レジスタをリードする場合は MACORL レジスタからリードしてください。

注 6) 符号モードを使用時 (MACCR<MSGMD>=“1”)は、MACMA、MACMB レジスタは Long Word 命令(32 ビット)でライトしてください。

Not Recommended for New Design

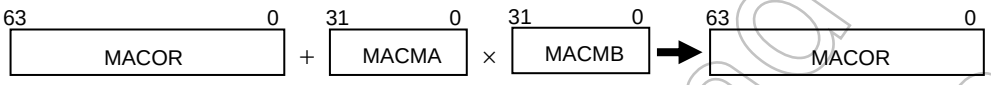
3.27.2 動作説明

(1) 演算モード

積和演算および積差演算の 3 種類の演算モードを持っています。この演算モードは MACCR<MOPMD1:0>で設定します。また、MACCR<MSGMD>で符号なし/符号付きモードの設定をします。各モードの動作を以下に示します。

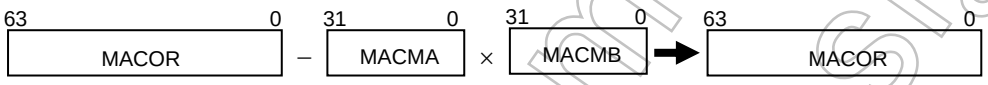
(a) 64 + 32 × 32 モード

このモードでは、MACMA レジスタと MACMB レジスタの内容を乗算した結果と MACOR レジスタの内容を加算し、その結果を再び MACOR レジスタに格納します。



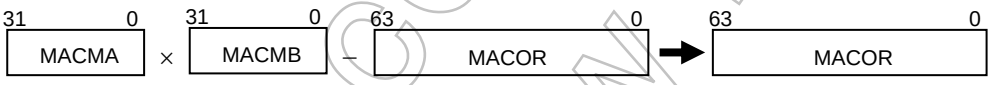
(b) 64 – 32 × 32 モード

このモードでは、MACMA レジスタと MACMB レジスタの内容を乗算した結果を MACOR レジスタの内容から減算し、その結果を再び MACOR レジスタに格納します。



(c) 32 × 32 – 64 モード

このモードでは、MACOR レジスタの内容を MACMA レジスタと MACMB レジスタの内容を乗算した結果から減算し、その結果を再び MACOR レジスタに格納します。



Not Recommended for New Design

(d) 符号モード

積和および積差演算モードとも、符号なしおよび符号付きモードの演算を実行可能です。

符号付きモードでは、MACMA/MACMB/MACORレジスタは符号付きレジスタとなり、最上位ビットを符号ビット、設定データを 2 の補数値として扱います。符号モードにより表現できる数値を 表 3.27.1に示します。

表 3.27.1　データの表現範囲

	MACMA, MACMB レジスタ	MACOR レジスタ
符号なし	$0 \sim 2^{32}-1$	$0 \sim 2^{64}-1$
符号付き	$-2^{31} \sim +2^{31}-1$	$-2^{63} \sim +2^{63}-1$

符号付きモードは MACMA/MACMB レジスタへの設定値が符号付き(2 の補数)データの場合に使用してください。また符号なしモードでも、MACOR レジスタのみについては符号付き(2 の補数)データを設定することにより符号付きで加減算が可能です。

符号モードを使用時 (MACCR<MSGMD>="1")は、MACMA、MACMB レジスタは Long Word 命令(32 ビット)でライトしてください。

(2) 演算スタートトリガ

トリガの選択は、データレジスタ MACMA/MACMB/MACOR へのライトおよびソフトスタート(MACCR<MOPST>= "1")から選択可能です。この設定は MACCR<MSTTG2:0>で行います。

(3) オーバーフローフラグ

演算結果がオーバーフロー (表 3.27.2を参照)するとMACCR<MOVF>は"1"にセットされます。また、一度でもオーバーフローが発生した場合、その後の演算結果に関わらずMACCR<MOVF>は"1"を保持します。また、リード動作等により自動的にクリアされませんので、"0"をライトすることによりクリアしてください。

表 3.27.2 オーバーフローの定義

符号モード	演算結果 (MACOR レジスタ値)	MACCR<MOVF>
符号有り	$MACOR > 2^{64}-1$	1
	$0 \le MACOR \le 2^{64}-1$	0
	$MACOR < 0$	1
符号無し	$MACOR > 2^{63}-1$	1
	$-2^{63} \le MACOR \le 2^{63}-1$	0
	$MACOR < -2^{63}$	1

Not Recommended for New Design

3.27.3 動作例

(1) 符号なし積和演算

「33333333 + 11111111 × 22222222」の積和演算の設定例を示します。

```
ld      (MACCR),0x08        ; 符号なし積和演算モード
                              MACMB へのライトで演算スタート
ld      xde, 0x00000000
ld      xhl, 0x33333333
ld      xix, 0x11111111
ld      xiy, 0x22222222
ld      (MACORL),xhl        ; MACORL へ 33333333 ライト
ld      (MACORH),xde        ; MACORH クリア
ld      (MACMA),xix         ; MACMA へ 11111111 ライト
ld      (MACMB),xiy         ; MACMB へ 22222222 ライト      ←― 演算スタート
ld      xhl,(MACORL)        ; 下位演算結果 0x41FDB975 のリード
bit     7,(MACCR)           ; オーバーフローの有無確認
jp      nz,ERROR            ; オーバーフローの場合エラールーチンへ
ld      xde,(MACORH)        ; 上位演算結果 0x02468ACF のリード
```

(2) 符号付き積差演算

「33333333 – 11111111 × –22222222」の積和演算の設定例を示します。

```
ld      (MACCR),0x25        ; 符号付き積差演算モード
                              <MOPST>への “1”ライトで演算スタート
ld      xde, 0x00000000
ld      xhl, 0x33333333
ld      xix, 0x11111111
ld      xiy,0xDDDDDDDE      ; －22222222
ld      (MACORL),xhl        ; MACORL へ 33333333 ライト
ld      (MACORH),xde        ; MACORH クリア
ld      (MACMA),xix         ; MACMA へ 11111111 ライト
ld      (MACMB),xiy         ; MACMB へ－22222222 ライト
set     5, (MACCR)          ;                               ←― 演算スタート
ld      xhl,(MACORL)        ; 下位演算結果 0x41FDB975 のリード
bit     7,(MACCR)           ; オーバーフローの有無確認
jp      nz,ERROR            ; オーバーフローの場合エラールーチンへ
ld      xde,(MACORH)        ; 上位演算結果 0x02468ACF のリード
```

(3) 符号なし積和演算（2 回の積和演算）

「(33333333 + 11111111 × 22222222)+(11111111 × 44444444)」積和演算の設定例を示します。

```
ld      (MACCR),0x08        ; 符号なし積和演算モード
                              MACMB への “1” ライトで演算スタート
ld      xde, 0x00000000
ld      xhl, 0x33333333
ld      xix, 0x11111111
ld      xiy, 0x22222222
ld      xiz, 0x44444444
ld      (MACORL),xhl        ; MACORL へ 33333333 ライト
ld      (MACORH),xde        ; MACORH クリア
ld      (MACMA),xix         ; MACMA へ 11111111 ライト
ld      (MACMB),xiy         ; MACMB へ 22222222 ライト      ←― 演算スタート
ld      (MACMB),xiz         ; MACMB へ 44444444 ライト      ←― 演算スタート
ld      xhl,(MACORL)        ; 下位演算結果 0x5F92C5F9 のリード
bit     7,(MACCR)           ; オーバーフローの有無確認
jp      nz,ERROR            ; オーバーフローの場合エラールーチンへ
ld      xde,(MACORH)        ; 上位演算結果 0x06D3A06D のリード
```

Not Recommended for New Design

4. 電気的特性

4.1 絶対最大定格

記号	項目	定格	単位
DVCC3A	電源電圧	-0.3 ~ 3.9	V
DVCC1A DVCC1B DVCC1C		-0.3 ~ 3.0	
AVCC		-0.3 ~ 3.9	
V_{IN}	入力電圧	-0.3 ~ DVCC3A + 0.3 (注 1) -0.3 ~ AVCC + 0.3 (注 2)	V
I_{OL}	出力電流 (1 端子当り)	15	mA
I_{OH}	出力電流 (1 端子当り)	-15	mA
ΣI_{OL}	出力電流 (合計)	80	mA
ΣI_{OH}	出力電流(合計)	-50	mA
P_D	消費電力 (Ta=85°C)	600	mW
T_{SOLDER}	はんだ付け温度 (10s)	260	°C
T_{STG}	保存温度	-65~150	°C
T_{OPR}	動作温度	-0~70	°C

注 1) DVCC3A の絶対最大定格を超えないようにしてください。

注 2) PG0~PG5、P96、P97、VREFH、VREFL は AVCC の最大定格が適用されます。

注 3) 絶対最大定格とは瞬時たりとも超えてはならない規格であり、どの 1 つの項目も超える事ができない規格です。
絶対最大定格を超えると、破壊や劣化の原因となり、破裂・燃焼による傷害を負うことがあります。従って、
必ず絶対最大定格を超えないように、応用機器の設計を行ってください。

はんだ濡れ性についての注意事項

試験項目	試験条件	備考
はんだ付け性	230°C 5 秒間 1 回 R タイプフラックス使用 (Sn-37Pb 鉛はんだ使用時) 245°C 5 秒間 1 回 R タイプフラックス使用 (Sn-3.0Ag-0.5Cu はんだ使用時)	フォーミングまでの半田付着率 95%を良品とする

Not Recommended for New Design

4.2 DC 電気的特性

記号	項目	最小	標準	最大	単位	条件	
DVCC3A	General I/O Power Supply Voltage (DVCC = AVCC) (DVSSCOM = AVSS = 0V)	3.0	3.3	3.6	V	X1 = 6~10MHz CPU CLK (80MHz)	XT1=30~34kHz
DVCC1A	Internal Power A	1.4	1.5	1.6	V		
DVCC1B	Internal Power B						
DVCC1C	High CLK oscillator and PLL Power						
V_{IL0}	Input Low Voltage for D0 to D7 P10 to P17 (D8 to 15), P60 to P67 P71 to P76, P90 PC4 to PC7, PF0 to PF5 PG0 to PG5, PJ5 to PJ6 PN0 to PN7, PR0 to PR3, PT0 to PT7, PX5,	-0.3	–	0.3×DVCC3A	V	3.0≦DVCC3A≦3.6	
V_{IL1}	Input Low Voltage for PV6 to PV7		–	0.3×DVCC3A		3.0≦DVCC3A≦3.6	
V_{IL2}	Input Low Voltage for P91 to P92, P96 to P97, PA0 to PA7 PC0 to PC3, PP3 to PP5, $\overline{RESET}$		–	0.25×DVCC3A		3.0≦DVCC3A≦3.6	
V_{IL3}	Input Low Voltage for AM0 to AM1		–	0.1×DVCC3A		3.0≦DVCC3A≦3.6	
V_{IL4}	Input Low Voltage for X1		–	0.1×DVCC1C		1.4≦DVCC1C≦1.6	
V_{IL5}	Input Low Voltage for XT1		–	0.15×DVCC3A		3.0≦DVCC3A≦3.6	

上記、電源範囲は同一系の電源が全て等しい条件下が前提となります。

(DVCC1A = DVCC1B = DVCC1C また DVCC3A = AVCC)

Not Recommended for New Design

記号	項目	最小	標準	最大	単位	条件
V_{IH0}	Input High Voltage for D0 to D7 P10 to P17 (D8 to 15), P60 to P67, P71 to P76, P90 PC4 to PC7, PF0 to PF5 PG0 to PG5, PJ5 to PJ6 PN0 to PN7, PR0 to PR3 PT0 to PT7, PX5	0.7×DVCC3A	–	DVCC3A + 0.3	V	3.0≦DVCC3A≦3.6
V_{IH1}	Input High Voltage for PV6 to PV7	0.7×DVCC3A	–	DVCC3A + 0.3		3.0≦DVCC3A≦3.6
V_{IH2}	Input High Voltage for P91 to P92, P96 to P97, PA0 to PA7, PC0 to PC3, PP3 to PP5, $\overline{RESET}$	0.75×DVCC3A	–	DVCC3A + 0.3		3.0≦DVCC3A≦3.6
V_{IH3}	Input High Voltage for AM0 to AM1	0.9×DVCC3A	–	DVCC3A + 0.3		3.0≦DVCC3A≦3.6
V_{IH4}	Input High Voltage for X1	0.9×DVCC1C	–	DVCC1C + 0.3		1.4≦DVCC1C≦1.6
V_{IH5}	Input High Voltage for XT1	0.85×DVCC3A	–	DVCC3A + 0.3		3.0≦DVCC3A≦3.6

Not Recommended for New Design

記号	項目	最小	標準	最大	単位	条件
V_{OL1}	Output Low Voltage1 P90 to P92, PC0 to PC3, PC7 PF0 to PF5, PK1 to PK7 PM1 to PM2, PM7 PN0 to PN7, PP3 to PP6 PV6 to PV7, PX5	–	–	0.4	V	I_{OL} = 0.5mA, 3.0≦DVCC3A
V_{OL2}	Output Low Voltage2 Except VOL1 output pin					I_{OL} = 2mA, 3.0≦DVCC3A
V_{OH1}	Output High Voltage1 P90 to P92, PC0 to PC3, PC7 PF0 to PF7, PK1 to PK7 PM1 to PM2, PM7 PN0 to PN7, PP3 to PP6 PV6 to PV7, PX5	2.4	–	–		I_{OH} = –0.5mA, 3.0≦DVCC3A
V_{OH2}	Output High Voltage2 Except VOL1 output pin	2.4	–	–	V	I_{OH} = -2mA, 3.0≦DVCC3A
I_{Mon}	Internal resistor (ON) MX, MY pins	–	–	30	Ω	V_{OL} = 0.2V V_{CC} = 3.0 to 3.6V
I_{Mon}	Internal resistor (ON) PX, PY pins	–	–	30		V_{OH}=V_{CC}–0.2V V_{CC} = 3.0 to 3.6V
I_{LI}	Input Leakage Current	–	0.02	±5	μA	0.0 ≦ V_{IN} ≦ DVCC3A
I_{LO}	Output Leakage Current	–	0.05	±10	μA	0.2 ≦ V_{IN} ≦ VCC3A-0.2V
R_{RST}	Pull Up/Down Resistor for $\overline{RESET}$, PA0 to PA7, P96	30	50	70	kΩ	
C_{IO}	Pin Capacitance	–	–	10	pF	fc=1MHz
V_{TH}	Schmitt Width for P91 to P92, P96 to P97, PA0 to PA7, PC0 to PC3, PP3 to PP5, $\overline{RESET}$	0.6	0.8	1.0	V	3.0≦DVCC3A≦3.6

注) Typ 値は特に指定のない限り Ta = 25°C、V_{CC} = 3.3 V の値です。

Not Recommended for New Design

記号	項目	最小	標準	最大	単位	条件	
I_{CC}	NORMAL (note2)	–	15	30	mA	PLL_ON f_{SYS} = 80MHz	DVCC3A = 3.6V
			37	52			DVCC1A,1B,1C = 1.6V
	IDLE2	–	0.5	1			DVCC3A = 3.6V
			20	35			DVCC1A,1B,1C = 1.6V
	NORMAL (note2)	–	12	23		PLL_ON f_{SYS} = 60MHz	DVCC3A = 3.6V
			28	39			DVCC1A,1B,1C = 1.6V
	IDLE2	–	0.4	0.8			DVCC3A = 3.6V
			15	26			DVCC1A,1B,1C = 1.6V
	IDLE1	–	12	45	μA	PLL_OFF f_{SYS} =10MHz	DVCC3A = 3.6V
			200	3200			DVCC1A,1B,1C = 1.6V
	Power Cut Mode (With PMC function)	–	6	35	μA	Ta ≦ 70°C	DVCC3A = 3.6V
				30		Ta ≦ 50°C	AVCC = 3.6V
			2	50		Ta ≦ 70°C	DVCC1A =0V DVCC1B =1.6V DVCC1C =0V XT = 32kHz X = OFF
				35		Ta ≦ 50°C	
	STOP	–	6	35		Ta ≦ 70°C	DVCC3A=3.6V
				30		Ta ≦ 50°C	AVCC=3.6V
			200	800		Ta ≦ 70°C	DVCC1A =1.6V DVCC1B =1.6V DVCC1C =1.6V XT= OFF X = OFF
				600		Ta ≦ 50°C	

注 1) Typ 値は特に指定のない限り Ta = 25°C、DVCC3A = 3.3 V, DVCC1A,1B,1C = 1.5V の値です。

注 2) I_{CC} の測定条件: バス端子の CL = 50pF、バス以外の出力端子は開放、入力端子はレベル固定
(外部メモリに 8-wait アクセスで動作している状態)

注 3) 消費電流測定は、外部 16bit バスアクセスでのデータです。

Not Recommended for New Design

4.3 AC電気的特性

以下に示す、すべての AC 規定は、特に指定の無い限り下記の条件下での測定結果となります。

AC 測定条件

- 表中の最上段のクロックは、システムクロック周波数を示し、表中の計算式に使われる "T" はシステムクロックの周期 [ns] を示しています。
- 出力レベル: High = 0.7×DVCC3A, Low = 0.3×DVCC3A
- 入力レベル: High = 0.9×DVCC3A, Low = 0.1×DVCC3A

注) 表中の "計算式" は DVCC3A=3.0V~3.6V、DVCC1A=DVCC1B=DVCC1C=1.4~1.6V の範囲での規定を示します。

4.3.1 基本バスサイクル

リードサイクル

No.	項目	記号	計算式 Min	計算式 Max	80 MHz	60 MHz	単位
1	発振周期(X1/X2)	t_{OSC}	100	166.6	–	–	ns
2	システムクロック周期(= T)	t_{CYC}	12.5	2666	12.5	16.6	
3	SDCLK 低レベルパルス幅	t_{CL}	0.5T–3		3.25	5.3	
4	SDCLK 高レベルパルス幅	t_{CH}	0.5T–3		3.25	5.3	
5-1	A0 ~ A23 有効 → D0 ~ D15 入力@ 0 ウェイト	t_{AD}		2.0T–18.0	7	15.3	
5-2	A0 ~ A23 有効 → D0 ~ D15 入力 @4 ウェイト／6 ウェイト	t_{AD4}		6.0T–18.0	57	82	
		t_{AD6}		8.0T–18.0	82	115	
6-1	$\overline{RD}$ 立ち下がり → D0 ~ D15 入力@ 0 ウェイト	t_{RD}		1.5T–18.0	0.75	7	
6-2	$\overline{RD}$ 立ち下がり → D0 ~ D15 入力 @ 4 ウェイト／6 ウェイト	t_{RD4}		5.5T–18.0	50.75	73.6	
		t_{RD6}		7.5T–18.0	75.75	106.5	
7-1	$\overline{RD}$ 低レベルパルス幅 @0 ウェイト	t_{RR}	1.5T–10		8.75	14.9	
7-2	$\overline{RD}$ 低レベルパルス幅 @ 4 ウェイト／6 ウェイト	t_{RR4}	5.5T–10		58.75	81.3	
		t_{RR6}	7.5T–10		83.75	114.5	
8	A0 ~ A23 有効 → $\overline{RD}$ 立ち下がり	t_{AR}	0.5T–5		1.25	3.3	
9	$\overline{RD}$ 立ち下がり → SDCLK 立ち上り	t_{RK}	0.5T–5		1.25	3.3	
10	A0 ~ A23 有効 → D0 ~ D15 保持	t_{HA}	0		0	0	
11	$\overline{RD}$ 立ち上がり → D0 ~ D15 保持	t_{HR}	0		0	0	
12	$\overline{WAIT}$ セットアップ時間	t_{TK}	20		20	20	
13	$\overline{WAIT}$ ホールド時間	t_{KT}	2		2	2	
14-1	SRAM 用データバイト制御アクセス時間 @ 0 ウェイト	t_{SBA}		1.5T –18.0	0.75	7	
14-2	SRAM 用データバイト制御アクセス時間 @ 4 ウェイト／6 ウェイト	t_{SBA4}		5.5T –18.0	50.75	73.6	
		t_{SBA6}		7.5T –18.0	75.75	107.0	
15	$\overline{RD}$ 高レベルパルス幅	t_{RRH}	0.5T–5		1.25	3.3	

AC 測定条件

- Data_bus、Address_bus、各種制御信号の付加容量 C_L = 50pF

Not Recommended for New Design

ライトサイクル

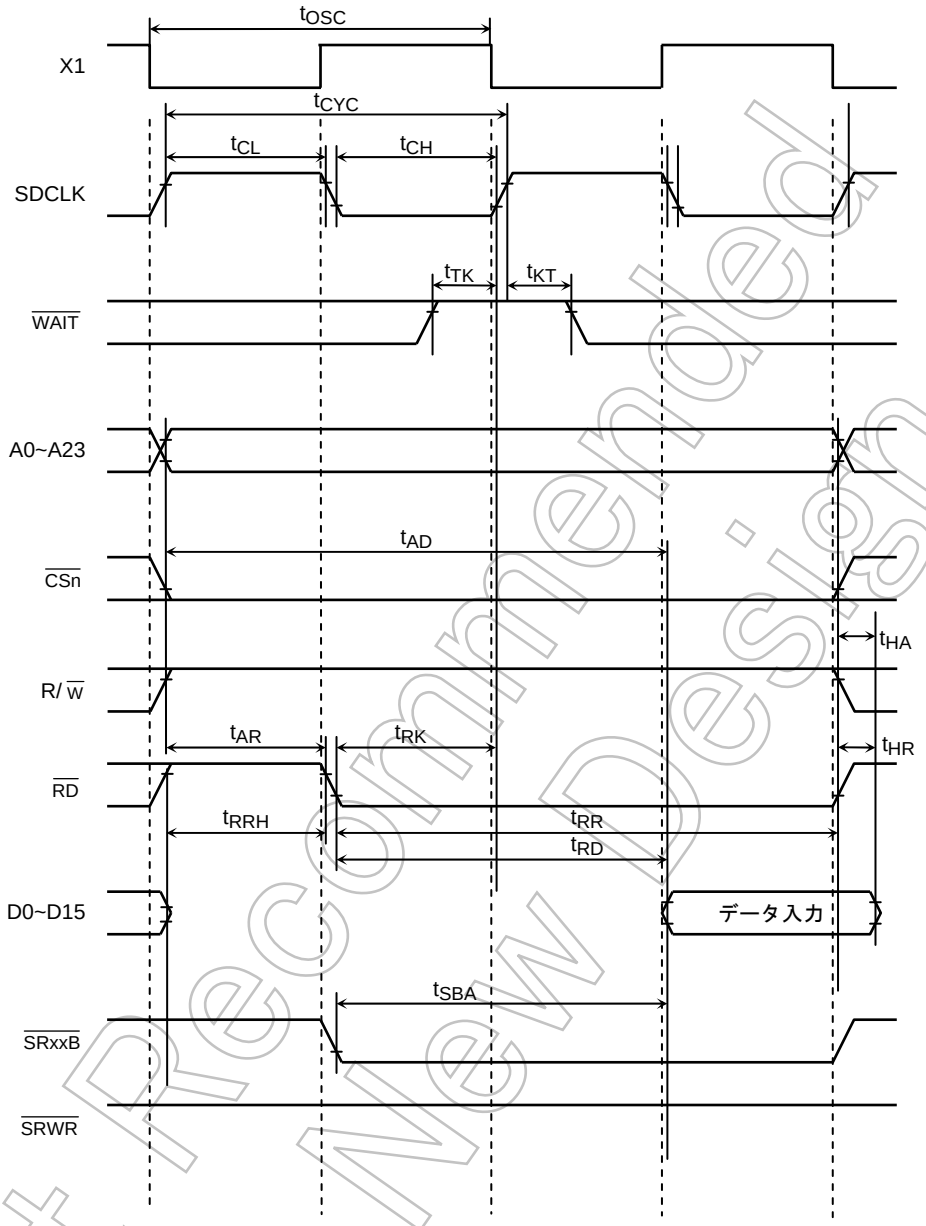
No.	項目	記号	計算式 Min	計算式 Max	80MHz	60MHz	単位
16-1	D0 ~ D15 有効 → $\overline{WR}$ xx 立ち上がり @0 ウェイト	t_{DW}	1.0T – 6.0		6.5	10.6	ns
16-2	D0 ~ D15 有効 → $\overline{WR}$ xx 立ち上がり @ 2 ウェイト／4 ウェイト	t_{DW2}	3.0T – 6.0		31.5	43.8	
		t_{DW4}	5.0T – 6.0		56.5	77.0	
17-1	$\overline{WR}$ xx 低レベルパルス幅@0 ウェイト	t_{WW}	1.0T – 4.0		8.5	12.6	
17-2	$\overline{WR}$ xx 低レベルパルス幅 @ 2 ウェイト／4 ウェイト	t_{WW2}	3.0T – 4.0		33.5	45.8	
		t_{WW4}	5.0T – 4.0		58.5	79.0	
18	A0 ~ A23 有効 → $\overline{WR}$ 立ち下がり	t_{AW}	0.5T – 5.0		1.25	3.3	
19	$\overline{WR}$ xx 立ち下がり → SDCLK 立ち上がり	t_{WK}	0.5T – 5.0		1.25	3.3	
20	$\overline{WR}$ xx 立ち上がり → A0 ~ A23 保持	t_{WA}	0.5T – 5.0		1.25	3.3	
21	$\overline{WR}$ xx 立ち上がり → D0 ~ D15 保持	t_{WD}	0.5T – 5.0		1.25	3.3	
22	$\overline{RD}$ 立ち上がり → D0 ~ D15 出力	t_{RDO}	0.5T – 1.0		5.25	7.3	
23-1	SRAM 用ライトパルス幅@ 0 ウェイト	t_{SWP}	1.0T – 4.0		8.5	12.6	
23-2	SRAM 用ライトパルス幅 @ 2 ウェイト／4 ウェイト	t_{SWP2}	3.0T – 4.0		33.5	45.8	
		t_{SWP4}	5.0T – 4.0		58.5	79.0	
24-1	SRAM データバイト制御 ~ ライト 終了時間@ 0 ウェイト	t_{SBW}	1.0T – 4.0		8.5	12.6	
24-2	SRAM データバイト制御 ~ ライト 終了時間@ 2 ウェイト／4 ウェイト	t_{SBW2}	3.0T – 4.0		33.5	45.8	
		t_{SBW4}	5.0T – 4.0		58.5	79.0	
25	SRAM 用アドレスセットアップ時間	t_{SAS}	0.5T – 5.0		1.25	3.3	
26	SRAM 用ライトリカバリ時間	t_{SWR}	0.5T – 5.0		1.25	3.3	
27-1	SRAM 用データセットアップ時間 @ 0 ウェイト	t_{SDS}	1.0T – 6.0		6.5	10.6	
27-2	SRAM 用データセットアップ時間 @2 ウェイト／4 ウェイト	t_{SDS2}	3.0T – 6.0		31.5	43.8	
		t_{SDS4}	5.0T – 6.0		56.5	77.0	
28	SRAM 用データ保持時間	t_{SDH}	0.5T – 5.0		1.25	3.3	

AC 測定条件

- Data_bus、Address_bus、各種制御信号の付加容量 $C_L = 50$ pF

Not Recommended for New Design

(1) リードサイクル (0 ウェイト)

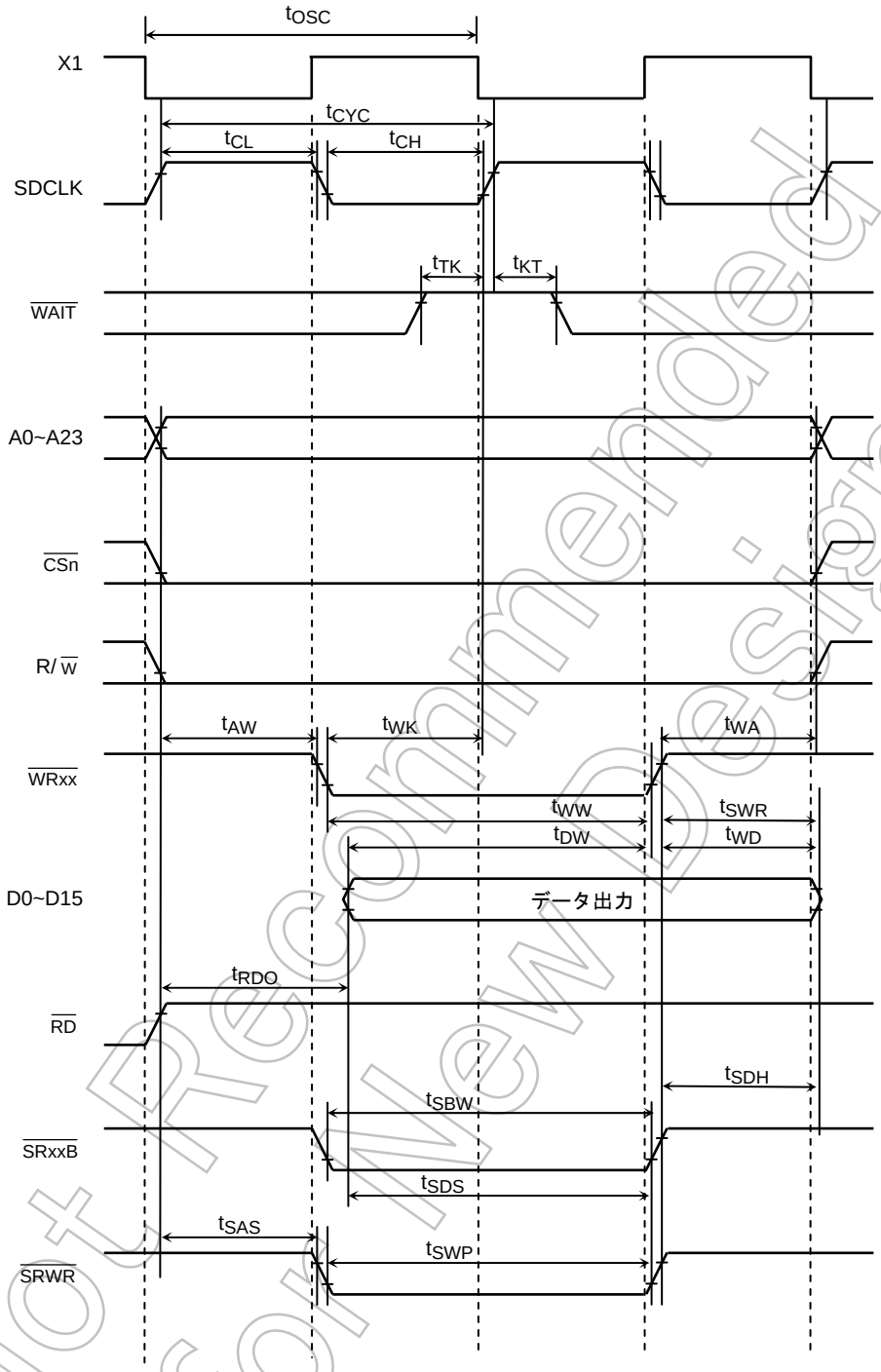


注 1) X1 入力信号と他の信号間の位相関係は不定です。

注 2) 上記のタイミングチャートは基準バスタイミングの一例を示します。また、CSn 、R/W 、RD 、WRxx 、SRxxB 、SRWR 端子のタイミングはメモリコントローラのタイミング調整機能により調整可能です。

Not Recommended for New Design

(2) ライトサイクル (0 ウェイト)

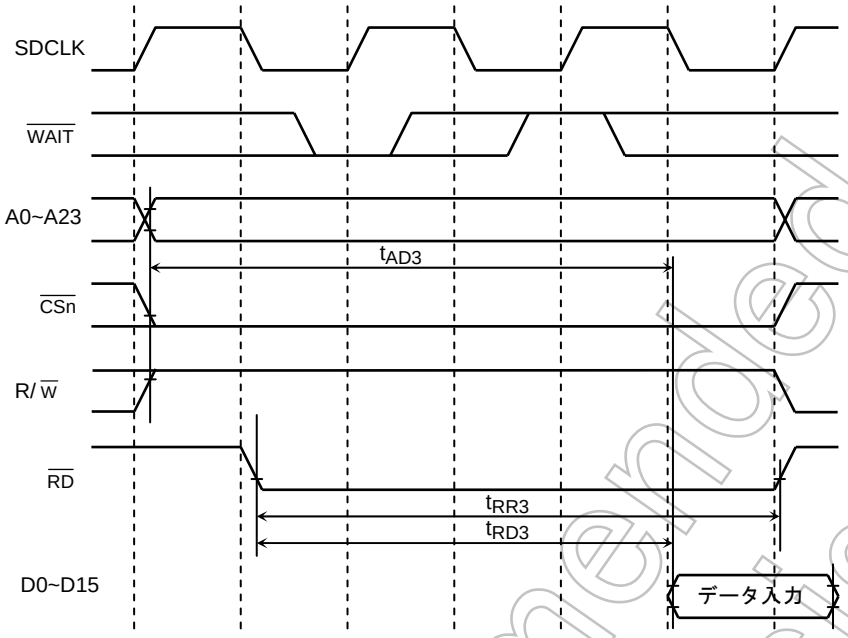


注 1) X1 入力信号と他の信号間の位相関係は不定です。

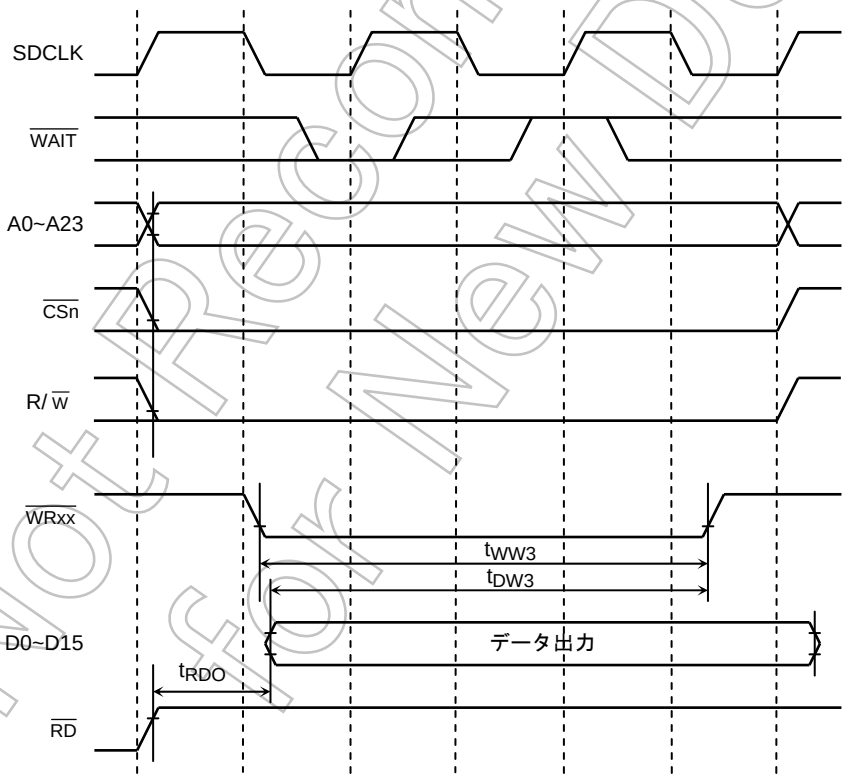
注 2) 上記のタイミングチャートは基準バスタイミングの一例を示します。また、CSn 、R/W 、RD 、WRxx 、SRxxB 、SRWR 端子のタイミングはメモリコントローラのタイミング調整機能により調整可能です。

Not Recommended for New Design

(3) リードサイクル (1 ウェイト)



(4) ライトサイクル (1 ウェイト)



Not Recommended for New Design

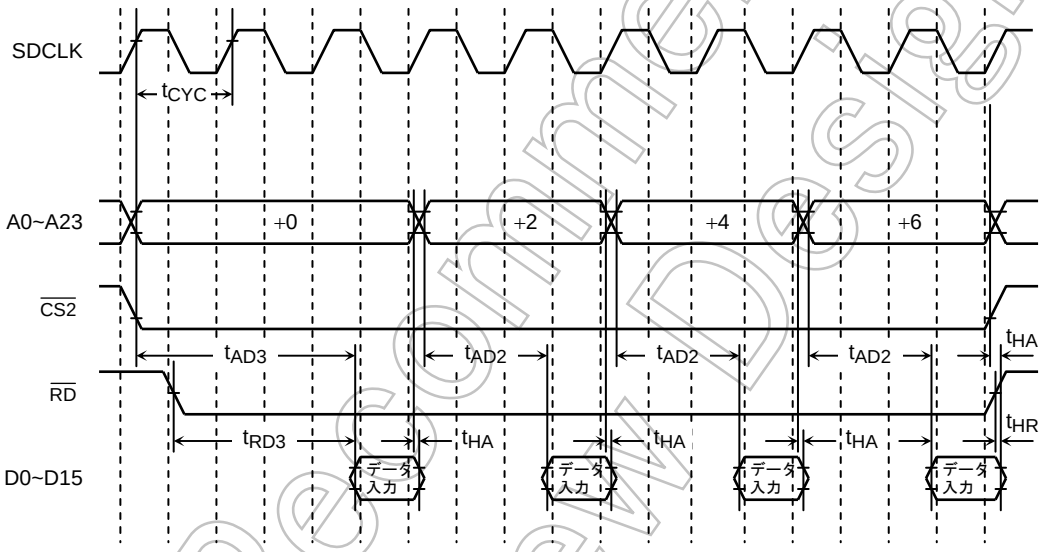
4.3.2 ページROM リードサイクル

(1) 3-2-2-2 モード

No.	項目	記号	計算式		80 MHz	60 MHz	単位
			Min	Max			
1	システムクロック周期 (=T)	t_{CYC}	12.5	2666	12.5	16.6	ns
2	A0, A1 → D0 ~ D15 入力	t_{AD2}		2.0T−18	7	15.2	
3	A2 ~ A23 → D0 ~ D15 入力	t_{AD3}		3.0T−18	19.5	31.8	
4	$\overline{RD}$ 立ち下がり → D0 ~ D15 入力	t_{RD3}		2.5T−18	13	24	
5	A0 ~ A23 無効 → D0 ~ D15 保持	t_{HA}	0		0	0	
6	$\overline{RD}$ 立ち上がり → D0 ~ D15 保持	t_{HR}	0		0	0	

AC 測定条件

注) 上記表の“記号”の(a), (b), (c)は、メモリコントローラ内の MEMCR0<RDTMG1:0>レジスタの設定により $\overline{RD}$ 端子の立ち下がりタイミングが異なった場合の値です。MEMCR0<RDTMG1:0>が “00”, “01”, “10”のそれぞれに(a), (b), (c)が対応します。



タイミングパルス図 (8 バイト設定例)

Not Recommended for New Design

4.3.3 SDRAMコントローラAC電気的特性

No.	項目		記号	計算式 Min	計算式 Max	80 MHz	60 MHz	単位
1	Ref/Active to ref/active command period	<STRC[2:0]>= “000”	t_{RC}	T		12.5	16.6	ns
		<STRC[2:0]>= “110”		7T		87.5	116.2	
2	Active to precharge command period	<STRC[2:0]>= “000”	t_{RAS}	2T (注 1)		25.0	33.2	
		<STRC[2:0]>= “110”		7T		87.5	116.2	
3	Active to read/write command delay time	<STRCD>= “0”	t_{RCD}	T		12.5	16.6	
		<STRCD>= “1”		2T		25.0	33.2	
4	Precharge to active command period	<STRP>= “0“	t_{RP}	T		12.5	16.6	
		<STRP>= “1”		2T		25.0	33.2	
5	Active to active command period	<STRC[2:0]>= “000”	t_{RRD}	3T (注 2)		37.5	49.8	
		<STRC[2:0]>= “110”		7T		87.5	116.2	
6	Write recovery time	<STWR>= “0”	t_{WR}	T		12.5	16.6	
		<STWR>= “1”		2T		25.0	33.2	
7	CLK cycle time		t_{CK}	T		12.5	16.6	
8	CLK high level width		t_{CH}	0.5T – 3		3.25	5.3	
9	CLK low level width		t_{CL}	0.5T – 3		3.25	5.3	
10-1	Access time from CLK(CL* =2) <SRDS>= “0”(リードデータシフト OFF)		t_{AC}		T – 16	-3.5	0.6	
10-2	Access time from CLK(CL* =2) <SRDS>= “1”(リードデータシフト ON)		t_{AC}		T – 6.5	6	10.1	
11	Data hold time from internal read		t_{HR}	0		0	0	
12	Data set-up time	1Word/Single	t_{DS}	0.5T – 4		2.25	4.3	
		Burst	t_{DS}	0.5T – 4		2.25	4.3	
13	Data hold time	1Word/Single	t_{DH}	T – 10		2.5	6.6	
		Burst	t_{DH}	0.5T – 4		2.25	4.3	
14	Address set-up time		t_{AS}	0.5T – 4		2.25	4.3	
15	Address hold time		t_{AH}	0.5T – 4		2.25	4.3	
16	CKE set-up time		t_{CKS}	0.5T – 3		3.25	5.3	
17	Command set-up time		t_{CMS}	0.5T – 3		3.25	5.3	
18	Command hold time		t_{CMH}	0.5T – 4		2.25	4.3	
19	Mode register set cycle time		t_{RSC}	T		12.5	16.6	

*CL は CAS レイテンシイを示しています。

AC 測定条件

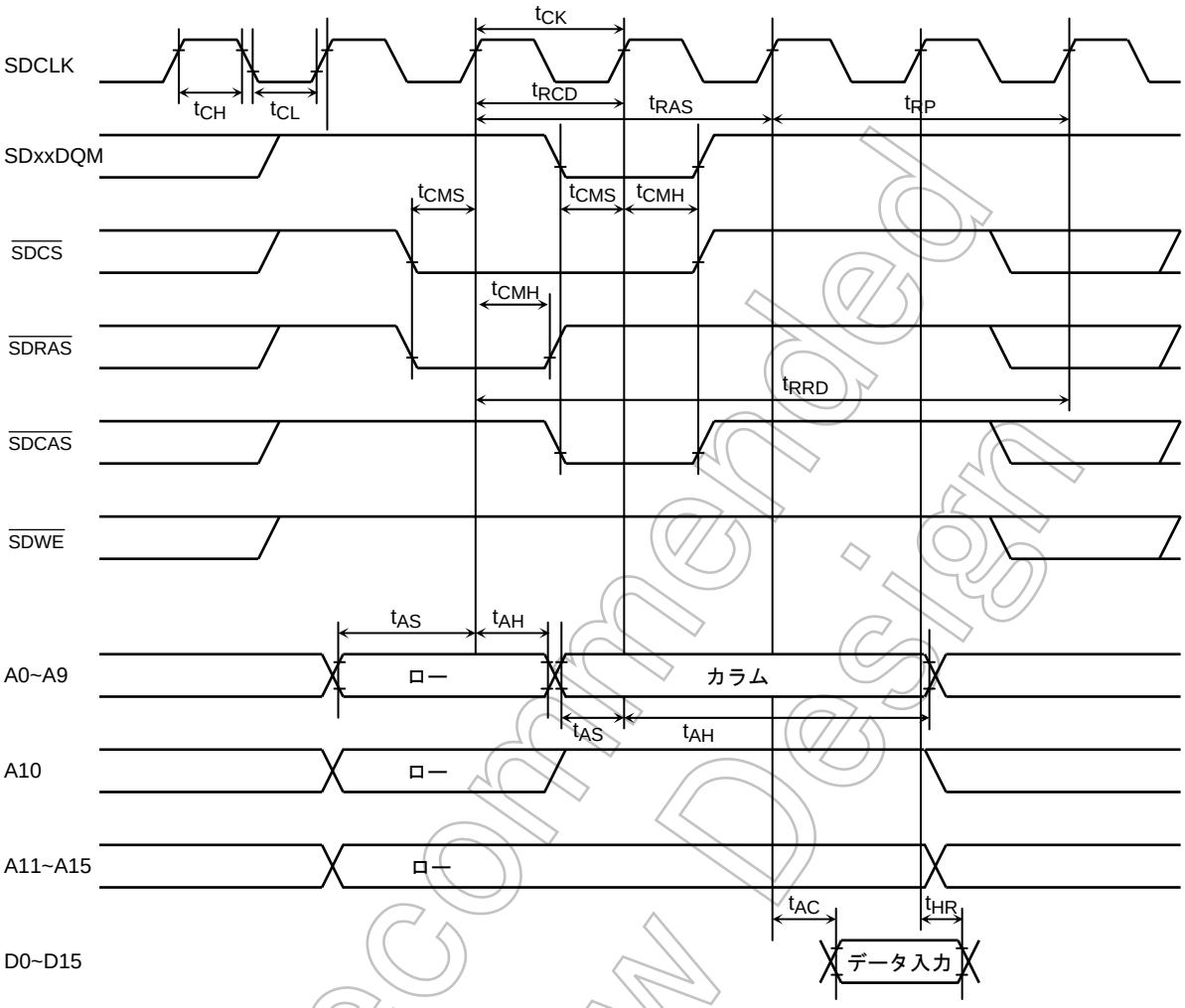
- SDCLK 端子の付加容量 $C_L = 30$ pF、その他の端子の付加容量 $C_L = 50$ pF

注 1) “Active to pre-charge command period” の最小サイクルついては、SDCISR<STRC[2:0]>= “000”設定でも “001” 設定と同じく READ/WRITE + PRECHARGE サイクル発生のため 2T (2 クロック)になります。上記以外の設定値の場合、 レジスタ設定値+1 のクロック数になります(ex. “010”であれば、3 クロック)。

注 2) “Active to active command period” の最小サイクルについては、SDCISR<STRC[2:0]>= “000”設定でも “001”, “010”設定と同じく READ/WRITE + PRECHARGE + ACTIVE サイクル発生のため 3T (3 クロック)になります。上記以外の設定値の場合、 レジスタ設定値+1 のクロック数になります(ex. “011”であれば、4 クロック)。

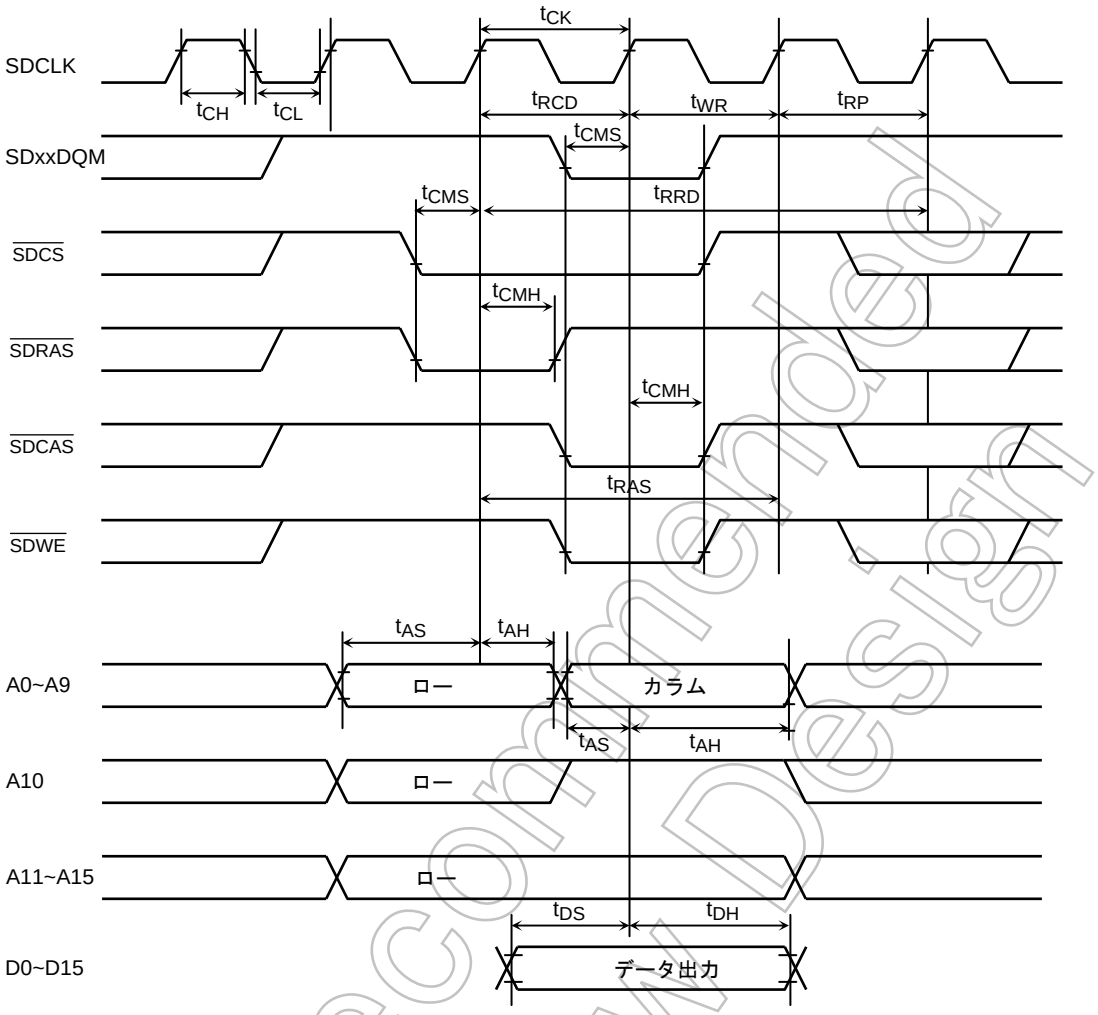
Not Recommended for New Design

(1) SDRAM リードタイミング (1Word 長リードモード、<SPRE>= “1”)



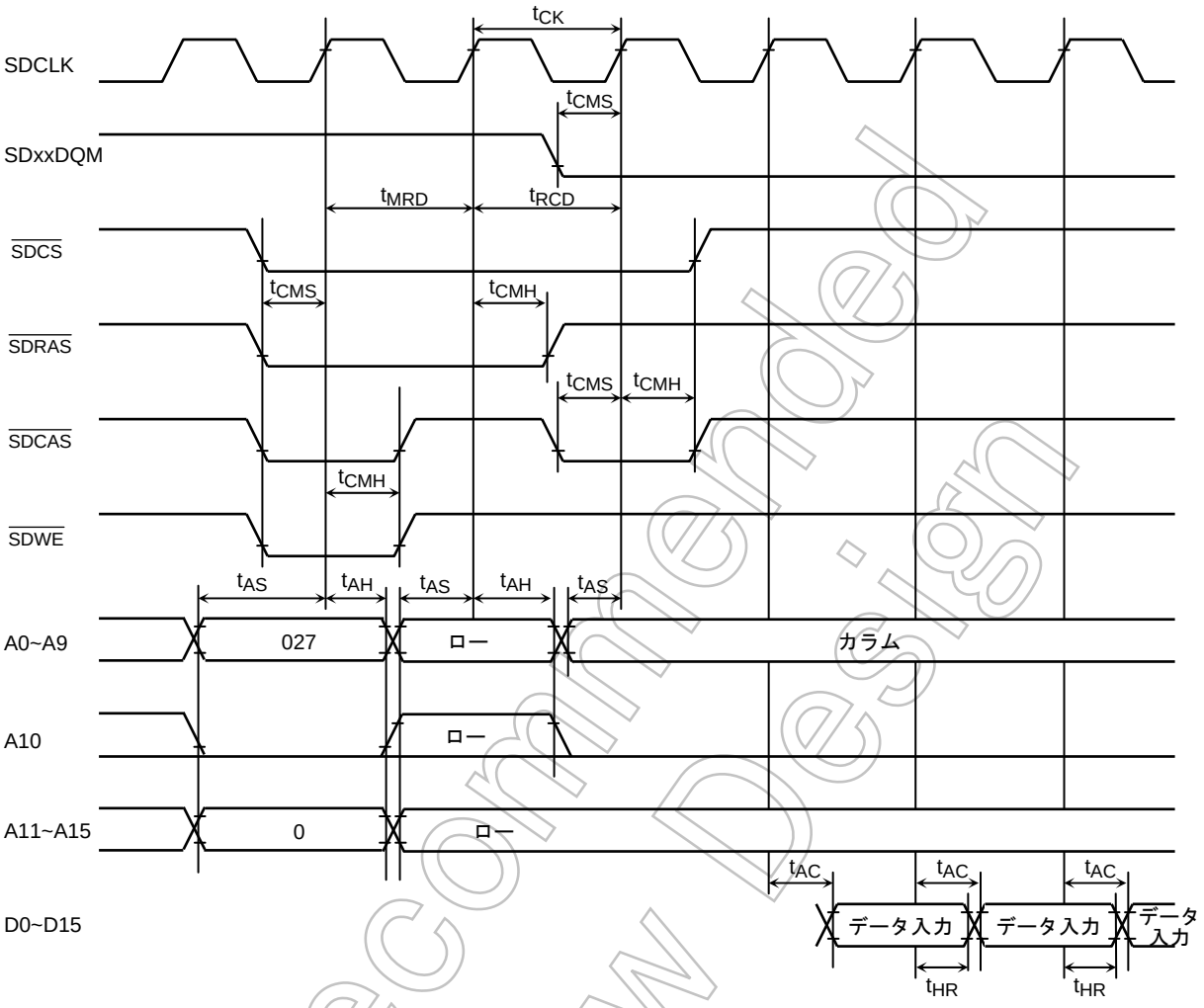
Not Recommended for New Design

(2) SDRAM ライトタイミング (Single ライトモード,<SPRE>= “1”)



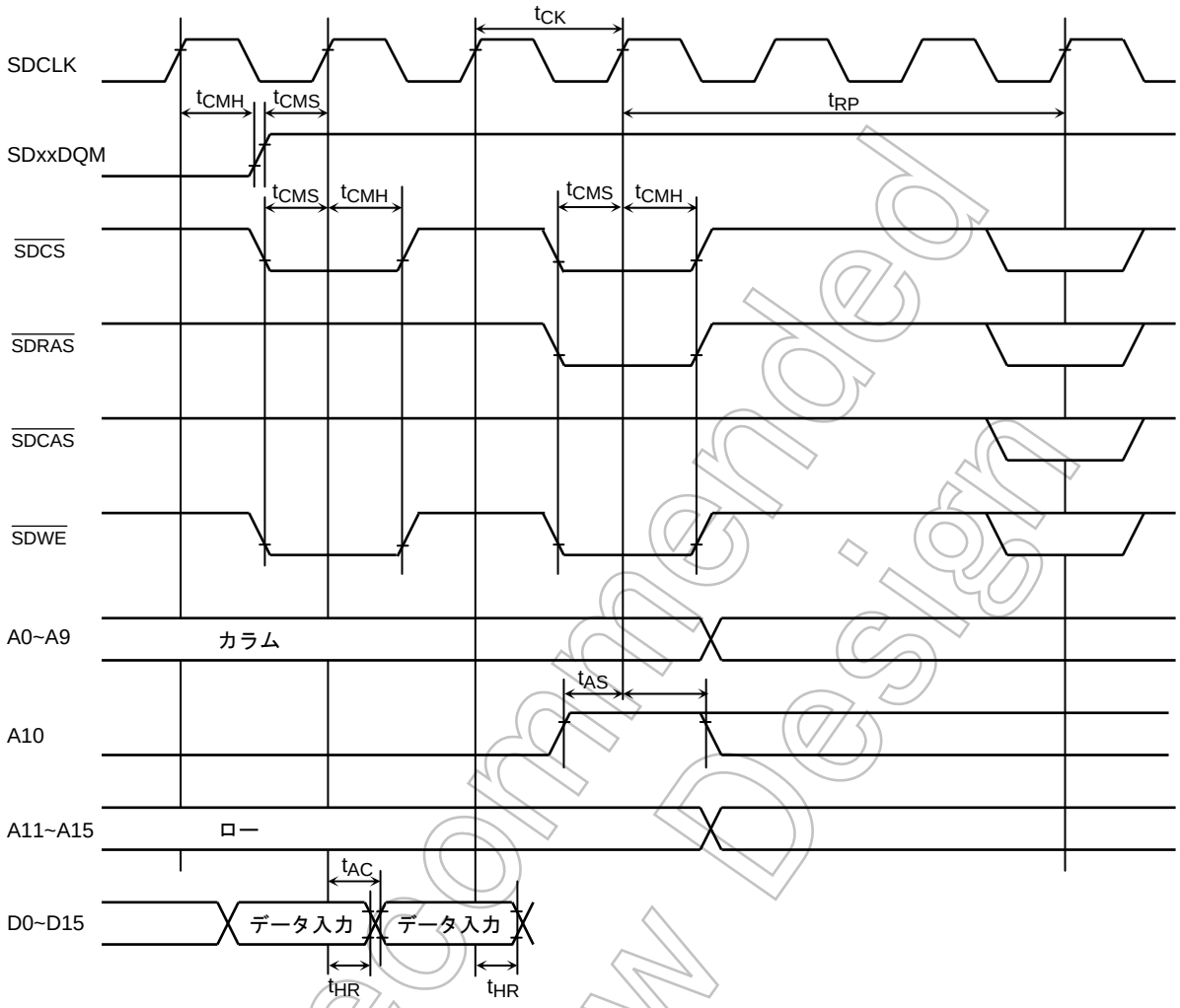
Not Recommended for New Design

(3) SDRAM バーストリードタイミング (バーストサイクル開始)



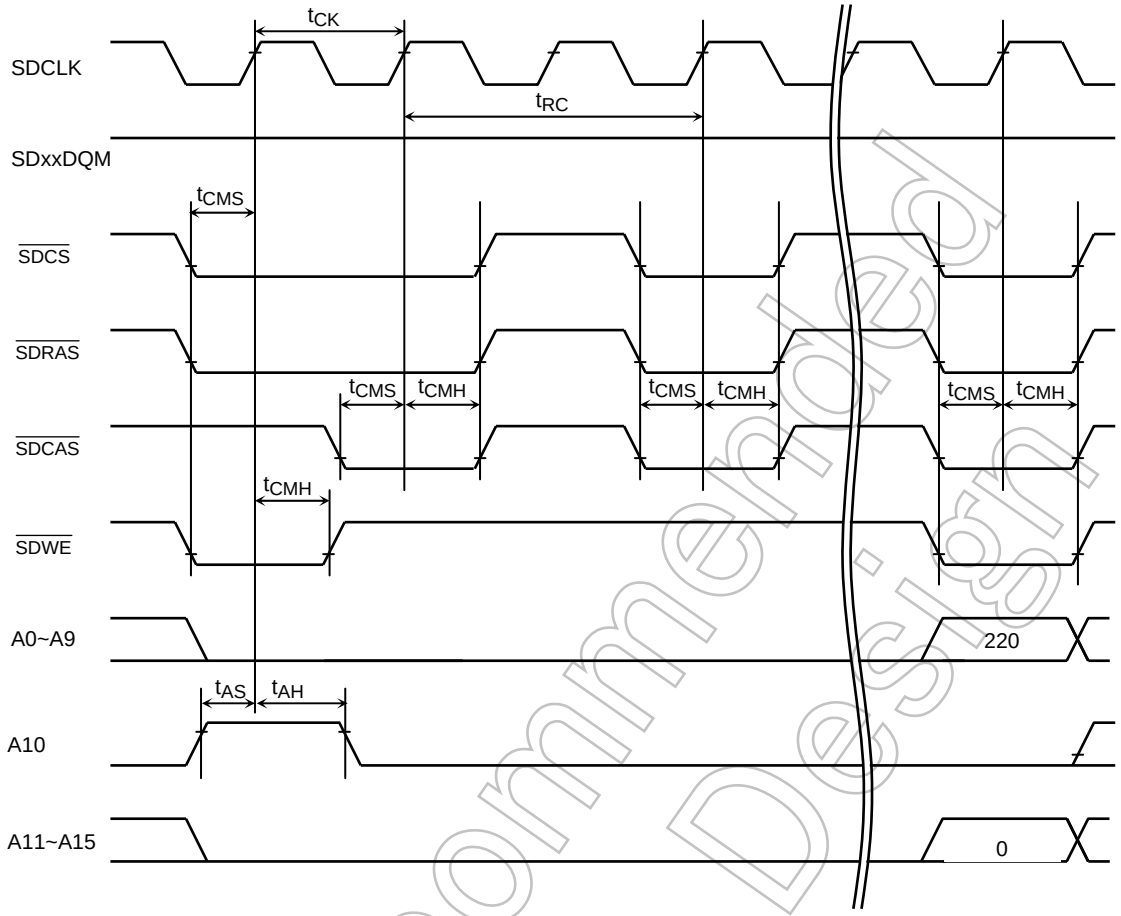
Not Recommended for New Design

(4) SDRAM バーストリードタイミング (バーストタイミング終了)



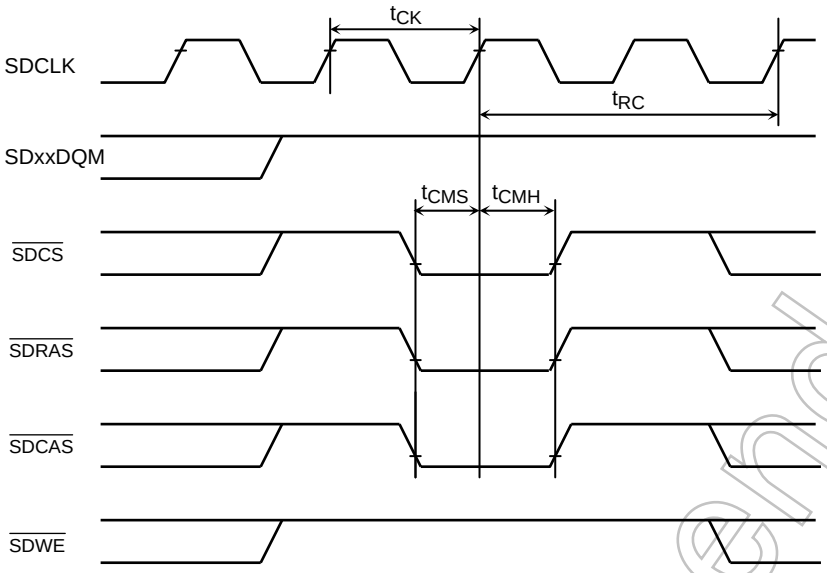
Not Recommended for New Design

(5) SDRAM 初期化タイミング

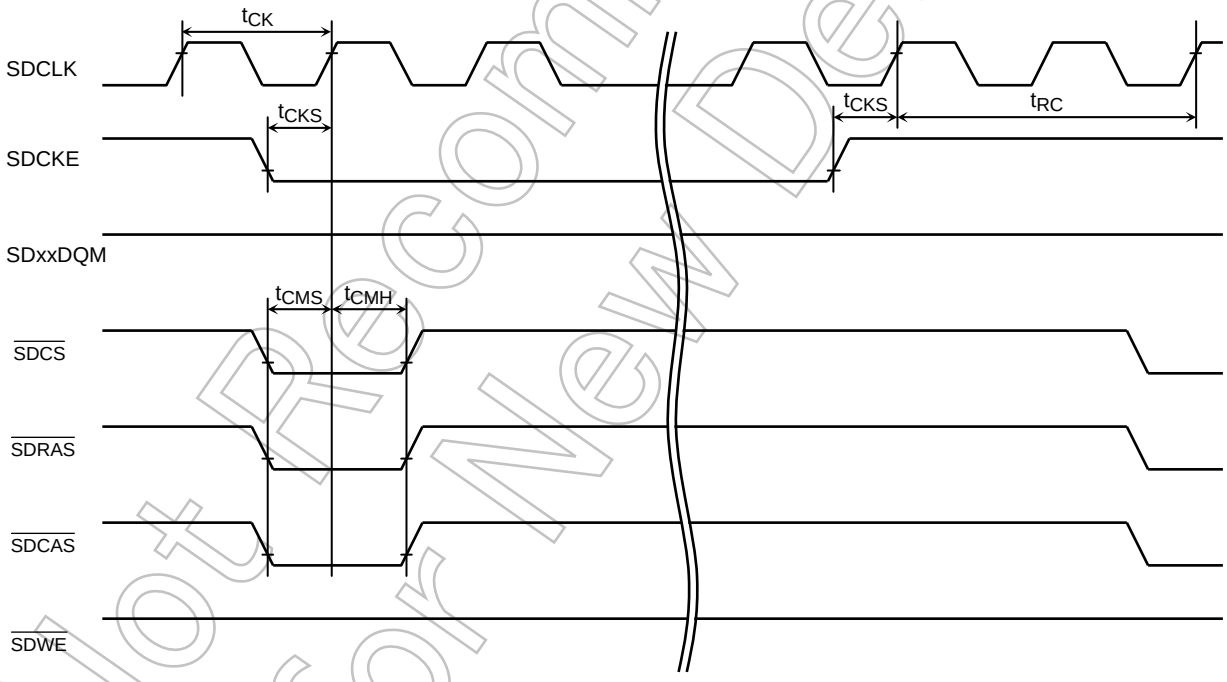


Not Recommended for New Design

(6) SDRAM リフレッシュタイミング



(7) SDRAM セルフリフレッシュタイミング



Not Recommended for New Design

4.3.4 NANDフラッシュコントローラAC電気的特性

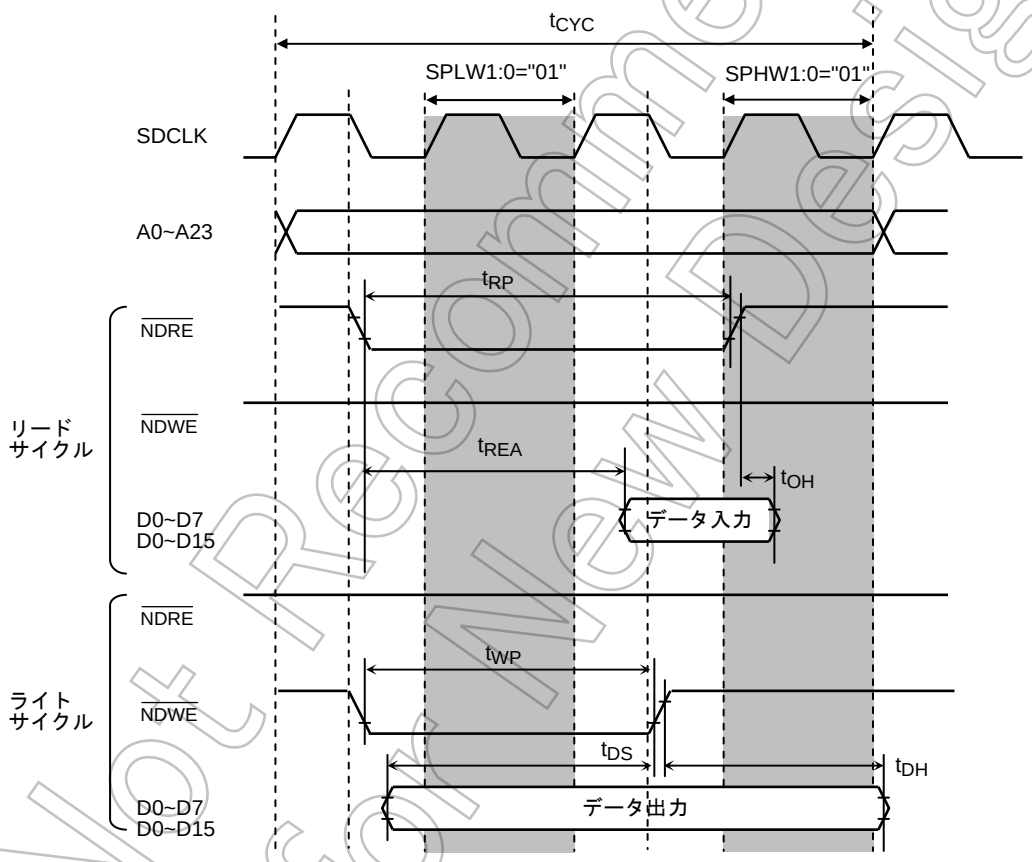
No.	記号	項目	計算式		80 MHz (n=3) (m=3)	60 MHz (n=3) (m=3)	単位
			Min	Max			
1	t_{NC}	アクセスサイクル	(2 + n + m) T		100	132	ns
2	t_{RP}	$\overline{NDRE}$ 低レベルパルス幅	(1.5 + n) T–12		45	63	
3	t_{REA}	$\overline{NDRE}$ データアクセス時間		(1.5 + n) T–15	41	60	
4	t_{OH}	リードデータ保持時間	0		0	0	
5	t_{WP}	$\overline{NDWE}$ 低レベルパルス幅	(1.0 + n) T–20		30	47	
6	t_{DS}	ライトデータセットアップ時間	(1.0 + n) T–20		30	47	
7	t_{DH}	ライトデータ保持時間	(0.5 + m) T–2		42	56	

AC 測定条件

注) 計算式中の n は NDFMCR0<SPLW1:0>に設定された値を示し、m は NDFMCR0<SPHW1:0>に設定された値を示します。

例) NDFMCR0<SPLW1:0> = “01” のとき、n=1, t_{RP} = (1.5 + n) T − 12 = 2.5T − 12

上記計算式で、結果がマイナスになる設定は使用できませんので注意してください。



Not Recommended for New Design

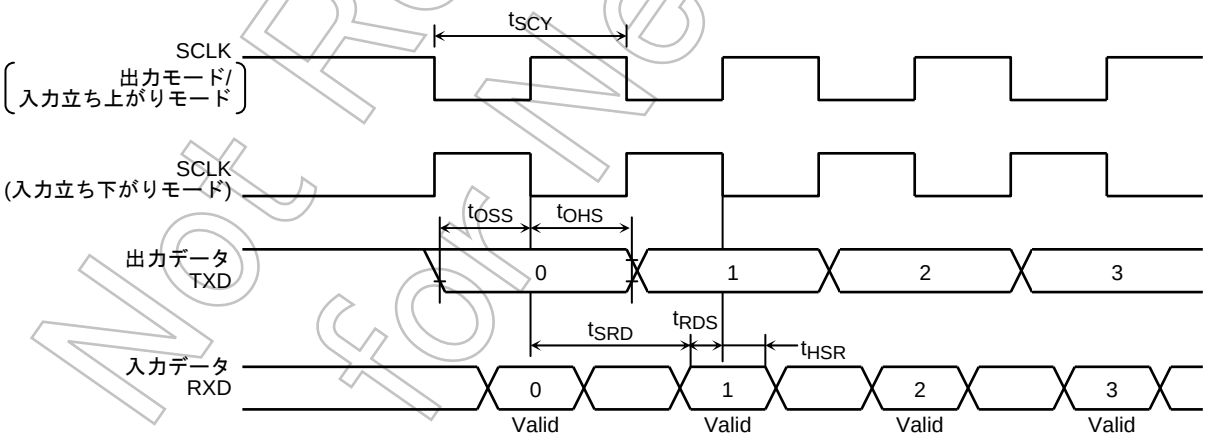
4.3.5 シリアルチャネルタイミング

(1) SCLK 入力モード (I/O インタフェースモード)

項目	記号	計算式		80 MHz	60 MHz	単位
		Min	Max			
SCLK 周期	t_{SCY}	16T		200	266	ns
出力データ→ SCLK 立ち上がり/立ち下がり	t_{OSS}	$t_{SCY}/2 - 4T - 30$		20	36.4	
SCLK 立ち上がり/立ち下がり→ 出力データ保持	t_{OHS}	$t_{SCY}/2 + 2T - 20$		105	146	
SCLK 立ち上がり/立ち下がり→ 入力データ保持	t_{HSR}	$2T + 10$		35	43	
SCLK 立ち上がり/立ち下がり→ 入力データ有効	t_{SRD}		$t_{SCY} - 20$	180	246	
入力データ有効 → SCLK 立ち上がり/立ち下がり	t_{RDS}	20		20	20	

(2) SCLK 出力モード (I/O インタフェースモード)

項目	記号	計算式		80 MHz	60 MHz	単位
		Min	Max			
SCLK 周期 (プログラマブル)	t_{SCY}	16T	8192T	200	266	ns
出力データ → SCLK 立ち上がり/立ち下がり	t_{OSS}	$t_{SCY}/2 - 40$		60	93	
SCLK 立ち上がり/立ち下がり → 出力データ保持	t_{OHS}	$t_{SCY}/2 - 40$		60	93	
SCLK 立ち上がり/立ち下がり →入力データ保持	t_{HSR}	0		0	0	
SCLK 立ち上がり/立ち下がり → 入力データ有効	t_{SRD}		$t_{SCY} - 1T - 50$	137.5	199	
入力データ有効 → SCLK 立ち上がり/立ち下がり	t_{RDS}	$1T + 50$		62.5	66	



Not Recommended for New Design

4.3.6 タイマ入力パルス(TA0IN,TA2IN,TB0IN0,TB1IN0)

項目	記号	計算式		80MHz	60MHz	単位
		Min	Max			
クロックサイクル	t_{VCK}	8T+100		200	234	ns
低レベルパルス幅	t_{VCKL}	4T + 40		90	107	
高レベルパルス幅	t_{VCKH}	4T + 40		90	107	

4.3.7 割り込み動作

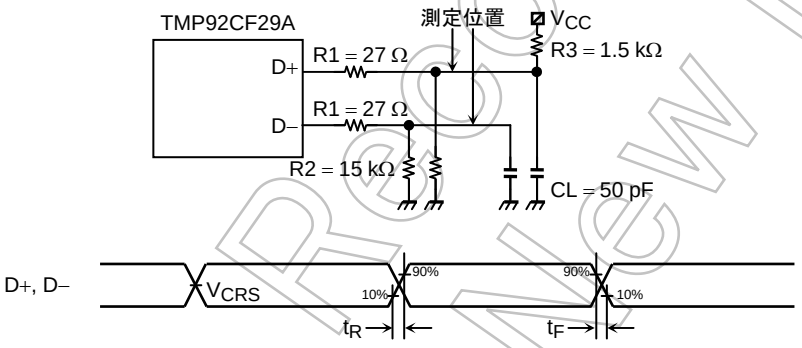
項目	記号	計算式		80MHz	60MHz	単位
		Min	Max			
INT0~INT7 低レベルパルス幅	t_{INTAL}	2T + 40		65	74	ns
INT0~INT7 高レベルパルス幅	t_{INTAH}	2T + 40		65	74	

4.3.8 USBタイミング (フルスピード)

DVCC3A = 3.3 ± 0.3 V / f_{USB} = 48 MHz

項目	記号	Min	Max	単位
D+, D−立ち上がり時間	t_R	4	20	ns
D+, D−立ち下がり時間	t_F	4	20	
出力信号交差電圧	V_{CRS}	1.3	2.0	V

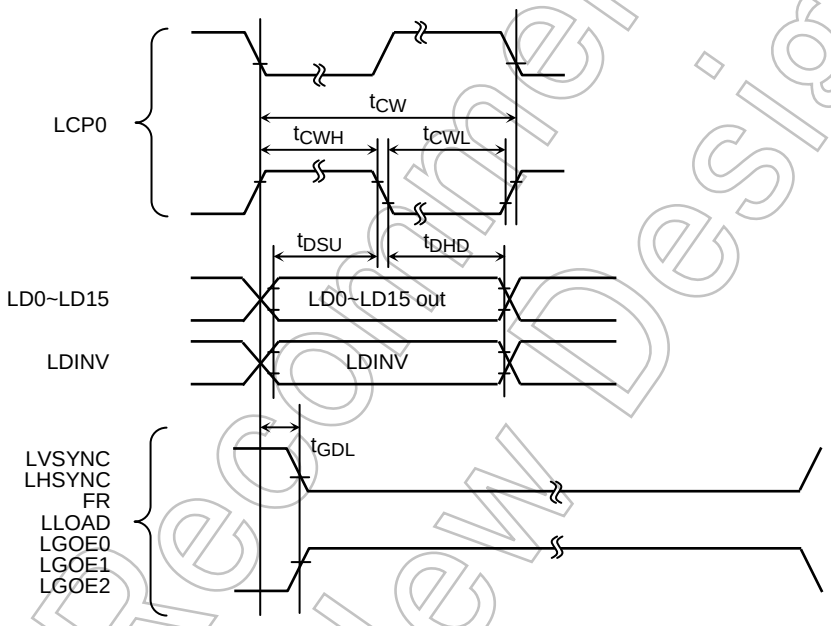
AC 測定条件



Not Recommended for New Design

4.3.9 LCDコントローラ

項目	記号	計算式		80MHz (n=0)	60MHz (n=0)	単位
		Min	Max			
LCP0 クロック周期	t_{CW}	2T(n+1)		25	33.3	ns
LCP0 高レベルパルス幅 (位相反転時も含む)	t_{CWH}	T(n+1) – 5		7.5	11.6	
LCP0 低レベルパルス幅 (位相反転時も含む)	t_{CWL}	T(n+1) – 5		7.5	11.6	
データ有効 → LCP0 立ち下がり (位相反転時も含む)	t_{DSU}	T(n+1) – 7.5		5	9.1	
LCP0 立ち下がり → データ保持 (位相反転時も含む)	t_{DHD}	T(n+1) – 7.5		5	9.1	
LCP0 基準変化点からの信号遅れ (位相反転時も含む)	t_{GDL}	-15	15	±15	±15	



AC 測定条件

- CL = 50 pF(LCP0 のみ CL = 30 pF)

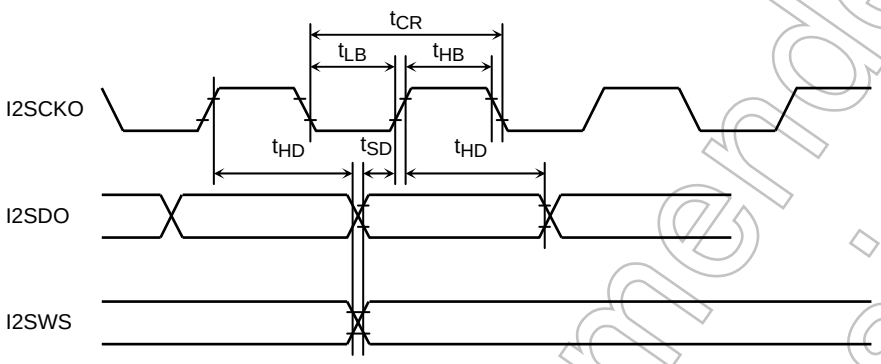
注) 計算式中の n は LCDMODE0<SCPW1:0>に設定された値を示します。

例) LCDMODE0<SCPW1:0> = "01" のとき、n = 1, t_{RWP} = 2T(n+1) = 2T

Not Recommended for New Design

4.3.10 I²Sタイミング

項目	記号	計算式		80MHz	60MHz	単位
		Min	Max			
I2SCKO クロック周期	t_{CR}	t_{IC}		100	100	ns
I2SCKO 高レベルパルス幅	t_{HB}	$0.5\ t_{CR} - 15$		35	35	
I2SCKO 低レベルパルス幅	t_{LB}	$0.5\ t_{CR} - 15$		35	35	
I2SDO, I2SWS セットアップ時間	t_{SD}	$0.5\ t_{CR} - 15$		35	35	
I2SDO, I2SWS 保持時間	t_{HD}	$0.5\ t_{CR} - 8$		42	42	



注) I²S 回路の I2SCKO の最大動作周波数は 10MHz です。システムクロックが高速の場合でも、I2SCKO が 10MHz を超える設定はしないでください。

AC 測定条件

- I2SCKO、I2SDO、I2SWS 端子の付加容量は、CL=30pF

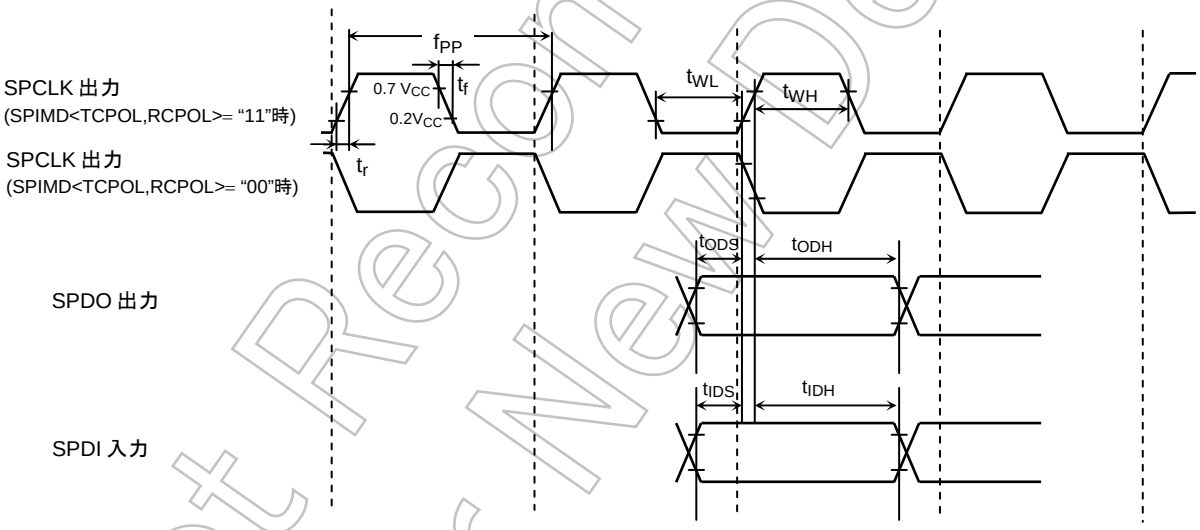
Not Recommended for New Design

4.3.11 SPIコントローラ

項目	記号	計算式		80MHz	60MHz	単位
		Min	Max			
SPCLK 周波数 (= 1/S)	f_{PP}		20	20	15	MHz
SPCLK 立ち上がり時間	t_r		6	6	6	ns
SPCLK 立ち下がり時間	t_f		6	6	6	
SPCLK 低レベルパルス幅	t_{WL}	0.5S – 6		19	28	
SPCLK 高レベルパルス幅	t_{WH}	0.5S – 6		19	28	
出力データ有効 → SPCLK 立ち上がり/立下り	t_{ODS}	0.5S – 18		7	15	
SPCLK 立ち上がり/立ち下がり → 出力データ保持	t_{ODH}	0.5S – 10		15	23.4	
入力データ有効 → SPCLK 立ち上がり/立ち下がり	t_{IDS}	5		5	5	
SPCLK 立ち上がり/立ち下がり → 入力データ保持	t_{IDH}	5		5	5	

AC 測定条件

- 表中の最上段のクロックはシステムクロック周波数を示し、表中の計算式に使われる“S”は SPCLK クロックの周期 [ns] を示しています。
- 付加容量 C_L = 25pF



Not Recommended for New Design

4.4 AD変換特性

項目	記号	条件	Min	Typ.	Max	単位
アナログ基準電圧(+)	VREFH		AVCC − 0.2	AVCC	AVCC	V
アナログ基準電圧(−)	VREFL		DVSS	DVSS	DVSS + 0.2	
AD コンバータ電源供給電圧	AVCC		DVCC3A	DVCC3A	DVCC3A	
AD コンバータ GNP	AVSS		DVSS	DVSS	DVSS	
アナログ入力電圧	AVIN		VREFL		VREFH	
アナログ基準電圧 電源電流	IREFON	<VREFON> = “1”		0.38	0.45	mA
	IREFOFF	<VREFON> = “0”		1	5	μA
総合誤差 (量子化誤差 ± 0.5LSB 含む)	E_T	変換速度@12μs		±2.0	±4.0	LSB

注 1) 1LSB = (VREFH − VREFL)/1024[V]

注 2) 最低動作周波数について

AD コンバータの最低動作クロックは 3MHz です。(クロックギアで選択されたクロックの周波数が f_{SYS}=3MHz 以上)

注 3) AVCC 端子より流れる電源電流は、DVCC3A 端子の電源電流 (I_{CC}) に含みます。

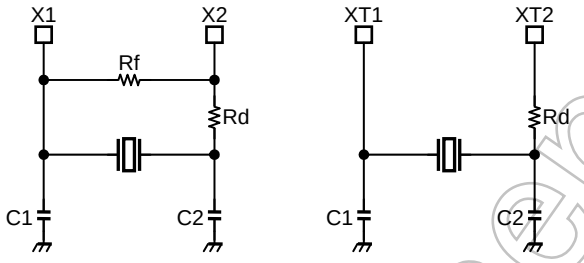
Not Recommended for New Design

4.5 推奨発振回路

TMP92CF29A は、下記の発振子メーカにて評価されております。発振子の選択時に活用願います。

注) 発振端子のトータル負荷容量は接続する外付け (または内蔵) 負荷容量 C1、C2 と、実装基板上の浮遊容量の和になります。C1、C2 の定数を使用した場合でも実装基板によりトータル負荷容量が異なり、誤動作する可能性があります。基板設計の際は発振回路周辺のパターンが最短距離になるようにしてください。また、実際に使用される実装基板での発振評価を行うことを推奨いたします。

(1) 接続例



高周波発振器の接続図　　低周波発振器の接続図

(2) 推奨セラミック発振子

本製品は㈱村田製作所社製セラミック発振子を推奨しております。

詳細につきましては、下記 URL の同社ホームページを参照してください。

http://www.murata.co.jp

Not Recommended for New Design

5. 特殊機能レジスター覧表 (SFR)

特殊機能レジスタ (SFR: Special Function Register) とは、入出力ポートおよび周辺部のコントロールレジスタで、000000H~001FF0H の 8 K バイトのアドレス空間に割り付けられています。

(1) 入力ポート
(2) 割り込み制御
(3) メモリコントローラ
(4) TSI(タッチスクリーンインタフェース)
(5) SDRAM コントローラ
(6) LCD コントローラ
(7) PMC
(8) USB コントローラ
(9) SPI コントローラ
(10) MMU
(11) NAND_Flash コントローラ
(12) DMA コントローラ
(13) クロックギア、PLL
(14) 8 ビットタイマ
(15) 16 ビットタイマ
(16) SIO
(17) SBI
(18) AD コンバータ
(19)ウォッチドッグタイマ
(20)RTC（リアルタイムクロック）
(21)MLD（メロディ/アラームジェネラータ）
(22)I²S
(23) MAC

表の構成

記号	名称	アドレス	7	6			1	0	
									→ Bit Symbol
									→ Read/Write
									→ システムリセット時の初期値
									→ Hot リセット後の初期値
									→ 備考

* 表中の “RMW 禁” は、リードモディファイライト形式の命令をそのレジスタに対して使用禁止であることを示します。

例) PxCR レジスタの bit 0 のみを “1” にしたい場合、通常は “SET 0, (PxCR)” ですがこのレジスタは “RMW 禁” のため、“LD” (転送) 命令にて 8 ビットに対してライトする必要があります。

記号の意味

R/W	:	Read/Write 可能
R	:	Read のみ可能
W	:	Write のみ可能
W*	:	Read/Write 可能 (ただし、リードした場合、“1” になります。)
RMW 禁	:	Read Modify Write ができません。(EX、ADD、ADC, BUS、SBC、INC、DEC、AND、OR、XOR、STCF、RES、SET、CHG、TSET、RLC、RRC、RL、RR、SLA、SRA、SLL、SRL、RLD、RRD の各命令使用不可)
R/W*	:	該当ポートのプルアップレジスタの制御の際には、Read modify write 命令は使用できません。

Not Recommended for New Design

表 5.1 入出力レジスタアドレスマップ

[1] Port (1/2)

アドレス	レジスタ名
0000H	
1H	
2H	
3H	
4H	P1
5H	
6H	P1CR
7H	P1FC
8H	
9H	
AH	
BH	
CH	
DH	
EH	
FH	

アドレス	レジスタ名
0010H	P4
1H	
2H	
3H	P4FC
4H	P5
5H	
6H	
7H	P5FC
8H	P6
9H	
AH	P6CR
BH	P6FC
CH	P7
DH	
EH	P7CR
FH	P7FC

アドレス	レジスタ名
0020H	P8
1H	P8FC2
2H	
3H	P8FC
4H	P9
5H	P9FC2
6H	P9CR
7H	P9FC
8H	PA
9H	
AH	
BH	PAFC
CH	
DH	
EH	
FH	

アドレス	レジスタ名
0030H	PC
1H	PCFC2
2H	PCCR
3H	PCFC
4H	
5H	
6H	
7H	
8H	
9H	
AH	
BH	
CH	PF
DH	
EH	PFCR
FH	PFFC

アドレス	レジスタ名
0040H	PG
1H	
2H	
3H	PGFC
4H	
5H	
6H	
7H	
8H	
9H	
AH	
BH	
CH	PJ
DH	
EH	PJCR
FH	PJFC

アドレス	レジスタ名
0050H	PK
1H	
2H	
3H	PKFC
4H	PL
5H	Reserved
6H	PLCR
7H	PLFC
8H	PM
9H	
AH	
BH	PMFC
CH	PN
DH	
EH	PNCR
FH	PNFC

アドレス	レジスタ名
0060H	PP
1H	PPFC2
2H	PPCR
3H	PPFC
4H	PR
5H	
6H	PRCR
7H	PRFC
8H	
9H	
AH	
BH	
CH	
DH	
EH	
FH	

アドレス	レジスタ名
0070H	Reserved
1H	Reserved
2H	Reserved
3H	Reserved
4H	Reserved
5H	Reserved
6H	Reserved
7H	Reserved
8H	Reserved
9H	Reserved
AH	Reserved
BH	Reserved
CH	Reserved
DH	Reserved
EH	Reserved
FH	Reserved

Not Recommended for New Design

[1] Port (2/2)

アドレス	レジスタ名	アドレス	レジスタ名	アドレス	レジスタ名	アドレス	レジスタ名
0080H		0090H	PGDR	00A0H	PT	00B0H	PX
1H	P1DR	1H		1H	Reserved	1H	PXFC2
2H		2H		2H	PTCR	2H	PXCR
3H		3H	PJDR	3H	PTFC	3H	PXFC
4H	P4DR	4H	PKDR	4H		4H	
5H	P5DR	5H	PLDR	5H		5H	
6H	P6DR	6H	PMDR	6H		6H	
7H	P7DR	7H	PNDR	7H		7H	
8H	P8DR	8H	PPDR	8H	PV	8H	
9H	P9DR	9H	PRDR	9H	PVFC2	9H	
AH	PADR	AH		AH	PVCR	AH	
BH		BH	PTDR	BH	PVFC	BH	
CH	PCDR	CH		CH		CH	
DH		DH	PVDR	DH		DH	
EH		EH		EH		EH	
FH	PFDR	FH	PXDR	FH		FH	

注)レジスタ名の割り付けられていないアドレスにはアクセスしないでください。

Not Recommended for New Design

[2] INTC

アドレス	レジスタ名
00D0H	INTE12
1H	INTE34
2H	INTE56
3H	INTE7
4H	INTETA01
5H	INTETA23
6H	INTETA45
7H	INTETA67
8H	INTETB0
9H	INTETB1
AH	
BH	INTES0
CH	INTES1
DH	
EH	
FH	

アドレス	レジスタ名
00E0H	INTESBIADM
1H	INTESPI
2H	Reserved
3H	INTEUSB
4H	Reserved
5H	INTEALM
6H	Reserved
7H	
8H	INTERTC
9H	INTEKEY
AH	INTELCD
BH	INTEI2S0
CH	INTENDFC
DH	Reserved
EH	INTEP0
FH	INTEAD

アドレス	レジスタ名
00F0H	INTE0
1H	INTETC01 /INTEDMA01
2H	INTETC23 /INTEDMA23
3H	INTETC45 /INTEDMA45
4H	INTETC67
5H	SIMC
6H	IIMC0
7H	INTWDT
8H	INTCLR
9H	
AH	IIMC1
BH	
CH	
DH	
EH	
FH	Reserved

アドレス	レジスタ名
0100H	DMA0V
1H	DMA1V
2H	DMA2V
3H	DMA3V
4H	DMA4V
5H	DMA5V
6H	DMA6V
7H	DMA7V
8H	DMAB
9H	DMAR
AH	DMASEL
BH	
CH	
DH	
EH	
FH	

[3] MEMC

アドレス	レジスタ名
0140H	B0CSL
1H	B0CSH
2H	MAMR0
3H	MSAR0
4H	B1CSL
5H	B1CSH
6H	MAMR1
7H	MSAR1
8H	B2CSL
9H	B2CSH
AH	MAMR2
BH	MSAR2
CH	B3CSL
DH	B3CSH
EH	MAMR3
FH	MSAR3

アドレス	レジスタ名
0150H	
1H	
2H	
3H	
4H	
5H	
6H	
7H	
8H	BEXCSL
9H	BEXCSH
AH	
BH	
CH	
DH	
EH	
FH	

アドレス	レジスタ名
0160H	
1H	
2H	
3H	
4H	
5H	
6H	PMEMCR
7H	
8H	CSTMGCR
9H	WRTMGCR
AH	RDTMGCR0
BH	RDTMGCR1
CH	BROMCR
DH	RAMCR
EH	
FH	

[4] TSI

アドレス	レジスタ名
01F0H	TSICR0
1H	TSICR1
2H	Reserved
3H	
4H	
5H	
6H	
7H	
8H	
9H	
AH	
BH	
CH	
DH	
EH	
FH	

注)レジスタ名の割り付けられていないアドレスにはアクセスしないでください。

Not Recommended for New Design

[5] SDRAMC

アドレス	レジスタ名
0250H	SDACR
1H	SDCISR
2H	SDRCR
3H	SDCMM
4H	SDBLS
5H	
6H	
7H	
8H	
9H	
AH	
BH	
CH	
DH	
EH	
FH	

[6] LCDC

アドレス	レジスタ名
0280H	LCDMODE0
1H	LCDMODE1
2H	
3H	LCDDVM0
4H	LCDSIZE
5H	LCDCTL0
6H	LCDCTL1
7H	LCDCTL2
8H	LCDDVM1
9H	
AH	LCDHSP
BH	LCDHSP
CH	LCDVSP
DH	LCDVSP
EH	LCDPRVSP
FH	LCDHSDLY

アドレス	レジスタ名
0290H	LCDLDDLY
1H	LCDO0DLY
2H	LCDO1DLY
3H	LCDO2DLY
4H	LCDHSW
5H	LCDLDW
6H	LCDHO0W
7H	LCDHO1W
8H	LCDHO2W
9H	LCDHWB8
AH	
BH	
CH	
DH	
EH	
FH	

アドレス	レジスタ名
02A0H	LSAML
1H	LSAMM
2H	LSAMH
3H	
4H	LSASL
5H	LSASM
6H	LSASH
7H	
8H	LSAHX
9H	LSAHX
AH	LSAHY
BH	LSAHY
CH	LSASS
DH	LSASS
EH	LSACS
FH	LSACS

[7] PMC

アドレス	レジスタ名
02F0H	PMCCTL
1H	
2H	
3H	
4H	
5H	
6H	
7H	
8H	
9H	
AH	
BH	
CH	
DH	
EH	
FH	

注)レジスタ名の割り付けられていないアドレスにはアクセスしないでください。

Not Recommended for New Design

[8] USBC (1/2)

アドレス	レジスタ名
0500H	Descriptor
to	RAM
067FH	(384 byte)

アドレス	レジスタ名
0780H	ENDPOINT0
1H	ENDPOINT1
2H	ENDPOINT2
3H	ENDPOINT3
4H	
5H	
6H	
7H	
8H	Reserved
9H	EP1_MODE
AH	EP2_MODE
BH	EP3_MODE
CH	
DH	
EH	
FH	

アドレス	レジスタ名
0790H	EP0_STATUS
1H	EP1_STATUS
2H	EP2_STATUS
3H	EP3_STATUS
4H	
5H	
6H	
7H	
8H	EP0_SIZE_L_A
9H	EP1_SIZE_L_A
AH	EP2_SIZE_L_A
BH	EP3_SIZE_L_A
CH	
DH	
EH	
FH	

アドレス	レジスタ名
07A0H	
1H	EP1_SIZE_L_B
2H	EP2_SIZE_L_B
3H	EP3_SIZE_L_B
4H	
5H	
6H	
7H	
8H	Reserved
9H	EP1_SIZE_H_A
AH	EP2_SIZE_H_A
BH	EP3_SIZE_H_A
CH	
DH	
EH	
FH	

アドレス	レジスタ名
07B0H	
1H	EP1_SIZE_H_B
2H	EP2_SIZE_H_B
3H	EP3_SIZE_H_B
4H	
5H	
6H	
7H	
8H	
9H	
AH	
BH	
CH	
DH	
EH	
FH	

アドレス	レジスタ名
07C0H	bmRequestType
1H	bRequest
2H	wValue_L
3H	wValue_H
4H	wIndex_L
5H	wIndex_H
6H	wLength_L
7H	wLength_H
8H	SetupReceived
9H	Current_Config
AH	Standard Request
BH	Request
CH	DATASET1
DH	DATASET2
EH	USB STATE
FH	EOP

アドレス	レジスタ名
07D0H	COMMAND
1H	EPx_SINGLE1
2H	Reserved
3H	EPx_BCS1
4H	Reserved
5H	Reserved
6H	INT_Control
7H	Reserved
8H	Standard Request Mode
9H	Request Mode
AH	Reserved
BH	Reserved
CH	Reserved
DH	Reserved
EH	ID_CONTROL
FH	ID_STATE

注)レジスタ名の割り付けられていないアドレスにはアクセスしないでください。

Not Recommended for New Design

[8] USBC (2/2)

アドレス	レジスタ名
07E0H	Port Status
1H	FRAME_L
2H	FRAME_H
3H	ADDRESS
4H	Reserved
5H	Reserved
6H	USBREADY
7H	Reserved
8H	Set Descriptor STALL
9H	
AH	
BH	
CH	
DH	
EH	
FH	

アドレス	レジスタ名
07F0H	USBINTFR1
1H	USBINTFR2
2H	USBINTFR3
3H	USBINTFR4
4H	USBINTMR1
5H	USBINTMR2
6H	USBINTMR3
7H	USBINTMR4
8H	USBCR1
9H	
AH	
BH	
CH	
DH	
EH	
FH	

注)レジスタ名の割り付けられていないアドレスにはアクセスしないでください。

Not Recommended for New Design

[9] SPIC

アドレス	レジスタ名
0820H	SPIMD
1H	SPIMD
2H	SPICT
3H	SPICT
4H	SPIST
5H	SPIST
6H	SPICR
7H	SPICR
8H	
9H	
AH	
BH	
CH	SPIIE
DH	SPIIE
EH	
FH	

アドレス	レジスタ名
0830H	SPITD0
1H	SPITD0
2H	SPITD1
3H	SPITD1
4H	SPIRD0
5H	SPIRD0
6H	SPIRD1
7H	SPIRD1
8H	
9H	
AH	
BH	
CH	
DH	
EH	
FH	

[10] MMU

アドレス	レジスタ名
0880H	LOCALPX
1H	LOCALPX
2H	LOCALPY
3H	LOCALPY
4H	LOCALPZ
5H	LOCALPZ
6H	
7H	
8H	LOCALLX
9H	LOCALLX
AH	LOCALLY
BH	LOCALLY
CH	LOCALLZ
DH	LOCALLZ
EH	
FH	

アドレス	レジスタ名
0890H	LOCALRX
1H	LOCALRX
2H	LOCALRY
3H	LOCALRY
4H	LOCALRZ
5H	LOCALRZ
6H	
7H	
8H	LOCALWX
9H	LOCALWX
AH	LOCALWY
BH	LOCALWY
CH	LOCALWZ
DH	LOCALWZ
EH	
FH	

アドレス	レジスタ名
08A0H	LOCALESX
1H	LOCALESX
2H	LOCALESY
3H	LOCALESY
4H	LOCALESZ
5H	LOCALESZ
6H	
7H	
8H	LOCALEDX
9H	LOCALEDX
AH	LOCALEDY
BH	LOCALEDY
CH	LOCALEDZ
DH	LOCALEDZ
EH	
FH	

アドレス	レジスタ名
08B0H	LOCALOSX
1H	LOCALOSX
2H	LOCALOSY
3H	LOCALOSY
4H	LOCALOSZ
5H	LOCALOSZ
6H	
7H	
8H	LOCALODX
9H	LOCALODX
AH	LOCALODY
BH	LOCALODY
CH	LOCALODZ
DH	LOCALODZ
EH	
FH	

注)レジスタ名の割り付けられていないアドレスにはアクセスしないでください。

Not Recommended for New Design

[11] NAND-Flash コントローラ

アドレス	レジスタ名
08C0H	NDFMCR0
1H	NDFMCR0
2H	NDFMCR1
3H	NDFMCR1
4H	NDECCRD0
5H	NDECCRD0
6H	NDECCRD1
7H	NDECCRD1
8H	NDECCRD2
9H	NDECCRD2
AH	NDECCRD3
BH	NDECCRD3
CH	NDECCRD4
DH	NDECCRD4
EH	
FH	

アドレス	レジスタ名
08D0H	NDRSCA0
1H	NDRSCA0
2H	NDRSCD0
3H	
4H	NDRSCA1
5H	NDRSCA1
6H	NDRSCD1
7H	
8H	NDRSCA2
9H	NDRSCA2
AH	NDRSCD2
BH	
CH	NDRSCA3
DH	NDRSCA3
EH	NDRSCD3
FH	

アドレス	レジスタ名
1FF0H	NDFDTR0
1H	NDFDTR0
2H	NDFDTR1
3H	NDFDTR1
4H	
5H	
6H	
7H	
8H	
9H	
AH	
BH	
CH	
DH	
EH	
FH	

Not Recommended for New Design

[12] DMAC

アドレス	レジスタ名
0900H	HDMAS0
1H	HDMAS0
2H	HDMAS0
3H	
4H	HDMAD0
5H	HDMAD0
6H	HDMAD0
7H	
8H	HDMACA0
9H	HDMACA0
AH	HDMACB0
BH	HDMACB0
CH	HDMAM0
DH	
EH	
FH	

アドレス	レジスタ名
0910H	HDMAS1
1H	HDMAS1
2H	HDMAS1
3H	
4H	HDMAD1
5H	HDMAD1
6H	HDMAD1
7H	
8H	HDMACA1
9H	HDMACA1
AH	HDMACB1
BH	HDMACB1
CH	HDMAM1
DH	
EH	
FH	

アドレス	レジスタ名
0920H	HDMAS2
1H	HDMAS2
2H	HDMAS2
3H	
4H	HDMAD2
5H	HDMAD2
6H	HDMAD2
7H	
8H	HDMACA2
9H	HDMACA2
AH	HDMACB2
BH	HDMACB2
CH	HDMAM2
DH	
EH	
FH	

アドレス	レジスタ名
0930H	HDMAS3
1H	HDMAS3
2H	HDMAS3
3H	
4H	HDMAD3
5H	HDMAD3
6H	HDMAD3
7H	
8H	HDMACA3
9H	HDMACA3
AH	HDMACB3
BH	HDMACB3
CH	HDMAM3
DH	
EH	
FH	

アドレス	レジスタ名
0940H	HDMAS4
1H	HDMAS4
2H	HDMAS4
3H	
4H	HDMAD4
5H	HDMAD4
6H	HDMAD4
7H	
8H	HDMACA4
9H	HDMACA4
AH	HDMACB4
BH	HDMACB4
CH	HDMAM4
DH	
EH	
FH	

アドレス	レジスタ名
0950H	HDMAS5
1H	HDMAS5
2H	HDMAS5
3H	
4H	HDMAD5
5H	HDMAD5
6H	HDMAD5
7H	
8H	HDMACA5
9H	HDMACA5
AH	HDMACB5
BH	HDMACB5
CH	HDMAM5
DH	
EH	
FH	

アドレス	レジスタ名
0970H	
1H	
2H	
3H	
4H	
5H	
6H	
7H	
8H	
9H	
AH	
BH	
CH	Reserved
DH	Reserved
EH	HDMAE
FH	HDMATR

Not Recommended for New Design

[13] CGEAR, PLL

アドレス	レジスタ名
10E0H	SYSCR0
1H	SYSCR1
2H	SYSCR2
3H	EMCCR0
4H	EMCCR1
5H	EMCCR2
6H	Reserved
7H	
8H	PLLCR0
9H	PLLCR1
AH	
BH	
CH	
DH	
EH	
FH	

[14] 8 ビットタイマ

アドレス	レジスタ名
1100H	TA01RUN
1H	
2H	TA0REG
3H	TA1REG
4H	TA01MOD
5H	TA1FFCR
6H	
7H	
8H	TA23RUN
9H	
AH	TA2REG
BH	TA3REG
CH	TA23MOD
DH	TA3FFCR
EH	
FH	

アドレス	レジスタ名
1110H	TA45RUN
1H	
2H	TA4REG
3H	TA5REG
4H	TA45MOD
5H	Reserved
6H	
7H	
8H	TA67RUN
9H	
AH	TA6REG
BH	TA7REG
CH	TA67MOD
DH	TA7FFCR
EH	
FH	

[15] 16 ビットタイマ

アドレス	レジスタ名
1180H	TB0RUN
1H	
2H	TB0MOD
3H	TB0FFCR
4H	
5H	
6H	
7H	
8H	TB0RG0L
9H	TB0RG0H
AH	TB0RG1L
BH	TB0RG1H
CH	TB0CP0L
DH	TB0CP0H
EH	TB0CP1L
FH	TB0CP1H

アドレス	レジスタ名
1190H	TB1RUN
1H	
2H	TB1MOD
3H	Reserved
4H	
5H	
6H	
7H	
8H	TB1RG0L
9H	TB1RG0H
AH	TB1RG1L
BH	TB1RG1H
CH	TB1CP0L
DH	TB1CP0H
EH	TB1CP1L
FH	TB1CP1H

[16] SIO

アドレス	レジスタ名
1200H	SC0BUF
1H	SC0CR
2H	SC0MOD0
3H	BR0CR
4H	BR0ADD
5H	SC0MOD1
6H	
7H	SIR0CR
8H	SC1BUF
9H	SC1CR
AH	SC1MOD0
BH	BR1CR
CH	BR1ADD
DH	SC1MOD1
EH	
FH	SIR1CR

[17] SBI

アドレス	レジスタ名
1240H	SBICR1
1H	SBIDBR
2H	I2CAR
3H	SBICR2/SBISR
4H	SBIBR0
5H	
6H	
7H	SBICR0
8H	
9H	
AH	
BH	
CH	
DH	
EH	
FH	

注)レジスタ名の割り付けられていないアドレスにはアクセスしないでください。

Not Recommended for New Design

[18] 10 ビット ADC

アドレス	レジスタ名
12A0H	ADREG0L
1H	ADREG0H
2H	ADREG1L
3H	ADREG1H
4H	ADREG2L
5H	ADREG2H
6H	ADREG3L
7H	ADREG3H
8H	ADREG4L
9H	ADREG4H
AH	ADREG5L
BH	ADREG5H
CH	Reserved
DH	Reserved
EH	Reserved
FH	Reserved

アドレス	レジスタ名
12B0H	ADREGSPL
1H	ADREGSPH
2H	Reserved
3H	Reserved
4H	ADCM0REGL
5H	ADCM0REGH
6H	ADCM1REGL
7H	ADCM1REGH
8H	ADMOD0
9H	ADMOD1
AH	ADMOD2
BH	ADMOD3
CH	ADMOD4
DH	ADMOD5
EH	
FH	ADCCLK

[19] WDT

アドレス	レジスタ名
1300H	WDMOD
1H	WDCR
2H	
3H	
4H	
5H	
6H	
7H	
8H	
9H	
AH	
BH	
CH	
DH	
EH	
FH	

[20] RTC

アドレス	レジスタ名
1320H	SECR
1H	MINR
2H	HOURR
3H	DAYR
4H	DATER
5H	MONTHR
6H	YEARR
7H	PAGER
8H	RESTR
9H	
AH	
BH	
CH	
DH	
EH	
FH	

[21] MLD

アドレス	レジスタ名
1330H	ALM
1H	MELALMC
2H	MELFL
3H	MELFH
4H	ALMINT
5H	
6H	
7H	
8H	
9H	
AH	
BH	
CH	
DH	
EH	
FH	

注)レジスタ名の割り付けられていないアドレスにはアクセスしないでください。

Not Recommended for New Design

[22] I²S

アドレス	レジスタ名	アドレス	レジスタ名
1800H	I2S0BUF	1810H	Reserved
1H		1H	
2H		2H	
3H		3H	
4H		4H	
5H		5H	
6H		6H	
7H		7H	
8H	I2S0CTL	8H	Reserved
9H	I2S0CTL	9H	Reserved
AH	I2S0C	AH	Reserved
BH	I2S0C	BH	Reserved
CH		CH	
DH		DH	
EH		EH	
FH		FH	

[23] MAC

アドレス	レジスタ名	アドレス	レジスタ名
1BE0H	MACMA	1BF0H	
1H	MACMA	1H	
2H	MACMA	2H	
3H	MACMA	3H	
4H	MACMB	4H	
5H	MACMB	5H	
6H	MACMB	6H	
7H	MACMB	7H	
8H	MACORL	8H	
9H	MACORL	9H	
AH	MACORL	AH	
BH	MACORL	BH	
CH	MACORH	CH	MACCR
DH	MACORH	DH	
EH	MACORH	EH	
FH	MACORH	FH	

注)レジスタ名の割り付けられていないアドレスにはアクセスしないでください。

Not Recommended for New Design

(1) 入出力ポート (1/11)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
P1	PORT1	0004H	P17	P16	P15	P14	P13	P12	P11	P10
			R/W							
			外部端子データ(出力ラッチレジスタは “0”にクリアされます)							
			–							
P4	PORT4	0010H	P47	P46	P45	P44	P43	P42	P41	P40
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			–	–	–	–	–	–	–	–
P5	PORT5	0014H	P57	P56	P55	P54	P53	P52	P51	P50
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			–	–	–	–	–	–	–	–
P6	PORT6	0018H	P67	P66	P65	P64	P63	P62	P61	P60
			R/W							
			外部端子データ(出力ラッチレジスタは“0”にクリアされます)							
			–							
P7	PORT7	001CH		P76	P75	P74	P73	P72	P71	P70
				R/W						
				外部端子データ(出力ラッチレジスタは“1”にセットされます)		外部端子データ(出力ラッチレジスタは“0”にクリアされます)		外部端子データ(出力ラッチレジスタは“1”にセットされます)		1
				–		–		–		–
P8	PORT8	0020H	P87	P86			P83	P82	P81	P80
			R/W				R/W			
			1	1			1	0 (注)	1	1
			–	–			–	–	–	–
P9	PORT9	0024H	P97	P96				P92	P91	P90
			R					R/W		
			外部端子データ					外部端子データ(出力ラッチレジスタは“1”にセットされます)		
			–					–		
PA	PORTA	0028H	PA7	PA6	PA5	PA4	PA3	PA2	PA1	PA0
			R							
			外部端子データ							
			–							
PC	PORTC	0030H	PC7	PC6	PC5	PC4	PC3	PC2	PC1	PC0
			R/W							
			外部端子データ(出力ラッチレジスタは “1”にセットされます)							
			–							
PF	PORTF	003CH	PF7					PF2	PF1	PF0
			R/W					R/W		
			1					外部端子データ(出力ラッチレジスタは“1”にセットされます)		
			–					–		
PG	PORTG	0040H			PG5	PG4	PG3	PG2	PG1	PG0
					R					
					外部端子データ					
					–					

注) ブートモードでスタートした場合(AM[1:0] = “11”)、P82 の出力ラッチは“1”にセットされます。

Not Recommended for New Design

(1) 入出力ポート (2/11)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
PJ	PORTJ	004CH	PJ7	PJ6	PJ5	PJ4	PJ3	PJ2	PJ1	PJ0
			R/W							
			1	外部端子データ(出力ラッチレジスタは “1”にセットされます)		1	1	1	1	1
			–	–	–	–	–	–	–	
PK	PORTK	0050H	PK7	PK6	PK5	PK4	PK3	PK2	PK1	PK0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			–	–	–	–	–	–	–	–
PL	PORTL	0054H	PL7	PL6	PL5	PL4	PL3	PL2	PL1	PL0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			–	–	–	–	–	–	–	–
PM	PORTM	0058H	PM7					PM2	PM1	
			R/W					R/W		
			1					1	1	
			–					–	–	
PN	PORTN	005CH	PN7	PN6	PN5	PN4	PN3	PN2	PN1	PN0
			R/W							
			外部端子データ(出力ラッチレジスタは“1”にセットされます)							
			–							
PP	PORTP	0060H		PP6	PP5	PP4	PP3			
				R/W						
				0	外部端子データ (出力ラッチレジスタは“0”にリセットされます)					
				–						
PR	PORTR	0064H					PR3	PR2	PR1	PR0
							R/W			
							外部端子データ (出力ラッチレジスタは“0”にリセットされます)			
							–			
PT	PORTT	00A0H	PT7	PT6	PT5	PT4	PT3	PT2	PT1	PT0
			R/W							
			外部端子データ(出力ラッチレジスタは“0”にリセットされます)							
			–							
PV	PORTV	00A8H	PV7	PV6						
			R/W							
			外部端子データ (出力ラッチレジスタは “0”にリセットされます)							
			–							
PX	PORTX	00B0H			PX5	PX4				
					R/W					
					外部端子データ (出力ラッチレジスタは “0”にリセットされます)					
					–					

Not Recommended for New Design

(1) 入出力ポート (3/11)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
P1CR	PORT1 control register	0006H (RMW 禁)	P17C	P16C	P15C	P14C	P13C	P12C	P11C	P10C
			W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			–	–	–	–	–	–	–	–
			0: 入力 1: 出力							
P1FC	PORT1 function register	0007H (RMW 禁)								P1F
										W
										0/1
										–
										0:ポート 1:データバス (D8~D15)
P4FC	PORT4 function register	0013H (RMW 禁)	P47F	P46F	P45F	P44F	P43F	P42F	P41F	P40F
			W							
			0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1
			–	–	–	–	–	–	–	–
			0: ポート 1: アドレスバス (A0~A7)							
P5FC	PORT5 function register	0017H (RMW 禁)	P57F	P56F	P55F	P54F	P53F	P52F	P51F	P50F
			W							
			0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1
			–	–	–	–	–	–	–	–
			0: ポート 1: アドレスバス (A8~A15)							
P6CR	PORT6 control register	001AH (RMW 禁)	P67C	P66C	P65C	P64C	P63C	P62C	P61C	P60C
			W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			–	–	–	–	–	–	–	–
			0: 入力 1: 出力							
P6FC	PORT6 function register	001BH (RMW 禁)	P67F	P66F	P65F	P64F	P63F	P62F	P61F	P60F
			W							
			0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1
			–	–	–	–	–	–	–	–
			0: ポート 1: アドレスバス (A16~A23)							
P7CR	PORT7 control register	001EH (RMW 禁)		P76C	P75C	P74C	P73C	P72C	P71C	
				W						
				0	0	0	0	0	0	
				–	–	–	–	–	–	
				0: 入力ポート, $\overline{WAIT}$ 1: 出力ポート	0: 入力ポート, NDR/$\overline{B}$ 1: 出力ポート, R/$\overline{W}$	0: 入力ポート 1: 出力ポート, EA25	0: 入力ポート 1: 出力ポート, EA24	0: 入力ポート 1: 出力ポート, $\overline{NDWE}$ at <P72> = 0, $\overline{WRLU}$ at <P72> = 1	0: 入力ポート 1: 出力ポート, $\overline{NDRE}$ at <P71>=0, $\overline{WRLL}$ at <P71> = 1	
P7FC	PORT7 function register	001FH (RMW 禁)		P76F	P75F	P74F	P73F	P72F	P71F	P70F
				W						
				0	0	0	0	0	0	0/1
				–	–	–	–	–	–	–
				0: ポート 1: $\overline{WAIT}$	0: ポート 1:NDR/$\overline{B}$, R/$\overline{W}$	0:ポート 1: EA25	0:ポート 1: EA24	0: ポート 1: $\overline{NDWE}$ at <P72> = 0, $\overline{WRLU}$ at <P72> = 1	0: ポート 1: $\overline{NDRE}$ at <P71> = 0, $\overline{WRLL}$ at <P71> = 1	0: ポート 1: $\overline{RD}$

Not Recommended for New Design

(1) 入出力ポート (4/11)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
P8FC	PORT8 function register	0023H (RMW 禁)	P87F	P86F			P83F	P82F	P81F	P80F
			W				W			
			1	1			0	0	0	0
			–	–			–	–	–	–
			0: 出力ポート 1: <P87F2>	0: ポート 1: <P86F2>			0: ポート 1: $\overline{CS3}$, $\overline{CSXA}$	0: ポート, $\overline{CSZA}$ 1: $\overline{CS2}$, $\overline{SDCS}$	0: ポート 1: $\overline{CS1}$	0: ポート 1: $\overline{CS0}$
P8FC2	PORT8 function fegister2	0021H (RMW 禁)	P87F2	P86F2			P83F2	P82F2	P81F2	
			W				W			
			0	0			0	0	0	
			–	–			–	–	–	
			0: $\overline{CSXB}$ 1: $\overline{ND1CE}$	0: $\overline{CSZD}$ 1: $\overline{ND0CE}$			0: ポート, $\overline{CS3}$ 1: $\overline{CSXA}$	0: 出力ポート, $\overline{CS2}$ 1: $\overline{CSZA}$, $\overline{SDCS}$	0: <P81F> 1: $\overline{SDCS}$	
P9CR	PORT9 control register	0026H (RMW 禁)						P92C	P91C	P90C
								W		
								0	0	0
								–	–	–
								0: 入力ポート, $\overline{CTS0/1}$, SCLK0/1 入力 1: 出力ポート, SCLK0/1 出力	0: 入力ポート, RXD0/1 入力 1: 出力ポート	0: 入力ポート 1:出力ポート, TXD0/1 出力
P9FC	PORT9 function register	0027H (RMW 禁)		P96F				P92F		P90F
				W				W		W
				0				0		0
				–				–		–
				0:入力ポート 1:INT4				0:ポート, $\overline{CTS0/1}$, SCLK0/1 入力 1: SCLK0 出力		0:ポート 1:TXD0/1 出力
P9FC2	PORT9 function register2	0025H (RMW 禁)	–		P95F2	P94F2	P93F2	–		P90FC2
			W		W			W		W
			0		0	0	0	0		0
			–		–	–	–	–		–
			“0”をライトしてください。		P92 の SCLK 選択 0:SCLK0 1:SCLK1 SIO0 の SCLK, $\overline{CTS}$ 入力選択 0: P92 1: PP5	SIO0 の RXD 選択 0: P91 1: PP4	P90 の TXD 選択 0: TXD0 1: TXD1	“0”をライトしてください。		0: CMOS 1: オープンドレイン

Not Recommended for New Design

(1) 入出力ポート (5/11)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
PAFC	PORTA function register	002BH (RMW 禁)	PA7F	PA6F	PA5F	PA4F	PA3F	PA2F	PA1F	PA0F
			W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			–	–	–	–	–	–	–	–
			0: キー入力禁止 1: キー入力許可							
PCCR	PORTC control register	0032H (RMW 禁)	PC7C	PC6C	PC5C	PC4C	PC3C	PC2C	PC1C	PC0C
			W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			–	–	–	–	–	–	–	–
			0:入力ポート 1:出力ポート, KO 出力 (オープンドレイン)	0: 入力ポート, EA28 1:出力ポート, SPCLK 出力	0: 入力ポート, EA27 1: 出力ポート, SPDO 出力	0: 入力ポート, EA26 1: 出力ポート, SPDI 入力	0:入力ポート, INT3 1: 出力ポート, TA2IN	0: 入力ポート, INT2 1: 出力ポート	0:入力ポート, INT1 1:出力ポート, TA0IN	0:入力ポート, INT0 1:出力ポート
PCFC	PORTC function register	0033H (RMW 禁)	PC7F	PC6F	PC5F	PC4F	PC3F	PC2F	PC1F	PC0F
			W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			–	–	–	–	–	–	–	–
			0: ポート 1: KO8 出力 (オープンドレイン)	0: ポート 1:EA28, SPCLK 出力	0:ポート 1:EA27, SPDO 出力	0:ポート 1:EA26, SPDI 入力	0:ポート 1:INT3, TA2IN	0: ポート 1: INT2	0: ポート 1: INT1, TA0IN	0: ポート 1:INT0
PCFC2	PORTC function 2 register	0031H (RMW 禁)				PC4F2				
						W				
						0				
						–				
						SPDI 端子選択 0: PR0 1: PC4				
PFCR	PORTF control register	003EH (RMW 禁)						PF2C	PF1C	PF0C
								W		
								0	0	0
								–	–	–
								0: 入力, 1: 出力		
PFFC	PORTF function register	003FH (RMW 禁)	PF7F					PF2F	PF1F	PF0F
			W					W		
			1					0	0	0
			–					–	–	–
			0:ポート 1: SDCLK					0:ポート 1:I2S0WS	0:ポート 1:I2S0DO	0:ポート 1:I2S0CKO
PGFC	PORTG function register	0043H (RMW 禁)					PG3F			
							W			
							0			
							–			
							0:入力ポート, AN3 1: $\overline{\text{ADTRG}}$			

Not Recommended for New Design

(1) 入出力ポート (6/11)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
PJCR	PORTJ control register	004EH (RMW 禁)		PJ6C	PJ5C					
				W						
				0	0					
				–	–					
				0:入力ポート 1:出力ポート, NDCLE 出力	0:入力ポート 1:出力ポート, NDALE 出力					
PJFC	PORTJ function register	004FH (RMW 禁)	PJ7F	PJ6F	PJ5F	PJ4F	PJ3F	PJ2F	PJ1F	PJ0F
					W					
			0	0	0	0	0	0	0	0
			–	–	–	–	–	–	–	–
			0: ポート 1: SDCKE	0: ポート 1: NDCLE 出力	0: ポート 1: NDALE 出力	0: ポート 1:SDLUDQM	0: ポート 1:SDLLDQM	0: ポート 1: $\overline{\text{SDWE}}$, $\overline{\text{SRWR}}$	0: ポート 1: $\overline{\text{SDCAS}}$, $\overline{\text{SRLUB}}$	0: ポート 1: $\overline{\text{SDRAS}}$, $\overline{\text{SRLLB}}$
PKFC	PORTK function register	0053H (RMW 禁)	PK7F	PK6F	PK5F	PK4F	PK3F	PK2F	PK1F	PK0F
					W					
			0	0	0	0	0	0	0	0
			–	–	–	–	–	–	–	–
			0: ポート 1: LGOE2	0: ポート 1: LGOE1	0: ポート 1: LGOE0	0: ポート 1: LHSYNC	0: ポート 1: LVSYNC	0: ポート 1: LFR	0: ポート 1: LLOAD	0: ポート 1: LCP0
PLCR	PORTL control register	0056H (RMW 禁)	PL7C	PL6FC	PL5C	PL4C	PL3C	PL2C	PL1C	PL0C
					W					
			0	0	0	0	0	0	0	0
			–	–	–	–	–	–	–	–
			0: 入力 1: 出力							
PLFC	PORTL function register	0057H (RMW 禁)	PL7F	PL6F	PL5F	PL4F	PL3F	PL2F	PL1F	PL0F
					W					
			0	0	0	0	0	0	0	0
			–	–	–	–	–	–	–	–
			0: ポート 1: LCDC 用データバス (LD7~LD0)							
PMFC	PORTM function register	005BH (RMW 禁)	PM7F					PM2F	PM1F	
			W					W	W	
			0					0	0	
			–					–	–	
			0: ポート 1: PWE					0: ポート 1: ALARM at <PM2>=1 MLDALM at <PM2>=0	0: ポート 1:MLDALM at <PM1>=1 TA1OUT at <PM1>=0	
PNCR	PORTN control register	005EH (RMW 禁)	PN7C	PN6C	PN5C	PN4C	PN3C	PN2C	PN1C	PN0C
					W					
			0	0	0	0	0	0	0	0
			–	–	–	–	–	–	–	–
			0: 入力, 1: 出力							
PNFC	PORTN function register	005FH (RMW 禁)	PN7F	PN6F	PN5F	PN4F	PN3F	PN2F	PN1F	PN0F
					W					
			0	0	0	0	0	0	0	0
			–	–	–	–	–	–	–	–
			0:CMOS 出力 1:オープンドレイン出力							

Not Recommended for New Design

(1) 入出力ポート (7/11)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
PPCR	PORTP control register	0062H (RMW 禁)			PP5C	PP4C	PP3C			
					W					
					0	0	0			
					–	–	–			
					0: 入力, 1: 出力					
PPFC	PORTP function register	0063H (RMW 禁)		PP6F	PP5F	PP4F	PP3F			
				W						
				0	0	0	0			
				–	–	–	–			
				0: ポート 1: TB0OUT0	0: ポート 1:INT7, TB1IN0 at <PP3F2>=0	0: ポート 1:INT6, TB0IN0 at <PP2F2>=0	0: ポート 1:INT5, TA7OUT at <PP1F2>=0			
PPFC2	PORTP function 2 register	0061H (RMW 禁)		PP6F2	PP5F2	PP4F2	PP3F2	PP2F2	PP1F2	PP0F2
				W						
				0	0	0	0	0	0	0
				–	–	–	–	–	–	–
				PP5 の SCLK 出力 0: SCLK1 1: SCLK0 SIO1 の SCLK, $\overline{\text{CTS}}$ 入力 0: PP5 1: P92	SIO1 の RXD 選択 0: PP4 1: P91	PP3 選択 0: TXD1 1: TXD0	PP5 端子 0: 上記以外 1: SCLK, $\overline{\text{CTS}}$ 入力または SCLK 出力	PP4 端子 0: 上記以外 1: RXD 入力	PP3 端子 0: 上記以外 1: TXD 出力	PP3 端子 0: CMOS 1: オープンドレイン
PRCR	PORTR control register	0066H (RMW 禁)					PR3C	PR2C	PR1C	PR0C
							W			
							0	0	0	0
							–	–	–	–
							0: 入力, 1: 出力			
PRFC	PORTR function register	0067H (RMW 禁)					PR3F	PR2F	PR1F	PR0F
							W			
							0	0	0	0
							–	–	–	–
							0: ポート 1: SPCLK	0: ポート 1: $\overline{\text{SPCS}}$	0: ポート 1: SPDO	0: ポート 1: SPDI
PTCR	PORTT control register	00A2H (RMW 禁)	PT7C	PT6C	PT5C	PT4C	PT3C	PT2C	PT1C	PT0C
			W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			–	–	–	–	–	–	–	–
			0: 入力 1: 出力							
PTFC	PORTT function register	00A3H (RMW 禁)	PT7F	PT6F	PT5F	PT4F	PT3F	PT2F	PT1F	PT0F
			W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			–	–	–	–	–	–	–	–
			0: ポート 1: LCDC 用データバス (LD15~LD8)							

Not Recommended for New Design

(1) 入出力ポート (8/11)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
PVCR	PORTV control register	00AAH (RMW 禁)	PV7C	PV6C						
			W							
			0	0						
			–	–						
			0: 入力	1: 出力						
PVFC	PORTV function register	00ABH (RMW 禁)	PV7F	PV6F						
			W							
			0	0						
			–	–						
			0: ポート 1: SCL	0: ポート 1: SDA						
PVFC2	PORTV function register2	00ABH (RMW 禁)	PV7F2	PV6F2						
			W							
			0	0						
			–	–						
			0:CMOS 1:オープンドレイン	0:CMOS 1:オープンドレイン						
PXCR	PORTX control register	00B2H (RMW 禁)			PX5C					
					0					
					–					
					W					
					0: 入力 1: 出力					
PXFC	PORTX function register	00B3H (RMW 禁)			PX5F	PX4F				
					W					
					0	0				
					–	–				
					0:ポート 1: X1USB 入力 at <PX5C>=0 X1D4 出力 at <PX5C>=1 ,<PX5>=1	0:ポート 1: CLKOUT at <PX4>=0, LDIV at <PX4>=1				
PXFC2	PORTX function 2 register	00B1H (RMW 禁)			PX5F2	PX4F2				
					W					
					0	0				
					–	–				
					X1D4 出力クロック選択 00: X1 端子×1/8 01: X1 端子×1/4 10: X1 端子×1/2 11: X1 端子×1/1					

Not Recommended for New Design

(1) 入出力ポート (9/11)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
P1DR	PORT1 drive register	0081H	P17D	P16D	P15D	P14D	P13D	P12D	P11D	P10D
			R/W							
			1	1	1	1	1	1	1	1
			–	–	–	–	–	–	–	–
			スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ							
P4DR	PORT4 drive register	0084H	P47D	P46D	P45D	P44D	P43D	P42D	P41D	P40D
			R/W							
			1	1	1	1	1	1	1	1
			–	–	–	–	–	–	–	–
			スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ							
P5DR	PORT5 drive register	0085H	P57D	P56D	P55D	P54D	P53D	P52D	P51D	P50D
			R/W							
			1	1	1	1	1	1	1	1
			–	–	–	–	–	–	–	–
			スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ							
P6DR	PORT6 drive register	0086H	P67D	P66D	P65D	P64D	P63D	P62D	P61D	P60D
			R/W							
			1	1	1	1	1	1	1	1
			–	–	–	–	–	–	–	–
			スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ							
P7DR	PORT7 drive register	0087H		P76D	P75D	P74D	P73D	P72D	P71D	P70D
				R/W						
				1	1	1	1	1	1	1
				–	–	–	–	–	–	–
				スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ						
P8DR	PORT8 drive register	0088H	P87D	P86D			P83D	P82D	P81D	P80D
			R/W				R/W			
			1	1			1	1	1	1
			–	–			–	–	–	–
			スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ							
P9DR	PORT9 drive register	0089H	P97D	P96D				P92D	P91D	P90D
			R/W					R/W		
			1	1				1	1	1
			–	–				–	–	–
			スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ					スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ		
PADR	PORTA drive register	008AH	PA7D	PA6D	PA5D	PA4D	PA3D	PA2D	PA1D	PA0D
			R/W							
			1	1	1	1	1	1	1	1
			–	–	–	–	–	–	–	–
			スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ							
PCDR	PORTC drive register	008CH	PC7D	PC6D	PC5D	PC4D	PC3D	PC2D	PC1D	PC0D
			R/W							
			1	1	1	1	1	1	1	1
			–	–	–	–	–	–	–	–
			スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ							
PFDR	PORTF drive register	008FH	PF7D					PF2D	PF1D	PF0D
			R/W					R/W		
			1					1	1	1
			–					–	–	–
			スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ					スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ		

Not Recommended for New Design

(1) 入出力ポート (10/11)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
PGDR	PORTG drive register	0090H					PG3D	PG2D		
							R/W			
							1	1		
							–	–		
							スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ			
PJDR	PORTJ drive register	0093H	PJ7D	PJ6D	PJ5D	PJ4D	PJ3D	PJ2D	PJ1D	PJ0D
			R/W							
			1	1	1	1	1	1	1	1
			–	–	–	–	–	–	–	–
			スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ							
PKDR	PORTK drive register	0094H	PK7D	PK6D	PK5D	PK4D	PK3D	PK2D	PK1D	PK0D
			R/W							
			1	1	1	1	1	1	1	1
			–	–	–	–	–	–	–	–
			スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ							
PLDR	PORTL drive register	0095H	PL7D	PL6D	PL5D	PL4D	PL3D	PL2D	PL1D	PL0D
			R/W							
			1	1	1	1	1	1	1	1
			–	–	–	–	–	–	–	–
			スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ							
PMDR	PORTM drive register	0096H	PM7D					PM2D	PM1D	
			R/W					R/W		
			1					1	1	
			–					–	–	
			スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ							
PNDR	PORTN drive register	0097H	PN7D	PN6D	PN5D	PN4D	PN3D	PN2D	PN1D	PN0D
			R/W							
			1	1	1	1	1	1	1	1
			–	–	–	–	–	–	–	–
			スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ							
PPDR	PORTP drive register	0098H		PP6D	PP5D	PP4D	PP3D			
				R/W						
				1	1	1	1			
				–	–	–	–			
				スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ						
PRDR	PORTR drive register	0099H					PR3D	PR2D	PR1D	PR0D
							R/W			
							1	1	1	1
							–	–	–	–
							スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ			
PTDR	PORTT drive register	009BH	PT7D	PT6D	PT5D	PT4D	PT3D	PT2D	PT1D	PT0D
			R/W							
			1	1	1	1	1	1	1	1
			–	–	–	–	–	–	–	–
			スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ							

Not Recommended for New Design

(1) 入出力ポート (11/11)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
PVDR	PORTV drive register	009DH	PV7D	PV6D						
			R/W							
			1	1						
			–	–						
			スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ							
PXDR	PORTX drive register	009FH			PX5D	PX4D				
					R/W					
					1	1				
					–	–				
					スタンバイモード用入出力バッファドライブレジスタ					

Not Recommended for New Design

(2) 割り込み制御 (1/4)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
INTE0	INT0 Enable	00F0H	–				INT0			
			–	–	–	–	I0C	I0M2	I0M1	I0M0
			–	–			R	R/W		
			“0”をライトしてください。				0	0	0	0
INTE12	INT1 & INT2 Enable	00D0H	INT2				INT1			
			I2C	I2M2	I2M1	I2M0	I1C	I1M2	I1M1	I1M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTE34	INT3 & INT4 Enable	00D1H	INT4				INT3			
			I4C	I4M2	I4M1	I4M0	I3C	I3M2	I3M1	I3M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTE56	INT5 & INT6 Enable	00D2H	INT6				INT5			
			I6C	I6M2	I6M1	I6M0	I5C	I5M2	I5M1	I5M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTE7	INT7 Enable	00D3H	–				INT 7			
			–	–	–	–	I7C	I7M2	I7M1	I7M0
			–	–			R	R/W		
			“0”をライトしてください。				0	0	0	0
INTETA01	INTTA0 & INTTA1 Enable	00D4H	INTTA1 (TMRA1)				INTTA0 (TMRA0)			
			ITA1C	ITA1M2	ITA1M1	ITA1M0	ITA0C	ITA0M2	ITA0M1	ITA0M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTETA23	INTTA2 & INTTA3 Enable	00D5H	INTTA3 (TMRA3)				INTTA2 (TMRA2)			
			ITA3C	ITA3M2	ITA3M1	ITA3M0	ITA2C	ITA2M2	ITA2M1	ITA2M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTETA45	INTTA4 & INTTA5 Enable	00D6H	INTTA5 (TMRA5)				INTTA4 (TMRA4)			
			ITA5C	ITA5M2	ITA5M1	ITA5M0	ITA4C	ITA4M2	ITA4M1	ITA4M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTETA67	INTTA6 & INTTA7 Enable	00D7H	INTTA7 (TMRA7)				INTTA6 (TMRA6)			
			ITA7C	ITA7M2	ITA7M1	ITA7M0	ITA6C	ITA6M2	ITA6M1	ITA6M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTETB0	INTTB00 & INTTB01 Enable	00D8H	INTTB01 (TMRB0)				INTTB00 (TMRB0)			
			ITB01C	ITB01M2	ITB01M1	ITB01M0	ITB00C	ITB00M2	ITB00M1	ITB00M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTETB1	INTTB10 & INTTB11 Enable	00D9H	INTTB11 (TMRB1)				INTTB10 (TMRB1)			
			ITB11C	ITB11M2	ITB11M1	ITB11M0	ITB10C	ITB10M2	ITB10M1	ITB10M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTES0	INTRX0 & INTTX0 Enable	00DBH	INTTX0				INTRX0			
			ITX0C	ITX0M2	ITX0M1	ITX0M0	IRX0C	IRX0M2	IRX0M1	IRX0M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTES1	INTRX1 & INTTX1 Enable	00DCH	INTTX1				INTRX1			
			ITX1C	ITX1M2	ITX1M1	ITX1M0	IRX1C	IRX1M2	IRX1M1	IRX1M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0

Not Recommended for New Design

(2) 割り込み制御 (2/4)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
INTESBIADM	INTSBI & INTADM Enable	00E0H	INTADM				INTSBI			
			IADM0C	IADMM2	IADMM1	IADMM0	ISBI0C	ISBIM2	ISBIM1	ISBIM0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTESPI	INTSPI Enable	00E1H	INTSPITX				INTSPIRX			
			ISPITC	ISPITM2	ISPITM1	ISPITM0	ISPIRC	ISPIRM2	ISPIRM1	ISPIRM0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTEUSB	INTUSB Enable	00E3H	–				INTUSB			
			–	–	–	–	IUSBC	IUSBM2	IUSBM1	IUSBM0
			–	–			R	R/W		
			“0”をライトしてください				0	0	0	0
INTEALM	INTALM Enable	00E5H	–				INTALM			
			–	–	–	–	IALMC	IALMM2	IALMM1	IALMM0
			–	–			R	R/W		
			“0”をライトしてください				0	0	0	0
INTERTC	INTRTC Enable	00E8H	–				INTRTC			
			–	–	–	–	IRC	IRM2	IRM1	IRM0
			–	–			R	R/W		
			“0”をライトしてください				0	0	0	0
INTEKEY	INTKEY Enable	00E9H	–				INTKEY			
			–	–	–	–	IKC	IKM2	IKM1	IKM0
			–	–			R	R/W		
			“0”をライトしてください				0	0	0	0
INTELCD	INTLCD Enable	00EAH	–				INTLCD			
			–	–	–	–	ILCD1C	ILCDM2	ILCDM1	ILCDM0
			–	–			R	R/W		
			“0”をライトしてください				0	0	0	0
INTEI2S0	INTI2S0 Enable	00EBH	–				INTI2S0			
			–	–	–	–	II2S0C	II2S0M2	II2S0M1	II2S0M0
			–	–			R	R/W		
			“0”をライトしてください				0	0	0	0
INTENDFC	INTRSC & INTRDY Enable	00ECH	INTRSC				INTRDY			
			IRSCC	IRSCM2	IRSCM1	IRSCM0	IRDYC	IRDYM2	IRDYM1	IRDYM0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTEP0	INTP0 Enable	00EEH	–				INTP0			
			–	–	–	–	IP0C	IP0M2	IP0M1	IP0M0
			–	–			R	R/W		
			“0”をライトしてください				0	0	0	0
INTEAD	INTAD & INTADHP Enable	00EFH	INTADHP				INTAD			
			IADHPC	IADHPM2	IADHPM1	IADHPM0	IADC	IADM2	IADM1	IADM0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0

Not Recommended for New Design

(2) 割り込み制御 (3/4)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
INTETC01 /INTEDMA01	INTTC0/INTDMA0 & INTTC1/INTDMA1 Enable	00F1H	INTTC1/INTDMA1				INTTC0/INTDMA0			
			ITC1C /IDMA1C	ITC1M2 /IDMA1M2	ITC1M1 /IDMA1M1	ITC1M0 /IDMA1M0	ITC0C /IDMA0C	ITC0M2 /IDMA0M2	ITC0M1 /IDMA0M1	ITC0M0 /IDMA0M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTETC23 /INTEDMA23	INTTC2/INTDMA2 & INTTC3/INTDMA3 Enable	00F2H	INTTC3/INTDMA3				INTTC2/INTDMA2			
			ITC3C /IDMA3C	ITC3M2 /IDMA3M2	ITC3M1 /IDMA3M1	ITC3M0 /IDMA3M0	ITC2C /IDMA2C	ITC2M2 /IDMA2M2	ITC2M1 /IDMA2M1	ITC2M0 /IDMA2M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTETC45 /INTEDMA45	INTTC4/INTDMA4 & INTTC5/INTDMA5 Enable	00F3H	INTTC5/INTDMA5				INTTC4/INTDMA4			
			ITC5C /IDMA5C	ITC5M2 /IDMA5M2	ITC5M1 /IDMA5M1	ITC5M0 /IDMA5M0	ITC4C /IDMA4C	ITC4M2 /IDMA4M2	ITC4M1 /IDMA4M1	ITC4M0 /IDMA4M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTETC67	INTTC6 & INTTC7 Enable	00F4H	INTTC7 (DMA7)				INTTC6 (DMA6)			
			ITC7C	ITC7M2	ITC7M1	ITC7M0	ITC6C	ITC6M2	ITC6M1	ITC6M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
SIMC	SIO Interrupt mode control	00F5H (RMW 禁)	–	–					IR1LE	IR0LE
			W						W	
			0	0					1	1
			“0”をライトしてください	“0”をライトしてください					0:INTRX1 エッジモード 1:INTRX1 レベルモード	0:INTRX0 エッジモード 1:INTRX0 レベルモード
IIMC0	Interrupt Input mode control 0	00F6H (RMW 禁)	I5EDGE	I4EDGE	I3EDGE	I2EDGE	I1EDGE	I0EDGE	I0LE	–
			W						R/W	
			0	0	0	0	0	0	0	0
			INT5 エッジ 0:立ち上がり 1:立ち下がり	INT4 エッジ 0:立ち上がり 1:立ち下がり	INT3 エッジ 0:立ち上がり 1:立ち下がり	INT2 エッジ 0:立ち上がり 1:立ち下がり	INT1 エッジ 0:立ち上がり 1:立ち下がり	INT0 エッジ 0:立ち上がり 1:立ち下がり	0:INT0 エッジモード 1:INT0 レベルモード	“0”をライトしてください。
INTWDT	INTWD Flag	00F7H	–				INTWD			
			–	–	–	–	ITCWD	–	–	–
			–	–			R	–	–	–
			“0”をライトしてください				0	–	–	–
INTCLR	Interrupt clear control	00F8H (RMW 禁)	CLRV7	CLRV6	CLRV5	CLRV4	CLRV3	CLRV2	CLRV1	CLRV0
			W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			割り込み ベクタ							
IIMC1	Interrupt Input mode control 1	00FAH (RMW 禁)							I7EDGE	I6EDGE
									W	
									0	0
									INT7 エッジ 0:立ち上がり 1:立ち下がり	INT6 エッジ 0:立ち上がり 1:立ち下がり

Not Recommended for New Design

(2) 割り込み制御 (4/4)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
DMA0V	DMA0 start vector	0100H			DMA0V5	DMA0V4	DMA0V3	DMA0V2	DMA0V1	DMA0V0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					DMA0 起動ベクタ					
DMA1V	DMA1 start vector	0101H			DMA1V5	DMA1V4	DMA1V3	DMA1V2	DMA1V1	DMA1V0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					DMA1 起動ベクタ					
DMA2V	DMA2 start vector	0102H			DMA2V5	DMA2V4	DMA2V3	DMA2V2	DMA2V1	DMA2V0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					DMA2 起動ベクタ					
DMA3V	DMA3 start vector	0103H			DMA3V5	DMA3V4	DMA3V3	DMA3V2	DMA3V1	DMA3V0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					DMA3 起動ベクタ					
DMA4V	DMA4 start vector	0104H			DMA4V5	DMA4V4	DMA4V3	DMA4V2	DMA4V1	DMA4V0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					DMA4 起動ベクタ					
DMA5V	DMA5 start vector	0105H			DMA5V5	DMA5V4	DMA5V3	DMA5V2	DMA5V1	DMA5V0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					DMA5 起動ベクタ					
DMA6V	DMA6 start vector	0106H			DMA6V5	DMA6V4	DMA6V3	DMA6V2	DMA6V1	DMA6V0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					DMA6 起動ベクタ					
DMA7V	DMA7 start vector	0107H			DMA7V5	DMA7V4	DMA7V3	DMA7V2	DMA7V1	DMA7V0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					DMA7 起動ベクタ					
DMAB	DMA burst	0108H	DBST7	DBST6	DBST5	DBST4	DBST3	DBST2	DBST1	DBST0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			1: DMA のバースト要求							
DMAR	DMA request	0109H (RMW 禁)	DREQ7	DREQ6	DREQ5	DREQ5	DREQ4	DREQ3	DREQ2	DREQ1
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			1: DMA のソフト要求							
DMASEL	Micro DMA/HDMA Select	010AH			DMASEL5	DMASEL4	DMASEL3	DMASEL2	DMASEL1	DMASEL0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					0:マイクロ DMA5 1:HDMA5	0:マイクロ DMA4 1:HDMA4	0:マイクロ DMA3 1:HDMA3	0:マイクロ DMA2 1:HDMA2	0:マイクロ DMA1 1:HDMA1	0:マイクロ DMA0 1:HDMA0

Not Recommended for New Design

(3) メモリコントローラ (1/4)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
B0CSL	BLOCK0 CS/WAIT control register low	0140H	B0WW3	B0WW2	B0WW1	B0WW0	B0WR3	B0WR2	B0WR1	B0WR0
			R/W							
			0	0	1	0	0	0	1	0
			ライトサイクルウェイト数 0001: 0 ウェイト 0010: 1 ウェイト 0101: 2 ウェイト 0110: 3 ウェイト 0111: 4 ウェイト 1000: 5 ウェイト 1001: 6 ウェイト 1010: 7 ウェイト 1011: 8 ウェイト 1100: 9 ウェイト 1101: 10 ウェイト 1110: 12 ウェイト 1111: 16 ウェイト 0100: 20 ウェイト 0011: 6 ステート + $\overline{\text{WAIT}}$ 端子入力モード その他: Reserved				リードサイクルウェイト数 0001: 0 ウェイト 0010: 1 ウェイト 0101: 2 ウェイト 0110: 3 ウェイト 0111: 4 ウェイト 1000: 5 ウェイト 1001: 6 ウェイト 1010: 7 ウェイト 1011: 8 ウェイト 1100: 9 ウェイト 1101: 10 ウェイト 1110: 12 ウェイト 1111: 16 ウェイト 0100: 20 ウェイト 0011: 6 ステート + $\overline{\text{WAIT}}$ 端子入力モード その他: Reserved			
B0CSH	BLOCK0 CS/WAIT control register high	0141H	B0E			B0REC	B0OM1	B0OM0	B0BUS1	B0BUS0
			R/W			R/W				
			0			0	0	0	0	0
			CS 選択 0:ディセーブル 1:イネーブル			ダミーサイクル 0:挿入しない 1:挿入する	00: ROM/SRAM 01: Reserved 10: Reserved 11: Reserved		データバス幅 00: 8 ビット 01: 16 ビット 10: Reserved 11: Don't set	
B1CSL	BLOCK1 CS/WAIT control register low	0144H	B1WW3	B1WW2	B1WW1	B1WW0	B1WR3	B1WR2	B1WR1	B1WR0
			R/W							
			0	0	1	0	0	0	1	0
			ライトサイクルウェイト数 0001: 0 ウェイト 0010: 1 ウェイト 0101: 2 ウェイト 0110: 3 ウェイト 0111: 4 ウェイト 1000: 5 ウェイト 1001: 6 ウェイト 1010: 7 ウェイト 1011: 8 ウェイト 1100: 9 ウェイト 1101: 10 ウェイト 1110: 12 ウェイト 1111: 16 ウェイト 0100: 20 ウェイト 0011: 6 ステート + $\overline{\text{WAIT}}$ 端子入力モード その他: Reserved				リードサイクルウェイト数 0001: 0 ウェイト 0010: 1 ウェイト 0101: 2 ウェイト 0110: 3 ウェイト 0111: 4 ウェイト 1000: 5 ウェイト 1001: 6 ウェイト 1010: 7 ウェイト 1011: 8 ウェイト 1100: 9 ウェイト 1101: 10 ウェイト 1110: 12 ウェイト 1111: 16 ウェイト 0100: 20 ウェイト 0011: 6 ステート + $\overline{\text{WAIT}}$ 端子入力モード その他: Reserved			
B1CSH	BLOCK1 CS/WAIT control register high	0145H	B1E			B1REC	B1OM1	B1OM0	B1BUS1	B1BUS0
			R/W			R/W				
			0			0	0	0	0	0
			CS 選択 0:ディセーブル 1:イネーブル			ダミーサイクル 0:挿入しない 1:挿入する	00: ROM/SRAM 01: Reserved 10: Reserved 11: SDRAM		データバス幅 00: 8 ビット 01: 16 ビット 10: Reserved 11: Don't set	
B2CSL	BLOCK2 CS/WAIT control register low	0148H	B2WW3	B2WW2	B2WW1	B2WW0	B2WR3	B2WR2	B2WR1	B2WR0
			R/W							
			0	0	1	0	0	0	1	0
			ライトサイクルウェイト数 0001: 0 ウェイト 0010: 1 ウェイト 0101: 2 ウェイト 0110: 3 ウェイト 0111: 4 ウェイト 1000: 5 ウェイト 1001: 6 ウェイト 1010: 7 ウェイト 1011: 8 ウェイト 1100: 9 ウェイト 1101: 10 ウェイト 1110: 12 ウェイト 1111: 16 ウェイト 0100: 20 ウェイト 0011: 6 ステート + $\overline{\text{WAIT}}$ 端子入力モード その他: Reserved				リードサイクルウェイト数 0001: 0 ウェイト 0010: 1 ウェイト 0101: 2 ウェイト 0110: 3 ウェイト 0111: 4 ウェイト 1000: 5 ウェイト 1001: 6 ウェイト 1010: 7 ウェイト 1011: 8 ウェイト 1100: 9 ウェイト 1101: 10 ウェイト 1110: 12 ウェイト 1111: 16 ウェイト 0100: 20 ウェイト 0011: 6 ステート + $\overline{\text{WAIT}}$ 端子入力モード その他: Reserved			
B2CSH	BLOCK2 CS/WAIT control register high	0149H	B2E	B2M		B2REC	B2OM1	B2OM0	B2BUS1	B2BUS0
			R/W			R/W				
			1	0		0	0	0	0	1
			CS 選択 0:ディセーブル 1:イネーブル	0:16MB 1:エリア設定		ダミーサイクル 0:挿入しない 1:挿入する	00: ROM/SRAM 01: Reserved 10: Reserved 11: SDRAM		データバス幅 00: 8 ビット 01: 16 ビット 10: Reserved 11: Don't set	

Not Recommended for New Design

(3) メモリコントローラ (2/4)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
B3CSL	BLOCK3 CS/WAIT control register low	014CH	B3WW3	B3WW2	B3WW1	B3WW0	B3WR3	B3WR2	B3WR1	B3WR0
			R/W							
			0	0	1	0	0	0	1	0
			ライトサイクルウェイト数 0001: 0 ウェイト 0010: 1 ウェイト 0101: 2 ウェイト 0110: 3 ウェイト 0111: 4 ウェイト 1000: 5 ウェイト 1001: 6 ウェイト 1010: 7 ウェイト 1011: 8 ウェイト 1100: 9 ウェイト 1101: 10 ウェイト 1110: 12 ウェイト 1111: 16 ウェイト 0100: 20 ウェイト 0011: 6 ステート + $\overline{WAIT}$ 端子入力モード その他: Reserved				リードサイクルウェイト数 0001: 0 ウェイト 0010: 1 ウェイト 0101: 2 ウェイト 0110: 3 ウェイト 0111: 4 ウェイト 1000: 5 ウェイト 1001: 6 ウェイト 1010: 7 ウェイト 1011: 8 ウェイト 1100: 9 ウェイト 1101: 10 ウェイト 1110: 12 ウェイト 1111: 16 ウェイト 0100: 20 ウェイト 0011: 6 ステート + $\overline{WAIT}$ 端子入力モード その他: Reserved			
B3CSH	BLOCK3 CS/WAIT control register high	014DH	B3E			B3REC	B3OM1	B3OM0	B3BUS1	B3BUS0
			R/W			R/W				
			0			0	0	0	0	0
			CS 選択 0:ディセーブル 1:イネーブル			ダミーサイクル 0:挿入しない 1:挿入する	00: ROM/SRAM 01: Reserved 10: Reserved 11: Reserved		データバス幅 00: 8 ビット 01: 16 ビット 10: Reserved 11: Don't set	
BEXCSL	BLOCK EX CS/WAIT control register low	0158H	BEXWW3	BEXWW2	BEXWW1	BEXWW0	BEXWR3	BEXWR2	BEXWR1	BEXWR0
			R/W							
			0	0	1	0	0	0	1	0
			ライトサイクルウェイト数 0001: 0 ウェイト 0010: 1 ウェイト 0101: 2 ウェイト 0110: 3 ウェイト 0111: 4 ウェイト 1000: 5 ウェイト 1001: 6 ウェイト 1010: 7 ウェイト 1011: 8 ウェイト 1100: 9 ウェイト 1101: 10 ウェイト 1110: 12 ウェイト 1111: 16 ウェイト 0100: 20 ウェイト 0011: 6 ステート + $\overline{WAIT}$ 端子入力モード その他: Reserved				リードサイクルウェイト数 0001: 0 ウェイト 0010: 1 ウェイト 0101: 2 ウェイト 0110: 3 ウェイト 0111: 4 ウェイト 1000: 5 ウェイト 1001: 6 ウェイト 1010: 7 ウェイト 1011: 8 ウェイト 1100: 9 ウェイト 1101: 10 ウェイト 1110: 12 ウェイト 1111: 16 ウェイト 0100: 20 ウェイト 0011: 6 ステート + $\overline{WAIT}$ 端子入力モード その他: Reserved			
BEXCSH	BLOCK EX CS/WAIT control register high	0159H				BEXREC	BEXOM1	BEXOM0	BEXBUS1	BEXBUS0
						R/W				
						0	0	0	0	0
						ダミーサイクル 0:挿入しない 1:挿入する	00: ROM/SRAM 01: Reserved 10: Reserved 11: Reserved		00: 8 ビット 01: 16 ビット 10: Reserved 11: Don't set	

Not Recommended for New Design

(3) メモリコントローラ (3/4)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
MAMR0	Memory address mask register 0	0142H	M0V20	M0V19	M0V18	M0V17	M0V16	M0V15	M0V14-9	M0V8
			R/W							
			1	1	1	1	1	1	1	1
			0: 比較許可 1: 比較禁止							
MSAR0	Memory start address register 0	0143H	M0S23	M0S22	M0S21	M0S20	M0S19	M0S18	M0S17	M0S16
			R/W							
			1	1	1	1	1	1	1	1
			スタートアドレス A23 to A16 設定							
MAMR1	Memory address mask register 1	0146H	M1V21	M1V20	M1V19	M1V18	M1V17	M1V16	MV15-9	M1V8
			R/W							
			1	1	1	1	1	1	1	1
			0: 比較許可 1: 比較禁止							
MSAR1	Memory start address register 1	0147H	M1S23	M1S22	M1S21	M1S20	M1S19	M1S18	M1S17	M1S16
			R/W							
			1	1	1	1	1	1	1	1
			スタートアドレス A23 to A16 設定							
MAMR2	Memory address mask register 2	014AH	M2V22	M2V21	M2V20	M2V19	M2V18	M2V17	M2V16	M2V15
			R/W							
			1	1	1	1	1	1	1	1
			0: 比較許可 1: 比較禁止							
MSAR2	Memory start address register 2	014BH	M2S23	M2S22	M2S21	M2S20	M2S19	M2S18	M2S17	M2S16
			R/W							
			1	1	1	1	1	1	1	1
			スタートアドレス A23 to A16 設定							
MAMR3	Memory address mask register 3	014EH	M3V22	M3V21	M3V20	M3V19	M3V18	M3V17	M3V16	M3V15
			R/W							
			1	1	1	1	1	1	1	1
			0: 比較許可 1: 比較禁止							
MSAR3	Memory start address register 3	014FH	M3S23	M3S22	M3S21	M3S20	M3S19	M3S18	M3S17	M3S16
			R/W							
			1	1	1	1	1	1	1	1
			スタートアドレス A23 to A16 設定							

Not Recommended for New Design

(3) メモリコントローラ (4/4)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
PMEMCR	Page ROM control register	0166H				OPGE	OPWR1	OPWR0	PR1	PR0
						R/W				
						0	0	0	1	0
						ROM ページ アクセス 0: ディセーブル 1:イネーブル	ページ中ウェイト数 00: 1 クロック (n-1-1-1 モード) 01: 2 クロック (n-2-2-2 モード) 10: 3 クロック (n-3-3-3 モード) 11: Reserved		1 ページ中バイト数 00: 64 バイト 01: 32 バイト 10: 16 バイト 11: 8 バイト	
CSTMGCR	Adjust for Timing of control signal	0168H			TACSEL1	TACSEL0			TAC1	TAC0
					R/W				R/W	
					0	0			0	0
					Select area to change timing 00: CS0 01: CS1 10: CS2 11: CS3				Select delay time(TAC) 00: 0 × 1/f_{SYS} 01: 1 × 1/f_{SYS} 10: 2 × 1/f_{SYS} 11: Reserved	
WRTMGCR	Adjust for Timing of control signal	0169H			TCWSEL1	TCWSEL0	TCWS1	TCWS0	TCWH1	TCWH0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					Select area to change timing 00: CS0 01: CS1 10: CS2 11: CS3		Select delay time(TCWS) 00: 0.5 × 1/f_{SYS} 01: 1.5 × 1/f_{SYS} 10: 2.5 × 1/f_{SYS} 11: 3.5 × 1/f_{SYS}		Select delay time(TCWH) 00: 0.5 × 1/f_{SYS} 01: 1.5 × 1/f_{SYS} 10: 2.5 × 1/f_{SYS} 11: 3.5 × 1/f_{SYS}	
RDTMGCR0	Adjust for Timing of control signal	016AH	B1TCRS1	B1TCRS0	B1TCRH1	B1TCRH0	B0TCRS1	B0TCRS0	B0TCRH1	B0TCRH0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Select delay time(TCRS) 00: 0.5 × 1/f_{SYS} 01: 1.5 × 1/f_{SYS} 10: 2.5 × 1/f_{SYS} 11: 3.5 × 1/f_{SYS}		Select delay time(TCRH) 00: 0 x 1/f_{SYS} 01: 1 x 1/f_{SYS} 10: 2 x 1/f_{SYS} 11: 3 x 1/f_{SYS}		Select delay time(TCRS) 00: 0.5 x 1/f_{SYS} 01: 1.5 x 1/f_{SYS} 10: 2.5 x 1/f_{SYS} 11: 3.5 x 1/f_{SYS}		Select delay time(TCRH) 00: 0 x 1/f_{SYS} 01: 1 x 1/f_{SYS} 10: 2 x 1/f_{SYS} 11: 3 x 1/f_{SYS}	
RDTMGCR1	Adjust for Timing of control signal	016BH	B3TCRS1	B3TCRS0	B3TCRH1	B3TCRH0	B2TCRS1	B2TCRS0	B2TCRH1	B2TCRH0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Select delay time(TCRS) 00: 0.5 × 1/f_{SYS} 01: 1.5 × 1/f_{SYS} 10: 2.5 × 1/f_{SYS} 11: 3.5 × 1/f_{SYS}		Select delay time(TCRH) 00: 0 × 1/f_{SYS} 01: 1 × 1/f_{SYS} 10: 2 × 1/f_{SYS} 11: 3 × 1/f_{SYS}		Select delay time(TCRS) 00: 0.5 × 1/f_{SYS} 01: 1.5 × 1/f_{SYS} 10: 2.5 × 1/f_{SYS} 11: 3.5 × 1/f_{SYS}		Select delay time(TCRH) 00: 0 × 1/f_{SYS} 01: 1 × 1/f_{SYS} 10: 2 × 1/f_{SYS} 11: 3 × 1/f_{SYS}	
BROMCR	Boot Rom Control register	016CH						CSDIS	ROMLESS	VACE
								R/W		
								1	0/1	1/0
								Nand-Flash Area CS Output 0: Enable 1: Disable	ブート ROM 0: 使用 1: バイパス	ベクタ アドレス 変換 0: 禁止 1: 許可
RAMCR	RAM Control register	016DH								–
										R/W
										1
										“1”をライトしてください。

Not Recommended for New Design

(4) TSI

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
TSICR0	TSI control register0	01F0H	TSI7	INGE	PTST	TWIEN	PYEN	PXEN	MYEN	MXEN
			R/W		R	R/W				
			0	0	0	0	0	0	0	0
			0: 禁止 1: 許可	ポート P96,97 の入力ゲート制御 0: 許可 1: 禁止	検出状態 0 :検出無 1 :検出中	INT4 割り込み制御 0: 禁止 1: 許可	SPY 0: OFF 1: ON	SPX 0: OFF 1: ON	SMY 0: OFF 1: ON	SMX 0: OFF 1: ON
TSICR1	TSI control register1	01F1H	DBC7	DB1024	DB256	DB64	DB8	DB4	DB2	DB1
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			0: 禁止 1: 許可	1024	256	64	8	4	2	1
				デバウンス時間は“(N*64-16) / f_{SYS}”の式により設定されます。 “N” はビット 6 からビット 0 に”1”を設定した数の総計を表します。						

Not Recommended for New Design

(5) SDRAM コントローラ

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
SDACR	SDRAM access control register	0250H	SRDS	–	SMUXW1	SMUXW0	SPRE			SMAC
			R/W							R/W
			1	0	0	0	0			0
			リードデータシフト機能 0: Disable 1: Enable	“0”をライトしてください	アドレスマルチプレクスタイプ選択 00: TypeA (A9-) 01: TypeB (A10-) 10: TypeC (A11-) 11: Reserved		リード/ライトコマンド選択 0:Without Auto Precharge 1: With Auto Precharge			SDRAM コントローラ 0: 禁止 1: 許可
SDCISR	SDRAM command clock register	0251H		STMRD	STWR	STRP	STRCD	STRC2	STRC1	STRC0
				R/W						
				1	1	1	1	1	0	0
				TMRD 0: 1CLK 1: 2CLK	TWR 0: 1CLK 1: 2CLK	TRP 0: 1CLK 1: 2CLK	TRCD 0: 1CLK 1: 2CLK	TRC 000: 1CLK 100: 5CLK 001: 2CLK 101: 6CLK 010: 3CLK 110: 7CLK 011: 4CLK 111: 8CLK		
SDRCR	SDRAM refresh control register	0252H	–			SSAE	SRS2	SRS1	SRS0	SRC
			R/W			R/W				
			0			1	0	0	0	0
			“0”をライトしてください			SR Auto Exit Function 0:Disable 1:Enable	リフレッシュ間隔 000: 47state 100: 468state 001: 78state 101: 624state 010:156state 110: 936state 011:312state 111:1248state			オートリフレッシュ 0: Disable 1: Enable
SDCMM	SDRAM command register	0253H						SCMM2	SCMM1	SCMM0
								R/W		
								0	0	0
								コマンド発行 (注 1) (注 2) 000: Don’t care 001: イニシャライズコマンド発行 a.全バンクプリチャージコマンド b. 8 回のオートリフレッシュコマンド c.モードレジスタセットコマンド 010: 全バンクプリチャージコマンド 100: Reserved 101: セルフリフレッシュ ENTRY コマンド 110: セルフリフレッシュ EXIT コマンド その他: Reserved		
SDBLS	SDRAM HDMA burst length register	0254H			SDBL5	SDBL4	SDBL3	SDBL2	SDBL1	SDBL0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					HDMA5 用	HDMA4 用	HDMA3 用	HDMA2 用	HDMA1 用	HDMA0 用
					HDMA バースト長選択 0: 1 Word Read/Single Write 1: Full Page Read/Burst Write					

Not Recommended for New Design

(6) LCD コントローラ (1/4)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
LCDMODE0	LCD mode0 register	0280H	RAMTYPE1	RAMTYPE0	SCPW1	SCPW0	MODE3	MODE2	MODE1	MODE0
			R/W							
			0	0	1	1	0	0	0	0
			表示 RAM 00:内蔵 SRAM 01:外部 SRAM 10:SDRAM 11:Reserved		LD バス転送速度 SCPW2 = 0 00: 2-clk 01: 4-clk 10: 8-clk 11: 16-clk SCPW2 = 1 00: 6-clk 01: 12-clk 10: 24-clk 11: 48-clk		モード選択 0000: Reserved 0001: SR 型モノクロ 0010: SR 型 4Gray 0011: Reserved 0100: SR 型 16Gray 0101: SR 型 64Gray 0110: STN256 色 0111: STN4096 色		1000: STN64k 色 1001: Reserved 1010: TFT256 色 1011: TFT4096 色 1100: TFT64k 色 1101: Reserved 1110: TFT モノクロ 1111: Reserved	
LCDMODE1	LCD mode1 register	0281H	LDC2	LDC1	LDC0	LDINV	AUTOINV	INTMODE	FREDGE	SCPW2
			R/W						W	
			0	0	0	0	0	0	0	0
			データ変換機能 (64K カラー:16bps のみ対応) 000: 通常 001: 左右反転 010: 上下反転 011: 上下左右		100: 横 → 縦 101: Reserved 110: Reserved 111: Reserved	LD バス反転 0:ノーマル 1:反転	自動バス反転 0:停止 1:動作(TFT 設定時のみ有効)	割り込み選択 0:LLOAD 1:LVSYNC	FR エッジ切り替え 0:LHSYNC 前エッジ同期 1:LHSYNC 後エッジ同期	LD バス転送速度 0: normal 1: 1/3 設定
LCDDVM0	LCD divide frame0 register	0283H	FMP3	FMP2	FMP1	FMP0	FML3	FML2	FML1	FML0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Setting LCP0 DVM bit 3-0				Setting LHSYNC DVM bit 3-0			
LCDDVM1	LCD divide frame1 register	0288H	FMP7	FMP6	FMP5	FMP4	FML7	FML6	FML5	FML4
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Setting LCP0 DVM bit 7-4				Setting LHSYNC DVM bit 7-4			
LCDSIZE	LCD size register	0284H	COM3	COM2	COM1	COM0	SEG3	SEG2	SEG1	SEG0
			R/W				R/W			
			0	0	0	0	0	0	0	0
			コモン設定 0000: Reserved 0001: 64 0010: 96 0011: 120 0100: 128 0101: 160 0110: 200 0111: 240		1000: 320 1001: 480 1010: Reserved 1011: Reserved 1100: Reserved 1101: Reserved 1110: Reserved 1111: Reserved		セグメント設定 0000: Reserved 0001: 64 0010: 128 0011: 160 0100: 240 0101: 320 0110: 480 0111: 640		1000: Reserved 1001: Reserved 1010: Reserved 1011: Reserved 1100: Reserved 1101: Reserved 1110: Reserved 1111: Reserved	
LCDCTL0	LCD control0 register	0285H	PIPE	ALL0	FRMON	–		DLS	LCP0OC	START
			R/W					R/W		
			0	0	0	0		0	0	0
			PIP 機能 0:Disable 1:Enable	セグメントデータ設定 0:通常 1:出力 (全て “0”)	FR 分割設定 0:停止 1:動作	“0”をライトしてください。		FR 信号 LCP0/Line 切り替え 0:Line 1:LCP0	LCP0 0: 常に出力 1:有効データ出力時 LLOAD Enable 幅 0:設定値 1:有効データ出力時	LCDC 動作 0:停止 1:動作

Not Recommended for New Design

(6) LCD コントローラ (2/4)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
LCDCTL1	LCD control1 register	0286H	LCP0P	LHSP	LVSP	LLDP			LVSW1	LVSW0
			R/W	R/W	R/W	R/W			R/W	R/W
			1	0	1	0			0	0
			LCP0 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり	LHSYNC 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり	LVSYNC 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり	LLOAD 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり			LVSYNC イネーブル時間制御 00: LVSYNC_1CLK 01: LVSYNC_2CLK 10: LVSYNC_3CLK 11: Reserved	
LCDCTL2	LCD control2 register	0287H	LGOE2P	LGOE1P	LGOE0P					
			R/W							
			0	0	0					
			LGOE2 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり	LGOE1 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり	LGOE0 位相 0:立ち上がり 1:立ち下がり					
LCDHSP	LHSYNC Pulse register	028AH	LH7	LH6	LH5	LH4	LH3	LH2	LH1	LH0
			W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Setting bit 7-0 for LHSYNC cycle							
		028BH	LH15	LH14	LH13	LH12	LH11	LH10	LH9	LH8
			W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Setting bit 15-8 for LHSYNC cycle							
LCDVSP	LVSYNC Pulse register	028CH	LVP7	LVP6	LVP5	LVP4	LVP3	LVP2	LVP1	LVP0
			W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Setting bit 7-0 for LVSYNC cycle							
		028DH							LVP9	LVP8
									W	
									0	0
									Setting bit 9-8 for LVSYNC cycle	
LCDPRVSP	LVSYNC Pre Pulse register	028EH		PLV6	PLV5	PLV4	PLV3	PLV2	PLV1	PLV0
				W						
				0	0	0	0	0	0	0
				Setting bit 6-0 for LVSYNC Pre-cycle						
LCDHSDLY	LHSYNC Delay register	028FH		HSD6	HSD5	HSD4	HSD3	HSD2	HSD1	HSD0
				W						
				0	0	0	0	0	0	0
				Setting bit 6-0 for LVSYNC Delay						
LCDLDDLY	LLOAD Delay register	0290H	PDT	LDD6	LDD5	LDD4	LDD3	LDD2	LDD1	LDD0
			R/W	W						
			0	0	0	0	0	0	0	0
			データ出力タイミング 0: 同時 1:1clk 遅	Setting bit 6-0 for LLOAD Delay						

Not Recommended for New Design

(6) LCD コントローラ (3/4)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
LCDO0DLY	LGOE0 Delay register	0291H		OE0D6	OE0D5	OE0D4	OE0D3	OE0D2	OE0D1	OE0D0
				W						
				0	0	0	0	0	0	0
				Setting bit 6-0 for LGOE0 Delay						
LCDO1DLY	LGOE1 Delay register	0292H		OE1D6	OE1D5	OE1D4	OE1D3	OE1D2	OE1D1	OE1D0
				W						
				0	0	0	0	0	0	0
				Setting bit 6-0 for LGOE1 Delay						
LCDO2DLY	LGOE2 Delay register	0293H		OE2D6	OE2D5	OE2D4	OE2D3	OE2D2	OE2D1	OE2D0
				W						
				0	0	0	0	0	0	0
				Setting bit 6-0 for LGOE2 Delay						
LCDHSW	LHSYNC width register	0294H	HSW7	HSW6	HSW5	HSW4	HSW3	HSW2	HSW1	HSW0
			W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Setting bit 7-0 for LHSYNC Width							
LCDLDW	LLOAD width register	0295H	LDW7	LDW6	LDW5	LDW4	LDW3	LDW2	LDW1	LDW0
			W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Setting bit 7-0 for LLOAD Width							
LCDHO0W	LGOE0 width register	0296H	O0W7	O0W6	O0W5	O0W4	O0W3	O0W2	O0W1	O0W0
			W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Setting bit 7-0 for LGOE0 Width							
LCDHO1W	LGOE1 width register	0297H	O1W7	O1W6	O1W5	O1W4	O1W3	O1W2	O1W1	O1W0
			W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Setting bit 7-0 for LGOE1 Width							
LCDHO2W	LGOE2 width register	0298H	O2W7	O2W6	O2W5	O2W4	O2W3	O2W2	O2W1	O2W0
			W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Setting bit 7-0 for LGOE2 Width							
LCDHWB8	Bit 8,9 for signal width register	0299H	O2W9	O2W8	O1W9	O1W8	O0W8	LDW9	LDW8	HSW8
			W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Setting bit 8,9 for LGOE2 Width		Setting bit 8,9 for LGOE1 Width		Setting bit 8 for LGOE0 Width	Setting bit 8,9 for LLOAD Width		Setting bit 8 for LHSYNC Width

Not Recommended for New Design

(6) LCD コントローラ (4/4)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
LSAML	Start address register LCD main-L	02A0H	LMSA7	LMSA6	LMSA5	LMSA4	LMSA3	LMSA2	LMSA1	
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	
			LCD メインエリア スタートアドレス(A7-A1)							
LSAMM	Start address register LCD main-M	02A1H	LMSA15	LMSA14	LMSA13	LMSA12	LMSA11	LMSA10	LMA9	LMSA8
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			LCD メインエリア スタートアドレス(A15-A8)							
LSAMH	Start address register LCD main-H	02A2H	LMSA23	LMSA22	LMSA21	LMSA20	LMSA19	LMSA18	LMSA17	LMSA16
			R/W							
			0	1	0	0	0	0	0	0
			LCD メインエリア スタートアドレス(A23-A16)							
LSASL	Start address register LCD sub-L	02A4H	LSSA7	LSSA6	LSSA5	LSSA4	LSSA3	LSSA2	LSSA1	
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	
			LCD サブエリア スタートアドレス(A7-A1)							
LSASM	Start address register LCD sub -M	02A5H	LSSA15	LSSA14	LSSA13	LSSA12	LSSA11	LSSA10	LSSA9	LSSA8
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			LCD サブエリア スタートアドレス(A15-A8)							
LSASH	Start address register LCD sub -H	02A6H	LSSA23	LSSA22	LSSA21	LSSA20	LSSA19	LSSA18	LSSA17	LSSA16
			R/W							
			0	1	0	0	0	0	0	0
			LCD サブエリア スタートアドレス(A23-A16)							
LSAHX	Hot point register LCD sub -X	02A8H	SAHX7	SAHX6	SAHX5	SAHX4	SAHX3	SAHX2	SAHX1	SAHX0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			LCD sub Area Hot Point Set Register (7-0)							
		02A9H							SAHX9	SAHX8
									R/W	
									0	0
									LCD sub Area Hot Point Set Register (9-8)	
LSAHY	Hot point register LCD sub -Y	02AAH	SAHY7	SAHY6	SAHY5	SAHY4	SAHY3	SAHY2	SAHY1	SAHY0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			LCD sub Area Hot Point Set Register (7-0)							
		02ABH								SAHY8
										R/W
										0
										LCD sub Area Hot Point Set Register (8)
LSASS	Segment size register LCD sub	02ACH	SAS7	SAS6	SAS5	SAS4	SAS3	SAS2	SAS1	SAS0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			LCD sub Area Segment Size Set Register (7-0)							
		02ADH							SAS9	SAS8
									R/W	
									0	0
									LCD sub Area Segment size Set Register (9-8)	
LSACS	Common size register LCD sub	02AEH	SAC7	SAC6	SAC5	SAC4	SAC3	SAC2	SAC1	SAC0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			LCD sub Area Common Size Set Register (7-0)							
		02AFH								SAC8
										R/W
										0
										LCD sub Area Common size Set register (8)

Not Recommended for New Design

(7) PMC

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
PMCCTL	PMC Control Register	02A0H	PCM_ON					–	WUTM1	WUTM0
			R/W					W	R/W	R/W
		システムリセット後	0					0	0	0
		Hot リセット後	–					–	–	–
			Power Cut 機能 0:Disable 1:Enable					“0”をライトしてください。 リードすると“0”になります。	Warm-up 時間設定 00: 2^9 (15.625 ms) 01: 2^{10} (31.25 ms) 10: 2^{11} (62.5 ms) 11: 2^{12} (125 ms)	

Not Recommended for New Design

(8) USB コントローラ(1/6)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
Descriptor RAM0	Descriptor RAM 0 register	0500H	D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0
			R/W							
			不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
Descriptor RAM1	Descriptor RAM 1 register	0501H	D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0
			R/W							
			不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
Descriptor RAM2	Descriptor RAM 2 register	0502H	D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0
			R/W							
			不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
Descriptor RAM3	Descriptor RAM 3 register	0503H	D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0
			R/W							
			不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
:	:	:	:							
Descriptor RAM381	Descriptor RAM 381 register	067DH	D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0
			R/W							
			不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
Descriptor RAM382	Descriptor RAM 382 register	067EH	D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0
			R/W							
			不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
Descriptor RAM383	Descriptor RAM 383 register	067FH	D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0
			R/W							
			不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
Endpoint0	Endpoint 0 register	0780H	EP0_DATA7	EP0_DATA6	EP0_DATA5	EP0_DATA4	EP0_DATA3	EP0_DATA2	EP0_DATA1	EP0_DATA0
			R/W							
			不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
Endpoint1	Endpoint 1 register	0781H	EP1_DATA7	EP1_DATA6	EP1_DATA5	EP1_DATA4	EP1_DATA3	EP1_DATA2	EP1_DATA1	EP1_DATA0
			R/W							
			不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
Endpoint2	Endpoint 2 register	0782H	EP2_DATA7	EP2_DATA6	EP2_DATA5	EP2_DATA4	EP2_DATA3	EP2_DATA2	EP2_DATA1	EP2_DATA0
			R/W							
			不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
Endpoint3	Endpoint 3 register	0783H	EP3_DATA7	EP3_DATA6	EP3_DATA5	EP3_DATA4	EP3_DATA3	EP3_DATA2	EP3_DATA1	EP3_DATA0
			R/W							
			不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
EP1_MODE	Endpoint 1 mode register	0789H			Payload[2]	Payload[1]	Payload[0]	Mode[1]	Mode[0]	Direction
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
EP2_MODE	Endpoint 2 mode register	078AH			Payload[2]	Payload[1]	Payload[0]	Mode[1]	Mode[0]	Direction
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
EP3_MODE	Endpoint 3 mode register	078BH			Payload[2]	Payload[1]	Payload[0]	Mode[1]	Mode[0]	Direction
					R/W					
					0	0	0	0	0	0

Not Recommended for New Design

(8) USB コントローラ(2/6)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
EP0_STATUS	Endpoint 0 status register	0790H		TOGGLE	SUSPEND	STATUS[2]	STATUS[1]	STATUS[0]	FIFO_DISABLE	STAGE_ERR
				R						
				0	0	1	1	1	0	0
EP1_STATUS	Endpoint 1 status register	0791H		TOGGLE	SUSPEND	STATUS[2]	STATUS[1]	STATUS[0]	FIFO_DISABLE	STAGE_ERR
				R						
				0	0	1	1	1	0	0
EP2_STATUS	Endpoint 2 status register	0792H		TOGGLE	SUSPEND	STATUS[2]	STATUS[1]	STATUS[0]	FIFO_DISABLE	STAGE_ERR
				R						
				0	0	1	1	1	0	0
EP3_STATUS	Endpoint 3 status register	0793H		TOGGLE	SUSPEND	STATUS[2]	STATUS[1]	STATUS[0]	FIFO_DISABLE	STAGE_ERR
				R						
				0	0	1	1	1	0	0
EP0_SIZE_L_A	Endpoint 0 size register Low A	0798H	PKT_ACTIVE	DATASIZE6	DATASIZE5	DATASIZE4	DATASIZE3	DATASIZE2	DATASIZE1	DATASIZE0
							R			
			1	0	0	0	1	0	0	0
EP1_SIZE_L_A	Endpoint 0 size register Low A	0799H	PKT_ACTIVE	DATASIZE6	DATASIZE5	DATASIZE4	DATASIZE3	DATASIZE2	DATASIZE1	DATASIZE0
							R			
			1	0	0	0	1	0	0	0
EP2_SIZE_L_A	Endpoint 2 size register Low A	079AH	PKT_ACTIVE	DATASIZE6	DATASIZE5	DATASIZE4	DATASIZE3	DATASIZE2	DATASIZE1	DATASIZE0
							R			
			1	0	0	0	1	0	0	0
EP3_SIZE_L_A	Endpoint 3 size register Low A	079BH	PKT_ACTIVE	DATASIZE6	DATASIZE5	DATASIZE4	DATASIZE3	DATASIZE2	DATASIZE1	DATASIZE0
							R			
			1	0	0	0	1	0	0	0
EP1_SIZE_L_B	Endpoint 1 size register Low B	07A1H	PKT_ACTIVE	DATASIZE6	DATASIZE5	DATASIZE4	DATASIZE3	DATASIZE2	DATASIZE1	DATASIZE0
							R			
			0	0	0	0	1	0	0	0
EP2_SIZE_L_B	Endpoint 2 size register Low B	07A2H	PKT_ACTIVE	DATASIZE6	DATASIZE5	DATASIZE4	DATASIZE3	DATASIZE2	DATASIZE1	DATASIZE0
							R			
			0	0	0	0	1	0	0	0
EP3_SIZE_L_B	Endpoint 3 size register Low B	07A3H	PKT_ACTIVE	DATASIZE6	DATASIZE5	DATASIZE4	DATASIZE3	DATASIZE2	DATASIZE1	DATASIZE0
							R			
			0	0	0	0	1	0	0	0
EP1_SIZE_H_A	Endpoint 1 size register High A	07A9H						DATASIZE9	DATASIZE8	DATASIZE7
								R		
								0	0	0
EP2_SIZE_H_A	Endpoint 2 size register High A	07AAH						DATASIZE9	DATASIZE8	DATASIZE7
								R		
								0	0	0
EP3_SIZE_H_A	Endpoint 3 size register HighA	07ABH						DATASIZE9	DATASIZE8	DATASIZE7
								R		
								0	0	0

Not Recommended for New Design

(8) USB コントローラ(3/6)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
EP1_SIZE_H_B	Endpoint 1 size register High B	07B1H						DATASIZE9	DATASIZE8	DATASIZE7
								R		
								0	0	0
EP2_SIZE_H_B	Endpoint 2 size register High B	07B2H						DATASIZE9	DATASIZE8	DATASIZE7
								R		
								0	0	0
EP3_SIZE_H_B	Endpoint 0 size register High B	07B3H						DATASIZE9	DATASIZE8	DATASIZE7
								R		
								0	0	0
bmRequestType	bmRequest -Type register	07C0H	DIRECTION	REQ_TYPE1	REQ_TYPE0	RECIPIENT4	RECIPIENT3	RECIPIENT2	RECIPIENT1	RECIPIENT0
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
bRequest	bRequest register	07C1H	REQUEST7	REQUEST6	REQUEST5	REQUEST4	REQUEST3	REQUEST2	REQUEST1	REQUEST0
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
wValue_L	wValue register Low	07C2H	VALUE_L7	VALUE_L6	VALUE_L5	VALUE_L4	VALUE_L3	VALUE_L2	VALUE_L1	VALUE_L0
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
wValue_H	wValue register High	07C3H	VALUE_H7	VALUE_H6	VALUE_H5	VALUE_H4	VALUE_H3	VALUE_H2	VALUE_H1	VALUE_H0
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
wIndex_L	wIndex register Low	07C4H	INDEX_L7	INDEX_L6	INDEX_L5	INDEX_L4	INDEX_L3	INDEX_L2	INDEX_L1	INDEX_L0
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
wIndex_H	wIndex register High	07C5H	INDEX_H7	INDEX_H6	INDEX_H5	INDEX_H4	INDEX_H3	INDEX_H2	INDEX_H1	INDEX_H0
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
wLength_L	wLength register Low	07C6H	LENGTH_L7	LENGTH_L6	LENGTH_L5	LENGTH_L4	LENGTH_L3	LENGTH_L2	LENGTH_L1	LENGTH_L0
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
wLength_H	wLength register High	07C7H	LENGTH_H7	LENGTH_H6	LENGTH_H5	LENGTH_H4	LENGTH_H3	LENGTH_H2	LENGTH_H1	LENGTH_H0
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0

Not Recommended for New Design

(8) USB コントローラ(4/6)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
SetupReceived	SetupReceived register	07C8H	D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0
			W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
Current_Config	Current_ Config register	07C9H	REMOTEWAKEUP		ALTERNATE[1]	ALTERNATE[0]	INTERFACE[1]	INTERFACE[0]	CONFIG[1]	CONFIG[0]
			R		R					
			0		0	0	0	0	0	0
Standard Request	Standard -Request register	07CAH	S_INTERFACE	G_INTERFACE	S_CONFIG	G_CONFIG	G_DESCRIPT	S_FEATURE	C_FEATURE	G_STATUS
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
Request	Request register	07CBH		SOFT_RESET	G_PORT_STS	G_DEVICE_ID	VENDOR	CLASS	ExSTANDARD	STANDARD
				R						
				0	0	0	0	0	0	0
DATASET1	DATASET 1 register	07CCH	EP3_DSET_B	EP3_DSET_A	EP2_DSET_B	EP2_DSET_A	EP1_DSET_B	EP1_DSET_A		EP0_DSET_A
			R							R
			0	0	0	0	0	0		0
DATASET2	DATASET 2 register	07CDH	EP7_DSET_B	EP7_DSET_A	EP6_DSET_B	EP6_DSET_A	EP5_DSET_B	EP5_DSET_A	EP4_DSET_B	EP4_DSET_A
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
USB_STATE	USB state register	07CEH						Configured	Addressed	Default
								R/W	R	
								0	0	1
EOP	EOP register	07CFH	EP7_EOPB	EP6_EOPB	EP5_EOPB	EP4_EOPB	EP3_EOPB	EP2_EOPB	EP1_EOPB	EP0_EOPB
			W							
			1	1	1	1	1	1	1	1
COMMAND	Command register	07D0H		EP[2]	EP[1]	EP[0]	Command[3]	Command[2]	Command[1]	Command[0]
				W						
				0	0	0	0	0	0	0
EPx_SINGLE1	Endpoint 1 single register	07D1H	EP3_SELECT	EP2_SELECT	EP1_SELECT		EP3_SINGLE	EP2_SINGLE	EP1_SINGLE	
			R/W				R/W			
			0	0	0		0	0	0	
EPx_BCS1	Endpoint 1 BCS register	07D3H	EP3_SELECT	EP2_SELECT	EP1_SELECT		EP3_BCS	EP2_BCS	EP1_BCS	
			R/W				R/W			
			0	0	0		0	0	0	
INT_Control	Interrupt control register	07D6H								Status_nak
										R/W
										0
Standard Request Mode	Standard Request mode register	07D8H	S_Interface	G_Interface	S_Config	G_Config	G_Descript	S_Feature	C_Feature	G_Status
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
Request Mode	Request mode register	07D9H		Soft_Reset	G_Port_Sts	G_DeviceId				
				R/W						
				0	0	0				

Not Recommended for New Design

(8) USB コントローラ(5/6)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
Port Status	Port status register	07E0H	Reserved7	Reserved6	PaperError	Select	NotError	Reserved2	Reserved1	Reserved0
			W							
			0	0	0	1	1	0	0	0
FRAME_L	Frame register Low	07E1H	–	T[6]	T[5]	T[4]	T[3]	T[2]	T[1]	T[0]
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
FRAME_H	Frame register H	07E2H	T[10]	T[9]	T[8]	T[7]		CREATE	FRAME_STS1	FRAME_STS0
			R					R		
			0	0	0	0		0	1	0
ADDRESS	Address register	07E3H		A6	A5	A4	A3	A2	A1	A0
				R						
				0	0	0	0	0	0	0
USBREADY	USB ready register	07E6H								USBREADY
										R/W
										0
Set Descriptor STALL	Set-Descriptor stall register	07E8H								S_D_STALL
										W
										0
USBINTFR1	USB interrupt flag register 1	07F0H (RMW 禁)	INT_URST_STR	INT_URST_END	INT_SUS	INT_RESUME	INT_CLKSTOP	INT_CLKON		
			R/W							
			0	0	0	0	0	0		
			リード時 0: 割り込みなし ライト時 0: フラグクリア 1: 割り込みあり 1: ー							
USBINTFR2	USB interrupt flag register 2	07F1H (RMW 禁)	EP1_FULL_A	EP1_Empty_A	EP1_FULL_B	EP1_Empty_B	EP2_FULL_A	EP2_Empty_A	EP2_FULL_B	EP2_Empty_B
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			リード時 0: 割り込みなし ライト時 0: フラグクリア 1: 割り込みあり 1: ー							
USBINTFR3	USB interrupt flag register 3	07F2H (RMW 禁)	EP3_FULL_A	EP3_Empty_A	EP3_FULL_B	EP3_Empty_B				
			R/W							
			0	0	0	0				
			リード時 0: 割り込みなし 1: 割り込みあり ライト時 0: フラグクリア 1: ー							
USBINTFR4	USB interrupt flag register 4	07F3H (RMW 禁)	INT_SETUP	INT_EP0	INT_STAS	INT_STASN	INT_EP1N	INT_EP2N	INT_EP3N	
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	
			リード時 0: 割り込みなし ライト時 0: フラグクリア 1: 割り込みあり 1: ー							

Not Recommended for New Design

(8) USB コントローラ(6/6)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
USBINTMR1	USB interrupt mask register 1	07F4H	MSK_URST_STR	MSK_URST_END	MSK_SUS	MSK_RESUME	MSK_CLKSTOP	MSK_CLKON		
			R/W							
			1	1	1	1	1	1		
			0: マスクしない　1: マスクする							
USBINTMR2	USB interrupt mask register 2	07F5H	EP1_MSK_FA	EP1_MSK_EA	EP1_MSK_FB	EP1_MSK_EB	EP2_MSK_FA	EP2_MSK_EA	EP2_MSK_FB	EP2_MSK_EB
			R/W							
			1	1	1	1	1	1	1	1
			0: マスクしない　1: マスクする							
USBINTMR3	USB interrupt mask register 3	07F6H	EP3_MSK_FA	EP3_MSK_EA						
			R/W							
			1	1						
			0: マスクしない 1: マスクする							
USBINTMR4	USB interrupt mask register 4	07F7H	MSK_SETUP	MSK_EP0	MSK_STAS	MSK_STASN	MSK_EP1N	MSK_EP2N	MSK_EP3N	
			R/W							
			1	1	1	1	1	1	1	
			0: マスクしない　1: マスクする							
USBCR1	USB control register 1	07F8H	TRNS_USE	WAKEUP					SPEED	USBCLKE
			R/W						R/W	
			0	0					1	0
			Transceiver 0: Disable 1:Enable	Wake up 0: – 1: Start						

Not Recommended for New Design

(9) SPIC (1/2)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
SPIMD	SPI Mode Setting register	0820H (RMW 禁)	SWRST	XEN				CLKSEL2	CLKSEL1	CLKSEL0
			W	R/W				R/W		
			0	0				1	0	0
			S/W リセット 0: Don't care 1: Reset	SYSCK 0: Disable 1: Enable				ボーレート選択 000:Reserved 001: $f_{SYS}/2$ 010: $f_{SYS}/3$ 011: $f_{SYS}/4$ 100: $f_{SYS}/8$ 101: $f_{SYS}/16$ 110: $f_{SYS}/64$ 111: $f_{SYS}/256$		
		0821H	LOOPBACK	MSB1ST	DOSTAT		TCPOL	RCPOL	TDINV	RDINV
			R/W				R/W			
			0	1	1		0	0	0	0
			LOOPBACK テストモード 0:Disable 1:Enable	送受信開始 BIT 0:LSB 1:MSB	非送信時の SPDO 端子状態設定 0: "0"固定 1: "1"固定		送信時の同期クロックエッジ設定 0:立ち上がり 1:立ち下がり	受信時の同期クロックエッジ設定 0:立ち上がり 1:立ち下がり	送信時のデータ反転 0: Disable 1: Enable	受信時のデータ反転 0: Disable 1: Enable
SPICT	SPI Control register	0822H	CEN	SPCS_B	UNIT16	TXMOD	TXE	FDPXE	RXMOD	RXE
			R/W							
			0	1	0	0	0	0	0	0
			通信端子制御 0: Disable 1: Enable	SPCS 端子設定 0: "0"出力 1: "1"出力	データ長選択 0: 8 bit 1: 16 bit	送信モード 0: UNIT 1: 連続送信	送信イネーブル 0: Disable 1: Enable	全 2 重でのアライメント 0: Disable 1: Enable	受信モード 0: UNIT 1: 連続受信	受信イネーブル 0: Disable 1: Enable
		0823H	CRC16_7_B	CRCRX_TX_B	CRCRESET_B					
			R/W							
			0	0	0					
			CRC 選択 0: CRC7 1: CRC16	CRC データ 0: 送信 1: 受信	CRC 演算レジスタ制御 0:リセット 1:リセット解除					
SPIST	SPI Status register	0824H					TEMP		TEND	REND
							R		R	
							1		1	0
							送信 FIFO 状態 0: 空きなし 1: 空きあり		送信状態 0: 送信中か、送信 Data 有 1: 送信終了	受信状態 0: 受信中か受信 Data 無 1: 受信終了か、FIFO に空き無
		0825H								
SPIIE	SPI Interrupt Enable register	082CH					TEMPIE	RFULIE	TENDIE	RENDIE
							R/W			
							0	0	0	0
							TEMP 割り込み 0: 禁止 1: 許可	RFUL 割り込み 0: 禁止 1: 許可	TEND 割り込み 0: 禁止 1: 許可	REND 割り込み 0: 禁止 1: 許可
		082DH								

Not Recommended for New Design

(9) SPIC (2/2)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
SPICR	SPI CRC register	0826H	CRCD7	CRCD6	CRCD5	CRCD4	CRCD3	CRCD2	CRCD1	CRCD0
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			CRC 演算結果格納レジスタ[7:0]							
		0827H	CRCD15	CRCD14	CRCD13	CRCD12	CRCD11	CRCD10	CRCD9	CRCD8
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			CRC 演算結果格納レジスタ[15:8]							
SPITD0	SPI transmission data0 register	0830H	TXD7	TXD6	TXD5	TXD4	TXD3	TXD2	TXD1	TXD0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			送信データレジスタ[7:0]							
		0831H	TXD15	TXD14	TXD13	TXD12	TXD11	TXD10	TXD9	TXD8
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			送信データレジスタ[15:8]							
SPITD1	SPI transmission data1 register	0832H	TXD7	TXD6	TXD5	TXD4	TXD3	TXD2	TXD1	TXD0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			送信データレジスタ[7:0]							
		0833H	TXD15	TXD14	TXD13	TXD12	TXD11	TXD10	TXD9	TXD8
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			送信データレジスタ[15:8]							
SPIRD0	SPI receive data0 register	0834H	RXD7	RXD6	RXD5	RXD4	RXD3	RXD2	RXD1	RXD0
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			受信データレジスタ[7:0]							
		0835H	RXD15	RXD14	RXD13	RXD12	RXD11	RXD10	RXD9	RXD8
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			受信データレジスタ[15:8]							
SPIRD1	SPI receive data1 register	0836H	RXD7	RXD6	RXD5	RXD4	RXD3	RXD2	RXD1	RXD0
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			受信データレジスタ[7:0]							
		0837H	RXD15	RXD14	RXD13	RXD12	RXD11	RXD10	RXD9	RXD8
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			受信データレジスタ[15:8]							

Not Recommended for New Design

(10) MMU (1/8)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALPX	LOCALX register for program	0880H	X7	X6	X5	X4	X3	X2	X1	X0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			LOCAL-X 用バンク数設定(“0”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		0881H	LXE							X8
			R/W							R/W
			0							0
			LOCALX BANK 0: Disable 1: Enable	LOCALX 用バンク数を設定 X8~X0 設定と CS の関係 000000000~011111111 CSXA 100000000~111111111 CSXB						
LOCALPY	LOCALY register for program	0882H			Y5	Y4	Y3	Y2	Y1	Y0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					LOCAL-Y 用バンク数設定 (“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)					
		0883H	LYE							
			R/W							
			0							
			LOCALY BANK 0: Disable 1: Enable							
LOCALPZ	LOCALZ register for program	0884H	Z7	Z6	Z5	Z4	Z3	Z2	Z1	Z0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			LOCAL-Z 用バンク数設定(“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		0885H	LZE							Z8
			R/W							R/W
			0							0
			LOCALZ BANK 0: Disable 1: Enable	LOCALZ 用バンク数を設定 Z8~Z0 設定と CS の関係 000000000~001111111 CSZA 100000000~101111111 設定禁止 010000000~011111111 設定禁止 110000000~111111111 CSZD						

Not Recommended for New Design

(10) MMU (2/8)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALLX	LOCALX register for LCD	0888H	X7	X6	X5	X4	X3	X2	X1	X0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			LOCAL-X 用バンク数設定(“0”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		0889H	LXE							X8
			R/W							R/W
			0							0
			LOCALX BANK 0: Disable 1: Enable	LOCALX 用バンク数を設定 X8~X0 設定と CS の関係 000000000~011111111 CSXA 100000000~111111111 CSXB						
LOCALLY	LOCALY register for LCD	088AH			Y5	Y4	Y3	Y2	Y1	Y0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					LOCAL-Y 用バンク数設定 (“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)					
		088BH	LYE							
			R/W							
			0							
			LOCALY BANK 0: Disable 1: Enable							
LOCALLZ	LOCALZ register for LCD	088CH	Z7	Z6	Z5	Z4	Z3	Z2	Z1	Z0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			LOCAL-Z 用バンク数設定(“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		088DH	LZE							Z8
			R/W							R/W
			0							0
			LOCALZ BANK 0: Disable 1: Enable	LOCALZ 用バンク数を設定 Z8~Z0 設定と CS の関係 000000000~001111111 CSZA 100000000~101111111 設定禁止 010000000~011111111 設定禁止 110000000~111111111 CSZD						

Not Recommended for New Design

(10) MMU (3/8)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALRX	LOCALX register for read	0890H	X7	X6	X5	X4	X3	X2	X1	X0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			LOCAL-X 用バンク数設定(“0”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		0891H	LXE							X8
			R/W							R/W
			0							0
			LOCALX BANK 0: Disable 1: Enable	LOCALX 用バンク数を設定 X8~X0 設定と CS の関係 000000000~011111111 CSXA 100000000~111111111 CSXB						
LOCALRY	LOCALY register for read	0892H			Y5	Y4	Y3	Y2	Y1	Y0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					LOCAL-Y 用バンク数設定 (“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)					
		0893H	LYE							
			R/W							
			0							
			LOCALY BANK 0: Disable 1: Enable							
LOCALRZ	LOCALZ register for read	0894H	Z7	Z6	Z5	Z4	Z3	Z2	Z1	Z0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			LOCAL-Z 用バンク数設定(“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		0895H	LZE							Z8
			R/W							R/W
			0							0
			LOCALZ BANK 0: Disable 1: Enable	LOCALZ 用バンク数を設定 Z8~Z0 設定と CS の関係 000000000~001111111 CSZA 100000000~101111111 設定禁止 010000000~011111111 設定禁止 110000000~111111111 CSZD						

Not Recommended for New Design

(10) MMU (4/8)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALWX	LOCALX register for write	0898H	X7	X6	X5	X4	X3	X2	X1	X0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			LOCAL-X 用バンク数設定(“0”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		0899H	LXE							X8
			R/W							R/W
			0							0
			LOCALX BANK 0:Disable 1:Enable	LOCALX 用バンク数を設定 X8~X0 設定と CS の関係 000000000~011111111 CSXA 100000000~111111111 CSXB						
LOCALWY	LOCALY register for write	089AH			Y5	Y4	Y3	Y2	Y1	Y0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					LOCAL-Y 用バンク数設定 (“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)					
		089BH	LYE							
			R/W							
			0							
			LOCALY BANK 0:Disable 1:Enable							
LOCALWZ	LOCALZ register for write	089CH	Z7	Z6	Z5	Z4	Z3	Z2	Z1	Z0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			LOCAL-Z 用バンク数設定(“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		089DH	LZE							Z8
			R/W							R/W
			0							0
			LOCALZ BANK 0:Disable 1:Enable	LOCALZ 用バンク数を設定 Z8~Z0 設定と CS の関係 000000000~001111111 CSZA 100000000~101111111 設定禁止 010000000~011111111 設定禁止 110000000~111111111 CSZD						

Not Recommended for New Design

(10) MMU (5/8)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALESX	LOCALX register for DMA source	08A0H	X7	X6	X5	X4	X3	X2	X1	X0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			LOCAL-X 用バンク数設定(“0”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		08A1H	LXE							X8
			R/W							R/W
			0							0
			LOCALX BANK 0: Disable 1: Enable	LOCALX 用バンク数を設定 X8~X0 設定と CS の関係 000000000~011111111 CSXA 100000000~111111111 CSXB						
LOCALESY	LOCALY register for DMA source	08A2H			Y5	Y4	Y3	Y2	Y1	Y0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					LOCAL-Y 用バンク数設定 (“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)					
		08A3H	LYE							
			R/W							
			0							
			LOCALY BANK 0: Disable 1: Enable							
LOCALESZ	LOCALZ register for DMA source	08A4H	Z7	Z6	Z5	Z4	Z3	Z2	Z1	Z0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			LOCAL-Z 用バンク数設定(“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		08A5H	LZE							Z8
			R/W							R/W
			0							0
			LOCALZ BANK 0: Disable 1: Enable	LOCALZ 用バンク数を設定 Z8~Z0 設定と CS の関係 000000000~001111111 CSZA 100000000~101111111 設定禁止 010000000~011111111 設定禁止 110000000~111111111 CSZD						

Not Recommended for New Design

(10) MMU (6/8)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALEDX	LOCALX register for DMA destination	08A8H	X7	X6	X5	X4	X3	X2	X1	X0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			LOCAL-X 用バンク数設定(“0”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		08A9H	LXE							X8
			R/W							R/W
			0							0
			LOCALX BANK 0: Disable 1: Enable	LOCALX 用バンク数を設定 X8~X0 設定と CS の関係 000000000~011111111 CSXA 100000000~111111111 CSXB						
LOCALEDY	LOCALY register for DMA destination	08AAH			Y5	Y4	Y3	Y2	Y1	Y0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					LOCAL-Y 用バンク数設定 (“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)					
		08ABH	LYE							
			R/W							
			0							
			LOCALY BANK 0: Disable 1: Enable							
LOCALEDZ	LOCALZ register for DMA destination	08ACH	Z7	Z6	Z5	Z4	Z3	Z2	Z1	Z0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			LOCAL-Z 用バンク数設定(“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		08ADH	LZE							Z8
			R/W							R/W
			0							0
			LOCALZ BANK 0: Disable 1: Enable	LOCALZ 用バンク数を設定 Z8~Z0 設定と CS の関係 000000000~001111111 CSZA 100000000~101111111 設定禁止 010000000~011111111 設定禁止 110000000~111111111 CSZD						

Not Recommended for New Design

(10) MMU (7/8)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALOSX	LOCALX register for DMA source	08B0H	X7	X6	X5	X4	X3	X2	X1	X0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			LOCAL-X 用バンク数設定(“0”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		08B1H	LXE							X8
			R/W							R/W
			0							0
			LOCALX BANK 0: Disable 1: Enable	LOCALX 用バンク数を設定 X8~X0 設定と CS の関係 000000000~011111111 CSXA 100000000~111111111 CSXB						
LOCALOSY	LOCALY register for DMA source	08B2H			Y5	Y4	Y3	Y2	Y1	Y0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					LOCAL-Y 用バンク数設定 (“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)					
		08B3H	LYE							
			R/W							
			0							
			LOCALY BANK 0: Disable 1: Enable							
LOCALOSZ	LOCALZ register for DMA source	08B4H	Z7	Z6	Z5	Z4	Z3	Z2	Z1	Z0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			LOCAL-Z 用バンク数設定(“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		08B5H	LZE							Z8
			R/W							R/W
			0							0
			LOCALZ BANK 0: Disable 1: Enable	LOCALZ 用バンク数を設定 Z8~Z0 設定と CS の関係 000000000~001111111 CSZA 100000000~101111111 設定禁止 010000000~011111111 設定禁止 110000000~111111111 CSZD						

Not Recommended for New Design

(10) MMU (8/8)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
LOCALODX	LOCALX register for DMA destination	08B8H	X7	X6	X5	X4	X3	X2	X1	X0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			LOCAL-X 用バンク数設定(“0”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		08B9H	LXE							X8
			R/W							R/W
			0							0
			LOCALX BANK 0: Disable 1: Enable	LOCALX 用バンク数を設定 X8~X0 設定と CS の関係 000000000~011111111 CSXA 100000000~111111111 CSXB						
LOCALODY	LOCALY register for DMA destination	08BAH			Y5	Y4	Y3	Y2	Y1	Y0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					LOCAL-Y 用バンク数設定 (“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)					
		08BBH	LYE							
			R/W							
			0							
			LOCALY BANK 0: Disable 1: Enable							
LOCALODZ	LOCALZ register for DMA destination	08BCH	Z7	Z6	Z5	Z4	Z3	Z2	Z1	Z0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			LOCAL-Z 用バンク数設定(“3”はコモンエリアと重なっているため設定禁止)							
		08BDH	LZE							Z8
			R/W							R/W
			0							0
			LOCALZ BANK 0: Disable 1: Enable	LOCALZ 用バンク数を設定 Z8~Z0 設定と CS の関係 000000000~001111111 CSZA 100000000~101111111 設定禁止 010000000~011111111 設定禁止 110000000~111111111 CSZD						

Not Recommended for New Design

(11) NAND フラッシュコントローラ (1/4)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
NDFMCR0	NANDF Control0 Register	08C0H (RMW 禁)	WE	ALE	CLE	CE0	CE1	ECCE	BUSY	ECCRST
			R/W						R	W
			0	0	0	0	0	0	0	0
			WE 許可 0: Disable 1: Enable	ALE 制御 0: “L” out 1: “H” out	CLE 制御 0: “L” out 1: “H” out	$\overline{CE0}$ 制御 0: “H” out 1: “L” out	$\overline{CE1}$ 制御 0: “H” out 1: “L” out	ECC 回路 制御 0: Disable 1: Enable	NANDF 状態 1: BUSY 0: Ready	ECC Code Reset 制御 0: − 1: Reset *リードすると常に”0”になります。
		08C1H (RMW 禁)	SPLW1	SPLW0	SPHW1	SPHW0	RSECCL	RSEDN	RSESTA	RSECGW
			R/W						W	R/W
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Strobe パルス幅制御 ($\overline{NDRE}$ と $\overline{NDWE}$ の Low 幅) 挿入幅 = (f_{SYS}) × (設定値)		Strobe パルス幅制御 ($\overline{NDRE}$ と $\overline{NDWE}$ の High 幅) 挿入幅 = (f_{SYS}) × (設定値)		Reed Solomon ECC data Latch 0: Disable 1: Enable	Reed Solomon 動作 切り替え 0: Encode (ライト時) 1: Decode (リード時)	Reed Solomon Error Cal Start 0: − 1: Start *リードすると常に “0”になります。	Reed Solomon ECC Code Generator Write 制御 0: Disable 1: Enable
NDFMCR1	NANDF Control1 Register	08C2H	INTERDY	INTRSC				BUSW	ECCS	SYSCKE
			R/W					R/W		
			0	0				0	0	0
			Interrupt READY 0: Mask 1: Enable	Interrupt RS calc 0: Mask 1: Enable				Data bus Width 0: 8 bit 1: 16 bit	ECC Calculation 0: H/C 1: R/S	Clock Control 0: Disable 1: Enable
		08C3H	STATE3	STATE2	STATE1	STATE0	SEER1	SEER0		
			R							
			0	0	0	0	不定	不定		
			Status read							
NDECCRD0	NANDF Code ECC Register0	08C4H	ECCD7	ECCD6	ECCD5	ECCD4	ECCD3	ECCD2	ECCD1	ECCD0
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			NAND-Flash ECC code Register (7-0)							
		08C5H	ECCD15	ECCD14	ECCD13	ECCD12	ECCD11	ECCD10	ECCD9	ECCD8
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			NAND-Flash ECC code Register (15-8)							
NDECCRD1	NANDF Code ECC Register1	08C6H	ECCD7	ECCD6	ECCD5	ECCD4	ECCD3	ECCD2	ECCD1	ECCD0
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			NAND-Flash ECC code Register (7-0)							
		08C7H	ECCD15	ECCD14	ECCD13	ECCD12	ECCD11	ECCD10	ECCD9	ECCD8
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			NAND-Flash ECC code Register (15-8)							

Not Recommended for New Design

(11) NAND フラッシュコントローラ (2/4)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
NDECCRD2	NANDF Code ECC Register2	08C8H	ECCD7	ECCD6	ECCD5	ECCD4	ECCD3	ECCD2	ECCD1	ECCD0
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			NAND-Flash ECC code Register (7-0)							
		08C9H	ECCD15	ECCD14	ECCD13	ECCD12	ECCD11	ECCD10	ECCD9	ECCD8
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			NAND-Flash ECC code Register (15-8)							
NDECCRD3	NANDF Code ECC Register3	08CAH	ECCD7	ECCD6	ECCD5	ECCD4	ECCD3	ECCD2	ECCD1	ECCD0
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			NAND-Flash ECC code Register (7-0)							
		08CBH	ECCD15	ECCD14	ECCD13	ECCD12	ECCD11	ECCD10	ECCD9	ECCD8
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			NAND-Flash ECC code Register (15-8)							
NDECCRD4	NANDF Code ECC Register4	08CCH	ECCD7	ECCD6	ECCD5	ECCD4	ECCD3	ECCD2	ECCD1	ECCD0
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			NAND-Flash ECC code Register (7-0)							
		08CDH	ECCD15	ECCD14	ECCD13	ECCD12	ECCD11	ECCD10	ECCD9	ECCD8
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			NAND-Flash ECC code Register (15-8)							

Not Recommended for New Design

(11) NAND フラッシュコントローラ (3/4)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
NDRSCA0	NANDF read solomon Result address Register0	08D0H	RS0A7	RS0A6	RS0A5	RS0A4	RS0A3	RS0A2	RS0A1	RS0A0
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			NAND-Flash Reed Solomon Calculation Result Address Register (7-0)							
		08D1H							RS0A9	RS0A8
									R	
									0	0
									NAND-Flash Reed Solomon Calculation Result Address Register (9-8)	
NDRSCD0	NANDF read solomon Result data Register0	08D2H	RS0D7	RS0D6	RS0D5	RS0D4	RS0D3	RS0D2	RS0D1	RS0D0
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			NANDFC Reed Solomon Calculation Result Data Register (7-0)							
NDRSCA1	NANDF read solomon Result address Register1	08D4H	RS1A7	RS1A6	RS1A5	RS1A4	RS1A3	RS1A2	RS1A1	RS1A0
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			NAND-Flash Reed Solomon Calculation Result Address Register (7-0)							
		08D5H							RS1A9	RS1A8
									R	
									0	0
									NAND-Flash Reed Solomon Calculation Result Address Register (9-8)	
NDRSCD1	NANDF read solomon Result data Register1	08D6H	RS1D7	RS1D6	RS1D5	RS1D4	RS1D3	RS1D2	RS1D1	RS1D0
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			NANDFC Reed Solomon Calculation Result Data Register (7-0)							
NDRSCA2	NANDF read solomon Result address Register2	08D8H	RS2A7	RS2A6	RS2A5	RS2A4	RS2A3	RS2A2	RS2A1	RS2A0
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			NAND-Flash Reed Solomon Calculation Result Address Register (7-0)							
		08D9H							RS2A9	RS2A8
									R	
									0	0
									NAND-Flash Reed Solomon Calculation Result Address Register (9-8)	
NDRSCD2	NANDF read solomon Result data Register2	08DAH	RS2D7	RS2D6	RS2D5	RS2D4	RS2D3	RS2D2	RS2D1	RS2D0
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			NANDFC Reed Solomon Calculation Result Data Register (7-0)							

Not Recommended for New Design

(11) NAND フラッシュコントローラ (4/4)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
NDRSCA3	NANDF read solomon Result address Register3	08DCH	RS3A7	RS3A6	RS3A5	RS3A4	RS3A3	RS3A2	RS3A1	RS3A0
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			NAND-Flash Reed Solomon Calculation Result Address Register (7-0)							
		08DDH							RS3A9	RS3A8
									R	
									0	0
									NAND-Flash Reed Solomon Calculation Result Address Register (9-8)	
NDRSCD3	NANDF read solomon Result data Register3	08DEH	RS3D7	RS3D6	RS3D5	RS3D4	RS3D3	RS3D2	RS3D1	RS3D0
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			NANDFC Reed Solomon Calculation Result Data Register (7-0)							
NDFDTR0	NANDF Data Register0	1FF0H	D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0
			R/W							
			不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
			NAND-Flash Data Register (7-0)							
		1FF1H	D15	D14	D13	D12	D11	D10	D9	D8
			R/W							
			不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
			NAND-Flash Data Register (15-8)							
NDFDTR1	NANDF Data Register1	1FF2H	D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0
			R/W							
			不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
			NAND-Flash Data Register (7-0)							
		1FF3H	D15	D14	D13	D12	D11	D10	D9	D8
			R/W							
			不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
			NAND-Flash Data Register (15-8)							

Not Recommended for New Design

(12) DMAC (1/7)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
HDMAS0	DMA source address Register0	0900H	D0SA7	D0SA6	D0SA5	D0SA4	D0SA3	D0SA2	D0SA1	D0SA0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set source address for DMA0 (7:0)							
		0901H	D0SA15	D0SA14	D0SA13	D0SA12	D0SA11	D0SA10	D0SA9	D0SA8
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set source address for DMA0 (15:8)							
		0902H	D0SA23	D0SA22	D0SA21	D0SA20	D0SA19	D0SA18	D0SA17	D0SA16
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set source address for DMA0 (23:16)							
HDMAD0	DMA destination address Register0	0904H	D0DA7	D0DA6	D0DA5	D0DA4	D0DA3	D0DA2	D0DA1	D0DA0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set destination address for DMA0 (7:0)							
		0905H	D0DA15	D0DA14	D0DA13	D0DA12	D0DA11	D0DA10	D0DA9	D0DA8
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set destination address for DMA0 (15:8)							
		0906H	D0DA23	D0DA22	D0DA21	D0DA20	D0DA19	D0DA18	D0DA17	D0DA16
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set destination address for DMA0 (23:16)							
HDMACA0	DMA Transfer count number A Register0	0908H	D0CA7	D0CA6	D0CA5	D0CA4	D0CA3	D0CA2	D0CA1	D0CA0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set transfer-count-number A for DMA0 (7:0)							
		0909H	D0CA15	D0CA14	D0CA13	D0CA12	D0CA11	D0CA10	D0CA9	D0CA8
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set transfer-count-number A for DMA0 (15:8)							
HDMACB0	DMA Transfer count number B Register0	090AH	D0CB7	D0CB6	D0CB5	D0CB4	D0CB3	D0CB2	D0CB1	D0CB0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set transfer-count-number B for DMA0 (7:0)							
		090BH	D0CB15	D0CB14	D0CB13	D0CB12	D0CB11	D0CB10	D0CB9	D0CB8
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set transfer-count-number B for DMA0 (15:8)							
HDMAM0	DMA transfer Mode Register0	090CH				D0M4	D0M3	D0M2	D0M1	D0M0
						R/W				
						0	0	0	0	0
						DMA 転送モード選択 000: 転送先 INC (I/O to MEM) 001: 転送先 DEC (I/O to MEM) 010: 転送元 INC (MEM to I/O) 011: 転送元 DEC (MEM to I/O) 100: 転送元/先 INC(MEM to MEM) 101: 転送元/先 DEC(MEM to MEM) 110: 転送元/先固定 (I/O to I/O) 111: Reserved			転送データサイズ 00: 1 バイト 01: 2 バイト 10: 4 バイト 11: Reserved	

Not Recommended for New Design

(12) DMAC (2/7)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
HDMAS1	DMA source address Register1	0910H	D1SA7	D1SA6	D1SA5	D1SA4	D1SA3	D1SA2	D1SA1	D1SA0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set source address for DMA1 (7:0)							
		0911H	D1SA15	D1SA14	D1SA13	D1SA12	D1SA11	D1SA10	D1SA9	D1SA8
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set source address for DMA1 (15:8)							
		0912H	D1SA23	D1SA22	D1SA21	D1SA20	D1SA19	D1SA18	D1SA17	D1SA16
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set source address for DMA1 (23:16)							
HDMAD1	DMA destination address Register1	0914H	D1DA7	D1DA6	D1DA5	D1DA4	D1DA3	D1DA2	D1DA1	D1DA0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set destination address for DMA1 (7:0)							
		0915H	D1DA15	D1DA14	D1DA13	D1DA12	D1DA11	D1DA10	D1DA9	D1DA8
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set destination address for DMA1 (15:8)							
		0916H	D1DA23	D1DA22	D1DA21	D1DA20	D1DA19	D1DA18	D1DA17	D1DA16
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set destination address for DMA1 (23:16)							
HDMACA1	DMA Transfer count number A Register1	0918H	D1CA7	D1CA6	D1CA5	D1CA4	D1CA3	D1CA2	D1CA1	D1CA0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set transfer-count-number A for DMA1 (7:0)							
		0919H	D1CA15	D1CA14	D1CA13	D1CA12	D1CA11	D1CA10	D1CA9	D1CA8
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set transfer-count-number A for DMA1 (15:8)							
HDMACB1	DMA Transfer count number B Register1	091AH	D1CB7	D1CB6	D1CB5	D1CB4	D1CB3	D1CB2	D1CB1	D1CB0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set transfer-count-number B for DMA1 (7:0)							
		091BH	D0CB15	D0CB14	D0CB13	D0CB12	D0CB11	D0CB10	D0CB9	D0CB8
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set transfer-count-number B for DMA1 (15:8)							
HDMAM1	DMA transfer Mode Register1	091CH				D1M4	D1M3	D1M2	D1M1	D1M0
						R/W				
						0	0	0	0	0
						DMA 転送モード選択 000: 転送先 INC (I/O to MEM) 001: 転送先 DEC (I/O to MEM) 010: 転送元 INC (MEM to I/O) 011: 転送元 DEC (MEM to I/O) 100: 転送元/先 INC(MEM to MEM) 101: 転送元/先 DEC(MEM to MEM) 110: 転送元/先固定 (I/O to I/O) 111: Reserved			転送データサイズ 00: 1 バイト 01: 2 バイト 10: 4 バイト 11: Reserved	

Not Recommended for New Design

(12) DMAC (3/7)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
HDMAS2	DMA source address Register2	0920H	D2SA7	D2SA6	D2SA5	D2SA4	D2SA3	D2SA2	D2SA1	D2SA0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set source address for DMA2 (7:0)							
		0921H	D2SA15	D2SA14	D2SA13	D2SA12	D2SA11	D2SA10	D2SA9	D2SA8
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set source address for DMA2 (15:8)							
		0922H	D2SA23	D2SA22	D2SA21	D2SA20	D2SA19	D2SA18	D2SA17	D2SA16
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set source address for DMA2 (23:16)							
HDMAD2	DMA destination address Register2	0924H	D2DA7	D2DA6	D2DA5	D2DA4	D2DA3	D2DA2	D2DA1	D2DA0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set destination address for DMA2 (7:0)							
		0925H	D2DA15	D2DA14	D2DA13	D2DA12	D2DA11	D2DA10	D2DA9	D2DA8
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set destination address for DMA2 (15:8)							
		0926H	D2DA23	D2DA22	D2DA21	D2DA20	D2DA19	D2DA18	D2DA17	D2DA16
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set destination address for DMA2 (23:16)							
HDMACA2	DMA Transfer count number A Register2	0928H	D2CA7	D2CA6	D2CA5	D2CA4	D2CA3	D2CA2	D2CA1	D2CA0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set transfer-count-number A for DMA2 (7:0)							
		0929H	D2CA15	D2CA14	D2CA13	D2CA12	D2CA11	D2CA10	D2CA9	D2CA8
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set transfer-count-number A for DMA2 (15:8)							
HDMACB2	DMA Transfer count number B Register2	092AH	D2CB7	D2CB6	D2CB5	D2CB4	D2CB3	D2CB2	D2CB1	D2CB0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set transfer-count-number B for DMA2 (7:0)							
		092BH	D2CB15	D2CB14	D2CB13	D2CB12	D2CB11	D2CB10	D2CB9	D2CB8
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set transfer-count-number B for DMA2 (15:8)							
HDMAM2	DMA transfer Mode Register2	092CH				D2M4	D2M3	D2M2	D2M1	D2M0
						R/W				
						0	0	0	0	0
						DMA 転送モード選択 000: 転送先 INC (I/O to MEM) 001: 転送先 DEC (I/O to MEM) 010: 転送元 INC (MEM to I/O) 011: 転送元 DEC (MEM to I/O) 100: 転送元/先 INC(MEM to MEM) 101: 転送元/先 DEC(MEM to MEM) 110: 転送元/先固定 (I/O to I/O) 111: Reserved			転送データサイズ 00: 1 バイト 01: 2 バイト 10: 4 バイト 11: Reserved	

Not Recommended for New Design

(12) DMAC (4/7)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
HDMAS3	DMA source address Register3	0930H	D3SA7	D3SA6	D3SA5	D3SA4	D3SA3	D3SA2	D3SA1	D3SA0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set source address for DMA3 (7:0)							
		0931H	D3SA15	D3SA14	D3SA13	D3SA12	D3SA11	D3SA10	D3SA9	D3SA8
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set source address for DMA3 (15:8)							
		0932H	D3SA23	D3SA22	D3SA21	D3SA20	D3SA19	D3SA18	D3SA17	D3SA16
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set source address for DMA3 (23:16)							
HDMAD3	DMA destination address Register3	0934H	D3DA7	D3DA6	D3DA5	D3DA4	D3DA3	D3DA2	D3DA1	D3DA0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set destination address for DMA3 (7:0)							
		0935H	D3DA15	D3DA14	D3DA13	D3DA12	D3DA11	D3DA10	D3DA9	D3DA8
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set destination address for DMA3 (15:8)							
		0936H	D3DA23	D3DA22	D3DA21	D3DA20	D3DA19	D3DA18	D3DA17	D3DA16
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set destination address for DMA3 (23:16)							
HDMACA3	DMA Transfer count number A Register3	0938H	D3CA7	D3CA6	D3CA5	D3CA4	D3CA3	D3CA2	D3CA1	D3CA0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set transfer-count-number A for DMA3 (7:0)							
		0939H	D3CA15	D3CA14	D3CA13	D3CA12	D3CA11	D3CA10	D3CA9	D3CA8
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set transfer-count-number A for DMA3 (15:8)							
HDMACB3	DMA Transfer count number B Register3	093AH	D3CB7	D3CB6	D3CB5	D3CB4	D3CB3	D3CB2	D3CB1	D3CB0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set transfer-count-number B for DMA3 (7:0)							
		093BH	D3CB15	D3CB14	D3CB13	D3CB12	D3CB11	D3CB10	D3CB9	D3CB8
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set transfer-count-number B for DMA3 (15:8)							
HDMAM3	DMA transfer Mode Register3	093CH				D3M4	D3M3	D3M2	D3M1	D3M0
						R/W				
						0	0	0	0	0
						DMA 転送モード選択 000: 転送先 INC (I/O to MEM) 001: 転送先 DEC (I/O to MEM) 010: 転送元 INC (MEM to I/O) 011: 転送元 DEC (MEM to I/O) 100: 転送元/先 INC(MEM to MEM) 101: 転送元/先 DEC(MEM to MEM) 110: 転送元/先固定 (I/O to I/O) 111: Reserved			転送データサイズ 00: 1 バイト 01: 2 バイト 10: 4 バイト 11: Reserved	

Not Recommended for New Design

(12) DMAC (5/7)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
HDMAS4	DMA source address Register4	0940H	D4SA7	D4SA6	D4SA5	D4SA4	D4SA3	D4SA2	D4SA1	D4SA0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set source address for DMA4 (7:0)							
		0941H	D4SA15	D4SA14	D4SA13	D4SA12	D4SA11	D4SA10	D4SA9	D4SA8
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set source address for DMA4 (15:8)							
		0942H	D4SA23	D4SA22	D4SA21	D4SA20	D4SA19	D4SA18	D4SA17	D4SA16
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set source address for DMA4 (23:16)							
HDMAD4	DMA destination address Register4	0944H	D4DA7	D4DA6	D4DA5	D4DA4	D4DA3	D4DA2	D4DA1	D4DA0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set destination address for DMA4 (7:0)							
		0945H	D4DA15	D4DA14	D4DA13	D4DA12	D4DA11	D4DA10	D4DA9	D4DA8
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set destination address for DMA4 (15:8)							
		0946H	D4DA23	D4DA22	D4DA21	D4DA20	D4DA19	D4DA18	D4DA17	D4DA16
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set destination address for DMA4 (23:16)							
HDMACA4	DMA Transfer count number A Register4	0948H	D4CA7	D4CA6	D4CA5	D4CA4	D4CA3	D4CA2	D4CA1	D4CA0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set transfer-count-number A for DMA4 (7:0)							
		0949H	D4CA15	D4CA14	D4CA13	D4CA12	D4CA11	D4CA10	D4CA9	D4CA8
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set transfer-count-number A for DMA4 (15:8)							
HDMACB4	DMA Transfer count number B Register4	094AH	D4CB7	D4CB6	D4CB5	D4CB4	D4CB3	D4CB2	D4CB1	D4CB0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set transfer-count-number B for DMA4 (7:0)							
		094BH	D4CB15	D4CB14	D4CB13	D4CB12	D4CB11	D4CB10	D4CB9	D4CB8
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set transfer-count-number B for DMA4 (15:8)							
HDMAM4	DMA transfer Mode Register4	094CH				D4M4	D4M3	D4M2	D4M1	D4M0
						R/W				
						0	0	0	0	0
						DMA 転送モード選択 000: 転送先 INC (I/O to MEM) 001: 転送先 DEC (I/O to MEM) 010: 転送元 INC (MEM to I/O) 011: 転送元 DEC (MEM to I/O) 100: 転送元/先 INC(MEM to MEM) 101: 転送元/先 DEC(MEM to MEM) 110: 転送元/先固定 (I/O to I/O) 111: Reserved			転送データサイズ 00: 1 バイト 01: 2 バイト 10: 4 バイト 11: Reserved	

Not Recommended for New Design

(12) DMAC (6/7)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
HDMAS5	DMA source address Register5	0950H	D5SA7	D5SA6	D5SA5	D5SA4	D5SA3	D5SA2	D5SA1	D5SA0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set source address for DMA5 (7:0)							
		0951H	D5SA15	D5SA14	D5SA13	D5SA12	D5SA11	D5SA10	D5SA9	D5SA8
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set source address for DMA5 (15:8)							
		0952H	D5SA23	D5SA22	D5SA21	D5SA20	D5SA19	D5SA18	D5SA17	D5SA16
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set source address for DMA5 (23:16)							
HDMAD5	DMA destination address Register5	0954H	D5DA7	D5DA6	D5DA5	D5DA4	D5DA3	D5DA2	D5DA1	D5DA0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set destination address for DMA5 (7:0)							
		0955H	D5DA15	D5DA14	D5DA13	D5DA12	D5DA11	D5DA10	D5DA9	D5DA8
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set destination address for DMA5 (15:8)							
		0956H	D5DA23	D5DA22	D5DA21	D5DA20	D5DA19	D5DA18	D5DA17	D5DA16
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set destination address for DMA5 (23:16)							
HDMACA5	DMA Transfer count number A Register5	0958H	D5CA7	D5CA6	D5CA5	D5CA4	D5CA3	D5CA2	D54CA1	D5CA0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set transfer-count-number A for DMA5 (7:0)							
		0959H	D5CA15	D5CA14	D5CA13	D5CA12	D5CA11	D5CA10	D5CA9	D5CA8
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set transfer-count-number A for DMA5 (15:8)							
HDMACB5	DMA Transfer count number B Register5	095AH	D5CB7	D5CB6	D5CB5	D5CB4	D5CB3	D5CB2	D5CB1	D5CB0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set transfer-count-number B for DMA5 (7:0)							
		095BH	D5CB15	D5CB14	D5CB13	D5CB12	D5CB11	D5CB10	D5CB9	D5CB8
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			Set transfer-count-number B for DMA5 (15:8)							
HDMAM5	DMA transfer Mode Register5	095CH				D5M4	D5M3	D5M2	D5M1	D5M0
						R/W				
						0	0	0	0	0
						DMA 転送モード選択 000: 転送先 INC (I/O to MEM) 001: 転送先 DEC (I/O to MEM) 010: 転送元 INC (MEM to I/O) 011: 転送元 DEC (MEM to I/O) 100: 転送元/先 INC(MEM to MEM) 101: 転送元/先 DEC(MEM to MEM) 110: 転送元/先固定 (I/O to I/O) 111: Reserved			転送データサイズ 00: 1 バイト 01: 2 バイト 10: 4 バイト 11: Reserved	

Not Recommended for New Design

(12) DMAC (7/7)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
HDMAE	DMA Enable Register	097EH			DMAE5	DMAE4	DMAE3	DMAE2	DMAE1	DMAE0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					DMA チャネル動作許可 0:Disble 1:Enable					
HDMATR	DMA timer Register	097FH	DMATE	DMATR6	DMATR5	DMATR4	DMATR3	DMATR2	DMATR1	DMATR0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			タイマ動作 0: Disable 1: Enable	バス占有最長時間設定 バス占有最長時間 / (256/f_{SYS}) で求めた値を設定してください。 なお、00H は設定禁止です。						

Not Recommended for New Design

(13) クロックギア、PLL

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
SYSCR0	System clock control register0	10E0H		XTEN	USBCLK1	USBCLK0		WUEF		PRCK
				R/W				R/W		R/W
				1	0	0		0		0
				低速発振器 0: 停止 1: 発振	USB クロック選択 (f_{USB}) 00: Disable 01: Reserved 10: X1USB 11: f_{PLLUSB}			ウォームアップタイマ		プリスケーラクロック選択 0: $f_{SYS}/2$ 1: $f_{SYS}/8$
SYSCR1	System clock control register1	10E1H						GEAR2	GEAR1	GEAR0
								R/W		
								1	0	0
								高周波ギア値の選択 000: fc 101: Reserved 001: fc/2 110: Reserved 010: fc/4 111: Reserved 011: fc/8 100: fc/16		
SYSCR2	System clock control register2	10E2H	–	CKOSEL	WUPTM1	WUPTM0	HALTM1	HALTM0		
			R/W							
			0	0	1	0	1	1		
			“0” をライトしてください。	CLKOUT 選択 0: f_{SYS} 1: fs	ウォームアップタイマ 00: Reserved 01: 2^8/入力周波数 10: 2^{14}/入力周波数 11: 2^{16}/入力周波数		HALT モード 00: Reserved 01: STOP モード 10: IDLE1 モード 11: IDLE2 モード			
EMCCR0	EMC control register0	10E3H	PROTECT				–	EXTIN	DRVOSCH	DRVOSCL
			R				R/W	R/W	R/W	R/W
			0				0	0	1	1
			プロテクトフラグ 0: OFF 1: ON				“0”をライトしてください。	1: 外部クロック	高周波発振器ドライバアビリティ 1: NORMAL 0: WEAK	低周波発振器ドライバアビリティ 1: NORMAL 0: WEAK
EMCCR1	EMC control register1	10E4H	下記 1 st-KEY、2nd-KEY の動作実施によりプロテクト ON/OFF。 1st-KEY: EMCCR1 = 5AH、EMCCR2 = A5H を連続ライト。 2nd-KEY: EMCCR1 = A5H、EMCCR2 = 5AH を連続ライト。							
EMCCR2	EMC control register2	10E5H								
PLLCR0	PLL control register0	10E8H		FCSEL	LUPFG					
				R/W	R					
				0	0					
				fc クロック選択 0: f_{OSCH} 1: f_{PLL}	ロックアップタイマ状態フラグ 0: Not end 1: End					
PLLCR1	PLL control register1	10E9H	PLL0	PLL1	LUPSEL					PLLTIMES
			R/W							R/W
			0	0	0					0
			CPU 用 PLL0 0: Off 1: On	USB 用 PLL1 0: Off 1: On	ロックアップカウンタ段数選択 0: 12 段 (PLL0 用) 1: 13 段 (PLL1 用)					PLL 逓倍数選択 0: ×12 1: ×16

Not Recommended for New Design

(14) 8 ビットタイマ(1/2)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
TA01RUN	TMRA01 RUN register	1100H	TA0RDE				I2TA01	TA01PRUN	TA1RUN	TA0RUN
			R/W				R/W			
			0				0	0	0	0
			ダブルバッファ 0: Disable 1: Enable				IDLE2 0: 停止 1: 動作	TMRA01 プリスケーラ 0: 停止 & クリア 1: 動作 (カウントアップ)	アップカウンタ (UC1)	アップカウンタ (UC0)
TA0REG	8-bit timer register 0	1102H (RMW 禁)	–							
			W							
			0							
TA1REG	8-bit timer register 1	1103H (RMW 禁)	–							
			W							
			0							
TA01MOD	TMRA01 MODE register	1104H	TA01M1	TA01M0	PWM01	PWM00	TA1CLK1	TA1CLK0	TA0CLK1	TA0CLK0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			動作モード 00: 8 ビットタイマ 01: 16 ビットタイマ 10: 8 ビット PPG 11: 8 ビット PWM		PWM 周期 00: Reserved 01: 2^6 10: 2^7 11: 2^8		TMRA1 ソースクロック 00: TA0TRG 01: φT1 10: φT16 11: φT256		TMRA0 ソースクロック 00: TA0IN 端子入力 01: φT1 10: φT4 11: φT16	
TA1FFCR	TMRA1 Flip-Flop control register	1105H (RMW 禁)					TA1FFC1	TA1FFC0	TA1FFIE	TA1FFIS
							R/W		R/W	
							1	1	0	0
							00: TA1FF 反転 01: TA1FF 設定 10: TA1FF クリア 11: Don't care		TA1FF 反転制御 0: Disable 1: Enable	TA1FF 反転選択 0: TMRA0 1: TMRA1
TA23RUN	TMRA23 RUN register	1108H	TA2RDE				I2TA23	TA23PRUN	TA3RUN	TA2RUN
			R/W				R/W			
			0				0	0	0	0
			ダブルバッファ 0: Disable 1: Enable				IDLE2 0: 停止 1: 動作	TMRA23 プリスケーラ 0: 停止 & クリア 1: 動作 (カウントアップ)	アップカウンタ (UC3)	アップカウンタ (UC2)
TA2REG	8-bit timer register 2	110AH (RMW 禁)	–							
			W							
			0							
TA3REG	8-bit timer register 3	110BH (RMW 禁)	–							
			W							
			0							
TA23MOD	TMRA23 MODE register	110CH	TA23M1	TA23M0	PWM21	PWM20	TA3CLK1	TA3CLK0	TA2CLK1	TA2CLK0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			動作モード 00: 8 ビットタイマ 01: 16 ビットタイマ 10: 8 ビット PPG 11: 8 ビット PWM		PWM 周期 00: Reserved 01: 2^6 10: 2^7 11: 2^8		TMRA3 ソースクロック 00: TA2TRG 01: φT1 10: φT16 11: φT256		TMRA2 ソースクロック 00: TA2IN 端子入力 01: φT1 10: φT4 11: φT16	
TA3FFCR	TMRA3 Flip-Flop control register	110DH (RMW 禁)					TA3FFC1	TA3FFC0	TA3FFIE	TA3FFIS
							R/W		R/W	
							1	1	0	0
							00: TA3FF 反転 01: TA3FF 設定 10: TA3FF クリア 11: Don't care		TA3FF 反転制御 0: Disable 1: Enable	TA3FF 反転選択 0: TMRA2 1: TMRA3

Not Recommended for New Design

(14) 8 ビットタイマ(2/2)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
TA45RUN	TMRA45 RUN register	1110H	TA4RDE				I2TA45	TA45PRUN	TA5RUN	TA4RUN
			R/W				R/W			
			0				0	0	0	0
			ダブルバッファ 0: Disable 1: Enable				IDLE2 0: 停止 1: 動作	TMRA45 プリスケーラ 0: 停止 & クリア 1: 動作 (カウントアップ)	アップカウンタ (UC5)	アップカウンタ (UC4)
TA4REG	8-bit timer register 4	1112H (RMW 禁)	–							
			W							
			0							
TA5REG	8-bit timer register 5	1113H (RMW 禁)	–							
			W							
			0							
TA45MOD	TMRA45 MODE register	1114H	TA45M1	TA45M0	PWM41	PWM40	TA5CLK1	TA5CLK0	TA4CLK1	TA4CLK0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			動作モード 00: 8 ビットタイマ 01: 16 ビットタイマ 10: 8 ビット PPG 11: 8 ビット PWM		PWM 周期 00: Reserved 01: 2^6 10: 2^7 11: 2^8		TMRA5 ソースクロック 00: TA4TRG 01: φT1 10: φT16 11: φT256		TMRA4 ソースクロック 00: 32kHz クロック 01: φT1 10: φT4 11: φT16	
TA67RUN	TMRA67 RUN register	1118H	TA6RDE				I2TA67	TA67PRUN	TA7RUN	TA6RUN
			R/W				R/W			
			0				0	0	0	0
			ダブルバッファ 0: Disable 1: Enable				IDLE2 0: 停止 1: 動作	TMRA67 プリスケーラ 0: 停止 & クリア 1: 動作 (カウントアップ)	アップカウンタ (UC7)	アップカウンタ (UC6)
TA6REG	8-bit timer register 2	111AH (RMW 禁)	–							
			W							
			0							
TA7REG	8-bit timer register 3	111BH (RMW 禁)	–							
			W							
			0							
TA67MOD	TMRA67 MODE register	111CH	TA67M1	TA67M0	PWM61	PWM60	TA7CLK1	TA7CLK0	TA6CLK1	TA6CLK0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			動作モード 00: 8 ビットタイマ 01: 16 ビットタイマ 10: 8 ビット PPG 11: 8 ビット PWM		PWM 周期 00: Reserved 01: 2^6 10: 2^7 11: 2^8		TMRA7 ソースクロック 00: TA6TRG 01: φT1 10: φT16 11: φT256		TMRA6 ソースクロック 00: 32kHz クロック 01: φT1 10: φT4 11: φT16	
TA7FFCR	TMRA7 Flip-Flop control register	111DH (RMW 禁)					TA7FFC1	TA7FFC0	TA7FFIE	TA7FFIS
							R/W		R/W	
							1	1	0	0
							00: TA7FF 反転 01: TA7FF 設定 10: TA7FF クリア 11: Don't care		TA7FF 反転制御 0: Disable 1: Enable	TA7FF 反転選択 0: TMRA6 1: TMRA7

Not Recommended for New Design

(15) 16 ビットタイマ(1/2)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
TB0RUN	TMRB0 RUN register	1180H	TB0RDE	–			I2TB0	TB0PRUN		TB0RUN
			R/W	R/W			R/W	R/W		R/W
			0	0			0	0		0
			ダブルバッファ 0: Disable 1: Enable	“0”をライトしてください			IDLE2 0: 停止 1: 動作	TMRB0 プリスケーラ		アップカウンタ (UC10)
								タイマ動作/停止制御 0: 停止 & クリア 1: 動作 (カウントアップ)		
TB0MOD	TMRB0 MODE register	1182H (RMW 禁)	–	–	TB0CP0I	TB0CPM1	TB0CPM0	TB0CLE	TB0CLK1	TB0CLK0
			R/W		W*	R/W				
			0	0	1	0	0	0	0	0
			“0”をライトしてください		ソフトウエアキャプチャの実行 0: ソフトウェアキャプチャ 1: 未定義	キャプチャタイミング 00: ディセーブル INT6 は立ち上がりエッジ 01: TB0IN0↑ INT6 は立ち上がりエッジ 10: TB0IN0↑TB0IN0↓ INT6 は立ち下がりエッジ 11: TA1OUT↑ TA1OUT↓ INT6 は立ち上がりエッジ		アップカウンタ制御 0: クリア禁止 1: クリア許可	TMRB0 ソースクロック 00: TB0IN0 端子入力 01: φT1 10: φT4 11: φT16	
TB0FFCR	TMRB0 Flip-Flop control register	1183H (RMW 禁)	–	–	TB0C1T1	TB0C0T1	TB0E1T1	TB0E0T1	TB0FF0C1	TB0FF0C0
			W*		R/W				W*	
			1	1	0	0	0	0	1	1
			“11” をライトしてください *リードすると常に“11” になります。		TB0FF0 反転制御 0: 反転禁止 1: 反転許可				TB0FF0 制御 00: 反転 01: セット 10: クリア 11: Don’t care * リードすると常に “11” となります。	
					TB0CP1H/L へ UC10 値をキャプチャする時	TB0CP0H/L へ UC10 値をキャプチャする時	UC10 と TB0RG1H/L との一致時	UC10 と TB0RG0H/L との一致時		
TB0RG0L	16 bit timer register 0 low	1188H (RMW 禁)	–							
			W							
			0							
TB0RG0H	16 bit timer register 0 high	1189H (RMW 禁)	–							
			W							
			0							
TB0RG1L	16 bit timer register low	118AH (RMW 禁)	–							
			W							
			0							
TB0RG1H	16 bit timer register 1 high	118BH (RMW 禁)	–							
			W							
			0							
TB0CP0L	Capture register 0 low	118CH	–							
			R							
			未定義							
TB0CP0H	Capture register 0 high	118DH	–							
			R							
			未定義							
TB0CP1L	Capture register 1 low	118EH	–							
			R							
			未定義							
TB0CP1H	Capture register 1 high	118FH	–							
			R							
			未定義							

Not Recommended for New Design

(15) 16 ビットタイマ(2/2)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
TB1RUN	TMRB1 RUN register	1190H	TB1RDE	–			I2TB1	TB1PRUN		TB1RUN
			R/W	R/W			R/W	R/W		R/W
			0	0			0	0		0
			ダブルバッファ 0: Disable 1: Enable	“0”をライトしてください			IDLE2 0: 停止 1: 動作	TMRB1 プリスケーラ		アップカウンタ (UC12)
								タイマ動作/停止制御 0: 停止 & クリア 1: 動作 (カウントアップ)		
TB1MOD	TMRB1 MODE register	1192H (RMW 禁)	–	–	TB1CP0I	TB1CPM1	TB1CPM0	TB1CLE	TB1CLK1	TB1CLK0
			R/W		W*	R/W				
			0	0	1	0	0	0	0	0
			“0”をライトしてください		ソフトウエアキャプチャの実行 0: ソフトウェアキャプチャ 1: 未定義	キャプチャタイミング 00: ディセーブル INT7 は立ち上がりエッジ 01: TB1IN0↑ INT7 は立ち上がりエッジ 10: TB1IN0↑TB1IN0↓ INT7 は立ち下がりエッジ 11: TA3OUT↑ TA3OUT↓ INT7 は立ち上がりエッジ		アップカウンタ制御 0: クリア禁止 1: クリア許可	TMRB1 ソースクロック 00: TB1IN0 端子入力 01: φT1 10: φT4 11: φT16	
TB1RG0L	16 bit timer register 0 low	1198H (RMW 禁)	–							
			W							
			0							
TB1RG0H	16 bit timer register 0 high	1199H (RMW 禁)	–							
			W							
			0							
TB1RG1L	16 bit timer register low	119AH (RMW 禁)	–							
			W							
			0							
TB1RG1H	16 bit timer register 1 high	119BH (RMW 禁)	–							
			W							
			0							
TB1CP0L	Capture register 0 low	119CH	–							
			R							
			未定義							
TB1CP0H	Capture register 0 high	119DH	–							
			R							
			未定義							
TB1CP1L	Capture register 1 low	119EH	–							
			R							
			未定義							
TB1CP1H	Capture register 1 high	119FH	–							
			R							
			未定義							

Not Recommended for New Design

(16) UART/シリアルチャネル(1/2)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
SC0BUF	Serial channel 0 buffer register	1200H (RMW 禁)	RB7 TB7	RB6 TB6	RB5 TB5	RB4 TB4	RB3 TB3	RB2 TB2	RB1 TB1	RB0 TB0
			R (受信) /W (送信)							
			未定義							
SC0CR	Serial channel 0 control register	1201H (RMW 禁)	RB8	EVEN	PE	OERR	PERR	FERR	SCLKS	IOC
			R	R/W		R (リードすると “0”にクリア)			R/W	
			不定	0	0	0	0	0	0	0
			受信データビット 8	パリティ 0: Odd 1: Even	パリティ 0: Disable 1: Enable	0: エラー未検出 1: エラー オーバラン	パリティ	フレーミング	0: SCLK0↑ 1: SCLK0↓	0: ボーレートジェネレータ 1: SCLK0 端子入力
SC0MOD0	Serial channel 0 mode 0 register	1202H	TB8	CTSE	RXE	WU	SM1	SM0	SC1	SC0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			送信データビット 8	0: CTS ディセーブル 1: CTS イネーブル	0: 受信禁止 1: 受信許可	ウェイクアップ 0: Disable 1: Enable	00: I/O インタフェースモード 01: 7 ビット長 UART モード 10: 8 ビット長 UART モード 11: 9 ビット長 UART モード		00: TA0TRG 01: ボーレートジェネレータ 10: 内部クロック f_{IO} 11: 外部クロック (SCLK0 入力)	
BR0CR	Serial channel 0 baud rate control register	1203H	–	BR0ADDE	BR0CK1	BR0CK0	BR0S3	BR0S2	BR0S1	BR0S0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			“0”をライトしてください	(16 – K)/16 分周 0: Disable 1: Enable	00: ϕT0 01: ϕT2 10: ϕT8 11: ϕT32		分周値 “N” 設定 0~F			
BR0ADD	Serial channel 0 K setting register	1204H					BR0K3	BR0K2	BR0K1	BR0K0
							R/W			
							0	0	0	0
							N+(16–K)/16 分周の K 値の設定 (1~F)			
SC0MOD1	Serial channel 0 mode 1 register	1205H	I2S0	FDPX0						
			R/W							
			0	0						
			IDLE2 0: 停止 1: 動作	入出力インタフェースモード 0: 半二重 1: 全二重						
SIR0CR	IrDA 0 control register	1207H	PLSEL	RXSEL	TXEN	RXEN	SIR0WD3	SIR0WD2	SIR0WD1	SIR0WD0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			パルス幅送信選択 0: 3/16 1: 1/16	受信データ 0:“H”パルス 1:“L”パルス	送信 0: 禁止 1: 許可	受信 0: 禁止 1: 許可	受信パルス幅選択 有効 SIRR×D パルス幅設定 2x× (設定値+ 1) + 100ns 以上のパルス幅 設定可能: 1~14 設定不可能: 0, 15			

Not Recommended for New Design

UART/シリアルチャネル(2/2)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
SC1BUF	Serial channel 1 buffer register	1208H (RMW 禁)	RB7 TB7	RB6 TB6	RB5 TB5	RB4 TB4	RB3 TB3	RB2 TB2	RB1 TB1	RB0 TB0
			R (受信) /W (送信)							
			未定義							
SC1CR	Serial channel 1 control register	1209H (RMW 禁)	RB8	EVEN	PE	OERR	PERR	FERR	SCLKS	IOC
			R	R/W		R (リードすると “0”にクリア)			R/W	
			不定	0	0	0	0	0	0	0
			受信データビット 8	パリティ 0: Odd 1: Even	パリティ 0: Disable 1: Enable	0: エラー未検出 1: エラー オーバラン	パリティ	フレーミング	0: SCLK1↑ 1: SCLK1↓	0: ボーレートジェネレータ 1: SCLK1 端子入力
SC1MOD0	Serial channel 1 mode 0 register	120AH	TB8	CTSE	RXE	WU	SM1	SM0	SC1	SC0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			送信データビット 8	0: CTS ディセーブル 1: CTS イネーブル	0: 受信禁止 1: 受信許可	ウェイクアップ 0: Disable 1: Enable	00: I/O インタフェースモード 01: 7 ビット長 UART モード 10: 8 ビット長 UART モード 11: 9 ビット長 UART モード		00: TA0TRG 01: ボーレートジェネレータ 10: 内部クロック f_{IO} 11: 外部クロック (SCLK1 入力)	
BR1CR	Serial channel 1 baud rate control register	120BH	–	BR1ADDE	BR1CK1	BR1CK0	BR1S3	BR1S2	BR1S1	BR1S0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			“0”をライトしてください	(16 – K)/16 分周 0: Disable 1: Enable	00: ϕT0 01: ϕT2 10: ϕT8 11: ϕT32		分周値 “N” 設定 0~F			
BR1ADD	Serial channel 1 K setting register	120CH					BR1K3	BR1K2	BR1K1	BR1K0
							R/W			
							0	0	0	0
							N+(16–K)/16 分周の K 値の設定 (1~F)			
SC1MOD1	Serial channel 1 mode 1 register	120DH	I2S1	FDPX1						
			R/W							
			0	0						
			IDLE2 0: 停止 1: 動作	入出力インタフェースモード 0: 半二重 1: 全二重						
SIR1CR	IrDA 1 control register	120FH	PLSEL	RXSEL	TXEN	RXEN	SIR1WD3	SIR1WD2	SIR1WD1	SIR1WD0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			パルス幅送信選択 0: 3/16 1: 1/16	受信データ 0:“H”パルス 1:“L”パルス	送信 0: 禁止 1: 許可	受信 0: 禁止 1: 許可	受信パルス幅選択 有効 SIRR×D パルス幅設定 2x ×(設定値+ 1) + 100ns 以上のパルス幅 設定可能: 1~14 設定不可能: 0, 15			

Not Recommended for New Design

(17) SBI

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
SBICR1	Serial bus interface control register 1	1240H (RMW 禁)	BC2	BC1	BC0	ACK	–	SCK2	SCK1	SCK0 /SWRMON
			R/W			R/W	R	R/W		R/W
			0	0	0	0	1	0	0	0/1
			転送ビット数 000: 8 001: 1 010: 2 011: 3 100: 4 101: 5 110: 6 111: 7			アクノリッジモード 0: 禁止 1: 許可	リードすると常に “1” になります。	シリアルクロック周波数の選択 (ライト時) 000: 4 001: 5 010: 6 011: 7 100:8 101: 9 110: 10 111: Reserved		
SBIDBR	Serial bus interface buffer register	1241H (RMW 禁)	DB7	DB6	DB5	DB4	DB3	DB2	DB1	DB0
			R (受信)/W (送信)							
			不定							
I2CAR	I2CBUS Address register	1242H (RMW 禁)	SA6	SA5	SA4	SA3	SA2	SA1	SA0	ALS
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			スレーブアドレス設定							アドレス認識 0: 許可 1: 禁止
SBISR (リード時)	Serial bus interface status register	1243H (RMW 禁)	MST	TRX	BB	PIN	AL/SBIM1	AAS/SBIM0	AD0/ SWRST1	LRB/ SWRST0
			R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
			0	0	0	1	0	0	0	0
			モード選択 0:スレーブ 1:マスタ	送受選択 0: 受信 1: 送信	バス状態のモニタ 0: フリー 1: ビジー	INTSBI 要求モニタ 0: 要求 1: 解除	アービトレーションロスト検出モニタ 0: – 1: 検出	スレーブアドレス一致検出モニタ 0: 未検出 1: 検出	ゼネラルコール検出モニタ 0: 未検出 1: 検出	最終ビット検出モニタ 0: “0” 1: “1”
SBICR2 (ライト時)	Serial bus interface control register 2				スタート/ストップコンディションの発生	INTSBI 要求 0: Don't care 1: 解除	SBI の動作モード選択 00: ポートモード 01: Reserved 10: I^2C バスモード 11: Reserved		ソフトウェアリセットの発生 最初に “10”、次に “01” をライトすると、ソフトリセットが発生します。	
SBIBR0	Serial bus interface baud rate register 0	1244H (RMW 禁)	–	I2SBI	–	–	–	–	–	–
			W	R/W	R					R/W
			0	0	1	1	1	1	1	0
			リードすると“1”になります。	IDLE2 0: 中止 1: 動作	リードすると“1”になります。					“0”をライトしてください。
SBICR0	Serial bus interface control register 0	1247H (RMW 禁)	SBIEN	–	–	–	–	–	–	–
			R/W	R						
			0	0	0	0	0	0	0	0
			SBI 動作 0: 禁止 1: 動作	リードすると “0”になります。						

Not Recommended for New Design

(18) AD コンバータ (1/3)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
ADREG0L	AD result register 0 low	12A0H	ADR01	ADR00					OVR0	ADR0RF
			R						R	R
			0	0					0	0
			AN0 AD 変換結果下位格納						Overrun 0: 発生無し 1: 発生	変換結果格納 1:変換結果有
ADREG0H	AD result register 0 high	12A1H	ADR09	ADR08	ADR07	ADR06	ADR05	ADR04	ADR03	ADR02
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			AN0 AD 変換結果上位 8 ビット格納							
ADREG1L	AD result register 1 low	12A2H	ADR11	ADR10					OVR1	ADR1RF
			R						R	R
			0	0					0	0
			AN1 AD 変換結果下位格納						Overrun 0: 発生無し 1: 発生	変換結果格納 1:変換結果有
ADREG1H	AD result register 1 high	12A3H	ADR19	ADR18	ADR17	ADR16	ADR15	ADR14	ADR13	ADR12
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			AN1 AD 変換結果上位 8 ビット格納							
ADREG2L	AD result register 2 low	12A4H	ADR21	ADR20					OVR2	ADR2RF
			R						R	R
			0	0					0	0
			AN2 AD 変換結果下位格納						Overrun 0: 発生無し 1: 発生	変換結果格納 1:変換結果有
ADREG2H	AD result register 2 high	12A5H	ADR29	ADR28	ADR27	ADR26	ADR25	ADR24	ADR23	ADR22
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			AN2 AD 変換結果上位 8 ビット格納							
ADREG3L	AD result register 3 low	12A6H	ADR31	ADR30					OVR3	ADR3RF
			R						R	R
			0	0					0	0
			AN3 AD 変換結果下位格納						Overrun 0: 発生無し 1: 発生	変換結果格納 1:変換結果有
ADREG3H	AD result register 3 high	12A7H	ADR39	ADR38	ADR37	ADR36	ADR35	ADR34	ADR33	ADR32
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			AN3 AD 変換結果上位 8 ビット格納							
ADREG4L	AD result register 4 low	12A8H	ADR4	ADR4					OVR4	ADR4F
			R						R	R
			0	0					0	0
			AN4 AD 変換結果下位格納						Overrun 0: 発生無し 1: 発生	変換結果格納 1:変換結果有
ADREG4H	AD result register 4high	12A9H	ADR49	ADR48	ADR47	ADR46	ADR45	ADR44	ADR43	ADR42
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			AN4 AD 変換結果上位 8 ビット格納							
ADREG5L	AD result register 5 low	12AAH	ADR5	ADR5					OVR5	ADR5F
			R						R	R
			0	0					0	0
			AN5 AD 変換結果下位格納						Overrun 0: 発生無し 1: 発生	変換結果格納 1:変換結果有
ADREG5H	AD result register 5 high	12ABH	ADR59	ADR58	ADR57	ADR56	ADR55	ADR54	ADR53	ADR52
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			AN5 AD 変換結果上位 8 ビット格納							

Not Recommended for New Design

(18) AD コンバータ (2/3)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
ADREGSPL	High priority Conversion Register SP low	12B0H	ADRSP1	ADRSP0					OVSRP	ADRSPRF
			R						R	R
			0	0					0	0
			AD 変換結果下位格納						Overrun 0: 発生無し 1: 発生	変換結果格納 1:変換結果有
ADREGSPH	High priority Conversion Register SP high	12B1H	ADRSP9	ADRSP8	ADRSP7	ADRSP6	ADRSP5	ADRSP4	ADRSP3	ADRSP2
			R							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			AD 変換結果上位 8 ビット格納							
ADCM0REGL	Compare Register0 low	12B4H	ADR21	ADR20						
			R/W							
			0	0						
			AD 変換結果比較基準下位格納							
ADCM0REGH	Compare Register0 high	12B5H	ADR29	ADR28	ADR27	ADR26	ADR25	ADR24	ADR23	ADR22
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			AD 変換結果比較基準上位 8 ビット格納							
ADCM1REGL	Compare Register1 low	12B6H	ADR21	ADR20						
			R/W							
			0	0						
			AD 変換結果比較基準下位格納							
ADCM1REGH	Compare Register1 high	12B7H	ADR29	ADR28	ADR27	ADR26	ADR25	ADR24	ADR23	ADR22
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			AD 変換結果比較基準上位 8 ビット格納							

Not Recommended for New Design

(18) AD コンバータ (3/3)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
ADMOD0	AD mode control register 0	12B8H	EOS	BUSY		I2AD	ADS	HTRGE	TSEL1	TSEL0
			R			R/W				
			0	0		0	0	0	0	0
			通常 AD 変換シーケンスフラグ 0: 変換シーケンス中、または開始前 1:変換シーケンス終了	通常 AD 変換 BUSY フラグ 0: 変換停止 1: 変換中		IDLE2 モード時の AD 変換 0: 停止 1: 動作	通常 AD 変換開始 0:Don't Care 1:AD 変換開始リードすると常に"0"になります。	ハードウエアトリガによる AD 変換 0: 禁止 1: 許可	ハードウエアトリガの選択 00: INTTB00 割り込み 01: Reserved 10: $\overline{\text{ADTRG}}$ 11: Reserved	
ADMOD1	AD mode control register 1	12B9H	DACON	ADCH2	ADCH1	ADCH0	LAT	ITM	REPEAT	SCAN
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			DA コンバータ、VREF 印加制御	アナログ入力チャネルの選択			レイテンシ 0:Wait 無し 1:最終チャネルの変換結果格納レジスタをリード後、開始	チャネル固定リピート変換モード時の割り込み指定	リピートモード指定 0:シングル変換モード 1:リピート変換モード	スキャンモード指定 0:チャネル固定モード 1:チャネルスキャンモード
ADMOD2	AD mode control register 2	12BAH	HEOS	HBUSY			HADS	HHTRGE	HTSEL1	HTSEL0
			R				R/W			
			0	0			0	0	0	0
			最優先 AD 変換シーケンスフラグ 0:変換シーケンス中、または開始前 1:変換シーケンス終了	最優先 AD 変換 BUSY フラグ 0: 変換停止 1: 変換中			最優先 AD 変換開始 0:Don't Care 1:AD 変換開始リードすると常に"0"になります。	ハードウエアトリガによる最優先 AD 変換 0: 禁止 1: 許可	ハードウエアトリガの選択 00: INTTB10 割込み 01: Reserved 10: $\overline{\text{ADTRG}}$ 11: I^2S Sampling Counter 出力	
ADMOD3	AD mode control register 3	12BBH	–	HADCH2	HADCH1	HADCH0				–
			R/W							R/W
			0	0	0	0				0
			"0"をライトしてください	最優先変換アナログ入力チャネルの選択						"0"をライトしてください
ADMOD4	AD mode control register 4	12BCH	CMEN1	CMEN0	CMP1C	CMP0C	IRQEN1	IRQEN0	CMPINT1	CMPINT0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			AD 監視機能 1 0: 禁止 1: 許可	AD 監視機能 0 0: 禁止 1: 許可	AD 監視機能 1 割り込みの発生条件 0: 小 1: 等しいまたは大	AD 監視機能 0 割り込みの発生条件 0: 小 1: 等しいまたは大	AD 監視機能 1 割り込みの許可 0:禁止 1: 許可	AD 監視機能 0 割り込みの許可 0:禁止 1: 許可	AD 監視機能 1 割り込みのステータス 0:未発生 1: 発生	AD 監視機能 0 割り込みのステータス 0:未発生 1: 発生
ADMOD5	AD mode control register 5	12BDH		CM1H2	CM1CH1	CM1CH0		CM0CH2	CM0CH1	CM0CH0
				R/W				R/W		
				0	0	0		0	0	0
				AD 監視機能 1 用の被比較アナログチャネル 000: AN0 100:AN4 001: AN1 101: AN5 010: AN2 110: Reserved 011: AN3 111: Reserved				AD 監視機能 0 用の被比較アナログチャネル 000:AN0 100:AN4 001: AN1 101: AN5 010: AN2 110: Reserved 011: AN3 111: Reserved		
ADCCLK	AD conversion clock setting	12BFH					–	ADCLK2	ADCLK1	ADCLK0
							R/W	R/W	R/W	R/W
							0	0	0	0
							"0"をライトしてください。	AD 変換クロック選択 000: Reserved 100: $f_{IO}/4$ 001: $f_{IO}/1$ 101: $f_{IO}/5$ 010: $f_{IO}/2$ 110: $f_{IO}/6$ 011: $f_{IO}/3$ 111: $f_{IO}/7$		

Not Recommended for New Design

(19) ウォッチドッグタイマ

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
WDMOD	WDT mode register	1300H	WDTE	WDTP1	WDTP0			I2WDT	RESCR	–
			R/W					R/W		
			1	0	0			0	0	0
			WDT 制御 1: 許可	検出時間選択 00: $2^{15}/f_{IO}$ 01: $2^{17}/f_{IO}$ 10: $2^{19}/f_{IO}$ 11: $2^{21}/f_{IO}$				IDLE2 0: 停止 1: 動作	1: WDT 出力をリセット端子に内部接続	”0”をライトしてください
WDCR	WDT control register	1301H (RMW 禁)	–							
			W							
			–							
			B1H: WDT 禁止コード 4E: WDT クリアコード							

Not Recommended for New Design

(20) RTC (Real-Time Clock)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
SECR	Second register	1320H		SE6	SE5	SE4	SE3	SE2	SE1	SE0
				R/W						
				不定						
			“0”がリードされます	40 秒	20 秒	10 秒	8 秒	4 秒	2 秒	1 秒
MINR	Minute register	1321H		MI6	MI5	MI4	MI3	MI2	MI1	MI0
				R/W						
				不定						
			“0”がリードされます	40 分	20 分	10 分	8 分	4 分	2 分	1 分
HOURR	Hour register	1322H			HO5	HO4	HO3	HO2	HO1	HO0
					R/W					
					不定					
			“0”がリードされます		20 時間 (PM/AM)	10 時間	8 時間	4 時間	2 時間	1 時間
DAYR	Day register	1323H						WE2	WE1	WE0
								R/W		
								不定		
			“0”がリードされます					W2	W1	W0
DATER	Date register	1324H			DA5	DA4	DA3	DA2	DA1	DA0
					R/W					
					不定					
			“0”がリードされます		20 日	10 日	8 日	4 日	2 日	1 日
MONTHR	Month register	1325H				MO4	MO3	MO2	MO1	MO0
						R/W				
						不定				
		PAGE0	“0”がリードされます			10 月	8 月	4 月	2 月	1 月
		PAGE1	“0”がリードされます							0: 12 時間表示 1: 24 時間表示
YEARR	Year register	1326H	YE7	YE6	YE5	YE4	YE3	YE2	YE1	YE0
			R/W							
			不定							
		PAGE0	80 年	40 年	20 年	10 年	8 年	4 年	2 年	1 年
		PAGE1	“0”がリードされます						うるう年設定 00: うるう年 01: うるう年から 1 年後 10: うるう年から 2 年後 11: うるう年から 3 年後	
PAGER	Page register	1327H (RMW 禁)	INTENA			ADJUST	ENATMR	ENAALM		PAGE
			R/W			W	R/W			R/W
			0			不定	不定			不定
			INTRTC 0: 禁止 1: 許可	“0”がリードされます		0: Don’t care 1: 補正	時計 0: 禁止 1: 許可	ALARM 0: 禁止 1: 許可	“0”がリードされます	PAGE 設定
RESTR	Reset register	1328H (RMW 禁)	DIS1HZ	DIS16HZ	RSTTMR	RSTALM	–	–	–	–
			W							
			不定							
			1 Hz 0: 許可 1: 禁止	16 Hz 0: 許可 1: 禁止	1: 時計リセット	1: アラームリセット	“0” をライトしてください。			

Not Recommended for New Design

(21) メロディ/アラームジェネレータ

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
ALM	Alarm-pattern register	1330H	AL8	AL7	AL6	AL5	AL4	AL3	AL2	AL1
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			アラームパターン設定							
MELALMC	Melody/ alarm control register	1331H	FC1	FC0	ALMINV	–	–	–	–	MELALM
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			フリーランカウンタ制御 00: ホールド 01: 再スタート 10: クリア&停止 11: クリア &スタート		アラーム波形反転 1: 反転	“0” をライトしてください。				出力周波数 0: アラーム 1: メロディ
MELFL	Melody frequency L-register	1332H	ML7	ML6	ML5	ML4	ML3	ML2	ML1	ML0
			R/W							
			0	0	0	0	0	0	0	0
			メロディ周波数設定 (下位 8 ビット)							
MELFH	Melody frequency H-register	1333H	MELON				ML11	ML10	ML9	ML8
			R/W				R/W			
			0				0	0	0	0
			メロディカウンタ制御 0: ストップ & クリア 1: スタート				メロディ周波数設 (上位 4 ビット)			
ALMINT	Alarm interrupt Enable register	1334H			–	IALM4E	IALM3E	IALM2E	IALM1E	IALM0E
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					“0” をライトしてください	1:INTALM4 (1Hz) 許可	1:INTALM3 (2Hz) 許可	1:INTALM2 (64Hz) 許可	1:INTALM1 (512Hz) 許可	1:INTALM0 (8192Hz) 許可

Not Recommended for New Design

(22) I²S

記号	名称	アドレス	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
I2S0BUF	I^2S Trans -mission Buffer Register 0	1800H (RMW 禁)	B015	B014	B013	B012	B011	B010	B009	B008	B007	B006	B005	B004	B003	B002	B001	B000
			W															
			不定															
			送信バッファ用レジスタ(FIFO)															
			31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
			B031	B030	B09	B028	B027	B026	B025	B024	B023	B022	B021	B020	B019	B018	B017	B016
			W															
			不定															
			送信バッファ用レジスタ(FIFO)															
I2S0CTL	I^2S Control Register0	1808H	TXE0		*CNTE0				DIR0		BIT0		DTFMT01		DTFMT00		SYSCKE0	
			R/W		R/W				R/W		R/W		R/W		R/W		R/W	
			0		0				0		0		0		0		0	
			送信 0: 停止 1: 開始		カウンタ 制御 0: クリア 1: スタート				送信開始 BIT 0: MSB 1: LSB		ビット長 0: 8 ビット 1:16 ビット		出力フォーマット 00: I^2S 10: Right 01: Left 11:Reserve				システム クロック 0:禁止 1:許可	
		1809H	CLKS0						FSEL0		TEMP0		WLVL0		EDGE0		CLKE0	
			R/W						R/W		R		R/W		R/W		R/W	
			0						0		1		0		0		0	
			ソース クロック 選択 0: f_{SYS} 1: f_{PLL}						ステレオ モノラル 切り替え 0: ステレオ 1: モノラル		送信 FIFO 状態 0: Data 有 1: Data 無		WS レベル 0: low 左 1: high 左		データ出力 用クロック エッジ 0:立ち下がり 1: 立ち上がり		クロック 許可 (送信後) 0:動作 1:停止	
I2S0C	I^2S0 Divider Value Setting Register	180AH	CK07		CK06		CK05		CK04		CK03		CK02		CK01		CK00	
			R/W															
			0		0		0		0		0		0		0		0	
			CK 信号分周値設定(8 ビットカウンタ)															
		180BH					WS05		WS04		WS03		WS02		WS01		WS00	
							R/W											
							0		0		0		0		0		0	
			WS 信号分周値設定(6 ビットカウンタ)															

Not Recommended for New Design

(23) MAC (1/2)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
MACMA_LL	Data register Multiplier A-LL	1BE0H	MA7	MA6	MA5	MA4	MA3	MA2	MA1	MA0
			R/W							
			不定							
			乗数 A データレジスタ<7:0>							
MACMA_LH	Data register Multiplier A-LH	1BE1H	MA15	MA14	MA13	MA12	MA11	MA10	MA9	MA8
			R/W							
			不定							
			乗数 A データレジスタ<15:8>							
MACMA_HL	Data register Multiplier A-HL	1BE2H	MA23	MA22	MA21	MA20	MA19	MA18	MA17	MA16
			R/W							
			不定							
			乗数 A データレジスタ<23:16>							
MACMA_HH	Data register Multiplier A-HH	1BE3H	MA31	MA30	MA29	MA28	MA27	MA26	MA25	MA24
			R/W							
			不定							
			乗数 A データレジスタ<31:24>							
MACMB_LL	Data register Multiplier B-LL	1BE4H	MB7	MB6	MB5	MB4	MB3	MB2	MB1	MB0
			R/W							
			不定							
			乗数 B データレジスタ<7:0>							
MACMB_LH	Data register Multiplier B-LH	1BE5H	MB15	MB14	MB13	MB12	MB11	MB10	MB9	MB8
			R/W							
			不定							
			乗数 B データレジスタ<15:8>							
MACMB_HL	Data register Multiplier B-HL	1BE6H	MB23	MB22	MB21	MB20	MB19	MB18	MB17	MB16
			R/W							
			不定							
			乗数 B データレジスタ<23:16>							
MACMB_HH	Data register Multiplier B-HH	1BE7H	MB31	MB30	MB29	MB28	MB27	MB26	MB25	MB24
			R/W							
			不定							
			乗数 B データレジスタ<31:24>							
MACOR_LLL	Data register Multiply and Accumulate -LLL	1BE8H	OR7	OR6	OR5	OR4	OR3	OR2	OR1	OR0
			R/W							
			不定							
			和積データレジスタ<7:0>							
MACOR_LLH	Data register Multiply and Accumulate -LLH	1BE9H	OR15	OR14	OR13	OR12	OR11	OR10	OR9	OR8
			R/W							
			不定							
			和積データレジスタ<15:8>							
MACOR_LHL	Data register Multiply and Accumulate -LGL	1BEAH	OR23	OR22	OR21	OR20	OR19	OR18	OR17	OR16
			R/W							
			不定							
			和積データレジスタ<23:16>							
MACOR_LHH	Data register Multiply and Accumulate -LHH	1BEBH	OR31	OR30	OR29	OR28	OR27	OR26	OR25	OR24
			R/W							
			不定							
			和積データレジスタ<31:24>							

Not Recommended for New Design

(23) MAC (2/2)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
MACOR_HLL	Data register Multiply and Accumulate -HLL	1BECH	OR39	OR38	OR37	OR36	OR35	OR34	OR33	OR32
			R/W							
			不定							
			和積データレジスタ<39:32>							
MACOR_HLH	Data register Multiply and Accumulate -HLH	1BEDH	OR47	OR46	OR45	OR44	OR43	OR42	OR41	OR40
			R/W							
			不定							
			和積データレジスタ<47:40>							
MACOR_HHL	Data register Multiply and Accumulate -HHL	1BEEH	OR55	OR54	OR53	OR52	OR51	OR50	OR49	OR48
			R/W							
			不定							
			和積データレジスタ<55:48>							
MACOR_HHH	Data register Multiply and Accumulate -HHH	1BEFH	OR63	OR62	OR61	OR60	OR59	OR58	OR57	OR56
			R/W							
			不定							
			和積データレジスタ<63:56>							
MACCR	MAC Control Register	1BFCH (RMW 禁)	MOVF	MOPST	MSTTG2	MSTTG1	MSTTG0	MSGMD	MOPMD1	MOPMD0
			R/W	W	R/W			R/W	R/W	
			0	0	0	0	0	0	0	0
			オーバーフローフラグ 0:オーバーフロー無し 1:オーバーフロー発生	演算ソフトスタート 0:Don't care 1:演算スタート リードすると常に0になります。	演算スタートトリガ選択 000: MACMA<7:0>へのライト 001: MACMB<7:0>へのライト 010: MACMOR<7:0>へのライト 011: MACMOR<39:32>へのライト 1xx: <MOPST>への"1"ライト			符号モード 0: 符号なし 1: 符号付き	演算モード 00: 64 + 32×32 01: 64 − 32×32 10: 32×32 − 64 11: Reserved	

Not Recommended for New Design

6. 使用上の注意、制限事項

(1) 特別な表記、言葉の説明

a. 内蔵 I/O レジスタの説明: レジスタシンボル<ビットシンボル>

例) TA01RUN<TA0RUN>: レジスタ TA01RUN のビット TA0RUN を示します。

b. リードモディファイライト命令 (RMW)

CPU が、1 つの命令でメモリに対してデータをリードした後に、そのデータを操作し同じメモリアドレスにデータをライトする命令。

例 1: SET 3, (TA01RUN) ... TA01RUN レジスタのビット 3 をセットする

例 2: INC 1, (100H) ... アドレス 100H のデータを+1 する

- TLCS-900 におけるリードモディファイライト命令

交換命令

```
EX   (mem), R
```

算術命令

```
ADD  (mem), R/#      ADC  (mem), R/#
SUB  (mem), R/#      SBC  (mem), R/#
INC  #3, (mem)       DEC  #3, (mem)
```

論理演算

```
AND  (mem), R/#      OR   (mem), R/#
XOR  (mem), R/#
```

ビット操作

```
STCF #3/A, (mem)     RES  #3, (mem)
SET  #3, (mem)       CHG  #3, (mem)
TSET #3, (mem)
```

ローテート、シフト

```
RLC  (mem)           RRC  (mem)
RL   (mem)           RR   (mem)
SLA  (mem)           SRA  (mem)
SLL  (mem)           SRL  (mem)
RLD  (mem)           RRD  (mem)
```

c. f_{OSCH}, fc, f_{SYS}, f_{IO} および 1 ステート

X1, X2 端子より入力されるクロック周波数を f_{OSCH}、PLLCR0<FCSEL> レジスタにより選択されるクロック周波数を fc と呼びます。

また、SYSCR1<GEAR2:0> レジスタにより選択されるクロック周波数をシステムクロック f_{SYS}、f_{SYS} を 2 分周して得られたクロック周波数を f_{IO} と呼びます。

この f_{SYS} の 1 周期を 1 ステートと呼びます。

Not Recommended for New Design

(2) 使用上の注意、制限事項

a. AM0 と AM1 端子

これらの端子は、VCC (電源レベル) または VSS (グランドレベル) に接続します。動作中は接続されている電位を変更しないでください。

b. アドレス空間の予約領域

022000H~045FFFH の 144K バイト空間および FFFFF0H~FFFFFFH の 16 バイト空間は内部エリアとして予約されているため使用できません。また、エミュレータを使用する場合、16M バイト空間の任意の 64K バイトは、エミュレータの制御のために使用されるため、その空間を使用することができません。

c. スタンバイモード (IDLE1)

IDLE1 モード(発振回路のみ動作)に設定し、HALT 命令を実行した場合、RTC、メロディ/アラームジェネレータ(MLD)は動作イネーブル状態ですので、必要に応じて止めてください。

d. ウォームアップタイマ

外部発振器を用いるシステムでも、STOP モードが解除されるとウォームアップタイマは動作を始めます。結果として、解除要求入力からシステムクロックが出力されるまでの間にはウォームアップ時間と同じだけの時間が掛かります。

e. ウォッチドッグタイマ

リセット後、ウォッチドッグタイマは動作状態となっていますので、ウォッチドッグタイマを使用しない場合は動作禁止に設定してください。

f. AD コンバータ

VREFH~VREFL 端子間のラダー抵抗をプログラマブルに接続、切り離しする機能がありますので、STOP モードなどで消費電力を下げる場合は、HALT 命令を実行する前にプログラムで切り離してください。

g. CPU (マイクロ DMA)

LDC cr, r 命令、および LDC r, cr 命令だけが CPU 内の制御レジスタとのアクセスに利用できます。(例えば、DMASn レジスタなど)

h. 未定義 SFR ビット

SFR (Special function register) の未定義ビットの値は、読み出すと不定値が出力されます。

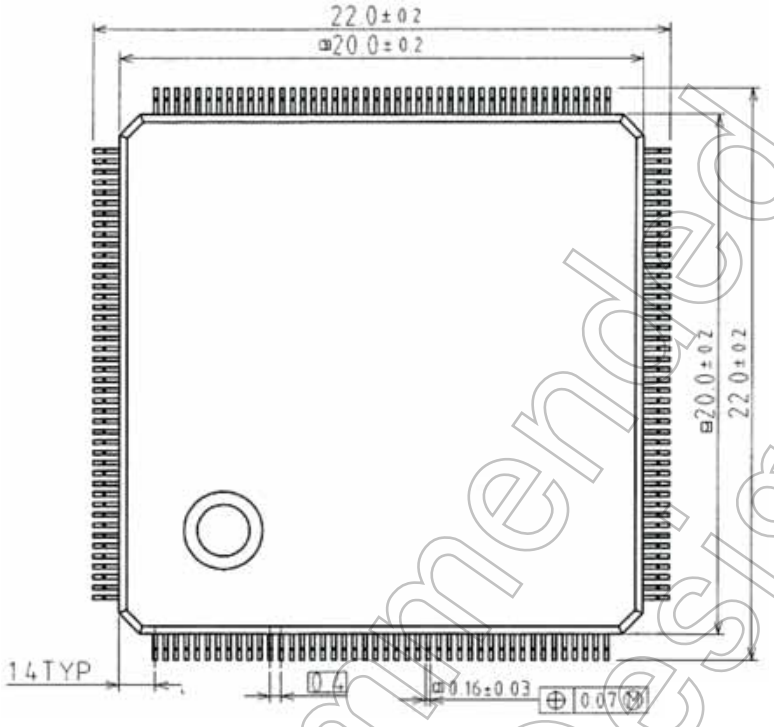
i. 「POP SR」命令

「POP SR」命令の実行は、DI (割り込み不許可) 状態で行ってください。

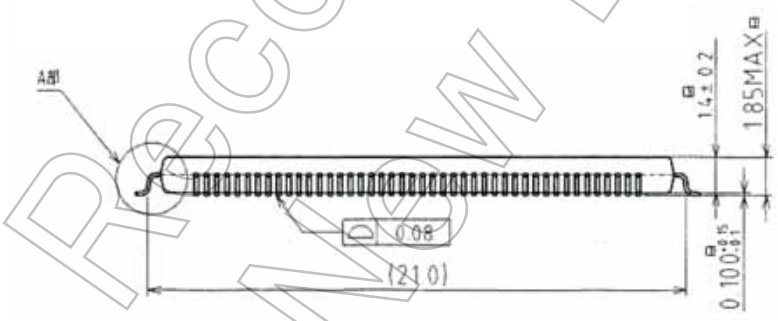
Not Recommended for New Design

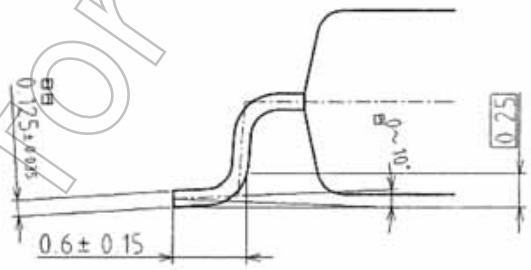
7. 外形寸法図

LQFP176-P-2020-0.40F



TOP VIEW





BOTTOM VIEW

Not Recommended for New Design

製品取り扱い上のお願い

- 本資料に掲載されているハードウェア、ソフトウェアおよびシステム（以下、本製品という）に関する情報等、本資料の掲載内容は、技術の進歩などにより予告なしに変更されることがあります。
- 文書による当社の事前の承諾なしに本資料の転載複製を禁じます。また、文書による当社の事前の承諾を得て本資料を転載複製する場合でも、記載内容に一切変更を加えたり、削除したりしないでください。
- 当社は品質、信頼性の向上に努めていますが、半導体製品は一般に誤作動または故障する場合があります。本製品をご使用頂く場合は、本製品の誤作動や故障により生命・身体・財産が侵害されることのないように、お客様の責任において、お客様のハードウェア・ソフトウェア・システムに必要な安全設計を行うことをお願いします。なお、設計および使用に際しては、本製品に関する最新の情報（本資料、仕様書、データシート、アプリケーションノート、半導体信頼性ハンドブックなど）および本製品が使用される機器の取扱説明書、操作説明書などをご確認の上、これに従ってください。また、上記資料などに記載の製品データ、図、表などに示す技術的な内容、プログラム、アルゴリズムその他応用回路例などの情報を使用する場合は、単独およびシステム全体で十分に評価し、お客様の責任において適用可否を判断してください。当社は、適用可否に対する責任は負いません。
- 本製品は、一般的電子機器（コンピュータ、パーソナル機器、事務機器、計測機器、産業用ロボット、家電機器など）または本資料に個別に記載されている用途に使用されることが意図されています。本製品は、特別に高い品質・信頼性が要求され、またはその故障や誤作動が生命・身体に危害を及ぼす恐れ、膨大な財産損害を引き起こす恐れ、もしくは社会に深刻な影響を及ぼす恐れのある機器（以下“特定用途”という）に使用されることは意図されていませんし、保証もされていません。特定用途には原子力関連機器、航空・宇宙機器、医療機器、車載・輸送機器、列車・船舶機器、交通信号機器、燃焼・爆発制御機器、各種安全関連機器、昇降機器、電力機器、金融関連機器などが含まれます。本資料に個別に記載されている場合を除き、本製品を特定用途に使用しないでください。
- 本製品を分解、解析、リバースエンジニアリング、改造、改変、翻案、複製等しないでください。
- 本製品を、国内外の法令、規則及び命令により、製造、使用、販売を禁止されている製品に使用することはできません。
- 本資料に掲載してある技術情報は、製品の代表的動作・応用を説明するためのもので、その使用に際して当社及び第三者の知的財産権その他の権利に対する保証または実施権の許諾を行うものではありません。
- 別途書面による契約がない限り、当社は、本製品および技術情報に関して、明示的にも黙示的にも一切の保証（機能動作の保証、商品性の保証、特定目的への合致の保証、情報の正確性の保証、第三者の権利の非侵害保証を含むがこれに限らない。）をせず、また当社は、本製品および技術情報に関する一切の損害（間接損害、結果的損害、特別損害、付随的損害、逸失利益、機会損失、休業損、データ喪失等を含むがこれに限らない。）につき一切の責任を負いません。
- 本製品、または本資料に掲載されている技術情報を、大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的、あるいはその他軍事用途の目的で使用しないでください。また、輸出に際しては、「外国為替及び外国貿易法」、「米国輸出管理規則」等、適用ある輸出関連法令を遵守し、それらの定めるところにより必要な手続を行ってください。
- 本製品の RoHS 適合性など、詳細につきましては製品個別に必ず弊社営業窓口までお問合せください。本製品のご使用に際しては、特定の物質の含有･使用を規制する RoHS 指令等、適用ある環境関連法令を十分調査の上、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いかねます。

Not Recommended for New Design

Not Recommended for New Design